東京科学大学大学院
医歯学総合研究科年報

2024年



巻　頭　言

本年は、東京科学大学として初めての年報発行となります。ただし、本年報に掲載されている多くの業績は、東京医科歯科大学時代に行われたものです。東京工業大学と東京医科歯科大学の統合は、大学という組織全体にとって極めて大きな転機であり、多くの変化を伴いました。一方で、研究現場である分野や講座といった単位で見ると、日常的な研究・教育活動においては、統合による急激な変化はそれほど感じられなかったというのが実感ではないでしょうか。確かに組織名称の変更などにより、論文の所属表記等で戸惑う場面もあったかと思いますが、体制や教育内容に大きな変化があったわけではありません。

統合に向けての準備期間には、両大学の歴史や文化の違いを丁寧に整理し、その違いを乗り越える努力がなされました。その過程で、「本当に統合が可能なのか」と疑問を抱いた方も少なくなかったかもしれません。しかし、多くの関係者の尽力と知恵の結集により、統合は静かに、しかし確実に実現されました。

これからは、本格的な改革の時代に入ります。大学院研究科の統合をはじめ、教育・研究のさまざまな融合が進められます。その準備は着実に進行中ですが、今後、従来の分野・講座単位の活動がどのように維持・再構成されるのか、また個々の所属がどう変化していくのかなど、未確定な要素も多くあります。

だからこそ、これまで築いてきた教育・研究の基盤を活かしつつ、新たな変革を前向きなチャンスと捉えることが重要です。Science Tokyo のミッションは、「科学の進歩」と「人々の幸せ」を追求し、社会とともに新たな価値を創造することにあります。それぞれの構成員が、まだ見ぬ“新たな価値”の創出を目指し、夢の実現に向かって力強く歩みを進めていくことが求められています。

本学は、ライフサイエンスとエンジニアリングの融合、すなわち医工連携を推進し、次世代の医療技術と健康科学の創出を柱とする新たな研究教育モデルの構築を進めてまいります。また、国内外の研究機関・企業・地域社会との連携をより一層深化させ、社会課題の解決に資する研究と、国際的に活躍できる人材の育成にも力を注いでいきます。特に、若手教員には自由な発想と情熱をもって未知に挑み、未来を切り拓く原動力となることを大いに期待しています。新たなことに一歩を踏み出す勇気が、やがて大きな成果へとつながっていくことでしょう。

この年報が、東京科学大学の新たな歴史の出発点であったと認められる時が、きっと訪れるはずです。

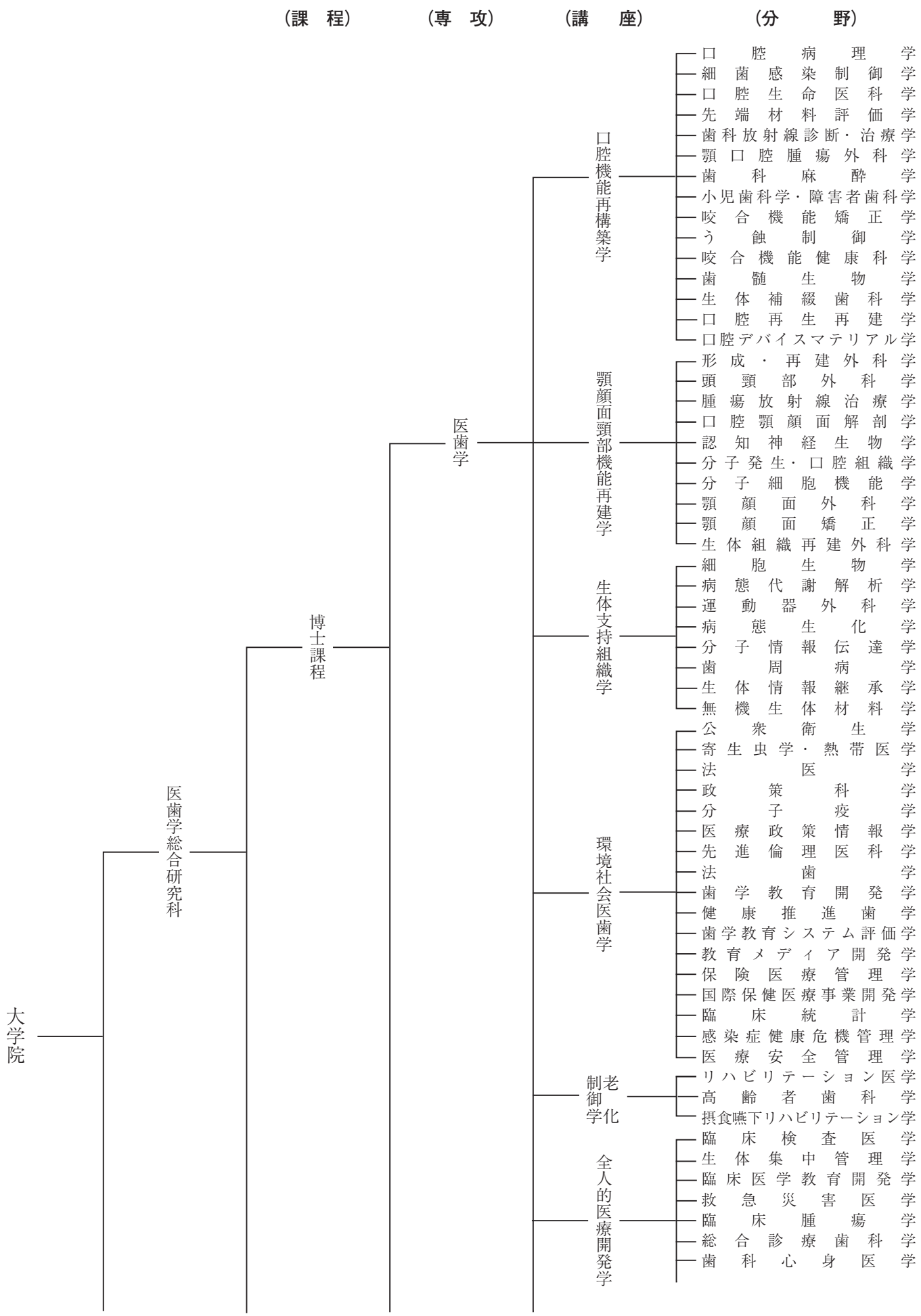
Science Tokyo の幕開けです。

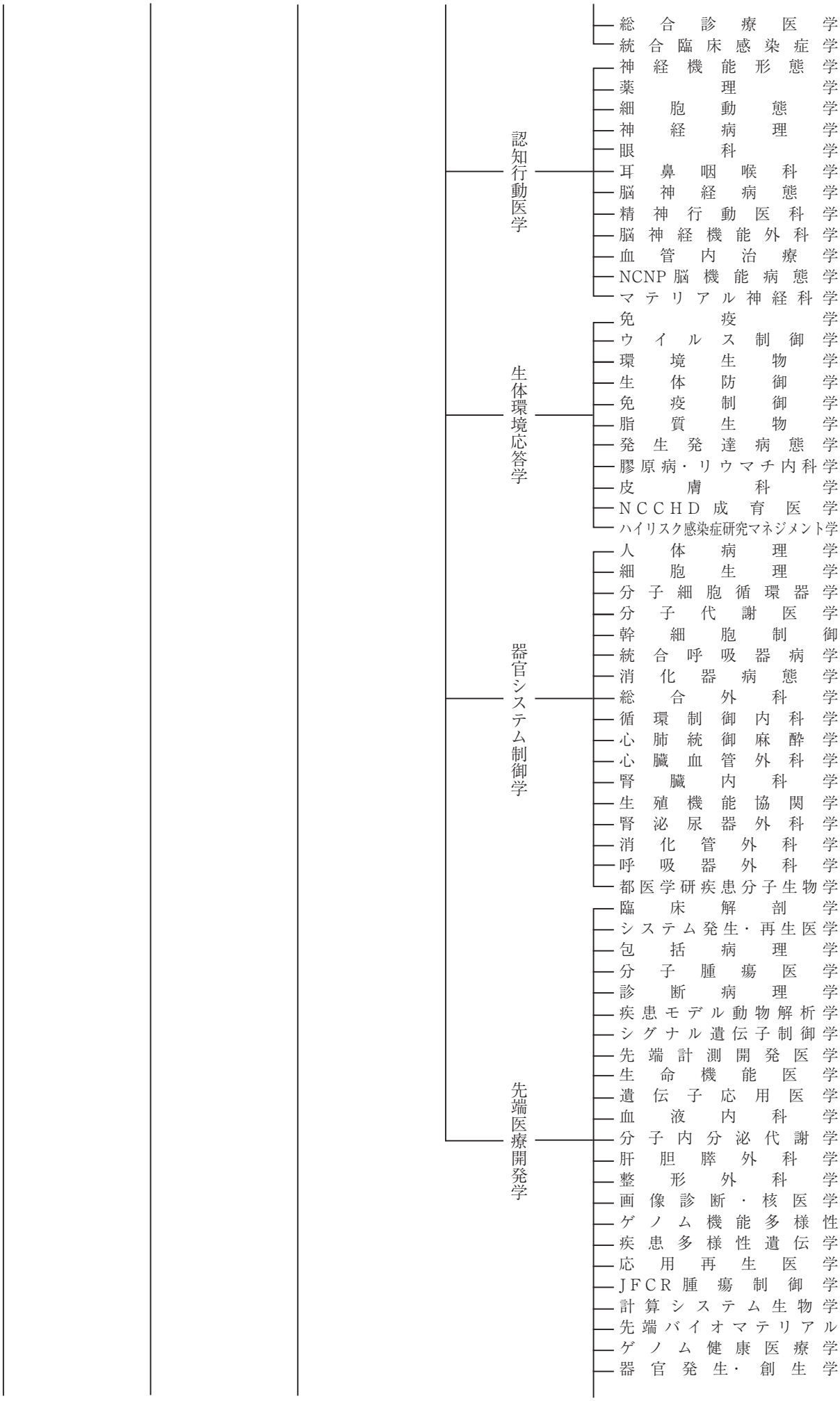
2025 年 6 月 30 日

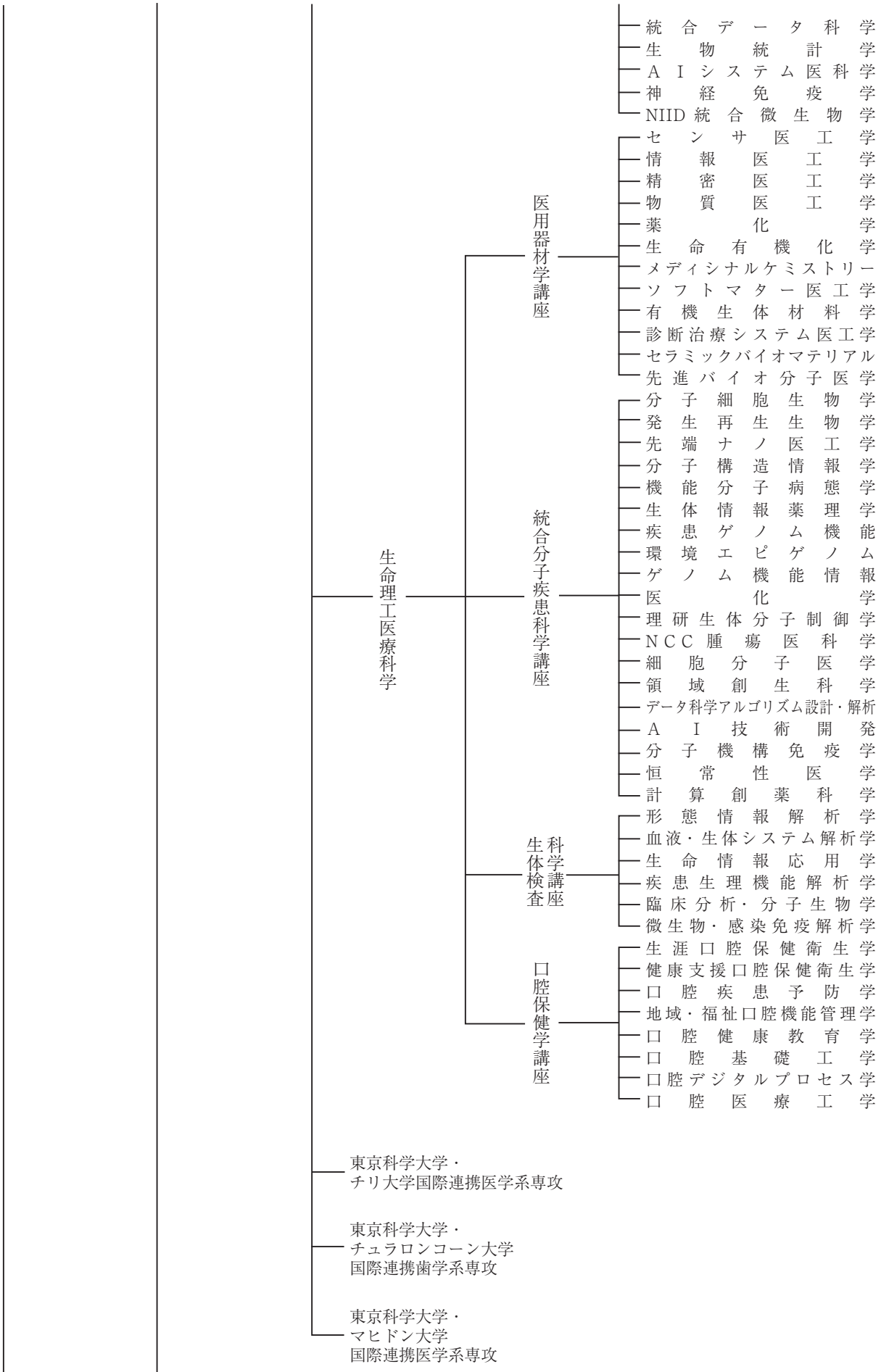
医歯学総合研究科長

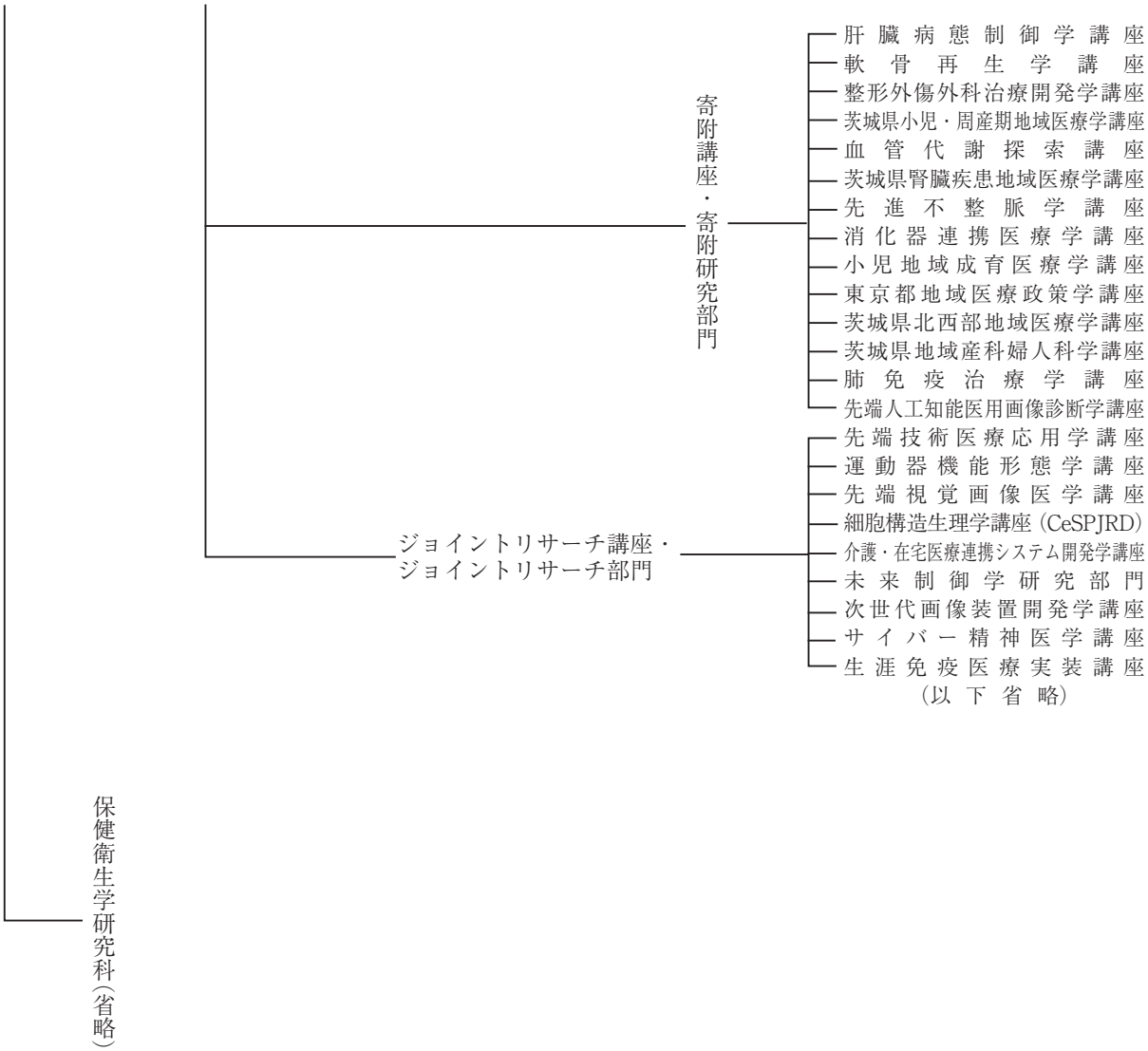
秋田　恵一

大学院医歯学総合研究科機構図




認知行動医学
総合診療医学
統合臨床感染症学
神経機能形態学
薬理学
細胞動態学
神経病理学
眼科学
耳鼻咽喉科学
脳神経病態学
精神行動医科学
脳神経機能外科学
血管内治療学
NCNP脳機能病態学
マテリアル神経科学
生体環境応答学
免疫学
ウイルス制御学
環境生物学
生体防御学
免疫制御学
脂質生物学
発生発達病態学
膠原病・リウマチ内科学
皮膚科学
NCCHD成育医学
ハイリスク感染症研究マネジメント学
器官システム制御学
人体病理学
細胞生理学
分子細胞循環器学
分子代謝医学
幹細胞制御
統合呼吸器病学
消化器病態学
総合外科学
循環制御内科学
心肺統御麻酔学
心臓血管外科学
腎臓内科学
生殖機能協関学
腎泌尿器外科学
消化管外科学
呼吸器外科学
都医学研疾患分子生物学
先端医療開発学
臨床解剖学
システム発生・再生医学
包括病理学
分子腫瘍医学
診断病理学
疾患モデル動物解析学
シグナル遺伝子制御学
先端計測開発医学
生命機能医学
遺伝子応用医学
血液内科学
分子内分泌代謝学
肝胆膵外科学
整形外科学
画像診断・核医学
ゲノム機能多様性
疾患多様性遺伝学
応用再生医学
JFCR腫瘍制御学
計算システム生物学
先端バイオマテリアル
ゲノム健康医療学
器官発生・創生学


生命理工医療科学
医用器材学講座
センサ医工学
情報医工学
精密医工学
物質医工学
薬化学
生命有機化学
メディシナルケミストリー
ソフトマター医工学
有機生体材料学
診断治療システム医工学
セラミックバイオマテリアル
先進バイオ分子医学
統合分子疾患科学講座
分子細胞生物学
発生再生生物学
先端ナノ医工学
分子構造情報学
機能分子病態学
生体情報薬理学
疾患ゲノム機能
環境エピゲノム
ゲノム機能情報
医化学
理研生体分子制御学
NCC腫瘍医科学
細胞分子医学
領域創生科学
データ科学アルゴリズム設計・解析
AI技術開発
分子機構免疫学
恒常性医学
計算創薬科学
生体検査科学講座
形態情報解析学
血液・生体システム解析学
生命情報応用学
疾患生理機能解析学
臨床分析・分子生物学
微生物・感染免疫解析学
口腔保健学講座
生涯口腔保健衛生学
健康支援口腔保健衛生学
口腔疾患予防学
地域・福祉口腔機能管理学
口腔健康教育学
口腔基礎工学
口腔デジタルプロセス学
口腔医療工学
東京科学大学・
チリ大学国際連携医学系専攻
東京科学大学・
チュラロンコーン大学
国際連携歯学系専攻
東京科学大学・
マヒドン大学
国際連携医学系専攻


寄附講座・寄附研究部門
肝臓病態制御学講座
軟骨再生学講座
整形外傷外科治療開発学講座
茨城県小児・周産期地域医療学講座
血管代謝探索講座
茨城県腎臓疾患地域医療学講座
先進不整脈学講座
消化器連携医療学講座
小児地域成育医療学講座
東京都地域医療政策学講座
茨城県北西部地域医療学講座
茨城県地域産科婦人科学講座
肺免疫治療学講座
先端人工知能医用画像診断学講座
ジョイントリサーチ講座・
ジョイントリサーチ部門
先端技術医療応用学講座
運動器機能形態学講座
先端視覚画像医学講座
細胞構造生理学講座（CeSPJRD）
介護・在宅医療連携システム開発学講座
未来制御学研究部門
次世代画像装置開発学講座
サイバー精神医学講座
生涯免疫医療実装講座
（以下省略）
保健衛生学研究科（省略）

目　　次

巻頭言…… i

大学院医歯学総合研究科機構図…… ii

医歯学

口腔機能再構築学講座

口腔病理学分野…… 3
細菌感染制御学分野…… 8
口腔生命医科学分野…… 11
歯科放射線診断・治療学分野…… 14
顎口腔腫瘍外科学分野…… 18
歯科麻酔学分野…… 23
小児歯科・障害者歯科学分野…… 27
う蝕制御学分野…… 33
咬合機能健康科学分野…… 39
歯髄生物学分野…… 45
口腔再生再建学分野…… 54
口腔デバイスマテリアル分野…… 58

顎顔面頸部機能再建学講座

形成・再建外科学分野…… 67
頭頸部外科学分野…… 72
認知神経生物学分野…… 79
分子発生・口腔組織学分野…… 82
顎顔面外科学分野…… 85
顎顔面矯正学分野…… 90
生体組織再建外科学分野…… 97

生体支持組織学講座

細胞生物学分野…… 103
運動器外科学分野…… 105
分子情報伝達学分野…… 116
歯周病学分野…… 118
生体情報継承学分野…… 128
無機生体材料学分野…… 130

環境社会医歯学講座

公衆衛生学分野…… 139
寄生虫学・熱帯医学分野…… 145
法医学分野…… 150
医療政策情報学分野…… 153
先進倫理医科学分野…… 164
法歯学分野…… 168
歯学教育開発学分野…… 171
歯科公衆衛生学分野…… 173
国際保健医療事業開発学分野…… 182
臨床統計学分野…… 186
医療安全管理学分野…… 193

老化制御学講座

リハビリテーション医学分野…… 203
高齢者歯科学分野…… 206
摂食嚥下リハビリテーション学分野…… 218

全人的医療開発学講座

臨床検査医学分野…… 233
生体集中管理学分野…… 237
総合診療歯科学分野…… 246
歯科心身医学分野…… 252
統合臨床感染症学分野…… 257

認知行動医学講座

神経機能形態学分野…… 269
細胞動態学分野…… 273
神経病理学分野…… 275
眼科学分野…… 280

耳鼻咽喉科学分野…… 292
精神行動医科学分野…… 297
脳神経機能外科学分野…… 304
血管内治療学分野…… 308
NCNP 脳機能病態学分野 …… 313
マテリアル神経科学分野…… 321

生体環境応答学講座
ウイルス制御学分野…… 325
発生発達病態学分野…… 328
皮膚科学分野…… 351
NCCHD 成育医学分野…… 357

器官システム制御学講座
人体病理学分野…… 367
細胞生理学分野…… 376
幹細胞制御分野…… 380
統合呼吸器病学分野…… 382
消化器病態学分野…… 390
心臓血管外科学分野…… 405
腎臓内科学分野…… 418
生殖機能協関学分野…… 427
腎泌尿器外科学分野…… 439
消化管外科学分野…… 450
呼吸器外科学分野…… 462
都医学研疾患分子生物学分野…… 465

先端医療開発学講座
臨床解剖学分野…… 473
システム発生・再生医学分野…… 482
包括病理学分野…… 488
分子腫瘍医学分野…… 492
診断病理学分野…… 496
疾患モデル動物解析学分野…… 502
シグナル遺伝子制御学分野…… 504
血液内科学分野…… 506
分子内分泌代謝学分野…… 514
肝胆膵外科学分野…… 521
整形外科学分野…… 534
疾患多様性遺伝学分野…… 568
応用再生医学分野…… 570
器官発生・創生学分野…… 577
生物統計学分野…… 581
神経炎症修復学分野…… 586
NIID 統合微生物学分野 …… 590

生命理工医療科学

医用器材学講座
センサ医工学分野…… 595
物質医工学分野…… 601
メディシナルケミストリー分野…… 605
ソフトマター医工学分野…… 610
診断治療システム医工学分野…… 614

統合分子疾患科学講座
分子細胞生物学分野…… 621
先端ナノ医工学分野…… 623
分子構造情報学分野…… 626
機能分子病態学分野…… 629
医化学分野…… 633
理研生体分子制御学分野…… 635
NCC 腫瘍医科学分野 …… 639
細胞分子医学分野…… 642
データ科学アルゴリズム設計・解析分野…… 644
恒常性医学分野…… 646
計算創薬科学分野…… 648

生体検査科学講座
形態情報解析学分野…… 653
血液・生体システム解析学分野…… 657
生命情報応用学分野…… 662
疾患生理機能解析学分野…… 666
臨床分析・分子生物学分野…… 673
微生物・感染免疫解析学分野…… 682
口腔保健学講座
生涯口腔保健衛生学分野…… 689
健康支援口腔保健衛生学分野…… 693
口腔疾患予防学分野…… 696
地域・福祉口腔機能管理学分野…… 700
口腔健康教育学分野…… 706
口腔基礎工学分野…… 715
口腔デジタルプロセス学分野…… 720
口腔医療工学分野…… 725
寄附講座・寄附研究部門
肝臓病態制御学講座…… 729
消化管先端治療学講座…… 734
茨城県小児・周産期地域医療学講座…… 736
血管代謝探索講座…… 748
消化器連携医療学講座…… 751
小児地域成育医療学講座…… 756
診療科・中央診療施設等
（医系診療部門）
高気圧治療部…… 765
（歯系診療部門）
スポーツ歯科外来…… 769
（基盤診療部門）
検査部…… 772
輸血・細胞治療センター…… 774
歯科衛生保健部…… 784
（スポーツサイエンス部門）
スポーツ医歯学診療センター…… 785
スポーツサイエンスセンター…… 790
M&D データ科学センター
（AI・ビッグデータ研究部門）
統合解析分野…… 795

口腔機能再構築学講座

口腔病理学分野

Oral Pathology

口腔病理学分野
教授　　石丸　直澄
講師　　牛尾　　綾
助教　　布川　裕規
臨床検査技師　濱垣　美和子

大学院生
XIE CANG YOU（修士課程 2 年）
木下　祐理（博士課程 3 年　咬合機能矯正学分野）
石井　麻美（博士課程 2 年　歯科麻酔学分野）

連携研究員
RANNY RAHANINGRUM HERDIANTOPUTRI（東京大学）

(1) 分野概要

口腔病理学分野では（1）自己免疫疾患、口腔がんなど様々な疾患の発症機序の解明に向けた研究、（2）歯学部学生、大学院生に向けた病理学教育、ならびに（3）本学病院病理部にて口腔疾患における病理診断を実施している。

(2) 研究活動

本分野では、以下の 7 つの研究プロジェクトに関して、疾患モデル、患者サンプルなどを用いて病理学的、免疫学的、および分子生物学的アプローチで精力的に研究活動を推進している。

1. シェーグレン症候群の病態解明に関する研究
2. 自己免疫疾患における T 細胞シグナルに関する研究
3. 自己免疫疾患におけるマクロファージの役割に関する研究
4. 自己免疫疾患における性差のメカニズムに関する研究
5. 腫瘍免疫に関する研究
6. 免疫系におけるナノマテリアルおよび環境ホルモンの影響に関する研究
7. 口腔がんの発症機序と新規治療法の開発

(3) 教育活動

本分野では、歯学部学生において全身病理学ならびに口腔病理学の講義、実習を行なっている。また、医歯学大学院生に対しての講義、演習を実施するとともに、修士過程あるいは博士課程の大学院生への研究指導を実施している。国内外からの留学生、臨床分野からの大学院生を指導している。

(4) 教育方針

本分野では、疾患の成り立ちを科学的な根拠に基づいた病理学的な観点から理解することを教育方針としている。学部学生には、人体の構造や機能を十分に理解した上で、全身に発症する疾患の病因 · 病態を理解することを目標

にしている。特に、口腔の専門家として、様々な口腔疾患の病態を理解してもらいたい。また、大学院生には、自身の研究テーマのゴールを明らかにした上で、基礎研究を基盤とした研究能力 · マインドを十分に培ってほしい。

(5) 臨床活動および学外活動

本分野のスタッフは、本学病院病理部における病理診断業務を担当している。3 名の口腔病理専門医が、年間 2000 件以上の口腔領域における病理検査（生検、組織診、細胞診など）の診断に携わっている。さらに、本院の病理解剖業務にも協力している。

(6) 臨床上の特色

本分野は、基礎系の分野でもあるとともに病院における病理検査業務にも携わっており、基礎と臨床をつなぐ重要な役割を担っている。口腔に発症する様々な疾患の病態を明らかにすることで、正確な診断、適切な治療方針の決定ならびに予後の推測など臨床的に極めて重要な役割を果たしている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kazutaka Nakamura, Masayuki Tsukasaki, Takaaki Tsunematsu, Minglu Yan, Yutaro Ando, Nam Cong-Nhat Huynh, Kyoko Hashimoto, Qiao Gou, Ryunosuke Muro, Ayumi Itabashi, Takahiro Iguchi, Kazuo Okamoto, Takashi Nakamura, Kenta Nakano, Tadashi Okamura, Tomoya Ueno, Kosei Ito, Naozumi Ishimaru, Kazuto Hoshi, Hiroshi Takayanagi. The periosteum provides a stromal defence against cancer invasion into the bone. Nature. 2024.10; 634(8033); 474-481

2. Aota Keiko, Kani Koichi, Ono Shinji, Naniwa Kohei, Momota Yukihiro, Fukui Makoto, Ishimaru Naozumi, Azuma Masayuki. Activation of Janus kinase 2 contributes to the autoimmune pathology in the salivary glands of patients with Sjoegren's syndrome(タイトル和訳中) Oral Science International. 2024.09; 21(3); 415-424

3. Hajime Tanaka, Yuki Fukawa, Kouhei Yamamoto, Kousuke Tanimoto, Akira Takemoto, Takayasu Mori, Hisashi Hasumi, Mayumi Kinoshita, Takumi Kanazawa, Asuka Furukawa, Koichiro Kimura, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Steven C Campbell, Yasuhisa Fujii. Prognostic impact and genomic backgrounds of renal parenchymal infiltration or micronodular spread in non-metastatic clear cell renal cell carcinoma. Mod Pathol. 2024.08; 100590

4. Jia Qi, Yoshiro Matsumoto, Cangyou Xie, Fatma Rashed, Takashi Ono and Kazuhiro Aoki. Prevention of bone dehiscence associated with orthodontic tooth movement by prophylactic injection of bone anabolic agents in mice Scientific Reports. 2024.07;

5. Daishiro Kobayashi, Masaya Deda, Junya Hayashi, Kota Hidaka, Yutaka Kohmura, Takaaki Tsunematsu, Kohei Nishino, Harunori Yoshikawa, Kento Ohkawachi, Kiyomi Nigorikawa, Tetsuro Yoshimaru, Naozumi Ishimaru, Wataru Nomura, Toyomasa Katagiri, Hidetaka Kosako, Akira Otaka. Sulfoxide-Mediated Cys-Trp-Selective Bioconjugation that Enables Protein Labeling and Peptide Heterodimerization. Chem Eur. 2024.07; e202400014

6. Herdiantoputri RR, Komura D, Ochi M, Fukawa Y, Kayamori K, Tsuchiya M, Kikuchi Y, Ushiku T, Ikeda T, Ishikawa S. Benchmarking Deep Learning-Based Image Retrieval of Oral Tumor Histology. Cureus. 2024.06; 16(6); e62264

7. Akiko Yamada, Akira Watanabe, Atsushi Nara, Naozumi Ishimaru, Kosuke Maeda, Yusuke Ido, Kazumasa Kotake, Masatake Asano, Yasuo Shinohara, Takenori Yamamoto. Longitudinal Analysis of Mitochondrial Function in a Choline-Deficient L-Amino Acid-Defined High-Fat Diet-Induced Metabolic Dysfunction-Associated Steatohepatitis Mouse Model. Int J Mol Sci. 2024.06; 25(11);

8. Aya Ushio, Mami Matsuda-Lennikov, Felix Kalle-Youngoue, Akihide Shimizu, Abdalla Abdelmaksoud, Michael C Kelly, Naozumi Ishimaru, Yousuke Takahama. Functionally diverse thymic medullary epithelial cells interplay to direct central tolerance. Cell Rep. 2024.04; 43(4); 114072

9. Hiroaki Tawara, Takaaki Tsunematsu, Shojiro Kitajima, Ruka Nagao, Shigefumi Matsuzawa, Kunihiro Otsuka, Aya Ushio, Naozumi Ishimaru. The noncanonical function of borealin, a component of chromosome passenger complex, promotes glycolysis via stabilization of survivin in squamous cell carcinoma cells. Biochem Biophys Res Commun. 2024.04; 706; 149741

10. Keiko Aota, Koichi Kani, Shinji Ono, Kohei Naniwa, Yukihiro Momota, Makoto Fukui, Naozumi Ishimaru, Masayuki Azuma. Activation of Janus kinase 2 contributes to the autoimmune pathology in the salivary glands of patients with Sjögren's syndrome Oral Science International . 2024.03; (21); 415-424

11. Iwasaki T, Harazono Y, Fukawa Y, Kaida A, Kayamori K, Sasaki Y, Harada H, Yoda T. Retrospective analysis of odontogenic myxoma and odontogenic myxofibroma in the oral and maxillofacial region: a fibrous tissue-related differentiation. The British journal of oral & maxillofacial surgery. 2024.02; 62; 464-470

12. Yosuke Harazono, Hiroyuki Yoshitake, Yuki Fukawa, Tohru Ikeda, Tetsuya Yoda. Osteoblastoma in the mandible of an older adult patient without FOS gene rearrangement: A case report and literature review Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2024.01;

13. Therapeutic Strategy Based on the Pathogenesis for Sjögren's Syndrome 2024; 37(1); 1-5

1. 大塚 邦紘, 石丸 直澄. 特集 Sjögren 症候群の最近の知見 総説 2 Sjögren 症候群の病理 皮膚病診療. 2024.09; 46(9); 788-793

2. Activation of Janus kinase 2 contributes to the autoimmune pathology in the salivary glands of patients with Sjögren's syndrome 2024.04;

3. Sulfoxide-mediated Cys-Trp-selective bioconjugation that enables protein labeling and peptide heterodimerization 2024.01;

[総説]

1. Borealin-Survivin 複合体は頭頸部扁平上皮癌の分化を直接的に制御する (Borealin-Survivin complex directly regulates keratinocyte differentiation in HNSCC) 2024.02; 113(1); 296

2. CRTC1::MAML2 融合遺伝子の検出で確定診断に至った粘表皮癌の 2 例 (Detection of the CRTC1::MAML2 fusion gene in two atypical cases of mucoepidermoid carcinoma) 2024.02; 113(1); 346

3. がん特殊化リボソームの同定と機能解析 (Identification and characterization of cancer-specialized ribosomes) 2024.02; 113(1); 295

4. シェーグレン症候群の病態形成に対する T 細胞の共抑制性受容体の役割の解析 (Analysis of the role of co-inhibitory receptors on T cells to the pathogenesis of Sjogren's syndrome) 2024.02; 113(1); 297

5. 多層カーボンナノチューブが免疫システムに及ぼす影響 (The influence of multi-walled carbon nanotube for immune systems) 2024.02; 113(1); 370

1. 大塚 邦紘, 石丸 直澄. 【Sjoegren 症候群の最近の知見】Sjoegren 症候群の病理 皮膚病診療. 2024.09; 46(9); 788-793

2. 常松 貴明, 俵 宏彰, 石丸 直澄. DNA 損傷シグナルによってがん細胞が獲得する新たな機能 口腔組織培養学会誌. 2024.02; 32/33(2/1); 31-32

3. 俵 宏彰, 常松 貴明, 大塚 邦紘, 牛尾 綾, 石丸 直澄. 口腔扁平上皮癌における Survivin の核内蓄積がもたらす新たな機能 口腔組織培養学会誌. 2024.02; 32/33(2/1); 13-14

[講演 · 口頭発表等]

1. 布川 裕規, 山本 浩平, 倉田 盛人, 清水 六花, 西井 直人, 黒嶋 雄志, 道 泰之, 原田 浩之, 石丸 直澄. 小唾液腺に発生したアミロイド沈着を伴った Low-grade B-cell lymphoma の 3 例 (Three cases of low-grade B-cell lymphoma with amyloid deposition involving the minor salivary glands). 日本病理学会会誌 2024.10.01

2. 牛尾 綾, 松田 真実, 石丸 直澄, 高濱 洋介. 機能的に異なる胸腺髄質上皮細胞欠損マウスにおける自己免疫病変の病理組織学的検討 (Pathological analysis of autoimmune phenotype in mice lacking functionally distinct thymic medullary epithelial cells). 日本病理学会会誌 2024.10.01

3. 俵 宏彰, 常松 貴明, 永尾 瑠佳, 松澤 鎮史, 大塚 邦紘, 牛尾 綾, 石丸 直澄. Borealin-Survivin 複合体は頭頸部扁平上皮癌の分化を直接的に制御する (Borealin-Survivin complex directly regulates keratinocyte differentiation in HNSCC). 日本病理学会会誌 2024.02.01

4. 富田 満, 堀口 英久, 小川 博久, 上原 久典, 坂東 良美, 常松 貴明, 佐藤 真美, 石丸 直澄, 常山 幸一. CRTC1::MAML2 融合遺伝子の検出で確定診断に至った粘表皮癌の 2 例 (Detection of the CRTC1::MAML2 fusion gene in two atypical cases of mucoepidermoid carcinoma). 日本病理学会会誌 2024.02.01

5. 永尾 瑠佳, 山本 安希子, 牛尾 綾, 大塚 邦紘, 松澤 鎮史, 常松 貴明, 石丸 直澄. シェーグレン症候群の病態形成に対する T 細胞の共抑制性受容体の役割の解析 (Analysis of the role of co-inhibitory receptors on T cells to the pathogenesis of Sjogren's syndrome). 日本病理学会会誌 2024.02.01

6. 常松 貴明, 吉川 治孝, 永尾 瑠佳, 松澤 鎮史, 大塚 邦紘, 牛尾 綾, 石丸 直澄. がん特殊化リボソームの同定と機能解析 (Identification and characterization of cancer-specialized ribosomes). 日本病理学会会誌 2024.02.01

7. 牛尾 綾, 大塚 邦紘, 常松 貴明, 高橋 祐次, 菅野 純, 石丸 直澄. 多層カーボンナノチューブが免疫システムに及ぼす影響 (The influence of multi-walled carbon nanotube for immune systems). 日本病理学会会誌 2024.02.01

1. 神野和奏, 陳徳容, 謝倉右, 斉佳, 石丸直澄, 松本芳郎, 小野卓史, 青木和広. 注射法による骨再生材の表面張力と骨造成量との関連評価 〜魚鱗由来ゼラチンを用いた検討〜. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.06 東京, 日本

2. 李彬, 毛利有紀, 松野瞳, 謝倉右, 大河原久実, 村上奈津子, 若林則幸. 機械的荷重によってインプラント周囲骨に生じた応力は骨代謝 に影響を及ぼす. 令和 6 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東京支部学術大会 2024.12.01 昭和大学上條記念館, 東京, 日本

3. 四釜 洋介, 大塚 邦紘, 石丸 直澄, 松下 健二. 唾液腺 ADAM17 発現に対する肥満 · 加齢の影響とメトホルミンの効果. Journal of Oral Biosciences Supplement 2024.11.01

4. 常松 貴明, 牛尾 綾, 石丸 直澄. 基礎と臨床の融合〜リバーストランスレーショナルリサーチによる癌治療への挑戦〜　分子病理学から挑む共食い口腔がん細胞の役割の解明. Journal of Oral Biosciences Supplement 2024.11.01

5. 俵 宏彰, 常松 貴明, 大塚 邦紘, 牛尾 綾, 石丸 直澄. 頭頸部扁平上皮癌の分化を決定づける転写因子ネットワークの解明. Journal of Oral Biosciences Supplement 2024.11.01

6. Jia Qi, Yoshiro Matsumoto, Cangyou Xie, Rune Ishizaka, Kazuhiro Aoki and Takashi Ono. Prevention of bone dehiscence associated with orthodontic tooth movement by prophylactic injection of bone anabolic agents in mice. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 横浜, 日本

7. 青木和広, 久保優里, 謝倉右, 本間雅. 骨吸収から骨形成へのカップリングメカニズムの解明から新規骨形成促進薬の開発へ. 2024.10.12 金沢, 日本

8. 常松 貴明, 北村 直也, 松澤 鎮史, 石丸 直澄. HPV 陽性癌における新規脱ユビキチン化酵素複合体の機能解析. 日本口腔科学会雑誌 2024.09.01

9. 松澤 鎮史, 牛尾 綾, 永尾 瑠佳, 大塚 邦紘, 常松 貴明, 石丸 直澄. 新生仔胸腺における T 細胞の分化とオートファジーの関係性. 日本口腔科学会雑誌 2024.09.01

10. 西田 真理, 大塚 邦紘, 福場 真美, 浪花 耕平, 可児 耕一, 桃田 幸弘, 石丸 直澄, 青田 桂子. 老化関連 B 細胞を介したシェーグレン症候群の病態形成機序の解明. 日本口腔科学会雑誌 2024.09.01

11. 布川 裕規, 清水 六花, 原田 浩之, 石丸 直澄. 上唇の粘膜下腫瘤の一例. 第 35 回日本臨床口腔病理学会総会 · 学術大会 2024.08.01 新潟大学医学部有壬記念館

12. Jia Qi, Yoshiro Matsumoto, Cangyou Xie, Rune Ishizaka, Kazuhiro Aoki and Takashi Ono. Prevention of bone dehiscence associated with orthodontic tooth movement by prophylactic injection of bone anabolic agents in mice. TMDU Graduate Program Retreat 2024.06.07

13. 布川 裕規, 栢森 高, 加島 義久, 黒嶋 雄志, 原田 浩之, 池田 通. 特異な所見を呈した硬化性歯原性癌の一例. 第 113 回日本病理学会総会 2024.03.28 名古屋国際会議場

14. 及川 湧基, 鈴木 兼一郎, 布川 裕規, 栢森 高, 金 裕純, 福田 雅幸, 後藤 明輝, 池田 通. 舌背に発生した軟骨化生を伴う AL 型アミロイドーシスの一例. 第 113 回日本病理学会総会 2024.03.28 名古屋国際会議場

15. 常松 貴明, 俵 宏彰, 石丸 直澄. DNA 損傷シグナルによってがん細胞が獲得する新たな機能. 口腔組織培養学会誌 2024.02.01

16. 俵 宏彰, 常松 貴明, 大塚 邦紘, 牛尾 綾, 石丸 直澄. 口腔扁平上皮癌における Survivin の核内蓄積がもたらす新たな機能. 口腔組織培養学会誌 2024.02.01

[受賞]

1. 第 35 回日本臨床口腔病理学会総会 · 学術大会　優秀症例報告賞, 日本臨床口腔病理学会, 2024 年 08 月

[その他業績]

1. 「 腎臓がんの術後再発リスクを見極める新たな鍵 」 — がんと正常部との境界部のパターンでより高精度な再発予測が可能に —, 2024 年 09 月
   Modern Pathology

細菌感染制御学

Bacterial Pathogenesis

教　授　　鈴木　敏彦
准教授　　芦田　浩
助　教　　岡野　徳壽
大学院生　許宸瑋
大学院生　Onsoi Poramed
大学院生　日向野　紗希
技術補佐員　飯田　真珠子

(1)　分野概要

細菌感染制御学分野では、病原体の感染の分子メカニズムとこれらの感染に対する宿主の応答機構を明らかにし、感染や発症の制御に必要な技術的基盤を構築するための新しい知見を取得することを目指しています。多くの人間が罹患するいわゆる「伝染病」から、免疫が落ちている方が発症する日和見感染、さらにヒトと共生する口腔内、腸内細菌までそれぞれがホットな学問領域になっています。

本分野の研究テーマとしては、まず、自然炎症機構のひとつインフラマゾームの活性化のメカニズムの解明と、各種疾患への関与について研究を行っております。また、細菌性下痢症を起こす細菌と腸管常在細菌叢との相互作用の解明、歯周炎関連細菌の感染と宿主応答についても研究を行っています。さらに、琉球大学と共同で病原性レプトスピラの感染機構の研究を引き続き行っています。また、AMED 海外拠点研究領域で本学の拠点がおかれているガーナ大学野口記念医学研究所との共同研究にも参画しています。

現在の細菌学領域の研究は、いわゆる感染症を起こす病原細菌のみならず、生体の正常な免疫維持や慢性疾患にも関わる広がりをみせています。本分野では、熱意のある大学院生を募集しています。

(2)　研究活動

主な研究テーマ
1) 細菌の宿主認識、定着、増殖等の感染メカニズムの解明
2) インフラマゾームをはじめとする宿主自然免疫機構の活性化と制御機構の解明
3) 比較ゲノム・遺伝子発現解析による病原性遺伝子の解析
4) 細菌の定着が与える慢性疾患への影響に関する解析

(3)　教育活動

学部教育：
歯学部歯学科の第３学年（D3）感染と生体防御モジュール、講義および実習　ユニット１：感染と生体防御概論、ユニット３：病原性細菌と感染症、 ユニット４：病原性ウイルスと感染症。病態科学演習モジュール：感染症担当
D4 研究実習分野配属
歯学部口腔保健学科・口腔保健衛生学専攻の第２学年「病原微生物と生体防御」
歯学部口腔保健学科・口腔保健工学専攻の第２学年「感染予防」
医学部医学科第２学年「感染・基礎」

大学院教育：
大学院医歯学総合研究科・博士課程、大学院医歯学総合研究科・修士課程での研究指導

(4) 教育方針

学部教育：
感染症の現状を理解する：感染症はあらゆる疾患グループのうちで最大の罹患頻度と死亡率を示している。現在、医療現場は新興 · 再興感染症、院内感染症、耐性菌の増加、日和見感染症などの問題を抱えている。また、抗生物質は感染症に対して万能ではないことを理解する。感染症に対処できる能力を獲得する：医歯学における感染症学の核心は感染と病原性の機序の理解である。医療従事者にとって必要な細菌学 · ウイルス学 · 真菌学の知識および技術を習得し、臨床を学ぶための基盤を確立する。

大学院教育：
病原体の感染メカニズムおよび宿主の応答を分子から個体レベルで理解し、感染症およびそれに関連する疾患の治療へつながる基礎研究を展開する。自ら研究課題を設定し、研究を遂行できる能力を身につける。

(5) 研究業績

[原著]

1. Hsu CW, Okano T, Niinuma Y, Leewananthawet A, Iida T, Onsoi P, Boonyaleka K, Ashida H, Suzuki T. A complex of NLRP3 with caspase-4 is essential for inflammasome activation by Tannerella forsythia infection. International immunology. 2024.12;

2. Bonney JHK, Pratt D, Ofori M, Hayashi T, Abankwa A, Awuku-Larbi Y, Kumordjie S, Agbodzi B, Salisu M, Mante AAO, Bour S, Eshun M, Amaning JNDA, Ketorwoley P, Enimil N, Koomson J, Stephens G, Asiedu-Bekoe F, Laryea D, Dadzie S, Suzuki T. Molecular detection of dengue virus from febrile patients in Ghana. BMC infectious diseases. 2024.12; 24(1); 1382

3. Okano T, Ashida H, Komatsu N, Tsukasaki M, Iida T, Iwasawa M, Takahashi Y, Takeuchi Y, Iwata T, Sasai M, Yamamoto M, Takayanagi H, Suzuki T. Caspase-11 mediated inflammasome activation in macrophages by systemic infection of *A. actinomycetemcomitans* exacerbates arthritis. International journal of oral science. 2024.08; 16(1); 54

4. Ota Y, Yasunaga K, Mahazu S, Prah I, Nagai S, Hayashi T, Suzuki M, Yoshida M, Hoshino Y, Akeda Y, Suzuki T, Gu Y, Saito R. Comparative evaluation of analytical pipelines for illumina short- and nanopore long-read 16S rRNA gene amplicon sequencing with mock microbial communities. Journal of microbiological methods. 2024.04; 221; 106929

5. Ali T, Nguyen HM, Abbas N, Takeuchi O, Akira S, Suzuki T, Matsuzaki G, Takaesu G. TAK1-binding proteins (TAB)2 and TAB3 are redundantly required for TLR-induced cytokine production in macrophages. International immunology. 2024.04; 36(9); 439-450

6. Mahazu S, Prah I, Ota Y, Hayashi T, Suzuki M, Yoshida M, Hoshino Y, Akeda Y, Suzuki T, Ishino T, Ablordey AS, Saito R. Colistin Resistance Mediated by Mcr-3-Related Phosphoethanolamine Transferase Genes in Aeromonas Species Isolated from Aquatic Environments in Avaga and Pakro Communities in the Eastern Region of Ghana. Infection and drug resistance. 2024; 17; 3011-3023

[講演 · 口頭発表等]

1. Tokuju Okano. Hypoxia enhances IL-1 β release by inflammasome activation with P. gingivalis infection.. 29th Japan Endotoxin and Innate Immunity Society 2024.11.09 Musashino University

2. Saki Higano, Tokuju Okano. Clostridioides difficile progresses protein degradation and apoptosis under hypoxia.. 29th Japan Endotoxin and Innate Immunity Society 2024.11.09 Musashino University

3. Tokuju Okano, Toshihiko Suzuki. A. actinomycetemcomitans exacerbates arthritis via caspase-11 mediated inflammasome activation in macrophages . 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.04 Nagasaki

4. Chenwei Hsu, Tokuju, Okano, Toshihiko Suzuki. Tannerella forsythia induces inflammasome activation by triggering both NLRP3 and Caspase-4. The 97th Annual Meeting of Japanese Society for Bacteriology. 2024.08.07 Sapporo

5. Chenwei Hsu, Tokuju Okano, Toshihiko Suzuki. Tannerella forsythia induces inflammasome activation by triggering both NLRP3 and Caspase-4. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.17 Chiba

1. 日向野紗希, 岡野徳壽, 鈴木敏彦. Clostridioides difficile は低酸素特異的にタンパク質分解とアポトーシスを亢進する. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.06 東京

[その他業績]

1. 「　歯周病原細菌が関節炎の増悪化を引き起こしているメカニズムを解明　」 —　口腔内細菌による全身性疾患への新たな影響を発見　—, 2024 年 08 月
International Journal of Oral Science

2. 「　歯周病原細菌が関節炎の増悪化を引き起こしているメカニズムを解明　」 —　口腔内細菌による全身性疾患への新たな影響を発見　—, 2024 年 08 月
International Journal of Oral Science

3. Shedding Light on How Oral Bacteria Can Aggravate Rheumatoid Arthritis , 2024 年 09 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

4. Shedding Light on How Oral Bacteria Can Aggravate Rheumatoid Arthritis , 2024 年 09 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. 研究者インタビュー, 一般財団法人化学及血清療法研究所, 一般財団法人化学及血清療法研究所ホームページ, 2024 年 06 月 26 日 - 2024 年 09 月 01 日

口腔生命医科学分野

Department of Oral Biology

2024 年 7 月より
【教授】　片桐 さやか
【准教授】　永井 重徳
【助教】　大杉 勇人, Lin Peiya(12 月〜)
【大学院生】Farzana Sultana, Yi Lu

(1) 分野概要

口腔生命医科学分野は、2000 年 4 月に大学院重点化に伴い新たに設置された専攻分野である分子免疫学分野（東みゆき教授）の後継分野として、2024 年 7 月に設立されました。口腔と全身の疾患が関連していることが多数報告されています。口腔という臓器はとてもユニークで、歯が口腔上皮から頭を出しており、自己と外部環境を隔てる上皮バリアの連続性が断裂しています。自己と外部環境が繋がっているにも関わらず、全身の恒常性が破綻しないのは、口腔の様々な細菌が精巧なバランスを保って共生しているからです。そのため、この口腔内細菌叢のバランスが崩れた、「口腔内 dysbiosis」が起こることは、上皮バリアの破綻を意味します。口腔内 dysbiosis による上皮バリアの破綻は、全身の恒常性の破綻を引き起こします。それによって、糖尿病や肥満のような代謝疾患や、循環器疾患、切迫早産などの妊娠中の疾患の進展 · 増悪に影響することが多数報告されています。しかしながら、口腔と全身が関連しているという報告はあるものの、口腔と全身のクロストークの分子的基盤は確立できていないため、分子的基盤の構築および口腔を基軸とした疾患の新たな予防 · 治療法の開発を目指します。

(2) 研究活動

研究目標：全世代への新たな疾患予防戦略の確立のために、口腔を 1 つの臓器ととらえ、エネルギー代謝に重要な、肝臓 · 脂肪 · 筋肉とのクロストークを解明する研究を行っています。高齢者ではサルコペニア肥満、中高年者では糖尿病や肥満を含む、糖 · 脂質代謝異常、胎児から若年者では代謝異常に関わる発育不全など、各世代別で社会問題となっている代謝性疾患に注目します。また、かねてより関連はあると言われているものの、分子基盤が構築されていない疾患との関連のメカニズム解明を目指します。加えて、各種臓器における組織細胞上の多種多様な補助シグナル分子の発現制御や機能的役割を明らかにし、これらの分子を標的とした免疫治療法を開発することも目的としています。口腔内 dysbiosis およびそれに伴う歯の喪失 · 咀嚼機能低下がどのように全身に影響するかを明らかにするとともに、光エネルギーの応用など、新たな治療法を開発し、口腔疾患の治療法および口腔から全身疾患の治療法開発へ繋げます。

(3) 教育活動

学部教育：
歯学部歯学科　第 1 学年：歯学入門（歯学史）、第 3 学年；感染と生体防御 講義および実習　ユニット 1 ：感染と生体防御概論、ユニット 5 ：生体免疫応答、 病態科学演習モジュール　糖尿病担当、隣接医学：歯科と妊娠　第 4 学年　研究実習分野配属、 学年混合選択セミナー　選択コース 1-A：海外留学と海外協力
歯学部口腔保健学科 · 口腔保健衛生学専攻　第 2 学年「病原微生物と生体防御」第 3 学年「先端歯科医療学」
歯学部口腔保健学科 · 口腔保健工学専攻　第 1 学年「感染予防」「人体の構造と機能」
大学院教育：
博士課程（医歯学総合研究科）口腔生命医科学特論 · 演習 · 実験
歯周病学Ⅱ特論

(4) 教育方針

学部教育：感染免疫、腫瘍免疫、アレルギー、免疫不全症、自己免疫疾患の理解を深めるとともに、口腔が全身にどのように影響を与えるかを体系的に学んでもらう。
大学院教育：専門分野やこれまでの研究テーマに限定されない座学の提供に加え、分子生物学、免疫学、バイオインフォマティクスなどの技術的手法を教育します。臨床的疑問に対する解決方法を提案出来る能力を身に着けてもらう。

(5) 研究業績

[原著]

1. Noritake K, Tsuruta J, Mizutani K, Kondo K, Suzuki H, Adachi N, Seki N, Cao R, Mikami R, Katagiri S, Kabasawa Y, Nitta H. Educational effects of dental hygiene student intervention in dental student clinical practicum Journal of Dental Sciences. 2024.10;

2. Nagai T, Shiba T, Komatsu K, Watanabe T, Nemoto T, Maekawa S, Kobayashi R, Matsumura S, Ohsugi Y, Katagiri S, Takeuchi Y, Iwata T. Optimal 16S rRNA gene amplicon sequencing analysis for oral microbiota to avoid the potential bias introduced by trimming length, primer, and databas Microbiology Spectrum. 2024.10; 12(12); e0351223

3. Nose M, Nitta A, Zheng Y, Kizukuri R, Nagao Y, Nagai S, Aizawa M. Bioceramics Enhance the Anti-Tumor Activity of Immune Cells in Adoptive Immunotherapy International Journal of Molecular Sciences. 2024.09; 25(19); 10567

4. Liu A, Hayashi M, Ohsugi Y, Katagiri S, Akira S, Iwata T, Nakashima T. The IL-33/ST2 axis is protective against acute inflammation during the course of periodontitis Nature Communications. 2024.03; 15(1); 2707

5. Lin P, Niimi H, Hirota T, Ohsugi Y, Shimohira T, Toyoshima K, Katagiri S, Iwata T, Aoki A. Effects of low-level Er:YAG laser irradiation on proliferation and gene expression in primary gingival fibroblasts isolated from mouse maxilla. J Biophotonics. 2024.02; 17(2); e202300166

1. 永井 重徳. 免疫系細胞の培養法 · 評価法から研究への展開 バイオマテリアル-生体材料. 2024.01; 42(1); 82-87

[書籍等出版物]

1. 塚原 悠太, 大杉 勇人, 片桐さやか. 糖尿病 · 内分泌プラクティス Web 2024 年 7· 8 月号 エビデンスでみる糖尿病 · 内分泌疾患 糖尿病と歯周病の最新エビデンス. 株式会社創新社, 2024.07

[総説]

1. Aoki A, Mizutani K, Taniguchi Y, Lin T, Ohsugi Y, Mikami R, Katagiri S, Meinzer W, Iwata T. Current status of Er:YAG laser in periodontal surgery. Jpn Dent Sci Rev. 2024.12; 60; 1-14

2. Shiba T, Komatsu K, Takeuchi Y, Koyanagi T, Taniguchi Y, Takagi T, Maekawa S, Nagai T, Kobayashi R, Matsumura S, Katagiri S, Izumi Y, Aoki A, Iwata T. Novel flowchart guiding the non-surgical and surgical management of peri-implant complications: a narrative review Bioenginnering. 2024.01; 11(2); 118

[講演 · 口頭発表等]

1. Katagiri S. Oral-gut-brain axis in ligature induced periodontitis in mice /Effects of maternal ligature-induced periodontitis on brain in offsprings. Data club 2024.11.15 Boston

2. Toyoshima K, Lin P, Ohsugi Y, Niimi H, Katagiri S, Iwata T, Aoki A. Effects of Er:YAG laser irradiation on cell proliferation and gene expression in osteocyte-like cells. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry 2024.11.12 Sao Paulo

3. Lin P, Shimohira T, Ohsugi Y, Shiba T, Hirota T, Katagiri S, Aoki A. Effect of near-infrared phototherapy on medication-related osteonecrosis of the jaw in mice. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry 2024.11.11 Sao Paulo
4. Moreira BA, Mizutani K, Saito N, Takemura S, Chen L, Ohsugi Y, Iwata T, Aoki A. Effects of Low-Level Er: YAG Laser Irradiation on Human Umbilical Vein Endothelial Cells in Hyperglycemia. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry (WFLD) 2024.11.11 Sao Paulo
5. Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Determination of the optimal cell density for immunofluorescence observation of MC3T3-E1 cells on zirconia. The 89th annual meeting and scientific session of the Pacific Coast Society for Prosthodontics 2024.06.21 Monterey
6. Zhang C, Lu Y, Nagai S, Azuma M. Alternation of anti-tumor responses and PD-L1 blockade. The 1st International Symposium on Cancer Immunology and Immunotherapy. 2024.03.24
7. Sultana F, Zhang C, Azuma M, Nagai S. A new immune checkpoint molecule ILDR2 expression on CD206+ macrophages is enhanced after repeated antigen-painting onto sublingual mucosa. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.18

1. 高田 晃己, 芝 多佳彦, 長井 貴彦, 小林 龍太, 松村 俊佑, 駒津 匡二, 片桐 さやか , 岩田 隆紀. 次世代シーケンス技術を用いた口腔内細菌の感染性心内膜炎への関与の調査. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.06
2. 片桐 さやか. 口腔内細菌叢破綻による 生涯の代謝異常の病態解明. 歯学研究を明るく楽しむ交流会 · 歯科領域での AI 活用の検討会 2024.11.30 天城
3. 片桐 さやか. 糖尿病と歯周病の関わり. 日野市医師会 · 日野市歯科医会共催　学術講演会 2024.11.05 東京
4. 片桐 さやか. Update on Periodontal Medicine -基礎研究と臨床研究における歯周医学アップデート-. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.03 長崎
5. 豊嶋 啓汰, 大杉 勇人, 林 培雅, 駒津 匡二, 芝 多佳彦, 竹内 康雄, 下平 剛, 土谷 洋輔, 片桐 さやか, 岩田 隆紀, 青木 章. 結紮誘導歯周炎モデルマウスを用いた青色 LED 照射に よる口腔内細菌叢への影響. 第 36 回日本レーザー歯学会総会 · 学術大会 2024.10.19 名古屋
6. 大杉 勇人. 口腔内細菌叢破綻が脳機能に与える影響の解明. 重点研究領域　2024 年度領域全体班会議 2024.09.25 東京
7. 片桐 さやか. 口腔内細菌叢破綻を基軸とした口腔科学研究. 歯学部新任教授による講演会 2024.09.11 Online
8. 片桐 さやか. グローバル研究活動：支援の有効活用事例紹介. グローバル女性リーダー双発 · 飛翔プロジェクト 2024.09.10 東京
9. 片桐 さやか. 歯周病の視点から：早産 · 低体重児出産と歯周病との関わり ～母子の健康を願って～. 第 48 回日本女性栄養 · 代謝学会学術集会 2024.08.22 東京
10. 片桐 さやか. 歯科衛生士はおさえておこう 歯周病の知識. 2024 年度第 3 回学術研修会 2024.08.18 東京
11. 片桐 さやか. 口腔内細菌叢破綻による生涯の代謝異常の病態解明. JST 創発的研究支援事業　第 3 回「融合の場」 2024.07.18 京都
12. 大杉 勇人. 口腔内 dysbiosis による母体と子の成長に及ぶ代謝異常. 研究者 · 学生の交流の会 meetUP No19 2024.06.26 東京
13. 片桐 さやか. 臨床および基礎研究に基づいた口腔内細菌叢破綻の糖 · 脂質代謝異常への影響. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会 2024.05.18 東京

[受賞]

1. Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Poster Competition Awards (1st Prize), the Pacific Coast Society for Prosthodontics, 2024 年 06 月

[社会貢献活動]

1. 歯の健康と全身の健康, 株式会社サンライフ企画, UBS ホームページ　コネクト, 2024 年 04 月 11 日 - 2024 年 05 月 20 日
2. 口腔内破綻が全身に及ぼす影響, 毎日新聞出版, サンデー毎日, 2024 年 09 月 26 日 - 現在

歯科放射線診断・治療学分野

Department of Dental Radiology and Radiation Oncology

教　　授	三浦　雅彦
准 教 授	渡邊　裕
講　　師	戒田　篤志
学部内講師	中村　伸
助　　教	栗林　亜実
	今泉　晶子
	野島　瞳（10 月～）
特任助教	野島　瞳（～9 月）
医　　員	能村　嘉一
	田口　美晴
	久米　咲子（4 月～）
大学院生	Yomtako SUPASITH
	隠岐　安利紗
	Carulina MESQUITA
大学院研究生	久米　咲子（～3 月）

(1) 分野概要

口腔顎顔面領域における画像診断ならびに放射線治療に関する教育、研究、臨床を行っている。

(2) 研究活動

・断面画像による顎口腔領域病変の鑑別診断、拡散強調 MRI や Dynamic MRI、MR sialography 等を用いた唾液腺疾患の診断、神経血管系疾患や顎関節疾患等を対象とした新しい MRI 診断法の開発。
・口腔領域悪性腫瘍患者の予後予測に関する CT 画像診断の役割に関する研究。
・口腔がんの放射線治療に関連した臨床研究ならびに新たな治療法の開発。
・シグナル伝達機構、DNA 損傷修復機構の観点から見た分子生物学的、細胞生物学的、放射線生物学的研究。

(3) 教育活動

歯科放射線学は、口腔・顎・顔面領域の疾患を主な対象とする放射線の医学的利用について体系づけた臨床歯科医学の専門分野である。学部学生に対しては、疾患の診断と治療に関係する理論と知識及び基本的技術を身につけることを目標として、講義と実習を行う。一方、大学院における教育では、最新の画像診断技術の歯科領域への応用や生物学的基礎に基づく口腔がんの放射線治療に関する専門的教育を中心として教育を行う。

(4) 教育方針

最近の放射線医学の進歩は著しく、現在の医療技術も将来の科学や技術的進歩に応じて変化することから、自己の生涯学習の基盤となる様な教育に配慮する事を重視している。自分で問題点を抽出し、それを解決するための発想、方法論を導きだせる研究者としての資質を涵養する。

(5) 臨床活動および学外活動

当分野の臨床部門として、画像診断および放射線治療が挙げられる。
1. 画像診断
64 列マルチスライス CT スキャナおよび 3 テスラ MRI 撮像装置を用いた顎顔面領域の診断は、当分野における画像診断業務の中核をなしている。前者では通常の断面画像に加えて、顎顔面骨や歯列の三次元画像表示、顎骨の多断面画像表示等の画像処理を行なっており、後者では特に三叉神経痛や唾液腺疾患、顎関節疾患に対して新しい撮像法を開発しこれを臨床症例に適用している。また本学 PET 核医学センターにおいても、主に口腔悪性腫瘍の PET-CT 診断に携わっている。
2. 放射線治療
医系診療部門の放射線治療科と密接に連携しながら、口腔領域悪性腫瘍の放射線治療に携わっている。具体的には、小線源治療による根治的放射線療法、術前 · 術後照射等の診療を行い、治療後の組織欠損や機能障害がほとんどない QOL の高いがん治療を実施している。さらに、歯科の専門外来（口腔外科外来、顎顔面補綴外来）と連携をとりながら、患者個人の病態ならびに要望に最も適した診療となるよう取組んでいる。

(6) 臨床上の特色

64 列マルチスライス CT スキャナ、歯科用コーンビーム CT および 3 テスラ MRI 撮像装置を用いた精度の高い診断を歯科放射線専門医が行っている。
切らずに治す唯一の方法である口腔がんの小線源治療を大きな特色として、歯科放射線専門医、口腔放射線腫瘍認定医が、医系診療部門の放射線腫瘍医と連携しながら実施している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Atsushi Kaida, Hitomi Nojima, Masahiko Miura. Estimating Impacts of p16 Status on Tumor Radiosensitivity in Head and Neck Cancer using Predictive Models. Radiat Res. 2024.09; 202(3); 605-609

2. Takuya Nagano, Yusuke Matsuya, Atsushi Kaida, Hitomi Nojima, Takuya Furuta, Kaoru Sato, Ryoichi Yoshimura, Masahiko Miura. In vitro and in silico study of biological effects on cancer cells in the presence of metallic materials during radiotherapy. J Radiat Res. 2024.09; 65(5); 628-639

3. Shinya Kotaki, Hiroshi Watanabe, Junichiro Sakamoto, Ami Kuribayashi, Marino Araragi, Hironori Akiyama, Yoshiko Ariji. High-resolution magnetic resonance imaging of teeth and periodontal tissues using a microscopy coil. Imaging Sci Dent. 2024.09; 54(3); 276-282

4. Hitomi Nojima, Atsushi Kaida, Yusuke Matsuya, Motohiro Uo, Ryo-Ichi Yoshimura, Lior Arazi, Masahiko Miura. DNA damage response in a 2D-culture model by diffusing alpha-emitters radiation therapy (Alpha-DaRT). Sci Rep. 2024.05; 14(1); 11468

5. Supasith Yomtako, Hiroshi Watanabe, Ami Kuribayashi, Junichiro Sakamoto, Masahiko Miura. Differentiation of radicular cysts and radicular granulomas via texture analysis of multi-slice computed tomography images. Dentomaxillofac Radiol. 2024.04;

6. Iwasaki T, Harazono Y, Fukawa Y, Kaida A, Kayamori K, Sasaki Y, Harada H, Yoda T. Retrospective analysis of odontogenic myxoma and odontogenic myxofibroma in the oral and maxillofacial region: a fibrous tissue-related differentiation. The British journal of oral & maxillofacial surgery. 2024.02; 62; 464-470

7. Akiko Imaizumi, Ryoichi Hirayama, Yoko Ikoma, Nobuhiro Nitta, Takayuki Obata, Sumitaka Hasegawa. Neon ion (20 Ne10 +) charged particle beams manipulate rapid tumor reoxygenation in syngeneic mouse models. Cancer Sci. 2024.01; 115(1); 227-236

8. Tomioka, H; Nishii, N; Oikawa, Y; Kugimoto, T; Kuroshima, T; Hirai, H; Kayamori, K; Kaida, A; Miura, M; Harada, H. Clinicopathological analysis of 134 patients with squamous cell carcinoma of the mandibular gingiva HELIYON. 2024.01; 10(1); e23120

[書籍等出版物]

1. 歯科放射線学第 7 版. 医歯薬出版株式会社, 2024.03 (ISBN : 978-4-263-45681-1)
2. 中村伸, 小椋一朗　他. 歯科放射線学　第 7 版. 医師薬出版株式会社, 2024.03
3. 渡邊　裕 (共著). 歯科衛生士教育協議会. 歯科衛生学辞典 第 2 版. 永末出版, 2024.02
4. 三浦雅彦　他.　やさしくわかる放射線治療学改訂第 2 版.　学研メディカル秀潤社,　2024.02　(ISBN : 978-4-05-520052-3)
5. 岡野友宏, 渡邊　裕　他. 歯科衛生学シリーズ　歯科放射線学　第 2 版. 2024.01 (ISBN : 978-4-263-42635-7)

[総説]

1. Andy Wai Kan Yeung, Abeer AlHadidi, Rutvi Vyas, Michael M Bornstein, Hiroshi Watanabe, Ray Tanaka. Nonionizing diagnostic imaging modalities for visualizing health and pathology of periodontal and peri-implant tissues. Periodontol 2000. 2024.07;

1. 青木隆幸、上田倫弘、山城正司、柳本惣市、寺尾保信、三浦雅彦、本間義崇、中山秀樹、八木原一博、大廣洋一、伏見千宙、林信、長島文夫、太田嘉英. 高齢者に対する口腔がん診療 日本口腔腫瘍学会誌. 2024.09; 36(3); 53-62

[講演 · 口頭発表等]

1. Supasith Yomtako, Hiroshi Watanabe, Ami Kuribayashi, Junichiro Sakamoto, Masahiko Miura,. Differentiation of radicular cysts and radicular granuloma via texture analyisis of multi-slice computed tomography images. 89th Annual Meeting of the Stomatological Society 2024.12.06 Tokyo
2. Watanabe H.. Imaging of the mandibular canal. The 14th Asian Congress of Oral Maxillo-Facial Radiology 2024.06.13 Kaohsiumg, Taiwan
3. Arisa Oki, Shin Nakamura, Junichiro Sakamoto, Hiroshi Watanabe, Masahiko Miura. Relationship between Nodal Metastasis and MRI Radiomic Features in Patients with Tongue Squamous Cell Carcinoma. 2024.06.13 Taiwan, Kaohsiung
4. Watanabe H.. Image characteristics of the mandibular canal. The 40th scientific and technical conference and The 46th annual scientific conference of dental research 2024.04.02 Ho Chi Minh City, Vietnum

1. 三浦雅彦. 放射線治療における Redistribution の意義. 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024.11.23 横浜
2. 戒田篤志、野島瞳、三浦雅彦. 放射線感受性予測モデルから考える p53 変異の放射線感受性影響因子としての可能性. 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024.11.23 横浜
3. 野島瞳、戒田篤志、吉村亮一、Lior Arazi, 三浦雅彦. α 線源を用いた新規治療法 Alpha-DaRT による 2 次元培養下での DNA 損傷応答. 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024.11.23 横浜
4. 長野拓也、原口美穂子、戒田篤志、野島瞳、三浦雅彦、吉村亮一. 早期舌癌 SBRT 用の陰圧舌固定スペーサー · マーカーの探索的研究. 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会 2024.11.23 横浜
5. 木下 直哉, 野島 瞳, 布川 裕規, 及川 悠, 道 泰之, 原田 浩之. 腺様嚢胞癌症例の PET-CT による遠隔転移の予測. 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.22 横浜
6. Supasith Yomtako, 渡邊　裕, 栗林亜実, 中村伸, 今泉晶子, 富里博, 能村嘉一, 田口美晴, 三浦雅彦. 歯髄の Dynamic MRI 解析の試み. NPO 法人日本歯科放射線学会第 5 回秋季学術大会 2024.10.26 盛岡市
7. 田口美晴、中村伸、久米咲子、隠岐安利紗、能村嘉一、今泉晶子、戒田篤志、道泰之、原田浩之、三浦雅彦. 下顎骨に発生した発育性嚢胞から発生したと考えられた原発性骨内癌 NOS の 1 例. 日本歯科放射線学会第 5 回秋季学術大会 2024.10.26 盛岡
8. 今泉晶子、平山亮一、長谷川純崇、 生駒洋子、東達也、栗林亜実、三浦雅彦、小畠隆行. 2 コンパートメントモデル拡散強調 MRI による放射線照射後腫瘍の定量評価における拡散時間の影響. 第 52 回日本磁気共鳴医学会大会 2024.09.21 千葉

9. 加納嘉人、野地理夏、遠山皓基、内藤喬浩、釘本琢磨、黒嶋雄志、冨岡寛文、道泰之、藤原俊、末永光邦、中村伸、三浦雅彦、原田浩之、浜本康夫. 頭頸部癌におけるリキッドバイオプシーと腫瘍体積量に関する感度の検討. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.20 福岡

10. 三浦雅彦. 新規放射線増感剤 SQAP の開発経緯と作用機序. お茶の水 SC クラブ第 18 回学術集会 2024.09.20 東京

11. 中村伸, 栗林亜実, 隠岐安利紗, 渡邊裕, 今泉晶子, 三浦雅彦. FDG-PET の集積パラメータおよびテクスチャ解析による舌扁平上皮癌患者の頸部転移評価. 日本歯科放射学会第 31 回合同地方会 2024.08.31 新潟

12. 音成実佳 , 栗林亜実 , 松本邦史, 伊東宏和　他. 日本における変形性顎関節症の画像診断の信頼性の 検証—第 1 報：Pilot study—. 第 37 回一般社団法人日本顎関節学会総会 • 学術大会 2024.07.13 徳島

13. 小滝信也, 渡邊　裕, 坂本潤一郎, 栗林亜実, 蘭満莉乃, 秋山広徳, 有地淑子. マイクロスピーコイルを用いた歯および歯周組織の高分解能 MRI. NPO 法人日本歯科放射線学会第 64 回学術大会 2024.05.25 新潟市

14. 久米咲子, 栗林亜実, 中村伸, 大山潤, 三浦雅彦. 三叉神経痛の原因となった頭蓋内類表皮嚢胞の 1 例. NPO 法人　日本歯科放射線学会　第 64 回学術大会 2024.05.25 新潟

15. 中村伸, 栗林亜実, 渡邊裕, 田口美晴, 隠岐安利紗, 三浦雅彦. Fluid-fluid level の MRI 所見を示した顎骨病変の 7 症例. NPO 法人日本歯科放射線学会第 64 回学術大会 2024.05.25 新潟

16. 栗林亜実, 川島桜子, 中村伸, 渡邊裕, 今泉晶子, 能村嘉一, 田口美晴, 富里博, 三浦雅彦. 歯原性粘液腫の MRI 所見について. NPO 法人日本歯科放射線学会第 64 回学術大会 2024.05.25 新潟

17. 戒田篤志、野島瞳、三浦雅彦. 放射線感受性予測モデルを用いた頭頸部扁平上皮癌における p16 ステータスの放射線感受性への影響解析. 第 61 回日本放射線腫瘍学会生物部会学術大会 · 第 52 回放射線による制癌シンポジウム 2024.05.17 前橋

18. 渡邊　裕, 須藤毅顕, Yafangzhou Xu, Ze Jin, 鈴木賢治. 歯科用コーンビーム CT 検査のスモール AI 技術の活用による被ばく線量低減の実現. 東京医科歯科大学 · 東京工業大学マッチングファンド研究成果発表 · 交流会 2024.04.10 文京区

19. 三浦雅彦、田中俊明、戒田篤志、野島瞳、守矢恒司. 口腔がん線維化亢進モデル作成の試み. 東京医科歯科大学 · 東京工業大学マッチングファンド研究成果発表 · 交流会 2024.04.10 東京

20. 三浦雅彦.　放射線生物学における 5R と放射線治療.　日本放射線腫瘍学会第 14 回放射線生物学セミナー 2024.03.16 札幌

21. 三浦雅彦. 口腔がんの放射線治療. 次世代がん医療を担う多職種人材育成養成プランシンポジウム 2024.03.03 東京

22. 渡邊　裕. 放射線画像の IT 的な活用. 一般社団法人日本歯科医学教育学会歯学教育モデル · コア · カリキュラムを踏まえた調査研究班 2024.03 Web 開催

23. 戒田篤志、五十嵐由里子、野島瞳、岡田隆平、高橋亮介、三浦雅彦. 細胞周期相が EGFR 標的近赤外光線免疫療法に及ぼす影響の解析. 第 24 回菅原 · 大西記念癌治療増感シンポジウム 2024.02.18 東京

24. 三浦雅彦、伊川裕明、武者篤、戒田篤志、森川貴迪. 高齢口腔がん診療臨床的指針　高齢口腔癌患者に対する放射線治療　. 第 42 回日本口腔腫瘍学会学術大会 2024.01.26 札幌

[その他業績]

1. 東京医科歯科大学歯科同窓会 CDE 実習コース「安心安全治療のための CBCT 120%活用術」, 2024 年 07 月

2. 第一三共 「はばたく次世代」応援寄付プログラム　研究躍進コース（2024-2025 年度）, 2024 年 08 月

3. お茶の水 SC クラブ第 18 回学術集会, 2024 年 09 月
学術集会開催

[社会貢献活動]

1. 「放射線生物学」2024 医学物理士ミニマム講習会（資格認定講習） , 日本医学物理学会 · 日本医学物理士会, オンデマンド配信, 2024 年 07 月 05 日 - 2024 年 07 月 25 日

顎口腔腫瘍外科学分野

Department of Oral and Maxillofacial Surgical Oncology

教　授　原田浩之
准教授　道　泰之
講　師　津島文彦，富岡寛文
助　教　黒嶋雄志，釘本琢磨, 及川　悠，西井直人, 木下直哉
特任助教　清水六花, 小宮瑠里
大学院生　井比陽佳, 内藤喬浩, 矢富真希子, 横山達大
中山己緒, 秦　健太, 津山雄至, 蘇　郁雅, Yu Jie, 林　隼也
中野友太, 茂木祐人

(1) 分野概要

臨床

口腔、顎、顔面領域に発生するさまざまな疾患を有する患者が年間約 4,000 人初診している。その多くは歯科および医科からの紹介患者であり、歯性疾患、嚢胞、口腔粘膜疾患、外傷、顎関節疾患、良性腫瘍ならびに悪性腫瘍が中心となっている。悪性腫瘍、口腔粘膜疾患などの高い専門性と長期の経過観察が要求される疾患に関しては、専門外来を設置して口腔外科専門医が中心となって診療に当たっている。また、これらの患者に対する入院治療に関しても、その専門性を重視してグループ制をとり、高度で先進的な治療を実践している。

(2) 研究活動

研究

口腔外科で扱う疾患は多岐にわたるため、研究も多方面にわたっている。現在、当分野では主に以下の研究が行われている。

1. 口腔がんに関する研究

口腔を中心に、中咽頭、唾液腺、頸部など口腔の隣接領域に発生した悪性腫瘍の診断と治療に関する臨床的ならびに臨床応用のための基礎的な研究を行っている。

臨床的研究としては、口腔がんの治療成績の向上と機能温存を目標として、術前化学放射線同時併用療法、リンパ節転移進展例に対する術後の補助療法などの至適複合療法の開発とともに、機能温存や機能再建のための手術術式の開発に取り組んでいる。また口腔がんにおけるリンパ節転移予測因子の検証を行っている。

基礎的研究では、口腔がんの化学放射線療法感受性に関する分子生物学的解析、口腔がんの免疫プロファイリング解析、免疫チェックポイント阻害薬に対するゲノム解析などを行っている。

2. 口腔粘膜疾患に関する研究

口腔白板症、扁平苔癬等の過角化性病変や再発性アフタ、天疱瘡 · 類天疱瘡、ウイルス性口内炎などのアフタ、水疱性病変そして舌炎、色素沈着症など多岐にわたる口腔粘膜疾患を対象とし、口腔乾燥症、シェーグレン症候群を含め、粘膜疾患の専門外来を通じて診療にあたっている。臨床研究としては、難治性粘膜疾患における扁平苔癬様変化の関与や口腔白板症の癌化について病理所見との関連を解析している。基礎研究では、扁平苔癬における TCR レパトア解析、AI を用いた白板症の癌化予測などを行っている。

(3) 教育活動

教育

学部教育では、3 年次の医歯学融合教育「頭頸部臨床ブロック」および 5 年次の「顎口腔医療」を担当している。

頭頸部臨床ブロックでは眼科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科・口腔外科の総論・各論から構成され、患者参加型講義も行っている。5 年次顎口腔医療では、顔面、顎、口腔ならびにその隣接する領域の構造と機能を理解させ、この領域に現れる先天性および後天性の外科的ならびに内科的疾患について、その病因、症候、病態、診断、治療ならびに予後、予防法を理解させるとともに、その基本的な技能を修得させるべく教育を行っている。

大学院教育としては、初期臨床研修の場として、口腔外科全般にわたる基本的な診断法、治療法ならびに周術期における患者管理等を中心として、口腔外科学に関する幅広い知識を修得すべく指導を行っている。また口腔外科学に関する専門的教育を通じて、将来、広範な口腔外科の中から専門分野を選択できるような教育システムを推進している。

(4) 研究業績

[原著]

1. Tomoka Matsumura, Jun Aida, Yushi Abe, Yu Oikawa, Takeshi Kuroshima, Hiroyuki Harada, Shigeru Maeda. Obesity and postoperative flap complications in maxillofacial reconstruction surgery ORAL SURGERY ORAL MEDICINE ORAL PATHOLOGY ORAL RADIOLOGY. 2024.12; in press;

2. Mito S, Miyajima M, Tomioka H, Sato H, Takeuchi T, Muto H, Kabasawa Y, Harada H, Eguchi K, Kato S, Kano M. Postoperative Delirium Prediction Based on Preoperative Electrocardiogram and Electroencephalogram 2024 Asia Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference (APSIPA ASC). 2024.12;

3. Noji R, Tohyama K, Nakamura S, Naito T, Oikawa Y, Kuroshima T, Tomioka H, Michi Y, Ikeda S, Asakage T, Miura N, Hamamoto Y, Harada H, Kano Y. Dynamic Changes in Circulating Tumor DNA During Immunotherapy for Head and Neck Cancer: SHIZUKU-HN Study International Journal of Molecular Sciences. 2024.12; 26(1); 235

4. Hirai H, Kinoshita N, Nishii N, Oikawa Y, Kugimoto T, Kuroshima T, Tomioka H, Michi Y, Sumita Y, Tomihara K, Harada H. Treatment strategies for patients over 80 years of age with oral squamous cell carcinoma. Surgical oncology. 2024.09; 57; 102146

5. Otsuru M, Yamakawa N, Kirita T, Yamada SI, Kurita H, Kugimoto T, Harada H, Hasegawa T, Akashi M, Takeshita A, Uzawa N, Umeda M, Yanamoto S, Yamada T. Efficacy and safety of molecularly targeted agents and immune checkpoint inhibitors for unresectable or recurrent/metastatic oral cancer in Japan JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2024.07; 19(3); 1628-1637

6. Ibi H, Takahashi K, Harada H, Watabe T, Podyma-Inoue KA. Transforming growth factor-β signals promote progression of squamous cell carcinoma by inducing epithelial-mesenchymal transition and angiogenesis. Biochem Biophys Res Commun. 2024.06; 714; 149965

7. Kim CY, Takeshita Y, Kugimoto T, Harada H, Park JS, Tubbs RS, Iwanaga J. Anatomy of the Buccal Space: Surgical and Radiological Perspectives. The Journal of craniofacial surgery. 2024.06;

8. Yamaguchi K, Okumura T, Oikawa Y, Nakagawa K, Yoshimi K, Harada H, Tohara H. Effect of oral intake initiation-establishment interval on hospital stay after oral cancer surgery Oral Diseases. 2024.05;

9. Kuroshima T, Kitagawa Y, Sato J, Watanabe S, Asaka T, Abe T, Harada H, Hirata K, Kuge Y. Correction: Maximum standardized uptake value in (11)C-methionine positron emission tomography may predict the prognosis of patients with oral squamous cell carcinoma. Odontology. 2024.05;

10. Suenaga M, Yamauchi S, Morikawa R, Noji R, Kano Y, Tokunaga M, Kinugasa Y. Chemotherapy and COVID-19 Vaccination in Patients With Gastrointestinal Cancer in vivo. 2024.05; 38(3); 1278-1284

11. Iwasaki T, Harazono Y, Fukawa Y, Kaida A, Kayamori K, Sasaki Y, Harada H, Yoda T. Retrospective analysis of odontogenic myxoma and odontogenic myxofibroma in the oral and maxillofacial region: a fibrous tissue-related differentiation. The British journal of oral & maxillofacial surgery. 2024.02; 62; 464-470

12. Tomioka, H; Nishii, N; Oikawa, Y; Kugimoto, T; Kuroshima, T; Hirai, H; Kayamori, K; Kaida, A; Miura, M; Harada, H. Clinicopathological analysis of 134 patients with squamous cell carcinoma of the mandibular gingiva HELIYON. 2024.01; 10(1); e23120

13. Tokizaki S, Podyma-Inoue KA, Matsumoto T, Takahashi K, Kobayashi M, Ibi H, Uchida S, Iwabuchi S, Harada H, Hashimoto S, Miyazono K, Shirouzu M, Watabe T. Inhibition of transforming growth factor-β signals suppresses tumor formation by regulation of tumor microenvironment networks Cancer Science. 2024.01; 115(1); 211-226

1. 福田修平, 生田　稔, 吉住　結, 原田浩之. 顎骨骨折に併発した外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻の 1 例 日本口腔外科学会雑誌. 2024.12; 70(12); 520-525
2. 佐藤百合子, 木下直哉, 道　泰之, 布川裕規, 池田　通, 原田浩之. 口腔内に発症したメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の臨床病理学的検討 日本口腔外科学会雑誌. 2024.10; 70(10); 412-418

[書籍等出版物]

1. Hiroyuki Harada. Internal Medicine for Dental Treatments. Springer, 2024.02

1. 黒嶋雄志, 原田浩之. 一般臨床家、口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル'24, 別冊 the Quintessence 口腔外科 YEAR BOOK. クインテッセンス出版株式会社, 2024.08
2. 原田浩之　他. 必ず上達　歯科小手術 ここからはじめる! これならでき! テクニック. クインテッセンス出版株式会社, 2024.03
3. 津島文彦, 原田浩之. 口腔外科学 · 歯科麻酔学. 医歯薬出版株式会社, 2024.01
4. 原田浩之. 「口腔がん」リーフレット. 杉並保健所健康推進課, 2024.01

[総説]

1. Okuyama K, Yanamoto S. Saliva in Balancing Oral and Systemic Health, Oral Cancer, and Beyond: A Narrative Review Cancers. 2024.12; 16(24); 4276

1. 黒嶋雄志, 原田浩之. 口腔癌の再発を減らす切除の工夫　口腔癌の切除における介在リンパ節に対する配慮　舌癌における舌リンパ節について 日本口腔外科学会雑誌. 2024.11; 70(11); 470-475
2. 杉田好彦, 森山雅文, 津島文彦, 長谷川博雅, 河野憲司, 中村誠司, 前田初彦, 岩渕博史, 安彦善裕, 菅原由美子, 伊東大典, 川又　均, 日本口腔内科学会第二期口腔扁平苔癬ワーキンググループ. 口腔扁平苔癬研究の現況と将来の展望 日本口腔内科学会雑誌. 2024.06; 30(1); 1-12

[講演 · 口頭発表等]

1. Gong W, Taner HF, Wu Y, Li Z, Cheng W, Hu Q, Donnelly CR, Nor F, He Y, Zhai Z, Fitzsimonds ZR, Broses L, Li J, Bellile E, Okuyama K, Demehri S, Nagrath D, Wolf GT, Yu Y, Wen H, Wei L, Sikora AG, Chinn SB, Akira S, Xie Y, Moon JJ, Lei YL. Metabolic inhibition of BATF2 dampens type-I interferon-mediated immune sensing of cancer . Allison Institute Second Annual Scientific Symposium at UT MD Anderson Cancer Center 2024.10.10 Houston, Texas, USA
2. Oikawa Y, Kinoshita N, Nishii N, Shimizu R, Kugimoto T, Kuroshima T, Tomioka H, Michi Y, Harada H. Clinicopathological study of cervical lymph node metastasis in patients with oral tongue squamous cell carcinoma with depth of invasion $\leqq$ 5 mm. KAOMS2024 2024.04.11 Seoul, Korea
3. Shimizu R, Kuroshima T, Nishii N, Oikawa Y, Kugimoto T, Tomioka T, Michi Y, Harada H. Clinico-pathological study on the double cancers of oral squamous cell carcinoma and malignant lymphoma. KAOMS2024 2024.04.11 Seoul, Korea
4. Kuroshima T, Michi Y, Harada H. Prognostic factors of squamous cell carcinoma arising in maxillary gingiva.. Taiwanese Association of Oral & Maxillofacial Surgeons The 36th Annual Congress on Oral and Maxillofacial Surgery 2024.03.10 台湾
5. Kuroshima T, Michi Y, Harada H. Surgical Treatment for Superficial Oral Cancer. Taiwanese Association of Oral & Maxillofacial Surgeons The 36th Annual Congress on Oral and Maxillofacial Surgery 2024.03.10 台湾
6. Michi Y, Kuroshima T,Harada H. Surgical Treatment of Superficial Oral Cancer. Taiwanese Association of Oral & Maxillofacial Surgeons The 36th Annual Congress on Oral and Maxillofacial Surgery 2024.03.10 台湾

1. 秦　健太, 釘本琢磨, 木下直哉, 黒嶋雄志, 清水六花, 布川裕規, 石丸直澄, 原田浩之. 口底に発生した導管内癌の 1 例. 第 218 回日本口腔外科学会関東支部学術集会 2024.12.21 横浜市

2. 井比陽佳, 時崎詩織, 井上カタジナアンナ, 高橋和樹, 原田　浩之, 宮園浩平, 渡部徹郎. 口腔扁平上皮がんのがん微小環境内における TGF-β の影響. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.06 東京都文京区

3. 加島義久, 林　駿哉, 大迫利光, 原田浩之. 歯性感染症由来が疑われた Lemierre 症候群の 1 例. 第 69 回日本口腔外科学会学術集会 2024.11.24 横浜市

4. 林　駿哉, 加島義久, 小宮瑠里, 西井直人, 髙橋幸伸, 大迫利光, 原田浩之. 当科における過去 5 年間の下顎骨骨折症例に関する臨床的検討. 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.24 横浜市

5. 柳澤昇平, 富岡寛文, 原田浩之. 歯列狭窄による舌癌の発癌誘発因子の検討. 第 69 回日本口腔外科学会 · 学術大会 2024.11.23 横浜市

6. 黒嶋雄志, 清水六花, 木下直哉, 西井直人, 及川　悠, 釘本琢磨, 富岡寛文, 道　泰之, 原田浩之. 下顎骨プレート再建症例の検討. 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.22 横浜市

7. 津島文彦. 若手口腔外科医のための口腔粘膜疾患の診断と治療. 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.22 横浜市

8. 宮﨑英隆, 田中太邦, 富岡寛文, 福士宙之, 原田浩之, 朝村真一. 腓腹神経を用いたループ型神経移植法により顔面神経の動的再建を行った 1 例. 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.22 横浜市

9. 木下直哉, 野島　瞳, 布川裕規, 道　泰之, 原田浩之. 腺様嚢胞癌症例の PET-CT による遠隔転移の予測 . 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.22 横浜市

10. 布川裕規, 山本浩平, 倉田盛人, 清水六花, 西井直人, 黒嶋雄志, 道　泰之, 原田浩之, 石丸直澄. 小唾液腺に発生したアミロイド沈着を伴った Low-grade B-cell lymphoma の 3 例. 第 70 回日本病理学会秋期特別総会 2024.11.07 東京都千代田区

11. 黒嶋雄志, 大迫利光, 原田 浩之. 口腔癌におけるセンチネルリンパ節の検討. . 第 26 回 SNNS 研究会学術集会 2024.11.05 東京都中央区

12. 蘇　郁雅, 大内　崚, 朝蔭孝宏, 西井直人, 原田浩之, 東みゆき . マルチプレックス免疫蛍光染色による舌扁平上皮癌の免疫サ ブタイプ分類. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.26 福岡市

13. 釘本琢磨, 清水六花, 木下直哉, 西井直人, 及川 悠, 黒嶋雄志, 富岡寛文, 道 泰之, 布川裕規, 原田浩之. 口腔扁平上皮癌における ENE と tumor deposit に関する臨床病理学的検討. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.26 福岡市

14. Oikawa Y, Jie Y, Su Y, Nishii N, Noji R, Shimizu R, Kinoshita N, Kugimoto T, Kuroshima Y, Tomioka H, Michi Y, Azuma M, Harada H. A study of distant metastasis in patients with cT1-2N0 oral tongue squamous cell carcinoma. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.24 福岡市

15. Noji R, Tohyama K, Nakamura S, Naito T, Oikawa Y, Kuroshima T, Tomioka H, Michi Y, Miura M, Hamamoto Y, Harada H, Kano Y. Prospective Monitoring for Immunotherapy by Liquid Biopsy in Head and Neck Cancer. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.24 福岡市

16. 津島文彦. 口腔扁平苔癬様病変の診断と治療. 第 1 回関東口腔粘膜疾患研究会 2024.10.13 東京都台東区

17. 井比陽佳、井上カタジナアンナ、高橋和樹、松本武久、白水美香子、原田浩之、渡部徹郎. TGF-β シグナルは上皮間葉転換と血管新生を誘導し扁平上皮がんの進行を促進する. 会第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.19 福岡市

18. 加納嘉人, 野地理夏, 遠山皓基, 内藤喬浩, 釘本琢磨, 黒嶋雄志, 富岡寛文, 道　泰之, 藤原　俊, 末永光邦, 中村　伸, 三浦雅彦, 原田浩之, 浜本康夫. 頭頸部癌におけるリキッドバイオプシーと腫瘍体積量に関する感度の検討. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.19 福岡市

19. 原田浩之. 根治的頸部郭清術変法、上顎部分切除 · 亜全摘. 第 17 回日本口腔外科学会キャダバーサージカルトレーニング 2024.09.15 札幌市

20. 原田浩之. 口腔がんと口腔粘膜疾患の診るポイント. セコメディック病院医療連携会 2024.08.04 船橋市

21. 原田浩之. 口腔癌ー最近の知見ー. 第 40 回奈良県頭頸部腫瘍研究会 2024.07.27 奈良市

22. 蘇　郁雅,　大内　崚,　西井直人,　津島文彦,　原田浩之,　東みゆき . 網状型とびらん型口腔扁平苔癬に浸潤する CD8+ T 細胞の性状の相違. 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2024.07.20 東京都文京区

23. 清水六花, 黒嶋雄志, 西井直人, 及川　悠, 釘本琢磨, 富岡寛文, 道　泰之, 原田浩之. 口腔扁平上皮癌と悪性リンパ腫の重複癌に関する臨床病理学的検討. 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2024.07.20 東京都文京区

24. 内沼琴美，脇田　亮，木下直哉，清水六花，原田浩之，前田　茂. 口腔外科手術における気管切開後気管狭窄：症例報告および関連する要因の後方視的検討. 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2024.07.20 東京都文京区

25. 富岡寛文, 清水六花，木下直哉，西井直人, 及川 悠, 釘本琢磨, 黒嶋雄志, 道 泰之, 原田浩之. 口腔扁平上皮癌における皮膚合併切除例の検討. 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2024.07.19 東京都文京区

26. 時崎詩織, 井上カタジナアンナ, 高橋和樹, 小林美穂, 松本武久, 白水　美香子, 内田 靖哉, 岩淵禎弘, 橋本真一, 原田浩之, 宮園浩平, 渡部徹郎. TGF-β シグナルの阻害はがん微小環境ネットワークを 制御することで腫瘍形成を抑制する. 第 49 回日本頭頸部癌学会 2024.06.20 浜松市

27. 大山厳雄, 稲葉好則, 道泰之, 長谷川和樹. 頬粘膜癌に対し全層植皮を行った症例の臨床的検討. 第 48 回日本頭頸部癌学会総会 · 学術講演会 2024.06.20 浜松市

28. 原口美穂子, 立川敬子, 道泰之, 原田浩之, 隅田由香, 服部麻里子, 村瀬舞. 頭頚部腫瘍術後患者における広範囲支持型補綴治療後の咀嚼機能評価. 第 48 回日本頭頸部癌学会総会 · 学術講演会 2024.06.20 浜松市

29. 野地理夏, 遠山皓基, 内藤喬浩, 及川　悠, 黒嶋雄志, 富岡寛文, 道 泰之, 中村伸, 三浦雅彦, 原田浩之. 頭頸部扁平上皮癌に対する血漿循環腫瘍 DNA 解析における遺伝子変異検出感度の検討. 若手口腔外科医交流会第 2 回学術集会 2024.05.11 盛岡市

30. 西井直人, 大迫利光, 津島文彦, 原田浩之. 口腔扁平苔癬における T 細胞受容体レパトア解析. 第 48 回頭頸部癌学会 2024.05.01

31. 原田浩之. 骨修飾薬投与における医科歯科連携〜顎骨壊死予防をめざして〜. 令和 5 年度第 2 回文京区歯科医師会学術講演会 2024.03.27 東京都文京区

32. Su Y, Ouchi R, Daroonpan P, Nishii N, Harada H, Ikeda T, Aida J, Azuma M. Personal immune profiles of oral tongue squamous cell carcinoma -Part 1: Analyses of 87 cases of surgical specimens and immune subtype classification-. The 1st International Symposium on Cancer Immunology and Immunotherapy 2024.03.23 札幌市

33. 髙坂　光，吉住　結，中田三栄子，原田浩之，生田　稔. 抗 NMDA 受容体脳炎患者のオーラルジスキネジアに対しハードスプリント装着で対応した 1 例. 第 33 回日本有病者歯科医療学会総会 · 学術大会 2024.03.09 新潟市

34. 伊藤孝哉, 道泰之. 本院歯科における針刺し · 切創に関する事例の検討. 第 33 回日本有病者歯科医療学会総会 · 学術大会 2024.03.08 新潟市

35. 布川裕規, 栢森　高, 加島義久, 黒嶋雄志, 原田浩之, 池田　通. 特異な所見を呈した硬化性歯原性癌の一例. 第 113 回日本病理学会総会 日本病理学会 2024.02.01 名古屋市

36. 釘本琢磨, 長谷川巧実, 明石昌也, 新山 宗, 上田倫弘, 原田浩之. cN0 口腔扁平上皮癌における Level IIB 転移例の臨床病理学的検討. 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会 · 学術大会 2024.01.26 札幌市

37. 内藤喬浩, 藤原　俊, 野地理夏, 釘本琢磨, 黒嶋雄志, 富岡寛文, 末永光邦, 原田浩之, 加納嘉人. 頭頸部腺様嚢胞癌における免疫療法の有効性と包括的ゲノムプロファイリングの臨床的解析. 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会 · 学術大会 2024.01.26 札幌市

38. 黒嶋雄志, 原田浩之. 当科における下顎再建. 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会 · 学術大会 2024.01.25 札幌市

39. 原田浩之. 口腔腫瘍切除後の下顎再建. 第 25 回日本先進インプラント学術大会 2024.01.15 東京都千代田区

[受賞]

1. 日本歯科保存学会認定医優秀症例発表賞, 2024 年 11 月

歯科麻酔学分野

Department of Dental Anesthesiology

教授：前田　茂
准教授：脇田　亮
講師：松村朋香
助教：馬場有希子、山﨑陽子、伊藤孝哉
特任助教：河内亜希，井村紘子, 栗栖諒子
医員：安部勇志、長谷川真巳、久家章宏、坂元麻耶、千葉真子、沓水千尋、池田七菜子、山原えりか
大学院生：阿部桂子、内沼琴美、内海　希，　横山実希，中山　歩、冨永光莉、石井麻未
大学院研究生：楠　英将、杉田紘一、仲村麻奈、山田　聡

(1)　分野概要

当分野は歯科麻酔学と口腔顔面痛制御学の両者を担当する。臨床業務では，年間の麻酔管理症例数が全身麻酔約1000 例，鎮静法 1800 例であり，国公立大学の中では圧倒的な数の麻酔管理を行っている。口腔外科手術は悪性腫瘍と外科的矯正手術の他に，歯科医院では困難な埋伏歯の抜歯などが中心であり，当分野では集中治療部と協力して業務に当たっている。外来では鎮静法の他に，小児や障害児（者）の集中歯科治療や，埋伏歯抜歯を目的とした日帰り全身麻酔を年間約 200 例行なっている。鎮静法を行う目的はインプラント関連手術や口腔外科手術が中心であるが，口腔顔面痛制御学は，全国的にも多くない専門診療科を有し，ペインクリニックの専従スタッフにより業務が行われている。
歯科麻酔学に関わる領域では，安全で苦痛が少ない歯科治療が受けられることを目的としている。教育では局所麻酔，全身麻酔，鎮静法，モニタリングについて講義と実習を行う。また，上記の目的を達成するための基礎ならびに臨床的な研究を行っている。

(2)　研究活動

1) 顎顔面領域での神経障害性疼痛の病因と治療法について
2) 新しい局所麻酔薬の開発
3) 精神鎮静法の満足度を高めるための管理方法について
4) 周術期脳虚血の病態の解明
5) 外科的矯正手術に対する麻酔管理の質的向上に向けての研究

(3)　教育活動

当分野の教育目的は日常の歯科診療で必要な局所麻酔の他に，専門的な麻酔管理としての鎮静法と全身麻酔，合併症を有する患者の全身管理，顎顔面痛治療についての主に知識と基本的な技術を授けることにある。講義は歯科麻酔に関わる事項（全身麻酔，局所麻酔，鎮静法，心肺蘇生法）の他にペインクリニックに関わる事柄を担当している。全身麻酔の項では学生は呼吸，循環の生理，吸入麻酔薬，静脈麻酔薬，筋弛緩薬の薬理作用とメカニズムを学ぶ。鎮静法は全身麻酔との違いを中心に学習する。救命処置については，一次救命処置だけでなく，心肺蘇生訓練システムを用いて 2 次救命処置に関わる実習も行なっている。ペインクリニックでは神経科学の一つの領域として，生理学および薬理学を基礎に指導している。

(4) 教育方針

歯科麻酔という領域の専門性は安全で苦痛のない歯科医療を提供することにある。そのために患者の健康状態についての情報収集とその評価を行うが，このことは麻酔薬の投与にかかわらず歯科医療の前提として重要な要件である。学部学生にはこのような患者の評価の重要性を強調している。また歯科医師が麻酔管理を行うことの意味について，学生とともに考えるようにしている。大学院では基礎的および臨床的な研究手法と考え方を学ぶことが最大の目的と考えており，卒業後は研究費の獲得とめざしてもらい，教員候補として臨床，研究，教育に携わってもらう。

(5) 臨床活動および学外活動

口腔外科手術は悪性腫瘍と外科的矯正手術の他に，歯科医院では困難な埋伏歯の抜歯などが中心であり，当分野では集中治療部および麻酔科と協力して業務に当たっている。外来では鎮静法の他に，小児の集中歯科治療や，埋伏歯抜歯を目的とした日帰り全身麻酔を年間 150 例ほど行なっている。鎮静法を行う目的はインプラント関連手術や口腔外科手術が中心であるが，口腔顔面痛制御学は，全国的にも多くない専門診療科を有し，ペインクリニックの専従スタッフにより業務が行われている。また，月平均数例発生する本院の緊急事態に速やかに対応し，必要に応じて，医学部附属病院の ER との連携を図っている。ペインクリニックと顎関節治療部は全国でも数少ない専従スタッフによる専門外来となっており，院内院外からの紹介患者を受け入れている。ペインクリニックでは神経障害性疼痛や三叉神経痛などを主な対象疾患としており，投薬と神経ブロック，また東洋医学的治療や物理療法を取り入れて集学的な治療を行っている。

(6) 臨床上の特色

中央手術室では，あらゆる口腔外科手術に対し全身麻酔をはじめとした適切な管理を提供している．長時間手術に対しては ICU と連携して術後管理を行なっている。外来では，智歯などの抜歯やインプラント手術に対して，静脈内鎮静法を行い，安全でストレスの少ない歯科治療が行えるようにしている。また歯科治療に対して恐怖心が強い患者や，知的障害などのために通常では診療が受けられない患者に対して，全身麻酔および静脈内鎮静法による麻酔管理を行っている。歯科ペインクリニック外来では，顎口腔顔面領域のあらゆる疼痛，異常感覚，神経麻痺等に対して投薬，理学療法，東洋医学的また心身医学療法を取り入れた全人的医療を行っている，

(7) 研究業績

[原著]

1. Tomoka Matsumura, Jun Aida, Yushi Abe, Yu Oikawa, Takeshi Kuroshima, Hiroyuki Harada, Shigeru Maeda. Obesity and postoperative flap complications in maxillofacial reconstruction surgery ORAL SURGERY ORAL MEDICINE ORAL PATHOLOGY ORAL RADIOLOGY. 2024.12; in press;

2. Baba Y, Sato Y, Takahashi K, Ito T, Wakita R, Maeda S. Allergic clinical symptoms and distribution of stimulation index of drug lymphocyte stimulation test for local anesthetics. Oral and maxillofacial surgery. 2024.11; 29(1); 5

3. Wakita, R; Aida, J; Baba, Y; Utsumi, N; Nakayama, A; Maeda, S. Transient bradycardia during local anaesthesia to the oral cavity under intravenous sedation and its associate factors: a prospective observational study BMC ORAL HEALTH. 2024.10; 24(1); 1165

4. Tomoka Matsumura, Shigeru Maeda, Tsutomu Iwamoto, Takehiko Iiijma. Differences in perception of general anesthesia for pediatric dental treatment between pediatric dentists and dental anesthesiologists in Japan Pediatric Dental Journal. 2024.07;

5. Hitoshi Higuchi, Kota Miyake, Saki Miyake, Maki Fujimoto, Yukiko Nishioka, Shigeru Maeda, Takuya Miyawaki. Optimising the oral midazolam dose for premedication in people with intellectual disabilities and/or autism spectrum disorder Journal of Applied Research in intellectual Disabilities. 2024.06; 37(4); e13265

6. Wakita R, Kusumoto Y, Shinozuka O, Tokyo Metropolitan Hachinan Dental Association, Fukayama H, Maeda S. Dental findings and intravenous sedation in a patient with Potocki-Lupski syndrome: A case report. Special care in dentistry : official publication of the American Association of Hospital Dentists, the Academy of Dentistry for the Handicapped, and the American Society for Geriatric Dentistry. 2024.05;

7. Three Cases of Persistent Laryngeal Edema Postradiation Therapy. 2024.05; 71(1); 24-28

8. Asano Sayaka, Hirotoshi Yamamoto, Shigeru Maeda. Factors Affecting Intraoperative Blood Loss in Orthognathic Surgery: A Monocentric Retrospective Study The Journal of the Stomatological Society, Japan. 2024.03; 91(1); 29-34

9. Saki Okabe, Yasuhiro Nakagawa, Yu Sato, Ryo Wakita, Shigeru Maeda, Toshiyuki Ikoma. Preparation and Drug Release Properties of Poly(lactic-co-glycolic acid) Microparticles Co-encapsulating Dual Drugs, Lidocaine and Capsaicin The Journal of the Stomatological Society, Japan. 2024.03; 91(1); 35-46

10. Shigeru Maeda, Atiphan Pimkhaokham, Michihiro Yoshida, Hiroki Hosoi, Ayako Ohshima, Ryoko Kurisu, Nozomi Utsumi, Hitoshi Higuchi, Takuya Miyawaki. Retrospective Analysis of the Safety of High-Volume Dental Articaine Preparations for Japanese Patients Acta Medica Okayama. 2024;

1. 鈴木 千裕, 松村 朋香, 池田 七菜子, 千葉 真子, 前田 茂. 超低体重で出生し片側声帯麻痺を有する小児に対する日帰り全身麻酔経験 日本歯科麻酔学会雑誌. 2024.07; 52(3); 158-161

2. 井村紘子，山﨑陽子，坂元麻弥，栗栖諒子，川島正人，前田 茂. 下顎智歯抜歯後の舌神経麻痺に対する治療の一例 日本校区顔面痛学会雑誌. 2024.03; 16(1); 65-69

3. 井村 紘子, 山崎 陽子, 坂元 麻弥, 栗栖 諒子, 川島 正人, 前田 茂. 下顎智歯抜歯後の舌神経麻痺に対する治療の一例 日本口腔顔面痛学会雑誌. 2024.03; 16(1); 65-69

[総説]

1. 山崎 陽子. Dd　歯の痛みセミナー　患者の「痛い」を理解する臨床診断推論のすすめ (後編)　神経の障害が引き起こす歯痛 DENTAL DIAMOND. 2024.05; 49(7); 59-63

[講演 · 口頭発表等]

1. Shigeru MAEDA. What makes us select the anesthetic method in the case?. IADH (international association of disability and oral health) 2024.09.29 Seoul

2. Ryoko Kurisu, Yoko Yamazaki, Shigeru Maeda. Involvement of Lysophosphatidic acid in mechanical allodynia in neuropathic pain of orofacial region. IASP 2024 World Congress on Pain 2024.08.06 Amsterdam

3. Ryoko KURISU, Yoko YAMAZAKI, Shigeru MAEDA. Involvement of Lysophosphatidic acid in mechanical allodynia in neuropathic pain of orofacial region. IASP 20th World congress on Pain 2024.08.06 Amsterdam

1. 内沼琴美、山﨑陽子，前田 茂. 三叉神経領域の神経障害性疼痛患者におけるミロガバリンの治療効果についての観察研究. 第 89 回口腔病学会 2024.12.07 東京

2. 内海　希、田中大介、中井彩加、前田　茂、上阪直史. 全身麻酔薬による意識消失作用における小脳プルキンエ細胞の役割. 第 89 回口腔病学会 2024.12.07 東京

3. 坂元麻弥、山﨑陽子，井村紘子、栗栖諒子、前田 茂. 歯科を受診した群発頭痛の一症例. 第 89 回口腔病学会 2024.12.07 東京

4. 長谷川真巳、千葉真子、伊藤孝哉、仲村麻奈、楠本康香、岩渕佑介、脇田　亮，前田 茂. 知的能力障害を伴う病的肥満患者に対する前静脈麻酔による全身麻酔経験の一症例. 第 52 回日本歯科麻酔学会 2024.10.27 新潟

5. 栗栖諒子，山﨑陽子，前田 茂. 口腔顔面領域の神経障害性疼痛における三叉神経節内のリゾホスファチジル酸 (LPA) の関与. 第 52 回日本歯科麻酔学会 2024.10.26 新潟

6. 杉田紘一、伊藤孝哉、中山　歩、池田七菜子、河内亜希、松村朋香，前田 茂. 静脈内鎮静法下での歯科治療中の共通発作を契機に発見された微小血管狭心症の 1 例. 第 52 回日本歯科麻酔学会 2024.10.26 新潟

7. 内沼琴美，山﨑陽子，前田 茂. 三叉神経領域の神経障害性疼痛患者におけるミロガバリンの治療効果との関連要因についての観察研究. 第 52 回日本歯科麻酔学会 2024.10.26 新潟
8. 山﨑陽子，坂元麻弥、井村紘子、栗栖諒子、冨永光莉、前田 茂. 漢方薬を使用した顎骨骨髄炎患者の症例集積研究. 第 52 回日本歯科麻酔学会 2024.10.26 新潟
9. 久家章宏、佐藤　裕、安部勇志、伊藤孝哉、馬場有希子、松村朋香、脇田　亮，前田 茂. 歯科麻酔外来で静脈内鎮静法を行なった患者への満足度調査. 第 52 回日本歯科麻酔学会 2024.10.26 新潟
10. 石井麻未、伊藤孝哉、冨永光莉、横山実希、栗栖諒子、安部勇志、脇田　亮，前田 茂. 先天性表皮水疱症患者に対する癌再建術の長時間全身麻酔管理症例. 第 52 回日本歯科麻酔学会 2024.10.26 新潟
11. 久家 章宏, 佐藤 裕, 安部 勇志, 伊藤 孝哉, 馬場 有希子, 松村 朋香, 脇田 亮, 前田 茂. 歯科麻酔外来で静脈内鎮静法を行った患者への満足度調査. 日本歯科麻酔学会雑誌 2024.09.01
12. 杉田 紘一, 伊藤 孝哉, 中山 歩, 池田 七菜子, 河内 亜希, 松村 朋香, 前田 茂. 静脈内鎮静法下での歯科治療中の胸痛発作を契機に発見された微小血管狭心症の 1 例. 日本歯科麻酔学会雑誌 2024.09.01
13. 内沼琴美，脇田　亮，木下直哉，清水六花，原田浩之，前田　茂. 口腔外科手術における気管切開後気管狭窄：症例報告および関連する要因の後方視的検討. 日本口腔科学学会 2024.07.20 東京
14. 楠 英将、山﨑 陽子、川島 正人、坂元 麻弥、井村 紘子、栗栖 諒子、嶋田 昌彦，前田茂. 舌の痛みの改善に漢方が有効であった一例. 第 36 回日本疼痛漢方研究会学術集会 2024.07.06 東京
15. 石井麻未，松村朋香，池田七菜子，杉田紘一，仲村麻奈，前田　茂. 先天性筋強直性ジストロフィー患者の歯科治療時の全身麻酔導入にミダゾラム経口投与が有効であった一症例. 第 40 回関東臨床歯科麻酔懇話会 2024.06.15 東京
16. 山﨑　陽子. 歯科領域における神経障害性疼痛. 文京区歯科医師会令和 5 年度第 2 回学術講演会 2024.03.27

小児歯科学・障害者歯科学分野

Department of Pediatric Dentistry / Special Needs Dentistry

教授　岩本勉

講師　柿野聡子

助教　楠本康香、和田奏絵、大石敦之、杉本明日菜

医員　岩田こころ、黒厚子璃佳、内藤悠、井上佳怜（-3 月）、
小樋香織（-3 月）、髙橋玄（-3 月）、豊村友賀、平和田智佳、
山木奏（-3 月）、武永嶺（4 月-）、新田瑠璃子（5 月-）、
岩淵佑介、為永里紗（-3 月）、真藤裕基、相馬千紘（4 月-）、矢野真柚子（4 月-）

大学院生　大木宏晃、田中眞実、中島結美子、山中柚衣香、浜島美咲、
北市裕大（4 月-）、Muhammad Dhiaulfikri Nauval Hadiana（4 月-）

大学院研究生　武永嶺（-3 月）、新田瑠璃子（-4 月）、李朝、申侑定

大学院特別研究生　星合愛子

非常勤講師　松原龍、高橋昌司、Asiri Jayawardena、松村木綿子、関矢多希、
三浦謙一、土橋なつみ（-3 月）、長弘茂樹（4 月-）、小樋香織（4 月-）
稲田　穣、木下陽介、桜井誠治、篠塚修、
鈴木朋、中村盛幸、星合泰治、相田貴絵

(1)　分野概要

小児歯科学分野は 1956 年 5 月に本邦初の小児歯科学講座として発足し，我が国における日本の小児歯科医療・教育・研究を牽引してきた伝統ある教室である。小児期の健全な口腔育成に必要な発育支援とその過程で生じる疾患や問題に対する診断・治療・予防に関する教育・研究を行う臨床歯学を実践してきた。障害者歯科学分野は，1982 年に障害者歯科治療部を出発点とし発足し，1987 年に歯学部附属病院顎口腔機能治療部と統合し障害者歯科学講座となり，1999 年に障害者歯科学分野となった。小児から成人まで，障害のある方，病気により特別な対応が必要な方の歯科診療を行ってきた。それぞれ小児歯科外来，スペシャルケア外来を構える。2020 年より，定型発達児，障害児，有病児等の隔てなく，小児の口腔疾患全般に関する教育・研究・診療体制の再編を目的として両分野が統合された。

(2)　研究活動

研究テーマとして，
（1）歯および顎顔面の発生メカニズムの解明
歯および顎顔面の発生過程の理解は小児歯科臨床を実践する上で必須の知識である。しかしながら未だに発生過程で働く遺伝子や分子間相互作用の機構について不明な点が多い。再生医療が次世代の医療と期待されている今日，歯の再生は究極の歯科治療の 1 つとなる。再生医療は幹細胞を用いる方法と人為的に作られた再生器官に置換する方法があるが，これらを最終ゴールとして，発生メカニズムの理解と，幹細胞の応用方法，再生器官作成法

の開発を目指す。
（2）小児の歯と歯髄の診査法・診断・治療法の開発
乳歯および幼若永久歯の歯内療法学と外傷歯科学は，歯根吸収や歯根形成など成長発育への理解が求められる。このような観点で乳歯および幼若永久歯に望ましい歯内療法，歯髄再生療法を研究する。さらに，歯髄血流測定による非侵襲的・定量的歯髄診断法の開発を目指す。
（3）小児の顎・口腔機能に関する研究
口腔は，話す，食べる，呼吸するといった生命活動にとって極めて重要な器官である。これらの機能の獲得・熟達の過程についての理解とその機構を解明し，正常な発達過程へ導く支援方法の開発を目指す。
（4）新規齲蝕予防法および修復法の開発
100 年後を意識した新たな歯質強化法，口腔清掃手段，歯科修復材料を創造していく。また，口腔バイオフィルムの生成メカニズムの解明とその除去法の開発を目指す。
（5）障害者の口腔内環境と歯科治療
障害者の口腔状態は形態的，機能的にさまざまな特徴があり，さらに合併症を伴っていることが多く歯科治療が困難なこともあるため健常者より歯科疾患の予防が重要となる。そこで，染色体異常，自己免疫疾患，その他疾患に関連した口腔内環境への影響因子を検索し，より有効な口腔内管理について検討する。
（6）身体障害児・者への口腔保持型自助具の設計・製作
安定した顎位を失っていることの多い脳性麻痺の患者に対し，顎顔面補綴学分野の知識を応用し口腔保持型自助具の設計・製作について。患者及び介助者による取扱の簡便さを追求した開発を目指す。

(3) 教育活動

担当科目：小児歯科学，口腔小児医学，障害者歯科学，障害と歯科医療

(4) 教育方針

生命誕生の発生過程の胎児期から，小児期，そして成人に至るまでのそれぞれの発育段階の理解と，その過程で生じる疾患や障害に対する理解を通して，口腔領域の健康の維持・増進に必要な診断法ならびに治療法，予防法，そして継続的な健康管理方法について，その理論と実践能力を修得させる。また，成育過程における社会や家庭などの児を取り巻く環境問題についても理解を深め，全人的医療を実践できる医療人育成を目指す。さらに，障害者歯科学，有病者歯科学についても理解を深め，将来予想されるさまざまな歯科医療状況に対応できる人材育成を目指す。

(5) 臨床活動および学外活動

歯学部附属病院において，小児歯科ならびに障害者歯科を担う。
岩本　勉：日本小児歯科学会専門医・専門医指導医，日本小児歯科学会常務理事 、
日本口蓋裂学会・認定師（小児歯科分野）
柿野　聡子：日本小児歯科学会専門医・専門医指導医
楠本　康香：日本障害者歯科学会認定医・認定医指導医・専門医
和田　奏絵：日本小児歯科学会専門医・専門医指導医，日本障害者歯科学会認定医
大石　敦之：日本小児歯科学会専門医・専門医指導医
杉本　明日菜：日本小児歯科学会専門医，日本障害者歯科学会認定医
星合　泰治：日本障害者歯科学会認定医，日本顎顔面補綴学会認定医
長弘　茂樹：日本小児歯科学会専門医
小樋　香織：日本小児歯科学会専門医
岩淵　佑介：日本障害者歯科学会認定医
真藤　裕基：日本障害者歯科学会認定医
岩田　こころ：日本小児歯科学会専門医
黒厚子　璃佳：日本小児歯科学会専門医
内藤　悠：日本小児歯科学会専門医

(6) 臨床上の特色

生涯を心身ともに健やかに過ごすために，小児期に健康意識，健康行動，口腔健康増進を育むことが大切になる。当科では，新生児期から成人になるまでの健康児，障害児，および有病児，すなわちすべての小児を対象に，下記の診療内容と育児支援を行っている。小児の歯科治療不安や恐怖を，小児の行動科学に基づき予防・軽減し診

療を実施している。また，医学部附属病院との連携医療として、小児科病棟入院患者の口腔ケアや周術期管理も充実させ，オンライン診療の導入も進めている。周産女性診療科のマタニティクラスにおいては，妊婦や乳幼児への口腔ケア方法等の歯科指導を行っている。また，身体的，精神的，医学的，情緒的およびこれらの重複した障害のために，歯科医療上，通法治療に困難を伴う患者に適切な行動調整および全身管理を行いつつ，長期の口腔管理と咀嚼能力の改善を図る取り組みを行っている。種々の先天的，後天的な障害を有する患者に対しては成人後もライフステージに応じて顎口腔領域に後遺した機能的，形態的障害の再建 · 回復並びに長期にわたる保存を図ることを目的とする。

主な診療内容
1）う蝕 · 歯周疾患の予防 · 治療 · 管理
2）歯列 · 咬合育成
3）小児の歯 · 口腔の外傷処置
4）小児の顎関節症の治療
5）埋伏過剰歯 · 歯牙腫 · 含歯性嚢胞 · 粘液嚢胞などの摘出、
上唇小帯 · 舌小帯の伸展術などの外科的治療
6）成長発達期の口腔筋機能訓練
7）欠損歯の補綴

(7) 研究業績

[原著]

1. Manami Tanaka, Asuna Sugimoto, Kokoro Iwata, Yumiko Nakashima, Muhammad Dhiaulfikri Nauval Hadiana, Yusuke Iwabuchi, Kanae Wada, Atsushi Oishi, Tsutomu Iwamoto. Prrx2, the paired-related homeobox transcription factor, functions as a potential regulator of pannexin 3 expression in odontoblast differentiation. J Oral Biosci. 2024.12; 100601

2. Wada K, Wada J, Uctasli MB, Uctasli S, Yavuz Y, Iwamoto T, Vallittu PK, Garoushi S, Lassila L. Impact of restorative material on fracture behaviors of class II restoration in endodontically treated deciduous molars. Dental materials journal. 2024.08;

3. Wakita R, Kusumoto Y, Shinozuka O, Tokyo Metropolitan Hachinan Dental Association, Fukayama H, Maeda S. Dental findings and intravenous sedation in a patient with Potocki-Lupski syndrome: A case report. Special care in dentistry : official publication of the American Association of Hospital Dentists, the Academy of Dentistry for the Handicapped, and the American Society for Geriatric Dentistry. 2024.05;

4. Lippo Lassila, Mine B. Uctasli, Kanae Wada, Pekka K. Vallittu, and Sufyan Garoushi. Effect of different beverages and polishing techniques on colour stability of CAD/CAM composite restorative materials. Biomaterial Investigations in Dentistry. 2024.04; 11; 34-41

5. Junichiro Wada, Paulina Heponiemi, Kanae Wada, Sufyan Garoushi, Noriyuki Wakabayashi, Tsutomu Iwamoto, Pekka K. Vallittu, Lippo Lassila. Effect of ethylene oxide unit number in bis-EMA on the physical properties of additive-manufactured occlusal splint material Journal of Prosthodontic Research. 2024.01;

1. 高石和美、杉本明日菜、北村尚正、前尾　慶、藤原茂樹、西川美佳、藤田創詩、岩本　勉、川人伸次. 先天性 QT 延長症候群３型患者に対し歯科治療時の全身管理を行った 1 例 2024.10; 45(3); 165-171

2. 柿野 聡子. 【外傷歯のアプローチ】初診時の診断と対応、予後の観察について 小児歯科臨床. 2024.06; 29(6); 6-15

3. 倉重 圭史, 土岐 志麻, 鈴木 広幸, 田中 克明, 村井 雄司, 石通 宏行, 柿野 聡子, 桑原 康生, 近藤 有紀, 榊原 さや夏, 佐野 正之, 鈴木 淳司, 中村 由紀, 星川 聖良, 蓑輪 映里佳, 湯浅 健司, 苅部 洋行, 早崎 治明, 朝田 芳信, 齊藤 正人. 口腔機能発達不全症の管理指導におけるオンライン診療に対する評価 小児歯科学雑誌. 2024.06; 62(2); 44-52

[書籍等出版物]

1. 柿野聡子. 【外傷歯のアプローチ】初診時の診断と対応、予後の観察について. 東京臨床出版 (株), 2024.06

[総説]

1. Sugimoto Asuna, Iwata Kokoro, Muhammad Dhiaulfikri Nauval Hadiana, Iwamoto Tsutomu. Biological Roles of Mechanosensitive Ion Channels in Mesenchymal Stem Cells The Journal of the Stomatological Society, Japan. 2024.11; 91(2,3); 93-101

[講演・口頭発表等]

1. Wada J, Wada K, Gibreel M, Garoushi S, Wakabayashi N, Iwamoto T, Vallittu PK, Lassila L. Adhesion of Streptococcus mutans to additive-manufactured occlusal splint materials. The 72nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental, Oral, and Craniofacial Research 2024.11.17 Kagoshima

2. Satoko Kakino, Yuko Matsumura, Hiroaki Ohki, Zhao Li, Tsutomu Iwamoto. Measurement of pulpal circulation after traction of inversely impacted maxillary young permanent incisors using TLP . The 13th BIENNIAL CONGRESS OF THE PEDIATRIC DENTISTRY ASSOCIATION OF ASIA 2024.11.01 Bangkok, Thailand

3. Yoshihito Yamakawa, Kimiko Ueda, Yuki Akazawa, Tomokazu Hasegawa, Yumiko Nakashima, Kokoro Iwata, Asuna Sugimoto, Tomonori Iwasaki, Tsutomu Iwamoto. Analysis of FBS components to find and identify factor that promotes cell differentiation in dental epithelial cells. The 13 th BIENNIAL CONGRESS OF THE PEDIATRIC DENTISTRY ASSOCIATION OF ASIA 2024.10.30 Bankok

4. Satoko Kakino, Hiroaki Ohki, Zhao Li, Yuko Matsumura, Tsutomu Iwamoto. Six-year follow-up with CBCT and pulpal circulation measured by TLP after horizontal root fracture in a young permanent upper central incisor . The 22nd World Congress on Dental Traumatology 2024.07.14 Tokyo

1. 平和田 智佳, 岩淵 佑介, 楠本 康香, 杉本 明日菜, 真藤 裕基, 相馬 千紘, 矢野 真柚子, 岩本 勉. Hallermann-Streiff 症候群患者の歯科治療の 1 症例. 第 41 回公益社団法人日本障害者歯科学会総会および学術大会 2024.12.14 沖縄

2. 真藤 裕基, 杉本 明日菜, 岩淵 佑介, 楠本 康香, 千葉 真子, 伊藤 孝哉, 脇田 亮, 青木 紫乃, 市川 怜那, 前田 茂, 岩本 勉. 永久気管孔のある重症心身障害者に対して全身麻酔下に歯科治療を行った 1 症例. 第 41 回日本障害者歯科学会総会および学術大会 2024.12.14

3. 岩淵 佑介，星合 泰治，杉本 明日菜，真藤 裕基，平和田 智佳，楠本 康香，相田 貴絵，鈴木 朋，渡邊 麻里子，星合 愛子，相馬 千紘，矢野 真柚子，篠塚 修，佐川 かおり，岩本 勉. SATB2 関連症候群患者に対する口腔管理を行った 1 例. 第 41 回公益社団法人日本障害者歯科学会総会および学術大会 2024.12.14 沖縄

4. 真藤裕基, 中村卓史, 楠本康香, 岩本 勉. 発生機唾液腺における副交感神経による筋上皮細胞の分化誘導機構の解明. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.07

5. 和田奏絵. 妊婦と生まれてくる子どものお口の健康をはぐくむ. 令和 6 年度文京区妊婦歯周疾患検診研修会（小石川歯科医師会・文京区歯科医師会合同研修会） 2024.12.03 文京区シビックセンター

6. 杉本明日菜、Muhammad Dhiaulfikri Nauval Hadiana、岩田こころ、黒厚子璃佳、中島結美子、田中眞実、岩本　勉. PIEZO1 を介した骨髄由来間葉系幹細胞の骨芽細胞分化促進における R-Ras 結合領域の役割解明. 第 47 回日本分子生物学会年会 2024.11.28

7. 柿野聡子. 子どもの口腔機能発達不全症への対応 —評価と治療の実際—. 東京医科歯科大学歯科同窓会練馬支部令和 6 年度学術講演会 2024.11.13 オンライン

8. 長谷川真巳、千葉真子、伊藤孝哉、仲村麻奈、楠本康香、岩渕佑介、脇田　亮，前田 茂. 知的能力障害を伴う病的肥満患者に対する前静脈麻酔による全身麻酔経験の一症例. 第 52 回日本歯科麻酔学会 2024.10.27 新潟

9. 田中眞実、岩田こころ、杉本明日菜、中島結美子、岩本　勉. 歯の発生過程における paied related homeobox2 の発現および機能解析. 第 39 回日本小児歯科学会関東地方会大会 2024.10.06 府中市

10. 柿野聡子. 透過型光電脈波測定を応用した外傷歯の歯髄診断法の開発. LIFE2024 2024.09.14 東京

11. 長谷川 真巳, 千葉 真子, 伊藤 孝哉, 仲村 麻奈, 楠本 康香, 岩淵 佑介, 脇田 亮, 前田 茂. 知的能力障害を伴う病的肥満患者に対する全静脈麻酔による全身麻酔経験の一症例. 日本歯科麻酔学会雑誌 2024.09.01

12. 大木 宏晃, 柿野 聡子, 李 朝, 岩本 勉. 非侵襲歯髄診断システム構築へ向けた歯種特異的光学特性の解析. 第 63 回日本生体医工学会大会 2024.05.23 鹿児島

13. 和田 奏絵, 小樋 香織, Shin Yujeong, 山中 柚衣香, 浜島 美咲, 杉本 明日菜, 大石 敦之, 岩本 勉. CAD/CAM ブロックの機械的 · 化学的特性と微小構造の評価より乳歯に適した CAD/CAM ブロックを検討する. 第 62 回日本小児歯科学会大会 2024.05.17 横須賀

14. 中島結美子，黒厚子璃佳，岩本　勉. 小児期の齲蝕重症度は生活習慣と関連する. 第 62 回日本小児歯科学会大会 2024.05.17 横須賀

15. 大石敦之，岩淵佑介，杉本明日菜，黒厚子璃佳，岩田こころ，中島結美子，山中柚衣香，武永嶺，和田奏絵，井上豪，安達宏昭，阪井丘芳，岩本勉. 根管洗浄における要時生成型二酸化塩素水溶液 (MA-T) の応用可能性の検証. 第 62 回日本小児歯科学会大会 2024.05.16 神奈川県横須賀市

16. 杉本 明日菜. 静水圧負荷による分化誘導メカニズムを応用した新規硬組織誘導法の開発. 小児歯科学雑誌 2024.05.16

17. 和田 奏絵, 小樋 香織, Shin Yujeong, 山中 柚衣香, 浜島 美咲, 杉本 明日菜, 大石 敦之, 岩本 勉. CAD/CAM ブロックの機械的 · 化学的特性と微小構造の評価より乳歯に適した CAD/CAM ブロックを検討する. 小児歯科学雑誌 2024.04.01

18. 大石 敦之, 岩淵 佑介, 杉本 明日菜, 黒厚子 璃佳, 岩田 こころ, 中島 結美子, 山中 柚衣香, 武永 嶺, 和田 奏絵, 井上 豪, 安達 宏昭, 阪井 丘芳, 岩本 勉. 根管洗浄における要時生成型二酸化塩素水溶液 (MA-T) の応用可能性の検証. 小児歯科学雑誌 2024.04.01

19. 井上 佳怜, 柿野 聡子, 松村 木綿子, 岩本 勉. 上顎乳中切歯と過剰歯との 3 歯癒合歯 (双生癒合歯) の根管治療を行った 1 例. 小児歯科学雑誌 2024.02.01

[受賞]

1. 大石敦之：第 62 回日本小児歯科学会大会　優秀発表賞：根管洗浄における要時生成型二酸化塩素水溶液 (MA-T) の応用可能性の検証 , 2024 年 05 月

2. 杉本明日菜：日本小児歯科学会奨励賞, 日本小児歯科学会, 2024 年 05 月

3. 柿野聡子：Case Competition 1st Place, The 22nd World Congress on Dental Traumatology, 2024 年 07 月

4. 柿野聡子：QUINTESSENCE PUBLISHING Award, 2024 年 07 月

5. 田中　眞実：松風スチューデントアワード, 2024 年 10 月

[その他業績]

1. 文部科学省/日本学術振興会：研究活動スタート支援, 2024 年 S.mutans の membrane vesicles を対象とした感染性心内膜炎の予防法の開発　 2022 年〜2024 年　岩淵佑介, 2024 年

2. 杉本明日菜：科学研究費助成事業　若手研究, 2024 年 04 月
細胞外圧環境を融合した新規リプログラミング法の開発 /23K16178/2023-2024

3. 科学研究費助成事業　若手研究, 2024 年 04 月
22k17247 可撤保隙装置製作におけるフルデジタル化ならびに機能形態付与の新たなシステム構築（小樋香織）
補助事業期間：令和 4 年度〜令和 6 年度

4. 和田奏絵 形成障害乳歯の病理組織と特性の解明および新規ひずみ測定による修復法の確立, 2024 年 04 月
文部科学省/日本学術振興会　基盤研究 (C)（一般）　代表: 和田奏絵，2024-2027

5. 杉本明日菜：第一三共「はばたく次世代」応援寄付プログラム, 2024 年 08 月

[社会貢献活動]

1. 調布市歯科医師会小島町歯科診療所　指導医（楠本　康香）, 2007 年 04 月 01 日 - 現在

2. 日本小児歯科学会関東地方会モニター委員（大石敦之）, 日本小児歯科学会関東地方会, 2020 年 01 月 01 日 - 現在

3. 和田奏絵. 日本小児歯科学会男女共同参画委員会小児歯科医連携協力ネットワーク委員, 日本小児歯科学会, 2021 年 06 月 01 日 - 現在

4. 館林邑楽歯科保健医療センター指導医（岩淵佑介）, 一般 社団法人館林邑楽歯科医師会, 群馬県館林市苗木町字南近藤 2622-1, 2022 年 04 月 01 日 - 現在
5. 東京都八南歯科医師会障害者歯科八王子市診療所指導医（岩淵佑介）, 公益社団法人東京都八南歯科医師会, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
6. 館林邑楽歯科保健医療センター 指導医（真藤裕基）, 一般 社団法人館林邑楽歯科医師会, 群馬県館林市苗木町字南近藤 2622-1, 2023 年 4 月 01 日 - 現, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
7. 公益社団法人日本小児歯科学会 専門医認定委員会委員（柿野聡子）, 公益社団法人日本小児歯科学会, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
8. 公益社団法人日本小児歯科学会　臨床研究推進委員会委員（柿野聡子）, 公益社団法人日本小児歯科学会, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
9. 和田奏絵. 公益社団法人日本小児歯科学会専門医認定委員会委員, 公益社団法人日本小児歯科学会, , 2023 年 04 月 01 日 - 現在
10. 東京科学大学歯科同窓会学術委員会委員（柿野聡子）, 東京科学大学歯科同窓会, 2024 年 03 月 01 日 - 現在
11. バイオメディカルオプティックス技術専門委員会委員（柿野聡子）, レーザー学会, 2024 年 04 月 01 日 - 2027 年 03 月 31 日

う蝕制御学分野

Department of Cariology and Operative Dentistry

教授　島田 康史
領域教授　平石 典子
講師　井上 剛（6 月から）, 高橋礼奈
助教　畑山 貴志, 田端 倫子（4 月から）, 陳 雪霏（9 月から）
特任助教　土山 奈美, Matin Khairul
医員　湊 洋祐, 山本 志織, 土肥 啓太郎, 中村 莉子, 赤羽根 広大（4 月から）, 木部 航太（4 月から）,
安部 俊太郎（9 月から）, 橋谷 怜奈（9 月から）
事務補佐員　穴井 智美
大学院生
赤羽根 広大（3 月まで）, 石原 洋樹（3 月まで）, 木部 航太（3 月まで）, 下島 美夏（3 月まで）,
陳 雪霏（3 月まで）,WEI DIANTONG（3 月まで）,YANG YI（3 月まで）,
UBOLSA-ARD PANCHANIT（9 月まで）
岩渕 裕俊, 牛島 啓, 権藤 理夢, 高野 隼輔, 辻 悠貴子,ZENG CHEN
,ZHAO MENGTIAN,KHALED ABU HASAN MOHAMMAD,KYAW HTET,DU ZIJUAN,KHIN MYANMAR,
小林 昂太, 竹内 梓, 藤森 亮平,JAHAN SHAMIMA,ZENG SIQI, 宮城 和彦,FAN LIN,FENG SHUO,
HE YUZHENGQIU,NADER AHMED ABDELAZIZ MAHMOUD ELSEOUDY,WANG XINYU,
安部 俊太郎（4 月から）, 川口 綾菜（4 月から）, 高松 杜博（4 月から）,
橋谷 怜奈（4 月から）, 羽山 燦（4 月から）,ELSUBEIHI EMAD HEBA（4 月から）,
JIANG JINJUAN（4 月から）,ZHANG JIAMING（4 月から）,NING BOYU（4 月から）,
HU QIAO（4 月から）,ABDULQADER HUSAM HADEEL（10 月から）,
RUJIRAPRASERT PHAKVALUNCH（10 月から）
特別研究生
山本 麻美, 高木 仲人（10 月まで）
大学院研究生
木島 峯雄,ZHU TIANMAO（3 月まで）, 橋谷 怜奈（3 月まで）,
ABDULQADER HADEEL HUSAM ABDULQADER（9 月まで）,ZHANG JIAMING（3 月まで）,
NING BOYU（3 月まで）,HU QIAO（3 月まで）,JIANG JINJUAN（3 月まで）,
ZUHRA FATIMA TUJ（3 月まで）,SHI YUAN（10 月から）,YU LING（11 月から）

(1) 分野概要

1928 年の本学創立時、当分野は檜垣麟三教授が主宰する保存療法学として発足、1960 年には総山孝雄教授、1982 年からは細田裕康教授が教室を主宰した。当分野では一貫してう蝕学、保存修復学についての研究、教育を推進し、今日の保存修復治療、接着歯科治療の確立に中心的な役割を果たし、う蝕治療の世界的潮流の形成に貢献してきた。今日では当分野は、活動の基本は臨床であり、臨床に関連した研究テーマを優先し、教育においても理想論ではなく、臨床現場の感覚を重視している。伝統的に「材料学と生物学との両面からのアプローチ」により、接着歯学とう蝕学を基盤に歯質保存的なう蝕治療法を世界に先駆けて確立、高度化した。現在では、「MinimalIntervention」という概念に基づく低侵襲の接着性審美修復治療開発講座として世界でも認知されている。2003 年からは、COE プロプログラム「歯と骨の分子破壊と再構築」、そして 2008 年からグローバル COE プログラム「歯と骨の分子疾患科学の国際教育拠点—デントメドミクスのインテリジェンスハブ—」の推進に基幹講座の一つとして貢献した。従来の保存修復学にとらわれない、歯の硬組織の破壊予防と再構築に関する広範な内容に取り組み、最新のテクノロジーの応用も積極的に図っている。これらの活動により歯科医学研究、歯科医療において世界をリードする

創造的な人材育成を目指している。

(2) 研究活動

1) ボンディングシステムの歯質接着性の評価接着性修復材料の歯質（エナメル質、象牙質、セメント質）への接着性について、各種接着試験法（当分野で開発した微小引張接着試験や微小せん断接着試験など）を用いて検討し、歯種や部位の違い、う蝕や歯牙フッ素症、各種切削法、治療用放射線の照射、根管治療歯などの影響について評価する。さらに各種接着システムの接着耐久性について検討する。2) Super Tooth に関する研究生体材料を歯質に応用することによって、健全歯質よりも物理的、化学的、生物学的に強固な歯質（SuperTooth）を形成することをめざし、歯の強化、長寿化に貢献する。SuperTooth の形成機序の解析や各種接着性モノマー、フッ化物含有リン酸カルシウムを添加した材料による歯の石灰化誘導についても検討する。3) 歯科用 OCT の開発と臨床導入光干渉断層画像計（OCT）は、生体組織の断層構造を、電離放射線による被曝を伴わずに光学組織切片に近い精度で画像化することができる。う蝕や歯の亀裂などの歯科疾患を高い精度で診断できる歯科用 OCT の開発と臨床導入をめざし、研究を行う。4) 接着性修復の非破壊適合性試験口腔内の接着修復物のギャップや二次う蝕を非破壊で検出する方法を確立するため、光干渉断層計（OCT）を用いて検討する。5) コンポジットレジンの重合挙動特性評価コンポジットレジンの重合収縮応力緩和効果を有する臨床技法の確立のため、接着材、コンポジットレジンの組成、照射光の種類、光照射法および窩洞形態（C-factor）がレジンの重合収縮応力に与える影響を、歯質に対する窩壁適合性や接着強さ、Micro X 線 CT 画像と 3Dvisualization 法によるレジンの重合挙動解析により評価する。6) レジンコーティングによる接着性間接修復物の適合性、接着強さの向上窩洞面へのレジンコーティング処理後のレジンセメントの接着性や修復物の適合性、術式の検討などを行う。さらに、レジンコーティング法の間接法支台築造への応用についても検討する。7) 歯の光学的特性の測定エナメル質や象牙質など、光の屈折率と減衰係数の計測を行い、脱灰と再石灰化による変化を検討する。8) レジンコアによる無髄歯支台築造無髄歯に対するレジンコアによる支台築造の際の、コア用レジンの根管象牙質への接着性能、ファイバーポストの応用などについて評価 · 検討する。9) 咬 · 摩耗症の検討 Tooth wear を引き起こす要因となる、酸性の薬や飲料、食品などによるエナメル質酸蝕を調べるため、エナメル質ブロックを、pH 値の異なる各種溶液に浸漬し、全焦点 3 D表面形状測定装置を使用して浸漬後の表面性状変化や表層 pH 値について検討する。10) カリエスリスクの判定被検者から採取した唾液サンプルについて pH 値を測定し、カリエスリスクの簡易で客観的な診断法の確率をめざす。さらにう蝕原因菌と pH 値との関係について明らかにする。11) う蝕原性細菌の歯質への初期付着能の評価バイオフィルム形成の初期過程である S.mutans などの齲蝕原性細菌の歯質への初期付着能とその遺伝的因子についてモデル実験により検討する。12) 接着性修復材料の生態適合性の評価各種接着性材料および修復法の歯髄に対する影響について免疫組織学的な検討を行い、評価する。13) フッ素徐放性修復材料、CPP-ACP と二次う蝕抑制効果フッ素徐放性修復材料や CPP-ACP ペーストの塗布によるエナメル質、象牙質の脱灰抑制効果について、非破壊的にマイクロ CT により観察し、二次う蝕との関連性について評価する。14) う蝕除去法の評価；う蝕歯質領域を同定し、従来の回転切削の他、器械 - 化学的なう蝕除去、レーザー、エアーアブレイシブなどの新しいう蝕除去法について、う蝕象牙質の除去効果やその後の修復への影響について評価を行う。15) 審美歯科材料の開発、評価コンポジットレジンの色調と光特性に関する評価研究を行う。また、審美歯科、歯のホワイトニングに関連する材料について臨床応用に関する研究を行う。16) 臨床評価；本学病院むし歯科に来院した患者に施行した修復処置の術後の経過についてプロトコールを作成し、材料や術式についての短期的および長期的評価を行う。

(3) 教育活動

1) 第 3 学年では、保存修復治療に必要な歯の形態と機能の回復について理解を深めるため、歯型彫刻実習を行う。また、臨床での基礎理論を理解するため、臨床イントロダクションの講義と実習を行う。さらに臨床現場はどのようなものか身をもって感じさせるために、むし歯外来にて病院体験実習を行う。2) 第 4 学年では、保存修復学の講義および基礎模型実習を行う。講義では、う蝕および歯牙硬組織疾患の病態の把握とその診断法ならびに予防法、切削器具の種類とその使用法、修復材料の種類、窩洞形成法と修復処置法についての最新の知識 · 術式を教授する。また、基礎模型実習では講義と有機的に関連させながら、抜去歯および人工歯を組み合わせて各種修復法について、特に必要最小限の歯質削除と接着を応用した歯質保存的な修復方法を習得させる。3) 第 5 学年では、基礎選択実習で当分野を選択した学生に対し、接着修復についての知識をより深めるため、基礎的もしくは臨床的な実験を計画し、研究指導を行う。また、臨床予備実習では臨床総合実習への導入として、附属病院むし歯外来において診断および保存修復の相互実習を行う。4) 第 6 学年では、臨床総合実習を通じて、う蝕をはじめとする歯牙硬組織疾患に対する保存修復に関する幅広い学問的知識とそれに裏付けられた技術を体得し、近年要望が高まってきている審美歯科修復処置についても指導し、口腔の健康保持 · 増進のため、患者の立場に立って医療を行える、また、社会的要求にあった歯科医師の育成を計る。5) 研修医および専攻生の卒後教育のためには、臨床現場において保存修復治療が適切に行えるよう最新の知識 · 技術の習得を目指し、指導を行い、良質な歯科医師の育成を計る。6) 大学院生に対しては、先端的、国際的な研究を目指し、世界をリードする基礎研究者となりえるような教育を行うと同時に、臨床研究者および歯科医学教育者としての育成を計る。

(4) 教育方針

う蝕や咬耗 · 磨耗、歯牙破折、酸蝕症、変色歯など、歯の硬組織疾患に対する診査 · 診断、治療を行うにあたり、必要となる保存修復学の原理と技能について、理解 · 習得させることを目標とする。現在の保存修復治療は、歯質接着性材料を用いることなしに行うことはできない。したがって、歯質接着のメカニズムおよび歯質接着性材料に関する深い知識とその修復術式について習得する必要がある。これらのことを考慮し、教育 · 実習を行う。

(5) 臨床活動および学外活動

本学病院歯科において、う蝕制御学分野は歯髄生物学分野とともに、「むし歯科」を担当している。「むし歯科」においては患者に対する人権を最大限に配慮しながら、卒前 · 卒後の学生、研修医の臨床教育を行い、さらに新規器材 · 器具などの臨床治験も実施している。専門性の高い診療としては、う蝕の診断およびリスク診断、各種切削器具によるう蝕の除去、接着性材料を応用した歯冠色修復法、歯牙漂白などの処置が挙げられる。一方で、診療内容が専門性の高い治療に偏ることなく、患者のニーズに合わせた一口腔単位の包括的な診療を心がけている。診療は、基本的には、担当医制であるが、必要に応じて症例検討を行い、他の専門外来とも連携して治療を行っている。また、新患については患者の希望に応じて、地域の歯科医師への紹介も行っている。

(6) 臨床上の特色

う蝕制御学分野では、前身の歯科保存学第一講座から、う蝕治療の研究を行っており、う蝕に対して最小限の歯質の削除と、接着性材料を用いたコンポジットレジン修復技術を確立し、最小限の侵襲（minimal intervention）によるう蝕治療を実践している。また、患者の審美的な要求の高まりとともに歯冠色材料を応用した審美的歯冠修復法や変色歯に対する処置についても対応している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Elseoudy, N; Sanon, K; Hiraishi, N; Tamura, Y; Tagami, J; Shimada, Y. MMP inhibition, marginal integrity and cytotoxicity of zinc-releasing GIC JOURNAL OF DENTISTRY. 2024.12; 151; 105450

2. Takashi Hatayama, Tomoko Tabata, Kota Kibe, Masaomi Ikeda, Yasunori Sumi, Yasushi Shimada . Bonding Performance of a New Resin Core System with a Low-Polymerization-Shrinkage Monomer to Root Canal Dentin Polymers. 2024.11; 16(23);

3. Takaaki Sato, Keiichi Hosaka, Junji Tagami, Hirofumi Tashiro, Hitoshi Miki, Kazunori Otani, Miho Nishimura, Masahiro Takahashi, Yasushi Shimada, Masaomi Ikeda. Clinical evaluation of direct composite versus zirconia resin-bonded fixed dental prostheses for a single missing anterior tooth: A short-term multicenter retrospective study. Journal of Dentistry. 2024.10; 151; 105401

4. Tabata, T; Nakagawa, H; Matin, K; Otsuki, M; Aoki, A; Sumi, Y; Shimada, Y; Sumi. Analysis of cariogenic biofilms by using a swept-source optical coherence tomography in vitro ARCHIVES OF ORAL BIOLOGY. 2024.09; 165; 106009

5. Citra Kusumasari, Takashi Hatayama, Junji Tagami, Yasushi Shimada. Resin-Build-Up as A Direct Monoblock Concept for Root Canal Dentin, Core, and Crown Restoration on Anterior Endodontically Treated Tooth Journal of Dentistry Indonesia. 2024.09; vol.31(No.2);

6. Lee SY, Shimada Y, Sadr A, Tabata T, Sato T, Byun JE, Han SH. Degree of conversion and interfacial adaptation of touch-cure resin cement polymerized by self-curing or dual-curing with reduced light. Clinical oral investigations. 2024.08; 28(8); 463

7. Tadamu Gondo, Noriko Hiraishi, Azusa Takeuchi, David Moyes, Yasushi Shimada. Comparative analysis of microbiome in coronal and root caries. BMC Oral Health. 2024.07; 24(1); 869

8. Kanamori Y, Takahashi R, Nikaido T, Nitta H, Shimada Y, Tagami J, Kunzelmann KH. Influence of resin-coating techniques on the marginal adaptation and the bond strengths of CAD/CAM-fabricated hybrid ceramic inlays. Dent Mater J. 2024.06; 43(3); 407-414

9. Chen X, Inoue G, Fan L, Sekizawa O, Nitta K, Ikeda M, Shimada Y. Enhancement of mineral density and mechanical properties in root caries treated with silver diammine fluoride and glass ionomer cement, with emphasis on silver ion distribution. Journal of dentistry. 2024.05; 146; 105041

10. Ushijima K, Hiraishi N, Ikeda M, Tsuji Y, Tsuchida Y, Shimada, Y. Effect of water glass treatment for zirconia and silane coupling on bond strength of resin cement. Clin Oral Investig. 2024.05; 28(6); 305

11. Reziwanguli Aili, Hidemi Nakata, Munemitsu Miyasaka, Shinji Kuroda, Yukihiko Tamura, Taishi Yokoi, Masakazu Kawashita, Yasushi Shimada, Shohei Kasugai, Eriko Marukawa. Evaluation of a hydroxyapatite-crosslinked fish gelatin membranes. J Dent Sci. 2024.04; 19(2); 900-908

12. Ishihara H, Yonekura K, Ikeda M, Inoue G, Nakajima M, Shimada Y, Hosaka K. Comparative bonding performance of coronal dentin disks and CAD/CAM resin composite disks for biological restoration: The impact of resin-coating technique. Dental materials journal. 2024.03; 43(2); 303-311

13. Panchanit Ubolsa-Ard, Kittisak Sanon, Noriko Hiraishi, Mahmoud Sayed, Yuriko Sakamaki, Cynthia Kar Yung Yiu, Yasushi Shimada. Influence of surface pre-reacted glass-ionomer (S-PRG) filler eluate on collagen morphology, remineralization, and ultimate tensile strength of demineralized dentin. J Mech Behav Biomed Mater. 2024.02; 150; 106295

14. Noriko Hiraishi, Tadamu Gondo, Yasushi Shimada, Fumiaki Hayashi. Effect of borate, fluoride and strontium ions on biomimetic nucleation of calcium phosphate studied using solid-state nuclear magnetic resonance and X-ray diffraction. Dent Mater. 2024.02; 40(2); 210-218

15. Rana Al-Wakeel, Go Inoue, Amr SAAD, Manal Badawi, Sayed GHORAB, Rehab Alwakeb, Heba A. El-Deeb, Junji TAGAMI. Evaluation of Flexural Strength, Micro-Tensile Bond Strength and Fluoride Release of a Glass Hybrid Restorative Material TWIST International Multidisciplinary Journal. 2024.02; 19 (1); 358 -365

16. Yang Y, Inoue G, Hosaka K, Tichy A, Ikeda M, Tagami J, Shimada Y. The Effect of a Deproteinizing Pretreatment on the Bonding Performance and Acid Resistance of a Two-step Self-etch Adhesive on Eroded Dentin. Operative dentistry. 2024.01; 49(1); 65-75

1. 大屋 貴志, 陳 雪霏, 石川 聡一郎, 竹田 敦, 大橋 伸英, 林 雄一郎, 小栗 千里, 小泉 敏之, 來生 知, 光藤 健司. 舌癌に対する逆行性超選択的動注化学放射線療法 119 例における栄養摂取状況の分析 日本口腔外科学会雑誌. 2024.08; 70(8); 327-335

[講演 · 口頭発表等]

1. Boyu Ning, Go Inoue, Xuefei Chen, Morihiro Takamatsu, Yasushi Shimada . The relationship between soaked time, enamel area and solution volume with enamel mineral loss. The89th Meeting of the The Stomatological Society, Japan 2024.12.07 Tokyo

2. Kyaw Htet, Noriko Hiraishi, Panchanit Ubolsa-ard, Yasushi Shimada. Effect of zinc-releasing glass ionomer cement on preventing dentin demineralization . The 161st Meeting of the Japanese Society of Conservative Dentistry 2024.11 Himeji, Japan

3. Xuefei Chen, Go Inoue, Hiroshi Sekiguchi, Yasushi Shimada. Advancing Caries Therapy: Insights from X-ray Microbeam Diffraction on SDF and GIC Combination for Tooth Structure Restoration. 12th Would Biomaterials Congress 2024.05.29 Daegu, Korea

4. Khin Myanmar, Go Inoue, Xuefei Chen, Yasushi Shimada. Effect of remineralization of zinc containing glass ionomer cement on enamel in vitro. The 160th Meeting of the Japanese Society of Conservative Dentistry 2024.05.17 Sendai

5. Siqi Zeng, Rena Takahashi, Masaomi Ikeda, Yasushi Shimada. The influence of zirconia thickness on bonding performance of dual-cured and light-cured resin cements. The 160th Meeting of the Japanese Society of Conservative Dentistry 2024.05.17 Miyagi, Japan

6. Chen ZENG, Tomoko TABATA, Rena TAKAHASHI, Junichi SHINAGAWA, Masaomi IKEDA, Shunsuke TAKANO, Yasunori SUMI, Junji TAGAMI, Yasushi SHIMADA. Marginal Adaption Analysis of CAD/CAM Resin Crown with Non-invasive Methods. The 160th Meeting of the Japanese Society of Conservative Dentistry 2024.05.16 Miyagi, Japan

7. Hirotoshi Iwabuchi, Go Inoue, Masaomi Ikeda, Yasushi Shimada. Acid resistance and bond strength of calcium-containing adhesive on enamel. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.16 Ernest N. Morial Convention Center, New Orleans, Louisiana, USA

8. T. Yoshikawa, A. Sadr, Y. Shimada . Polymerization Behavior of Composites at Top/Bottom of Cavity using Different-LED-Light. 102nd, IADR 2024.03.16 New Orleans, LA

9. Otsuki Masayuki, Du Zijuan, Shimada Yasushi. Effect of Light Exposure on in-Office Bleaching. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session 2024.03.16 New Orleans, US

10. Xuefei Chen, Go Inoue, Yasushi Shimada. Mechanical Properties of Natural Carious Lesion Under the SDF+GIC Treatment. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session 2024.03.15 New Orleans, US

11. Gondo T, Hiraishi N, Takeuchi A, David M, Shimada Y,. Comparative Analysis of the Coronal and Root CariesMicrobiome. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session 2024.03.15 New Orleans, Louisiana

12. A. Khaled, T. Sato, T. Tabata, M. Zhao, K. Kibe, T. Hatayama, M. Ikeda, Y. Shimada. Comparing gap detection using OCT and leakage test. 102nd General Session & Exhibition of the IADR, NEW ORLEANS, LA, USA 2024.03.13

13. Noriko Hiraishi. Scientific Evidence on Restorative Ability of S-PRG Filler for Enamel and Dentin . Industry-sponsored Symposium (Invited speaker) The 102nd 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition the IADR/APR General Session & Exhibition 2024.03

14. Noriko Hiraishi, Fumiaki Hayashi Tadamu Gondo, Toru Nikaido, Yasushi Shimada . 19F-NMR Study of Fluoride Reaction of Various Formulations on Enamel.. The 102nd 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition the IADR/APR General Session & Exhibition 2024.03

15. Nader Ahmed Elseoudy, Kittisak Sanon2, Noriko Hiraishi, Yukihiko Tamura, Yasushi Shimada. Chemical, Biological, and Mechanical Properties of a Novel Glass Ionomer. The 102nd 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition the IADR/APR General Session & Exhibition 2024.03

16. Yasushi Shimada. Development of a new technology for management of dental caries and adhesive restoration. Essential updates on operative dentistry and endodontics 2024.01.29 Chulalongkon University

1. 佐藤隆明，島田康史，池田正臣. 前歯一歯欠損における接着ブリッジの短期予後；間接法ジルコニアと直接法コンポジットレジンの比較. 第 89 回 口腔病学会学術大会 2024.12.07

2. 井上剛、ハンリン、池田正臣、島田康史. 新規自己接着性コンポジットレジン SA-100R の非切削エナメル質における接着性能評価. 第 161 回日本歯科保存学会学術講演会 2024.11.22 姫路

3. 宮城和彦、井上剛、陳雪霏、島田康史. バイオアクティブグラス添加フッ化物配合ヴァーニッシュのエナメル質における再石灰化能の評価. 第 161 回日本歯科保存学会学術講演会 2024.11.22 姫路

4. 大槻昌幸, 平石典子, 保坂啓一, 島田康史, 小林幹宏, 新妻由衣子, 菅井琳太朗, 真鍋厚史, 田上順次. ユニバーサルトレーを用いたホームブリーチの臨床評価. 第 161 回日本歯科保存学会学術大会 2024.11.22 姫路、日本

5. ハンリン, 井上剛, 陳雪霏, 島田康史. NACP 溶液とフッ素含有接着剤の併用による脱灰象牙質への接着力と耐酸性の評価. 第 161 回日本歯科保存学会学術講演会 2024.11.21 姫路

6. 竹内 梓, 権藤 理夢, Elseoudy Nader, Wang Xinyu, 田村 幸彦, 林　文晶, 平石 典子, 島田 康史. ストロンチウム置換型生体活性ガラスのヒト歯髄幹細胞への影響と、固体 NMR による界面反応性評価. 日本歯科保存学会 2024 年度秋季学術大会（第 161 回） 2024.11.21 姫路

7. 島田康史. 歯科保存専門医の申請に必要な保存修復難症例について. 日本歯科保存学会第 161 回 2024 年度秋季学術大会 2024.11.21 姫路市

8. 藤森亮平, 高橋基, 平石典子, 宇尾基弘, 二階堂徹, 島田康史. フッ化ジアンミン銀の銀化合物析出およびレジン象牙質接着に及ぼす影響 . 日本歯科保存学会 2024 年度秋季学術大会（第 161 回） 2024.11.21 姫路、日本

9. 松崎 久美子, 田端 倫子, 大原 直子, 高橋 圭, 曽我 賢彦, 島田 康史. SS-OCT を用いた放射線照射後の歯の微細構造の分析. 第 161 回日本歯科保存学会学術大会 2024.11.21 姫路、日本

10. 高木仲人, 島田康史, 保坂啓一. 新規ファイバー配合支台築造コンポジットレジンの機械的強度と重合温度による影響. 第 161 回日本歯科保存学会学術大会 2024.11.21 姫路、日本

11. 島田康史. 直接法コンポジットレジン修復の接着システム. 日本外傷歯学会認定医研修会 2024.11.10 東京
12. 田端倫子, 平石典子, 高橋礼奈, 湊洋祐, 島田康史. 歯頚部の知覚過敏症状に対してケアダインレストアを用いて消失させた 1 症例 SS-OCT 観察. 日本レーザー歯学会 2024.10.20 愛知、日本
13. 中根　晶，永井茂之，平石典子，湊　洋祐，田端倫子，大槻昌幸，島田康史. Er：YAG レーザーを照射した象牙質のう蝕検知液における染色の変化. 第 36 回　日本レーザー歯学会総会 · 学術大会 2024.10.19 愛知、日本
14. 島田康史. 光干渉断層計を用いた齲蝕と歯冠亀裂の画像診断. 日本外傷歯学会認定医研修会 2024.09.22 東京
15. 平石典子. 根面う蝕細菌叢のゲノム解析 · 生理代謝機能解析. 公益財団法人８０２０推進財団　公募研究発表会 2024.07.31
16. 陳 雪霏, 井上 剛, 関口 博史, 島田 康史. SDF と GIC を併用した齲蝕象牙質治療効果の評価. 第 5 回象牙質歯髄治療学会学術大会 2024.07.20 神奈川, 日本
17. 高野隼輔, 高橋礼奈, 田端倫子, ZENG Chen, 池田正臣, 島田康史. ユニバーサルアドヒーシブ応用型レジンセメントの接着性能について. 第 160 回日本歯科保存学会 2024 年度春季学術大会 2024.05.17 宮城県仙台市
18. 島田康史. 光学機器を利用した齲蝕の診断法. 第 82 回日本歯科理工学会学術講演会 2024.04.21 鹿児島市
19. 島田康史. 光干渉断層計を用いた齲蝕の診断とモニタリング. 東北大学特別講義 2024.01.06

[受賞]

1. カリオロジー　学生発表賞, 2024 年 03 月
2. 齲蝕研究部会学生研究賞第 1 位, 2024 年 03 月

[その他業績]

1. 中国トップ会談, 2024 年 01 月
   中国大学の教授に対し、コンポジットレジン修復に関する講演を行い、研究および臨床に関する情報を交換
2. 第 7 回大型医療研究推進フォーラム, 2024 年 02 月
3. Overseas famous teacher project, 2024 年 06 月
   中国南方医科大学深セン口腔医院にてオンラインセミナーを開催

[社会貢献活動]

1. 公益財団法人ライオン歯科衛生研究所評議委員, 公益財団法人ライオン歯科衛生研究所, 2022 年 06 月 - 現在
2. 日本歯科医学会連合大型研究推進委員会, 日本歯科医学会連合, 2022 年 08 月 - 現在
3. Doctor’s Insight　世界初の検査 OCT, NHK, Doctor’s Insight, 2022 年 09 月 21 日 - 現在
4. Polymers , MDPI Postfach, CH-4020 Basel, Switzerland, Polymers , http://www.mdpi.com/journal/polymers, 2023 年 01 月 - 現在
5. IADR 大学 Booth, 2024 年 03 月
6. Oral Health Steering Committee, グラクソ · スミスクライン · コンシューマー · ヘルスケア · ジャパン株式会社, 2024 年 04 月 - 現在
7. オープンキャンパス（歯学科海外研修紹介）, 2024 年 08 月

咬合機能健康科学分野

Masticatory Function and Health Science

教授：笛木賢治
准教授：駒田 亘
講師：中禮 宏，稲用友佳
助教：大竹志保，林 海里，石山裕之，瀧田美奈
特任助教：松村茉由子，大石晋也
医員：尾崎太亮，近藤大貴，小若泰之，大石弥生，根本 拓，紅谷龍一郎，
松本彩花，外川海斗，秋本悌助，宮園敬資，堀田葉子

(1) 分野概要

補綴治療による口腔機能の回復と健康との関連を中心とした研究，歯科補綴学，スポーツ歯学，顎関節症の教育と診療を行う．

(2) 研究活動

補綴臨床研究，口腔と健康との相関，人工知能とデ—タサイエンス，歯学教育，クラウンブリッジと生体材料，歯科アレルギー，スポーツ歯学，顎関節症に関する研究

(3) 教育活動

歯科補綴学（冠橋義歯学，部分床義歯学），スポーツ歯学，顎関節症に関する基礎と臨床教育

(4) 教育方針

エビデンスに基づく実践的な臨床教育

(5) 臨床活動および学外活動

義歯科，先端歯科診療センター，歯科アレルギー外来，スポーツ歯科外来，顎関節症外来における歯科診療

(6) 臨床上の特色

デジタル技術を用いた補綴治療，歯科材料に対するアレルギー検査，スポーツ外傷に対するマウスガードとフェイスガード，顎関節症の診断と治療

(7) 研究業績

[原著]

1. G Tanabe, T Hasunuma, Y Takeuchi, H Churei, K Hayashi, K Togawa, N Moriya, T Ueno. Assessment of Exercise-Induced Dehydration Status Based on Oral Mucosal Moisture in a Field Survey Dentistry Journal. 2024.12; 13(1); 5

2. Otake Shiho, Ozaki Taisuke, Komada Wataru, Oishi Shinya, Takita Mina, Fueki Kenji. Influence of the Color of Adhesive Resin Cement and Type of Foundation Restoration on the Color of CAD/CAM Resin Crowns J. Stomatol. Soc. Jpn.. 2024.11; 91(2-3); 102-107

3. S.Shimizu, K.Hayashi, Y.Takeuchi, G.Tanabe, H.Churei, H.Kobayashi, T.Ueno, K.Fueki. Effect of Porphyromonas gingivalis Infection on Healing of Skeletal Muscle Injury: An In Vivo Study Dentistry Journal. 2024.10; 12(11); 346

4. Towithelertkul C, Haraguchi M, Tanabe G, Fujita H, Ali IE, Han X, Sumita YI. Two-piece detachable interlocking mold for low-dose-rate brachytherapy: A dental technique for radiotherapy prosthesis fabrication. J Prosthet Dent. 2024.08; 132(2); 467-472

5. Hiroyuki Ishiyama, Shaoyuan Liu, Akira Nishiyama, Kenji Fueki. Morning headache caused by obstructive sleep apnea misdiagnosed as temporomandibular disorders-related headache: A case report. Journal of Prosthodontics Research. 2024.08;

6. Ozaki, T; Otake, S; Komada, W; Oishi, S; Fueki, K. Effects of immersion in 4-methacryloyloxyethyl trimellitate anhydride/methyl methacrylate-tri-n-butyl borane resin-activated liquid on microtensile bond strength of root canal dentin JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2024.07; 19(3); 1601-1608

7. Yin, Y; Nozaki, K; Nemoto, R; Saleh, O; Oishi, Y; Matsumura, M; Komada, W; Miura, H; Fueki, K. Marginal fit and retention force of zirconia resin-bonded fixed dental prostheses in the posterior region with different designs JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2024.07; 19(3); 1587-1594

8. Kondo, D; Komada, W; Oishi, S; Fueki, K. Surface strain at the cervical area and fracture strength of flared root canals reinforced using a zirconia tube and glass-fiber post JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2024.07; 19(3); 1571-1577

9. Mieko Mizutani-Yoshimura, Saneyuki Mizutani, Naoyuki Uchida, Shuichi Taniguchi, Kenji Fueki. Do oral conditions influence the incidence of bloodstream infection after hematopoietic stem cell transplantation? A retrospective study in Japan. Support Care Cancer. 2024.05; 32(6); 398

10. Chenyuan Li, Takahiro Wada, Yumi Tsuchida, Kairi Hayashi, Gen Tanabe, Toshiaki Ueno, Hiroshi Churei. Optimizing additively manufactured mouthguards: An evaluation of multi-layer materials for improved shock absorption and durability compared to conventionally fabricated samples 2024.03;

11. Daiki Kondo, Wataru Komada, Shinya Oishi, Kenji Fueki. Surface strain at the cervical area and fracture strength of flared root canals reinforced using a zirconia tube and glass-fiber post Journal of Dental Sciences. 2024;

1. 奥野健太郎，石山裕之，伊藤邦弘，田賀仁，古畑升，松尾朗，秀島雅之. COVID-19 が睡眠歯科医療に及ぼした影響 －日本睡眠歯科学会会員を対象としたアンケート調査－ 睡眠口腔医学. 2024.09; 11(1);

2. 田邊 元，駒澤柚希，蓮沼哲哉，外川海斗，林 海里，中禮 宏，森谷直樹，安井利一，上野俊明. アスリートの疲労感と顎口腔領域の自覚症状の連動類似性 スポーツ歯学. 2024.08; 28(1); 14-19

3. 笛木賢治，眞鍋雄太，佐々木　啓一，橋本　衛，木本克彦，石川智久，上田貴之, 内海久美子，釘宮嘉浩，白石　成，安部友佳，稲用友佳，馬場一美，窪木拓男，池田　学. 認知機能と口腔機能の相関に関する医師・歯科医師の意識調査: 医科歯科連携 ECCO プロジェクト 老年精神医学雑誌. 2024.03; 35(3); 283-289

[書籍等出版物]

1. 和田 淳一郎，駒田 亘，若林 則幸. ブリッジ・部分床義歯の支台歯選択. 医歯薬出版株式会社, 2024.06 (ISBN : 978-4-263-46180-8)

[総説]

1. Eiko Yoshida-Kohno, Kenji Fueki, Amal A Wanigatunga, Thomas K M Cudjoe, Jun Aida. Social Relationships and Tooth Loss in Adults Aged 60 Years and Older: A Systematic Review and Meta-Analysis. Community Dent Oral Epidemiol. 2024.10;

2. Yoshihiro Yamaguchi, Kazuhiro Ooi, Hidemichi Yuasa, Akira Nishiyama, Yoshizo Matsuka,Takahiro Abe, Shinpei Matsuda, Yuki Watanabe, Yoshitaka Suzuki, Miki Kashiwagi,Azuma Kosai, Kenichi Sugai, Keika Hoshi, Yasuhiro Ono, Toshihiro Fukazawa,Hidehisa Matsumura, Yuko Fujihara, Hiroyuki Ishiyama. Efficacy of initial conservative treatment options for temporomandibular disorders: A network meta-analysis of randomized clinical trials Journal of Prosthodontic Research. 2024.09;

3. Kenji Fueki, Yuta Manabe, Keiichi Sasaki, Katsuhiko Kimoto, Mamoru Hashimoto, Takayuki Ueda, Kumiko Utsumi, Tomohisa Ishikawa, Kazuyoshi Baba, Manabu Ikeda, Takuo Kuboki. Medical-dental collaboration on an exploratory research project on the correlation between cognitive and oral function: The ECCO project. J Prosthodont Res. 2024.07;

4. Yuka Inamochi, Yoichiro Ogino, Kae Harada, Kenji Fueki, Yasunori Ayukawa, Masahiro Nishimura, Kenji Maekawa, Youngnam Kang, Toshihiro Hirai, Takuo Kuboki. Do oral care and rehabilitation improve cognitive function? A systematic review of clinical studies Journal of Evidence-Based Dental Practice. 2024.03; 24(1); 101948

[講演 · 口頭発表等]

1. Fares Raafat Elsayed Mohamed Moustafa, Kenji Fueki, Akira Nishiyama, Hiroyuki Ishiyama. Relationship between TMD-related symptoms and personal computer use, psychosocial factors, and behavioral factors in Japanese working population. The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics 2024.07.06 Chiba City, Chiba Prefecture, Japan

1. Li Yajie, Yuka Inamochi, Tatsuhiko Anzai, Noriyuki Wakabayashi, Kunihiko Takahashi, Kenji Fueki. An Explainable Artificial Intelligence for Designing Removable Partial Denture Framework. 口腔病学会第 89 回学術大会 2024.12.07 東京科学大学

2. 宮園敬資，石山裕之，西山 暁, 笛木賢治. 総負荷を規格化した持続的クレンチングが咬筋の圧痛閾値と筋硬度に及ぼす影響. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.06 東京都文京区

3. 松村茉由子, 松村光明, 北崎祐之, 馬場史郎, 笛木賢治. 掌蹠膿疱症 · 掌蹠膿疱症性骨関節炎患者に対し，歯科治療を併用した治療方法を示す一例. 令和 6 年度 日本メタルフリー歯科学会 第 15 回学術大会 2024.12.01

4. 宮園敬資, 石山裕之, 西山 暁. 総負荷を規格化した持続的クレンチングが咬筋の圧痛閾値と筋硬度に及ぼす影響. 第 29 回日本口腔顔面痛学会学術大会 2024.11.30 東京都千代田区

5. 田邊 元，蓮沼哲哉，外川海斗，堀田葉子，林 海里，中禮 宏，宮澤 慶，森谷直樹，上野俊明. アスリート合宿期間中の主観的コンディション評価指標の連動類似性. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16 新潟

6. 中禮　宏. オリンピック · パラリンピックをもっと楽しむために〜歯科とスポーツの関係に迫る！ 〜. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16 新潟

7. 戸邉昌子, 秀島雅之, 石山裕之, 三間裕子, 山口浩平, 田村厚子, 宮地舞, 田中裕香. 藤田秋世, 立石知也. 快眠歯科外来新患症例の口腔内装置 (OA) 療法の実態調査 — コロナ禍の傾向—. 第 23 回日本睡眠歯科学会学術集会 2024.11.03 徳島県徳島市

8. Liu Shaoyuan, 石山裕之, Suvichaya Angkulmahasuk, 西山暁, 笛木賢治. 閉塞性睡眠時無呼吸に対する下顎前突型口腔内装置の使用が, 顎関節症症状に及ぼす影響：システマティックレビューおよびメタ解析. 第 23 回日本睡眠歯科学会定期学術集会 2024.11.02 徳島県徳島市

9. Thida Aung, 中禮 宏, 林 海里, Kaung Sithu, 劉暢, 連匀嘉, 槌谷和義, 佐々木一馬, 田邊 元, 上野俊明. 複数部位のセンサーを使用した唾液 pH の同時測定. 日本スポーツ歯科医学会第 35 回総会 · 学術大会 2024.10.13 大阪

10. Jahan Esha Ishrat，林 海里，中禮 宏. 競技によって観客に生じた外傷が重度の皮膚蝿蛆症を引き起こした症例. 日本スポーツ歯科医学会第 35 回総会 · 学術大会 2024.10.13 大阪

11. 李 澤群, 林 海里, 朱 秋爽, 連匀嘉, 清水慎太郎, 田邊 元, 中禮 宏, 上野俊明. 唾液分泌量とワーキングメモリーとの関連についての In vivo 研究. 日本スポーツ歯科医学会第 35 回総会 · 学術大会 2024.10.13 大阪

12. 大原庸子，林 海里，田邊 元，中禮 宏，上野俊明. 「スポーツによる相対的エネルギー不足（REDs）」が疑われる減量期ボディビルダーに対し、スポーツ栄養士と連携対応した症例. 日本スポーツ歯科医学会第 35 回総会 · 学術大会 2024.10.13 大阪

13. 李 澤群，林 海里，朱 秋爽，中禮 宏，笛木賢治. Investigation of the association between salivary secretion and cognitive function in vivo study. 認知症と口腔機能研究会第 5 回学術集会 2024.08.25 東京
14. 松村茉由子, 松村光明, 北崎祐之, 馬場史郎, 駒田　亘, 笛木賢治. 掌蹠膿疱症 · 掌蹠膿疱症性骨関節炎患者に対し、歯科的アプローチにより改善した一例. 日本脊椎関節炎学会 第 34 回学術集会　2024.08.18
15. 木村浩子. 抜歯とインプラントを繰り返した非定型歯痛と口腔異常感症の治療経験. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術大会 2024.07.19 松本市
16. 石山裕之. 閉塞性睡眠時無呼吸のオーラルアプライアンス療法における、顎関節症への対応. 第 37 回日本顎関節学会総会 · 学術大会 2024.07.15 徳島県徳島市
17. Suvichaya Angkulmahasuk, Akira Nishiyama, Hiroyuki Ishiyama. Establishment of new test conditions for non-functional masseter muscle activity during wakefulness . 第 37 回日本顎関節学会総会 · 学術大会 2024.07.15 徳島県徳島市
18. Bai Z, Sumita YI, Hattori M, Ito E, Han X, Miao M, Pang X, Tanabe G, Wakabayashi N. Effect of the music exercise on improving the oral functions of patients with maxillofacial defects: a randomized controlled trial. 第 3 回日本演奏芸術医学研究会学術集会 2024.07.14 順天堂大学有山登メモリアルホール（東京 · 文京区）
19. 松村光明，松村茉由子. 歯科金属アレルギーの現状. 日本成人矯正歯科学会 認定医プログラム 2024.07.08
20. 石山裕之, 西山 暁, 笛木賢治. 顎関節症患者の QoL に影響及ぼす要因 -探索的研究-. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.07 千葉県千葉市
21. 河野英子，笛木賢治，七丈直弘. 歯科インプラント研究の動向分析ー内閣府エビデンスシステムの論文書誌情報をもとにー. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉県千葉市
22. Li Yajie, Yuka Inamochi, Tatsuhiko Anzai, Kazuki Sakamoto, Eung-Yeol Kim, Hirokazu Sato, Taku Nemoto, Noriyuki Wakabayashi, Kunihiko Takahashi, Kenji Fueki. An Explainable Artificial Intelligence for Designing Removable Partial Denture Framework. The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics 2024.07.06 幕張メッセ
23. 瀧田美奈，野崎浩佑，駒田亘，大竹志保，笛木賢治. 紫外線照射による PEEK のコンポジットレジンに対する接着強さの向上. 日本補綴歯科学会　第 133 回学術大会 2024.07.06 幕張メッセ　国際会議場
24. 中禮 宏，李 晨媛，和田 敬広，土田 優美，林 海里, 田邊 元，上野 俊明. 積層造形 3D スポーツマウスガードの衝撃吸収性と耐久性最適化のための実験的検討. 第 133 回 日本補綴歯科学会 学術大会 2024.07.01 千葉
25. 瀧田 美奈, 野崎 浩佑, 駒田 亘, 大竹 志保, 笛木 賢治. 紫外線照射による PEEK のコンポジットレジンに対する接着強さの向上. 日本補綴歯科学会誌 2024.07.01
26. 稲用友佳，安齋達彦，高橋邦彦，笛木賢治. Convolutional Neural Network を用いた 部分床義歯の設計を予測する AI 開発. 第 6 回日本メディカル AI 学会学術集会 2024.06.21 名古屋市公会堂
27. 石山裕之. 鑑別疾患すべき疾患の注意点. 日本顎関節学会第 58 回学術講演会 2024.01.28 オンライン

[Works]

1. ジュニア期のスポーツマウスガード製作 · 管理のポイント, 教材, 日本歯科医師会／日歯生涯研修ライブラリー, 2013 年 04 月 - 現在
2. ＜スポーツと歯科（1）＞スポーツやるなら歯医者さんへ, その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在
3. ＜スポーツと歯科（2）＞最高のパフォーマンスを生み出すには！？ , その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在
4. ＜スポーツと歯科（3）＞マウスガード徹底解説, その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在
5. スポーツ活動中の歯 · 口のけがの防止と応急処置（Web· DVD· YouTube）, 教材, 日本スポーツ振興センター学校安全 WEB、DVD、YouTube, 2016 年 03 月 - 現在
6. スポーツ活動中の歯 · 口のけが防止と応急の処置—中高校生へのアドバイス—（PPT 教材）, 教材, 2021 年 01 月 - 現在

7. 学校でのスポーツ事故を防ぐために—歯 · 口のけが事例分析と予防 10 か条—（WEB、YouTube）, 教材, 日本スポーツ振興センター学校安全 WEB、YouTube, 2021 年 03 月 - 現在
8. +TD 「親子で歯科アレルギーを語る」第 1〜13 回, Web サービス, 2023 年 08 月 - 2024 年 05 月

[受賞]

1. 大会長優秀発表賞, 一般社団法人 日本メタルフリー歯科学会, 2024 年 12 月

[その他業績]

1. 第 37 回日本顎関節学会学術大会, 2024 年 07 月
   口演賞選考委員
2. 第 23 回日本睡眠歯科学会総会 · 学術集会 , 2024 年 11 月
   大会賞選考委員

[社会貢献活動]

1. 日本補綴歯科学会東京支部代議員, 2013 年 04 月 - 現在
2. 日本睡眠歯科学会診療ガイドライン委員会, 日本睡眠歯科学会, 2017 年 - 現在
3. ストップ · ザ · いびき—補綴医が教える効果的な Oral Appliance の作り方—, 東京医科歯科大学　歯科同窓会学術部 , 東京医科歯科大学, 2018 年 06 月 24 日 - 現在
4. 日本顎関節学会若手部会委員, 日本顎関節学会 , 2019 年 - 現在
5. 日本睡眠歯科学会評議員, 日本睡眠歯科学会, 2019 年 - 現在
6. 日本睡眠歯科学会専門機構委員会, 日本睡眠歯科学会, 2019 年 - 現在
7. 日本睡眠歯科学会医療安全委員会委員, 日本睡眠歯科学会, 2019 年 - 現在
8. TMD を診断する TCH をコントロールする, 東京医科歯科大学歯科同窓会学術部, 東京医科歯科大学, 2019 年 02 月 14 日 - 現在
9. TMD を診断する TCH をコントロールする, 東京医科歯科大学　歯科同窓会学術部 , 東京医科歯科大学, 2019 年 02 月 24 日 - 現在
10. マラヤ大学紀要 編集委員, マラヤ大学, 2019 年 04 月 - 現在
11. Journal of Prosthodontic Research 編集委員, 日本補綴歯科学会, 2019 年 07 月 - 現在
12. 日本生活共同組合理事, 2020 年 07 月 - 現在
13. 日本補綴歯科学会東京支部代議員, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
14. 日本顎関節学会診療ガイドライン委員会委員, 日本顎関節学会 , 2022 年 - 現在
15. 日本顎関節学会学術委員会委員, 日本顎関節学会, 2022 年 - 現在
16. 日本顎関節学会社会連携 · 広報委員会委員, 日本顎関節学会, 2022 年 - 現在
17. 日本顎関節学会 COI 委員会委員, 日本顎関節学会, 2022 年 - 現在
18. 日本睡眠歯科学会教育委員会（地域教育、各種教育セミナー企画運営部会）委員, 日本睡眠歯科学会, 2022 年 - 現在
19. 認知症の方の歯科診療について, 読売新聞社, 医療ルネサンス, 2022 年 12 月 23 日 - 現在
20. 歯科医が知っておくべき, 睡眠時無呼吸の臨床 ー口腔内装置の設計, および副作用の対応についてー, WHITE CROSS 株式会社, オンライン, 2023 年 08 月 - 現在
21. 歯科金属アレルギーについて, NHK, あさイチ, 2024 年 04 月 25 日 - 2024 年 06 月 03 日
22. 歯科金属アレルギーについて, NHK, あさイチ, 2024 年 04 月 25 日 - 2024 年 06 月 03 日

23. 日本スポーツ歯科医学会代議員, 2024 年 06 月 - 現在
24. 日本スポーツ歯科医学会渉外委員, 2024 年 06 月 - 現在
25. 日本スポーツ歯科医学会医療保険委員, 2024 年 06 月 - 現在

歯髄生物学

Pulp Biology and Endodontics

教　　授
興地隆史

准教授
川島伸之

講　　師
渡辺聡，海老原新

助　　教
田澤建人，牧圭一郎，木村俊介

特任助教
岡田大和（4 月～）

医　　員
星原康宏（～3月），岡田大和（～3月），大森智史，川村拓也（～3月），春日柚香（4月～），
森大朗（6月～），　小牧令昂，星野陽子（～3月），末吉峻幸（4月～），吉田麻莉（4月～）

大学院生
奥田大樹（～3月），Han Peifeng（～3月），春日柚香（～3月），望月綜太（～3月），
Nyein Chan Ko（～9月），伊藤遼太，平野恵子，佐竹和久(社会人大学院生)，Yu Ziniu，Wang Shihan，
山本里沙子，Khaing Nyein Pwint，Ren Chunmei，名取健太郎（～3月），豊田康氣，大島理紗，
Bai Xiyuan，Phu Yadanar Aung Myint，Alghamdi Faisal Turki A，石通昌治，斉藤隆馬，岩井郁(社会人
大学院生)，Luo Yanshan，Chen Yanyan，汪叙彤，髙橋淳之介（4月～），Le Ngoc Phuong Linh（10月～）

大学院研究生
末吉峻幸　（～3月），中野奏美，森大朗　（～5月），吉田麻莉(～3月），竹澤百代（4月～），
富田礼央奈（5月～），張楚暻（9月～），周楚儀（10月～），劉帥辰（9月～），白甲一（9月～）

（１）分野概要

歯髄生物学分野は，歯髄および根尖歯周組織の疾患の予防，診断ならびに治療を考究する歯内療法学を専攻する分野である．歯髄は周囲を硬組織に囲まれた特殊な環境下に置かれている．歯を保存し，口腔内で十分に機能させるためには，歯髄の構造的 · 機能的特徴をよく理解し，歯髄の保護に努める必要がある．他方，歯髄疾患を放置すれば，やがて歯髄死を招き根尖歯周組織疾患を生ずるに至るが，その治療に際しては，複雑な根管系における細菌感染の入念な排除が必要となる．歯内療法学は，歯髄疾患や根尖性歯周疾患の予防や治療により，歯を保存し永くその機能を営ませることを目的としている．

（２）研究活動

1.象牙質/歯髄複合体のバイオロジーと歯髄組織の再生
歯髄炎におけるmicroRNAの役割と炎症制御近年，各種microRNAが様々な生体反応において重要な役割を担っていると報告されている．そこで，我々は予備実験によりmicroRNAの一つであるmi iR-146b-5pがLPS刺激したヒト歯髄細胞において発現が増加することを見出し，歯髄炎発症過程におけるmiR-146b-5pの役割について評価した．
miR-146b-5pはLPS刺激ヒト歯髄細胞において，LPS刺激に伴い産生されるIL-6により活性化される JAK/STAT シグナルを介して産生が誘導されることが明らかになった．miR-146b-5pはLPS刺激で活性化されるNFkBシグナルを介する炎症性メディエーター発現を抑制するが，その時TRAF6，IRAK1，RELAをターゲットとすることが明らかになった．特に，RELAの３'UTRにmiR-146b-5pの結合配列が存在することを今回初めて明らかにした．
miR-146b-5pはラット実験的歯髄炎においても発現の増加が確認され，LPS刺激ラット切歯歯髄組織においてもmiR-146b-5pは炎症性メディエーター発現を抑制した．以上の結果から，miR-146b-5p が歯髄炎の進展において， その炎症反応の進行を抑制するメカニズムの一つとして機能している可能性が示唆された．
さらにmiR-27aも同様にLPS刺激ヒト歯髄細胞において発現が増加することを見出し，その機能について解析を行っている．
2.歯科用レーザーを用いた根管洗浄の安全性および清掃性に関する検討
歯内療法における新たな根管洗浄法として，歯科用 Er:YAG レーザー照射装置を用いた LAI (laser-activated irrigation) の臨床応用が期待されている．そこで，LAI でのキャビテーション挙動，根尖孔外への溢出リスク，および複雑な根管形態への洗浄効果を解析した．その結果，LAI は超音波洗浄法等と比較して，照射チップ先端から遠位に位置する模擬根管側枝内の水酸化カルシウム除去効率に優れることが判明した．また，LAI の水酸化カルシウム除去能は照射エネルギーやチップの先端径の増加によって有意に増加した．さらにレーザー照射条件が，根管内蒸気泡の挙動および根尖孔外に生じる圧力に及ぼす影響を解析したところ，蒸気泡数と最大径は，照射エネルギー，繰り返しパルス数，チップ径増加により有意に増加した．蒸気泡速度は繰り返しパルス数の増加に伴い上昇したが，照射エネルギーとチップ径による有意差を認めなかった．根尖孔外に生じた圧力は，上記全ての照射条件の増加で有意に増加した．またレッジや破折ファイル片を有する根管形態に対する LAI の挙動を評価したところ，レッジや破折ファイル片を越えた根尖部においても洗浄効果を認め，超音波洗浄と比較して有意に高い洗浄液の活性化挙動を示していた．
3.バイオアクティブな歯内療法材料の特性評価と新規材料の開発
3-1 水硬性ケイ酸カルシウム系シーラーの特性 水硬性ケイ酸カルシウム系シーラーであるBio-C sealer (BioC)， Well-Root ST (WST) および EndoSequence BC sealer (BC) が，骨芽細胞の分化/石灰化とマクロファージからの炎症性サイトカイン産生に与える影響について検討した．BioC，WST および BC 抽出液は，Kusa-A1 細胞におけるオステオカルシンおよびオステオポンチンの mRNA 発現および石灰化結節形成を有意に促進した．また BioC，WST，BC は，RAW264.7 細胞においてインターロイキン (IL) -1 α，IL-1 β，IL-6，腫瘍壊死因子 (TNF) -αの mRNA 発現，IL-6 および TNF-αのタンパク質レベルを有意に低下させた．BioC，WST，BC は生体適合性が高く，骨芽細胞分化/石灰化を促進し，炎症性サイトカイン発現を抑制することが明らかになった．また，これらのシーラーから放出される Ca2+が骨芽細胞分化/石灰化の誘導に関与する可能性が示された．
3-2 新規水硬性歯内療法用セメントとしてのセリウム酸二ストロンチウムおよびアルミン酸ストロンチウム セリウム酸二ストロンチウム (S2Ce) およびアルミン酸ストロンチウム (S3A) を新たに合成し， その硬化時間， 圧縮強度， 相対流動性， X 線造影性を評価した． S2Ce および S3A の硬化時間は 121 および 91 分で， 市販 MTA セメントより早い硬化を示した． 練和 1 日後の S2Ce の圧縮強さは混水比 0.4 において最大 72.1 MPa と市販MTA より高い値を示したが， 28 日後には混水比 0.30～0.40 で有意に圧縮強さが低下した．S3A の圧縮強さは練和 1 日後で 10MPa， 28 日後で 13MPa だった． 溶出特性では両者とも浸漬 1 日後から Sr 溶出が認められた． S2Ce のX 線造影性は市販 MTA の約 3 倍， S3A は MTA とほぼ同等の X 線造影性を示した．

3-3 セルロースナノファイバー添加によるMTAセメントの水中硬化性向上　ポルトランドセメントを主成分とするMineral Trioxide Aggregate（MTA）セメントは優れた封鎖性や生体親和性から直接覆髄などの処置において使用されている．MTA セメントに限らずケイ酸カルシウムを主成分とするポルトランドセメントは硬化中の冠水により硬化が阻害されるという欠点があり，水中で硬化させる場合には増粘剤などの添加が必要である．実際，MTA セメントは充填直後に血液等の体液に接触すると，セメントの硬化阻害が起こることが報告されている．今回，建築分野のセメントの増粘剤として近年注目されているセルロースナノファイバー（CNFs）の添加による MTA セメント硬化体の機械的特性について検討した．その結果，CNFs 添加がNEX MTA に水中硬化性を付与し得ることが明らかになった．水中硬化性の付与は同セメントの臨床において，特に逆根管充塡など体液 · 血液に接触しやすい環境下でも安定して硬化し得ることにつながり，同セメントの臨床応用の拡大に寄与するものと期待される．

4. ニッケルチタン（NiTi）ロータリーファイルを用いた安全で効率的な根管形成

4-1 トルク設定値が，根管形成時に歯根に与える垂直荷重とトルク，および根管形成後の根管の偏位に及ぼす影響を解析した．ヒト下顎大臼歯近心根の彎曲の異なる根管 2 群と下顎前歯根管の直線根管群の計３群に対して，ProGlider とProTaper NEXTにより３種類の設定トルクを用いて自作型自動根管形成・荷重／トルク測定装置で根管形成を行った．その結果，高トルク設定で器具破折が起きたが，設定トルクと根管の彎曲は根管形成能に影響を与えなかった．

4-2 スクリューインフォース（ファイルが根尖方向に引き込まれる力）を減少させるためにファイルの繰り返し上下運動が推奨される．本研究では，形成中に歯根に加わる垂直荷重とトルク，ファイル表面の摩耗，および根管形成能に繰り返し上下動回数が与える影響について検討した．２種類のファイル（TruNatomy，JIZAI）を用いてヒト下顎大臼歯近心根管を３種類の繰り返し上下動で自作型自動根管形成・荷重／トルク測定装置で根管形成を行った．繰り返し上下動回数が多い群で歯冠方向の垂直荷重（スクリューインフォース）は小さかった．TruNatomyがJIZAIと比較して荷重，トルク，表面の摩耗が少なかった．根管形成能には上下動の繰り返し数は影響を与えなかった．

4-3 異なる上下動振幅が往復回転ファイル（Reciproc Blue）を用いた根管形成における垂直荷重，トルク，根管の偏位，回転疲労耐性に与える影響を評価した．J 字型透明根管模型に対して，自作型自動根管形成・荷重／トルク測定装置を用いて，上下動振幅を根尖方向 1 秒，歯冠方向 0.5 秒（S 群），根尖方向 2 秒，歯冠方向 1 秒（M 群），根尖方向 4 秒，歯冠方向 2 秒（L 群）の３条件，上下動速度 50 mm/分にて根管形成を行い，荷重，トルク，根管の偏位を評価した．動的回転疲労試験では，Reciproc Blue を金属製彎曲根管内で 1 mm または 3 mm の振幅で前後動させながら往復回転させた．L 群は S 群と比較して有意に大きな根尖方向の最大荷重および歯冠方向の累積荷重を示したが，トルクは有意差を認めなかった．M 群および L 群は，S 群と比較し根管の偏位が有意に小さかった．動的回転疲労試験では，3 mm の振幅では，1 mm と比較して破折までの時間は有意に長く，また破折片の長さは有意に短かった．Reciproc Blue を用いた根管形成では，上下動振幅を大きくすることで，根管追従性と回転疲労耐性が向上する一方で，根尖および歯冠方向の荷重が増加することが示された．

（３）教育活動

当分野では，歯内療法領域をリードする研究者，臨床医の育成を教育目標としている．近年における歯髄生物学や歯内療法学の進展は目覚ましいことから，その最先端の内容を教授するのみならず，神経生理学，分子生物学，免疫学，生体材料学，画像診断学などの関連領域の知識，さらには最新の治療技法の修得に関する教育も行っている．独自の研究に基づき歯内療法領域における新知見を得ることが大学院の修了要件となる．

（４）臨床活動および学外活動

歯髄生物学分野は，本学歯学部附属病院においてう蝕制御学分野と共にむし歯外来を担当しており，グローバルスタンダードな歯内療法を提供することを目的として診療にあたっている．以下にその代表的な処置内容を挙げる．

・生活歯髄の処置（覆髄法，象牙質知覚過敏症処置）
・非外科的歯内療法
・再根管治療
・マイクロサージェリー
・無髄歯の漂白
・歯内療法後の歯の修復

（５）臨床上の特色

歯内療法は近年大きく変化しており，Ni-Ti ロータリーファイルによる根管形成，歯科用コーンビーム CT による診断，手術用実体顕微鏡下の非外科的・外科的歯内療法（microendodontics）などの導入が図られている．特に microendodontics は，明るい拡大視野下で確実な診断や精密な施術を行うことを可能とするため，今までの「手探りで行ってきた」歯内療法をより確実な歯内療法へと劇的に変化させている．また，本分野における基礎的実験や臨床的研究に基づき，科学的根拠に立脚した歯内療法の提供に努めている．

（６）研究業績

[原著]

1. Myint PYA, Watanabe S, Chen Y, Saito R, Okiji T. Cleaning efficacy and apical pressure in sonically-activated irrigation systems: impact of tip vertical stroke. Journal of Dental Sciences. 2024.12; in press;
2. Xu H, Nozaki K, Yu Z, Kawashima N, Ueno T, Wu H, Wakabayashi N. Surface functiomalization of titanium implants with controlled-release glutathione conjugate for antioxidant and osteogenesis. Journal of Materials Research and Technology, 2024.12; in press;
3. Watanabe S, Yabumoto S, Ikeda S, Okiji T. Evaluation of root and root canal morphology in maxillary first molar teeth: a cone-beam computed tomography study using two classification systems in a Japanese population. Journal of Dental Sciences. 2024.12; in press;
4. Hirano K, Kimura S, Maki K, Omori S, Ebihara A, Okiji T. Impact of varying amplitudes of upward and downward motion on the torque/force generation, canal-centering ability, and cyclic fatigue resistance of nickel-titanium reciprocating instrument. Applied Sciences. 2024.12; 15(1); 288
5. Satake K, Shimogishi M, Watanabe T, Watanabe S, Okiji T. Homogeneity and heterogeneity of microbiota among intraradicular and extraradicular sites in terms of bacterial composition in teeth with post-treatment apical periodontitis. The Journal of the Stomatological of Society, Japan. 2024.11; in press;
6. Ito R, Watanabe S, Satake K, Saito R, Okiji T. Accuracy and efficiency of the surgical-guide-assisted fiber post removal technique for anterior teeth: an ex vivo study. Dentistry Journal. 2024.10; 12(10); 333
7. Watanabe S, Yabumoto S, Okiji T. Evaluation of root and root canal morphology in maxillary premolar teeth: a cone-beam computed tomography study using two classification systems in a Japanese population. Journal of Dental Sciences. 2024.09; in press;
8. Wang S, Kawashima N, Han P, Nara SK, Yu Z, Tazawa K, Fujii M, Kieu TQ, Okiji T. MicroRNA-27a-5p downregulates expression of proinflammatory cytokines in lipopolysaccharide-stimulated human dental pulp cells via the NF-κB signaling pathway International Journal of Molecular Sciences. 2024.09; 25; 9694

9. Chen Y, Watanabe S, Myint PYA, Mochizuki S, Okiji T. Comparisons of the smear layer removal efficacy of dual-action irrigants and different activation techniques Journal of Dental Sciences. 2024.09; in press

10. Ko NC, Noda S, Okada Y, Tazawa K, Kawashima N, Okiji T. Biocompatibility and pro-mineralization effects of premixed calcium silicate-based materials on human dental pulp stem cells: an in vitro and in vivo study. Dental Materials Journal. 2024.09; 43(5); 729-737

11. Kawashima N, Okiji T. Characteristics of inflammatory mediators in dental pulp inflammation and the potential for their control. Frontiers in Dental Medicine. 2024.08; 5; 1426887

12. Mochizuki S, Watanabe S, Liu J, Okiji T. Smear layer removal efficacy of different irrigation techniques in conservatively instrumented root canals. Journal of Dental Sciences. 2024.07; 19(3); 1546-1553

13. Myint PYA, Watanabe S, Okiji T. Comparative effectiveness of different Er:YAG laser-activated irrigation systems on removing calcium hydroxide from simulated internal root resorption cavities at different root levels. Photobiomodulation, Photomedicine, and Laser Surgery. 2024.07; 42(7); 480-487

14. Kyaw MS, Ebihara A, Iino Y, Thu M, Maki K, Kimura S, Htun PH, Okiji T. Effect of repetitive up-and-down movements on torque/force generation, surface defects and shaping ability of nickel-titanium rotary instruments: an ex vivo study. BMC Oral Health. 2024.07; 24 ; 986

15. Kimura S, Ebihara A, Maki K, Kyaw MS, Kasuga Y, Omori S, Okiji T. Phase transformation behavior and mechanical properties of HyFlex EDM nickel-titanium endodontic rotary instrument: Evaluation at body temperature. Journal of Dental Sciences. 2024. 04; 19(2) ; 929-936

16. Ito R, Watanabe S, Kouno A, Yamauchi S, Okiji T. Heat-induced changes in the physical properties of a new premixed calcium silicate-containing root canal sealer; an in vitro study. Dentistry Journal. 2024. 04; 12(4); 106

17. Kyaw MS, Ebihara A, Thu M, Maki K, Kimura S, Htun PH, Okiji T. Effect of present torque setting on torque/force generation, shaping ability and surface changes of nickel titanium rotary instrument in different root canal curvature locations: An ex vivo study. Dental Materials Journal. 2024. 03; 43(3); 329-337

18. Han P, Sunada-Nara K, Kawashima N, Fujii M, Wang S, Kieu TQ, Yu Z, Okiji T. Correction: Han et al. MicroRNA-146b-5p suppresses pro-inflammatory mediator synthesis via targeting TRAF6, IRAK1, and RELA in lipopolysaccharide-stimulated human dental pulp cells. International Journal of Molecular Sciences. 2023, 24, 7433. International journal of molecular sciences. 2024.02; 25(4); 2049

19. Jin C, Adachi N, Yoshimoto Y, Sasabuchi A, Kawashima N, Masato-Ota S, Iseki S. Fibroblast growth factor signalling regulates the development of tooth root. Journal of Anatomy. 2024.01; 244(6); 1067-1077

20. Okuda H, Inada M, Konishi T, Kawashima N, Wada T, Okiji T, Uo M. Improvement of the setting properties of mineral trioxide aggregate cements using cellulose nanofibrils. Dental Materials Journal. 2024.01; 43(1); 106-111

21. 渡辺聡, 興地隆史. 歯内療法における偶発症―穿孔, レッジおよび根管内破折器具について―. 日本歯内療法学会雑誌. 2024.01; 45 (1); 22-33

[書籍等出版物]

1. 鈴木真名, 興地隆史, 辻本恭久, 北村和夫. マイクロデンティストリー YEARBOOK 2024. クインテッセンス出版, 2024.04 (ISBN : 978-4-7812-1001-8)
2. 韓臨麟, 興地隆史. 象牙質知覚過敏症　目からウロコのパーフェクト治療ガイド　第４版. 医歯薬出版, 2024.02 (ISBN : 978-4-263-44697-3)
3. 興地隆史. 口腔組織・発生学　第三版. 医歯薬出版, 2024.01 (ISBN : 978-4-263-45676-7)

[総説]

1. 渡辺聡, 興地隆史. Er:YAG レーザーを応用した根管洗浄の清掃性と安全性. 口腔病学会雑誌. 2024.12;91(2,3); 109
2. 吉田麻里, 渡辺聡, 興地隆史. 自発痛を伴う症候性歯髄炎と診断されたう蝕罹患成熟永久歯に対する部分断髄および歯頸部断髄の成功率と予後因子：無作為化臨床試験 ザ・クインテッセンス. 2024.12; 43(12);186-188
3. 吉田麻莉, 牧圭一郎, 興地隆史. 大きな根尖病変に対する根管治療後の予後予測因子 －CBCTを用いた後ろ向き研究 日本歯科評論. 2024.09; 84(9); 142-143
4. 中野奏美, 渡辺聡, 興地隆史. 後ろ向き研究による選択的再根管治療の治療成績 ザ・クインテッセンス. 2024. 08; 43 (8) ; 211-213
5. 大森智史, 興地隆史. 矯正治療により起こる歯根吸収に生活歯と既根管治療で違いはありますか？ 歯界展望. 2024.08; 144(2); 293
6. 渡辺聡. Er:YAGレーザーの根管洗浄に大きなメリットを感じています. Dental Magazine. 2024. 06; 189;
7. 石通昌治, 渡辺聡, 興地隆史. 日本人における垂直性歯根破折の有病率と関連因子：限局性の歯周ポケットを有する歯の観察研究 ザ・クインテッセンス. 2024.05; 43(5); 182-184
8. 末吉峻幸, 牧圭一郎, 興地隆史. 外傷の既往を有する根未完成上顎切歯に対する歯内療法の予後. 日本歯科評論. 2024. 05; 84(5); 114-115
9. 興地隆史. 根管充塡アップデート～最新のシーラーを中心に～ 日本歯科医師会雑誌. 2024.04; 77(4 付録);16-20
10. 瀧本晃陽, 橋本健太郎, 木村俊介, 雲野颯, 春日柚香, 望月綜太, 興地隆史. 歯内療法に必要な生物学的知識とその臨床的意義～「科学」と「臨床」のトランスレーション～　歯髄/根尖性歯周疾患の病理学と免疫学 歯界展望. 2024.03; 143(3); 440-457
11. 牧圭一郎, 興地隆史. 根尖切除術後の経過不良症例に対して、非外科的再根管治療は有効ですか？ 歯界展望. 2024.03; 143(3); 460
12. 斉藤隆馬, 渡辺聡, 興地隆史. 根管治療の成功率と生存率に関連する重要因子：25年間の前向きコホート研究. ザ・クインテッセンス. 2024. 01; 43(1); 212-214
13. 名取健太郎, 牧圭一郎, 興地隆史. 根尖切除術の経過不良症例に対する非外科的再根管治療の治療成績の後ろ向き研究. 日本歯科評論. 2024.01; 84(1); 138-139

[講演･口頭発表]

1. Bai X, Kawashima N, Okiji T. Anti-inflammatory effects of hypoxia-induced microRNA-210 in lipopolysaccharide-stimulated human dental pulp cells. 口腔病学会第89回学術大会 2024.12.07 Tokyo
2. Myint PYA, Watanabe S, Chen Y, Saito R, Okiji T. Comparison of cleaning efficacy of sonically-activated irrigation systems and the effect of tip vertical strokes on cleaning efficacy and safety. The 161th Meeting of the Japanese Society of Conservative Dentistry 2024.11.22 Himeji
3. Chen Y, Watanabe S, Myint YPA, Mochizuki S, Okiji T. Comparisons of the smear layer removal efficacy of dual-action irrigants and different activation techniques. The 26th JSCD/KACD Joint-Scientific Meeting. 2024.11.21 Himeji
4. Watanabe S. Current trends and advances in laser-activated irrigation (LAI) on root canal cleaning efficacy and safety. The 12th Annual Meeting of Taiwan Academy of Laser in Dentistry 2024.11.10 Taipei, Taiwan
5. Kawashima N, Okiji T. Complicated microRNA world; microRNAs as essential regulators of pulpal inflammation and osteo-/odontoblastic differentiation. 2024, 09.12 Glasgow
6. Ren C, Tazawa K, Kawashima N, Okiji T. Metformin down-regulates alveolar bone destruction in experimentally-induced mice periapical lesions. TMDU-SPRING Retreat 2024, 2024.09.11 Hamamatsu
7. Yu Z, Kawashima N, Wang S, Ren C, Okiji T. MicroRNA-27a promotes osteogenic diffentiation of human dental pulp stem cells in vivo. TMDU-SPRING Retreat 2024, 2024. 09.11, Hamamatsu
8. Wang S. Kawashima N. Yu Z, Okiji T. Anti-Inflammatory Roles of miR-27a-5p in Lipopolysaccharide- stimulated rat dental pulp tissue ex vivo. TMDU-SPRING Retreat 2024, 2024. 09.11, Hamamatsu
9. Khaing NP, Kawashima N, Okiji T. Effect of LPS stimulation oeogenic differentiation of dense cultured human dental pulp stem cell. 第45回日本歯内療法学会学術大会 2024.07.20 大阪
10. Ren C, Tazawa K, Kawashima N, Okiji T. Metformin down-regulates alveolar bone destruction in experimentally-induced mice periapical lesions. 第45回日本歯内療法学会学術大会 2024.07.20 大阪
11. Okiji, T. Vital pulp therapy: Biological basis and clinical evidence. Essential updates on operative dentistry and endodontics 2024.01.29 Bangkok, Thailand
12. 牧圭一郎, 春日柚香, 大森智史, 海老原新, 興地隆史. 卒前学生の根管形成におけるニッケルチタン製ロータリーファイルの有用性の評価. 口腔病学会第89回学術大会 2024.12.07
13. 興地隆史. 歯内療法と歩んだ40年. 口腔病学会第89回学術大会 2024.12.06 東京
14. 木村文彦, 三上理沙子, 水谷幸嗣, 渡辺聡, 岩田隆紀. 歯内-歯周病変を有する歯の保存に関する予後因子の研究：後ろ向きコホート研究. 日本歯科保存学会2024年度秋季学術大会（第161回） 2024.11.21 姫路、神戸
15. 石通昌治, 川島伸之, 宇尾基弘, 興地隆史. セリウム酸ストロンチウムを添加したポルトランドセメントの物性評価. 日本歯科保存学会2024年度秋季学術大会（第161回） 2024.11.21 姫路
16. 岡田大和, 川島伸之, 田澤建人, 野田園子, Nyein Chan Ko, 大島理紗, 石通昌治, 興地隆史. Concentrated growth factor 抽出液のラット歯髄細胞増殖能に対する作用. 日本歯科保存学会2024 年度秋季学術大会（第161回） 2024.11.21 姫路
17. 田澤建人, 興地隆史. 歯冠形態異常を伴う歯内歯に対し低侵襲的な根管治療とレジンダイレクトベニア修復を行った症例. 日本歯科保存学会 2024 年度秋季学術大会（第161回） 2024.11.21 姫路
18. 平野恵子, 木村俊介, 牧圭一郎, 大森智史, 山本里沙子, 豊田康氣, 海老原新, 興地隆史. 上下運動の大きさがReciproc Blueを用いた根管形成に与える影響. 日本保存歯科学会2024年度秋季学術大会（第161回） 2024.11.21 姫路

19. 大島理紗, Angela Quispe-Salcedo, 大島勇人, 川島伸之, 興地隆史. オステオポンチン欠損は mineral trioxide aggregate による直接覆髄後の修復象牙質形成を阻害する. 第66回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.03 長崎

20. 斉藤隆馬, 渡辺聡, 興地隆史. Er:YAG レーザーを用いた根管洗浄時に生じる根尖孔外の圧力 -各種レーザー装置およびパルス幅による影響-. 第3 回日本レーザー歯学会総会 学術大会 2024.10.19 名古屋

21. 興地隆史. エビデンスに基づくベーシックエンド+α. 令和6年度東京都歯科医師会卒後研修 2024.09.29 東京

22. 興地隆史. TMDU 興地教室のエンド臨床 ーマイクロスコープと NiTi ファイルと MTA ー. 東京医科歯科大学歯科同窓会 C.D.E. 第61期 Part II 2024.08.11 東京

23. 則武加奈子, 鶴田潤, 水谷幸嗣, 近藤圭子, 鈴木瞳, 安達奈穂子, 關奈央子, 三上理沙子, 樺沢勇司, 海老原新, 秀島雅之, 新田浩. 東京医科歯科大学歯学部診療参加型臨床実習における職種間連携教育< D6-OH4 連携実習 >の概要とその効果. 第56回日本医学教育学会学術大会 2024.08.09 東京

24. 渡辺聡. エビデンスに基づく根管治療の Update と外科的歯内療法の First step. 向島歯科医師会 2024.07.30 東京

25. 興地隆史. 日常臨床に活かす歯内療法の潮流ー超高齢社会への対応ー. 富士市歯科医師会学術講演会 2024.07.27 富士

26. 伊藤遼太, 渡辺聡, 佐竹和久, 斉藤隆馬, 興地隆史.サージカルガイドを用いたファイバーポスト除去における正確性と効率性の評価. 第45回日本歯内療法学会学術大会 2024.07.21 大阪

27. 大島理紗, 渡辺聡, 興地隆史. 4根管性の遠心根を有する下顎第一大臼歯の一症例. 第45回日本歯内療法学会学術大会 2024.07.21 大阪

28. 豊田康氣, 木村俊介, 牧圭一郎, 大森智史, 春日柚香, 平野恵子, 山本里沙子, 海老原新, 興地隆史. ニッケルチタン製ガッタパーチャ除去用ロータリーファイル HyFlex Remover の理工学的特性. 第45回日本歯内療法学会学術大会 2024.07.21 大阪

29. 興地隆史. 歯の脱臼への歯内療法学的対応. 日本外傷歯学会認定医研修会 2024.07.07 松戸

30. 牧圭一郎, 興地隆史. 外科的歯内療法における歯科用顕微鏡の重要性 -医原性合併症および複雑な根管形態を有する下顎第一大臼歯への対応-. 日本顕微鏡歯科学会 第20回学術大会・総会 2024.06.02 東京

31. 興地隆史. 根未完成外傷歯に対する歯内療法学的対応. 日本外傷歯学会認定医更新セミナー 2024.05.26 松戸

32. 山本里沙子, 牧圭一郎, 木村俊介, 大森智史, 春日柚香, 平野恵子, 海老原新, 興地隆史. ニッケルチタン製ロータリーファイルの使用前冷却処理が動的回転疲労耐性に与える影響. 日本歯科保存学会 2024 年度春季学術大会（第160回） 2024.05.17 仙台

33. 中野奏美, 牧圭一郎, 豊田康氣, 山本里沙子, 平野恵子, 春日柚香, 大森智史, 海老原新, 興地隆史. 未経験者によるニッケルチタン製ロータリーファイルを用いた根管形成に根管形成方法の違いが及ぼす影響. 日本歯科保存学会2024年度春季学術大会（第160 回） 2024.05.17 仙台

34. 豊田康氣, 木村俊介, 牧圭一郎, 大森智史, 春日柚香, 平野恵子, 山本里沙子, 海老原新, 興地隆史. Alternative rotation technique モードがニッケルチタン製ロータリーファイルの 回転疲労耐性に与える影響. 日本歯科保存学会2024年度春季学術大会（第160回） 2024.05.17 仙台

35. 渡辺聡. エビデンスに基づく根管治療のUpdate と外科的歯内療法の First step. 厚木市歯科医師会 2024.03.14 神奈川

36. 渡辺聡. 根管洗浄の安全性の考察と LAI の特定臨床研究. Next Generation 企画 2024.03.05 東京

37. 牧圭一郎, 興地隆史. 逆根管治療における観察の重要性 -3根管を有する下顎第一小臼歯に対する逆根管治療-. 関東歯内療法学会第22回学術大会 2024.01.28 東京

38. 渡辺聡. 根管洗浄の潮流と LAI の洗浄能力の考察. Next Generation 企画 2024.01.05 東京

[Works]

1. 根管充塡アップデート, 教材, 日本歯科医師会生涯研修ライブラリー, 2024 年 04 月

[受賞]

1. 牧圭一郎. 関東歯内療法学会鈴木賢策賞, 関東歯内療法学会, 2024 年 01 月
2. 伊藤遼太. 第45回日本歯内療法学会理事長賞, 第45回日本歯内療法学会, 2024 年 07 月
3. 斉藤隆馬. 第36回日本レーザー歯学会優秀発表賞, 第36回日本レーザー歯学会, 2024 年 10 月
4. 牧圭一郎. 日本歯科保存学会認定医優秀症例発表賞, 2024 年 11 月

[その他業績]

1. 川島伸之. 日本歯内療法学会第31回専門医セミナー座長, 2024 年 11 月3 日

[社会貢献活動]

1. 興地隆史. 虫歯, 根尖性歯周炎の根管治療. 文春ムック. スーパードクターに教わる 最善予防と最新治療 2025, 128-129, 2024

口腔再生再建学分野

Department of Regenerative and Reconstructive Dental Medicine

教授
丸川　恵理子

助教
中田　秀美、下岸　将博、山本　麻衣子、柴崎　真樹

特任助教
津野　美香

医員
横田　香織、高橋　明寛、窪内　友哉、和久田　澪、佐藤　壮将、
國分　大潤、安達　和可菜、加藤　しおり、小倉　基弘、寺内　正彦

(1) 分野概要

歯を失った患者さんに対する治療法として、歯科インプラントを用いた補綴治療（インプラント治療）は極めて効果的である。我々は、インプラント臨床に関わる手法と材料、組織再生に関する研究および教育をおこなっており、さらに東京科学大学病院口腔インプラント科においてインプラント治療をおこなっている。

(2) 研究活動

骨形成を促進する骨補填材の開発、骨形成を促進すると同時に感染に対して抵抗性を示すインプラント表面の開発、インプラント周囲疾患に特異的な病的細菌叢の解析、電気細菌学に基づくインプラント周囲疾患の治療法に関する研究をおこなった。

(3) 教育活動

歯学部学生に対してインプラント治療に必要な基礎的知識の講義をおこなった。インプラント治療におけるインプラント埋入計画についての実習をおこなった。口腔インプラント科において、インプラント治療に必要な検査、インプラント埋入手術、補綴治療とメインテナンスについて教育した。博士課程の学生に対しては、インプラント治療および再生医療についてのより深い内容の教育をおこなった。

(4) 教育方針

基礎的知識を習得し、常に考察する姿勢を身に付ける。

(5) 臨床活動および学外活動

口腔インプラント科において、歯を失った患者さんに対する歯科インプラント治療を用いた審美的かつ機能的な回復、インプラント治療をおこなった患者さんのメインテナンスをおこなった。

(6) 臨床上の特色

当分野が臨床を担当している東京科学大学病院口腔インプラント科は、我国の 29 の歯科大学および歯学部において、最もインプラント治療の症例数が多い施設の一つである。他の医療機関でインプラント治療が難しい症例、他の医療機関でインプラント治療を受けたが問題がある症例が増加している。我々は、難症例そして問題症例への対応が可能である。

(7) 研究業績

[原著]

1. Miyake, R; Shimabukuro, M; Terauchi, M; Marukawa, E; Kawashita, M. Amorphous Magnesium Coating for Achieving Functional Changes from Antibacterial to Osteogenic Activities ACS APPLIED BIO MATERIALS. 2024.12; 7(12); 8565-8572

2. Thoma, D; Gil, A; de Bruyckere, T; Jung, RE; Fukuba, S; Ickroth, A; Strauss, FJ; Cosyn, J. Early implant placement versus ridge preservation and delayed implant placement: Analysis of profilometric, clinician- and patient-reported outcomes from a two-centre RCT CLINICAL ORAL IMPLANTS RESEARCH. 2024.07; 35(11); 1382-1393

3. Wang, TY; Nakata, H; Shen, B; Jiao, ZY; Yokota, K; Kuroda, S; Kasugai, S; Marukawa, E. Involvement of miR-199a-5p-loaded mesoporous silica nanoparticlepolyethyleneimine-KALA in osteogenic differentiation JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2024.07; 19(3); 1506-1514

4. Okada Munehiro, Fukuba Shunsuke, Yamaki Daichi, Iwata Takanori. Clinical outcomes of guided tissue regeneration with carbonate apatite granules and poly(lactic acid/caprolactone) membrane for the treatment of intrabony defects and mandibular Class II furcation involvements: A 12-month prospective pilot clinical study(タイトル和訳中) Regenerative Therapy. 2024.06; 26; 767-774

5. Reziwanguli Aili, Hidemi Nakata, Munemitsu Miyasaka, Shinji Kuroda, Yukihiko Tamura, Taishi Yokoi, Masakazu Kawashita, Yasushi Shimada, Shohei Kasugai, Eriko Marukawa. Evaluation of a hydroxyapatite-crosslinked fish gelatin membranes. J Dent Sci. 2024.04; 19(2); 900-908

6. Jingyang Kang, Masaki Shibasaki, Masahiko Terauchi, Narumi Oshibe, Katsuya Hyodo, Eriko Marukawa. . Comparative analysis of the in vivo kinetic properties of various bone substitutes filled into a peri-implant canine defect model Journal of Periodontal & Implant Science. 2024.04; 54(2); 96-107

7. Yamaki D, Fukuba S, Okada M, Takeuchi S, Hoshi S, Matsuura T, Iwata T. Octacalcium phosphate collagen composite for periodontal regeneration in a canine one-wall intrabony defect. Journal of periodontal research. 2024.02;

8. Tianyue Wang, Hidemi Nakata, Bing Shen, Ziying Jiao, Kaori Yokota, Shinji Kuroda, Shohei Kasugai, Eriko Marukawa. Involvement of miR-199a-5p-loaded mesoporous silica nanoparticle-polyethyleneimine-KALA in osteogenic differentiation Journal of Dental Sciences. 2024.02;

9. Tomohiro Ishikawa, Shunsuke Fukuba. Esthetic management of anterior implants in advanced periodontal defects. Int J Esthet Dent. 2024.01; 19(1); 60-73

10. Shunsuke Fukuba, Yudai Ogawa, Franz J Strauss, Hiroyuki Saida, Daniel Thoma, Akira Aoki, Takanori Iwata. The Apical Tooth Replantation with Surgical Intrusion Technique (ATR-SIT) for Regenerative Treatment of Hopeless Teeth: A Report of Two Cases. Int J Periodontics Restorative Dent. 2024.01; 0(0); 1-27

1. 三宅理沙, 島袋将弥, 丸川恵理子, 川下将一. 歯科インプラント体の表面処理 日本化学会研究会「低次元系光機能材料研究会」ニュースレター. 2024.12; (31); 17-21

2. 斎田 寛之, 野田 昌宏, 武田 浩平, 廣野 大司, 福場 駿介, 澤辺 正規, 長嶋 秀和, 土岡 弘明, 吉野 宏幸, 工藤 求. Perio Ortho Synergy　包括的歯周治療のススメ (第 9 回)　歯周-矯正治療における MTM の有用性 The Quintessence. 2024.08; 43(8); 1732-1746

3. 三宅 理沙, 島袋 将弥, 下岸 将博, 丸川 恵理子, 川下 将一. チタン表面に形成したマグネシウム薄膜の劣化挙動と生体機能変化 日本歯科理工学会誌. 2024.04; 43(Special Issue82); 88

[書籍等出版物]

1. 原田浩之　他. 必ず上達　歯科小手術 ここからはじめる! これならでき! テクニック. クインテッセンス出版株式会社, 2024.03
2. 原田　浩之. 一般臨床家、口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル'24, 別冊 the Quintessence 口腔外科 YEAR BOOK . 2024.03
3. 小田　茂，岩田　隆紀.　必ず上達　歯肉移植.　クイッテッセンス出版株式会社，2024.02 (ISBN : 978-4-7812-0990-6)
4. 骨造成 · 顎骨再生治療の変遷と今後の展望 (解説). Quintessence DENTAL Implantology , 2024.02

[総説]

1. 福場駿介. REPORT CED/NOF-IADR 2024Oral Hralth Research Congress 緊張の海外発表と、他国の先生方と親睦を深めた 3 日間 The Quintessence. 2024.11;

[講演 · 口頭発表等]

1. Mariko Mukai, Maiko Iwaki, Tamaki Hada, Chun Wei Chang, Masahiro Shimogishi, Eriko Marukawa, Yudai Asai, Masaomi Kanauchi, Yasuo Morinaga, Ayaka Kohama, Yuriko Komagamine, Manabu Kanazawa. Development of database for dental implant surgery using MR devices.. IADR Japanese Division 72nd Annual Meeting 2024.11.15 Kagoshima
2. Risa Miyake, Masaya Shimabukuro, Masahiko Terauchi, Masakazu Kawashita, Eriko Marukawa . Biodegradable Mg Coating for Dental Implant Facilitating Antibacterial Activity and Bone Formation. European Association for Osseointegration Annual Congress 2024 2024.10.24
3. Shunsuke Fukuba. Clinical performance of carbonate apatite and poly(lactic acid/caprolactone) bilayer membrane in periodontal regeneration. CED/NOF-IADR 2024.09.12 Geneva, Switzerlands
4. Shunsuke Fukuba, Yudai Ogawa. Apical tooth replantation with surgical root intrusion technique for the treatment of hopeless teeth with severe endo-periodontal lesions, pathologic tooth migration, and gingival recession.. 第 22 回国際外傷歯学会 2024.07.12 東京、日本
5. R. Miyake, M. Shimabukuro, E. Marukawa, M. Kawashita. BIODEGRADABLE COATING CONSISTING OF Mg AND Ca FOR ENHANCING BOTH ANTIBACTERIAL ACTIVITY AND OSTEOGENESIS. Biomaterials International 2024 2024.07.02 Bangkok, Thailand
6. OGURA M, MARUKAWA E, TENGER K, SHIBASAKI M, SHIMOGISHI M. Optimal design for implant treatment on mandibular posterior free end defects based on cases followed-up for more than 4 years.. FDCU International Symposium 2024 2024.05.20
7. Eriko Marukawa. Our Latest Bone Regeneration and Dental Implant Treatment. FDCU International Symposium 2024 2024.05.20
8. Shunsuke Fukuba, Jan Cosyn, Franz, Strauss, Qxelle Ickroth, Alfonso Gil, Thomas de Bruyckere, Ronald Jung, Daniel Thoma. Clinician- and patient-reported outcomes of a multi-center randomized controlled study comparing early implant placement and delayed implant placement following alveolar ridge preservation. ITI World Symposium Singapore 2024.05.09 Singapore

1. 三宅理沙、寺内正彦、柴崎真樹、下岸将博、丸川恵理子. チタン表面へのマグネシウムとカルシウムで構成された薄膜形成による抗菌性および骨形成促進能の付与とその生体適合性評価. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.06
2. 荒井昌海、川名部大、住元泰介、福場駿介. リーダーの視点で見る歯科の未来　若手スタディグループ×MID-G 最高顧問が描くこれからの歯科業界. 東京デンタルショー 2024.11.16 東京、日本
3. 福場駿介. The 7th ITI Consensus 2023 解説& ITI Scholar として Zurich 大学で学んだこと. Young ITI Event 1 Day セミナー東京 · 大阪 2024.11.10
4. 三宅理沙，寺内正彦，柴崎真樹，下岸将博，丸川恵理子. チタン表面に形成した生体吸収性マグネシウム薄膜が骨形成に与える影響. 第 54 回 公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 2024.11.02

5. 毛 雪竹, 下岸 将博, 丸川 恵理子. インプラント体の埋入角度が骨吸収に与える影響における臨床的検討. 日本口腔インプラント学会誌 2024.11.01
6. 佐藤 壮将, 下岸 将博, 毛 雪竹, 高橋 明寛, 丸川 恵理子. インプラント周囲における骨吸収に影響する力学的要因の検討. Japanese Journal of Maxillo Facial Implants 2024.11.01
7. 三宅 理沙, 寺内 正彦, 柴崎 真樹, 下岸 将博, 丸川 恵理子. チタン表面に形成した生体吸収性マグネシウム薄膜が骨形成に与える影響. 日本口腔インプラント学会誌 2024.11.01
8. 小倉 基寛, 下岸 将博, Tenger Khangarid, 柴崎 真樹, 丸川 恵理子. 下顎臼歯部遊離端 3 歯欠損におけるインプラント埋入設計がインプラント周囲骨吸収に与える影響の検討. 日本口腔インプラント学会誌 2024.11.01
9. 福場駿介. Biology から思い描く骨補填材の特性. ｉ６教育講演 2024.08.24 オンライン
10. 斎田寛之、鎌田征之、芝多佳彦、福場駿介. 若手歯科医師、歯科衛生士に贈るベーシックペリオセミナー　ー歯周組織再生療法を始めようー. 若手歯科医師、歯科衛生士に贈るベーシックペリオセミナー 2024.07.10 オンライン
11. 福場駿介. 優しく美しい VISTA テクニックの流儀　歯肉退縮に対する歯周形成外科のポイント. 2024.06.13 オンライン
12. 三宅 理沙, 島袋 将弥, 下岸 将博, 丸川 恵理子, 川下 将一. チタン表面に形成したマグネシウム薄膜の劣化挙動と生体機能変化. 第 82 回　日本歯科理工学会学術講演会 2024.04.20
13. 三宅理沙、島袋将弥、下岸将博、丸川恵理子、川下将一. Amorphous Mg-Ca Coating for Dental Implant Surfaces is Enhancing Osseointegration. 国際 · 産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト第 2 回公開討論会 2024.03.09
14. 津川 順一, 佐藤 文明, 熱田 亙, 甘利 佳之, 佐藤 暢亮, 佐久間 栄, 山本 麻衣子, 丸川 恵理子. DX を活用したインプラント埋入における注意点. 日本口腔インプラント学会誌 2024.03.01
15. 下岸 将博, 柴崎 真樹, 丸川 恵理子. インプラント周囲疾患リスク因子の細菌学的解析. 口腔病学会雑誌 2024.03.01
16. 中村 慎太郎, 立川 敬子, 大石 功貴, 安達 和可奈, 石川 芽依, 高橋 一寿, 小島 麻里江, 丸川 恵理子. 当科における糖尿病罹患者へのインプラント埋入手術に関する臨床的検討. 日本口腔インプラント学会誌 2024.03.01
17. 歯周炎患者のための新たなインプラント表面処理方法. 第 22 回 IBB BioFuture Research Encouragement Prize 研究発表会 2024.01.26

[Works]

1. 口唇と舌で観賞する立体作品《Jam-Dipper》の文化的処方の可能性についての研究, 芸術活動

[受賞]

1. 第 22 回 IBB BioFuture Research Encouragement Prize 大学院博士課程部門 最優秀賞, 東京医科歯科大学生体材料工学研究所, 2024 年 01 月
2. 大学院学生研究奨励賞, 東京医科歯科大学, 2024 年 03 月
3. Best poster award, Biomaterials International 2024, 2024 年 07 月
4. 優秀研究発表賞 , 第 54 回 公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 , 2024 年 11 月

[社会貢献活動]

1. 大学での研究について, 四谷学院, 四谷学院の学部学科がわかる本, 2023 年 11 月 16 日 - 2024 年 01 月 31 日
2. 歯を失ってもあわてない　信頼できるインプラントの選び方, 楽天モバイル株式会社, 楽天シニア, 2024 年 03 月 27 日 - 現在
3. 口腔インプラントの疑問, 東洋経済新報社, 東洋経済オンライン, 2024 年 09 月 25 日 - 現在

口腔デバイス · マテリアル学分野

Department of Oral Devices and Materials

教授	猪越　正直
准教授	大久保　喬平
助教	羽田　多麻木（咬合機能健康科学分野）
大学院生	Xu Kaiqi (高齢者歯科学分野)
	菊田　美穂 (高齢者歯科学分野)
	角南　明歩 (高齢者歯科学分野)
	Okkar Kyaw (高齢者歯科学分野)
	岩瀬　りさ (高齢者歯科学分野)
	Wang Bohua (高齢者歯科学分野)
	Thein Soe (高齢者歯科学分野)
	Lu Yibing (高齢者歯科学分野)
大学院研究生	Yang Menghui
	Qin Ziyang (高齢者歯科学分野)
非常勤講師	乙丸　貴史

(1)　分野概要

口腔デバイス · マテリアル学分野は、2024 年に新設された分野である。
口腔科学センターの口腔デバイス · マテリアル部門を担当し、歯科に関わる装置（デバイス）や、新規歯科材料 · 生体材料（マテリアル）の開発、評価から社会実装までを目指す分野である。
歯科 · 医科だけでなく、理学 · 工学、他の研究機関や企業、海外の研究機関と連携しながら口腔科学研究を推進する。

(2)　研究活動

口腔デバイス · マテリアル学分野では、大きく分けて 2 つのテーマに取り組む。

1. 口腔内環境 · 口腔機能評価用デバイスの開発と、2. 新規歯科材料の開発であり、いずれのテーマにおいても、積極的な社会実装を目指す。

(1) 口腔内環境 · 口腔機能評価用デバイスの開発
①口腔機能低下症といった口腔機能の評価が可能なデバイスの開発
②咬合力や咀嚼能力を評価可能なデバイスの開発

(2) 新規歯科材料の開発
①歯科用セラミックス · ジルコニアに関する先駆的研究
②歯科用高分子材料に関する研究
③バイオアクティブ材料に関する研究
④新規歯科材料に関する臨床研究
⑤新規歯科材料や歯科治療技術に関するシミュレーション解析

(3) 研究業績

[原著]

1. Li X, Liang S, Inokoshi M, Zhao S, Hong G, Yao C, Huang C. Different surface treatments and adhesive monomers for zirconia-resin bonds: A systematic review and network meta-analysis. Jpn Dent Sci Rev. 2024.12; 60; 175-189

2. Okkar Kyaw, Inokoshi M, Kanazawa M. Tribological aspects of enamel wear caused by zirconia and lithium disilicate: A meta-narrative review. Jpn Dent Sci Rev. 2024.12; 60; 258-270

3. Adira Nofeadri Ryofi, Kyohei Okubo, Yoshitaka Kitamoto. Magnetically Hydrodynamic Behavior of Magnetoliposomes Designed for Liquid-Based Biomolecular Sensing Proceedings of 2024 Powder Metallurgy World Congress & Exhibition (WORLD PM2024). 2024.12; 707-714

4. Keyu Qi, Tamaki Hada, Xiangyu Ren, Maiko Iwaki, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Effects of different 3Y-TZP nanoparticle concentrations on reinforcing mechanical properties of 3D-printed resin using stereolithography technology. Journal of Prosthodontics. 2024.11;

5. Otomaru T, Sumita YI. A digital duplicating obturator with 3D printing technology. Int J Maxillofac Prosthetics. 2024.11; 7(1); 16-19

6. Kitahara S, Shimizu S, Takagaki T, Inokoshi M, Abdou A, Burrow MF, Nikaido T. Dentin bonding durability of four different recently introduced self-etch adhesives. Materials (Basel). 2024.08; 17; 4296

7. Wibias Muliawan, Kyohei Okubo, Yoshitaka Kitamoto. Effect of interparticle and inter-cluster dipole–dipole interactions on dynamic behavior of superparamagnetic iron oxide nanoparticles modified with citric acid Journal of Applied Physics. 2024.08; 136(7); 073903

8. Tonprasong W, Inokoshi M, Tamura M, Yoshihara K, Takahashi R, Nozaki K, Wada T, Minakuchi S. Does dental material type influence bacterial adhesion under the same polishing conditions? Direct observation using a fluorescent staining technique: An in vitro study. Dent Mater J. 2024.07; 43(4); 485-494

9. Masakazu Umezawa, Hikaru Haraguchi, Gaku Sugawara, Konosuke Sato, Hiroyuki Kurahashi, Teiji Oda, Kyohei Okubo, Kohei Soga. Temperature imaging inside fluid devices using a ratiometric near infrared (NIR-II/III) fluorescent Y2O3: Nd3+, Yb3+, Er3+ nanothermometer Analytical Sciences. 2024.04; 40(7); 1323-1330

10. Onuma H, Inokoshi M, Xu K, Minakuchi S. Fracture strength of porcelain veneer on surface-treated zirconia. Dent Mater J. 2024.03; 43(2); 263-268

11. Katada H, Inokoshi M, Kamijo S, Liu H, Xu K, Kawashita M, Yokoi T, Shimabukuro M, Minakuchi S. Effects of multiple firings on the translucency, crystalline phase, and mechanical strength of highly translucent zirconia. Dent Mater J. 2024.03; 43(2); 294-302

12. Ryodai Fukushima, Toshihiro Takamatsu, Konosuke Sato, Kyohei Okubo, Masakazu Umezawa, Nobuhiro Takeshita, Hiro Hasegawa, Hideo Yokota, Kohei Soga, Hiroshi Takemura. Non-invasive imaging of exposed nerves in vivo with near-infrared hyperspectral laparoscopic devices Proceedings of SPIE Medical Imaging 2024: Image-Guided Procedures, Robotic Interventions, and Modeling. 2024.03; 12928; 129281X

13. Hiroyuki Kurahashi, Masakazu Umezawa, Kyohei Okubo, Kohei Soga. Pixel Screening in Lifetime-Based Temperature Mapping Using β-NaYF4:Nd3+,Yb3+ by Time-Gated Near-Infrared Fluorescence Imaging on Deep Tissue in Live Mice ACS Applied Bio Materials. 2024.03; 7(6); 3821-3827

14. Li M, Huang S, Willems E, Soete J, Inokoshi M, Van Meerbeek B, Vleugels J, Zhang F. UV-Curing Assisted Direct Ink Writing of Dense, Crack-Free, and High-Performance Zirconia-Based Composites With Aligned Alumina Platelets. Adv Mater. 2024.02; 36(5); e2306764

15. Hada T, Komagamine Y, Kanazawa M, Minakuchi S. Fabrication of sports mouthguards using a semi-digital workflow with 4D-printing technology. J Prosthodont Res. 2024.01; 68(1); 181-185

16. Iwaki M,Kanazawa M,Soeda Y,Hada T, Komagamine Y,Minakuchi S . Effect of digital complete dentures manufactured using the custom disk method on masticatory function Heliyon. 2024.01; 10(1); 1-11

17. Namano S, Kanazawa M, Katheng A, Trang BNH, Hada T, Komagamine Y, Iwaki M, Minakuchi S. . Effect of support structures on the trueness and precision of 3D printing dentures: An in vitro study. J Prosthodont Res.. 2024.01; 68; 114-121

18. Ryodai Fukushima, Toshihiro Takamatsu, Kounosuke Sato, Abian Hernandez-Guedes, Gustavo M. Callico, Kyohei Okubo, Masakazu Umezawa, Hideo Yokota, Kohei Soga, Hiroshi Takemura. Detection of Exposed Nerves in Two Individuals In Vivo and Unexposed Nerves Ex Vivo with Near-Infrared Hyperspectral Laparoscope 2024 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII). 2024.01; 19-24

[書籍等出版物]

1. 二階堂徹 編著. 猪越正直 分担執筆. CAD/CAM 冠，ジルコニアがとれないための処方箋. クインテッセンス出版, 2024.08 (ISBN : 978-4-7812-1023-0)

[総説]

1. 猪越正直. ジルコニアへの接着法: セラミックス関連材料研究の舞台裏. 接着歯学. 2024.12; 42(4); 131-134
2. 羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤学. 3D プリント義歯の臨床応用ー現状と展望ー 国際歯科学士会日本部会雑誌. 2024.09; 55(1); 33-36
3. 猪越正直. 歯科用ジルコニアの特徴と接着. 日本歯科理工学会誌. 2024.05; 43(2); 79-82

[講演 · 口頭発表等]

1. Okkar Kyaw, Inokoshi M, Kanazawa M. Fracture toughness evaluation of zirconia ceramics through multiple in silico chevron-notch beam models. 89th Conference of the Stomatological Society 2024.12.06 Tokyo
2. Inokoshi M. Overview and future perspectives of dental zirconia research. RWTH - Science Tokyo Joint Workshop on ”TransMedMat” 2024.12.03 Aachen
3. Mariko Mukai, Maiko Iwaki, Tamaki Hada, Chun Wei Chang, Masahiro Shimogishi, Eriko Marukawa, Yudai Asai, Masaomi Kanauchi, Yasuo Morinaga, Ayaka Kohama, Yuriko Komagamine, Manabu Kanazawa. Development of database for dental implant surgery using MR devices.. IADR Japanese Division 72nd Annual Meeting 2024.11.15 Kagoshima
4. Okkar Kyaw, Inokoshi M, Yamaguchi S, Kanazawa M. In silico analysis of cantilevered resin-bonded fixed dental prostheses. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.05 Turin
5. Inokoshi M. Current status and future prospects of S-PRG filler-containing dental materials in geriatric dentistry. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.04 Turin
6. Sunami A, Inokoshi M, Tamura M, Takahashi R, Kanazawa M. Shear bond strength of relining material containing nano S-PRG filler. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.03 Turin
7. Iwase R, Inokoshi M, Nakai H, Yoshihara K, Kanazawa M. Grain size distribution of machinable fully-sintered dental zirconia. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.03 Turin
8. Kikuta M, Inokoshi M, Yamamoto M, Kanazawa M. Curing time evaluation of 4-META/MMA-TBB resin as restorative materials. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.03 Turin
9. Inokoshi M. Impact of S-PRG filler-containing dental materials. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)
10. Okkar Kyaw, Inokoshi M, Yamaguchi S, Minakuchi S. In silico nonlinear dynamic finite element analysis for the evaluation of fracture toughness in zirconia ceramics. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)
11. Sunami A, Inokoshi M, Tamura M, Takahashi R, Hatano K, Minakuchi S. Shear bond strength to denture base resin of novel hard relining material containing S-PRG filler. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)

12. Iwase R, Inokoshi M, Okkar Kyaw, Wang B, Minakuchi S. Basic properties of machinable fully-sintered dental zirconia. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)

13. Nakai H, Inokoshi M, Katada H, Iwase R, Okkar Kyaw, Minakuchi S. Evaluation of extra-high translucent zirconia: translucency, crystalline phase, mechanical properties. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)

14. Nguyen Thi Khanh An, Tamaki Hada, Maiko Iwaki, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Effect of different surface treatments on the bond strength between light-cure hard chairside relining material and CAD/CAM milled denture base material. The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 Chiba

15. Otomaru T, Sumita YI. A digital duplicating obturator with 3D printing technology. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 Makuhari Messe (Chiba, Japan)

16. Ren Xiangyu, Tamaki Hada, Keyu Qi, Maiko Iwaki, Motohiro Uo, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa . Enhancing mechanical properties of photopolymer denture base resins by the incorporation of cellulose nanofibers (CNF). The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.06 Chiba

17. Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Determination of the optimal cell density for immunofluorescence observation of MC3T3-E1 cells on zirconia. The 89th annual meeting and scientific session of the Pacific Coast Society for Prosthodontics 2024.06.21 Monterey

18. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Kakehata M, Yashiro H, Takahashi R, Yamamoto M, Ikeda M, Minakuchi S. Bonding efficacy to femtosecond laser irradiated highly translucent zirconia ceramic. 102nd General Session & Exhibition of the IADR 2024.03.16 New Orleans

19. Roubing Ha, Tamaki Hada, Yumika Soeda, Motohiro Uo, Manabu Kanazawa. Effect of build orientation on the mechanical and surface properties of FDM fabricated PEEK RPD framework. International Association for Dental Research; IADR 2024.03.13 New Orleans

20. Qi K, Hada T,Ren X, Iwaki M, Minakuchi S, Kanazawa M. Evaluation of mechanical properties and degree of conversion modified 3Y-TZP nanoparticles reinforced stereolithography resin by using different post-polymerization conditions. The 8th Biennial Joint Congress of JPS-CPS-KAP 2024.03.05 China

21. Roubing Ha, Tamaki Hada, Chunwei Chang, Yumika Soeda, Motohiro Uo, Manabu Kanazawa. Effect of build orientation on the flexural properties and surface hardness of RPD PEEK framework fabricated by FDM. The 8th Biennial Joint Congress of JPS-CPS-KAP 2024.03.05

22. Inokoshi M. Potential of lithium disilicate and zirconia: A guide to modern all-ceramic restorations. The 8th biennial congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou

23. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Minakuchi S. Surface roughness of lithium disilicate glass-ceramic after femtosecond laser irradiation. The 8th biennial congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou

24. Sunami A, Inokoshi M, Tamura M, Hatano K, Minakuchi S. Effects of surface pre-reacted glass ionomer (S-PRG) filler elute on Candida albicans ATCC18804 proteinase production. The 8th biennial congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou

25. Haoyu Li, Tamaki Hada, Anna Miyayasu, Yo Akiyama, Maiko Iwaki , Manabu Kanazawa. Evaluating the efficacy of flowable composite resin for the custom disk method. 8th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou, China

26. Ryodai Fukushima, Toshihiro Takamatsu, Konosuke Sato, Kyohei Okubo, Masakazu Umezawa, Nobuhiro Takeshita, Hiro Hasegawa, Hideo Yokota, Kohei Soga, Hiroshi Takemura. Non-invasive imaging of exposed nerves in vivo with near-infrared hyperspectral laparoscopic devices. Proceedings of SPIE Medical Imaging 2024: Image-Guided Procedures, Robotic Interventions, and Modeling 2024.03 San Diego, California

27. Inokoshi M. Current status and future perspectives of dental zirconia ceramics. Asian Network of Dental Materials Societies (ANDeMS) Kickoff Meeting 2024.01.31 Tokyo

28. Ryodai Fukushima, Toshihiro Takamatsu, Kounosuke Sato, Abian Hernandez-Guedes, Gustavo M. Callico, Kyohei Okubo, Masakazu Umezawa, Hideo Yokota, Kohei Soga, Hiroshi Takemura. Detection of Exposed Nerves in Two Individuals In Vivo and Unexposed Nerves Ex Vivo with Near-Infrared Hyperspectral Laparoscope. 2024 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII) 2024.01 Ha Long, Vietnam

1. 水川祐子，川本章代，羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤 学，髙橋一也. 3D プリントシステムと造形角度が義歯床の精確さに及ぼす影響. 令和 6 年度公益社団法人日本補綴歯科学会関西支部学術大会 2024.12.15 大阪

2. 張 君瑋，羽田 多麻木，向井 マリコ，哈 柔冰，副田 弓夏，金澤 学. 熱溶解積層法と切削加工法によるポリエーテルエーテルケトンと常温重合レジンの接着評価. 第 43 回日本接着歯学会学術大会 2024.11.30 鹿児島 奄美大島

3. 乙丸貴史，村瀬　舞，隅田由香. 一般歯科診療所で広範囲顎骨支持型装置装着患者のメインテナンスを実施した 1 症例. 第 28 回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会 · 学術大会 · 第 41 回一般社団法人日本顎顔面補綴学会総会 · 学術大会 2024.11.30 福岡国際会議場（福岡 · 福岡市）

4. 岩瀬りさ, 猪越正直, 宇尾基弘, 和田敬広, 金澤　学. サンドブラスト処理圧が切削加工可能な完全焼結ジルコニアの表面粗さに与える影響. 令和 6 年度日本歯科理工学会関東地方会セミナー 2024.11.09 松戸

5. 猪越正直. 若手研究者のための英語論文の書き方とコツ. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.07 hybrid (web, 幕張)

6. 水川祐子，川本章代，羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤 学，髙橋一也. DLP と LCD 方式 3 D プリンタで製作した義歯の造形角度の違いが精確さに与える影響. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉

7. 張 君瑋，羽田 多麻木，哈 柔冰，副田 弓夏，宇尾 基弘，金澤 学，水口 俊介. 熱溶解積層法 3D プリンタで造形した PEEK と義歯床用流し込みレジンの接着評価. 第 133 回日本補綴歯科学会学術大会／ The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics 2024.07.05 千葉

8. 岩瀬りさ, 猪越正直, 片田治子, 水口俊介. 切削加工可能な完全焼結ジルコニアの透光性評価. 第 82 回日本歯科理工学会学術講演会 2024.04.21 鹿児島

1. Adira N. Ryofi, Kyohei Okubo, Yoshitaka Kitamoto. Magnetically Hydrodynamic Behavior of Magnetoliposomesk Designed for Liquid-Based Biomolecular Sensing. 2024 Powder Metallurgy World Congress & Exhibition (WORLD PM2024) 2024.10.14 Yokohama

[受賞]

1. Arthur R. Frechette Prosthodontic Research Award Finalist (Ha Roubing), 国際歯科研究学会, 2024 年 03 月

2. Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Poster Competition Awards (1st Prize), the Pacific Coast Society for Prosthodontics, 2024 年 06 月

3. 岩瀬りさ, 猪越正直, 宇尾基弘, 和田敬広, 金澤　学. 日本歯科理工学会関東地方会研究奨励賞, 日本歯科理工学会, 2024 年 11 月

[その他業績]

1. 猪越正直. 世界で最も影響力のある研究者トップ 2% (August 2024 data-update), 2024 年 08 月

2. 羽田多麻木（代表）.『デジタル技術を応用したエアリード楽器ガイドの開発』 , 2024 年 12 月
東京科学大学 · 東京藝術大学マッチングファンド，2024 年 12 月-2025 年 3 月，　500 千円

3. 猪越正直. 二国間交流事業 共同研究 (ドイツ (DAAD) との共同研究), 2024 年 12 月
フェムト秒レーザー加工によるセラミックス製補綴装置の表面改質と軟組織接着の改善
2025-2026

[社会貢献活動]

1. 猪越正直. 日本老年歯科医学会　代議員, 日本老年歯科医学会, 2020 年 06 月 20 日 - 現在
2. 猪越正直. 日本デジタル歯科学会　代議員, 日本デジタル歯科学会, 2020 年 06 月 24 日 - 現在
3. 猪越正直. 日本補綴歯科学会　学術委員会委員, 日本補綴歯科学会, 2021 年 06 月 18 日 - 現在
4. 猪越正直. 日本デジタル歯科学会　教育問題委員会委員, 日本デジタル歯科学会, 2022 年 05 月 - 現在
5. 猪越正直. 日本歯科理工学会　和文誌編集委員会委員, 日本歯科理工学会, 2022 年 05 月 22 日 - 現在

顎顔面頸部機能再建学講座

形成· 再建外科学

Plastic and Reconstructive Surgery

教授 森 弘樹
講師 植村法子
大学院生　山本真魚, 羽賀義剛, 加藤小百合, 小島原知大, 赤澤 聡、米倉悠太

(1) 分野概要

形成外科は、体表の先天性または後天性の形や色の変化を治し、個人を社会に適応させる外科学である。組織移植、再生医療、非外科的治療などを駆使する、整容と機能を「創造する外科」である。
生体組織再建外科学と連携し、臨床 · 教育 · 研究を行っている。

(2) 研究活動

形成外科的手技に則した臨床研究を行っており、創傷治癒、末梢神経再生、脂肪移植、組織工学などの実験研究も行っている。
形成 · 再建外科学担当：森 弘樹
1. 3D カメラを用いた乳房形態 · 顔面形態の研究
2. 皮膚温存乳房切除後の知覚回復の検討
3. 眼瞼下垂/痙攣の分類と形成法のアルゴリズムの開発
4. 外陰圧リンパ浮腫モデルでの脂肪増生の検討-スキャフォールド移植の新たな可能性-
5. マルチスライス CT と ICG 蛍光造影を用いた各種皮弁の血行動態の解明
6. adipogenesis の視点から女性化乳房の機序を解明する研究
7. 神経吻合部の早期機能回復に対する多血小板血漿の効果の検討

(3) 教育活動

形成外科は、診療科としては、主として体表の形態 · 機能の再建を担当し、その領域には全身が含まれる。診断学より治療学（そのほとんどが手術）の比重が高く、顔面 · 頸部、手足など人目につく部位を扱うことが多いため、外見にも配慮した治療結果が求められるのが特徴である。医学生にとって、形成外科は外科系診療科の最も基本となる診療科であり、将来進む専門分野が何であるかにかかわらず、創傷治癒の機序、組織の愛護的な扱い方を学ぶことや、外傷や熱傷に対するプライマリーケアを習得することは、医者として必須事項であると考えている。また、病院内における形成外科の位置づけと、各科との連携によるチーム医療の重要性を理解してもらいたい。まずは、学生が形成外科に興味を持ち、講義や実習が感動の場となるような、教育を目指している。

(4) 教育方針

[学習目標]
1：形成外科の意味あいを知り、外科学における位置づけを理解する。特に他の外科系各科との関連性、競合性、合同性について認識する。

2：形成外科の歴史的背景を知り、社会的必要性を理解する。
3：形成外科的基本手技（皮切縫合，植皮，皮弁，その他の組織移植）における器械、手技を理解し、その結果、どこまで機能的、整容的に修復できるかを知る。
4：形成外科的疾患（皮膚の形成外科，頭部頭蓋の形成外科，顔面，躯幹，四肢の形成外科，整容外科）を認識し理解する。
5：将来的に可能な形成外科的な臓器移植、ならびに組織移植について理解する。
6：生体組織に代用できる人工物質について認識し、将来における代用組織開発への洞察力を養う。
［修得すべき知識・技術に関する目標］
1：形成外科とは何であるか、どうして必要であるかを説明できる。
2：どんな疾患が形成外科に含まれるかを患者または各科の医師に助言でき、適切な対応ができる。
3：それぞれの患者についてどの様な治療方法がとられるべきかの判断ができる。
4：形成外科的基本手技に用いられる器具の取り扱い、縫合糸の選択ができ、どの様な手技が用いられるべきか科学的に論述できる。
卒後教育では、初期臨床研修後の 4 年間の形成外科研修後、日本形成外科学会認定医の資格が取得できるよう研修プログラムを組み、更に一定の臨床経験を積んだ後に以下に述べるような研究活動に取り組み、形成外科学の最前線を開拓する臨床医であると同時に、研究者としても研鑽を積むことを目標としている。

(5) 臨床上の特色

形成外科は外表に表われるすべての醜形を取り扱うため、疾患は多岐にわたり、その対象は全年代に及ぶ。また形成外科医療は全人的なものであり、形成外科医個人によって成り立つものではなく、関連各科との密接な連携が必要である。具体的には小児先天異常は小児科と、また腫瘍切除後の再建では、耳鼻科、頭頸部外科、口腔外科、婦人科、整形外科、一般外科などと関連が深い。特に本学においては今後、歯学部各科と連携することにより、唇、顎、口蓋裂などの先天異常の治療ならびに腫瘍切除後組織欠損の再建についてより総合的に検討していく予定である。

(6) 研究業績

[原著]

1. Ishida N, Tanaka K, Murakami K, Ueno M, Mori H. Closure of Large Tracheocutaneous Fistula Using Modified Hinge Flap and Deltopectral Flap. Head Neck. 2024.12; 46(12); E104-E108

2. Seki Hirohito, Ogiya Akiko, Nagura Naomi, Shimo Ayaka, Narui Kazutaka, Sasada Shinsuke, Ishitobi Makoto, Nogi Hiroko, Kondo Naoto, Sakurai Teruhisa, Yamauchi Chikako, Mori Hiroki, Saiga Miho, Niikura Naoki, Shien Tadahiko. Prognosis of isolated locoregional recurrence after early breast cancer with immediate breast reconstruction surgery: a retrospective multi-institutional study(タイトル和訳中) Breast Cancer. 2024.09; 31(5); 935-944

3. Takada A, Mori H, Nishimura Y, Tanaka K, Okazaki M. The largest perforator of DIEP flap has a higher rate of continuity with the superficial inferior epigastric artery. Asian J Surg. 2024.08;

4. Kato S, Mori H, Saiga M, Watanabe S, Sasada S, Sasaki A, Ogiya A, Yamamoto M, Narui K, Takano J, Seki H, Nagura N, Ishitobi M, Shien T, Collaborative Study Group of Scientific Research of the Japanese Breast Cancer Society. Nipple-areolar complex malposition in breast reconstruction after nipple-sparing mastectomy: a multi-institutional retrospective observational study in Japan. Breast cancer (Tokyo, Japan). 2024.07; 31(4); 649-658

5. Yamamoto M, Mori H, Akiyama M, Okazaki M. Fading and Color Reproducibility of Nipple-Areola Tattoos in Asian Patients. Archives of plastic surgery. 2024.07; 51(4); 356-362

6. Sasada S, Nagura N, Shimo A, Ogiya A, Saiga M, Seki H, Mori H, Kondo N, Ishitobi M, Narui K, Nogi H, Yamauchi C, Sakurai T, Shien T, Collaborative Study Group of Scientific Research of the Japanese Breast Cancer Society. Impact of radiation therapy for breast cancer with involved surgical margin after immediate breast reconstruction: A multi-institutional observational study. European journal of surgical oncology : the journal of the European Society of Surgical Oncology and the British Association of Surgical Oncology. 2024.06; 50(6); 108360

7. Shutaro Nagano, Kana Unuma, Yohsuke Makino, Hiroki Mori, Koichi Uemura. Acute upper airway obstruction due to cervical hematoma after cervicofacial liposuction. J Forensic Leg Med. 2024.05; 104; 102697

8. Nogi H, Ogiya A, Ishitobi M, Yamauchi C, Mori H, Shimo A, Narui K, Nagura N, Seki H, Sasada S, Sakurai T, Shien T, Collaborative Study Group of Scientific Research of The Japanese Breast Cancer Society. Impact of neoadjuvant chemotherapy on the safety and long-term outcomes of patients undergoing immediate breast reconstruction after mastectomy. Breast cancer (Tokyo, Japan). 2024.05; 31(3); 507-518

9. Usami S, Sonoki K, Inami K, Murakami K. Application of extended ulnar parametacarpal perforator free flap for the reconstruction of total pulp defect of the thumb: A case report. Microsurgery. 2024.05; 44(4); e31180

10. Shimada M, Yokoyama K, Fujioka T, Mori H, Tateishi U. Epithelioid hemangioma, a benign vascular lesion mimicking malignancy in [(18)F] FDG PET/CT. European journal of nuclear medicine and molecular imaging. 2024.02;

11. Ueno M, Mori H, Uemura N, Kato S, Tanaka K. Anatomical features of a crossing vein connecting left and right internal mammary veins: A preliminary study with computerized tomography or magnetic resonance imaging. Microsurgery. 2024.02; 44(2); e31148

12. Usami S, Kawahara S, Inami K, Sonoki K, Takemitsu M. Efficacy of Minimally Invasive Ulnar Superficialis Slip Resection for Unfavourable Results after Trigger Finger Release. J Hand Surg Asian Pac Vol. 2024.02; 29(1); 24-28

13. Homma T, Uemura N, Tanaka K, Mori H, Okazaki M. Objective Assessment of the Repeated Botox Treatment to the Synkinesis of Facial Paralysis by the Integrated Electromyography. The Journal of craniofacial surgery. 2024.01; 35(2); 577-581

14. Nojima K, Hayashi M, Tanemura A, Al-Busani H, Saito T, Suzuki T, Ishikawa M, Mori T, Wada S, Yamazaki N, Katayama I, Mori H, Yokozeki H, Okiyama N, Sasaki Y, Namiki T. Activated Akt expression is associated with the recurrence of primary melanomas and further refines the prognostic and predictive values for relapse in acral melanomas. Pigment Cell Melanoma Res. 2024.01; 37(1); 36-44

1. 末岡 大輔, 田中 顕太郎, 森 弘樹, 岡崎 睦. 開口部が狭い広範な胸腔皮膚瘻に対するインレー植皮における新しい分層植皮片固定法 日本形成外科学会会誌. 2024.08; 44(8); 363-369

2. 栗原 美紗樹, 森 弘樹, 植村 法子, 加藤 小百合, 日高 剛朗, 田中 顕太郎. 再建乳房の輝度差の検討　深下腹壁動脈穿通枝皮弁と広背筋皮弁の比較 日本形成外科学会会誌. 2024.03; 44(3); 99-103

3. 清水 寛章, 植村 法子, 森 弘樹, 田中 顕太郎, 岡崎 睦. 高 IgE 症候群に合併した肛門周囲の偽上皮腫性過形成の 1 例 創傷. 2024.01; 15(1); 18-21

4. 宇佐美聡, 稲見浩平, 河原三四郎, 武光真志, 園木謙太郎. Dupuytren 拘縮に対する局所皮弁と人工真皮を併用した治療 日本手外科学会雑誌. 2024; 41(2); 53-57

[書籍等出版物]

1. 森　弘樹. 【形成外科基本手術 02 ーシンプルスタンダードを匠のこだわりの技でー】C-V flap 変法を用いた乳頭再建術ー乳輪径 · 近傍の長い瘢痕の有無による 2 種類の術式の使い分けー. 克誠堂出版, 2024.10

2. 宇佐美聡. 【形成外科基本手術 2 シンプルスタンダードを匠のこだわりの技で】屈筋腱 · 伸筋腱損傷に対する腱縫合術. 克誠堂, 2024.10

3. 宇佐美聡. 【整形外科保存治療ハンドブック】変性疾患　上肢変性疾患　手根管症候群. 中外医学社, 2024.05

4. 森　弘樹, 加藤小百合. 患者さんと家族のための乳房再建ガイドブック. 医歯薬出版株式会社, 2024 (ISBN : 978-4-263-73223-6)

[総説]

1. 植村法子, 森　弘樹. C-V flap による乳頭再建 形成外科. 2024.12; 67(12); 1285-1290
2. 森　弘樹. 東京科学大学（旧東京医科歯科大学）形成外科 形成外科. 2024.12; 67(12); 1362-1364
3. 宇佐美聡. 整容面と機能面を両立する指尖部切断の治療 臨床整形外科. 2024.12; 59(12); 1397-1402
4. 森 弘樹.【みんなに役立つ形成外科手術シミュレーション!】乳房再建のシミュレーション PEPARS. 2024.11; (215); 55-62
5. 森 弘樹.【乳癌学 2024(上)-最新の診断と治療-】乳房の手術　乳房再建手術の歴史, 現況と将来展望 日本臨床. 2024.08; 82(増刊 6 乳癌学 2024(上)); 233-238
6. 森　弘樹. 乳房インプラント再建における創傷治癒 形成外科. 2024.06; 67(増刊); 150-152
7. 宇佐美聡.【得意を伸ばす手外科】変形性関節症を伸ばす　OA に対する最新治療 (解説) PEPARS. 2024.04; (208); 48-57

[講演 · 口頭発表等]

1. Usami S, Minamikawa Y, Hamada Y, Kinoshita Y, Inami K.. Difference of two types of silicone implant for symptomatic distal interphalangeal joint arthroplasty.. FESSH 2024 2024.06.26 Rotterdam.
2. Mori H, Uemura N, Oda G, Ishiba T. Autologous breast reconstruction - Japanese trend and our strategy-. Global Breast Cancer Conference 2024 2024.04.25 Seoul, South Korea

1. 宇佐美聡. 手外科領域における神経ネットワーク型再建と血管柄付き神経の利用. 次世代スーパーマイクロサージャリー研究会 2024.12.18 WEB
2. 宇佐美聡, 稲見浩平, 園木謙太郎, 羽賀義剛. 一般整形外科病院でいかに技術を維持するか〜最低限のマイクロから最高を目指すマイクロへ〜. 第 51 回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2024.11.29 奈良市
3. 羽賀義剛, 宇佐美聡, 稲見浩平, 平瀬雄一. 指尖部骨軟部組織欠損に対する遊離骨移植と遊離皮弁の併用による治療. 第 51 回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2024.11.29 奈良市
4. 茅嶋理絵, 森　弘樹, 小島原知大, 植村法子. DIEP flap による乳房再建時に鬱血により皮弁静脈灌流が不十分と考えられた 3 症例の検討. 2024.11.28 奈良市
5. 村山万季, 上野麻由, 植村法子, 森　弘樹. 小眼球症に対し Lateral orbital flap と眼輪筋皮弁で義眼床を再再建した一例. 第 42 回　日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 2024.11.14 文京区
6. 鶴田 沙織, 岡崎 睦, 田中 顕太郎, 森 弘樹, 植村 法子. 深在性エリテマトーデスによる頬部脂肪萎縮症に対して遊離胸背動脈穿通枝脂肪皮弁で再建した症例の長期経過. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会プログラム · 抄録集 2024.11.01
7. 森　弘樹. 乳房再建を俯瞰する　ーさらなる普及を目指してー. 第 124 回九州 · 沖縄形成外科学会学術集会 2024.10.26 熊本市
8. 森　弘樹. 協賛ミニセミナー 1 ナトレル ブレスト · インプラントを用いた乳房増大術. 第 33 回形成外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京都港区
9. 羽賀義剛, 前田千恵, 芦澤　忠, 兼松明里, 飯塚　明, 荒木　淳, 安永能周, 秋山靖人 , 森　弘樹. マウスリンパ節付随免疫皮弁モデルを用いた新しいがん免疫療法に向けて. 第 33 回日本形成外科学会基礎学術集会 2024.10.17 港区
10. 井上牧子, 植村法子, 田中顕太郎, 森　弘樹. 内胸血管を用いた遊離腹部皮弁再建例における第 3 肋軟骨下での内胸静脈径 · 本数 · 吻合形態の検討. 第 12 回日本オンコプラスティックサージャリー学会総会 2024.10.04 金沢市
11. 小島原 知大, 濱崎 七海, 加藤 小百合, 植村 法子, 石田 直也, 大久保 淳, 田中 顕太郎, 内藤 省太郎, 森 弘樹. LDL-A/効果　吸着型血液浄化器 (レオカーナ) を併用する重症下肢虚血切断症例のデブリドマン時期の考察. 日本アフェレシス学会 2024.10.01
12. 森　弘樹. 乳房再建の今　乳房再建の現況と手術法について知ろう. Japan Cancer Forum2024 2024.08.24 中央区

13. 志茂 彩華, 津川 浩一郎, 野木 裕子, 荻谷 朗子, 名倉 直美, 関 大仁, 成井 一隆, 雑賀 美帆, 櫻井 照久, 近藤 直人, 笹田 伸介, 石飛 真人, 山内 智香子, 森 弘樹, 枝園 忠彦. 一次乳房再建における有害事象の危険因子について多施設共同研究　日本乳癌学会班研究 枝園班. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2024.07.01

14. 小島原 知大, 濱崎 七海, 森 弘樹, 小田 剛史, 石場 俊之. 深下腹壁動脈穿通枝皮弁による乳房再建での再建時期に応じた下溝線固定. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2024.07.01

15. 濱崎 七海, 森 弘樹, 小島原 知大. 深下腹壁動脈穿通枝皮弁採取後の腹直筋の脂肪化と萎縮に関する検討. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2024.07.01

16. 野木 裕子, 荻谷 朗子, 志茂 彩華, 名倉 直美, 関 大仁, 成井 一隆, 雑賀 美穂, 近藤 直人, 笹田 伸介, 石飛 真人, 櫻井 照久, 山内 智香子, 森 弘樹, 枝園 忠彦. 術前化学療法後一次乳房再建症例における乳癌関連死亡への予後予測因子　日本乳癌学会班研究 (枝園班). 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2024.07.01

17. 原 正武, 石場 俊之, 足立 未央, 熊木 裕一, 山鹿 絵美, 藤岡 友之, 大西 威一郎, 小田 剛史, 森 弘樹. 術前診断で 15cm の巨大腫瘍で発症した男性非浸潤性乳管癌の一例. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2024.07.01

18. 森　弘樹, 植村法子, 加藤小百合, 濱﨑七海, 小島原知大, 田中顕太郎. 鼻中隔延長を伴う口唇裂外鼻形成を行った症例の検討. 第 48 回日本口蓋裂学会 2024.05.30 名古屋市

19. 宇佐美聡, 河原三四郎, 武光真志, 山岸正明, 南川義隆, 木下有紀子, 浜田佳孝. 「DIP 関節に対する人工関節置換術」. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.24 福岡市

20. 宇佐美聡, 稲見浩平, 川原三四郎, 武光真志, 園木謙太郎. 「重度デュピュイトラン拘縮に対する局所皮弁と人工真皮を併用した治療」. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.25 奈良市

21. 宇佐美聡, 稲見浩平, 川原三四郎, 武光真志, 園木謙太郎. 「指尖部損傷に対する上肢からの遊離皮弁の変遷」. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.25 奈良市

22. 森　弘樹, 植村法子, 加藤小百合, 濱﨑七海, 小島原知大, 田中顕太郎, 村上響一, 上野麻由. 本邦と自施設における乳房再建の課題と今後の展望. 第 67 回日本形成外科学会 2024.04.10 神戸市

23. 羽賀義剛, 小島原知大, 濱崎七海, 上野麻由, 石田直也, 加藤小百合, 植村法子, 田中顕太郎, 工藤敏文, 森　弘樹. 当院での下腿切断における歩行機能や転帰などに関する検討. 第 67 回日本形成外科学会総会 · 学術集会 2024.04.10 金沢市

24. 宇佐美聡, 園木謙太郎, 河原三四郎, 武光真志, 稲見浩平. 「陳旧性 DIP· PIP 関節同時背側脱臼に対して Ilizarov Mini-Fixator で治療した 1 例」. 第 34 回日本四肢再建 · 創外固定学会学術集会 2024.03.22 神戸市

25. 濱崎 七海, 生坂 圭輔, 加藤 小百合, 植村 法子, 森 弘樹, 田中 顕太郎. 上口唇の赤唇縁に跨る母斑切除後に外側からの伸展皮弁と刺青で再建を行った 1 例. 日本形成外科手術手技学会 2024.03.02

26. 森　弘樹. 唇顎口蓋裂の概要と東京医科歯科大学での治療法について. 調布市つぼみの会 2024.02.18 Youtube

頭頸部外科学分野

Department of Head and Neck Surgery

教　　授：　朝蔭孝宏
講　　師：　有泉陽介、大野十央
助　　教：　田崎彰久（2024.2）、岡田隆平
特任助教：　立石優美子（2024.3）、河邊浩明（2024.3）、三輪好、朝守智明
医　　員：　大野貴史、佐藤尊陽
大学院生：　岸下定弘、高橋亮介、横村優、星裕太、渡邊愛、永久泰斉、久保木諒、近藤茂

(1) 分野概要

頭頸部外科の対象は、頭蓋顔面および頸部のうち頭蓋内、眼窩内および頸椎を除いた全ての領域の疾患である。
主に頭頸部領域の腫瘍の診断と治療に関しての研究 · 臨床 · 教育を行っている。

(2) 研究活動

大きなテーマは機能と形態を考慮した頭頸部 (悪性) 腫瘍の治療である。
具体的には以下の研究があげられる。
· 顔面深部 · 頭蓋底手術における新しいアプローチ法の開発
· 頭蓋底外科のための臨床解剖
· 頭頸部癌の頸部リンパ節転移に対する標準的治療法の確立
· 小児頭頸部腫瘍に対する外科的治療
· 頭頸部癌に対する化学放射線療法
· 頭蓋底手術に対するナビゲーション手術と 3D 実態モデルの臨床応用
· 頭頸部表在癌の診断と治療
· 新しい頭頸部用デジタル内視鏡の開発
· 頭頸部癌におけるヒトパピローマウィルスの研究
· 飲酒関連遺伝子多型と頭頸部癌の研究

(3) 教育活動

医学部 · 歯学部学生の卒前教育として、医歯学融合教育の頭頸部ブロックを担当している。また、医学部学生の臨床実習を耳鼻咽喉科と共同で病棟、外来、手術室で実際の診療を指導している。
卒後教育として、頭頸部外科学を初期研修医および後期研修医 · レジデントを対象に臨床教育を中心として行い、さらに学会発表や論文作成の指導を行っている。

(4) 教育方針

卒前教育は、系統講義では主として頭頸部腫瘍の診断と治療について、本教室のスタッフのみならず、学内他科あるいは学外の臨床病院の第一線で頭頸部腫瘍の治療に携わる医師を講師として招き、その概念から最新の知見に至るまで横断的に学ぶ。
臨床実習では耳鼻咽喉科とともに病棟、外来、手術室で実際の診療を体験する。
卒後教育は耳鼻咽喉科頭頸部外科全般について研修することから始まる。
学内および関連病院における実地医療を通して外来診療から手術に至るまでを学ぶ。
さらに一年目から積極的に研究、学会発表を行い、論文作成をするよう指導している。

(5) 臨床活動および学外活動

東京科学大学病院頭頸部外科において、頭頸部癌を中心とした疾患の診断と治療を行っている。
対象は、上咽頭、中咽頭、下咽頭、喉頭、唾液腺、口腔、鼻副鼻腔、甲状腺、聴器、副咽頭間隙、頸部、頭蓋底の腫瘍全般である。

(6) 臨床上の特色

頭頸部領域は生命維持に最低限必要な呼吸と嚥下機能、あるいは社会生活に欠かすことのできない重要なコミュニケーション手段である発声構音，聴覚といった機能を受け持つ。
また、顔面 · 頸部は審美的にも重要である。
頭頸部領域の疾患の治療に際しては、単に根治性を目指すだけでなくこれらの機能と形態の保持、回復をはかるべく各疾患，各症例ごとにきめの細かな対応が要求される。
特に、最近では小児の頭頸部腫瘍の症例が多く紹介されるようになり、より形態や機能の温存を目指した手術が要求されるようになってきている。
当科では、関連各科と協力して頭頸部頭蓋底腫瘍センターを担当し、幅の広い診療体制を構築している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Hiroshi Fukushima, Aki Furusawa, Ryuhei Okada, Yasuhisa Fujii, Peter L Choyke, Hisataka Kobayashi. Antitumor host immunity enhanced by near-infrared photoimmunotherapy. Cancer Sci. 2024.12;

2. Hidetoshi Shimizu, Takeshi Kodaira, Naomi Kiyota, Ryuichi Hayashi, Hiroshi Nishino, Yukinori Asada, Hiroki Mitani, Yuuji Hirayama, Yusuke Onozawa, Naoki Nishio, Nobuhiro Hanai, Akira Ohkoshi, Hiroki Hara, Nobuya Monden, Masato Nagaoka, Shujiro Minami, Takashi Fujii, Kaoru Tanaka, Akihiro Homma, Seiichi Yoshimoto, Nobuhiko Oridate, Koichi Omori, Tsutomu Ueda, Kenji Okami, Hirokazu Uemura, Kiyoto Shiga, Mitsuhiko Nakahira, Takahiro Asakage, Yuki Saito, Keita Sasaki, Ryo Kitabayashi, Satoshi Ishikura, Yasumasa Nishimura, Makoto Tahara. Incidence and risk factors associated with the development of hypothyroidism after postoperative chemoradiotherapy for head and neck cancer patients with high-risk features: Supplementary analysis of JCOG1008. Oral Oncol. 2024.10; 157; 106976

3. Ryo Kuboki, Fuminori Nomura, Satoshi Yagihashi, Takahiro Asakage. A case of selpercatinib treatment for anaplastic thyroid carcinoma resulting in abscess formation. Int Cancer Conf J. 2024.10; 13(4); 387-390

4. Ryuhei Okada, Taku Ito, Hiroaki Kawabe, Takeshi Tsutsumi, Takahiro Asakage. Mixed reality-supported near-infrared photoimmunotherapy for oropharyngeal cancer: a case report. Ann Med Surg (Lond). 2024.09; 86(9); 5551-5556

5. Fuyuki F Inagaki, Makoto Kano, Aki Furusawa, Takuya Kato, Ryuhei Okada, Hiroshi Fukushima, Seiichiro Takao, Shuhei Okuyama, Peter L Choyke, Hisataka Kobayashi. Near-infrared photoimmunotherapy targeting PD-L1: Improved efficacy by preconditioning the tumor microenvironment. Cancer Science. 2024.07; 115(7); 2396-2409

6. Tsujikawa T, Ohno K, Morita KI, Saburi S, Mitsuda J, Yoshimura K, Kimura A, Morimoto H, Ogi H, Shibata S, Akashi T, Kurata M, Imoto I, Shimizu Y, Kano S, Watanabe A, Yamazaki T, Asada Y, Hayashi R, Saito Y, Ozawa H, Tsukahara K, Oridate N, Sano D, Horii A, Ueki Y, Maruo T, Mukoyama N, Hanai N, Fukusumi T, Iwai H, Fujisawa T, Fujii T, Nibu KI, Iwae S, Ueda T, Chikuie N, Yasumatsu R, Matsuo M, Umeno H, Ono T, Masuda M, Toh S, Itoh K, Hirano S, Asakage T. Clinical, genomic and immune microenvironmental determinants of nivolumab response in head and neck squamous cell carcinoma. Frontiers in immunology. 2024.07; 15; 1390873

7. Ryutaro Onaga, Tomohiro Enokida, Susumu Okano, Takao Fujisawa, Nobukazu Tanaka, Yuta Hoshi, Takuma Kishida, Hideki Tanaka, Masanobu Sato, Naohiro Takeshita, Ryo Kuboki, Hiroshi Nishino, Makoto Ito, Makoto Tahara. Clinical impact of a dose-escalation strategy for lenvatinib in differentiated thyroid cancer. Int J Clin Oncol. 2024.07;

8. Yusuke Mizuno, Ryuhei Okada, Susumu Kirimura, Ryoichi Yoshimura, Takahiro Asakage. A Case of Malignant Transformation of Recurrent Respiratory Papillomatosis That Was Effectively Treated with Pembrolizumab Case Rep Oncol. 2024.07; 17(1); 734-740

9. Ariizumi Y, Asakage T. Development of an evaluation and treatment strategy for olfactory neuroblastoma: a review of evidence from large-scale studies, including population-based and multicenter studies, and meta-analyses. Japanese journal of clinical oncology. 2024.05; 54(8); 847-862

10. Yuta Hoshi, Tomohiro Enokida, Shingo Tamura, Torahiko Nakashima, Susumu Okano, Takao Fujisawa, Masanobu Sato, Akihisa Wada, Hideki Tanaka, Naohiro Takeshita, Nobukazu Tanaka, Ryutaro Onaga, Takuma Kishida, Hideoki Uryu, Shingo Sakashita, Takahiro Asakage, Makoto Tahara. Efficacy of anti-PD-1 monotherapy for recurrent or metastatic olfactory neuroblastoma. Front Oncol. 2024.05; 14; 1379013

11. Fujikawa T, Ito T, Okada R, Sawada M, Mohri K, Tateishi Y, Takahashi R, Asakage T, Tsutsumi T. Combined genetic polymorphisms of the GSTT1 and NRF2 genes increase susceptibility to cisplatin-induced ototoxicity: A preliminary study. Hearing research. 2024.04; 445; 108995

12. Fumiya Kojima, Kazuchika Ohno, Naoki Fushimi, Ryosuke Takahashi, Akihisa Tasaki, Takahiro Asakage. Functional vagal paraganglioma developing 15 years after resection of a retroperitoneal paraganglioma. Auris Nasus Larynx. 2024.03; 51(3); 425-428

13. Yosuke Ariizumi, Nobuhiro Hanai, Takahiro Asakage, Akira Seto, Toshifumi Tomioka, Junji Miyabe, Hisashi Kessoku, Takashi Mukaigawa, Go Omura, Masanori Teshima, Daisuke Nishikawa, Yuki Saito, Yukinori Asada, Takuo Fujisawa, Takuma Makino, Hiroshi Nishino, Daisuke Sano, Mitsuhiko Nakahira, Kunihiko Tokashiki, Hirokazu Uemura, Tsutomu Ueda, Akihiro Sakai, Muneyuki Masuda, Takahiro Tsujikawa, Yusuke Hiei, Naoki Nishio, Hidetoshi Matsui, Naomi Kiyota, Akihiro Homma. Extent of thyroidectomy and paratracheal lymph node dissection in total pharyngolaryngectomy for pyriform sinus cancer, and recurrence, survival, and postoperative hypoparathyroidism: A multicenter retrospective study. Head Neck. 2024.02; 46(2); 269-281

14. Takashi Hirai, Yujiro Naito, Shohei Koyama, Yoshimitsu Nakanishi, Kentaro Masuhiro, Mayuko Izumi, Tomoki Kuge, Maiko Naito, Yumiko Mizuno, Yuta Yamaguchi, Sujin Kang, Moto Yaga, Yu Futami, Satoshi Nojima, Masayuki Nishide, Takayoshi Morita, Yasuhiro Kato, Takeshi Tsuda, Norihiko Takemoto, Yumi Kinugasa-Katayama, Taiki Aoshi, Jordan Kelly Villa, Kazuo Yamashita, Tomohiro Enokida, Yuta Hoshi, Kazuto Matsuura, Makoto Tahara, Hyota Takamatsu, Yoshito Takeda, Hidenori Inohara, Atsushi Kumanogoh. Sema6D forward signaling impairs T cell activation and proliferation in head and neck cancer. JCI Insight. 2024.02; 9(3);

1. 朝蔭 孝宏. 専門医スキルアップ講座　明日は我が身〜医事紛争の事案と予防〜頸部術後出血による窒息事故を防ぐ 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2024.11; 127(11); 1171-1176

2. 久保木 諒, 田中 伸和, 榎田 智弘. 【希少がんに対する治療の進歩-婦人科がん, 泌尿器がん, 肉腫, 脳腫瘍, 皮膚がんなど-】頭頸部領域の希少がんの治療 腫瘍内科. 2024.10; 34(4); 351-356

3. 苦瓜 治彦, 大野 貴史, 白倉 聡. 瘻管同定に工夫を加え外切開にて摘出した下咽頭梨状陥凹瘻例 耳鼻咽喉科臨床. 2024.09; 117(9); 829-834

4. 苦瓜 治彦, 白倉 聡, 小出 暢章, 塩水 紀香, 福島 亮, 島崎 幹夫, 久保木 諒, 小島 史也, 別府 武. 大腿骨頸部骨折を契機に診断に至った CDC73 遺伝子バリアントを伴う副甲状腺癌の一例 頭頸部癌. 2024.04; 50(1); 33-38

5. 星 裕太, 岡野 晋. 【頭頸部がん診療の Controversy】導入化学療法　どっちを選ぶ?　TPF vs PCE　PCE 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 2024.04; 96(4); 324-326

6. 松本 吉史, 小村 豪, 江口 紘太郎, 坂井 梓, 坂井 利彦, 渡邉 嶺, 三輪 好, 相原 勇介, 林 崇明, 森 泰昌, 吉本 世一. 当科において外科切除を施行した頭頸部領域原発未分化多形肉腫症例の検討 頭頸部外科. 2024.02; 33(3); 319-324

7. 八木原 一博, 石井 純一, 炭野 淳, 桂野 美貴, 角谷 宏一, 松木 繁男, 石川 文隆, 出雲 俊之, 柳下 寿郎, 濱畑 淳盛, 原 彰, 安井 光彦, 別府 武, 影山 幸雄. 顎骨中心性癌の臨床病理学検討 埼玉県医学会雑誌. 2024.01; 58(1); 110-114

[書籍等出版物]

1. 朝蔭孝宏. 専門医のための耳鼻咽喉科検査法. 金原出版, 2024.12 (ISBN : 978-4-307-37132-2)

2. 寺内公一. 今日の治療指針　2024 年版. 医学書院, 2024.01 (ISBN : 978-4-260-05342-6)

[総説]

1. 岡田 隆平. 頭頸部アルミノックス治療の原理と臨床 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌. 2024.12; 4(4); 201-206
2. 佐々木 紘人, 有泉 陽介. 甲状腺未分化癌に対する集学的治療 (図説) 耳鼻咽喉科臨床. 2024.11; 117(11); 958-959
3. 大野 貴史, 有泉 陽介. 【てこずった症例 · 難治症例にどう対応するか】がん 上顎洞癌で上顎拡大全摘出術を受けた 25 年後に対側の上顎洞癌を生じて両側失明した症例 JOHNS. 2024.09; 40(9); 1179-1182
4. 朝蔭 孝宏. 【適切なインフォームドコンセントを考える】甲状腺癌における適切なインフォームド · コンセント 日本内分泌外科学会雑誌. 2024.09; 41(3); 183-185
5. 川田 研郎, 河邊 浩明, 岡田 隆平, 坂野 正佳, 小郷 泰一, 藤原 尚志, 大野 十央, 春木 茂男, 國枝 純子, 朝蔭 孝宏. 【症例から学ぶ咽頭 · 食道 ESD】咽頭表在癌の ESD/ELPS 下咽頭癌が喉頭にまで及んでいる 消化器内視鏡. 2024.08; 36(8); 1145-1150
6. 有泉 陽介. 【COVID-19 の喉頭 · 気道への影響と対応】COVID-19 患者の気管切開 大規模研究によるエビデンス 喉頭. 2024.06; 36; 9-17
7. 有泉 陽介. 【ランドマークはこれだ! 局所解剖アトラス】頭蓋底 頭蓋底手術のための局所解剖 脳浸潤のある嗅神経芽細胞腫に対して 耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科. 2024.04; 96(5); 280-288
8. 有泉 陽介. 【頭頸部がん診療の Controversy】予防的頸部郭清術 本当に要る? 進行下咽頭がん 耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科. 2024.04; 96(4); 378-380
9. 大野 貴史, 有泉 陽介. 【耳鼻咽喉 · 頭頸部の画像診断-最新知見と将来展望-】研修医から専攻医のための最新画像診断 前頭蓋底 JOHNS. 2024.02; 40(2); 195-199

[講演 · 口頭発表等]

1. 加藤洋人, 朝守智明, 高田幹也, 垣内美和子, 河村大輔, 太田康, 石川俊平. シングルセル免疫レパトア解析によって明らかになった難治性慢性副鼻腔炎の病態. 第 70 回日本病理学会秋季特別総会 2024.11 東京
2. Yosuke Ariizumi, Takashi Sugawara, Kazuchika Ohno , Kawano Yoshihisa, Kentaro Tanaka, Takahiro Asakage. Anterior skull-base surgery for locally advanced sinonasal malignancy with combined craniotomy and endoscopic endonasal approach. . 日本癌治療学会学術集会抄録集 2024.10.24
3. Ryuhei Okada. Orbeye 4K 3D exoscope for thyroid and parathyroid surgery. The 5th Congress of Asia-Pacific Society of Thyroid Surgery 2024.10.04 Bangkok, Thailand
4. 有泉 陽介, 菅原 貴志, 大野 十央, 河野 能久, 田中 顕太郎, 朝蔭 孝宏. 頭頸部癌に対する頭蓋底手術 局所進行した鼻副鼻腔悪性腫瘍に対する combined approach による前頭蓋底手術. 日本癌治療学会学術集会抄録集 2024.10.01
5. Takahiro Asakage . International session Cutting-Edge of Head and Neck Oncology Near-infrared photoimmunotherapy Real world data in Japan. AAO-HNSF 2024 Annual Meeting & OTO EXPO 2024.09.28 マイアミ（米国）
6. Takahiro Asakage. Moderator：Symposium 2 Innovative surgery. 2nd Joint Meeting of Tri-Head and Neck Society 2024 2024.09.19 大阪
7. Yosuke Ariizumi, Takahiro Asakage. Anterior Skull-base Surgery for Olfactory Neuroblastoma. 2nd Joint meeting of Tri-Head and Neck Society 2024.09.19 Osaka
8. Ryuhei Okada. Near-infrared photoimmunotherapy: Preclinical research and clinical treatment. 2nd joint meeting of Tri-Head and Neck Society 2024 2024.09.19 Osaka, Japan
9. Ryuhei Okada. Preclinical research of photoimmunotherapy. 2nd joint meeting of Tri-Head and Neck Society 2024 2024.09.19
10. 横村 優, 永野 誠司, 河本 宏, 朝蔭 孝宏, 片山 量平, 片山 量平. 細胞障害性 T 細胞に対するアファチニブの免疫抑制効果の検証 (Afatinib exerts an inhibitory effect on T cell-mediated cytotoxicity). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

1. 岡田隆平. 制御性 T 細胞を標的とした光免疫療法. 第 1 回光免疫療法研究会 2024.12.22 東京
2. 朝蔭孝宏. 座長：医療安全セミナー 2 【領域講習】各論　明日は我が身—医事紛争事案と予防—. 第３８回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会 2024.12.01 京都
3. 朝守智明. 慢性鼻副鼻腔炎における免疫レパトア解析　〜微生物感染と自己免疫〜. 第 44 回御茶ノ水耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科研究会 2024.12 東京
4. 朝蔭孝宏. 座長：甲状腺癌治療における検査、治療の実際. Virtual Thyroid Cancer Expert Cross Talk 2024 2024.11.15 東京
5. 朝蔭孝宏. 座長：臓器別シンポジウム 13　HPV 関連中咽頭癌 · 婦人科癌. 第 62 回日本癌治療学会 2024.10.26 福岡
6. 朝蔭孝宏. 座長：症例報告から Precision Medicine へ—第 1 部—. 第 62 回日本癌治療学会 2024.10.25 福岡
7. 朝蔭孝宏. 座長：第 16 群　その他. 第 75 回日本気管食道科学会 2024.10.15 仙台
8. 有泉 陽介. 頭頸部領域の希少がんの外科療法. 次世代のがん医療を担う多職種人材養成シンポジウム 希少がんを対象とした外科療法の現状と課題 2024.10.05 東京
9. 大野十央, 河邊浩明, 朝守智明, 川田研郎, 倉田盛人, 朝蔭孝宏. 頭頸部表在癌におけるリンパ節転移と簇出の関係性の検討. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10 博多
10. 朝蔭孝宏. 座長　第 4 群　口腔癌. 第 37 回日本口腔 · 咽頭科学会 2024.09.05 和歌山
11. 伊藤 理海, 横山 幸太, 有泉 陽介, 山本 くらら, 朝蔭 孝宏, 立石 宇貴秀. 危険間隙に発生したデスモイド腫瘍の 1 例. 日本医学放射線学会秋季臨床大会抄録集 2024.09.01
12. 朝蔭孝宏. 特別講演　頸部手術後の気道閉塞事故を如何に回避するか. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会福井県地方部会学術講演会 2024.07.27 福井
13. 岡田隆平. がん光免疫療法と頭頸部アルミノックス治療の基礎. 第 78 回日本口腔科学会　共催セミナー 2024.07.21
14. 岡田隆平. 甲状腺癌におけるインフォームドコンセントを再考する. 第 43 回 御茶の水耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科研究会 2024.07.13
15. 朝蔭孝宏. 座長　シンポジウム 4　悪性頭蓋底腫瘍の手術適応 · 治療適応 · 戦略. 第 36 回日本頭蓋底外科学会 2024.07.05 新宿
16. 有泉陽介，大野十央，菅原貴志，河野能久，田中顕太郎，朝蔭孝宏. 鼻副鼻腔悪性腫瘍に対する combined approach による頭蓋底手術の適応と限界. 第 36 回日本頭蓋底外科学会 2024.07.05 新宿
17. 大野十央，有泉陽介，菅原貴志，河野能久，田中顕太郎，朝蔭孝宏. SMARCB1 欠損鼻 · 副鼻腔癌に対する治療戦略. 第 36 回日本頭蓋底外科学会 2024.07.05 新宿
18. 川田 研郎, 河邊 浩明, 大野 十央, 藤原 尚志, 山口 和哉, 春木 茂男, 徳永 正則, 田崎 彰久, 岡田 隆平, 有泉 陽介, 伊藤 崇, 杉本 太郎, 絹笠 祐介, 朝蔭 孝宏. 導入化学療法後に ELPS を行った食道 · 下咽頭同時性重複癌の 1 例. 耳鼻咽喉科展望 2024.07.01
19. 朝蔭孝宏. 座長　手術手技セミナー 2　シニアと次世代のコミュニケーション　頭頸部 · 頭蓋底手術. 第 86 回耳鼻咽喉科臨床学会 2024.06.29 福井
20. 星裕太，榎田智弘，田村真吾，中島寅彦，岡野晋，藤澤孝夫，佐藤方宣，和田明久，田中英基，竹下直宏，田中伸和，翁長龍太郎，岸田拓磨，瓜生英興，坂下信悟，朝蔭孝宏，田原信. 再発 · 転移嗅神経芽細胞腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の有効性に関する後方視的検討. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松
21. 佐々木紘人，岡田隆平，石田直也，田中顕太郎，朝蔭孝宏. 左側頭部傍骨性骨肉腫の一例. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松
22. 近藤茂，岡田隆平，有泉陽介，朝蔭孝宏. 舌癌頸部リンパ節転移が疑われた梅毒の一例. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松
23. 朝蔭孝宏. 座長　がんに対する免疫チェックポイント阻害剤による治療と支持療法に関する教育事業. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松

24. 小出暢章，小島史也，苦瓜治彦，島崎幹夫，久保木諒，福島亮，塩水紀香，白倉聡，別府武. 小児悪性腫瘍の治療歴があり後発的に発症した当科疾患で治療を行なった症例の検討. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松

25. 別府武. 座長：第 39 群　症例 1. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松

26. 杉本太郎，大崎聡太郎，久米雄一郎，松崎理樹，大岡知樹，谷美有紀，近藤律男，上條朋之，岡田隆平，大野十央，有泉陽介，朝蔭孝宏. 頸部郭清術を併施した下咽頭癌 ELPS 症例の検討. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松

27. 大野貴史，有泉陽介，河邊浩明，立石優美子，岡田隆平，田崎彰久，大野十央，朝蔭孝宏. 頭頸部癌に対するシスプラチン併用化学放射線療法の治療成績と予防的胃瘻造設の有効性について. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.20 浜松

28. 大久保航太，大野十央，岡田隆平，朝蔭孝宏. 副咽頭間隙に生じた Solitary fibrous tumor の 1 例. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.20 浜松

29. 田村文乃，有泉陽介，田崎彰久，朝蔭孝宏. 顎関節部の骨原性悪性腫瘍が疑われた転移性下顎骨腫瘍の 1 例. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.20 浜松

30. 朝蔭孝宏. 座長　ランチョンセミナー 1　頭頸部アルミノックス治療の最前線. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.20 浜松

31. 白倉聡，別府武，小出暢章，塩水紀香，福島亮，島崎幹夫，小島史也，苦瓜治彦，久保木諒. 初診時に三重癌以上の状態であった頭頸部癌症例の臨床検討. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.20 浜松

32. 朝蔭孝宏. 治療開始から 3 年の頭頸部アルミノックス治療の歩み. 治療開始 3 周年記念講演会 2024.06.08 東京

33. 朝蔭孝宏. 甲状腺外科領域における適切なインフォームドコンセントを考える. 第 36 回日本内分泌外科学会 2024.05.24 福岡

34. 3-weekly シスプラチン併用化学放射線療法における骨髄抑制の危険因子と予後に関する検討. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会 · 学術講演会 2024.05.18

35. 朝蔭孝宏. 座長　学術講演　口腔癌診療のクオリティを上げる. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 2024.05.17 大阪

36. 近藤 茂, 岡田 隆平, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. 舌癌頸部リンパ節転移が疑われた梅毒の一例. 頭頸部癌 2024.05.01

37. 大野 貴史, 有泉 陽介, 河邊 浩明, 立石 優美子, 岡田 隆平, 田崎 彰久, 大野 十央, 朝蔭 孝宏. 頭頸部癌に対するシスプラチン併用化学放射線療法の治療成績と予防的胃瘻造設の有効性について. 頭頸部癌 2024.05.01

38. 杉本 太郎, 大崎 聡太郎, 久米 雄一郎, 松崎 理樹, 大岡 知樹, 谷 美有紀, 近藤 律男, 上條 朋之, 岡田 隆平, 大野 十央, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. 頸部郭清術を併施した下咽頭癌 ELPS 症例の検討. 頭頸部癌 2024.05.01

39. 田村 文乃, 有泉 陽介, 田崎 彰久, 朝蔭 孝宏. 顎関節部の骨原性悪性腫瘍が疑われた転移性下顎骨腫瘍の 1 例. 頭頸部癌 2024.05.01

40. 岡田隆平, 朝蔭孝宏. 頸部郭清を先行した頭頸部アルミノックス治療施行例. 第 4 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 2024.04.11 大阪

41. 堤 剛, 伊藤 卓, 川島 慶之, 大野 十央, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. COVID-19 感染拡大の外耳道癌症例受診行動への影響. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

42. 野島 雄介, 鬼島 菜摘, 佐野 大佑, 西川 大輔, 後藤 聖也, 土田 宏大, 加納 里志, 有泉 陽介, 森下 洋平, 桑原 達, 向川 卓志, 志賀 清人, 朝蔭 孝宏, 松浦 一登, 折舘 伸彦, 本間 明宏, 林 隆一, 花井 信広. Stage I/II 舌癌における潜在的リンパ節転移の予測式の確立. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

43. 堤 剛, 伊藤 卓, 川島 慶之, 大野 十央, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. COVID-19 感染拡大の外耳道癌症例受診行動への影響. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

44. 野島 雄介, 鬼島 菜摘, 佐野 大佑, 西川 大輔, 後藤 聖也, 土田 宏大, 加納 里志, 有泉 陽介, 森下 洋平, 桑原 達, 向川 卓志, 志賀 清人, 朝蔭 孝宏, 松浦 一登, 折舘 伸彦, 本間 明宏, 林 隆一, 花井 信広. Stage I/II 舌癌における潜在的リンパ節転移の予測式の確立. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

45. 川田 研郎, 河邊 浩明, 大野 十央, 岡田 隆平, 有泉 陽介, 小郷 泰一, 藤原 尚志, 春木 茂男, 朝蔭 孝宏. 中咽頭表在癌における HPV の関与についての検討. 日本気管食道科学会会報 2024.04.01

46. 河邊 浩明, 大野 十央, 川田 研郎, 藤原 尚志, 立石 優美子, 岡田 隆平, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. 内視鏡下咽頭喉頭手術で切除後に空腸再建術を行なった下咽頭癌再発の 1 例. 日本気管食道科学会会報 2024.04.01

47. 堤 剛, 伊藤 卓, 川島 慶之, 大野 十央, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. COVID-19 感染拡大の外耳道癌症例受診行動への影響. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

48. 野島 雄介, 鬼島 菜摘, 佐野 大佑, 西川 大輔, 後藤 聖也, 土田 宏大, 加納 里志, 有泉 陽介, 森下 洋平, 桑原達, 向川 卓志, 志賀 清人, 朝蔭 孝宏, 松浦 一登, 折舘 伸彦, 本間 明宏, 林 隆一, 花井 信広. Stage I/II 舌癌における潜在的リンパ節転移の予測式の確立. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

49. 朝蔭孝宏. 座長 学術セミナー 3　頭頸部領域におけるエナジーデバイスの有用性. 第 36 回日本喉頭科学会 2024.03.07 京都

50. 朝蔭孝宏. 座長 教育セミナー 1 COVID-19 の気道炎症への影響. 第 36 回日本喉頭科学会 2024.03.07 京都

51. 岡田隆平. 甲状腺癌におけるインフォームドコンセントを再考する. 甲状腺癌 Expert Meeting 2024.02.15

52. 朝蔭孝宏. 座長 甲状腺癌に関する最新情報、トピック. 甲状腺癌 Expert Meeting 2024.02.15 WEB 開催

53. 岡田隆平, 伊藤卓, 河邊浩明, 堤剛, 朝蔭孝宏 . 複合現実（Mixed Reality）補助下に光免疫療法を施行した一症例. 第 33 回日本頭頸部外科学会 2024.02.02

54. 朝蔭孝宏. 座長 シンポジウム 2 耳鼻咽喉科領域. 第 33 回日本頭頸部外科学会 2024.02.01 愛媛

55. 有泉陽介, 大野 貴史, 河邊 浩明, 岡田 隆平, 立石 優美子, 田崎 彰久, 大野 十央, 朝蔭 孝宏. 開頭手術から見えてきた課題 -嗅神経芽細胞腫の髄膜播種-. 2024.02.01 松山

56. 岡田隆平. Updated: 光免疫療法の基礎から臨床「頭頸部アルミノックス治療」まで. 第 33 回日本頭頸部外科学会　ランチョンセミナー 1 2024.02.01

57. 岡田隆平、小林久隆、朝蔭孝宏. 光免疫療法の臨床応用とトランスレーショナルリサーチ. 2024 年がん関連三学会 Rising Star ネットワーキング 2024.01.27

[受賞]

1. 岡田隆平　2024 年がん関連三学会 Rising Star ネットワーキング 優秀賞, 2024 年 01 月

[その他業績]

1. 東京医科歯科大学と楽天メディカル、非臨床共同研究契約を締結：NSAIDs が頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）に伴う浮腫を軽減する可能性について検討, 2024 年 09 月

2. 研究開発に関する技術指導, 2024 年 10 月
頭頸部アルミノックス治療実施にかかる医療機器、並びに補助器具等の開発へのアドバイス

3. 再発/転移嗅神経芽細胞腫に対するニボルマブ単剤療法の 有効性と安全性を検証する第 II 相臨床試験, 2024 年 11 月
公益財団法人 臨床薬理研究振興財団　2024 年度
研究奨励金　300 万円交付

[社会貢献活動]

1. 頭頸部アルミノックス治療実施にかかる医療機器、並びに補助器具等の開発へのアドバイス, 楽天メディカル株式会社, 2023 年 11 月 01 日 - 2024 年 10 月 31 日

2. 手術用顕微鏡システム ORBEYE を用いた頭頸部外科領域におけるケースレポート, オリンパスマーケティング株式会社, 2024 年 02 月 29 日

認知神経生物学分野

Department of Cognitive Neurobiology

教授　上阪　直史
講師　田中　大介
助教　中井　彩加
谷川萌（咬合機能矯正学分野）
内海　希（歯科麻酔 · 口腔顔面痛制御学分野）
劉 孟軻 （咬合機能矯正学分野）
孫　洋
韓　依彬
稲場　志築
孫　芸軒
邵 賢植
呉　偉達
Benson Paul
程　永嘉
合田　匡助
山口　寧々

(1) 分野概要

当分野では、脳を形づくるあらゆる細胞や細胞集団がどのように連携し、驚異的な機能を創り出しているのかを徹底的に探究する。また、その一部が障害をきたすと、なぜ重篤な脳疾患へと結びつくのかを解明することを目指している。
この核心的な問いに挑むため、神経生理学、発生工学、分子生物学、遺伝学など多彩な手法を駆使し、脳発達 · 脳機能 · 脳疾患の根源を解き明かす。
これまでの常識を覆す新奇概念を提唱し、先進的な治療法や予防策へとつなげることで、脳科学の地平を切り拓く——それこそが、私たちの使命である。

(2) 研究活動

1. 脳の機能発達
生後発達期におこるシナプスの選択的強化 · 除去（シナプス刈り込み）のメカニズムを研究しています。

2. グリア機能
グリア細胞の新規機能を見出すことを目指しています。

3. 口腔と脳のクロストーク
口腔感覚の脳内情報処理機構や口腔運動の脳による制御機構の解明を目指しています。

4. 脳疾患
脳疾患が発症 · 悪性化するメカニズムの解明を目指しています。

(3) 教育活動

1.「神経系の機能 I（神経生理学総論、運動機能)」ユニットの講義
感覚、知覚、運動にかかわる末梢、中枢神経系の機能についての講義を行う。活動電位の発生 · 伝導の機序、シナプスの伝達機序、骨格筋収縮メカニズム、筋伸展受容器および脊髄 · 脳幹 · 小脳 · 大脳基底核 · 皮質運動野の機能について学習する。

2.「神経系の機能 II（知覚、情動、本能、睡眠、高次機能)」ユニットの講義
感覚、知覚、運動にかかわる末梢、中枢神経系の機能についての講義を行う。感覚系の機能、情動 · 本能 · 睡眠の神経機構、高次脳機能について学習する。

3.「生命維持のための生体機能」ユニットの講義
人体生命維持システムの機能を習得する。自律神経の構造と機能、循環、呼吸、消化 · 吸収、体液 · 体温調節 · 代謝、排泄 · 体液調節、内分泌と生殖の機能について学習する。

4.「生理学実習」ユニット
人体が正常に機能する「しくみ」について実験を通して実体験し、得られたデータを正確な解釈のもとに組み立てて現象を論理的に考察する。

5.　病態科学演習
顎顔面領域の疾患の背景にある分子 · 細胞 · 組織 · 生理を学習する。

(4) 教育方針

学問分野にこだわらず、生物学、工学、歯学、医学など様々なバックグラウンドを持った多様な人材を積極的に受け入れて行く予定です。革新的な方法の開発、革新的な仮説の設定、革新的な発見のいずれかをできるように教育します。そのため、日々の議論、勉強会でスタッフや学生が活発に意見を出しあえるような環境づくりや雰囲気づくりを大切にしています。わたしたちの論文や最新の研究知見の論文を一緒に読み、スタッフや先輩の学生と一緒に研究することで、データの獲得 · 解析や研究の進め方 · 論文のまとめ方を習得できるようにします。脳発達、脳機能、脳疾患の解明という大きな目標に向かって互いに協力し合い、日々研究に励むことで革新的な発見を一緒にしましょう。

(5) 研究業績

[原著]

1. Shigeaki Kanatani, Judith C Kreutzmann, Yue Li, Zoe West, Lea Lydolph Larsen, Danai Vougesi Nikou, Ilse Eidhof, Abigail Walton, Songbai Zhang, Leslie Rubio Rodríguez-Kirby, Jacob Lercke Skytte, Casper Gravesen Salinas, Kimiharu Takamatsu, Xiaofei Li, Daisuke H Tanaka, Dagmara Kaczynska, Keishiro Fukumoto, Razieh Karamzadeh, Yujiao Xiang, Naofumi Uesaka, Tsutomu Tanabe, Mikael Adner, Johan Hartman, Ayako Miyakawa, Erik Sundström, Gonçalo Castelo-Branco, Urmas Roostalu, Jacob Hecksher-Sørensen, Per Uhlén. Whole-brain spatial transcriptional analysis at cellular resolution. Science. 2024.11; 386(6724); 907-915

2. Aritoshi Uchida,Kazuharu Nakagawa ,Kanako Yoshimi,Yuki Nagasawa ,Kohei Yamaguchi,Naofumi Uesaka,Haruka Tohara. Intermittent breaking of isolation may ameliorate decrease in physical activity caused by isolation PLoS ONE. 2024.11;

3. Tanigawa, M; Liu, MK; Sekiguchi, M; Goda, K; Kato, C; Ono, T; Uesaka, N. Nasal obstruction during development leads to defective synapse elimination, hypersynchrony, and impaired cerebellar function COMMUNICATIONS BIOLOGY. 2024.10; 7(1);

4. Nakayama, H; Miyazaki, T; Abe, M; Yamazaki, M; Kawamura, Y; Choo, M; Konno, K; Kawata, S; Uesaka, N; Hashimoto, K; Miyata, M; Sakimura, K; Watanabe, M; Kano, M. Direct and indirect pathways for heterosynaptic interaction underlying developmental synapse elimination in the mouse cerebellum COMMUNICATIONS BIOLOGY. 2024.07; 7(1); 806

5. Ayaka Nakai, Mitsuaki Kashiwagi, Tomoyuki Fujiyama, Kanako Iwasaki, Arisa Hirano, Hiromasa Funato, Masashi Yanagisawa, Takeshi Sakurai & Yu Hayashi. Crucial role of TFAP2B in the nervous system for regulating NREM sleep Molecular Brain. 2024.02; 17(1); 13

1. 上阪 直史. 脳腫瘍の進展における腫瘍　神経ネットワークの役割の解明 医科学応用研究財団研究報告. 2024.02; 41; 284-287

[書籍等出版物]

1. 睡眠学の百科事典. 丸善出版, 2024.06

[講演 · 口頭発表等]

1. Tanaka DH, Mochizuki T, Inaba S, Sugaya Y, Nonaka S, Kano M, Tanabe T, Uesaka N. Visceral cortical neurons encode and induce disgust reactions in mice. 2024 年度シナプス研究会 2024.11.15 愛知

2. 稲場 志築，田中 大介，上阪 直史. マウス内臓皮質の化学遺伝学的抑制が口腔内不快刺激に対する味覚反応へ与える影響. 第 15 回三叉神経領域の感覚—運動統合機構研究会 2024.10.20 千葉

3. 上阪 直史. 脳多元自発活動の創発と遷移による脳のデザインビルド. Neuro2024 2024.07.27 日本、博多

4. Tanaka DH, Mochizuki T, Inaba S, Sugaya Y, Nonaka S, Kano M, Tanabe T, Uesaka N.. Visceral cortical neurons induce disgust reactions in mice. ASSC27 2024.07.03 東京

5. Uesaka Naofumi, Tanigawa Moe, Wada Midori, Kato Chiho, Ono Takashi. 口腔生理機能の生涯発達と変容　口腔システム不全による神経回路形成と脳機能の障害 (Lifelong development, adaptation and deterioration in oral physiology　Defective neural circuit formation and brain function due to oral system failure). The Journal of Physiological Sciences 2024.05.01

6. 上阪 直史. 口腔システム不全による脳発達と脳機能の障害. 第 101 回日本生理学会大会 2024.03.30 日本、小倉

7. Nakai Ayaka, Kashiwagi Mitsuaki, Fujiyama Tomoyuki, Iwasaki Kanako, Hirano Arisa, Funato Hiromasa, Yanagisawa Masashi, Sakurai Takeshi, Hayashi Yu. The transcription factor AP-2 β regulates the amount of non-REM sleep. The Journal of Physiological Sciences 2024.03

1. 内沼琴美、山﨑陽子，前田 茂. 三叉神経領域の神経障害性疼痛患者におけるミロガバリンの治療効果についての観察研究. 第 89 回口腔病学会 2024.12.07 東京

2. 内海　希、田中大介、中井彩加、前田　茂、上阪直史. 全身麻酔薬による意識消失作用における小脳プルキンエ細胞の役割. 第 89 回口腔病学会 2024.12.07 東京

3. 上阪 直史, 川内 大輔. 腫瘍神経科学研究の新潮流　神経-腫瘍相互作用による脳腫瘍進展メカニズム. PAIN RESEARCH 2024.11.01

4. 田中 大介. 味覚刺激により生じる快感と嫌悪感を担うマウス脳の神経細胞. 第 318 回東京歯科大学学会シンポジウム 2024.10.19 東京

5. 内海 希, 田中 大介, 前田 茂, 上阪 直史. 全身麻酔薬による意識消失への小脳プルキンエ細胞の作用評価. 第 16 回 若手インスパイアシンポジウム 2024.02.08 東京

6. YIBIN HAN, 田中 大介, 上阪 直史. マウス口腔内カプサイシン刺激が誘導する生得的快感反応と嫌悪感反応の発見. 第 16 回 若手インスパイアシンポジウム 2024.02.08

分子発生 · 口腔組織学分野

Department of Molecular Craniofacial Embryology and Oral Histology

教授　　井関 祥子
准教授　竹内 純
講師　　吉本 由紀
助教　　足立 礼孝
秘書　　佐々木　麻弥

非常勤講師　倉谷 滋、大内 淑代、田畑 純、武智 正樹、二宮 洋一郎、小薮 大輔、荒木 啓吾、太田 正人、星野 裕紀子、金 成学

大学院生（博士）　王 語嫣、王 漢洋、笹淵 愛乃、高 雪瑩、丹娅 李、小林 万里江、小林 穂高
派遣大学院生　　于 雅軒（顎顔面外科学）

(1)　分野概要

(1) 分野概要
　本分野は、口腔顎顔面の細胞増殖 · 分化、形態形成等の発生機構の解明と、これら研究成果の再生医療への展開を研究領域とする。この領域内で大学院生は自らの研究テーマを、指導教官の助言のもとに可能な限り独力で見つけ出し、問題を設定する。さらに、この問題を解決するために分子生物学および分子発生学の知識と手法、ならびに細胞 · 組織 · 器官培養法、全胚培養法等を含む哺乳類胚操作技術を必要に応じて修得するとともに、感性を磨き、論理構築力を養い、英語で論文を書きあげる力を育成する。

(2)　研究活動

(2) 研究活動
　本分野では以下のようなテーマを対象として研究している。

1. 哺乳類口腔顎顔面発生の分子機構の解明
　哺乳類の口腔顎顔面は脊椎動物の中でも複雑に構成されている。この領域の原基から器官形成の分子的機構について記述し、他の脊椎動物と比較する。

2. 硬組織再生への発生メカニズムの応用
　顔面口腔領域の再生の中心は硬組織再生である。上記研究によって得られた歯牙や骨の発生メカニズムとナノテクノロジーを組み合わせ、硬組織再生医療への応用の可能性について検討する。

3. 口腔領域の組織幹細胞の同定および組織幹細胞維持に関わる分子機構の解析
　口腔領域の組織は比較的修復能が高く、細胞の代謝回転も盛んであることが知られているが，それに関わる組織幹細胞の局在領域や維持機構、さらに組織幹細胞からの細胞の分化機構などについての情報は非常に少ない。本研究では、味蕾や歯集組織を材料として組織幹細胞の維持に関わる候補遺伝子を探索し，その遺伝子破壊マウスを解析することにより組織幹細胞の局在や維持機構を明らかにし、さらにこれを基盤にした cell-based therapy への展開を目標としている。

(3) 教育活動

(3) 教育活動

学部教育
歯学部 1 年生を対象に「研究入門 Ia」において研究に関する研究に関する教育を行なっている。
歯学部 2 年生を対象に「人体の発生」「組織学総論」「組織学各論」「口腔組織学」の講義を担当している。「研究入門 IIa」の受け入れを行っている。
「研究入門 II」を通して論文の読み方等の研究に必要な初歩的な技術教育を行っている。

大学院教育
本分野は哺乳類口腔顎顔面などの細胞増殖 · 分化 · 形態形成の分子機構の解明ならびに、これら研究成果の再生医療への展開を研究領域とする。この領域内で大学院生は自らの研究テーマを、指導教官の助言のもとに見出し、問題を設定する。さらにこの問題を解決するために必要な知識と手法を習得するとともに、論理構成力を養い、学位論文を書き上げる力を育成する。

(4) 研究業績

[原著]

1. Kurosawa, T; Ikemoto-Uezumi, M; Yoshimoto, Y; Minato, K; Kaji, N; Chaen, T; Hase, E; Minamikawa, T; Yasui, T; Horiguchi, K; Iino, S; Hori, M; Uezumi, A. Tissue-specific functions of MSCs are linked to homeostatic muscle maintenance and alter with aging Aging Cell. 2024.11; 23(11); e14299

2. Hoshino Y, Liu S, Furutera T, Yamada T, Koyabu D, Nukada Y, Miyazawa M, Yoda T, Ichimura K, Iseki S, Tasaki J, Takechi M.. Pharmacological Inhibition of the Spliceosome SF3b Complex by Pladienolide-B Elicits Craniofacial Developmental Defects in Mouse and Zebrafish. Birth Defects Research. 2024.11; 116(11); e2404

3. Miyaki T, Homma N, Kawasaki Y, Kishi M, Yamaguchi J, Kakuta S, Shindo T, Sugiura M, Oliva Trejo JA, Kaneda H, Omotehara T, Takechi M, Negishi-Koga T, Ishijima M, Aoto K, Iseki S, Kitamura K, Muto S, Amagasa M, Hotchi S, Ogura K, Shibata S, Sakai T, Suzuki Y, Ichimura K. Ultrastructural analysis of whole glomeruli using array tomography Journal of Cell Science. 2024.10; 137(20); jcs262154

4. Camille E Dumas, Célia Rousset, Christopher De Bono, Claudio Cortés, Estelle Jullian, Fabienne Lescroart, Stéphane Zaffran, Noritaka Adachi, Robert G Kelly. Retinoic acid signalling regulates branchiomeric neck muscle development at the head trunk interface Development. 2024.07; 151(16); 1-15

5. Yambe, S; Yoshimoto, Y; Ikeda, K; Maki, K; Takimoto, A; Tokuyama, A; Higuchi, S; Yu, XY; Uchibe, K; Miura, S; Watanabe, H; Sakuma, T; Yamamoto, T; Tanimoto, K; Kondoh, G; Kasahara, M; Mizoguchi, T; Docheva, D; Adachi, T; Shukunami, C. Sclerostin modulates mineralization degree and stiffness profile in the fibrocartilaginous enthesis for mechanical tissue integrity Frontiers in Cell and Developmental Biology. 2024.06; 12; 1360041

6. Chengxue Jin, Noritaka Adachi, Yuki Yoshimoto, Aino Sasabuchi, Nobuyuki Kawashima, Masato S. Ota, Sachiko Iseki. Fibroblast growth factor signalling regulates the development of tooth root Journal of Anatomy. 2024.01; 244(6); 1067-1077

[講演 · 口頭発表等]

1. Yuki Yoshimoto, Chengxue Jin, Hanyang Wang, Xueying Gao, Kenichi Nakahama, Sachiko Iseki. Cellular diversity in the calvarium. Gordon research conference, 2024, Developmental Biology at the Forefront of Congenital Anomaly Prevention and Regenerative Approaches 2024.05.26

2. Aino Sasabuchi, Yuki Yoshimoto, Thanit Prasitsak, Jun K. Takeuchi, Noritaka Adachi, Sachiko Iseki. Neural crest derived pericytes involves abnormal vascular formation in the embryonic telencephalic hydrocephalus in Focx1 deficient mouse. Gordon research conference, 2024, Developmental Biology at the Forefront of Congenital Anomaly Prevention and Regenerative Approaches 2024.05.26

1. 竹内純. 先天性心疾患と非コード RNA. 先進ゲノム拡大班会議 2024.12.26

2. 佐々木駿、片野亘、加藤尊、竹内純、小柴和子. 転写因子 Sall4 は成体心筋においてサルコメアおよび代謝関連遺伝子の発現制御に重要である. 日本心臓血管発生研究会 2024.12.14

3. 足立礼孝. Hox コードを超えた頭部骨格筋の発生. 令和 6 年度日本動物学会中部支部大会 2024.12.07 福井

4. 吉岡　望、吉本　由紀、井関 祥子、竹林　浩秀、影山　幾男. 中枢神経系損傷後の瘢痕組織を構築する線維芽細胞の発生起源について. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.02

5. 余　キン怡、山家　新勢、吉本　由紀、三浦　重徳、宿南　知佐. 筋骨格組織の連結過程における軟骨 · 腱 · 靭帯原基の相互作用の時空間的可視化. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.02

6. 王　語嫣、吉本　由紀、宿南　知佐、井関　祥子、武智　正樹. ホメオボックス型転写調節因子 Goosecoid は下顎と舌筋が正しく連結するために必須である. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.02

7. 門脇伊吹、片野亘、金子（大谷）律子、井関祥子、竹内純、小柴和子. 雌雄マウス心臓における Crmp4 の機能解析. 日本動物学会第 95 回大会 2024.09.14

8. Shinsei Yambe, Yuki Yoshimoto, Koichiro Maki, Xinyi Yu, Shigenori Miura, Toshihide Mizoguchi, Taiji Adachi, Chisa Shukunami. Sclerostin is a modulator of mineralization degree and stiffness profile in the fibrocartilaginous enthesis for mechanical tissue integrity.. Joint Conference of The 22nd Annual Meeting of Asian and Oceanian MyologyCenter and The 10th Annual Meeting of Japan Muscle Scociety 2024.09.12

9. Xinyi Yu, Ryosuke Kawakami, Shinsei Yambe, Yuki Yoshimoto, Takako Sasaki, Haruhiko Akiyama, Taiji Adachi, Takeshi Imamura, and Chisa Shukunami. Visualization of dynamic interactions between cartilaginous and tendinous/ligamentous primordia during musculoskeletal development. Joint Conference of The 22nd Annual Meeting of Asian and Oceanian MyologyCenter and The 10th Annual Meeting of Japan Muscle Scociety 2024.09.12

10. 吉本 由紀, 井関祥子, 宿南 知佐. 筋骨格系の連結に寄与する分子細胞学的メカニズム. 第１６７回日本獣医学会学術集会 2024.09.10

11. Yu Ya Hsuan, 足立礼孝, 武智正樹, 依田哲也, 井関祥子. Goosecoid 欠失マウスにおける舌骨下筋群の発生異常. 第 64 回先天異常学会学術集会 2024.07.26 船堀、東京

12. 王 漢洋、吉本 由紀、原田 敦子、塗 隆志、小林 眞司、竹内 純、上田 晃一、井関　祥子. 疾患特異的ヒト iPS 細胞を用いた頭蓋縫合早期癒合症の病態解明. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26

13. 武智正樹、星野由紀子、王 漢洋、吉本由紀、井関祥子. 多角的視点から挑む頭蓋縫合早期癒合症の基礎医学的研究. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26

14. 竹内純. 先天性心疾患とエピゲノム因子. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26

15. 笹淵 愛乃, 吉本 由紀, Thanit Prasitsak, 竹内 純, 足立 礼孝, 久米 努, 大隅 典子, 井関 祥子. 神経堤細胞由来血管周皮細胞における Foxc1 欠失は終脳領域における血管新生異常に関与する. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26

16. Yuyan Wang, Yuki Yoshimoto, Noritaka Adachi, Masaki Takechi, Sachiko Iseki. Goosecoid is involved in proper patterning of connection between the tongue and mandible in mice. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26

17. 緒方　駿、山家　新勢、余 昕怡、吉本 由紀、三浦　重徳、安達 泰治、宿南　知佐. 下顎骨と咀嚼筋の成長における Scleraxis の機能的役割. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.06.30

18. 吉本 由紀、王 漢洋、原田 敦子、塗 隆志、小林 眞司、竹内 純、上田 晃一、井関　祥子. 患者由来細胞を用いた頭蓋縫合早期癒合症の病態解明. 第 20 回 Craniosynostosis 研究会 2024.06.29

顎顔面外科学分野

Department of Maxillofacial Surgery

教 授：依田哲也
准教授：森田圭一（～９月）、佐々木好幸
講 師：儀武啓幸、高原楠旻
助 教：友松伸允、原園陽介、倉沢泰浩、金裕純、外内えり奈
特任助教：加地博一、佐久間朋美、兵頭克弥、益田洋輝
医 員：三浦千佳、新雄太、菅省吾
大学院：山崎功太郎、蕭明遠、于雅軒、Vu Viet Duc、郭侑加、
松本晋、THAI THANH HUY、石原快 (4 月～）
社会人大学院：岩崎拓也、中村大志
大学院研究生：六島聡一、香月祐子
臨床教授：佐藤文明、三島木節
非常勤講師：山城正司、佐藤仁、小林明子、八木原一博、佐藤豊、黒原一人、愛甲勝哉、大山厳雄、熊谷順也、長岡亮介、蔦木洋平、道川千恵子、柴田真理、稲田大佳輔、押部成美、山本大介

(1) 研究活動

当分野では多岐にわたる顎顔面口腔領域の疾患に対し、以下のテーマを中心に研究を行っている。
1) 顎変形症：手術精度の向上と術後の顎骨の安定性を目的とした研究を行っている。特に上顎骨後方挙上について安全確実な術式の改良や、術前後の下顎頭の形態、安定性と後戻りとの関係、関節円板転位との関係についての検討をしている。シミュレーションソフト（Proplan ®）を用いた 3 次元的な骨干渉の確認、顎骨の移動様式の検討、CAD/CAM splint を用いた上顎位置決めバイトの作成を行い、手術精度の向上に努めている。さらには、顎骨や軟組織など術前術後の変化などを 3 次元的に評価 · 研究を行っている。骨接合の際に用いる吸収性プレートの力学的強度の研究を企業との産学連携研究として行っている。また、閉塞性睡眠時無呼吸症との関連、自己血貯血の実態調査、外科手術前後の栄養調査、意識調査 · 口腔衛生に対する評価を行い、実際の臨床に反映させている。三次元超音波振動切削機（ピエゾサージェリー®、ソノペット®）を導入し、神経血管 · 骨膜損傷を抑える骨切り等を行っている。また、クリニカルパスにより安全、確実な入院加療、術後入院期間の短縮を実現して患者に優しい医療を目指している。
2) 口唇口蓋裂：口唇口蓋裂患者の初回手術前より口蓋床を用い、術前顎発育誘導による歯列弓形態の経時的な変化について評価を行っている。口唇形成や口唇修正においては、解剖学的サブユニットに最大限配慮した手術を行っている。口蓋形成では、言語機能や顎発育の両面を考慮したよりよい術式を選択し、成長期における咬合状態と言語機能について評価を行っている。上顎劣成長、下顎前突に対しては、上下顎移動術のみならず上顎延長を適応する場合もあり、術後の後戻りや長期術後安定性について検討を行っている。　これら顔面の形態評価については、これまでの 2 次元解析に加えて CT を利用した 3 次元解析を行っている。また、口唇口蓋裂を伴う症候群を中心として遺伝子解析を行い、病態解明や疾患概念の再構成、予防法の確立等を目指した研究を行っている。
3) 顎関節疾患：重度の開口障害を呈する咀嚼筋腱 · 腱膜過形成症の治療と、発症原因、重症化に関する臨床研究、基礎研究を進めている。また、顎関節に発生する滑膜軟骨腫症についての外科治療を行うとともに発症原因や病態解明についての検索を行っている。さらに、開発と実用化を実現した新しい型式の開口訓練器と開口度測定器について、臨床経験をもとに改良を行うとともにさらなる研究開発を進めている。また、人工顎関節の国内導入に積極的に関わり、臨床実績も着実に積み重ねている。
4) 口腔再建（顎骨再建、骨移植、インプラント、歯の移植）：重度歯周病、顎骨における腫瘍、嚢胞、外傷（骨折や歯の脱落）、先天異常などにより歯を失い、顎骨が失われる場合がある。失われた顎骨を機能的、審美的に回復させるために、自家骨や人工骨を用いてより低侵襲な顎骨再生を目指している。使用する人工骨においては新規材料を用いた臨床研究を行い、最適で安全な使用方法の確立を検討している。また、顎骨が再生された後にはデンタルインプラントや顎義歯を用いて咬合機能を回復させ、それによる影響についての検討も行なっている。さらに咬合機能の回復においては、適応であれば歯の移植も積極的に行い、生着率に与える予後因子の検討を行い、

より確実な移植方法の開発や術式の標準化を目指している。
5) 口腔粘膜疾患：白板症、扁平苔癬などの口腔粘膜疾患に対する治療のために専門外来を設置している。また粘膜疾患の病態に対する原因の調査を、全身疾患、局所、心因性のものにわたって行い、治療には一部東洋医学も導入している。
6) 骨組織再生に関する研究：自家骨に代わる骨補填材料の開発が望まれており、その新規材料の開発のため、自家骨移植や既存の様々な骨補填材料との比較検討を行い臨床応用を目指している。 その再生骨のアパタイト、コラーゲン配向性を評価することで、より詳細な骨質評価を行い、骨補填材料の使用方法の最適化を検討している。また、歯根膜細胞や脂肪組織由来幹細胞を用いた骨再生にも取り組んでおり、さらに血管新生 · 骨再生を促進させる成長因子の DDS を付与した足場材料の開発も行なっている。
7) 口腔癌に対する基礎的研究：唾液腺悪性腫瘍の検体を利用した、腫瘍特異的遺伝子異常としての融合遺伝子に関する研究を行っている。また、舌扁平上皮癌における密着結合タンパク質の発現と、その浸潤先端部位における動態についての研究を行っている。

(2) 教育方針

口腔外科学においては口腔、顎、顔面領域に現れる先天性および後天性疾患について、その病因、病理、症状、診断、処置ならびに予後を理解させ、かつ、各種疾患の予防および治療に応用させるように教育する。口腔外科学で取り扱う範囲は非常に広く歯科と医科との重なり合った領域を扱うため、内科学、外科学ならびに隣接臨床医学とは密接な関係を有している。口腔外科学は一般に、歯およびその周囲組織を中心とした疾患を対象とする歯科口腔外科学と、顎口腔顔面領域にわたる疾患を対象とする顎口腔外科学に区分することができ、顎顔面外科学分野は顎口腔外科学分野と分担して教育する。

1-1　第 5 学年前期において，次の内容について講義を行う。
顎口腔医療（内容については顎口腔外科学分野と分担して行う）
1) 顎口腔顔面領域の奇形，特に唇顎口蓋裂
2) 顎口腔顔面領域の変形症
3) 顎口腔顔面領域の損傷
4) 顎口腔顔面領域の炎症 · 感染症
5) 顎口腔顔面領域の嚢胞
6) 口腔粘膜疾患
7) 顎口腔顔面領域の良性，悪性腫瘍
8) 顎関節疾患
9) 唾液腺疾患
10) 系統的骨疾患
11) その他
以上の疾患の成因、症状、診断、処置および予後について講義を行う。
1-2　第 5 学年前期に次の内容について実習を行う。
1) 臨床検査とその評価
(1) 一般簡易検査（血液型、赤血球数、白血球数、血色素量、血球容積、血球沈降速度、血液像、尿検査）
(2) 血液検査手技（静脈採血、動脈採血）
(3) 血清生化学検査、尿生化学検査（付、薬剤アレルギー検査、皮内反応）
(4) 頸部の診察
2) 滅菌および消毒法
手指の消毒，手術野の消毒，器械 · 器具の消毒など
3) 抜歯の基本手技
抜歯鉗子 · 挺子の使い方
4) 切開と縫合の基本手技
手術訓練用皮膚オペスキンを用いた切開と縫合など
1-3　第 6 学年臨床実習
外来実習では抜歯およびその他外来小手術の基本手技、投薬など、病棟実習では入院患者に対する手術を理解し、術前 · 術後管理の基本などを修得する。
1-4　歯学部第 6 学年の特別講義を行っている。
1-5　医学部医学科第 3 学年および歯学部歯学科第 3 学年の頭頸部臨床ブロックの講義を担当している。
1-6　医学部医学科第 4 学年、口腔外科の講義、医学部医学科第 5 学年、口腔外科実習を担当している。
1-7　医学部保健衛生看護学科の講義を担当している。
1-8 医歯学総合研究科医歯科学専攻修士課程の講義を担当している。

(3) 臨床上の特色

臨床上の特色: 近年の口腔外科疾患に対する治療法の進歩により最新かつ専門化した集学的治療体系が必要とされてきている。これに対応して当科では顎変形症、口腔悪性腫瘍、唇顎口蓋裂、顎関節、口腔粘膜疾患に対して専門外来を設け個々の患者へのきめ細かい対応ができる態勢を整えている。同時に集学的治療の実践のため、顎変形症や唇顎口蓋裂では症例検討会を矯正歯科外来と合同で行っており、口腔外科医と矯正歯科医が十分な検討を行った上で治療計画を立てている。また、悪性腫瘍に限らず病態が複雑な疾患や稀少な疾患を対象に口腔病理科、歯科放射線科と合同で臨床病理カンファレンス（CPC）を行い、症例について総合的に検討することにより、診断、治療に関わる知識を深め臨床に役立てている。

(4) 研究業績

[原著]

1. Takuya Iwasaki, Namiaki Takahara, Vu Viet Duc, Nobuyoshi Tomomatsu, Makoto J Tabata, Tetsuya Yoda. Effect of Anterior Disc Displacement and Estrogen Deficiency on Rabbit Mandibular Condyle. J Oral Biosci. 2024.12; 100599

2. Keiichiro Nakazato, Yasufumi Niinaka, Eiji Fujii, Reiko Hoshi, Nobuyoshi Tomomatsu, Tetsuya Yoda. A clinical study of anterior maxillary impacted supernumerary teeth based on the classification of horizontal and vertical positions. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery Medicine and Pathology. 2024.12;

3. Namiaki Takahara, Mari Shibata, Takuya Iwasaki, Eriko Marukawa, Tetsuya Yoda. Efficacy of bioresorbable mesh sheets made of 85:15 poly(lactic-co-glycolic acid) in the anterior maxilla for alveolar bone augmentation. J Oral Implantol. 2024.12;

4. Yukiko Hoshino, Shujie Liu, Toshiko Furutera, Takahiko Yamada, Daisuke Koyabu, Yuko Nukada, Masaaki Miyazawa, Tetsuya Yoda, Koichiro Ichimura, Sachiko Iseki, Junichi Tasaki, Masaki Takechi. Pharmacological Inhibition of the Spliceosome SF3b Complex by Pladienolide-B Elicits Craniofacial Developmental Defects in Mouse and Zebrafish. Birth Defects Res. 2024.11; 116(11); e2404

5. Yosuke Harazono, Huy Thanh Thai, Duc Viet Vu, Namiaki Takahara, Tetsuya Yoda. A case report of a huge unicystic ameloblastoma in the mandible with significant reduction through marsupialization. Int J Surg Case Rep. 2024.10; 123; 110156

6. Daisuke Yamamoto, Nobuyoshi Tomomatsu, Taishi Nakamura, Namiaki Takahara, Yasuhiro Kurasawa, Tetsuya Yoda. Influence of the Inferior Turbinate on the Accuracy of Superior Maxillary Repositioning. J Craniofac Surg. 2024.10;

7. Oikawa Y, Fukawa Y, Suzuki K, Goto A, KI m Y, Yoshitake H, Yoda T, Ikeda T. Localized median tongue AL amyloidosis accompanied with chondroid metaplasia: the possible etiology and relationship to median rhomboid glossitis Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2024.09;

8. Kachi H, Harazono Y, Takahara N, Tetsuya Y. A case report of oral syphilis with suspected concomitant neurosyphilis Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2024.08; 37(2); 361-364

9. Nakamura T, Tomomatsu N, Takahara N, Kurasawa Y, Sasaki Y, Yoda T. Morphological changes in the inferior nasal passage associated with superior repositioning of the maxilla with/without horseshoe osteotomy or turbinectomy. International journal of oral and maxillofacial surgery. 2024.08;

10. Takahara N, Shibata E, Tonouchi E, Kachi H, Tomomatsu N, Yoda T. Nasolabial soft tissue changes associated with posterior maxillary movement following anterior segmental osteotomy in skeletal Class II patients: A case series Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2024.07; 36(4); 459-463

11. Erina Tonouchi, Kei-Ichi Morita, Yosuke Harazono, Kyoko Hoshino, Tetsuya Yoda. NF1 with 47,XYY mosaicism diagnosed by mandibular neurofibromas. Hum Genome Var. 2024.05; 11(1); 22

12. Takahara N, Tomomatsu N, Kachi H, Iwasaki T, Maruta N, Yoda T. Does Condylar Morphology Affect Maxillary Repositioning in Bimaxillary Orthognathic Surgery? The Journal of craniofacial surgery. 2024.05;

13. Tonouchi Erina, Morita Kei-ichi, Harazono Yosuke, Anzai Eri, Takahara Namiaki, Yoda Tetsuya. Double Level Fixation of Premaxilla during Alveolar Bone Grafting with Premaxillary Osteotomy in Patients with Bilateral Cleft Lip and Palate(タイトル和訳中) 口腔病学会雑誌. 2024.03; 91(1); 1-7

14. Iwasaki T, Harazono Y, Fukawa Y, Kaida A, Kayamori K, Sasaki Y, Harada H, Yoda T. Retrospective analysis of odontogenic myxoma and odontogenic myxofibroma in the oral and maxillofacial region: a fibrous tissue-related differentiation. The British journal of oral & maxillofacial surgery. 2024.02; 62; 464-470

15. Yosuke Harazono, Hiroyuki Yoshitake, Yuki Fukawa, Tohru Ikeda, Tetsuya Yoda. Osteoblastoma in the mandible of an older adult patient without FOS gene rearrangement: A case report and literature review Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2024.01;

16. M Shibata, H Yoshitake, K Kayamori, T Ikeda, M Seki, T Yoda. Challenges in Diagnosis and Management of Palatal Hemangioma in an Infant: A Case Report Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2024.01; 36(1); 67-70

17. Michikawa C, Izumo T, Yoda T, Uzawa N. Small tumor invasion of metastatic lymph node can develop extranodal extension in oral cancer Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2024.01; 36(1); 21-27

1. 兵頭 克弥, 横溝 尚子, 阿部 成宏, 依田 哲也, 小林 裕. 胸部大動脈瘤に併発した慢性 DIC と後天性第ⅩⅢ因子欠乏症による抜歯後出血に対して第ⅩⅢ因子製剤が有効であった 1 例 日本口腔外科学会雑誌. 2024.06; 70(6); 234-240

2. 澁谷 智明, 佐藤 文明, 島田 淳, 日髙 玲奈, 兜森 彩日, 依田 哲也. 顎関節学会歯科衛生士部会設立に向けたアンケート調査結果について 日本顎関節学会雑誌. 2024.04; 36(1); 18-26

[書籍等出版物]

1. 依田哲也. 新編顎関節症第 3 版. 永末書店, 2024.06

2. 依田哲也. 標準口腔外科学　第 5 版. 医学書院, 2024.04

3. 佐藤文明. トピック　読者が本当に聞きたいこと全部答えます。顎関節症の症状、何をどう聞く？ . クインテッセンス出版, 2024.04

[講演 · 口頭発表等]

1. Vu Viet Duc，高原楠旻，岩崎拓也，倉沢泰浩，加地博一，友松伸允，依田哲也. 顔面非対称症例に対する近位骨片オーバーラップ法の有効性と術後安定性. 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.22 横浜

1. 友松伸允. 上顎の上方移動を行う際に考慮すべき解剖学的ポイント. 第 69 回口腔外科学会総会 · 学術大会 ランチョンセミナー 2024.11.23 横浜

2. 中村大志, 友松伸允, 高原楠旻, 倉沢泰浩, 加地博一, 依田哲也. Le Fort Ⅰ型骨切り術挙上症例における術後鼻閉感に関する検討. 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.22 横浜

3. 山崎功太郎、森田圭一、原園陽介、外内えり奈、高原楠旻、依田哲也. スマートフォンカメラ画像から構築した顔貌 3D データの精度に関する検討. 第 69 回日本口腔外科学会総会 2024.11.22 横浜

4. 岩崎拓也，高原楠旻，Vu Viet Duc，依田哲也. ウサギにおける関節円板前方転位とエストロゲン欠乏による下顎頭変化. 第 69 回日本口腔外科学会総会 · 学術大会 2024.11.22 横浜

5. 佐藤文明. 顎関節症をきちんと説明できるようになろう. 東京科学大学歯科衛生士総合研修センター講演会 2024.10.20 Web 開催

6. 岩﨑拓也、原園陽介、布川裕規、戒田篤志、佐々木好幸、原田浩之、依田哲也. 顎骨における歯原性粘液腫および歯原性粘液線維腫の後ろ向き臨床的検討と線維組織の割合に基づいた鑑別基準の探索. 第 78 回日本口腔科学会 2024.07.20 東京

7. 佐藤文明. 歯科医院で遭遇するアゴに関連したトラブルシューティング. 第 37 回一般社団法人日本顎関節学会総会 · 学術大会 2024.07.14 徳島

8. 佐藤文明, 兜森彩日. 歯科医院で遭遇するアゴに関連したトラブルシューティング.　2) 歯科治療後に遭遇するアゴに関連する様々な問題. 第 37 回一般社団法人日本顎関節学会総会 · 学術大会 2024.07.14 徳島
9. 田島理那、依田哲也、佐久間朋美、高原楠旻、儀武啓幸、佐藤 毅. 咀嚼筋腱 · 腱膜過形成症の遺伝子学的検討. 第 37 回日本顎関節学会総会 2024.07.07 徳島
10. 山本 大介, 友松 伸允, 中村 大志, 岩崎 拓也, 倉沢 泰浩, 高原 楠旻, 依田 哲也. 下鼻甲介組織が上顎挙上の正確性に与える影響. 第 34 回日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2024.06.27
11. 柴田真里, 高原楠旻, 岩崎拓也, 加地博一,Vu Viet Duc, 依田哲也. Le Fort I 型骨切り術における下顎非依存型と下顎依存型サージカルガイドの上顎移動精度の比較. 第 34 回日本顎変形症学会総会 · 学術大会 2024.06.27 東京
12. 佐藤文明, 木野孔司, 儀武啓幸. 顎関節マスターコース. 1 D プレミアムセミナー 2024.06.20 Web 開催
13. 佐藤文明, 木野孔司. TCH の見つけ方. 日本産業衛生学会関東産業歯科保険部会講演 2024.06.16
14. 外内 えり奈, 森田 圭一, 原園 陽介, 依田 哲也. 口唇口蓋裂患者に対する上下顎移動術後の安定性について. 第 48 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2024.05.30
15. 友松伸允. 顎変形症. 日本口腔外科学会第 2 回若手口腔外科医交流会ハンズオンセミナー 2024.05.11 盛岡
16. 佐藤文明, 日高玲奈, 兜森彩日. 顎関節を知ろう！ . 日本顎関節学会 · 日本歯科衛生士会共同企画講演会 2024.05.01 Web 開催
17. 依田哲也. 人工 TMJ による顎関節再建. 第 59 回 · 第 60 回教育研修会　顎関節疾患を深考する 2024.02.09 Web
18. 佐藤文明. TCH の常識をアップデートせよ. 1D オンラインセミナー 2024.02.06 Web 開催
19. Yoshio Ohyama, Kazuki Hasegawa, Narikazu Uzawa, Masashi Yamashiro, Yasuyuki Michi, Yoshinori Inaba, Kubota Mako, Tomoki Kanemaru, Takuya Iwasaki, Tetsuya Yoda.　Various techniques for mandibular reconstruction using the scapula free flap.. 第 42 回日本口腔腫瘍学会総会 · 学術大会 2024.01.25 札幌

[その他業績]

1. 顎関節症, 2024 年 03 月
聖教新聞
2. 教えて！ ヨミドック＝顎関節症か？ 口開きにくい　頬づえやストレス原因, 2024 年 05 月
読売新聞
3. 顎関節症 PRESIDENT, 2024 年 07 月
プレジデント社
4. 東京科学大学移行後の歯学教育 · 研究 · 臨床について, 2024 年 08 月
日本歯科新聞
5. 見逃してはいけない口腔粘膜疾患, 2024 年 09 月
岐阜県保険医新聞 559 号

[社会貢献活動]

1. 南極派遣医師に対する歯科トレーニング, 国立極地研究所、東京医科歯科大学, 東京医科歯科大学, 2019 年 - 現在
2. 顎関節症, 聖教新聞社, 聖教新聞, 医療, 2024 年 03 月 25 日
3. 教えて！ ヨミドック＝顎関節症か？ 口開きにくい　頬づえやストレス原因, 読売新聞社, 読売新聞, 2024 年 03 月 25 日 - 2024 年 04 月 27 日
4. 顎関節症, プレジデント社, PRESIDENT, 2024 年 06 月 04 日 - 2024 年 06 月 28 日
5. 東京科学大学移行後の歯学教育 · 研究 · 臨床について, 日本歯科新聞社, 日本歯科新聞, 2024 年 07 月 30 日 - 2024 年 08 月 13 日

顎顔面矯正学分野

Department of Maxillofacial Orthognathics

教　授	森山啓司
准教授	小川卓也
講　師	東堀紀尚
歯学部内講師	辻美千子，小林起穂
助　教	門田千穂 (研究休職中)，上園将慶，小笠原毅，仁木佑紀
特任助教	松本英和，井上貴裕
医　員	町田亮人，大岩真由，大森雄一朗，綱島安望，五十嵐七瀬，堀夏菜子
大学院生	会坂善也，清水美里，荒井英絵，鈴木彩子，高際友里，武内聡佳，浮田奈穂，千田寿々，寺島実貴子，米満由奈帆，Liu Yinan，Lu Yeming，Aung Thet Khine，別府葵，Ye Thiha，Pyae Phyo Htun，Wang Junyan，Liu Lu，加藤彩花，齋藤穂乃果，佐々木悠亮，髙田万理奈，須田隆公，田口優希，中村聡志
JDP 大学院生	Warat Hatsadaloi
大学院研究生	有方伸太朗，大久保汐栞，吉谷幸之助，石関柚希，林良樹，佐野夢乃，野村碧生，Hung Chia Yu，盛重実里，森田大輝，渡辺理沙，松村健二郎
非常勤講師	鈴木聖一，川元龍夫，須田直人，加藤嘉之，石渡靖夫，馬場祥行，天願俊泉，横関雅彦，檜山成寿，高橋滋樹，高橋巧，荻原祐二，新井マリステラ小百合，宮本順，高田潤一，疋田理奈，保田裕子，紙本裕幸，吉澤英之，宮崎貴行，稲垣有美，狩野桜子，佐川夕季，大河原愛奈

(1) 分野概要

顎顔面矯正学は、成長発育異常や各種先天異常に起因した歯、咬合、顎骨および顔面の不調和に対して歯科矯正学はもとより、他の関連臨床分野とともに総合的な治療計画に基づいて形態的、機能的な口腔環境の不調和を除去し、限りなく健常な状態に近付けるための臨床歯学の一分野である。顎顔面矯正学における研究は、これらの不調和が生じる原因の解明と予防法の確立、患者の診断や治療法の改良、開発を目的としている。近年の顎骨手術や骨延長治療などを併用した顎顔面矯正治療の進歩により、従来は矯正治療の対象となり得なかった上下顎の不調和や各種先天異常に伴う重篤な不正咬合に対して、咬み合せの改善や咬合の再建を図ることが可能となってきた。しかしながら未だ病態が不明で治療法が確立できない疾患も数多く存在し、先天異常や成長発育異常の原因や予防についてはようやく研究の端緒についたばかりである。顎顔面矯正学は、これらの異常を改善し、調和のとれた顎口腔機能を営しめるとともに、顔貌の改善を図り、心理 · 社会的に個人の福祉に寄与することを目的とする。

(2) 研究活動

顎顔面矯正学分野では、種々の先天的あるいは後天的原因によって引き起こされる不正咬合に対し、多角的な観点から研究が行われている。各疾患の病態成立機構の解明、診断法の改良 · 開発、新規治療法の確立等を目的として構成された各研究グループによって研究活動が行われている。その内容は基礎的研究から臨床的研究まで多岐にわたり、基礎的研究成果を効果的な治療 · 診断 · 予防法へと還元することを目的としている。

当分野における主な研究課題を以下に示す。

1）顎顔面の成長発育疾患および先天性疾患の発症機構ならびに診断 · 治療法開発に関する研究
2）新規歯科矯正用装置の開発に向けた生体材料工学的研究
3）顎口腔成長ならびに不正咬合発症に関する疫学的研究

4）メカニカルストレスと骨代謝に関する研究
5）顎口腔機能と中枢神経系に関する研究

(3) 教育活動

顎顔面頭蓋の成長発育構造とその異常、正常咬合の成立に必要な要件と不正咬合の原因および矯正力や顎整形力に対する歯 · 骨 · 軟組織の生体応答性など、矯正治療のメカニズムを習得する上で必要な生体の構造と機能について理解を深めることを目的とした教育活動を行っている。つまり、歯、歯周組織、顎顔面頭蓋およびこれに付随する筋軟組織系の正常な成長発育とその機能について教授し、併せて、これら諸構造の不正により生じた咬合異常、形態異常等の改善ならびに、それらの発生の予防を教育する。

兼務となる歯学部専門課程教育として、5 年次を対象として、講義ならびに模型実習、5 年次、6 年次には、臨床実習による教育が行われている。また、講義ならびに実習における学生の理解を深めるよう、チュートリアル形式の実習を取り入れるなど、講義で学んだ内容を実習に応用出来るよう工夫している。

大学院医歯学総合研究科としての講義内容は、口腔顎顔面頭蓋における骨格系、筋軟組織系の先天異常、成長発育異常のメカニズムを分子遺伝学的、細胞工学的、生体計測学的手法を用いて解明し、疾病の予防法、外科手術ならびに補綴治療などと連携した包括治療法に関する教育研究を行う。

(4) 教育方針

基本的教育方針は、顎口腔系の正常な形態と機能に対する理解を深め、咬合異常、顎顔面形態異常の病態の正しい把握とその治療の実践に資する知識を、講義、実習を通して教授することにある。

顎顔面頭蓋の形態的、機能的異常を発現する先天異常、成長発育異常症例の病態、これらの症例に見られる不正咬合の特徴について理解させるとともに、それら症例の矯正学的分析、診断および治療法について教授する。さらに包括治療における顎顔面矯正治療の重要性について併せて教授する。

(5) 臨床活動および学外活動

成長発育異常や各種先天異常に起因した歯、咬合、顎骨および顔面の不調和に対し、歯科矯正学、口腔外科学、形成外科学ならびに補綴学等の総合的な治療計画のもとに形態的、機能的な口腔環境の改善をはかり、不調和な状態を限りなく健常な状態に改善することを目的とした臨床活動を行っている。また、学外活動として、各種先天異常を有する患者の会に出席し、患者だけでなくその家族に対しても、専門的な立場から疾患に対する情報を提供し心理的な支援も行っている。

(6) 臨床上の特色

当分野では、それぞれ 6〜7 名からなる臨床グループによる診療体制をとっており、各グループにおいて週一回の症例検討会や症例発表を行うことにより顎顔面矯正臨床の研鑽に励んでいる。特に顎変形症、ならびに口唇裂 · 口蓋裂をはじめとする種々の先天異常に関しては、専門グループによる診断前、手術前の事前検討会に加え、口腔外科、補綴科等との合同カンファレンスを行い、チームアプローチによる綿密な連携ならびに協力体制を確立している。さらに、先天異常症例においては、治療開始前に母親、患者に対してカウンセリングを行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kaisaka Y, Uezono M, Inoue M, Takakuda K, Moriyama K. Novel Subperiosteal Device Geometry and Investigation of Efficacy on Surrounding Bone Formation and Bone-Bonding Strength. Bioengineering (Basel). 2024.11; 11(11);

2. Ogawa T, Xue J, Guo L, Inoue-Arai MS, Vendramini-Pittoli S, Zechi-Ceide RM, Candido-Souza RM, Tonello C, Brandão MM, Okada Ozawa T, Porto Peixoto A, Ruiz DMCF, Nakashima T, Ikegawa S, Moriyama K, Kokitsu-Nakata NM. Identification of a de novo PUF60 variant associated with craniofacial microsomia. American Journal of Medical Genetics Part A. 2024.09; 194(9); e63631

3. Takagiwa Y, Higashihori N, Kano S, Moriyama K. Roles of the histone methyltransferase SET domain bifurcated 1 in epithelial cells during tooth development. Archives of Oral Biology. 2024.09; 165; 106026

4. Iwata D, Kometani-Gunjigake K, Nakao-Kuroishi K, Mizuhara M, Nakatomi M, Moriyama K, Ono K, Kawamoto T. Ser252Trp mutation in fibroblast growth factor receptor 2 promotes branching morphogenesis in mouse salivary glands. Journal of Oral Biosciences. 2024.03; 66(1); 90-97

5. Machida R, Ogawa T, Min Soe K, Moriyama K. Nonsense-mediated mRNA decay affects hyperactive root formation in oculo-facio-cardio-dental syndrome via up-frameshift protein 1. Journal of Oral Biosciences. 2024.03; 66(1); 225-231

6. Suzuki A, Tani Y, Anzai T, Isumi A, Doi S, Ogawa T, Moriyama K, Fujiwara T. Association between Short Stature at Grade 1 and Permanent Teeth Caries at Grade 6 in Elementary School Children in Japan: A Population-Based Cohort Study. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2024.01; 21(1); 105

1. 森山啓司、新井一仁、清水典佳、齋藤功、友成博、居波徹. 矯正歯科専門医制度の機構認定までの道程 日本歯科医学会連合雑誌. 2024.12; 2024(3); 1-6

[書籍等出版物]

1. 森山啓司　他. 歯科矯正学 第 7 版. 医歯薬出版株式会社, 2024.09 (ISBN : 978-4-263-45685-9)

2. 森山啓司　他. 歯科衛生学辞典　第 2 版. 永末書店, 2024.01 (ISBN : 978-4-8160-1439-0)

[講演 · 口頭発表等]

1. Shimizu M, Uezono M, Ogasawara　T,Yonemitsu Y, Sasaki Y, Nakajima Y, Moriyama K. Assessment of mandibular landmark specification:　correspondence between two-dimensional radiography and three-dimensional computed tomography. The 9th International Symposium on Biomedical Engineering 2024 2024.12.03 Shizuoka

2. Takagiwa Y, Higashihori N, Moriyama K. Roles of SETDB1 in epithelial cells during tooth development. The 13th Residents' Forum of Taiwan Association Orthodontists The 5th Residents' Forum of Asian Pacific Orthodontic Society 2024.12.02 Taiwan

3. Hung C, Tsuji M, Matsumoto H, Moriyama K. Craniofacial morphology in patients with cleidocrania ldysplasia. 37th Annual Meeting of TAO and 14th Asian Pacific Orthodontic Congress 2024.12.02 Taiwan

4. Moriyama K. Key Considerations in the Treatment of Patients with Mandibular Prognathism and Facial Asymmetry.　37th Annual Meeting of TAO and 14th Asian Pacific Orthodontic Congress 2024.12.02 Taiwan

5. Inoue-Arai MS, Tsuji M, Honda E, Moriyama K. Movement of Articulator Using Three-Dimensional MRI Movie in Subjetics with CLP. 37th Annual Meeting of TAO and 14th Asian Pacific Orthodontic Congress 2024.12.02 Taiwan

6. Lu Y, Kobayashi Y, Moriyama K. Effects of Hypoxia on the Murine Embryonic Cranial Base Development. The 72nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2024.11.16 Kagoshima

7. Liu Y, Kobayashi Y, Niki Y, Kamimoto H, Sodsook W, Moriyama K. Effects of TEAD1 during orthodontic tooth movement in osteoblast differentiation.　The 72nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2024.11.16 Kagoshima

8. Kobayashi Y, Tsuji M, Moriyama K. Oral and craniofacial morphology in Japanese patients with achondroplasia.　The 72nd Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research 2024.11.16 Kagoshima

9. Khine AT, Yoshizawa H, Miyamoto JJ, Inoue A, Moriyama K. Association of temporomandibular joint morphology and condylar movement in skeletal Class II and III patients.　The 83rd Annual Meeting of the Japanese Orthodontic Society 2024.10.29 Kanagawa

10. Liu Y, kobayashi Y, Niki Y, Kamimoto H, Sodsook W, Moriyama K. The expression pattern of TEAD 1 during orthodontic tooth movement and its role in osteoblast differentiation.　The 83rd Annual Meeting of the Japanese Orthodontic Society 2024.10.29 Kanagawa

11. Ploysongsang K, Kobayashi Y, Niki Y, Chavanavesh J, Moriyama K. The effects of systemic and sustained hypoxia on orthodontic tooth movement in rats. The 83rd Annual Meeting of the Japanese Orthodontic Society 2024.10.29 Kanagawa

12. Moreno Galvez E, Kadota-Watanabe C, Zhao B, Kim J, Wu J, Lindsey K, Hong C. Discovering the role of P75NTR in temporomandibular joint cartilage formation using conditional knockout mice.. UCSF Research and Clinical Excellence Day 2024 2024.10.16 San Francisco, USA

13. Hui P, Kadota-Watanabe C, Zhao B, Lao-Ngo I, Wu J, Hong C. Evaluating the utility of two distinct animal models: A comparative study of anterior vs. posterior mid-palatal expansions.. UCSF Research and Clinical Excellence Day 2024 2024.10.16 San Francisco, USA

14. Ogawa T, Xue J, Guo L, Arai MS, Vendramini -Pittoli S, Zechi-Ceide RM, Candido-Souza RM, Tonello C, Brandão MM, Okada Ozawa T, Peixoto AP, Ruiz DMCF, Tomoki Nakashima T, Ikegawa S, Moriyama K, Kokitsu-Nakata NM. A case of craniofacial microsomia with a de novo PUF60 variant. The 69th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics 2024.10.09 Hokkaido

15. Ukita N, Ogawa T, Yamada M, Takeuchi C, Kosaki K, Moriyama K. Functional analysis of SATB2 variants associated with SATB2-associated syndrome. The 69th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics 2024.10.09 Hokkaido

16. Moriyama K. Real-Time Continuous Monitoring of Oral Soft Tissue Pressure with a Wireless Mouthguard Device for Assessing Tongue Thrusting Habits. The 10th Biennial COAST conference 2024.10.06 California, USA

17. Chida S, Kurimoto R, Chiba T, Nakamura S, Takagi J, Moriyama K, Asahara H. Functional analysis of Mohawk homeobox during orthodontic tooth movement with adeno-associated virus vector. TMDU-SPRING Retreat 2024 2024.09.11 Shizuoka

18. Liu L, Kobayashi Y, Moriyama K. SASP senescent cells induces FGF/FGFR2 binding in coronal suture of Apert syndrome mice. TMDU-SPRING Retreat 2024 2024.09.11 Shizuoka

19. Ukita N, Ogawa T, Moriyama K. Functional analyses of SATB2 variants reveal mechanisms of pathogenicity linked to SATB2-associated syndrome. TMDU-SPRING Retreat 2024 2024.09.11 Shizuoka

20. Kato A, Higashihori N, Moriyama K. Considering hair regeneration from the perspective of the cell fate determination of dental epithelial stem cells by epigenetic regulation. TMDU-SPRING Retreat 2024 2024.09.11 Shizuoka

21. Moriyama K. Lessons Learned from Craniofacial Anomalies at Chairside and Bench. The 43rd Annual Meeting, IADR-Korean Division 2024.09.06 Seoul, KOREA

22. Moriyama K, YKobayashi Y, Tsuji M. An Orthodontic Perspective on Oral and Craniofacial Morphology of Patients with Apert and Crouzon Syndromes in Japan. CLEFT TOKYO 2024 The 16th world congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation 2024.07.17 Tokyo

23. Machida R, Ogawa T, Soe KM, Moriyama K. Molecular mechanism of radiculomegaly in oculo-facio-cardio-dental syndrome. CLEFT TOKYO 2024 The 16th world congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation 2024.07.17 Tokyo

24. Omori Y, Ogawa T, Kang J, Uezono M, Moriyama K. Sex differences in congenital defects of permanent teeth in patients with nonsyndromic cleft palate. CLEFT TOKYO 2024 The 16th world congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation 2024.07.17 Tokyo

25. Yonemitsu Y, Uezono M, Ogasawara T, Shimizu M, Sugino T, Nakajima Y, Moriyama K. Development of automatic landmark identification for mandibles using curvature-based registration. TMDU Graduate Program Retreat 2024.06.07 Tokyo

26. Moriyama K. Orthodontic and orthognathic treatment for cleft lip and/or palate patients. Congreso Nacional e Internacional de la Facultad de Odontología UNAM – AMIC– LOS ANGELES DENTAL MEETING 2024 2024.05.01 Mexico City, United Mexican States

27. Sodsook W, Kobayashi Y, Kamimoto H, Niki Y, Chantarawaratit P, Moriyama K. Roles of B-Cell Lymphoma 6 in Orthodontic Tooth Movement. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.13 New Orleans, LA, USA

28. Zhao B, Kadota-Watanabe C, Wu C, Hong C. P75NTR Agonists Induce Osteogenic and Chondrogenic Differentiation. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.13 New Orleans, LA, USA

29. Yin E, Kadota-Watanabe C, Zhao B, Hui P, Hong C. Characterizing the Role of p75NTR in TMJ Using CRISPR-Cas9 Systems. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.13 New Orleans, LA, USA

1. 有方伸太朗、辻美千子、森山啓司. 当分野における頭蓋顔面先天異常疾患患者の来院動向調査. 第 42 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 2024.11.14

2. 松本英和、森山啓司. 口腔軟組織圧の連続同時計測を目的とした無線通信式マウスガード型デバイスの開発と有用性の評価. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

3. 雲内（保田）裕子、藤原武男、鈴木彩子、阿南（大河原）愛奈、谷友香子、小川卓也、森山啓司. 不正咬合と脳体積に関する高校生を対象とした検討. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

4. 上園将慶、ウィジャーンサンサニー、高久田和夫、小笠原毅、テチャラートパイサーンパイブーン、森山啓司. 歯科矯正用アンカースクリューのカッティングフルート長さが皮質骨の切削および接触状態に及ぼす影響の検証. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

5. 武内聡佳、小笠原毅、上園将慶、森山啓司. 矯正学的歯の移動が歯根象牙質基質の石灰化に与える影響の検討. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

6. 千田寿々、栗本遼太、淺原弘嗣、森山啓司. アデノ随伴ウィルスベクターを用いた Mohawk 遺伝子の局所的発現調節と矯正学的歯の移動の検討. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

7. 中納治久、辻美千子、丹原惇、玉置幸雄、坂本輝雄、奥橋園子、小塩裕、小川清史、佐藤琢麻、宮澤健. 小児の不正咬合に関する大規模調査. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29

8. 野村碧生、辻美千子、齋藤穂乃果、佐野夢乃、髙田万理奈、大森雄一朗、松本英和、仁木佑紀、森山啓司. 日本人鎖骨頭蓋異形成症患者の口腔内の形態的特徴に関する検討. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29

9. 洪嘉佑、辻美千子、加藤彩花、佐々木悠亮、大森雄一朗、松本英和、仁木佑紀、森山啓司. 日本人鎖骨頭蓋異形成症患者の頭蓋顔面の形態的特徴に関する検討. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29

10. 大岩真由、東堀紀尚、野村碧生、石関柚希、吉谷幸之助、井上貴裕、仁木佑紀、森山啓司. 骨格性下顎前突症患者の顎顔面形態および顎口腔機能に関する主観的評価の縦断的研究. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

11. 佐川夕季、小川卓也、清水美里、永田有希、田中敏博、森山啓司. PTH1R に病的バリアントを有する short root anomaly の日本人 1 家系. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

12. 仁木佑紀、小林起穂、吉谷幸之助、武内聡佳、森山啓司. 全身性エリテマトーデスの既往を有する患者に対して矯正歯科治療を行った 2 症例. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

13. 小笠原毅、上園将慶、森山啓司. Temporary anchorage devices を併用し咬合を改善した複数大臼歯の歯根破折と開咬を伴う骨格性上顎前突症例. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

14. 綱島安望、上園将慶、小笠原毅、石関柚希、森山啓司. 矮小上顎側切歯を抜去して Angle II 級 2 類の咬合を改善した一症例. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 神奈川

15. 石関柚希、小笠原毅、宮崎貴行、林良樹、別府葵、辻美千子、森山啓司. 当院矯正歯科を受診した症候性部分無歯症患者の臨床的特徴. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26 東京

16. 東堀紀尚. 「顎顔面領域の形態形成と先天性疾患：分子から臨床へ」-エピジェネティック制御機構と顎顔面領域の先天性疾患の関連を考察する. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26 東京

17. 井上貴裕、東堀紀尚、森山啓司. Parry-Romberg syndrome 患者に対し外科的矯正治療を施行した一症例. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26 東京

18. 荒井英絵、上園将慶、菊池正紀、森山啓司. ハイドロキシアパタイト/コラーゲンナノ複合体が骨膜下骨誘導を急速に惹起する因子の解明. 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2024.07.19

19. 盧業明、小林起穂、森山啓司. マウス歯胚発生における extracellular superoxide dismutase 3（Sod3）の発現および機能解析. 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2024.07.19

20. 高際友里、東堀紀尚、森山啓司. 上皮細胞におけるヒストンメチル化酵素 Setdb1 遺伝子の欠失がエナメル質の発生に及ぼす影響. 第 78 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会 2024.07.19

21. 米満由奈帆、上園将慶、小笠原毅、清水美里、杉野貴明、中島義和、森山啓司. 曲率による重ね合わせを併用した下顎骨の特徴的自動抽出手法開発の試み. 第 83 回東京矯正歯科学会学術大会 2024.07.11 東京

22. 千田寿々、栗本遼太、浅原弘嗣、森山啓司. アデノ随伴ウィルスベクターを用いた Mohawk 遺伝子の局所的発現調節と矯正学的歯の移動の検討. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.06.29 沖縄

23. 林良樹、東堀紀尚、仁木佑紀、井上貴裕、高原楠旻、依田哲也、森山啓司. 非外科的上顎急速拡大および上下顎移動術を施行した上顎歯列弓狭窄を伴う骨格性下顎前突症例. 第 34 回日本顎変形症学会学術大会 2024.06.27 東京

24. 仁木佑紀、東堀紀尚、石関柚希、大岩真由、井上貴裕、松本英和、森山啓司. 外科的矯正治療による骨格性 II 級患者の睡眠時呼吸動態変化と気道の三次元的変化との関連. 第 34 回日本顎変形症学会学術大会 2024.06.27 東京

25. 辻美千子. 「いまあらためて、説明と同意を考える 」-矯正歯科診療における説明と同意について. 日本看護倫理学会第 17 回年次大会 2024.06.23 東京

26. 小川卓也、吉谷幸之助、荒井英絵、森山啓司. 当科において矯正歯科治療を施行した先天性筋線維タイプ不均等症の一例. 第 48 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2024.05.30 愛知

27. 町田亮人、小川卓也、森山啓司. Oculo-facio-cardio-dental 症候群におけるナンセンス変異依存 mRNA 分解機構が歯根長異常発症に与える影響. 第 48 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会 2024.05.30 愛知

[受賞]

1. 第 48 回日本口蓋裂学会総会 · 学術集会　優秀ポスター賞（町田亮人、小川卓也、森山啓司）, 日本口蓋裂学会, 2024 年 05 月

2. 第 34 回日本顎変形症学会学術大会優秀ポスター賞（仁木佑紀、東堀紀尚、石関柚希、大岩真由、井上貴裕、松本英和、森山啓司）, 日本顎変形症学会, 2024 年 06 月

3. TMDU-SPRING Poster Award for Best Research（Liu L, Kobayashi Y, Moriyama K）, TMDU-SPRING Retreat 2024, 2024 年 09 月

4. TMDU-SPRING Poster Award for Best Presentation（Liu L, Kobayashi Y, Moriyama K）, TMDU-SPRING Retreat 2024, 2024 年 09 月

5. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（武内聡佳、小笠原毅、上園将慶、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2024 年 10 月

6. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（仁木佑紀、小林起穂、吉谷幸之助、武内聡佳、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2024 年 10 月

7. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（Liu Y, kobayashi Y, Niki Y, Kamimoto H, Sodsook W, Moriyama K）, 日本矯正歯科学会, 2024 年 10 月

8. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（洪嘉佑、辻美千子、加藤彩花、佐々木悠亮、大森雄一朗、松本英和、仁木佑紀、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2024 年 10 月

9. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（佐川夕季、小川卓也、清水美里、永田有希、田中敏博、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2024 年 10 月

10. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会優秀演題賞（松本英和、森山啓司）, 日本矯正歯科学会, 2024 年 10 月

11. The Excellence Award.　(ORAL PRESENTATION COMPETITION RESEARCH REPORT CATEGORY)（Takagiwa Y, Higashihori N, Moriyama K）, 37th Annual Meeting of TAO and 14th Asian Pacific Orthodontic Congress, 2024 年 12 月

[社会貢献活動]

1. 保険診療が適用される矯正歯科治療, 公益社団法人日本矯正歯科学会, 2024 年度市民公開講座, 公益社団法人日本矯正歯科学会 HP（https://www.jos.gr.jp/public）, 2024 年 - 現在
2. 先天異常患者に対する矯正歯科治療, 岡山大学歯学部講義, 岡山大学, 2024 年 04 月 02 日
3. 先天異常患者に対する矯正歯科治療, 鹿児島大学歯学部講義, 鹿児島大学, 2024 年 07 月 22 日
4. 女性と身体ー歯の健康, 日本女子大学講義, 日本女子大学, 2024 年 09 月 - 2024 年 10 月
5. 歯科矯正学（口唇口蓋裂 · 先天異常、矯正臨床、矯正治療）, 東京歯科衛生専門学校講義, 東京歯科衛生専門学校, 2024 年 11 月 - 2024 年 12 月
6. 先天異常患者に対する矯正歯科治療, 九州歯科大学歯学部講義, 九州歯科大学, 2024 年 11 月 08 日

生体組織再建外科学分野

Department of Reconstructive Plastic Surgery

教授：田中顕太郎
助教 (病院)：石田直也
大学院生：石田直也、村上響一、上野麻由

(1) 分野概要

本分野は病院診療科としては再建形成外科を標榜し、頭頸部頭蓋底再建を中心とするマイクロサージャリー（顕微鏡下微細手術）を用いた各種再建手術を主に担当する。典型的な切除症例に対する標準的な再建手術を行うことは当然であるが、症例数が少なく標準的治療が確立されていない困難症例に対しても、安全で質の高い再建手術を提供する。また腫瘍切除と同時に行う一次再建だけではなく、術後に残存する変形や麻痺に対する二次再建手術にも積極的に取り組んでいる。
学部の枠を超えた頭頸部領域を中心とする関連各分野と連携し、術後の患者様の QOL を重視した形態と機能を両立させる新しい術式開発を中心とした研究を推進していく。

(2) 研究活動

1. 機能と形状を重視した頭頸部頭蓋底再建術式の開発
2. 神経移植手術後の神経再生メカニズムの解明
3. 新しい動物モデルを用いた組織移植の術後容量変化の計測
4. 末梢毛細血管開存率の向上は移植脂肪組織容量の維持に貢献するか？
5. 自家移植組織の”質”に迫る First Step ～汗腺の術後機能回復に着目して
6. 顔面神経麻痺に対する新しい再建術式および機能評価法の開発
7. 糖尿病性足壊疽症例に対する歩行機能を重視した患肢温存術式の開発

(3) 教育活動

形成外科としての卒前教育、卒後教育を、形成 · 再建外科学分野と協力して行っている。

形成外科は、診療科としては、主として体表の形態 · 機能の再建を担当し、その領域には全身が含まれる。診断学より治療学（そのほとんどが手術）の比重が高く、顔面 · 頸部、手足など人目につく部位を扱うことが多いため、外見にも配慮した治療結果が求められるのが特徴である。医学生にとって、形成外科は外科系診療科の最も基本となる診療科であり、将来進む専門分野が何であるかにかかわらず、創傷治癒の機序、組織の愛護的な扱い方を学ぶことや、外傷や熱傷に対するプライマリーケアを習得することは、医者として必須事項であると考えている。また、病院内における形成外科の位置づけと、各科との連携によるチーム医療の重要性を理解してもらいたい。まずは、学生が形成外科に興味を持ち、講義や実習が感動の場となるような教育を目指している。

(4) 教育方針

形成外科としての卒前教育、卒後教育を、形成 · 再建外科学分野と協力して行っている。

［学習目標］

1：形成外科の意味あいを知り、外科学における位置づけを理解する。特に他の外科系各科との関連性、競合性、合同性について認識する。
2：形成外科の歴史的背景を知り、社会的必要性を理解する。
3：形成外科的基本手技（皮切縫合，植皮，皮弁，その他の組織移植）における器械、手技を理解し、その結果、どこまで機能的、整容的に修復できるかを知る。
4：形成外科的疾患（皮膚の形成外科，頭部頭蓋の形成外科，顔面，躯幹，四肢の形成外科，整容外科）を認識し理解する。
5：将来的に可能な形成外科的な臓器移植、ならびに組織移植について理解する。
6：生体組織に代用できる人工物質について認識し、将来における代用組織開発への洞察力を養う。

［修得すべき知識・技術に関する目標］
1：形成外科とは何であるか、どうして必要であるかを説明できる。
2：どんな疾患が形成外科に含まれるかを患者または各科の医師に助言でき、適切な対応ができる。
3：それぞれの患者についてどの様な治療方法がとられるべきかの判断ができる。
4：形成外科的基本手技に用いられる器具の取り扱い、縫合糸の選択ができ、どの様な手技が用いられるべきか科学的に論述できる。

卒後教育では、初期臨床研修後の 4 年間の形成外科研修後、日本形成外科学会認定医の資格が取得できるよう研修プログラムを組み、更に一定の臨床経験を積んだ後に以下に述べるような研究活動に取り組み、形成外科学の最前線を開拓する臨床医であると同時に、研究者としても研鑽を積むことを目標としている。

(5) 臨床活動および学外活動

顕微鏡下手術の技術を駆使して高いレベルの再建手術を実践する。頭頸部再建の症例数が多く、2007 年からの 15 年間で 1000 症例を超える診療実績を持つ。特に頭蓋底再建手術については全国でも有数の施設である。これらの経験を活かし、他院では対応できない治療困難症例に対しても安全で質の高い再建手術を提供することができる。診療研究実績について国内外の学会で積極的に発表し、また英文和文論文により印刷媒体として情報発信している。他大学やセンター病院とも幅広く交流し、多施設共同研究にも積極的に参加している。

(6) 臨床上の特色

東京の中心に立地し医学部・歯学部から成る本学は、頭頸部領域の診療のスペシャリストたる責務を社会から期待されていると考える。当科はマイクロサージャリーによる血管や神経の縫合技術を駆使する再建手術を日常的に行う高い技術を持つ形成外科専門医で構成され、頭頸部頭蓋底再建を中心とする再建手術を行う。
定型的な切除症例に対する標準的な各種再建手術を行うだけでなく、標準的治療が確立されていない困難症例、全国的に見ても当院でしか行われていない手術症例に対して、安全で質の高い再建手術を提供し続けている。また腫瘍切除と同時に行う一次再建だけではなく、術後に残存する変形や麻痺に対する二次再建手術にも積極的に取り組んでいる。
さらに高い再建手術手技を生かして、頭頸部領域のみならず身体各部位の治療困難症例の再建手術にも進んで対応している。いままでに合同で治療を行った診療科は、頭頸部外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、呼吸器外科、食道胃外科、大腸肛門外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、末梢血管外科、整形外科、泌尿器科、眼科、皮膚科、周産女性科、歯科口腔外科、顎顔面補綴科、インプラント科などと、非常に多岐にわたる。

(7) 研究業績

[原著]

1. Ishida N, Tanaka K, Murakami K, Ueno M, Mori H. Closure of Large Tracheocutaneous Fistula Using Modified Hinge Flap and Deltopectral Flap. Head Neck. 2024.12; 46(12); E104-E108

2. Higashino T, Wakabayashi M, Zenda S, Yasunaga Y, Araki J, Mukaigawa T, Onitsuka T, Nakagawa M, Hamahata A, Narita K, Arikawa M, Takanari K, Kadota H, Yanagisawa D, Tanaka K, Matsumoto H, Kimata Y, Miyamoto S, Sakuraba M, Kawai K, Terao, Y Hyodo I, Ishida K, Yoshimura K. Impact of radiotherapy-related late toxicities of skin and soft tissue in the neck on quality of life in head and neck cancer patients: a multi-institutional observational study in Japan. Support Care Cancer. 2024.12; 33(1); 64

3. Takada A, Mori H, Nishimura Y, Tanaka K, Okazaki M. The largest perforator of DIEP flap has a higher rate of continuity with the superficial inferior epigastric artery. Asian J Surg. 2024.08;

4. Ueno M, Mori H, Uemura N, Kato S, Tanaka K. Anatomical features of a crossing vein connecting left and right internal mammary veins: A preliminary study with computerized tomography or magnetic resonance imaging. Microsurgery. 2024.02; 44(2); e31148

5. Homma T, Uemura N, Tanaka K, Mori H, Okazaki M. Objective Assessment of the Repeated Botox Treatment to the Synkinesis of Facial Paralysis by the Integrated Electromyography. The Journal of craniofacial surgery. 2024.01; 35(2); 577-581

[総説]

1. 末岡大輔, 田中顕太郎, 森　弘樹, 岡崎　睦. 開口部が狭い広範な胸腔皮膚瘻に対するインレー植皮における新しい分層植皮片固定法 日本形成外科学会会. 2024.03; 44(8); 363-369

2. 栗原美紗樹, 森 弘樹, 植村法子, 加藤小百合, 日高剛朗, 田中顕太郎. 再建乳房の輝度差の検討　深下腹壁動脈穿通枝皮弁と広背筋皮弁の比較 日本形成外科学会. 2024.03; 44(3); 99-103

3. 清水寛章, 植村法子, 森　弘樹, 田中顕太郎, 岡崎　睦.. 高 IgE 症候群に合併した肛門周囲の偽上皮腫性過形成の 1 例 創傷. 2024.01; 15(1); 18-21

4. 村上響一, 井坂光宏, 安永能周. 肺尖部の膿胸に対して遊離前外側大腿皮弁で治癒を得た 1 例 日本マイクロ会誌. 2024; 37(2); 63-67

[講演 · 口頭発表等]

1. Murakami K, Tanaka K. The Sweat Secretion in the Pedicled Volar Skin Flaps in Rats. IPSRC 2024 2024.10.19 港区

1. 有泉陽介，大野十央，菅原貴志，河野能久，田中顕太郎，朝蔭孝宏. 鼻副鼻腔悪性腫瘍に対する combined approach による頭蓋底手術の適応と限界. 第 36 回日本頭蓋底外科学会 2024.07.05 新宿

2. 大野十央，有泉陽介，菅原貴志，河野能久，田中顕太郎，朝蔭孝宏. SMARCB1 欠損鼻 · 副鼻腔癌に対する治療戦略. 第 36 回日本頭蓋底外科学会 2024.07.05 新宿

3. 村上響一, 宇佐美聡, 園木謙太郎, 石田直也, 田中顕太郎. 深大腿動脈穿通枝皮弁を挙上する際の穿通枝選択における注意点. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松市

4. 佐々木紘人，岡田隆平，石田直也，田中顕太郎，朝蔭孝宏. 左側頭部傍骨性骨肉腫の一例. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.21 浜松

5. 石田直也, 田中顕太郎, 上野麻由, 村上響一. Modified Hinge Flap と DP 皮弁による気管皮膚瘻閉鎖術. 第 48 回日本頭頸部癌学会 2024.06.20 浜松市

6. 上野麻由, 石田直也, 村上響一, 田中顕太郎. 顔面神経一期的再建に使用可能な大耳介神経の採取長についての自験例. 第 67 回 日本形成外科学会総会 · 学術集会 2024.04.11 神戸市

7. 中橋　陸, 石田直也, 田中顕太郎, 堤　剛. 外耳道癌切除後の再建方法の検討　再建方法の標準化に向けて . 第 67 回日本形成外科学会総会 · 学術集会 2024.04.11 神戸市

8. 田中顕太郎. 頭頸部肉腫の外科的切除に伴う再建手術. 第 7 回日本サルコーマ治療研究会 2024.02.10 名古屋市

9. 村上響一, 宇佐美聡. 右大腿外傷後軟部組織欠損に対して遊離深大腿動脈穿通枝皮弁移植を行った 1 例. 第 35 回東京医科歯科大学形成外科集談会 2024.01.27 千代田区

生体支持組織学講座

細胞生物学分野

Department of Cell Biology

教授	中田　隆夫
助教	有馬　好美
助教	Cheng　Lihong
助教	吉原壮悟
技術専門員	中村　里子
技術補佐員	武村　泉
技術補佐員	木村　和美

(1) 分野概要

2009 年 4 月に研究室をスタートした。細胞、個体レベルで、時間空間的に異なるシグナルの活性化が、どのような細胞の応答の違いを引き起こすかについて研究している。その手段として、光によって制御できるシグナル分子を開発している。

(2) 研究活動

光遺伝学を用いて、細胞個体等様々なレベルでのシグナルの活性化がどのような応答を起こすかについて研究している。我々はこの方法によって細胞や個体における新しい法則の発見を目指している。そのために新しいシグナル分子の開発も行っている。しかしその目標はあくまで生物の機能を分子レベルで解明することである。

(3) 教育活動

本分野は医学部 1 年の細胞生物学、2 年の組織学 · 組織学実習を担当し、研究実践プログラム、プロジェクトセメスター、他大学からの研究実習など医学部学生の研究指導を多数行うほか、研究生や歯学分野からの大学院生も受け入れ、教育を行っている。

（細胞生物学）
細胞生物学は後期に講義が行われる。前半で細胞生物学の歴史及び基本事項について教育し、後半ではやや進んだ内容として本学教員あるいは学外非常勤講師にお話しいただいている。細胞生物学の基礎については教養でも習っているので、それらと重複することがあまりないように配慮している。本講義では新しい事項を暗記することが目的ではなく、それぞれの分野での考え方の違いあるいは研究者一人一人によるスタンスの違いのようなものを感じてもらうことを目標としている。

（組織学 · 組織学実習）
春から夏にかけ組織学総論と各論を一体として講義し、さらに組織学実習をペアとして行うことにより、講義の中で実習上の問題も理解できるようにしている。この組織学では、臨床に進んでから各科の病気についての講義あるいは病理での講義を理解できるようになるための、基本的な細胞や構造を理解することを目標としている。総論では、臨床でもよく使う HE 染色切片の作成から上皮、筋、神経、結合組織の 4 つの体の細胞を分類し、その特徴について学ぶ。後半はさらに細かく頭の毛から骨について続けて学ぶことにより、それぞれの組織の違いや共通点を理解することが目標である。
2021 年から組織学講義 · 実習解説は録画されたものをいつでも見られるというオンデマンド化を行ったことにより、学生が自由に何度でも復習できるようにした。また本学が保有する貴重な標本をデジタルデータ化し、バーチャルスライド標本を作製した。このバーチャルスライド標本と Zoom を活用し、実習時間内では教員が遠隔操

作により学生一人一人からの質問に答えディスカッションを行っている。実習の節目には学生のモチベーションを高める工夫をし、グループワークによるアクティブラーニングや、対面で顕微鏡操作の基礎を身に着けスケッチを行うという昔ながらの方法も実施している。標本の中でよい部分を探し、その中のどのような構造を抽出するかという点を評価するという意味では従来のような顕微鏡観察法にバーチャルスライドが劣っているとは思えない。そのため成績評価としてはレポート提出と情報検索室 PC での試験およびペーパーテストを行っている。

2023 年から実習に導入した Teams 上でのチャットやスクリーンショットによる質疑応答に加え、2024 年は Class 設定によりレポートの提出も Teams 上で完結できるよう体制を整えた。

（2024 年学生受け入れ実績）
博士課程大学院生：1 名
修士課程大学院生：2 名
医学部生：1 名

(4) 研究業績

[原著]

1. Hironori Inaba, Tsuyoshi Imasaki, Kazuhiro Aoyama, Shogo Yoshihara, Hiroko Takazaki, Takayuki Kato, Hidemasa Goto, Kaoru Mitsuoka, Ryo Nitta, Takao Nakata. Cryo-electron tomography of the actin cytoskeleton and membrane organization during lamellipodia formation using optogenetics 2024.08;

2. Cheng L, Shi C, Nakamura S, Esaki N, Ichiba Y, Tanaka M, Sakai K, Matsui T. Adiponectin-Receptor Agonistic Dipeptide Tyr-Pro Stimulates the Acetylcholine Nervous System in NE-4C Cells. Journal of agricultural and food chemistry. 2024.04; 72(13); 7121-7129

3. Toshifumi Asano, Philipp Sasse, Takao Nakata. Development of a Cre-recombination-based color-switching reporter system for cell fusion detection. Biochem Biophys Res Commun. 2024.01; 690; 149231

4. Aiko Takada, Toshifumi Asano, Ken-Ichi Nakahama, Takashi Ono, Takao Nakata, Tomohiro Ishii. Development of an optogenetics tool, Opto-RANK, for control of osteoclast differentiation using blue light. Sci Rep. 2024.01; 14(1); 1749

[総説]

1. Lihong Cheng, Caiyue Shi, Xixi Li, Toshiro Matsui. Impact of Peptide Transport and Memory Function in the Brain Nutrients. 2024.09;

[講演 · 口頭発表等]

1. Lihong Cheng. Bioavailability and mechanism of action of blood brain barrier transportable dipeptide Tyr-Pro for its therapeutic potential on cognitive impairment. 日本食品科学工学会第 71 回大会 2024.08.30 名古屋

[その他業績]

1. 「 光で骨吸収をコントロールする新技術を開発 」 — 骨疾患の新たな治療法に期待 —, 2024 年 02 月 プレスリリース（Scientific Reports）

2. Opto-RANK: A light switch for osteoclasts, 2024 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

運動器外科学分野

Department of Joint Surgery and Sports Medicine

分野長　教授　古賀英之
准教授　中村智祐
講師　　宮武和正
助教　　片倉麻衣

軟骨再生学講座
Department of Cartilage Regeneration
寄付講座准教授　中川裕介
寄付講座講師　　高田亮平

大学院生
山下理子、吉田龍
石畑知沙、關良太、白畑航、勝又豊啓
德本泰將、萩原怜奈、渡邉紗矢
高一傑、波多野泰三

技術補佐員　尾島美代子
特定業務職員 岡田美穂

(1) 分野概要

運動器外科学は、整形外科学を母体にした大学院の教室で、2000 年の本学大学院化への移行に伴って設立されました。整形外科教室の専門班である「膝スポーツ班」を中心に構成されており、関節症の保存加療、人工関節のみならず、「前十字靱帯損傷」等スポーツ傷害に起因する運動器疾患を対象としています。教室内に寄付講座（軟骨再生学）を持ち共同で臨床 · 研究を実践 (下記項目) することにより、運動器疾患の克服を目指しています。

1. 下肢の疾患について小児から高齢者まで広い範囲の患者を扱い、それぞれのニーズに合わせた治療法の推進
2. 人工股関節 · 人工膝関節置換術の早期社会復帰をめざしたプログラムの実践
3. よりよい膝関節 · 股関節術式の開発
4. 患者の自己評価を重視した合理的治療体系をめざした関節外科治療
5. 専門部位別の高度な治療システムの実践
6. スポーツの現場に対応できる実践的な治療法の開発と教育
7. 軟骨を代表とする関節組織に対する再生医療
8. 原因が十分に解明されていない関節痛のメカニズムの研究と新しい関節疼痛改善法の開発

整形外科は外科のため、どうしても外科手術で治療することに目的が偏りがちです。運動器の痛みについて近年ようやく注目度が高まってきました。消炎鎮痛剤一辺倒の保存治療から、痛みのメカニズムを考慮した薬物療法、運動療法の重要性が認識されつつあります。関節痛の研究はまだ始まったばかりです。運動器外科学がこの領域のパイオニア的な活動ができることを期待しています。

(2) 研究活動

基礎的研究
1. 間葉系組織由来幹細胞の分離 · 増殖方法の確立
2. 間葉系組織由来幹細胞の生物学的特性の解明
3. 間葉系幹細胞による関節軟骨損傷治療法の開発と改良
4. 間葉系幹細胞による関節組織の治癒促進法の実践
5. 軟骨 · 骨の人工材料の開発
6. 骨 · 軟骨代謝改善を目的とした新規治療薬の開発
7. 骨 · 軟骨代謝因子の遺伝子的アプローチ
8. 外傷 · 手術後関節炎のメカニズムの解明とコントロール
9. 関節痛のメカニズムと治療法
10. 二次性股関節症の遺伝子解明

臨床的研究
1. 膝関節構成体の新しい機能的再建法の開発
2. 日本人により適合する人工膝 · 股関節の開発
3. 解剖学的前十字靱帯再建術の成績向上のための工夫
4. 外傷 · 手術後の疼痛に対する新しいアプローチ
5. 膝関節 · 股関節術、術前術後の動作解析
6. 下肢関節手術におけるナビゲーションシステムの開発
7. 臼蓋の解剖学的解析
8. 変形性関節症マーカー
9. 関節痛に対する新しい保存治療の開発と臨床的な効果の検証
10. 他施設共同研究による膝関節手術の新たなエビデンスの構築

(3) 教育活動

診療科としては、医学部整形外科として大学院整形外科学と共同して活動を行っています。
　幅広い整形外科臨床的知識と技能を持った整形外科専門医の育成
　特に運動器外科学（膝スポーツ班）として、関節系整形外科の専門的研修（スポーツ外傷の治療、関節鏡手術、変形性関節症に対する治療、人工関節置換術など）

大学院運動器外科学として
　上記基礎研究、臨床研究における大学院生の研究指導
　世界に通用する整形外科系基礎研究者の育成

(4) 教育方針

診療科としては、「医学部整形外科」として大学院整形外科学と共同して活動を行っています。臨床教育制度の発足により、2 年間の初期研修で基本的な医師としての知識と技量を身に付けたのちに大学を中心とした整形外科研修プログラムにそって整形外科研修を開始します。医学部整形外科関連施設で整形外科、外傷学の基本的教育をうけ、その間に幅広い整形外科臨床的知識と技能を獲得し、整形外科医師としての基本的な態度や技量を磨きます。さらに最低 2 年間、専門班病院にて関節系と神経系整形外科の専門的研修を受けます。6 年間の基礎研修期間を終えた時点で、日本整形外科学会認定専門医を取得することを義務づけています。大学院への入学については、教育期間の 4 年を終えた時点で、個人の希望と実績の評価、また人数的なバランスに応じて受験を許可しています。また学外からの応募、留学生の受け入れ、大学院研究に興味のある医師、獣医師、理学療法士などの受け入れも実施しています。

(5) 臨床活動および学外活動

スポーツ外傷の治療
　スポーツ外傷に対する予防、保存的治療、リハビリテーション

膝前十字靱帯損傷に対する解剖学的２重束再建術
膝複合靱帯損傷に対する手術的治療
半月板損傷に対する機能温存を目的とした手術的治療
治癒困難な半月板損傷や軟骨損傷に対する再生医療

変形性関節症に対する治療
初期の関節炎、変形性関節症に対する保存的アプローチ
中等度の関節症に対する骨切り術などの関節温存手術
重度の関節症に対する人工関節置換術

上記に対する臨床研究、臨床成績を国内外の学会で発表、また論文で報告しています。

(6) 臨床上の特色

スポーツ外傷
膝前十字靱帯再建術は世界に先駆けて 1994 年より 2 重束再建術を施行しており、膝安定性、スポーツ復帰率、患者満足度ともに良好な成績を収めています。半月板手術は可能な限り縫合し、半月板機能の温存を試みます。また半月板切除後や円板状半月板手術後に生じる半月板機能不全に対し、半月板の機能を修復する新たな術式を開発し行っています。
前十字靱帯損傷に対する予防 · メカニズムの解明をノルウェーの Oslo Sports Trauma Research Center との共同研究で行い、世界で初めて前十字靱帯損傷の詳細なメカニズムを明らかにしました。これに基づきその予防、また手術後の患者さんに対するリハビリ、再受傷の予防に対する様々なアプローチを行っています。

人工膝関節置換術
独自に日本人向け人工膝関節 Actiyas を開発し用いている。開発に当たっては日本人の骨形態を分析してインプラントデザインにも工夫を凝らし、より機能的で Active な動きに対応でき、また痛みなく患者さんが癒される膝を目指しています。大腿骨側にはセラミックを用い、より摩耗の少なく長期の安定した成績が期待できます。両膝の悪い患者さんに対しては両側同時の手術を行っており、これによって入院やリハビリが一度で済むために患者さんの早期社会復帰に役立っています。

滑膜細胞を用いた軟骨 · 半月板の再生医療
我々の研究室で行った多くの基礎研究の成果をもとに、膝関節の軟骨欠損に対して、外来手術で滑膜を採取し、本学細胞治療センターで幹細胞を培養、関節鏡視下で幹細胞を移植する再生医療を平成 20 年 4 月より開始し、安全性と有効性を確認しています。本学再生医療センターと共同で平成 26 年 8 月からは縫合の困難な半月板損傷に対する滑膜細胞移植の臨床治験を開始しました。

(7) 研究業績

[原著]

1. Mitsuru Mizuno, Yoshitaka Maeda, Sho Sanami, Takahisa Matsuzaki, Hiroshi Y Yoshikawa, Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Noninvasive total counting of cultured cells using a home-use scanner with a pattern sheet. iScience. 2024.03; 27(3); 109170

2. Yusuke Fuchioka, Kentaro Endo, Yuriko Sakamaki, Takahiro Tanimoto, Nobutake Ozeki, Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Makoto Tomita, Ichiro Sekiya. Scanning electron microscopy analysis of synovial and adipose mesenchymal stem cells adhering to cartilage. Regen Ther. 2024.12; 27; 488-495

3. Miguel A Fernandez, Justin Lee, James Calder, Mai Katakura, Mary Jones, Miki Dalmau-Pastor. The deltoid ligament complex is reliably visualised as four fascicles in two layers with 3D volumetric MRI in the ankles of 20 asymptomatic volunteers. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024.12; 32(12); 3076-3081

4. Hisako Katano, Nobutake Ozeki, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Hideyuki Koga, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Femoral cartilage defects initiate from medial meniscus extrusion or tibial cartilage lesions and expand in knee osteoarthritis as revealed by 3D MRI analysis. Sci Rep. 2024.10; 14(1); 25937

5. Mai Katakura, Mercedes Aramayo Gomes Rezende, James D F Calder, Angela E Kedgley. A comparison of abductor hallucis muscle activation and medial longitudinal arch angle during nine different foot exercises. Gait Posture. 2024.09; 113; 167-172

6. Katakura M, Clark R, Lee JC, Mitchell AWM, Shaw JW, Tsuchida AI, Jones M, Kelly S, Calder JDF. Foot and Ankle MRI Findings in Asymptomatic Professional Ballet Dancers. Orthopaedic journal of sports medicine. 2024.08; 12(8); 23259671241263593

7. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Toshiyuki Ohara, Tomomasa Nakamura, Aritoshi Yoshihara, Masaya Hayashi, Hideya Yoshimura, Tsuyoshi Nagase, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Serial Assessment of Factors Associated With Patient-Reported Outcomes up to 2 Years After ACL Reconstruction Using Autologous Hamstring Tendon: Results From the TMDU MAKS Study. Orthop J Sports Med. 2024.08; 12(8); 23259671241254105

8. Naoko Araya, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Mikio Shioda, Nobutake Ozeki, Yuji Kohno, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hiroki Katagiri. Risk factors for delayed bone union in opening wedge high tibial osteotomy. Jt Dis Relat Surg. 2024.08; 35(3); 546-553

9. Seiya Matsuta, Kentaro Endo, Nobutake Ozeki, Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Synovial mesenchymal stem cells secrete more lubricin than adipose mesenchymal stem cells after injection into rat osteoarthritis knees. Biochem Biophys Res Commun. 2024.07; 729; 150354

10. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Aritoshi Yoshihara, Hisako Katano, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Cartilage thickness in the medial compartment of the knee joint evaluated by MRI three-dimensional analysis correlates with weight-bearing line ratio and joint line convergence angle. J Orthop Sci. 2024.07;

11. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Aritoshi Yoshihara, Shoichi Hasegawa, Yasumasa Tokumoto, Ichiro Sekiya, Nobutake Ozeki. Steep medial posterior tibial slope angle and ramp lesion are independent risk factors for an increase in quantitatively measured pivot shift in patients with ACL-deficient knees. J Exp Orthop. 2024.07; 11(3); e70011

12. Ozeki N, Koga H, Nakamura T, Katagiri H, Nakagawa Y, Hoshino T, Katakura M, Amemiya M, Yoshihara A, Katano H, Mizuno M, Endo K, Masumoto J, Sekiya I. The association of the medial meniscus covering ratio with knee cartilage thickness at 15 medial compartment subregions as found by three-dimensional analysis using MRI. Journal of experimental orthopaedics. 2024.07; 11(3); e70005

13. Shoichi Hasegawa, Riko Yamashita, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Tomomasa Nakamura, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya, Toshitaka Yoshii, Vicki Rosen, Kunikazu Tsuji. A novel methodology utilizing microchip implants to monitor individual activity and body temperature for assessing knee pain in group-housed rats. Sci Rep. 2024.07; 14(1); 16909

14. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Junpei Matsuda, Tomomasa Nakamura, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Ryota Seki, Toyohiro Katsumata, Mitsuru Mizuno, Ken Watanabe, Ichiro Sekiya, Kunikazu Tsuji, Yusuke Nakagawa. Presoaking Grafts in Vancomycin Does Not Impair Graft-Bone Healing in a Rat Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Model. Am J Sports Med. 2024.06; 52(7); 1784-1793

15. Masato Takao, Satoru Ozeki, Maya Kubo, Xavier M Oliva, Takayuki Yamazaki, Dani Lowe, Kentaro Matsui, Mai Katakura, Yoshitaka Takeuchi, Mark Glazebrook. Directly measured strain patterns of the anterior talofibular and calcaneofibular ligaments after isolated ATFL repair in a combined ATFL and CFL injury: A cadaver study. J Orthop Sci. 2024.06;

16. Naoto Watanabe, Takahisa Ogawa, Kazumasa Miyatake, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii. Increased bone resorption that outpaces increased bone formation: An important pathology of rapidly destructive coxarthrosis. J Orthop Res. 2024.05; 42(5); 1066-1073

17. Takehiro Ohmi, Hiroki Katagiri, Masaki Amemiya, Koji Ikematsu, Midori Miyazaki, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Gait analysis of patients with knee osteoarthiritis who can run versus cannot run. Gait Posture. 2024.05; 112; 67-72

18. Tagawa Y, Saito T, Iwai H, Sato M, Noda S, Yamamoto A, Ota M, Endo K, Koga H, Takahara Y, Sugimoto K, Sekiya I, Fujio K, Kawakami E, Mizoguchi F, Yasuda S. ARID5B is a negative modulator of IL-6 production in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts. Immunological medicine. 2024.05; 47(3); 1-10

19. Jae-Sung An, Christophe Jacquet, Glauco Loddo, Ahmed Mabrouk, Hideyuki Koga, Jean-Noël Argenson, Matthieu Ollivier. Deformity in valgus knee malalignment is not only in the femur but also in tibia or both, based on demographic and morphological analysis before and after knee osteotomies. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024.05; 32(5); 1087-1095

20. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Masaki Amemiya, Ichiro Sekiya. Real-time virtual sonography-guided ossicle removal in unresolved Osgood-Schlatter disease. Arthrosc Tech. 2024.04; 13(4); 102897

21. Yang Yang, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Ryohei Takada, Mai Katakura, Kunikazu Tsuji, Ichiro Sekiya, Kazumasa Miyatake. Characteristics of the synovial microenvironment and synovial mesenchymal stem cells with hip osteoarthritis of different bone morphologies. Arthritis Res Ther. 2024.01; 26(1); 17

1. 半田 和佳, 河野 佑二, 菊池 正悟, 山崎 舜, 石井 宣一, 古賀 英之, 加藤 剛. 非外傷性膝関節血腫が疑われた完全隔壁型の膝蓋上滑膜ひだ障害の 1 例 関東整形災害外科学会雑誌. 2024.10; 55(5); 157-161

[書籍等出版物]

1. 古賀英之他. スポーツ医学概論　膝半月板損傷. 文光堂, 2024.03 (ISBN : 978-4-8306-5198-4)

[総説]

1. Tomomasa Nakamura, Hideyuki Koga. Review of the Development of Meniscus Centralization. Curr Rev Musculoskelet Med. 2024.08; 17(8); 303-312

1. 星野 傑, 雨宮 正樹, 中村 智祐. 【オペがわかれば術後ケアに根拠が持てる!下肢編　動画で学ぶ!整形外科手術】膝関節の手術　高位脛骨骨切り術 (図説) 整形外科看護. 2024.12; 29(12); 1160-1167

2. 中川裕介. メンタルタフネスと手術 整形外科. 2024.11; 75(12); 1228

3. 雨宮正樹, 古賀英之. 【生物学的関節再建の現況と展望】膝周囲骨切り術併用の半月板縫合術の現況と展望 関節外科. 2024.10; 43(10); 1011-1018

4. 中村智祐. 円板状外側半月板に対する形成術 · 縫合術 関節外科. 2024.09; 43(9); 907-913

5. 中村智祐, 古賀英之. 【半月板損傷を科学する】半月板機能不全に対する治療の発展逸脱半月板に対する外科的治療 臨床スポーツ医学. 2024.09; 41(9); 950-955

6. 中村智祐, 大内 洋. 質疑応答プロからプロへ　膝前十字靭帯断裂に対する手術の術式選択について 週間日本医事新報. 2024.08; 5234; 56-57

7. 古賀英之. ACL 損傷メカニズムから考える ACL 損傷予防 日本臨床スポーツ医学会誌. 2024.08; 32(3); 360-364

8. 足立 拓也, 片倉 麻衣. 【スポーツ診療と画像診断】足部 · 足関節 画像診断. 2024.08; 44(10); 1027-1034

9. 中川 裕介 , 吉原有俊, 古賀英之, 関矢一郎. 【整形外科医療安全のすべて】(V 章) 整形外科領域別の医療安全トピックス/症例レジストリに基づいた合併症人工膝関節置換術後の神経 · 血管損傷に対する治療と予防 整形外科 (2024-5 増刊). 2024.05; 75(6); 661-668

10. 雨宮正樹, 古賀英之. 【スポーツ医学で華麗に加齢-人生 100 年時代に向けた運動器の役割-】華麗に加齢 膝関節の抗加齢中高齢者に対する膝周囲骨切り術によるスポーツ復帰 臨床スポーツ医学. 2024.05; 41(5); 520-525

11. 中川 裕介 , 古賀英之 . 膝関節安定性-ACL 再建術後のスポーツ復帰のための前外側回旋不安定性遺残に対する対策- 2024.04; 41(4); 352-357

12. 大関信武, 片野尚子, 古賀英之, 関矢一郎. 3D MRI を用いた半月板評価 オルソペディクス Monthly book orthopaedics. 2024.02; 37(2); 25-30

13. 片倉麻衣, 廣幡健二. 成長期のバレエダンサーの障害 臨床スポーツ医学. 2024.02; 41(2); 198-202
14. 片倉麻衣. 足部 · 足関節疾患に対する CT-likeMRI の応用 臨床スポーツ医学. 2024.02; 41(2); 836-841
15. 大関信武, 関矢一郎, 古賀英之. 超音波アシスト下 · 関節鏡視下外側半月板 all-inside 縫合術 関節外科. 2024.01; 43(1); 14-18
16. 中村智祐, 古賀英之. 外側円板状半月板の病態と治療 臨床スポーツ医学. 2024.01; 41(1); 56-61
17. 高田亮平, 松村 福広他. 人工関節周囲感染 最新の臨床 Web. 2024;
18. 中村智祐, 松村 福広 他. 半月板損傷 最新の臨床 Web. 2024;
19. 古賀英之. 逸脱半月板に対する Knotless FiberTakClinical Report. 2024;

[講演 · 口頭発表等]

1. Yusuke Nakagawa, Tomomasa Nakamura, Nobutake Ozeki, Takashi Hoshino, Masaki Amemiya, Jae-Sung An, Shoichi Hasegawa, TMDU MAKS group, Hideyuki Koga. The combination of ALS augmentation or LET improves clinical outcomes in revision ACLR patients. 2nd Japanese Knee Society Annual Meeting 2024.12.06 Okinawa, Japan
2. Hideyuki Koga. Solutions on meniscus tear repair. APKASS 2024.10.24 Hainan, China
3. Hideyuki Koga. Meniscus centralization. APKASS 2024.10.24 Hainan, China
4. Hideyuki Koga. How to manage lateral meniscus posterior root tear with ACL injury. APKASS ACL consensus meeting 2024.10.24 HongKong
5. Mai Katakura, Kenji Hirohata, Rie Oshimoto, Hideyuki Koga . Bone marrow edema of the ballet dancer' s talus on MRI – a case report and discussion of its management. 34th International Association for Dance Medicine & Science 2024.10.17 Rimini, Italy
6. Hideyuki Koga. Meniscal centralization -Solution to reduce extrusion-. Advance in Knee Arthroscopy and Sports Medicine 2024.10.11 Hanoi, Vietnam
7. Hideyuki Koga. Role of lateral meniscus for ACL reconstruction. 44th Annual International Congress of the Korean Arthroscopy Society 2024.10.05 Seoul, Korea
8. Hideyuki Koga. ISAKOS JSOA Combined program: case-based discussion. 2nd JSOA 2024.09.12 Tokyo, Japan
9. Hideyuki Koga. Meniscal centralization. SIAGASCOT fellow seminar 2024.09.09 Tokyo, Japan
10. Hideyuki Koga. Root or Extrusion: What came First?. Orthopaedic Technology & Innovation Forum 2024.09.06 Sydney, Australia
11. Hideyuki Koga. Meniscal Centralization: Tips for Success. Orthopaedic Technology & Innovation Forum 2024.09.06 Sydney, Australia
12. Hideyuki Koga. Root and extrusion. Orthopaedic Technology & Innovation Forum 2024.09.06 Sydney, Australia
13. Hideyuki Koga. Complex meniscus repair. Orthopaedic Technology & Innovation Forum 2024.09.06 Sydney, Australia
14. Hideyuki Koga. Pardon the innovation: Optimal strategies for ACL surgery. Orthopaedic Technology & Innovation Forum 2024.09.06 Sydney, Australia
15. Hideyuki Koga. Gruelling knee cases. Orthopaedic Technology & Innovation Forum 2024.09.06 Sydney, Australia
16. Hideyuki Koga. ACL injury mechanisms - lessons learned from video analyses. Croucher Advances in Sports Biomechanics Summer Course 2024.07.22 HongKong
17. Hideyuki Koga. Meniscus centralization: tips and tricks. TOSSM-JSOA combined meeting 2024.07.04 Pattaya, Thailand

18. Hideyuki Koga. ACL mechanisms based on video analysis. TOSSM-JSOA combined meeting 2024.07.04 Pattaya, Thailand

19. Hideyuki Koga. How to treat meniscus injuries in athletes. TOSSM-JSOA combined meeting 2024.07.04 Pattaya, Thailand

20. Mai Katakura, Tomohiko Tateishi, Daiya Kitamura, Kaori Nakamura, Hideyuki Koga. The effect of extracorporeal shock-wave therapy on bone union in intramedullary screw fixation of proximal fifth metatarsal stress fractures. ESSKA 2024.05.08 Milan, Italy

21. Ryota Seki. Effect of lateral meniscus centralization on anterior cruciate ligament reconstructed knee rotational stability; A clinical study using a triaxial accelerometer. ESSKA 2024.05.08 Milan, Italy

22. Yasumasa Tokumoto. Short-term outcomes after meniscus centralization combined with pull-out repair and open wedge high tibial osteotomy for medial meniscus posterior root tear with varus alignment. ESSKA 2024.05.08 Milan, Italy

23. Masaki Amemiya. Lateral retinacular release prevents progression of cartilage damage in the patellofemoral joint after medial open wedge high tibial osteotomy. ESSKA 2024.05.08 Milan, Italy

24. Hideyuki Koga. Combination of AKO aimed at neutral alignment and preservation of meniscus function. 3rd JKOPS 2024.04.19 Takamatsu, Japan

25. Hideyuki Koga. Repair of root tears. GOTS webinar serie 2024.04.11

26. Ryu Yoshida. The presoaking grafts in vancomycin does not exacerbate graft-bone healing in the rat ACLR model. 70th ORS 2024.02.02 Long Beach, USA

27. Hideyuki Koga. Surgical Centralization of the Lateral Meniscus to Prevent the Articular Cartilage from Early OA Changes. 70th ORS 2024.02.01 Long Beach, U.S.A

28. Yusuke Nakagawa. Older age, poor preoperative quadriceps muscle strength, and residual pain are risk factors for poorer quadriceps muscle strength recovery at one year after anterior cruciate ligament reconstruction: the TMDU MAKS study. ACL Study Group Meeting 2024.01.28 Niseko, Japan

29. Hideyuki Koga, Ryota Seki, Tomomasa Nakamura. Additional Centralization Procedure Further Controls Pivot Shift After ACL Reconstruction and Lateral Meniscus Repair. ACL Study Group Meeting 2024.01.28 Niseko, Japan

1. 古賀英之. MMPRT: どうやって治す?AKO ＋半月板：半月板修復の有用性を示すために. 第 2 回 日本膝関節学会 2024.12.06

2. 古賀英之. 膝関節フォーラムシンポジウム 症例討論. 第 2 回 日本膝関節学会 2024.12.06

3. 中川裕介, 塩田幹夫, 中村智祐, 大関信武, 星野傑, 雨宮正樹, 安宰成, 長谷川翔一, TMDU MAKS study, 古賀英之. 外側半月板損傷に対する縫合術は切除術よりも術後 1 年時の PROMs が良好であった ～TMDU MAKS study における検討～ . 第 2 回 日本膝関節学会 2024.12.06

4. 中川裕介, 吉原 有俊, 中村 智祐, 大関 信武, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 安 宰成, 長谷川 翔一, 古賀 英之. 膝関節フォーラム PCL 単独損傷の手術適応. 第 2 回 日本膝関節学会 2024.12.06

5. 關良太, 中村智祐、長谷川　翔一, 安　宰成, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 関矢 一郎, 古賀 英之. 外側半月板損傷を合併した初回 ACL 損傷患者に対して外側半月板縫合にセントラリゼーションを追加した術後 1 年時臨床成績の検討. 第 2 回 日本膝関節学会 2024.12.06

6. 古賀英之. スポーツ選手の半月板損傷に対する治療戦略. 大分県スポーツドクター協議会医学研修会 2024.11.26

7. 宮武和正. 股関節疾患における骨粗鬆症治療の重要性. 第 5 回　骨粗鬆症を考える会 2024.11.23

8. 星野　傑. 当院におけるスポーツ外傷に対する高気圧酸素治療. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16 新潟市

9. 古賀英之. 世界から学ぶスポーツ傷害予防　IOC World Congress on Prevention of Injury and Illness in Sport との関わりを通して . 第 35 回 日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16

10. 波多野泰三, 大関信武, 吉田龍, 池田達宣, 秀恵輔, 柳下和慶, 古賀英之. リーグワン 1 チームの 1 シーズンにおける肉離れ再発の 4 例. 第 35 回 日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16

11. 片倉麻衣. バレエダンサーの足ーバイオメカニクスと障害の特徴からよりよい診療を考える. 第 30 回 最小侵襲整形外科学会 2024.11.09

12. 中川裕介, 中村 智祐, 大関 信武, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 安 宰成, 長谷川 翔一, 関矢一郎, 古賀英之 . 高度外反 · 屈曲拘縮膝に対する腓骨神経プレリリースは術後腓骨神経麻痺発生を予防できる. 第 51 回 関東膝を語る会 2024.11.09

13. 雨宮正樹, 中村智祐, 大関信武, 中川裕介, 星野傑, 片倉麻衣, 吉原有俊, 長谷川翔一, 関矢一郎, 古賀英之. アシストアームを用いた半月板縫合術の実際とコツ. 第 30 回 日本最小侵襲整形外科学会 2024.11.08

14. 片倉麻衣, 立石 智彦, 中村 香織. 第 5 中足骨基部疲労骨折術後早期の集束型体外衝撃波が骨癒合に与える影響の検討 . 第 49 回 日本足の外科学科学術集会 2024.11.07

15. 高田亮平, 天野祐輔, 井口亮, 宮武和正, 吉井俊貴, 古賀英之. ALS および OCM アプローチにおけるテーパースリップセメントステムの使用経験. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.25

16. 高田亮平, 天野祐輔, 井口亮, 宮武和正, 吉井俊貴, 古賀英之. 側臥位 THA のためのピンレスポータブルナビゲーションの開発と検証. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.25

17. 高田亮平, 天野祐輔, 井口亮, 宮武和正, 吉井俊貴, 古賀英之. AR マーカーとスマートフォンを用いた術中セメントステム挿入補助アプリの開発と精度検証. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.25

18. 古賀英之. 半月板治療併用 HTO の適応/計画/解剖/基本手技. 第 1 回 AKO basic course 2024.10.19

19. 山口 玲子, 瀬川 裕子, 宇都宮 啓, 宮武 和正, 伊良部 仁, 林 祐子, 阿久津 裕子, 清水 正樹, 吉井 俊貴, 森 雅亮. 若年発症の強直性脊椎炎に併発した大腿骨寛骨臼インピンジメントに対して股関節鏡視下関節形成術を施行した一例. 第 33 回　日本小児リウマチ学会総会 2024.10.18

20. 萩原怜奈, 片桐 洋樹, 荒川 翔太郎, 中川 裕介, 宮武 和正, 中村 智祐, 辻 邦和, 吉井 俊貴, 斎藤 充, 古賀 英之. ヒト半月板と半月板後根における終末糖化産物 AGEs および酵素的架橋の蓄積傾向の検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17

21. 關　良太, 片桐 洋樹, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. ラット半月板引張試験による半月板根部強度の加齢による変化の検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17

22. 山下 理子, 野澤 伊織, 長谷川 翔一, 安 宰成, 中川 裕介, 宮武 和正, 片桐 洋樹, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 古賀 英之, 辻 邦和. CNP による変形性関節症抑制効果の薬理学的作用機序の解明. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17

23. 中川裕介. 人工膝関節置換術後の疼痛-Painful TKA の鑑別疾患とその対応-. 第 6 回　Medical Corporation Meeting 2024.10.03

24. 星野　傑. スピードスケートにおける医学サポート活動. 日本スポーツ整形外科学会 2024 2024.09.12 新宿区

25. 古賀英之. オスロから IOC へ 北欧、世界から学ぶスポーツ傷害予防. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

26. 中村智祐. 外側半月板放射状断裂治療における centralization の役割. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

27. 中村智祐. ACL 損傷アスリートの RTS に向けた膝関節鏡視下手術. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

28. 中川裕介. 人工膝関節置換術後のスポーツ活動の現状と合併症への対応. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

29. 中川裕介, 中村 智祐, 古賀 英之. レジストリー研究から見た再再建に至る因子. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

30. 吉田龍. ラグビーにおける頭部前方タックルのリスク因子-リーグワン 1 チームにおけるタックルビデオ分析-. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

31. 吉田龍. 当院におけるハイアスリートへの一束扁平移植腱を用いた前十字靭帯再建術の術後 1 年臨床成績. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

32. 片倉麻衣. クラシックバレエダンサーの身体特性と障害の特徴. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

33. 片倉麻衣. JSOA-USA traveling fellowship 2024 〜足の外科 · ダンス医学の立場から〜. 第 2 回　JSOA 2024.09.12

34. 雨宮正樹, 中村智祐, 大関信武, 中川裕介, 星野傑, 片倉麻衣, 吉原有俊, 長谷川翔一, 関矢一郎, 古賀英之. 当院における開大式高位脛骨骨切り術術後のスポーツ復帰の検討. 第 2 回 JSOA 2024.09.12

35. 高田亮平. 前方系進入法によるセメントステム使用のコツとピットフォール. Great Expectations 2024.07.28

36. 星野　傑. スピード競技選手の外傷 · 障害とその他の対応. 令和 6 年度公認コーチ 3(スピードスケート) 専門科目講習会 2024.07.21

37. 神野哲也, 三谷茂, 宮武和正, 和田佳三, The JOIN Study Surgery Group. 大腿骨頚部骨折に対するセメント 3 セメントレスバイポーラー人工骨頭置換術の成績—多施設前向き観察研究. 第 50 回 日本骨折治療学会学術集会 2024.06.28

38. 小栁津 卓哉. 高気圧酸素治療は骨折治癒過程早期に作用し，骨癒合を促進する. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市

39. 星野　傑. 当院におけるスポーツ外傷に対する高気圧酸素治療. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市

40. 古賀英之. 初期変形性膝関節症におけるスポーツ復帰へのアプローチ. 第 3 回　兵庫県整形外科医会　令和 6 年度学術講演会 2024.06.22

41. 片倉麻衣. 足関節外側靭帯損傷はどのような不安定性をもたらすのか バイオメカニクス研究から考える . 第4 回　CLAI 研究会 2024.06.16

42. 片倉麻衣. バレエダンサーの足部足関節の障害 · 外傷 -その特徴と治療における病院の役割. 第 10 回 日本舞台医学会学術集会 2024.06.15

43. 宮武和正. 変形性股関節症に対する骨粗鬆症治療. Hip Total Management Seminar 2024.06.14

44. 瀬川裕子, 山本皓子, 山口玲子, 宮武和正, 高田亮平, 天野祐輔, 吉井俊貴, 神野哲也. 乳児股関節健診に対する小児科医の意識調査. 第 63 回 日本小児股関節研究会 2024.06.06

45. 古賀英之. 半月板損傷に対する機能温存を目指した治療. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

46. 古賀英之. 早期変形性膝関節症の半月板治療. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

47. 宮武和正, 神野哲也, 小谷野岳, 谷口直史, 富沢一生, 羽山哲生, 渡曾恵介. 変形性股関節症診療ガイドライン改訂に向けて 第 2 章『病態』改訂のポイント. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

48. 中川 裕介, 大関信武, 中村 智祐, 片倉 麻衣, 星野傑, 雨宮 正樹, 吉原有俊, 吉井俊貴, 古賀英之, 関矢一郎 . TKA 後の感染疑い例に対するエコーガイド下滑膜生検による永久標本の病理評価. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

49. 中川裕介, 長谷川翔一, 吉原 有俊, 中村 智祐, 林 将也, 吉村 秀哉, 長瀬 寅, 古賀 英之, TMDU MAKS group. 高齢、術後膝伸展筋力回復不良が ACL 再建術後 1 年の KOOS-Sports, KOOS-QOL スコア不良の危険因子である—東京医科歯科大学多施設共同研究 . 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

50. 中川 裕介, Hao Ding, 長谷川 翔一, 片桐 洋樹, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 大関 信武, 中村 智祐, 古賀 英之. 中枢性感作は膝周囲骨切り術後の患者立脚型評価を低下させる. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

51. 中川 裕介, 中村 智祐, 大関信武, 星野 傑, 片倉麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 前外側構成体補強術 · lateral extra-articular tenodesis の併用を行った ACL 再再建術の短期成績. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

52. 中村智祐, 古賀英之. 半月板機能温存における下肢アライメント矯正. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

53. 白畑航, 中川裕介, 中村智祐, 大関信武, 片倉麻衣, 星野傑, 雨宮正樹, 吉原有俊, 吉井俊貴, 関矢一郎, 古賀英之. 術前の中枢性感作は人工膝関節置換術術後 1 年の遺残疼痛，患者満足度と活動度の低下に関連する. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

54. 藤井 政徳, 山崎 琢磨, 福島 健介, 庄司 剛士, 高田 亮平, 山田 和希. エビデンスに基づいた変形性股関節症診療-ガイドライン第 3 版- (第 7 章)『大腿骨寛骨臼インピンジメント (FAI)』改訂のポイント. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23

55. 古賀英之. 初期変形性膝関節症に対するアプローチ. 膝関連疾患のトータルケア 2024.04.22

56. 片倉麻衣. 高分解能 3 D-T1 MRI による疲労骨折 · 骨形態評価　CT 撮影を減らせるか. 第 22 回 東京スポーツ整形外科研究会 2024.04.13

57. 古賀英之. 初期変形性膝関節症に対する治療戦略. 第 21 回 北海道関節疾患研究会 2024.04.06

58. 古賀英之. 中高年の半月板損傷に対する治療戦略. 第 36 回 関西関節鏡膝研究会 2024.03.16

59. 嶋田壮太郎, 天野 祐輔, 高田 亮平, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 宮武 和正. 人工股関節全置換術後の患者制御鎮痛法（PCA）における皮下注射と静脈内注射の比較検討. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.16

60. 後藤 周平, 吉原 有俊, 星野 傑, 中川 裕介, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 前十字靱帯再建術後、”筋層下鏡視”下に大腿骨ボタン抜去を行った 1 例. 第 64 回関東整形災害外科学会 2024.03.16 横浜市

61. 古賀英之. 逸脱半月板に対する centralization 法. Ortho Surgery Skill Up Seminar 2024.03.14

62. 古賀英之. 損傷メカニズムから考える ACL 損傷予防. 第 14 回 スポーツメディスンフォーラム 2024.03.10

63. 高田亮平, 天野祐輔, 宮武和正, 杉田直彦, 吉井俊貴, 古賀英之. iPhone と Apple Watch を併用した非侵襲ナビゲーションシステムの骨盤モデルを用いた精度検証. 第 18 回 日本 CAOS 研究会 2024.03.07

64. 宮武和正. 転位型大腿骨頸部骨折の治療と骨粗鬆症の薬物治療. EVENITY Special Week Seminar 2024.03.07

65. 浅見 大輔, 中川 裕介, 吉原 有俊, 中村 智祐, 星野 傑, 徳本 泰將, 関矢 一郎, 古賀 英之. 難治性人工膝関節感染に対するメガプロステーシスセメントスペーサー 5 例の治療成績. 関東整形災害外科学会雑誌 2024.03.01

66. 宮武和正, 高田亮平, 天野祐輔, 吉井俊貴, 古賀英之. 人工股関節全置換術術前の関節内ブロックと術後遺残性疼痛の関連性の検討. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23

67. 榎政行, 宮武和正, 高田亮平, 天野祐輔, 吉井俊貴, 古賀英之. 人工股関節全置換術における寛骨臼側自家骨移植の有用性検討. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23

68. 高田亮平. ピンレス人工股関節ポータブルナビゲーションー非侵襲化の現在と未来ー. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23

69. 高田亮平, 天野祐輔, 宮武和正, 神野哲也, 吉井俊貴, 古賀英之. Augmented Reality (AR) を用いた人工股関節全置換術. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23

70. 高田亮平. 前方系進入法によるエクセターステム. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23

71. 中川 裕介, 大関信武, 中村 智祐, 片倉 麻衣, 星野傑, 雨宮 正樹, 吉原有俊, 古賀英之, 関矢一郎. 人工膝関節周囲感染におけるエコーガイド下滑膜生検の有用性. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23

72. 中川 裕介, 中村智祐, 大関信武, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮正樹, 吉原 有俊, 関矢一郎, 古賀英之 . Initia Total Knee System の短期成績. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23

73. 中川 裕介, 渡邊 敏文, 中村智祐, 大関信武, 星野傑, 片倉麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 関矢一郎, 古賀英之 . 両側同時 TKA 患者においてキネマティックアライメントの方がメカニカルアライメントに比べ高い患者満足度が得られた：平均 4.5 年の中期成績. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23

74. 山口玲子, 瀬川裕子, 宇都宮啓, 宮武和正, 伊良部仁, 林祐子, 阿久津裕子, 清水正樹, 吉井俊貴, 森雅亮. 小児リウマチ性疾患に併発した大腿骨寛骨臼インピンジメントに対して股関節鏡視下関節形成術を施行した 2 例. 第 35 回　関東小児整形外科研究会 2024.02.23

75. 宮武和正, 辻邦和, 片桐洋樹, 大関信武, 関矢一郎. 運動器疾患に対する PRP 治療. 第 36 回 日本軟骨代謝学会 2024.02.16

76. 山下理子, 野澤伊織, 長谷川翔一, 安宰成, 中川裕介, 宮武和正, 片桐洋樹, 中村智祐, 古賀英之, 吉井俊貴, 辻邦和. CNP による変形性関節症抑制効果の薬理学的作用機序の解明. 第 36 回 日本軟骨代謝学会学術集会 2024.02.16

77. 古賀 英之. 変形性膝関節症の進行を予防するための外科的アプローチ. 第 33 回 福島県整形外科医の集い 2024.02.10

[特許]

1. ガイド装置, 特許番号：TW I834413

[受賞]

1. JSOA-USA travelling fellowship, 日本スポーツ整形外科学会, 2024 年
2. Women in ESSKA, European Society of Sports Traumatology, Knee Surgery and Arthroscopy, 2024 年 05 月

[その他業績]

1. 整形災害外科学研究助成財団　令和 5 年度研究助成　(片倉麻衣）, 2024 年 03 月
   高分解能 3D-T1 MRI を用いたバレエダンサーの足関節後方インピンジメント症候群の骨形態の解析
2. 「お皿ほぐし」で膝痛改善（古賀英之）, 2024 年 06 月
   サンデー毎日
3. 『関節痛保存療法 · リハビリの名医 50 人」と 「病院 · 医師の選び方」』(古賀英之） , 2024 年 06 月
   株式会社小学館 女性セブン
4. 2024 年度 JSOA-USA Traveling Fellow（片倉麻衣）, 2024 年 07 月
5. 令和 6 年度公認コーチ 3(スピードスケート) 専門科目講習会, 2024 年 07 月
6. ひざの痛みは「1 日 1 分」で消える（古賀英之）, 2024 年 07 月
   週刊ポスト
7. 2024 改定で 2 つの術式が保険適用、広がる変形性膝関節症の関節温存手術（古賀英之）, 2024 年 09 月
   日経メディカル
8. 読売新聞　オンライン　（中川裕介　白畑航）, 2024 年 09 月
   リハビリ支援の「アシストロボット」開発など「医工連携」強化へ…東京科学大あす発足
9. 読売新聞　オンライン　（中川裕介　白畑航）, 2024 年 12 月
   サイエンスるぽ　治療の現場でロボ開発　歩行リハビリに医学と工学が融合

[社会貢献活動]

1. ひざ関節の痛みをセルフケアで改善, 毎日新聞出版, サンデー毎日, 2024 年 05 月 13 日 - 2024 年 06 月 04 日
2. 「関節痛保存療法 · リハビリの名医 50 人」と「病院 · 医師の選び方」, 小学館, 女性セブン, 2024 年 06 月 06 日 - 現在
3. 東京医科歯科大学式「1 分ほぐし」の内容等, 小学館, 週刊ポスト, 2024 年 06 月 17 日
4. 東京科学大　あす発足　「医工連携」強化, 読売新聞, 読売新聞, 2024 年 09 月 03 日 - 2024 年 09 月 30 日

分子情報伝達学分野

Department of Cell Signaling

准教授　林幹人
連携研究員　傳田良亮、山下祐
大学院生　Qing Yifan、Xu Jiayi、Wang Cheng、Chen Zeyu、加藤崇、Li Beichen

(1) 分野概要

骨の異常は、骨そのものに及ぶ影響だけでなく様々な他臓器での異常につながることが知られており、骨恒常性の維持が全身の臓器制御機構に関連すると考えられている。本分野では、骨吸収と骨形成を含む骨構成細胞による骨リモデリング制御機構の解明、骨と他臓器の連環システムの解明を目指した研究などを推進している。特に網羅的スクリーニング法や新たな遺伝子改変マウスを用いた解析などにより、基礎研究から臨床応用への橋渡しを視野にいれた研究まで、幅広い研究を進めている。

(2) 研究活動

1. 骨リモデリング制御機構の解明
骨は吸収と形成によって継続的に作り変えられることで、力学的刺激などに対し適応 · 修復している。この再構築は骨リモデリングとよばれ、骨強度を維持するのみならず、生命維持に必須なミネラル恒常性に深く関与している。骨構成細胞である破骨細胞、骨芽細胞、骨細胞は細胞間コミュニケーションによって骨リモデリングを制御しており、この制御機構の解明が様々な骨疾患を理解する上で重要な鍵となる。我々は網羅的な発現解析を行い、骨構成細胞の分化や機能発現の分子機構の解明に取り組んでいる。

2. 骨が産生するオステオカインの同定とその機能解析
近年の研究によって、骨は能動的に他臓器の機能を制御していることが明らかにされてきた。我々は、新たに構築した網羅的解析法により骨産生性分子オステオカインが様々な臓器 · 細胞に作用してその機能を制御することを実証し、骨が多臓器を制御する分子機構の全貌解明を目指している。

3. メカニカルストレス感受 · 応答分子の同定と骨制御機構の解明
骨は力学的環境に適した構造を発達させることが知られている（Wolff の法則）が、外界からのメカニカルストレスを感受し骨形態と骨量を決定する分子機構はほとんど解明されていない。骨構成細胞である骨細胞は、その形態学的な特徴などから骨代謝を制御する指令細胞としての可能性が示唆されているが、その機能は未知な部分が多く残されている。我々は骨細胞の機能解明およびメカニカルストレス感受 · 応答機構の解明を目指している。

4. 病態モデルを用いた治療応用の検討
新たな治療標的分子を探索し分子標的治療のモデル実験を行うことで、創薬への手がかりをつかむ。関節リウマチや骨粗鬆症モデルマウスに対して、リコンビナントタンパク質やウイルスベクター等を用いた治療実験を行うことで、臨床応用への橋渡しを視野にいれた研究を推進する。

(3) 教育活動

学部教育では、歯学部歯学科第 1 学年のモジュール「生命の分子的基盤」の「硬組織生化学の分子的基盤」および「生命の分子的基盤実習」、第 3 学年の「課題統合セミナー」の「骨のバイオロジー」を担当した。「硬組織生化学の分子的基盤」および「骨のバイオロジー」では骨構成細胞（破骨細胞、骨芽細胞、骨細胞）および軟骨細胞の分化

機構や細胞間クロストークの制御機構についての講義をおこなった。また、臨床的な視点も重視し、歯周病や関節リウマチなどの炎症性骨破壊疾患や骨粗鬆症への治療応用を視野に入れたシグナル伝達についての講義も行った。大学院教育では研究を遂行するために必要な手法や技術を習得させると同時に、分子細胞生物学を基盤とした生体高次機能や組織形成を司る細胞内および細胞相互のシグナル伝達機構について討論した。

(4) 教育方針

学部学生 · 大学院生は、分子細胞生物学の基盤的知識のもと自ら考え答えを導き出せるよう指導するとともに、当該領域における最先端の研究を理解させる。

(5) 研究業績

[原著]

1. Yifan Qing, Takehito Ono, Yukihiro Kohara, Atsushi Watanabe, Noboru Ogiso, Masako Ito, Tomoki Nakashima, Sunao Takeshita. Emilin2 marks the target region for mesenchymal cell accumulation in bone regeneration. Inflamm Regen. 2024.06; 44(1); 27

2. Anhao Liu, Mikihito Hayashi, Yujin Ohsugi, Sayaka Katagiri, Shizuo Akira, Takanori Iwata, Tomoki Nakashima. The IL-33/ST2 axis is protective against acute inflammation during the course of periodontitis. Nat Commun. 2024.03; 15(1); 2707

[講演 · 口頭発表等]

1. 林幹人. オステオネットワーク：骨による多臓器制御の現在. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.06.30 沖縄県那覇市

[受賞]

1. 研究奨励賞, 日本骨代謝学会, 2024 年 06 月

[その他業績]

1. 「 IL-33/ST2 経路および歯周組織常在型マクロファージの炎症制御 」 —歯周炎の新たな病態制御メカニズムを発見—, 2024 年 03 月
   Nature Communications

歯周病学分野

Department of Periodontology

2024 年 1 月より
【主任教授】岩田 隆紀
【歯周光線治療学担当教授】青木 章
【准教授】片桐 さやか（〜6 月）
【講師】水谷 幸嗣
【特任講師】志村 大輔
【助教】芝 多佳彦, 前川 祥吾, 大杉 勇人（〜6 月）, 永田 瑞（7 月〜）, 三上 理沙子（〜3 月）
【特任助教】三上 理沙子（4 月〜9 月）, 福場 駿介（4 月〜8 月）, 土谷 洋輔, 齋藤 夏実
【医員】下平 剛, 秤屋 雅弘, 木内 佑実音（〜3 月）, 濵田 悠也（〜3 月）, 川本 櫻子（〜3 月）, 中島 啓恵（〜3 月）, 伊藤 悠吾（〜3 月）, 五藤 早希（〜3 月）, 長井 貴彦, 中川 佳太, 矢ヶ崎 理紗（4〜7 月）, 竹村 修, 黄 竣揚（8 月〜）, 渡邉 愛（8 月〜）
【日本学術振興会特別研究員】吉田 澄子（〜7 月）
【特別研究員】劉 安豪（9 月〜）
【大学院生】竹村 修（〜3 月）, 中川 佳太（〜3 月）, 長井 貴彦（〜3 月）, 矢ヶ崎 理紗（〜3 月）, 横瀬 真子（〜3 月）, 林 桜（〜3 月）, 王 嘉程（〜9 月）, 林 培雅（〜9 月）, 小林 龍太, 坂庭 愛理, 清家 達郎, 豊嶋 啓汰, 山木 大地, 孫 士偉, 今井 千尋, 渡部 準也, Lu Chen, Akinaga Bruna Moreira, Jingyi Gao, Ye Yint Kaung Myint, Mingran Zhang, 滑 文睿, 清水 梓, 松村 俊佑, Wenli Wang, Hui Jinag, 杉本 麻里（4 月〜）, 天岡 奈紗（4 月〜）, 杉山 明優（4 月〜）, 高田 晃己（4 月〜）, 塚原 悠太（4 月〜）, 南部 真生（4 月〜）, Chen-Yi Lee（4 月〜）, Jui-Chun Lin（4 月〜）
【大学院研究生】落合 茜（〜3 月）, 内藤 貴大, 伊藤 悠吾（4 月〜）, 五藤 早希（4 月〜）, 杉本 麻里（〜3 月）, 朝田 絵美（4 月〜）, 鈴木 悠斗（4 月〜）, Geng Chao（4 月〜）, Kyaw Ye Yint（4 月〜）, Zhu Tongxin（9 月〜）, Cao Niuben（10 月〜）, Wang Dongze（10 月〜）, Chen Peng-Ning（10 月〜）, Gao Shengtao（10 月〜）, Sun Yifan（10 月〜）, Dilinaer Kurexi（11 月〜）
【社会人大学院生】平澤 以冬（〜3 月）, 木村 文彦
【外国人特別研究員】林 泰誠
【臨床教授】小林 宏明, 土岡 弘明
【非常勤講師】 49 名
【研修登録医】 81 名
【事務補佐員】須賀 じゅん
【技術補佐員】竹下 理歳（〜9 月）

(1) 分野概要

歯周病学とは歯周病の研究、予防及び治療を取り扱う歯科学の一部門である。歯周疾患または歯周病とは、歯の支持組織である歯肉、歯根膜、セメント質及び歯槽骨よりなる歯周組織に発症する全ての病気の総括的疾患名であり、慢性及び急性の炎症性疾患を呈する。歯周病に関する原因論、生体応答、口腔細菌、全身との関係および組織再生等についてより深く教育している。また、歯周組織の破壊過程に関する研究成果を通じて、新しい治療法の開発を行っている。

(2) 研究活動

「歯周炎における免疫炎症にかかわる研究」
歯周疾患は、個体によりその罹患進行度は異なるがその理由はいまだよく分かっていない。歯周病原細菌の感染から発症までのメカニズム、そして、その過程にある PAMPs、DAMPs に対する免疫応答と炎症反応は複雑であ

り、不明な点が多い。歯周炎において、反応の個体差を論じる上で大きなものは遺伝的な要因であるため、当分野でも歯周炎患者における遺伝子研究を進めている。また唾液や血液などを用いて歯周炎をモニタリングし。唾液中の歯周病原細菌量の定量と血液中の血漿抗体価測定により、歯周炎患者のメインテナンスの状況の把握を試みている。また、唾液のみで歯周炎患者のスクリーニングが出来ないかという発想のもと歯周病の進行度を測定できるロジックを開発した。さらに、歯周炎の発症進行に係わる因子や抗体による交差反応について研究を進め、バージャー病との関連、早期低体重児との関連などを明らかにしている。

「歯周病 · インプラント周囲疾患における細菌の関与」

Red Complex（*P. gingivalis*、*T. forsythia*、*T. denticola*）など数種の特定細菌種が歯周病の発症や進行に強く関わる因子として注目されてきた。しかし近年では、細菌叢内の共生バランスの乱れや細菌間の相互作用によりその発症や進行が規定されるとの考え方（Polymicrobial synergy and dysbiosis）が提唱されはじめた。当科においても唾液やポケット内沈着物をサンプリングし、網羅的細菌叢解析を精力的に実施している。

· 歯周病における Red complex の関わり

わが国において歯周病原細菌の保菌率に関し大規模な疫学的研究データはこれまでなかったが、大規模な患者群に対し qPCR 法を用いて Red Complex 細菌の検索を行い、Red complex と歯周組織破壊を示す臨床パラメータと関連が高いことが明らかとなった。また Red complex 3 菌種のもつ病原遺伝子機能は宿主に抵抗する協力関係にあること、さらに代謝経路物産生系の遺伝子を 3 菌種で補完するという協力関係が、歯周病態の増悪に関わる酪酸合成経路を含め、多数の代謝経路で認められることを明らかにしている。

· 歯周病 · インプラント周囲疾患関連細菌叢の網羅的解析

シークエンス技術を用いて歯周炎やインプラント周囲炎における細菌 DNA 塩基配列を網羅的に解析したところ、両疾患で細菌叢組成に多くの共通点が認められた一方で、コアとなる細菌種の一部に相違が認められた。さらに、よりリアルタイムに炎症を反映する細菌種を捕らえるため細菌 RNA を用いて同様の解析を行ったところ、両疾患で関連する細菌種に相違があることが明らかとなった。

· 機能水を用いた細菌制御

細菌バイオフィルムの破壊をより効果的に行う目的で、オゾンナノバブル水（NBW）の歯周治療への応用を試みている。

「歯周病と循環器疾患の関わり」

歯周病と循環器疾患の関連が指摘されて久しい。しかしながら、両疾患の因果関係は証明されておらず歯周病と循環器疾患の間に介在する病理学的な機序の解析は、現代医学の課題である。様々な動物実験モデルを行い、腹部大動脈瘤病変に多種の歯周病原細菌がすること存在を認め、無兆候性に進行する大動脈瘤について *P. gingivalis* 感染が Toll 様受容体を介して悪化させること、心筋梗塞マウスモデルでは、*P. gingivalis* や *A. actinomycetemcomitans* により壊死範囲の拡大や心破裂につながることを示した。た。さらに、バージャー病の病変に歯周病原細菌が存在することを突き止め、*P. gingivalis* 菌による血小板凝集を介した血管疾患悪化を明らかにしていった。さらに臨床研究では、脳梗塞と腎不全の患者では *A. actinomycetemcomitans* 感染が多いこと、腹部大動脈瘤患者では歯周病の有病率が高いこと、マルファン症候群で特徴的に見られる歯周病菌感染、末梢動脈疾患を有する患者では歯の喪失が多いこと、コントロール不良の糖尿病患者での高い *P. gingivalis* 感染率などが明らかになった。

「歯周病と糖尿病、早産 · 低体重出産との関わり」

糖尿病は慢性代謝性疾患であり、歯周病との発症メカニズムは異なるが、相互に影響すると考えられている。しかしながら、詳細なメカニズムに関しては不明の部分が多い。また近年、妊産婦の切迫早産、早産、低体重児出産と歯周病との関わりについても注目を浴びている。

＜糖尿病＞

歯周炎を有する 2 型糖尿病患者に対して、歯周治療を行うと HbA1c が有意に低下したことを報告し、適切な歯周治療が血糖コントロールに有効であることを報告した。また、2 型糖尿病患者において内科的な治療により HbA1c が低下すると、歯周治療を行っていなくても BOP が減少することも示した。動物実験においてはインスリン欠乏性糖尿病マウスでは歯周炎の進行が早期に発生し、*A. actinomycetemcomitance* 感染マウスでは、腸内細菌叢が変化し、耐糖能異常およびインスリン抵抗性が引き起こされ、非アルコール性脂肪性肝疾患の悪化にもつながること、高血糖状態は歯肉の創傷治癒遅延を引き起こすことを報告している。

＜早産 · 低体重出産＞

切迫早産妊婦では口腔内から *P. gingivalis* が高い頻度で検出されている。また *P. gingivalis* を静脈内注射し菌血症を模した妊娠マウスでは、胎盤の形成異常を伴う低体重出産となることを報告している。

「再生治療」

歯周組織の再生は歯周治療の究極のゴールとされているが、現状の歯周組織再生治療では適応が限られており、すべての症例で理想的な再生が得られるわけではない。本学歯周病学分野では、組織工学的手法を用いて歯周組織の再生、インプラント周囲の顎骨の形成、再生を行うことを目的として基礎研究、トランスレーショナルリサーチ、臨床研究を行っている。

· 新規骨補填材を用いた歯周組織再生 · 顎堤増大
　欠損の大きい歯周組織欠損の歯周組織の再生には、骨補填材の使用が有効であるが、理想的な人工骨補填材の開発がいまだ求められている。小さなトンネル状の β-TCP をランダムに組み合わせてブロック状にした「RT-B-TCP」や PET 製のケースに β - TCP、HA、細粒化自家骨を転入する技術を発表している。
· 成長因子を用いた歯周組織再生 · 顎堤増大
　成長因子としては、トランスレーショナルリサーチとして rhFGF-2 を用いた顎堤増大、根面被覆への応用について研究を行っている。β-TCP 含有スポンジと rhFGF-2 の併用で歯周組織再生が得られたことを報告しており、rhFGF-2 製剤の適応拡大の可能性を示唆されている。
· 細胞シートを用いた歯周組織再生
　温度応答性培養皿を用いた歯根膜細胞シートに関する研究を行っている。歯根膜シートについてはイヌを用いた自家移植、再生の報告から始まり、臨床応用に向けた歯根膜細胞、細胞シートの評価法に関する研究を発表、その後、東京女子医科大学において自己細胞を用いた臨床研究を実施した。自己細胞を用いた細胞治療は適応患者の拡大には限界があり、同種細胞シート移植の医師主導治験を当科と東京女子医科大学の他施設において実施し、解析を進めている。

「光によるレーザー治療の現在」
　歯周治療において、もっとも標準的な治療は機械的手段であるが、器具の到達性には限界があり、光線を用いた治療法が注目を集めている。当分野で最も長く研究が行なわれ、実用性が最も高いものがエルビウム · ヤグ（Er:YAG）レーザーである。レーザーを低出力照射（Low Level Laser Irradiation：LLLI）することで生体刺激効果があることは知られていたものの、その詳細やメカニズムは不明なことが多い。その他のレーザーの応用として、光断層診断（Optical Coherence Tomography: OCT）の開発と改良が進み、また、光を色素と反応させて殺菌を行う抗菌光線力学療法も今後の歯周炎治療、インプラント周囲炎治療に有効と考えられ、その研究がなされている。
· Er:YAG レーザーの歯周治療、インプラント周囲炎治療への応用
　Er:YAG レーザーは照射根面に熱傷害はほとんどなく、さらに根面への照射が除菌にも有効であるため、治癒に有利である。また軟組織に対しての処置も電気メスに比べて良好な治癒を示し、骨の蒸散も安全にできることを長期経過により確認している。このような背景から、新規の包括的歯周ポケット治療法として Er:YAG Laser-assisted Comprehensive Periodontal Pocket Therapy: Er-LCPT を開発 · 提案した。またエムドゲインと自家骨移植の併用療法において、Er:YAG レーザーを併用して血餅保持効果を高める新規の術式を考案した。インプラント周囲炎治療においても、Er:YAG レーザーは適正な照射条件でインプラント体のデブライドメントに応用でき、さらにインプラント体の歯石を効果的に除去でき、臨床応用での有効性が今後期待されている。
· 低出力照射 (LLLI) による生体刺激効果
　低出力照射 (LLLI) により骨芽細胞や歯肉線維芽細胞の増殖と分化を促進することを示した。高パルス半導体レーザーの LLLI は in vivo において抜歯窩の治癒を促すことを報告している。
· 光線力学療法（antimicrobial photodynamic therapy：aPDT）
　レーザーの殺菌効果を高める方法として、photodynamic therapy の応用がある。青色 LED は歯周病原細菌の増殖を抑制し、青色 LED とローズベンガルによる aPDT が殺菌に有効であることを明らかにし、さらに短時間で殺菌効果を示す。また赤色 LED とトルイジンブルーによる aPDT は臨床的にプラーク形成を抑制することを報告している。
· 光断層診断（optical coherence tomography：OCT）
　非侵襲的な検査方法として眼科をはじめ様々な医療分野で OCT が応用されており、歯周治療にもおいても歯石の検出が可能であることや、また硬組織と軟組織、さらに付着の状態も識別できることから生物学的幅径の計測も可能であることを明らかにしている。

(3) 教育活動

　歯周病の代表的なものは歯周炎で、口腔内の不潔によるプラーク中の細菌の蓄積、歯石の沈着、その他の多くの原因により歯肉炎として発病し、歯周病原細菌と呼ばれるポケット内のグラム陰性嫌気性細菌の増殖により歯周組織の炎症性病変が起こる。この際、歯を支える歯根膜や歯槽骨の喪失が起こり、歯の支持組織を破壊しながら進行し、最終的には歯は支えを失い脱落する。歯周炎は現在、慢性歯周炎、侵襲性歯周炎と全身疾患に伴う歯周炎に分類され、その中で侵襲性歯周炎の原因としての生体因子についての研究も進んできている。
　歯周病はいくつかの全身疾患（心臓血管系疾患、糖尿病、呼吸器系疾患、早産 · 低体重出産、骨粗鬆症など）との関連性が示唆されており、歯周治療を行うことは全身の健康に寄与し得ることについても学習する。

(4) 教育方針

　教育の基本方針として、『歯周組織の構造、機能、病理さらに正常な口腔状態を維持するための生理的な因子をまず理解させて、歯周組織に起こる病変の検査、診断力を養う。次に歯周病の病因について理解させ、歯周病の

原因がプラーク中の細菌によるものであるとの認識を深めさせ、歯周治療の基本がプラークコントロールであることを徹底させる。また、単に知識や技術の修得だけでなく、患者自身にその大切さを認識させる動機付けや信頼関係の確立という心理的および倫理的な点も学ばせる。』ということを掲げている。

歯学部学生に対する講義と実習は、第 4 学年後期に行われ、講義時間は 37 時間、チュートリアル 15 時間、実習は 38 時間が割り当てられている。基礎実習としては、相互実習による口腔内の観察と検査法および口腔清掃法の実習、人工歯模型とマネキンを用いたスケーリング · ルートプレーニングの方法と暫間固定法の実習、豚の下顎を用いた歯周外科手術の実習、咬合器と石膏模型を用いた咬合調整法とナイトガード作製の実習を行っている。第 5 学年前期終了時、コアーカリキュラムに基づき共用試験の OSCE と CBT を受験させ、合格者のみ第 5 学年後期〜第 6 学年の包括臨床実習に進む。およそ 1 年間で、実際の歯周病患者の治療法を修得できるように指導している。

歯周治療は、患者の口腔内での歯周病の進行状態を十分に把握した上で診断し、治療方針をたてて予後を予測しながら治療を進めていかなければならない。1 年間で治療を終了させメインテナンスまで到達させることは難しい症例もあるが、その場合は次年度の学生に治療を引継ぎ、終了させるように指導を行っている。歯周治療を行う場合には、初診時の検査、診断終了後、再評価後、治療終了時に教員が指導し、また、歯周外科処置は教員の指導の下で行っている。

以上、学部学生に対する卒前教育の他に、歯科研修医、大学院生、大学院研究生を対象にして卒後教育を行っている。卒直後の研修は極めて大切であり、歯周治療の基本を身につける好機でもあるので、臨床経験を深められるように配慮している。

(5) 臨床上の特色

歯周病により失われた歯周組織を再生することは歯周治療の最終目標である。自己歯根膜細胞シートを応用した歯周組織再生療法等を中心に臨床に直結したトランスレーショナルリサーチを展開中である。また、レーザーを歯周治療に応用するためのプロジェクトも推進中で、フラップ手術のデブライドメントにレーザーを応用することが保険に認められた。また、歯周再生療法の一つであるエムドゲイン®や、日本発の再生医薬品であるリグロスを用いた再生療法を行っている。PCR 法を利用した細菌検索、血清抗体価やフローサイトメーターを利用した免疫学的診断、歯周病感受性検査のための遺伝子診断等なども行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Seike T, Terasawa K, Iwata T, Guan JL, Watabe T, Yokoyama S, Hara-Yokoyama M. Site-specific photo-crosslinking of Hsc70 with the KFERQ pentapeptide motif in a chaperone-mediated autophagy and microautophagy substrate in mammalian cells. BIOCHEMICAL AND BIOPHYSICAL RESEARCH COMMUNICATIONS. 2024.12; 736; 150515

2. Sakaniwa E, Mikami R, Mizutani K, Mima A, Kido D, Kominato H, Saito N, Hakariya M, Takemura S, Nakagawa K, Sugimoto M, Sugiyama A, Iwata T. Porphyromonas gingivalis-derived lipopolysaccharide promotes mesangial cell fibrosis via transforming growth factor-beta1/Smad signaling pathway in high glucose. Journal of Dental Sciences. 2024.11;

3. Yamaki D, Fukuba S, Okada M, Takeuchi S, Hoshi S, Schmidlin PR, Iwata T. Preclinical Evaluation of a Poly (Lactic Acid/Caprolactone) Bilayer Membrane and a Carbonate Apatite for Periodontal Regeneration: A Canine One-Wall Intrabony Defect Model. Journal of Periodontal Research. 2024.10;

4. Noritake K, Tsuruta J, Mizutani K, Kondo K, Suzuki H, Adachi N, Seki N, Cao R, Mikami R, Katagiri S, Kabasawa Y, Nitta H. Educational effects of dental hygiene student intervention in dental student clinical practicum. Journal of Dental Sciences. 2024.10;

5. Tsuji S, Hoshi S, Maekawa S. Papillary Coronal Anchorage Technique for Periodontal Reconstruction of Infrabony Defect and Interdental Papilla: A Case Report. Int J Periodontics Restorative Dent. 2024.10; 0(0); 1-17

6. Takemura S, Mizutani K, Mikami R, Nakagawa K, Hakariya M, Sakaniwa E, Saito N, Kominato H, Kido D, Takeda K, Aoki A, Iwata T. Enhanced periodontal tissue healing via vascular endothelial growth factor expression following low-level erbium-doped: yttrium, aluminum, and garnet laser irradiation: In vitro and in vivo studies J Periodontol. 2024.09; 95(9); 853-866

7. Tabata T, Nakagawa H, Matin K, Otsuki M, Aoki A, Sumi Y, Shimada Y. Analysis of cariogenic biofilms by using a swept-source optical coherence tomography in vitro ARCHIVES OF ORAL BIOLOGY. 2024.09; 165; 106009

8. Latimer JM, Maekawa S, Shiba T, Fretwurst T, Chen M, Larsson L, Sugai JV, Kostenuik P, Mitlak B, Lanske B, Giannobile WV. Healing sequelae following tooth extraction and dental implant placement in an aged, ovariectomy model. JBMR Plus. 2024.08;

9. Terasawa K, Seike T, Sakamoto K, Ohtake K, Watabe T, Yokoyama S, Hara-Yokoyama M. Protein-Protein Interface Identification by Site-Specific Photo-Cross-linking/Cleavage in Mammalian Cells. Current protocols. 2024.08; 4(8); e1103

10. Nakagawa K, Watanabe K, Mizutani K, Takeda K, Takemura S, Sakaniwa E, Mikami R, Kido D, Saito N, Kominato H, Hattori A, Iwata T. Genetic analysis of impaired healing responses after periodontal therapy in type 2 diabetes: Clinical and in vivo studies. J Periodontal Res. 2024.08; 59(4); 712-727

11. Sun S, Iwata T. Role of AOX1 on RXR signaling regulates osteoblastogenesis in hPDLMSCs. Scientific Reports. 2024.07; 14(1); 16767

12. Okada M, Fukuba S, Yamaki D, Iwata T. Clinical outcomes of guided tissue regeneration with carbonate apatite granules and poly(lactic acid/caprolactone) membrane for the treatment of intrabony defects and mandibular Class II furcation involvements: A 12-month prospective pilot clinical study. Regenerative Therapy. 2024.06; 26; 767-774

13. Wang J, Morita K, Iwata T. Induction of periodontal ligament-derived mesenchymal stromal cell-like cells from human induced pluripotent stem cells. Regenerative Therapy. 2024.06; 6(26); 432-441

14. Mikami R, Mizutani K, Ishimaru M, Gohda T, Iwata T, Aida J. Preventive dental care reduces risk of cardiovascular disease and pneumonia in hemodialysis population: a nationwide claims database analysis. Scientific Reports. 2024.05; 14(1); 12372

15. Mikami R, Komagamine Y, Aoyama N, Mizutani K, Sasaki Y, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Association between occlusal supports and nutritional status in older adults: A systematic review. Journal of Dental Sciences. 2024.04; 19(2); 813-827

16. Mizutani K, Minami I, Mikami R, Kido D, Takeda K, Nakagawa K, Takemura S, Saito N, Kominato H, Sakaniwa E, Konuma K, Izumi Y, Ogawa Y, Iwata T. Improvement of periodontal parameters following intensive diabetes care and supragingival dental prophylaxis in patients with type 2 diabetes: A prospective cohort study. Journal of clinical periodontology. 2024.03; 51(6); 733-741

17. Nagai T, Shiba T, Komatsu K, Matsumura S, Koyanagi T, Nemoto T, Kobayashi R, Takeuchi Y, Iwata T. Characterizing Bacterial Communities among Healthy, Peri-implant Mucositis, and Peri-implantitis Statuses by 16S rRNA gene amplicon sequencing 口腔病学会雑誌. 2024.03; 91(1); 8-18

18. Yagasaki L, Chiba T, Kurimoto R, Nakajima M, Iwata T, Asahara H. The essential role of Mkx in periodontal ligament on the metabolism of alveolar bone and cementum. Regenerative Therapy. 2024.03; 25; 186-193

19. Watanabe K, Tanaka E, Kamoi K, Tichy A, Shiba T, Yonerakura K, Nakajima M, Han R, Hosaka K. A dual composite resin injection molding technique with 3D-printed flexible indices for biomimetic replacement of a missing mandibular lateral incisor. J Prosthodont Res. 2024.03;

20. Taniguchi Y, Koyanagi T, Takagi T, Kitanaka Y, Aoki A, Iwata T. Ridge Preservation and Augmentation Using a Carbonated Apatite Bone Graft Substitute: A Case Series. DENTISTRY JOURNAL. 2024.03; 12(3);

21. Liu A, Hayashi M, Ohsugi Y, Katagiri S, Akira S, Iwata T, Nakashima T. The IL-33/ST2 axis is protective against acute inflammation during the course of periodontitis. Nature communications. 2024.03; 15(1); 2707

22. Matsuda S, Shintani T, Miyagawa T, Yumoto H, Komatsu Y, Dewake N, Iwata T, Nagano T, Morozumi T, Goto R, Kato S, Kitamura M, Shin K, Sekino S, Yamashita A, Yamashita K, Yoshimura A, Sugaya T, Takashiba S, Taguchi Y, Nemoto E, Nishi H, Mizuno N, Numabe Y, Kawaguchi H. Effect of Periodontal Treatment on Reducing Chronic Inflammation in Systemically Healthy Patients With Periodontal Disease. Am J Med. 2024.03; 137(3); 273-279.e2

23. Lin P, Niimi H, Hirota T, Ohsugi Y, Shimohira T, Toyoshima K, Katagiri S, Iwata T, Aoki A. Effects of low-level Er:YAG laser irradiation on proliferation and gene expression in primary gingival fibroblasts isolated from mouse maxilla. J Biophotonics. 2024.02; 17(2); e202300166

24. Yamaki D, Fukuba S, Okada M, Takeuchi S, Hoshi S, Matsuura T, Iwata T. Octacalcium phosphate collagen composite for periodontal regeneration in a canine one-wall intrabony defect. Journal of periodontal research. 2024.02;

25. Ishikawa H, Valdes L, Xie J, Ohyama H, Tate I, Maeno M, Shiba T, Nagai S. Learning from Mistakes—Dental Students' Learning Experiences from Adverse Clinical Events. Educ. Sci.. 2024.02;

26. Lin T, Ng MY, Mizutani K, Aoki A. Er:YAG laser-assisted periodontal regeneration with modified minimally invasive surgical technique (M-MIST) under microscope in an advanced periodontitis case with severe attachment loss beyond the root apex. Journal of dental sciences. 2024.01; 19(1); 707-709

27. Song YW, Maekawa S, Sasaki K, Yoshida D, Nagai M, Ishikawa-Nagai S, Da Silva J, Kim DM, Chen CY. Microscopic in-situ analysis of the mucosal healing around implants treated by protease activated receptor 4-agonist peptide or perpendicularly protruded type I collagen in rats. Journal of biomedical materials research. Part B, Applied biomaterials. 2024.01; 112(1); e35330

28. Fukuba S, Ogawa Y, Strauss FJ, Saida H, Thoma D, Aoki A, Iwata T. The Apical Tooth Replantation with Surgical Intrusion Technique (ATR-SIT) for Regenerative Treatment of Hopeless Teeth: A Report of Two Cases. Int J Periodontics Restorative Dent. 2024.01; 0(0); 1-27

29. Nagai T, Shiba T, Komatsu K, Watanabe T, Nemoto T, Maekawa S, Kobayashi R, Matsumura S, Ohsugi Y, Katagiri S, Takeuchi Y, Iwata T. Optimal 16S rRNA gene amplicon sequencing analysis for oral microbiota to avoid the potential bias introduced by trimming length, primer, and database. Microbiology Spectrum. 2024.10; 12(12); e0351223

[書籍等出版物]

1. Estrin NE, Aoki A, Sculean A, Miron RJ, Romanos GE. Lasers in surgical therapy of peri‐implantitis: In Romanos GE (ed), Saving Dental Implants. Wiley-Blackwell, 2024.05 (ISBN : 978-1119807018)

2. Coluzzi DJ, Aoki A, Chiniforush N. Laser Treatment of Periodontal and Peri-implant Disease. In: Coluzzi DJ, Parker SPA (Eds), Lasers in Dentistry—Current Concepts 2nd ed. Springer, 2024.01 (ISBN : 978-3-031-43337-5)

3. 塚原悠太, 大杉勇人, 片桐さやか. 糖尿病 · 内分泌プラクティス Web 2024 年 7· 8 月号 エビデンスでみる糖尿病 · 内分泌疾患 糖尿病と歯周病の最新エビデンス. 株式会社創新社, 2024.07

4. 小田 茂，岩田隆紀. 必ず上達　歯肉移植. クイッテッセンス出版株式会社, 2024.02 (ISBN : 978-4-7812-0990-6)

[総説]

1. Aoki A, Mizutani K, Taniguchi Y, Lin T, Ohsugi Y, Mikami R, Katagiri S, Meinzer W, Iwata T. Current status of Er:YAG laser in periodontal surgery. Jpn Dent Sci Rev. 2024.12; 60; 1-14

2. Amaral AL, Aoki A, Andrade SA. Could light be a broad-spectrum antimicrobial? Evidence-Based Dentistry. 2024.08; 1-2

3. Li XX, Wang MT, Wu ZF, Sun Q, Ono N, Nagata M, Zang XL, Ono W. Etiological Mechanisms and Genetic/Biological Modulation Related to PTH1R in Primary Failure of Tooth Eruption. Calcif Tissue Int. 2024.08; 115(2); 101-116

4. Shiba T, Komatsu K, Takeuchi Y, Koyanagi T, Taniguchi Y, Takagi T, Maekawa S, Nagai T, Kobayashi R, Matsumura S, Katagiri S, Izumi Y, Aoki A, Iwata T. Novel flowchart guiding the non-surgical and surgical management of peri-implant complications: a narrative review Bioenginnering. 2024.01; 11(2); 118

5. 竹内康雄，芝多佳彦. 歯周炎およびインプラント周囲炎に関連する細菌叢の解析. Colloid & Interface Communication. 2024.12; 49(4); 26-29

6. 永田 瑞, 岩田隆紀. 歯周組織形成および再生を司る間葉系幹細胞集団の探索 日本歯周病学会会誌. 2024.10; 66(3); 95-104

7. 劉 安豪, 中島友紀. 歯周炎の骨破壊始動期における炎症制御作用から垣間見る IL-33 の多面性 臨床免疫 · アレルギー科. 2024.09; 82 巻 (第 3 号)

8. 劉 安豪, 中島友紀. 歯周炎発病過程における歯根膜組織の役割と急性炎症進行期における IL-33/ST2 経路の保護的な作用 実験医学. 2024.09; 42(14);
9. 水谷幸嗣, 三上理沙子. 慢性腎臓病との関連からみる糖尿病関連歯周炎 糖尿病合併症. 2024.07; 38(2); 201-202
10. 水谷幸嗣, 武田浩平, 城戸大輔, 三上理沙子, 齋藤夏実, 岩田隆紀. 【今, あらためて知っておきたい糖尿病と歯周病の深い関係, 超解説!】(後編) 低侵襲アプローチで成功させる歯周治療 The Quintessence. 2024.06; 43(6); 1166-1194
11. Roncati M, 浦野 智, 青木 章, 迫田賢二, 須田剛義. 非外科的歯周治療にレーザーを用いるメリット, Dd 歯周治療セミナー　DENTAL DIAMOND. 2024.03; 49(4); 57-67
12. 水谷幸嗣, 城戸大輔, 武田浩平, 三上理沙子, 岩田隆紀. 【今, あらためて知っておきたい糖尿病と歯周病の深い関係, 超解説!】(前編) 糖尿病の病態を整理する The Quintessence. 2024.02; 43(2); 0292-0317

[講演 · 口頭発表等]

1. Liu A. The character of periodontal ligament tissue in the pathogenetic process of periodontitis and the protective role of IL-33/ST2 axis. Japan Bone Academy 2024.12.07 Tokyo
2. Takada K, Shiba T, Nagai T, Kobayashi R, Matsumura S, Komatsu K, Katagiri S, Iwata T. Exploring the Relationship between Oral Bacteria and Infective Endocarditis through Next-Generation Sequencing. The Stomatological Society 2024.12.06 Tokyo
3. Shimura D. Fission as a new pathway for mitochondrial protection. International Satellite Workshop by Early Career Investigators for Mitochondrial Research and Medicine 2024.11.20 Tokyo
4. Aoki A. Periodontal Flapless Surgery: Er:YAG Laser-Assisted Comprehensive Periodontal Pocket Therapy (Er-LCPT), Advanced certification course. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry (WFLD) 2024.11.13 Sao Paulo, Brazil
5. Toyoshima K, Lin P, Ohsugi Y, Niimi H, Katagiri S, Iwata T, Aoki A. Effects of Er:YAG laser irradiation on cell proliferation and gene expression in osteocyte-like cells. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry 2024.11.12 The Rebouças Convention Center
6. Lin P, Shimohira T, Ohsugi Y, Shiba T, Hirota T, Katagiri S, Aoki A. Effect of near-infrared phototherapy on medication-related osteonecrosis of the jaw in mice. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry 2024.11.11 The Rebouças Convention Center
7. Aoki A. Current Status of Er:YAG Laser in Periodontal Surgery. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry (WFLD) 2024.11.11 Sao Paulo, Brazil
8. Moreira BA, Mizutani K, Saito N, Takemura S, Chen L, Ohsugi Y, Iwata T, Aoki A. Effects of Low-Level Er: YAG Laser Irradiation on Human Umbilical Vein Endothelial Cells in Hyperglycemia. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry (WFLD) 2024.11.11 The Rebouças Convention Center, Sao Paulo, Brazil
9. Kobayashi R, Shiba T, Nagai T, Komatsu K, Matsumura S, Nemoto T, Takada K, Takeuchi Y, Iwata T. Shifting the Microbiome Following Non-Surgical Treatment for Each Periodontal Status. The 110th Annual Meeting of the American Academy of Periodontology 2024.11.06 San Diego, USA
10. Aoki A. Minimal Flap Approaches for Regeneration: Flapless Periodontal Surgery. The American Academy of Periodontology's 110th Annual Meeting 2024.11.02 San Diego, USA
11. Yamaki D, Okada M, Takeuchi S, Hoshi S, Fukuba S, Schmidlin PR, Iwata T. Carbonate apatite and poly（lactic acid/caprolactone）bilayer membrane in periodontal regeneration. The 110th Annual Meeting of the American Academy of Periodontology in collaboration with the Japanese Society of Periodontology, and the Japanese Academy of Clinical Periodontology 2024.11.02 San Diego, USA
12. Tsuchiya Y, Ohsugi Y, Katagiri S, Hirota T, Iwata T. Transcriptome analyisis for the mrchanisms of occlusal Trauma in mice. American Academy of Periodontology, 110th Annual Meeting 2024.11.02 San Diego Convention Center
13. Kido D, Mizutani K, Nitta H. A Case Study Management and Regeneration of Vertical Bone Resorption. American Academy of Periodontology, 110th Annual Meeting 2024.11.01 San Diego, USA

14. Takemura S, Mizutani K, Mikami R, Nakagawa K, Hakariya M, Sakaniwa E, Saito N, Kominato H, Kido D, Takeda K, Aoki A, Iwata T. Enhanced periodontal tissue healing following low-level Er:YAG laser irradiation. The American Academy of Periodontology's 110th Annual Meeting 2024.11 San Diego Convention Center, San Diego, USA

15. Nagai T, Shiba T, Komatsu K, Matsumura S, Koyanagi T, Nemoto T, Kobayashi R, Takeuchi Y, Iwata T. Characterizing Bacterial Communities among Healthy, Peri-implant Mucositis, and Peri-implantitis Statuses by 16S rRNA gene amplicon sequencing. American Academy of Periodontology, 110th ANNUAL MEETING 2024.10.31 San Diego, USA

16. Aoki A. Current status of Er:YAG laser in periodontal surgery. Asia Pacific Association for Laser Medicine and Surgery (APALMS) 2024.10.27 Taipei, Taiwan

17. Aoki A. Er:YAG Laser-Assisted Comprehensive Periodontal Pocket Therapy (Er-LCPT). The 15TH Asian Pacific Society of Periodontology meeting (APSP 2024) 2024.10.17 Hanoi, Vietnam

18. Aoki A. Er:YAG laser applications in periodontal and peri-implant therapy. Lecture and demonstration for Er:YAG laser application 2024.09.01 Taipei, Taiwan

19. Tsuchiya Y. Elcidation of Mechanisms Regulating Occlusal Trauma in Mice Through Transcriptome analysis. National Taiwan University - Tokyo Medical and Dental University Periodontology Joint Symposium 2024.09.01 Taipei, Taiwan

20. Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Determination of the optimal cell density for immunofluorescence observation of MC3T3-E1 cells on zirconia. The 89th annual meeting and scientific session of the Pacific Coast Society for Prosthodontics 2024.06.21 Monterey

21. Liu A, Hayashi M, Ohsugi Y, Katagiri S, Akira S, Nakashima T, Iwata T. The role of periodontal ligament tissue in the pathogenesis of periodontitis and the unique role of IL-33/ST2 axis in its acute phase. Joint Academic Endeavor of NTU and TMDU 2024.04.20 Taipei

22. Nagata M. Wnt-directed CXCL12-expressing apical papilla mesenchymal progenitor cells drive tooth root formation. The 2024 Rolanette and Berdon Lawrence Bone Disease Program of Texas, Bone Research Conference 2024.04.19 Houston, USA

23. Shiba T, Pereira da Silva HD, Figueiredo LC, Duarte P, de Souza Oliveira EH, Feres M. Analyzing Bacterial Network Dynamics in Periodontitis, Before and After Treatment. International Association for Dental Research General Session & Exhibition 2024.03.14 New Orleans, USA

24. Shiba T, Ho K, Cho YWS, Chen CY, Kim DM. Effect of Er,Cr:YSGG laser irradiation on the surface modification and cell adhesion on titanium discs: an in vitro study. Academy of Osseointegration 2024.03.07 Charlotte, USA

25. Ho K, Chen CY, Shiba T, Kim DM. Plasma Treatment Removes Implant Surface Contaminants and Improves Biocompatibility. Academy of Osseointegrartion 2024.03.07 Charlotte, USA

26. Piao Y, Komagamine Y, Wu S, Nakayama M, Mizutani K, Iwaki M, Minakuchi S, Kanazawa M. A case report of mastication training using chewing gum for oral hypofunction. 8th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou, China

27. Nagata M. Wnt-directed CXCL12-expressing apical papilla mesenchymal progenitor cells drive tooth root formation. Gordon Research Conference, Bone and Teeth 2024.01.30 Galveston, USA

28. 水谷幸嗣, 和田淳一郎. ペリオパーシャルドントロジー - 講義が分かりやすい先生から習う超高齢社会の補綴コンセプト -. 東京医科歯科大学歯科同窓会 CDE 実習コース 2024.12.15 東京

29. 青木 章. Periodontal Er:YAG Laser Operation—痛みが少ない　きれいに治る　早く治る－. 東京医科歯科大学歯科同窓会 CDE 実習コース 2024.12.08 東京

30. 水谷幸嗣. 糖尿病 · 慢性腎臓病と歯周病の関連のアップデート. 第 35 回日本糖尿病性腎症研究会 2024.12.01東京

31. 土谷洋輔. 開咬を呈する慢性歯周炎患者に対し、外傷性咬合のコントロールに努めた一症例. 第 14 回　関東10 大学歯周病学講座 · 第 98 回日本臨床歯周病学会関東支部合同研修会 2024.11.24 東京

32. 小林龍太, 佐竹和久, 長井貴彦, 松村俊佑, 高田見己, 竹内康雄, 芝多佳彦, 岩田隆紀. 16S rRNA アンプリコンシーケンス解析を用いた 歯肉縁上歯石と歯肉縁下歯石の細菌叢の比較. 日本歯科保存学会 2024 年度秋季学術大会（第 161 回） 2024.11.21 アクリエひめじ

33. 永田 瑞. シングルセル解析と細胞系譜追跡から紐解く歯周組織形成機構の解明. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.02 長崎

34. 青木 章. 歯周治療 · インプラント周囲治療における Er:YAG レーザーの応用. JIADS Perio & Implant アドバンスコース 2024.10.26 東京

35. 豊嶋啓汰, 大杉勇人, 林 培雅, 駒津匡二, 芝多佳彦, 竹内康雄, 下平 剛, 土谷洋輔, 片桐さやか, 岩田隆紀, 青木 章. 結紮誘導歯周炎モデルマウスを用いた青色 LED 照射による口腔内細菌叢への影響. 第 36 回日本レーザー歯学会総会 · 学術大会 2024.10.19 愛知学院大学 楠元キャンパス

36. 青木 章, 水谷幸嗣. 歯周治療における Er:YAG レーザーの応用. 東京都歯科医師会　令和 6 年度　卒後研修2024.09.19 東京

37. 劉 安豪. The character of periodontal ligament tissue in the pathogenetic process of periodontitis & The protective role of IL-33/ST2 axis during its acute inflammation. 令和 6 年度先端歯学スクール 2024.08.23東京

38. 則武加奈子, 鶴田 潤, 水谷幸嗣, 近藤圭子, 鈴木 瞳, 安達奈穂子, 闢奈央子, 三上理沙子, 樺沢勇司, 海老原新, 秀島雅之, 新田 浩. 東京医科歯科大学歯学部診療参加型臨床実習における職種間連携教育＜ D6-OH4 連携実習＞の概要とその効果. 第 56 回日本医学教育学会学術大会 2024.08.09 東京

39. Liu A. The character of periodontal ligament tissue in the pathogenetic process of periodontitis & protective role of IL-33/ST2 axis in its acute inflammation process. 174th ECM Society Seminar 2024.07.29 Okayama

40. 水谷幸嗣. 歯周病の病態と疫学からみる重度歯周炎とアルツハイマー型認知症の関連. 第 39 回日本老年精神医学会 2024.07.12 札幌

41. 劉 安豪, 林 幹人, 大杉勇人, 片桐さやか, 中島友紀, 岩田隆紀. 歯周炎発病過程における急性炎症発展期にて IL-33/ST2 経路は保護的な役割を有する. 第 9 回骨免疫学会学術大会 2024.06.25 沖縄

42. 青木 章. 歯周炎治療とインプラント周囲炎治療の進め方. 日本インプラント臨床研究会 2023 年認定講習会, インプラント 100 時間コース 2024.06.16 ビーブラウンエースクラップ社 6F 研修室

43. 岩田隆紀. 歯周外科治療. 日本インプラント臨床研修会 2024 年度認定講習会インプラント 100 時間コース 2024.06.16 ビーブラウンエースクラップ社 6F 研修室

44. 劉 安豪. 歯周炎発病過程における歯根膜組織の役割とその急性炎症進行期における IL-33/ST2 経路の保護的な作用. 第 6 回口腔医科学フロンティア研究会 2024.05.18 北海道

45. Maalouf M, Nguyen V, Hunter J, Shaw R, Shimura D. 高深度生理学　循環器編　細胞間コミュ力向上のカギ. 第 101 回日本生理学会大会 2024.05.01 福岡

46. 芝 多佳彦. 新たな展望: 保存歯科臨床の到達点と未来への挑戦　歯周炎とインプラント周囲炎の併発に対する治療戦略　治療フローチャートと細菌叢解析の観点から. 特定非営利活動法人日本歯科保存学会学術大会プログラムおよび講演抄録集 2024.04.01 仙台

47. 水谷幸嗣. 歯周炎および口腔衛生が人工透析患者の生存率に与える影響. 第 14 回日本腎臓リハビリテーション学会 2024.03.17 新潟

48. 青木 章. 私の歯周ポケット治療法の変遷と現状-Er:YAG レーザー併用法の開発. WHITE CROSS ウェビナー 2024.03.13 Virtual

49. 下平 剛, 林 培雅, 大杉勇人, 片桐さやか, 芝多佳彦, 土谷洋輔, 駒津匡二, 豊嶋啓汰, 今井千尋, 松村俊佑, 岩田隆紀, 青木 章. 光エネルギーを用いた薬剤関連性顎骨壊死の新規予防策の開発と分子機構の解明. 口腔病学会雑誌 2024.03.01 東京

50. 岩田隆紀. TMDU 歯周再生治療ー細胞を活かすオペのデザインー. 東京医科歯科大学歯科同窓会 CDE 実習コース 2024.02.04 東京

51. 青木 章. 私の歯周ポケット治療法の変遷と現状. 東京医科歯科大学歯髄生物学分野同門会講演会 2024.01.25東京医科歯科大学
52. 青木 章. 私の歯周ポケット治療法の変遷と現状Er:YAG レーザー併用法の開発. 東京医科歯科大学歯科神奈川同窓会 2024.01.21 神奈川歯科医師会館
53. 水谷幸嗣. Er:YAG レーザーによる最小侵襲の歯周組織再生. 日本レーザー歯学会誌 2024.01.01 東京

[受賞]

1. トラベルアワード（永田 瑞）, Gordon Research Conference, Bone and Teeth, 2024 年 01 月
2. IADR – Lasers & Biophotonics Group, Excellence in Education Award (青木 章), IADR – Lasers & Biophotonics Group, 2024 年 03 月
3. Excellence Poster (Piao Y, Komagamine Y, Wu S, Nakayama M, Mizutani K, Iwaki M, Minakuchi S,Kanazawa M), 2024 年 03 月
4. ポスドクカテゴリーベストポスター賞（永田 瑞）, The 2024 Rolanette and Berdon Lawrence Bone Disease Program of Texas, Bone Research Conference, 2024 年 04 月
5. 第 6 回口腔医科学フロンティア研究会奨励賞（劉 安豪；第 2 位）, 2024 年 05 月
6. Poster Competition Awards, 1st Prize (Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M), the Pacific Coast Society for Prosthodontics, 2024 年 06 月
7. 第 19 回先端歯学スクール　優秀賞（劉 安豪）, 2024 年 08 月
8. 歯周組織再生医学優秀論文賞 (松浦孝典), 日本歯周病学会, 2024 年 10 月
9. 第 36 回日本レーザー歯学会最優秀発表賞（豊嶋啓汰）, 日本レーザー歯学会, 2024 年 10 月
10. Best Presentation Award, second place, poster presentation, scientific research (Moreira BA), World Federation for Laser Dentistry (WFLD), 2024 年 11 月

[その他業績]

1. 「 2 型糖尿病への集約的治療による歯周病の改善 」—血糖管理による歯周ポケットの減少と歯周組織の炎症の改善—（プレスリリース）, 2024 年 03 月
   Journal of Clinical Periodontology（水谷幸嗣）
2. 「 IL-33/ST2 経路および歯周組織常在型マクロファージの炎症制御 」—歯周炎の新たな病態制御メカニズムを発見—（プレスリリース）, 2024 年 03 月
   Nature Communications（中島友紀, 林 幹人, 岩田隆紀, 劉 安豪）
3. Clarifying the Cellular Mechanisms Underlying Periodontitis with an Improved Animal Model (Press Release), 2024 年 05 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News (Nakashima T, Hayashi M, Iwata T, Liu A)

[社会貢献活動]

1. eLife early-career reviewer (Shimura D), 2021 年 - 現在
2. Review Editor, Frontiers in Cell and Developmental Biology (Shimura D), 2023 年 - 現在
3. 歯周病について, ＮＨＫ, チョイス＠病気になったとき（水谷幸嗣）, 2023 年 04 月 05 日 - 現在
4. オーラルフレイル予防とは, NHK 出版, NHK テキスト「きょうの健康」11 月号（岩田隆紀）, 2024 年 09 月 11 日 - 2024 年 10 月 21 日
5. 歯周病菌と血圧の関係 · 歯の磨き方について, テレビ朝日, 林修の今知りたいでしょ！（岩田隆紀）, 2024 年 10 月 01 日 - 2024 年 10 月 10 日

生体情報継承学分野

Biosignals and Inheritance

楠山譲二　テニュアトラック准教授（分野長）

(1)　研究業績

[原著]

1. Tomiga Y, Tanaka K, Kusuyama J, Takano A, Higaki Y, Anzai K, Takahashi H. Exercise training ameliorates carbon tetrachloride-induced liver fibrosis and anxiety-like behaviors. American journal of physiology. Gastrointestinal and liver physiology. 2024.12; 327(6); G850-G860-G860
2. Xu Y, Alves-Wagner AB, Inada H, Firouzjah SD, Osana S, Amir MS, Conlin RH, Hirshman MF, Nozik ES, Goodyear LJ, Nagatomi R, Kusuyama J. Placenta-derived SOD3 deletion impairs maternal behavior via alterations in FGF/FGFR-prolactin signaling axis. Cell reports. 2024.09; 43(10); 114789
3. Zhang, JH; Tam, WWS; Hounsri, K; Kusuyama, J; Wu, VX. Effectiveness of Combined Aerobic and Resistance Exercise on Cognition, Metabolic Health, Physical Function, and Health-related Quality of Life in Middle-aged and Older Adults With Type 2 Diabetes Mellitus: A Systematic Review and Meta-analysis ARCHIVES OF PHYSICAL MEDICINE AND REHABILITATION. 2024.08; 105(8); 1585-1599
4. Choisez A, Ishihara S, Ishii T, Xu Y, Firouzjah SD, Haga H, Nagatomi R, Kusuyama J. Matrix stiffness regulates the triad communication of adipocytes/macrophages/endothelial cells through CXCL13. Journal of lipid research. 2024.08; 65(9); 100620
5. Zhang J, Tam WWS, Hounsri K, Kusuyama J, Wu VX. Response to Letter to the Editor on ”Effectiveness of Combined Aerobic and Resistance Exercise on Cognition, Metabolic Health, Physical Function, and Health-Related Quality of Life in Middle-Aged and Older Adults With Type 2 Diabetes Mellitus: A Systematic Review and Meta-analysis”. Archives of physical medicine and rehabilitation. 2024.05; 105(5); 1023-1024

1. 楠山 譲二. 【胎盤の母児支援機構とその評価】胎盤を介した妊娠期運動による肥満予防効果の胎仔伝播 細胞. 2024.03; 56(3); 175-178

[講演 · 口頭発表等]

1. 楠山譲二. 胎盤を介した妊娠期運動情報の次世代伝播機構. 第 28 回日本バイオ治療法学会学術集会 2024.12.07
2. 楠山譲二. Benefits of maternal exercise in adult offspring metabolism are mediated through placentokines. 第 47 回日本分子生物学会年会 2024.11.29
3. 楠山譲二. 妊娠期運動効果の次世代伝播機構. 第 12 回新胎児学研究会 2024.11.09
4. 楠山譲二. 胎盤による世代情報の伝播機構. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.06
5. 楠山譲二. 代謝リプログラミングによる糖代謝能向上の次世代伝播機構. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.02
6. 楠山譲二. 妊娠期運動情報の次世代伝播機構. Diabetes Seminar 2024 2024.10.17
7. 楠山 譲二. プラセントカインによる母性行動の涵養機構. 第 76 回日本細胞生物学会大会 2024.07.19

8. 楠山 譲二. 胎盤による母体胎仔情報伝達系の制御機構. 第 6 回口腔医科学フロンティア研究会 2024.05.18
9. 楠山 譲二. 胎盤を介した妊娠期運動情報の次世代伝播機構. 5th Joint Diabetes Conference 2024.02.09

[受賞]

1. 日本先天異常学会 奨励賞, 2024 年 04 月
2. 第 6 回口腔医科学フロンティア研究会 奨励賞 (第 1 位), 2024 年 05 月

[その他業績]

1. 「　脂肪細胞は自身の周囲の硬さを離れた細胞に伝える　」 —　硬さ情報タンパク質による脂肪組織の炎症誘導機構の解明　—, 2024 年 09 月
   Journal of Lipid Research
2. 「　脂肪細胞は自身の周囲の硬さを離れた細胞に伝える　」 —　硬さ情報タンパク質による脂肪組織の炎症誘導機構の解明　—, 2024 年 09 月
   Journal of Lipid Research
3. 「 胎盤由来タンパク質が子育てをする気持ちをサポートする 」 —　胎盤制御性の母子間情報伝達機構の実証　—, 2024 年 09 月
   Cell Reports

生材研 · 無機生体材料学分野

Inorganic Biomaterials

教　授　　川下　将一
准教授　　横井　太史
助　教　　島袋　将弥
准教授（非常勤）橋本　良秀

(1)　分野概要

当分野では、がんや骨疾患の治療に貢献するバイオマテリアル（特にセラミックバイオマテリアル）に関する研究を行っている。具体的には、ゾル-ゲル法などの種々の材料合成手法を用いて、がん治療用材料（特に微粒子）や骨補填材料を合成し、その化学的 · 物理的 · 生物学的特性を評価することによって、臨床応用に繋がる知見を得ることを目指す。

(2)　研究活動

1. 低侵襲がん治療用材料に関する研究
β線などの飛程の短い放射線を放射する、直径 20〜30 μ m の微小球を患部に送り込めば、周囲の正常組織を傷めることなく、がんを局部的に直接放射線照射して治療できる可能性があります。また、直径 20〜30 μ m の強磁性微小球を上記と同様に患部に送り込み、患部を交流磁場の下に置くと、同微小球が磁気ヒステリシス損により発熱するので、がんを局所的に加温して治療できる可能性もあります。そこで当分野では、そのようながんの低侵襲治療に有用なセラミック微小球の創製を試みています。

2. 生体活性骨修復用材料に関する研究
セラミックスやガラス等の人工材料の中には、骨欠損部に埋入されると、周囲の骨と自然に結合し、一体化する（生体活性を示す）ものがあります。これらは「生体活性セラミックス」と呼ばれ、重要な骨修復材料として既に実用化されています。しかし、臨床現場では、より骨結合性に優れた骨修復材料が求められています。そこで本研究室では、材料工学に基づいた種々の合成プロセスにより、骨修復に有用な生体活性材料の創製を試みています。

3. 水酸アパタイトの骨伝導機構の解明
水酸アパタイト（HAp）は骨と結合する（骨伝導性を示す）ため、人工骨や医用金属材料のコーティング材料として広く用いられています。しかし、その骨伝導性の発現機構の詳細は未だ明らかでありません。当分野では、血清タンパク質の HAp への初期吸着に注目し、「HAp に特異的に吸着する血清タンパク質が骨伝導性を引き起こすのではないか？」との仮説を立て、その検証を進めています。

4. 有機修飾型リン酸八カルシウムに関する研究
　リン酸八カルシウム（OCP）はヒトの硬組織中に存在する水酸アパタイト（HAp）の前駆体と考えられており、硬組織に対して高い親和性を持つことから生体吸収性人工骨の素材として用いられています。OCP は層状の結晶構造を持ち、その層間に様々な有機分子を導入することができます。この性質を利用した機能性骨修復材料や、診断と治療を両立するセラノスティックマテリアルの開発を進めています。

(3)　教育方針

セラミックバイオマテリアルの構造、物理的性質、化学的性質、生体分子や細胞との反応などを総合的 · 俯瞰的に理解できるようになることを目指す。最終的には、セラミックバイオマテリアルに関する最先端の科学技術を学

び、医療に役立つセラミックバイオマテリアルを提案 · 設計できる能力を得ることを目標とする。

(4) 研究業績

[原著]

1. Miyake, R; Shimabukuro, M; Terauchi, M; Marukawa, E; Kawashita, M. Amorphous Magnesium Coating for Achieving Functional Changes from Antibacterial to Osteogenic Activities ACS APPLIED BIO MATERIALS. 2024.12; 7(12); 8565-8572

2. Kobayashi, M; Shimabukuro, M; Aoki, S; Kishida, R; Kawashita, M. Micro-arc oxidation for balancing antibacterial activity and bone formation on titanium surface MATERIALS LETTERS. 2024.12; 377; 137531

3. Rosciszewska, M; Shimabukuro, M; Ronowska, A; Mielewczyk-Gryn, A; Hanawa, T. Enhanced bioactivity and mechanical properties of silicon-infused titanium oxide coatings formed by micro-arc oxidation on selective laser melted Ti13Nb13Zr alloy CERAMICS INTERNATIONAL. 2024.11; 50(21); 43979-43993

4. Li Chang, Peng Chen, Takayuki Mokudai, Masakazu Kawashita, Itaru Mizoguchi, Hiroyasu Kanetaka. Enhancing Titanium Osteoconductivity by Alkali-Hot Water Treatment ACS Omega. 2024.11; 9(44); 44568-44576

5. Yokoi, T; Watanabe, M; Kawashita, M. Octacalcium phosphate with incorporated meso-2,3-dimercaptosuccinate ions exhibiting continuous interplanar spacing expansion JOURNAL OF THE CERAMIC SOCIETY OF JAPAN. 2024.11; 132(11);

6. Taishi Yokoi, Tomoyo Goto, Tohru Sekino, Tomoka Hasegawa, Peng Chen, Hiroyasu Kanetaka, Kaname Yoshida, Masaya Shimabukuro, Masakazu Kawashita. LaMer-model-based synthesis method for fine particles of octacalcium phosphate and related functional compounds CrystEngComm. 2024.11; 26; 6008-6016

7. Yoshihide Hashimoto,Jun Negishi, Seiichi Funamoto, Tsuyoshi Kimura,Hisatoshi Kobayashi, Tetsuro Oshika , Akio Kishida. Preparation, physico-biochemical characterization, and proteomic analysis of highly transparent corneal extracellular matrices for lamellar keratoplasty and tissue-engineered cornea construction Materials Today Bio. 2024.09; 28;

8. Koichiro Hayashi, Masaya Shimabukuro, Cheng Zhang, Ahmad Nazir Taleb Alashkar, Ryo Kishida, Akira Tsuchiya, Kunio Ishikawa. Silver phosphate-modified carbonate apatite honeycomb scaffolds for anti-infective and pigmentation-free bone tissue engineering Materials today. Bio. 2024.08; 27; 101161

9. Yokoi, T; Tomita, S; Nakamura, J; Sugawara-Narutaki, A; Matsukawa, Y; Kawashita, M; Ohtsuki, C. Apatite Formation on α-Tricalcium Phosphate Modified with Bioresponsive Ceramics in Simulated Body Fluid Containing Alkaline Phosphatase BIOMIMETICS. 2024.08; 9(8);

10. Wang, YJ; Yokoi, T; Shimabukuro, M; Kawashita, M. Calcium Citrate Amount and Gelatine Source Impact on Hydroxyapatite Formation in Bone Regeneration Material in Simulated Body Fluid MOLECULES. 2024.08; 29(16);

11. Jun Negishi, Dan Tanaka, Yoshihide Hashimoto. Induction of osteogenic differentiation by the extracellular matrix of fetal bone tissues and adult cartilage Tissue Cell. 2024.07; 90; 102475

12. Ayana Yamaguchi, Yoshihide Hashimoto, Jun Negishi. Fabrication of a cell culture scaffold that mimic the composition and structure of bone marrow extracellular matrix J Biosci Bioeng. 2024.07; 138(1); 83-88

13. Yokoi, T; Watanabe, M; Kawashita, M. Octacalcium phosphate with incorporated terephthalate ion derivatives: novel guest molecules and unique fluorescence properties DALTON TRANSACTIONS. 2024.07; 53(34); 14163-14170

14. Zhibin Wang, Masaya Shimabukuro, Ryo Kishida, Taishi Yokoi, Masakazu Kawashi. Effects of pH on the Microarchitecture of Carbonate Apatite Granules Fabricated Through a Dissolution–Precipitation Reaction Frontiers in Bioengineering and Biotechnology. 2024.06; 12; 1396275

15. Sung, PC; Yokoi, T; Shimabukuro, M; Mokudai, T; Kawashita, M. Apatite-Forming Ability and Visible Light-Enhanced Antibacterial Activity of CuO-Supported TiO< sub> 2< /sub> Formed on Titanium by Chemical and Thermal Treatments JOURNAL OF FUNCTIONAL BIOMATERIALS. 2024.05; 15(5);

16. Reziwanguli Aili, Hidemi Nakata, Munemitsu Miyasaka, Shinji Kuroda, Yukihiko Tamura, Taishi Yokoi, Masakazu Kawashita, Yasushi Shimada, Shohei Kasugai, Eriko Marukawa. Evaluation of a hydroxyapatite-crosslinked fish gelatin membranes. J Dent Sci. 2024.04; 19(2); 900-908

17. 島袋将弥. 骨 · 関節領域感染制御のためのバイオマテリアル開発 まてりあ. 2024.04; 63(4); 243-247

18. Katada H, Inokoshi M, Kamijo S, Liu H, Xu K, Kawashita M, Yokoi T, Shimabukuro M, Minakuchi S. Effects of multiple firings on the translucency, crystalline phase, and mechanical strength of highly translucent zirconia. Dent Mater J. 2024.03; 43(2); 294-302

19. Sreypich Say,Mika Suzuki,Yoshihide Hashimoto,Tsuyoshi Kimura,Akio Kishida . Investigation of anti-adhesion ability of 8-arm PEGNHS-modified porcine pericardium Biomed Mater. 2024.03; 12(19(3));

20. Katada Haruko, Inokoshi Masanao, Kamijo Singo, Liu Hengyi, Xu Kaiqi, Kawashita Masakazu, Yokoi Taishi, Shimabukuro Masaya, Minakuchi Shunsuke. Effects of multiple firings on the translucency, crystalline phase, and mechanical strength of highly translucent zirconia Dental Materials Journal. 2024.03; 43(2); 294-302

21. Tsuyoshi Kimura, Hanako Maeda, Moeko Hagiwara, Yoshihide Hashimoto, Naoko Nakamura, Wataru Nomura, Tadao Tanabe, Mako Kobayashi, Masaya Yamamoto, Takahide Matsushima, Hiroshi Asahara, Akio Kishida. Evaluation of Proinflammatory Response to Polymeric Materials Using a Macrophage Cell Line Genetically Tagged with a Luminescent Peptide Advanced Biomedical Engineering. 2024.02; 13; 43-51

22. Shimabukuro, M; Morinobu, M; Tsuchiya, A; Kishida, R; Kawashita, M; Ishikawa, K. Antibacterial and osteogenic thin films on Ti-6Al-4V surface formed by passivation process in copper hydroxide solution SCIENCE AND TECHNOLOGY OF ADVANCED MATERIALS. 2024.02; 25(1); 2303327

23. Kohei Yabuuchi, Toru Katsumata, Tsuyoshi Shimoboji, Yoshihide Hashimoto, Tsuyoshi Kimura, Kazunari Akiyoshi, Akio Kishida. Variable swelling behavior of and drug encapsulation in a maleimide-modified hyaluronic acid nanogel-based hydrogel Polymer Journal. 2024.01;

24. Shota Toda, Yoshihide Hashimoto, Naoko Nakamura, Masahiro Yamada, Ryusuke Nakaoka, Wataru Nomura, Masaya Yamamoto, Tsuyoshi Kimura, Akio Kishida. Characteristics of macrophage aggregates prepared by rotation culture and their response to polymeric materials Journal of Artificial Organs. 2024.01;

25. Shota TODA,Yoshihide HASHIMOTO,Naoko NAKAMURA,Masahiro YAMADA,Ryusuke NAKAOKA,Wataru NOMURA,Masaya YAMAMOTO,Tsuyoshi KIMURA,Akio KISHIDA. Effects of Polymeric Materials on Activation of THP-1 Cell-derived Macrophages during Differentiation Induced by PMA Advanced Biomedical Engineering. 2024.01; 13; 1-10

26. Toshiki Miyazaki, Takumi Wakayama, Masaru Oda, Masakazu Kawashita. Fabrication of quantum dot-immobilized Y2O3 microspheres with effective photoluminescence for cancer radioembolization therapy Science and Technology of Advanced Materials. 2024; 25(1); 2331412

1. 三宅理沙, 島袋将弥, 丸川恵理子, 川下将一. 歯科インプラント体の表面処理 日本化学会研究会「低次元系光機能材料研究会」ニュースレター. 2024.12; (31); 17-21

2. 小林真美子, 島袋将弥, 横井太史, 川下将一. Ti 表面における光応答性炭酸アパタイトコーティングの形成 日本歯科理工学会誌. 2024.04; 43(Special Issue 82); 30

3. 三宅 理沙, 島袋 将弥, 下岸 将博, 丸川 恵理子, 川下 将一. チタン表面に形成したマグネシウム薄膜の劣化挙動と生体機能変化 日本歯科理工学会誌. 2024.04; 43(Special Issue82); 88

4. 横井 太史. リン酸塩系層状物質による新規生体活性材料の開発 バイオマテリアル-生体材料-. 2024.01; 42(1); 22-23

[書籍等出版物]

1. M. Shimabukuro,T. Yokoi, M. Kawashita. Biomedical Engineering: Imaging Systems, Electric Devices, and Medical Materials. 2024.04 (ISBN : 978-9815129168)

1. 横井太史, 川下将一. 医療工学研究の最前線 〜近未来のバイオ医用機器, 生体材料, 創薬科学〜. シーエムシー出版, 2024.11 (ISBN : 978-4-7813-1821-9)

1. 島袋将弥. 医療工学研究の最前線 〜近未来のバイオ医用機器, 生体材料, 創薬科学〜. シーエムシー出版, 2024.11

2. Masaya Shimabukuro, Taishi Yokoi, Masakazu Kawashita. Biomedical Engineering Imaging Systems, Electric Devices, and Medical Materials. 2024.04

[総説]

1. 川下将一. AI とバイオマテリアル バイオマテリアル. 2024.01; 42(1); 9

[講演 · 口頭発表等]

1. M. Shimabukuro, M. Kawashita. Balancing antibacterial and osteogenic activities in biomaterials for anti-infective bone reconstruction. International Symposium on Exponential Biomedical DX 2024(eMEDX-24) 2024.12.20

2. R. Miyake, M. Shimabukuro, E. Marukawa, M. Kawashita. Enhancing Osteogenesis on Titanium Surface via Biodegradable Magnesium-based Coating. International Symposium on Exponential Biomedical DX 2024(eMEDX-24) 2024.12.20

3. S. Aoki, M. Shimabukuro, R. Kishida, T. Yokoi, M. Kawashita. Influence of Applied Voltage on Bacterial Growth on Porous Tantalum Oxide Surfaces Formed by Micro-Arc Oxidation. International Symposium on Exponential Biomedical DX 2024(eMEDX-24) 2024.12.20

4. S. Usuki,S. Okada,M. Shimabukuro,T. Yokoi,T. Ogawa,M. Kawashita. Fundamental verification of enhanced ferroptosis in cancer cells by magnetic hyperthermia using Fe2-3N particles. The 22nd Asian BioCeramics Symposium (ABC2024) 2024.12.03

5. Taishi Yokoi, Masakazu Kawashita. Development of Octacalcium Phosphate-based Fluorescence Materials. The 22nd Asian BioCeramics Symposium (ABC2024) 2024.12

6. Yuejun Wang, Taishi Yokoi, Masaya Shimabukuro, Masakazu Kawashita. Influence of Varying Calcium Citrate Levels and Different Gelatin Sources on Hydroxyapatite Formation in Octacalcium Phosphate/Calcium Citrate/Gelatin Composites in Simulated Body Fluid. The 22nd Asian BioCeramics Symposium (ABC2024) 2024.12

7. L. Chang,P. Chen,T. Mokudai,M. Kawashita,I. Mizoguchi,H. Kanetaka. Enhancing osteoconductivity and antibacterial properties of titanium via alkali-hot water treatment and nitrogen doping. 2024 Scientific Annual Meeting of ADEAP & CA+inD International Symposium 2024 2024.10.19

8. L. Chang,P. Chen,T. Mokudai,M. Kawashita,I. Mizoguchi,H. Kanetaka. Creation of bioactive titanium with both biocompatible and antibacterial properties. The 4th International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture (DEJI2MA 2024) 2024.10.03

9. Taishi Yokoi, Masakazu Kawashita, Chikara Ohtsuki. Reaction of salts composed of calcium ions and phosphate esters in ALP-modified SBF: Design of bioresponsive ceramics. the 34th Conference and Annual Meeting of the International Society for Ceramics in Medicine (Bioceramics 34) 2024.10

10. Taishi Yokoi, Masakazu Kawashita. Development of highly damage-tolerant calcium phosphate-based ceramic materials for bone repairing applications. The 19th International Workshop on Biomaterials in Interface Science 2024.08

11. Yuejun Wang, Taishi Yokoi, Masaya Shimabukuro, Masakazu Kawashita. Effects of calcium citrate amount and gelatin sources on hydroxyapatite formation in octacalcium phosphate/calcium citrate/gelatine composite in simulated body fluid. 日本バイオマテリアル学会関西ブロック第 19 回若手研究発表会 2024.07.27

12. Y. Tsutsumi, M. Shimabukuro, T. Manaka, M. Goto, M. Kaodowaki, H, Katayama, M. Kawashita, T. Ishimoto, T. Hanawa. Improvement of corrosion resistance and biosafety for martensitic stainless steel by laser thermal processing. Biomaterials International 2024 2024.07.03

13. R. Miyake, M. Shimabukuro, E. Marukawa, M. Kawashita. Biodegradable coating consisting of Mg and Ca for enhancing both antibacterial activity and osteogenesis. Biomaterials International 2024 2024.07.02

14. M. Shimabukuro, S. Aoki, R. Kishida, T. Yokoi, M. Kawashita. Endowing antibacterial activity to titanium and tantalum surfaces by micro-arc oxidation. Biomaterials International 2024 2024.07.02

15. M. Kobayashi, K. Tsutahara, R. Kawabata, Z. Ng, Y.Hashimoto, T. Kimura, A. Kishida, M. Yamamoto. Characterization Of The Bioink Containing Decellularized Tissue Powder Mixed With Cancer Spheroids. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

16. S. Say, M. Suzuki, Y. Hashimoto, T. Kimura, A. Kishida. Study On The Post-anti-adhesion Of The 8-arm PEGNHSmodified Porcine Pericardium. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

17. K. Kaiden, T. Kimura, Y. Hashimoto, K. Akiyoshi, Y.Sasaki, A. Kishida. Preparation And Characterization Of Artificial Extracellular Vesicles Using High Hydrostatic Pressurized Cells.. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

18. M. Suzuki, T. Kimura, M. Okada, T. Matsumoto, N.Nakamura, Y. Hashimoto, A. Kishida. Preparation Of Mineralized Decellularized Pericardium For Bone-ligament Tissue Application.. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

19. Sreypich Say、Mika Suzuki、Yoshihide Hashimoto、Tsuyoshi Kimura、Akio Kishida. Effect of 8-arm PEG functionalized porcine pericardium as the antiadhesion membrane in vivo. 第 73 回高分子学会年次大会 2024.06.05 宮城県

20. Sreypich Say、Mika Suzuki、Yoshihide Hashimoto、Tsuyoshi Kimura、Akio Kishida. Effect of 8-arm PEG functionalized porcine pericardium as the antiadhesion membrane in vivo. 第 73 回高分子学会年次大会 2024.06.05 宮城県

21. L. Chang, P. Chen, T. Mokudai, M. Kawashita, H. Kanetaka, I. Mizoguchi. Effects of different amounts of calcium citrate in bone repairing materials on apatite formation in simulated body fluid test. the 48th International Conference and Expo on Advanced Ceramics and Composites (ICACC2024) 2024.01.30

1. 横井太史. 新規リン酸カルシウム系オンデマンド蛍光バイオイメージングプローブの創製. イオン工学振興財団研究助成成果報告会 2024.12.06

2. 島袋将弥, 川下将一. 生体適合性と感染制御の観点からつくるハードバイオマテリアル. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.15

3. 木村剛、鈴木美加、橋本良秀、岸田晶夫、田邉匡夫、中村奈緒子、山本雅哉. マイクロプラスチックに対するマクロファージ の炎症応答. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

4. 鈴木美加、木村剛、橋本良秀、岡田正弘、松本卓也、中村奈緒子、岸田晶夫. 硬-軟境界組織応用を目指した石灰化脱細胞化組織の骨親和性評価. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

5. 中村奈緒子、帆足和希、秋山翔太、安田英莉、橋本良秀、木村剛、岸田晶夫. 脱細胞化大動脈の組織学的な脱細胞化評価における Al の活用. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

6. 横井太史. 骨ミネラルの生成過程に着想を得た新規骨補填材の創製. 歯科基礎医学会 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11

7. 青木駿, 島袋将弥, 岸田良, 横井太史, 川下将一. ポーラスタンタル酸化物の構造が細菌と細胞の増殖に及ぼす影響. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2024 2024.10.29

8. 海田こころ、木村剛、橋本良秀、秋吉一成、佐々木善浩、岸田晶夫. 高静水圧処理細胞を由来とするナノベシクルの調整とその特性評価. 2024.10.28 東京都

9. 湯川大洋, 島袋将弥, 岸田良, 横井太史, 野田和彦, 川下将一. チタン表面への抗菌性ナノロッド層の形成. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2024 2024.10.28

10. 島袋将弥, 川下将一. 抗菌性バイオマテリアルとその機能制御. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2024 2024.10.28

11. 川下将一, 臼杵壮一朗, 小川智之, 島袋将弥, 横井太史. がん温熱治療用窒化鉄微粒子の開発. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2024 2024.10.28

12. 川下将一. がんの治療に貢献するセラミックバイオマテリアルの設計. MIMS 防災研究集会「広い意味での防災にまつわる実験数理融合アプローチの新展開 2024」 2024.10.16

13. 島袋 将弥, 川下 将一. 生体適合性と感染制御の観点からつくるハードバイオマテリアル. 人工臓器 2024.10.01

14. 簫明遠、鈴木美加、木村剛、橋本良秀、金裕純、寺内正彦、依田哲也、岸田晶夫. 脱細胞化ブタ心膜と歯根膜組織の親和性評価. LIFE2024 2024.09.12

15. 横井太史. マルチスケールでの層状構造に着目した新規バイオセラミックスの創製. 公益社団法人日本セラミックス協会 第 37 回秋季シンポジウム 2024.09

16. 島袋将弥. 構造 · 組成制御に基づく バイオセラミックスの高機能化. 学術変革領域研究 A 超セラミックス公開シンポジウム 2024.08.05

17. 横井太史，後藤知代，関野徹，陳鵬，金高弘恭，川下将一. き裂進展阻害機能を有するジルコニア系複合材料の作製. 日本バイオマテリアル学会関西ブロック第 19 回若手研究発表会 2024.07.27

18. 小林真子、山本雅哉、根岸淳、橋本良秀、木村剛、佐々木善浩、秋吉一成、岸田晶夫. 種々の細胞外マトリクス由来ナノベシクル（MBVs）の抽出と特性評価. 第 40 回日本 DDS 学会学術集会 2024.07.09 茨城県

19. 小林真子、鳶原敬登、川端諒輔、橋本良秀、木村剛、岸田晶夫、山本雅哉. がん微小環境構築のためのがんスフェロイド含有ゲルの作成 · 評価検討. 第 73 回高分子学会年次大会 2024.06.05 宮城県

20. 横井太史. バイオインスパイア—ドデザインによる高損傷許容性リン酸カルシウム系材料の創製. 粉体粉末冶金協会 2024 年度春季大会 2024.05

21. 三宅 理沙, 島袋 将弥, 下岸 将博, 丸川 恵理子, 川下 将一. チタン表面に形成したマグネシウム薄膜の劣化挙動と生体機能変化. 第 82 回　日本歯科理工学会学術講演会 2024.04.20

22. 小林 真美子, 島袋 将弥, 横井 太史, 川下 将一. Ti 表面における光応答性炭酸アパタイトコーティングの形成. 日本歯科理工学会誌 2024.04.01

23. 鈴木 一正, 鷲見 将吾, 武内 昂希, 松川 祐子, 大槻 主税, 中村 仁, 横井 太史. エナメル質表面を模倣した環境下でのハイドロキシアパタイトの配向成長挙動. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01

24. 湯川 大洋, 島袋 将弥, 川下 将一, 海瀬 晃, 細田 秀樹. 微細構造制御によるチタン表面への抗菌性付与. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01

25. 藪内昴平, 鈴木美加, 梁忱, 勝又徹, 下房地剛, 橋本良秀, 木村剛, 秋吉一成, 岸田晶夫. ヒアルロン酸ナノゲルを基盤とした新規架橋ゲルの創製と in vitro における THP-1 細胞を用いた炎症性評価. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.22 新潟県

26. 鈴木美加, 木村剛, Varja Cuculovic, 萩原萌子, 橋本良秀, 山本雅哉, 野村渉, 岸田晶夫. 種々の脱細胞化組織に対するマクロファージの応答. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.22 新潟県

27. 海田こころ, 木村剛, 橋本良秀, 秋吉一成, 佐々木善浩, 岸田 晶夫. HHP 処理細胞を用いた人工細胞外小胞の調製とその生医学応用. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟県

28. 木村剛, 鈴木美加, 橋本良秀, 岡田正弘, 松本卓也, 高橋宏信, 清水達也, 山田将博, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 脱細胞化組織の無機複合による骨親和性付与. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟県

29. 大橋慶子, 橋本良秀, 木村剛, 中村奈緒子, 小林尚俊, 岸田晶夫. 脱細胞化ブタ角膜を用いた三次元人工ヒト角膜モデルの開発に関する研究. 第 33 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2024.03.06 埼玉県

30. 木村剛，梁忱，橋本良秀，松島隆英，浅原弘嗣，野村渉，田邊匡生，中村奈緒子，山本雅哉，岸田晶夫. Caco-2/THP-1 細胞を用いたマイクロプラスチックに対する炎症応答評価. 第 33 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2024.03.06 埼玉県

1. 臼杵壮一朗, 小川智之, 島袋将弥, 横井太史, 川下将一. 磁気温熱療法への応用に向けた Fe2-3 N の in vitro 評価. 国際 · 産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト令和 5 年度公開討論会 2024.03.09

[受賞]

1. Best Poster Paper Award, Biomaterials International 2024, 2024 年 07 月
2. 優秀研究ポスター賞, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2024, 2024 年 10 月
3. Outstanding Student Poster Award, International Symposium on Exponential Biomedical DX 2024(eMEDX-24), 2024 年 12 月

[その他業績]

1. 人を対象とする研究倫理委員会（東京工業高等専門学校）, 2024 年 04 月
2. The 4th International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture (DEJI2MA2024), 2024 年 10 月

環境社会医歯学講座

公衆衛生学分野

Department of Public Health

教　授	藤原 武男
准教授	那波 伸敏
准教授	森田 彩子（キャリアアップ）
講　師	谷 友香子
プロジェクト講師	山岡 祐衣
助　教	西村 久明
特任助教	小山 佑奈
特任助教	Yu Par Khin
特任教授	Douglas Storey
特任教授	Pamela Surkan

(1) 分野概要

人々が病気にならないようにするにはどうすればいいのか、という疑問を実証データにより解決できるようになることを目的とする。
そのために、疾患罹患のリスクについて正しく理解することができることを目標とする。
具体的には、疾患になるリスクを高める個体としての要因（遺伝子等）と環境要因、特に社会的環境要因は何か、その交互作用とは何か、胎児期や幼少期の長期的影響といったライフコースの視点も用いて因果推論を行うことができるようにする。
また、疫学調査にまつわる様々なバイアスを補正するために、高度な統計解析手法を身につける。
さらに、得られたデータを論文化し、国際学術誌に発表することでエビデンスを蓄積し、世界に貢献する姿勢を身につける。
最終的には、本授業を通じて、具体的な政策やプログラムを立案し、実際にフィールドで展開することで疾病予防のエビデンスを構築できるようになることを目標とする。

(2) 研究活動

当分野の主な研究テーマは以下の通り。
1．社会疫学 (社会格差、ソーシャルキャピタル、社会的ネットワーク、社会的サポートの健康影響)
2．ライフコース疫学（子ども期の貧困および逆境体験の健康影響）と国際比較研究
3．子ども虐待の予防
4．メンタルヘルス（特に妊娠期、育児期の親のメンタルヘルス、被災地のメンタルヘルス、子どものメンタルヘルス）
5．栄養疫学（妊娠期から子ども期における栄養、食環境）
6．環境保健（物理的環境、気候変動）
7．産業保健（職場の人間関係と健康に関する研究）
8．感染症疫学（新型コロナウイルス感染症に関する記述疫学、行動変容に関する研究）

(3) 教育活動

以下のコース · 授業を担当しています。

【医学部】

医学科１年　「医学導入　Medical Introductory Course」
医学科３年　「行動科学」
医学科３年　「公衆衛生学」（科目責任者）
医学科４年　「公衆衛生学実習」（科目責任者）
研究実践プロジェクト
プロジェクトセメスター

【大学院医歯学総合研究科】
修士課程（グローバル健康医学（Master of Public Health in Global Health (MPH)）コース）「疫学 I、生物統計Ⅱ、 基礎医学概論、医療システム、グローバルヘルス、母子保健学、医療ビジネス論、行動科学、地球環境と健康、公衆衛生学実習 I、公衆衛生学実習Ⅱ」（科目責任者）、「疫学Ⅱ、生物統計 I」
修士課程（医歯理工保健学専攻（医療管理政策学（MMA) コース））「環境社会医歯学、医療データ科学概論、疫学基礎」
博士課程（医歯学系専攻）　「公衆衛生学：特論、演習、研究実習」
博士課程（医歯学系専攻）　「疫学、アドバンス生物統計学、公衆衛生のための医学 · 生物学、医療システム · マネジメント、グローバルヘルス、母子保健、ヘルスケアビジネス、行動科学、地球環境と健康」
博士課程（医歯学系専攻）　「疾患予防パブリックヘルス医学概論」
博士課程（保健衛生学研究科）「疫学 I、医療システム、グローバルヘルス、母子保健学、行動科学、地球環境と健康」
博士課程（共同災害看護学専攻）「グローバルヘルスと政策」
修士 · 博士課程（臨床疫学プログラム（Clinical Epidemiology Program（CEP））「疫学基礎」「疫学応用」

(４)　教育方針

人々が病気にならないようにするにはどうすればいいのか、という疑問を実証データにより解決できるようになることを目的とする。
そのために、疾患罹患のリスクについて正しく理解することができることを目標とする。
具体的には、疾患になるリスクを高める個体としての要因（遺伝子等）と環境要因、特に社会的環境要因は何か、その交互作用とは何か、胎児期や幼少期の長期的影響といったライフコースの視点も用いて因果推論を行うことができるようにする。
また、疫学調査にまつわる様々なバイアスを補正するために、高度な統計解析手法を身につける。
さらに、得られたデータを論文化し、国際学術誌に発表することでエビデンスを蓄積し、世界に貢献する姿勢を身につける。
最終的には、本授業を通じて、具体的な政策やプログラムを立案し、実際にフィールドで展開することで疾病予防のエビデンスを構築できるようになることを目標とする。
授業の到達目標：
（１）疾病罹患のリスクについて正しく説明できる
（２）自らのリサーチクエスチョンを言語化し、疾病リスクに関する仮説を立てることができる
（３）リサーチクエスチョンを解決するために、フィールドを開拓することができる、または既存のデータにアクセスすることができる
（４）疫学研究のデザインについて説明できる
（５）必要なサンプルサイズを計算できる
（６）一般的な統計解析（多変量解析、ロジスティック解析等）や高度な統計解析（マルチレベル解析、傾向スコア法、多重補完法等）を行うことができる
（７）論理的にリサーチクエスチョンを正当化することができ、英語で論文を執筆することができる
（８）介入政策、プログラムを立案し、その効果を検証する研究計画を立案することができる

(５)　研究業績

[原著]

1. Maeda Y, Tabuchi T, Fujiwara T. Association between adverse childhood experiences and pregnancy morbidities: A nationwide online-based cross-sectional study. J Obstet Gynaecol Res. 2024.12; 50(12); 2231-2238

2. Sulaimanova G, Yamaoka Y, Bardella IJ, Fujiwara T. Prevalence of domestic violence against pregnant women living in rural areas: systematic review and meta-analysis. J Epidemiol Community Health. 2024.12;

3. Murakawa M*, Nakagawa M*, Nishimura H, Kaneko S, Miyoshi M, Kawai-Kitahata F, Nitta S, Tsuchiya J, Shimizu T, Watakabe K, Mochida T, Inada K, Iizuka Y, Sakai H, Sakurai Y, Sato A, Azuma S, Kawamura T, Maeyashiki C, Kurosaki M, Kusano F, Watanabe H, Kurata H, Karakama Y, Fujiwara T, Nagata Y, Tanaka T, Kakinuma S, Okamoto R, Asahina Y. High serum gamma-glutamyltransferase level after hepatitis C virus elimination is a risk factor for the development of hepatocellular carcinoma. Hepatol Res. 2024.12; 54(12); 1128-1138

4. Nawa N, Nishimura H, Fushimi K, Fujiwara T. Association between heat exposure and Kawasaki disease: A time-stratified case-crossover study. Environ Res. 2024.12; 263(Pt3); 120231

5. Asanbek kyzy A*, Nawa N, Kalmatov R, Fujiwara T. COVID-19 Vaccine Hesitancy Among Health Care Workers in Developing Countries: A Survey Study in Kyrgyzstan. Asia Pac J Public Health. 2024.11; 36(8); 801-805

6. Uchimido R, Kami K, Yamamoto H, Yokoe R, Tsuchiya I, Nukui Y, Goto Y, Hanafusa M, Fujiwara T, Wakabayashi K. Longitudinal Metabolomics Reveals Metabolic Dysregulation Dynamics in Patients with Severe COVID-19. Metabolites. 2024.11; 14(12);

7. Doi S, Nawa N, Yamaoka Y, Nishimura H, Koyama Y, Kuramochi J, Fujiwara T. Adverse childhood experiences, economic challenges, and suicide risk under COVID-19 pandemic: Results from U-CORONA study. Journal of Public Mental Health. 2024.10; 23(4); 289-302

8. Koyama Y*, Yamaoka Y, Nishimura H, Kuramochi J, Fujiwara T. More adverse childhood experiences are associated with increased social thinning and severe psychological distress. Commun Psychol. 2024.10; 2(1); 94

9. Yamaoka Y, Hangai M, Sampei M, Morisaki N. The Associations Between COVID-19-related Stigma of School-age Children and Communicative Support from Parents and Teachers. J Child Fam Stud. 2024.10; 33; 3574-3587

10. Koyama Y, Nawa N, Ochi M, Surkan PJ, Fujiwara T*. Epistatic interactions between oxytocin- and dopamine-related genes and trust. PLoS One. 2024.09; 19(9); e0308728

11. Iwata N*, Shimazu A, Fujiwara T, Shimada K, Tokita M, Watai I, Kawakami N. The husband's mental health is affected by the wife's happiness, but not vice versa: a longitudinal observation. Ind Health. 2024.09; 62(6); 402-406

12. Ando Y, Nagamine Y*, Nakagomi A, Koga C, Kondo N, Ide K, Kondo K, Fujiwara T. Association between internet use and annual health checkups among older Japanese adults: propensity score-matched analysis, Japan gerontological evaluation study cross-sectional study 2016 BMC public health. 2024.09; 24(1); 2614

13. Okamoto T, Hanafusa M, Abe T, Shimamura T, Ito M, Wakai Y, Jinta T, Higa K, Kondoh Y, Okouchi Y, Okuda R, Bando M, Suda T, Tomioka H, Fujiwara T, Takase M, Yoshihara S, Odajima H, Miyazaki Y*. Estimated prevalence and incidence of hypersensitivity pneumonitis in Japan. Allergology International. 2024.08;

14. Maeda Y, Morita A, Nawa N, Yamaoka Y, Fujiwara T. The Risk of Self-stigma and Discrimination for Healthcare Workers in Developing Countries during COVID-19 pandemic: International multisite study. Stigma and Health. 2024.08;

15. Tada Y*, Ishisuka K, Piedvache A, Tanaka H, Ogawa K, Kobayashi M, Horikawa R, Fujiwara T and Morisaki N. Association between diet quality during pregnancy of mothers and that of 3-year-old offspring: A prospective hospital-based birth cohort study. Journal of Nutritional Science. 2024.08; 13; e26

16. Suzuki A, Tani Y, Isumi A, Ogawa T, Moriyama K, Fujiwara T. Frequent toothbrushing boosts resilience among children in poverty: results from a population-based longitudinal study. BMC oral health. 2024.08; 24(1); 927

17. Kawahara T, Doi SK, Isumi A, Matsuyama Y, Tani Y, Fujiwara T. Impact of COVID-19 pandemic on children overweight in Japan in 2020. Pediatric obesity. 2024.08; 19(8); e13128

18. Kawahara T, Isumi A, Ochi M, Doi SK, Surkan PJ, Fujiwara T*. Association between maternal dissatisfaction with oneself at birth and shaking and smothering toward the offspring up to 18 months old. Child Abuse Negl. 2024.07; 153; 106816

19. Terada S, Isumi A, Yamaoka Y, Fujiwara T*. Years of education mediate the association between adverse childhood experiences and unintended pregnancy: A population-based study in Japan. Child Abuse Negl. 2024.07; 153; 106817

20. Yamaoka Y, Ochi M, Fukui M, Isumi A, Doi S, Fujiwara T, Nawa N. Home visitors' needs and perceptions of the benefits of a home visiting program for childcare support in Japan: A qualitative study of home visitors. Child Abuse Negl. 2024.07; 153; 106853

21. Numasawa M, Nawa N, Yamaguchi K, Akita K, Yamawaki M. Association between grit and depressive symptoms among medical students, moderated by academic performance. Medical education online. 2024.07; 29(1); 2373523

22. Tani Y, Kawahara T, Sugihara G, Machida M, Amagasa S, Murayama H, Inoue S, Fujiwara T, Shobugawa Y. Childhood Book Availability Helps to Preserve Cognitive Function in Older Adults With Low Education: Results From the NEIGE Study. The journals of gerontology. Series B, Psychological sciences and social sciences. 2024.06; 79(6);

23. Suzuki E, Nawa N, Okada E, Akaishi Y, Kashimada A, Numasawa M, Yamaguchi K, Takada K, Yamawaki M. Mixed-methods study of medical students' attitudes toward peer physical examinations in Japan. BMC medical education. 2024.06; 24(1); 681

24. Koyama Y, Nawa N, Ochi M, Surkan PJ, Fujiwara T. Joint Roles of Oxytocin- and Dopamine-Related Genes and Childhood Parenting Experience in Maternal Supportive Social Network. Child Psychiatry Hum Dev. 2024.06; 55(3); 614-621

25. Manabu S, Nawa N, Noguchi Y, Taki A, Kashimada A, Honda I, Koyama A, Okazaki K, Kondo M, Miyahara H, Ito K, Yamauchi T, Kondo T, Honda-Ozaki F, Kusuda S, Morioka C, Fujiwara T, Morio T, Kashimada K. Stage III Chorioamnionitis Is Associated with Reduced Risk of Severe Retinopathy of Prematurity. The Journal of pediatrics. 2024.05; 114085

26. Ishii T, Nawa N, Hosokawa S, Morio T, Fujiwara T. Exploring viral infections' role in Kawasaki disease onset: A study during the COVID-19 pandemic. Journal of medical virology. 2024.05; 96(5); e29660

27. 山岡祐衣、越智真奈美、福井充、伊角彩、土井理美、藤原武男、那波伸敏. 養育支援訪問事業における家庭訪問型支援の意義、支援の困難な状況、支援員の関係性作りの心構えについて：インタビュー調査より 子どもの虐待とネグレクト. 2024.05; 26(1);

28. Sasaki N, Watanabe K, Kanamori Y, Tabuchi T, Fujiwara T, Nishi D*. Effects of expanded adverse childhood experiences including school bullying, childhood poverty, and natural disasters on mental health in adulthood. Sci Rep. 2024.05; 14(1); 12015

29. Shibata T, Yamaoka Y, Nawa N, Nishimura H, Koyama Y, Kuramochi J, Fujiwara T*. Association of lifestyle and flourishing during the COVID-19 pandemic in Japan. Front Psychol. 2024.05; 15; 1341711

30. Omori T, Hanafusa M, Kondo N, Miyazaki Y, Okada S, Fujiwara T, Kuramochi J. Specific sequelae symptoms of COVID-19 of Omicron variant in comparison with non-COVID-19 patients: a retrospective cohort study in Japan. Journal of thoracic disease. 2024.05; 16(5); 3170-3180

31. Ishii T, Nawa N, Hosokawa S, Morio T, Fujiwara T. Exploring Viral Infections' Role in Kawasaki Disease Onset: A Study during the COVID-19 Pandemic. Journal of Medical Virology. 2024.05; 96(5); e29660

32. Terada S, Nishimura H, Miyasaka N, Fujiwara T*. Ambient temperature and preterm birth: A case-crossover study. BJOG. 2024.04; 131(5); 632-640

33. Saito M, Watanabe R, Tamada Y, Takeuchi K, Tani Y, Kondo K, Ojima T. Social disconnection and suicide mortality among Japanese older adults: A seven-year follow-up study. Social science & medicine (1982). 2024.04; 347; 116778

34. 福岡豊、西澤颯大、西沢エリック辰哉、天笠志保、村山洋史、藤原武男、井上茂、菖蒲川由郷. GPS および加速度データからの高齢者に共通の身体活動場所の抽出法 電気学会論文誌 C. 2024.04; 144(4); 309-315

35. Khin YP, Yamaoka Y, Abe A, Fujiwara T*. Association of child-specific and household material deprivation with depression among elementary and middle school students in Japan. Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2024.02; 59(2); 329-339

36. Terada S, Isumi A, Doi S, Tani Y, Fujiwara T. Association between gestational weight gain and behavioral problems of the offspring aged 6-7 years: A population-based study in Japan. International journal of gynaecology and obstetrics: the official organ of the International Federation of Gynaecology and Obstetrics. 2024.02; 166(2); 804-811

37. Suzuki E*, Nawa N, Matsuyama Y, DeYoung K, Fujiwara T. The impacts of legalization of physician assisted suicide on binge drinking among US adults International Journal of Mental Health and Addiction. 2024.02;

38. Goto Y, Nagamine Y, Hanafusa M, Kawahara T, Nawa N, Tateishi U, Ueki Y, Miyamae S, Wakabayashi K, Nosaka N, Miyazaki Y, Tohda S, Fujiwara T. Association of excess visceral fat and severe illness in hospitalized COVID-19 patients in Japan: a retrospective cohort study. International journal of obesity (2005). 2024.01; 48(5); 674-682

39. Suzuki A, Tani Y, Anzai T, Isumi A, Doi S, Ogawa T, Moriyama K, Fujiwara T. Association between Short Stature at Grade 1 and Permanent Teeth Caries at Grade 6 in Elementary School Children in Japan: A Population-Based Cohort Study. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2024.01; 21(1); 105

[書籍等出版物]

1. 藤原　武男. todai 灯台 2024 No.766. 株式会社第三文明社, 2024.07
2. 藤原　武男. 子育てのエビデンス. 株式会社大修館書店, 2024.03 (ISBN : 978-4469269840)

[講演 · 口頭発表等]

1. Yu Par Khin, Nobutoshi Nawa, Takeo Fujiwara. Eating Vegetable First & Mental Capital in Children. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.30 札幌
2. Kumiko Yamaguchi, Chiharu Kawakami, Nobutoshi Nawa, Mitsuyuki Numasawa, Kanako Noritake, Janelle Moross. What Medical Students Should Learn for Medical-Dental Collaboration in a Super-aged Society. AMEE 2024 2024.08.29 The Virtual Conference
3. Y Koyama, A P Tan, E Sadikova, P Setoh, B Broekman, H Tiemeier. Maternal depressive symptoms in childhood and offspring brain cortical and subcortical volumetric change: a repeated imaging study from age 4-10 years.. 2024 SER conference 2024.06.19 Austin

1. 山岡　祐衣. 虐待予防のための訪問型ペアトレプログラム「セーフケア」—児童福祉 · 母子保健における導入—. 日本子ども虐待防止学会第 30 回学術集会かがわ大会 2024.12.01 香川
2. 藤原　武男. 国際的こども虐待研究の意義～脱ガラパゴス化を目指して. 日本子ども虐待防止学会第 30 回学術集会かがわ大会 2024.11.30 香川
3. 沼沢 益行, 那波 伸敏, 山口 久美子, 秋田 恵一, 山脇 正永. 医学生における grit と抑うつの関係. 第 56 回日本医学教育学会大会 2024.08.10 東京
4. 藤原 武男. 社会的ハイリスク妊娠を考える. 第 60 回日本周産期 · 新生児医学会学術集会 2024.07.14 大阪
5. 藤原 武男.　子ども期の逆境体験とは何か：ライフコース疫学の視点から.　第 21 回日本うつ病学会総会 2024.07.13 大阪
6. 藤原 武男. 子ども期の逆境体験の健康影響. 第 31 回日本小児心身医学会中国四国地方会 2024.06.23 高知

[その他業績]

1. キルギス共和国における大気汚染および室内空気汚染対策の新拠点設立と 国際協力による環境改善プロジェクトが 「JST-JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS)」に採択 ～本学を代表する地球規模課題解決研究として注目～, 2024 年 04 月
2. 「 ステージ III ※ 3 の絨毛膜羊膜炎は、重症の未熟児網膜症発症リスクを低減する 」 — 未熟児網膜症と絨毛膜羊膜炎の関連が明らかに —, 2024 年 05 月
   Journal of Pediatrics

[社会貢献活動]

1. 【委員】日本疫学会 日本医学会医学用語委員, 一般社団法人日本疫学会, 2022 年 10 月 - 2024 年 10 月
2. 「Int J Behav Nutr Phys Act」掲載論文について, ヘルスデージャパン, HealthDay News, 2023 年 11 月 30 日 - 2024 年 01 月 31 日
3. 社会的孤立の抑制と調理技術について, 朝日新聞社, 朝日新聞, 2023 年 12 月 01 日 - 現在
4. 歩道環境と認知症発症率の論文について, 中日新聞社, 東京新聞, 2024 年 01 月 23 日 - 2024 年 03 月 31 日
5. 孤立しない老後、かぎは「調理力」！ , ＫＢＳ京都ラジオ, 笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ, 2024 年 02 月 05 日
6. 気候変動と子どもの健康, 株式会社メディカルトリビューン, 地方紙, 2024 年 02 月 22 日 - 現在
7. 東京医科歯科大学＆順天堂大学シンポジウム「 Lead Ourselves! ～自分らしく輝き続けるために～」 (司会進行), 第 126 回日本小児科学会学術集会, 2024 年 02 月 29 日
8. 【講演】社会格差と SGA：臨床データと社会的要因をつなげる, JCR ファーマ株式会社, 第 8 回東日本小児内分泌次世代リサーチミーティング, 2024 年 03 月 16 日
9. 【委員】文京区地域福祉推進協議会保健部会員, 文京区, 文京区, 2024 年 04 月 01 日 - 2025 年 06 月 30 日
10. 【委員】文京区地域保健推進協議会, 文京区, 文京区, 2024 年 04 月 01 日 - 2025 年 06 月 30 日
11. 子どものころの逆境体験の影響について, 毎日新聞社, 毎日新聞, 2024 年 04 月 23 日 - 2024 年 05 月 08 日
12. キルギスの大気汚染対策研究、国際プログラムに採択　東京医科歯科大 (日刊工業新聞), 2024 年 04 月 25 日
13. 気候変動による子どもの健康被害の詳細, 日本テレビ, news every., 2024 年 04 月 26 日
14. 気候変動と健康（疾病）, 毎日新聞社, 毎日新聞, 2024 年 04 月 26 日
15. 著書『子育てのエビデンス』について, 株式会社第三文明社, 月刊誌『灯台』, 2024 年 05 月 02 日 - 2024 年 06 月 10 日
16. 逆境で「超成長」する条件, 毎日新聞, 毎日新聞, 2024 年 05 月 08 日
17. 【委員】足立区子どもの貧困対策検討会議委員, 足立区役所, 2024 年 05 月 27 日 - 2024 年 07 月 31 日
18. 【委員】基準委員会公衆衛生系専門職大学院基準検討小委員会委員, 公益財団法人大学基準協会, 2024 年 07 月 01 日 - 2025 年 03 月 31 日
19. 気候変動が健康に与える影響について, NHK, 「おはよう日本」「クローズアップ現代」, 2024 年 07 月 02 日
20. 【委員、部会長】足立区地域保健福祉推進協議会、健康あだち２ 1 専門部会, 足立区, 2024 年 07 月 24 日 - 2025 年 07 月 23 日
21. 不確実な時代における子育てについて, 聖教新聞社, 聖教新聞, 2024 年 07 月 29 日 - 2024 年 08 月 26 日
22. 【講演】最近の子育て事情、地域の嘉永教育支援の状況、現代の子育て家族の特徴と背景、DV の理解, 一版社団法人日本家族協会, 令和 6 年度ひろしま版ネウボラ人材育成研修, 2024 年 10 月 22 日
23. 極端な暑さで高まる子供の川崎病リスク　東京科学大が発見 (科学新聞), 2024 年 11 月 22 日
24. 乳幼児かかる「川崎病」　暑さで発症リスク上昇　東京科学大チーム (毎日新聞), 毎日新聞, 2024 年 11 月 25 日
25. 健康な子ども 増やすには, 東京新聞, 東京新聞, 2024 年 12 月 04 日
26. 1 日 2 回以上の歯磨きで児童のレジリエンス向上か――貧困下で特に顕著, m3、CereNet、@DIME、Health Day, 「おはよう日本」「クローズアップ現代」, 2024 年 12 月 05 日

寄生虫学 · 熱帯医学分野

Parasitology and Tropical Medicine

教授 石野 智子
講師 新澤 直明
プロジェクト講師　長岡 ひかる
助教　馬場 みなみ
助教 外川 裕人
教室系職員 友田 弥里
非常勤講師 鳥居 本美
非常勤講師 山岡 昇司
非常勤講師 中村 ふくみ
非常勤講師 下河原 理江子
非常勤講師 熊谷 貴
非常勤講師 小林 大介
非常勤講師 菅沼 眞澄

大学院生 OWUSU KOFI BAFFOUR—AWUAH
大学院生 Oundavong Sunti
大学院生 Mark Tetteh-Tsifoanya
大学院生 Quratul-ain Issahaque
大学院生 関根 崇
大学院生 Peter Bolah
大学院生 Frederick Ofosu Appiah
大学院生 Amanor Ivy Brago
大学院生 Eric Coffie
大学院生 Jasmine Naa Norkor Dowuona

大学院生 岡田 玲那
技術補佐員 村山 比佐子
技術補佐員 岡村 登喜子

(1) 分野概要

大学の年報に載せる研究室の以下の紹介文を、平易な英語にしてください。　寄生虫疾患は、今なお世界各地で人々の生活に大きな影響を与え続け、その対策は保健衛生における重要な課題である。世界三大感染症の 1 つであるマラリアは、世界中で 2 億人を超える人が感染し、アフリカを中心に年間 60 万人が亡くなる寄生虫疾患である。特に 5 歳以下の乳幼児の死亡率が高く 2 分に 1 人の子供が亡くなる現状である。住血吸虫症も世界中に 2 億人を超える感染者がいるものの、「顧みられない熱帯病」として、有効な対策が十分に取られていない。私たちは、このような寄生虫疾患に対し、病原寄生体の感染機構の解明や、宿主との相互作用を解明する事を目標に研究を継続的に実施する。これらの基礎研究は、寄生虫の生物学的な理解を深めることに留めることなく、感染流行地を含め世界の研究者たちと連携し、ワクチンや薬剤の開発へと展開させていく。

本分野は、衛生動物学の研究を主として開設され、その後寄生虫疾患の中でも蠕虫をテーマに活発な研究を展開してきた歴史がある。2021 年に石野が着任し、マラリア原虫をメインのテーマとしながら、これまでの蓄積を活かし、住血吸虫など重要な寄生虫疾患を対象に研究を進める。マラリアについては、宿主細胞感染機構を、特に宿主と寄生体の相互作用に着目して解明するために、ネズミマラリア原虫、ヒトの熱帯熱マラリア原虫を用い、逆遺伝学やライブイメージング等の手法を活用して研究を進める。これに加え、薬剤耐性獲得のメカニズムや、新

規ワクチン開発なども実施する。また、ガーナやラオスなどの感染流行地におけるフィールド研究を実施し、寄生虫疾患の新規診断ツールやワクチン開発への展開も目指している。

(2) 研究活動

(1) マラリア原虫の宿主細胞感染機構の解明：
マラリア原虫はその生活環の中で、様々に異なる細胞に効率よく侵入 · 感染する。特に、蚊からヒトへのマラリア伝搬を担うスポロゾイトが肝細胞に到達、感染する機構の解明に力を注ぐ。これまでに、マラリア原虫の遺伝子改変技術により、スポロゾイト感染に関わる原虫の分泌型タンパク質を複数同定し、その機序の一部を解明し報告してきた。今後は、これらのタンパク質と相互作用する宿主細胞側分子の同定を通じて、宿主ー寄生体の相互作用の観点から感染機構を包括的に理解したいと考える。同様の手法で、赤血球の感染機構や蚊の体内での原虫の有性生殖などのメカニズムの解明へと繋げる。得られた基礎的な知見を元に、感染流行地や他分野の研究者と共同で、感染阻止法などの開発への展開を目指している。

(2) マラリア原虫のワクチン開発へと展開する研究：
2021 年に初のマラリア感染阻止ワクチン、RTS,S の使用が WHO によって推奨された。マラリア対策において重要な礎になったものの、RTS,S の感染阻止効果は 30 %程度にとどまり、その改良が急務である。私たちは、スポロゾイト表面タンパク質である Circumsporozoite protein (CSP) のヒトマラリア原虫相同体を発現させたキメラネズミマラリア原虫を作出し、さらに、肝臓チップなどを活用することで、新たな阻害効果評価系を立ち上げた。これらの評価系を活用し、新規の阻害抗体とそのエピトープのスクリーニングを実施することで、新規ワクチン開発へと挑戦する。加えて、同様の手法を、蚊を介したマラリア原虫伝搬ステージを阻害する、伝搬阻止ワクチンの開発へと応用する。

(3) 住血吸虫の細胞外小胞を通した産卵誘導機構の解明：
雌雄異体である吸虫類の住血吸虫は血管内で雌雄が抱合することで、産卵を行う。この雌雄での生殖のための情報交換として細胞外小胞に着目し研究を行っている。細胞外小胞の分泌阻害剤であるカルパインインヒビター (calpeptin) で処理した虫体では細胞外小胞の分泌とともに、産卵数の減少が見られた。このことから、現在、カルパイン遺伝子ファミリーの RNAi によるノックダウンを行い、細胞外小胞の分泌と産卵誘導におけるカルパインの機能を解析している。

(4) ガーナ拠点の研究支援：
東京医科歯科大学のガーナ · 野口記念医学研究所拠点活動の一員として、マラリアを中心とした寄生虫研究を実施する。ガーナでは全人口の 1/6 に相当する約 500 万人もの人々が、毎年マラリアに感染する。社会的に大きなインパクトを与える問題に取り組むために、特に蚊に媒介されるステージの原虫に着目し、基礎研究で得られた知見をベースに応用展開を目指す。また、流行地でしか得られない知見 · 経験、加えて感染患者由来の原虫株を、基礎研究および医学生の教育へと還元する。野口研の若手研究者を博士課程の学生として受け入れ共に研究を行う事で、継続的な連携に向けて尽力している。

(3) 教育活動

日本における寄生虫感染症例は、地域、学校、職場などによる検査の実施、および薬剤投与など、さまざまな努力によって戦後大きく減少した。一方で、近年の社会環境の劇的な変化、ペットブーム、食習慣の変化、冷蔵技術の進歩などに伴って、国内で認められる寄生虫疾患の種類や発生動向が大きく変化してきた。それに加えて、物流および人間の出入国の増加に伴い、寄生虫症が流行する地域からの輸入症例の増加がわが国の安全 · 安心に重大な影響をもたらすようになった。2019 年末から始まった、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを例に挙げるまでもなく、医療者にとって感染症の知識、対応を常に最新のものにし、さらに新興感染症に備えることは極めて重要である。さらに 21 世紀になってクローズアップされてきた「顧みられない熱帯感染症；Neglected Tropical Diseases」の大半が寄生虫病である事実は、寄生虫病が国際的に取り組むべき課題であることを顕著に示している。本分野では、世界の様々な地域における健康と福祉を理解し、思考し議論できる人材育成を進めるために、以下の事項を中心に教育している。医学部医学科の医動物学、社会医学、感染症学の他に、保健学科、歯学科においても講義を担当する。また、医学科のプロジェクトセメスターにおいては、基礎研究の考え方を指導するとともに、ガーナ派遣学生の指導も担当している。これらの教育を通じて、これからの保健医療分野で国際的に指導的立場に立てる人材の育成を目指している。

1. 日本国内における寄生虫病の実態と診断 · 治療など

2. 世界の寄生虫感染症流行の実態と予防対策
3. 寄生体の宿主への感染機構、さらに生活環の生物学的理解
4. 熱帯感染症の基礎知識と国際保健の取り組み
5. 顧みられない熱帯病の現状と国際社会による対策

(4) 教育方針

寄生虫および寄生虫感染症、衛生動物学の知識を系統的に教授する。その際に、それぞれの寄生虫症の発見や克服の歴史を紹介することで、今後の新興 · 再興感染症への対応ができる素地を育成する。実際の寄生虫標本を自ら観察することで、自発的に生物学的視点からの寄生虫の理解を促進するとともに、各疾患と診断法をリンクさせて定着を図る。実習を通じて、課題を自ら拾いだして問題解決にあたる能力を涵養することを目指している。座学だけにとどまらず、実習や野外調査になるべく多く参加させて、リアリティをもった課題設定とその解決能力の涵養を心がけている。

(5) 臨床活動および学外活動

学内外の医療機関と連携し、寄生虫症診断のアドバイスを積極的に実施している。関東のみならず日本中から問い合わせを頂き、正しい診断に貢献する。
寄生虫感染症を対象とした診断法、治療薬やワクチン開発を目指した研究を実施している。また、国際共同研究として、流行地の調査研究に参加し、疾病コントロールや、ワクチン効果の評価、あるいは薬剤耐性の獲得メカニズムの解明などを通じて、感染流行地への貢献を目指した研究を行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Tachibana, M; Baba, M; Iriko, H; Shinzawa, N; Torii, M; Ishino, T. Identification of a novel protein localized to the crystalloid of the Plasmodium ookinete PARASITOLOGY INTERNATIONAL. 2024.08; 101; 102892

2. Hagadorn KA, Peterson ME, Kole H, Scott B, Skinner J, Diouf A, Takashima E, Ongoiba A, Doumbo S, Doumtabe D, Li S, Sekar P, Yan M, Zhu C, Nagaoka H, Kanoi BN, Li QZ, Long C, Long EO, Kayentao K, Jenks SA, Sanz I, Tsuboi T, Traore B, Bolland S, Miura K, Crompton PD, Hopp CS. Autoantibodies inhibit Plasmodium falciparum growth and are associated with protection from clinical malaria. Immunity. 2024.08; 57(8); 1769-1779.e4

3. Omoda A, Matsumoto K, Yoshino KI, Tachibana M, Tsuboi T, Torii M, Ishino T, Iriko H. Skeleton binding protein 1 localizes to the Maurer's cleft and interacts with PfHSP70-1 and PfHSP70-x in Plasmodium falciparum gametocyte-infected erythrocytes. Parasitology international. 2024.02; 100; 102864

4. Kunkeaw N, Nguitragool W, Takashima E, Kangwanrangsan N, Muramatsu H, Tachibana M, Ishino T, Lin PJC, Tam YK, Pichyangkul S, Tsuboi T, Pardi N, Sattabongkot J. Author Correction: A Pvs25 mRNA vaccine induces complete and durable transmission-blocking immunity to Plasmodium vivax. NPJ vaccines. 2024.02; 9(1); 36

5. Eizo Takashima, Hitoshi Otsuki, Masayuki Morita, Daisuke Ito, Hikaru Nagaoka, Takaaki Yuguchi, Ifra Hassan, Takafumi Tsuboi. The Need for Novel Asexual Blood-Stage Malaria Vaccine Candidates for Plasmodium falciparum Biomolecules. 2024.01; 14(1);

6. Mahazu S, Prah I, Ota Y, Hayashi T, Suzuki M, Yoshida M, Hoshino Y, Akeda Y, Suzuki T, Ishino T, Ablordey AS, Saito R. Colistin Resistance Mediated by Mcr-3-Related Phosphoethanolamine Transferase Genes in Aeromonas Species Isolated from Aquatic Environments in Avaga and Pakro Communities in the Eastern Region of Ghana. Infection and drug resistance. 2024; 17; 3011-3023

[講演 · 口頭発表等]

1. Oundavong Sunti, Naoaki Shinzawa, Takashi Sekine, Tatsuya Sawasaki, Hidetaka Kosako, Tomoko Ishino.. Screening for interaction proteins of Plasmodium RON3, an important secretory protein for malaria parasite proliferation in the blood stage. 2024.11.06

2. Tetteh-Tsifoanya Mark , Sekine Takashi , Baba Minami, Shinzawa Naoaki, Ishino Tomoko. Identification of receptors on hepatocyte essential for invasion of Plasmodium falciparum sporozoites by proximity-dependent biotinylation assay. 分子寄生虫学ワークショップ 2024.08.27

3. Phenotypic assessment of pseudokinase pPK4 disrupted clones in Plasmodium yoelii. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.10

4. Essential role of Pleckstrin Homology domain-containing protein 1 (PH1) in AMA1 secretion during erythrocyte invasion by Plasmodium yoelii. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.09

1. 石野 智子、新澤 直明、Sunti Oundavong、窪田 理恵、 馬場 みなみ、小迫 英尊、澤崎 達也. マラリア原虫の感染基盤を統合的に明らかにすることを目指して. 分子生物学会 2024.11.27 福岡

2. 関根崇. マラリア原虫の非必須遺伝子間領域を用いた外来遺伝子導入方法の確立. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.08 神奈川県横浜市

3. 石野智子　馬場みなみ　岡田玲那　出口清香　新澤直明　高山和雄. マラリア原虫肝類洞壁通過と肝細胞寄生を再現する肝臓チップの構築とその応用. 日本生化学会 2024.11.06 横浜

4. 関根 崇、窪田 理恵、小林　大介、大久保 和、糸川　健太郎、伊澤　晴彦、葛西　真治、石野 智子、新澤 直明. マラリア原虫の非必須遺伝子間領域を用いた外来遺伝子導入方法の確立. 日本生化学会 2024.11.06

5. 馬場 みなみ, 橘 真由美, 鳥居 本美, 石野 智子. マラリア原虫スポロゾイトの細胞侵入におけるアスパラギン酸プロテアーゼ Plasmepsin IX の役割. 第 167 回日本獣医学会学術集会 2024.09.11

6. 石野智子　馬場みなみ　岡田玲那　出口清香　関根崇　新澤直明　高山和雄. 基礎研究からワクチン探索プラットフォームの開発への道のりを探って. 分子寄生虫学ワークショップ 2024.08.27

7. 石野智子. マラリア原虫の感染機構の解明とワクチン開発に向けた展開. 阿蘇シンポジウム 2024.08.02

8. 石野智子. マラリア原虫の感染機構解明からワクチン開発への道のり. シオノギセミナー 2024.07.29

9. 馬場 みなみ, 橘 真由美, 鳥居 本美, 石野 智子. マラリア原虫スポロゾイトにおけるアスパラギン酸プロテアーゼ Plasmepsin IX の役割. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.10

10. 渡邉幸夫, 出口清香, 岡田玲那, 仲田吉孝, 馬場みなみ, 新澤直明, 山本拓也, 石野 智子, 高山和雄. マラリア原虫のスポロゾイト感染に対するヒト肝細胞の応答性. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.10

11. 橘真由美, 馬場みなみ, 入子英幸, 新澤直明, 鳥居本美, 石野智子. マラリア原虫オーキネートのクリスタロイドに局在する新規分子の同定. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.10

12. 岡田玲那, 出口清香, 馬場みなみ, 新澤直明, 高山和雄, 石野智子. 肝臓チップを用いたマラリア原虫スポロゾイトの肝臓感染評価系の確立. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.10

13. 秋山桃歌, 新澤直明, 馬場みなみ, 澤崎達也, 小迫英尊, 石野智子. マラリア原虫肝細胞ステージの発育に関わる宿主側因子の探索. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.09

1. 石野智子, 馬場みなみ, 野崎守, 橘真由美, 新澤直明, 鳥居本美. マラリア原虫スポロゾイトにおける RAMA の役割の解析. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.09

2. 窪田理恵, 関根崇, Daniel Kweku, Addo Gyan, 小迫英尊, 澤崎達也, 新澤直明, 石野智子. 新規ビオチン化酵素 AIrID を用いたマラリア原虫のタンパク質インタラクトーム解析. 第 93 回日本寄生虫学会大会 2024.03.08

[特許]

1. 特許発明等「新規抗住血吸虫剤」, 特許番号：特願 2008-172663

[受賞]

1. 小泉賞, 日本寄生虫学会, 2024 年 03 月

[社会貢献活動]

1. もうすぐ千円札の顔を交代する野口英世は何をした人？　実は黄熱ではなく梅毒での功績が評価される研究者、今も引き継がれるガーナとの縁 , 共同通信社, 4 7ニュースほか, 2024 年 01 月 16 日 - 2024 年 03 月 19 日
2. マラリア対策, NHK, おはよう日本, 2024 年 05 月 16 日 - 2024 年 06 月 06 日

法医学

Forensic Medicine

教授　　鵜沼 香奈
准教授　秋 利彦
助教　　船越 丈司
特任助教　渡邊 嶺
　　温 書恒

大学院生
小松 美結
長野 修太郎

(1) 分野概要

法医学は「医学」と「法律」をつなぐ学問であり、社会を医学で守ることを目指している。多種多様な専門家と連携し、精度の高い法医診断を目指し、また良質の法医学者育成ができるように力を尽くしている。

(2) 研究活動

研究

当教室では、研究は法医学的な応用を視野に入れながら、科学の発展に寄与できるように取り組んで行きたいと考えている。
1. 中毒学
中毒は法医学領域において、重要な死因であり、その薬毒物の作用機序を解明し、中毒の治療・予防に寄与することをめざす。薬毒物によりその作用機序はことなり、死につながる病態も様々である。現在、細胞死の機序を生化学・分子生物学的手法を用いて研究している。心臓、神経、肺上皮等由来の培養細胞に、薬毒物（一酸化炭素、シアン、ヒ素など）を作用させ、細胞死に関与する細胞内情報伝達系について研究している。特にミトコンドリアの機能、細胞保護的なオートファジーの関与を中心に研究している。適宜、動物モデルを用いる。
2. 法医病理
　法医診断の精度向上のため、免疫組織化学、動物モデルを作成して、研究している。

(3) 教育活動

教育

法医学とは医学的解明助言を必要とする法律上の案件，事項について，科学的で公正な医学的判断を下すことによって，個人の基本的人権の擁護，社会の安全，福祉の維持に寄与することを目的とする医学である。

法律上問題となる医学的事項は多岐で、司法分野に限らず、行政、立法の分野にも及ぶが、司法的分野の問題が最も多い。従って、法医学は法治国家には不可欠な学問であり、制定法の整った民主主義国家においては臨床医学のあらゆる領域に跨って法医学的な問題が存在する。例えば死亡診断書の作成、医事紛争防止などは法医学専門

家よりはむしろ臨床医に身近な問題であるが、これらの問題の解決には法医学的な基本知識が必要である。特に医学を倫理、法律、行政、社会、訴訟などと関連づけて見る目を養う必要がある。臨床医に必要な法医学的常識と心構えを医師になるまでに身に付けさせることを目標として、講義と実習を行っている。
系統的講義としては、主として死体に関するものである。死体現象、損傷の見方・所見の取り方、窒息、中毒、内因性急死につき、死体検案に必要な知識を中心に講義を行う。応用的講義は、生体に関する法医学的事項も交えて、主として実務問題の解決に必要な知識を中心に講義する。法医学を専門としない医師にとっても、診断書作成、医事紛争の防止、死体検案などは必ず遭遇する身近な法医学的事項である。
実習では、法医学特有の事項を体験することを主な目標として、血液型検査、アルコール検査、法医解剖の見学などがある。

当分野では法医学者および法医学検査実務専門家の養成を目指している。

(4) 教育方針

学部教育
法医学を専門としない医師にとっても、死亡診断書作成、医事紛争の防止、死体検案などは将来必ず遭遇する身近な法医学的事項である。医師として必要な法医学的常識と心構えを身に付けてもらうことを目標として講義と実習を行っている。
大学院教育
法医解剖を担当し、精度の高い鑑定や法医実務を支える基礎研究ができる法医学者の育成に努めている。また、法医実務に役立つ研究の遂行を進められるような人材の育成を目指している。

(5) 臨床活動および学外活動

実務

法医学は社会医学系講座なので種々の鑑定業務を担当し、これが応用医学の臨床に相当する。裁判により、加害者ないしは被告側には相応の責任が科せられるので、鑑定者の責任は重い。従って、法医学ではこれらの鑑定業務を遺漏なく円滑に行うための研究に力が注がれている。
1. 死体に関する鑑定
　犯罪の被害者と思われる死体について、刑事訴訟法に基づき、検察または司法警察員の嘱託により、裁判所の許可を得て解剖検査するもので、一般に司法解剖と呼ばれている。司法解剖では、「鑑定書」として嘱託者に回答する。鑑定書は刑事裁判での証拠となり、場合により、鑑定者は裁判所で証人として死因等について証言することもある。これらは、裁判の有罪・無罪の判断にもつながり、公正な裁判制度の維持に貢献し、社会的にきわめて重要であり、責任の重い業務である。最近は医療関連死の解剖も多くなり、最新の臨床知識も必要である。また、平成 21 年 5 月から裁判員制度も開始され、わかりやすい鑑定書の作成も求められている。平成 25 年 4 月から「警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律（死因・身元調査法）」に基づく解剖が開始された。これは事件性の有無が不明であり、主に死因究明および個人識別のために行われる解剖である。当分野は、東京 23 区および茨城県の日曜日・月曜日・火曜日の解剖を担当している。
2. 生体に関する鑑定
検察または司法警察員の嘱託により、生体の損傷の程度や成傷時期についての鑑定を行っている。

2024 年
法医解剖　163 件
（司法解剖 88 件、死因・身元調査法に基づく解剖 75 件）

(6) 研究業績

[原著]

1. Kana Unuma, Shuheng Wen, Sho Sugahara, Shutaro Nagano, Toshihiko Aki, Tadayuki Ogawa, Shino Takeda-Homma , Masakazu Oikawa , Akihiro Tojo . Thallium reabsorption via NKCC 2 causes severe acute kidney injury with outer medulla-specific calcium crystal casts in rats. Arch Toxicol. 2024.10;

2. Shuheng Wen , Yohsuke Makino , Motoki Inaji , Nobutaka Arai , Kana Unuma . Importance of repeated computed tomography on pediatric traumatic acute posterior fossa subdural hematoma : A case study . Leg Med (Tokyo). 2024.06; 70; 102466

3. Hikari Tachibana , Moeka Nomura , Takeshi Funakoshi , Kana Unuma , Toshihiko Aki , Koichi Uemura . Incomplete autophagy and increased cholesterol synthesis during neuronal cell death caused by a synthetic cannabinoid, CP-55,940. Neurotoxicology. 2024.06; 103; 215-221

4. Shutaro Nagano , Kana Unuma , Yohsuke Makino , Hiroki Mori , Koichi Uemura . Acute upper airway obstruction due to cervical hematoma after cervicofacial liposuction . J Forensic Leg Med . 2024 .05; 104 ; 102697

5. Shutaro Nagano, Kana Unuma, Toshihiko Aki, Koichi Uemura. N-acetylcysteine alleviates arsenic trioxide-induced reductions in hepatic catalase gene expression both in vitro and in vivo. Leg Med (Tokyo). 2024.05; 69 ; 102458

6. Sho Sugahara, Kana Unuma, Shuheng Wen, Takeshi Funakoshi, Toshihiko Aki, Koichi Uemura. Dissociation of mitochondrial and ribosomal biogenesis during thallium administration in rat kidney. PLoS One. 2024; 19(12); e0311884

7. 長野修太郎, 渡邊嶺, 鵜沼香奈. ”スワドル”が原因と考えられた乳児窒息死の一剖検例 法医学の実際と研究 . 2024; 67; 35-40

[書籍等出版物]

1. 鵜沼香奈. 脳底部動脈破裂による外傷性くも膜下出血. 文光堂, 2024

[講演 · 口頭発表等]

1. 長野修太郎, 渡邊嶺, 鵜沼香奈. スワドル着用中の乳児突然死 -臨床への還元とその課題-. 第 93 回日本法医学会学術関東地方会 2024.10.12

2. 鵜沼香奈. 刑事事件の法医鑑定における 神経病理学的検索の実際 (シンポジウム：今こそ頭部外傷の神経病理について考えよう—司法制度におけるその重要性と将来の展望—). 第65 回日本神経病理学会総会学術研究会 2024

3. 小松 美結、船越 丈司、秋 利彦、鵜沼 香奈. アリストロキア酸による近位尿細管細胞急性毒性はDNA 付加　体形成が関与する. 第47 回 日本分子生物学会 2024.11.29

4. 内田佳子、植松悟子、小﨑里華、柳久美子、要匡、林紀乃、槇野陽介、鵜沼香奈、垣谷重毅. 多施設で協同　した小児不詳死に対する死因究明. 第 52 回日本救急医学会総会 · 学術集会 2024.10

5. 須賀原翔, 鵜沼香奈, 温書恒, 藤乗嗣泰. Mechanism of Renal Injury in Thallium Sulfate Intoxication. 第67 回腎臓学会学術総会 2024.06.28

6. Shutaro Nagano, Kana Unuma, Toshihiko Aki, Koichi Uemura. Protective effects of N-acetylcysteine on arsenic-induced hepatotoxity in vitro and in vivo. 第108 回日本法医学会学術全国集会 2024.06.05

7. 鵜沼香奈, 秋利彦, 温書恒, 長野修太郎, 上村公一. タリウム投与によるラット腎臓ミトコンドリア障害とリボソーム生合成の増加. 第 108 回日本法医学会総会. 2024.06.05

[その他業績]

1. 硫酸タリウムによる腎毒性機序の一端を解明 —早期診断が困難なタリウム中毒を疑う端緒として期待—, 2024 年 10 月
日本経済新聞

[社会貢献活動]

1. 土中の変死体の有り様や周辺環境への影響について, 株式会社 FILM, 映画「プロジェクト M」, 2024 年 01 月 23 日 - 2024 年 09 月 30 日

医療政策情報学分野

Department of Health Policy and Informatics

教　　授：伏見清秀
准 教 授 ：新城大輔
大学院生：小泉聖人、塚尾祐貴子、大高弘道、新城藍、竹内智紀、宮本憲一、山元佳、布施田泰之
研究生：遠藤一茂

(1)　分野概要

○当研究室での研究テーマ
· 情報技術の活用による医療実態の実証的分析から，医療の向上のための政策提言を行うことが研究目的の一つです．
· また，どのような情報技術を医療の向上のため活用するべきか，その社会的，技術的要因を，医療経済学，医療管理学等の広範な視点から調査，研究することも当教室の研究テーマです．
· 研究の対象は，医療提供体制，医療保険等の社会医療システムから，クリニカルパス，病院経営分析，危機管理等の病院管理，医療管理分野までを含む医療全般です．
具体的には：
１．診断群分類（DPC) と包括評価に関する制度設計、医療評価、医療経済分析
２．厚生医療統計分析による医療機関の機能分化等の我が国の医療のあり方に関する研究
３．医療の標準化と医療情報共有のための情報技術に関する研究
などのテーマで研究を進めています．

○当教室の特徴
· 情報技術を用いて今の医療システムに関する疑問点を分析し，解決策を見いだすことに主眼をおいています．実施臨床あるいは医療関連の職業に従事して，問題意識を持った方の研究の場を提供したいと考えています．もちろん，医歯学部卒直後の人でも，医療全般に問題意識を持ち，情報技術にその解決策を期待している人は歓迎いたします．情報工学の研究室ではありません．
· 学内各教室および厚生労働省，国立病院機構、他研究施設等との共同研究を実施していきます．

(2)　研究活動

本分野では以下のようなテーマを対象として研究を進めている．
１．医療機関の機能分化と分担連携のあり方について
２．本邦の医療提供体制に即した診断群分類の開発
３．医療の標準化と医療情報共有のための情報技術について

(3)　教育活動

医療政策情報学特論、医療政策情報学演習、医療政策情報学実験、診療情報管理学を担当、医療において必要な情報分析基礎能力と情報技術を応用した医療各分野での研究遂行能力の会得を目標とする。

(4)　教育方針

○大学院教育の目標
· 豊富な最新データを用いた実証的な研究を進めながら、医療データ分析、医療評価、政策評価などの方法論を体

得し、原著論文を完成すること

○社会人大学院の研究プログラムの例
· 実地臨床の経験を積みながら，臨床に密接に関連したテーマについて情報技術を用いて医療システムの実証的分析を行う．
· 行政 · 医療機関管理者等の立場から，統計資料，経営分析データを活用して医療システムの分析を行う．

○必要とされる知識 · 技術 · 条件等
基本的なデータ分析技術（エクセル等の表解析程度ができれば充分）
医療に関する興味と一般的な常識
年間 300〜500 時間程度の研究時間

○教育カリキュラム
セミナー、演習等随時
国内研究会等（年数回）、海外学会等（年 1 回以上）

(5) 研究業績

[原著]

1. Ikenouchi K, Takahashi D, Mandai S*, Watada M, Koyama S, Hoshino M, Takahashi N, Shoda W, Kuyama T, Mori Y, Ando F, Susa K, Mori T, Iimori S, Naito S, Sohara E, Fushimi K, Uchida S. Impact of COVID-19 versus other pneumonia on in-hospital mortality and functional decline among Japanese dialysis patients: a retrospective cohort study. Sci Rep. 2024.03; 14(1); 5177

2. Mai Kutsukake, Takaaki Konishi, Shotaro Aso, Michimasa Fujiogi, Naohiro Takamoto, Kaori Morita, Hiroyuki Ohbe, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Jun Fujishiro, Hideo Yasunaga. Treatment and Outcomes of 844 Cases of Pneumothorax in Heritable Connective Tissue Disorders. Ann Thorac Surg. 2024.12; 118(6); 1187-1195

3. Chloe Braun*(Co-first), Tomonori Takeuchi*(Co-first), Josh Lambert, Lucas Liu, Sarah Roberts, Stuart Carter, William Beaubien-Souligny, Ashita Tolwani, Javier A. Neyra. Association of Continuous Renal Replacement Therapy Downtime with Fluid Balance Gap and Clinical Outcomes: A Retrospective Cohort Analysis Utilizing EHR and Machine Data Journal of Intensive Care. 2024.12; 12(55);

4. Takeshi Umegaki, Susumu Kunisawa, Takahiko Kamibayashi, Kiyohide Fushimi, Yuichi Imanaka. Comparison of In-Hospital Outcomes between Open Aneurysm Repair and Endovascular Aneurysm Repair for Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm: A Retrospective Cohort Study Using Japanese Administrative Data. Ann Vasc Dis. 2024.12; 17(4); 351-357

5. Ryo Seishima, Hisateru Tachimori, Kazumasa Fukuda, Norihiko Ikeda, Hiroaki Miyata, Kiyohide Fushimi, Yuko Kitagawa. Impact of COVID-19 on hospital visit behaviour in cancer patients in Japan: a nationwide study. BMJ Open. 2024.12; 14(12); e084630

6. Takuo Yoshida, Sayuri Shimizu, Kiyohide Fushimi, Takahiro Mihara. Impact of board-certified intensive care training facilities on choice of adjunctive therapies and prognosis of severe respiratory failure: a nationwide cohort study. J Intensive Care. 2024.12; 12(1); 52

7. Keita Takeda, Akira Yokoyama, Takeshi Fukami, Yuya Kimura, Maho Suzukawa, Taisuke Jo, Junko Suzuki, Yuka Sasaki, Akihisa Mitani, Goh Tanaka, Asahi Fujita, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Takahide Nagase, Hideo Yasunaga. Association between preoperative antifungal therapy and postoperative complications in patients with pulmonary aspergilloma: A national database study in Japan. Med Mycol. 2024.12; 62(12); myae117

8. Shinya Miura, Nobuaki Michihata, Toshiaki Isogai, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Early predictors of unfavorable outcomes in pediatric acute respiratory failure. J Intensive Care. 2024.12; 12(1); 50

9. Kazuma Yamakawa, Hiroyuki Ohbe, Katsunori Mochizuki, Ryo Hisamune, Noritaka Ushio, Shigeki Kushimoto, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Time trends of outcome and treatment options for disseminated intravascular coagulation from 2010 to 2021 in Japan: A nationwide observational study. Thromb Res. 2024.12; 244; 109206

10. Nobutoshi Nawa, Hisaaki Nishimura, Kiyohide Fushimi, Takeo Fujiwara. Association between heat exposure and Kawasaki disease: A time-stratified case-crossover study. Environ Res. 2024.12; 263(Pt 3); 120231

11. Hiroshi Magara, Yuri Nakamura, Takuaki Tani, Shinobu Imai, Anna Kiyomi, Kensuke Yoshida, Kiyohide Fushimi, Munetoshi Sugiura. Comparison of the Safety of Aspirin Monotherapy and Aspirin and P2Y12 Inhibitor Combination Therapy in Patients Post Coil Embolization During Admission: A Cross-Sectional Study Using a Nationwide Inpatient Database. Drugs Real World Outcomes. 2024.12; 11(4); 679-689

12. Takaaki Ikeda, Upul Cooray, Ryutaro Matsugaki, Yuta Suzuki, Michiaki Takagi, Keiji Muramatsu, Kiyohide Fushimi, Masayasu Murakami, Ken Osaka, Shinya Matsuda. Associations of hypothetical early intensive in-hospital rehabilitation with activities of daily living after hip fracture surgery in patients with and without dementia: emulating a randomized controlled trial using medical claims data. J Clin Epidemiol. 2024.12; 176; 111550

13. Jumpei Taniguchi, Shotaro Aso, Taisuke Jo, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Outcomes of low-dose trimethoprim-sulfamethoxazole treatment in patients with non-HIV pneumocystis pneumonia: A nationwide Japanese retrospective cohort study. Infect Dis Now. 2024.12; 54(8); 104992

14. Kazuha Nakamura, Toshiaki Isogai, Hiroyuki Ohbe, Mikio Nakajima, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Effect of fluid resuscitation with albumin on mortality in patients with severe burns: A nationwide inpatient data analysis. Burns. 2024.12; 50(9); 107227

15. Augusto Cama-Olivares, Ashutosh Tamhane, Victor Ortiz-Soriano, Douglas Farrell, Huei Hsun Wen, Tomonori Takeuchi, Patel Devansh, Francesco Galasso, Jin Chen, Lili Chan, Ashita J. Tolwani, Girish N. Nadkarni, Javier A. Neyra. Clinical factors associated with hospital mortality in critically ill adult COVID patients with AKI requiring CRRT: A multicenter study Clinical Nephrology. 2024.11;

16. Takahisa Ogawa, Haggai Schermann, Ryohei Takada, Kiyohide Fushimi, Toshitaka Yoshii. The effect of early surgery on clinical outcomes in proximal femoral fracture patients receiving chronic anticoagulation: A japanese nationwide database study. Injury. 2024.11; 55(11); 111841

17. Hiroe Suzuki-Chiba, Takaaki Konishi, Shotaro Aso, Kanako Makito, Hiroki Matsui, Taisuke Jo, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Comparison of olanzapine 2.5 mg and 5 mg in the prevention of chemotherapy-induced nausea and vomiting: a Japanese nationwide database study. Int J Clin Oncol. 2024.11; 29(11); 1762-1773

18. Aya Saihara-Yamaguchi, Hirokazu Urushiyama, Kosuke Makita, Shotaro Aso, Hideaki Watanabe, Akira Yokoyama, Takahiro Ando, Taisuke Jo, Nobuyasu Awano, Matsui Hiroki, Kiyohide Fushimi, Hidenori Kage, Hideo Yasunaga. The association between the use of Shoseiryuto and reduction in intravenous steroid dose among adult inpatients with asthma exacerbation: A national database study in Japan. Respir Investig. 2024.11; 62(6); 1053-1057

19. Rintaro Moroi, Kunio Tarasawa, Hiroshi Nagai, Yusuke Shimoyama, Takeo Naito, Hisashi Shiga, Shin Hamada, Yoichi Kakuta, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Yoshitaka Kinouchi, Atsushi Masamune. Clinical Practice and Safety of Endoscopic Balloon Dilation for Crohn's Disease-Related Strictures: A Nationwide Claim Database Analysis in Japan. Gastroenterol Res Pract. 2024.11; 2024; 1291965

20. Wakana Maki, Shotaro Aso, Ryo Inuzuka, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Association between warfarin use and thromboembolic events in patients post-Fontan operation: propensity-score overlap weighting analyses. Eur J Cardiothorac Surg. 2024.11; 66(6); ezae413.

21. Takatomo Tokito, Takashi Kido, Shuntaro Sato, Masato Tashiro, Ritsuko Miyashita, Mutsumi Ozasa, Daisuke Okuno, Hirokazu Yura, Shinnosuke Takemoto, Takahiro Takazono, Hiroshi Ishimoto, Noriho Sakamoto, Takeshi Tanaka, Yasushi Obase, Yuji Ishimatsu, Tomoya Nishino, Kiyohide Fushimi, Koichi Izumikawa, Hiroshi Mukae. Favorable impact of azithromycin on patients in the intensive care unit with coronavirus disease 2019: Insights from the first wave using a Japanese database. Respir Med. 2024.11; 234; 107834

22. Kiwamu Iwata, Manabu Nitta, Makoto Kaneko, Kiyohide Fushimi, Shinichiro Ueda, Sayuri Shimizu. Analysis of in-hospital deaths in patients with critical limb ischemia necessitating invasive treatments: based on a Japanese nationwide database. Cardiovasc Interv Ther. 2024.10; 39(4); 448-459

23. Hiroaki Abe, Masahiko Sumitani, Hiroki Matsui, Reo Inoue, Kiyohide Fushimi, Kanji Uchida, Hideo Yasunaga. Association between hospital palliative care team intervention volume and patient outcomes. Int J Clin Oncol. 2024.10; 29(10); 1602-1609

24. Keiji Muramatsu, Yoko Aoyama, Daisuke Shigemi, Hideo Yasunaga, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda. Association between hospital case volume and maternal adverse events in patients with placental abruption: An analysis using a Japanese national inpatient database. Int J Gynaecol Obstet. 2024.10; 167(1); 439-444

25. Tomonori Takeuchi, Alexander H. Flannery, Lucas Jing Liu, Augusto Cama-Olivares, Jin Chen, Sarah C. Huen, Ashita J. Tolwani, Javier A. Neyra. Incidence and Clinical Outcomes of Sepsis-Associated AKI: A Multicenter Contemporary Cohort Study FR-PO070 Journal of the American Society of Nephrology. 2024.10; 35(10S);

26. Tomonori Takeuchi, Seda Babroudi, Lama Ghazi, Orlando M. Gutierrez, Javier A. Neyra. Social Risk Factors Associated with Disparate Posthospitalization Care among AKI Survivors FR-PO1025 Journal of the American Society of Nephrology. 2024.10; 35(10S);

27. Kullaya Takkavatakarn, Joshua Lambert, Justin Kauffman, Tomonori Takeuchi, Augusto Cama-Olivares, Stuart Goldstein, Jin Chen, Lili Chan, Girish N. Nadkarni, Javier A. Neyra. Machine-Learning Model for Predicting Early Mortality in Critically Ill Patients Requiring Continuous Kidney Replacement Therapy TH-PO011 Journal of the American Society of Nephrology. 2024.10; 35(10S);

28. Udit Nangia, Prathap Simhadri, Tomonori Takeuchi, Hari Naga Garapati, Sreekant Avula, Nihar K. Jena, Devansh H. Patel, Prabhat Singh, Deepak Chandramohan. AKI Outcomes among Hospitalized Patients with Acute Myeloid Leukemia and Sepsis FR-PO085 Journal of the American Society of Nephrology. 2024.10; 35(10S);

29. Augusto Cama-Olivares, Chloe Grace Braun, Tomonori Takeuchi, Kathryn A. Kaiser, Lama Ghazi, Jin Chen, Lui G. Forni, Sandra L. Kane-Gill, Marlies Ostermann, Benjamin Shickel, Jacob Ninan, Javier A. Neyra. Artificial Intelligence/Machine Learning Externally Validated Models for AKI Risk-Classification: A Systematic Review and Meta-Analysis TH-PO014 Journal of the American Society of Nephrology. 2024.10; 35(10S);

30. David R. Chang, Hsiu-Yin Chiang, Yi-Ching Chang, Tomonori Takeuchi, Che-Chen Lin, Jin Chen, Javier A. Neyra, Chin-Chi Kuo. A Population-Based Imputation Approach for Missing Baseline Serum Creatinine Values FR-PO033 Journal of the American Society of Nephrology. 2024.10; 35(10S);

31. Jumpei Taniguchi, Taisuke Jo, Shotaro Aso, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Safety of pyrazinamide in elderly patients with tuberculosis in Japan: A nationwide cohort study. Respirology. 2024.10; 29(10); 905-913

32. Lama Ghazi, Vibhu Parcha, Tomonori Takeuchi, Catherine R. Butler, Elizabeth Baker, Gabriela R. Oates, Lucia D. Juarez, Ariann F. Nassel, AKM Fazlur Rahman, Edward D. Siew, Xinyuan Chen, Orlando Gutierrez, Javier A. Neyra. Association of Neighborhood Social Determinants of Health with Acute Kidney Injury during Hospitalization Clinical Journal of the American Society. 2024.09; 10.2215/CJN.0000000000000528

33. Nobuyasu Awano, Taisuke Jo, Takehiro Izumo, Hirokazu Urushiyama, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideaki Watanabe, Hideo Yasunaga. Safety of transbronchial lung cryobiopsy compared to transbronchial forceps biopsy in patients with diffuse lung disease: An observational study using a national database in Japan. Respir Investig. 2024.09; 62(5); 844-849

34. Takuo Yoshida, Sayuri Shimizu, Kiyohide Fushimi, Takahiro Mihara. Changing clinical practice and prognosis for severe respiratory failure over time: A nationwide inpatient database study. Respir Investig. 2024.09; 62(5); 778-784

35. Chikako Iwai, Taisuke Jo, Takaaki Konishi, Asahi Fujita, Nobuaki Michihata, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Interstitial Pneumonitis Following Sequential Administration of Programmed Death-1/Programmed Death-Ligand1 Inhibitors and Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitors For Non-Small Cell Lung Cancer: A Matched-Pair Cohort Study Using a Nationwide Inpatient Database. Clin Lung Cancer. 2024.09; 25(6); e243-e251

36. Kenji Kishimoto, Susumu Kunisawa, Kiyohide Fushimi, Yuichi Imanaka. Effects of Rotavirus Vaccination Coverage among Infants on Hospital Admission for Gastroenteritis across All Age Groups, Japan, 2011-2019. Emerg Infect Dis. 2024.09; 30(9); 1895-1902

37. Mimura W, Shinjo D, Isayama T, Fushimi K. Inter-hospital variations in the respiratory outcomes of very and extremely pre-term infants: A cohort study in Japan. Paediatric and perinatal epidemiology. 2024.09;

38. Yoneda K, Shinjo D, Takahashi N, Fushimi K. Spatiotemporal analysis of the association between Kawasaki disease incidence and PM(2.5) exposure: a nationwide database study in Japan. BMJ paediatrics open. 2024.09; 8(1);

39. Cama-Olivares A, Ouyang T, Takeuchi T, St. Hillien S, Robinson J, Chung R, Cullaro G, Karvellas C, Levitsky J, Orman E, Patidar K, Regner K, Saly D, Sawinski D, Sharma P, Teixeira J, Ufere N, Velez J, Wadei H, Wahid N, Allegretti A, Neyra J, Belcher J, HRS-HARMONY Consortium. Association of HRS-AKI with Mortality in Patients with Cirrhosis Requiring Renal Replacement Therapy Results from the HRS-HARMONY Consortium Kidney360. 2024.09; 10.34067/KID.0000000589

40. Collett J, Flannery A, Liu L, Takeuchi T, Basile D, Neyra J. IL-17A Levels and Progression of Kidney Disease Following Hospitalization with and without Acute Kidney Injury Kidney360. 2024.09; 10.34067/KID.0000000000000559

41. Yu Mori, Kunio Tarasawa, Hidetatsu Tanaka, Naoko Mori, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Toshimi Aizawa. Surgery on admission and following day reduces hip fracture complications: a Japanese DPC study. J Bone Miner Metab. 2024.09; 42(5); 608-615

42. Takuaki Tani, Watanabe Kazuya, Ryo Onuma, Kiyohide Fushimi, Shinobu Imai. Age-Related Differences in the Effectiveness of Rehabilitation to Improve Activities of Daily Living in Patients with Stroke: A Cross-Sectional Study. Ann Geriatr Med Res. 2024.09; 28(3); 257-265

43. Tatsuya Hosoi, Hayato Yamana, Shoya Matsumoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Masahiro Akishita, Hideo Yasunaga, Sumito Ogawa. Implementation status of comprehensive geriatric assessment among older inpatients: A nationwide retrospective study. Geriatr Gerontol Int. 2024.09; 24(9); 904-911

44. Hisayuki Shuto, Shota Omori, Kazufumi Hiramatsu, Jun-Ichi Kadota, Kiyohide Fushimi, Kosaku Komiya. Pneumonia among Hemodialysis Patients: A Nationwide Database Study in Japan. J Clin Med. 2024.09; 13(18); 5463

45. Takahisa Ogawa, Ryo Onuma, Hiromori Sagae, Haggai Schermann, Morten Tange Kristensen, Kiyohide Fushimi, Toshitaka Yoshii, Tetsuya Jinno. Association between additional weekend rehabilitation and functional outcomes in patients with hip fractures: does age affect the effectiveness of weekend rehabilitation? Eur Geriatr Med. 2024.08; 15(4); 1091-1100

46. Shinya Takaoka, Tsuyoshi Hamada, Naminatsu Takahara, Rintaro Fukuda, Ryunosuke Hakuta, Kazunaga Ishigaki, Sachiko Kanai, Kohei Kurihara, Hiroki Matsui, Nobuaki Michihata, Hiroto Nishio, Kensaku Noguchi, Hiroki Oyama, Tomotaka Saito, Tatsuya Sato, Tatsunori Suzuki, Yukari Suzuki, Shuichi Tange, Kiyohide Fushimi, Yousuke Nakai, Hideo Yasunaga, Mitsuhiro Fujishiro. Body mass index and survival among patients with advanced biliary tract cancer: a single-institutional study with nationwide data-based validation. J Gastroenterol. 2024.08; 59(8); 732-743

47. Toshiaki Isogai, Akira Okada, Kojiro Morita, Nobuaki Michihata, Kanako Makito, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Body Mass Index and Outcomes in Patients with Takotsubo Syndrome: A Nationwide Retrospective Cohort Study. Cardiology. 2024.08; 149(4); 314-324

48. Hiroshi Magara, Takuaki Tani, Shinobu Imai, Anna Kiyomi, Kiyohide Fushimi, Munetoshi Sugiura. Fasudil hydrochloride and ozagrel sodium combination therapy for patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage: a cross-sectional study using a nationwide inpatient database. J Pharm Health Care Sci. 2024.08; 10(1); 49

49. Yoshitaka Tatematsu, Takahiro Imaizumi, Nobuaki Michihata, Noritoshi Kato, Ryosuke Kumazawa, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Shoichi Maruyama. Annual trends in atypical haemolytic uremic syndrome management in Japan and factors influencing early diagnosis and treatment: a retrospective study. Sci Rep. 2024.08; 14(1); 18265

50. Tomoyuki Tanaka, Masanao Sasaki, Junya Katayanagi, Akihiko Hirakawa, Kiyohide Fushimi, Toshitaka Yoshii, Tetsuya Jinno, Hiroyuki Inose. Trends, costs, and complications associated with after-hours surgery and unscheduled hospitalization in spinal surgery. Bone Jt Open. 2024.08; 5(8); 662-670

51. Kazuma Doi, Naoki Otani, Norihiko Inoue, Junichi Mizuno, Kiyohide Fushimi, Atsuo Yoshino. Effects of early surgery for cervical fracture dislocation on 30-day mortality using the Japanese Diagnosis Procedure Combination database. Asian Spine J. 2024.08; 18(4); 508-513

52. Yuta Nakano, Shintaro Mandai, Daiei Takahashi, Ken Ikenouchi, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Kiyohide Fushimi, Shinichi Uchida. Sex disparities in the risk of urgent dialysis following acute aortic dissections in Japan. iScience. 2024.08; 27(8); 110577

53. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Kiyohide Fushimi. Response to Letter to the Editor Concerning "Risk Factors for Postoperative Unfavorable Ambulatory Status After Spinal Surgery for Metastatic Spinal Tumor". Spine (Phila Pa 1976). 2024.07; 49(13); E209

54. Issei Ikushima, Kei Yamasaki, Masahiro Tahara, Kazuki Nemoto, Kentaro Akata, Hiroaki Ikegami, Chinatsu Nishida, Keiji Muramatsu, Yoshihisa Fujino, Shinya Matsuda, Kiyohide Fushimi, Hiroshi Mukae, Kazuhiro Yatera. Epidemiologic evaluation of pulmonary paragonimiasis in Japan using a Japanese nationwide administrative database. J Infect Chemother. 2024.07; 30(7); 603-607

55. Yuichiro Matsuo, Taisuke Jo, Hideaki Watanabe, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Clinical Efficacy of Beta-1 Selective Beta-Blockers Versus Propranolol in Patients With Thyroid Storm: A Retrospective Cohort Study. Crit Care Med. 2024.07; 52(7); 1077-1086

56. Jumpei Taniguchi, Shotaro Aso, Taisuke Jo, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Factors affecting in-hospital mortality in patients with miliary tuberculosis: A retrospective cohort study. Respir Investig. 2024.07; 62(4); 520-525

57. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Satoru Egawa, Shingo Morishita, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Atsushi Kudo, Kiyohide Fushimi. Trends in the surgical treatment for metastatic spinal tumor in Japanese administrative data between 2012 and 2020. Int J Clin Oncol. 2024.07; 29(7); 911-920

58. Shingo Morishita, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Kentaro Yamada, Yu Matsukura, Satoru Egawa, Jun Hashimoto, Takuya Takahashi, Takahisa Ogawa, Kiyohide Fushimi. Perioperative complications and cost of posterior decompression with fusion in thoracic spine for ossification of the posterior longitudinal ligament and ossification of the ligamentum flavum -a comparative study using a national inpatient database. BMC Musculoskelet Disord. 2024.07; 25(1); 513

59. Minato Yokoyama, Wei Chen, Yuma Waseda, Motohiro Fujiwara, Daisuke Kato, Takeshi Shirakawa, Yohei Shimizu, Tsunehiro Nenohi, Yuki Matsumoto, Taisuke Okumura, Masayasu Urushibara, Masumi Ai, Kiyohide Fushimi, Takashi Fukagai, Masatoshi Eto, Yasuhisa Fujii, Kazuhiro Ishizaka. Comparisons of in-hospital fee and surgical outcomes between robot-assisted, laparoscopic, and open radical cystectomy: a Japanese nationwide study. Jpn J Clin Oncol. 2024.07; 54(7); 822-826

60. Manabu Nitta, Shintaro Nakano, Makoto Kaneko, Kiyohide Fushimi, Kiyoshi Hibi, Sayuri Shimizu. In-Hospital Mortality in Patients With Cardiogenic Shock Requiring Veno-Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation With Concomitant Use of Impella vs. Intra-Aortic Balloon Pump - A Retrospective Cohort Study Using a Japanese Claims-Based Database. Circ J. 2024.07; 88(8); 1276-1285

61. Shibata T, Shinjo D, Fushimi K. The impact of deprivation on colorectal cancer-stage distribution in a setting with high hospital bed density: A Japanese multilevel study. Cancer medicine. 2024.07; 13(14); e70042

62. Haruki Nishimura, Hitoshi Suzuki, Kei Tokutsu, Keiji Muramatsu, Makoto Kawasaki, Yoshiaki Yamanaka, Soshi Uchida, Eiichiro Nakamura, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Akinori Sakai. Early surgical treatment using regional clinical pathways to reduce the length of postoperative hospital stay in hip fracture patients: A retrospective analysis using the Japanese Diagnosis Procedure Combination database. PLoS One. 2024.07; 19(7); e0282766

63. Takehiko Oami, Taro Imaeda, Taka-Aki Nakada, Tuerxun Aizimu, Nozomi Takahashi, Toshikazu Abe, Yasuo Yamao, Satoshi Nakagawa, Hiroshi Ogura, Nobuaki Shime, Yutaka Umemura, Asako Matsushima, Kiyohide Fushimi. Association of Intensive Care Unit Case Volume With Mortality and Cost in Sepsis Based on a Japanese Nationwide Medical Claims Database Study. Cureus. 2024.07; 16(7); e65697

64. Hayato Yamana, Asuka Tsuchiya, Hiromasa Horiguchi, Kiyohide Fushimi, Taisuke Jo, Hideo Yasunaga. Microbiological findings in patients with community-acquired pneumonia: An analysis using the National Hospital Organization Clinical Data Archives. J Infect Chemother. 2024.06; 30(6); 567-570

65. Keisuke Kondo, Keiji Honda, Keiichi Goshima, Norihiko Inoue, Daisuke Shinjo, Takeshi Tsutsumi, Kiyohide Fushimi. Otologic disease trends in Japan post-COVID-19 outbreak: A retrospective time-series analysis. Auris Nasus Larynx. 2024.06; 51(3); 525-530

66. Megumi Koizumi, Hiroyuki Ohbe, Sayaka Suzuki, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Tatsuya Yamasoba, Hideo Yasunaga. Impact of COVID-19 pandemic on the number of otolaryngologic surgeries in Japan. Auris Nasus Larynx. 2024.06; 51(3); 617-622

67. Kondo, K; Inoue, N; Honda, K; Fushimi, K. Effectiveness of antibiotic therapy for early recurrence of peritonsillar cellulitis and abscesses: A retrospective cohort study AURIS NASUS LARYNX. 2024.06; 51(3); 450-455

68. Toru Takiguchi, Mikio Nakajima, Hiroyuki Ohbe, Yusuke Sasabuchi, Takashi Tagami, Richard H Kaszynski, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Shiei Kim, Shoji Yokobori, Hideo Yasunaga. Association between Postoperative Adjuvant Vasodilator Therapy and In-Hospital Mortality for Non-Occlusive Mesenteric Ischemia: A Nationwide Observational Study. J Nippon Med Sch. 2024.06; 91(3); 316-321

69. Akihiko Hagiwara, Hisayuki Shuto, Ryohei Kudoh, Shota Omori, Kazufumi Hiramatsu, Jun-Ichi Kadota, Kiyohide Fushimi, Kosaku Komiya. Medical Causes of Hospitalisation among Patients with Bronchiectasis: A Nationwide Study in Japan. Pathogens. 2024.06; 13(6); 492

70. Shinjo D, Yotani N, Ito A, Isayama T. Children with medical complexity receiving home healthcare devices in Japan: a retrospective cohort study. BMJ paediatrics open. 2024.06; 8(1);

71. Tetsuya Tajima, Jung-Ho Shin, Susumu Kunisawa, Noriko Sasaki, Koichiro Hata, Kiyohide Fushimi, Etsuro Hatano, Yuichi Imanaka. Cost-effectiveness analysis of adult living-donor liver transplantation in Japan. Hepatol Res. 2024.05; 54(5); 465-478

72. Tsuyoshi Hamada, Hiroki Oyama, Ataru Igarashi, Yoshikuni Kawaguchi, Mihye Lee, Hiroki Matsui, Nobuaki Michihata, Yousuke Nakai, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Mitsuhiro Fujishiro. Optimal age to discontinue long-term surveillance of intraductal papillary mucinous neoplasms: comparative cost-effectiveness of surveillance by age. Gut. 2024.05; 73(6); 955-965

73. Jumpei Taniguchi, Shotaro Aso, Jo Taisuke, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Endobronchial silicone spigot in prolonged air leaks: Nationwide study on outcomes and risk factors for treatment failure. Respir Investig. 2024.05; 62(3); 449-454

74. Miho Akaishi, Kunio Tarasawa, Hirotaka Hamada, Noriyuki Iwama, Hasumi Tomita, Tetsuya Akaishi, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Nobuo Yaegashi, Masatoshi Saito. Risk Assessment of Critical Obstetric Bleeding With Low-Molecular-Weight Heparin. Cureus. 2024.05; 16(5); e59933

75. Tetsuya Akaishi, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi, Chiharu Ota, Sumireko Sekiguchi, Tetsuji Aoyagi, Nobuo Yaegashi, Masashi Aoki, Kenji Fujimori. A Reduction in the Number of Hospitalized Cases of Acute Meningitis during the COVID-19 Pandemic in Japan. Intern Med. 2024.05; 63(10); 1353-1359

76. Daishi Hamada, Hitoshi Suzuki, Keiji Muramatsu, Yukichi Zenke, Makoto Kawasaki, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Akinori Sakai. Analyzing attempt and success factors for amputated digit replantation in Japan using the diagnosis procedure combination database. Sci Rep. 2024.05; 14(1); 12156

77. Nozomi Takahashi, Taro Imaeda, Takehiko Oami, Toshikazu Abe, Nobuaki Shime, Kosaku Komiya, Hideki Kawamura, Yasuo Yamao, Kiyohide Fushimi, Taka-Aki Nakada. Incidence and mortality of community-acquired and nosocomial infections in Japan: a nationwide medical claims database study. BMC Infect Dis. 2024.05; 24(1); 518

78. Yuki Hirano, Takaaki Konishi, Hidehiro Kaneko, Hidetaka Itoh, Satoru Matsuda, Hirofumi Kawakubo, Kazuaki Uda, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hiroyuki Daiko, Osamu Itano, Hideo Yasunaga, Yuko Kitagawa. Antimicrobial Prophylaxis With Ampicillin-sulbactam Compared With Cefazolin for Esophagectomy: Nationwide Inpatient Database Study in Japan. Ann Surg. 2024.04; 279(4); 640-647

79. Akira Okada, Hidehiro Kaneko, Masaaki Konishi, Kentaro Kamiya, Tadafumi Sugimoto, Satoshi Matsuoka, Isao Yokota, Yuta Suzuki, Satoko Yamaguchi, Hidetaka Itoh, Katsuhito Fujiu, Nobuaki Michihata, Taisuke Jo, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Norifumi Takeda, Hiroyuki Morita, Hideo Yasunaga, Issei Komuro. A machine-learning-based prediction of non-home discharge among acute heart failure patients. Clin Res Cardiol. 2024.04; 113(4); 522-532

80. Akira Honda, Yoichi Iizuka, Nobuaki Michihata, Kazuaki Uda, Tokue Mieda, Eiji Takasawa, Sho Ishiwata, Yohei Kakuta, Yusuke Tomomatsu, Shunsuke Ito, Kazuhiro Inomata, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Hirotaka Chikuda. Effect of Intraoperative Tranexamic Acid on Perioperative Major Hemorrhage Requiring Transfusion in Patients Undergoing Elective Spine Surgery: A Propensity Score-Matched Analysis Using a National Inpatient Database. Global Spine J. 2024.04; 14(3); 804-811

81. Hiroko Abe, Kunio Tarasawa, Waku Hatta, Tomoyuki Koike, Isao Sato, Yoshitaka Ono, Yohei Ogata, Masahiro Saito, Xiaoyi Jin, Takeshi Kanno, Kaname Uno, Naoki Asano, Akira Imatani, Kenji Fujimori, Kiyohide Fushimi, Atsushi Masamune. Similar Effect of Vonoprazan and Oral Proton Pump Inhibitors for Preventing Rebleeding in Cases of Upper Gastrointestinal Bleeding. Intern Med. 2024.04; 63(7); 911-918

82. Taisuke Jo, Daisuke Shigemi, Takaaki Konishi, Hayato Yamana, Nobuaki Michihata, Ryosuke Kumazawa, Akira Yokoyama, Hirokazu Urushiyama, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Takahide Nagase, Hideo Yasunaga. Antiemetic Effect of Rikkunshito, a Japanese Kampo Herbal Medicine, on Cisplatin-induced Nausea and Vomiting: A Nationwide Database Study in Japan. Intern Med. 2024.04; 63(7); 919-927

83. So Sato, Hayato Yamana, Ryosuke Kumazawa, Hideaki Watanabe, Asahi Fujita, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Cilostazol versus Aspirin or Clopidogrel for Reducing Post-Stroke Aspiration Pneumonia: A Nationwide Retrospective Cohort Study. Cerebrovasc Dis. 2024.04; 53(2); 152-159

84. Rintaro Moroi, Kunio Tarasawa, Hiroshi Nagai, Yusukue Shimoyama, Takeo Naito, Hisashi Shiga, Shin Hamada, Yoichi Kakuta, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Yoshitaka Kinouchi, Atsushi Masamune. Effectiveness of Antibiotics for Uncomplicated Diverticulitis: A Retrospective Investigation Using a Nationwide Database in Japan. Digestion. 2024.04; 105(2); 81-89

85. Mai Kutsukake, Takaaki Konishi, Michimasa Fujiogi, Naohiro Takamoto, Kaori Morita, Ikuta Yasuhisa, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Jun Fujishiro, Hideo Yasunaga. Treatment courses and outcomes of oesophageal atresia in patients with trisomy 18: a case series of 271 patients from a nationwide database in Japan. Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed. 2024.04; 109(3); 336-341

86. Yasuhisa Mori, Makoto Okawara, Kazunori Shibao, Shiro Kohi, Toshihisa Tamura, Norihiro Sato, Yoshihisa Fujino, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Keiji Hirata. Short-term outcomes of pancreatoduodenectomy in older individuals over a 9-year period using real-world data: A multilevel analysis based on a nationwide administrative database in Japan. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024.04; 31(4); 262-272

87. Atsushi Senda, Kiyohide Fushimi, Koji Morishita. Effect of Early Cyclosporine Treatment on Survival in Stevens-Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis. Cureus. 2024.04; 16(4); e57862

88. Kazuma Yamakawa, Hiroyuki Ohbe, Ryo Hisamune, Noritaka Ushio, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Current Clinical Practice of Laboratory Testing of the Hemostasis and Coagulation System in Patients with Sepsis: A Nationwide Observational Study in Japan. JMA J. 2024.04; 7(2); 224-231

89. Toshikazu Abe, Hiroki Iriyama, Taro Imaeda, Akira Komori, Takehiko Oami, Tuerxun Aizimu, Nozomi Takahashi, Yasuo Yamao, Satoshi Nakagawa, Hiroshi Ogura, Yutaka Umemura, Asako Matsushima, Kiyohide Fushimi, Nobuaki Shime, Taka-Aki Nakada. Epidemiology and patterns of empiric antimicrobial therapy practice in patients with community-onset sepsis using data from a Japanese nationwide medical claims database-the Japan Sepsis Alliance (JaSA) study group. IJID Reg. 2024.03; 10; 162-167

90. Yoshiki Mizuguchi, Hideyuki Mouri, Taisuke Jo, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Takumi Taniguchi. Clinical Features and Outcomes of Shoshin Beriberi. Int Heart J. 2024.03; 65(2); 271-278

91. Rakuhei Nakama, Norihiko Inoue, Yoshihisa Miyamoto, Yasunori Arai, Tatsushi Kobayashi, Kiyohide Fushimi. Patient characteristics and procedural and safety outcomes of percutaneous transesophageal gastro-tubing: A nationwide database study in Japan. Surgery. 2024.02; 175(2); 368-372

92. Ryo Karakawa, Takaaki Konishi, Hidehiko Yoshimatsu, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Tomoyuki Yano, Hideo Yasunaga. Association between body mass index and outcomes after autologous breast reconstruction: a nationwide inpatient database study in Japan. Breast Cancer Res Treat. 2024.02; 204(1); 69-78

93. Han Peng Zhou, Yohei Hashimoto, Fumiyuki Araki, Koichiro Sugimoto, Masako Nagahara, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Makoto Aihara, Taku Toyama, Takashi Ueta. RECENT TRENDS IN THE CUMULATIVE INCIDENCE AND INTERVENTION PATTERNS OF RETINOPATHY OF PREMATURITY IN JAPAN: A Multicenter Analysis, 2011-2020. Retina. 2024.02; 44(2); 295-305

94. Tetsuya Akaishi, Kunio Tarasawa, Hirotaka Hamada, Noriyuki Iwama, Hasumi Tomita, Miho Akaishi, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Nobuo Yaegashi, Masatoshi Saito. Prenatal hypertension as the risk of eclampsia, HELLP syndrome, and critical obstetric hemorrhage. Hypertens Res. 2024.02; 47(2); 455-466

95. Shoko Yoshida, Shinobu Imai, Kiyohide Fushimi. Changes in surgery rates among hospitalized patients with inflammatory bowel disease in Japan from 2015 to 2019: A nationwide administrative database analysis. J Gastroenterol Hepatol. 2024.02; 39(2); 272-279

96. Tetsuya Akaishi, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi, Nobuo Yaegashi, Masashi Aoki, Kenji Fujimori. Improved Activities of Daily Living With Adjunctive Intravenous Steroids in Bacterial Meningitis: A Nationwide, Population-Based Medical Database Study. Cureus. 2024.02; 16(2); e54292

97. Atsushi Senda, Kiyohide Fushimi. Effectiveness of early treatment with plasma exchange in patients with Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis. Sci Rep. 2024.02; 14(1); 2893

98. Takahisa Ogawa, Shinya Tsuzuki, Hiroyuki Ohbe, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga, Satoshi Kutsuna. Analysis of Differences in Characteristics of High-Risk Endemic Areas for Contracting Japanese Spotted Fever, Tsutsugamushi Disease, and Severe Fever With Thrombocytopenia Syndrome. Open Forum Infect Dis. 2024.02; 11(2); ofae025

99. Yuichi Ishikawa, Kei Tokutsu, Shingo Nakayamada, Aya Kuchiba, Kiyohide Fushimi, Shinya Matsuda, Yoshiya Tanaka. Short-term effectiveness and safety of rituximab versus cyclophosphamide for life-threatening ANCA-associated vasculitis: a propensity score analysis of the real-world nationwide database. Ann Rheum Dis. 2024.01; 83(1); 103-111

100. Takahiro Takahashi, Hisashi Shiga, Kunio Tarasawa, Yusuke Shimoyama, Takeo Naito, Rintaro Moroi, Masatake Kuroha, Yoichi Kakuta, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Yoshitaka Kinouchi, Atsushi Masamune. Comparative Effectiveness of Tacrolimus and Infliximab in Hospitalized Patients With Ulcerative Colitis. Clin Transl Gastroenterol. 2024.01; 15(1); e00642

101. Ippei Tanaka, Kunio Tarasawa, Hiroaki Saito, Dai Hirasawa, Kenji Fujimori, Kiyohide Fushimi, Tomoki Matsuda. Is proton-pump inhibitor effective in preventing postoperative bleeding after esophageal endoscopic submucosal dissection? Dis Esophagus. 2024.01; 37(2); doad060

102. Hotaka Namie, Takahiro Takazono, Yusuke Hidaka, Shimpei Morimoto, Yuya Ito, Nana Nakada, Nobuyuki Ashizawa, Tatsuro Hirayama, Kazuaki Takeda, Naoki Iwanaga, Masato Tashiro, Naoki Hosogaya, Takeshi Tanaka, Kiyohide Fushimi, Katsunori Yanagihara, Hiroshi Mukae, Koichi Izumikawa. The prognostic factors for cryptococcal meningitis in non-human immunodeficiency virus patients: An observational study using nationwide database. Mycoses. 2024.01; 67(1); e13658

103. Kota Yoneda, Daisuke Shinjo, Naoto Takahashi, Kiyohide Fushimi. Geographical distribution of antimicrobial exposure among very preterm and very low birth weight infants: A nationwide database study in Japan. PLoS One. 2024.01; 19(1); e0295528

104. Takehiko Oami, Toshikazu Abe, Taka-Aki Nakada, Taro Imaeda, Tuerxun Aizimu, Nozomi Takahashi, Yasuo Yamao, Satoshi Nakagawa, Hiroshi Ogura, Nobuaki Shime, Yutaka Umemura, Asako Matsushima, Kiyohide Fushimi. Association between hospital spending and in-hospital mortality of patients with sepsis based on a Japanese nationwide medical claims database study. Heliyon. 2024.01; 10(1); e23480

105. Tetsuya Akaishi, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi, Nobuo Yaegashi, Masashi Aoki, Kenji Fujimori. Demographic profiles and risk factors for mortality in acute meningitis: A nationwide population-based observational study. Acute Med Surg. 2024.01; 11(1); e920

106. Yuki Matsumoto, Kunio Tarasawa, Tatsuro Misu, Chihiro Namatame, Yoshiki Takai, Hiroshi Kuroda, Kazuo Fujihara, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Masashi Aoki. Dynamic changes in patient admission and their disabilities in multiple sclerosis and neuromyelitis optica: A Japanese nationwide administrative data study. Mult Scler Relat Disord. 2024.01; 81; 105349

107. Takanori Suzuki, Nobuaki Michihata, Yohei Hashimoto, Tetsushi Yoshikawa, Kazuyoshi Saito, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Association between aspirin dose and outcomes in patients with acute Kawasaki disease: a nationwide retrospective cohort study in Japan. Eur J Pediatr. 2024.01; 183(1); 415-424

108. Wakana Maki, Nobuaki Michihata, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Noninvasive Positive Airway Pressure Management for Post-extubation Support in Preterm Infants: Observational Cohort Study with Overlap Weighting Analysis. Ann Clin Epidemiol. 2024.01; 6(1); 17-23

[書籍等出版物]

1. 竹内 智紀, 中嶋 優子 (翻訳). ローゼン救急医学（第 10 版）. エルゼビア · ジャパン, 2024.07
2. 竹内 智紀 (翻訳). スワルツ身体診察法（第 8 版）. エルゼビア · ジャパン, 2024

[講演 · 口頭発表等]

1. Tomonori Takeuchi, Alexander H. Flannery, Lucas J. Liu, Augusto Cama-Olivares, Kiyohide Fushimi, Jin Chen, Sarah C. Huen, Ashita J. Tolwani, Javier A. Neyra. Incidence and Clinical Outcomes of Sepsis-Associated Acute Kidney Injury: A multicenter contemporary cohort study. ASN Kidney Week 2024.10.25 San Diego, CA, USA

2. Kullaya Takkavatakarn, Joshua Lambert, Justin Kauffman, Tomonori Takeuchi, Augusto Cama-Olivares, Stuart Goldstein, Jin Chen, Lili Chan, Girish N Nadkarni, Javier A Neyra. Machine Learning Model for Predicting Early Mortality in Critically Ill Patients Requiring Continuous Renal Replacement Therapy. ASN Kidney Week 2024.10.25 San Diego, CA, USA

3. Tomonori Takeuchi, Seda Babroudi, Orlando M. Gutierrez, Lama Ghazi, Javier A. Neyra. Social Risk Factors Associate with Disparate Post-Hospitalization Care Among AKI Survivors. ASN Kidney Week 2024.10.25 San Diego, CA, USA

4. Augusto Cama-Olivares, Chloe Braun, Tomonori Takeuchi, Emma C. O'Hagan, Katheryn Kaiser, Lama Ghazi, Jin Chen, Lui G. Forni, Sandra L. Kane-Gill, Marlies Ostermann, Benjamin Shickel, Jacob Ninan, Javier A. Neyra. Artificial Intelligence / Machine Learning Externally Validated Models for Acute Kidney Injury Risk-Classification: A Systematic Review and Meta-Analysis. ASN Kidney Week 2024.10.25 San Diego, CA, USA

5. David Ray Chang, Hsiu-Yin Chiang, Yi-Ching Chang, Tomonori Takeuchi, Che-Chen Lin, Jin Chen, Javier A. Neyra*, Chin-Chi Kuo*. A Population-based Imputation Approach for Missing Baseline Serum Creatinine Values. ASN Kidney Week 2024.10.25 San Diego, CA, USA

6. Udit Nangia, Prathap Simhadri, Tomonori Takeuchi, Hari naga Garapati, Sreekant Avula, Nihar K. Jena, Devansh H. Patel, Prabhat Singh, Deepak Chandramohan.. Acute Kidney Injury Outcomes Among Hospitalized Acute Myeloid Leukemia Patients with Sepsis. ASN Kidney Week 2024.10.25 San Diego, CA, USA

7. Filippo Firenzuoli, Tomonori Takeuchi, Ehsan Ghamarian, Sean M. Bagshaw, Ron Wald, Javier Neyra. Incidence of Hypophosphatemia and Clinical Outcomes in Patients Exposed to RRT: A Post-Hoc Analysis of the STARRT-AKI Trial. 2024.10.25 San Diego, CA, USA

8. Devansh Patel, Augusto Cama-Olivares, Ashutosh Tamhane, Victor Ortiz-Soriano, Tomonori Takeuchi, Francesco Galasso, Lili Chan, Ashita Tolwani, Girish Nadkarni, Javier Neyra. Clinical factors associated with hospital mortality in critically ill adult COVID patients with AKI requiring CRRT. National Kidney Foundation 2024.05.15 Long Beach, CA

9. Tomonori Takeuchi, Alexander H Flannery, Lucas J Liu, Augusto Cama-Olivares, Jin Chen, Sarah C Huen, Ashita J Tolwani, Javier A Neyra. Epidemiology of Sepsis-Associated Acute Kidney Injury. AKI & CRRT 2024 (the 29th International Conference on Advances in Critical Care Nephrology) 2024.03.13 San Diego, CA, USA

10. James Odum, Tomonori Takeuchi, Chloe Braun, Lucas Liu, David Askenazi, Javier Neyra. Epidemiology of Sepsis-Associated Acute Kidney Injury in Adolescent Patients Admitted to Adult ICUs. AKI & CRRT 2024 (the 29th International Conference on Advances in Critical Care Nephrology) 2024.03.12 San Diego, CA, USA

11. Augusto Cama-Olivares, Ashutosh Tamhane, Victor Ortiz-Soriano, Douglas Farrell, Huei Hsun Wen, Tomonori Takeuchi, Patel Devansh, Francesco Galasso, Jin Chen, Lili Chan, Ashita J. Tolwani, Girish N. Nadkarni, Javier A. Neyra. Clinical factors associated with hospital mortality in critically ill adult COVID patients with AKI requiring CRRT: A multicenter study. AKI & CRRT 2024 (the 29th International Conference on Advances in Critical Care Nephrology) 2024.03.12 San Diego, CA, USA

1. 鞍谷 沙織, 新城 大輔, 伏見 清秀, 宮越 千智, 濱崎 考史, 余谷 暢之. 脳性麻痺児者は病院でどのような最期を迎えているのか　DPC データを用いた終末期積極的治療の実態. 脳と発達 2024.05.01

2. 鞍谷 沙織, 新城 大輔, 伏見 清秀, 宮越 千智, 濱崎 考史, 余谷 暢之. 脳性麻痺児者は病院でどのような最期を迎えているのか　DPC データを用いた終末期積極的治療の実態. 脳と発達 2024.05.01

3. 竹田 貴策, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 近藤 景介, 西尾 綾子, 本田 圭司, 堤 剛. Virtual Reality ヘッドセット型眼球運動検査装置を用いた HT-SVV の評価. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

4. 本田 圭司, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 竹田 貴策, 近藤 景介, 西尾 綾子, 堤 剛. VR ヘッドセット型眼球運動検査機器を用いた vHIT　機器特性を考慮した検査の留意点. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

5. 畑 裕子, 田中 祥兵, 古賀 千佳子, 近藤 景介, 北川 智介, 野本 綾子, 高松 美紀, 福島 梓, 吉田 仁保, 中岡 奈月, 後関 里美. 入院時定方向性眼振を認めた症例の検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

6. 松寺 翔太郎, 鈴木 完, 新城 大輔, 入江 澄子, 鎌田 悠子, 渡邊 峻, 山口 岳史, 荻野 恵, 畑中 政博, 森田 信司, 中島 政信, 中村 隆俊, 土岡 丘, 小嶋 一幸. NCD データを用いた 21trisomy 合併小児消化管外科疾患患児の臨床的特徴の解析. 日本小児外科学会雑誌 2024.04.01

7. 松寺 翔太郎, 鈴木 完, 新城 大輔, 入江 澄子, 鎌田 悠子, 渡邊 峻, 山口 岳史, 荻野 恵, 畑中 政博, 森田 信司, 中島 政信, 中村 隆俊, 土岡 丘, 小嶋 一幸. NCD データを用いた 21trisomy 合併小児消化管外科疾患患児の臨床的特徴の解析. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

8. 松寺 翔太郎, 鈴木 完, 新城 大輔, 入江 澄子, 鎌田 悠子, 渡邊 峻, 山口 岳史, 荻野 恵, 畑中 政博, 森田 信司, 中島 政信, 中村 隆俊, 土岡 丘, 小嶋 一幸. NCD データを用いた 21trisomy 合併小児消化管外科疾患患児の臨床的特徴の解析. 日本小児外科学会雑誌 2024.04.01

[受賞]

1. Fellow in Training Grant at the 29th International Conference on Advances in Critical Care Nephrology, AKI & CRRT 2024, 2024 年 03 月

2. The 1st Place Poster Abstract Award at the 29th International Conference on Advances in Critical Care Nephrology, AKI & CRRT 2024, 2024 年 03 月

3. 2024 George M. O’Brien Kidney Resource Alliance (OKRA) travel award, National Coordinating Center George M. O’Brien Kidney Resource Alliance George M. O’Brien Kidney Resource Alliance, 2024 年 10 月

先進倫理医科学分野

Department of Life Sciences and Bioethics

吉田　雅幸
江花　有亮
甲畑　宏子
我有　茉希
八百野　恭子
黒部　麻代

(1) 分野概要

生命倫理 · 研究倫理に関する教育 · 研究 · 診療を展開するための支援体制を構築し、本学の医学研究の進展に貢献することが目的である。我が国の研究倫理に関する規制環境にも助言しながら、学内の倫理審査委員会のサポートを行い、全国医学系大学における研究倫理委員会のとりまとめを担っている。研究の科学性と倫理性を担保するため、全学の医療者、研究者を対象とした研究倫理講習会の実施や学内における研究倫理における啓蒙活動を続けている。臨床領域においては、主に遺伝子診療科としてがん、難病 · 希少疾患の遺伝学的診断や治療を行うとともに、患者、家族を含めたクライアントに対して遺伝カウンセリングを提供する診療体制を構築している。また、病院における臨床業務実施に伴って発生する様々な倫理的課題に対応するための臨床倫理委員会や臨床倫理コンサルテーションチームの支援も行っている。

(2) 研究活動

遺伝子診療科の臨床業務に関連して、種々の遺伝性疾患の原因遺伝子解明に関する検査手法の開発、遺伝疾患の個別性と共通性に注目し、職種 · 領域を超えたチーム医療を実践するためのツール開発としての種々の研究を展開している。
また、実践的研究領域として生活習慣病とくに動脈硬化症や脂質異常症、遺伝性不整脈の病因解明 · 治療法の開発に関わる基礎 · 臨床研究も行っている。

(3) 教育活動

遺伝カウンセリングにおいては、実践を通して医療における倫理的側面を考察することで、医療者に関する教育を展開することに意義がある。従って学部においては、実際の最先端医療における倫理的課題について、遺伝子診療科における遺伝カウンセリング症例などを元に講義を担当している。
研究倫理に関しては、昨今の社会状況も鑑み、基礎教育の段階から研究倫理に関する教育を展開する必要性を重視し、学部教育では卒業研究 · 論文などにおける研究倫理を、大学院教育では、研究者としての第一歩を踏み出す大学院生を対象に、研究倫理について講義を行っている。

(4) 教育方針

本分野では、生命倫理や研究倫理といった医療の根幹を支える概念を体系的かつ実践的に学ぶ機会を提供することを教育の柱としている。研究倫理審査委員会や臨床倫理委員会などの運営を支援する中で培った知見を授業や演習に取り入れ、学生が医療現場や研究活動における具体的な倫理的ジレンマを理解し、解決策を主体的に考えられる力を養うことを目指す。
また、遺伝カウンセリングをはじめとする先端的な医療行為に従事するための専門知識やコミュニケーションスキルについても指導を行い、患者やその家族への情報提供や意思決定支援を適切かつ丁寧に行える人材を育成する。

(5) 臨床活動および学外活動

遺伝子診療科として、様々な遺伝性疾患の原因検索や疾患の診断 · 治療についての患者 · クライアントからの相談に対応している。当科は臨床遺伝専門医の研修施設に指定され、現在も 14 名の医師 · 歯科医師が研修を行っている。

(6) 臨床上の特色

各専門科と連携し、遺伝性疾患の診断や全身的な健康管理の中心的な役割を担っている。専門領域を超えた疾患関連科とのミーティングを定期的に開催し、情報共有を行うことで、より包括的で質の高い医療の提供を目指している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Yusuke Ebana, Mariko Komine, Takuro Nishimura, Tetsuo Sasano, Masayuki Yoshida. Filamin C Truncating Variant Causes Severe Conduction Defects and Mild Cardiomyopathy. Cureus. 2024.11; 16(11); e74631

2. Yasushi Imai, Kengo Kusano, Takeshi Aiba, Junya Ako, Yoshihiro Asano, Mariko Harada-Shiba, Masaharu Kataoka, Tomoki Kosho, Toru Kubo, Takayoshi Matsumura, Tetsuo Minamino, Kenji Minatoya, Hiroyuki Morita, Masakazu Nishigaki, Seitaro Nomura, Hitoshi Ogino, Seiko Ohno, Masayuki Takamura, Toshihiro Tanaka, Kenichi Tsujita, Tetsuro Uchida, Hiroyuki Yamagishi, Yusuke Ebana, Kanna Fujita, Kazufumi Ida, Shunsuke Inoue, Kaoru Ito, Yuki Kuramoto, Jun Maeda, Keiji Matsunaga, Reiko Neki, Kenta Sugiura, Hayato Tada, Akihiro Tsuji, Takanobu Yamada, Tomomi Yamaguchi, Eiichiro Yamamoto, Akinori Kimura, Koichiro Kuwahara, Koji Maemura, Tohru Minamino, Hiroko Morisaki, Katsushi Tokunaga, on behalf of the Japanese Circulation Society, Japanese College of Cardiology, Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery Joint Working Group. JCS/JCC/JSPCCS 2024 Guideline on Genetic Testing and Counseling in Cardiovascular Disease Circulation Journal. 2024.10;

3. Takashi Ikenouchi, Junichi Nitta, Osamu Inaba, Miho Negishi, Miki Amemiya, Toshikazu Kono, Tasuku Yamamoto, Kazuya Murata, Iwanari Kawamura, Kentaro Goto, Takuro Nishimura, Tomomasa Takamiya, Yukihiro Inamura, Kensuke Ihara, Susumu Tao, Akira Sato, Masateru Takigawa, Yusuke Ebana, Shinsuke Miyazaki, Tetsuo Sasano, Tetsushi Furukawa. Embryological Classification of Arrhythmogenic Triggers Initiating Atrial Fibrillation. J Am Coll Cardiol. 2024.10;

4. Eriko Adachi, Ryuichi Nakagawa, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Maki Gau, Shizuka Kirino, Analia Yogi, Hisae Nakatani, Kei Takasawa, Tomomi Yamaguchi, Tomoki Kosho, Masanori Murakami, Toshihiro Tajima, Tomonobu Hasegawa, Tetsuya Yamada, Tomohiro Morio, Osamu Ohara, Kenichi Kashimada. A MinION-based Long-Read Sequencing Application With One-Step PCR for the Genetic Diagnosis of 21-Hydroxylase Deficiency. J Clin Endocrinol Metab. 2024.02; 109(3); 750-760

5. Egawa M, Ikeda M, Miyasaka N, Harada-Shiba M, Yoshida M. Physicians' Perspective Toward Hypertensive Disorders of Pregnancy and Future Cardiovascular Diseases in Japan. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2024.02;

1. 石原 恵依子, 甲畑 宏子, 小峯 真理子, 荒井 裕国, 長岡 英気, 宮崎 泰成, 大友 康裕, 鵜川 豊世武, 増田 孝広, 神里 彩子, 吉田 雅幸. COVID-19 の治療に関するインフォームド · コンセントにおける倫理的課題についての実態調査 生命倫理. 2024.09; 34(1); 21-32

2. 八百野　恭子. 倫理指針ガイドラインを遵守して臨床研究を進めるためのポイント 臨床薬理. 2024.05; 55(3); 162-165

[書籍等出版物]

1. 甲畑宏子、編：三宅秀彦. 全ゲノム · エクソーム解析時代の遺伝医療, ゲノム医療における倫理 · 法 · 社会. メディカルドゥ, 2024.11 (ISBN : 978-4909508300)

2. 編）櫻井晃洋, 著）甲畑宏子, 他. 遺伝カウンセリング　その価値と今後. 医歯薬出版株式会社, 2024.09

3. 高橋沙矢子、甲畑宏子、吉田雅幸；編）平沢晃. 基礎から学ぶゲノム医療. 羊土社, 2024.08 (ISBN : 978-4-7581-2172-9)

[講演 · 口頭発表等]

1. Yusuke Ebana. How to solve research ethics issues? -Role of Certified Research Ethics Professionals (CReP) as an Ethical Review Expert- . World Conference of Research Integrity （WCRI） 2024.06.02 Athens, Greek

2. Makiko Egawa, Kinya Ishikawa, Eriko Takamine, Sayako Takahashi, Mariko Komine, Hiroko Kohbata, Taro Ishiguro, Maki Gau, Yusuke Ebana, Masayuki Yoshida. Predictive genetic testing for late-onset, inherited neurological diseases: a case series of 40 clients. 日本人類遺伝学会第 69 回大会 2024.10.10 札幌市

3. Yusuke Ebana. Genetic risk score of cerebral infarction in atrial fibrillation genome-wide association study. Asia-Pacific Heart Rhythm Society (APHRS) Conference 2024 2024.09.27 Sydney

4. 伊藤 翼, 鈴木 理絵, 甲畑 宏子, 髙田 美乃莉, 羽田 平, 宮本 守員, 水足 邦雄, 今井 耕輔, 笹 秀典, 髙野 政志. 多発性内分泌腫瘍症 1 型合併妊娠の 1 例—遺伝カウンセリングの立場から—. 第 30 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 2024.05.31 仙台

1. 八百野　恭子. 臨床研究法と倫理指針. 令和 6 年度 国立病院機構 臨床研究のデザインと進め方に関する研修 2024.12.20

2. 加藤寿寿華, 甲畑宏子, 江花有亮, 吉田雅幸. 研究者を対象とした患者 · 市民参画（Patient and Public Involvement）に関する教育ツールの開発. 日本臨床薬理学会第 45 回学術総会 2024.12.14 大宮

3. 八百野 恭子. 臨床研究法の改正について. 東京大学 「臨床研究 · 治験従事者等に対する研修プログラム」監査研修 2024.12.05

4. 八百野 恭子. 臨床研究法と倫理指針. 順天堂大学 臨床研究研修会 2024.12.04

5. 甲畑（照井）宏子. 小児期発症遺伝性腫瘍症候群に対する PGT-M に関する遺伝医療の専門家の認識： 見解／細則の改訂に伴う変化. 日本生命倫理学会第 36 回年次大会 2024.11.16 大阪

6. 八百野　恭子. 臨床研究法と倫理指針. 宮崎大学 臨床研究に関する講演会 2024.11.12

7. 八百野　恭子. 臨床研究法と倫理指針. 国立病院機構 令和 6 年度　治験および臨床研究倫理審査委員養成研修 2024.11.01

8. 八百野　恭子. 臨床研究における同意取得の考え方. 東京科学大学 臨床研究セミナー 2024.10.28

9. 野口優輔, 遠藤健太郎, 安齋達彦, 鎌谷高志, 森丘千夏子, 早田茉莉, 我有茉希, 安達恵利子, 杉江学, 滝敦子, 伊藤一之, 本多泉, 黒田淳平, 岡崎薫, 高橋邦彦, 関矢一郎, 森尾友宏, 鹿島田健一. 胎児発育不全による胎児プログラミングは時期特異性をもつ. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

10. 折本竜太, 安達恵利子, 桐野玄, 我有茉希, 鹿島田健一, 高澤啓. 成長障害を契機に診断に至ったヒアルロニダーゼ 2 欠損症の一例. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

11. 八百野　恭子. 臨床研究法と倫理指針. 札幌医科大学 先端医学研究セミナー 2024.10.07

12. 八百野　恭子. 臨床研究法の改正概要. 東北大学 第 1 回臨床研究教育セミナー 2024.09.13

13. 八百野　恭子. 人を対象とする生命科学 · 医学系倫理指針について. 東北大学病院 治験 · 倫理審査委員会 委員研修 2024.08.06

14. 八百野　恭子. 臨床研究法と倫理指針. 第 56 回動脈硬化学術集会 2024.07.07

15. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一.. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析は性腺発生における新規転写制御機構を明らかにする. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川

16. 野口優輔, 遠藤健太郎, 安齋達彦, 鎌谷高志, 我有茉希, 安達恵利子, 杉江学, 森丘千夏子, 滝敦子, 本多泉, 黒田淳平, 岡崎薫, 高橋邦彦, 関矢一郎, 森尾友宏, 鹿島田健一. 胎児発育不全による胎児プログラミングは時期特異性がある.. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川

17. 我有茉希, 家村綾正, 山野春樹, 高澤啓, 吉田雅幸, 鹿島田健一. 新生児期副腎不全を呈した自験例から振り返る Xp21 欠失症候群の多様な表現型. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 神奈川
18. 甲畑（照井）宏子, 田辺 記子, 金子 景香, 青木 美保, 犬塚 真由子, 鈴木 美慧, 深野 智華, 江川真希子, 中川剛士. 乳がん患者家族向け教材冊子のニーズと評価. 第 30 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 2024.06.01 仙台
19. 八百野 恭子. 臨床研究法と倫理指針. 大阪大学 臨床開発セミナー 2024.05.31 大阪大学
20. 家村綾正, 我有茉希, 山野春樹, 高澤啓, 鹿島田健一. Xp21 欠失症候群の多様な臨床像. 第 31 回日本ステロイドホルモン学会学術集会 2024.03.09 東京
21. 江花有亮. 倫理審査専門職（CReP）の取り組み. 第 15 回臨床試験学会 2024.03.08 神戸
22. 武井陽子　江花有亮. 委員会事務局、研究支援者に寄り添う CReP と CReP 〓 WG の軌跡. 第 15 回臨床試験学会 2024.03.07
23. 栗林航　江花有亮. 一括審査はどこまで審査すべきか？　〜倫理審査専門職 CReP にホンネを聞いてみた〜. 第 15 回臨床試験学会 2024.03.07 神戸
24. 江花有亮. 医学系研究と規制（個情法と生命科学 · 医学系倫理指針）を考える. 第 15 回臨床試験学会 2024.03.07 神戸
25. 江花有亮. 倫理審査専門職 CReP の設立. 第 9 回 研究倫理を語る会 2024.03.02
26. 八百野 恭子. 臨床研究法からみた CRB の在り方について. 第 9 回研究倫理を語る会 2024.02.16
27. 八百野 恭子. 臨床研究における同意取得の考え方. 日本臨床腫瘍薬学会　臨床研究セミナー 2024.02.10
28. 八百野 恭子. 臨床研究法と倫理指針. 令和 6 年度 国立病院機構 臨床研究のデザインと進め方に関する研修 2024.01.22
29. 八百野　恭子. 臨床研究法と倫理指針. 第 24 回動脈硬化教育フォーラム 2024.01.05

[Works]

1. CoDP, データベース, 2013 年 04 月 - 現在
2. バイオバンク利活用ハンドブック（第 1 版 2020.3 発行／第 3 版 2023.4 改訂）, 教材, 2020 年 03 月 - 現在
3. 認定遺伝カウンセラーによる乳がん教材〜乳がん患者さんのご家族 · 血縁者向け冊子〜 乳がんを知って 健康管理に役立てよう, 教材, 2024 年 01 月 - 現在
4. 認定遺伝カウンセラーによる乳がん教材〜乳がん患者さんのご家族 · 血縁者向け冊子〜 乳がんを知って健康管理に役立てよう · 簡易版リーフレット, 教材, 2024 年 01 月 - 現在
5. 日本循環器学会/日本心臓病学会/日本小児循環器学会合同ガイドライン. 2024 年改訂版心臓血管疾患における遺伝学的検査と遺伝カウンセリングに関するガイドライン, 2024 年 3 月 8 日発行. , 教材, 日本循環器学会/日本心臓病学会/日本小児循環器学会合同, 2024 年 03 月

[社会貢献活動]

1. 倫理審査専門職 CReP 認定試験, 倫理審査専門職 CReP 協会, 倫理審査専門職 CReP 協会, 2019 年 01 月 01 日 - 現在
2. 2024 年改訂版 心臓血管疾患における遺伝学的検査と遺伝カウンセリングに関するガイドライン, 日本循環器学会, 2021 年 12 月 01 日 - 現在
3. 「乳がんと遺伝」に関する講演会, Breast Cancer Network Japan- あけぼの会 あけぼの栃木, 乳がん患者会主催講演会, 佐野市役所市民活動スペース, 2024 年 02 月 18 日
4. ゲノム医療, 中日新聞社, 東京新聞, 2024 年 09 月 19 日 - 現在

法歯学

Forensic Dentistry

教　　授　櫻田　宏一
准 教 授　斉藤　久子
特任講師　宇都野　創
助　　教　峰岸　沙希
特任助教　並木　修司
大学院生　戸谷　麻衣子
大学院生　ムハンマド ギャリー シャフリザル ハナフィ
大学院生　青木　奈々美
大学院生　山田　明佳
大学院生　小出　さくら

(1) 分野概要

法歯学（歯科法医学）は、犯罪に関連するご遺体や生体試料からの個人識別はもとより、近年多発する大事故や大災害での歯科所見による身元確認という、社会的に重要な任務を担っている。特に、平成 24 年 6 月に死因究明二法といわれる法律が成立して以降、個人識別に関する研究、鑑定および教育の推進がさらに求められるようになった。当教室では、最新の分子生物学的手法や画像解析技術を用いた、歯や骨などの硬組織、軟組織や体液、あるいは顔画像からの個人識別を主な業務としている。

(2) 研究活動

1. 個人識別に関する研究
- 歯科所見を用いた身元確認に関する研究
- 歯 · 骨等の硬組織、軟組織および体液等を用いた研究
- 復顔 · 顔画像解析に関する研究

2. 虐待とネグレクト
3. 歯科医療事故と医療訴訟
4. 歯科医療制度問題
5. 法中毒

(3) 教育活動

学部学生に対しては、死因究明制度と歯科医師との関連を理解させ、その上で、歯科所見を用いた身元確認が歯科医師として社会から求められている大きな役割の一つであることを理解させる。また、学生の多くは、やがて地域で警察行政に携わる機会を持つことが想定され、死者の人権、そして公衆衛生の向上に寄与するためにも、その基礎となる死体現象や死因の特定など、法医学を理解させる。大学院生に対しては、歯科法医学の研究領域を理解させ、自ら研究課題を立案し、研究を進められる能力を養う。また法医解剖を通した実践的な個人識別法を学び、その重要性を理解させる。

(4) 教育方針

実務と研究の両輪を実践できる環境の中でこそ、学生にとってより効果的な教育が達成できるものと考えている。

(5) 臨床活動および学外活動

法医解剖における身元不明死体の個人識別や関連する鑑定実務。事故や災害時での身元確認作業。各種自治体等が行う防災訓練や身元確認研修への参加。

(6) 研究業績

[原著]

1. Sayaka Nagasawa, Yuichiro Hirata, Sho Miyamoto, Seiya Ozono, Shun Iida, Harutaka Katano, Shigeki Tsuneya, Kei Kira, Susumu Kobayashi, Makoto Nakajima, Hiroyuki Abe, Masako Ikemura, Isao Yamamoto, Kimiko Nakagawa, Kazumi Kubota, Shinji Akitomi, Iwao Hasegawa, Tetsuo Ushiku, Tadaki Suzuki, Hirotaro Iwase, Yohsuke Makino, Hisako Saitoh. Changes in SARS-CoV-2 viral load and titers over time in SARS-CoV-2-infected human corpses. PLoS One. 2024.03; 19(3); e0287068

2. Akutsu T, Minegishi S, Watanabe K, Toyomane K, Yamagishi T, Sakurada K. Quantitative evaluation of endometrium-expressed mRNAs for the purpose of discriminating between menstruation and traumatic vaginal injury in sexual assault cases. International journal of legal medicine. 2024.02;

1. 大田　隼、峰岸沙希、櫻田宏一. Neisseria mucosa DNA を指標としたヒト唾液の識別 日本法歯科医学会誌. 2024.12; 17(2); 47-51

2. 岡　広子、斉藤　久子、峰岸　沙希、長尾　正崇. ベトナムで使用されている歯科治療用材料とその背景の検証 日本法歯科医学会誌. 2024.12; 17(2); 52-57

3. 阿久津智子、横田 勲、渡邊 賢、豊間根耕地、山岸孝幸、櫻田宏一. 単一の体液の同定を目的とした Single-target multiplex RT-PCR 法の検証　- 5 種の体液を対象とした Multi-target multiplex RT-PCR 法との比較 - 法科学技術. 2024.01; 29(1); 85-96

[講演 · 口頭発表等]

1. Utsuno, H., Others.. The observation of the ear morphology for facial reconstruction (approximation). 20th Meeting of the International Association for Craniofacial Identification 2024.10.04 Granada Spain

2. Utsuno H.. Dental Anthropology. Inovasi dan Kolaborasi dalam Forensik Odontologi untuk Menghadapi Tantangan Global 2024.09.28 Jakarta Indonesia

1. 斉藤久子、櫻田宏一. COVID-19 遺体における SARS-CoV-2 の感染性評価. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.07 文京区

2. 斉藤久子、山田明佳、櫻田宏一. 歯を用いた放射性炭素による出生年推定 —遺体状況別の検討—. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.03 長崎市

3. 山田明佳、斉藤久子、櫻田宏一. 歯を用いた放射性炭素による出生年推定 —象牙質からのコラーゲン抽出を用いた方法の 検討—. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.03 長崎市

4. 阿久津智子、峰岸沙希、渡邊　賢、櫻田宏一. RT-qPCR 法による月経血マーカー検出法の法科学的試料への適用性の評価. 第 93 回日本法医学会学術関東地方集会 2024.10.12 成田市

5. 山田明佳、斉藤久子、浦富樂翔、峰岸沙希、宇都野創、並木修司、戸谷麻衣子、Hanafi Muhammad Garry Syahrizal、青木奈々美、小出さくら、櫻田宏一. 歯を用いた DNA 抽出法の違いによる分解指数及び GlobalFiler での比較検討. 第 93 回日本法医学会学術関東地方集会 2024.10.12 成田市

6. 岩原香織、井上惠司、中嶋孝至、寺田仁志、石川　昇、網干博文、櫻田宏一、山田良広. 東京都 · 地区歯科医師会での防災、減災. 第 20 回警察歯科医会全国大会 2024.08.03 山口市

7. 田中国継、佐藤麻衣子、川滝統一、武田宇央、吉田武史、森山　孝、秋　知明、原　俊哉、中山太作、添原隆史、神部哲哉、金子守男、守屋義雄、勝村聖子、堤　博文、塩崎一成、櫻田宏一、斉藤久子、伊澤　光、佐藤慶太. 死因究明等推進基本法における警察歯科の役割～神奈川県警察歯科医研修会の有用性～. 第 20 回警察歯科医会全国大会 2024.08.03 山口市

8. 櫻田宏一. 犯罪捜査：身元を明らかにするのはなぜ？　その方法は？ . 2024 年度東京医科歯科大学オープンキャンパス 2024.08.01 東京医科歯科大学

9. Hanafi Muhammad Garry Syahrizal、宇都野 創, 斉藤 久子、峰岸 沙希、並木 修司、Menik Priaminiarti、Nurtami Soedarsono、槇野 陽介、岩瀬 博太郎、櫻田 宏一. Preliminary Study Comparing Facial soft tissue depth between Indonesian and Japanese populations. 第 108 次日本法医学会学術全国集会 2024.06.06 岡山市

10. 斉藤 久子、山本 伊佐夫、奥田 勝博、山田 良広、櫻田 宏一、岩瀬 博太郎、清水 惠子. 遺体の歯科所見採取における口腔内スキャナーの活用の検討. 第 108 次日本法医学会学術全国集会 2024.06.06 岡山市

11. 宇都野 創、Hanafi Muhammad Garry Syahrizal、青木 奈々美、並木 修司、槇野 陽介、峰岸 沙希、戸谷 麻衣子、斉藤 久子、岩瀬 博太郎、櫻田 宏一. 復顔法を行う際の平均的顆頭点と耳珠の関係性に関する研究. 第 108 次日本法医学会学術全国集会 2024.06.06 岡山市

12. 並木 修司、本村 あゆみ、齋藤 直樹、斉藤 久子、宇都野 創、峰岸 沙希、槇野 陽介、岩瀬 博太郎、櫻田 宏一. 宗教上の理由から適切な治療を受けることができずに死亡したと推定される小児急性骨髄性白血病の 1 事例. 日本法歯科医学会第 18 回学術大会 2024.05.26 大阪市

13. 斉藤久子、中久木康一、永澤明佳、槇野陽介、秋冨慎司、橋爪謙一郎. 身元確認作業に従事する歯科医師とご遺族との関わり —エンバーミング効果も視野に入れた災害対応—. 第 29 回日本災害医学会総会 · 学術集会 2024.02.24 京都

14. 斉藤 久子, 中久木 康一, 永澤 明佳, 槇野 陽介, 山本 伊佐夫, 中川 貴美子, 長谷川 巖, 秋冨 慎司, 橋爪 謙一郎. COVID-19 遺体のご遺族へのエンバーミング効果及び医学系研究者の関わりについて ご遺族へのアンケート調査結果より. 第 29 回日本災害医学会総会 · 学術集会 2024.02.23 京都

15. 斉藤久子、山本伊佐夫、大平寛、中川貴美子、藤田紗英子、長谷川巖、山田良広、石井名実子、中久木康一、奥田勝博、清水惠子. 今後の災害に備えた歯科所見による身元確認システムの展開. 第 29 回日本災害医学会総会 · 学術集会 2024.02.23

[社会貢献活動]

1. 個人識別鑑定 · 検査等（197 件） , 2024 年 01 月 01 日 - 2024 年 12 月 31 日

2. 令和 5 年度身元確認に関する歯科医師研修会（第 2 回）（櫻田宏一） , 東京都保健医療局 , 歯科医師会館, 2024 年 03 月 01 日

3. 令和 6 年度身元確認に関する歯科医師研修会（第 1 回）（櫻田宏一）, 東京都保健医療局 , 歯科医師会館 , 2024 年 07 月 19 日

4. 歯科法医学分野の現在、過去、未来（斉藤久子）, 大阪府歯科医師会　法歯学研修会, 大阪府歯科医師会館, 2024 年 08 月 10 日

5. 令和 6 年度神奈川県警察協力歯科医研修会（櫻田宏一、斉藤久子）, 神奈川県歯科医師会, 鶴見大学, 2024 年 10 月 13 日

6. 身元確認に従事する歯科医師とご遺族の関わり（斉藤久子）, 徳島県「警察 · 医師会 · 歯科医師会」連絡協議会, 徳島県医師会館, 2024 年 11 月 21 日

7. 歯科医師の視点から捉える「児童虐待 · 高齢者虐待」（斉藤久子）, 山形県歯科医師会　山形県警察歯科医会, 令和 6 年度山形県警察歯科医会研修会, 山形県歯科医師会館, 2024 年 12 月 22 日

歯学教育開発学

Dental Education Development

教授　關奈央子

(1)　研究活動

1．医療専門職業人教育のためのカリキュラム研究
2．歯科医学教育の国際比較
3．医療専門職業人教育における教育手法の研究 · 開発
4．医療専門職業人教育における英語教育に関する研究 · 開発

(2)　教育活動

【学部教育】
· 海外留学派遣前教育 (海外派遣英語準備コース) BRIDgE (Be Ready for International Dental Externships) course
· 「科学英語 I 」（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻２年生）
· Health Sciences Leardership Program
· International Course for Clinical Dentistry（歯学部生対象）

【博士課程】
· 歯学教育開発学特論 · 演習
· Essential Expertise for Clinical Dentistry

(3)　臨床活動および学外活動

【国際セミナー · 学内セミナー · ワークショップ · 学会等開催 · 補助等】
1. International Faculty Development Course (IFDC) 運営（東京医科歯科大学／東京科学大学）
2. International Course for Clinical Dentistry (ICCD) 運営（東京医科歯科大学／東京科学大学）
3. メルボルン大学歯学部との生涯教育コース運営

(4)　研究業績

[原著]

1. Liao SR, Seki N, Foxton R, Sireerat K, Akiyama M, Kanamori Y, Moross J, Shinada K, Chen S, Morio I. An investigation into the cognitive flexibility of undergraduate dental hygiene students at two dental schools in Asia Journal of Dental Sciences. 2024.10; 19(4); 2196-2202

2. Kanako Noritake, Jun Tsuruta, Koji Mizutani, Keiko Kondo, Hitomi Suzuki, Naoko Adachi, Naoko Seki, Ridan Cao, Risako Mikami, Sayaka Katagiri, Yuji Kabasawa, Hiroshi Nitta. Educational effects of dental hygiene student intervention in dental student clinical practicum Journal of Dental Sciences. 2024.10;

[講演 · 口頭発表等]

1. 則武加奈子, 鶴田潤, 水谷幸嗣, 近藤圭子, 鈴木瞳, 安達奈穂子, 關奈央子, 三上理沙子, 樺沢勇司, 海老原新, 秀島雅之, 新田浩. 東京医科歯科大学歯学部診療参加型臨床実習における職種間連携教育＜ D6-OH4 連携実習＞の概要とその効果. 第 56 回日本医学教育学会学術大会 2024.08.09 東京

歯科公衆衛生学分野

Department of Dental Public Health

教授	相田潤
准教授	松山祐輔
学内講師	財津崇
医員	有冨理左
連携研究員	木内桜
技術補佐員	伊藤寿実
大学院生	斉藤智也
	奥田章子
	Ho Sy Minh Duc
	島田怜実
	増子紗代
	Sharmin Farzana
	王柯煒
	増子竣也
	Aishwarya Gaikwad
	Safira Khairinisa
	Tasnim Zarin
	Fadli Alwi

(1) 分野概要

「臨床」では患者さんの診断をして治療を行いますが、社会の人々の診断をするために用いられるのが「疫学」であり、これを通じて社会の人々の健康の維持 · 増進をはかるのが「公衆衛生学」です。健康推進歯学分野では、疫学、公衆衛生学、息さわやか外来の臨床やフィールドでの活動を通じ、人々の健康を推進することを目指しています。

「疫学」は将来臨床医になる人にも役立ちます。自分の診療所の特徴や患者さんたちの状態を客観的にデータから判断し、エビデンスに基づいた予防や治療を行うために疫学は欠かせません。

「公衆衛生学」は国、都道府県、市町村といった行政で働くためには必要不可欠な学問です。行政は人々の集団である社会の健康を維持 · 増進するための活動を行います。地域の人々の健康に貢献するために、公衆衛生的素養を身につけることは重要です。

また、本分野では保健センターや企業などでの健診、口臭の治療に特化した「息さわやか外来」での診療も行っています。口臭は歯や口の悩みごとの第 3 位と多い悩みであり、職場や地域で人々のコミュニケーションを阻害する要因です。世界的にも稀有な口臭治療を専門とする大学病院の診療科として、日本で数少ない測定機材などを備えた最先端の口臭治療を行い、幸福に貢献する診療を行っています。ここでは歯科医師 · 歯科衛生士として、数少ない特別な技能を身につけることができます。

このような、特殊な専門性を身につけることで、オンリーワンの人材として、人々の健康の推進に「疫学研究者」、「行政の専門職」、「自身の患者さんの状態の把握や最良の治療を、疫学を用いてデータとエビデンスで判断でき、口臭治療も行える臨床医」として寄与できる人材の育成を行っています。

(2) 研究活動

分野としての主な研究テーマ
· 口腔と全身の健康の因果推論の研究
· 健康格差と社会的決定要因の研究
· 口臭症の診断と治療システム構築に関する研究

(3) 教育活動

1) 大学院教育
博士課程　健康推進歯学　　特論（1年次)、演習（1―2年次)、研究実習（2―3年次）
医歯学総合研究科コース特論　健康科学コース

修士課程　環境社会医歯学

2) 学部教育

歯学科 1 年生対象
モジュール 01「歯学入門」: ユニット 03「最新の歯学」、ユニット 04「早期臨床体験実習」

歯学科 2 年生対象
モジュール 04「社会と環境」: ユニット 02「ライフスタイルと健康」

歯学科 3 年生対象
モジュール 10「予防と健康管理」: ユニット 01「口腔疾患の予防（講義 · 演習)」、ユニット 02「口腔疾患の予防(実習)」

歯学科 4 年生対象
モジュール 19「研究体験実習」

歯学科 5、6 年生対象
モジュール 29「包括臨床実習」

口腔保健学科 4 年生対象
「臨床実習」

(4) 教育方針

1) 大学院教育

疫学統計を用いて研究や地域診断を行える歯科専門職を養成する。そのために、国際的に最先端の研究を、国際的なネットワークの中でコンテキストを理解して行っていく。
特論では口腔疾患の予防およびオーラルヘルスプロモーションに関する基礎、臨床、疫学研究について概説する。口腔疾患の予防、歯科公衆衛生、口腔疾患の疫学、口腔疾患の社会的側面、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、保健医療システムや教育制度とオーラルヘルスプロモーションとの関連などについて講義やディスカッションを行う。

2) 学部教育

「ライフスタイルと健康」: 学生が健康と社会制度や環境との関連を理解し、人々の健康推進を支援できる歯科医師となるために必要な知識、技術、態度を修得すること。
「口腔疾患の予防Ⅰ · Ⅱ」: 学生が口腔疾患の予防と健康管理を実践していく歯科医師となるために必要な知識、技術、態度を修得すること。

(5) 臨床活動および学外活動

東京医科歯科大学歯学部附属病院の「息さわやか外来」において、口臭に関する診断、治療、予防を行う専門外来を担当している。当外来を受診する口臭症患者は、歯学部附属病院内の他の診療科や外部の歯科診療所等からの紹介患者が約半数を占め、インターネットや新聞 · テレビなどのマスメディアにより当外来の存在を知り、来院する者も多い。
当外来では、ガスクロマトグラフィーおよびガスセンサー口臭測定器による揮発性硫化物 (VSC) 濃度の測定と官能試験により、口臭の検査を行っている。正確な口臭の検査および口腔内診査に基づき診断を行い、患者の心理面も配慮し、口臭症の治療を行っている。また、口臭の治療には継続した歯周疾患の管理や口腔ケアが必要であり、当病院の口腔ケア外来やかかりつけ歯科医との連携を図っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Tomoka Matsumura, Jun Aida, Yushi Abe, Yu Oikawa, Takeshi Kuroshima, Hiroyuki Harada, Shigeru Maeda. Obesity and postoperative flap complications in maxillofacial reconstruction surgery ORAL SURGERY ORAL MEDICINE ORAL PATHOLOGY ORAL RADIOLOGY. 2024.12; in press;

2. Atsuhide Takesue, Yoshimune Hiratsuka, Katsunori Kondo, Jun Aida, Atsushi Nakagomi, Shintaro Nakao. Association Between Visual Impairment and Daily Internet Use Among Older Japanese Individuals: Cross-Sectional Questionnaire Study. JMIR Form Res. 2024.12; 8; e58729

3. Sayo Masuko, Yusuke Matsuyama, Shiho Kino, Katsunori Kondo, Jun Aida. Changes in leisure activity, all-cause mortality, and functional disability in older Japanese adults: The JAGES cohort study. Journal of the American Geriatrics Society. 2024.11;

4. Aki Yazawa, Xiaoyu Li, Koichiro Shiba, Sakurako S Okuzono, Hiroyuki Hikichi, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ichiro Kawachi. Resilience factors affecting long-term trajectories of depressive symptoms in the aftermath of the Great East Japan Earthquake and Tsunami among older adults. J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci. 2024.11;

5. Sakurako S Okuzono, Kate Burrows, Koichiro Shiba, Aki Yazawa, Hiroyuki Hikichi, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ichiro Kawachi. Pre-disaster income inequality and post-disaster mental health: A natural experiment from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami. Health Place. 2024.11; 90; 103363

6. T Yamamoto, U Cooray, T Kusama, S Kiuchi, H Abbas, K Osaka, K Kondo, J Aida. Childhood Socioeconomic Status Affects Dental Pain in Later Life. JDR Clin Trans Res. 2024.09; 23800844241271740

7. Sakura Kiuchi, Yusuke Matsuyama, Kenji Takeuchi, Taro Kusama, Upul Cooray, Ken Osaka, Jun Aida. Number of Teeth and Dementia-free Life Expectancy: A 10-Year Follow-Up Study from the Japan Gerontological Evaluation Study. J Am Med Dir Assoc. 2024.09; 25(11); 105258

8. Ishimaru, M; Zaitsu, T; Kino, S; Inoue, Y; Taira, K; Takahashi, H; Tamiya, N. Recent dental visits and family caregiving among individuals with dental symptoms: A nationwide cross-sectional study in Japan COMMUNITY DENTISTRY AND ORAL EPIDEMIOLOGY. 2024.08; 52(4); 406-412

9. Tomoki Kawahara, Satomi Kato Doi, Aya Isumi, Yusuke Matsuyama, Yukako Tani, Takeo Fujiwara. Impact of COVID-19 pandemic on children overweight in Japan in 2020. Pediatr Obes. 2024.08; 19(8); e13128

10. MatsuyamaYusuke. Complete Loss of Natural Teeth and Loneliness: A Fixed-Effect Analysis. Journal of Dental Research. 2024.08; 220345241263265

11. Sakura Kiuchi, Kenji Takeuchi, Masashige Saito, Taro Kusama, Noriko Nakazawa, Kinya Fujita, Katsunori Kondo, Jun Aida, Ken Osaka. Differences in cumulative long-term care costs by dental visit pattern among Japanese older adults: the JAGES cohort study. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2024.08;

12. Shiho Kino, Yudai Tamada, Kenji Takeuchi, Atsushi Nakagomi, Koichiro Shiba, Taro Kusama, Takafumi Yamamoto, Jun Aida. Exploring the relationship between oral health and multiple health conditions: An outcome-wide approach. J Prosthodont Res. 2024.07; 68(3); 415-424

13. Yudai Tamada, Kenji Takeuchi, Taro Kusama, Masashige Saito, Tetsuya Ohira, Kokoro Shirai, Chikae Yamaguchi, Katsunori Kondo, Jun Aida, Ken Osaka. Reduced number of teeth with and without dental prostheses and low frequency of laughter in older adults: Mediation by poor oral function. J Prosthodont Res. 2024.07; 68(3); 441-448

14. Akio Shimizu, Takaaki Ikeda, Yasuhiro Miyaguni, Sho Takeda, Yudai Tamada, Jun Aida. Association between the incidence of functional disability and frequency of eating together among older adults living alone: a 6-year follow-up study from the Japan Gerontological Evaluation Study. Age Ageing. 2024.07; 53(7);

15. Taro Kusama, Kenji Takeuchi, Sakura Kiuchi, Jun Aida, Ken Osaka. The association between objective and subjective oral health conditions and the presence of anorexia of aging among Japanese older Adults Appetite. 2024.07; 198; 107332

16. Yusuke Matsuyama, Takahiro Tabuchi. Health utility attributable to oral conditions in Japanese adults. Community Dent Oral Epidemiol. 2024.07; 52(6); 911-918

17. Rikuya Hosokawa, Toshiyuki Ojima, Tomoya Myojin, Jun Aida, Katsunori Kondo, Naoki Kondo. Neighborhood Environments and Healthy Life Expectancy in Older Adults: A 6-year Longitudinal Cohort Study Based on Data from the Japan Gerontological Evaluation Study. JMA J. 2024.07; 7(3); 328-333

18. Zaitsu, T; Saito, T; Oshiro, A; Kawaguchi, Y; Kawachi, I. Simplifying Oral health evaluation: a novel approach through single-item surveys BMC ORAL HEALTH. 2024.06; 24(1); 669

19. Hiroyuki Hikichi, Kanako Taku, Jun Aida, Katsunori Kondo, Ichiro Kawchi. Longitudinal associations between post-traumatic stress and post-traumatic growth among older adults 11 years after a disaster. Epidemiol Psychiatr Sci. 2024.06; 33; e33

20. Jun Aida, Yuko Inoue, Takahiro Tabuchi, Naoki Kondo. Modifiable risk factors of inequalities in hypertension: analysis of 100 million health checkups recipients. Hypertens Res. 2024.06; 47(6); 1555-1566

21. Kimura Y, Jo T, Hashimoto Y, Kumazawa R, Ishimaru M, Matsui H, Yokoyama A, Tanaka G, Yasunaga H. Epidemiology of patients with lymphangioleiomyomatosis: A descriptive study using the national database of health insurance claims and specific health checkups of Japan. Respiratory investigation. 2024.05; 62(3); 494-502

22. Morohoshi, H; Matsuyama, Y; Zaitsu, T; Oshiro, A; Kondo, K; Aida, J. Determining the most appropriate socioeconomic status indicator for describing inequalities in dental visits by Japanese older people GERODONTOLOGY. 2024.05;

23. Kimura Y, Jo T, Inoue N, Suzukawa M, Hashimoto Y, Kumazawa R, Ishimaru M, Matsui H, Yokoyama A, Tanaka G, Sasabuchi Y, Yasunaga H. Association of Novel Antihyperglycemic Drugs Versus Metformin With a Decrease in Asthma Exacerbations. The journal of allergy and clinical immunology. In practice. 2024.05;

24. Mikami R, Mizutani K, Ishimaru M, Gohda T, Iwata T, Aida J. Preventive dental care reduces risk of cardiovascular disease and pneumonia in hemodialysis population: a nationwide claims database analysis. Scientific reports. 2024.05; 14(1); 12372

25. Yusuke Matsuyama, Takahiro Tabuchi. Does Tobacco Smoking Increase Social Isolation? A Mendelian Randomization Study. Am J Epidemiol. 2024.04; 193(4); 626-635

26. T Yamamoto, Y Mochida, K Irie, N U Altanbagana, S Fuchida, J Aida, K Takeuchi, M Fujita, K Kondo. Regional Inequalities in Oral Frailty and Social Capital. JDR Clin Trans Res. 2024.04; 23800844241238648

27. Okuzawa-Iwasaki M, Ishida Y, Ishizaki-Terauchi A, Shimizu-Tomoda C, Aida J, Ono T. Contributions of Alveolar Bone Density and Habitual Chewing Side to the Unilateral Failure of Orthodontic Mini-Screws: A Cross-Sectional Study Applied Sciences. 2024.04; 14(7); 3041

28. Y Matsuyama, J Aida, K Kondo, K Shiba. Heterogeneous Association of Tooth Loss with Functional Limitations. J Dent Res. 2024.04; 103(4); 369-377

29. Matsunaga LH, P. Aldrich D, Faiad C, Aoki T, Tseng P-H, Aida J:. The Role of Social Capital in Depression During the COVID-19 Pandemic International Perspectives in Psychology. 2024.04; 13(2); 68-78

30. Yamamoto T, Kiuchi S, Ishimaru M, Fukuda H, Yokoyama T. Associations between school-based fluoride mouth-rinse program, medical-dental expense subsidy policy, and children's oral health in Japan: an ecological study. BMC public health. 2024.03; 24(1); 762

31. Keiko Ishimura, Ryoto Sakaniwa, Kokoro Shirai, Jun Aida, Kenji Takeuchi, Katsunori Kondo, Hiroyasu Iso. Frequency of going outdoors and risk of poor oral health among older Japanese adults: a longitudinal cohort from the Japan Gerontological Evaluation Study. J Epidemiol. 2024.02;

32. Shiho Kino, Keiko Ueno, Daisuke Nishioka, Naoki Kondo, Jun Aida. Prevalence of dental visits in older Japanese adults receiving public assistance. Community Dent Oral Epidemiol. 2024.02; 52(1); 68-75

33. Aoki Jin, Zaitsu Takashi, Oshiro Akiko, Aida Jun. Association of Stressful Life Events With Oral Health Among Japanese Workers(タイトル和訳中) Journal of Epidemiology. 2024.02; 34(1-2); 16-22

34. Rikuya Hosokawa, Toshiyuki Ojima, Tomoya Myojin, Jun Aida, Katsunori Kondo, Naoki Kondo. Estimating Health Expectancy in Japanese Communities Using Mortality Rate and Disability Prevalence. JMA J. 2024.01; 7(1); 21-29

35. Sato M, Ono S, Yamana H, Okada A, Ishimaru M, Ono Y, Iwasaki M, Aida J, Yasunaga H. Effect of periodontal therapy on glycaemic control in type 2 diabetes. Journal of clinical periodontology. 2024.01; 51(4); 380-389

36. Kimura Y, Suzukawa M, Jo T, Hashimoto Y, Kumazawa R, Ishimaru M, Matsui H, Yokoyama A, Tanaka G, Yasunaga H. Epidemiology of severe childhood asthma in Japan: A nationwide descriptive study. Allergy. 2024.01; 79(6); 1598-1602

37. Ho DSM, Zaitsu T, Ihira H, Iwasaki M, Yoshihara A, Suzuki S, Inoue M, Yamagishi K, Yasuda N, Aida J, Shinozaki T, Goto A, Tsugane S, Sawada N. Association Between Oral Malodor and Dementia: An 11-Year Follow-Up Study in Japan. Journal of Alzheimer's disease reports. 2024; 8(1); 805-816

[書籍等出版物]

1. 三林浩二、荒川貴博、飯谷健太、當麻浩司、 財津　崇　他　. 生体ガス計測の最新動向. 株式会社シーエムシー出版, 2024.06 (ISBN : 978-4-7813-1808-0)

2. 家庭科学研究班「身体的 · 精神的 · 社会的（biopsychosocial）に乳幼児 · 学童 · 思春期の健やかな成長 · 発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究」班, 相田潤 (分担執筆). こどもたちのための Well-Care Visits マニュアル. 家庭科学研究班「身体的 · 精神的 · 社会的（biopsychosocial）に乳幼児 · 学童 · 思春期の健やかな成長 · 発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究」班, 2024.03

3. 相田潤. シンプル衛生公衆衛生学 2024 (分担執筆). 南江堂, 2024.03

[総説]

1. 相田潤. 口腔ケアと肺炎, 口臭と認知症の研究からみえる口腔のケアの大切さ 地域ケアリング. 2024.11; 26(12); 84-85

2. 相田潤. 歯科公衆衛生　歯科口腔疾患の疾病負担の新しい見方 口腔病学会雑誌. 2024.11; 91(2/3); 108

3. 細川陸也, 尾島俊之, 友澤里穂, 明神大也, 相田潤, 近藤克則, 近藤尚己. 国民健康保険の保険者努力支援制度の事業評価スコアと健康寿命の推移との関連 保健医療科学. 2024.10; 73(4); 315-322

4. 相田潤. 口腔の健康と人のつながりと全身の健康 日本未病学会雑誌. 2024.08; 30(2); 36-38

5. 相田潤. これまで日本の歯科界は，歯科医療ニーズを正しく評価できていたのか？：8020 達成で歯の欠損はなくなっているか，過去 10 年の国際的潮流を踏まえた考察 老年歯科医学. 2024.08; 39(1); 25-31

6. 相田潤. 知ってナットク!いまを読み解くキーワード　口腔衛生編 (第 8 回)　健康の社会的決定要因 デンタルハイジーン. 2024.08; 44(8); 831

7. 相田潤. 高濃度フッ素配合の歯磨き剤でむし歯予防を NHK テキストきょうの健康. 2024.06; 6;
8. 古田美智子, 相田潤. 乳幼児期の保護者との食器共有について考えよう! 日本口腔衛生学会による文書の解説 デンタルハイジーン. 2024.05; 44(5); 466-467
9. 相田潤. 知ってナットク!いまを読み解くキーワード (口腔衛生編)(第 3 回) ストレス デンタルハイジーン. 2024.03; 44(3); 235
10. 相田潤. 【働く世代の 8020 豊かな老後を迎えるための口腔保健】ストレスは、お口に出る!? 社会人が気にしたいお口の健康 8020: はち · まる · にい · まる. 2024.03; 23; 18-24
11. 相田潤. 世界で最も多い病気!? 健康格差と、日本でも注目される歯科疾患の重要性 小児保健いしかわ. 2024.03; 36; 4-11
12. 古田美智子, 山下喜久, 相田潤. 食器共有に気を付けるとう蝕を予防できるか? 歯界展望. 2024.03; 143(3); 409-412
13. 井上裕子, 相田潤. 臨床に向けた最近の研究動向から 最新の歯科疫学研究について (第 3 回) 歯みがきが一部免疫力の弱い高齢者の肺炎の発症を減少させる可能性 日歯評論. 2024.03; 84(3); 119-121
14. 松山祐輔, 相田潤. 臨床に向けた最近の研究動向から 最新の歯科疫学研究について (第 2 回) 口腔と循環器疾患の因果関係を解明する自然実験研究 日歯評論. 2024.02; 84(2); 119-121
15. 古田美智子, 相田潤. う蝕リスクを減らすために食器の共有は避けるべき? DENTAL DIAMOND. 2024.02; 49(2); 126-127
16. 松山 祐輔, 相田 潤. 最新の歯科疫学研究について (第 2 回) 口腔と循環器疾患の因果関係を解明する自然実験研究 日本歯科評論. 2024.02; 84(2); 119-121
17. 木野志保, 相田潤. 臨床に向けた最近の研究動向から 最新の歯科疫学研究について (第 1 回) 口腔の健康と健康状態 · ウェルビーイングとの関連の網羅的な検証研究 アウトカムワイド · アプローチを用いた縦断研究による解明 日歯評論. 2024.01; 84(1); 135-137

[講演 · 口頭発表等]

1. Mei Harada,Sachi Umemori, Hiroshi Nitta, Jun Aida. The Association between Dental Visits and Chewing Ability - JAGES cross-sectional study -. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.07
2. Mei Harada、Sachi Umemori、Yusuke Matsuyama、Hiroshi Nitta、Jun Aida. Mediating Effect of Dental Prosthetics on Chewing Ability Recovery. 第 72 回国際歯科研究学会日本部会（JADR) 総会 · 学術大会 2024.11.17
3. Miao M, Hattori M, Aida J, Murase M, Haraguchi M, Wakabayashi N. The survival rates and risk factors of dental prostheses: A retrospective study. The 71st Annual Meeting of the American Academy of Maxillofacial Prosthetics 2024.11.03 Naples Grande Beach Hotel (Naples, Florida USA)
4. Jun Aida. Social capital and functional recovery of older adults after the Great East Japan Earthquake and Tsunami, Japan. Asia Pacific Health Security Action Framework (APHSAF), Stakeholders Meeting 2024 2024.07.24 マニラ、オンライン
5. Ayane Horike, Kohei Yamaguchi, Jun Aida, Kanako Toda, Rieko Moritoyo, Kanako Yoshimi, Kazuharu Nakagawa, Haruka Tohara. Are Individuals with a propensity for procrastination more likely to have lower oral function. 2024 Pan-Pacific Dentistry Joint Symposium (TMDU-Otago-Peking-Melbourne-SNU) 2024.05.20 Seoul National University School of Dentistry, Education Building, 5th floor
6. Upul Cooray, Ankur Singh, Jun Aida, Ken Osaka, Marco Aurelio de Anselmo Peres. Intervening on Poverty to Reduce Dental Pain Among US Adult. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.15 New Orleans
7. Satomi Shimada, Yusuke Matsuyama, Jun Aida. Mediation Effect of Oral Health on Inequalities in Dementia. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.15 New Orleans

1. 相田潤. 8020 達成率改善で歯の喪失は減少？ 医療ニーズの評価方法の変化とニーズ急増の実態. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.30 札幌

2. 相田潤. 行動変容は可能か？：最近の理論やデータに基づいて考える. 2024.10.12 札幌

3. 田口 元貴, 財津 崇, 中野 夢実, 米満 郁男, 相田 潤, 小野 卓史. 労働者における職業特性と咀嚼能力 · 不正咬合の関連について. 日本矯正歯科学会大会プログラム · 抄録集 2024.10.01

4. 相田潤. 世界と日本の歯科医療の実態と将来の歯科医療に求められる課題について. 全日本民医連歯科部 第46 期拡大歯科所長 · 事務長会議 2024.09.21 東京

5. 相田潤. 口腔と認知症の関係の因果推論. 認知症と口腔機能研究会 第 5 回学術集会 2024.08.25 東京

6. 相田潤. データから見る今、注目されるフッ化物洗口. 行歯会オンライン ZOOM) 企画フッ化物洗口〜アフターコロナの苦戦と飛躍〜 2024.08.23 オンライン

7. 相田潤. 歯科の「社会的評価」は向上したか？ . 1D オンラインセミナー 2024.08.02 オンライン

8. 相田潤. 今、注目される歯科疾患の重要性. 三重県歯科医師会 令和 6 年度フッ化物応用研修会 2024.07.25 三重

9. 相田潤. WHO やスウェーデンと違うから日本は間違っている？ フッ化物応用を適切に患者に説明できるように. WHITE CROSS ウェビナー 2024.07.17 オンライン

10. 相田潤. 世界と日本の歯科医療の実態と将来の歯科医療に求められる課題について. 全日本民医連歯科部員学習会 2024.06.14 東京

11. 相田潤. 東日本大震災による高齢者の社会経済環境の変化とそれが健康に与える影響. 日本老年社会科学会第 66 回大会 2024.06.02 奈良

12. 相田潤. フッ化物洗口と健康格差〜なぜフッ化物が必要なの？ 〜. 令和 6 年度沖縄県行政歯科口腔保健担当者研修会 2024.05.31 オンライン

13. 木内　桜, 松山祐輔, 竹内研時, 草間太郎, 小坂　健, 相田　潤. 歯の本数と認知症を有さない余命期間との関連：JAGES コホート研究. 第 73 回日本口腔衛生学会学術大会 2024.05.12 盛岡

14. 岩渕美恵, 財津　崇, 後藤あゆ香, 有冨理左, 足達淑子, 相田　潤. 口臭症国際分類別の口臭外来受診行動と口臭に対する不安の変化について. 第 73 回日本口腔衛生学会学術大会 2024.05.12 盛岡

15. 相田潤. フッ化物洗口やフッ化物配合歯磨剤のさらなる展開：WHO やコクランライブラリーの解説を交えて. 第 73 回日本口腔衛生学会学術大会 2024.05.11 盛岡

16. 有冨 理左, 財津 崇, 相田 潤. 口臭患者における VSC 濃度と舌苔中の細菌数の関連について. 日本口臭学会会誌 2024.05.01

17. 木内桜, 松山祐輔, 竹内研時, 草間太郎, 小坂健, 相田潤. 歯の本数と認知症を有さない余命期間との関連 JAGES コホート研究. 第 73 回日本口腔衛生学会学術大会 2024.05

18. 相田潤. 健康格差とフッ化物洗口. 豊見城市小中学校のフッ素うがいの必要性を考える市民フォーラム 2024.04.14 沖縄

19. 岩渕 美恵, 財津 崇, 後藤 あゆ香, 有冨 理左, 足達 淑子, 相田 潤. 口臭症国際分類別の口臭外来受診行動と口臭に対する不安の変化について. 口腔衛生学会雑誌 2024.04.01

20. 財津 崇. 基礎 · 臨床 · 疫学若手研究者からの令和の健口戦略-どうするミレニアル世代!?- 宇宙や南極から考える未来の遠隔口腔保健管理. 口腔衛生学会雑誌 2024.04.01

21. 財津 崇. 日本の労働者における口腔健康と職場パフォーマンス アブセンティーズムとプレゼンティーズムへの研究的洞察. 産業衛生学雑誌 2024.04.01

22. 相田潤. フッ化物応用の最新情報と効果的な活用〜フッ化物で子どもの歯を守るために〜. 令和 5 年度歯科保健関係者研修会（東 · 西播磨 地域活動歯科衛生士研修会） 2024.03.08 オンライン

23. 相田潤. この 10 年で大きく見直された歯科疾患の重要性：歯周病や口腔と全身の健康. 長野県 直診医師 · 保健師等研修会 2024.03.02 松本

24. 相田潤. 新型タバコも危ない？ 喫煙とお口の健康や口臭について. 東京都歯科医師会 都民向けフォーラム（禁煙 · 糖尿病 · 口腔がん） 2024.03.01 オンライン

25. 相田潤. 歯科疾患の健康格差とは？：健康の社会的決定要因の考え方を理解する. 日立歯科医師会　研修会 2024.02.29 日立
26. 相田潤. データから見る近年注目される歯科疾患の重要性. 熊本県委託事業 令和 5 年度 市町村歯科衛生士研修会 2024.02.18 熊本
27. 増子 紗代, 松山 祐輔, 近藤 克則, 相田 潤. 日本人高齢者の趣味の有無の変化と要介護リスクに関する前向きコホート研究. 日本疫学会総会 2024.02.02 滋賀
28. 増子 竣也, 木内 桜, 木野 志保, 松山 祐輔, 相田 潤. 現在歯数と幸福感の関連：口腔 QOL の媒介効果. 日本疫学会総会 2024.02.02 滋賀
29. 伊藤 奏, 田淵 貴大, 山本 龍生, 近藤 克則, 相田 潤. 高齢者における新型タバコと口腔の健康との関連について. 日本疫学会総会 2024.02.02 滋賀
30. 石丸 美穂, 大野 幸子, 佐藤 美寿々, 竹内 研時, 玉田 雄 大, 村田 典子, 前田 恵, 相田 潤, 福田 治久 5. 75 歳居宅高齢者における口腔乾燥を起こす薬剤服薬と口腔健康状態の関連：LIFE study. 日本疫学会総会 2024.02.02 滋賀
31. 相田潤. この 10 年で大きく見直された、歯科疾患の重要性. 大分県歯科衛生士会研修会 2024.01.28 大分
32. 相田潤. 健康の社会的決定要因と東日本大震災. JAGES 岩沼プロジェクト最終報告 災害とレジリエンス：災害科学のこれから 2024.01.20 東京
33. 相田潤. 注目される口腔の健康と感染予防のための口腔ケア / 1．口腔と全身の健康の関連 / 2．口腔と全身管理の連携に関する診療報酬. Elsevier Nursing Skills 2024.01.18 オンライン
34. 相田潤. 健康の社会的決定要因とウェルビーイング：災害と口腔保健. 令和 5 年度地域包括医療 · ケア研修会 2024.01.13 東京

1. 松山祐輔. ビッグデ―タ · リアルワールドデ―タを活用した研究を知る. 第 133 回日本補綴歯科学会 2024.07.05
2. Shimada S, Matsuyama Y, Aida J. Mediation Effect of Oral Health on Inequalities in Dementia. The 48th Annual Meeting of the IADR 2024.03
3. 増子 紗代, 松山 祐輔, 近藤 克則, 相田 潤. 日本人高齢者の趣味の有無の変化と要介護リスクに関する前向きコホート研究. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.01
4. 増子 竣也, 木内 桜, 木野 志保, 松山 祐輔, 相田 潤. 現在歯数と幸福感の関連：口腔 QOL の媒介効果. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.01

[受賞]

1. 2023 年優秀査読者賞, Journal of Epidemiology, 2024 年 01 月
2. 歯周組織再生医学優秀論文賞, 日本歯周病学会, 2024 年 10 月

[その他業績]

1. 「 日本人の高血圧に健康格差が存在。格差は拡大傾向 」 —　肥満、飲酒、喫煙、運動不足が格差を一部説明　—, 2024 年 04 月
   Hypertension Research
2. 「 歯が少ないことで日常生活機能が低下しやすい人の特徴が明らかに 」 —高齢 · 男性 · 社会経済状況が低い · 配偶者がいない · 健康状態の悪い人は歯の健康に注意—, 2024 年 05 月
   Journal of Dental Research
3. 「 お口のメインテナンスが脳心血管病（CVD）と感染症のリスクを下げる可能性 」 — 人工透析を受けている方における歯科治療の重要性 —, 2024 年 07 月
   Scientific Reports
4. 「 お口のメインテナンスが脳心血管病（CVD）と感染症のリスクを下げる可能性 」 — 人工透析を受けている方における歯科治療の重要性 —, 2024 年 07 月
   Scientific Reports
5. 「　歯の喪失が孤独感を高める可能性が明らかに　」 —　無歯顎になると孤独感が 0.31 ポイント増加　—, 2024 年 08 月
   Journal of Dental Research

[社会貢献活動]

1. 南極越冬医師歯科研修, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
2. 宇宙飛行士定期歯科健康診査, 宇宙航空研究開発機構, 遊佐歯科口腔外科クリニック、茨城, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
3. 南極遠隔歯科医療会議, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
4. 「 水道水中の天然フッ化物濃度が 0.1 ppm 高いと子どものう蝕が 3 %少ない 」について, 朝日新聞社, 朝日新聞／朝日新聞デジタル, 2023 年 06 月 20 日 - 現在
5. 「 水道水中の天然フッ化物濃度が 0.1 ppm 高いと子どものう蝕が 3 %少ない 」について, 朝日新聞社, 朝日新聞／朝日新聞デジタル, 2023 年 06 月 20 日 - 現在
6. 親子の食器共有について, 日本経済新聞, 日本経済新聞, 2023 年 12 月 19 日 - 2024 年 01 月 23 日
7. 大規模災害時の口腔ケア, 毎日新聞社, 毎日新聞, 2024 年 01 月 30 日 - 2024 年 02 月 12 日
8. 大規模災害時の口腔ケア, 毎日新聞社, 毎日新聞, 2024 年 02 月 02 日 - 2024 年 02 月 12 日
9. 高齢者の口腔と全身状態の関係性について, NHK 出版, きょうの健康「めざせ 8020」, 2024 年 04 月 08 日 - 2024 年 05 月 21 日
10. 低所得者に高血圧多く　健康格差が拡大　東京医科歯科大など解析, 日刊工業新聞社, 日刊工業新聞, 2024 年 05 月 09 日
11. 所得低いほど高血圧傾向, 時事通信社, 時事メディカル, 2024 年 05 月 13 日 - 2024 年 06 月 07 日
12. 親子の食器共有, 東京新聞社, 東京新聞, 2024 年 05 月 15 日 - 2024 年 06 月
13. 「日本人の高血圧に健康格差が存在」について, 時事通信社, 時事メディカル, 2024 年 06 月 07 日 - 現在
14. 歯の喪失と孤独感との関係について, メディカルトリビューン, 地方紙, 2024 年 08 月 30 日 - 2024 年 12 月
15. 宇宙と歯科, 和田精密歯研株式会社, 広報誌『希望』, 2024 年 10 月 07 日 - 2025 年

国際保健医療事業開発学分野

Department of Global Health Entrepreneurship

教授　　中村　桂子
講師　　清野　薫子 (〜2024.4.30.)
助教　　宮下　彩乃（2024.5.1.〜）
特任助教　　田代　百合（2024.9.1.〜）
Alemi Sharifullah（〜2024.1.31.）

大学院学生
赤星　昴己，宮下　彩乃, 櫻本　恭司,
里　英子, Anderson Bendera, Kamila Dost,
Eugene Meshi, Zia-ul-haq Safi,
Minh Tri Tran Xuan, Thao Vi,
Iftikhar Halimzai, Angelica Latorre, Ana Kriselda Rivera,
Prangkhwan Jiaranaisilawong, Robert Day

(1) 分野概要

本分野は、人々の健康水準に影響をもたらす様々な要因の系統的な分析をとおして、世界各地の公衆衛生の向上をはかる手段を提案する研究を行い、保健医療分野における国際貢献を担う人材を育成するための教育研究を目指している。特に、開発途上国の保健医療水準の向上に寄与する総合的統合的な研究の推進、国際的指導力を発揮できる研究者の育成、国際保健医療を体系的に理解し研究開発と実践を融合できる国際保健医療専門家の育成に重点をおいている。

(2) 研究活動

人口と疾病の構造の変化、地球環境条件の変化と、国境を越えた社会経済活動の拡大とにより、保健医療の国際的な展開が加速されている。本分野では、医薬品や医療技術、医療システム、人材育成にかかわる国際保健のフィールド研究、保健医療プロジェクト実施している。人々の健康水準に影響をもたらす様々な要因の系統的な分析を通じて、世界各地の保健医療と健康水準の向上に資することを目的とした研究を行っている。

現在取り組んでいる主たる研究テーマは、
（1）地球環境、生態系の変容とその健康影響評価
（2）社会文化的健康決定要因の作用機序の解明
（3）健康開発地域プログムをふまえた社会事業開発
（4）情報通信技術を活用した保健医療福祉プログラムの開発とその評価
（5）保健医療人材の国際的流動性と保健医療サービスの国際化
（6）長寿社会におけるユニバーサルヘルスカバレッジ
である。

(3) 教育活動

博士課程の教育プログラムは、個々の大学院生の関心、個性や経験に応じて研究テーマを選び、効果的に目標が達成できるよう個別プログラムをたてている。国際的な保健医療課題の多くが開発途上国に存在することをふまえて、国際機関とも協力し、研修プログラム、実習、国際共同研究への参加の機会を用意している。「疾患予防グローバルリーダー養成プログラム」を通じて、医療の国際化のプロジェクトを推進する人材を育成している。授業は、外国人留学生と環境社会医歯学系の博士課程大学院生が同時に参加し、英語により講義、演習、研究指導を行なっている。各国の公的機関やＷＨＯとの連携をはかり、国際的な視野で能力を発揮できる人材の養成をめざしている。

医科学修士課程の教育プログラムは、国際保健医療協力の研究と実践に必要な基礎的技能と、国際保健医療協力における総合的な判断力の養成をめざしている。

卒前教育では、研究実践プログラム、ならびにプロジェクトセメスターの学生を受け入れている。国際社会における保健医療、様々な国や地域における健康に関わる諸課題とその解決、保健医療分野における国際交流、援助についての知識、技術、態度を獲得し、国際社会の中で自らの行う医療を理解できる医師の輩出をめざし、指導を行っている。

(4) 教育方針

国内外の疾病および健康課題をふまえ、保健医療サービスの国際化に関わる研究開発、国際協力、社会事 業及び医療の国際展開プロジェクトを担う人材を育成する。

（1）パブリックヘルスおよび疾患予防の専門的知識
（2）国際保健医療課題の分析能力
（3）フィールド研究の立案、計画、実施能力
（4）保健医療事業を国際的に展開する企画運営技能
を身につけ、研究活動ならびに実践を通じて、人々の健康の維持および向上に貢献できる広い視野とすぐれたコミュニケーション能力を有する人材の養成を目指す。

(5) 研究業績

[原著]

1. Tran XMT, Nguyen HTL, Tran TV, Seino K, Ohno-Matsui K, Tran TV, Igarashi-Yokoi T, Vo TV, Nakamura K. . Factors protecting against progression of myopia in school students exposed to societal change in Vietnam: a 3-year cohort study. BMJ Open. 2024.12; 15; e085853

2. Halimzai I, Nakamura K, Seino K, Miyashita A. Hemat S, Alemi S, Saeedzai SA. Implications of the dissemination of healthy lifestyle advice for Afghan adults without histories of hypertension diagnosis or treatment. Journal of Rural Medicine. 2024.12;

3. Dost K, Nakamura K, Alemi S, Tashiro Y, Seino K, Hemat S. . Inequality in Afghanistan in the use of prenatal healthcare services according to the sex of newborns. Journal of Rural Medicine. 2024.10; 19(4); 221-231

4. Tran TV, Nguyen HTL, Tran XMT, Tashiro Y, Seino K, Vo TV, Nakamura K. Academic stress among students in Vietnam: A three-year longitudinal study on the impact of family, lifestyle, and academic factors. Journal of Rural Medicine. 2024.10; 19(4); 279-290

5. Miyashita A, Nakamura K, Kibusi SM, Meshi EB, Bendera A, Sato H, Al-Sobaihi S, Tashiro Y, Ramaiya KL, Sunguya BF, Seino K. . Health insurance in rural Tanzania promotes self-care for non-communicable disease patients via management behaviours. International Health. 2024.09;

6. Keanjoom R, Toyoda P, Nakamura K. Geographical variation, demographic and socioeconomic disparities in active ageing: the situation in Thailand. Public Health in Practice. 2024.05; 16(7); 100509

7. Vo MTH, Nakamura K, Seino K, Moncatar TRT, Han TDT, Siongco KLL, Tashiro Y, Vo TV. Can collaboration among health and social care workers play a role in addressing geriatric care challenges? A qualitative case study in Central Vietnam International Health. 2024.04; 16; 387-398

8. Seino K, Nakamura K, Alemi S. Social interactions and heat stress mitigation among elderly people in a healthy city. Lancet Planetary Health. 2024.04; 8(S); S12
9. Ramani-Chander A, Nakamura K, . Challenges and enablers for scaling up interventions targeting non-communicable diseases: A qualitative study applying the Consolidated Framework for Implementation Research to 19 research projects worldwide. BMC Public Health. 2024.03; 2; e000710-e00071
10. Bendera A, Nakamura K, Seino K, Alemi S.. Performance of the non-laboratory based 2019 WHO cardiovascular disease risk prediction chart in Eastern Sub-Saharan Africa. Nutrition, Metabolism and Cardiovascular Diseases. 2024.02; 34; 1448-1455
11. Moncatar TR, Vo THM, Siongco KL, Tri HTD, Seino K, Gomez AV, Canila C, Javier R, Vo TV, Tashiro Y, Lorenzo FM, Nakamura K. Gaps and opportunities in addressing the needs of older adults in the Philippines and Vietnam: A qualitative exploration of health and social workers' experiences in urban care settings. Frontiers in Public Health. 2024.02; 12; 1269116
12. Tran XMT, Nakamura K, Al-Sobaihi S, Seino K. Parental engagement in caregiving activities and its association with socioeconomic and child-rearing environment at home in Vietnam. Early Child Development and Care. 2024.01; 194(1); 118-133

[講演・口頭発表等]

1. Nakamura K. Updating Regional Development of Healthy Cities.. Griffith University, Brisbane 2024, International Symposium 2024.12.06 Brisbane
2. Nakamura K, Guinto R. 国際保健からプラネタリーヘルス: Global Health to Planetary Health. 匠講話 2024.11.25 Tokyo
3. Nakamura K.. How to Build a People-centered Smart Health Community? Implementation Science for Healthy Cities.. The 2nd World Health City Forum 2024.11.13 Incheon
4. Nakamura K, Seino K, Latorre A, Rivera AK, Miyashita A, Tashiro Y.. A Protocol for an Implementation Science Research: Healthy School Environments Supporting Healthy and Informed Choices of Food and Beverage in the Philippines.. The 89th Annual Meeting of the Japanese Society of Health and Human Ecology 2024.10.12 Tokyo
5. Nakamura K.. Our Commitments and Efforts to Advance Health Equity.. The 10th Global Conference of the Alliance for Healthy Cities 2024.09.27
6. Nakamura K.. Learning for Healthy Cities.. The 10th Global Conference of the Alliance for Healthy Cities 2024.09.26
7. Nakamura K.. WHO Special Session: Leveraging healthy city indicators to accelerate commitment and action in the Western Pacific Region.. The 10th Global Conference of the Alliance for Healthy Cities 2024.09.26
8. Nakamura K.. Urban Governance for Health and Well-being.. The 10th Global Conference of the Alliance for Healthy Cities 2024.09.25 Seoul, Republic of Korea
9. Nakamura K.. Overview of Healthy Cities programmeand Age-friendly Environments.. WHO Regional Meeting on Building Sustainable Age-friendly Environments in the Western Pacific 2024.09.23 Seoul, Republic of Korea
10. Nakamura K.. Healthy Cities Indicators:What Alliance for Healthy Cities has done so far.. WHO Preliminary Meeting – Establishing context and equity-based Healthy Cities Indicators for WPR. 2024.08.27 Manila, Philippines
11. Nakamura K. Planetary Health and Healthy Cities.. ASEAN Institute for Health Development, Mahidol University Special Lecture 2024.08.22
12. Nakamura K. Healthy Cities and Loneliness.. WHO Technical Consultation on Loneliness in Cities. 2024.07.11
13. Nakamura K, Kiyu A.. Healthy Cities Initiatives. Planeatry Health Alliance Summit 2024 6th Annual Meeting 2024.04.18

14. Nakamura K.. Overview of Planetary Health: Healthy Planet Healthy People. . Debate Session 1: Planetary Health. Médecins Sans Frontières 2024.03.23
15. Nakmaura K. Global Health Entrepreneurship towards Planetary Health: Healthy Planet Healthy People. Special Lecture on Planetary Health Faculty of Public Health, Naresuan University 2024.01.25
16. Nakamura K. Healthy Cities in Blue and Green Zones: opportunities for actions in local settings. Expert Symposium: Planetary Health and Health Systems HSR2023 Western Pacific Preconference 2024.01.12

1. 中村桂子. 公衆衛生総論　7　公衆衛生活動における医師の役割と人材開発. 社会医学系専門医制度　基本プログラム　第２版 2024.12.08 東京
2. 中村桂子. 公衆衛生総論　6　グローバルヘルス. 社会医学系専門医制度　基本プログラム　第２版 2024.12.01 東京
3. 中村桂子. パブリックヘルス科学の超学際融合フィールドへの展開. 日本学術会議公開シンポジウム「サステナビリティな社会を創るために公衆衛生はどうあるべきか」 2024.10.30 札幌
4. 中村桂子. ＵＨＣグローバルヘルス研究：タンザニアとフィリピンの研究事例から.. 国立保健医療科学院ＵＨＣスタディグループ会議 2024.08.05
5. 中村桂子. Age Friendly Cities/ Environment　高齢者にやさしいまちづくり.. 日本学術会議　第２回高齢者の健康・生活分科会（第 26 期） 2024.05.22
6. 中村桂子. 持続可能な保健医療を目指して：パンデミック下における環境汚染と医療廃棄物の影響からの学び. プラネタリーヘルス専門家会合 2024.02.16

[社会貢献活動]

1. 東京公衆衛生支援, 2020 年 04 月 01 日 - 現在

臨床統計学分野

Department of Clinical Biostatistics

教授　平川　晃弘
講師　佐藤　宏征
大学院生　花澤　遼一
大学院生　佐々木　誠治
大学院生　渡部 正也
大学院生　清水 陽介
大学院生　北林 遼
大学院生　若林 将史
大学院生　加賀 史尋
大学院生　棚橋 昌也
大学院生　増田 孝広
大学院生　村上 梨紗
大学院生　岡部 淳平
大学院生　田中 祥子
大学院生　田中 勇輔
大学院生　永尾 優始
大学院生　福岡屋 航
大学院生　宮部 大輔
大学院生　渡邊 稔之
大学院生　安藤 奨吾
大学院生　梶川 生織
大学院生　欧 雨萌
大学院生　小島 萌華
大学院生　西澤 栄輝
大学院生　松尾 亮平
大学院生　光武 美晴
特任研究員　渡辺 晋

(1)　分野概要

新規治療法の効果は人を対象とした医学系研究により評価する。医学系研究には観察研究や介入研究などいくつかの種類があるが、いずれの研究においても得られたデータから治療効果を適切に定量化することが重要である。そのためには、研究に適した試験デザインと統計手法を選択しなければならない。臨床統計学（生物統計学、医療統計学とも呼ばれる）は、治療効果を適切かつ効率的に評価するための試験デザインや統計解析法を研究する学問であり、Evidence-based Medicine や Personalized Medicine の確立に不可欠なものとなっている。当分野では、(i) 臨床統計学的手法の研究開発、(ii) 先進的試験デザイン · 統計解析法を利用した臨床研究の実践、(iii) 医療 · 健康分野におけるデータサイエンスの実践に取り組んでいる。これらの研究活動をとおして、新規治療の開発を促進し、健康社会の実現に貢献する。

臨床統計学分野では、
· 生物統計家 · 医療データサイエンティストを目指す修士課程 · 博士課程の大学院生
· 臨床研究のデザイン · 統計解析を系統的に学び、臨床研究に関する論文で博士号（医学）を取得したいと考えている医師 · 歯科医師、薬剤師、看護師、検査技師等の博士課程の大学院生
· 臨床試験方法論 · 医療データ解析を系統的に学び博士号（医学等）を取得したいと考えている医薬品 · 医療機器

開発企業、CRO、ヘルスケアサービス開発企業等勤務の修士課程 · 博士課程の大学院生を募集しており、博士課程においては社会人学生も歓迎している。

修士 · 博士研究においては、臨床統計学分野の新規手法の研究開発、医療 · 健康分野のデータ解析、レギュラトリーサイエンス研究、基礎 · 発展的な臨床研究（前向き · 後ろ向き研究）の実施など、様々なテーマに取り組むことが可能である。
出身学部 · 学科は不問。経済学、理学、工学、情報学、生命科学など様々な学部学科の学生が入学している。博士課程においては、医師や製薬企業等勤務の社会人もが社会人大学院生として臨床統計学を学んでいる。
臨床統計学や医療健康データ解析を基礎から学べるプログラムを用意している。博士課程において取得できる学位は、博士（数理医科学)、博士（医学)、博士（学術）等である。受験を検討または希望している場合は、当分野へ連絡し、研究室見学 · 研究テーマの相談等を行うこと。

(2) 研究活動

当分野の主な研究テーマは以下の通りである。
1．臨床統計学的手法 (研究デザイン · 統計解析法) の研究開発
2．先進的試験デザイン · 統計解析法を利用した臨床研究の実践
3．多様な医療 · 健康データの統計的評価法の研究と実践

(3) 教育活動

【大学院医歯学総合研究科】
臨床試験方法論　基礎 · 応用

【統合研究機構】
教職員対象　「臨床研究論文執筆コース（介入研究)」

(4) 教育方針

治療効果を適切かつ効率的に評価するための試験デザインや統計解析法を理解 · 実施できるようになることを目標とする。具体的には、以下のことを目標とする。これらの能力の習得をとおして、健康社会の実現に貢献することを最終的な目的とする。
1．研究仮説に適した研究デザインを立案できる
2．研究に必要なサンプルサイズ設計を実施できる
3．研究データに適したデータ解析法を選択 · 適用できる
4．データ解析のためのプログラミングが可能となる
5．高度な統計解析手法を説明 · 実装することができる
6．新規統計的方法論の研究開発ができる

(5) 臨床活動および学外活動

以下の学外活動 · プロジェクトに参画している。
1．がんプレシジョン · メディシンのためのマスタープロトコルを用いた試験デザインと統計解析法の研究開発
2．AMED 医薬品 · 医療機器 · 再生医療等製品等に係るレギュラトリーサイエンスに関する研究
3．AMED 認知症対策官民イノベーション実証基盤整備事業
4．医療 · 健康データサイエンスの実践（弘前大学 COI プロジェクト）

(6) 研究業績

[原著]

1. Hanazawa, R; Sato, H; Hirakawa, A; Alzheimers Dis Neuroimaging Initiative. Mixture Disease Progression Model to Predict and Cluster the Long-Term Trajectory of Cognitive Decline in Alzheimer's Disease THERAPEUTIC INNOVATION & REGULATORY SCIENCE. 2024.12;

2. Hiromune Katsuda, Masanori Kobayashi, Go Ito, Ami Kawamoto, Susumu Krimura, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. Evaluating endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for diagnosis of small pancreatic neuroendocrine neoplasms. Endosc Int Open. 2024.11; 12(11); E1379-E1385

3. Osuga Y, Kobayashi T, Hirakawa A, Takayanagi T, Nogami M, Tayzar K, Mochiyama T, Hirayama M, Foidart JM, Harada T. Efficacy and safety of estetrol (15 mg)/drospirenone (3 mg) combination in a cyclic regimen for the treatment of primary and secondary dysmenorrhea: a multicenter, placebo-controlled, double-blind, randomized study. Fertility and sterility. 2024.11;

4. Sato Y, Shimizu S, Ueda K, Suzuki T, Suzuki S, Miura R, Ando M, Tsuda K, Iwata O, Muramatsu Y, Kidokoro H, Hirakawa A, Hayakawa M, SHEILD team. Safety and tolerability of a Muse cell-based product in neonatal hypoxic-ischemic encephalopathy with therapeutic hypothermia (SHIELD trial). Stem cells translational medicine. 2024.11; 13(11); 1053-1066

5. Fujimaru T, Mori T, Sekine A, Chiga M, Mandai S, Kikuchi H, Mori Y, Hara Y, Fujiki T, Ando F, Susa K, Iimori S, Naito S, Hanazawa R, Hirakawa A, Mochizuki T, Suwabe T, Ubara Y, Uchida S, Sohara E. Importance of IFT140 in Patients with Polycystic Kidney Disease Without a Family History. Kidney international reports. 2024.09; 9(9); 2685-2694

6. Mori N, Nanki T, Hirakawa A, Yamato M, Kaneko Y, Shiokawa R, Ozaki R, Kawabata N, Ohmagari N. Tocilizumab in combination with standard of care in patients with severe COVID-19 pneumonia: efficacy and safety from a phase 3 clinical trial in Japan. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2024.09;

7. Sakyo Hirai, Ryoichi Hanazawa, Masataka Yoshimura, Keigo Shigeta, Yohei Sato, Naoki Taira, Yoshihisa Kawano, Jun Karakama, Yoshiki Obata, Mutsuya Hara, Kenji Yamada, Yosuke Ishii, Kana Sawada, Shogo Imae, Hikaru Wakabayashi, Hirotaka Sagawa, Kyohei Fujita, Shoko Fujii, Satoru Takahashi, Akihiro Hirakawa, Shigeru Nemoto, Kazutaka Sumita. Safety and Efficacy of Management for Intraprocedural Rupture During Endovascular Treatment for Intracranial Aneurysms. Neurosurgery. 2024.08;

8. Murofushi K, Katagiri H, Mitomo S, Hirohata K, Furuya H, Hanazawa R, Hirakawa A, Yagishita K, Kaneoka K. Exploring age-related changes in motor function: insights from the peak decline found in Koji Awareness screening test. Scientific reports. 2024.08; 14(1); 18903

9. Noritaka Suzuki, Yawara Eguchi, Takashi Hirai, Takuya Takahashi, Yohei Takahashi, Kota Watanabe, Tomohiro Banno, Kyohei Sakaki, Satoshi Maki, Yuuichi Takano, Yuki Taniguchi, Yasuchika Aoki, Takamitsu Konishi, Yutaka Hiraizumi, Masatsune Yamagata, Akihiro Hirakawa, Seiji Ohtori. Outcome of intradiscal condoliase injection therapy for patients with recurrent lumbar disc herniation. Asian Spine J. 2024.08; 18(4); 550-559

10. Hajime Tanaka, Yuki Fukawa, Kouhei Yamamoto, Kousuke Tanimoto, Akira Takemoto, Takayasu Mori, Hisashi Hasumi, Mayumi Kinoshita, Takumi Kanazawa, Asuka Furukawa, Koichiro Kimura, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Steven C Campbell, Yasuhisa Fujii. Prognostic impact and genomic backgrounds of renal parenchymal infiltration or micronodular spread in non-metastatic clear cell renal cell carcinoma. Mod Pathol. 2024.08; 100590

11. Ohara M, Hirata K, Matsubayashi T, Chen Q, Shimano K, Hanazawa R, Hirakawa A, Yokota T, Hattori T. Circular walking is useful for assessing the risk of falls in early progressive supranuclear palsy. Journal of neurology. 2024.07;

12. Yamaoka H, Hirai S, Hanazawa R, Yoshimura M, Hayashi T, Kaneoka A, Yamada K, Yoshino Y, Ebiko Y, Yamamura T, Ishikawa M, Sagawa H, Aoyama J, Fujii S, Fujita K, Kawano Y, Hirakawa A, Sumita K. A thoracic CT imaging parameter predicting access difficulty in acute stroke thrombectomy. Clinical neurology and neurosurgery. 2024.07; 244; 108453

13. Takahashi Y, Kobori A, Hiroshima K, Sakamoto Y, Kimura M, Inaba O, Tanimoto K, Hanazawa R, Hirakawa A, Goya M, Sasano T. MAP-AF: A Multicenter, Single-Blind, Randomized Controlled Trial. Circulation. Arrhythmia and electrophysiology. 2024.07; 17(8); e012829

14. Harada T, Kobayashi T, Hirakawa A, Takayanagi T, Nogami M, Mochiyama T, Hirayama M, Foidart JM, Osuga Y. Efficacy and safety of estetrol (E4) 15 mg/drospirenone (DRSP) 3 mg combination in a cyclic regimen for the treatment of endometriosis-associated pain and objective gynecological findings: A multicenter, placebo-controlled, double-blind, randomized study. Fertility and sterility. 2024.07;

15. Nishikawa T, Kakunaga S, Tamura K, Ando M, Ozaki T, Kawai A, Ueda T, Kawasaki M, Tomatsuri S, Okamura N, Kamikura M, Hamada A, Yoshida A, Hirakawa A, Shibata T, Nakamura K, Yonemori K. Efficacy and safety of nivolumab monotherapy in patients with unresectable clear cell sarcoma and alveolar soft part sarcoma (OSCAR Trial/NCCH1510). Cancer. 2024.07;

16. Ito S, Kinugasa Y, Yamauchi S, Sato H, Hirakawa A, Ishihara S, Shiomi A, Kanemitsu Y, Suto T, Takahashi H, Itabashi M, Shiozawa M, Hiyoshi M, Kobatake T, Komori K, Egi H, Ozawa H, Yamaguchi T, Inada R, Ito M, Hirano Y, Furutani A, Tanabe Y, Ueno H, Ohue M, Hida K, Kawai K, Sunami E, Ishida H, Uehara K, Watanabe J, Hotchi M, Ishibe A, Takii Y, Hiro J, Numata M, Takemasa I, Kato T, Kakeji Y, Hirata A, Ajioka Y. Long-term Outcome After Surgical Resection of Paraaortic Lymph Node Metastasis of Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Study. Diseases of the colon and rectum. 2024.07;

17. Kobayashi M, Niimi M, Katsuda H, Akahoshi K, Kinowaki Y, Sasaki M, Hirakawa A, Tateishi U, Tanabe M, Okamoto R. Optimization of Endoscopic Ultrasound Characteristics in the Diagnosis of Malignant Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. Pancreas. 2024.07; 53(6); e521-e527

18. Kato, M; Shiota, M; Kimura, T; Hanazawa, R; Hirakawa, A; Takamatsu, D; Tashiro, K; Matsui, Y; Hashine, K; Saito, R; Yokomizo, A; Yamamoto, Y; Narita, S; Hashimoto, K; Matsumoto, H; Akamatsu, S; Nishiyama, N; Eto, M; Kitamura, H; Tsuzuki, T. Validation study on the 2 mm diameter cutoff in lymph node-positive cases following radical prostatectomy in accordance with the AJCC/UICC TNM 8th edition: Real-world data analysis from a Japanese cohort INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2024.06; 31(6); 662-669

19. Arai, S; Hanaoka, M; Yamauchi, S; Baba, H; Hanazawa, R; Sato, H; Hirakawa, A; Tokunaga, M; Kinugasa, Y. Modified oral antibiotics and mechanical bowel preparation (OAMBP) versus conventional OAMBP for sigmoid colon and rectal surgery: A multicenter randomized non-inferiority trial ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY. 2024.06;

20. Yatabe Y, Hanaoka M, Hanazawa R, Hirakawa A, Mukai T, Kimura K, Yamanoi K, Kono J, Yokota M, Takahashi H, Kobayashi A, Kobayashi K, Ichikawa N, Yasui M, Nakane K, Yamamoto M, Takenaka A, Nakamura Y, Takemasa I, Yabusaki N, Akamoto S, Tatarano S, Murata K, Manabe T, Fujimura T, Kawamura M, Egi H, Yamaguchi S, Terai Y, Inoue S, Ito A, Kinugasa Y. Robotic versus open and laparoscopic pelvic exenterations for pelvic cancer: a multicenter propensity-matched analysis in Japan. Surgical endoscopy. 2024.06; 38(8); 4390-4401

21. Mikamo H, Takahashi S, Yamagishi Y, Hirakawa A, Harada T, Nagashima H, Noguchi C, Masuko K, Maekawa H, Kashii T, Ohbayashi H, Hosokawa S, Maejima K, Yamato M, Manosuthi W, Paiboonpol S, Suganami H, Tanigawa R, Kawamura H, IVERMILCO Study Group. Efficacy and safety of ivermectin in patients with mild COVID-19 in Japan and Thailand. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2024.06; 30(6); 536-543

22. Sasaki M, Sato H, Uemura Y, Mikami A, Ichihara N, Fujitani S, Kondo M, Doi Y, Morino E, Tokita D, Ohmagari N, Sugiura W, Hirakawa A. How Much More Efficient Are Adaptive Platform Trials Than Multiple Stand-Alone Trials? A Comprehensive Simulation Study for Streamlining Drug Development During a Pandemic. Clinical pharmacology and therapeutics. 2024.06; 115(6); 1372-1382

23. Sakurai T, Sugimoto T, Akatsu H, Doi T, Fujiwara Y, Hirakawa A, Kinoshita F, Kuzuya M, Lee S, Matsumoto N, Matsuo K, Michikawa M, Nakamura A, Ogawa S, Otsuka R, Sato K, Shimada H, Suzuki H, Suzuki H, Takechi H, Takeda S, Uchida K, Umegaki H, Wakayama S, Arai H, J‐MINT study group. Japan-Multimodal Intervention Trial for the Prevention of Dementia: A randomized controlled trial. Alzheimer's & dementia : the journal of the Alzheimer's Association. 2024.06; 20(6); 3918-3930

24. Kawamura I, Miyazaki S, Inamura Y, Nitta J, Kobori A, Nakamura K, Murakami M, Nakamura T, Inaba O, Sekiguchi Y, Asano S, Sasaki Y, Mizuno S, Naito S, Hirakawa A, Sasano T. A randomized controlled trial of the size-adjustable cryoballoon vs conventional cryoballoon for paroxysmal atrial fibrillation: The CONTRAST-CRYO II trial rationale and design. Heart rhythm O2. 2024.05; 5(5); 301-306

25. Yamada, T; Minami, T; Yoshino, S; Emoto, K; Mabuchi, S; Hanazawa, R; Hirakawa, A; Hashimoto, M. Relationship Between Diaphragm Thickness, Thickening Fraction, Dome Excursion, and Respiratory Pressures in Healthy Subjects: An Ultrasound Study LUNG. 2024.04; 202(2); 171-178

26. Yukinori Kurokawa, Yuichiro Doki, Ryo Kitabayashi, Takaki Yoshikawa, Takashi Nomura, Kunihiro Tsuji, Masahiro Goto, Haruhiko Cho, Jun Hihara, Naoki Hiki, Souya Nunobe, Junki Mizusawa, Narikazu Boku, Masanori Terashima. Short-term outcomes of preoperative chemotherapy with docetaxel, oxaliplatin, and S-1 for gastric cancer with extensive lymph node metastasis (JCOG1704). Gastric Cancer. 2024.03; 27(2); 366-374

27. Kyohei Fujita, Yohei Sato, Ryoichi Hanazawa, Hirotaka Sagawa, Mariko Ishikawa, Shoko Fujii, Jiro Aoyama, Sakyo Hirai, Masataka Yoshimura, Yoshikazu Yoshino, Yoshihisa Kawano, Keigo Shigeta, Naoki Taira, Jun Karakama, Tadahiro Ishiwada, Motoshige Yamashina, Akihiko Hirakawa, Kazutaka Sumita. Impact of cancer history on long-term outcome after elective neuro-endovascular treatment in patients aged 80 years or older: A retrospective multicenter observational study. Geriatr Gerontol Int. 2024.02; 24(2); 211-217

28. Kobayashi D, Kodera Y, Fukushima R, Morita M, Fushida S, Yamashita N, Yoshikawa K, Ueda S, Yabusaki H, Kusumoto T, Arigami T, Hidemura A, Omori T, Yamaguchi H, Hirono Y, Tsuji Y, Moon JH, Tomita T, Imamura H, Nakanishi K, Shimizu D, Hirakawa A, Ishigami H, Kitayama J.. Phase II Study of Intraperitoneal Administration of Paclitaxel Combined with S-1 and Cisplatin for Gastric Cancer with Peritoneal Metastasis. Ann Surg Oncol. 2024.02; 31(2); 735-743

29. Ikenaga N, Hashimoto T, Mizusawa J, Kitabayashi R, Sano Y, Fukuda H, Nakata K, Shibuya K, Kitahata Y, Takada M, Kamei K, Kurahara H, Ban D, Kobayashi S, Nagano H, Imamura H, Unno M, Takahashi A, Yagi S, Wada H, Shirakawa H, Yamamoto N, Hirono S, Gotohda N, Hatano E, Nakamura M, Ueno M, on behalf of the Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group in Japan Clinical Oncology Group. A multi-institutional randomized phase III study comparing minimally invasive distal pancreatectomy versus open distal pancreatectomy for pancreatic cancer; Japan Clinical Oncology Group study JCOG2202 (LAPAN study). BMC cancer. 2024.02; 24(1); 231

30. Hirai S, Fujita K, Fujii S, Takahashi S, Shigeta K, Karakama J, Enomoto Y, Sato Y, Yoshimura M, Hirota S, Mizoue T, Yoshino Y, Kawano Y, Yamamura T, Kohyama S, Hirohata M, Yoshimura S, Ishii Y, Yamauchi T, Taira N, Obata Y, Sakamoto M, Inoue M, Yamashina M, Tokunaga S, Higashi T, Sawada K, Mochida H, Ido K, Takeuchi M, Takigawa T, Takagi Y, Morimoto M, Nanto M, Miki K, Misaki K, Arimura K, Hanaoka Y, Hara M, Hara S, Yokoyama K, Ooyama J, Hanazawa R, Sato H, Hirakawa A, Ishiguro M, Nemoto S, Sumita K. Study protocol of the ASTOP trial: A multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of presurgical aspirin administration for the prevention of thromboembolic complications of coil embolization for ruptured aneurysms. PloS one. 2024; 19(9); e0310906

1. 佐藤宏征, the Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative. 長期的認知機能変化の予測結果を活用したアルツハイマー病新規臨床試験デザインの開発 Precision Medicine. 2024.02;

2. 平川 晃弘.【臨床試験と観察研究の新機軸】特集に寄せて　総論　臨床研究方法論の新時代 Precision Medicine. 2024.02; 7(2); 96-97

[書籍等出版物]

1. 増田 孝広, 若林 健二. 周産期麻酔科学. 中外医学社, 2024.06 (ISBN：978-4-498-05554-4)

[講演・口頭発表等]

1. Kenichiro Ozaki, Kenji Wakabayashi, Nobuyuki Nosaka, Hideo Yamanouchi, Yuka Mishima, Takahiro Masuda, Ryo Uchimido, Toshihiro Kubo, Kohei Yamaguchi, Takuma Okumura, Akira Yoshizawa, Mitsuzumi Okada, Teruko Kunisawa, Sirinthip Amornsuradech, Ayane Horike, Ryota Kanai, Kazuharu Nakagawa, Ayako Nakane, Kazumasa Kubota, Haruka Tohara. Multidisciplinary Collaboration Practice

in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits. The 4th Annual Meeting of the International Society of Oral Care (ISOC) 2024 2024.04.27 Tokyo, Japan

2. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

3. Ryo Kitabayashi, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa. Under-parameterized design with unit information prior in oncology basket trials. 2024 ENAR Spring Meeting 2024.03 Baltimore

4. Hironaga Satake, Kentaro Yamazaki, Yusuke Suwa, Takahiro Tsushima, Yasunobu Ishizuka, Shogen Boku, Atsuo Takashima, Toshifumi Yamaguchi, Masako Asayama, Mitsuru Yokota, Koji Numata, Takashi Ohta, Hisateru Yasui, Yosuke Kito, Yasumasa Takii, Ryo Kitabayashi, Yusuke Sano, Haruhiko Fukuda, Tetsuya Hamaguchi, Yukihide Kanemitsu. First report of the randomized phase III study of bi-weekly trifluridine/tipiracil (FTD/TPI) plus bevacizumab (BEV) vs. FTD/TPI monotherapy for chemorefractory metastatic colorectal cancer (mCRC): JCOG2014 (ROBiTS). ASCO GI 2024 2024.01 San Francisco

1. 小戝 健一郎, 永野 聡, 松田 恵理子, 西川路 侑耶, 三井 薫, 川上 広高, 渡邉 真季, 二川 俊隆, 山口 宗一, 橋口 照人, 谷口 昇, 平川 晃弘, 平岡 弘二, 岩田 慎太郎, 川井 章. がん診療における遺伝子治療 · 細胞治療 · 再生医療の役割　腫瘍溶解性ウイルスの独自技術の創出と早期承認を目指した非臨床 · 臨床開発. 日本癌治療学会学術集会抄録集 2024.10.01

2. 橋詰 淳, 山田 晋一郎, 伊藤 大輔, 岸本 祥之, 小森 祥太, 川瀬 崇広, 近藤 綾乃, 花澤 遼一, 佐藤 宏征, 平川 晃弘, 森田 光哉, 山本 知孝, 勝野 雅央. 医療データに基づいた球脊髄性筋萎縮症に対するリュープロレリン酢酸塩の有効性評価. 臨床神経学 2024.10.01

3. 橋詰 淳, 山田 晋一郎, 伊藤 大輔, 岸本 祥之, 小森 祥太, 川瀬 崇広, 近藤 綾乃, 花澤 遼一, 佐藤 宏征, 平川 晃弘, 森田 光哉, 山本 知孝, 勝野 雅央. 医療データに基づいた球脊髄性筋萎縮症に対するリュープロレリン酢酸塩の有効性評価. 臨床神経学 2024.10.01

4. 大谷 泰, 赤座 実穂, 川端 茂徳, 夏井 洋和, 渡部 泰士, 花澤 遼一, 足立 善昭, 関原 謙介, 叶内 匡, 横田 隆徳. 脊磁図、末梢神経磁図、筋磁図の臨床応用の可能性　磁場測定による筋活動の評価. 臨床神経生理学 2024.10.01

5. 新井 聡大, 花岡 まりえ, 山内 慎一, 馬場 裕信, 花澤 遼一, 佐藤 宏征, 平川 晃弘, 徳永 正則, 絹笠 祐介. 左側結腸/直腸癌に対する患者忍容性の高い腸管前処置の多施設ランダム化非劣性研究. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

6. 新井 聡大, 花岡 まりえ, 山内 慎一, 馬場 裕信, 花澤 遼一, 佐藤 宏征, 平川 晃弘, 徳永 正則, 絹笠 祐介. 左側結腸/直腸癌に対する患者忍容性の高い腸管前処置の多施設ランダム化非劣性研究. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

7. 菊池 寛昭, 蘇原 映誠, 平川 晃弘, 森 雄太郎, 森 崇寧, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 伏見 清秀, 内田 信一. ビグアナイド薬内服は COVID-19 患者における急性腎障害の低発症率, 低死亡率に関与する　日本全国規模調査. 日本腎臓学会誌 2024.06.01

8. 高橋 拓也, 平井 高志, 佐藤 宏征, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 平川 晃弘, 波呂 浩孝, 大鳥 精司. コンドリアーゼ治療と MED の費用対効果研究　JSSR 社会保険等システム検討委員会 · プロジェクト委員会共同研究. Journal of Spine Research 2024.04.01

9. 西郷茉優、増田孝広、若林健二. 重症症例の気管挿管において、意識下挿管が有害事象発生率の低下と関連する. 第５１回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.16

10. 伏屋 愛加, 西尾 美和子, 山本 正英, 森 毅彦, 佐々木 誠治, 平川 晃弘, 小池 竜司, 新井 文子. 全身性慢性活動性 EB ウイルス病成人例の臨床像と予後因子の解明　レジストリデータを用いた後方視的解析. 日本内科学会雑誌 2024.02.01

11. 阿久津智洋、谷口あやめ、大森敬文、山本雄大、増田孝広、篠田健、丸山史、三高千恵子、中沢弘一. 抗 GBM 抗体症候群に対する持続透析 · 血漿交換目的の vascular access catheter が上大静脈を穿通し、右胸腔へ迷入した一例. 第 23 回日本集中治療医学会関東甲信越地方会

[その他業績]

1. 「新興 · 再興感染症パンデミック下の新薬開発を加速する臨床試験デザインを特定」 — アダプティブプラットフォーム臨床試験の効率性の分析 —, 2024 年 04 月
   Clinical Pharmacology & Therapeutics

医療安全管理学分野

Department of Healthcare Quality and Safety

教授　工藤　篤

秘書　板橋晴子

(1)　分野概要

病院管理において必要な医療安全の体系を創る。多種職種が協力し、医療行為が適切に施行できるシステムを研究する。病院機能の評価方法

(2)　研究活動

1 医療安全指標の開発
2 医療者間における用語の共通理解に関する研究
3 医療現場に特化した音声文字変換
4 AI を用いた救急初療現場における情報共有と記録システムの樹立
5 ハイブリッド型眼球運動解析に基づく胸部 X 線画像比較診断における熟練医師の認知方略の解明
6 診療情報利用のルール策定

(3)　教育活動

卒前教育：系統講義においては、国内の医療安全管理の基礎、法曹界における医療の認識を学ぶ。医療安全臨床実習においては、クルズスで各臓器における診療上生じ得るエラー、患者への説明の方法、各部門の院内において果たす役割、挿管実習、CVC 実習などを学ぶ。裁判所実習では法曹の思考の手順や争点について学ぶ。

卒後教育：医療安全に関する院内の各種講習会、医療安全管理レポートの書き方を学ぶ。

(4)　教育方針

卒前教育：臨床現場で発生する様々なトラブルについて、患者の立場、医療者の立場、法曹の立場から分析できるよう、一般的な知識、基礎知識、実践的知識を指導する。病院組織の中でどのようなシステムを作れば最適なルールを形成できるかを指導する。

卒後教育：臨床現場において上述のような分析を行うために、各診療科、診療部門における臨床経験を学び、少なくとも 1 分野で専門医や指導医を取得できるまでに至る。大学院ではそれらの経験を活かし、研究を行う。

(5)　臨床活動および学外活動

臨床活動：医療安全ラウンド、医療安全定例会、影響度レベル 3b 以上の解析、医療安全管理委員会、死亡退院事例検証会、MM カンファレンス、モニターアラームコントロールチーム、高難度新規医療技術審査委員会、未承認新規医薬品審査委員会、厚生労働省立ち入り検査、東京都立ち入り検査、外部監査、病院機能評価

学外活動：国立大学附属病院医療安全管理協議会、東京地方裁判所　医科幹事会、医療界と法曹界の相互理解のためのシンポジウム、最高裁判所　司法研修所、医療の質 · 安全学会、医療安全学会、医療安全推進学会、センター調査、他院の内部事故調査委員会、International Association of Risk Management in Medicine、Journal of Medical Safety

(6)　臨床上の特色

医療安全管理委員会　14 回
事故調査委員会　6 事例
ワーキンググループ　12
MM カンファ 1 回
死亡退院事例検証　591 件
３ｂ以上の事例検証　341 件
高難度新規医療技術の申請件数 9 件（許可数 8 件）
未承認新規医薬品の申請 105 件（許可数 97 件）
外部監査 2 回
厚生労働省/東京都　立ち入り検査 1 回
病院機能評価 1 回
国立大学病院　相互ピアレビュー 1 回
国立大学病院　相互チェック 1 回
医療安全に係る各委員会からの説明と報告を受け、内容の精査
医療事故防止方策の検証 · 実施、各種マニュアルの策定及び研修等
安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討
安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導
等

(7)　研究業績

[原著]

1. Hiromune Katsuda, Masanori Kobayashi, Go Ito, Ami Kawamoto, Susumu Krimura, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. Evaluating endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for diagnosis of small pancreatic neuroendocrine neoplasms. Endosc Int Open. 2024.11; 12(11); E1379-E1385

2. Kudo Atsushi, Toba Mikayo, Morishita Koji, Nishiyama Akira, Fujii Yasushisa, Uchida Shinichi, Okawa Atsushi. DRAMATIC CHANGES IN HOSPITAL SYSTEMS DUE TO THE COVID-19 PANDEMIC HAVE INCREASED THE NUMBER OF INCIDENT REPORTS PER 1000 INPATIENTS: A SINGLE-CENTER RETROSPECTIVE STUDY(タイトル和訳中) Journal of Medical Safety. 2024.11; 2024; 40-50

3. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Satoru Egawa, Shingo Morishita, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Atsushi Kudo, Kiyohide Fushimi. Trends in the surgical treatment for metastatic spinal tumor in Japanese administrative data between 2012 and 2020. Int J Clin Oncol. 2024.07; 29(7); 911-920

4. Yamada Kentaro, Yoshii Toshitaka, Toba Mikayo, Egawa Satoru, Morishita Shingo, Matsukura Yu, Hirai Takashi, Kudo Atsushi, Fushimi Kiyohide. 2012〜2020 年の日本の診療情報データにみられる転移性脊椎腫瘍に対する外科治療の傾向 (Trends in the surgical treatment for metastatic spinal tumor in Japanese administrative data between 2012 and 2020) International Journal of Clinical Oncology. 2024.07; 29(7); 911-920

5. Kinowaki Y, Fukumura Y, Kawade G, Sugita K, Kinowaki K, Akahoshi K, Kobayashi M, Ono H, Kudo A, Tanabe M, Akashi T, Ohashi K, Kurata M. Gene expression profiling of pancreatic neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm. Gene. 2024.01; 893; 147916

1. 鳥羽 三佳代, 工藤 篤, 伏見 清秀. 【整形外科医療安全のすべて】(I 章) 総論　医療の質評価と医療安全 整形外科. 2024.05; 75(6); 530-533

[総説]

1. 竹内 将, 石川 喜也, 浅野 大輔, 菅原 俊喬, 渡邊 秀一, 上田 浩樹, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 【外科医必携　患者さんとのトラブルを防ぐためのハンドブック】胆嚢摘出術における医療安全と患者説明 臨床外科. 2024.03; 79(3); 322-327

2. 浅野 大輔, 石川 喜也, 菅原 俊喬, 渡邊 秀一, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 手術器具 · 手術材料　私のこだわり　肝胆膵領域における新世代多自由度鉗子の使用経験　もし腹腔鏡手術鉗子に関節があったなら 臨床外科. 2024.03; 79(3); 340-343

[講演 · 口頭発表等]

1. 工藤 篤. 医療裁判に対する医療従事者の意見. 令和 6 年度医療機関、弁護士会及び裁判所協議会 2024.12.12 東京

2. 工藤 篤. 医療安全 Q1　2024 年報告　. 第 38 回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会 2024.12.11 佐賀

3. 工藤 篤. 我が国の医療安全保障. 第 38 回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会 2024.12.10 佐賀

4. 工藤 篤. 関東甲信越地区会議報告. 第 38 回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会 2024.12.10 佐賀

5. 工藤 篤. 医療安全管理体制と事故調査. 令和 6 年度茨城県医療安全研修会 2024.12.08 水戸

6. 工藤 篤、武田浩文、鳥羽美佳代、森脇睦子. 薬剤師歴が影響したインシデントの特徴と傾向 ～14 年分の医療事故情報収集等事業データを用いた検討～. 第 19 回医療の質 · 安全学会学術集会 2024.11.30 横浜市

7. 工藤 篤. 肝転移治療の進歩. 第 86 回日本臨床学会外科学会学術集会 2024.11.21

8. 工藤 篤. 裁判に関する医療界の見解. 医療界と法曹界の相互理解のためのプログラム 2024.10.16 東京

9. Masahiro Yamane, Shohei Motohashi, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. The value of ablation therapy combined with surgical resection for neuroendocrine liver metastasis. ILLS 2024 in Kyoto 2024.10.01 Kyoto

10. Yohey Tabe, Suguru Miyazawa, Hiroki Ueda, Daisuke Asano, Yoshiya Ishikawa, Shuichi Watanabe, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Treatment Outcomes of Laparoscopic Partial Hepatectomy with Focus on Difficulty Scoring System. ILLS 2024 in Kyoto 2024.10.01

11. Suguru Miyazawa,Hiroaki Ono, Daisuke Asano,Toshitaka Sugawara, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa,Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo,Sadakatsu Ikeda, Minoru Tanabe. Therapeutic strategy of gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms(GEP-NENs) based on comprehensive genomic profiling tests. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

12. Atsushi Nara, Keiichi Akahoshi, Hiroki Ueda,Koichiro Morimoto, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka,Minoru Tanabe. Usefulness of the Novel Rupture Severity Score (NRSS) in Determining the Timing of Transarterial Embolization (TAE) for Ruptured Hepatocellular Carcinoma. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

13. Akira Ito, Keiichi Akahoshi, Daisuke Asano,Yoshiya Ishikawa, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Hepatectomy After Pancreatoduodenectomy Has a High Risk of Postoperative Complications. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

14. Hiroaki Ono, Daisuke Asano, Toshitaka Sugawara,Shuuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Investigation of the usefulness of TNMG classification in pancreatic neuroendocrine tumors. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

15. Hiroki Ueda, Atsushi Nara, Daisuke Asano,Toshitaka Sugawara, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka,Minoru Tanabe. How does ADL/QOL change before and after liver resection in the elderly?. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

16. Daisuke Asano, Keiichi Akahoshi, Yoshiya Ishikawa,Toshitaka Sugawara, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda,Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. What is the safe and shortest way to learn laparoscopic liver surgery? DSS-based training system and safety use of CUSA. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

17. Shouhei Motohashi, Daisuke Asano, Toshitaka Sugawara,Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono,Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. The optimal surgical treatment strategy in patients of pancreatic body/tail NETs with liver metastases. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

18. Teruchika Koyama, Toshitaka Sugawara, Daisuke Asano,Yoshiya Ishikawa1, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda,Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka,Minoru Tanabe. Prognostic factors for pancreatic ductal adenocarcinoma after resection and its predictive model.. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

19. Miyazawa Suguru, Ono Hiroaki, Asano Daisuke, Sugawara Toshitaka, Watanabe Shuichi, Ishikawa Yoshiya, Ueda Hiroki, Akahoshi Keiichi, Kudo Atsushi, Ikeda Sadakatsu, Tanabe Minoru. HBP 癌に対するゲノム情報を活用した外科的治療の経験　包括的ゲノムプロファイリング検査に基づく膵消化管神経内分泌腫瘍 (GEP-NEN) の治療戦略 (Experience with genome-informed surgical treatment of the HBP cancer　Therapeutic strategy of gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms(GEP-NENs) based on comprehensive genomic profiling tests). 日本肝胆膵外科学会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.06.01

20. Koyama Teruchika, Sugawara Toshitaka, Asano Daisuke, Ishikawa Yoshiya, Watanabe Shuichi, Ueda Hiroki, Akahoshi Keiichi, Ono Hiroaki, Kudo Atsushi, Tanaka Shinji, Tanabe Minoru. 生物学的切除可能境界膵癌　膵管腺癌切除後の予後予測因子とその予測モデル (Biological Borderline Resectable Pancreatic Cancer　Prognostic factors for pancreatic ductal adenocarcinoma after resection and its predictive model). 日本肝胆膵外科学会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.06.01

21. Nara Atsushi, Akahoshi Keiichi, Ueda Hiroki, Morimoto Koichiro, Asano Daisuke, Watanabe Shuichi, Ishikawa Yoshiya, Ono Hiroaki, Kudo Atsushi, Tanaka Shinji, Tanabe Minoru. 破裂した肝細胞癌に対する肝動脈塞栓療法 (TAE) の実施時期の決定における Novel Rupture Severity Score(NRSS) の有用性 (Usefulness of the Novel Rupture Severity Score(NRSS) in Determining the Timing of Transarterial Embolization(TAE) for Ruptured Hepatocellular Carcinoma). 日本肝胆膵外科学会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.06.01

22. Motohashi Shouhei, Asano Daisuke, Sugawara Toshitaka, Watanabe Shuichi, Ishikawa Yoshiya, Ueda Hiroki, Ono Hiroaki, Akahoshi Keiichi, Kudo Atsushi, Tanaka Shinji, Tanabe Minoru. 肝転移を伴う膵体/尾部 NET 患者における至適外科治療戦略 (The optimal surgical treatment strategy in patients of pancreatic body/tail NETs with liver metastases). 日本肝胆膵外科学会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.06.01

23. Asano Daisuke, Akahoshi Keiichi, Ishikawa Yoshiya, Sugawara Toshitaka, Watanabe Shuichi, Ueda Hiroki, Ono Hiroaki, Kudo Atsushi, Tanaka Shinji, Tanabe Minoru. 腹腔鏡下肝手術を安全に最短で習得する方法とは?　DSS ベースのトレーニングシステムと CUSA の安全な使用方法 (What is the safe and shortest way to learn laparoscopic liver surgery? DSS-based training system and safety use of CUSA). 日本肝胆膵外科学会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.06.01

24. Ito Akira, Akahoshi Keiichi, Asano Daisuke, Ishikawa Yoshiya, Watanabe Shuichi, Ueda Hiroki, Ono Hiroaki, Kudo Atsushi, Tanaka Shinji, Tanabe Minoru. 膵頭十二指腸切除術後の肝切除は術後合併症のリスクが高い (Hepatectomy After Pancreatoduodenectomy Has a High Risk of Postoperative Complications). 日本肝胆膵外科学会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.06.01

25. Ueda Hiroki, Nara Atsushi, Asano Daisuke, Sugawara Toshitaka, Watanabe Shuichi, Ishikawa Yoshiya, Akahoshi Keiichi, Ono Hiroaki, Kudo Atsushi, Tanaka Shinji, Tanabe Minoru. 高齢者における肝切除前 · 後の ADL/QOL はどのように変化するのか?(How does ADL/QOL change before and after liver resection in the elderly?). 日本肝胆膵外科学会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.06.01

1. 小野宏晃、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤 篤、赤星径一. 進行性膵消化管神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の評価および臨床有用性の検討. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.24

2. 上田浩樹、田村華子、田部遥平、吉井淳一郎、奈良 篤、浅野大輔、石川喜也、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 肝胆道シンチグラフィ所見に基づいた術後胆管炎の治療戦略. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.23 宇都宮

3. 小方理紗子、吉井淳一郎、浅野大輔、小野宏晃、田村華子、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 切除不能な神経内分泌癌を合併する胆嚢腺癌およびリンパ節転移に対して術前化学療法が奏功し、conversion 手術を施行した 1 例. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21 宇都宮

4. 石川喜也、浅野大輔、上田浩樹、渡辺秀一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 腹腔鏡下膵体尾部切除で技術認定を取得するための取り組み. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21 宇都宮

5. 浅野大輔、石川喜也、、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、伴大輔. 当科における腹腔鏡下膵体尾部切除の定型化〜技術認定審査の実際と対策. 第 16 回膵臓内視鏡外科研究会 2024.11.20

6. 浅野大輔、石川喜也、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、伴大輔. 腹腔鏡下ならびにロボット支援下肝切除における安定した肝離断を目指して. 第 18 回肝臓内視鏡外科研究会 2024.11.20 宇都宮

7. 上原 佳代子, 山田 賢太郎, 塚田 さよみ, 小野 和代, 鳥羽 三佳代, 工藤 篤. 硬膜外麻酔後の看護師による観察の院内統一プロトコール策定の取り組み　硬膜外麻酔後の硬膜外血腫による下肢麻痺症例の経験から. 医療の質 · 安全学会学術集会プログラム · 抄録集 2024.11.01

8. 武田 浩文, 鳥羽 三佳代, 森脇 睦子, 工藤 篤. 薬剤師歴が影響したインシデントの特徴と傾向　14 年分の医療事故情報収集等事業データを用いた検討. 医療の質 · 安全学会学術集会プログラム · 抄録集 2024.11.01

9. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 工藤 篤, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頸椎前方手術後の気道閉塞に対する医療従事者の action protocol の提案　症例報告を中心としたシステマティックレビュー. 医療の質 · 安全学会学術集会プログラム · 抄録集 2024.11.01

10. 本橋 翔平, 浅野 大輔, 小林 正典, 菅原 俊喬, 渡邊 秀一, 石川 喜也, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 赤星 径一, 田中 真二, 工藤 篤, 田邉 稔. ERGBD による急性胆嚢炎加療後に待機的に腹腔鏡下胆嚢摘出を施行した 2 例. 日本臨床外科学会雑誌 2024.10.01

11. 本橋 翔平, 浅野 大輔, 小林 正典, 菅原 俊喬, 渡邊 秀一, 石川 喜也, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 赤星 径一, 田中 真二, 工藤 篤, 田邉 稔. ERGBD による急性胆嚢炎加療後に待機的に腹腔鏡下胆嚢摘出を施行した 2 例. 日本臨床外科学会雑誌 2024.10.01

12. 上田浩樹、浅野大輔、石川喜也、渡辺秀一、小野宏晃、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 肝胆道シンチグラフィに基づいた膵頭十二指腸切除後胆管炎の治療戦略. 第 51 回日本膵切研究会 2024.08.31 奈良

13. 石川喜也、浅野大輔、奈良 篤、渡辺秀一、上田浩樹、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 低侵襲膵切除における膵臓リンパ流の可視化を目指した探索的研究（Panc-ICG 試験）. 第 51 回日本膵切研究会 2024.08.31 奈良

14. 小野宏晃、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤 篤、赤星径一. 転移性 NEN に対する新たな外科治療戦略. 第 12 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2024.08.24 札幌市

15. 浅野大輔、菅原俊喬、小野宏晃、本橋翔平、鳥翔大郎、石川喜也、渡辺秀一、上田浩樹、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 神経内分泌腫瘍肝転移の手術適応：手術の利益を最大化するために. 第 12 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2024.08.24 札幌

16. 小野宏晃、菅原俊喬、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 進行性膵消化管神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の有用性の検討. 第 55 回日本膵臓学会大会 2024.07.25 宇都宮

17. 小野宏晃、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の有用性の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

18. 上田浩樹、菅原俊喬、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、小野宏晃、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 高齢者の膵頭十二指腸切除術前後の ADL/QOL はどう推移するのか. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

19. 森本紘一朗、赤星径一、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 多発膵神経内分泌腫瘍の臨床的特徴と治療戦略. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

20. 石川喜也、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 腹腔鏡からロボットへ〜当科における術野展開、SMA アプローチの変遷〜. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

21. 赤星径一、進藤潤一、高見澤駿斗、渡辺秀一、鳶翔大郎、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、國土典宏、田邉稔. 肝細胞癌における腫瘍学的切除可能性分類提唱とその意義. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

22. 森本 紘一朗, 赤星 径一, 浅野 大輔, 渡辺 秀一, 石川 喜也, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 多発膵神経内分泌腫瘍の臨床的特徴と治療戦略. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

23. 小野 宏晃, 浅野 大輔, 菅原 俊喬, 渡辺 秀一, 石川 喜也, 上田 浩樹, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の有用性の検討. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

24. 赤星 径一, 進藤 潤一, 高見澤 駿斗, 渡邊 秀一, 鳶 翔大郎, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 國土 典宏, 田邉 稔. 肝胆膵　Borderline Resectable(BR)HCC の治療戦略　肝細胞癌における腫瘍学的切除可能性分類提唱とその意義. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

25. 浅野 大輔, 菅原 俊喬, 本橋 翔平, 鳶 翔大郎, 石川 喜也, 渡邊 秀一, 上田 浩樹, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 肝転移を伴った膵神経内分泌腫瘍の治療戦略　肝転移を伴う NET 患者における手術適応の検討. 膵臓 2024.07.01

26. 小野 宏晃, 菅原 俊喬, 浅野 大輔, 渡辺 秀一, 石川 喜也, 上田 浩樹, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 進行性膵消化管神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の有用性の検討. 膵臓 2024.07.01

27. 上田 浩樹, 菅原 俊喬, 浅野 大輔, 渡辺 秀一, 石川 喜也, 小野 宏晃, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 高齢者の膵頭十二指腸切除術前後の ADL/QOL はどう推移するのか. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

28. 石川 喜也, 浅野 大輔, 菅原 俊喬, 渡辺 秀一, 上田 浩樹, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 腹腔鏡からロボットへ　当科における術野展開,SMA アプローチの変遷. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

29. 伊藤 晃, 小野 宏晃, 浅野 大輔, 石川 喜也, 渡邊 秀一, 上田 浩樹, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 膵癌における Gemcitabine に対する CDK4/6 阻害の影響. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

30. 山根聖弘、石川喜也、浅野大輔、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 膵体尾部切除術後遅発性膵液瘻の発生頻度とリスク因子解析. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 名古屋

31. 宮澤傑、上田浩樹、本橋翔平、小山照央、山根聖弘、竹内将、鳶翔大郎、伊藤晃、奈良 篤、山下宏成、森本紘一朗、浅野大輔、菅原俊喬、石川喜也、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. Difficulty Score に着目した腹腔鏡下肝部分切除術の治療成績. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋

32. 小野宏晃、小川康介、伊藤剛、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 膵臓癌の新規抗がん剤を同定する薬剤スクリーニングと細胞周期解析に基づく薬剤メカニズム検証および前臨床試験的実験モデルによる臨床応用性を評価する複合的実験モデルの構築. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋市

33. 上田浩樹、本橋翔平、小山照央、山根聖弘、竹内将、鳶翔大郎、伊藤晃、奈良 篤、山下宏成、森本紘一朗、浅野大輔、菅原俊喬、石川喜也、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 膵頭十二指腸切除術前後の ADL/QOL の経時的変化. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋

34. 本橋翔平、浅野大輔、小野宏晃、森本紘一朗、石川喜也、渡辺秀一、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. Ablation を併用した神経内分泌腫瘍多発肝転移に対する積極的治療戦略. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋

35. 石川喜也、上田浩樹、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔 . 膵頭十二指腸切除における胆管の切離 · 再建する高さが術後胆管関連合併症に与える影響 . 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 名古屋

36. 小山照央、石川喜也、浅野大輔、上田浩樹、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤篤、田中真二、田邉稔. 低侵襲膵頭十二指腸切除術における肝十二指腸間膜郭清の工夫と注意すべき右胃動静脈の走行. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 名古屋

37. 本橋 翔平, 浅野 大輔, 小野 宏晃, 森本 紘一朗, 渡邊 秀一, 石川 喜也, 上田 浩樹, 赤星 径一, 田中 真二, 工藤 篤, 田邉 稔. Ablation を併用した神経内分泌腫瘍多発肝転移に対する積極的治療戦略. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

38. 宮澤 傑, 上田 浩樹, 本橋 翔平, 小山 照央, 山根 聖弘, 竹内 将, 鳶 翔太郎, 伊藤 晃, 奈良 篤, 山下 宏成, 森本 紘一朗, 浅野 大輔, 菅原 俊喬, 石川 喜也, 渡辺 秀一, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. Difficulty Score に着目した腹腔鏡下肝部分切除術の治療成績. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

39. 小山 照央, 石川 喜也, 浅野 大輔, 渡邊 秀一, 上田 浩樹, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 低侵襲膵頭十二指腸切除術における肝十二指腸間膜郭清の工夫と注意すべき右胃動静脈の走行. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

40. 工藤 篤. 公衆衛生倫理における資源配分と医療の自己決定権のバランス　世界保健規則の改訂における基本的人権と公衆衛生. 日本医療安全学会学術総会抄録集 2024.04.01

41. 工藤 篤. 用語編纂委員会企画: インシデント分類の標準化の必要性　国立大学医療安全管理協議会における「インシデント」に係る指標計測の課題. 日本医療安全学会学術総会抄録集 2024.04.01

42. 山根 聖弘, 石川 喜也, 浅野 大輔, 渡邊 秀一, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 膵体尾部切除術後遅発性膵液瘻の発生頻度とリスク因子解析. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

43. 小野 宏晃, 小川 康介, 伊藤 剛, 浅野 大輔, 渡辺 秀一, 石川 喜也, 上田 浩樹, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 膵臓癌の新規抗がん剤を同定する薬剤スクリーニングと細胞周期解析に基づく薬剤メカニズム検証および前臨床試験的実験モデルによる臨床応用性を評価する複合的実験モデルの構築. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

44. 石川 喜也, 上田 浩樹, 浅野 大輔, 菅原 俊喬, 渡辺 秀一, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 膵頭十二指腸切除における胆管の切離 · 再建する高さが術後胆管関連合併症に与える影響. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

45. 上田 浩樹, 本橋 翔平, 宮澤 傑, 小山 照央, 山根 聖弘, 竹内 将, 伊藤 晃, 奈良 篤, 鳶 翔大郎, 山下 宏成, 森本 紘一朗, 浅野 大輔, 菅原 俊喬, 渡邊 秀一, 石川 喜也, 小野 宏晃, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 膵頭十二指腸切除術前後の ADL/QOL の経時的変化. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

46. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 工藤 篤, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頸椎前方手術後気道閉塞に対する医療従事者 action protocol 構築. 日本医療安全学会学術総会抄録集 2024.04.01

47. 工藤 篤. 高度情報社会における医療情報の取り扱い-手術ビデオ画像の実際-　大学病院における手術動画の取り扱い. 日本医療安全学会学術総会抄録集 2024.04.01

48. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 工藤 篤, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頸椎前方手術後の気道閉塞に対する症例報告システマティックレビューによる医療従事者の action protocol の提案. Journal of Spine Research 2024.04.01

49. 本橋翔平、浅野大輔、小林正典、菅原俊喬、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、田中真二、工藤　篤、田邉　稔. ERGBD による急性胆嚢炎加療後に待機的に腹腔鏡下胆嚢摘出を施行した２例. 第 871 回外科集談会 2024.03.09 東京

[特許]

1. Atsushi Kudo, Shigeki Arii, Kenjiro Wake, Isao Sakano ORGAN FUNCTION MAINTAINING AND AMELIORATING SOLUTION, 特許番号：PCT/JP2006/304269

2. 工藤篤、有井滋樹　非アルコール性脂肪肝の治療薬のスクリーニング方法　, 特許番号：特開 2006-349457

3. 小杉幸夫, 竹前　忠, 工藤　篤, 志村　孚城. 生体インピーダンス測定装置. , 特許番号：特開 2012-205604

[その他業績]

1. 無, 2024 年 06 月
Moderator,Atsushi Kudo,The 36th Meeting of Japanese Society Hepato-Biliary-Pancreatic Suegery,20240628、Hiroshima

2. 肝臓：肝切除, 2024 年 07 月
工藤篤、座長、第 79 回日本消化器外科学会総会、20240711、下関

3. 肝転移を伴った膵神経内分泌腫瘍の治療戦略, 2024 年 07 月
工藤篤、司会、第 55 回日本膵臓学会大会、20240725、宇都宮

4. 膵臓（症例報告（良性 · 悪性））, 2024 年 10 月
工藤篤、座長、JDDW2024 第 32 回日本消化器関連学会週間、20241031、神戸市

5. 周術期の安全, 2024 年 11 月
工藤篤、座長、第 19 回医療の質 · 安全学会学術集会、20241129、横浜市

老化制御学講座

リハビリテーション医学分野

Department of Rehabilitation Medicine

教授（兼任）吉井俊貴
准教授　酒井朋子
非常勤講師　神野哲也
助教　平尾昌之

大学院生（博士）
高橋裕司
池松幸二
水島靖枝

(1) 分野概要

患者の疾病ではなく、障害を対象として研究する分野。運動機能、高次脳機能などの障害により日常生活動作自立が失われた状況を改善する方法を開拓する。

(2) 研究活動

現在行われている主な研究テーマ
1. 人工関節置換術のリハビリテーション
下肢（股、膝）や上肢（肩）の人工関節全置換術患者の周術期や術後長期にわたるリハビリテーションの最適化のため、術前後の身体 · 関節機能データの解析や、長期にわたる画像診断による筋量評価等を行っている。また、人工股関節全置換術の代表的な術後合併症である人工関節脱臼の予防や、ROM 改善のための効率的なリハビリテーションのための 3 次元動作解析（下記 2 参照）も行っている。これらの一部は、整形外科学分野や運動器外科学分野との共同研究、あるいは他大学との共同研究として進めている。
2. 健常者および障害者の動作解析と歩行分析
日常生活上の様々な動作やスポーツの諸動作の分析を、健常者や種々の患者を対象に行っている。肉眼では発見が困難な異常や特徴を発見し、客観的評価指標を開発することを基本的なテーマとする。これまでに、6 台のカメラにより 3 次元的な動作を計測する PEAK システムや、磁気センサーを用いた FASTRAK システムを用いて報告してきた。さらに、安価で簡便な KINECT システムを用いた評価方法の開発も他大学との共同研究として行っている。現在は、片麻痺患者の転倒予防を目的とした筋電図計と重心動揺計による姿勢制御解析を行っている。
3. スポーツ傷害の治療や予防に向けたバイオメカニクス研究
スポーツ医学診療センターとの共同研究として、トップアスリートを含めたスポーツ傷害患者や健常者を対象に、スポーツにおける種々の動作をバイオメカニクス手法により解析している。
4. リハビリテーションにおける安全管理
ICU をはじめとする超急性期リハビリテーションにおける安全管理について、独自のリハビリテーション実施中止基準を設定し、有効性を前向き後ろ向きに検証している。
5. 重症心身障害児（者）における骨粗鬆症の検討
不動性のみならず様々な理由から骨粗鬆症に陥る重症心身障害児（者）において病態を検討し、有効な骨粗鬆症の治療体系を確立する。

(3) 教育方針

担当科目：リハビリテーション医学、理学療法学、作業療法学、言語療法学
教育方針：リハビリテーション医療全般の臨床を理解した上で研究を行うことを基本とし、臨床上の問題点解決

に焦点を当てた研究手法を習得する。

(4) 臨床活動および学外活動

臨床内容は急性期リハビリテーション医療全般をカバーしている。人工股関節の術後リハビリテーションに関しては早期にゴール（T 字杖歩行）に達するプログラムを開発した。その他整形外科的手術後のリハビリテーションに関しては全般的に早期離床、早期退院が実現しており、常に国内で最短日数での回復が得られるよう工夫を続けている。急性期脳卒中の早期リハ開始や、ICU における early mobilization にも力を入れている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Ryo Onuma, Fumihiko Hoshi, Hiroshi R Yamasaki, Ryosuke Tozawa, Tomoko Sakai, Tetsuya Jinno. Association between freezing of gait and anticipatory postural adjustments in Parkinson's disease. J Phys Ther Sci. 2024.10; 36(10); 667-671

2. Tomoko Sakai, Masanobu Hirao, Yusuke Takashina, Ryo Kitagawa, Tsutomu Oishi. Radiofrequency echographic multi-spectrometry-based measurement of bone mineral density in patients with severe motor and intellectual disability: An opportunity for patients with severe scoliosis and hip dislocation. Bone Rep. 2024.09; 22; 101781

3. Ohmi T, Katagiri H, Amemiya M, Ikematsu K, Miyazaki M, Koga H, Yagishita K. Gait analysis of patients with knee osteoarthiritis who can run versus cannot run Gait Posture. 2024.07; 112; 67-72

4. Ryo Onuma, Fumihiko Hoshi, Hiroshi R Yamasaki, Tomoko Sakai, Tetsuya Jinno. New quantitative evaluation of anticipatory postural adjustments using a smartphone in patients with Parkinson's disease. Physiother Theory Pract. 2024.05; 40(5); 1022-1027

5. Ryo Onuma, Hiroshi R Yamasaki, Fumihiko Hoshi, Ryosuke Tozawa, Yuki Soutome, Tomoko Sakai, Tetsuya Jinno. Analysis of the characteristics of anticipatory postural adjustments in older adults using smartphones: Association between cognitive and balance functions. Gait Posture. 2024.05; 112; 115-119

6. Tomoko Kawasaki, Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Tomoko Sakai, Kenji Hirohata, Taiichi Koseki, Hironobu Kuruma, Atsushi Okawa, Tetsuya Jinno. Characteristics of head and neck alignment and function of deep cervical flexor muscles in patients with nonspecific neck pain Journal of Bodywork and Movement Therapies. 2024.03; 39; 565-571

7. Tomoko Sakai. Serum 25(OH)D and vitamin K1 levels in patients with severe motor and intellectual disability: A Japanese single-center experience Brain and Development. 2024;

1. 安藤 美貴子, 岩原 由樹, 平尾 昌之, 尾臺 珠美, 関口 将軌, 寺内 公一, 宮坂 尚幸. 妊娠中期に発症し,MRI で診断した一過性大腿骨頭萎縮症の 1 例 関東連合産科婦人科学会誌. 2024.11; 61(4); 384-391

2. 平尾昌之. リハビリテーション診療に役立つ関節 MRI の診かた (第 4 回)　股関節の MRI 総合リハビリテーション. 2024.07; 52(7); 773-778

3. 酒井 朋子, 高階 祐輔, 平尾 昌之. 重症 COVID-19 患者に対するリハビリテーション診療 —急性期から社会復帰まで— The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine. 2024.05; 61(5); 390-397

4. 石田 亮, 小川 英臣, 柴原 格, 辻田 智子, 竹ノ内 美佐江, 岡安 健, 酒井 朋子. TKA 術後早期の Timed up and go test の最小可検変化量の検証 国立大学リハビリテーション. 2024.04; 45; 23-26

5. 永見 倫子, 岡安 健, 平尾 昌之, 酒井 朋子. 多発単神経炎を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例　体成分の変化および筋力 · 歩行能力の推移 国立大学リハビリテーション. 2024.04; 45; 46-49

[講演 · 口頭発表等]

1. 酒井朋子. 重症心身障害児及び障害者の骨粗鬆症について. 第 49 回 日本重症心身障害学会学術集会 2024.11.08 神戸

2. 片見奈々子、永野加奈子、平尾昌之、小笠原浩気. 新生児科における理学療法処方基準の見直しに向けた検討. 第 11 回 日本小児理学療法学会学術大会 2024.11.02 福島

3. 南條 恵悟, 金山 竜沢, 奥山 裕之, 池田 崇, 酒井 朋子, 神野 哲也. 両側人工膝関節全置換術後患者の階段昇降に必要な膝伸展筋力と膝関節屈曲角度. 第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会 2024.09.15 横浜

4. 古谷 英孝, 廣幡 健二, 見供 翔, 藤澤 俊介, 星野 雅洋, 酒井 朋子, 神野 哲也. 脊椎固定術後患者の Lumbar Stiffness Disability Index と体幹および股関節可動域の関連. 第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会 2024.09.14 横浜

5. 酒井朋子. 運動療法と神経障害性疼痛の管理. 第 18 回西多摩 · 痛みのセミナー 2024.07.04 東京

6. 椙田麻奈、高階祐輔、平尾昌之、酒井朋子、上條義一郎 . 産後に確知された神経膠腫に対する覚醒下開頭腫瘍摘出術の周術期リハビリテーション治療経験. 第 61 回 日本リハビリテーション医学会学術集会 2024.06.13 横浜

7. 北川諒、高階祐輔、平尾昌之、酒井朋子. 非回診アプローチが術後リハビリテーション治療に及ぼす影響について. 第 61 回 日本リハビリテーション医学会学術集会 2024.06.13 横浜

8. 平尾昌之、酒井朋子. 股関節疾患に対するリハビリテーション治療の意義と注意点 術前から術後まで . 第 61 回 日本リハビリテーション医学会学術集会 2024.06.13 横浜

9. 大沼 亮, 星 文彦, 大垣 光太郎, 酒井 朋子, 神野 哲也. パーキンソン病患者におけるすくみ足と筋活動の関連. 第 65 回日本神経学会学術大会 2024.05.29 東京

10. 酒井朋子. 重症心身障がい児及び障がい者に対するリハビリテーション治療. 第 10 回 青森県リハビリテーション医学研究会 2024.03.03 青森

11. 北川 諒、高階 祐輔、平尾 昌之、酒井 朋子. 副神経麻痺による肩甲異常運動に対して肩関節装具を処方し改善を認めた一例. 第 80 回 日本リハビリテーション医学会関東地方会学術集会 2024.03.03 東京

[その他業績]

1. Progress in Rehabilitation Medicine Top cited article 2023, 2024 年 04 月
2023 年 引用数最多論文
タイトル：Rehabilitation for Patients with COVID-19: A Japanese Single-center Experience
著者：Tomoko Sakai, Chisato Hoshino, Masanobu Hirao, Reiko Yamaguchi, Rui Nakahara, Atsushi Okawa
https://doi.org/10.2490/prm.20210013

[社会貢献活動]

1. 日本災害リハビリテーション支援協会 (JRAT) 能戸沖地震災害支援対策本部, 日本災害リハビリテーション支援協会 (JRAT), 2024 年 01 月 09 日 - 2024 年 03 月 31 日

高齢者歯科学分野

Department of Gerodontology and Oral Rehabilitation

教授　金澤　学
准教授　猪越　正直
准教授　駒ヶ嶺　友梨子
講師　濵　洋平
助教　柏﨑　健汰
助教　宮安　杏奈
助教　本村　一朗
助教　中井　啓人
助教　大沼　啓
助教　添田　ひとみ
助教　副田　弓夏
非常勤講師　秋山　洋
非常勤講師　馬場　優也
非常勤講師　羽田　多麻木
非常勤講師　波多野　恵太
非常勤講師　早川　和花子
非常勤講師　平山　大輔
非常勤講師　平塚　智裕
非常勤講師　井上　実
非常勤講師　小林　章二
非常勤講師　久保田　一政
非常勤講師　大竹　涼介
非常勤講師　長田　英治
非常勤講師　佐藤　佑介
非常勤講師　清水畑　誠
非常勤講師　鈴木　啓之
非常勤講師　寺中　智
非常勤講師　竹内　周平

非常勤講師
田上　真理子
非常勤講師
高橋　登
非常勤講師
竹内　智
非常勤講師
冨岡　栄二
非常勤講師
上原　容子
非常勤講師
渡辺　昌崇
非常勤講師
渡辺　一騎
非常勤講師
山賀　栄次郎
非常勤講師
山本　真央
非常勤講師
柳原　有依子
非常勤講師
吉嵜　太朗
非常勤講師
米山　武義
大学院生　秋山　洋
大学院生　ＡＵＮＧ　ＳＯＥ　ＭＹＩＮＴ
大学院生　ＢＡ　ＨＴＯＯ　ＣＨＩＴ
大学院生　ＣＨＡＮＧ　ＣＨＵＮ　ＷＥＩ
大学院生　二ッ谷　龍大
大学院生　岩瀬　りさ
大学院生　柏﨑　健汰
大学院生　片田　治子
大学院生　ＫＨＩＮ　ＭＯＥ　ＴＨＵ
大学院生　ＫＨＩＮ　ＰＹＡＥ　ＳＯＮＥ
大学院生　菊田　美穂
大学院生　ＬＩ　ＣＨＥＮＧＺＥ
大学院生　ＬＵ　ＹＩＢＩＮＧ
大学院生　ＬＷＩＮ　ＰＨＹＯ　ＡＵＮＧ
大学院生　松崎　真友子
大学院生　向井　マリコ
大学院生　ＮＡＭＡＮＯ　ＳＡＨＡＰＲＯＭ
大学院生
ＮＧＵＹＥＮ　ＴＨＩ　ＫＨＡＮＨ　ＡＮ
大学院生　岡田　光純
大学院生　ＯＫＫＡＲ　ＫＹＡＷ
大学院生　ＱＩ　ＫＥＹＵ
大学院生　ＲＥＮ　ＸＩＡＮＧＹＵ
大学院生　関本　愉
大学院生　角南　明歩
大学院生　ＴＡＮＧ　ＢＯＨＡＮ
大学院生　ＴＨＥＩＮ　ＳＯＥ
大学院生　上田　圭織
大学院生　ＷＡＮＧ　ＢＯＨＵＡ
大学院生　ＷＵ　ＳＨＡＮＧＬＩＮ
大学院生　ＸＵ　ＫＡＩＱＩ
大学院生　柳原　有依子
大学院生　ＺＨＯＵ　ＷＥＮＭＩＮＧ
医員（歯病）

CHANG CHUN WEI
医員（歯病）
二ッ谷 龍大
医員（歯病）
菊田 美穂
医員（歯病）
角南 明歩
医員（歯病）
上田 圭織
医員（歯病）
山口 皓平

(1) 分野概要

現在の高齢者歯科学分野は、平成 25 年度に全部床義歯補綴学分野と高齢者歯科学分野を統合したものである。加速度的に進行する社会の高齢化に歯科医学の立場から素早くかつ力強く対応できる人材を生み出し、必要なエビデンスを創出するためである。統合前からの教育研究臨床はそのまま継続しているが統合による付加的な効果も生み出している。すなわち全部床義歯に関連する研究、歯科治療時の全身管理に関する研究、加齢による高齢者の口腔の変化に関する研究、高齢者の口腔機能と栄養状態に関する研究など健康長寿社会の実現に大きく寄与する研究を実施している。

(2) 研究活動

1. 咀嚼能力評価法（咀嚼チェックガム）に関する研究
当分野は誰でも，誰にでも使用できることをコンセプトに，当分野では咀嚼能力評価用の色変わりガム（咀嚼チェックガム）を株式会社ロッテとの共同研究において開発した．その効果的な使用法に関する研究を行っている．

2. 口腔機能と全身のフレイルの関連についての縦断的検討
口腔機能と全身健康の関連について多くの研究が行われているが，その縦断的な関連については未だ不明瞭な部分も多い．本研究はその関連因子の網羅的な縦断的調査を行い，因果関係，予防法について検討する．

3. 義歯安定剤の効果に対する義歯不適合の影響
義歯安定剤は，歯科医師の管理の下，適切な状態の義歯に短期間のみであれば使用して良いとされているが，適合不良の義歯に使用した場合のリスク/効果についての報告は少ない．本研究では実験用に不適合とした可撤性義歯を用いて，不適合義歯に対する義歯安定剤のリスク/効果について検討を行う．

4. ミルド全部床義歯
全部床義歯治療において，少ない通院回数，治療の質の均一化，義歯の物性向上を目指すため，患者ごとに人工歯が排列されたカスタマイズドディスクを製作し，最初から義歯床と人工歯が一体化された状態でデンチャーをミリングするという方法『TMDU（Science Tokyo）カスタムディスク法（日本 · 米国特許取得，欧州特許出願中)』を考案した．光学印象から義歯のデザイン · 製作すべてをコンピュータ上で行うが，デンチャーデザインに AI アシストを導入することで，さらなるデジタル化を目指すと同時に，社会実装に向けて準備を行なっている．

5. フルデジタル部分床義歯
全部床義歯の製作で考案した TMDU（Science Tokyo）カスタムディスク法を応用し，患者ごとに排列した既製人工歯と，SLM 法により三次元造形したメタルフレームを埋め込んだ『部分床義歯用カスタムディスク』を製作する方法を考案した．これにより，人工歯部分とメタルフレーム，義歯床部分を一塊でミリングすることができる．ミリングマシンメーカーとの共同研究により，カスタムプレートの適切なデザインの検討や，様々な欠損形態に対応した部分床義歯の製作，臨床応用について検討や評価を進めている．

6. インプラントオーバーデンチャー
下顎無歯顎患者に対するインプラントオーバーデンチャー (IOD) について 2008 年から臨床研究を始め，現在，患者は 100 症例を超え，長い症例は 10 年以上の経過を追っている．
これまでに，ボールアタッチメントや磁性アタッチメント，ミニインプラントを利用した IOD に関する研究や，インプラント埋入位置の検討や義歯の動きなどに関する研究を行ってきた．現在，上顎 IOD についての臨床研究を実施しており，継続してエビデンスの構築を行なっている．

7. 医療機器プログラム
2014 年の「医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保等に関する法律」の施行 により，疾患の診断 · 治療を目的としたソフトウェアが単体で流通することが可能となり，「医療機器プログラム」として規制されることとなった．これにより，医療における様々な分野で医療機器プログラムの開発が進められている．当分野では，不正咬合の患者に対する口腔筋機能療法や，歯周病治療を支援するアプリケーション（医療機器プログラム）を開発しており，対面診察との相乗効果をはじめとした臨床上の効果を検証している．

8. MR デバイスによる歯科インプラント手術支援
我々は，汎用性の高い MR デバイス（HoloLens 2, Microsoft）を用いて，MR（Mixed Reality）でインプラント埋入手術の遠隔指示が行えるシステムの開発を開始した．このシステムにより，大型の装置やモニターを必要とせず，術者は従来通り術野に集中して手術を行いながら，手術経験の浅い術者は，経験豊富な歯科医師からリアルタイムでの指導を受けることが可能となる． また．デジタルデバイスの導入により，これまで数値化されなかった「神の手」すなわち卓越した治療手技（術者の手，ハンドピースやバーの動き）がデータとして蓄積可能となる．

9. 咀嚼トレーニングが歯周病治療と口腔機能に与える効果の検証
歯周病の治療が必要な方を対象として歯周病の治療に加えて咀嚼トレーニングを行うことで，歯周病治療や口腔機能に与える効果を調べる．

10. 摂食前のチューイングガム咀嚼が摂食後の血糖値やホルモンに与える効果の検証
高齢者の方を対象として，摂食前にガム咀嚼を行うことで摂食後の血糖値や消化管ホルモンの分泌に与える効果を調べる．

11. インプラント補綴が認知機能に与える効果の検証
インプラントによる欠損補綴を行う方を対象として，インプラント補綴治療が認知機能に与える効果を縦断的に調べる．

12. 熱溶解積層方式（FDM）によるポリエーテルエーテルケトン（PEEK）の物性評価 · 精度検証
FDM による PEEK は積層方向の違いで物性と精度が異なる可能性がある．また，表面処理の違いで義歯床用流し込みレジンに対する接着強度が異なる可能性がある．本研究は，FDM PEEK が義歯床フレームワークや金属クラスプの代替材料として臨床応用可能か検討するため，3 種類の積層方向による機械的物性評価および精度検証と，3 種類の表面処理による義歯床材料との接着評価を行う．

13. 義歯床用 3D プリント光硬化性樹脂の物性改質
義歯床用 3D プリント光硬化性樹脂は低機械的物性であり，義歯床破折や義歯床のプリント層への汚れの付着などの問題があった．本研究では，ナノジルコニア，セルロースナノファイバー，リン酸亜鉛フィラーなどのフィラーを添加し，義歯床用 3D プリント光硬化性樹脂の低機械的物性や汚れ付着を改善することを目的とする．

14. Smoothed Particle Hydrodynamics（SPH）法を用いた歯科材料の挙動解析
大変形する物体の数理学的解析ができる SPH 法を用い，材料挙動に関するコンピューターシミュレーションを行っている．これにより，軟質裏装材や接着 Br などの歯科材料にかかる応力分布を解析し，最適な適用方法や力学的特性を明らかにしている．

15. PEEK ブリッジ臨床試験
従来の金属クラウンに代わりうる新しい材料として注目されているポリエーテルエーテルケトン（PEEK）に関し，未だ保険適応ではない 3 ユニットブリッジの成功率 · 生存率を明らかにする臨床試験を行っている．

16. 歯科治療に加えてスマートフォンアプリを使用した食事指導が食品 · 栄養摂取に与える効果
近年，医療機関と企業が提携 · 協力して多くの食事記録用アプリが開発されている．食事記録用アプリの一つに，高齢者の食習慣の把握 · 食事指導を目的とした「もぐもぐ日記」がある．当分野では通常の歯科治療に「もぐもぐ日記」を利用した食事指導を加えることによる，高齢者の食品 · 栄養摂取に与える効果についての調査を行っている．

17. 超薄型磁性アタッチメント MTS700 を用いた義歯の安全性及び有効性の評価に関する単群臨床試験
磁性アタッチメントにおける磁石構造体は，通常 1.0〜1.8mm 程度の厚みがあり，十分なデンチャースペースが確保できない症例には適応困難といった問題点が挙げられる ．近年，この問題点の解決策として超薄型磁性アタッチメントが開発されており，当分野では超薄型磁性アタッチメント MTS700 を用いた義歯の安全性及び臨床性能の検討を目的とした臨床試験を行っている．

18. 機械的刺激による口腔乾燥の新たな改善方法に関する研究
機械的刺激によって筋肉や骨への物理的刺激効果が得られるという基礎研究の成果が多数報告されている．本研究では加速度マシンを用い，唾液腺への機械的な刺激を継続的に与えることで，唾液分泌量に与える影響を検討した．

19. 超高透光性ジルコニアの物性の評価
ジルコニアは優れた生体適合性と機械的強度を有し，修復材料として広く普及しているが，透光性の低さから前歯部での使用には制約が生じる．そこで，3Y-TZP よりもイットリアの含有量が多く，透光性の高いイットリア部分安定化ジルコニア（4-6YSZ）の透光性，機械的強度，微小構造，結晶構造，低温劣化に関する研究を行っている

20. フルデジタルノンメタル部分床義歯の開発
PEEK によるフレームワークと弾性を有する熱可塑性樹脂を用いてフルデジタルで製作するノンメタル部分床義歯の開発を行っている．それに伴い，PEEK と熱可塑性樹脂の物性評価も行っている．

(3) 教育活動

高齢社会における人間の健康維持を目的に，人間として避けてとおることのできない老化という現象を中心に捉え，高齢者の歯科医療に関連する臨床各科目の総合化と基礎領域を包括した学問の教育を目指している．疾病単位で患者を診るのではなく，日常生活を含めて包括的に診ることに力点を置いている．また，無歯顎という特殊な口腔内状態を理解し，歯の喪失により生じた形態的，機能的変化を全部床義歯によりいかに回復し維持するかを理解するとともに，全部床義歯製作法の基礎技術を習得することを目指し，講義，模型実習および臨床実習を通して指導を行っている．

(4) 臨床上の特色

高齢者歯科外来：有病高齢者の包括的な歯科治療を行っている．また，医系診療部門から様々な全身疾患を合併する高齢者も数多く紹介されている．なかでも心臓弁膜疾患や先天性心疾患などで開心術を要する重篤な患者の紹介が多い．このような患者の包括的な歯科治療を安全に行うために，循環系偶発症の予防と対応に重点を置いている．すなわち，医学的知見に基づいた予防措置，ホルター心電図などを用いたモニタリング，全身的偶発症発生時の対応などの専門的な医学的管理を行っている．また，観血的処置を行うハイリスク患者については，毎朝の術前カンファレンスを通して，チーム全員でリスクマネジメントを徹底している．

義歯科：無歯顎という特殊な口腔内状態に生じた形態的，機能的変化を全部床義歯によって回復し維持するためには，独自な口腔内診査と義歯設計を行わなければならない．具体的には，全部床義歯は口腔内への維持を歯に求められないので，口腔粘膜と義歯床面との唾液を介する付着力に頼らなければならない．全部床義歯にかかる咬合力は義歯床を介して床下粘膜によって支持されるため，義歯床の安定をはかるために上下顎堤の対向関係を考慮し，顎運動と調和した人工歯の配列と咬合様式の付与を行う必要がある．歯および歯の支持組織の欠損による無歯顎者の顔貌の大きな変化を全部床義歯によって回復するにあたり，義歯周囲の筋および関連軟組織の形態や動態との調和を図り，義歯の維持を向上させる形態とする．また歯の喪失および大きな補綴物が口腔内に装着されることによる患者の心理的負担を考慮して応対に注意する必要がある．このような精神状態を含めた全身状態の変化は，口腔粘膜においても変化を生じる可能性が高く，それが義歯の維持，安定の変化，ならびに回復された機能の変化につながる．そのため，定期的リコールを行い，問診や VAS により得られた義歯と機能に対する患者の主観的評価の調査を継続して行い，回復された機能が長期にわたり維持されさらに改善されるよう心がけている．また，当分野独自の評価基準を設け，患者の主観的意見だけでなく EBM に基づいた補綴処置効果の客観的評価も行っている．

(5) 研究業績

[原著]

1. Li X, Liang S, Inokoshi M, Zhao S, Hong G, Yao C, Huang C. Different surface treatments and adhesive monomers for zirconia-resin bonds: A systematic review and network meta-analysis. Jpn Dent Sci Rev. 2024.12; 60; 175-189

2. Okkar Kyaw, Inokoshi M, Kanazawa M. Tribological aspects of enamel wear caused by zirconia and lithium disilicate: A meta-narrative review. Jpn Dent Sci Rev. 2024.12; 60; 258-270

3. Rena Hidaka, Koichiro Matsuo, Misaki Tanaka, Murali Srinivasan, Manabu Kanazawa. Differences in oral hypofunction prevalence and category measures across age groups and sex in Japan: a pilot study. BMC Oral Health. 2024.12; 24(1); 1483

4. Keyu Qi, Tamaki Hada, Xiangyu Ren, Maiko Iwaki, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Effects of different 3Y-TZP nanoparticle concentrations on reinforcing mechanical properties of 3D-printed resin using stereolithography technology. Journal of Prosthodontics. 2024.11;

5. Maiko Iwaki, Yo Akiyama, Keyu Qi, Namano Sahaprom, Keisuke Kohri, Mitsuki Masumoto, Shogo Shibata, Nagame Mizokoshi, Mai Shirai, Hidemasa Shinpo, Chikahiro Ohkubo, Shin-Ichi Usugi, Manabu Kanazawa. Oral health-related quality of life and patient satisfaction using three-dimensional printed dentures: A crossover randomized controlled trial. J Dent. 2024.09; 150; 105338

6. Anna Miyayasu, Maiko Iwaki, Kouichi Enomoto, Manabu Kanazawa. Digital workflow for fabricating an implant-supported overdenture with the custom disk method The Journal of Prosthetic Dentistry. 2024.09;

7. Yamaguchi K, Hama Y, Sasaki Y, Soeda H, Okada M, Futatsuya R, Matsuzaki M, Minakuchi S. Comparison of masticatory performance and oral hygiene status using cream-type denture adhesives and home liners: A cross-sectional study using propensity-score matching. Journal of oral rehabilitation. 2024.08; 51(11); 2427-2434

8. Kitahara S, Shimizu S, Takagaki T, Inokoshi M, Abdou A, Burrow MF, Nikaido T. Dentin bonding durability of four different recently introduced self-etch adhesives. Materials (Basel). 2024.08; 17; 4296

9. Khin Pyae Sone, Hidekazu Takahashi, Maiko Iwaki, Sahaprom Namano, Yuriko Komagamine, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Effect of build orientation on the wear resistance and hardness of denture teeth fabricated using digital light processing: An in vitro study. J Prosthodont Res. 2024.08;

10. Tonprasong W, Inokoshi M, Tamura M, Yoshihara K, Takahashi R, Nozaki K, Wada T, Minakuchi S. Does dental material type influence bacterial adhesion under the same polishing conditions? Direct observation using a fluorescent staining technique: An in vitro study. Dent Mater J. 2024.07; 43(4); 485-494

11. Yohei Hama, Yoshiyuki Sasaki, Hitomi Soeda, Kohei Yamaguchi, Mitsuzumi Okada, Yuriko Komagamine, Norimasa Sakanoshita, Yusuke Hirota, Koji Emura, Shunsuke Minakuchi. Accuracy of newly developed color determination application for masticatory performance: Evaluating color-changeable chewing gum. J Prosthodont Res. 2024.04; 68(4); 650-657

12. Mikami, R; Komagamine, Y; Aoyama, N; Mizutani, K; Sasaki, Y; Iwata, T; Minakuchi, S; Kanazawa, M. Association between occlusal supports and nutritional status in older adults: A systematic review JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2024.04; 19(2); 813-827

13. Kenta Kashiwazaki, Yuriko Komagamine, Yoko Uehara, Mao Yamamoto, Hiroto Nakai, Ngoc Huyen Trang Bui, Hengyi Liu, Sahaprom Namano, Watcharapong Tonprasong, Manabu Kanazawa, Shunsuke Minakuchi. Effect of gum-chewing exercise on maintaining and improving oral function in older adults: A pilot randomized controlled trial. J Dent Sci. 2024.04; 19(2); 1021-1027

14. Onuma H, Inokoshi M, Xu K, Minakuchi S. Fracture strength of porcelain veneer on surface-treated zirconia. Dent Mater J. 2024.03; 43(2); 263-268

15. Katada H, Inokoshi M, Kamijo S, Liu H, Xu K, Kawashita M, Yokoi T, Shimabukuro M, Minakuchi S. Effects of multiple firings on the translucency, crystalline phase, and mechanical strength of highly translucent zirconia. Dent Mater J. 2024.03; 43(2); 294-302

16. Tsunehiro Suzuki, Kenichi Goda, Manabu Ishikawa, Shintaro Yamaguchi, Tomonori Yoshinaga, Masayuki Kondo, Mimari Kanazawa, Yasuhito Kunogi, Takanao Tanaka, Akira Kanamori, Keiichiro Abe, Akira Yamamiya, Takeshi Sugaya, Keiichi Tominaga, Hidetsugu Yamagishi, Hironori Masuyama, Atsushi Irisawa. Risk Factors for Developing Metachronous Superficial Gastric Epithelial Neoplasms after Endoscopic Submucosal Dissection. J Clin Med. 2024.03; 13(6);

17. Li M, Huang S, Willems E, Soete J, Inokoshi M, Van Meerbeek B, Vleugels J, Zhang F. UV-Curing Assisted Direct Ink Writing of Dense, Crack-Free, and High-Performance Zirconia-Based Composites With Aligned Alumina Platelets. Adv Mater. 2024.02; 36(5); e2306764

18. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Hatanaka Y, Mukai T, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Impact of oral health management by nurses and dental professionals on oral health status in inpatients eligible for the Nutrition Support Team: A longitudinal study J Oral Rehabil. 2024.02;

19. Hada T, Komagamine Y, Kanazawa M, Minakuchi S. Fabrication of sports mouthguards using a semi-digital workflow with 4D-printing technology. J Prosthodont Res. 2024.01; 68(1); 181-185

20. Iwaki M,Kanazawa M,Soeda Y,Hada T, Komagamine Y,Minakuchi S . Effect of digital complete dentures manufactured using the custom disk method on masticatory function Heliyon. 2024.01; 10(1); 1-11

21. Komagamine Y, Minakuchi S, Kanazawa M. Does oral rehabilitation improve masticatory performance, food intake and quality of life in a super-aged society? Geriatrics & gerontology international. 2024.01;

22. Namano S, Kanazawa M, Katheng A, Trang BNH, Hada T, Komagamine Y, Iwaki M, Minakuchi S. . Effect of support structures on the trueness and precision of 3D printing dentures: An in vitro study. J Prosthodont Res.. 2024.01; 68; 114-121

[書籍等出版物]

1. 二階堂徹 編著. 猪越正直 分担執筆. CAD/CAM 冠，ジルコニアがとれないための処方箋. クインテッセンス出版, 2024.08 (ISBN : 978-4-7812-1023-0)

2. 濵 洋平，水口俊介. YEARBOOK 2024 患者説明にも自信がつく 今はこうする · こう考える 義歯のケア. クインテッセンス出版株式会社, 2024.01 (ISBN : 978-4-7812-0988-3)

[総説]

1. Y Hama, Sakanoshita N. Utility of the Chewing Gum Method to Evaluate the Masticatory Performance and General Health in Older Adults. Japanese journal of gerodontology. 2024.08; 39(1); 22-24

1. 猪越正直. ジルコニアへの接着法: セラミックス関連材料研究の舞台裏. 接着歯学. 2024.12; 42(4); 131-134

2. 羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤学. 3D プリント義歯の臨床応用ー現状と展望ー 国際歯科学士会日本部会雑誌. 2024.09; 55(1); 33-36

3. 猪越正直. 歯科用ジルコニアの特徴と接着. 日本歯科理工学会誌. 2024.05; 43(2); 79-82

4. 本村一朗, 田中繁一. 極短パルスレーザを用いた天然歯とジルコニア高精度歯科プロセス. FORM TECH REVIEW. 2024.03; 32; 62-68

[講演 · 口頭発表等]

1. Jingrong Wang, Anna Miyayasu, Maiko Iwaki, Roubing Ha, Manabu Kanazawa. Accuracy of 3D-printed castable resin patterns for removable partial denture frameworks using the vacuum-sealed method and heat-treatment. 89th Conference of the Stomatological Society 2024.12.07

2. Okkar Kyaw, Inokoshi M, Kanazawa M. Fracture toughness evaluation of zirconia ceramics through multiple in silico chevron-notch beam models. 89th Conference of the Stomatological Society 2024.12.06 Tokyo

3. Inokoshi M. Overview and future perspectives of dental zirconia research. RWTH - Science Tokyo Joint Workshop on ”TransMedMat” 2024.12.03 Aachen

4. Wu Shanglin, Yuriko Komagamine, Tamaki Hada, Qi Keyu, Nguyen Thi Khanh An, Manabu Kanazawa. Effect of autoclaving post-treatment and thermocycling on the optical and mechanical properties of the 3D-printed denture teeth resin. 2024.12.01

5. Mariko Mukai, Maiko Iwaki, Tamaki Hada, Chun Wei Chang, Masahiro Shimogishi, Eriko Marukawa, Yudai Asai, Masaomi Kanauchi, Yasuo Morinaga, Ayaka Kohama, Yuriko Komagamine, Manabu Kanazawa. Development of database for dental implant surgery using MR devices.. IADR Japanese Division 72nd Annual Meeting 2024.11.15 Kagoshima

6. Hama Y, Futatsuya R, Matsuzaki M, Xiong L, Okada M, Noritake K, Sasaki Y, KanazawaM. Screening of frailty, sarcopenia, and oral hypofunction using color-changeable chewing gum to evaluate masticatory performance. The 10th ASIAN CONFERENCE for FRAILTY AND SARCOPENIA 2024.10.11 Bangkok, Thailand

7. Matsuzaki M, Hama Y, Futatsuya R, Xiong L, Okada M, Noritake K, Sasaki Y, Kanazawa M. The relationship between frailty at baseline and the decline in oral function at one year follow-up. The 10th ASIAN CONFERENCE for FRAILTY AND SARCOPENIA 2024.10.11 Bangkok, Thailand

8. Xiong L, Hama Y, Futatsuya R, Matsuzaki M, Okada M, Noritake K, Sasaki Y, Kanazawa M. The relationship between oral function at baseline and onset of sarcopenia at one year follow-up. The 10th ASIAN CONFERENCE for FRAILTY AND SARCOPENIA 2024.10.11 Bangkok, Thailand

9. Futatsuya R, Hama Y, Matsuzaki M, Xiong L, Okada M, Noritake K, Sasaki Y, Kanazawa M. The association between dietary variety and oral function in older adults. The 10th ASIAN CONFERENCE for FRAILTY AND SARCOPENIA 2024.10.10 Bangkok, Thailand

10. Okkar Kyaw, Inokoshi M, Yamaguchi S, Kanazawa M. In silico analysis of cantilevered resin-bonded fixed dental prostheses. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.05 Turin

11. Inokoshi M. Current status and future prospects of S-PRG filler-containing dental materials in geriatric dentistry. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.04 Turin

12. Sunami A, Inokoshi M, Tamura M, Takahashi R, Kanazawa M. Shear bond strength of relining material containing nano S-PRG filler. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.03 Turin

13. Iwase R, Inokoshi M, Nakai H, Yoshihara K, Kanazawa M. Grain size distribution of machinable fully-sintered dental zirconia. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.03 Turin

14. Kikuta M, Inokoshi M, Yamamoto M, Kanazawa M. Curing time evaluation of 4-META/MMA-TBB resin as restorative materials. Academy of Dental Materials 2024 2024.10.03 Turin

15. Inokoshi M. Impact of S-PRG filler-containing dental materials. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)

16. Okkar Kyaw, Inokoshi M, Yamaguchi S, Minakuchi S. In silico nonlinear dynamic finite element analysis for the evaluation of fracture toughness in zirconia ceramics. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)

17. Sunami A, Inokoshi M, Tamura M, Takahashi R, Hatano K, Minakuchi S. Shear bond strength to denture base resin of novel hard relining material containing S-PRG filler. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)

18. Iwase R, Inokoshi M, Okkar Kyaw, Wang B, Minakuchi S. Basic properties of machinable fully-sintered dental zirconia. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)

19. Nakai H, Inokoshi M, Katada H, Iwase R, Okkar Kyaw, Minakuchi S. Evaluation of extra-high translucent zirconia: translucency, crystalline phase, mechanical properties. The 133rd Annual Meeting of the Japan Prosthodontic Society / The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 hybrid (web, Makuhari)

20. Nguyen Thi Khanh An, Tamaki Hada, Maiko Iwaki, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Effect of different surface treatments on the bond strength between light-cure hard chairside relining material and CAD/CAM milled denture base material. The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 Chiba

21. Ren Xiangyu, Tamaki Hada, Keyu Qi, Maiko Iwaki, Motohiro Uo, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa . Enhancing mechanical properties of photopolymer denture base resins by the incorporation of cellulose nanofibers (CNF). The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.06 Chiba

22. Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Determination of the optimal cell density for immunofluorescence observation of MC3T3-E1 cells on zirconia. The 89th annual meeting and scientific session of the Pacific Coast Society for Prosthodontics 2024.06.21 Monterey

23. Jingrong Wang, Anna Miyayasu, Maiko Iwaki, Roubing Ha, Manabu Kanazawa. Accuracy of 3D-printed castable resin patterns for removable partial denture frameworks using the vacuum-sealed method. Pacific Coast Society for Prosthodontics 2024.06.21

24. Yuriko Komagamine. Interventions for Oral Hypofunction: Occlusal Force and Oral Dryness. 2024.06.07

25. Mayuko Matsuzaki, Yohei Hama, Yuriko Komagamine , Manabu Kanazawa. A survey of multi-generational oral functions: Comparison of occlusal force, tongue pressure, and masticatory performance between generations and sexes. TMDU GRADUATE PROGRAM RETRET 2024.06.07 Tokyo

26. Yuanhua Piao, Maiko Iwaki, Hanano Nagura, Yo Akiyama, Manabu Kanazawa. Verification of denture scan trueness using intraoral scanners. TMDU GRADUATE PROGRAM RETRET. 2024.06.07 Tokyo

27. Anna Miyayasu, Manabu Kanazawa, Maiko Iwaki, Chang Chun Wei, Daisuke Sato, Yuriko Komagamine, Yuriko Kusumoto, Yuka Abe, Kazuyoshi Baba, Shunsuke Minakuchi. A prospective study of implant-assisted removable partial dentures with short implants and magnetic attachments: 3-year results of implant survival rate, implant stability, and patient' s satisfaction. ITI Would symposium 2024 2024.05 Singpore

28. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Kakehata M, Yashiro H, Takahashi R, Yamamoto M, Ikeda M, Minakuchi S. Bonding efficacy to femtosecond laser irradiated highly translucent zirconia ceramic. 102nd General Session & Exhibition of the IADR 2024.03.16 New Orleans

29. Roubing Ha, Tamaki Hada, Yumika Soeda, Motohiro Uo, Manabu Kanazawa. Effect of build orientation on the mechanical and surface properties of FDM fabricated PEEK RPD framework. International Association for Dental Research; IADR 2024.03.13 New Orleans

30. Qi K, Hada T,Ren X, Iwaki M, Minakuchi S, Kanazawa M. Evaluation of mechanical properties and degree of conversion modified 3Y-TZP nanoparticles reinforced stereolithography resin by using different post-polymerization conditions. The 8th Biennial Joint Congress of JPS-CPS-KAP 2024.03.05 China

31. Roubing Ha, Tamaki Hada, Chunwei Chang, Yumika Soeda, Motohiro Uo, Manabu Kanazawa. Effect of build orientation on the flexural properties and surface hardness of RPD PEEK framework fabricated by FDM. The 8th Biennial Joint Congress of JPS-CPS-KAP 2024.03.05

32. Inokoshi M. Potential of lithium disilicate and zirconia: A guide to modern all-ceramic restorations. The 8th biennial congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou

33. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Minakuchi S. Surface roughness of lithium disilicate glass-ceramic after femtosecond laser irradiation. The 8th biennial congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou

34. Sunami A, Inokoshi M, Tamura M, Hatano K, Minakuchi S. Effects of surface pre-reacted glass ionomer (S-PRG) filler elute on Candida albicans ATCC18804 proteinase production. The 8th biennial congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou

35. Hama Y, Yamaguchi K, Okada M, Futatsuya R, Matsuzaki M, Minakuchi S. The chewing gum method to evaluate masticatory performance and general health in older adults.. The 8th biennial congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou, China

36. Yuanhua Piao, Yuriko Komagamine, Shanglin Wu, Mirai Nakayama, Koji Mizutani, Maiko Iwaki, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa . A case report of mastication training using chewing gum for oral hypofunction. 8th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP. 2024.03.04 Guangzhou, China

37. Haoyu Li, Tamaki Hada, Anna Miyayasu, Yo Akiyama, Maiko Iwaki , Manabu Kanazawa. Evaluating the efficacy of flowable composite resin for the custom disk method. 8th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou, China

38. Wu Shanglin, Yuriko Komagamine, Kenta Kashiwazaki, Yo Akiyama, Chang Chunwei, Mariko Mukai, Khin Pyae Sone, Namano Sahaprom, Iwaki Maiko, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Marginal bone loss with single implant-retained mandibular overdenture: three-year follow-up. 8th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04

39. Chun Wei Chang, Manabu Kanazawa, Maiko Iwaki, Daisuke Sato, Anna Miyayasu, Yuriko Komagamine, Yuriko Kusumoto, Yuka Abe, Kazuyoshi Baba, Shunsuke Minakuchi. Patient-reported outcomes of implant-assisted removable partial denture with magnetic attachments: A 3-year progress report. The 23rd International Conference on Magnetic Applications in Dentistry General Information 2024.02.26 Japan

40. Inokoshi M. Current status and future perspectives of dental zirconia ceramics. Asian Network of Dental Materials Societies (ANDeMS) Kickoff Meeting 2024.01.31 Tokyo

1. 張 君瑋，岩城 麻衣子，佐藤 大輔，宮安 杏奈，駒ヶ嶺 友梨子，楠本 友里子，安部 友佳，馬場 一美，金澤 学. 磁性アタッチメントを用いた Implant-Assisted Removable Partial Denture の咀嚼機能 —4 年経過報告—. 第 34 回日本磁気歯科学会学術大会 2024.11.09 千葉

2. 水川祐子，川本章代，羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤 学，高橋一也. 3D プリントシステムと造形角度が義歯床の精確さに及ぼす影響. 令和 6 年度公益社団法人日本補綴歯科学会関西支部学術大会 2024.12.15 大阪

3. 二ッ谷 龍大，濵 洋平，松崎 真友子，Linjing Xiong, 岡田 光純，則武 加奈子，佐々木 好幸, 金澤 学. 高齢者における食生活の多様性と口腔機能の関連 . 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.07 東京

4. 張 君瑋，羽田 多麻木，向井 マリコ，哈 柔冰，副田 弓夏，金澤 学. 熱溶解積層法と切削加工法によるポリエーテルエーテルケトンと常温重合レジンの接着評価. 第 43 回日本接着歯学会学術大会 2024.11.30 鹿児島 奄美大島

5. 岩瀬りさ, 猪越正直, 宇尾基弘, 和田敬広, 金澤　学. サンドブラスト処理圧が切削加工可能な完全焼結ジルコニアの表面粗さに与える影響. 令和 6 年度日本歯科理工学会関東地方会セミナー 2024.11.09 松戸

6. 松崎真友子，濵 洋平，駒ヶ嶺友梨子，添田ひとみ，宮安杏奈，岩城麻衣子，川村 淳，菅野 範，朝田慎也，安藤智教，岡林一登，水口俊介，金澤 学. 多世代を対象とした口腔機能に関する調査研究ー咬合力，舌圧，咀嚼能力の世代 · 性別による比較ー. 日本咀嚼学会 第 35 回学術大会 2024.09.14 千葉

7. 猪越正直. 若手研究者のための英語論文の書き方とコツ. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.07 hybrid (web, 幕張)

8. 駒ヶ嶺友梨子. イブニングセッション 3 補綴歯科医が考える Post コロナ時代のフレイル予防戦略 -食品 · 栄養摂取からフレイルを考える-. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉

9. 水川祐子，川本章代，羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤 学，高橋一也. DLP と LCD 方式 3 D プリンタで製作した義歯の造形角度の違いが精確さに与える影響. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉

10. 内田裕爾，高市敦士，加嶋祐佳，高橋英和，金澤学，若林則幸. 部分床義歯のデジタル化—メタルフレームワークと義歯床の接着方法の検討—. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉

11. 柴田翔吾，武山丈徹，溝越　眺，郡　啓介，桝本光希，白井麻衣，新保秀仁，大久保力廣，Ren Xiangyu，Qi Keyu3，Namano Sahaprom，秋山　洋，岩城麻衣子，金澤　学，水口俊介. 3D プリントと従来法による全部床義歯の咀嚼能力評価：クロスオーバー臨床研究. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉

12. 張 君瑋，羽田 多麻木，哈 柔冰，副田 弓夏，宇尾 基弘，金澤 学，水口 俊介. 熱溶解積層法 3D プリンタで造形した PEEK と義歯床用流し込みレジンの接着評価. 第 133 回日本補綴歯科学会学術大会／ The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics 2024.07.05 千葉

13. 濵　洋平. 咀嚼と健康—スマホでできる！ 咀嚼チェックガム用アプリで咀嚼能力評価—. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.30 札幌

14. 二ツ谷 龍大、濵 洋平、岡田 光純、松崎 真友子、山口 皓平、添田 ひとみ、水口 俊介. 高齢者における口腔機能と摂取可能食品の関連. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.30 札幌

15. 朴媛華, 土田 優美, 金森 ゆうな, 宮安 杏奈, 岩城麻衣子, 金澤学. 支台歯形態に対する主観的評価の定量分析. 日本デジタル歯科学会第 15 回学術大会. 2024.05.11 長崎

16. 秋山　洋，金澤　学，岩城麻衣子，Qi Keyu，Namano Sahaprom，Ren Xiangyu，郡　啓介，柴田翔吾，武山丈徹，桝本光希，溝越　眺，白井麻衣，新保秀仁，大久保力廣，水口俊介. 3D プリント全部床義歯と従来法全部床義歯におけるコスト比較：クロスオーバー型無作為化臨床研究. 日本デジタル歯科学会第 15 回学術大会 2024.05.11 長崎

17. 本村一朗, 田中繁一. 極短パルスレーザを用いた天然歯とジルコニア高精度歯科プロセス. 第 7 回 レーザプロセッシング 助成研究成果発表会 2024.04.24 横浜市

18. 岩瀬りさ, 猪越正直, 片田治子, 水口俊介. 切削加工可能な完全焼結ジルコニアの透光性評価. 第 82 回日本歯科理工学会学術講演会 2024.04.21 鹿児島

19. 中山魅来，秋山 洋，岩城麻衣子，金澤 学. 歯科用 PMMA ブロックの切削条件の違いによる加工面と切削抵抗の比較. 令和 5 年度日本補綴歯科学会東関東支部学術大会 2024.03.17 埼玉

20. 朴媛華, 岩城麻衣子, 名倉花乃, 秋山洋, 金澤学. 口腔内スキャナーを用いた義歯スキャン真度の検証. 第 16 回日本義歯ケア学会. 2024.02.17 仙台

[受賞]

1. 優秀口演賞（朴 媛華）, 日本義歯ケア学会, 2024 年 02 月

2. Excellence Poster (Yuanhua Piao), Society of Prosthodontics, CSA, 2024 年 03 月

3. Arthur R. Frechette Prosthodontic Research Award Finalist (Ha Roubing), 国際歯科研究学会, 2024 年 03 月

4. 優秀発表賞（秋山 洋，他）, 日本デジタル歯科学会, 2024 年 05 月

5. Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Poster Competition Awards (1st Prize), the Pacific Coast Society for Prosthodontics, 2024 年 06 月

6. Wang B, Inokoshi M, Katagiri S, Ohsugi Y, Lin P, Nakai H, Iwata T, Minakuchi S, Kanazawa M. Poster Competition Awards (1st Prize), the Pacific Coast Society for Prosthodontics, 2024 年 06 月

7. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 優秀ポスター賞（二ッ谷）, 2024 年 06 月

8. 岩瀬りさ, 猪越正直, 宇尾基弘, 和田敬広, 金澤　学. 日本歯科理工学会関東地方会研究奨励賞, 日本歯科理工学会, 2024 年 11 月

9. 優秀口演賞受賞 (Wu Shanglin), 2024 年 12 月

[その他業績]

1. 基盤研究 (C)　一般　濵洋平, 2024 年 04 月
口腔機能低下症とフレイルの縦断調査　口腔機能におけるフレイルリスク因子の解明

2. ロッテ財団奨励研究助成　濵洋平, 2024 年 04 月
介護予防のためのスクリーニング法の開発 - 咀嚼チェックガムを用いた自己評価

3. 岩城麻衣子（代表）. 科学研究費（基盤研究（C））, 2024 年 04 月
上顎インプラントオーバーデンチャーは 2 本のインプラントで機能するか? 2021-2024. 4,160 千円

4. 共同研究（小林製薬）　濵洋平, 2024 年 04 月
義歯安定剤の使用量の違いによる効果の解析

5. 若手研究　副田弓夏, 2024 年 04 月
PEEK と弾性を有する熱可塑性樹脂を用いたフルデジタルノンメタル部分床義歯の開発

6. 駒ヶ嶺　友梨子　基盤研究（C) 高齢者における食前ガム咀嚼は血糖値を抑制するか？ , 2024 年 04 月

7. 駒ヶ嶺友梨子　基盤研究（C) 高齢者の認知機能はインプラント補綴により改善されるか？ , 2024 年 04 月

8. AMED, 2024 年 04 月
MR デバイスを用いた歯科インプラント外科手術のデータベース構築と遠隔手術支援に関する基盤構築研究

9. 金澤　学　(松風) 共同研究, 2024 年 04 月
ポリエーテルエーテルケトン（PEEK）を用いた CAD/CAM 法によるノンメタル部分床義歯の開発と検討

10. 金澤　学　(Doctorbook) 共同研究, 2024 年 04 月
医療機器プログラムとしての MFT 治療支援アプリケーションの開発

11. 金澤　学　(LION) 共同研究, 2024 年 04 月
超高齢社会における口腔機能低下症の予防法の確立　—口腔乾燥の治療—

12. 金澤　学　(Doctorbook) 共同研究, 2024 年 04 月
医療機器プログラムとしての歯科治療支援アプリケーションの開発

13. 金澤　学　(キャノン PD) 共同研究, 2024 年 04 月
フルデジタルミリング部分床義歯作成法の開発

14. 金澤　学　(GC) 共同研究, 2024 年 04 月
年代、性別、国による口腔機能の差

15. 金澤　学　(DGSHAPE) 共同研究, 2024 年 04 月
カスタマイズドディスク法を用いて製作した全部床義歯の評価

16. 金澤　学　(エミウム) 共同研究, 2024 年 04 月
デジタルデンチャーにおける CAD の自動化と CAM の最適化

17. 金澤　学　(デンツプライシロナ) 共同研究, 2024 年 04 月
3D プリンティングプロセスの自動化による費用対効果分析

18. 金澤　学　(フィルダクト) 共同研究, 2024 年 04 月
口腔内装置に用いられる素材特性についての調査研究

19. 猪越正直. 世界で最も影響力のある研究者トップ 2% (August 2024 data-update), 2024 年 08 月

20. 羽田多麻木（代表）.『デジタル技術を応用したエアリード楽器ガイドの開発』 , 2024 年 12 月
東京科学大学 · 東京藝術大学マッチングファンド，2024 年 12 月-2025 年 3 月，　500 千円

21. 猪越正直. 二国間交流事業 共同研究 (ドイツ (DAAD) との共同研究), 2024 年 12 月
フェムト秒レーザー加工によるセラミックス製補綴装置の表面改質と軟組織接着の改善
2025-2026

[社会貢献活動]

1. 猪越正直. 日本老年歯科医学会　代議員, 日本老年歯科医学会, 2020 年 06 月 20 日 - 現在

2. 猪越正直. 日本デジタル歯科学会　代議員, 日本デジタル歯科学会, 2020 年 06 月 24 日 - 現在

3. 猪越正直. 日本補綴歯科学会　学術委員会委員, 日本補綴歯科学会, 2021 年 06 月 18 日 - 現在

4. 猪越正直. 日本デジタル歯科学会　教育問題委員会委員, 日本デジタル歯科学会, 2022 年 05 月 - 現在

5. 猪越正直. 日本歯科理工学会　和文誌編集委員会委員, 日本歯科理工学会, 2022 年 05 月 22 日 - 現在

6. 濵　洋平. 咀嚼チェックガム　アプリ監修, 株式会社ロッテ, 咀嚼チェックアプリ, 2022 年 10 月 03 日 - 現在

7. タンパク質摂取と咀嚼能力は、互いに独立してフレイルに関連, 一般社団法人日本スポーツ栄養協会, スポーツ栄養 Web, 2024 年 03 月 14 日 - 2024 年 03 月 29 日

8. 咀嚼と高齢者の口腔機能低下について, 株式会社文化放送, ハートリング健康 Radio, 2024 年 04 月 26 日 - 2024 年 05 月 26 日

9. 貴学附属病院の特徴及び強み, 株式会社セントルシアヘルスケアジャパン, ティンセントニュース, 2024 年 05 月 29 日 - 2024 年 05 月 30 日

10. 成人における食習慣と咀嚼, 日本咀嚼学会フォローアップセミナー　, 2024 年 07 月 21 日

11. 高齢者における食品 · 栄養摂取について, 第 30 回咀嚼と健康ファミリーフォーラム　, 2024 年 11 月 15 日 - 2025 年 01 月 10 日

摂食嚥下リハビリテーション学分野

Department of Dysphagia Rehabilitation

教授　　戸原　玄（トハラ　ハルカ）
准教授　中川　量晴 (ナカガワ　カズハル)
講師　山口　浩平（ヤマグチ　コウヘイ）
助教 吉見　佳那子 (ヨシミ　カナコ)
医員　長澤　祐季（ナガサワ　ユウキ）
医員　柳田　陵介 (ヤナギダ　リョウスケ)
医員　森豊　理英子 (モリトヨ　リエコ)
医員　小森　彩加（コモリ　サヤカ）
大学院生　内田　有俊（ウチダ　アリトシ）
大学院生　Amornsuradech, Sirinthip
大学院生 村瀬　玲奈 (ムラセ　レナ)
大学院生 吉﨑　怜子 (ヨシザキ　レイコ)
大学院生　真山　達也（マヤマ　タツヤ）
大学院生　金井　亮太（カナイ　リョウタ）
大学院生　堀家　彩音（ホリケ　アヤネ）
大学院生　宮地　舞（ミヤジ　マイ）
大学院研究生　田村　厚子（タムラ　アツコ）
大学院研究生　原　　良子（ハラ　ヨシコ）
大学院研究生　亀田　千津子（カメダ　チヅコ）
大学院研究生　八尾　有紀　(ヤオ　ユキ)
大学院研究生　章　　晋躍　（ショウ　シンヤク）
大学院研究生　趙　　茜睿　（チョウ　シエイ）
大学院研究生 李 一釗 (リ イッショウ)
大学院研究生 韋 沁鑫　(イ シンシン)
大学院研究生 邵 偉豪 (ショ イゴウ)
大学院研究生 婁 欣然 (ル キンゼン)
大学院研究生 鄒 天佑 (ス テンユ)
大学院研究生 張 澤 (チョウ ゼ)
大学院研究生 胡 馨月 (フ シンゲツ)

(1)　分野概要

摂食嚥下リハビリテーション学分野は、2020 年 4 月高齢者歯科学分野から独立する形で設立された。超高齢社会日本において、摂食嚥下リハビリテーションを軸とした高齢者医療および障害者医療を実践できる人材の育成を目指している。臨床の対象者は高齢者のみならず成人や小児にも対応し、診療形態は外来患者および在宅や施設療養者への訪問、医学部および歯学部附属病院入院患者への対応、そして近年オンライン診療も開始した。研究は、摂食嚥下機能やその訓練方法に関わるものだけではなく、口腔周囲筋（舌、咀嚼筋、嚥下関連筋）の加齢変化や全身との関連、経口摂取と経管栄養が全身にもたらす影響の違い、質的研究なども行っている。

(2)　研究活動

1) 嚥下障害、口腔機能低下症、オーラルフレイルの評価を目的とした機器の開発
摂食嚥下機能を定量的に評価する機器の開発し、臨床応用を進めている。過去に嚥下機能や口腔機能低下症の簡便な評価を目的とした開口力計を開発し、特許を取得した。現在は、咀嚼時の下顎運動や、噛む力、舌の力といっ

た摂食嚥下に関わる筋肉の力など、これまで評価することが困難であった部分を計測する機器の開発を進めている。また、これらの機器は、嚥下障害のみならず近年重要視されるようになったオーラルフレイルや口腔機能低下症の評価についても応用可能である。

2) 胃ろうモデルラットを用いた栄養学的な検討
高齢者や摂食嚥下障害患者では、誤嚥性肺炎や低栄養を予防するために胃ろうなどの経腸栄養を選択することがある。胃ろうは利点の多い栄養摂取法ですが、一方で慢性的な消化管障害などを生じることがある。そこで、胃ろうモデルラットを作製し、さまざまな種類の栄養剤で飼育し、栄養価、腸内細菌叢などに変化が生じるか探索している。

3) 頚椎疾患患者の嚥下機能の画像解析
頚椎疾患患者においては、比較的多くの術後嚥下障害に関する研究報告がされている。しかしながら、嚥下障害の原因を運動学的に解析した研究は少ない。そこで、本学医学部整形外科学分野との共同研究として、頚椎疾患患者の手術前後の舌骨運動等を嚥下造影検査の画像をもとに解析し、術後嚥下障害の原因を検索している。

4) 脳卒中患者に対する医科歯科連携における総合的研究
脳卒中患者において、医科歯科連携によるその介入効果や口腔機能管理における手法の確立がいまだなされていなかった。そこで本大学医学部附属病院に入院をした脳卒中患者に対し入院後早期に口腔機能管理の介入を行い、急性期肺炎合併率を減少させた。また、脳卒中急性期患者に対するケアマニュアルや医科歯科連携ガイドブックも完成させ、現在は共同研究において多施設における介入効果を検証し、オールジャパンで医科歯科連携における口腔機能管理方法の確立を目指している。

5) 喉頭全摘患者に対する革新的な口腔内装置型代用発声法の開発
喉頭全摘患者は話す機能が大きく障害されることで生活の質を著しく損なわれる。これまで電気式人工喉頭や食道発声法などによる代用発声法が用いられてきたが、手術の必要性や高いコストなど問題点もあった。我々は口腔内に取り外し可能な、従来法とは全く異なる代用発声法の開発、効果検証を進めている。

6) 口腔周囲筋に着目した高齢者の虚弱の解明と新しい機能評価法の確立
フレイルやサルコペニアといった高齢者の虚弱は、すでに世界中で広く認知されている。虚弱の評価は筋量、筋力、身体機能に着目しているが、これまで口腔周囲筋に対して同様の検討は進んでいない。我々は超音波診断装置による筋量評価、専用の計測機器を用いた口腔周囲筋力、機能評価を組み合わせて、口腔周囲筋に生じる虚弱を明らかにし、簡易で臨床応用可能な口腔・嚥下機能評価法の確立を目指している。

7) 嚥下障害患者に対する炭酸とろみの効果検証や 2 段階アングルの内視鏡の開発
嚥下障害患者は水分誤嚥のリスクにより炭酸飲料を摂取できないことが多々ある。一方で、炭酸には嚥下に良い効果があることが報告されているが、炭酸にとろみをつけて摂取させた研究は報告されていない。我々は、とろみをつけた炭酸飲料における炭酸が嚥下動態に与える影響について検証している。また、嚥下機能評価に用いる内視鏡は 30 年近くその形を変えていない。当分野では、従来 1 段階しか屈曲しないシャフト部を改良し、2 段階屈曲可能な内視鏡を開発し、その効果検証をしている。それにより気管後壁の観察が可能となり、誤嚥の検出の精度向上などの有用性が期待される。

8) 蛍光物質を利用した非侵襲の嚥下機能評価機器
嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査は様々な臨床場面で実施されるが、いずれも侵襲性があり、術者の熟練度が検査の正確性や診断に影響する。そのため、簡便で侵襲なく、繰り返し実施可能な新たな検査手法の実用化が求められる。現在、本学と他大学との共同研究として、食品中の蛍光物質の蛍光計測を応用した非侵襲の誤嚥リスク検出システムの開発を進めている。

9) オンライン診療や口腔内スキャナーなど摂食嚥下リハビリテーションのデジタル化の研究
歯科における、デジタル化は着実に進んでる。摂食嚥下リハビリテーションや歯科訪問診療の現場でもその有用性は高いと考えられるが、現在、広く活用されていない。摂食嚥下リハビリテーションや訪問診療におけるオンライン診療やデジタル機器（特に、口腔内スキャナー）の有用性の検証、臨床に適した新たな機器開発などに取り組んでいる。

(3) 教育活動

今後、ますます進む高齢社会において、摂食嚥下リハビリテーションなどを通じて、医療や介護、そして世間に貢献できる人材の輩出に取り組んでいる。学部教育では、摂食嚥下に関わる座学はもちろんのこと、在宅、施設、ま

たは病院への訪問診療の同行を通じて、現場での多職種連携などについて学ぶ機会を提供している。その他、コロナ対策で学生や研修医の動向見学が困難な訪問診療の場面にはオンラインを生かした教育を開始した。

(4) 臨床活動および学外活動

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査による摂食嚥下機能評価、また、評価に基づくリハビリテーションを実施している。当分野では、訪問診療による在宅医療に力を入れている。経口摂取の可否の評価のみならず、食形態や姿勢、患者の環境調整などを通じて、患者さんに最後まで楽しさを失わない生活を送っていただくための臨床に日々取り組んでいる。また外来診療では、口腔癌術後患者のリハビリテーションを中心に、大学病院ならではの様々な疾患による嚥下障害患者さんにも対応している。その他、当該医療の過疎地に在住している嚥下障害への対応を目的としてオンライン診療が可能な環境を整えたが、オンライン診療はコロナ対策で対面が不可能な場合にも有効利用できた。

(5) 臨床上の特色

当科は、在宅医療における摂食嚥下リハビリテーションの提供を専門的にしている。そのため、歯科訪問診療において、口腔衛生管理、口腔機能管理を担当されるかかりつけ歯科医師などとも効果的な連携が十分に可能である。また、オンライン診療は国内に限らず、国外の対象者にも提供可能である。

(6) 研究業績

[原著]

1. Sakai, K; Kinoshita, S; Wakabayashi, H; Isowa, T; Tohara, H; Yanagida, R; Momosaki, R. Associations of malnutrition factors with dysphagia mediated by ADL among nursing home residents WIENER KLINISCHE WOCHENSCHRIFT. 2024.12;

2. Ryosuke Yanagida; Kohei Yamaguchi; Kazuharu Nakagawa; Kanako Yoshimi; Takami Hino; Ayumi Kisara; Haruka Tohara. Sleep apnea and dysphagia in patients after a stroke recovering in convalescence rehabilitation The Journal of Prosthetic Dentistry. 2024.11;

3. Sirinthip Amornsuradech, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Rieko Moritoyo, Haruka Tohara. Aging-associated differences between perioral and trunk muscle characteristics 2024.11; (14);

4. Aritoshi Uchida,Kazuharu Nakagawa ,Kanako Yoshimi,Yuki Nagasawa ,Kohei Yamaguchi,Naofumi Uesaka,Haruka Tohara. Intermittent breaking of isolation may ameliorate decrease in physical activity caused by isolation PLoS ONE. 2024.11;

5. Takuma Okumura, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Mitsuko Saito, Kayoko Ito, Masataka Itoda, Kenji Takeuchi, Shinsuke Mizutani, Mitsuyoshi Yoshida, Yutaka Watanabe, Haruka Tohara. Present state and perceived future use of teledentistry in long-term care facilities in Japan: A cross-sectional study DIGITAL HEALTH. 2024.10;

6. Mori, H; Nakane, A; Yokota, Y; Tohara, H; Nakayama, T. Caregiver burden and eating-related guilt during dysphagia rehabilitation: A descriptive cross-sectional time series study JOURNAL OF PARENTERAL AND ENTERAL NUTRITION. 2024.10; 48(7); 818-826

7. Yanagida R, Tohara H, Wakabayashi H, Kinoshita S, Sakai K, Isowa T, Nakagawa K, Yamaguchi K, Yoshimi K, Momosaki R. Time spent away from bed is associated with oral hygiene and oral function: A cross-sectional and multi-institutional study. Journal of oral rehabilitation. 2024.07; 51(10); 2093-2101

8. Yanagihara, Y; Suzuki, H; Furuya, J; Nakagawa, K; Yoshimi, K; Seto, S; Shimizu, K; Tohara, H; Minakuchi, S. Usefulness of oral health assessment performed by multiple professionals using a short video recording acquired with a tablet device JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2024.07; 19(3); 1699-1704

9. Yamaguchi K, Okumura T, Oikawa Y, Nakagawa K, Yoshimi K, Harada H, Tohara H. Effect of oral intake initiation-establishment interval on hospital stay after oral cancer surgery Oral Diseases. 2024.05;

10. Yamaguchi, K; Okumura, T; Oikawa, Y; Nakagawa, K; Yoshimi, K; Harada, H; Tohara, H. Effect of oral intake initiation-establishment interval on hospital stay after oral cancer surgery ORAL DISEASES. 2024.05; 30(8); 4948-4955

11. Miyachi, M; Yamaguchi, K; Yanagida, R; Hino, T; Yoshimi, K; Nakagawa, K; Tohara, H; Kisara, A. ACTUAL CONDITION SURVEY OF OBSTRUCTIVE RESPIRATORY EVENTS IN CONVALESCENT POST-STROKE PATIENTS WITH DYSPHAGIA SLEEP. 2024.05; 47;

12. Miyachi, M; Yamaguchi, K; Yanagida, R; Hino, T; Yoshimi, K; Nakagawa, K; Tohara, H; Kisara, A. ACTUAL CONDITION SURVEY OF OBSTRUCTIVE RESPIRATORY EVENTS IN CONVALESCENT POST-STROKE PATIENTS WITH DYSPHAGIA SLEEP. 2024.05; 47;

13. Miyagami T, Teranaka S, Mine Y, Matsumoto T, Yoshimatsu Y, Matsumoto S, Yamaguchi K, Morikawa T.. Lack of Physician-Dentist Collaboration in Aspiration Pneumonia Prevention International Journal of General Medicine. 2024.04;

14. Shimizu A, Yamaguchi K, Maeda K. Editorial: Malnutrition in Dysphagia: Nutritional Assessment and Management in Clinical Practice Frontiers in Nutrition. 2024.04;

15. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Hatanaka Y, Mukai T, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Impact of oral health management by nurses and dental professionals on oral health status in inpatients eligible for the Nutrition Support Team: A longitudinal study J Oral Rehabil. 2024.02;

16. Tamura A, Yamaguchi K, Yanagida R, Miyata R, Tohara H. Physical, oral, and swallowing functions of three patients with type A xeroderma pigmentosum: a report of three cases BMC Oral Health. 2024.02;

17. Yamada T, Yamaguchi K, Horike A, Takahashi K, Amornsuradech S, Nakagawa K, Yoshimi K, Tohara H. Development and evaluation of a new intraoral voice assist device called the voice retriever. Laryngoscope investigative otolaryngology. 2024.02; 9(1); e1204

18. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Hatanaka Y, Mukai T, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Impact of oral health management by nurses and dental professionals on oral health status in inpatients eligible for the Nutrition Support Team: A longitudinal study. Journal of oral rehabilitation. 2024.02;

19. Shimizu A, Yamaguchi K, Tohara H. Impact of pureed and liquidised diets on health-related quality of life scores in older patients during postacute rehabilitation: A pilot study. Journal of human nutrition and dietetics : the official journal of the British Dietetic Association. 2024.02; 37(1); 227-233

20. Tamura, A; Yamaguchi, K; Yanagida, R; Miyata, R; Tohara, H. Physical, oral, and swallowing functions of three patients with type a xeroderma pigmentosum: a report of three cases BMC ORAL HEALTH. 2024.02; 24(1); 163

21. Yamaguchi K, Miyagami T, Imada R, Kushiro S, Yanagida R, Morikawa T, Nakagawa K, Yoshimi K, Naito T, Tohara H. Effect of poor oral health status at hospital admission on in-hospital outcomes of older patients with aspiration pneumonia European Geriatric Medicine. 2024.01;

22. Miyagami T, Nishizaki Y, Imada R, Yamaguchi K, Nojima M, Kataoka K, Sakairi M, Aoki N, Furusaka T, Kushiro S, Yang KS, Morikawa T, Tohara H, Naito T.. Dental Care to Reduce Aspiration Pneumonia Recurrence: A Prospective Cohort Study International Dental Journal. 2024.01;

23. Miyagami T, Nishizaki Y, Imada R, Yamaguchi K, Nojima M, Kataoka K, Sakairi M, Aoki N, Furusaka T, Kushiro S, Yang KS, Morikawa T, Tohara H, Naito T. Dental Care to Reduce Aspiration Pneumonia Recurrence: A Prospective Cohort Study. International dental journal. 2024.01;

24. Yamaguchi K, Miyagami T, Imada R, Kushiro S, Yanagida R, Morikawa T, Nakagawa K, Yoshimi K, Naito T, Tohara H. Effect of poor oral health status at hospital admission on in-hospital outcomes of older patients with aspiration pneumonia. European geriatric medicine. 2024.01;

25. Wakabayashi H, Kinoshita S, Isowa T, Sakai K, Tohara H, Momosaki R. Impact of motivation for eating habits, appetite and food satisfaction, and food consciousness on food intake and weight loss in older nursing home patients. Annals of geriatric medicine and research. 2024.01;

26. Aritaki K, Nakagawa K, Yoshimi K, Yoshizawa A, Hasegawa S, Yanagida R, Hashimoto M, Hirai T, Yamaguchi K, Nakane A, Yoshii T, Okawa A, Tohara H. Kinematic analysis of chewing and swallowing function after cervical spine surgery. European spine journal : official publication of the European Spine Society, the European Spinal Deformity Society, and the European Section of the Cervical Spine Research Society. 2024.01; 33(1); 243-252

27. Aritaki K, Nakagawa K, Yoshimi K, Yoshizawa A, Hasegawa S, Yanagida R, Hashimoto M, Hirai T, Yamaguchi K, Nakane A, Yoshii T, Okawa A, Tohara H.. Kinematic analysis of chewing and swallowing function after cervical spine surgery European Spine Journal. 2024.01; 33(1); 243-252

28. Taishi Yamada, Kohei Yamaguchi, Ayane Horike, Kohei Takahashi, Sirinthip Amornsuradech, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Haruka Tohara. Development and evaluation of a new intraoral voice assist device called the voice retriever Laryngoscope Investig Otolaryngol . . 2024.01; 9(1); e1204

29. Okumura T, Nakagawa K, Yoshimi K, Saito M, Ito K, Itoda M, Takeuchi K, Mizutani S, Yoshida M, Watanabe Y, Tohara H. Present state and perceived future use of teledentistry in long-term care facilities in Japan: A cross-sectional study. Digital health. 2024.01; 10; 20552076241282394

1. 中根 綾子, 戸原 玄. 【プライマリ・ケアの理論と実践 < 完全版 > 】(第 3 章) 多職種連携の必須知識!歯科医師・口腔ケア　口腔機能はライフステージごとに関わり方がある jmed mook. 2024.12; (95); 16-17

2. 柳下柚子. 管楽器教育における MFT（口腔筋機能療法）の導入の試み一中学校吹奏楽部での実践例一 管楽芸術論集. 2024.09; 3; 1-10

3. 伊藤 加代子, 會田 英紀, 有友 たかね, 大渡 凡人, 中根 綾子, 原野 望, 竜 正大, 小笠原 正, 尾立 光, 羽村 章, 水口 俊介, 日本老年歯科医学会教育委員会. わが国の歯科大学・大学歯学部における老年歯科医学教育の実態 (2022 年度) 老年歯科医学. 2024.09; 39(2); E41-E61

4. 水口 俊介, 會田 英紀, 伊藤 加代子, 有友 たかね, 大渡 凡人, 中根 綾子, 原野 望, 竜 正大, 小笠原 正, 尾立 光. 老年歯科医学　診療参加型臨床実習マニュアル「口腔機能低下症の検査」 老年歯科医学. 2024.09; 39(2); E13-E40

5. 宮地舞, 山口浩平, 柳田陵介, 吉見佳那子, 中川量晴, 日野多加美, 上田佳子, 戸原玄. 回復期脳血管障害患者における、閉塞性呼吸イベントが退院時の嚥下機能に与える影響-前向きコホート研究- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌. 2024.08;

6. 梅本丈二, 山口浩平, 奥野健太郎. さあ、睡眠歯科をはじめましょう！ ー睡眠〓〓○○で語る、睡眠歯科の実際のところー 歯界展望. 2024.05; 143(5);

7. 柳田 陵介. 知ってナットク!いまを読み解くキーワード　高齢者歯科編 (第 5 回)　嚥下内視鏡検査 デンタルハイジーン. 2024.05; 44(5); 459

8. 並木千鶴, 原豪志, 柳田陵介, 小林健一郎, 日野多加美, 大嶋晶, 石橋尚基, 上田佳子, 戸原玄. 夜間の唾液誤嚥に対する簡易的な口腔内装置 (唾液吸引マウスピース) の作製と臨床応用 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌. 2024.04; 28(1); 43-49

9. 大原里子, 川口陽子, 梶井文子, 吉池信男, 高田健人, 中澤貴士, 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原 玄. 軟菜食ときざみ食の咬合力低下における咀嚼能率の比較-模擬咀嚼装置を用いた検討- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌. 2024.04; 28(1); 21-28

10. 宮地 舞. 成人の睡眠時無呼吸症候群を見分けるには? DENTAL DIAMOND. 2024.04; 49(5); 134-135

11. 長澤 祐季, 戸原 玄. 【摂食嚥下の基礎知識とリハビリテーション〜摂食嚥下障害者から何を求められているか?〜】摂食嚥下機能の評価とリハビリテーション 歯科医療. 2024.04; 38(2); 4-9

12. 並木 千鶴, 原 豪志, 柳田 陵介, 小林 健一郎, 日野 多加美, 大嶋 晶子, 石橋 尚基, 上田 佳子, 戸原 玄. 夜間の唾液誤嚥に対する簡易的な口腔内装置 (唾液吸引マウスピース) の作製と臨床応用 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌. 2024.04; 28(1); 43-49

13. 大原 里子, 川口 陽子, 梶井 文子, 吉池 信男, 高田 健人, 中澤 貴士, 吉見 佳那子, 中川 量晴, 戸原 玄. 軟菜食ときざみ食の咬合力低下における咀嚼能率の比較　模擬咀嚼装置を用いた検討 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌. 2024.04; 28(1); 21-28

14. 中根 綾子. 新たな視点　食道期の嚥下障害とは 歯界展望. 2024.02; 143(2); 209-212

[書籍等出版物]

1. 人材がカギ！ 歯科医院の成長戦略. 一般財団法人　口腔保健協会, 2024.12
2. 森豊理英子, 戸原玄. 教えて！ 歯医者さん Q&A お口の周りの筋肉の衰えが気になるなら . nico, クインテッセンス出版株式会社, 2024.07
3. 若林秀隆, 前田圭介, 上島順子, 井上達朗. 生活期におけるリハビリテーション · 栄養 · 口腔管理の協働に関するケア実践マニュアル. 医学書院, 2024.07
4. 「生活期におけるリハビリテーション · 栄養 · 口腔管理の協働に関するケアガイドラインおよびマニュアルの整備に資する研究」班. 生活期におけるリハビリテーション · 栄養 · 口腔管理の協働に関するケアガイドライン. 医学書院, 2024.05
5. 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修. 中川量晴, 歯科衛生学辞典 第 2 版. 永末書店, 2024.02
6. 歯科衛生学辞典 第 2 版. 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会, 2024.02
7. 吉見佳那子. 歯科衛生学辞典 第 2 版. 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会, 2024.02
8. 福井次矢, 高木誠, 小室一也　他. 吉見佳那子, 今日の治療指針　私はこう治療している 2024. 医学書院, 2024.01
9. 執筆　竹前健彦　並木千鶴　今田良子　監修　水口俊介　戸原　玄. 義歯治療こんなときどうする？ 診療室 · 訪問現場で困ったときのセオリーとポイント. 医歯薬出版, 2024.01
10. 松尾浩一郎編著，原豪志，戸原玄. 若手歯科医師のための高齢者歯科ハンドブック. 医歯薬出版,
11. 戸原玄，須佐千明. 歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル高齢者編. 医歯薬出版,

[総説]

1. Shimizu A, Yamaguchi K, Kunieda K, Ohno T, Fujishima I. Dietary intervention for post-stroke dysphagia The Lancet Neurology. 2024.07;

1. 中川量晴. 人と生活を支える訪問での摂食嚥下の診療 老年歯科医学. 2024.03; 38(4); 131-134

[講演 · 口頭発表等]

1. 山口浩平. 内視鏡検査による嚥下機能の見える化. 第 23 回日本睡眠歯科学会総会 · 学術集会 2024.11.03
2. Amornsuradech Sirinthip, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Rieko Moritoyo, Haruka Tohara. Oral hypofunction is not related to trunk muscle characteristics in healthy older adults . 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia 2024.10.11 Asia Hotel, Bangkok
3. Ayane Horike, Kohei Yamaguchi, Kanako Toda, Kanako Yoshimi, Kazuharu Nakagawa, Haruka Tohara. Risk preference is associated with oral function in older adults. 10th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia 2024.10.09 Bangkok, Thailand
4. Ryosuke Yanagida, Haruka Tohara, Hidetaka Wakabayashi, Shoji Kinoshita, Kotomi Sakai, Tokiko Isowa, Kazuharu Nakagawa, Kohei Yamaguchi, Kanako Yoshimi, and Ryo Momosaki. Time spent away from bed is associated with both oral hygiene and function in older adults requiring nursing care.. iADH 2024 Seoul 2024.09.27 Seoul, Korea
5. Sirinthip Amornsuradech, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Yuki Nagasawa, Rieko Moritoyo, Haruka Tohara. What is a better indicator of grip strength in older adults: the average or the maximum value of tongue pressure and jaw opening force?. International Association for Disability & Oral Health (iADH) 2024 2024.09.26 Mayfield Hotel, Seoul, Korea
6. 新永拓也, 山口浩平. 低強度呼気筋トレーニングが呼吸 · 口腔 · 咀嚼機能に与える影響. 2024.08.31
7. Amornsuradech Sirinthip, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Rieko Moritoyo, Haruka Tohara. Aging-related change in perioral and trunk muscle characteristics. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.08.30 福岡国際会議場

8. Mai Miyachi,Kohei Yamaguchi,Ryosuke Yanagida,Takami Hino,Ayumi Kisara,Kanako Yoshimi,Kazuharu Nakagawa,Haruka Tohara. Actual condition survey of obstructive respiratory events in convalescent post-stroke patients with dysphagia. American Academy of Sleep Medicine 38th Annual Meeting 2024.06.05 Houston TX

9. Rieko Moritoyo, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Kohei Yamaguchi, Ayane Horike, Haruka Tohara. Relationship between the jaw-closing force and dietary form in older adults without occlusal support requiring nursing care . 2024 Joint Symposium: SNUSD-Melbourne-Otago-Peking-TMDU 2024.05.21 Seoul National University School of Dentistry, Education Building, 5th floor

10. Ayane Horike, Kohei Yamaguchi, Jun Aida, Kanako Toda, Rieko Moritoyo, Kanako Yoshimi, Kazuharu Nakagawa, Haruka Tohara. Are Individuals with a propensity for procrastination more likely to have lower oral function. 2024 Pan-Pacific Dentistry Joint Symposium (TMDU-Otago-Peking-Melbourne-SNU) 2024.05.20 Seoul National University School of Dentistry, Education Building, 5th floor

11. Ryosuke Yanagida, Kohei Yamaguchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Yuki Nagasawa, Rieko Moritoyo, Takami Hino, Ayumi Kisara, Haruka Tohara. Sleep Apnea and Oral Health Status among Post-Stroke Patients in a Convalescent Hospital. The 4th Annual Meeting of the International Society of Oral Care 2024.04.28 Tokyo, Japan

12. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits(タイトル和訳中). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

13. Yanagida Ryosuke, Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Yoshimi Kanako, Nagasawa Yuki, Moritoyo Rieko, Hino Takami, Kisara Ayumi, Tohara Haruka. Sleep Apnea and Oral Health Status in Post-Stroke Patients in a Convalescent Hospital(タイトル和訳中). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

14. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

15. Yanagida Ryosuke, Yamaguchi Kohei, Nakagawa Kazuharu, Yoshimi Kanako, Nagasawa Yuki, Moritoyo Rieko, Hino Takami, Kisara Ayumi, Tohara Haruka. 療養型病院における脳卒中後患者の睡眠時無呼吸と口腔衛生状態 (Sleep Apnea and Oral Health Status in Post-Stroke Patients in a Convalescent Hospital). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

16. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

17. Toru Yamada, Takahiro Shinohara, Shuji Ouchi, Suguru Mabuchi, Kazuharu Nakagawa, Kanako Yoshimi, Mitsuko Saito, Kenji Toyoshima, Yoshiaki Tamura, Atsushi Araki, Kojima Masayuki, Masayoshi Hashimoto. Comparison of diaphragm function in sarcopenia and non-sarcopenia in the elderly. 9th Geriatric Innovation Forum 2024.01.20 名古屋

1. 長澤祐季, 堀家彩音, 江角明日香, 中川量晴, 吉見佳那子, 山口浩平, 戸原玄. 新たに作成した歌唱教材を用いた訓練は口腔機能を向上させるか. 日本顎口腔機能学会　第 72 回学術大会 2024.12.14

2. 柳下柚子，吉見佳那子，高橋知佳，中川量晴，山口浩平，戸原玄. 管楽器吹奏における奏者の口腔機能の重要性. 日本顎口腔機能学会　第 72 回学術大会 2024.12.14 東京科学大学

3. 堀家彩音, 山口浩平, 戸田花奈子, 戸原 玄. 先延ばし傾向がある人と嚥下関連筋力との関連：地域在住高齢者を対象とした横断調査. 行動経済学会　第 18 回大会 (2024) 2024.12.07 立命館大学大阪いばらきキャンパス

4. 山田愛花, 森豊理英子, 肥後智行, 阿部大数, 中川量晴, 稲次基希, 戸原玄, 荒船龍彦. 嚥下機能評価のための嚥下造影検査と喉頭ビデオ映像の同時解析システム. 日本生体医工学会関東支部若手研究者発表会 2024 2024.11.30 筑波大学 筑波キャンパス

5. 奥野健太郎、梅本丈二、田中信和、山口浩平. 覚醒時上気道内視鏡検査（WACE）の評価基準の作成と妥当性 · 信頼性について. 第 23 回日本睡眠歯科学会総会 · 学術集会 2024.11.03

6. 黒川 隆史, 吉浪 典子, 石井 厚司, 山田 有希子, 片山 歳也, 川合 美穂子, 藤田 祥子, 松本 美苗, 中根 綾子, 堀口 逸子, 関根 信夫. 「3 つのオレンジ」を活用した認知機能低下者対応モデルの作成と質問紙調査による評価. Dementia Japan 2024.10.01

7. 山田愛花, 森豊理英子, 阿部大数, 稲次基希, 戸原玄, 荒船龍彦. 誤嚥リスクスクリーニングのための嚥下造影検査と喉頭ビデオ映像の同時解析システム. 第 39 回ライフサポート学会大会 2024.09.13 東京大学 本郷地区キャンパス

8. 中川量晴.　NST でのチーム医療を歯科医学教育に取り入れる.　第 43 回日本歯科医学教育学会学術大会 2024.09.07

9. 堀家彩音，山口浩平，戸田花奈子，戸原玄. 先延ばし傾向がある人は口腔 · 身体機能が低いのか. 医療経済学会　第 19 回研究大会 2024.09.07 学習院大学 目白キャンパス 中央教育研究棟

10. 伊佐津貴之, 近石壮登, 蛭牟田誠, 中川量晴, 真山達也, 吉見佳那子, 戸原 玄 2). 嚥下食対応宿泊サービス「やわらかい旅行社」-活動の立ち上げから今後の展望まで-. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.09.01 福岡

11. 中川量晴. 在宅での嚥下内視鏡検査の最前線-近年の歯学教育動向も含めて-. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.09.01 福岡

12. 森豊理英子, 山田大志, 中川量晴, 山口浩平, 吉見佳那子, 吉崎怜子, 堀家彩音, 戸原 玄. 筋萎縮性側索硬化症患者に対し舌保護マウスピースを作製し舌の誤咬を回避した症例. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.08.31 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡 B 館 · 福岡サンパレスホテル

13. 出浦 惠子、山口 浩平、森豊 理英子、尾上 庸恵、山口 はるみ、戸原 玄、小宮山 和正. 在宅患者に地域歯科医師と管理栄養士か〓介入、専門医のオンライン診療により経口摂取可能となった一例 . 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.08.31 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡 B 館 · 福岡サンパレスホテル

14. 大嶋晶子, 山口浩平, 日野多加美, 石橋尚基, 木皿歩, 原豪志, 中山渕利, 戸原玄. 経腸栄養剤の使用による下痢がミキサー食投与で改善し、経口摂取へ移行した 1 症例 . 2024.08.31

15. 山口浩平. 個人の意思決定に着目した、『食』起点フレイル対策と健康長寿街づくり. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.08.30

16. 八尾有紀, 堀家彩音, 中川量晴, 吉見佳那子, 齋藤美都子, 並木千鶴, 山口浩平, 戸原 玄. 呼吸器トレーナー（ドフィン）を用いた訓練の有効性　—嚥下障害患者 2 名の症例報告—. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2024.08.30 福岡県

17. 並木千鶴, 原　豪志, 柳田陵介, 奥村拓真, 小林健一郎, 谷口裕重, 戸原　玄. 舌口蓋押し当て訓練が咀嚼に与える影響. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2024.08.30 福岡

18. 堀家彩音, 山口浩平, 戸田花奈子, 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原玄. 先延ばし傾向がある人は嚥下機能が低いのか. 第 30 回　日本摂食嚥下リハビリテーション学会　学術大会 2024.08.30

19. 吉見佳那子.　事例の提示と臨床現場での葛藤.　第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.08.30 福岡

20. 内田　有俊、中川　量晴、長澤　祐季、吉見　佳那子、山口　浩平、戸原　玄. 嚥下機能低下の要因となりうる社会的孤立状態が与える影響と有効な介入法ーラットを用いた基礎的検討ー. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2024.08.30 福岡国際会議場

21. 吉住 結，生田 稔，髙坂 光，福田 修平，中田 三栄子，中島 栞里，信末 実成美，向山 仁，戸原 玄. 術前に錠剤の内服困難が判明し対応できた高齢口腔癌患者の一例. 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.08.30 福岡

22. 小森彩加, 山口浩平, 柳田陵介, 吉見佳那子, 中川量晴, 松尾英男, 戸原玄. 歯科訪問診療で摂食嚥下リハビリテーションを実施した要介護高齢者の 1 年間の傾向摂取度の推移. 一般演題　食支援 · 摂食嚥下 2024.07.21 幕張メッセ国際会議場

23. 山口浩平, 戸原玄. 嚥下造影検査 · 超音波検査から上気道を考える. 日本睡眠学会第 48 回定期学術集会 2024.07.18

24. 山口浩平. 嚥下造影検査から上気道を考える -咀嚼嚥下と呼吸の交差点-. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06

25. 山口 浩平, 戸原 玄. 解剖学的視点から上気道を考える〜内視鏡検査 · 嚥下造影検査 · 超音波検査 · 外科手術 · 肉眼解剖〜　嚥下造影検査 · 超音波検査から上気道を考える. 日本睡眠学会定期学術集会プログラム · 抄録集 2024.07.01

26. 原良子, 中根綾子, 齊藤美都子, Sirinthip Amornsuradech, 戸原 玄. 咳ツボ刺激と咳反射の関連性. 日本老年歯科医学会 2024.06.30 札幌

27. 吉見佳那子. ICT やクロスリアリティを活用した新しい歯科教育の可能性 -これからの老年歯科医学に貢献できる人材を育成するために-. 一般社団法人日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.30 札幌

28. 上田貴之, 太田 緑, 竜正大, 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原 玄. 情報通信機器を用いた遠隔診療による口腔機能低下症患者への口腔機能管理の実証と課題検討. 一般社団法人日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.30 札幌

29. 長谷川 翔平，長澤 祐季，吉見 佳那子，中川 量晴，戸原 玄. 新たに開発した簡便なボイストレーニングの摂食嚥下機能改善効果に関する研究. 一般社団法人 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.29 札幌コンベンションセンター，札幌市，日本

30. 並木千鶴、原豪志、川勝優悟、小林健一郎、 戸原玄. 咽頭吸引処置の補助を目的とした口腔内装置の作製により家族が直接訓練をおこなえるようになった症例. 日本老年歯科医学会第 38 回学術大会 2024.06.29 北海道

31. 小森彩加, 山口浩平, 柳田陵介, 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原玄. 歯科訪問診療での要介護高齢者への摂食嚥下リハビリテーション介入の実態調査. 課題公演 1 地域包括ケアシステム 2024.06.29 札幌コンベンションセンター

32. 柳田陵介、戸原玄. 誤嚥性肺炎後に外来通院にて摂食嚥下リハビリテーションが著効した症例. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

33. 森豊理英子. 脳血管障害後遺症による嚥下障害患者に対し多職種連携により経口摂取可能となった症例 . 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌コンベンションセンター

34. 奥村 拓真, 鶴田 潤, 戸原 玄, 中根 綾子, 中川 量晴, 山口 浩平, 吉見 佳那子, 長澤 祐季, 玉井 斗萌, 吉住 結, 黒澤 友紀子, 長谷川 翔平, 山崎 裕. 訪問診療研修にオンラインを用いた学生教育の教育効果の検討. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

35. 小森彩加, 戸原玄. 心筋梗塞による蘇生後脳症及び脳梗塞後に経口接種を確立した症例. 認定医審査ポスター 2024.06.28 札幌コンベンションセンター

36. 吉﨑怜子，中根綾子. 進行性核上性麻痺による ADL および嚥下機能低下に対し機能維持を行った症例. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28

37. 真山 達也, 中川 量晴, 吉見 佳那子, 長澤 祐季, 森豊 理英子, 柳田 陵介, 山口 浩平, 戸原 玄. 嚥下機能が低下した高齢者への発酵漬物摂取による腸内細菌叢変化の解析. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

38. 小森 彩加, 山口 浩平, 柳田 陵介, 吉見 佳那子, 中川 量晴, 戸原 玄. 歯科訪問診療での要介護高齢者への摂食嚥下リハビリテーション介入の実態調査. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

39. 柳田 陵介, 戸原 玄. 誤嚥性肺炎後に外来通院にて摂食嚥下リハビリテーションが著効した症例. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

40. 尾崎 研一郎, 寺中 智, 河合 陽介, 堀越 悦代, 戸原 玄. 65 歳以上の入院患者における口腔衛生不良の背景. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

41. 中山 渕利, 戸原 玄, 阿部 仁子, 齋藤 太伊輝, 小出 偉貴. 介護施設入所者における認知機能の低下が咀嚼中の下顎運動に及ぼす影響. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

42. 原 良子, 中根 綾子, 斎藤 美都子, Sirinthip Amornsuradech, 戸原 玄. 咳ツボ刺激と咳反射の関連性. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

43. 並木 千鶴, 原 豪志, 川勝 優悟, 小林 健一郎, 戸原 玄. 咽頭吸引処置の補助を目的とした口腔内装置の作製により家族が直接訓練をおこなえるようになった 1 例. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

44. 真山 達也, 中川 量晴, 吉見 佳那子, 長澤 祐季, 森豊 理英子, 柳田 陵介, 山口 浩平, 戸原 玄. 嚥下機能が低下した高齢者への発酵漬物摂取による腸内細菌叢変化の解析. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

45. 有瀧 航太, 戸原 玄. 左側上顎歯肉癌による左側上顎亜全摘術後に、多職種と連携し摂食嚥下リハビリテーションの介入を行った症例. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

46. 小森 彩加, 戸原 玄. 心筋梗塞による蘇生後脳症及び脳梗塞後に経口摂取を確立した 1 症例. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

47. 上田 貴之, 太田 緑, 竜 正大, 吉見 佳那子, 中川 量晴, 戸原 玄. 情報通信機器を用いた遠隔診療による口腔機能低下症患者への口腔機能管理の実証と課題検討. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

48. 長谷川 翔平, 長澤 祐季, 吉見 佳那子, 中川 量晴, 戸原 玄. 新たに開発した簡便なボイストレーニングの摂食嚥下機能改善効果に関する研究. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

49. 小森 彩加, 山口 浩平, 柳田 陵介, 吉見 佳那子, 中川 量晴, 戸原 玄. 歯科訪問診療での要介護高齢者への摂食嚥下リハビリテーション介入の実態調査. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

50. 奥村 拓真, 鶴田 潤, 戸原 玄, 中根 綾子, 中川 量晴, 山口 浩平, 吉見 佳那子, 長澤 祐季, 玉井 斗萌, 吉住 結, 長谷川 翔平, 山崎 裕. 訪問診療研修にオンラインを用いた学生教育の教育効果の検討. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

51. 柳田 陵介, 戸原 玄. 誤嚥性肺炎後に外来通院にて摂食嚥下リハビリテーションが著効した症例. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

52. 齋木 章乃, 戸原 玄. 誤嚥性肺炎後に長期の禁食となった頸椎損傷患者に対し経口摂取支援を行った症例. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

53. 村瀬 玲奈, 中根 綾子. コーヌスデンチャーの内冠脱離に対し, 磁性アタッチメントを用いて修理した 1 症例. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

54. 原 良子, 中根 綾子, 斎藤 美都子, Sirinthip Amornsuradech, 戸原 玄. 咳ツボ刺激と咳反射の関連性. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

55. 奥村 拓真, 鶴田 潤, 戸原 玄, 中根 綾子, 中川 量晴, 山口 浩平, 吉見 佳那子, 長澤 祐季, 玉井 斗萌, 吉住 結, 長谷川 翔平, 山崎 裕. 訪問診療研修にオンラインを用いた学生教育の教育効果の検討. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

56. 吉崎 怜子, 中根 綾子. 進行性核上性麻痺による ADL および嚥下機能低下に対応し機能維持を図った症例. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01

57. 金井亮太. 高齢者における視覚と味覚の感覚間協応と それが食品選択に与える影響. 日本顎口腔機能学会 2024.04.14 大阪大学歯学部棟

58. 戸原 玄. これからの摂食嚥下リハビリテーション. リハビリテーション栄養 2024.04.01

59. 戸原 玄. これからの摂食嚥下リハビリテーション. 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

60. 真山 達也, 中川 量晴, 吉見 佳那子, 長澤 祐季, 森豊 理英子, 山口 浩平, 戸原 玄. 発酵漬物による腸内細菌叢変化の解析. 口腔病学会雑誌 2024.03.01

61. 内田 有俊, 中川 量晴, 吉見 佳那子, 長澤 祐季, 山口 浩平, 戸原 玄. 社会的孤立状態が身体に与える影響と有効な介入方法について　ラット孤立モデルでの基礎的検討. 口腔病学会雑誌 2024.03.01

62. 山口浩平, 戸原玄. 社会における食支援〜より広くて、自由な多職種連携、All together〜. 第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2024.02.16
63. 金井亮太, 山口浩平, 森豊理英子, 吉見佳那子, 中川量晴, 戸原玄. 健常高齢者と健常成人における 視覚-味覚の感覚間協応の比較とその特徴 . 日本臨床栄養代謝学会 2024.02.15 パシフィコ横浜

[Works]

1. 摂食嚥下関連医療資源マップ, データベース

[受賞]

1. 優秀賞, 日本顎口腔機能学会, 2024 年 04 月
2. Mega-Choi Award, International Association for Disability & Oral Health (iADH) Korean Association for Disability & Oral Health (KADH), 2024 年 09 月

[その他業績]

1. 「高齢誤嚥性肺炎患者では、入院時の口腔健康状態が悪いほど、入院日数が長い」 —入院時の簡易な口腔 · 嚥下評価の重要性、より一層の医科歯科連携推進を—, 2024 年 01 月
European Geriatric Medicine
2. 「高齢誤嚥性肺炎患者では、入院時の口腔健康状態が悪いほど、入院日数が長い」 —入院時の簡易な口腔 · 嚥下評価の重要性、より一層の医科歯科連携推進を—, 2024 年 01 月
European Geriatric Medicine
3. COVID-19 治療中の安静 · 禁食によって廃用が進み摂食嚥下障害が悪化した症例, 2024 年 06 月
パーキンソン病が既往にある患者が COVID-19 で入院し，廃用が進み経口摂取禁止となったが，継続的に家族に口腔ケア指導や経口摂取支援を行い，誤嚥性肺炎にならずお楽しみで経口摂取を続けている症例報告.

[社会貢献活動]

1. 医科—歯科連携実証検討委員会委員, 厚生労働省, 2020 年 - 現在
2. 医科—歯科連携実証検討委員会委員, 厚生労働省, 2020 年 - 現在
3. 外からではわかりにくい嚥下障害を見極める，免疫力＆歯みがき入門, プレジデント社, PRESIDENT MOOK, 2021 年 09 月 21 日 - 現在
4. 外からではわかりにくい嚥下障害を見極める，免疫力＆歯みがき入門, プレジデント社, PRESIDENT MOOK, 2021 年 09 月 21 日 - 現在
5. 中川量晴, 「口腔衛生等管理」の実施について, 一般社団法人日本摂食支援協会, オンデマンド配信, 2023 年 - 現在
6. 訪問診療における摂食嚥下治療の重要性について, 一般社団法人　日本訪問歯科協会, 一般社団法人　日本訪問歯科協会ホームページ, 2023 年 02 月 20 日 - 現在
7. 吉見佳那子, これからの摂食嚥下のあり方とは？ Part 2, ワンディ株式会社, 戸原ゼミ, 2023 年 03 月 - 現在
8. 中川量晴, 摂食嚥下診療の極意, ワンディー株式会社, 戸原ゼミ, オンデマンド配信, 2023 年 03 月 - 現在
9. 「Voice Retriever」開発者インタビュー, BS フジ, 知りたい　SDGs, 2023 年 04 月 18 日 - 現在
10. 「Voice Retriever」インタビュー, BS フジ, 知りたい　SDGs, 2023 年 04 月 18 日 - 現在
11. 摂食嚥下障害の現状と課題について, NHK, 未定, 2023 年 05 月 08 日 - 現在
12. 声帯を失った方に対する取組, 株式会社 The Elements, Inclusive Hub, 2023 年 07 月 27 日 - 現在
13. 中川量晴, 摂食嚥下臨床の基本, 一般社団法人日本摂食支援協会, オンデマンド配信, 2023 年 08 月 01 日 - 現在
14. 胃ろう食と口や便の細菌について, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 09 月 06 日 - 現在

15. 吉見佳那子, 胃ろう食と口や便の細菌について, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 09 月 06 日 - 現在
16. 吉見佳那子, 認定医講座 これからの摂食嚥下介入, 一般社団法人訪問歯科協会, web, 2024 年 01 月 25 日
17. 高齢者の誤嚥, BS 朝日, 草野仁のカラダ若返り TV, 2024 年 01 月 30 日 - 2024 年 03 月 09 日
18. 映画館など静かな場所で咳をガマンする方法, NHK, あさイチ, 2024 年 03 月 06 日 - 2024 年 03 月 26 日
19. 吉見佳那子, 一般社団法人摂食支援協会　施設基準講習会, 一般社団法人摂食支援協会, 2024 年 03 月 10 日
20. シニア層の摂食嚥下について, NHK 出版 , きょうの健康, 2024 年 03 月 21 日 - 2024 年 08 月 21 日
21. 高齢者の口腔の健康について, メディカルトリビューン, 時事通信社を通じて配信する地方紙, 2024 年 03 月 26 日 - 2024 年 07 月
22. 高齢者が摂食嚥下障害を起こしやすい理由/ 摂食嚥下関連医療資源マップの制作背景, 株式会社マイナビ, 介護のみらいラボ, 2024 年 03 月 29 日 - 現在
23. 誤嚥についての基礎知識や対処法について, 株式会社ジャンプコーポレーション, 健康カプセル！ ゲンキの時間, 2024 年 04 月 11 日 - 2024 年 08 月 11 日
24. 口腔ケアの重要性および正しい口腔ケアの方法, メディバンクス株式会社, 口腔ケアハンドブック, 2024 年 05 月 01 日 - 2024 年 05 月 31 日
25. 要介護高齢者の食べることやその機能の 意義について, 全国老人保健施設協会, 老健, 2024 年 05 月 24 日 - 2024 年 07 月 25 日
26. 障害ある人の食　楽しい選択肢　見た目 · 味わい重視「インクルーシブフード」　食べやすさ · 安全性に「豊かさ」加え, 新聞読売新聞社, 新聞読売新聞, 2024 年 06 月 05 日 - 2024 年 07 月 04 日
27. オーラルフレイル, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 07 月 01 日 - 2024 年 07 月 31 日
28. 令和 6 年度　東京都歯科医師会卒後研修, 2024 年 07 月 04 日
29. 入院患者、歯科治療が効果 感染予防や栄養改善に期待 医科と歯科の連携課題, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 07 月 06 日
30. 吉見佳那子, 一般社団法人摂食支援協会　施設基準講習会, 一般社団法人日本摂食支援協会, 2024 年 09 月 07 日
31. 嚥下障害の仕組み（監修）, 魚繁大王殿, 書籍, 2024 年 09 月 09 日 - 2024 年 10 月 30 日
32. 在宅歯科診療, 女子栄養大学, 書籍『まいにち、くちビル（仮)』, 2024 年 09 月 10 日 - 2024 年 11 月
33. 在宅歯科診療の現在とこれから, 株式会社文藝春秋, スーパードクター 2025, 2024 年 09 月 10 日 - 2024 年 11 月 30 日
34. 摂食嚥下関連医療資源マップについて, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 09 月 13 日 - 2024 年 10 月 09 日
35. 吉見佳那子, UPDATE 摂食嚥下 第 3 回：水分摂取や栄養管理についても知っておこう, メディア株式会社, オンデマンド配信, 2024 年 09 月 19 日 - 現在
36. 吉見佳那子, 認定医講座 これからの摂食嚥下介入（体幹、炭酸、蛍光色素など）, 一般社団法人訪問歯科協会, オンデマンド配信, 2024 年 11 月 - 現在
37. 吉見佳那子, 摂食支援アドバンスコース, 一般社団法人摂食支援協会, 東京, 2024 年 11 月 09 日 - 2024 年 11 月 10 日

全人的医療開発学講座

臨床検査医学

Laboratory Medicine

教　授　東田修二
講　師　叶内匡
講　師　伊藤真以
助　教（キャリアアップ講師）　野上彩子
大学院生　颯田稔久、熊田春香、瀬筒ほの夏

(1)　分野概要

臨床検査医学は、臨床検査を応用した病態の解析、新しい臨床検査法の開発と応用、あるいは臨床検査を中心にした診断支援システムの構築などを行う学問である。臨床検査は、現代医療の実践において不可欠の手段となっており、その有用性をさらに高めると同時に、絶えず改良して新たな手法を開発していくことが臨床検査医学に課せられた使命である。当分野では、白血病を始めとする悪性腫瘍の分子病態解析、ＤＮＡ診断を用いた感染症や悪性腫瘍の新しい臨床検査法の開発の研究に取り組んでいる。

(2)　研究活動

研究では、臨床検査医学を応用した各種疾患の病態解析、新たな臨床検査法の開発と応用が主なテーマである。以下に現在行っている研究プロジェクトを紹介する。

１）白血病細胞の増殖機序の特性の検査法とそれに対する分子標的治療薬の感受性検査法の開発
白血病は、白血病細胞の無制限の増殖と正常造血機構の障害により、そフ病態が形成される。白血病細胞の増殖は、その細胞集団の中のごく少数の白血病幹細胞によって維持されている。私たちは、白血病の細胞増殖のメカニズムを細胞・分子レベルで明らかにすることにより、患者さんごとの白血病細胞の特徴を明らかにする検査法と、それに応じた治療法とを開発することを目指している。われわれは、白血病幹細胞の増殖機構をサイトカインの作用という観点から研究を続けてきた。具体的には、サイトカインの白血病細胞培養系における自己複製能や分化増殖能への作用、白血病細胞に発現するサイトカインやサイトカイン受容体の解析、サイトカイン受容体のシグナル伝達系の解析などである。現在は造血幹細胞の自己複製に重要な役割を持つ Notch シグナルの、白血病細胞の増殖における役割に焦点を当てて研究している。Notch とは、造血幹細胞表面に発現している蛋白である。われわれは世界に先駆けて、患者白血病細胞に Notch 蛋白や Notch リガンド蛋白が発現していることを報告し、Notch リガンド反応性のヒト細胞株を樹立した。さらに当研究室の大学院生らが、白血病細胞の増殖や分化に対する Notch リガンド蛋白や Notch 阻害薬の作用やその分子機序に関する興味深い発見をし、報告してきた。Notch シグナルの制御は、再生医療や白血病に対する分子標的治療への応用が期待されており、臨床応用に向けて、国内研究機関や企業研究部門との共同研究も進めている。最近は、Notch シグナルと同様に幹細胞の制御に重要な Wnt シグナル、mTOR シグナル、HIF シグナル、Sirtuin シグナルなどについても研究している。

２）腫瘍の新たな遺伝子検査法や微量残存腫瘍細胞の検出法の開発
癌治療の目標は、腫瘍細胞を根絶し患者を治癒に導くことにある。種々の有効な治療の後にも、微量腫瘍細胞の残存や再発の問題が残されている。この微量腫瘍細胞の検出は、追加治療の必要性の判断や、再発の早期発見に有用である。われわれは遺伝子検査を用いて、微量腫瘍細胞を適格に検出する検査法の開発に取り組んでいる。

３）悪性リンパ腫細胞の増殖機構の解析
当研究室で樹立したび漫性大細胞型 B 細胞リンパ腫由来細胞株を用いて、B 細胞受容体から NF-κ B に至る増殖シグナルの機序、シグナル抑制薬の効果、抑制薬の薬剤感受性検査の研究を行っている。

4）感染症の遺伝子検査の開発
真菌 · ウイルス · 原虫など従来の検査法では検出が難しい病原体の核酸検査による検出法や、細菌の院内感染伝播の監視のための細菌の遺伝子型解析の研究を行なっている。

5）骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性 T 細胞の検出
血液内科学分野の協力のもと、上記の開発に取り組んでいる。

6）筋萎縮性側索硬化症の臨床 · 神経生理学的研究、末梢神経障害の新しい電気生理学的診断 · 評価法
病院検査部の神経生理検査室や脳神経内科の協力のもと、上記の研究と開発に取り組んでいる。

(3) 教育活動

大学院博士課程学生に対して、白血病細胞の増殖機序の分子生物学的解析と、それを応用した診断法や病態解析の検査法の開発の研究を指導している。修士課程学生に対しては、医歯学概論の臨床検査医学の講義を通して、臨床検査の意義とその実際について概説し、特に遺伝子検査について実例を示して解説している。また、修士課程の病院検査部実習も分担している。
医学部医学科学生に対しては、系統講義（臨床医学導入ブロック）、臨床検体を用いての細菌検査実習、プレクリニカルクラークシップでのシミュレーターを用いての採血手技の指導などを通して、血液検査、感染症検査など臨床検査の目的 · 原理 · 方法 · 手技 · 解釈を教授している。これらにより、医師として臨床検査を活用できる知識と能力を養うことを目標としている。また、プロジェクトセメスターとして、医学科 4 年の学生を受け入れ、研究活動の指導を行っている。
保健衛生学科学生に対しては、血液検査学講義と病院検査部臨地実習（血液検査、細菌検査）を分担している。
大学病院の研修医に対しては、検査部をローテートする研修医に検査の実技や解釈の仕方を指導している。

(4) 教育方針

臨床検査医学の大学院教育の目的は、疾患の病態生理の解析法、新たな検査法や診断支援システムを開発する能力を養うことにある。当分野では、特に血液腫瘍の病態解析法、癌や感染症の遺伝子検査法の開発に重点を置いている。

(5) 臨床活動および学外活動

大学病院において、検査部スタッフとともに、血液学的検査、生化学検査、免疫学的検査、細菌検査などの検査業務を行っている。また、検査関連学会などを通じて、臨床検査に関する研修会やセミナーで講演を行っている。

(6) 臨床上の特色

臨床各科との協力のもとに、臨床検査の解釈、精度管理、新しい検査法の開発などを行っている。また、臨床検査に関わる各診療科からの問い合わせや相談に応じ、診療支援を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Itoh M, Tohda S. ERK inhibitors suppress the growth of leukemia cells Anticancer Research. 2024.12; 44(12); 5263-5270

2. Nogami, A; Amemiya, HJ; Fujiwara, H; Umezawa, Y; Tohda, S; Nagao, T. Targeting USP14/UCHL5: A Breakthrough Approach to Overcoming Treatment-Resistant FLT3-ITD-Positive AML INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES. 2024.10; 25(19);

3. Umezawa Y, Yoshifuji K, Tanaka K, Nogami A, Nagano K, Tsuji A, Nagao T, Yamamoto M, Kajiwara M, Tohda S, Mori T. Impact of BK polyomavirus viremia on the outcomes of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Annals of hematology. 2024.05; 103(5); 1737-1744

4. Yotaro Motomura, Kota Yoshifuji, Takayoshi Tachibana, Hiroshi Takase, Ayako Arai, Keisuke Tanaka, Keigo Okada, Ayako Nogami, Yoshihiro Umezawa, Chizuko Sakashita, Masahide Yamamoto, Takehiko Mori, Toshikage Nagao. Clinical factors for central nervous system progression and survival in primary vitreoretinal lymphoma. Br J Haematol. 2024.04; 204(4); 1279-1287

5. Kumada H, Itoh M, Tohda S. Effect of Ferroptosis Inducers and Inhibitors on Cell Proliferation in Acute Leukemia. Anticancer research. 2024.03; 44(3); 1003-1010

6. Itoh M, Sasaki S, Tohda S. Renin-Angiotensin System Inhibitors Suppress the Growth of Leukemia Cells. Anticancer Research. 2024.03; 44(3); 1183-1192

7. Goto Y, Nagamine Y, Hanafusa M, Kawahara T, Nawa N, Tateishi U, Ueki Y, Miyamae S, Wakabayashi K, Nosaka N, Miyazaki Y, Tohda S, Fujiwara T. Association of excess visceral fat and severe illness in hospitalized COVID-19 patients in Japan: a retrospective cohort study. International journal of obesity (2005). 2024.01; 48(5); 674-682

1. 瀬筒ほの夏、伊藤真以、東田修二. 白血病細胞の増殖に対する Hippo シグナル系の活性化剤と阻害剤の効果 日本臨床検査医学会誌. 2024.10; 72; 159

2. 伊藤真以, 東田修二. 白血病細胞の増殖に対する ERK 阻害剤の作用と治療への応用 日本臨床検査医学会誌. 2024.10; 72; 158

[書籍等出版物]

1. 東田　修二. 臨床検査ガイド 2025 年改訂版. 文光堂, 2024.12 (ISBN : 978-4-8306-8038-0)

2. 野上　彩子. 血液内科医が骨髄病理診断に期待するもの. 文光堂 病理と臨床, 2024.08

3. 東田修二. 遺伝子関連 · 染色体検査学第 3 版. 医歯薬出版, 2024.02

[講演 · 口頭発表等]

1. Yamazaki A., Yoshimoto A., Ichimura N., Tohda S., Ohkawa R. Validation and Application of Direct Measurement Method for Erythrocytes Cholesterol Content. 17th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB) Congress 2024.11.01 Sydney

2. 浜野 しずか, 田中 圭祐, 高畑 篤, 坂東 夏菜, 島田 智仁, 吉藤 康太, 梅澤 佳央, 野上 彩子, 長尾 俊景, 山本 正英, 豊田 茂雄, 森 毅彦. 精巣原発悪性リンパ腫の治療成績. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

3. Mai Itoh, Shuji Tohda. ERK inhibitors suppress the growth of leukemia cells.. 53rd Annual Science meeting, International Society for Experimental Hematology 2024.08.30 Chicago, USA

4. Itoh M, Tohda S. ERK inhibitors suppress the growth of leukemia cells. 53rd Annual Scientific Meeting, International Society for Experimental Hematology 2024.07.29

5. Yamazaki A., Yokoyama S., Okazaki M., Ai M., Miyake S., Takahashi J., Kameda T., Ichimura N., Tohda S., Ohkawa R. Influence of lipoprotein(a) on the accuracy of LDL-cholesterol measurement. European Atherosclerosis Society 92nd Congress 2024.05.27 Lyon

1. 瀬筒ほの夏, 伊藤真以, 東田修二. 白血病細胞の増殖に対する Hippo シグナル系の活性化剤と阻害剤の効果. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 2024.11.29 大阪

2. 伊藤真以, 東田修二. 白血病細胞の増殖に対する ERK 阻害剤の作用と治療への応用. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 2024.11.29 大阪

3. 野上　彩子. ベーシックセミナー「白血球減少」. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 2024.11.28 大阪

4. 田中 圭祐, 佐々木 優弥, 中牧 尚子, 友利 愛奈, 川上 真帆, 中田 康允, 小川 槙子, 吉藤 康太, 梅澤 佳央, 野上 彩子, 長尾 俊景, 山本 正英, 森 毅彦. 維持透析中のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対するエプコリタマブ治療. 臨床血液 2024.11.01

5. 友利 愛奈, 野上 彩子, 川上 真帆, 中田 康允, 吉藤 康太, 田中 圭祐, 梅澤 佳央, 小山 高敏, 森 毅彦. リツキシマブが奏効した治療抵抗性後天性血友病 A. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.01

6. 山崎 あずさ，貫井 陽子，亀田 貴寛，甲田 祐樹，市村 直也，齋藤 良一，東田 修二，大川 龍之介. COVID-19 患者におけるプレセプシン測定の有用性と腎機能との関連. 第 64 回日本臨床化学会年次学術集会　YIA シンポジウム 2024.09.01 宇都宮

7. 川口 莉奈，荒木 誠，宮腰 恒広，渡部 芽以，堀内 優奈，吉本 明，亀田 貴寛，市村 直也，米津 太志，戸塚 実，東田 修二，笹野 哲郎，大川 龍之介. 冠動脈内プラークのサイズを反映する新たな評価法としてのパラオキソナーゼ 1 活性の有用性. 第 56 回日本動脈硬化学会総会 2024.07.07 神戸

8. 山崎 あずさ, 甲田 祐樹, 野上 彩子, 糸井 彩子, 大久保 有希, 市村 直也, 東田 修二. 当院で経験した VEXAS 症候群 2 症例の血液形態学的特徴. 日本検査血液学会雑誌 2024.06.01

9. 田中 圭祐、吉藤 康太、梅澤 佳央、野上 彩子、佐々木　優弥、中牧　尚子、川上 真帆、友利　愛奈、中田　康充、小川　槙子、長尾　俊景、山本　正英、梶原　道子、森　毅彦. 健常人ドナーにおける pegfilgrastim を用いた幹細胞の動員. 第 46 回　造血免疫細胞療法学会総会 2024.03.24

10. 吉藤康太, 滝本由利, 八木真梨絵, 大内史彦, 金井光, 千葉桃子, 原田拓実 1, 初澤紘生, 田中圭祐, 野上彩子, 梅澤佳央, 内山亜紀子, 長尾俊景, 山本正英, 森毅彦. BK polyomavirus による出血性膀胱炎のアウトブレイクと感染制御. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2024.03.23

11. 佐々木優弥, 小川慎子, 川上真帆, 中田康允, 友利愛奈, 中牧尚子, 吉藤康太, 坂下千瑞子, 田中圭祐, 梅澤佳央, 野上彩子, 長尾俊景, 山本正英, 森毅彦. ICANS と鑑別が困難であった CAR-T 細胞療法後 早期の悪性リンパ腫中枢神経浸潤. 第 20 回日本血液学会関東甲信越地方会 2024.03.09

[その他業績]

1. 日本学術振興会令和 4 年度科学研究費助成事業（学術研究助成金）(継続), 2024 年 04 月
研究種目：若手研究（研究代表者：野上彩子）
研究課題名：骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性 T 細胞の検出
課題番号：22K15599

[社会貢献活動]

1. 医学部 6 年間のカリキュラムは？　基礎と臨床を学び 2 年の実習 「チーム医療」を重視（東田）, スクールパートナーズ, 高校生新聞, 2024 年 08 月 22 日 - 2024 年 10 月 14 日

生体集中管理学分野

Department of Intensive Care Medicine

主任教授
　若林健二 (2021.10.1〜)

特任教授
　高橋英夫 (2017.4.1〜)

准教授
　山内英雄 (2023.4.1〜2024.3.31)
　野坂宜之（2024.4.1〜）

特任准教授
　鵜川豊世武 (集中治療部) (2021.4.1〜2023.1.31)

講師
　山内英雄 (集中治療部) (2021.4.1〜2023.3.31)
　野坂宜之 (2022.4.1〜2024.3.31)
　仙頭佳起 (麻酔科)(2023.4.1〜)
　野口綾子 (集中治療部) (2023.4.1〜)

助教
　増田孝広（集中治療部) (2014.4.1〜)
　丸山　史 (集中治療部) (2017.2.1〜2024.3.31)
　三島有華 (2023.4.1〜)
　内御堂亮（集中治療部）(2024.4.1〜)

特任助教
　塩田修玄 (集中治療部) (2017.4.1〜)
　三島有華 (集中治療部) (2017.4.1〜2023.3.31)
　壹岐陽一 (集中治療部) (2023.10.1〜)
　内御堂亮 (集中治療部) (2020.4.1〜2024.3.31)
　桑原佑典 (集中治療部) (2023.4.1〜)
　久保俊裕 (集中治療部) (2019.10.1〜)
　野田浩太郎（集中治療部）(2024.4.1〜)

医員
　木山晃希 (2022.4.1〜)
　本郷智伎 (2023.4.1〜2024.3.31)
　相関良紀（2024.4.1〜）

大学院生
　塩田修玄 (2017.4.1〜)
　壹岐陽一 (2018.4.1〜)
　三島有華 (2019.4.1〜2023.3.31)
　阿部迪子 (2019.4.1〜)
　内御堂亮 (2020.4.1〜)
　久保俊裕 (2021.4.1〜)
　大澤一郎 (2021.4.1〜)

特別講師
　氏家良人 (2017.4.1〜)

非常勤講師
　橋本悟 (2022.10.1〜)
　松本正太朗 (2022.10.1〜)
　山内英雄（2024.4.1〜）

(1) 分野概要

集中治療医学／医療に特化して取り組んでいる。集中治療部における集中治療専門医の役割は、多専門分野にわたる重症病態の治療を調整し、指導することにある。重症病態に陥ると、呼吸、循環、代謝を中心として原因疾患にかかわらず共通の病態を示す。このような重症患者は、絶えざる監視 · 評価により状態の変化をすばやくとらえ、即応した治療を行なうことが重要である (minute-to-minute titration of therapy)。集中治療専門医はこの titration therapy を行ない、統合的な治療の一環を担うために、多職種連携を行って治療にあたることが重要である。重症病態に対して、各患者の最適な生理的状態を維持するように治療を行ない、生命維持が確保されている間に原因疾患の治療、改善を図ることが集中治療医学の目的である。

集中治療医学が取り組んできた病態／疾患／治療法を具体的にあげると、各種ショック、急性呼吸不全、人工呼吸、敗血症、多臓器不全症候群、酸塩基平衡異常、電解質異常、急性腎不全、急性中枢神経障害（意識障害）に対する集中治療、薬理学的／機械的循環補助、栄養管理、血液浄化法、院内感染症防止策／治療、等である。

(2) 研究活動

当分野では後方視的なビッグデータ解析と、translational research の手法を用いて、集中治療領域の疾患における病態解明に迫る事を目標にしている。また、実臨床における課題解決型の研究を数多く手掛け、医学教育研究にも取り組んでいる。

1)COVID-19 における細胞外小胞の臨床的意義と現場実装に向けた新規検出技術の基盤確立（若林）
2）小児患者の全身麻酔時の脳波変 (若林分担)
3）ECMO 回路内における Microvesicles の動態の解明（若林）
4）集中治療領域における課題解決に基づく新規ソリューション検討（若林）
5）収納式トイレのユーザーエクスペリエンスと臨床上の効果に対する検討（若林）
6）遠隔応対ソリューションをつかった集中治療室入院患者とその家族のコミュニケ—ション改善（野坂）
7）COVID-19 感染者における健康と回復（野坂）
8) 経時的遺伝子発現解析を用いた敗血症慢性重症経過の病態解明と予測モデル構築（内御堂）
9)ICU における抗菌薬適正使用支援プログラム手法の開発（三島）
10)ICU における栄養療法と ICUAW の関連についての前向き観察研究（増田）
11）小児急性脳症マウスモデルの確立と低体温 · 平温療法の効果の比較検討（野坂）
12）メタボロミクスによる重症新型コロナウイルス（SARS-CoV2）肺炎（COVID-19）における炎症性代謝障害の解明と臨床応用への探索的前向き観察研究（内御堂）
13）重症症例に対する意識下挿管と合併症発生割合との関連についての後方視的研究（増田）
14）日本集中治療医学会主催の ICU 入室患者登録システム事業への参画（三島　内御堂）
15）入院患者に対する院内迅速対応システムの効果の検討（三島）
16）集中治療領域での抗菌薬選択に関する後方視研究（三島）
17）RRS への EWS 自動計算システム導入が病棟患者の急変および ICU 緊急入室に及ぼす影響の検討（野口）
18）クリティカルアケア領域で人工呼吸器を装着する患者のコンフォートに関する調査（野口）
19）急性肝不全における microvesicle の動態と役割の解明（若林）
20）重症コロナウイルス感染症患者の家族における「家族の集中治療後症候群」に関する調査（野坂）
21）集中治療室に入室する小児患者の体格と転帰に関する研究（野坂）
22）集中治療室における多職種回診の遠隔化による患者転帰ならびに医療スタッフへの影響に関する研究（野坂）
23）クエンチ抗体を用いた実サンプルからの SARS—CoV-2 検出に関する基礎的検討
（野坂）
24）動線 · 環境 · 生体計測データの時空間解析に基づく集中治療室の QI 評価手法の構築：東京医科歯科大学病院新旧両棟の比較を例に（若林　野坂　野口）

(3) 教育活動

卒前教育
救急 · 麻酔ブロック講義：4 年生対象
若林：集中治療医学総論
増田：人工呼吸器 · ARDS
野坂：ICU における合併症予防 · PICS ‐ F
仙頭：PACU/術後管理
三島：Rapid Response System/Rapid Assesment System

塩田：ICU における終末期医療 · 緩和ケア
壹岐：小児集中治療
野田：神経集中治療

クリニカルクラークシップ：５年生（1 週間）６年生（2 週間）集中治療実習を担当している。
集中治療部の患者 1-2 人に関して、朝夕の回診を中心として教育を実施する。朝、8:15 からの多職種回診参加を経てその日に行なうべきことをチェックし、一日かけて受け持ち医、集中治療部指導医と共に患者 の治療、検査を担当する。夕方に指導医を中心とした教育回診において、受け持ち患者の presentation を行う。

研修医の集中治療部実習：
2 ヶ月間、集中治療部での実習を行っている。重症患者の呼吸 · 循環 · 代謝管理を学び、エコーや気管支鏡の 操作、カテーテル挿入などを学習している。

(4) 教育方針

毎週火曜日は academic day と名付け学生 · 研修医のみならず全スタッフを各種の教育カンファレンスを行う。
卒前教育：集中治療を知る · 興味を持つ
卒後教育：集中治療に取り組む · 誘う
専門医教育：集中治療を極める

(5) 臨床活動および学外活動

中央診療部門の一つである集中治療部において、集中治療部専任医師、集中治療専門医が専従で集中治療部に常駐 し、重症患者さんの呼吸 · 循環 · 代謝管理および治療を担当している。これらの集中治療部医師は、主治医グルー プ · 薬剤師 · 管理栄養士 · リハビリスタッフ · 臨床工学技士 · 入院時重症患者対応メディエーターと共に平日毎朝、多職種回診を実施し、各患者にとって最適な管理および治療の方針をたて、それを実践している。RAS (Risk Assessment System) は平日日中に全病棟を回診し院内の急変事象を予防するユニークな取組みを 2017 年 3 月より開始し、年間のべ 400 件の相談を受けている。

(6) 臨床上の特色

多職種回診を基盤とした早期離床プログラム、早期栄養の開始を実施し、重症患者の転帰改善に努めている。
また、各診療科の集中治療管理を昼夜を問わずサポートし、医師の働き方改革にも貢献している。さらに今年度はクラウドファンディングに挑戦し、集中治療後症候群（PICS）の啓発活動の一環として啓発漫画の作成に取り組んだ。

(7) 研究業績

[原著]

1. Nosaka N, Noguchi A, Takeuchi T, Wakabayashi K. Long-term prevalence of PTSD symptom in family members of severe COVID-19 patients: a serial follow-up study extending to 18 months after ICU discharge. Journal of intensive care. 2024.12; 12(1); 53

2. Nosaka Nobuyuki, Noguchi Ayako, Takeuchi Takashi, Wakabayashi Kenji. Long-term prevalence of PTSD symptom in family members of severe COVID-19 patients: a serial follow-up study extending to 18 months after ICU discharge(タイトル和訳中) Journal of Intensive Care. 2024.12; 12; s40560-024

3. Nobuyuki Nosaka, Tatsuhiko Anzai, Kenji Wakabayashi. Height status matters for risk of mortality in critically ill children. J Intensive Care. 2024.10; 12(1); 42

4. Nosaka Nobuyuki, Anzai Tatsuhiko, Wakabayashi Kenji. Height status matters for risk of mortality in critically ill children(タイトル和訳中) Journal of Intensive Care. 2024.10; 12; s40560-024

5. Osawa, I; Hara, Y; Sukegawa, S; Mizuno, N; Nosaka, N; Kirimura, S; Onishi, I; Takata, M; Nakauchi, H; Takeuchi, H; Wakabayashi, K. Accurate Assessment of Respiratory Physiology Is Essential for Preclinical Drug Development in a Mouse Model of COVID-19-induced ARDS AMERICAN JOURNAL OF RESPIRATORY AND CRITICAL CARE MEDICINE. 2024.05; 209;

6. Nosaka Nobuyuki, Wakabayashi Kenji. Were you a family member, or a COVID-19 patient?(タイトル和訳中) Acute Medicine & Surgery. 2024.03; 11(1); 1 of 1

7. Shirasaki Kasumi, Hifumi Toru, Nakanishi Nobuto, Nosaka Nobuyuki, Miyamoto Kyohei, Komachi Miyuki H., Haruna Junpei, Inoue Shigeaki, Otani Norio. Postintensive care syndrome family: A comprehensive review(タイトル和訳中) Acute Medicine & Surgery. 2024.03; 11(1); 1 of 12-12 of 12

8. Goto Y, Nagamine Y, Hanafusa M, Kawahara T, Nawa N, Tateishi U, Ueki Y, Miyamae S, Wakabayashi K, Nosaka N, Miyazaki Y, Tohda S, Fujiwara T. Association of excess visceral fat and severe illness in hospitalized COVID-19 patients in Japan: a retrospective cohort study. International journal of obesity (2005). 2024.01; 48(5); 674-682

9. Shirasaki K, Hifumi T, Nakanishi N, Nosaka N, Miyamoto K, Komachi MH, Haruna J, Inoue S, Otani N. Postintensive care syndrome family: A comprehensive review. Acute medicine & surgery. 2024.01; 11(1); e939

10. Nosaka N, Wakabayashi K. Were you a family member, or a COVID-19 patient? Acute medicine & surgery. 2024.01; 11(1); e947

11. Oike K, Ishibashi O, Nosaka N, Hirota S. The Impact of Multidisciplinary Team Intervention for Early Mobilization of Patients with Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage in Stroke Care Unit: A Retrospective Cohort Study. Physical therapy research. 2024; 27(3); 166-172

1. 武田 親宗, 北山 未央, 高田 順子, 高山 綾, 田口 茂正, 番匠谷 友紀, 藤井 智子, 真壁 香菜, 正木 宏享, 三島 有華, 山下 千鶴, 久志本 成樹, 志馬 伸朗, 西田 修, 日本集中治療医学会 2022 年度 · 2023 年度ダイバーシティ委員会. 日本集中治療医学会の多様性に関する調査報告 日本集中治療医学会雑誌. 2024.03; 31(2); 159-166

[書籍等出版物]

1. 野口綾子、若林健二　他. RRS 運用サポートブック. Medical Science International, 2024.09 (ISBN : 978-4-8157-3119-9)

[講演 · 口頭発表等]

1. Tsuchiya Issei, Uchimido Ryo, Minegishi Yu, Yokoe Ryo, Tominaga Yoshiki, Wakabayashi Kenji. ICU 時系列データの活用　JIPAD データと電子カルテの可視化 (Utilization of ICU Time-Series Data: Visualization of JIPAD Data and Electronic Medical Records). 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

2. Yokoe Ryo, Uchimido Ryo, Minegishi Yu, Tominaga Yoshiki, Tsuchiya Issei, Wakabayashi Kenji. PIICS 患者における血流感染と ICU 死亡率との関連 (The association of Bloodstream Infections with ICU Mortality in Patients with PIICS). 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

3. Yuichiro HARA. HIV-1 潜伏感染細胞特異的排除戦略に有用な新規低分子化合物の評価. 第 32 回日本抗ウイルス療法学会学術集会 2024.08.29 Kumamoto, Japan

4. 野口綾子. Rapid response system の鍵は信頼と相互リスペクトにある. 日本集中治療医学会　第 8 回 関東甲信越支部学術集会 2024.08.24

5. Yuichiro HARA. Evaluation of a novel small-molecule LRA candidate. Summer Retrovirus Conference 2024 (SRC2024) 2024.07.19 Kumamoto, Japan

6. 廣田 千穂, 長井 聡子, 小谷 愛, 緒方 泰子. 心血管疾患患者の服薬行動における意図的 · 非意図的ノンアドヒアランス：スコーピングレビュー. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2024.07.13 神戸

7. 野口綾子, 辻尾有利子. クリティカルケアが必要な成人と小児重症患者のケアにおける非日常を乗り越える. 第 20 回 日本クリティカルケア看護学会学術集会 2024.06.23

8. Ichiro Osawa, Yuichiro Hara, Sayaka Sukegawa, Naoaki Mizuno, Nobuyuki Nosaka, Susumu Kirimura, Iichiroh Onishi, Masao Takata, Hiromitsu Nakauchi, Hiroaki Takeuchi, Kenji Wakabayashi. Accurate Assessment of Respiratory Physiology Is Essential for Preclinical Drug Development in a Mouse Model of COVID-19-induced ARDS. 2024.05.27 SanDiego, USA

9. Ichiro Osawa, Yuichiro Hara, Sayaka Sukegawa, Naoaki Mizuno, Nobuyuki Nosaka, Susumu Kirimura, Iichiroh Onishi, Masao Takata, Hiromitsu Nakauchi, Hiroaki Takeuchi, Kenji Wakabayashi. Accurate Assessment of Respiratory Physiology Is Essential for Preclinical Drug Development in a Mouse Model of COVID-19-induced ARDS. ATS 2024 2024.05.17 SanDiego

10. Kenichiro Ozaki, Kenji Wakabayashi, Nobuyuki Nosaka, Hideo Yamanouchi, Yuka Mishima, Takahiro Masuda, Ryo Uchimido, Toshihiro Kubo, Kohei Yamaguchi, Takuma Okumura, Akira Yoshizawa, Mitsuzumi Okada, Teruko Kunisawa, Sirinthip Amornsuradech, Ayane Horike, Ryota Kanai, Kazuharu Nakagawa, Ayako Nakane, Kazumasa Kubota, Haruka Tohara. Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits. The 4th Annual Meeting of the International Society of Oral Care (ISOC) 2024 2024.04.27 Tokyo, Japan

11. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits(タイトル和訳中). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

12. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

13. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

14. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

15. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

16. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

17. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira,

Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

18. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

19. Ozaki Kenichiro, Wakabayashi Kenji, Nosake Nobuyuki, Yamanouchi Hideo, Mishima Yuka, Masuda Takahiro, Uchimido Ryo, Kubo Toshihiro, Yamaguchi Kohei, Okumura Takuma, Yoshizawa Akira, Okada Mitsuzumi, Kunisawa Teruko, Amornsuradech Sirinthip, Horike Ayane, Kanai Ryota, Nakagawa Kazuharu, Nakane Ayako, Kubota Kazumasa, Tohara Haruka. 歯科学生のための集中治療室における多職種協働実習　スマートグラスを用いたオンラインから実臨床への展開 (Multidisciplinary Collaboration Practice in Intensive Care Units for Dental Students: Expansion from Smart Glass Online to Real Visits). 日本口腔ケア学会雑誌 2024.04.01

20. Issei Tsuchiya,Ryo Uchimido,Yu Minegishi,Ryo Yokoe,Yoshiki Tominaga,Kenji Wakabayashi. Utilization of ICU Time-Series Data: Visualization of JIPAD Data and Electronic Medical Records. 第５１回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14

21. Ryo Yokoe,Ryo Uchimido,Yu Minegishi,Yoshiki Tominaga,Issei Tsuchiya,Kenji Wakabayashi. The association of Bloodstream Infections with ICU Mortality in Patients with PIICS. 第５１回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14

1. 大澤 一郎, 原 雄一郎, 助川 明香, 武内 寛明, 水野 直彬, 野坂 宜之, 高田 正雄, 中内 啓光, 若林 健二. COVID-19 ARDS に対する新薬開発には臨床的意義の高い前臨床試験モデルが不可欠である. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

2. 野坂 宜之, 野口 綾子, 溝江 亜紀子, 竹内 崇, 若林 健二. PTSD 関連症状陽性の重症 COVID-19 患者家族の割合は退室後遠隔期も減少しない　遠隔期フォローアップの必要性. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

3. 澤口 圭宏, 野田 浩太郎, 野坂 宜之, 若林 健二. Super-refractory status epilepticus の予後と発症後 24 時間以内発熱の関係. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

4. 野田 浩太郎, 三島 有華, 野坂 宜之, 若林 健二. Z 世代の ICU 研修プログラム: 後輩を魅了せよ!　新内科専門医制度も怖くない?!　内科系集中治療医になろう!!. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

5. 福岡 ほのか, 諏訪辺 久子, 阿部 靖子, 丸山 史, 塚田 容子, 古川 文子, 三島 有華, 野坂 宜之, 若林 健二. 入院時重症患者対応メディエーターの導入における看護師の役割と家族支援を協働した報告. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

6. 藤原 立樹, 平澤 憲祐, 野坂 宜之, 鬼澤 かおる, 荒畑 美樹, 石山 純子, 田中 功一, 戸塚 一, 小野 美由紀, 笹野 哲郎, 藤田 知之. 移植医療における診療連携 (術前、術後管理/集中治療)　当院における心臓移植実施施設申請を目標とした診療連携. 移植 2024.09.01

7. 野田 浩太郎, 三島 有華, 野坂 宜之, 若林 健二. Z 世代の ICU 研修プログラム: 後輩を魅了せよ!　新内科専門医制度も怖くない?!　内科系集中治療医になろう!!. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

8. 三島 有華, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子, 若林 健二. ライフイベントとキャリア形成を考える-集中治療領域でのダイバーシティ · インクルージョンの実現に向けて　デュアルキャリア · カップルモデルで自走する子育て世代の組織作りを目指そう. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

9. 福岡 ほのか, 諏訪辺 久子, 阿部 靖子, 丸山 史, 塚田 容子, 古川 文子, 三島 有華, 野坂 宜之, 若林 健二. 入院時重症患者対応メディエーターの導入における看護師の役割と家族支援を協働した報告. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

10. 野坂 宜之, 野口 綾子, 溝江 亜紀子, 竹内 崇, 若林 健二. PTSD 関連症状陽性の重症 COVID-19 患者家族の割合は退室後遠隔期も減少しない　遠隔期フォローアップの必要性. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

11. 野口 綾子, 仙頭 佳起, 鳥羽 三佳代, 古川 文子, 岡 晃司, 諏訪辺 久子, 三島 有華, 高橋 英夫, 内御堂 亮, 若林 健二. RRS のアウトカムに迫る　病棟看護師との対話を伴う早期警告スコアシステムの実装後、対応チームの起動は増加した. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

12. 野口 綾子, 森脇 睦子, 鳥羽 三佳代, 仙頭 佳起, 内村 祐之, 山田 知明, 藍 真澄, 若林 健二. 呼吸数は何故測定されないか　欠測要因の検討. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

13. 三島 有華, 丸山 史, 河合 ほなみ, 榎本 晟也, 服部 高明, 野口 綾子, 阿部 靖子, 古川 文子, 若林 健二. 多職種で取り組む集中治療終末期の意思決定支援　終末期患者の人工呼吸器離脱を多職種で話し合った一例　システム整備と文化の醸成が必要である. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

14. 野口 綾子. 施設ごとの要請側アプローチ:RRS の多様な取り組み　起動よりも手前で患者の状態悪化を防ぐ　病棟看護師と病院を activate する実践. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

15. 大澤 一郎, 原 雄一郎, 助川 明香, 武内 寛明, 水野 直彬, 野坂 宜之, 高田 正雄, 中内 啓光, 若林 健二. COVID-19 ARDS に対する新薬開発には臨床的意義の高い前臨床試験モデルが不可欠である. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

16. 冨永 慶樹, 内御堂 亮, 峯岸 勇, 横江 亮, 土屋 一成, 若林 健二. PIICS 患者における診断基準該当数と院内死亡率の関係. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

17. 野坂 宜之, 野口 綾子, 溝江 亜紀子, 竹内 崇, 若林 健二. PTSD 関連症状陽性の重症 COVID-19 患者家族の割合は退室後遠隔期も減少しない　遠隔期フォローアップの必要性. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

18. 野口 綾子, 仙頭 佳起, 鳥羽 三佳代, 古川 文子, 岡 晃司, 諏訪辺 久子, 三島 有華, 高橋 英夫, 内御堂 亮, 若林 健二. RRS のアウトカムに迫る　病棟看護師との対話を伴う早期警告スコアシステムの実装後、対応チームの起動は増加した. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

19. 澤口 圭宏, 野田 浩太郎, 野坂 宜之, 若林 健二. Super-refractory status epilepticus の予後と発症後 24 時間以内発熱の関係. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

20. 野田 浩太郎, 三島 有華, 野坂 宜之, 若林 健二. Z 世代の ICU 研修プログラム: 後輩を魅了せよ!　新内科専門医制度も怖くない?!　内科系集中治療医になろう!!. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

21. 峯岸 勇, 若林 健二, 内御堂 亮, 土屋 一成, 横江 亮, 富永 慶樹, 竹内 勝之. データサイエンティストを ICU を多職種連携の一員にする取り組み　データの専門家としての臨床現場での役割. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

22. 三島 有華, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子, 若林 健二. ライフイベントとキャリア形成を考える-集中治療領域でのダイバーシティ · インクルージョンの実現に向けて　デュアルキャリア · カップルモデルで自走する子育て世代の組織作りを目指そう. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

23. 福岡 ほのか, 諏訪辺 久子, 阿部 靖子, 丸山 史, 塚田 容子, 古川 文子, 三島 有華, 野坂 宜之, 若林 健二. 入院時重症患者対応メディエーターの導入における看護師の役割と家族支援を協働した報告. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

24. 野口 綾子, 森脇 睦子, 鳥羽 三佳代, 仙頭 佳起, 内村 祐之, 山田 知明, 藍 真澄, 若林 健二. 呼吸数は何故測定されないか　欠測要因の検討. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

25. 三島 有華, 丸山 史, 河合 ほなみ, 榎本 晟也, 服部 高明, 野口 綾子, 阿部 靖子, 古川 文子, 若林 健二. 多職種で取り組む集中治療終末期の意思決定支援　終末期患者の人工呼吸器離脱を多職種で話し合った一例　システム整備と文化の醸成が必要である. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

26. 本郷 智伎, 三島 有華, 小野 宏晃, 大石 清寿, 若林 健二. 感染性心内膜炎に対する僧帽弁置換術後に生じた総肝管穿孔の一例. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

27. 内御堂 亮, 紙 健二郎, 長谷川 嵩矩, 若林 健二. 時系列メタボロームデータを利用した重症 COVID-19 における代謝経路濃縮度の経時的変化の解析. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

28. 西郷 茉優, 増田 孝広, 若林 健二. 重症症例の気管挿管において、意識下挿管が有害事象発生率の低下と関連する. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

29. 大澤 一郎, 原 雄一郎, 助川 明香, 武内 寛明, 水野 直彬, 野坂 宜之, 高田 正雄, 中内 啓光, 若林 健二. COVID-19 ARDS に対する新薬開発には臨床的意義の高い前臨床試験モデルが不可欠である. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

30. 野坂 宜之. マンガでつなぐ PICS ケア：マンガを用いた医療従事者の PICS 認知度向上—単施設調査 . 日本集中治療医学会第 8 回関東甲信越支部学術集会 2024.08.24 東京

31. 長井聡子, 緒方泰子. 看護師のワーク · エンゲイジメントと環境要因、就業継続意図との関連 ー縦断調査ー. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会 2024.08.19 東京

32. 野口綾子, 溝江亜希子, 梶谷真紀子, 伊藤和, 塚田容子, 野坂宜之. パンデミック禍に ICU に入室した COVID-19 重症患者の家族の生きられた経験：現象学的研究. 第 20 回 日本クリティカルケア看護学会学術集会 2024.06.22

33. 塩田 修玄, 三島 有華, 入山 哲次, 野里 洵子, 佐藤 信吾, 若林 健二. ICU における Goals of Care Discussion のあり方を考える. Palliative Care Research 2024.06.01

34. 塩田 修玄, 三島 有華, 入山 哲次, 野里 洵子, 佐藤 信吾, 若林 健二. ICU における Goals of Care Discussion のあり方を考える. Palliative Care Research 2024.06.01

35. 冨永慶樹、内御堂亮、峯岸勇、横江亮、土屋一成、若林健二. PIICS 患者における診断基準該当数と院内死亡率の関係. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.16

36. 西郷茉優、増田孝広、若林健二. 重症症例の気管挿管において、意識下挿管が有害事象発生率の低下と関連する. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.16

37. 二階堂瞳、三島有華、内御堂亮、若林健二. 第 3 波までの COVID-19 は非 COVID-19 よりも V-V ECMO 装着オッズが高い：JIPAD によるケース · コントロール研究. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.16

38. 峯岸勇、若林健二、内御堂亮、土屋一成、横江亮、富永慶樹、竹内勝之. データサイエンティストを ICU の多職種連携の一員にする取り組み -データの専門家としての臨床現場での役割-. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.16

39. 二階堂 瞳, 三島 有華, 安齋 達彦, 内御堂 亮, 若林 健二. 第 3 波までの COVID-19 は非 COVID-19 よりも V-V ECMO 装着オッズが高い　JIPAD によるケース · コントロール研究. 日本集中治療医学会雑誌 2024.03.16

40. 二階堂 瞳, 三島 有華, 安齋 達彦, 内御堂 亮, 若林 健二. 第 3 波までの COVID-19 は非 COVID-19 よりも V-V ECMO 装着オッズが高い　JIPAD によるケース · コントロール研究. 日本集中治療医学会雑誌 2024.03.16

41. 野口綾子. 起動よりも手前で患者の状態悪化を防ぐ – 病棟看護師と病院を activate する実践. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.15

42. 野口綾子、仙頭佳起、鳥羽三佳代、古川文子、岡晃司、諏訪辺久子、三島有華、高橋英夫、内御堂亮、若林健二. 病棟看護師との対話を伴う早期警告スコアシステムの実装後、対応チームの起動は増加した. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.15

43. 三島有華 、丸山史、河合ほなみ、榎本晟也、服部高明 、野口綾子、阿部靖子、古川文子、若林健二. 終末期患者の人工呼吸器離脱を多職種で話し合った一例～システム整備と文化の醸成が必要である～. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.15

44. 三島 有華, 丸山 史, 河合 ほなみ, 榎本 晟也, 服部 高明, 野口 綾子, 阿部 靖子, 古川 文子, 若林 健二. 多職種で取り組む集中治療終末期の意思決定支援　終末期患者の人工呼吸器離脱を多職種で話し合った一例　システム整備と文化の醸成が必要である. 日本集中治療医学会雑誌 2024.03.15

45. 大澤一郎、原雄一郎、助川明香、武内寛明、水野直彬、野坂宜之、 高田正雄、中内啓光、若林健二. COVID-19 ARDS に対する新薬開発には臨床的意義の高い前臨床試験モデルが不可欠である . 第 51 回　日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14 札幌

46. 野口綾子、森脇睦子、鳥羽三佳代、仙頭佳起、内村祐之、山田知明、藍真澄、若林健二 . 呼吸数は何故測定されないか–欠測要因の検討. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14

47. 野坂宜之、野口綾子、溝江亜紀子、竹内崇、若林健二. PTSD 関連症状陽性の重症 COVID-19 患者家族の割合は退室後遠隔期も減少しない：遠隔期フォローアップの必要性. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14

48. 三島有華、岡田英理子、鹿島田彩子、若林健二. デュアルキャリア · カップルモデルで自走する子育て世代の組織作りを目指そう. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14

49. 内御堂亮、紙健二郎、長谷川嵩矩、若林健二. 時系列メタボロームデータを利用した重症 COVID-19 における代謝経路濃縮度の経時的変化の解析. 第 5 1 回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14

50. 福岡ほのか、諏訪辺久子、阿部靖子、丸山史、塚田容子、古川文子、三島有華、野坂宜之、若林健二. 入院時重症患者対応メディエーターの導入における看護師の役割と家族支援を協働した報告. 第５１回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14

51. 本郷智伎、三島有華、小野宏晃、大石清寿、若林健二. 感染性心内膜炎に対する僧帽弁置換術後に生じた総肝管穿孔の一例. 第５１回日本集中治療医学会学術集会 2024.03.14

52. 野口 綾子, 仙頭 佳起, 鳥羽 三佳代, 古川 文子, 岡 晃司, 諏訪辺 久子, 三島 有華, 高橋 英夫, 内御堂 亮, 若林 健二. RRS のアウトカムに迫る　病棟看護師との対話を伴う早期警告スコアシステムの実装後、対応チームの起動は増加した. 日本集中治療医学会雑誌 2024.03.14

53. 本郷 智伎, 三島 有華, 小野 宏晃, 大石 清寿, 若林 健二. 感染性心内膜炎に対する僧帽弁置換術後に生じた総肝管穿孔の一例. 日本集中治療医学会雑誌 2024.03.14

54. 野坂 宜之. この手があった！ マンガパンフレットを用いた患者 · 家族教育　～実際に行われている PICS 対策の現場から～. 日本離床学会 2024.01.07

[受賞]

1. John Coffin Award, SRC2024, 2024 年 07 月
2. Best Presentation Award, SRC2024, 2024 年 07 月
3. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会優秀演題賞, 日本心臓リハビリテーション学会, 2024 年 07 月
4. 最優秀演題賞, 日本集中治療医学会第 8 回関東甲信越支部学術集会, 2024 年 08 月
5. 日本看護学教育学会第 34 回学術集会優秀演題賞：発展部門 示説（長井聡子）, 一般社団法人 日本看護学教育学会, 2024 年 08 月

[社会貢献活動]

1. ＰＩＣＳパンフレットについて, 読売新聞東京本社, 読売新聞夕刊 · 医療情報, 2023 年 09 月 06 日 - 現在
2. 基盤モデルと研究自動化（９）＝研究と教育つなぐ　信じるべきは学生の力, 日刊工業新聞社, 日刊工業新聞, 2024 年 03 月 08 日 - 2024 年 05 月 09 日
3. 集中治療後のケア, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 05 月 08 日 - 現在

総合診療歯科学分野

Department of General Dentistry

教　授　　新田 浩
准教授　　西山 暁
准教授　　則武 加奈子
講　師 礪波 健一（3月まで）
講　師 秀島 雅之
助　教　　梅森 幸（11 月まで）
助　教　城戸 大輔
特任助教 曹 日丹
特任助教 三木 裕仁
医　員 戒田 梢子
医　員 木内 佑実音（4月から）
医　員　　高松 秀行 （8月まで）
医　員　　戸邉 昌子
医　員　　服部 旭威
医　員 濱田 悠也（4月から）
医　員 三間 裕子
医　員 渡辺 静流（4月から）
大学院生 · 医員 関口 絢子
大学院生 · 医員 原田 芽衣

(1) 分野概要

現在の歯科学は様々な研究 · 教育領域に専門分化しているが、歯科医師が General Practitioner として職務を全うするには、それらの領域を統合した知識と技術を身に着け、さらに個々の患者に適切にあてはめ実践する能力が必要である。総合診療歯科学分野は、そのような総合的、全人的歯科医療実践のための研究 · 教育を行なっている。上記研究領域は学生 · 研修歯科医の包括臨床教育 · 情意教育と密接に関連するため、診断 · 治療に関する研究の他に歯学教育に関する研究を歯学教育システム評価学分野、教育メディア開発学分野と共同で行っている。また、睡眠時無呼吸症候群に関する研究を快眠歯科外来と共同で行っている。総合診療歯科学分野が担当する病院診療科は、予診業務と総合診療を行う歯科総合診療科, 学生が臨床実習を行う第一総合診療室，および研修医が臨床研修を行う第二総合診療室である。

(2) 研究活動

現在、主として以下のテーマについて研究活動を行っている。
1. 歯科を訪れる患者の健康問題の構造と歯科治療計画に関する研究
2. 歯科領域における診断法の検証と改良に関する研究
3. 学生 · 研修医の教育に関する研究

(3) 教育活動

総合診療歯科学分野の教育方針は歯学的知識 · 技術の「統合」と「個別化」を学生 · 研修医に修得させることである。すなわち、歯科の診断 · 治療について専門領域を横断 · 統合した学問体系を学生に教授する。また、一般化さ

れた知識 · 技術である学問体系をいかに個別の患者に応用するかについて、学生に実践させ教育する。

(4) 教育方針

1. 行動科学基礎：歯学科２年生対象：学外福祉施設で学生が体験学習を行う。本授業は医療従事者の基本となる人間観を学生が習得することを目的としている。
2. 全人的総合診断：歯学科５年生対象：各専門領域を統合した総合的な診察を行う能力を習得することを目的とした講義を行う。
3. 包括臨床実習 Phase Ⅰ，Phase Ⅱ：歯学科５年生、６年生対象：病院（歯科棟）４階の第一総合診療室では、臨床実習全体の総括 · マネージメントを行う。病院（歯科棟）１階の歯科総合診療科では医療面接，口腔診察，口腔総合診断，総合治療計画の立て方などの基本を臨床の現場で学生に実戦的に経験させながら教育する。
4. 歯科臨床研修指導：卒後一年目の研修歯科医の臨床指導を行う。病院（歯科棟）４階の第二総合診療室で診療を行う卒後二年目のレジデントに対しても臨床指導を行う。

(5) 臨床活動および学外活動

総合診療歯科学の診療科である歯科総合診療科は、午前中は予診業務として病院歯科を初めて訪れる新来患者の全身評価と口腔診察を行い，対応診療科の決定 · 手配を行う．午後は各科横断的 · 包括的な診療が必要な症例を有する患者、専門性のそれほど高くない症例を有する患者、および教育協力を得られなかった患者について総合診療を実践している。

(6) 臨床上の特色

予診業務では歯科総合診療科が本病院（歯科）を受診した患者が最初に訪れる外来であることに留意し、良好な患者―医療者関係を構築するために患者の心理 · 社会的側面に配慮している。医療面接 · 口腔内診察を経て行われる診療科の決定では、初期の診療計画を立案することが求められる。この診療計画の立案に際しては、常に患者を中心に考え、できるだけ患者の希望に沿った治療法の選択を行い、インフォームド · コンセントを得ることが大切である。本院は大学附属病院としての専門性を求めて来院する患者が多い一方で、地域医療で一般的に行われている総合診療を必要とする患者も少なくない。歯科総合診療科では、こうした多様な患者のニーズに対する受け皿のひとつとして総合歯科診療を行い、患者満足度の向上に努めている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kanako Noritake, Jun Tsuruta, Koji Mizutani, Keiko Kondo, Hitomi Suzuki, Naoko Adachi, Naoko Seki, Ridan Cao, Risako Mikami, Sayaka Katagiri, Yuji Kabasawa, Hiroshi Nitta. Educational effects of dental hygiene student intervention in dental student clinical practicum Journal of Dental Sciences. 2024.10;

2. Ayako Sekiguchi, Ridan Cao, Sachi Umemori, Kanako Noritake, Masayo Sunaga, Atsuhiro Kinoshita, Ken-ichi Tonami, Hiroshi Nitta. Educational effectiveness of remote training with smart glasses for impression-taking Journal of Dental Education. 2024.11;

3. Hiroyuki Ishiyama, Shaoyuan Liu, Akira Nishiyama, Kenji Fueki. Morning headache caused by obstructive sleep apnea misdiagnosed as temporomandibular disorders-related headache: A case report. Journal of Prosthodontics Research. 2024.08;

4. Keiji Komatsu, Denny Chao, Takanori Matsuura, Daisuke Kido, Takahiro Ogawa. Advancing osseointegration research: A dynamic three-dimensional (3D) in vitro culture model for dental implants Journal of Dental Sciences. 2024.07;

5. Kanamori Y, Takahashi R, Nikaido T, Nitta H, Shimada Y, Tagami J, Kunzelmann KH. Influence of resin-coating techniques on the marginal adaptation and the bond strengths of CAD/CAM-fabricated hybrid ceramic inlays. Dent Mater J. 2024.06; 43(3); 407-414

6. Mizutani K, Minami I, Mikami R, Kido D, Takeda K, Nakagawa K, Takemura S, Saito N, Kominato H, Sakaniwa E, Konuma K, Izumi Y, Ogawa Y, Iwata T. Improvement of periodontal parameters following

intensive diabetes care and supragingival dental prophylaxis in patients with type 2 diabetes: A prospective cohort study. Journal of clinical periodontology. 2024.03; 51(6); 733-741

1. 梅森　幸，礪波健一，則武加奈子，金森ゆうな， 葛西 美樹，小西 富代，佐川かおり，下山和弘，新田浩. 歯科ドック検診の高度化 · 高額化が受診傾向に及ぼす影響 ジャパンオーラルヘルス学会誌. 2024.08; 19;

[書籍等出版物]

1. 吉田直美、新田浩、磯村毅、うさっぱ. マンガでわかる歯科臨床での動機づけ面接. クインテッセンス出版(株), 2024.04 (ISBN : 978-4-7812-1004-9)
2. 能登　洋，岩田隆紀，新田　浩. 医科歯科相互連携でもっとうまくいく！ 糖尿病 · 歯周病診療. 株式会社金芳堂, 2024.03 (ISBN : 978-4-7653-1995-9)
3. 伊豆津　宏二、今井　靖　他. 今日の治療薬. 南江堂, 2024.01 (ISBN : 978-4-524-20768-8)

[総説]

1. Yoshihiro Yamaguchi, Kazuhiro Ooi, Hidemichi Yuasa, Akira Nishiyama, Yoshizo Matsuka,Takahiro Abe, Shinpei Matsuda, Yuki Watanabe, Yoshitaka Suzuki, Miki Kashiwagi,Azuma Kosai, Kenichi Sugai, Keika Hoshi, Yasuhiro Ono, Toshihiro Fukazawa,Hidehisa Matsumura, Yuko Fujihara, Hiroyuki Ishiyama. Efficacy of initial conservative treatment options for temporomandibular disorders: A network meta-analysis of randomized clinical trials Journal of Prosthodontic Research. 2024.09;
2. Keiji Komatsu, Takanori Matsuura, James Cheng, Daisuke Kido, Wonhee Park, Takahiro Ogawa. Nanofeatured surfaces in dental implants: contemporary insights and impending challenges International Journal of Implant Dentistry . 2024.07; 10(10);

[講演 · 口頭発表等]

1. Mei Harada,Sachi Umemori, Hiroshi Nitta, Jun Aida. The Association between Dental Visits and Chewing Ability - JAGES cross-sectional study -. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.07
2. Mei Harada、Sachi Umemori、Yusuke Matsuyama、Hiroshi Nitta、Jun Aida. Mediating Effect of Dental Prosthetics on Chewing Ability Recovery. 第 72 回国際歯科研究学会日本部会（JADR) 総会 · 学術大会 2024.11.17
3. Kido Daisuke, Mizutani Koji, Nitta Hiroshi. A Case Study Management and Regeneration of Vertical Bone Resorption. American Academy of Periodontology, 110th Annual Meeting 2024.11.01 San Diego, CA
4. Shu Takemura, Koji Mizutani, Risako Mikami, Keita Nakagawa, Masahiro Hakariya, Eri Sakaniwa, Natsumi Saito, Hiromi Kominato, Daisuke Kido, Kohei Takeda, Akira Aoki, Takanori Iwata. Enhanced periodontal tissue healing following low-level Er:YAG laser irradiation. The American Academy of Periodontology's 110th Annual Meeting 2024.11 San Diego Convention Center, San Diego, USA
5. Hama Y, Futatsuya R, Matsuzaki M, Xiong L, Okada M, Noritake K, Sasaki Y, KanazawaM. Screening of frailty, sarcopenia, and oral hypofunction using color-changeable chewing gum to evaluate masticatory performance. The 10th ASIAN CONFERENCE for FRAILTY AND SARCOPENIA 2024.10.11 Bangkok, Thailand
6. Matsuzaki M, Hama Y, Futatsuya R, Xiong L, Okada M, Noritake K, Sasaki Y, Kanazawa M. The relationship between frailty at baseline and the decline in oral function at one year follow-up. The 10th ASIAN CONFERENCE for FRAILTY AND SARCOPENIA 2024.10.11 Bangkok, Thailand
7. Xiong L, Hama Y, Futatsuya R, Matsuzaki M, Okada M, Noritake K, Sasaki Y, Kanazawa M. The relationship between oral function at baseline and onset of sarcopenia at one year follow-up. The 10th ASIAN CONFERENCE for FRAILTY AND SARCOPENIA 2024.10.11 Bangkok, Thailand
8. Futatsuya R, Hama Y, Matsuzaki M, Xiong L, Okada M, Noritake K, Sasaki Y, Kanazawa M. The association between dietary variety and oral function in older adults.. The 10th ASIAN CONFERENCE for FRAILTY AND SARCOPENIA 2024.10.10 Bangkok, Thailand

9. 関口 絢子, 礪波 健一, 曹 日丹, 梅森 幸, 則武加奈子, 須永 昌代, 木下 淳博, 新田 浩. スマートグラスを使用した遠隔指導の教育効果 - 概形印象採得 -. 第 43 回日本歯科医学教育学会学術大会 2024.09.07

10. Kumiko Yamaguchi, Chiharu Kawakami, Nobutoshi Nawa, Mitsuyuki Numasawa, Kanako Noritake, Janelle Moross. What Medical Students Should Learn for Medical-Dental Collaboration in a Super-aged Society. AMEE 2024 2024.08.29 The Virtual Conference

11. 則武加奈子, 中村麻衣子, 岡田英理子, 山口久美子, 新田浩, 平井伸英, 宮崎泰成. 東京医科歯科大学におけるダイバーシティ · インクルージョン推進に対する取り組みについて. 第 56 回日本医学教育学会学術大会 2024.08.10 東京

12. Fares Raafat Elsayed Mohamed Moustaf, Kenji Fueki, Akira Nishiyama, Hiroyuki Ishiyama. Relationship between TMD-related symptoms and personal computer use, psychosocial factors, and behavioral factors in Japanese working population.. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.07

1. 二ッ谷 龍大, 濵 洋平, 松崎 真友子, Linjing Xiong, 岡田 光純, 則武 加奈子, 佐々木 好幸, 金澤 学. 高齢者における食生活の多様性と口腔機能の関連 . 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.07 東京

2. 宮園敬資, 石山裕之, 西山 暁, 笛木賢治. 総負荷を規格化した持続的クレンチングが咬筋の圧痛閾値と筋硬度に及ぼす影響. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.06 東京都文京区

3. 宮園敬資, 石山裕之, 西山 暁. 総負荷を規格化した持続的クレンチングが咬筋の圧痛閾値と筋硬度に及ぼす影響. 第 29 回日本口腔顔面痛学会学術大会 2024.11.30 東京都千代田区

4. Liu Shaoyuan, 石山裕之, Suvichaya Angkulmahasuk, 西山暁, 笛木賢治. 閉塞性睡眠時無呼吸に対する下顎前突型口腔内装置の使用が, 顎関節症症状に及ぼす影響：システマティックレビューおよびメタ解析. 第 23 回日本睡眠歯科学会定期学術集会 2024.11.02 徳島県徳島市

5. 秋山　仁志, 上田　貴之, 大戸　敬之, 鬼塚　千絵, 紙本　篤, 里村　一人, 須藤　毅顕, 添野　雄一, 田口　則宏, 鶴田　潤, 照沼　美穂, 則武　加奈子, 長谷川　篤司, 平田　創一郎, 森田　浩光, 森　真理, 和田　尚久. 歯学教育モデル · コア · カリキュラム令和 4 年度改訂版普及事業の概要. 第 43 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 2024.09.06 愛知

6. 中川美奈　　. 自由でフラットな文化を醸成するための多職種連携教育. 第 56 回　日本医学教育学会大会 2024.08.10

7. 則武加奈子, 鶴田潤, 水谷幸嗣, 近藤圭子, 鈴木瞳, 安達奈穂子, 關奈央子, 三上理沙子, 樺沢勇司, 海老原新, 秀島雅之, 新田浩. 東京医科歯科大学歯学部診療参加型臨床実習における職種間連携教育＜ D6-OH4 連携実習＞の概要とその効果. 第 56 回日本医学教育学会学術大会 2024.08.09 東京

8. 関口 絢子, 礪波 健一, 曹 日丹, 梅森 幸, 則武 加奈子, 須永 昌代, 木下 淳博, 新田 浩. スマートグラスを使用した遠隔指導の教育効果　概形印象採得. 日本歯科医学教育学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.08.01

9. Suvichaya Angkulmahasuk, Akira Nishiyama, Hiroyuki Ishiyama. Establishment of new test conditions for non-functional masseter muscle activity during wakefulness . 第 37 回日本顎関節学会総会 · 学術大会 2024.07.15 徳島県徳島市

10. 西山　暁, 他. 日本国民における顎関節症症状保有率に関する調査. 第 37 回一般社団法人日本顎関節学会学術大会 2024.07.14

11. 石山裕之, 西山 暁, 笛木賢治. 顎関節症患者の QoL に影響及ぼす要因 -探索的研究-. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.07 千葉県千葉市

12. 曹 日丹. 医療系学部における AI 教育「Python で実践: 医療と AI· ビッグデータ演習」　教師あり機械学習　糖尿病の進行状況予測. 医学教育 2024.07.01

13. 西山　暁. 顎関節症という病気を知る—開業医でどのような治療をどこまで行うか . 第 1 回麻布赤坂歯科医師会学術講演会 2024.05.29

14. 梅森 幸、則武加奈子、小西富代、礪波健一. 東京医科歯科大学病院歯科ドック受診者の う蝕 · 歯周病原因菌の PCR 検査の傾向. 第 73 回日本口腔衛生学会学術大会 2024.05.12 盛岡

15. 西山　暁. 女性のライフステージと顎関節症. 第 29 回　日本女性医学学会ワークショップ 2024.03.03

16. 礪波 健一, 梅森 幸, 則武 加奈子, 秀島 雅之, 海老原 新, 曹 日丹, 須永 昌代, 木下 淳博, 新田 浩. エクセルマクロを用いた保険請求トレーニングアプリの開発　ゲーミフィケーションの応用. 口腔病学会雑誌 2024.03.01
17. 関口 絢子, 曹 日丹, 礪波 健一, 梅森 幸, 則武 加奈子, 須永 昌代, 木下 淳博, 新田 浩. スマートグラスを用いた遠隔歯科臨床指導の教育効果　概形印象採得. 口腔病学会雑誌 2024.03.01

[受賞]

1. 第 15 回歯学教育優秀賞（則武加奈子）, 日本歯科医学教育学会, 2024 年 09 月

[社会貢献活動]

1. 日本歯科保存学会　評議員, 日本歯科保存学会, 1992 年 04 月 01 日 - 現在
2. 日本口腔病学会　評議員, 日本口腔病学会, 1999 年 10 月 01 日 - 現在
3. 日本歯科薬物療法学会　評議員, 日本歯科薬物療法学会, 2002 年 04 月 01 日 - 現在
4. 日本歯科保存学会　理事, 日本歯科保存学会, 2003 年 04 月 01 日 - 現在
5. 日本口腔病学会　理事, 日本口腔病学会, 2003 年 04 月 01 日 - 現在
6. 日本歯科医学教育学会　評議員, 日本歯科医学教育学会, 2003 年 07 月 11 日 - 現在
7. 公益社団法人　医療系大学間共用試験実施評価機構　歯学系ＣＢＴ実施小委員会委員, 公益社団法人　医療系大学間共用試験実施評価機構, 2005 年 04 月 01 日 - 現在
8. 公益社団法人　医療系大学間共用試験実施評価機構　管理運営部会, 公益社団法人　医療系大学間共用試験実施評価機構, 2006 年 04 月 01 日 - 現在
9. 公益社団法人　医療系大学間共用試験実施評価機構　信頼性向上専門委員会, 公益社団法人　医療系大学間共用試験実施評価機構, 2007 年 04 月 01 日 - 現在
10. 東京医科歯科大学歯科同窓会委員（緊急時歯科医師派遣制度運営委員会）, 東京医科歯科大学歯科同窓会, 2011 年 09 月 01 日 - 現在
11. 日本シミュレーション医療教育学会編集委員, 日本シミュレーション医療教育学会, 2013 年 04 月 01 日 - 現在
12. 歯学教育の改善 · 充実に関する調査研究協力者会議　委員, 文部科学省, 2014 年 04 月 01 日 - 現在
13. 朝日大学　客員教授, 朝日大学, 2014 年 06 月 01 日 - 現在
14. 日本歯科薬物療法学会　理事, 日本歯科薬物療法学会, 2014 年 06 月 20 日 - 現在
15. 日本歯科薬物療法学会　学術奨励賞選考委員会　委員, 日本歯科薬物療法学会, 2014 年 06 月 20 日 - 現在
16. The Journal of Dental Education,peer reviewer, 2015 年 08 月 01 日 - 現在
17. 日本口腔診断学会　代議員, 日本口腔診断学会, 2015 年 09 月 05 日 - 現在
18. 新田　浩，日本歯科医学会タイムスタディ WG 委員, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
19. 新田　浩，国民健康保険診療報酬審査委員会委員, 2017 年 01 月 01 日 - 現在
20. 日本歯科保存学会　医療合理化委員会　委員, 日本歯科保存学会, 2017 年 04 月 01 日 - 現在
21. 新田　浩，日本歯科医学会歯科医療協議会委員, 2017 年 04 月 01 日 - 現在
22. 東京医科歯科大学歯科同窓会参与, 東京医科歯科大学歯科同窓会, 2017 年 09 月 01 日 - 現在
23. European Journal of Dental Education,peer reviewer, 2017 年 09 月 01 日 - 現在
24. 一般社団法人　学術著作権協会　理事, 一般社団法人　学術著作権協会, 2018 年 06 月 20 日 - 現在
25. 日中医学（日中医学協会ー日本財団）協力委員会専門委員, 公益財団法人　日中医学協会, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
26. 日中医学協会　共同研究等選考委員会専門委員, 公益財団法人　日中医学協会, 2019 年 04 月 01 日 - 現在

27. 日本歯科医学教育学会　監事, 日本歯科医学教育学会, 2019 年 07 月 19 日 - 現在
28. 歯学教育評価準備委員会委員, 公益財団法人　大学基準協会, 2019 年 10 月 01 日 - 現在
29. 則武　加奈子,「歯科医療提供体制等に関する検討会」構成員, 厚生労働省医政局, 2020 年 02 月 01 日 - 現在
30. 梅森　幸，日本歯科医学教育学会委員会富士研実行部会, 日本歯科医学教育学会, 2020 年 04 月 01 日 - 現在
31. 日本歯科薬物療法学会　編集査読委員会　委員, 日本歯科薬物療法学会, 2020 年 06 月 27 日 - 現在
32. 日本歯科薬物療法学会　漢方薬の EBM 委員会　委員, 日本歯科薬物療法学会, 2020 年 07 月 16 日 - 現在
33. 日本歯科薬物療法学会　細則検討委員会　委員, 日本歯科薬物療法学会, 2020 年 07 月 16 日 - 現在
34. 則武　加奈子,　日本歯科医学教育学会　教育一貫性員会副委員長, 2021 年 07 月 - 現在
35. 則武　加奈子，臨床研修活性化推進事業　指導歯科医講習会の講師養成のための研修会実行部会 副部会長, 一般社団法人日本歯科医学教育学会, 2021 年 12 月 01 日 - 2024 年 03 月 31 日
36. 則武加奈子,　令和 5 年度歯学教育モデル · コア · カリキュラム改訂を踏まえた調査研究の委員, 日本歯科医学教育学会　, 2023 年 04 月 01 日 - 2024 年 03 月 31 日
37. 則武加奈子, 神奈川県における歯科保健医療提供体制の検討委員, 神奈川県, 2023 年 07 月 11 日 - 2025 年 03 月 31 日
38. 顎関節症やブラキシズム、歯列接触癖などについて, NHK, あしたが変わるトリセツショー, 2024 年 04 月 19 日
39. 顎関節症/病気の概要と治療方法、セルフケアなどについて, 共同通信社, 『くらしの知恵』9 月号, 2024 年 07 月 17 日 - 2024 年 09 月 30 日
40. 顎関節症の基礎知識と、早期ケア · 治療の重要性, 日経 BP, 日経 Gooday, 2024 年 10 月 01 日 - 2024 年 11 月 29 日

歯科心身医学

Psychosomatic Dentistry

教授	豊福　明
講師	渡邉素子
助教	木村康之
医員	高尾千紘
医員	前田智寿古
医員	富永梨沙
大学院生	伊藤篤史
大学院生	高尾千紘
大学院生	岩脇清一
大学院生	Liu Zhenyan
大学院生	Gayatri Nayanar
大学院生	前田智寿古

非常勤講師　本村春彦、倉田二郎、長嶺敬彦

(1)　分野概要

当分野は、歯科口腔領域の慢性疼痛や咬合の異常感、味覚障害や口腔内の多彩な不快感 · 異常感など種々の原因不明の症状が長期的に持続する、いわゆる「歯科心身症」の診断 · 治療法の開発 · 改良および病態の解明を目指している。
わが国では唯一の歯科心身医学を専門とする講座として、「中枢から見た歯科医学」を研究テーマに、日々よりよい歯科心身医療の提供と、そのための研究 · 教育を行っている。

(2)　研究活動

歯科領域における“medically unexplained oral symptoms”。これが当分野が真に対象とする病態である。歯科治療を契機に慢性疼痛や咬合の異常感、味覚障害や口腔内の異常感など様々な原因不明の症状が出現し、苦しんでいる患者が大勢いる。このような患者は、歯科に行けば「心療内科へ行け」と一蹴され、心療内科や精神科では「歯の事は分からない」と匙を投げられ、医療難民化しているのが現状である。当分野では、このような「医療の隙間」に陥ってしまい、「どこへ行ったら良いのか分からなくなった」患者の病態解明と、より効果的で効率的な治療法の開発を目指している。
当分野では「中枢からみた歯科学」をテーマに、「歯科心身症の治療技法の開発 · 改良および本症の病態解明」を目指し、臨床と直結した研究を志向している。日々の診療の中で試行錯誤を繰り返しながら、病態の本質に迫るような治療技法の工夫を続け、そこから得られた知見を元に本症の病態解明に取り組んでいる。
本症の病態に脳内神経回路の構造やそれらの接続パターンの関与していることは間違いないと思われる。ところが酷似しているようで本症の症状には微妙なバリエーションがあり、薬剤の反応性、忍容性、副作用の出現にも個人差が大きいことがわかってきた。症状と責任病巣が必ずしも 1 対 1 対応ではなく、脳内のニューロンの異なる別個の活動状態が、主観的には判別不能であるため酷似した訴えとして表出されるのかもしれない。臨床の段階でこのような個人差を可及的に減らしてから脳機能画像研究に結び付けられるよう、臨床的評価の工夫を重ねている。
豊富な症例数を活かし、歯科心身症と精神疾患 · 内科疾患との comorbidity に関する疫学的研究を継続している。本年は特に咬合の愁訴で難渋させられる PBS の脳機能画像解析や非定型歯痛の治療転帰を検討し、Oral Dis

や J Pain Res などに掲載されている。DPA や NaSSA など新規向精神薬の歯科領域への応用なども積極的に行い、多数例の治療成績を解析し、より良い治療を検討している。さらに医療コストも勘案し、古い薬の限界を知悉した上で新規開発薬とのより効果的な併用療法の開発も視野に入れている。まずは各歯科心身症の病態の詳細を調べ、三環系抗うつ薬のより安全でより効果的な使い方の発見を試みている。特に高齢者に対する薬物療法のデータを Neuropsychiatr Dis Treat, Front Pain Res などに報告した。脳機能画像研究も軌道に乗り、口腔内セネストパチーや Phantom bite syndrome を題材にした、本学医学部精神科ならびに放射線科と共同研究の成果が、Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci や BMC Psychiatry などに掲載されている。また北海道医療大学と共同で、認知行動療法に関する実践的研究や歯科心身症の心理社会的側面からの解析も継続している。

歯科心身症は、器質的な所見に乏しく、主観的な訴えが前面に表出されるという特性から、現時点では病態は不明な点が多く動物実験による検証が困難である。しかし、実は末梢神経レベルの病態も未だ不明な点が多い。院生が日大歯学部口腔生理学教室とミネソタ大学に留学し、帰国後も日本大学や大阪大学との共同研究を継続するなど、これまで“心因性”と看做されがちであった三叉神経領域の慢性疼痛の生物学的基盤を神経グリア連関の視点から見直すことも試みている。これらの基礎研究の成果が、臨床では三叉神経の Neurovascular Compression と関連づけられないかと、本学口腔放射線医学分野と共同研究を開始し、Pain Med, Front Neurol などに成果発表している。

(3) 教育活動

従来、歯科における心身医学の卒前教育の重要性が強調されてきた。しかし、全国的にも精々わずかな座学のみの大学がほとんどで、とても十分とは言えないのが現状である。精神医学や内科領域の心身医学の単なる抜粋ではなく、歯科特有の心身医学の体系が求められている。

当分野では学部学生の教育においては、講義や本でかじった生半可な知識だけではなく、実体験を通じて本症を肌で感じ取ってもらうことに主眼を置いている。早期体験実習で実際の診療場面を見学させ、6 年生の包括臨床実習では、外来新患の予診を担当し、教授診察の場でプレゼンテーションを課している。生の患者を眼前にし、当人から直接話を聞くことで、歯科医師が担当すべき歯科心身症患者が実在すること、治療可能な疾患であること、安易に「心因性」「治らない」などと片付けることの弊害、患者や家族の深刻な苦痛などに理解を深めさせている。また精神科に紹介すべき疾患の鑑別もできるように Psychiatry In Primary Care（PIPC）を導入し、実践的な指導を心掛けている。

ローテートしてきた臨床研修歯科医師には、治療過程まで含めもう一歩踏み込んだ指導を行った。地道な取り組みではあるが、将来的には歯科心身医学の素養を備えた本学卒業生が「こころも診れる歯科医師」に育っていくことで、本症の受療可能性の均てん化、難症例の対応能力の向上、ひいては歯科医療トラブルの減少が期待される。

歯科心身医学に、歯科医師としてのアイデンティティは重要である。しっかりした歯科医師としての考え方、知識、技術に基づき、なおかつ技術偏重に陥らずに「病める人」として患者を深く理解できる歯科医師の育成を目指している。一方、他科医師との連携を通じて、関連科の発想や技術も取り入れられる点を参考にするように指導している。

大学院教育においても、臨床における実践を重視し、歯科心身症を専門的に診れる歯科医師の育成とともに臨床現場で生まれた問題提起をテーマに研究指導している。初発の関心をいかにして研究可能な問いに変換していけるか、「問いの立て方と展開」の仕方を個別に指導している。患者データを用いた臨床的研究を中心に展開し、考える材料として週 2 回の英文抄読会の他にも外部講師を招いての勉強会を重ねている。論文を鵜呑みにするのではなく、臨床での現実と対比する習慣を涵養し、講読した論文への疑問や意見は letter to editor として投稿することも推奨している。

患者数の多さに流されず、毎日夕方の新患カンファレンスを英語で行ない、年々増加する高齢者多疾患併存にも対応すべく医歯連携の緊密化と慎重かつ緻密な症例検討を日々積み重ねている。1 例 1 例を注意深く観察し、豊かな語彙で適確に描写できることを目指し、カルテ記載や紹介状 · 返書の書き方にも工夫を求めている。英語論文だけでなく、きちんとした和文も書けるように、症例報告も積極的に論文化するよう指導している。

(4) 教育方針

大学院教育においては、臨床における実践を重視し、歯科心身症をきちんと診れる歯科医師の育成とともに臨床現場で生まれた問題提起をテーマに研究指導を行っている。新入生に対して、まずは当科外来にて実際に患者の診療を体験し、歯科心身症とはどのようなものかを肌で体得させている。「良い臨床から良い研究が生まれる」をモットーに、診療室で自分の目で見た現象を素材に、歯科臨床で有用性の高い臨床研究を志向している。臨床の場から自らが興味を持った課題を抽出させ、「どのように問いを立てるか」「どのように問いを展開していくか」など研究テーマを話し合って決めていくこととしている。

基礎研究を志向する者には、有力な生理学研究室へ指導委託を行い、最新の知見をフィードバックしてもらうようにしている。また、大学院特論の他、外部講師による特別講義なども企画を工夫し、臨床現場を重視しながらも最先端の脳科学に触れ、自由闊達な発想を育む機会を作っている。海外も含め各種学会へも積極的に発表を

促したり、各種研修会などで見聞を広めたりするよう指導している。
大学院卒業後は、学会認定医取得とアカデミックポジションの獲得にむけて手厚くサポートしている。

(5) 臨床活動および学外活動

東京医科歯科大学病院の「歯科心身医療科」にて、歯科心身症（Medically Unexplained Oral Symptom/Syndrome）の専門的診断・治療を担当している。舌痛症、非定型顔面痛（非定型歯痛）、口腔異常感症（口腔セネストパチーを含む）、顎関節症（咬合異常感・Phantom Bite Syndrome）など歯科特有の患者群に力を入れている。特に歯列矯正治療や義歯関連の不定愁訴は歯科特有の問題と捉え、さらに近年大きな問題となってきたインプラント関連症例にも最善を尽くしている。
治療は TCA、SSRI、SNRI、NaSSA や DPA などによる薬物療法に、適切な生活指導（生活リズムの適正化や症状への対処法など）を組み合わせたり、必要に応じて各種心理療法を適用するなどして口腔症状の改善を図っている。難治例も増加傾向にあるが、1 例 1 例を大事にし、約 70 %の患者で比較的良好な経過が得られている。近年は医療経済学的な面も考慮し、古い薬でも上手に工夫して満足な治療効果を得られないか、特に高齢で多疾患併存の患者により安全で効果的な治療ができないかという試みも始めている。
やはり歯科医師が担当すべき「歯科心身症」という守備範囲が存在する。歯科を受診してきても精神科・心療内科で治療すべき患者は鑑別し、適切な治療ルートに導くようにしている。なお精神疾患に継発する口腔症状 Functional somatic symptoms secondary to psychiatry disorders に関して精神科より依頼があれば、同科主治医と協力してその解決に努力するというスタンスをとっている。本学のメンタルヘルス・リエゾンセンターの開設により、さらに医歯連携が密になっている。特に口腔セネストパチーに関しては、本学医学部精神神経科と連携を深め、難治性病態に対するより良い治療法の開発と病態解明を目指している。
当科外来では年間約 5 － 600 名の新患を受け入れているが、再来患者が 10000 名を越すこともありマンパワー不足や外来の狭隘が顕著となった。病院機能維持のため、やむを得ず完全紹介・予約制とさせて頂いている。決して多くはないが、必要に応じて入院治療にも対応できる体勢を構築している。首都圏はもちろん中部・関西、果ては北海道や九州といった遠方からもご紹介頂いている。本学医学部附属病院はもとより他の大学病院や基幹病院の精神科からの紹介も増え、症状が安定すれば逆紹介を促進し医療連携を深めている。
歯科心身症は各科の専門医が集まり、それぞれの担当部分を分担治療すれば制圧できるという疾患ではない。中枢を巻き込んだ歯科的症状、いわばこころと歯が複雑に絡み合った病態に対応しうる総合的歯科医療の実践を目指している。
既存の保険診療の枠決めに安住せず、患者から学ぶ姿勢を保ちつつ先駆的な治療を取り入れる努力を続けている。昨今急増している高齢者多疾患併存に対応した精度の高い診断と安全かつ効率的な心身医療を心がけ、より多くのニーズに応えるべく医療連携の推進と共に、医療経済面も考慮した、さらなる治療成績と治療効率の向上が課題である。

(6) 臨床上の特色

当院「歯科心身医療科」は、歯科心身症に特化した、わが国では数少ない専門外来である。症例数の豊富さのみならず、対話を大切にした診療を心がけ、歯科的見識のもと 1 人 1 人の患者に丁寧に寄り添うことをモットーにし、高齢者多疾患併存に対応した精度の高い診断と安全かつ効率的な心身医療を心がけ、良好な治療成績を上げている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Takayuki Suga, Trang Thi Huyen Tu, Motoko Watanabe, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. Low-dose amitriptyline: A potential therapeutic option for chronic pain in older people. Br J Clin Pharmacol. 2024.12;

2. Takayuki Suga, Chihiro Takao, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. Investigating the Influence of Birth Month on the Incidence of Burning Mouth Syndrome. Oral Dis. 2024.12;

3. Atsushi Ito, Sushuang Yang, Eri Shinto, Atsushi Shinto, Akira Toyofuku, Jiro Kurata. Interhemispheric and Corticothalamic White-Matter Dysfunction Underlies Affective Morbidity and Impaired Pain Modulation in Chronic Pain. Anesth Analg. 2024.06;

4. Motoko Watanabe, Chihiro Takao, Chizuko Maeda, Gayatri Nayanar, Risa Tominaga, Yasuyuki Kimura, Trang Thi Huyen Tu, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. The effective perospirone augmentation with

clonazepam for treatment-resistant burning mouth syndrome: A case report. Neuropsychopharmacol Rep. 2024.03;

5. Motoko Watanabe, Trang Tu, Takahiko Nagamine, Akira Toyofuku. Goal Attainment Scaling in Patients With Burning Mouth Syndrome: A Real-World Clinical Study Protocol. Cureus. 2024.02; 16(2); e54392

6. Motoko Watanabe, Wataru Araki, Chihiro Takao, Chizuko Maeda, Risa Tominaga, Yasuyuki Kimura, Gayatri Nayanar, Trang Thi Huyen Tu, Takashi Asada, Akira Toyofuku. A case with burning mouth syndrome followed by dementia with Lewy bodies: a case report. Front Psychiatry. 2024.01; 14; 1329171

7. Takahiko Nagamine, Takeshi Watanabe, Akira Toyofuku. QTc Shortening on Electrocardiogram With Amitriptyline May Indicate No Effect on Pain Relief in Burning Mouth Syndrome. Clin Neuropharmacol. 2024.01;

1. 木村康之、富永梨沙、前田智寿子、高尾千紘、渡邉素子、豊福明. 歯科心身医療科初診来院患者の分析ー口腔身体症状とパーソナリティに着目してー 未病と抗老化. 2024.11; 33; 69-72

2. 木村 康之, 富永 梨沙, 前田 智寿古, 高尾 千紘, 渡邉 素子, 豊福 明. 歯科心身医療科初診来院患者の分析　口腔身体的症状とパーソナリティとの関連に着目して 未病と抗老化. 2024.11; 33; 69-72

3. 高尾 千紘, 渡邉 素子, Trang Thi Huyen Tu, Gayatri Nayanar, Chen Qinyi, 富永 梨沙, 前田 智寿古, 木村康之, 長嶺 敬彦, 豊福 明. 認知症の前駆症状としての口腔セネストパチー　症例集積研究 未病と抗老化. 2024.11; 33; 64-68

4. 木村康之、富永梨沙、前田智寿子、高尾千紘、渡邉素子、豊福明. 3 種の薬物内服下で自己客観視が治療上の転機となったうつ病合併舌痛症の一例 日本歯科心身医学会雑誌. 2024.04; 38(1);

[書籍等出版物]

1. 豊福　明 · 吉田和也. 最新言語聴覚学講座　臨床歯科医学 · 口腔外科学　. 医歯薬出版, 2024.03

[総説]

1. Y Umezaki, T Naito, T T Huyen Tu, A Toyofuku. Burning mouth syndrome. Br Dent J. 2024.07; 237(2); 73

2. Akira Toyofuku, Hirofumi Matsuoka, Yoshihiro Abiko. Reappraising the psychosomatic approach in the study of ”chronic orofacial pain”: looking for the essential nature of these intractable conditions. Front Pain Res (Lausanne). 2024.05; 5; 1349847

[講演 · 口頭発表等]

1. Gayatri NAYANAR, Akira TOYOFUKU. Prevalence of anti-CASPR2 autoantibobies in patients with somatic symptom disorder. 第８ 1 回口腔病学会学術大会 2024.12.07

2. 富永梨沙、渡邉素子、高尾千紘、前田智寿古、木村康之、豊福　明. デュロキセチン単剤療法が奏功した高齢男性患者の舌痛症の 1 例. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

1. 豊福　明. 舌痛症と口腔セネストパチー；口腔症状と脳との「距離」から考える. 第 29 回日本口腔顔面痛学会学術大会シンポジウム 2024.12.01

2. 高尾千紘、渡邉素子、豊福　明. ADHD を併存する口腔セネストパチー患者の経過観察中に、診断に苦慮する歯痛を訴えた 1 例. 第 29 回日本口腔顔面痛学会学術大会 2024.12.01

3. 木村康之, 則武加奈子, 西山暁, 新田浩, 豊福明. 臨床研修歯科医師の起こしやすいインシデントについて—粘膜損傷 · 異物誤飲 · 衣類汚染—. 第 19 回医療の質 · 安全学会学術集会 2024.11.29 横浜

4. 富永梨沙、前田智鶴古、豊福　明. 口腔癌が潜在していた舌痛症の 2 例. 第 69 回日本口腔外科学会総会 2024.11.23

5. 豊福　明. 歯科インプラント治療上で問題となる「歯科心身症」. 第 54 回　公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 2024.11.02

6. 木村康之,　富永梨沙, 高尾千紘,　豊福明. 成人の自閉スペクトラム症患者における歯周治療と歯科矯正治療に関する 説明と同意について. 第 37 回日本口腔診断学会 · 第 34 回日本口腔内科学会 · 合同学術大会 2024.09.28 塩尻

7. 高尾千紘、富永梨沙、木村康之、豊福　明. 口腔セネストパチーの経過観察中に、診断に苦慮する歯痛を訴えた 1 例. 第 34 回日本口腔内科学会 2024.09.28

8. 木村康之、高尾千紘、富永梨沙、豊福　明. 成人の自閉スペクトラム症患者における歯周治療と歯科矯正治療に関する説明と同意について. 第 34 回日本口腔内科学会 2024.09.28

9. 豊福　明. ”咬合治療の光と影”;「咬合違和感症候群」にご用心. 令和 6 年度日本補綴歯科学会九州支部学術大会シンポジウム 2024.09.21 熊本

10. 美久月瑠宇、豊福　明. 少量のアリピプラゾールが奏功した難治性口腔セネストパチーの 1 例. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

11. 高尾千紘、佐藤佑介、渡邉素子、前田智寿古、富永梨沙、木村康之、豊福　明. 長期にわたり医科 · 歯科多数の診療科を転々としていた、口腔異常感症の 1 例. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

12. 高尾千紘、渡邉素子、前田智寿古、富永梨沙、木村康之、豊福　明. ADHD を併存する口腔セネストパチー患者の経過中に、診断に苦慮する歯痛を訴えた 1 例. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

13. 梅崎陽二朗、豊福　明、金光芳郎、古賀千尋、内藤　徹. 口腔セネストパチー患者における対処行動による症状緩和と脳血流の変化. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

14. 前田智寿古、渡邉素子、木村康之、高尾千紘、富永梨沙、豊福　明. 当院補綴科との連携治療が奏功した Phantom　bite　syndrome の 2 例. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

15. 吉川達也、梅崎陽二朗、佐藤佑介、豊福　明. 酸関係抗うつ薬とブレクスピプラゾールの併用療法が有効であった非定型歯痛の 1 例. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

16. 松岡紘史、宇都宮雅史、吉田光希、渡邉素子、森谷満、三浦宏子、豊福　明、安彦善裕. Pain　acceptance が舌痛症の気分状態に及ぼす影響. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

17. 木村康之、富永梨沙、前田千鶴古、高尾千紘、渡邉素子、豊福　明. 東京医科歯科大学病院歯科心身医療科における 2023 年度初診患者の分析. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

18. 渡邉素子、前田千鶴子、岩脇清一、高尾千紘、富永梨沙、木村康之、豊福　明. Goal attainment scaling（GAS）を用いた歯科心身症の研究プロトコル. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術集会 2024.07.19 松本

19. 木村康之、富永梨沙、前田智寿古、高尾千紘、渡邉素子、豊福明. 東京医科歯科大学病院歯科心身医療科における 2023 年度初診患者の分析. 第 39 回日本歯科心身医学会総会 · 学術大会 2024.07.19 松本

20. 豊福　明. 高齢者の歯科心身医療;「高齢先進国モデル」の確立に向けて. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会シンポジウム 2024.06.29 札幌

21. 森尾 千紘, 木村 康之, 渡邉 素子, 豊福 明. 舌痛症 834 例の臨床的特徴と痛み表現のバリエーション. 口腔病学会雑誌 2024.03.01

22. 渡邉 素子, 木村 康之, 石田 雄之, 東堀 紀尚, 米満 郁男, 小野 卓史, 森山 啓司, 豊福 明. 顎変形症に併存する精神科的疾患への配慮について　歯科矯正科と歯科心身医療科の連携医療. 口腔病学会雑誌 2024.03.01

23. 松岡 紘史, 宇津宮 雅史, Durga Paudel, 吉田 光希, 渡邉 素子, 三浦 宏子, 豊福 明, 安彦 善裕. 舌痛症患者の労働障害に対する痛みに対する破局的思考の長期的な影響. 日本口腔診断学会雑誌 2024.02.01

[受賞]

1. 優秀論文賞（歯科部門）, 一般財団法人博慈会, 2024 年 11 月

統合臨床感染症学分野

Department of Infectious Diseases

教授　具　芳明
准教授　岡本　耕
講師 田頭　保彰
助教　栗田　崇史
助教（感染制御部）　佐藤　ルブナ
医員（感染症内科）　藤井　裕菜
研修医師　長原　慶典
特任研究員 縣　智香子
特任研究員 坂口　みきよ
大学院生（博士課程）　堀内　弘司
大学院生（修士課程）　逢坂　啓莉
技術支援員　Do Dang An
医局秘書　舩田　慧里子

(1)　分野概要

統合臨床感染症学分野は感染症の臨床を中心に研究と教育を担当しています。大学病院では感染症内科と感染制御部を担当しています。感染症に関する疫学研究を中心とした研究や感染症全般の教育活動を行っています。
また、東京科学大学の「感染症パンデミックを複層的に征圧するプラットフォーム事業」の中核として、本学の感染症研究 · 教育を推進する役割を担っています。当分野は、2023 年に設立された感染症センター（TCIDEA）の臨床医学部門を担当しています。

(2)　研究活動

抗菌薬適正使用や院内感染の制御に関する研究を中心に感染症に関する臨床 · 疫学研究をさまざまな視点から行っています。
なかでも、国内外で大きな問題となっている薬剤耐性（AMR）に関連する病院疫学研究や、医療従事者 · 一般市民の意識を探り行動変容をめざす研究に力を入れて取り組んでいます。
東京都と連携し、医療機関や公衆衛生の COVID-19 パンデミックに対する対応についての研究も行っています。

(3)　教育活動

私たちは将来を担う感染症専門家を育成することに力を注いでいます。感染症は医療全般に関わることから、感染症診療や感染制御の基本的な対応を身につけた医師を増やしていくことも重要な課題です。多職種を対象とした教育も重要です。私たちはさまざまな段階に応じた教育を提供し、人材育成に取り組んでいます。

卒前教育
医学科 3 年生の講義（感染 · 臨床）や医学科 5,6 年生の臨床実習を中心に感染症診療 · 感染制御に関する講義や実習を担当しています。あらゆる医師 · 医療従事者が身につけておくべき感染症診療や感染対策の基本を、興味をもって学ぶことができるよう工夫しています。

卒後教育
初期研修医（ローテート）、専攻医、専門医をめざすフェローシップなど、それまでの経験やキャリアプランに応じたプログラムを提供します。

大学院教育
臨床感染症や感染症疫学を中心に多角的に感染症に取り組む専門家の育成を目指しています。
AMR 対策、病院疫学、病院感染症のコントロールなどをテーマとしています。

生涯教育
臨床のどの分野においても多かれ少なかれ感染症の診療に関わることになります。感染症の診断と治療に関する情報を提供し、生涯教育に貢献しています。
薬剤師や看護師、臨床検査技師など多職種を対象とした教育にも取り組んでいます。

(4) 教育方針

臨床感染症や感染症疫学を中心に多角的に感染症に取り組む専門家の育成を目指しています。

(5) 臨床活動および学外活動

東京科学大学病院では感染症内科と感染制御部を担当しています。
感染症内科は 2021 年 10 月に開設された新しい診療科です。各科からの相談に対応した診療を中心とし、主に入院患者さんに発生するさまざまな感染症の診断と治療を行っています。発熱など感染症が疑われる症状の原因となっている微生物を突き止め、その微生物や患者さんの状態に合わせて最適な治療法を選択しています。
感染制御部は、病院内で発生する感染症を予防するとともに広がりを防ぎ、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整えています。関係各部門と連携を取りながら多職種のチームで取り組んでいます。
私たちは近年大きな問題となっている薬剤耐性（AMR）対策のため、抗菌薬適正使用の推進に取り組んでいます。感染症内科と感染制御部が一体となり、抗菌薬使用状況を把握するとともに、感染症治療の適正化を通じて AMR の抑制と治療成績の向上をめざしています。
学外では、東京都に事業提案を行い、2022 年度から 3 カ年の計画で「中小病院におけるポストコロナ時代の感染症健康危機への対応能力強化事業」を行っています。その他にも学会活動や公的な活動などさまざまな活動を行っています。

(6) 臨床上の特色

感染症内科は各科からの相談に応じたコンサルテーション診療を行っています。臓器を問わずさまざまな感染症への対応を通じて各診療科を支援し、大学病院全体の感染症診断と治療に貢献しています。感染制御部は感染症の予防を中心に取り組んでいます。これらの活動を通じ、大学病院の高度医療を支える役割を担っています。
外来診療では HIV 感染症を含む感染症診療や、感染症を予防するためのワクチン接種を行っています。

(7) 研究業績

[原著]

1. Miwa, T; Okamoto, K; Nishizaki, Y; Tokuda, Y. The characteristics of postgraduate antimicrobial stewardship education resources: a nationwide survey in Japan JOURNAL OF HOSPITAL INFECTION. 2024.12; 154; 137-139

2. Toshiki Miwa, Koh Okamoto, Shotaro Ishikawa, Kazuhiko Ikeuchi, Shinya Yamamoto, Mahoko Ikeda, Shu Okugawa, Akihiko Ichida, Nobuhisa Akamatsu, Kiyoshi Hasegawa, Takeya Tsutsumi. The Effectiveness and Safety of the Short-Course Therapy in Liver Transplant Recipients With Uncomplicated Gram-Negative Bacteremia: A Retrospective Study. 2024.12; e14434

3. Yusuke Ota, Fei Chen, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Kimiyo Watanabe, Teruaki Kinoshita, Yoshiaki Gu, Yoko Nukui, Ryoichi Saito. Metatranscriptomic Analysis Reveals Actively Expressed

Antimicrobial-Resistant Genes and Their Hosts in Hospital Wastewater. Antibiotics (Basel). 2024.11; 13(12); 1122

4. Tan, SSX; Phoompoung, P; Okamoto, K; Chayakulkeeree, M; Koh, XX; Tan, CK; Kong, SNM; Tan, TT; Chung, SJ; Tan, BH. Donor-derived infections-Insights from Singapore, Japan, and Thailand TRANSPLANT INFECTIOUS DISEASE. 2024.11; 26; e14370

5. Shinya Yamamoto, Tatsuya Kobayashi, Mahoko Ikeda, Yusuke Nomura, Takeru Morishige, Katsuhiro Makino, Hiroshi Ito, Marie Yamashita, Daisuke Jubishi, Yoshiaki Kanno, Koh Okamoto, Yoshimi Higurashi, Shu Okugawa, Kyoji Moriya, Haruki Kume, Takeya Tsutsumi. Carbon dioxide-dependent, extended-spectrum β-lactamase producing Escherichia coli bacteremia associated with pyelonephritis: A case-report. 2024.10;

6. Shinya Yamamoto, Koh Okamoto, Hiraku Kumamaru, Makoto Saito, Hiroshi Ito, Marie Yamashita, Yoshiaki Kanno, Mahoko Ikeda, Sohei Harada, Shu Okugwa, Mitsutoshi Kimura, Osamu Kinoshita, Minoru Ono, Takeya Tsutsumi, Kyoji Moriya. Clinical impact of the use of chronic suppressive antibiotics against recurrent ventricular assist device infections. 2024.10; 12(11); e0039824

7. Kohei Ukai, Koh Okamoto, Akinori Ichinose, Mariko Yoshida, Yoshimi Higurashi, Ryu Yoneda, Shuta Yamamoto, Takashi Asahara. Lacticaseibacillus paracasei Bacteremia Associated With Probiotic Use in a Child With Hypoganglionosis: Case Report and Literature Review. 2024.09;

8. Maho Adachi-Katayama, Koh Okamoto, Chihiro Konoeda. Surgical site infection due to Mycobacterium fortuitum in a lung transplant recipient. 2024.09; e14374

9. Horiuchi H, Watanabe A, Yaguchi T, Ban S, Otsuka T, Miyazaki H, Furuya R. Correction: Superficial abdominal surgical site infection caused by Aspergillus welwitschiae: a case report. BMC infectious diseases. 2024.09; 24(1); 1026

10. Maho Adachi-Katayama, Hideki Hashimoto, Shu Hagiwara, Marie Yamashita, Yuichiro Mihara, Aoi Kanematsu, Amato Otani, Yuji Wakimoto, Tatsunori Oyabu, Daisuke Jubishi, Koh Okamoto, Sohei Harada, Nobuhisa Akamatsu, Yasutaka Hoshino, Shu Okugawa, Kiyoshi Hasegawa, Kyoji Moriya. Pulmonary Nocardiosis Due to Nocardia exalbida Infection Following Living-donor Liver Transplantation. 2024.08;

11. Baasanjav Uranbileg, Hideaki Isago, Hitoshi Nakayama, Daisuke Jubishi, Koh Okamoto, Eri Sakai, Masayuki Kubota, Takeya Tsutsumi, Kyoji Moriya, Makoto Kurano. Comprehensive metabolic modulations of sphingolipids are promising severity indicators in COVID-19. 2024.07; 38(14); e23827

12. Osaka H, Tagashira Y, Takeuchi H, Tanaka Y, Tanimoto K, Gu Y. Nosocomial outbreak of SARS-CoV-2 in a hospital ward during the Omicron variant-dominant wave with a review of the relevant literature. Japanese journal of infectious diseases. 2024.05; 77(5); 253-259

13. Ota Y, Yasunaga K, Mahazu S, Prah I, Nagai S, Hayashi T, Suzuki M, Yoshida M, Hoshino Y, Akeda Y, Suzuki T, Gu Y, Saito R. Comparative evaluation of analytical pipelines for illumina short- and nanopore long-read 16S rRNA gene amplicon sequencing with mock microbial communities. Journal of microbiological methods. 2024.04; 221; 106929

14. Miwa, T; Okamoto, K; Ikeuchi, K; Yamamoto, S; Okugawa, S; Ichida, A; Akamatsu, N; Hasegawa, K; Tsutsumi, T. The Role of Frequent Screening or Diagnostic Testing of Serum Cryptococcal Antigen in Liver Transplant Recipients: A Descriptive Epidemiology OPEN FORUM INFECTIOUS DISEASES. 2024.04; 11(5); ofae255

15. Miwa, T; Okamoto, K; Nishizaki, Y; Tokuda, Y. Infectious Disease Physician Availability and Postgraduate Antimicrobial Stewardship Education in Japan JAMA NETWORK OPEN. 2024.03; 7(3); e244781

16. Kitaura Satoshi, Okamoto Koh. The effect of infectious diseases on lung transplantation in Japan. J Thorac Dis. 2024.02; 16(2); 1632-1644

17. Kawase Kyotaro, Okamoto Koh, Harada Sohei, Nomura Yusuke, Shimada Shogo, Komae Hyoe, Kuroda Ryohei, Ideyama Mana, Soma Katsura, Mizoguchi Miyuki, Higurashi Yoshimi, Ukai Kohei, Adachi-Katayama Maho, Miwa Toshiki, Wakimoto Yuji, Oyabu Tatsunori, Jubishi Daisuke, Hashimoto Hideki, Okugawa Shu, Ono Minoru, Doi Kent, Ushiku Tetsuo, Tsutsumi Takeya. A case of hypervirulent K1-ST23 Klebsiella pneumoniae endocarditis and papillary muscle rupture secondary to multiple site abscesses. J Infect Chemother. 2024.02; 30(2); 154-158

18. Zhuo C, Zheng B, Wattanakamolkul K, Nakayama Y, Cloutier M, Gauthier-Loiselle M, Feng J, Wu D, Neary MP, Geurtsen J, El Khoury AC, Gu Y. Impact of Invasive Escherichia Coli Disease on Clinical Outcomes and Medical Resource Utilization Among Asian Patients in the United States. Infectious diseases and therapy. 2024.01; 13(2); 313-328

19. Kanno Yoshiaki, Okamoto Koh, Shinohara Takayuki, Kinoshita Osamu, Hatano Masaru, Ikeda Mahoko, Harada Sohei, Okugawa Shu, Moriya Kyoji, Ono Minoru, Tsutsumi Takeya. Pre-Transplant Seroprevalence, Associated Factors, and Post-Transplant Incidence of Toxoplasma gondii Infection Among Heart Transplant Recipients in Japan. Transplant Proc. 2024.01; 56(1); 148-152

20. Sato L, Tagashira Y, Shigeno N, Gu Y. Contact tracing in the hospital setting during the omicron wave of the coronavirus disease 2019 pandemic: persons and periods of concern for nosocomial infection prevention and control. Antimicrobial stewardship & healthcare epidemiology : ASHE. 2024; 4(1); e84

1. 具 芳明. 【新型コロナウイルス感染症の反省を踏まえた新興感染症への対応について】クラスター対応の経験から学ぶ 全国自治体病院協議会雑誌. 2024.11; 63(11); 1634-1637

2. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 42 回)　2024 年の AMR 対策キャンペーン J-IDEO. 2024.11; 8(6); 1020-1022

3. 出口 理香子, 田頭 保彰, 逢坂 啓莉, 具 芳明. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックにおける入院前スクリーニング検査に関する後方視点的研究 日本環境感染学会誌. 2024.11; 39(6); 228-232

4. 具 芳明. 【これで初心者さんも間違えない!薬剤耐性菌対策のピットフォール集】知識編 薬剤耐性 (AMR) 対策 アクションプラン 2023-2027 の改訂ポイント INFECTION CONTROL. 2024.09; 33(9); 918-921

5. 具 芳明. はじめて物語 (最終回) AMR 臨床リファレンスセンターの立ち上げ J-IDEO. 2024.09; 8(5); 848-849

6. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 41 回)　抗菌薬開発のための薬剤耐性病原体リスト J-IDEO. 2024.09; 8(5); 827-829

7. 具 芳明. 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 の概要 日本臨床微生物学会雑誌. 2024.09; 34(4); 259-266

8. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 40 回) 国連ハイレベル会合に向けた WHO の AMR 啓発キャンペーン J-IDEO. 2024.07; 8(4); 680-681

9. 田頭 保彰, 岡本 耕, 坂口 みきよ, 具 芳明. 病院での抗菌薬適正使用支援プログラム (ASP) を推進するためのオンライン教育モジュールの開発プロセスについて 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集. 2024.07; 39 回; 361

10. 石川 翔太郎, 三輪 俊貴, 岡本 耕, 池田 麻穂子, 奥川 周, 堤 武也. 肝移植後患者のグラム陰性桿菌菌血症に対する抗菌薬短期治療の検討 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集. 2024.07; 39 回; 360

11. 滝澤 あゆみ, 関谷 紀貴, 福島 一彰, 堀内 正夫. 抗菌薬治療中に視神経網膜炎を合併した猫ひっかき病のマネジメントに関する検討 感染症学雑誌. 2024.07; 98(4); 398-402

12. 山下 耕平, 山本 真也, 池内 和彦, 岡本 耕, 奥川 周, 堤 武也. ガス産生性肝膿瘍と高度血管内溶血を伴い急激な転帰を辿った劇症型 Clostridium perfringens 菌血症の 1 例 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集. 2024.05; 98 回 · 72 回; np284

13. 鶴田 皓己, 山下 耕平, 池内 和彦, 岡本 耕, 山本 真也, 奥川 周, 山口 諒, 堤 武也. テイコプラニンによる薬疹に対し脱感作療法を施行し, 治療しえた MRSA 膿胸の一例 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集. 2024.05; 98 回 · 72 回; np258

14. 縣 智香子. 【初心者さんがつまずくポイントをイラスト&写真で解説!新人研修のためのベッドサイド感染対策マニュアル】尿道留置カテーテル (挿入時 · 挿入中 · 尿回収時) INFECTION CONTROL. 2024.05; 33(5); 490-494

15. 山本 理紗子, 相曽 啓史, 田頭 保彰, 関谷 紀貴, 具 芳明. 感染症コンサルテーションと培養結果報告変更による抗真菌薬使用の変化と抗真菌薬適正使用の役割の検討 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集. 2024.05; 98 回 · 72 回; np321

16. 田頭 保彰. 【患者さんからよく尋ねられる内科診療の Question】(第 1 章) 総合診療 [20 歳男性, 既往なし] 前回のコロナワクチンは副反応がつらかったのですが, もう 1 回打ったほうがよいでしょうか? 内科. 2024.04; 133(4); 544-547

17. 太田 悠介, 齋藤 良一, 具 芳明, 菅野 佑介, 西迫 貴志. 迅速且つ簡便な病原細菌検出を可能とする電気化学センサの構築 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2024.04; 2023 年度; 70

18. 志馬 伸朗, 伊東 直哉, 近藤 豊, 岡本 耕, 久保 健児, 伊藤 健太. JAID/JSC 感染症治療ガイド 2023 改訂版〜何が変わって, 今後何に気を付けなければならないか〜 敗血症パート 感染症学雑誌. 2024.03; 98(2); 176-177

19. 大井 真里奈, 田頭 保彰. 【治りにくい肺炎に出会ったら】[Chapter 2] 感染性肺炎ではあるが治りにくい理由があった! 耐性菌による肺炎 内科. 2024.02; 133(2); 208-214

20. 厚井 聡志, 清水 啓明, 貞賀 泰孝, 近藤 花織, 加藤 千賀, 酒井 知史, 神原 康弘, 小沼 亮介, 熱田 雄也, 島袋 将志, 神宮寺 敦史, 細田 譲, 尾内 大志, 濱村 貴史, 新谷 直樹, 遠矢 嵩, 名島 悠峰, 小林 武, 松澤 祐一, 新井 秀雄, 関谷 紀貴, 原口 京子, 奥山 美樹, 土岐 典子. 同種造血幹細胞移植後に真菌性脳動脈瘤破裂を認めた成人 T 細胞白血病 · リンパ腫 臨床血液. 2024.02; 65(2); 84-89

21. 池田 早織, 鳥山 和俊, 渡邊 景明, 関谷 紀貴, 細見 幸生. 緑膿菌肺化膿症に対しセフトロザン/タゾバクタムの長期継続で治療効果を得られた 1 例 日本呼吸器学会誌. 2024.01; 13(1); 18-22

1. Horiuchi H, Watanabe A, Yaguchi T, Ban S, Otsuka T, Miyazaki H, Furuya R. Superficial abdominal surgical site infection caused by Aspergillus welwitschiae: a case report. BMC infectious diseases. 2024.09; 24(1); 990

[書籍等出版物]

1. 岡本耕. 感染症診療の掟. 中外医学社, 2024.07

1. 具芳明. 今さらきけない疑問に答える 学び直し風邪診療. 中外医学社, 2024.04 (ISBN : 4498120167)

[総説]

1. 関谷 紀貴. 【最近話題の感染症 ウィズコロナからアフターコロナを見据えた感染症診療】最近注目されている感染症の診療 麻疹 Medical Practice. 2024.06; 41(6); 858-862

2. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 39 回) 2024 年の AMR 対策の動き J-IDEO. 2024.05; 8(3); 510-512

3. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 38 回) 君は抗微生物薬適正使用の手引き第三版を見たか J-IDEO. 2024.03; 8(2); 329-333

4. 具 芳明. 今日も明日も AMR 対策 (第 37 回) 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 を読む (4) J-IDEO. 2024.01; 8(1); 134-137

[講演 · 口頭発表等]

1. Hiroshi Horiuchi, Yasuaki Tagashira, Asami Takizawa, Yoshiaki Gu. Multifaceted intervention for oral antimicrobial agents in the outpatient setting of a Japanese tertiary care center. ID Week 2024 2024.10.19

2. 古城 凱利, 名島 悠峰, 貞任 大地, 平間 千津子, 山川 理毅, 加藤 可那, 近藤 花織, 貞賀 泰孝, 酒井 知史, 加藤 千賀, 曽根 岳大, 島袋 将志, 大内 史彦, 稲井 一貴, 神宮寺 敦史, 新谷 直樹, 原口 京子, 遠矢 嵩, 清水 啓明, 小林 武, 奥山 美樹, 原田 結花, 関谷 紀貴, 高原 嘉祥, 内藤 裕, 比島 恒和, 土岐 典子. 同種造血幹細胞移植後早期の侵襲性真菌感染症に対する胸腔鏡下肺部分切除術. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

1. 関谷紀貴. 微生物概論. 令和 6 年度エキスパートコース「感染管理」 2024.12.05 東京都

2. 関谷 紀貴. AST に役立つ「生化学検査」 AST に役立つ「生化学検査」 炎症反応マーカー. 日本臨床微生物学会雑誌 2024.12.01

3. 関谷紀貴. 災害時の感染対策 · 管理について. 福井県済生会病院. 第 2 回院内感染対策講習会. 2024.11.29 福井県福井市

4. 関谷紀貴. 薬剤耐性菌と抗菌薬の適正使用. 令和 6 年度エキスパートコース「感染管理」 2024.11.18 東京都

5. 藤本 柊, 田頭 保彰, 竹内 厚貴, 長尾 俊景, 具 芳明. 多発の化膿性筋炎を認め、遺伝子検査で起炎菌同定を行い抗菌薬の適正化が可能であった 1 例. 日本内科学会関東地方会 2024.11.01

6. 大平 瞭, 大塚 剛, 青木 久遠, 甲斐 史一, 四宮 祥恵, 坂口 祐太郎, 平野 孝士, 新居田 翔子, 堀内 弘司, 古郡 慎太郎, 宮崎 弘志, 古谷 良輔. ベンザルコニウム塩化物の誤飲による気道粘膜浮腫症例患者を早期に気管切開した一例. 日本救急医学会雑誌 2024.11.01

7. 青木 久遠, 堀内 弘司, 金子 寛, 中南 秀将, 新居田 翔子, 古郡 慎太郎, 大塚 剛, 宮崎 弘志, 古谷 良輔. 市中型 MRSA による重症肺炎の一例. 日本救急医学会雑誌 2024.11.01

8. 甲斐 史一, 大塚 剛, 大平 瞭, 青木 久遠, 四宮 祥恵, 坂口 裕太郎, 平野 孝士, 新居田 翔子, 堀内 弘司, 古郡 慎太郎, 宮崎 弘志, 古谷 良輔. 市中発症の劇症型 Clostridioides difficile 感染症を保存的加療で救命し得た 2 例. 日本救急医学会雑誌 2024.11.01

9. 関谷紀貴. 平時の感染症診療と感染症危機管理. 日本有病者歯科医療学会第 14 回学術教育セミナー 2024.10.20 東京都

10. 植木 理絵, 大平 瞭, 甲斐 史一, 青木 久遠, 四宮 祥恵, 坂口 裕太郎, 平野 孝士, 新居田 翔子, 堀内 弘司, 古郡 慎太郎, 大塚 剛, 宮崎 弘志, 古谷 良輔. 同日 5 回の交通事故を契機に診断に至った出血性脳塞栓症を伴う感染性心内膜炎の一例. 国立病院総合医学会講演抄録集 2024.10.01

11. 深瀬 史江, 堀内 弘司, 鈴木 彰康, 安達 栞奈, 竹越 浩. 感染管理研修の職員受講率向上および勤務時間管理に向けた取り組み. 国立病院総合医学会講演抄録集 2024.10.01

12. 大井 真里奈, 田頭 保彰, 佐藤 ルブナ, 丸橋 孝昭, 浅利 靖, 具 芳明. ICU 診療の革新に繋がる微生物学迅速診断の最前線! 新設感染症内科での集中治療領域における微生物診断の活用と Diagnostic stewardship program. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

13. 関谷紀貴. 感染管理 · 特定行為と血液培養：AID スチュワードシップの重要性. 第 39 回日本環境感染学会総会 · 学術集会 2024.07.27 京都府京都市

14. 関谷紀貴. 医療環境の水に由来する感染症各論 2（NTM）. 第 39 回日本環境感染学会総会 · 学術集会 2024.07.26 京都

15. 関谷紀貴. 外来感染症と AWaRe 分類. 福井県済生会病院. 第 1 回院内感染対策講習会. 2024.07.05 福井県福井市

16. 田頭 保彰, 具 芳明. Microsoft Teams PowerBI を使用した病院感染対策のデータ見える化のとり組み. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

17. 坂口 みきよ, 縣 智香子, 具 芳明. おむつ交換 K カードを使った感染防止策の実践的な推進. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

18. 佐藤 ルブナ, 田頭 保彰, 具 芳明. オミクロン株流行期における院内発症新型コロナウイルス感染症に対する接触者調査の後方視点的検討. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

19. 田頭 保彰, 岡本 耕, 坂口 みきよ, 具 芳明. 病院での抗菌薬適正使用支援プログラム (ASP) を推進するためのオンライン教育モジュールの開発プロセスについて. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

20. 具 芳明. 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプラン 2023-2027 の概要. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

21. 石川 翔太郎, 三輪 俊貴, 岡本 耕, 池田 麻穂子, 奥川 周, 堤 武也. 肝移植後患者のグラム陰性桿菌菌血症に対する抗菌薬短期治療の検討. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

22. 縣 智香子. CAUTI サーベイランス. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

23. 坂口 みきよ, 縣 智香子, 具 芳明. おむつ交換 K カードを使った感染防止策の実践的な推進. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

24. 関谷 紀貴. 医療環境の水に由来する感染症　NTM. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

25. 田頭 保彰, 岡本 耕, 坂口 みきよ, 具 芳明. 病院での抗菌薬適正使用支援プログラム (ASP) を推進するためのオンライン教育モジュールの開発プロセスについて. 日本環境感染学会総会プログラム · 抄録集 2024.07.01

26. 関谷紀貴. 医療環境の水と非結核性抗酸菌症（NTM）. 日本環境感染学会. 医療環境委員会主催セミナー. 2024.05.17 東京

27. 栗田 崇史, 具 芳明, 土田 真吏奈, 山本 晃央, 細矢 匡, 保田 晋助. SLE 患者における HPV ワクチン接種行動改善のための意識調査. 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2024.05.01

28. 山本 理紗子, 相曽 啓史, 田頭 保彰, 関谷 紀貴, 具 芳明. 感染症コンサルテーションと培養結果報告変更による抗真菌薬使用の変化と抗真菌薬適正使用の役割の検討. 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2024.05.01

29. 堀内 弘司, 渡邉 哲. 横行結腸穿孔に対するハルトマン手術後に Aspergillus welwitschiae による創部感染が生じた一例. 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2024.05.01

30. 小平 翔太, 細田 智弘, 福島 一彰, 関谷 紀貴. Actinotignum schaalii により腎嚢胞感染および菌血症を起こした一例. 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2024.05.01

31. 大楠 桃子, 小平 翔太, 細田 智弘, 関谷 紀貴. 乳癌に対する dose-dense AC 療法中に発症したニューモシスチス肺炎の一例. 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2024.05.01

32. 山本 理紗子, 相曽 啓史, 田頭 保彰, 関谷 紀貴, 具 芳明. 感染症コンサルテーションと培養結果報告変更による抗真菌薬使用の変化と抗真菌薬適正使用の役割の検討. 日本感染症学会総会 · 学術講演会 · 日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム · 抄録集 2024.05.01

33. 太田 悠介, 齋藤 良一, 具 芳明, 菅野 佑介, 西迫 貴志. 迅速且つ簡便な病原細菌検出を可能とする電気化学センサの構築. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01

34. 志馬 伸朗, 伊東 直哉, 近藤 豊, 岡本 耕, 久保 健児, 伊藤 健太. JAID/JSC 感染症治療ガイド 2023 改訂版～何が変わって, 今後何に気を付けなければならないか～　JAID/JSC 感染症治療ガイド 2023　敗血症パート. 日本化学療法学会雑誌 2024.03.01

35. 志馬 伸朗, 伊東 直哉, 近藤 豊, 岡本 耕, 久保 健児, 伊藤 健太. JAID/JSC 感染症治療ガイド 2023 改訂版～何が変わって, 今後何に気を付けなければならないか～　敗血症パート. 感染症学雑誌 2024.03.01

36. 池田 早織, 鳥山 和俊, 渡邊 景明, 関谷 紀貴, 細見 幸生. 緑膿菌肺化膿症に対しセフトロザン/タゾバクタム (CTLZ/TAZ) の長期継続で治療効果を得られた 1 例. 日本内科学会関東地方会 2024.03.01

37. 関谷紀貴. 医療機関における感染制御について—新興 · 再興感染症対応の観点から—. 令和 5 年度東京都新型インフルエンザ等対策オンライン研修 2024.02.06 東京都

38. 丸岩 伯章, 新居田 翔子, 松山 尚樹, 松本 雪菜, 早川 翔, 堀内 弘司, 古郡 慎太郎, 篠原 真史, 大塚 剛, 宮崎 弘志, 古谷 良輔. 四肢麻痺患者の上腸間膜動脈症候群に対して超音波診断装置を利用し最適な食後体位を検討した 1 例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2024.02.01

39. 松山 尚樹, 堀内 弘司, 松本 雪菜, 丸岩 伯章, 早川 翔, 新居田 翔子, 古郡 慎太郎, 篠原 真史, 大塚 剛, 宮崎 弘志, 古谷 良輔. 稀なブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌による蜂窩織炎および菌血症を繰り返した患者の報告. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2024.02.01

40. 松本 雪菜, 大塚 剛, 松山 尚樹, 丸岩 伯章, 歌田 州佑, 早川 翔, 新居田 翔子, 堀内 弘司, 古郡 慎太郎, 篠原 真史, 宮崎 弘志, 古谷 良輔. 血中濃度が治療域のカルバマゼピンにより徐脈、心肺停止をきたした一例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2024.02.01

41. 関谷紀貴. 実施すべき水質検査の対象と回数. 日本環境感染学会. 医療環境委員会主催セミナー. 2024.01.12 東京都

1. 具芳明. 中小病院での感染対策のポイントとクラスター発生施設の課題、ケーススタディのファシリテート. 中小病院における感染対策講習会 保健所 · 支援者向け 2024.12.20

2. 具芳明. 多職種で取り組む抗菌薬適正使用. 令和 6 年度 KAGAWA INFECTION SEMINAR 2024.12.14

3. 具芳明. AMR 対策と抗菌薬適正使用. 香川県 耐性菌に関する勉強会 2024.12.13

4. 具芳明. 話題の感染症を知る. 四学会合同事業 セミナー「感染症 Up to Date 2024」 2024.12.08
5. 具芳明. 日本の AMR 対策と手指衛生. 第 5 回 TTT in hand hygiene-Japan 2024.12.07
6. 具芳明. 医療領域における AMR 対策と抗菌薬適正使用. 大阪公立大学 医師-獣医師連携 AMR 感染症教育プロジェクト 2024.12.02
7. 具芳明. 基調講演「病院での感染対策」、トークショーのファシリテート. 令和 6 年度 都民向け講習会 2024.12.01
8. 具芳明. 臨床現場における AMR 対策と抗菌薬適正使用. JICA 課題別研修 薬剤耐性（AMR）· 医療関連研修 2024.11.26
9. 具芳明. AMR 対策アクションプランの現状と今後. ユリナリシスセミナー 2024.11.10
10. 具芳明. 中小病院における感染対策講習会 医療従事者向け（基礎編）. 中小病院における感染対策講習会 医療従事者向け（基礎編） 2024.11.05
11. 具芳明. AMR 対策と抗菌薬適正使用. JCHO 東京高輪病院感染対策講習会 2024.11.01
12. 具芳明. AMR 対策と抗菌薬適正使用. 令和 6 年度横浜市感染防止対策支援連絡会全体会 2024.10.30
13. 具芳明. 中小病院での感染対策のポイントとクラスター発生施設の課題、ケーススタディのファシリテート. 中小病院における感染対策講習会 保健所 · 支援者向け 2024.10.29
14. 具芳明. 感染症から未来を守る〜次なるパンデミックに向けて〜. 東京科学大学 お茶の水祭 公開模擬授業 2024.10.20
15. 具芳明. Vision, Mission, Education —新興感染症内科における人材育成の取り組み—. 第 73 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、第 71 回日本化学療法学会東日本支部総会 シンポジウム 14 2024.10.19
16. 具芳明. Post Pandemic Priorities of Infectious Disease Surveillance in Japan. 2024.10.17
17. 具芳明. 救急 · 集中治療における抗菌薬適正使用. 第 52 回日本救急医学会総会 · 学術集会 ICD 講習会 2024.10.15
18. 具芳明. 薬剤耐性 (AMR) 対策と抗菌薬適正使用. 福島労災病院院内感染対策講演会 2024.10.11
19. 具芳明. COVID-19 感染対策の考え方. COVID-19 を考える会 2024.10.04
20. 具芳明. 中小病院での感染対策のポイントとクラスター発生施設の課題、ケーススタディのファシリテート. 中小病院における感染対策講習会 病院管理者等向け（ケーススタディ編） 2024.10.04
21. 具芳明. 病院清掃の基本と病院感染対策、フリーディスカッション（ファシリテート）. 2024 年度病院清掃受託責任者講習 2024.09.10
22. 具 芳明, 縣 智香子, 坂口 みきよ. 中小病院での感染対策のポイント. 中小病院における感染対策講習会 病院管理者等向け（講義編） 2024.09.06
23. 具 芳明, 縣 智香子, 坂口 みきよ. 中小病院での感染対策のポイント. 中小病院における感染対策講習会 病院管理者等向け（講義編） 2024.09.06
24. 具芳明. 中小病院の感染対策、トークショー（ファシリテーター）. 令和 6 年度 都民向け講習会 2024.08.25
25. 具芳明. 中小病院の感染対策、トークショー（ファシリテーター）. 令和 6 年度 都民向け講習会 2024.08.25
26. 具芳明. ベーシックレクチャー 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023—2027 の概要. 第 39 回日本環境感染学会総会 · 学術集会 2024.07.27
27. 具芳明. ベーシックレクチャー 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023—2027 の概要. 第 39 回日本環境感染学会総会 · 学術集会 2024.07.27
28. 具芳明. COVID-19 感染対策の考え方. 東京都新型コロナ感染対策カンファレンス 2024.07.13
29. 具芳明. COVID-19 感染対策の考え方. 東京都新型コロナ感染対策カンファレンス 2024.07.13
30. 具芳明. 感染症アウトブレイク時の対応. 東京都健康安全研究センター 令和 6 年度実地疫学調査研修 2024.07.09

31. 具芳明. 感染症アウトブレイク時の対応. 東京都健康安全研究センター 令和 6 年度実地疫学調査研修 2024.07.09
32. 具芳明. 感染症対策の最前線より. 豊橋市立南陽中学校創立 40 周年記念講演会 2024.06.22
33. 具芳明. 感染症対策の最前線より. 豊橋市立南陽中学校創立 40 周年記念講演会 2024.06.22
34. 具芳明. 薬剤耐性 (AMR) 対策と抗菌薬適正使用. 令和 5 年度 文京区医師会 医療安全研修会 2024.03.29
35. 具芳明. 薬剤耐性（AMR）対策と地域連携〜ポストパンデミックに求められること〜. 茨城県病院薬剤師会 感染制御専門認定薬剤師講習会 2024.03.15
36. 具芳明. 薬剤耐性（AMR）対策と抗菌薬適正使用. 第 10 回九州感染症検査フォーラム 2024.02.17
37. 具芳明. AMR 対策と多職種で進める抗菌薬適正使用. 第 35 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 ランチョンセミナー 4 2024.02.10
38. 具芳明. 病院における J-SIPHE の活用. 第 35 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 ワークショップ 1 2024.02.10
39. 具芳明. 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023—2027 の概要. 第 35 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 特別講演 5 2024.02.10
40. 具芳明. 座談会〜東京 iCDC がコロナ禍で果たした役割、今後の展望について〜. 東京 iCDC フォーラム —1200 日の闘いを次につなげる— 2024.01.27
41. 具芳明. 基調講演「病院における感染症対策の課題」、トークセッション（ファシリテーター）. 都民向け講演会「ポストコロナ時代における安心して生活できる社会づくり」 2024.01.21
42. 具芳明. AMR 対策と抗菌薬適正使用. 熊本県感染管理ネットワーク講演会 AMR 対策研修会 2024.01.13

[Works]

1. かしこく治して、明日につなぐ 〜抗菌薬を上手に使って AMR 対策〜（具　芳明）, Web サービス, 2017 年 09 月 - 現在

[その他業績]

1. Thinkin' 真菌！（関谷　紀貴）, 2024 年 02 月
   第 31 回医師 · 臨床検査技師 · 薬剤師 · 看護師のための感染症学セミナーの企画 · 運営
2. 沼るっ！ 嫌気性菌（関谷　紀貴）, 2024 年 10 月
   第 32 回医師 · 臨床検査技師 · 薬剤師 · 看護師のための感染症学セミナーの企画 · 運営

[社会貢献活動]

1. 日本感染症教育研究会 (IDATEN) 世話人（岡本　耕）, 2019 年 01 月 - 現在
2. 抗菌薬の適正使用について（具　芳明）, 読売新聞, 読売新聞, 2023 年 04 月 09 日 - 現在
3. 高齢者施設 · 障害者施設向け感染症対策ガイドブック（具　芳明）, 東京都保健医療局 感染症対策部 防疫課, 2024 年 02 月 01 日
4. 厚労省「抗微生物薬適正使用の手引き第３ 版」について（具　芳明）, 共同通信社, 「医療新世紀」, 2024 年 04 月 10 日 - 2024 年 05 月
5. 5 類移行 1 年を前に現状と課題（具　芳明）, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 04 月 30 日 - 2024 年 05 月 07 日
6. 中小病院における 薬剤耐性菌アウトブレイク対応ガイダンス Clostridioides difficile 感染症についての補遺（具　芳明）, 2024 年 06 月
7. 抗菌薬の安定供給（具　芳明）, 株式会社じほう, 日刊薬業, 2024 年 06 月 12 日 - 2024 年 06 月 17 日
8. 貴院における医療関連感染対策（田頭　保彰）, 吉田製薬株式会社, 情報誌『CARLISLE』, 2024 年 06 月 24 日 - 現在

9. 川遊びで感染症　夏のレジャーで気をつけること（具　芳明）, 日本テレビ, news zero, 2024 年 08 月 21 日
10. 造血幹細胞移植患者の感染症：ケースから考えるマネジメントのジレンマ（関谷　紀貴）, アストラゼネカ株式会社, AZ Hematology Tokyo Young Conference, 2024 年 12 月 14 日

認知行動医学講座

神経機能形態学分野

Department of Neuroanatomy and Cellular Neurobiology

教 授	寺 田 純 雄	
講 師	齊 藤 健 太	
助 教	川 岸 将 彦	
助 教	佐 藤 啓 介	
大学院生	花 岡 美 穂	
大学院生	寺 本 有 里	（指導委託）
大学院生	Zakir Najma	
基礎研究医	門 脇 紀	
連携研究員	杉 崎 綾 奈	
連携研究員	池 滝 慶 記	

(1) 分野概要

私たちの分野は、1966 年 7 月に萬年 甫 教授によって開設された解剖学第三講座に由来し、1990 年 5 月着任の中村 泰尚 教授のあとを引き継ぐ形で 2005 年 9 月に発足しました。数多くの有為な人材を輩出してきた、良き伝統を誇っています。解剖学担当教室の一つとして、神経系のみならず広く形態学的な観点から、新しい分子や現象を見つける、観察法（新規プローブ · 新規測光法にもとづく顕微鏡やイメージング手法）を開発する、という姿勢で研究を進めています。研究テーマは可視化による細胞骨格動態や細胞間コミュニケーションの検出 · 解明を中心としていますが、世界に先駆けて本質的な学問的課題を解決するためには、基盤となる独自の観察技術開発は欠かせません。私たちはさまざまな顕微測光技術とプローブを活用し、形態変化 · 機能変化を追う新たな“顕微鏡”を開発することにより、特定の領域にとどまらない未知の現象を発見し、その生物学的意義を解明することを目指しています。

(2) 研究活動

現行の主な研究プロジェクトは以下の通りです。

A. 細胞骨格動態調節機構の解明
B. 細胞間コミュニケーションの検出
C. 新規測光法、イメージング手法の開発

細胞の形態はその機能をしばしば反映します。細胞骨格タンパク質は細胞の形態を支える機能素子であり、特に神経細胞など特徴的な形態を呈する細胞において果たす役割は、形態学的な興味の対象となります。しかし代表的な細胞骨格タンパク質について、中間径フィラメントタンパク質はもちろん、比較的解析の進んでいるとされるアクチンやチュブリンでさえ、動態はもちろん正確な細胞内形態についても理解は不十分です。形態観察に汎用される化学固定法は（一般に考えられている以上に）構造に大きく影響を与え、凍結による物理固定法では固定可能な領域が制限されます。更にそもそも固定してしまっては動態を追うことはできません。進展著しい超解像蛍光顕微鏡を利用すれば動態を追うことは可能になりますが、精密に取得可能なのは蛍光分子の点としての位置情報の集合体です。点像変換の合理的なアルゴリズムが存在しない以上、「像」と解釈されている画像データは厳密にいえば想「像」に過ぎません。細胞骨格タンパク質に限らず生体分子の細胞内動態を正確に捉えるためには、光顕、電顕を問わず現在の顕微鏡技術では不十分です。

この状況を打開するために私たちは新規プローブ開発と測光法開発の両面から試行を重ねてきました（プロジェクト A, C）。その過程で開発に成功した蛍光偏光技術が、細胞骨格タンパク質の動態解析に極めて有効な技術で

あり、イメージングを含む顕微測光法を一新するインパクトを有することがわかってきています。神経疾患の病理過程のさまざまな局面で細胞骨格関連分子の異常が指摘されていますが、神経細胞における細胞骨格蛋白質の輸送メカニズムと動態制御機構は全くわかっていません。話を神経系に限っても、私たちの研究成果は神経疾患のプロセスの理解に直結する可能性があります。

神経系は環境と生体内との間の出 · 入力処理、および出入力情報間の統合処理を担う仲介役細胞群から構成されています。神経細胞がその代表ですが、神経系を構成する仲介役細胞の最も重要な機能は、細胞間コミュニケーションです。神経細胞でいえば、シナプスから神経伝導路に至る細胞間相互作用の理解が、神経系の理解に直結します。私たちのグループは、細胞間コミュニケーションを可逆的に検出可能な蛍光プローブと、生体内で機能的な神経伝導路を検出する新規手法の開発を進めています（プロジェクト B）。

顕微測光技術は蛍光技術だけではありません。蛍光標識を前提とする計測には限界があり、可能な限り染色や標識を行わず、生きた状態に近い標本を、できる限り高分解能で観察する手法の開発も必要です。ラマン分光法や質量分析法を利用した新規検出手法の開発も進行中です（プロジェクト C）。

研究室で進行中のプロジェクトは上記に留まりませんが、その多くは学内外の研究室、企業との共同研究です。（例えばラマン分光法では、東京農工大学（三沢和彦教授）、ワイヤード株式会社と共同で科学技術振興機構 研究成果展開事業先端計測分析技術 · 機器開発プログラム「分子構造指標を用いた生体関連分子の細胞内動態観察装置の開発」の支援を受けてきました。） 国内のみならず、国際共同研究も積極的に推進しています。特に米国ウッズホール海洋生物学研究所とは継続的かつ密接な協力関係にあり、定期的な交流があります。（過去には日本学術振興会 オープンパートナーシップ 二国間交流事業（共同研究）:「先進的顕微分光法による顕微鏡開発と応用に関する共同研究」から、現在は日本学術振興会国際共同研究加速基金 国際共同研究強化（B）:「生命現象に迫るユニバーサルな蛍光偏光顕微観測法開発」から支援を受けています。）

(3) 教育活動

1．大学院教育
　博士 · 修士課程大学院生の研究指導
　神経機能形態学特論 · 演習 · 研究実習（博士課程）
　人体形態学 · 口腔形態学（科目責任者）講義（修士課程）
　大学院特別講義の開催
　研究者養成コース（大学院）

2．学部教育
　神経解剖学の講義及び実習（医学科第二学年）
　プロジェクトセメスター（医学科第四学年時の研究室配属）
　研究者養成コース（医学科）
　研究実践プログラム（医学科）

以上のほか、本学以外でも複数の大学で非常勤講師、客員教授として最新の形態学研究の紹介を行っています。

(4) 教育方針

博士 · 修士課程大学院生の研究指導をはじめとする大学院教育（神経機能形態学特論 · 演習 · 研究実習）、プロジェクトセメスター（医学科第四学年時の研究室配属）、研究者養成コース、研究実践プログラム（プロジェクトセメスター配属以外にも医学科学生を指導）など、実際に研究活動を行う機会では、分子細胞生物学や生物物理学を含めた最新かつユニークな高等教育の場をつくるよう心掛けています。これまでの本学医学科出身の大学院生 2 名はいずれも MD-PhD コースに在籍し、学振 DC1 に採用されています。このほか英国 Imperial College London からの交換留学生や保健衛生学科検査技術学専攻からの卒業研究生、大学院生、他大学からの大学院生、研究生を受け入れてきました。常時複数の熱意ある学生、大学院生がたむろし、スタッフが丁寧に各々を指導する環境ができあがっています。また学外講師の招聘による大学院特別講義を開催し、学術交流の機会としているほか、修士課程向け人体形態学 · 口腔形態学（科目責任者）の講義の一部を担当しています。

学部教育としては、医学科第二学年の神経解剖学の講義及び実習、保健衛生学科検査技術学専攻第二学年の人体構造学の実習の一部を担当してきました。内容は肉眼から組織レベルにいたる神経解剖学です。スポットではいる特別講義以外はなるべく寺田が全体の講義をカバーし、神経系の構造の体系的な理解を促進するように努力しています。一度で理解するのが困難な場合でも、後で振り返ってもらって理解する機会をつくるために、教材作

成に注力してきました。（関連して 2009 年 1 月より、防衛医大の小林靖教授と共著で、中外医学社発行の月刊誌「クリニカルニューロサイエンス」誌に『神経解剖学の見方，考え方』と題する連載記事を担当してきました。メディカルイラストレーターの佐藤良孝氏（(有）彩考）と試行錯誤しつつ、わかりやすい図説を目指してきましたが、2019 年 12 月をもって 11 年に亘るシリーズが完結しました。単行本化を準備しています。）また実習を重要視しています。既知の構造を要領よく確認、記憶してもらうよりも、むしろ構造を探すプロセスそのものを体験し、複雑さを整理する試行を繰り返すこと、更に構造の意義を理解することの方が重要と考え、指導しています。特に実習時のスタッフの指導には定評があり、学生から毎年高い評価を受けています。また田口技術員と共に神経組織標本の充実に努力を継続し、その水準は質、量共に有数のものと自負しています。医学科対象の特別講義では大竹一嘉（医療法人社団プラタナス 青葉アーバンクリニック)、八木沼洋行（福島県立医大教授)、武井陽介（筑波大教授）の各先生方にご助力をいただいていました。更に特別講義の一つとして最新の顕微測光法を利用した新しい形態学研究の紹介を行っています。本学以外でも複数の大学で非常勤講師、客員教授として最新の形態学研究の紹介を行ってきました。

(5) 研究業績

[原著]

1. Richard Veale, Mayu Takahashi. Pathways for Naturalistic Looking Behavior in Primate II. Superior Colliculus Integrates Parallel Top-down and Bottom-up Inputs. Neuroscience. 2024.03; 545; 86-110
2. Mayu Takahashi, Yuriko Sugiuchi, Yoshikazu Shinoda. Brainstem neural circuits for triggering vertical saccades and fixation Journal of Neuroscience. 2024.01; 44(1); 1-15

[講演 · 口頭発表等]

1. 安藤 貴弘, 高橋 真有. 外転神経核に投射する単一前庭核細胞の軸索投射様式. 第 47 回日本神経科学大会 2024.07.25 福岡
2. 榮田 大, 篠田 義一, 高橋 真有. コンタクトレンズを用いた三次元眼球運動解析法の開発. 第 47 回日本神経科学大会 2024.07.25 福岡
3. 清水 暁陽, 杉内 友理子, 篠田 義一, 高橋 真有. 上丘頭側部および尾側部への大脳皮質からの投射様式の解析. 第 47 回日本神経科学大会 2024.07.25 福岡
4. 高橋 真有. 随意性 · 反射性眼球運動の神経回路とその共通座標. 第 47 回日本神経科学大会 2024.07.24 福岡
5. 佐藤 啓介, 杉﨑 綾奈, 山崎 結那, 鎌田 勝彦, 久野 玉雄, 桂 一茂, 千葉 和義, 白水 美香子, 寺田 純雄. 構造情報に基づく高汎用性 F-actin 配向プローブ POLArISact_omni の開発とヒトデ 卵母細胞アクチン動態解析への応用. 第 76 回 日本細胞生物学会大会 2024.07.18 茨城県つくば市
6. Mayu Takahashi. Neural circuits for triggering saccadic eye movements by inhibiting eye fixation circuits.. International Symposium on Brain Structure and Function 2024.07.01 Okazaki, Japan
1. 寺田純雄. 解剖学教室と篤志献体当事者の立場から. 第 7 回 CST 研究会（京都大会） 2024.08.17 京都大学
2. 高橋 真有. 随意性急速眼球運動（サッケード）の出力神経回路と前庭動眼反射系との共通座標. 第 128 回日本眼科学会総会 2024.04.18 東京
3. 寺田 純雄. 新法人への期待と解剖学教室からの要請　健全な献体管理と運用のために. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01
4. 安藤 貴弘, 杉原 泉, 高橋 真有. 前庭核間の交連性結合の軸索投射解析. 第 101 回日本生理学会大会 2024.03.30
5. 榮田 大, 篠田 義一, 高橋 真有. 回旋性眼球運動を含む 3D 眼球回転のビデオ画像解析法の開発. 第 101 回日本生理学会大会 2024.03.29
6. 清水 暁陽, 杉内 友理子, 篠田 義一, 高橋 真有. 上丘最頭側部「固視領域」と尾側部「サッケード領域」への大脳からの入力投射の解析. 第 101 回日本生理学会大会 2024.03.29
7. 佐藤 啓介, 中井 紀, 谷 知己, 川岸 将彦, 齊藤 健太, 寺田 純雄. 蛍光偏光顕微鏡による収縮環形成過程におけるアクトミオシン動態解析. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.23 沖縄県那覇市
8. 中井 紀, 佐藤 啓介, 谷 知己, 川岸 将彦, 齊藤 健太, 寺田 純雄. 蛍光偏光顕微鏡と新規ミオシン配向プローブによる配向イメージング. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.23 沖縄県那覇市

9. 齊藤 健太, 船橋 茉由, 谷 知己, 寺田 純雄. ライトシート蛍光偏光顕微鏡の開発. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.23 沖縄県那覇市
10. 船橋 茉由, 齊藤 健太, 谷 知己, 寺田 純雄. 線虫の初期胚でアクチンの位置と向きを可視化する. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.23 沖縄県那覇市
11. 寺田 純雄. 解剖学の扉を開けるために. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.22 那覇
12. 後藤 真理子, 姜 ヨハネ, 石田 裕也, 佐藤 啓介, 寺田 純雄. 筋芽細胞の融合時におけるアクチン動態の蛍光偏光イメージ ング法の確立. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.21 沖縄県　那覇市　那覇文化芸術劇場なはーと
13. 飯田 毅, 川原 月, 佐藤 啓介, 寺田 純雄. 蛍光偏光顕微鏡観察を目的とした簡便かつ汎用的標識法の開発. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.21 沖縄県　那覇市　那覇文化芸術劇場なはーと

[特許]

1. 共焦点スキャナユニットおよび共焦点顕微鏡, 特許番号：I534473

[社会貢献活動]

1. イメージングや最新研究について, NHK, NHK スペシャル, 2024 年 02 月 01 日 - 2025 年
2. イメージングや最新研究について, NHK, NHK スペシャル, 2024 年 02 月 01 日 - 2025 年

細胞動態学分野

Cellular Dynamics

教授：諸石 寿朗
助教：仁田 暁大

(1) 分野概要

多細胞生物では、さまざまな種類の細胞が複雑に相互作用することによって、細胞集団としての生命体が維持されます。本分野では、多細胞生物を構成する細胞の多様性を理解し、その動態を制御する科学技術の開発を目指した研究を推進しています。特に、がん化の過程や個体発生における細胞動態に注目し、個々の細胞の運命決定機構や細胞間相互作用を通じた細胞集団としての振る舞いの解明に取り組んでいます。

(2) 研究活動

主な研究テーマ：
· がんの発生/進展のメカニズム解明と治療法開発
· 臓器形成のメカニズム解明と医療応用

(3) 研究業績

[原著]

1. Yumoto Shinsei, Horiguchi Haruki, Kadomatsu Tsuyoshi, Horino Taichi, Sato Michio, Terada Kazutoyo, Miyata Keishi, Moroishi Toshiro, Baba Hideo, Oike Yuichi. Host ANGPTL2 establishes an immunosuppressive tumor microenvironment and resistance to immune checkpoint therapy(タイトル和訳中) Cancer Science. 2024.12; 115(12); 3846-3858

2. Chanida Thinyakul, Yasuhisa Sakamoto, Mayuko Shimoda, Yanliang Liu, Suyanee Thongcho, Omnia Reda, Akihiro Nita, Romgase Sakamula, Somponnat Sampattavanich, Ayato Maeda, Paweenapon Chunthaboon, David Nduru, Mayumi Niimura, Yohei Kanamori, Peti Thuwaji, Keiichi I. Nakayama, Kun-Liang Guan, Yorifumi Satou, Chanitra Thuwaji, Toshiro Moroishi. Hippo pathway in cancer cells induces NCAM1+ α SMA+ fibroblasts to modulate tumor microenvironment Communications Biology. 2024.10; 7(1); 1343

3. Tomoya Yamashita, Haruki Horiguchi, Tsuyoshi Kadomatsu, Michio Sato, Toshiro Moroishi, Yuichi Oike. Immunotherapy-induced reprogramming of cancer-associated fibroblasts can promote tumor progression. Genes to cells : devoted to molecular & cellular mechanisms. 2024.10;

4. Yasuhisa Sakamoto, Akiyoshi Uezu, Koji Kikuchi, Jangmi Kang, Eiko Fujii, Toshiro Moroishi, Shiro Suetsugu, Hiroyuki Nakanishi. The Nedd4L ubiquitin ligase is activated by FCHO2-generated membrane curvature The EMBO Journal. 2024.10;

5. Shinsei Yumoto, Haruki Horiguchi, Tsuyoshi Kadomatsu, Taichi Horino, Michio Sato, Kazutoyo Terada, Keishi Miyata, Toshiro Moroishi, Hideo Baba, Yuichi Oike. Host ANGPTL2 establishes an immunosuppressive tumor microenvironment and resistance to immune checkpoint therapy. Cancer science. 2024.09;

6. Hao Li, Yohei Kanamori, Toshiro Moroishi. Cell attachment defines sensitivity to cold stress via the Hippo pathway Biochemical and Biophysical Research Communications. 2024.07; 730; 150373

7. Koki Murata, Kai Harayama, Mayuko Shimoda, Mayumi Niimura, Masahiro Wakao, Yasuo Suda, Toshiro Moroishi, Hiroyuki Shinchi. Improvement of the Nuclease Resistance and Immunostimulatory Activity of CpG Oligodeoxynucleotides by Conjugation to Sugar-Immobilized Gold Nanoparticles Bioconjugate Chemistry. 2024.05; 35(6); 804-815

8. Akihiro Nita, Toshiro Moroishi. Hippo pathway in cell–cell communication: emerging roles in development and regeneration Inflammation and Regeneration. 2024.04; 44(1);

9. Nita Akihiro, Moroishi Toshiro. 細胞間情報伝達における Hippo 経路　発生と再生において判明しつつある役割 (Hippo pathway in cell-cell communication: emerging roles in development and regeneration) Inflammation and Regeneration. 2024.04; 44; s41232-024

10. Tumor stroma-derived ANGPTL2 potentiates immune checkpoint inhibitor efficacy. 2024.03;

1. 前田英仁, 諸石寿朗. Hippo 経路 がんゲノムペディア. 2024.01; 71-73

1. Harnessing an integrated glyco-nanovaccine technology for enhanced cancer immunotherapy 2024.11;

[講演 · 口頭発表等]

1. 諸石 寿朗, Thinyakul Chanida, 柳 彦良, 森田 康之. Hippo 経路は力学シグナルを介して免疫抑制性の腫瘍微小環境を構築する (The Hippo pathway constructs an immunosuppressive tumor microenvironment through mechanical signaling). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

神経病理学分野

Department of Neuropathology

教授：岡澤 均
特任講師/非常勤講師：井上 治久、曽根 雅紀、藤田 慶大
プロジェクト准教授：本間 秀典
講師：田中 ひかり
助教：猪爪 舞子
特任助教：吉岡 優希
事務補佐員：張 雪梅 (〜2024.3)、佐藤しげみ
秘書：田中 麻里絵
大学院生：黄 勇、高山 すみれ

(1) 分野概要

本分野では神経変性疾患の発症分子メカニズムの解明と治療法の開発を研究目的としています。特に遺伝性脊髄小脳変性症、ハンチントン病、アルツハイマー病において、原因遺伝子変異によって生じる異常蛋白が神経細胞機能異常と最終的な細胞死を引き起こす分子過程の詳細な解明を目指して研究しています。また、発症メカニズムの研究で明らかになった知見を基に、これらの変性疾患をターゲットとした分子治療の開発を試みています。

(2) 研究活動

研究内容
当分野は、1）神経変性疾患の分子機構の包括的理解とこれに基づいた治療開発を目指した研究、2）神経変性疾患研究の過程で発見した PQBP1 分子機能解析を通じた精神遅滞の研究、3）Oct-3/4 の機能解析を通じた幹細胞分化機能の研究、を行っています。

研究紹介
1.「 ビッグデータを用いた時系列トータルシミュレーションによって新しい病態 · バイオマーカーを発見 」
-脊髄小脳失調症では超早期から脳炎症につながる分子的変化が起きている-

私たちは、北海道大学 · 佐々木秀直 · 名誉教授、同 · 矢部一郎教授、慶応義塾大学 · 岡野栄之教授との共同研究により、新たな時系列分子ネットワーク解析法 (iMAD) を用いて、脊髄小脳失調症 1 型 (spinocerebellarataxia type 1, SCA1) の iPS 細胞とモデルマウスの mRNA 発現ビッグデータのスパコン解析結果を基に、発生初期から発症に至る分子病態進行を時系列シミュレーションし、SCA1 の最初期に生じる新たな病態を明らかにしました。
近年、神経変性疾患の超早期病態に注目が集まっています。神経変性疾患の多くは、異常な構造を持つタンパク質が細胞の内側外側に蓄積もしくは沈着（凝集）することが病理学的特徴として知られています。一方、神経変性疾患の概ね１０％程度は、遺伝子変異が原因で生じおり、その病態が異常タンパク質凝集の前の時期から起きているのではないかということが、国際的には１０年近く前から議論されています。これらの遺伝性変性疾患のマウスモデルを用いた研究から、異常タンパク質凝集前の超早期病態の存在が疑われています。
最近では、アルツハイマー病に対する複数の抗体医薬品が承認されたことで話題を呼びましたが、これらは基本的に異常タンパク質の沈着凝集の除去を作用基盤としているため、異常タンパク質凝集前の超早期病態には効果がないことが想定され、凝集後の病態を抑制するのみでは効果は限定的になると予想されます。私たちは、アルツハイマー病、前頭側頭葉変性症、ハンチントン病、脊髄小脳失調症の病態に対する網羅的なタンパク質解析（プロテオーム解析）、遺伝子発現解析（トランスクリプトーム解析）を２０年前から開始し (Tagawa et al, J Neurochem 2004; Tagawa et al, J Neurosci 2007; Qi et al, Nature Cell Biol 2007; Enokido et al, J Cell Biol 2010 など)、さ

らに 2010 年度-2015 年度 · 新学術領域「シナプス · ニューロサーキットパソロジーの創成」および 2010 年度-2015 年度 · 脳科学研究戦略推進プログラム課題 E において、これらの疾患での異常タンパク質凝集前の『超早期病態』を世界に先駆けて提唱し、その本体を研究してきました (Tagawa et al, Hum Mol Genet 2015; Fujita et al, Sci Rep 2016; Tanaka et al, Nature Commun 2020; Homma et al, Life Sci Alliance 2021 など)。
これらの研究は、生後 1 ヶ月以後の疾患モデルマウスあるいはヒト死後脳をサンプルに用いた解析でしたが、今回の研究では、さらに時間的に繰り上げて、受精直後の ES 細胞に相当する iPS 細胞から解析を始め、受精から発生段階、誕生から発症、そして個体死に至る全過程を解析（トータルシミュレーション）しようと試みました。そして、研究対象とする疾患として、私たちがこれまでも研究をしてきた、また希少疾患でもある、脊髄小脳失調症 1 型に定めました。その結果、予想外の早期にサイトカイン関連分子のネットワーク変化が認められ、中でも ISG15 の上昇はアタキシン 1 の凝集病態のトリガーになりうること、そして血液バイオマーカーにもなりうることが明らかになりました。このシミュレーションのメソッドは、アルツハイマー病など、患者数の多いコモン疾患にも応用が可能です。また、今回はスパコンを用いた一定のアルゴリズムによる探索的研究でしたが、次の段階で AI と組み合わせることで、予測的研究へと強化することが可能です。
今回、私たちは、「分子ネットワークの時間的変化」を因果関係に基づいてシミュレーションする手法を創出しました。その結果、発症のはるか以前（超早期）から、脳炎症に将来的に進行する病態 (ISG15, VEGF などのサイトカインを中心とする分子ネットワーク変化) が生じていることを発見しました。具体的には、他グループが報告した手法に沿って iPS 細胞を小脳神経細胞（プルキンエ細胞）に分化させ、この過程でサンプルを採取して mRNA 発現変動を RNA シーケンスで測定しました。併せて、脊髄小脳失調症 1 型の２種類のモデルマウス (mutant human Ataxin1 transgenic mouse, mutant Ataxin1 knockin mouse) で、他グループが測定して公開されている RNA シーケンスデータを利用しました。そして、今回新たに開発した時系列分子ネットワーク解析法 (iMAD) を用いて、タンパク質間相互作用のデータベースをもとに因果関係を持つ時間的つながりを抽出して、iPS 細胞から発症後に至る分子ネットワークの変遷を図示しました。
次にこの中で、初め（iPS 細胞段階）から最後（マウス病態進展期、もしくは変性したプルキンエ細胞段階）までつながっている分子ネットワークを抽出しました。その結果、Interleukin receptor 4、ISG15 を含む炎症病態経路が超早期から変動して病態進展期につながっていることを発見しました。
脊髄小脳失調症 1 型における ISG15 の変化は初めての発見であったので、モデルマウス (mutant Ataxin1knockin mouse) およびヒト患者死後脳を用いて、この分子の変動を確認しました。また、患者さんの血液で ISG15 を測定して上昇を確認しました。一方、ISG15 はユビキチン · プロテアソーム系のタンパク質を抑制する働きがあり、ISG15 上昇が上流変化となってユビキチン化した Ataxin1 の分解を妨げ、神経細胞内の蓄積につながっている可能性も示しました。さらに、血液中の ISG15 は脊髄小脳失調症 1 型患者で上昇傾向にあり、個々の患者では発症後の病態進行に伴って低下していく傾向がありました。
今回の研究成果は、受精直後の ES 細胞に相当する iPS 細胞から小脳神経細胞（プルキンエ細胞）への分化システムから得たデータと、モデルマウスのデータを統合的に解析を行い、受精から発症、そして個体死に至る全過程を解析（トータルシミュレーション）しようと試みました。そして、従来考えられていなかった発生段階から、将来の炎症病態につながる分子ネットワークが変動を始めていることを発見しました。このトリガーになる分子として、ISG15, IL4 receptor などの従来 SCA1 への関与の報告のなかった分子でした。ISG15 は患者血液でも上昇しており、バイオマーカーとして使うことが期待できます。また、ISG15 のタンパク質分解系への抑制作用が超早期に起きている上流病態である可能性を示しました。

2. 老化と神経変性疾患の関係性を、核小体分子 PQBP3 が説明する
-老化と神経変性疾患に共通した分子基盤を解明-

私たちは、金沢大学 · 安藤敏夫 · 特任教授らとの共同研究を通じて、老化と神経変性疾患の関連性の分子基盤を明らかにしました。
アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳失調症、筋萎縮性硬化症などの神経変性疾患の多くは、中年期から老年期になって発症することから、老化が神経変性疾患の最大のリスク因子と考えられています。神経変性疾患は細胞内外の異常構造タンパク質蓄積と凝集を病理学的な特徴とするのに対して、老化は DNA 損傷集積、テロメア短縮、酸化ストレスや終末糖化産物の集積、あるいは様々な酵素活性低下など複雑な側面を持っており、神経変性病態と老化病態の関係性の理解は未だ十分とは言えません。さらに、神経変性病態と老化病態のそれぞれの理解も完全ではないことから、両者の関係性の理解は生物学上そして医学上の重要課題として残っています。
また、老化のモデルとして「細胞老化 (senescence)」が知られています。これは、培養細胞が分裂できる回数には上限があり（５０回程度)、その結果として分裂を止めた細胞の状態を意味しています。このような細胞老化では、細胞の核膜が不安定化していること、Lamin B1 などの核膜の裏打ちタンパク質が減少していることが知られています。このような細胞老化は高齢者の皮膚や脳グリア細胞にも見られるため、senolysis と呼ばれる老化細胞除去による治療法の開発が進んでいます。しかし、もともと細胞分裂を停止している神経細胞であるニューロンに同様の治療法を用いることは、ニューロンを殺してしまうことになり、ニューロンにおける細胞老化と神経変性の関係性は、この点でも重要な研究課題です。一方、私たちは２０年以上前に、神経変性疾患の主要カテゴリーのひとつ

であるポリグルタミン病（脊髄小脳失調症 1 型やハンチントン病を含む１０種類以上の神経変性疾患が含まれる神経変性疾患グループ）の原因タンパク質と結合して細胞毒性の起点となる正常タンパク質を網羅的にスクリーニングしました。この結果、PQBP1, PQBP3, PQBP5, VCP などのタンパク質を発見しました (Imafuku et al, BBRC 1998;Waragai et al, Hum Mol Genet 1999)。PQBP1 は RNA スプライシングの調節因子であり、神経細胞ではシナプス関連遺伝子の発現調節に関わること (Okazawa et al, Neuron 2002; Ito et al, Mol Psychiatry 2015; Tanaka etal, Mol Psychiatry 2018)、遺伝性知的障害の原因遺伝子であること (Kalscheuer et al, Nature Genet 2003)、アルツハイマー病の神経細胞では減少していること (Tanaka et al, Mol Psychiatry 2018)、自然免疫細胞ではアルツハイマー病のタウ蛋白やエイズウィルス蛋白 · DNA と結合して炎症反応を惹起すること (Yoh et al, Cell 2015;Yoh et al, Mol Cell 2022; Jin et al, Nature Comun 2021)、がわかっています。また、PQBP5 は細胞の正常状態およびストレス状態において核小体構造を形成 · 維持するための必須分子であることがわかっています (Jin etal, Nature Commun 2023)。
残された PQBP3 の機能解明を目指して、私たちが２０年にわたって研究を続けた結果が今回の発表につながりました。今回、私たちは、細胞老化においては PQBP3 が細胞核から減少すること、神経変性疾患病態においては PQBP3 が疾患タンパク質と結合して細胞核から減少すること、核膜の安定性を保つ機能を持つことを示し、ニューロンの細胞老化と変性病態が PQBP3 機能低下という点で共通していることを最終的に示しました。
PQBP3 は通常は核内の核小体の周辺部に局在していましたが、細胞が培養皿中で満杯状態になって細胞分裂を休止した時（quiescence）、あるいは、細胞培養で継代を繰り返したために細胞分裂が停止した時（senescence）では、核小体から核質（nucleoplasm）あるいは細胞質（cytoplasm）に移動しました。この PQBP3 細胞内局在のシフトは、オートファジーシグナルにも関係する mTOR によって影響を受けていました。さらに、過酸化水素によって細胞老化（senescence）の状態を誘導した際にも、PQBP3 の細胞質シフトが起こりました。また、この局在シフトには核 DNA の細胞質への漏出を伴っていましたので、このような PQBP3 が細胞質に移動した細胞を電子顕微鏡で観察すると、核膜形態が不安定化していることがわかりました。PQBP3 の量を siRNA によって減少させた場合にも、核 DNA の細胞質漏出と核膜形態の不安定化が再現されました。タンパク質間相互作用のデータベースを用いたバイオインフォマティクス解析から、PQBP3 がタンパク質のプロテアソーム分解に関わる PSME3 と結合することが示唆されましたので、PQBP3· PSME3· 核膜の３者の関係を詳細に検討したところ、正常状態において、一部の PQBP3 は貯蔵基地としての核小体から離れて核膜に移動して PSME3 に結合し、核膜裏打ちタンパク質である Lamin B1 の SUMO 化を介したタンパク質分解を抑えていること、細胞老化の状態では、これら一連の機能が低下すること、が明らかになりました（図 1 ）。一方、ポリグルタミン病である脊髄小脳失調症 1 型（SCA1）の病態では、疾患タンパク質 Ataxin-1 の封入体に PQBP3 が引き寄せられて核小体から減少し、核膜の不安定化が起きていることが示されました。
今回の研究成果の重要性は、老化と神経変性の両病態に共通する新しい分子基盤を解明したことにあります。PQBP3 の機能低下は脳ニューロンにおいて細胞老化と神経変性の両病態で起きうるため、PQBP3 を標的にすることで、脳老化と脳神経変性の両者を改善することが理論的に可能です。一方、ニューロン以外の分裂細胞では、PQBP3 はガンのリスク因子として報告されており、これは細胞老化がガンを抑制するというガン研究領域の常識と一致します。したがって、PQBP3 は両刃の剣（諸刃の剣）であり、ガンと神経変性という対照的な細胞病態という生物学の根本的問題とも関わるため、ニューロン選択性の高い発現調節機構を利用するなどの技術的な工夫が必要と考えられます。

(3) 教育活動

医歯学総合研究科大学院学生に対して神経病理学の講義、実習、および研究指導を行っています。また、医学部学生に対して神経病理学の講義と実習を行っています。また保健衛生学科の学生に対しては、病理学と神経病理学各論の講義を担当しています。

(4) 教育方針

当分野の専攻生に対しては臨床病理解剖学 · 病理診断学、並びに神経病理学的研究のための技術習得の指導と研究指導を行っています。大学院生 · 専攻生に対しては変性疾患の病理診断学、並びに神経病理学的研究のための技術習得の指導を行っています。

(5) 研究業績

[原著]

1. Homma H, Ngo KX, Yoshioka Y, Tanaka H, Inotsume M, Fujita K, Ando T, Okazawa H. PQBP3/NOL7 is an intrinsically disordered protein. Biochem Biophys Res Commun. 2024.12; 736; 150453

2. Tsumaki K, Bertens CJF, Nakayama M, Kato S, Jonao Y, Kuribayashi A, Sato K, Ishiyama S, Asakawa M, Aihara R, Yoshioka Y, Homma H, Tanaka H, Fujita K, Okazawa H, Sone M. Loss of function of VCP/TER94 causes neurodegeneration. Dis Model Mech. 2024.12; 17(12); dmm050359

3. Yoshioka Y, Huang Y, Jin X, Ngo KX, Kumaki T, Jin M, Toyoda S, Takayama S, Inotsume M, Fujita K, Homma H, Ando T, Tanaka H, Okazawa H. PQBP3 prevents senescence by suppressing PSME3-mediated proteasomal Lamin B1 degradation. EMBO J. 2024.09; 43(18); 3968-3999

4. Homma H, Yoshioka Y, Fujita K, Shirai S, Hama Y, Komano H, Saito Y, Yabe I, Okano H, Sasaki H, Tanaka H, Okazawa H. Dynamic molecular network analysis of iPSC-Purkinje cells differentiation delineates roles of ISG15 in SCA1 at the earliest stage. Commun Biol. 2024.04; 7(1); 413

[総説]

1. Homma H, Tanaka H, Fujita K, Okazawa H. Necrosis Links Neurodegeneration and Neuroinflammation in Neurodegenerative Disease. Int J Mol Sci. 2024.03; 25(7); 3636

1. 岡澤 均. 基礎研究者としての脳神経内科医のキャリアパス 脳神経内科. 2024.05; 100(5); 441-450

2. 藤田 慶大, 岡澤 均. DNA 損傷の修復と神経変性 AnnualReview 神経 2024. 2024.03; 35-41

[講演 · 口頭発表等]

1. Hitoshi Okazawa. Neuroimmune induction by tau via PQBP1-cGAS-STING pathway. 22nd Surugadai International Symposium Program 2024.11.21 Akio Suzuki Memorial Hall Institute of Science Tokyo(Tokyo)

2. Hitoshi Okazawa. New mechanisms of toxicity from inside and outside of cells. 65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology 2024.06.01 Tokyo International Forum(Tokyo)

3. Hitoshi Okazawa. DEVELOPMENT OF ANTI-HMGB1 ANTIBODY FOR DEMENTIAS. ADPD2024 2024.03.08 LisbonCongressCentre(Lisbon, Portugal)

1. 岡澤 均. ゲノム編集による治療法開発-その後の経緯-. CMT 友の会 2024 年秋のハイブリット交流会 · 総会 2024.10.19 障害者研修保養センター横浜あゆみ荘 (神奈川県 横浜市)

2. 藤田 慶大, 本間 秀典, 金 美花, 吉岡 優希, 金 キョウシン, 齊藤 祐子, 田中 ひかり, 岡澤 均. 変異シヌクレインはモノマー状態で脳リンパ系を利用して伝播する. NEURO2024 2024.07.24 福岡コンベンションセンター (福岡県 福岡市)

3. 藤田 慶大, 本間 秀典, 金 美花, 吉岡 優希, 金 キョウシン, 齊藤 祐子, 田中 ひかり, 岡澤 均. 変異 alpha-synuclein はモノマー状態で脳リンパ系を利用して伝播する. 第 16 回 CBIR/ONSA/大学院セミナー共催若手インスパイアシンポジウム 2024.02.08 東京医科歯科大学 (東京)

[特許]

1. アルツハイマー病及び前頭側頭葉変性症の診断方法、診断薬、治療薬、及びこれら薬剤のスクリーニング方法, 特許番号：EP 3088898

2. ＨＭＧＢ１に対する抗体、及びそれを含有するアルツハイマー病を治療又は予防するための組成物, 特許番号：EP 3502248

3. ヒトＨＭＧＢ１に特異的に結合するヒトモノクローナル抗体、及びそれを含有するアルツハイマー病を治療又は予防するための医薬組成物, 特許番号：特許第 7475687 号

[その他業績]

1. 「 ビッグデータを用いた時系列トータルシミュレーションによって新しい病態 · バイオマーカーを発見 」—脊髄小脳失調症では超早期から脳炎症につながる分子的変化が起きている—, 2024 年 04 月 Communications Biology

2. 脊髄小脳失調症 1 型、バイオマーカーにつながる最初期の病態を解明—東京医歯大ほか, 2024 年 04 月 2024.4.12QLifePro

3. How we can simulate temporal changes of molecular networks based on the cause-result relationship?, 2024 年 04 月
   2024.4.9 SPRINGER NATURE Research Communities

4. 「 老化と神経変性疾患の関係性を、核小体分子 PQBP3 が説明する 」 — 老化と神経変性疾患に共通した分子基盤を解明 —, 2024 年 08 月
   The EMBO Journal

5. Unveiling the Molecular Mechanisms Linking Aging with Neurodegenerative Diseases, 2024 年 09 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

眼科学分野

Department of Ophthalmology and Visual Science

教授 大野 京子
准教授 吉田 武史 (特任)
講師 鴨居 功樹、堀江 真太郎 (医局長)
助教 浦本 賢吾 (病棟医長)、高橋洋如 (外来医長)、高橋知成、杉澤敬吾
大学院生 熊 建萍、陳 昶羽、盧 紅双、周 楠、王 依凝、張 昌、楊 明明、王 子夜、鄒 雅如、吳 怡瑾

(1) 分野概要

当科は昭和 19 年に東京医歯学専門学校眼科として設立され、昭和 21 年就任の大塚任教授、昭和 52 年就任の所敬 教授により一貫して近視を中心とした研究活動を行ってきた。平成 10 年に望月學教授が就任して以降はぶどう膜 炎に対する診療と研究を開始し、現在に至っている。平成 26 年に大野京子教授が就任し、近視およびぶどう膜炎 の診療 · 研究に加え、緑内障、白内障、糖尿病網膜症、網膜硝子体疾患、黄斑部疾患など、幅広い分野に対する診 療を行っている。

(2) 研究活動

教室の伝統的な研究分野である病的近視、ぶどう膜炎を中心として臨床研究、基礎研究ともに活発であり、近視治療、緑内障、糖尿病網膜症など各専門外来からも研究成果を国内外に発信している。近年は海外からの大学院留学希望のニーズが非常に高く、これまでに多くの精鋭の留学生を受け入れ、いずれも在学中に国際的に優れた研究成果を出して母国に巣立っている。

病的近視研究においては、世界で最も長い歴史と伝統を誇る強度近視外来をベースとして、病的近視の病態解明につながる数々の発見や、近視性牽引黄斑症に対する中心窩周囲内境界膜剥離術：FSIP の開発など国内外に注目される新しい知見や治療法を発信してきた。また病的近視を真に克服するためには、将来の病的近視の発生そのものを抑制することが重要であるとの視点から近視抑制治療にも力を入れており、その成果や課題について取り組んでいる。

ぶどう膜炎 · 眼炎症の研究においては、専門外来があらゆる感染性 · 非感染性ぶどう膜炎の診断と治療に対応する体制を整えている。ブロードレンジ PCR による感染性ぶどう膜炎の迅速的な診断法は開発段階から教室から発信され、現在も先進医療として日々運用されている。また近年は HTLV- 1 関連眼疾患における数々の世界的な報告について教室の成果が注目されている。

その他にも併設講座（先端視覚画像医学講座）から新しい診断機器等を用いた網膜画像診断法や病的近視を伴う緑内障についての研究成果が発表されている。

(3) 教育活動

卒前教育では、まず医歯学融合総合教育の頭頸部ブロックで眼科学講義を担当し、視覚の生理と病理、眼科疾 患の診断と治療、視覚障害についての幅広く深い知識を教育する。コンビネーションブロックでは頭頸部ブロッ クを担当し、各種眼科検査の実践と習得、またケーススタディーを用いた眼疾患の診断プロセスをグループで習 得する。プレクラークシップでは主に白内障患者の術前診察と問診、手術への参加、術後診察を通じて、白内障 手術の周術期診療と管理を実践的に学ぶ。また、カンファレンスにおけるプレゼンテーション、ポリクリによる 患者への問診と診察などを行う。クラークシップでは、網膜硝子体疾患、眼内炎症性疾患など、より今度な疾患 を担当し、それらに対する診療への参加を通じて眼科診療を実践的に学ぶ。 卒後臨床教育は、日本眼科学会専門医制度カリキュラムに準じた眼科臨床研修プログラムをとっている。即ち、 厚労省が定めた 2 年間の初期臨床研修

の後に、4 年間の眼科臨床研修を大学病院と関連教育病院とで行う。この 間に各種眼科手術をはじめ、眼科臨床経験を積み、眼科専門医試験を受験して眼科専門医資格を取得する。 大学院生の教育は、高度先進医療を開発推進することの出来るアカデミック · ドクターの育成と高度に専門化し ている医学研究を担える研究者の育成を目指し、その教育研究指導の充実をはかっている。

(4) 教育方針

眼科の対象となる研究領域と診療領域は、視覚の受容体である眼と視覚伝導路および視覚中枢である。なかでも、眼球の各組織の生理と病理、および、それらの組織に生じる疾患の診断、治療、発症機構が診療と研究の主な対象である。卒前教育では、これらについて幅広い知識の習得を目指す。卒後教育では高い専門知識と診療技術を持つと同時に、臨床に根ざした医学研究の行える人材の育成を目指している。

(5) 臨床活動および学外活動

一般眼科診療と専門外来スタッフによる診療が有機的に組織され、大学病院眼科に求められる高度先進医療と全人的医療を推進している。一般眼科外来でスクリーニングされた症例の診断と治療方針の決定を各専門外来が行い、主治医と専門外来が共同で診療にあたる。専門外来としては、先端近視センター（強度近視外来および近視治療外来)、ぶどう膜炎外来、緑内障外来、 網膜外来、糖尿病網膜症外来、神経眼科外来、黄斑外来などがある。手術に関しては、白内障、網膜剥離、増殖糖尿病網膜症、緑内障などを中心に年間約 1300 例の手術が行われる。

(6) 臨床上の特色

外来診療は月曜日から金曜日で、主に午前の初診 · 一般再診外来と、午後からの専門外来から構成されている。専門外来はグループ診察体制をとっており、各曜日から順にぶどう膜炎（月 · 木)、緑内障（火)、網膜（火)、斜視 · 弱視（火)、先端近視センター/近視治療（火 · 水 · 金)、黄斑（水)、神経眼科（水)、白内障 · 屈折矯正（水)、糖尿病網膜症（木)、先端近視センター/強度近視（金）を設置している。強度近視や近視治療、ぶどう膜炎、緑内障、糖尿病網膜症などを中心に多くの患者の紹介をいただいているとともに、幅広い領域にも対応可能な体制をとっている。東京近郊だけでなく全国各地から患者の紹介を受け付けている。手術の対象症例は教室の得意とする分野を背景に網膜硝子体手術や白内障手術を中心に、近年は MIGS 等様々な緑内障器具の開発を背景に緑内障手術の件数が特に増加傾向にある。

(7) 研究業績

[原著]

1. Bo Qian, Bin Sheng, Hao Chen, Xiangning Wang, Tingyao Li, Yixiao Jin, Zhouyu Guan, Zehua Jiang, Yilan Wu, Jinyuan Wang, Tingli Chen, Zhengrui Guo, Xiang Chen, Dawei Yang, Junlin Hou, Rui Feng, Fan Xiao, Yihao Li, Mostafa El Habib Daho, Li Lu, Ye Ding, Di Liu, Bo Yang, Wenhui Zhu, Yalin Wang, Hyeonmin Kim, Hyeonseob Nam, Huayu Li, Wei-Chi Wu, Qiang Wu, Rongping Dai, Huating Li, Marcus Ang, Daniel Shu Wei Ting, Carol Y Cheung, Xiaofei Wang, Ching-Yu Cheng, Gavin Siew Wei Tan, Kyoko Ohno-Matsui, Jost B Jonas, Yingfeng Zheng, Yih-Chung Tham, Tien Yin Wong, Ya Xing Wang. A Competition for the Diagnosis of Myopic Maculopathy by Artificial Intelligence Algorithms. JAMA Ophthalmol. 2024.11; 142(11); 1006-1015

2. Yasuda, S; Yoshida, T; Suzuki, Y; Sugahara, Y; Lee, JFK; Kamoi, K; Horie, S; Takase, H; Ohno-Matsui, K. Retromode Infrared Scanning Laser Ophthalmoscopy in Vogt-Koyanagi-Harada Disease GRAEFES ARCHIVE FOR CLINICAL AND EXPERIMENTAL OPHTHALMOLOGY. 2024.11;

3. Kazuya Morino, Masahiro Miyake, Masao Nagasaki, Takahisa Kawaguchi, Shogo Numa, Yuki Mori, Shota Yasukura, Masahiro Akada, Shin-Ya Nakao, Ai Nakata, Hiroki Hashimoto, Ryoko Otokozawa, Koju Kamoi, Hiroyuki Takahashi, Yasuharu Tabara, Fumihiko Matsuda, Kyoko Ohno-Matsui, Akitaka Tsujikawa, . Genome-wide Meta-analysis for Myopic Macular Neovascularization Identified a Novel Susceptibility Locus and Revealed a Shared Genetic Susceptibility with Age-Related Macular Degeneration. Ophthalmol Retina. 2024.11;

4. Shymaa K Hady, Shiqi Xie, Taiju Ito, Kengo Uramoto, Koju Kamoi, Kyoko Ohno-Matsui. Morphology and incidence of drusen-like deposits in peripheral retina of eyes with high myopia. Eye (Lond). 2024.11;

5. Tomonari Takahashi, Koju Kamoi, Kyoko Ohno-Matsui. Retinopathy After Epiretinal Membrane Peeling. JAMA Ophthalmol. 2024.11; 142(11); e244290

6. Koju Kamoi, Kaoru Uchimaru, Yasuhito Nannya, Arinobu Tojo, Toshiki Watanabe, Kyoko Ohno-Matsui. Sexual transmission of HTLV-1 resulting in uveitis with short-term latency and low proviral load. J Med Virol. 2024.10; 96(10); e70000

7. Yuan Zong, Koju Kamoi, Miki Miyagaki, Jing Zhang , Mingming Yang, Yaru Zou, Kyoko Ohno-Matsui. Applications of Biological Therapy for Latent Infections: Benefits and Risks Int J Mol Sci. 2024.08; 25(17); 9184

8. Kangjie Kong, Jingwen Jiang, Peiyuan Wang, Yunhe Song, Fengbin Lin, Fei Li, Xinbo Gao, Xiaoyi Liu, Ling Jin, Zhenyu Wang, Yuhong Liu, Meiling Chen, Kyoko Ohno-Matsui, Jost B Jonas, Shida Chen, Xiulan Zhang, . Progression Patterns and Risk Factors of Axial Elongation in Young Adults With Nonpathologic High Myopia: Three-Year Large Longitudinal Cohort Follow-Up. Am J Ophthalmol. 2024.08; 267; 293-303

9. Shintaro Horie, Yudai Suzuki, Takeshi Yoshida, Kyoko Ohno-Matsui. Blue Wavelength of Scanning Laser Ophthalmoscope Potentially Detects Arteriosclerotic Lesions in Diabetic Retinopathy. Diagnostics (Basel). 2024.07; 14(13);

10. Jingwen Jiang, Tingting Lin, Fengbin Lin, Kangjie Kong, Peiyuan Wang, Yunhe Song, Fengqi Zhou, Zhenyu Wang, Ling Jin, Yuhong Liu, Xinbo Gao, Jinmei Chen, Meiling Chen, Dennis S C Lam, Jost B Jonas, Shida Chen, Xiulan Zhang, Glaucoma Suspects with High Myopia Study Group. Effect of intraocular pressure reduction on progressive high myopia (PHM study): study protocol of a randomised controlled trial. BMJ Open. 2024.06; 14(6); e084068

11. Jing Zhang, Koju Kamoi, Yuan Zong, Mingming Yang, Yaru Zou, Kyoko Ohno-Matsui. Evaluating tocilizumab safety and immunomodulatory effects under ocular HTLV-1 infection in vitro. Int Immunopharmacol. 2024.06; 137; 112460

12. Tetsuya Muto, Masaaki Sakamoto, Shigeki Machida, Shinichiro Imaizumi, Yoshinobu Hamada, Koju Kamoi. Case Report: Branch retinal vein occlusion following COVID-19 vaccination and SARS-CoV-2 infection while taking oral contraceptives F1000Research. 2024.05; 13; 240

13. Takuhei Nomura, Takeshi Yoshida, Taiju Ito, Kyoko Ohno-Matsui. Temporal Protrusion of the Optic Disc Implicated in Central Visual Field Abnormalities in High Myopia: Two Case Reports. Case Rep Ophthalmol. 2024.04; 15(1); 335-342

14. Shih-Wen Wang, Tae Igarashi-Yokoi, Shiho Mochida, Kaoru Fujinami, Kyoko Ohno-Matsui. PREVALENCE AND CLINICAL FEATURES OF RADIAL FUNDUS AUTOFLUORESCENCE IN HIGH MYOPIC WOMEN. Retina. 2024.03; 44(3); 446-454

15. Hongshuang Lu, Changyu Chen, Jianping Xiong, Yining Wang, Ziye Wang, Muka Moriyama, Koju Kamoi, Kengo Uramoto, Tomonari Takahashi, Takeshi Yoshida, Kyoko Ohno-Matsui. LONGITUDINAL CHANGES OF POSTERIOR VORTEX VEINS IN HIGHLY MYOPIC EYES DETERMINED BY RETROSPECTIVE ANALYSES OF INDOCYANINE GREEN ANGIOGRAMS. Retina. 2024.03; 44(3); 438-445

16. Kyoko Ohno-Matsui, Tae Igarashi-Yokoi, Takeshi Azuma, Keigo Sugisawa, Jianping Xiong, Tomonari Takahashi, Kengo Uramoto, Koju Kamoi, Michiaki Okamoto, Suchandra Banerjee, Masahiro Yamanari. Polarization-Sensitive OCT Imaging of Scleral Abnormalities in Eyes With High Myopia and Dome-Shaped Macula. JAMA Ophthalmol. 2024.03;

17. Mingming Yang, Koju Kamoi, Yuan Zong, Jing Zhang, Yaru Zou, Kyoko Ohno-Matsui. Ripasudil as a Potential Therapeutic Agent in Treating Secondary Glaucoma in HTLV-1-Uveitis: An In Vitro Analysis. Int J Mol Sci. 2024.03; 25(6);

18. HONGSHUANG LU, MD, CHANGYU CHEN, MD, JIANPING XIONG, MD, YINING WANG, MD, ZIYE WANG, MD, MUKA MORIYAMA, MD, KOJU KAMOI, MD, PHD, KENGO URAMOTO, MD, TOMONARI TAKAHASHI, MD, TAKESHI YOSHIDA, MD, PHD, KYOKO OHNO-MATSUI, MD, PHD. LONGITUDINAL CHANGES OF POSTERIOR VORTEX VEINS IN HIGHLY MYOPIC EYES DETERMINED BY RETROSPECTIVE ANALYSES OF INDOCYANINE GREEN ANGIOGRAMS Retina. 2024.03; 44(3); 438-445

19. Koju Kamoi, Kyoko Ohno-Matsui. Long Vax in the Eye: Long Post-COVID Vaccination Syndrome Presenting with Frosted Branch Angiitis. Diseases. 2024.02; 12(2);

20. Ran Liu, Meng Xuan, De-Cai Wang, Ou Xiao, Xin-Xing Guo, Jian Zhang, Wei Wang, Monica Jong, Padmaja Sankaridurg, Kyoko Ohno-Matsui, Qiu-Xia Yin, Ming-Guang He, Zhi-Xi Li. Using choroidal thickness to detect myopic macular degeneration. Int J Ophthalmol. 2024.02; 17(2); 317-323

21. Mitsuki Kambayashi, Hitomi Saito, Makoto Araie, Nobuko Enomoto, Hiroshi Murata, Tsutomu Kikawa, Kazuhisa Sugiyama, Tomomi Higashide, Atsuya Miki, Aiko Iwase, Goji Tomita, Toru Nakazawa, Makoto Aihara, Kyoko Ohno-Matsui, Tae-Woo Kim, Christopher Kai Shun Leung, Linda M Zangwill, Robert N Weinreb. Effects of Deep Optic Nerve Head Structures on Bruch's Membrane Opening- Minimum Rim Width and Peripapillary Retinal Nerve Fiber Layer. Am J Ophthalmol. 2024.02; 263; 99-108

22. Hiroyuki Takahashi, Kengo Uramoto, Kyoko Ohno-Matsui. NEODYMIUM-DOPED YTTRIUM ALUMINUM GARNET LASER ABLATION OF INTERNAL LIMITING MEMBRANE TO TREAT MYOPIC MACULAR RETINOSCHISIS: CASE SERIES. Retin Cases Brief Rep. 2024.01; 18(1); 24-28

23. Izumi Hashimoto, Hiroshi Takase, Satoru Kase, Yuko Iwasaki, Daisuke Kobayashi, Kyoko Ohno-Matsui. CLINICOPATHOLOGICAL ANALYSIS OF SECONDARY RETINAL VASOPROLIFERATIVE TUMOR/REACTIVE RETINAL ASTROCYTIC TUMOR SUCCESSFULLY TREATED BY ENDORESECTION. Retin Cases Brief Rep. 2024.01; 18(1); 106-111

24. Hitomi Saito, Takashi Ueta, Makoto Araie, Nobuko Enomoto, Mitsuki Kambayashi, Hiroshi Murata, Tsutomu Kikawa, Kazuhisa Sugiyama, Tomomi Higashide, Atsuya Miki, Aiko Iwase, Goji Tomita, Toru Nakazawa, Makoto Aihara, Kyoko Ohno-Matsui, Tae-Woo Kim, Christopher Kai Shun Leung, Linda M Zangwill, Robert N Weinreb. Association of Bergmeister Papilla and Deep Optic Nerve Head Structures With Prelaminar Schisis of Normal and Glaucomatous Eyes. Am J Ophthalmol. 2024.01; 257; 91-102

25. Kyoko Ohno-Matsui. Insights Into Childhood Myopic Maculopathy. JAMA Ophthalmol. 2024.01;

26. Changyu Chen, Ziye Wang, Shiqi Xie, Hongshuang Lu, Yining Wang, Jianping Xiong, Noriko Nakao, Tae Igarashi-Yokoi, Takeshi Yoshida, Kengo Uramoto, Tomonari Takahashi, Keigo Sugisawa, Koju Kamoi, Kyoko Ohno-Matsui. Characteristics and Prevalence of Staphyloma Edges at Different Ages in Highly Myopic Eyes. Invest Ophthalmol Vis Sci. 2024.01; 65(1); 32

27. Changyu Chen, Ziye Wang, Shiqi Xie, Hongshuang Lu, Yining Wang, Jianping Xiong, Noriko Nakao, Tae Igarashi-Yokoi, Takeshi Yoshida, Kengo Uramoto, Tomonari Takahashi, Keigo Sugisawa, Koju Kamoi, and Kyoko Ohno-Matsui. Characteristics and Prevalence of Staphyloma Edges at Different Ages in Highly Myopic Eyes Investigative Ophthalmology & Visual Science. 2024.01; 65(1); 32

28. Tetsuya Muto, Masaaki Sakamoto, Shinichiro Imaizumi, Koju Kamoi. Reactivation of previously controlled Vogt-Koyanagi-Harada disease more than 46 years following COVID-19 vaccination: a case study. J Int Med Res. 2024.01; 52(1); 3000605231221081

29. Mark A Bullimore, Ian G Morgan, Kyoko Ohno-Matsui, Seang-Mei Saw. As Far as the Eye Can See: Importance of Myopia as a Pressing Public Health Need. Ophthalmol Sci. 2024; 4(1); 100438

30. Yifan Zhang, Jiaqing Zhang, Aixia Jin, Xuhua Tan, Kyoko Ohno-Matsui, Xiaotong Han, Lixia Luo, Yizhi Liu. Interocular difference in crystalline lens morphology in children and adolescents with unilateral high myopia. Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2024; 13(1); 100001

31. Keigo Sugisawa, Hiroyuki Takahashi, Masahiro Yamanari, Michiaki Okamoto, Tae Igarashi-Yokoi, Takeshi Azuma, Takayuki Miki, Hongshuang Lu, Yijin Wu, Jianping Xiong, Kyoko Ohno-Matsui. Visualization of the scleral structure changes at various stages of eyes with myopic maculopathy using polarization-sensitive OCT. Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2024; 13(6); 100117

1. 尤 俊博, 高瀬 博, 北口 由季, 今井 彩乃, 堀口 乃恵, 鴨居 功樹, 宮永 将, 小宮 陽仁, 保田 晋助, 大野 京子. 漿液性網膜剥離によって診断された再発性多発軟骨炎 臨床眼科. 2024.08; 78(8); 1027-1032

2. 尤俊博、高瀬博、北口由季、今井彩乃、堀口乃恵、鴨居功樹、小宮陽仁、久保晋助、大野京子. 漿液性網膜剥離によって診断された再発性多発軟骨炎 臨床眼科. 2024.08; 78(8); 1027-1032

3. 村瀬 裕香, 高瀬 博, 清水 玄, 尤 俊博, 北口 由季, 今井 彩乃, 堀口 乃恵, 井出 光直, 鴨居 功樹, 宮永 将, 川口 龍史, 大野 京子. 梅毒性ぶどう膜炎の臨床像 11 例の検討 臨床眼科. 2024.07; 78(7); 817-822

4. 村瀬裕香、高瀬博、清水玄、尤俊博、北口由季、今井彩乃、堀口乃恵、井出直光、鴨居功樹、宮永将、川口龍史、大野京子. 梅毒性ぶどう膜炎の臨床像 11 例の検討 臨床眼科. 2024.07; 78(7); 817-822

5. 岡田 真由子, 堀江 真太郎, 鴨居 功樹. HTLV-1 陽性の糖尿病患者に虹彩新生血管を生じた一例 眼科臨床紀要. 2024.05; 17(5); 389-392

6. 岡田 真由子, 堀江 真太郎, 鴨居 功樹. HTLV-1 陽性の糖尿病患者に虹彩新生血管を生じた一例 眼科臨床紀要. 2024.05; 17(5); 389-392

7. 中村 祐基, 藤原 基裕, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 堀江 真太郎, 吉田 武史, 大野 京子, 藤井 靖久. 急性緑内障発作予防を目的としたロボット支援下前立腺全摘除術前の眼科受診の意義 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会誌. 2024.03; 32(1); 46-49

8. 中村祐基、藤原基裕、石川雄大、福田翔平、早稲田悠馬、田中一、吉田宗一郎、堀江真太郎、吉田武史、大野京子、藤井靖久. 急性緑内障発作予防を目的としたロボット支援下前立腺全摘除術前の眼科受診の意義 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会誌. 2024.03; 32(1); 46-49

9. 鴨居 功樹. コロナ禍のレビューとこれから 東京都眼科医会雑誌. 2024.01; (226); 1

[書籍等出版物]

1. Kyoko Ohno-Matsui. Optical Coherence Tomography Angiography of the Eye SECOND EDITION. Kugler Publications, 2024.01 (ISBN : 978-90-6299-295-9)

1. 鴨居 功樹. HTLV-1 感染の診断指針 第 3 版. 日本医療研究開発機構 「HTLV-1 水平感染の動向と検査法 · 検査体制の整備] 研究班. 2024.03

2. 鴨居 功樹. 強膜ぶどう腫. 眼科診療ガイド 第 2 版. 文英堂, 2024.11

3. 鴨居 功樹. 強膜メラノーシス. 眼科診療ガイド 第 2 版. 文英堂, 2024.11

4. 鴨居 功樹. 青色強膜,van der Hoeve 症候群. 眼科診療ガイド 第 2 版. 文英堂, 2024.11

5. 鴨居 功樹. HA/HU の治療法は？ . よくわかる詳しくわかる HTLV-1. . 日本 HTLV-1 学会, 2024.10

6. 鴨居 功樹. HA/HU の初期症状は？ . よくわかる詳しくわかる HTLV-1. . 日本 HTLV-1 学会, 2024.10

7. 鴨居 功樹. HA/HU とは？ . よくわかる詳しくわかる HTLV-1. 2024.10

8. 大野京子. 名医たちの見る未来〜日本を支える 20 名の医師たち〜. パレード, 2024.07 (ISBN : 978-4-86522-412-2)

9. 大野京子. 標準眼科学第 15 版. 医学書院, 2024.03 (ISBN : 978-4-260-05360-0)

10. 鴨居 功樹. HTLV-1 ぶどう膜炎/HTLV-1 関連ぶどう膜炎. HTLV-1 キャリア診療ガイドライン 2024. 日本 HTLV-1 学会, 2024.03

11. 鴨居 功樹. HTLV-1 キャリアにおける関連疾患発症リスク HU/HAU の発症リスク. HTLV-1 キャリア診療ガイドライン 2024 . 日本 HTLV-1 学会, 2024.03

12. 鴨居 功樹. HTLV-1 キャリアにおいて、HU/HAU のスクリーニングは有用か ？ . HTLV-1 キャリア診療ガイドライン 2024 . 日本 HTLV-1 学会, 2024.03

13. 鴨居 功樹. HTLV-1 キャリアにおいて，HU/HAU の発症リスクを評価することは有用か， 有用であれば何を行うのがよいか？ - [ ] HTLV-1 キャリア診療ガイドライン 2024 . 日本 HTLV-1 学会, 2024.03

[総説]

1. Miki Miyagaki, Yuan Zong, Mingming Yang, Jing Zhang, Yaru Zou, Kyoko Ohno-Matsui, Koju Kamoi. Biology, Clinical Manifestations, Diagnostics, and Therapy. Pathogens. 2024.10; 13(10); 898
2. Yuan Zong, Miki Miyagaki, Mingming Yang, Jing Zhang, Yaru Zou, Kyoko Ohno-Matsui, Koju Kamoi. Ophthalmic Use of Targeted Biologics in the Management of Intraocular Diseases: Current and Emerging Therapies. Antibodies (Basel). 2024.10; 13(4); 86
3. Jing Zhang, Koju Kamoi, Yuan Zong, Mingming Yang, Yaru Zou, Miki Miyagaki, Kyoko Ohno-Matsui. Cytomegalovirus Retinitis: Clinical Manifestations, Diagnosis and Treatment. Viruses. 2024.09; 16(9); 1427
4. Yuan Zong, Koju Kamoi, Miki Miyagaki, Jing Zhang, Mingming Yang, Yaru Zou, Kyoko Ohno-Matsui. Applications of Biological Therapy for Latent Infections: Benefits and Risks. Int J Mol Sci. 2024.08; 25(17); 9184
5. Helena M A Feenstra, Elon H C van Dijk, Chui Ming Gemmy Cheung, Kyoko Ohno-Matsui, Timothy Y Y Lai, Hideki Koizumi, Michael Larsen, Giuseppe Querques, Susan M Downes, Suzanne Yzer, Mark P Breazzano, Yousif Subhi, Ramin Tadayoni, Siegfried G Priglinger, Laurenz J B Pauleikhoff, Clemens A K Lange, Anat Loewenstein, Roselie M H Diederen, Reinier O Schlingemann, Carel B Hoyng, Jay K Chhablani, Frank G Holz, Sobha Sivaprasad, Andrew J Lotery, Lawrence A Yannuzzi, K Bailey Freund, Camiel J F Boon. Central serous chorioretinopathy: An evidence-based treatment guideline. Prog Retin Eye Res. 2024.07; 101236
6. Yaru Zou, Koju Kamoi, Yuan Zong, Jing Zhang, Mingming Yang, Kyoko Ohno-Matsui. Vaccines and the Eye: Current Understanding of the Molecular and Immunological Effects of Vaccination on the Eye. Int J Mol Sci. 2024.04; 25(9); 4755
7. Xiulan Zhang, Jingwen Jiang, Kangjie Kong, Fei Li, Shida Chen, Peiyuan Wang, Yunhe Song, Fengbin Lin, Timothy P H Lin, Linda M Zangwill, Kyoko Ohno-Matsui, Jost B Jonas, Robert N Weinreb, Dennis S C Lam, . Optic neuropathy in high myopia: Glaucoma or high myopia or both? Prog Retin Eye Res. 2024.01; 99; 101246
8. Kangjie Kong, Xiaoyi Liu, Zige Fang, Jingwen Jiang, Jiaxuan Jiang, Deming Wang, Zefeng Yang, Fengqi Zhou, Evan M Chen, Jill Liang, Yunhe Song, Fengbin Lin, Kyoko Ohno-Matsui, Jost B Jonas, Ying Han, Fei Li, Xiulan Zhang, . Axial elongation in nonpathologic high myopia: Ocular structural changes and glaucoma diagnostic challenges. Asia Pac J Ophthalmol (Phila). 2024; 13(6); 100123

1. 大野京子、三宅正裕、柳靖雄、白澤誠、近藤峰生、生野恭司、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業網膜脈絡膜 · 視神経萎縮症に関する調査研究班近視性黄斑部新生血 管診療ガイドライン作成ワーキンググループ. 近視性黄斑部新生血管の診療ガイドライン 日眼会誌. 2024.10; 128(10); 719-729
2. 鴨居 功樹. HTLV-1 感染症: 眼科学からの新展開 Bio Clinica. 2024.09; 38(9);
3. 鴨居 功樹. 眼科医として多様な働き方を考える 日本の眼科. 2024.07; 95(7); 950-951
4. 鴨居 功樹. HTLV-1 感染による後眼部病変 (解説) あたらしい眼科. 2024.05; 41(5); 491-497
5. 鴨居 功樹. HTLV-1 感染症の新しいパラダイム Bio clinica . 2024.03; (39); 253-254
6. 高橋洋如、大野京子. 眼科検査機器はこう使う　OCT　病的近視 OCULISTA. 2024.03; 132; 135-141
7. 島田典明、大野京子. Fovea-sparing 法による内境界膜剥離 日本の眼科. 2024.02; 95(2); 184-186

[講演 · 口頭発表等]

1. Ohno-Matsui K. Pathologic Myopia. Beijing Eye Research Institute Distinguished Lecture 2024.12.09 Beijing, China
2. Ohno-Matsui K. Scleral imaging of Pathologic Myopia. APVRS2024 2024.11.22 Singapore
3. Yaru Zou, Koju Kamoi, Yuan Zong, Jing Zhang, Mingming Yang, Miki Miyagaki, Kyoko Ohno-Matsui. 東京における高齢者の HTLV-1 ぶどう膜炎の疫学. 第 10 回 日本 HTLV-1 学会学術集会 2024.11.09 東京都千代田区 (一橋講堂)

4. Yang M, Kamoi K, Zong Y, Zhang J, Zou Y, Miyagaki M, Ohno-Matsui K. Co-infection and Systematic Disease in Ophthalmic Patients with Retroviral Infection. 第 10 回 日本 HTLV-1 学会学術集会 2024.11.09

5. Wang Z, Chen C, Wu Y, Lu H, Wang Y, Xiong J, Tanaka T, Nagata Y, Ohno-Matsui K.. 全エクソームシーケンシングを用いた病的近視における後部ぶどう腫の遺伝子解析. 第 8 回日本近視網膜研究会 2024.11.09 web

6. Yang M, Kamoi K, Zong Y, Zhang J, Zou Y, Miyagaki M, Ohno-Matsui K.. Co-infection and Systematic Disease in Ophthalmic Patients with Retroviral Infection.. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術講演会 2024.11.08

7. Zou Y, Kamoi K, Zong Y, Zhang J, Yang M, Miyagaki M, Ohno Matsu K. 東京における高齢者の HTLV-1 ぶどう膜炎の疫学. . 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術講演会 2024.11.08

8. Ohno-Matsui K. Insights into pathologic myopia: Unraveling the enigma of posterior staphyloma. 2024 Form and Function in Ocular Disease Symposium 2024.11.02 Halifax, Canada

9. Ohno-Matsui K. Pathologic myopia. Asia Pacific Myopia Symposium 2024.10.27 Soul, Korea

10. Ohno-Matsui K. Polarization-Sensitive Imaging of Myopia. AAO 2024 2024.10.20

11. Ohno-Matsui K. Complications of Pathologic Myopia. AAO 2024 2024.10.20

12. Ohno-Matsui K. Polarized-Sensitive OCT to Visualize the Course of Posterior Scleral Collagen Fibers in Various Pathologies. AAO 2024 2024.10.19 Chicago, USA

13. Ohno-Matsui K. Polarization-Sensitive OCT of Sclera in Myopes and Dome-Shaped Macula. 2024 TMS Annual Meeting 2024.09.28 台湾、台北

14. Ohno-Matsui K. Scleral changes of high myopia viewed by OCT. ヨーロッパ網膜学会 (EURETINA) 2024.09.22 Barcelona, Spain

15. Ohno-Matsui K. Choroid and RPE in high myopia. ヨーロッパ網膜学会 (EURETINA) 2024.09.22 Barcelona, Spain

16. Ohno-Matsui K. Pathologic Myopia: New Horizons through Cutting-Edge Imaging Technologies. ヨーロッパ網膜学会 (EURETINA) 2024.09.19 Barcelona, Spain

17. Ohno-Matsui K. Multimodal Imaging in pathologic myopia. ヨーロッパ網膜学会 (EURETINA) 2024.09.19 Barcelona, Spain

18. Ohno-Matsui K. Brien Holden Award Lecture Pathologic Myopia. 第 22 回国際コンタクトレンズ学会 2024.08.19 Halifax, Canada

19. Nakao N, Igarashi-Yokoi T, Takahashi H, Xie S, Shinohara K, Ohno-Matsui K. Quantitative Evaluations of Posterior Staphylomas in Highly Myopic Eyes by Ultra-Widefield Optical Coherence Tomography. 第 38 回東京医科歯科大学眼科学教室同門会集談会プログラム 2024.07.15 東京都文京区 (東京医科歯科大学、web)

20. Two types of staphyloma edges and their progression. 2024.05.19

21. Polarization-sensitive optical coherence tomography im aging of scleral ridge. 2024.05.19

22. A deep learning model to screen posterior staphylomas in high myopia. 2024.05.19

23. Changyu Chen, Hongshuang Lu, Jianping Xiong, Yining Wang, Ziye Wang, Yijin Wu, Noriko Nakao, Keigo Sugisawa, Hiroyuki Takahashi, Tae Igarashi-Yokoi, Koju Kamoi, Kyoko Ohno-Matsui. Two types of staphyloma edges and their progression. 第 6 回日本近視学会総会 2024.05.18 東京都千代田区 (ステーションコンファレンス東京)

24. ZIYE WANG. Observations of Scleral fibers in Eyes with High Myopia andDome-ShapedMacula. The 6th Annual Meeting of Japan Myopia Society 2024.05.18

25. Colocalization of posterior vortex vein exit and short PCA entry. 2024.05.18

26. Yuto Shiotani, Takeshi Yoshida, Takuhei Nomura, Taiju Itou, Sota Yoshimoto, Motohisa Ohno, Shintaro Yasuda, Keigo Sugisawa, Yuka Onishi, Kyoko Ohno-Matsui. Short term surgical outcomes of iStent Inject W Implantation in open angle glaucoma eyes with high myopia. ARVO 2024 Annual Meeting 2024.05.05 Seattle, USA

27. Masahiro Yamanari, Tae Igarashi, Takeshi Azuma, Keigo Sugisawa, Jianping Xiong, Tomonari Takahashi, Kengo Uramoto, Koju Kamoi, Kyoko Ohno-Matsui. Visiblity of the sclera in highly myopic eyes measured by polarization-sensitive optical coherence tomography. ARVO 2024 Annual Meeting 2024.05.05 Seattle, USA

28. Hiroyuki Takahashi, Yunchan Hwang, Jungeun Won, Muhammad U. Jamil, Antonio Yaghy, Michelle C. Liang, Caroline B. Baumal, Andre J. Witkin, Kyoko Ohno-Matsui, Jay S. Duker, James G. Fujimoto, Nadia K. Waheed. Blood flow speed of retinal microaneurysms in eyes with diabetic retinopathy quantified by high speed OCTA using variable interscan time analysis. ARVO Imaging in the Eye Conference 2024.05.04 Seattle, USA

29. Complex hemodynamics of posterior vortex veins in highly myopic eyes. 2024.04.20

30. The risk factor for staphyloma development in high myopia. 2024.04.19

31. Chen Changyu, Lu Hongshuang, Xie Shiqi, Wang Yining, Wang Ziye, Xiong Jianping, Wu Yijin, 五十嵐 多恵, 中尾 紀子, 吉田 武史, 鴨居 功樹, 大野 京子. 強度近視におけるぶどう腫発生の危険因子 (The Risk Factor for Staphyloma Development in High Myopia). 日本眼科学会雑誌 2024.03.01

32. Kyoko Ohno-Matsui. Artificial intelligence in diagnosing and managing eyes with high myopia and pathologic myopia (Symposium implementing ocular imaging technologies into clinical practice). 39th APAO 2024.02.23 Bali, Indonesia

33. Kyoko Ohno-Matsui. Posterior staphyloma (Symposium pathologic myopia and its consequences). 39th APAO 2024.02.22 Bali, Indonesia

34. Kyoko Ohno-Matsui, Tae Igarashi-Yokoi, Masahiro Yamanari. Polarization-sensitive imaging of scleral abnormalities in myopia and dome-shaped macula. The Macula Society 47th Meeting 2024.02.08 Palm Springs, USA

35. Yaru Zou, Koju Kamoi, Yuan Zong, Jing Zhang, Mingming Yang, and Kyoko Ohno-Matsui. In vitro Evaluation of the Effects of Nicotine for the Eye Under HTLV-1 Infection Status. 第 16 回 CBIR/ONSA/大学院セミナー共催 若手インスパイアシンポジウム 2024.02.08

36. Ohno-Matsui K. Pathologic Myopia. 1st Symposium in Commemoration of the Founding of Korean Myopia Society 2024.01.27 Soul, Korea

37. Ohno-Matsui K. Richard Fan Distinguished Lecture Paradigm Shifts in Myopia Management from Kids to Elderly. 37TH Singapore-Malaysia Joint Meeting in Ophthalmology 2024.01.20 Singapore

38. Ohno-Matsui K. New treatment in MMD Shifting Perspectives: Exploring New Paradigms in Myopia Management. 37TH Singapore-Malaysia Joint Meeting in Ophthalmology 2024.01.19 Singapore

39. Ohno-Matsui K. Long-Term Changes of Posterior Vortex Veins in Highly Myopic Eyes. 48th Atlantic Coast Retina Club (ACRC) 2024.01.06 New York, USA

40. Ohno-Matsui K. ACRC Case Presentations Graves' Disease and Blurry Vision. 48th Atlantic Coast Retina Club (ACRC) 2024.01.05 New York, USA

1. 大野京子. 眼科医 · 眼科研究者としての挑戦. 東京都医師会主催「医学生 · 研修医をサポートする会」2024.12.07

2. 鴨居 功樹. ぶどう膜炎診療 · 研究の最前線.. 第 66 回宮城眼科先進医療研究会 2024.11.25

3. 大野京子. 小児の近視の進行抑制 病院運営プログラム「子供の目を守る」. 第 78 回日本臨床眼科学会 2024.11.17 京都府京都市 (国立京都国際会館)

4. 大野京子、生野恭司、中村葉、稲澤かおり、五十嵐多恵. 徹底解説！ 近視の最新治療. 第 78 回日本臨床眼科学会 2024.11.16 京都府京都市 (国立京都国際会館)

5. 大野京子、右田幸江、山川豊. 小児近視患者を対象とした低濃度アトロピン点眼液 36 ヶ月投与時の有効性および安全性. 第 78 回日本臨床眼科学会 2024.11.15 京都府京都市 (国立京都国際会館)

6. 安田慎太郎、吉田武史、好本壮太、杉澤啓吾、大野元久、塩谷悠斗、寺松龍、大野京子. 強度近視眼における緑内障様中心視野障害の予後評価. 第 78 回日本臨床眼科学会 2024.11.15 京都府京都市 (国立京都国際会館)

7. 小林知世、倉田あゆみ、江本博文、江本有子、清水玄、佐川博貴、石黒太郎、吉岡耕太郎、 横田隆徳、大野京子. 検診を契機に発見されたうっ血乳頭の一例. 第 78 回日本臨床眼科学会 2024.11.15

8. 李あゆん、五十嵐多恵、磯村直紀、菅原結子、久保田茉莉子、金井秀美、大野京子. 日本人の強度近視小児における反復低レベル赤色光療法の近視進行抑制効果. 第 8 回日本近視網膜研究会 2024.11.09

9. 10. 磯村直紀、五十嵐多恵、李あゆん、菅原結子、久保田茉莉子、金井秀美、大野京子. 強度近視小児における反復低レベル赤色光療法の脈絡膜構造変化. 2024.11.09 web

10. 鴨居 功樹. HTLV-1 関連眼疾患：最新の知見と今後の展望. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術講演会 2024.11.08

11. 塩谷悠斗、吉田武史、好本壮太、大野元久、杉澤啓吾、安田慎太郎、寺松龍、大野京子. 強度近視眼における水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術の手術成績. 第 35 回日本緑内障学会 2024.09.21 兵庫県姫路市 (アクリエひめじ)

12. 山成 正宏、五十嵐 多恵、東 岳志、杉澤 啓吾、Jianping Xiong、高橋 知成、浦本 賢吾、 鴨居 功樹、大野京子. 眼底偏光 OCT で観察された強度近視眼の強膜線維走行の特徴. 第 60 回 日本眼光学学会総会 2024.08.31 兵庫県神戸市 (神戸国際会議場)

13. 山成 正宏、五十嵐 多恵、東 岳志、杉澤 啓吾、Jianping Xiong、高橋 知成、浦本 賢吾、 鴨居 功樹、大野 京子.. 眼底偏光 OCT で観察された強度近視眼の強膜線維走行の特徴. 第 60 回 日本眼光学学会総会 2024.08.31

14. 鴨居 功樹. ぶどう膜炎 · リンパ腫の最新知見. 第 226 回茨城県眼科医会学術講演会 2024.08.25

15. 鴨居 功樹. 脊椎関節炎患者における眼疾患の特徴と治療戦略. 第 34 回日本脊椎関節炎学会学術集会 2024.08.18 大阪

16. 鴨居 功樹. 関節炎と眼炎症の交差点：脊椎関節炎. 関節炎 · 眼炎クロスセミナー 2024.08.01

17. 向井 美冴、竹内 弥生、相馬 亮子、大野 京子. ステロイド内服治療を行った Unilateral acute idiopathic maculopathy の 1 例. 第 40 回日本眼循環学会 2024.07.19 福島県

18. 鴨居 功樹. ベーチェット病の長期管理におけるインフリキシマブの役割 : 治療効果と安全性の総合的評価. 第 57 回 日本眼炎症学会 2024.07.05

19. 鴨居 功樹. HTLV-1 ぶどう膜炎と水平感染. 日本医療研究開発機構 班会議 2024.06.29 長崎

20. 大野京子. 小児の近視の進行抑制. 日本眼科医会「子どもの目の日」記念講演会 2024.05.26 東京都千代田区 (イイノホール)

21. 大野京子. 近視の真実を追い求めて. 第 6 回日本近視学会総会 2024.05.18 東京都千代田区 (ステーションコンファレンス東京)

22. 高橋 知成、大野 京子. 近視性牽引性黄斑症に対する FSIP の有用性評価. 第 6 回日本近視学会総会 2024.05.18 東京都千代田区 (ステーションコンファレンス東京)

23. 倉田 あゆみ、五十嵐 多恵、菅原 結子、久保田 茉莉子、金井 秀美、森村 海 帆、小林 知世、野村 仁登美、宮後 宏美、西山 友貴、深町 雅子、大野 京子. OCULUS Myopia Master の小児近視眼における生体計測の妥当性の検証. 第 6 回日本近視学会総会 2024.05.18 東京都千代田区 (ステーションコンファレンス東京)

24. 三木 隆之、五十嵐 多恵、杉澤 啓吾、Jianping Xiong、Hongshang Lu、 山成 正宏、岡本 道明、大野 京子. PS-OCT エントロピー画像による病的近視眼 Bruch 膜断裂部位の色素分布の 観察. 第 6 回日本近視学会総会 2024.05.18 東京都千代田区 (ステーションコンファレンス東京)

25. 李 あゆん、五十嵐 多恵、磯村 直樹、菅原 結子、久保田 茉莉子、 金井 秀美、大野 京子. 小児の強度近視患者を対象としたレッドライト治療法の眼軸長短縮効果に関 する前向き単群試験〜6 ヶ月間の中間解析〜. 第 6 回日本近視学会総会 2024.05.18 東京都千代田区 (ステーションコンファレンス東京)

26. 鴨居 功樹. HTLV-1 と眼疾患. 第 40 回 日本皮膚悪性腫瘍学会 学術大会 2024.05.11 宮崎

27. 李 惇馥, 鴨居 功樹, 板谷 真子, 岡田 真由子, 大野 京子. COVID-19 患者の ICU 治療中の眼所見の特徴. 第 128 回日本眼科学会総会 2024.04.19 東京都千代田区 (国際フォーラム)
28. 小寺結子, Rong Li, 五十嵐 多恵, 中尾 紀子, 大野 京子. 0.01 および 0.025%アトロピンと焦点深度拡張型 SCL 併用療法の眼軸伸展抑制効果の比較. 第 128 回日本眼科学会総会 2024.04.19 東京都千代田区 (国際フォーラム)
29. 村瀬 裕香, 高瀬 博, 佐々木 広和, 岡 彩乃, 岩崎 優子, 鴨居 功樹, 保田 晋助, 大野 京子. ベーチェット病による難治性黄斑浮腫に IL-6 阻害薬が奏功した 1 例. 第 128 回日本眼科学会総会 2024.04.19 東京都千代田区 (国際フォーラム)
30. 鴨居 功樹. ぶどう膜炎の診断と治療：最近の話題と生物学的製剤の有用性. 第 13 回富山ぶどう膜炎治療研究会 2024.03.08
31. 大野京子. 小児の近視の進行抑制法. 第 22 回眼科診療アップデートセミナー 2024 in Kyoto 2024.03.02 京都府京都市 (ウェスティン都ホテル京都)
32. 鴨居 功樹. 眼科学からのアプローチ：感染症学 · 医工学への展開. TMDU TIP BB セミナー 2024.02.07
33. 鴨居 功樹. 水平感染による HTLV-1 ぶどう膜炎の新知見 . 日本医療研究開発機構 班会議 2024.01.20

1. 李惇馥、杉澤啓吾、高橋洋如、大野京子. 病的近視の限局性萎縮病変における網膜欠損. 第 63 回日本網膜硝子体学会 2024.12.07 大阪府大阪市 (大阪国際会議場)

[受賞]

1. 2024 Richard Fan distinguished lecture award, Singapore Ophthalmological Society, 2024 年 01 月
2. The Power List 2024, The Ophthalmologist, 2024 年 04 月
3. 日本眼科医会会長表彰 (鴨居 功樹）, 2024 年 06 月
4. Brien Holden Lecture, International Society for Contact Lens Research, 2024 年 08 月
5. EURETINA lecture, European Society of Retina Specialists, 2024 年 09 月
6. Beijing Eye Institute Distinguished Lecture, Tsinghua University, 2024 年 12 月
7. 東京科学大学 医学研究奨励賞 (鴨居 功樹), 2024 年 12 月

[その他業績]

1. 緑内障診療アップデート, 2024 年 01 月
   座長. 第 10 回 TMDU 眼科病診連携の会. 2024.1.25 (web)
2. Posterior staphyloma (Symposium pathologic myopia and its consequences), 2024 年 02 月
   座長. 39th APAO. 2024.2.22、Bali, Indonesia
3. Artificial intelligence in diagnosing and managing eyes with high myopia and pathologic myopia (Symposium implementing ocular imaging technologies into clinical practice), 2024 年 02 月
   座長. 39th APAO. 2024.2.23, Bali, Indonesia
4. 「Polarization-sensitive OCT を用い、生体眼内で眼球の最外層に位置する強膜の線維構造を広範囲に詳細に可視化 」 病的近視など眼球変形疾患の病態解明と新規治療への貢献, 2024 年 03 月
   JAMA Ophthalmology
5. 病気になったとき, 2024 年 03 月
   テレビ.　チョイス (NHK).2024.3.3
6. 眼の膜構造を可視化　東京医歯大など、治療法開発に活用, 2024 年 03 月
   インターネット. 日経電子版、2024.3.14
7. 目の膜構造を詳細分析, 2024 年 03 月
   新聞. 日本経済新聞、2024.3.15

8. 失明の危機 · 近視で緑内障に…, 2024 年 03 月
テレビ. 報道特集 (TBS テレビ). 2024.3.23

9. 「 ROCK 阻害薬は HTLV-1 ぶどう膜炎の続発緑内障に有効である 」 — HTLV-1 ぶどう膜炎で生じる高眼圧に対する ROCK 阻害薬の検証—, 2024 年 04 月
International Journal of Molecular Sciences

10. 「 ROCK 阻害薬は HTLV-1 ぶどう膜炎の続発緑内障に有効である 」HTLV-1 ぶどう膜炎で生じる高眼圧に対する ROCK 阻害薬の検証, 2024 年 04 月
International Journal of Molecular Sciences

11. 「 ROCK 阻害薬は HTLV-1 ぶどう膜炎の続発緑内障に有効である 」 — HTLV-1 ぶどう膜炎で生じる高眼圧に対する ROCK 阻害薬の検証—, 2024 年 04 月
International Journal of Molecular Sciences

12. Papers myopia, 2024 年 04 月
座長. 第 128 回日本眼科学会総会. 2024.4.19, 東京都千代田区 (東京国際フォーラム)

13. どうしました 角膜が先天的に楕円形, 2024 年 04 月
新聞. 朝日新聞、2024.4.14

14. Imaging Fibrous Structure Abnormalities of the White of the Eye in Myopathic Patients, 2024 年 05 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

15. 子どもの近視 赤い光で進行抑える研究“半年後わずかに改善”, 2024 年 05 月
テレビ. NHKNews、2024.5.17

16. 「 生物学的製剤の投与時に HTLV-1 感染の確認は必要か？ 」 — IL-6 阻害薬投与における眼科学的視点からの安全性の検証 —, 2024 年 06 月
International Immunopharmacology

17. 「生物学的製剤の投与時に HTLV-1 感染の確認は必要か？」IL-6 阻害薬投与における眼科学的視点からの安全性の検証, 2024 年 06 月
International Immunopharmacology

18. 「 生物学的製剤の投与時に HTLV-1 感染の確認は必要か？ 」 — IL-6 阻害薬投与における眼科学的視点からの安全性の検証 —, 2024 年 06 月
International Immunopharmacology

19. 近視 合併症〜予防, 2024 年 06 月
ラジオ. 杏林シンポジウム. ラジオ NIKKEI、2024.6.3

20. 小中学生の 50.3 %が近視 2 年間で約 1 割の子どもが新たに近視に, 2024 年 07 月
テレビ. NHKNews、2024.7.31

21. The Euretina Lecture, 2024 年 08 月
ポットキャスト. Talking(Eu)Retina-The official Euretina Podcast、2024.8.22

22. ウェルネ · スインタビュー 大人になってからも進む「強度近視」が増えています！ , 2024 年 08 月
雑誌. ばらんす 2024 秋. 予防健康社

23. Observing the Finer Details of the Eye, 2024 年 09 月
雑誌. Optics and Photonics News(米国光学会機関紙)、2024.9

24. みんなの「知りたい！」目の病気, 2024 年 10 月
テレビ. きょうの健康. NHK、2024.10.7

25. 子どもの近視対策！ 超近視社会を回避するために, 2024 年 10 月
テレビ. きょうの健康. NHK、2024.10.7

26. みんなの「知りたい！」目の病気, 2024 年 10 月
雑誌. きょうの健康 10 月号. NHK 出版

27. こどもの近視対策！ 超近視社会を回避するために, 2024 年 10 月
雑誌. きょうの健康 10 月号. NHK 出版

28. 【プレスリリース】「若年層の HTLV-1 水平感染による新リスクを発見」 東京科学大学、東京大学大学院、東京大学医科学研究所 , 2024 年 11 月
Journal of Medical Virology
29. 近視の進行を抑える国内初の目薬 製造販売を正式に承認 厚労省, 2024 年 12 月
インターネット. NHKNews、2024.12.27
30. 保護者の方に知っていただきたいこどもの近視予防対策, 2024 年 12 月
インターネット. e—ヘルスネット. 厚生労働省、 2024.12.19
31. ドクターサロン , 2024 年 12 月
ラジオ NIKKEI (鴨居功樹）

[社会貢献活動]

1. 「ドクターの肖像」に関して, (株) メディカル · プリンシプル社, DOCTOR’S MAGAZINE, 2023 年 09 月 05 日 - 現在
2. 近視治療の最前線について, NHK, ニュース７，ニュースウォッチ９など, 2023 年 09 月 25 日 - 現在
3. 近視患者への治療について, テレビ朝日, グッド！ モーニング, 2023 年 12 月 12 日 - 2024 年 03 月 31 日
4. Clouclip やメガネの過矯正について, NHK, あしたが変わるトリセツショー, 2023 年 12 月 14 日 - 2024 年 04 月 15 日
5. 小児の近視抑制治療, NHK, チョイス, 2023 年 12 月 28 日 - 2024 年 02 月 13 日
6. 近視予防, 厚生労働省, e-ヘルスネット, 2024 年 01 月 24 日 - 現在
7. 診療にかける想い、今後のビジョンに関して, 信立電気, 名医たちの見る未来（仮）, 2024 年 01 月 25 日 - 2024 年 07 月
8. 日本における近視の最先端治療, ＴＢＳテレビ, 報道特集, 2024 年 03 月 06 日 - 2024 年 03 月 23 日
9. 近視患者に「緑内障スクリーニングを」, 超党派「近視対策推進議員連盟」, 2024 年 04 月 04 日
10. 子どもの眼球変形による乱視 · 遠視, 朝日新聞社, 朝日新聞, 2024 年 04 月 09 日 - 2024 年 04 月 17 日
11. 子どもの近視, NHK, NHK ニュース, 2024 年 04 月 24 日 - 2024 年 05 月
12. 近視治療の最新研究, NHK, NHK ニュース, 2024 年 05 月 01 日 - 2024 年 05 月 17 日
13. シリーズ　眼科診療 昭和から令和への進歩 第６回　近視　合併症〜予防, ラジオ NIKKEI, 杏林シンポジア, 2024 年 05 月 07 日 - 2024 年 06 月 03 日
14. 産官学で行う「子どもの視力を守る」をテー マとした啓発活動へのご協力, 株式会社協和企画, 啓発広報イベントにて、各種メディア誘致, 2024 年 05 月 22 日 - 2025 年 03 月
15. 子どもの近視対策, NHK, きょうの健康, 2024 年 07 月 09 日 - 2024 年 10 月 10 日
16. 視力低下について, NHK, ニュース７，ニュースウォッチ９など, 2024 年 07 月 30 日 - 2024 年 07 月 31 日
17. 強度近視の黄斑部病変, 参天製薬株式会社, 「Santen Medical Channel」, 2024 年 09 月 03 日 - 現在

耳鼻咽喉科学

Otorhinolaryngology

教授：堤　剛
准教授：川島慶之
講師：伊藤卓
学内講師：本田圭司
助教：西尾綾子、竹田貴策
特任助教：丸山絢子、青木夏姫
医員：溝口由丸
大学院生：丸山絢子、青木夏姫、大岡知樹、毛利香織、溝口由丸

(1) 分野概要

耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、ならびに、気管 · 食道も含め、脳神経外科、眼科、歯科が扱う領域も含めて広範な頭頸部領域の疾患を扱い、対象疾患の診断ならびに外科的 · 内科的治療による治療を目標に研究、教育を行う。外耳道癌では国内屈指の手術件数を持ち、中耳手術においては内視鏡や外視鏡の導入による低侵襲な手術を行っている。人工内耳 · 人工中耳やめまいに対する手術も数多く行なっている。めまい · 平衡障害、難聴については、その病態について分子メカニズム、比較発生、神経機能解析等と種々の手法による基礎研究を行っており、また外耳道癌に対するマーカーの研究や術中ナビゲーションを含む手術支援機器の開発なども行なっている。鼻の領域では内視鏡手術やアレルギー性鼻炎の診療に力を注いでおり、頭蓋底手術を含む高難度手術にも取り組んでいる。口腔 · 咽頭領域では、口蓋扁桃摘出による IgA 腎症の腎障害の進行阻止ならびに、移植された腎臓が再び IgA 腎症を発症した際にも扁桃摘出術の有効性を証明し，治療を行っている。嚥下障害の評価とリハビリ/手術加療にも力を入れている。

(2) 研究活動

平衡神経科学領域でのクリニカルリサーチ
三次元眼球運動と重力認知機能評価
マウスの眼球運動の三次元解析
聴覚領域での分子生物学/電気生理学/形態学的研究
外耳道癌の予後に関するマーカーの研究
内視鏡下鼻科手術の新たな術式の開発
睡眠時無呼吸症候群の臨床研究
VR を利用した教育 · 手術支援機器開発

(3) 教育活動

解剖/生理学的な基礎領域を含めたクルズス
側頭骨削開実習

(4) 教育方針

特定の専門領域に偏りすぎることなく、幅広い診療能力を有した医師を育成する。
臨床症例の理解の深化および将来の臨床に資する研究教育をおこなう。

(5) 臨床上の特色

· 中枢性疾患を含む平衡障害の専門的診療
· 遺伝性難聴を含む聴覚領域の診療
· 外耳道癌に対する頭蓋底手術を含む診療
· 中耳手術への内視鏡の導入と低侵襲手術
· 内耳の手術治療（人工内耳手術、めまい手術等）
· 高難度内視鏡下鼻科手術（頭蓋底手術を含む）
· リハビリテーション部/歯科と連携した嚥下診療、嚥下手術
· 睡眠時無呼吸症候群の快眠センターと連携した診療

(6) 研究業績

[原著]

1. Ito T, Fujikawa T, Takeda T, Mizoguchi Y, Okubo K, Onogi S, Nakajima Y, Tsutsumi T.. Integration of augmented reality in temporal bone and skull base surgeries. Sensors. 2024.11; 24; 7063

2. Ryuhei Okada, Taku Ito, Hiroaki Kawabe, Takeshi Tsutsumi, Takahiro Asakage. Mixed reality-supported near-infrared photoimmunotherapy for oropharyngeal cancer: a case report. Ann Med Surg (Lond). 2024.09; 86(9); 5551-5556

3. Aoki Natsuki, Yamazaki Ayame, Honda Keiji, Tsutsumi Takeshi. Ocular torsion induced by Coriolis stimulation(タイトル和訳中) Auris· Nasus· Larynx. 2024.08; 51(4); 738-746

4. Keisuke Kondo, Keiji Honda, Keiichi Goshima, Norihiko Inoue, Daisuke Shinjo, Takeshi Tsutsumi, Kiyohide Fushimi. Otologic disease trends in Japan post-COVID-19 outbreak: A retrospective time-series analysis. Auris Nasus Larynx. 2024.06; 51(3); 525-530

5. Aoki N, Yamazaki A, Honda K, Tsutsumi T. Ocular torsion induced by Coriolis stimulation. Auris, nasus, larynx. 2024.06; 51(4); 738-746

6. Kondo Keisuke, Honda Keiji, Goshima Keiichi, Inoue Norihiko, Shinjo Daisuke, Tsutsumi Takeshi, Fushimi Kiyohide. Otologic disease trends in Japan post-COVID-19 outbreak: A retrospective time-series analysis(タイトル和訳中) Auris· Nasus· Larynx. 2024.06; 51(3); 525-530

7. Fujikawa T, Ito T, Okada R, Sawada M, Mohri K, Tateishi Y, Takahashi R, Asakage T, Tsutsumi T. Combined genetic polymorphisms of the GSTT1 and NRF2 genes increase susceptibility to cisplatin-induced ototoxicity: A preliminary study. Hearing research. 2024.04; 445; 108995

8. Maruyama A, Kawashima Y, Fukunaga Y, Makabe A, Nishio A, Tsutsumi T. Susceptibility of mouse cochlear hair cells to cisplatin ototoxicity largely depends on sensory mechanoelectrical transduction channels both Ex Vivo and In Vivo. Hearing research. 2024.04; 447; 109013

9. Mizoguchi, Y; Fujikawa, T; Kawashima, Y; Ito, T; Kitamura, K; Noguchi, Y; Takahashi, M; Honda, K; Takeda, T; Tsutsumi, T. High fluence in laser stapedotomy aggravates transient subjective dizziness ACTA OTO-LARYNGOLOGICA. 2024.02; 144(2); 118-122

10. Kondo K, Inoue N, Honda K Fushimi K.. Effectiveness of antibiotic therapy for early recurrence of peritonsillar cellulitis and abscesses: A retrospective cohort study. Auris Nasus Larynx. 2024.01; 51; 450-455

11. Takeda T, Tajino J, Merfeld DM.. Frequency dependence of human thresholds: both perceptual and vestibuloocular reflex thresholds. J Neurophysiol. 2024.01; 131; 1143-1155

12. Ito T, Watanabe H, Honda K, Fujikawa T, Kitamura K, Tsutsumi T. The role of SLC26A4 in bony labyrinth development and otoconial mineralization in mouse models. Frontiers in molecular neuroscience. 2024; 17; 1384764

1. 堤 剛. 治療法の再整理とアップデートのために　専門家による私の治療　前庭神経炎 日本医事新報. 2024.07; (5231); 52-53

2. 古賀 千佳子, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 堤 剛. ホログラムガイド下に BONEBRIDGE 埋め込み術を施行した外耳道閉鎖症例 耳鼻咽喉科臨床. 2024.04; 117(4); 321-325

3. 堤 剛. 【ランドマークはこれだ! 局所解剖アトラス】耳　外耳道がん手術 (外側側頭骨切除術) のための局所解剖 耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科. 2024.04; 96(5); 56-63

4. 大岡 知樹, 本田 圭司, 西尾 綾子, 山崎 あやめ, 古賀 千佳子, 堤 剛. 当科で経験した前庭性発作症, 前庭性発作症疑い 8 症例の検討 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 2024.03; 127(3); 167-172

5. 伊藤 卓, 堤 剛. (CASE24) 難聴を伴う Eight-and-a-half 症候群と考えられた橋出血例 Equilibrium Research. 2024.02; 83(1); 51-54

6. 堤 剛. 【耳鼻咽喉 · 頭頸部の画像診断-最新知見と将来展望-】総論　画像診断技術の進歩　外視鏡画像の最新知見 JOHNS. 2024.02; 40(2); 163-168

7. 伊藤 卓, 本田 圭司, 堤 剛. 耳科学側頭骨外科の挑戦　側頭骨手術ナビ/Template Guided Surgery および Hologram Assisted Surgery への展開 頭頸部外科. 2024.02; 33(3); 287-291

8. 堤 剛. めまいについての最近の話題　成人 · 小児　めまいのしくみ　前庭性片頭痛と起立性調節障害を中心に TMA: 医師と東京都医師会を結ぶ会報誌. 2024.01; 77(1); 24-32

[講演 · 口頭発表等]

1. Mohri Kaori, Fujikawa Taro, Wasano Koichiro, Sawada Mitsutaka, Kawashima Yoshiyuki, Ito Taku, Tsutsumi Takeshi.　炎症性腸疾患患者における難聴の予後因子 (Prognostic Factors of Hearing Loss in Patients with Inflammatory Bowel Diseases). 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

2. Mohri Kaori, Fujikawa Taro, Wasano Koichiro, Sawada Mitsutaka, Kawashima Yoshiyuki, Ito Taku, Tsutsumi Takeshi.　炎症性腸疾患患者における難聴の予後因子 (Prognostic Factors of Hearing Loss in Patients with Inflammatory Bowel Diseases). 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

1. 藤川 太郎, 川島 慶之, 伊藤 卓, 森田 真也, 白馬 伸洋, 堤 剛. 3 テスラ MRI による OMAAV の耳管所見の評価. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2024.10.01

2. 竹田 貴策, 溝口 由丸, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 西尾 綾子, 本田 圭司, 堤 剛. VR ヘッドセット型眼球運動検査装置を用いた卵形嚢機能の評価. Equilibrium Research 2024.10.01

3. 伊藤 卓, 渡邊 浩基, 堤 剛. めまい基礎研究の最前線　SLC26A4 遺伝子とめまいの基礎研究　マウスモデルからの洞察. Equilibrium Research 2024.10.01

4. 溝口 由丸, 伊藤 卓, 本田 圭司, 山崎 あやめ, 堤 剛. セマンティックセグメンテーションによる側頭骨 CT からの臓器 3D モデル作成　2D 法と 3D 法の比較検討. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2024.10.01

5. 本田 圭司, 竹田 貴策, 西尾 綾子, 山崎 あやめ, 青木 夏姫, 溝口 由丸, 堤 剛. 中耳加圧治療後に内リンパ嚢開放術を施行したメニエール病 · 遅発性内リンパ水腫症例の検討. Equilibrium Research 2024.10.01

6. 青木 夏姫, 家坂 辰弥, 竹田 貴策, 本田 圭司, 溝口 由丸, 堤 剛. 健常超高齢者の前庭機能についての検討. Equilibrium Research 2024.10.01

7. 堤 剛, 竹田 貴策, 本田 圭司, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 伊藤 卓, 川島 慶之. 外耳道癌への放射線照射に関連した頭蓋内合併症について. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2024.10.01

8. 伊藤 卓, 堤 剛.　外視鏡手術における術中 XR サポートシステムの展開.　日本コンピュータ外科学会誌 2024.10.01

9. 伊藤 卓, 竹田 貴策, 大久保 航太, 本田 圭司, 山崎 あやめ, 溝口 由丸, 堤 剛. 拡張現実技術を活用した人工内耳手術における 3D ホログラムナビゲーションの効果　NASA-TLX を用いた評価. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2024.10.01

10. 本田 圭司, 川島 慶之, 倉田 奈都子, 伊藤 卓, 西尾 綾子, 竹田 貴策, 青木 夏姫, 堤 剛. 第 8 脳神経症状が遺残/遷延した耳帯状疱疹 6 症例の慢性期における内耳造影 MRI 所見. 日本耳科学会総会 · 学術講演会抄録集 2024.10.01

11. 溝口 由丸, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 竹田 貴策, 本田 圭司, 西尾 綾子, 堤 剛. 遅発性内リンパ水腫におけるめまいの患側決定因子. Equilibrium Research 2024.10.01

12. 山本 桂, 堤 剛. 一側性重度難聴患者の構造変化から代償へ　Deformation based morphometry(DBM) 解析. Audiology Japan 2024.09.01

13. 川崎 秀和, 伊藤 卓, 堤 剛. 医学教育におけるメタバース活用の学習効果検証. 耳鼻咽喉科臨床 補冊 2024.06.01

14. 堤 剛. 他科から学ぶ外視鏡手術の価値　側頭骨外科手術における外視鏡の有用性. 日本外科系連合学会誌 2024.05.01

15. 堤 剛. 他科から学ぶ外視鏡手術の価値　側頭骨外科手術における外視鏡の有用性. 日本外科系連合学会誌 2024.05.01

16. 本庄 需, 河合 優一, 小谷 亮祐, 堤 剛, 鈴木 雅明. 声門下狭窄を伴いレーザー治療を行った声門下上皮内癌の一例. 日本気管食道科学会会報 2024.04.01

17. 尾形 麻斗, 川島 慶之, 藤川 太郎, 伊藤 卓, 本田 圭司, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 竹田 貴策, 堤 剛. 4K-3D 外視鏡システム ORBEYE を用いた Heads-up Cochlear Implant Surgery. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

18. 堤 剛, 伊藤 卓, 川島 慶之, 大野 十央, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. COVID-19 感染拡大の外耳道癌症例受診行動への影響. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

19. 藤川 太郎, 伊藤 卓, 白馬 伸洋, 堤 剛. GSTT1 と NRF2 の遺伝子多型はシスプラチン内耳毒性の感受性を亢進させる. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

20. 竹田 貴策, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 近藤 景介, 西尾 綾子, 本田 圭司, 堤 剛. Virtual Reality ヘッドセット型眼球運動検査装置を用いた HT-SVV の評価. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

21. 本田 圭司, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 竹田 貴策, 近藤 景介, 西尾 綾子, 堤 剛. VR ヘッドセット型眼球運動検査機器を用いた vHIT　機器特性を考慮した検査の留意点. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

22. 渡邊 浩基, 川島 慶之, 家坂 辰弥, 本田 圭司, 鈴木 康弘, 堤 剛. 内視鏡下 Fat-Plug Myringoplasty 施行例の患者背景と手術成績に関する検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

23. 菅原 康平, 川島 慶之, 本田 圭司, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 外耳道癌術後症例の経過観察における画像検査の頻度と期間について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

24. 西尾 綾子, 川島 慶之, 竹田 貴策, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 倉田 奈都子, 山本 桂, 丸山 絢子, 堤 剛. 脳表ヘモジデリン沈着症例の長期的な聴力推移と人工内耳装用効果. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

25. 倉田 奈都子, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 山本 桂, 堤 剛. 迷路内神経鞘腫 12 症例の長期的な聴力経過. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

26. 尾形 麻斗, 川島 慶之, 藤川 太郎, 伊藤 卓, 本田 圭司, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 竹田 貴策, 堤 剛. 4K-3D 外視鏡システム ORBEYE を用いた Heads-up Cochlear Implant Surgery. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

27. 堤 剛, 伊藤 卓, 川島 慶之, 大野 十央, 有泉 陽介, 朝蔭 孝宏. COVID-19 感染拡大の外耳道癌症例受診行動への影響. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

28. 藤川 太郎, 伊藤 卓, 白馬 伸洋, 堤 剛. GSTT1 と NRF2 の遺伝子多型はシスプラチン内耳毒性の感受性を亢進させる. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

29. 竹田 貴策, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 近藤 景介, 西尾 綾子, 本田 圭司, 堤 剛. Virtual Reality ヘッドセット型眼球運動検査装置を用いた HT-SVV の評価. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

30. 本田 圭司, 青木 夏姫, 山崎 あやめ, 竹田 貴策, 近藤 景介, 西尾 綾子, 堤 剛. VR ヘッドセット型眼球運動検査機器を用いた vHIT　機器特性を考慮した検査の留意点. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

31. 渡邊 浩基, 川島 慶之, 家坂 辰弥, 本田 圭司, 鈴木 康弘, 堤 剛. 内視鏡下 Fat-Plug Myringoplasty 施行例の患者背景と手術成績に関する検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

32. 本庄 需, 河合 優一, 小谷 亮祐, 堤 剛, 鈴木 雅明. 声門下狭窄を伴いレーザー治療を行った声門下上皮内癌の一例. 日本気管食道科学会会報 2024.04.01

33. 菅原 康平, 川島 慶之, 本田 圭司, 朝蔭 孝宏, 堤 剛. 外耳道癌術後症例の経過観察における画像検査の頻度と期間について. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

34. 小野木 真哉, 中島 義和, 伊藤 卓, 堤 剛. 耳鼻咽喉科領域におけるナビゲーションのための側頭骨固定器具の開発. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01

35. 西尾 綾子, 川島 慶之, 竹田 貴策, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 倉田 奈都子, 山本 桂, 丸山 絢子, 堤 剛. 脳表ヘモジデリン沈着症例の長期的な聴力推移と人工内耳装用効果. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

36. 倉田 奈都子, 川島 慶之, 伊藤 卓, 藤川 太郎, 西尾 綾子, 丸山 絢子, 山本 桂, 堤 剛. 迷路内神経鞘腫 12 症例の長期的な聴力経過. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024.04.01

[社会貢献活動]

1. シニアのめまい　原因と治療について, 婦人之友社, 明日の友, 2023 年 05 月 11 日 - 現在
2. 監修）めまい, メディカルノート, 2024 年 09 月 06 日 - 2024 年 09 月 12 日

精神行動医科学分野

Department of Psychiatry and Behavioral Sciences

主任教授 高橋英彦
担当教授（犯罪精神医学）
岡田幸之
准教授 杉原玄一
担当准教授（リエゾン精神医学 · 精神腫瘍学）
竹内崇
准教授（保健管理センター）
安藤久美子
准教授（テニュアトラック）
塩飽裕紀
特任准教授（ジョイントリサーチ講座：サイバー精神医学講座）
治徳大介
講師 藤野純也，高木俊輔
講師（キャリアアップ）
宮島美穂
講師（医学部内講師）
田村赳紘
助教 中村啓信，佐々木祥乃，四手井友紀，丸尾亨司
特任助教（ジョイントリサーチ講座：サイバー精神医学講座）
小林七彩
特任助教 半田剛久
医員 森田麗奈，西岡遥，金澤慧，石田喬士朗，恩田光基，八幡拓実，田畑光一
レジデント 恩田光基，貝沼晃成，松野陽介，磯部琴絵，今田真理子，高橋有樹，中谷圭吾，河村努，横田将輝，中山碩人，薬師神勇人，具雄書，漆谷壮真，土屋大樹，岩見佳織，渡部眞仁
研修登録医 村田 さくら，森智裕，成田友加里，石田喬士朗，濱木周平，池田燎亮，栗原郁奈子，伊吹知真，菅原直也
臨床心理士 村上一徳，用松涼子，草野絢子，服部亜紀，山﨑さゆり，佐藤仁美，菊池杏菜，鈴木遥香，青山幸司，小峰洋子，石田陽菜，中島梓，櫻田千早
精神保健福祉士 金子慈史，門田昇憲，工藤舞，中西真枝，沼口憲子
作業療法士 佐藤優衣
特任研究員 Jongyun PARK，久保 理恵子，赤松和昌
大学院生 · 博士 大矢雅樹，中村啓信，川元茉莉乃，小林七彩，平川和重，金井貴夫，四手井友紀，砂原真理子，田畑光一，丸尾亨司，長尾賢太朗，野口詩織，飯田頼嗣，銭晨鈺，清水正彬，市橋雅典，本川友紀子，豊田早織，小泉友紀暁，奥住祥子，五島隆太，山口湧声，山本祐輝，大竹眞央，上田光人，阿部周平，西村晃萌，栗原優，斎藤誠人，渡邊慎太郎，Ruofei JI，Anping SONG，Adila ABULIZI，Sufang TANG，Yuqi YAN，荒川育子，茨木丈博，岡村麻梨佳，中川渉，久保彩子，尾阪咲弥花，田中裕之，坂東ゆかり，松井仁美

(1) 分野概要

当教室の研究テーマは、統合失調症や気分障害、依存症をはじめとする精神疾患の脳科学に基づく病態研究、客観的な診断法および新規の治療法の開発。および、客観的 · 科学的手法やエビデンスに基づいた心理社会学的治療法の開発である。fMRI や核医学的検査法などを用いて精神疾患の脳を調べ、それを様々な手法で解析していくことで病態を明らかとしていく試みを行うとともに、ニューロフィードバックを用いて精神疾患を治療していく研

究も行っている。さらに、機械学習や計算論的精神医学の手法を用いて大量の脳データを処理していき新しい発見につなげていくことやモデリングを行って病態を予想していくことにも挑戦している。また、臨床から生まれる日常的な疑問を解決していくアプローチでの研究立案も積極的に行なう。

(2) 研究活動

1）生物学的精神医学研究
(i) 精神神経疾患の病因 · 病態の解明に向けた分子生物学的研究：
患者 DNA、血清、髄液、死後脳などから精神疾患に関連した病態を検索し、それらを精神疾患の動物モデルを用いて、分子レベル · 神経細胞機能レベル · 行動レベルで、実際に病態に関連するかを明らかにする、トランスレーショナル · リバーストランスレーショナル研究を行っている。
(ii) 精神神経疾患の睡眠研究：
独自に開発した睡眠ポリグラフィー自動解析装置を用いた研究、fMRI を用いた睡眠研究を行っている。
(iii) 精神神経疾患の脳画像研究：
人工知能技術も積極的に取り入れ、精神疾患の病態解明、サブタイプの同定、治療反応性予測のため MRI や PET を用いて脳構造、脳機能、分子イメージング研究を行う。
(iv) 電気けいれん療法（ECT）に関する多施設共同による後方視観察研究：
日本総合病院精神医学会の認定する多施設の「ECT 研修施設」から実績報告として提出される ECT に関する情報を後方視的に調査、解析する観察研究である。わが国の精神科臨床において ECT は長い歴史があるにもかかわらず、実臨床における ECT の実施状況がなかなか明確にされていない問題があったが、本研究によって一定の実績のある全国の医療施設における ECT の実態を明らかにすることができる。

2）精神病理学的研究
精神障害について現象学的、人間学的、言語論的方法等によって心理学的側面から本態の解明に当たり、同時に精神療法的アプローチを行っている。また精神医学の基本概念の検討及び今日の課題である精神障害の分類と診断の基礎づけも試みている。対象とする主要な精神障害は統合失調症、躁うつ病のいわゆる内因性精神病であるが、更に、神経症、現在関心をひいている境界例などについても精神分析的指向の研究および精神療法が行われている。

3）リエゾン精神医学 · 精神腫瘍学に関する研究
(i) リエゾン精神医学領域：
歯学部附属病院と協働して、術後せん妄の予防に関する研究を行っている。また、他施設との協働で、身体科に入院している患者を対象としたせん妄の予防研究も行っている。今後は、周産期メンタルヘルスに関する研究を行う予定である。
(ii) 精神腫瘍学領域：
がんの疾病概念は、子どもが本人や家族のがん罹患を受容し適応する過程で重要な要素である。そこで、がんの疾患概念の形成に影響があると考えられる小中学校の教科書の分析し、それに基づいて精神腫瘍学の視点から学校教育を補完する親向けの家庭用がん教育教材を開発し，その効果を検証する研究を進めている。

4）司法精神医学的研究
犯罪精神医学をはじめとする司法精神医学の領域の研究を行っている。たとえば、刑事責任能力判断のための公正な精神鑑定の方法論に関する研究、心神喪失者等医療観察法における治療の効果検証研究、司法精神医療におけるリスク · アセスメント、リスク · マネジメントの手法の開発研究、成年後見制度における鑑定のための行為能力の評価方法の開発研究など多岐にわたる研究を進めている。

5）サイバー精神医学に関する研究
ゲーム行動症、スマホ · ネット依存症といった行動嗜癖に関する研究を、KDDI 株式会社 · 株式会社 KDDI 総合研究所と共同で行っている。ゲーム行動症やスマホ · ネット依存症などの行動嗜癖患者に対して、ログアプリに基づく行動解析を行い、行動ログを医療情報と比較することで行動嗜癖に関する病態解明を進めている。さらにこれらの知見をもとに、ゲーム行動症患者の診断支援および治療支援アプリとしての実用化を目指した臨床研究を進めている。

(3) 教育活動

義務化された 2 年間の臨床研修の後、後期研修では、神経精神科専門医としての知識および臨床経験を積むとともに、精神保健指定医の資格を得るために主に学内及び学外の関連施設で研修を行う。卒前教育については、自主的に問題を解決する能力を高め神経精神医学に対する学生の主体的な学習姿勢を引き出すため、クリニカルク

ラークシップに重点を置いており、その準備段階として、系統的な講義を行っている。

(4) 教育方針

卒後研修の前期 2 年間は、精神神経疾患に生物—心理—社会—倫理的側面からアプローチするために必要となる基本的な検査法 · 診断技術や、精神療法 · 薬物療法などの治療法、実際の臨床に関わる法律の理解などを総合的に修得することを目的としている。

(5) 臨床活動および学外活動

当科の外来新患数は、ICD-10 分類では F3「気分障害」が最も多く、約 3 割を占める。ついで、F4「神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害」、F2「統合失調症、分裂病型障害および妄想性障害」と続く。また、他科入院中の患者に対するコンサルテーシヨン · リエゾン精神医療にも取り組んでいる。認知症、児童思春期特有の障害、物質依存、集中的精神療法の適応のある神経症などに対しては、より専門性の高い関連の専門施設への紹介が行われることも多い。一方、入院患者では、総合病院精神科および教育 · 研修期間としてのニーズに対応して、F2 が比較的多くなり、ついで F4、F3 の順となっており、その他てんかんや認知症などの神経疾患、睡眠リズム障害の診断や治療を行っている。治療は、薬物療法を中心として、入院患者に対する mECT(全身麻酔下における電気けいれん療法)、入院 · 外来あるいはデイケアセンターにおける個人 · 集団精神療法などを積極的に導入しており、地域の社会復帰施設とも密接に連携しながら進めている。 デイケアは入院と外来の移行的なプロセスとして位置づけられ、治療チームは医師 1 名、看護師 2 名，精神保健福祉士あるいは臨床心理士 1 名から構成される。デイケアの対象となる疾患は、統合失調症、うつ病、双極性障害、適応障害、パーソナリティー障害など幅広い。治療目標はメンバーによって多様であるが、治療チームは各メンバーにあわせて異なる枠組みのケアーを提供している。当科のデイケアでは、グループにおける対人関係が治療的効果を生む側面を重視しており、その経験から、人と交流し社会で快適に生活していく力がついて行くようプログラムを工夫した上、働きかけと支援を行っている。

(6) 臨床上の特色

難治性統合失調症に対する治療薬であるクロザピンによる治療を積極的に取り組んでいる。ネット依存外来を開き、患者本人及び家族への支援を行っている。本学の特色でもある歯科との連携により、口腔内の疼痛や異常感覚を訴える患者の診療にも携わっている。てんかんと睡眠領域両者の専門医を取得した医師がおりこの境界領域で高いレベルでの診療を行なっている。また、精神科リエゾンチームの活動として、外科病棟を中心にせん妄の予防活動、救急現場における自殺企図患者に対する早期介入、周産期スタッフとの連携による妊産婦のメンタルヘルスの支援にも関わり、他科との連携による活動が増えている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Nobuyuki Nosaka, Ayako Noguchi, Takashi Takeuchi, Kenji Wakabayashi. Long-term prevalence of PTSD symptom in family members of severe COVID-19 patients: a serial follow-up study extending to 18 months after ICU discharge Journal of intensive care. 2024.12; 12(53);

2. Tanaka SC, Kasai K, Okamoto Y, Koike S, Hayashi T, Yamashita A, Yamashita O, Johnstone T, Pestilli F, Doya K, Okada G, Shinzato H, Itai E, Takahara Y, Takamiya A, Nakamura M, Itahashi T, Aoki R, Koizumi Y, Shimizu M, Miyata J, Son S, Aki M, Okada N, Morita S, Sawamoto N, Abe M, Oi Y, Sajima K, Kamagata K, Hirose M, Aoshima Y, Hamatani S, Nohara N, Funaba M, Noda T, Inoue K, Hirano J, Mimura M, Takahashi H, Hattori N, Sekiguchi A, Kawato M, Hanakawa T. The status of MRI databases across the world focused on psychiatric and neurological disorders. Psychiatry and clinical neurosciences. 2024.10; 78(10); 563-579

3. Takashi Itahashi, Ayumu Yamashita, Yuji Takahara, Noriaki Yahata, Yuta Y Aoki, Junya Fujino, Yujiro Yoshihara, Motoaki Nakamura, Ryuta Aoki, Tsukasa Okimura, Haruhisa Ohta, Yuki Sakai, Masahiro Takamura, Naho Ichikawa, Go Okada, Naohiro Okada, Kiyoto Kasai, Saori C Tanaka, Hiroshi Imamizu, Nobumasa Kato, Yasumasa Okamoto, Hidehiko Takahashi, Mitsuo Kawato, Okito Yamashita, Ryu-Ichiro Hashimoto. Generalizable and transportable resting-state neural signatures characterized by functional networks, neurotransmitters, and clinical symptoms in autism. Mol Psychiatry. 2024.09;

4. Hatta K, Kishi Y, Wada K, Takeuchi T, Taira T, Uemura K, Ogawa A, Takahashi K, Sato A, Shirakawa M, Herring WJ, Arano I, Suvorexant 085 Study Group. Suvorexant for Reduction of Delirium in Older Adults After Hospitalization: A Randomized Clinical Trial JAMA Netw Open. 2024.08; 7(8); e2427691

5. Shoko Okuzumi, Shisei Tei, Takashi Itahashi, Yuta Y Aoki, Ryu-Ichiro Hashimoto, Motoaki Nakamura, Hidehiko Takahashi, Haruhisa Ohta, Junya Fujino. Roles of empathy in altruistic cooperation in adults with and without autism spectrum disorder. Heliyon. 2024.08; 10(16); e36255

6. Hayashi R, Kaji S, Matsumoto Y, Nishida S, Nishimoto S, Takahashi H. Homogenization of word relationships in schizophrenia: Topological analysis of cortical semantic representations. Psychiatry and clinical neurosciences. 2024.08;

7. Tani Y, Kawahara T, Sugihara G, Machida M, Amagasa S, Murayama H, Inoue S, Fujiwara T, Shobugawa Y. Childhood Book Availability Helps to Preserve Cognitive Function in Older Adults With Low Education: Results From the NEIGE Study. The journals of gerontology. Series B, Psychological sciences and social sciences. 2024.06; 79(6);

8. Fujimoto Y, Fujino J, Matsuyoshi D, Jitoku D, Kobayashi N, Qian C, Okuzumi S, Tei S, Tamura T, Ueno T, Yamada M, Takahashi H. Neural responses to gaming content on social media in young adults. Behavioural brain research. 2024.04; 467; 115004

9. Tamura T, Takagi S, Hayakawa A, Oyama J, Fujino J, Shiwaku H, Takahashi H, Sugihara G. Case report: Recurring and treatment-resistant depression in acquired hepatocerebral degeneration due to a congenital portosystemic shunt Frontiers in Psychiatry. 2024.04; 15; 1402695

10. Hiroki Tamon, Junya Fujino, Takashi Itahashi, Lennart Frahm, Valeria Parlatini, Yuta Y Aoki, Francisco Xavier Castellanos, Simon B Eickhoff, Samuele Cortese. Shared and Specific Neural Correlates of Attention Deficit Hyperactivity Disorder and Autism Spectrum Disorder: A Meta-Analysis of 243 Task-Based Functional MRI Studies. Am J Psychiatry. 2024.04; appiajp20230270

11. Yusei Yamaguchi, Shunsuke Takagi, Hidehiko Takahashi, Genichi Sugihara. Effectiveness of vortioxetine for winter depression in bipolar disorder: A case report Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2024.03;

12. Matsui H, Tamura T, Okamura T, Sugihara G, Furuta Ko, Omori Y, Kameyama M, Awata S, Takeuchi T, Takahashi H. Indicative biomarkers of Lewy body disease with oral sensory hallucinations in the older people Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2024.03; 3(1); e171

13. Nanase Kobayashi, Daisuke Jitoku, Ryoko Mochimatsu, Toshitaka Hamamura, Masaru Honjo, Shunsuke Takagi, Genichi Sugihara, Hidehiko Takahashi. Treatment readiness and prognosis for problematic smartphone use: Evaluation of the Stages of Change, Readiness, and Treatment Eagerness Scale (SOCRATES) and log data Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2024.03;

14. Tabata K, Son S, Miyata J, Toriumi K, Miyashita M, Suzuki K, Itokawa M, Takahashi H, Murai T, Arai M. Association of homocysteine with white matter dysconnectivity in schizophrenia. Schizophrenia (Heidelberg, Germany). 2024.03; 10(1); 39

15. Comprehensive evaluation of pipelines for diagnostic biomarkers of major depressive disorder using multi-site resting-state fMRI datasets 2024.03;

16. Amano, K; Koshimoto, S; Arakawa, S; Oyamada, S; Ishiki, H; Morita, T; Takeuchi, T; Satomi, E; Mori, N. Factors associated with multimodal care practices for cancer cachexia among registered dietitians SUPPORTIVE CARE IN CANCER. 2024.02; 32(4); 213

17. Miyata J, Sasamoto A, Ezaki T, Isobe M, Kochiyama T, Masuda N, Mori Y, Sakai Y, Sawamoto N, Tei S, Ubukata S, Aso T, Murai T, Takahashi H. Associations of conservatism and jumping to conclusions biases with aberrant salience and default mode network. Psychiatry and clinical neurosciences. 2024.02; 78(5); 322-331

18. Jitoku D, Kobayashi N, Fujimoto Y, Qian C, Okuzumi S, Tei S, Matsuyoshi D, Tamura T, Takahashi H, Ueno T, Yamada M, Fujino J. Explicit and implicit effects of gaming content on social media on the behavior of young adults. Frontiers in psychology. 2024; 15; 1332462

19. Maruo T, Takagi S, Uchida S, Takahashi H, Sugihara G. Temporal patterns of sleep latency in central hypersomnia and attention deficit hyperactivity disorder: a cluster analysis exploration using Multiple Sleep Latency Test. Frontiers in psychiatry. 2024; 15; 1361140
20. Yamaguchi H, Sugihara G, Shimizu M, Yamashita Y. Generative artificial intelligence model for simulating structural brain changes in schizophrenia. Frontiers in psychiatry. 2024; 15; 1437075

1. 竹内　崇. 双極性障害 · 産褥精神病 ペリネイタルケア. 2024.12; 43(12); 24-29
2. 竹内　崇. 周産期メンタルヘルス　～妊産婦の自殺を防ぐために必要なこと 女性心身医学. 2024.11; 29(2); 178-181
3. 岡田 幸之. 真実を探究する: 犯罪学　”真実”と精神鑑定 犯罪学雑誌. 2024.11; 90(2); 37-39
4. 田村 赳紘, 金子 慈史. 【多様な精神科病棟運営の現状と工夫】収益確保という命題への取り組み 精神科入院と収益 総合病院の視点から 臨床精神医学. 2024.10; 53(10); 1211-1218
5. 林田悠里、四手井綱則、野口優輔、新井佳奈、伊藤一之、杉江　学、森丘千夏子、不殿絢子、宮坂尚幸、竹内　崇、森尾友宏. メンタルヘルス支援を要した妊産婦と出生時の短期予後の検討 周産期医学. 2024.09; 54(9); 1312-1316
6. 金子 慈史, 竹内 崇. 【周産期メンタルヘルスを深掘り!】精神科 · 多職種との連携　精神疾患合併妊娠の管理にかかわるソーシャルワーカーの役割 産科と婦人科. 2024.06; 91(6); 703-708
7. 岡田 幸之. 大学における犯罪とメンタルヘルス　学生を加害者、被害者にしないために、そしてなってしまったときのために 大学のメンタルヘルス. 2024.06; 6; 17-24
8. 竹内　崇. 学会としてできることは何か 総合病院精神医学. 2024.05; 36(2); 121-123
9. 宮島 美穂, 竹内 崇. 女性と精神、その関係を学ぼう　妊娠 · 出産とうつ病 · 自殺 性の健康. 2024.03; 23(1); 11-19
10. 谷 友香子, 藤原 武男, 杉原 玄一, 花里 真道, 鈴木 規道, 町田 征己, 天笠 志保, 村山 洋史, 井上 茂, 菖蒲川 由郷. 近隣環境の美しさは高齢者のどの脳領域と関連するか? Journal of Epidemiology. 2024.01; 34(Suppl.); 107

1. Computational Mechanisms of Neuroimaging Biomarkers Uncovered by Multicenter Resting-State fMRI Connectivity Variation Profile 2024.04;
2. Generalisable functional imaging classifiers of schizophrenia have multifunctionality as trait, state, and staging biomarkers 2024.01;

[書籍等出版物]

1. 永井良三総監修、笠井清登　他編集、竹内　崇.　精神科研修ノート.　診断と治療社,　2024.12　(ISBN : 978-4-7878-2652-7)
2. 竹内　崇. サイコネフロロジー診療ガイド. メディカ出版, 2024.04 (ISBN : 978-4-8404-8476-3)

[総説]

1. 竹内　崇. 透析患者の薬、どう使いわける？ ／不眠症治療薬 臨牀透析. 2024.10; 40(11); 85-91
2. 竹内　崇. 腎不全 · 透析患者における精神科薬物療法 臨床精神薬理. 2024.08; 27(8); 841-847
3. 竹内　崇. 不安の「見える化」 日本サイコネフロロジー学会雑誌. 2024.07; 2; 6-9
4. 竹内　崇. 東京医科歯科大学の周産期リエゾンの取り組み 臨床精神医学. 2024.05; 53(5); 659-663
5. 竹内　崇. 透析患者の精神疾患ー統合失調症、双極性障害ー 腎と透析. 2024.03; 96(3); 297-300
6. 宮島美穂、竹内崇. 妊娠 · 出産とうつ病 · 自殺 性の健康 = Journal of sexual health. 2024.03; 23(1); 11-19
7. 竹内　崇. 周産期の精神障害　精神科と産科との協働 医学のあゆみ. 2024.02; 288(7); 594-595
8. 竹内　崇. 女性のライフサイクルと精神疾患 精神医学. 2024.01; 66(1); 32-36

[講演 · 口頭発表等]

1. Mao Otake , Kana Himuro, Chiyo Koya, Masako Watanabe , Miho Miyajima. A Wearable In-ear EEG for Epilepsy Monitoring. AES 2024 Annual Meeting 2024.12
2. Shogo Mito, Miho Miyajima, Hirofumi Tomioka, Hitomi Sato, Takashi Takeuchi, Hitoshi Muto, Yuji Kabasawa, Hiroyuki Harada, Kana Eguchi, Shoto Kato,Manabu Kano. Delirium Prediction Based On Preoperative Electrocardiogram and Electroencephalogram. APSIPA ASC 2024 2024.12 Macau, China

1. 竹内　崇. 周産期メンタルヘルス～妊産婦支援と医療機関連携の重要性～. 令和 6 年度あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト関係機関ネットワーク連絡会議 2024.12.09 足立区役所
2. 竹内　崇. 医療者支援の現状と課題. 第 37 回日本総合病院精神医学会総会 2024.11.30 熊本
3. 竹内　崇. 小児 · 周産期 · 精神科充実体制加算の持つ意味とは～周産期医療の立場から. 第 37 回日本総合病院精神医学会総会 2024.11.29 熊本
4. 三浦 渉, 大内 雄太, 大橋 綾子, 押淵 英弘, 小林 清香, 高野 公輔, 竹内 崇, 田島 えみ, 中村 菜々子, 西村 勝治. 透析スタッフのうつに関する知識とケアに対する自己効力感の関連. 総合病院精神医学 2024.11.01
5. 竹内　崇. 周産期メンタルヘルスと支援について. 令和 6 年度保健師 · 助産師合同研究会 2024.10.31 東京
6. 竹内 崇. 周産期メンタルヘルスの諸問題　精神科医の立場から. 日本女性医学学会雑誌 2024.10.01
7. 竹内　崇. 妊産婦のメンタルヘルス. 第 38 回日本母乳哺育学会学術集会 2024.09.15 東京
8. 宮島美穂. ウェアラブルデバイス開発の現状と展望. 日本てんかん学会学術集会　シンポジウム 2 2024.09.12 福岡
9. 竹内　崇. 女性のライフサイクルと精神疾患. 第 52 回日本女性心身医学会学術集会 2024.09.01 東京
10. 野坂 宜之, 野口 綾子, 溝江 亜紀子, 竹内 崇, 若林 健二. PTSD 関連症状陽性の重症 COVID-19 患者家族の割合は退室後遠隔期も減少しない　遠隔期フォローアップの必要性. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01
11. 竹内　崇. 周産期メンタルヘルス～精神科がいないときに産科スタッフはどう対応すべきか～. 第 5 回埼玉東部周産期メンタルヘルス研修会 2024.08.31 越谷市立病院
12. 竹田 康二, 吉田 透, 根本 信幸, 円谷 義孝, 鳥越 隆弘, 吉田 英記, 橋本 千晴, 佐藤 光, 矢野 絵梨佳, 渡部 理恵, 相樂 昌寿, 佐々木 太士, 大成 晃, 佐々木 祥乃, 茨木 丈博, 関口 陽介, 河野 稔明, 岡田 幸之, 橘高 一. 福島県における地域司法精神医療提供体制構築に向けた取り組み. 日本社会精神医学会雑誌 2024.08.01
13. 竹内　崇. リエゾン精神医学. 第 35 回日本サイコネフロロジー学会学術集会 2024.07.27 郡山
14. 竹内　崇. 臓器移植と緩和ケアのリエゾン精神医学　指定発言. 第 120 回日本精神神経学会学術総会 2024.06.21 札幌
15. 竹内　崇. 統合失調症合併妊産婦の支援. 第 120 回日本精神神経学会学術総会 2024.06.20 札幌
16. 八田 耕太郎, 岸 泰宏, 和田 健, 竹内 崇, 平 俊浩, 上村 恵一, 小川 朝生, 高橋 香苗, 佐藤 麻子, 白川 将義, Joseph Herring W., 新野 伊知郎. 現場を変えうるせん妄研究最前線　スボレキサントのせん妄予防に関する多施設共同第 III 相プラセボ対照二重盲検ランダム化比較試験の結果報告. 精神神経学雑誌 2024.06.01
17. 岡村 麻梨佳, 宮本 悦子, 岡田 幸之, 奥村 雄介. 摂食障害を有する窃盗服役者における幼少期の逆境体験 (ACE) と摂食障害の重症度. 精神神経学雑誌 2024.06.01
18. 市倉 加奈子, 千葉 宏毅, 佐藤 崇, 間中 博也, 深瀬 裕子, 松島 英介, 竹内 崇, 田ヶ谷 浩邦. 終末期の意思決定支援に対する医療者の困難　計量テキスト分析によるがんと循環器疾患の比較. Palliative Care Research 2024.06.01
19. 腰本 さお り, 城 田 直 子, 西村 美 帆子, 天 野 晃滋, 宮島美穂, 竹内崇. 緩和ケアに携わる管理栄養士の業務内容と専門性の検討. 第 9 回日本がんサポーティブケア学会学術集会 2024.05 埼玉
20. 竹内　崇. 医療者支援の現状と課題. 日本総合病院精神医学会 · 医療者支援委員会　NPO 法人女性心理臨床ラボ共催オンライン研修会 2024.02.23 オンライン
21. 竹内　崇. 周産期メンタルヘルス　～妊産婦の自殺を防ぐために必要なこと～. 第 37 回日本女性心身医学会研修会 2024.02.03 オンライン

22. 竹内　崇. 周産期メンタルヘルスにおける理想的な多職種 · 多機関連携とは. 第 25 回日精診チーム医療 · 地域リハビリテーション研修会 2024.02.02 福島

23. 竹内　崇. 妊産婦のメンタルヘルス〜この 10 年の軌跡と今後の展望〜. 大阪府妊産婦こころネット 2024 年度研修会 2024.01.25 大阪

24. 谷 友香子, 藤原 武男, 杉原 玄一, 花里 真道, 鈴木 規道, 町田 征己, 天笠 志保, 村山 洋史, 井上 茂, 菖蒲川 由郷. 近隣環境の美しさは高齢者のどの脳領域と関連するか?. Journal of Epidemiology 2024.01.01

[その他業績]

1. 妄想の形成に関わる認知神経メカニズムを解明 〜妄想の新しい治療法の開発に期待〜, 2024 年 03 月
-

2. 世界初、てんかん発作直前に知らせるアプリ　ＡＩ予知、名大など 2026 年度実用化目指す, 2024 年 06 月
中日新聞 2024 年 6 月 8 日記事 https://www.chunichi.co.jp/article/910040

[社会貢献活動]

1. てんかんウェアラブル, 2023 年 - 現在

2. てんかん専門クリニックでの地域医療支援, 2023 年 - 現在

3. 東日本大震災の被災地診療支援, 2023 年 - 現在

4. 東京都措置鑑定, 2023 年 - 現在

5. 中高生からの超絵解本『スマホ脳と運動脳』の監修について, ニュートンプレス, 超絵解本『スマホ脳と運動脳』, 2023 年 08 月 23 日 - 現在

6. 別冊『心の病（仮)』の校閲について, ニュートンプレス, 別冊『心の病（仮)』 旧版『精神の病気　増補第 2 版』の改訂版）, 2023 年 09 月 07 日 - 現在

7. ジョイントリサーチ講座の開設について, KDDI 総合研究所, KDDI 総合研究所イベントにて, 2023 年 09 月 28 日 - 現在

8. ポジティブサイコロジーについて, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 12 月 06 日 - 2024 年 01 月 05 日

9. 周産期のメンタルヘルス　〜妊産婦支援と医療機関連携の重要性〜, 足立区衛生部保健予防課, あだちスマイルママ＆エンジェルプロジェクト関係機関ネットワーク連絡会議, 足立区千住保健センター, 2024 年 01 月 26 日

10. 周産期のメンタルヘルス, 杉並区高円寺保健センター, すこやか赤ちゃん訪問事業連絡会, 杉並区高円寺保健センター, 2024 年 02 月 20 日

11. Topics 発達障害と依存症, 株式会社ニュートンプレス, Newton 別冊『発達障害のすべて（仮)』, 2024 年 04 月 26 日 - 2027 年 07 月

12. 「脳機能結合の情報からギャンブル障害の判別器を開発」について, テレビ朝日, ANN ニュース他、BS、CS、インターネットなど, 2024 年 05 月 02 日 - 2024 年 05 月 06 日

13. 世界初、てんかん発作直前に知らせるアプリ　ＡＩ予知、名大など 2026 年度実用化目指す, 中日新聞, 2024 年 06 月 08 日

14. 患者の容体変化、AI で予測　新興がてんかん発作向け, 日本経済新聞, 2024 年 06 月 08 日

15. てんかん患者をサポートするシステムの紹介, NHK· E テレ, ハートネット TV「フクチッチ てんかん 後編」, 2024 年 06 月 10 日

脳神経機能外科学分野

Department of Neurosurgery

教授　前原 健寿
准教授　田中 洋次
准教授（医療連携支援センター）田村 郁
講師　稲次 基希, 河野 能久
講師（キャリアアップ）原 祥子
助教　清水 一秀, 阿部 大数
特任助教 佐藤 陽人
医員　折原 あすみ, 林 俊彦, 藤野 明日香, 三輪 勇介
レジデント 雨宮 章太郎, 白石 美登里, 小林 優友, 西澤 祐
大学院生 金子 聡, 石和田 宰弘, 伊藤 慧, 黒羽 真砂恵,
平 直記, 山村 俊弘, 荒井 雪花, 山内 崇弘, 澤田 佳奈,
武井 孝麿, Yudanardi Ridwan Rusydi Muhammad

(1) 研究業績

[原著]

1. Taira N, Hara S, Namba A, Tanaka Y, Maehara T. Spatial coefficient of variation of arterial spin labeling magnetic resonance imaging can predict decreased cerebrovascular reactivity measured by acetazolamide challenge single-photon emission tomography. Neuroradiology. 2024.10; 66(10); 1693-1703

2. Hara Shoko, Hori Masaaki, Kamagata Koji, Andica Christina, Inaji Motoki, Tanaka Yoji, Aoki Shigeki, Nariai Tadashi, Maehara Taketoshi. Increased Parenchymal Free Water May Be Decreased by Revascularization Surgery in Patients with Moyamoya Disease(タイトル和訳中) Magnetic Resonance in Medical Sciences. 2024.10; 23(4); 405-416

3. Matsuo K, Aihara H, Suehiro E, Shiomi N, Yatsushige H, Hirota S, Hasegawa S, Karibe H, Miyata A, Kawakita K, Haji K, Yokobori S, Inaji M, Maeda T, Onuki T, Oshio K, Komoribayashi N, Suzuki M. Time-Dependent Association of Preinjury Anticoagulation on Traumatic Brain Injury-Induced Coagulopathy: A Retrospective, Multicenter Cohort Study. Neurosurgery. 2024.10;

4. Sato A, Tanaka Y, Ishiwada T, Arai Y, Takei T, Maehara T. Comparative Analysis of Patients Undergoing Microvascular Decompression for Trigeminal Neuralgia Caused by Solely Arterial or Solely Venous Compression. World neurosurgery. 2024.09; 189; e1034-e1039

5. Sashida R, Suehiro E, Tanaka T, Shiomi N, Yatsushige H, Hirota S, Hasegawa S, Karibe H, Miyata A, Kawakita K, Haji K, Aihara H, Yokobori S, Inaji M, Maeda T, Onuki T, Oshio K, Komoribayashi N, Suzuki M, Shiomi T, Matsuno A. Effects of dual antiplatelet therapy (DAPT) compared to single antiplatelet therapy (SAPT) in patients with traumatic brain injury. Clinical neurology and neurosurgery. 2024.09; 244; 108418

6. Kei Ito, Shoko Hara, Motoki Inaji, Junshi Cho, Masanori Murakami, Tetsuya Yamada, Tadashi Nariai, Takethosi Maehara. Routine screening serum tests to detect underlying thyroid and autoimmune diseases in patients with moyamoya disease. Clin Neurol Neurosurg. 2024.08; 243; 108403

7. Tanaka Y, Abe D, Inaji M, Hara S, Sakai R, Maehara T. Intraoperative Telestration System in Endoscopic Transsphenoidal Surgery Contributes to Improved Surgical Safety and Efficient Surgical Education. World neurosurgery. 2024.07;

8. Shuheng Wen, Yohsuke Makino, Motoki Inaji, Nobutaka Arai, Kana Unuma. Importance of repeated computed tomography on pediatric traumatic acute posterior fossa subdural hematoma: A case study. Leg Med (Tokyo). 2024.06; 70; 102466

9. Yuichi Nagamatsu, Takeshi Isoda, Motoki Inaji, Jun Oyama, Daiki Niizato, Dan Tomomasa, Noriko Mitsuiki, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Intracranial residual lesions following early intensification in a patient with T-cell acute lymphoblastic leukemia: a case report. BMC Pediatr. 2024.05; 24(1); 304

10. Spontaneous occlusion of ruptured microaneurysm formed on postoperative transosseous anastomosis after indirect revascularization in a patient with moyamoya disease. 2024.05; 166(1); 206

11. Fujii M, Yokoyama K, Tanaka Y, Kobayashi D, Tateishi U. A Rare Case of Sphenoid Sinus Hemangioma With Intrasellar and Cavernous Sinus Extension. Cureus. 2024.05; 16(5); e61034

12. Wagatsuma Kei, Ikemoto Kensuke, Inaji Motoki, Kamitaka Yuto, Hara Shoko, Tamura Kaoru, Miwa Kenta, Tsuzura Kaede, Tsuruki Taisei, Miyaji Noriaki, Ishibashi Kenji, Ishii Kenji. 新規 WHO 2021 分類に基づき、神経膠腫グレードに Bayesian penalized likelihood 画像再構成を用いた [11C] メチオニン PET がもたらす効果 (Impact of [11C] methionine PET with Bayesian penalized likelihood reconstruction on glioma grades based on new WHO 2021 classification) Annals of Nuclear Medicine. 2024.05; 38(5); 400-407

13. Decreased diffusivity along the perivascular space and cerebral hemodynamic disturbance in adult moyamoya disease 2024.04; 271678X241245492

14. Yamamura T, Tamura K, Kobayashi D, Inaji M, Toyama Y, Wakimoto H, Kiyokawa J, Hara S, Tanaka Y, Nariai T, Shimizu K, Ishii K, Maehara T. Loss of methylthioadenosine phosphorylase immunoreactivity correlates with poor prognosis and elevated uptake of (11)C-methionine in IDH-mutant astrocytoma. Journal of neuro-oncology. 2024.04; 168(2); 355-365

15. Impact of [11C] methionine PET with Bayesian penalized likelihood reconstruction on glioma grades based on new WHO 2021 classification. 2024.03; 38(5); 400-407

16. Kaneko S, Inaji M, Shimizu K, Orihara A, Hashimoto Fujimoto S, Maehara T. Clinical utility and safety of a trapezoid-shaped electrode placement for evaluating the mesio-basal temporal lobe during epilepsy surgery. Journal of clinical neuroscience : official journal of the Neurosurgical Society of Australasia. 2024.03; 121; 28-33

17. Arai Y, Inaji M, Shimizu K, Kondo S, Hashimoto-Fujimoto S, Kiyokawa J, Kawano Y, Yamamoto S, Maehara T. Long-term efficacy and safety of perampanel as an add-on therapy in patients with epilepsy. Epilepsy research. 2024.02; 200; 107307

18. Suehiro E, Shiomi N, Yatsushige H, Hirota S, Hasegawa S, Karibe H, Miyata A, Kawakita K, Haji K, Aihara H, Yokobori S, Inaji M, Maeda T, Onuki T, Oshio K, Komoribayashi N, Suzuki M. The current status of reversal therapy in Japan for elderly patients with head injury treated with antithrombotic agents: A prospective multicenter observational study. Heliyon. 2024.02; 10(3); e25193

19. Wu X, Yokoyama K, Sumita K, Tanaka Y, Tateishi U. Intraventricular Pleomorphic Xanthoastrocytoma: A Case Report and Systemic Review. Cureus. 2024.01; 16(1); e52510

20. Synergistic Interaction of Thyroid Autoantibodies and Ring Finger Protein 213 Variant in Moyamoya Disease. 2024.01; 64(1); 43-49

21. Thamamongood Thiparpa, Hara Shoko, Akagawa Hiroyuki, Inaji Motoki, Tanaka Yoji, Nariai Tadashi, Maehara Taketoshi. もやもや病における甲状腺自己抗体と Ring finger protein 213 との相乗作用 (Synergistic Interaction of Thyroid Autoantibodies and Ring Finger Protein 213 Variant in Moyamoya Disease) Neurologia medico-chirurgica. 2024.01; 64(1); 43-49

22. Abe D, Inaji M, Hase T, Suehiro E, Shiomi N, Yatsushige H, Hirota S, Hasegawa S, Karibe H, Miyata A, Kawakita K, Haji K, Aihara H, Yokobori S, Maeda T, Onuki T, Oshio K, Komoribayashi N, Suzuki M, Maehara T. A machine learning model to predict neurological deterioration after mild traumatic brain injury in older adults. Frontiers in neurology. 2024; 15; 1502153

23. Masahiro Kishikawa, Atsunobu Tsunoda, Yoji Tanaka, Seiji Kishimoto. Large nasopharyngeal inverted papilloma presenting with rustling tinnitus. Am J Otolaryngol. 35(3); 402-404

1. 木下 朋, 稲次 基希, 佐藤 陽人, 河野 能久, 田中 洋次, 前原 健寿. 微小血管減圧術後の残存 · 再発三叉神経痛に対する桂枝加朮附湯およびブシ末の有用性 日本脳神経漢方医学会誌. 2024.08; 9; 19-24

2. 稲次 基希. 【高次脳機能障害のシームレスな診療にむけて】高次脳機能障害における画像評価 臨床精神医学. 2024.08; 53(8); 965-972

3. 荒井 雪花, 稲次 基希, 清水 一秀, 近藤 静琴, 清川 樹里, 酒井 亮輔, 藤野 明日香, 金 瑛仙, 林 俊彦, 若林 光, 金岡 杏純, 山本 信二, 前原 健寿. 脳卒中後てんかんにおけるペランパネル長期投与の有効性と安全性の検討 脳卒中. 2024.05; 46(3); 217-223

4. Maehara T, Tanaka Y. [Microvascular Decompression Surgery Using Exoscope(ORBEYE)] . No shinkei geka. Neurological surgery. 2024.01; 52(1); 187-195

5. 前原 健寿, 田中 洋次. 【脳神経圧迫症候群のすべて-診断 · 治療 · 手術のポイント】シミュレーション · モニタリング · 外視鏡 · 内視鏡　外視鏡 (ORBEYE) による微小血管減圧術 Neurological Surgery. 2024.01; 52(1); 187-195

1. Stroke and disease progression during long-term follow-up of patients with moyamoya disease older than 50 years 2024.05; 187; e898-e907

[講演 · 口頭発表等]

1. 鈴木 基弘, 高橋 直, 石黒 太郎, 河合 ほなみ, 稲次 基希, 新宅 洋, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. Cell-based assay 法による血清抗 AQP4 抗体陽性で、NMOSD に特徴的な画像所見を呈した脊髄神経膠腫の 54 歳男性例. 神経免疫学 2024.10.01

2. 林 志保里, 稲次 基希, 折原 あすみ, 成相 直, 坂田 宗之, 石井 賢二, 前原 健寿. 18F-FDG PET と 11C-FMZ PET の SPM 解析による内側側頭葉てんかんの焦点側診断困難例. てんかん研究 2024.09.01

3. 稲次 基希, 小林 一太, 折原 あすみ, 前原 健寿. Leksell Frame による SEEG の問題点. てんかん研究 2024.09.01

4. 金岡 杏純, 稲次 基希, 小林 一太, 折原 あすみ, 前原 健寿. SEEG 後に硬膜下電極を再留置した前頭葉てんかんの 2 例. てんかん研究 2024.09.01

5. 前原 健寿, 稲次 基希, 折原 あすみ, 清水 一秀, 橋本 聡華. Wide-band EEG; 新しいてんかんバイオマーカーの実装化のために　てんかん外科術前検査としての wide-band EEG の有用性　硬膜下電極および SEEG の解析. てんかん研究 2024.09.01

6. 金 峰克, 稲次 基希, 前原 健寿. プラズマブレードを用いた VNS パルスジェネレータ交換. てんかん研究 2024.09.01

7. 荒井 雪花, 稲次 基希, 清水 一秀, 近藤 静琴, 橋本 聡華, 清川 樹里, 河野 能久, 山本 信二, 前原 健寿. ペランパネル併用療法の有効性と安全性. てんかん研究 2024.09.01

8. 藤岡 舞, 稲次 基希, 原 恵子, 遠山 悟史, 羅 ことい, 不殿 絢子, 宮坂 尚幸, 前原 健寿. 当院におけるてんかん合併妊娠への取り組み. てんかん研究 2024.09.01

9. 前原 健寿, 稲次 基希, 折原 あすみ, 清水 一秀, 橋本 聡華. Wide-band EEG; 新しいてんかんバイオマーカーの実装化のために　てんかん外科術前検査としての wide-band EEG の有用性　硬膜下電極および SEEG の解析. てんかん研究 2024.09.01

10. 荒井 雪花, 稲次 基希, 清水 一秀, 近藤 静琴, 橋本 聡華, 清川 樹里, 河野 能久, 山本 信二, 前原 健寿. ペランパネル併用療法の有効性と安全性. てんかん研究 2024.09.01

11. 稲次 基希, 高木 俊輔, 宮島 美穂, 原 恵子, 前原 健寿. てんかん臨床と精神 · 心理的諸問題～各科の取り組み～　てんかん外科で留意すべき精神科的課題. てんかん研究 2024.06.01

12. 高橋 直, 鈴木 基弘, 石黒 太郎, 稲次 基希, 國枝 純子, 新宅 洋, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. 血清抗 AQP4 抗体陽性の脊髄長大病変を認めたが脊髄生検で脊髄神経膠腫と診断した 54 歳男性例. 臨床神経学 2024.06.01

13. 石嶋 希美, 原 祥子, 阿部 大数, 金岡 杏純, 稲次 基希, 田中 洋次, 赤川 浩之, 前原 健寿. Twig-like MCA 様の網状血管構造を呈した神経線維腫症 1 型関連の類もやもや病女児. 小児の脳神経 2024.04.01

14. 田村 郁, 山村 俊弘, 古屋 春菜, 新宅 洋, 清水 一秀, 稲次 基希, 田中 洋次, 前原 健寿. WHO2021 脳腫瘍分類に基づく当院の Pediatric-type diffuse glioma の検討. 小児の脳神経 2024.04.01

15. 小野木 真哉, 中島 義和, 石和田 宰弘, 佐藤 陽人, 田中 洋次, 前原 健寿. 三叉神経痛における三叉神経の形態解析. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01

16. 原 祥子, 藤岡 舞, 稲次 基希, 田中 洋次, 前原 健寿. 血管障害　小児もやもや病術後の成人後脳出血に対する治療戦略と課題. 小児の脳神経 2024.04.01

17. 石嶋 希美, 原 祥子, 阿部 大数, 金岡 杏純, 稲次 基希, 田中 洋次, 赤川 浩之, 前原 健寿. Twig-like MCA 様の網状血管構造を呈した神経線維腫症 1 型関連の類もやもや病女児. 小児の脳神経 2024.04.01

18. 田村 郁, 山村 俊弘, 古屋 春菜, 新宅 洋, 清水 一秀, 稲次 基希, 田中 洋次, 前原 健寿. WHO2021 脳腫瘍分類に基づく当院の Pediatric-type diffuse glioma の検討. 小児の脳神経 2024.04.01

19. 原 祥子, 藤岡 舞, 稲次 基希, 田中 洋次, 前原 健寿. 血管障害　小児もやもや病術後の成人後脳出血に対する治療戦略と課題. 小児の脳神経 2024.04.01

20. 田村 郁, 山村 俊弘, 古屋 春菜, 新宅 洋, 清水 一秀, 稲次 基希, 田中 洋次, 前原 健寿. WHO2021 脳腫瘍分類に基づく当院の Pediatric-type diffuse glioma の検討. 小児の脳神経 2024.04.01

21. 阿部 大数, 稲次 基希, 田中 洋次, 唐鎌 淳, 廣田 晋, 玉置 正史, 前原 健寿. 頭部外傷患者に対する AI フィールドトリアージシステムの構築と精度の検証. Neurosurgical Emergency 2024.02.01

22. 近藤 和樹, 佐藤 陽人, 阿部 大数, 稲次 基希, 石井 洋介, 廣田 晋, 唐鎌 淳, 玉置 正史, 早川 隆宣, 前原 健寿. 抗凝固療法中に発症した急性期頭蓋内出血に対する中和剤の使用経験. Neurosurgical Emergency 2024.02.01

23. 阿部 大数, 稲次 基希, 田中 洋次, 唐鎌 淳, 廣田 晋, 玉置 正史, 前原 健寿. 頭部外傷患者に対する AI フィールドトリアージシステムの構築と精度の検証. Neurosurgical Emergency 2024.02.01

[その他業績]

1. 「　成人もやもや病患者における脳血流と脳老廃物排出機能　」 —　　脳血流の低下は、老廃物排出機能を低下させる？　—, 2024 年 04 月
   Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism

2. 三叉神経痛の病態解明に向けた新しいアプローチ —3D モデルを活用した神経形態の解析とその臨床的意義—, 2024 年 10 月
   Journal of Neurosurgery

3. 三叉神経痛の病態解明に向けた新しいアプローチ —3D モデルを活用した神経形態の解析とその臨床的意義—, 2024 年 10 月
   Journal of Neurosurgery

4. 三叉神経痛の病態解明に向けた新しいアプローチ —3D モデルを活用した神経形態の解析とその臨床的意義—, 2024 年 10 月
   Journal of Neurosurgery

血管内治療学分野

Department of Endovascular Surgery

教授：壽美田一貴
講師：平井作京
助教：藤田恭平、高橋暁
医員：木下裕貴、金峰克
大学院生：藤井照子、佐川博貴、若林光

(1) 分野概要

血管内治療学の対象となる疾患は、脳脊髄及び頭頸部の血管障害、奇形、腫瘍、機能異常などである。その各々について、固有の臨床的 · 基礎的研究課題がある。これらを研究対象とする際には、単に治療の対象となる異常のみならず、それに関連する脳脊髄および末梢神経の血管造影学的解剖、病態生理に関する深い知識と洞察力が必要である。臨床研究 · 基礎研究を通じて研究マインドを養成し、高度な臨床活動に従事することにより治療成績の向上を目指す。

(2) 研究活動

中枢神経系及び顔面、頭頸部の血管性疾患を対象とする場合、これら領域の血管解剖を中心として、各器官の機能と病態に関する深い知識と洞察力が必要である。臨床上の疑問点と未解決の問題を研究により解明することを目的として実験研究を行う。研究課題は対象疾患に応じるが、臨床や動物実験で得られた画像データをもとに、循環系血流解析、流体構造連成数値解析を行い、各疾患の病態生理の解明、血管内手術治療効果の判定、新規治療デバイスの開発を行う。またより安全で治療効果が高く、現在の血管内治療のコンセプトを超えた低侵襲治療法の開発を目指す。

(3) 教育活動

神経学 · 脈管学に関する幅広く深い知識を得、そして旺盛な探究心を育てることを目的とする。

(4) 教育方針

血管内治療を通じて、脳神経疾患のうち、血管障害の病態、診断と治療に対する知識と経験を積む。

(5) 臨床活動および学外活動

脳神経 · 顔面 · 頭頸部領域の血管性疾患に対する血管内治療を行う。脳血管障害に対する 3 次元流体力学的研究を行う。血管内治療トレーニングシステムの開発を行う。

(6) 臨床上の特色

血管内治療科は中枢神経や頭頚部の血管性疾患に対してカテーテルを用いて治療する診療科で、最新の医療機器を備え高度な専門治療を行っている。取り扱う主な疾患は、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈奇形 (動静脈瘻)、頸動脈狭窄、脳動脈狭窄、脳塞栓症、頭頚部腫瘍、頭頚部血管腫等である。

(7) 研究業績

[原著]

1. Shoko Fujii, Kyohei Fujita, Mariko Ishikawa, Keigo Shigeta, Yuki Aizawa, Masataka Yoshimura, Shin Hirota, Kei Ito, Yoshikazu Yoshino, Kenji Yamada, Satoru Takahashi, Hirotaka Sagawa, Yuki Kinoshita, Yusuke Kobayashi, Sakyo Hirai, Kazutaka Sumita. Postoperative Time-of-Flight Magnetic Resonance Angiography Classification is a Predictor of Postoperative Recanalization of Unruptured Cerebral Aneurysms. World Neurosurg. 2024.12; 194; 123496

2. Shoko Fujii, Kyohei Fujita, Sakyo Hirai, Satoru Takahashi, Hirofumi Matsubara, Kenji Shoda, Akira Ishii, Makoto Sakamoto, Ichiro Nakagawa, Toshio Higashi, Shinichi Yoshimura, Kazutaka Sumita, Yukiko Enomoto. Evaluating the Safety of Stent-Assisted Endovascular Treatment for Unruptured Cerebral Aneurysms in Older Adults: Emphasizing the Role of Antiplatelet Therapy. Cerebrovasc Dis. 2024.10; 1-10

3. Sakyo Hirai, Ryoichi Hanazawa, Masataka Yoshimura, Keigo Shigeta, Yohei Sato, Naoki Taira, Yoshihisa Kawano, Jun Karakama, Yoshiki Obata, Mutsuya Hara, Kenji Yamada, Yosuke Ishii, Kana Sawada, Shogo Imae, Hikaru Wakabayashi, Hirotaka Sagawa, Kyohei Fujita, Shoko Fujii, Satoru Takahashi, Akihiro Hirakawa, Shigeru Nemoto, Kazutaka Sumita. Safety and Efficacy of Management for Intraprocedural Rupture During Endovascular Treatment for Intracranial Aneurysms. Neurosurgery. 2024.08;

4. Mariko Ishikawa, Satoru Takahashi, Sakyo Hirai, Yohei Sato, Keigo Shigeta, Masataka Yoshimura, Toshihiro Yamamura, Naoki Taira, Tadahiro Ishiwada, Jun Karakama, Kana Sawada, Yoshiki Obata, Kenji Yamada, Yoshikazu Yoshino, Yosuke Ishii, Hikaru Wakabayashi, Kyohei Fujita, Shoko Fujii, Hirotaka Sagawa, Shigeru Nemoto, Taketoshi Maehara, Kazutaka Sumita. Efficacy of endovascular treatment for distal anterior cerebral artery aneurysms: A multicenter observational study. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2024.08; 33(11); 107941

5. Satoshi Kofuji, Kara Wolfe, Kazutaka Sumita, Shun Kageyama, Hirofumi Yoshino, Yoshihisa Hirota, Aki Ogawa-Iio, Hirotaka Kanoh, Mika Sasaki, Kaori Kofuji, Mindy I Davis, Rajan Pragani, Min Shen, Matthew B Boxer, Fubito Nakatsu, Kiyomi Nigorikawa, Takehiko Sasaki, Koh Takeuchi, Toshiya Senda, Seong M Kim, Aimee L Edinger, Anton Simeonov, Atsuo T Sasaki. A high dose KRP203 induces cytoplasmic vacuoles associated with altered phosphoinositide segregation and endosome expansion. Biochem Biophys Res Commun. 2024.07; 718; 149981

6. Yamaoka H, Hirai S, Hanazawa R, Yoshimura M, Hayashi T, Kaneoka A, Yamada K, Yoshino Y, Ebiko Y, Yamamura T, Ishikawa M, Sagawa H, Aoyama J, Fujii S, Fujita K, Kawano Y, Hirakawa A, Sumita K. A thoracic CT imaging parameter predicting access difficulty in acute stroke thrombectomy. Clinical neurology and neurosurgery. 2024.07; 244; 108453

7. Adam Strzelczyk, Marta Maschio, Max C Pensel, Antonietta Coppola, Satoru Takahashi, Shuichi Izumoto, Eugen Trinka, Sheri Cappucci, Ricardo Sainz-Fuertes, Vicente Villanueva. Perampanel for Treatment of People with a Range of Epilepsy Aetiologies in Clinical Practice: Evidence from the PERMIT Extension Study. Neurol Ther. 2024.06; 13(3); 825-855

8. Shin Hirota, Kyohei Fujita, Tadahiro Ishiwada, Satoru Takahashi, Sakyo Hirai, Hirotaka Sagawa, Hikaru Wakabayashi, Jiro Aoyama, Shoko Fujii, Hiroto Yamaoka, Masataka Yoshimura, Keigo Shigeta, Yohei Sato, Kana Sawada, Kenji Yamada, Toshihiro Yamamura, Yosuke Ishii, Yoshiki Obata, Mutsuya Hara, Yoshihisa Kawano, Shinji Yamamoto, Shigeru Nemoto, Kazutaka Sumita, . Contact aspiration for basilar artery occlusion safely reduces the puncture-to-recanalization time. Clin Neurol Neurosurg. 2024.05; 242; 108331

9. Tanaka K, Miwa K, Koga M, Yoshimura S, Kamiyama K, Yagita Y, Nagakane Y, Hoshino H, Terasaki T, Okada Y, Yakushiji Y, Takahashi S, Ueda T, Hasegawa Y, Shiozawa M, Sasaki M, Kudo K, Tanaka J, Nishihara M, Yamaguchi Y, Fujita K, Honda Y, Kawano H, Ide T, Yoshimoto T, Ihara M, Hirano T, Toyoda K, Bleeding with Antithrombotic Therapy 2 Investigators. Cerebral Small Vessel Disease Burden for Bleeding Risk during Antithrombotic Therapy: Bleeding with Antithrombotic Therapy 2 Study. Annals of neurology. 2024.04; 95(4); 774-787

10. Shoko Fujii, Sakyo Hirai, Kyohei Fujita, Hiroto Yamaoka, Mariko Ishikawa, Jiro Aoyama, Hirotaka Sagawa, Kazunori Miki, Shigeru Nemoto, Kazutaka Sumita. Two-Step Effective Onyx Embolization from the Occipital Artery for the Treatment of Intracranial Dural Arteriovenous Fistula: A Technical Note. Turk Neurosurg. 2024.03; 34(3); 529-534

11. Aoyama J, Hirai S, Ishikawa M, Sagawa H, Nakano T, Ogishima T, Sato Y, Sakai R, Yoshimura M, Ishiwada T, Sumita K. Endovascular treatment for ruptured proximal anterior cerebral artery dissecting aneurysm: A report of five case series. Turkish Neurosurgery. 2024.03;

12. Kyohei Fujita, Yohei Sato, Ryoichi Hanazawa, Hirotaka Sagawa, Mariko Ishikawa, Shoko Fujii, Jiro Aoyama, Sakyo Hirai, Masataka Yoshimura, Yoshikazu Yoshino, Yoshihisa Kawano, Keigo Shigeta, Naoki Taira, Jun Karakama, Tadahiro Ishiwada, Motoshige Yamashina, Akihiko Hirakawa, Kazutaka Sumita. Impact of cancer history on long-term outcome after elective neuro-endovascular treatment in patients aged 80 〓 years or older: A retrospective multicenter observational study. Geriatr Gerontol Int. 2024.02; 24(2); 211-217

13. Jun Karakama, Mariko Ishikawa, Sakyo Hirai, Satoru Takahashi, Hikaru Wakabayashi, Hirotaka Sagawa, Shoko Fujii, Kyohei Fujita, Nobuyuki Hirotsune, Kazutaka Sumita. Successful Retrieval of Filter Embolic Protection Device Fragment Trapped by a Carotid Stent: A Case Report. J Neuroendovasc Ther. 2024.02; 18(2); 53-57

14. Satoru Takahashi, Mariko Ishikawa, Hirotaka Sagawa, Hikaru Wakabayashi, Shoko Fujii, Kyohei Fujita, Jiro Aoyama, Sakyo Hirai, Kazutaka Sumita. Delayed hydrocephalus and visual field defect due to perianeurysmal inflammation after treating a large unruptured aneurysm with flow diverter and coil: A case report. Clin Neurol Neurosurg. 2024.02; 237; 108130

15. Wu X, Yokoyama K, Sumita K, Tanaka Y, Tateishi U. Intraventricular Pleomorphic Xanthoastrocytoma: A Case Report and Systemic Review. Cureus. 2024.01; 16(1); e52510

16. Yuji Sakai, Satoru Takahashi, Ikuko Koyama-Honda, Chieko Saito, Noboru Mizushima. Experimental determination and mathematical modeling of standard shapes of forming autophagosomes. Nat Commun. 2024.01; 15(1); 91

17. Hirai S, Fujita K, Fujii S, Takahashi S, Shigeta K, Karakama J, Enomoto Y, Sato Y, Yoshimura M, Hirota S, Mizoue T, Yoshino Y, Kawano Y, Yamamura T, Kohyama S, Hirohata M, Yoshimura S, Ishii Y, Yamauchi T, Taira N, Obata Y, Sakamoto M, Inoue M, Yamashina M, Tokunaga S, Higashi T, Sawada K, Mochida H, Ido K, Takeuchi M, Takigawa T, Takagi Y, Morimoto M, Nanto M, Miki K, Misaki K, Arimura K, Hanaoka Y, Hara M, Hara S, Yokoyama K, Ooyama J, Hanazawa R, Sato H, Hirakawa A, Ishiguro M, Nemoto S, Sumita K. Study protocol of the ASTOP trial: A multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of presurgical aspirin administration for the prevention of thromboembolic complications of coil embolization for ruptured aneurysms. PloS one. 2024; 19(9); e0310906

[書籍等出版物]

1. 壽美田　一貴. 硬膜動静脈瘻 · 脳動静脈奇形（dAVF· AVM）のすべて. 株式会社メディカ出版, 2024.09

2. 藤田恭平　平井作京　壽美田一貴. 脳梗塞に対する急性期血栓回収療法の最前線. 株式会社　日本医学出版「心臓」編集室, 2024.07

[講演 · 口頭発表等]

1. 壽美田　一貴. 大型脳動脈瘤に pipeline で常勝するために. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.22 熊本

2. 壽美田　一貴. CHIKAI Nexus 014 ガイドワイヤ先進性とトルク伝達テクニック. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.22 熊本
3. 壽美田　一貴. Target 360 の強みとその活用法. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.21 熊本
4. 壽美田　一貴. ARTIS icono が引き上げる術者の技量. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.21 熊本
5. 壽美田　一貴. 成功の言語化と失敗の共有　ー off the job training の確立にむけてー. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.21 熊本
6. 高橋　暁. 予防的血管内手術における患者の well-being の変化から解析する精神的 · 社会的効果の検討. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.21 熊本
7. 平井　作京. 大型内頚動脈後交通動脈分岐部動脈瘤における直達手術と血管内治療の治療成績の検討. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.21 熊本
8. 藤田　恭平. 脳血管内治療例における高 Lp(a) 血症の有病率を明らかにする研究. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.21 熊本
9. 若林　光. 動眼神経麻痺を伴う内頚動脈後交通動脈分岐部動脈瘤に対する治療選択と転帰の検討. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.21 熊本
10. 藤井　照子. AI を用いた脳動脈瘤コイル塞栓術後の 再発予測モデルの開発. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2024.11.21 熊本
11. 壽美田　一貴. 血管内治療における小ネタ研究のすすめ. 第 36 回大阪脳血管内治療研究会 2024.11.01 大阪
12. 壽美田　一貴. AXS Vecta 46 と Baby Trevo で挑む MeVO 戦略. 日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会 2024.10.18 横浜
13. 平井　作京. 大型内頚動脈後交通動脈分岐部動脈瘤における直達手術と血管内治療の治療成績の検討. 日本脳神経外科学会 第 83 回学術総会 2024.10.16 横浜
14. 壽美田　一貴. 未破裂脳動脈瘤治療における血管内治療の新基準と課題. 日本脳神経外科学会第 83 回学術総会 2024.10.16 横浜
15. 若林　光. 内頚動脈後交通動脈分岐部動脈瘤に伴う動眼神経麻痺の 転帰と治療選択に関する後方視的検討. 日本脳神経外科学会第 83 回学術総会 2024.10.16 横浜
16. 壽美田　一貴. 薬剤を含めた脳血管内治療のトータルマネジメント. 第 10 回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会 2024.09.14 大阪
17. 壽美田　一貴. 4 団体横断シンポジウム「頸動脈疾患に対する治療」. 日本血管内治療学会 2024.07.13 横浜
18. 壽美田　一貴. 血管造影装置を使いこなす　ー 4DDSA を含めた DAVF 治療における血管撮影の進化ー. BSNET2024 2024.07.06 神戸
19. 壽美田　一貴. EPD の現状と問題点　〜ピットフォール回避のための工夫〜. BSNET2024 2024.07.06 神戸
20. 壽美田　一貴. 発展を続ける脳血管内治療 〜脳ドックからの血管内治療で防ぐ脳卒中〜. 第 33 回日本脳ドック学会総会 2024.06.15 広島
21. 壽美田　一貴. FDS の強み　共存共栄の観点から -Surpass Evolve-. 第 44 回脳神経外科コングレス 2024.05.10 名古屋
22. 壽美田　一貴. 国産吸引カテーテル SALVA の強み. 第 24 回岡山脳血管内治療研究会 2024.04.13 岡山
23. 高橋　暁. 頚動脈ステント留置術でのプラスグレル単剤投与の有効性と課題. STROKE2024 2024.03.09 横浜
24. 壽美田　一貴. 脳動脈瘤コイル塞栓術と FDS の共存共栄ー Surpass Evolve ー東京医科歯科大学における FDS とコイル塞栓術の適応. STROKE2024 2024.03.08 横浜
25. 壽美田　一貴. Plug & Push の Off the job training. STROKE2024　 2024.03.07 横浜
26. 平井　作京. 破裂脳動脈瘤塞栓術における術中破裂症例の検討. 第 53 回日本神経放射線学会 2024.02.09 大宮

27. 髙橋　暁. 脳硬膜動静脈ろうに対する血管内治療における被ばく増大因子の検討. 第 53 回日本神経放射線学会 2024.02.09 大宮

28. 髙橋　暁. コイル塞栓術後に MRI で浮腫性変化を伴う視野障害を呈した巨大内頚動脈瘤の 2 例. 第 25 回日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会 2024.02.03 東京

29. 脳血管撮影装置を使用した急性期脳梗塞虚血コア · ペナンブラ. 第 29 回日本脳神経外科救急学会 2024.02.02 東京

30. 壽美田　一貴. 多様化する脳動脈治療　〜『重要』なフレーミングコイルとは〜. 脳血管外科フォーラム 2024Winter 2024.01.20 大阪

NCNP 脳機能病態学分野

NCNP Brain Physiology and Pathology

分野長・連携教授　星野　幹雄
連携教授　橋本　唯史
連携教授　一戸　紀孝
連携教授　青木　吉嗣
連携准教授　山下　祐一
連携准教授　植田　堯子

(1)　分野概要

脳神経系および筋系は精巧な生体制御装置であるが、それが破綻すると様々な精神神経筋疾患が惹起される。本分野では、脳神経系の発生、解剖学、そして各種精神神経筋疾患の病理について研究する。NCNP 脳機能病態学分野は、連携大学院である国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター（NCNP）内に設置されている。

(2)　研究活動

1. 神経回路網形成の分子機構とその破綻による精神神経疾患の研究

（神経研究所　病態生化学研究部　部長　星野幹雄）

高度な脳機能を司る複雑な神経ネットワークは、精巧な遺伝子プログラムの基に、様々な発生段階を経て創り上げられる。一方で、神経ネットワーク形成の過程で異常が生じると、てんかん、精神遅滞、自閉症などの様々な精神・神経疾患が惹起されうる。以上の問題意識を持ちながら、病態生化学研究部では神経系の発生機構を研究し、さらにその破綻による精神神経疾患の発症・病態進展機構を明らかにしていこうとしている。その一環として、ダウン症の精神症状、統合失調症、自閉スペクトラム症に関連する DSCAM 分子/遺伝子が、シナプスにおける余剰グルタミン酸の細胞内回収を促進することによって、正常なシナプス活動と発達に関わることを見出した（Nat Commun, 2024)。また、AUTS2 遺伝子が大脳皮質浅層ニューロンの産生に関わること、その遺伝子機能異常によって大脳皮質浅層ニューロンの減少による新しいタイプの小頭症が引き起こされることを明らかにした（論文掲載は 2025 年となった。EMBO J, 44(5), 1354-1378, 2025）。

2. 認知症の発症機序解明、及び病因に基づく予防・治療法研究

（神経研究所　疾病研究第四部　部長　橋本唯史）

初老期に発症し、認知症を主症状とするアルツハイマー病 (Alzheimer's Disease; AD) や前頭側頭葉変性症 (Frontotemporal lobar degeneration; FTLD)では、病因タンパク質が脳内で凝集・蓄積すると共に進行性の神経変性を引き起こすことが、認知症発症の原因と考えられている。しかし未だその詳細な分子メカニズムは明らかではなく、認知症の根本治療法開発の大きな障害となっている。疾病研究第四部では、AD や FTLD の病因タンパク質である Aβ、タウ、TDP-43、FUS 等に焦点を当て、これら病因タンパク質が凝集・蓄積し、神経変性を発揮する分子メカニズムを患者脳やマウス・ショウジョウバエモデル等を用いて明らかにすることで、病因に基づく認知症の予防・治療法開発を行っている。本年度は近年同定されたアルツハイマー病発症に防御的な *APOE* 遺伝子のレアバリアント *Christchurch* 変異(R136S) がタウの神経細胞間伝播を抑制することを明らかにし(Murakami et al., 2024, J Neurosci)、apoE がアルツハイマー病発症に与える影響の一端を明らかにした。また、Aβ seed 注入による老人斑及び血管周囲腔にアミロイドが蓄積する CAA モデル、また Aβ蓄積依存的なタウ病理モデル、Aβワクチン療法モデルなど AD 発症・治療の最新テーマに挑む新しい動物モデルを開発した。

3. 霊長類モデルによる自閉症研究

（神経研究所　微細構造研究部　部長　一戸紀孝）

自閉症は社会性の障害と固執性を特徴とする発達障害である。これまで自閉症はげっ歯類モデルを用いて研究がなされてきたが、自閉症の治療法の開発にいたっていない。新世ザル・マーモセットはヒトと進化的に近く、高度な社会性、よく発達した前頭前野をもち自閉症研究に適していると期待されている。我々はバルプロ酸の母体投与により新世界ザルマーモセットの自閉症モデルを開発し自閉症の病態解明および治療法の開発を行っている。とりわけ我々は分子・細胞生物学的手法、システム神経科学的アプローチ（電気生理学、構造 MRI など）、行動学的手法を用いて自閉症モデルマーモセットを多角的に解析している。2024 年度はシナプス可塑性の観点から、自閉症モデルマーモセットにおける投射特異的なシナプスリモデリングの異常と、オキシトシンによる修飾効果を報告した（Noguchi et al., 2024, Communications Biology）。本研究では、二光子顕微鏡を用いたライブイメージングにより、バルプロ酸モデルマーモセットにおける樹状突起棘のターンオーバーの増加、局所軸索におけるシナプス形成の過剰な動態、およびオキシトシンが棘のクラスター形成を抑制することを発見した。これにより、オキシトシンが自閉症の治療標的として有望である可能性が示された。また、自閉症モデルマーモセットにおける予測符号化の異常を、高密度 ECoG を用いて解析し、異なる脳階層間における誤った予測の発生とその神経基盤を明らかにした（Chao et al., 2024, Communications Biology）。本研究では、局所・大域レベルの音刺激予測課題を用いて、自閉症モデルマーモセットにおける予測誤差の増大と、感覚過敏と予測の不安定性が共存することを示した。この結果は、自閉症の多様な症状が、異なる脳階層における予測符号化の誤りによって説明できる可能性を示している。

4. 疾患モデル細胞・動物を駆使した神経・筋難病の最先端遺伝子治療研究

（神経研究所　遺伝子疾患治療研究部　部長　青木吉嗣）

デュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）は、DMD 遺伝子の変異によって引き起こされる指定難病である。当研究部は、DMD に対する基礎研究成果を基に、DMD 患者の 8%を治療対象とし得る国産初の核酸医薬品であるエクソン 53 スキップ薬「ビルトラルセン」の開発に成功した（2020 年 3 月、早期条件付き承認）。また、DMD 患者の 6%を治療対象とし得る、世界初の核酸医薬品であるエクソン 44 スキップ薬「ブロギディルセン」の開発も進め（Mol Ther Nucleic Acids. 2023;34:102034., Cell Rep Med. 2025 Jan 21;6(1):101901.）、第 2 相グローバル試験の患者リクルートを開始した。さらに、DMD の約 3 割に見られる自閉スペクトラム症についても、mRNA 医薬によるジストロフィンの補充治療は、マウス扁桃体の E/I バランスを正常化させ、症状の改善に寄与する可能性があることを報告した（Prog Neurobiol. 2022;216:102288, Nat Commun. 2025 Feb 3;16(1):1298.）。

治療効果が期待されるアンチセンス核酸の塩基配列デザインの予測には、従来、膨大な時間と労力が必要であった。その課題を解決するため、我々はエクソン・スキップ効率を予測する機械学習モデルを開発し、eSkip-Finder に搭載して世界で初めて公開した（Nucleic Acids Res. 2021;49:W193-W198.）。本研究により、DMD だけでなく、様々な神経・筋難病を対象とした治療効果が期待されるアンチセンス核酸医薬の塩基配列を迅速にデザインできるようになった。最近では、DMD 患者から得た尿由来細胞（Sci Rep. 2024;14:2329.）を使用して筋や脳の 3D 組織モデル（オルガノイド）を作製し、疾患病態を再現した上で、エクソン・スキップを含む新規治療法の効果を検証している。

こうした研究成果は、神経・筋難病の克服を目指す層別化医療の重要な基盤となることが期待される。我々は今後も神経・筋難病の克服に向けた研究を全力で推進する。

5. 脳の計算理論を用いた精神障害の病態理解

（神経研究所　疾病研究第七部　室長　山下祐一）

精神疾患の理解に数理モデル・データ科学的手法をもちいる研究手法は，「計算論的精神医学」と総称され，近年活発な研究領域を形成している。当研究部では，計算理論に基づく脳の情報処理メカニズムという観点から研究する理論駆動型アプローチと，精神障害に関する臨床・神経生理学的データに基づくデータ駆動型アプローチの両面から研究を進めている。2024 年の研究では，理論駆動型の研究として，マルチモーダル学習を通じた情報表現と算術計算能力の発達に関する理論的研究（Noda et al. Front. Neurosci 2024），ホメオスタシス強化学習モデルを用いた内受容感覚とうつ病における食行動異常の病態モデル（Uchida et al. Front. Hum. Neurosci 2024）を行った。またデータ駆動型の研究として、脳画像データに基づく高齢者の軽度認知障害の進行予測 AI モデルの開発とそれに基づく抗認知症薬の臨床試験の効率化に関する報告（Wang et

al. Trans Psy, 2024），画像生成 AI を用いた仮想統合失調症脳画像生成モデルの開発（Yamaguchi et al. Front. Psy. 2024）を行った。

6. 脳神経疾患のメカニズム解明と治療法開発

（神経研究所　神経薬理研究部　室長　植田尭子）

中枢神経疾患の病態形成メカニズムの解明と、それに基づく治療標的分子の探索を進めている。成体の中枢神経系が疾患や外傷により受傷すると、神経回路が破綻し、その修復は困難を極める。本研究部では、中枢神経系の傷害・修復を制御する分子メカニズムについて、各脳細胞の培養系におけるスクリーニング、網羅的遺伝子発現解析、および齧歯類病態モデルにおける機能評価などにより解明してきた。本年度は、神経細胞を用いたスクリーニングにより Syt4 という遺伝子が神経突起の伸張を促進する機能を持つことを新たに見出し、脊髄損傷モデルマウスにおいては神経軸索の側枝形成を促進し、運動機能の回復に貢献することを見出した (Higuchi et al., *J Neurosci*., 2024)。また、脊髄損傷時にアストロサイトの増殖を促進し、グリア瘢痕の形成に重要な分子メカニズムを明らかにした (Lili et al., J Neuroinflammation, 2025)。また他方で、アルツハイマー型認知症モデルマウスの脳血管内皮細胞に着目した網羅的遺伝子発現解析を実施し、病態時に発現が上昇する液性因子が神経回路障害や認知機能障害に寄与する可能性を見出した (Hirabayashi et al., J Pharmacol Sci., 2025)。これらの研究により治療標的分子を探索する基盤が構築され、中枢神経疾患を克服する治療法の開発に貢献することが期待される。

(3)　教育活動

各大学院生は、各スーパーバイザーのアドバイスの基に、研究テーマを設定し、研究計画を立てて、実験手法を学びつつ実験を遂行しているところである。また各大学院生は、Journal Club で論文紹介し、プログレスで研究の進捗状況を報告している。

(4)　教育方針

本分野では、正常な脳神経系の構造・発生・機能について理解した上で、発達障害・精神疾患・神経疾患・筋疾患の病理を学ぶ。また最近の高度先進医療にも触れる。各学生は独立した一つの研究テーマを担当し、研究計画の立案、実験の遂行、実験結果の解釈と研究計画の微調整、学会発表、論文の作成から受理までの諸過程を、スーパーバイザーのアドバイスの元に、本人が責任を持ってやり遂げる。これによって、将来的に自立した研究者として研究を遂行する能力を身につけていく。

(5)　研究業績

[原著]

1. Iijima K, Komatsu K, Miyashita S, Suyama K, Murayama K, Hashizume K, Tabe NK, Miyata H, Iwasaki M, Taya S, Hoshino M. Transcriptional features of low-grade neuroepithelial tumors with the BRAF V600E mutation associated with epileptogenicity. ***Genes Cells.*** 29(3):192-206, 2024
2. Dewa K, Arimura N, Kakegawa W, Itoh M, Adachi T, Miyashita S, Inoue YU, Hizawa K, Hori K, Honjoya N, Yagishita H, Taya S, Miyazaki T, Usui C, Tatsumoto S, Tsuzuki A, Uetake H, Sakai K, Yamakawa K, Sasaki T, Nagai J, Kawaguchi Y, Sone M, Inoue T, Go Y, Ichinohe N, Kaibuchi K, Watanabe M, Koizumi S, Yuzaki M, Hoshino M. Neuronal DSCAM regulates the peri-synaptic localization of GLAST in Bergmann glia for functional synapse formation. ***Nature Communications***. 15(1):458, 2024.
3. Hagihara H, (著者 9 人)....Hoshino M, (著者 119 人)....Miyakawa T. Large-scale animal model study uncovers altered brain pH and lactate levels as a transdiagnostic endophenotype of neuropsychiatric disorders involving cognitive impairment. ***Elife***, 12, PR89376, 2024
4. Shiraishi R, Cancila G, Kumegawa K, Torrejon J, Basili I, Bernardi F, Silva PBGD, Wang W, Chapman O, Yang L, Jami M, Nishitani K, Arai Y, Xiao Z, Yu H, Lo Re V, Marsaud V, Talbot J, Lombard B, Loew D, Jingu M, Okonechnikov K, Sone M, Motohashi N, Aoki Y, Pfister SM, Chavez L, Hoshino M, Maruyama R, Ayrault O, Kawauchi D.Cancer-specific epigenome identifies oncogenic hijacking by nuclear factor I family proteins for medulloblastoma progression ***Developmental Cell***, 59(17), 2302-2319, 2024
5. Enokida T, Hattori K, Ota M, Tatsumi M, Hidese S, Sato N, Hoshino M, Kunugi H. Correlation between myelin basic protein levels in cerebrospinal fluid and motor speed in patients with schizophrenia ***Neuropsychopharmacol Rep***, 44(3), 663-670, 2024
6. Enokida T, Yoshida N, Tatsumi M, Hidese S, Goto YI, Hoshino M, Kunugi H, Hattori K. Neuronal autoantibodies in the cerebrospinal fluid of 148 patients with schizophrenia and 151 healthy controls. ***Heliyon***. 10(10), e30695, 2024
7. Murakami R, Watanabe H, Hashimoto H, Kashiwagi-Hakozaki M, Hashimoto T, Karch C, DIAN, Iwatsubo T, Okano H. Inhibitory roles of apolipoprotein E Christchurch astrocytes in curbing tau propagation using human pluripotent stem cell-derived models. ***J Neurosci.*** 44(24), e1709232024, 2024
8. Okuno, T., Ichinohe N., & Woodward, A. (2024). A reappraisal of the default mode and frontoparietal networks in the common marmoset brain. Frontiers in neuroimaging, 2, 1345643. https://doi.org/10.3389/fnimg.2023.1345643

9. Hata, J., Nakae, K., Tsukada, H., Woodward, A., Haga, Y., Iida, M., Uematsu, A., Seki, F., Ichinohe N., Gong, R., Kaneko, T., Yoshimaru, D., Watakabe, A., Abe, H., Tani, T., Hamda, H. T., Gutierrez, C. E., Skibbe, H., Maeda, M., Papazian, F., … Okano, H. (2023). Multi-modal brain magnetic resonance imaging database covering marmosets with a wide age range. Scientific data, 10(1), 221. https://doi.org/10.1038/s41597-023-02121-2
10. Watakabe, A., Skibbe, H., Nakae, K., Abe, H., Ichinohe N., Rachmadi, M. F., Wang, J., Takaji, M., Mizukami, H., Woodward, A., Gong, R., Hata, J., Van Essen, D. C., Okano, H., Ishii, S., & Yamamori, T. (2023). Local and long-distance organization of prefrontal cortex circuits in the marmoset brain. Neuron, 111(14), 2258–2273.e10. https://doi.org/10.1016/j.neuron.2023.04.028
11. Komaki H, Takeshita E, Kunitake K, Ishizuka T, Shimizu-Motohashi Y, Ishiyama A, Sasaki M, Yonee C, Maruyama S, Hida E, Aoki Y*. Phase 1/2 trial of brogidirsen: Dual-targeting antisense oligonucleotides for exon 44 skipping in Duchenne muscular dystrophy. Cell Rep Med. 2025 Jan 21;6(1):101901. doi: 10.1016/j.xcrm.2024.101901. Epub 2025 Jan 9. PMID: 39793573; PMCID: PMC11866436.
12. Du X, Nakanishi H, Yamada T, Sin Y, Minegishi K, Motohashi N, Aoki Y, Itaka K. Polyplex Nanomicelle-Mediated Pgc-1α4 mRNA Delivery Via Hydrodynamic Limb Vein Injection Enhances Damage Resistance in Duchenne Muscular Dystrophy Mice. Adv Sci (Weinh). 2025 Mar 6:e2409065. doi: 10.1002/advs.202409065. Epub ahead of print. PMID: 40051178.
13. Garcia-Guerra A, Sathyaprakash C, de Jong OG, Lim WF, Vader P, El Andaloussi S, Bath J, Reine J, Aoki Y, Turberfield AJ, Wood MJA, Rinaldi C. Tissue-specific modulation of CRISPR activity by miRNA-sensing guide RNAs. Nucleic Acids Res. 2025 Jan 11;53(2):gkaf016. doi: 10.1093/nar/gkaf016. PMID: 39844454; PMCID: PMC11754125.
14. Shiraishi R, Cancila G, Kumegawa K, Torrejon J, Basili I, Bernardi F, Silva PBGD, Wang W, Chapman O, Yang L, Jami M, Nishitani K, Arai Y, Xiao Z, Yu H, Lo Re V, Marsaud V, Talbot J, Lombard B, Loew D, Jingu M, Okonechnikov K, Sone M, Motohashi N, Aoki Y, Pfister SM, Chavez L, Hoshino M, Maruyama R, Ayrault O, Kawauchi D. Cancer-specific epigenome identifies oncogenic hijacking by nuclear factor I family proteins for medulloblastoma progression. Dev Cell. 2024 Sep 9;59(17):2302-2319.e12. doi: 10.1016/j.devcel.2024.05.013. Epub 2024 Jun 3. PMID: 38834071.
15. Kunitake K, Motohashi N, Inoue T, Suzuki Y, Aoki Y*. Characterization of CD90/Thy-1 as a crucial molecular signature for myogenic differentiation in human urine-derived cells through single-cell RNA sequencing. Sci Rep. 2024 Jan

28;14(1):2329. doi: 10.1038/s41598-024-52530-5. PMID: 38282008; PMCID: PMC10822841.

16. Otake M, Imamura M, Enya S, Kangawa A, Shibata M, Ozaki K, Kimura K, Ono E, Aoki Y*. Severe cardiac and skeletal manifestations in DMD-edited microminipigs: an advanced surrogate for Duchenne muscular dystrophy. Commun Biol. 2024 May 3;7(1):523. doi: 10.1038/s42003-024-06222-5. PMID: 38702481; PMCID: PMC11068776.
17. Imamura M, Matsumoto H, Mannen H, Takeda S, Aoki Y. The R436Q missense mutation in WWP1 disrupts autoinhibition of its E3 ubiquitin ligase activity, leading to self-degradation and loss of function. In Vitro Cell Dev Biol Anim. 2024 Aug;60(7):771-780. doi: 10.1007/s11626-024-00894-3. Epub 2024 Apr 1. PMID: 38561589.

18. Noda K, Soda T and Yamashita Y (2024) Emergence of number sense through the integration of multimodal information: developmental learning insights from neural network models. Front. Neurosci. 18:1330512. doi: 10.3389/fnins.2024.1330512
19. Wang C, Tachimori H, Yamaguchi H, Sekiguchi A, Li Y, & Yamashita Y (2024) A multimodal deep learning approach for the prediction of cognitive decline and its effectiveness in clinical trials for Alzheimer's disease. Translational Psychiatry, 14(1), 105.
20. Yamaguchi H, Sugihara G, Shimizu M and Yamashita Y (2024) Generative artificial intelligence model for simulating structural brain changes in schizophrenia. Front. Psychiatry 15:1437075.
21. Uchida Y, Hikida T, Honda M and Yamashita Y (2024) Heterogeneous appetite patterns in depression: computational modeling of nutritional interoception, reward processing, and decision-making. Front. Hum. Neurosci. 18:1502508. doi: 10.3389/fnhum.2024.1502508
22. Higuchi K, Uyeda A, Quan L, Tanabe S, Kato Y, Kawahara Y, Muramatsu R. Synaptotagmin 4 supports spontaneous axon sprouting after spinal cord injury. Journal of Neuroscience 44(43), e1593232024. doi: 10.1523/JNEUROSCI.1593-23.2024.
23. Hirabayashi S, Uyeda A, Manabe I, Yonezu Y, Saito T, Saido TC, Misawa H, Ogasawara Y, Kinoshita K, Muramatsu R. CCN1 derived from vascular endothelial cells impairs cognitive function in Alzheimer's disease model mice. Journal of Pharmacological Sciences 2025 Mar;157(3):146-155. doi: 10.1016/j.jphs.2025.01.004. Epub 2025 Jan 9..
24. Quan L, Uyeda A, Manabe I, Muramatsu R. Astrocytic heterogeneous nuclear ribonucleoprotein U is involved in scar formation after spinal cord injury. Journal of Neuroinflammation. 2025 Jan 31;22(1):28. doi: 10.1186/s12974-025-03351-4.

[総説・著書]

1. Ishizuka T, Komaki H, Asahina Y, Nakamura H, Motohashi N, Takeshita E, Shimizu-Motohashi Y, Ishiyama A, Yonee C, Maruyama S, Hida E, Aoki Y. Systemic administration of the antisense oligonucleotide NS-089/NCNP-02 for skipping of exon 44 in patients with Duchenne muscular dystrophy: Study protocol for a phase I/II clinical trial. Neuropsychopharmacol Rep. 2023 Jun;43(2):277-286.
2. Motohashi N, Minegishi K, Imamura M, Aoki Y. Techniques for Injury, Cell Transplantation, and Histological Analysis in Skeletal Muscle. Methods Mol Biol. 2023;2640:193-205.
3. Motohashi N, Minegishi K, Imamura M, Aoki Y. Techniques for Injury, Cell Transplantation, and Histological Analysis in Skeletal Muscle. Methods Mol Biol. 2023;2640:193-205.
4. Aoki Y. Mr. Takashi Onaka Memorial Oration: I. Updates on solutions to DMD. J Stem Cells Regen Med. 2023 Apr 30;19(1):19-21.
5. Vaillend C, Aoki Y*, Mercuri E, Hendriksen J, Tetorou K, Goyenvalle A, Muntoni F. Duchenne muscular dystrophy: recent insights in brain related comorbidities. Nat Commun. 2025 Feb 3;16(1):1298. doi: 10.1038/s41467-025-56644-w. PMID: 39900900; PMCID: PMC11790952.
6. Aoki Y*. Allele-specific CRISPR-Cas9 editing inactivates a single-nucleotide variant associated with collagen VI muscular dystrophy. Mol Ther Nucleic Acids. 2024 Sep 25;35(4):102330. doi: 10.1016/j.omtn.2024.102330. PMID: 39380711; PMCID: PMC11460449.
7. 富成 司, 青木 吉嗣:デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療の最前線. Funct Food Res. 20:11-17, 2024.
8. 富成 司, 青木 吉嗣:Duchenne型筋ジストロフィー治療の最前線. 神経治療学. 41:425-430, 2024.

   大越 一輝, 青木 吉嗣: デュシェンヌ型筋ジストロフィー (DMD) に対するエクソン・スキップ治療薬開発. 医学の歩み 289(12):898-903, 2024.
9. 山下祐一(2023)計算論的精神医学, 精神医学領域の論文を読みこなすキーワード100！, 新興医学出版社
10. 山口博行、山下祐一 (2023) 自己教師あり深層学習を用いた精神疾患脳画像研究, 精神医学 65, 1604-1074.
11. 山下祐一 (2023) 計算論的精神医学 -統合失調症の病態理解のための新たなフレームワーク, 医学のあゆみ 286 号, p588-593.
12. 出井 勇人, 宗田 卓史, 山下 祐一 (2023) 自由エネルギー原理と計算論的精神医学, 人工知能 38: p833-840.
13. 吉田 正俊, 宮園 健吾, 西尾 慶之, 山下 祐一, 鈴木 啓介 (2023) 自由エネルギー原理, 能動的視覚, サリエンス, 人工知能 38, p787-795.

マテリアル神経科学分野

Department of Material-based Neuroscience

教授：味岡逸樹
事務補佐員：西嶋雅子
大学院生（博士課程）：Zhuge Lujie

(1) 分野概要

神経科学分野は分子生物学の手法を組み込むことで大きな発展を遂げてきたが、近年は、超分子化学や計算物理学などのマテリアル科学の方法論を組み入れた疾患の理解や治療法の創出が進みつつある。本分野では、神経科学とマテリアル科学の融合研究領域を切り拓き、従来のアプローチでは達成困難だった、脳神経系疾患の根源的な病態解明や革新的な治療法創出を目指す。さらには、産学連携研究を推進し、社会実装までの一気通貫的な研究開発に取り組む。

(2) 研究活動

本研究室では、「分子集合体医薬」「光遺伝学医薬」「行動解析技術開発」の 3 つのプロジェクトを軸に研究を展開している。

「分子集合体医薬」プロジェクトでは、11 アミノ酸からなる JigSAP（Yaguchi et al., Nat Commun, 2021）を基盤とし、脳梗塞や脊髄損傷の治療薬開発に取り組むとともに、新たにワクチン開発の研究も開始した。脳梗塞治療に関しては、血管内治療学分野 · 壽美田教授との共同研究により医療応用を推進するとともに、脳再生機序の解明も進めた。また、農工大 · 村岡教授との共同研究により、移植用細胞の局所投与やオルガノイド培養に適した JigSAP 改変体の開発を行い特許出願した。

「光遺伝学医薬」では、東大 · 楊井教授との共同研究により、長波長を短波長に変換するフォトンアップコンバージョン技術を活用し、分子系アップコンバージョン技術では世界初となる in vivo 光遺伝学操作に成功した（Uji et al., Adv Mater, 2024）。

「行動解析技術開発」では、東工大ー医科歯科大マッチングファンドの支援を得て、工学院機械系 · 前田教授との共同研究により、新規行動解析アルゴリズム（Yokokawa et al., Proc IEEE ICMA, 2024）や関数解析を活用し、脳梗塞および神経変性疾患マウスの行動異常を定量化する技術の開発を進めた。本研究により、神経系創薬における行動テストの根本概念を変える革新的技術の確立を目指している。

(3) 教育活動

大学院講義「神経疾患特論」の科目責任者として、講義を取りまとめた。

(4) 教育方針

本学機械系学生や他大学の化学専攻の学生と共に共同研究を行い、異分野融合研究を開花させられる人材育成に加えて、分子生物学 · 細胞生物学 · 神経形態学の技術習得指導を行う。

(5) 研究業績

[原著]

1. Uji M, Kondo J, Hara-Miyauchi C, Akimoto S, Haruki R, Sasaki Y, Kimizuka N, Ajioka I, Yanai N. In Vivo Optogenetics Based on Heavy Metal-Free Photon Upconversion Nanoparticles. Advanced materials (Deerfield Beach, Fla.). 2024.11; 36(46); e2405509

2. Yokokawa R, Hara-Miyauchi C, Ajioka I, Maeda S. Mouse Pose Estimation Using Synthetic Dataset Replicating Experimental Environments 2024 Proc. IEEE ICMA. 2024;

[講演 · 口頭発表等]

1. 味岡逸樹. 自己集合性ペプチド JigSAP による分子集合体治療への展開. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.09 横浜

[特許]

1. 自己組織化ペプチド, 特許番号：特許第 7466876 号

[その他業績]

1. 新しい治療モダリティ「分子集合体治療」創出のための大学発スタートアップ設立を目指す提案が JST· D-Global に採択, 2024 年 03 月
   -

2. 有機フォトン · アップコンバージョン粒子による神経細胞の光操作に成功 〜光による生体内での神経活動制御に向けた重要な一歩〜, 2024 年 09 月
   -

生体環境応答学講座

ウイルス制御学

Molecular Virology

教授: 白銀勇太
講師（プロジェクト教員）: 林隆也
講師（キャリアアップ）: 助川明香
技術補佐員: 後藤 和愛
技術補佐員: 市島 美紗子
臨床検査技師: 稲垣好雄
特別研究学生: 平居優一（九州大学大学院医学系学府修士課程）

(1) 分野概要

本分野は細菌やウイルスなど病原微生物による感染症を対象とし、研究と教育に取り組んでいる。2024 年は、新たに教授として白銀が着任し、前任の山岡教授からその任を引き継いだ。

感染症の流行は、古くから多くの人類の命を奪い、時にその歴史に多大な影響を与えてきた。しかしながら、人類はこれまで、いかに困難の時にあっても、科学と共に歩み、病原体の理解を深め、公衆衛生を発達させ、抗生物質、抗ウイルス薬、ワクチン等を開発することで、一つ一つ感染症の諸問題を解決してきたことを忘れてはならない。

本分野は、ウイルス病原性の基盤解明という重要な研究テーマに焦点を当て、「人類社会がいかに感染症と向き合うべきか」を議論する際のベースとなる知見の蓄積に貢献することを目的とする。また、得られた研究成果を基に、抗ウイルス薬やワクチンの開発に取り組み、ウイルス感染症の制御に応用していきたい。その過程で、次世代を担うウイルス学研究者を育成し、科学の歴史を未来につないでいくことが私たちの使命であると考えている。

(2) 研究活動

私たちは学際的なアプローチを用いてウイルスの進化と病原性を支配する分子メカニズムの解明を進めている。

【研究テーマ１】エンベロープウイルスによる膜融合制御メカニズムの研究
私たちはこれまでエンベロープウイルスの増殖に必須の膜融合を制御する宿主側、ウイルス側の因子が、病原性発揮メカニズムと密接に結びついていることを明らかにしてきた。特に、麻疹ウイルスの研究においては、致死的な合併症である亜急性硬化性全脳炎について、発症の鍵となる融合遺伝子の変異や、神経伝播に必須の宿主シス受容体模倣因子 CADM1 および CADM2 を同定してきた。融合遺伝子変異による神経増殖能獲得メカニズムや、シス受容体模倣因子などの発見は、麻疹ウイルスのみにとどまらず、その他のエンベロープウイルス病原性研究にも適応可能な新概念である。
　エンベロープウイルスにはヒト病原性を持つものが多く含まれるが、その膜融合制御メカニズムの多くは未解明である。私たちは現在、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、ヘンドラウイルス、ニパウイルスなどヒトに重大な被害をもたらすウイルスの融合制御機構、およびそれが病原性にもたらす影響に関する研究に取り組んでいる。

【研究テーマ２】ヒト免疫不全ウイルス（HIV）の研究
キャリアップ講師の助川を中心として、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）の病原性発揮メカニズムの解明に取り組んでいる。

【研究テーマ３】ガーナ拠点との共同研究

講師の林を中心として、ガーナの野口記念医学研究所と共同でデングウイルスの流行状況に関する研究に取り組んでいる。

(3) 教育活動

医学部２年次の講義（感染・基礎）および実習を担当し、ウイルス学・細菌学・免疫学をふまえ病原微生物学の教育を行っている。大学院生ならびに専攻生の教育も担当し、医歯学総合研究科ウイルス制御学分野として最先端の感染症学研究を指導する。週１回、データ検討会や勉強会を行い、生命現象や感染症の分子的基盤の理解につとめている。

(4) 教育方針

微生物の構造、増殖、機能、遺伝に関する原理および微生物と人体との相互作用によって生ずる諸現象の理解と考え方の修得に重点をおく。

(5) 研究業績

[原著]

1. Ota Y, Yasunaga K, Mahazu S, Prah I, Nagai S, Hayashi T, Suzuki M, Yoshida M, Hoshino Y, Akeda Y, Suzuki T, Gu Y, Saito R. Comparative evaluation of analytical pipelines for illumina short- and nanopore long-read 16S rRNA gene amplicon sequencing with mock microbial communities. Journal of microbiological methods. 2024.04; 221; 106929
2. Rosa Mallorson, Eri Miyagi, Sandra Kao, Sayaka Sukegawa, Hideki Saito, Helena Fabryova, Luciana Morellatto Ruggieri, Sonia Mediouni, Susana T Valente, Klaus Strebel. Transcriptional regulation of the HIV-1 inhibitory factor human mannose receptor 1 by the myeloid-specific transcription factor PU.1. Journal of virology. 2024.01;
3. Mahazu S, Prah I, Ota Y, Hayashi T, Suzuki M, Yoshida M, Hoshino Y, Akeda Y, Suzuki T, Ishino T, Ablordey AS, Saito R. Colistin Resistance Mediated by Mcr-3-Related Phosphoethanolamine Transferase Genes in Aeromonas Species Isolated from Aquatic Environments in Avaga and Pakro Communities in the Eastern Region of Ghana. Infection and drug resistance. 2024; 17; 3011-3023
1. 白銀 勇太. 麻疹ウイルスによる神経病原性発現機構 NEUROINFECTION. 2024.09; 29(1); 49-53

[総説]

1. 白銀 勇太. 【ウイルスと精神神経症状】麻疹ウイルスが体内で進化する　致死性脳炎はなぜ起こるか ファルマシア. 2024.01; 60(1); 46-50

[講演・口頭発表等]

1. Haruki Kitamura, Sayaka Sukegawa, Klaus Strebel.. PU.1 inhibition and HIV-1 reactivation: A novel approach to the eradication of HIV-1 latently infected non-T cell reservoirs.. 11th Edition Reservoirs&Eradication Strategies Workshop. 2024.12.10 Florida
2. 平居優一, 竹本竜一, 柳雄介, 白銀勇太. 麻疹ウイルス SSPE 分離株の融合タンパク質に見られる蓄積変異は CADM1/2 非依存的な膜融合を可能にする. 第 71 回日本ウイルス学会・学術集会 2024.11.05
3. 白銀勇太, 平居優一, 柳雄介, 竹本竜一. 神経細胞の融合を促進する麻疹ウイルスのヘマグルチニンの変異. 第 71 回日本ウイルス学会・学術集会 2024.11.04
4. Yuta Shirogane. Intrahost Evolution of Measles Virus: A Pathway to Fatal Brain Disease . The 22nd Awaji International Forum on Infection and Immunity 2024.09.17 Kyoto, Japan
5. Haruki Kitamura, Helena Fabryova, Sandra Kao, Eri Miyagi, Luciana M Ruggieri, Hideki Saito, Sayaka Sukegawa, Klaus Strebel . INDUCTION OF HIV-1 REACTIVATION BY PHARMACOLOGICAL PU.1 INHIBITION IN HIV-1 LATENTLY INFECTED CELL . Cold spring Harbor Retroviruses meeting 2024.05.19

6. Ichiro Osawa, Yuichiro Hara, Sayaka Sukegawa, Naoaki Mizuno, Nobuyuki Nosaka, Susumu Kirimura, Iichiroh Onishi, Hiromitsu Nakauchi, Hiroaki Takeuchi, MasaoTakata, Kenji Wakabayashi. Accurate Assessment of Respiratory Physiology is Essential for Preclinical Drug Development in a Mouse Model of COVID-19-Induced ARDS. ATS International conference 2024.05

1. 白銀勇太. ウイルス膜融合の鍵としての生体分子の新展開. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.07
2. 白銀勇太. 麻疹ウイルス亜急性硬化性全脳炎（SSPE）研究から浮かび上がるウイルス進化のダイバーシティ . 第 44 回阿蘇シンポジウム 2024.08.02
3. 白銀勇太. 融合遺伝子が支配する麻疹ウイルス神経病原性 . 第 18 回ウイルス学キャンプ in 湯河原 2024.07.16 湯河原

[社会貢献活動]

1. J-GRID 海外拠点事業, 文部科学省　AMED, 日本国およびガーナ共和国, 2010 年 04 月 01 日 - 現在
2. TMDU 女性上位職登用制度　第三期キャリアアップ教員としてのインタビュー, 東京医科歯科大学　ダイバーシティ · インクルージョン室, My career story, 2023 年 - 現在
3. Associate Editor, Microbiology and Immunology, 2024 年 01 月 01 日 - 現在
4. もうすぐ千円札の顔を交代する野口英世は何をした人？　実は黄熱ではなく梅毒での功績が評価される研究者、今も引き継がれるガーナとの縁 , 共同通信社, 4 7 ニュースほか, 2024 年 01 月 16 日 - 2024 年 03 月 19 日
5. 日本エイズ学会学術集会 · 総会 プログラム委員, 日本エイズ学会学術集会 · 総会 , 2024 年 10 月 - 現在
6. 座長（第 71 回日本ウイルス学会学術集会 · パラミクソウイルス 1）, 2024 年 11 月 05 日
7. シンポジウムオーガナイザー 第 97 回日本生化学会大会（多分野からみた糖鎖の作用点〜糖鎖は全ての生命現象に関連するか？ 〜）, 2024 年 11 月 07 日

発生発達病態学

Pediatrics and Developmental Biology

教授 高木正稔（2024 年 9 月〜）
准教授 鹿島田健一（〜2024 年 9 月）
講師 清水正樹、磯田健志
助教 水野朋子、高澤啓、杉江学、森山剣光、山口洋平、伊藤一之、宮本智史、阿久津裕子、伊良部仁、長原慧
大学院生　友田昂宏、櫻井牧人、奥津美夏、金森透、安達恵利子、野口優輔、金子修也、桐野玄、友政弾、
勝碕静香、中谷久恵、真保麻実、江口詩織、新里大毅、Analia Gisela Yogi、山野春樹、Riski Muhaimin、
田村友美恵、齋藤洋子、下山輝義、山内泰輔、畠野真帆、西山洋平、柳澤俊樹、横山はるな、
浪川結衣、西村円香

小児地域成育医療学講座（寄附講座）
教授 金兼弘和
講師 星野顕宏

茨城県小児・周産期地域医療学講座（寄附講座）
教授 高木正稔（〜2024 年 8 月）
講師 石井卓
助教 林祐子

生涯免疫難病学講座（寄附講座）
教授 森雅亮

(1) 分野概要

発生発達病態学分野は小児の総合内科である一方、免疫・血液・腫瘍、循環器、神経、内分泌・代謝、腎臓・リウマチ膠原病、新生児、アレルギーの各分野に分かれて特色ある専門診療を行い、それぞれの分野で先進的な医療を提供している。研究面においても基礎から臨床まで幅広い研究を行っている。共通課題は小児難治性疾患の発症機構を解明し 治療に結びつけることである。幅広い生命現象全般に関する研究および治療介入により、小児疾患の予後改善を 目指している。

(2) 研究活動

小児疾患、特に難治性疾患の発症機構を解明し、治療に結びつけることを共通課題とし、幅広い生命現象全般を対照として研究を目指している。
現在の主なテーマは
1. 「先天性免疫異常症の責任遺伝子解明」
2. 「先天性免疫異常症の治療法開発」
3. 「移植後の感染症制御を目的とした細胞治療法の開発」
4. 「小児肺高血圧症患者レジストリ研究（先天性心疾患（JACPHR）, 特発性/遺伝性（JAPHR）」
5. 「冠動脈瘤をともなう川崎病患者のレジストリ研究」
6. 「子宮内環境による臍帯血および臍帯由来間葉系幹細胞のプロファイル変化についての基礎的研究」
7. 「脳室周囲白質軟化症による脳性麻痺児における乳歯歯髄幹細胞プロファイル変化の検討」
8. 「性分化の分子機構の研究」
9. 「副腎疾患、性分化疾患の分子病態の解明」
10. 「21 水酸化酵素欠損症のレジストリ研究」

11. 「先天性高インスリン血症に対する新たな診断・治療戦略の確立」
12. 「先天性重症インスリン抵抗性症候群の病態解明」
13. 「オプソクローヌス ミオクローヌス症候群の自己免疫病態解明」
14. 「毛細血管拡張性運動失調症に対する遺伝子治療法開発」
15. 「全身性血管狭窄症の病態解明」
16. 「白血病発症にかかわる遺伝的素因に関する研究」
17. 「単一細胞解析技術を用いた小児白血病発症機構の解明」
18. 「小児がんに対する新規 CAR-NK 細胞療法の開発」
19. 「白血病におけるゲノムの 3 次元構造と病態解明」
20. 「T 細胞系列決定とスーパーエンハンサー活性化機構の解明」
21. 「てんかん症候群の原因解明と治療法開発」
22. 「自己免疫疾患患者に内在化する先天性免疫異常症の探索」
23. 「サイトカインストーム症候群をきたす基礎疾患の鑑別診断法の開発」
24. 「脊髄性筋萎縮症等治療可能な新生児期 小児期疾患に対する新生児マススクリーニング法の確立に関する研究」
25. 「自己免疫疾患患者における新規 T 細胞および B 細胞サブセットの動態および機能解析」
26. 「腎炎 ネフローゼ症候群における予後予測因子の探索」
27. 「先天性免疫異常症に伴う腎疾患や遺伝性腎疾患の病理 分子生物学的発症機序の解明」

東京科学大学難治疾患研究所、東京大学医科学研究所、広島大学、理化学研究所統合生命医科学研究センター、かずさ DNA 研究所、成育医療研究センター、東京都医学総合研究所、順天堂大学、京都大学、東京大学など、国内外の研究施設 研究室と共同研究、情報交換を行いながら、先端的な研究を行っている。

●血液腫瘍 免疫グループ
血液腫瘍 免疫グループが扱う研究テーマは多岐に亘り、スタッフ 7 名、医員 1 名、大学院生 6 名、共同研究者、及び数名の技術補佐員により研究が行われている。
先天性免疫異常症（IEI）の病態解析、治療法開発
次世代シークエンサーを用いた全エクソン解析（WES）の手法を用いて IEI 候補遺伝子の探索を進め、いくつかの未知の疾患責任遺伝子の変異候補を同定し、さらなる病態の解析を行っている。本邦の Alemtuzumab を前処置に用いた IEI の造血細胞移植成績について報告した（宮本、金兼）。X 連鎖無ガンマグロブリン血症における腎炎の特徴について報告した（金森、金兼）。先天性免疫異常症患者に伴うリンパ組織腫大、腸炎、血球減少症に対するシロリムスの有効性および安全性を評価する II 相臨床試験を行っている（磯田）。その他、移植後の免疫学的再構築促進手段として養子免疫療法の研究において、難治性ウイルス感染症に対するウイルス特異的 T 細胞療法の臨床試験へと展開した（森尾、神谷）。

●循環器グループ
＜基礎研究＞
肺高血圧症の病態解明：BMP9 遺伝子変異患者の機能解析を行うなかで、TGF β/BMP シグナル伝達の機構解明、肺高血圧治療薬としてのヘッジホッグシグナル阻害剤の可能性についての研究などを行っている（櫻井、山口）

＜臨床研究＞
学内の研究として、国内のデータベースを用いた小児循環器疾患についての時系列分析、AI を用いた研究として小児心疾患における画像からの肺体血流比の予測などを行っている（石井、下山）。多施設共同研究として、先天性心疾患を伴う肺動脈性肺高血圧症例の多施設 前向き症例登録研究（研究代表者）、小児特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症に関する症例登録研究（研究分担者）、冠動脈瘤をともなう川崎病患者のレジストリ研究（研究分担者）、先天性門脈体循環シャントの臨床的特徴に関する全国調査（研究分担者）などに参加している。

●神経グループ
＜基礎研究＞
神経芽腫に合併するオプソクローヌス・ミオクローヌス症候群発症機構の解明に向けての研究、毛細血管拡張性運動失調症に対するウイルスベクターを用いた遺伝子治療法開発に向けての研究、もやもや病類縁疾患の病態解析研究を行っている。また東京都医学総合研究所佐久間啓先生との共同研究で、トランスジェニックマウスを用いたアストロサイトの機能に関する研究、マイコプラズマ脳炎の病態解析研究を行っている。

＜臨床研究＞
「てんかん症候群の原因解明と治療法開発」（昭和大学小児科との共同研究）
「希少てんかんに関する調査研究」（静岡てんかん神経医療センターとの共同研究）
「免疫性神経疾患における自己抗体の系統的測定と機能解析」（東京都医学総合研究所との共同研究）

「ACTH 療法を施行した West 症候群患者の副腎皮質機能評価」
「脊髄性筋萎縮症等治療可能な新生児期 小児期疾患に対する新生児マススクリーニング法の確立に関する研究」
「プリズムを用いた小脳運動学習評価システムにおける小児の基準値の確立と中枢神経疾患での応用」

●内分泌代謝グループ
性分化 性腺発生の分子機構の解明
性腺発生における転写ネットワーク制御の網羅的な解析を、transcriptome 解析などを用いて行っている。成育医療研究センターのシステム発生 再生医学研究部高田修治部長、理化学研究所との共同研究である。性腺発生に重要と思われる転写因子の発見や、その転写制御の epigenetic な制御機構についてさらなる検索を行うことを視野に入れいてる。（鹿島田、高澤、安達、桐野、山野、中谷、A. Yogi）

21 水酸化酵素欠損症 (21OHD) の新たな診断法、治療法およびバイオマーカーの確率
簡便な遺伝子検査法や成人期に発症する生活習慣病を低減できる治療法、およびそれに寄与する至適なバイオマーカーの探索をするために、五施設共同（慶應義塾大学、東京都立小児総合医療センター、あいち小児保健医療総合センター、大阪母子医療センター）でのレジストリ研究を研究代表者として行なっている。

先天性高インスリン血症に対する新たな診断 · 治療戦略の確立重症先天性高インスリン血症に対する画像診断法の確立に向けて、画像診断 · 核医学分野と共同研究を行っている。また新規治療を含めた治療戦略確立および遺伝学的な病態解明に向けた基礎 · 臨床研究を行っている。

●膠原病 リウマチグループ
若年性特発性関節炎 (juvenile idiopathic arthritis: JIA) を主とした小児リウマチ性疾患の診断基準 重症度分類の標準化とエビデンスに基づいたガイドラインの策定、JIA データベース CoNinJa（Children’s version of National Database of Rheumatic Diseases by iR-net in Japan）の開発、自己免疫疾患患者に内在化する原発性免疫不全症の探索、サイトカインストーム症候群をきたす基礎疾患の鑑別診断法の開発、自己免疫疾患患者における新規 T 細胞および B 細胞サブセットの動態および機能解析などを行っている。また膠原病 リウマチ内科との共同研究で、膠原病疾患における小児期発症と成人発症各々の治療の現状と有効性について解析を進めている。

●新生児グループ
子宮内環境による臍帯由来間葉系幹細胞プロファイル変化の研究
関連病院との共同臨床研究により、ヒトにおける子宮内環境による臍帯由来間葉系幹細胞プロファイル変化についての研究を行っている。早産児疾患に対する臍帯由来間葉系幹細胞治療の機序と効果を解明するとともに、早産児疾患成立における間葉系幹細胞の関与について明らかにし、臍帯由来間葉系幹細胞を用いた早産児の合併症予測バイオマーカーの同定を目指している。

脳室周囲白質軟化症による脳性麻痺児における乳歯歯髄幹細胞プロファイル変化の検討
早産児の合併症である脳室周囲白質軟化症に対する歯髄幹細胞治療の可能性を模索するための基礎的データとして、脳室周囲白質軟化症による脳性麻痺児の乳歯から歯髄幹細胞を培養し、そのプロファイルを解析している。

●アレルギーグループ
アレルギー疾患の疫学に関する研究を、関連施設および学外施設との連携のもと行っている。このほか「重症 · 難治性アレルギー疾患の患者レジストリの構築および病態解明（研究代表者：森田英明先生、研究分担者：森尾友宏先生、他）」研究において学外施設での診療における研究活動を行っている。

●腎臓グループ
腎炎 ネフローゼ症候群の発症時点での予後予測因子の探索研究を関連病院との多施設共同研究により行っている。発症原因が未解明な疾患の重症度、治療反応性、長期予後に関連するバイオマーカーを明らかにし、上 記疾患の診療向上に貢献することを目標とする。

(3) 教育活動

2024 年度の臨床医学分野の系統講義はブロックごとに行われ、発生発達病態学（小児科）は PCC と同様、生殖機能協関学（周産 女性診療科）と合同のもと「生殖 発達ブロック」講義を担当した。
前年度に引き続きアクティブ ラーニングを中心とした系統講義をおこなった。本年度は学生が復習をしやすいように非同期授業を 19 コマ、アクティブラーニングは 9 コマ、TBL 2 コマが行われた。アクティブ ラーニングのみでは小児科の全領域をカバーすることはできないが、学生の応用力を高める観点から有用であると考えている。

医学科 4 年生て行われた「臨床導入実習 PCC」では、生殖機能協関学（周産 女性診療科）と「生殖発達コース」

を担当した。
医学科 5 年生の小児科臨床実習、クリニカルクラークシップ (CC) は COVID-19 流行の遷延により 2 週間に短縮され同様の期間で実施した。それぞれの学生は 2 週間学内診療グループ（血液 免疫、循環器、神経、内分泌、腎臓、膠原病、新生児） のいずれか 2 つで実習を行った。
月曜日と金曜日は全学生を対象にレクチャー（診断学、先天性心疾患、新生児、輸液、脳波、内分泌、白血病、免疫不全 感染症、Child Life Specialist の小児科における役割のうち 6 コマ）を行い、毎週金曜日は Web による学生カンファレンスを行って臨床実習の理解を深めるような実習プログラムとした。
医学科 6 年生の小児科臨床実習は今年度も 2 名を受け入れ、学内でアドバンスト プログラムとして、希望する診療グループで 2 週間継続して実習する形式とした。
卒後教育としては、初期臨床研修医 1、 2 年生には最低 1 か月間の基礎的臨床教育を学内施設で行った。大学での後期臨床研修医は、小児科専門医取得のためのより専門的な臨床教育を幅広く行った。

(4) 教育方針

医学部学生に対しては、講義はアクティブラーニングを中心とし、小児のプライマリケア、臓器別の専門疾患、基礎科学に十分配慮した教育プログラムを作成している。この中で最先端の基礎医学への深い理解にも対応できる教育プログラムとなるよう配慮している。
一方研修医に対しては、プライマリケアから基礎医学までを総合的に行うことができる、いわゆるフィジシャンサイエンティストの育成を中心に教育プログラムを作成している。

(5) 臨床活動および学外活動

●血液腫瘍 免疫グループ対象疾患、診療内容：
先天性免疫異常症 (IEI)、血液悪性腫瘍、非悪性血液疾患、悪性固形腫瘍の診断および治療を提供している。聖路加国際病院および順天堂大学順天堂医院との診療および専門研修の連携システムがあり、2013 年度から 3 施設による相互研修派遣が開始されている。
東京小児がん研究グループ（TCCSG）および日本小児がん研究グループ（JCCG）に属して、小児悪性腫瘍疾患の標準的治療法確立に貢献している。臨床試験や先進医療について IRB 承認を得て、参加の機会を提供している。
診療実績：
先天性免疫異常症や難治性血液悪性腫瘍、進行性悪性固形腫瘍に対して造血幹細胞移植を行っている。近年は PTCY 療法を用いた血縁 HLA 半合致移植にも取り組んでいる。
2024 年度は、11 件の造血細胞移植（非血縁者骨髄　6 件、血縁者骨髄　2 件、非血縁者臍帯血　1 件、血縁者臍帯血　1 件、血縁者ハプロ　1 件）を施行した。
これまで 200 例以上に対して造血細胞移植を行い、先天性免疫異常症に対する移植例は 100 例を越え、日本で屈指の症例数、治療成績である。
臨床試験：
主に以下の３つの自主臨床試験を行っている
「原発性免疫不全症患者を対象としたシロリムスの有効性および安全性を検討する第 II 相臨床試験」東京科学大学小児科が主導して行う医師主導治験である
「HLA 半合致以上の血縁ドナーから作成した複数ウイルスに対する抗原特異的 T 細胞を用いた造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症に対する細胞療法」
再生医療等安全確保法に基づく GCTP 準拠の第 1 種再生医療等技術としての臨床試験（第 I /II 相試験）である
小児がん生存者（CCS）の長期フォローアップ：
CCS の長期 QOL の維持に勤めるため、他小児臓器別専門医、CLS(child life specialist)、非常勤臨床心理士などによる多職種医療チームによる診療体制を整えている。

●循環器グループ
対象疾患、診療内容：
小児循環器疾患全般を取り扱っており、先天性心疾患では診断から手術（～リスクカテゴリ 3）まで、後天性心疾患では冠動脈病変を有する重症川崎病の治療 (血漿交換療法を含む) や、特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症の診断からエポプロステノールによる治療まで、不整脈疾患では頻拍性不整脈のカテーテル アブレーションや、遺伝性不整脈の診断から治療まで多岐にわたっている。上記のうち特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症 (IPAH/HPAH) に関しては治療実績が評価され、多施設からの紹介患者が多い。また小児 IPAH/HPAH、および先天性心疾患に伴う肺高血圧症の患者レジストリの登録施設として全国約 10 施設の一つに認定されている。

診療実績：
日本小児循環器学会認定専門医修練施設群の主施設であり、 1 年間の延べ入院患者数は 137 名、心臓カテーテル検査数は 63 件、心臓手術症例数は 23 例であった。

●神経グループ
対象疾患、診療内容：
幅広い神経疾患の診療を行っているが、特に難治てんかん患者の診療には、学内のてんかんセンターと連携し重点的に行っている。ビデオ脳波同時記録や高磁場 MRI、核医学検査 (PET など) による評価、および薬物療法、ACTH 療法、ケトン食療法などを行い、必要に応じて外科的治療を脳神経外科との協力のもとに行っている。また脊髄性筋萎縮症に対し、核酸医薬品、遺伝子治療薬の投与を行っている。希少神経疾患の診断、遺伝学的解析、治療にも力を入れている。

●内分泌代謝グループ
対象疾患、診療内容：
小児内分泌代謝疾患全般を対象とするが、特に先天性副腎過形成 (21OHD)、性分化疾患、先天性糖代謝異常に重点をおいている。また小児 1 型糖尿病の患者会を主催するなど、重要な疾患と位置づけている。
東京都予防医学協会の母子保健専門委員として，先天性副腎過形成症のマススクリーニングの指導を行っている。近年はこれらの臨床経験を疫学的に解析し、いくつかの臨床研究を展開している。性分化疾患および先天性高インスリン血症についても高い専門性のもと、集約的に診療していく方針である。

●腎臓グループ
対象疾患、診療内容：
年間約 30 例の腎生検を行い、先天性ネフローゼ症候群、難治性ネフローゼ症候群や治療抵抗性の IgA 腎症、紫斑病性腎炎などの診療を行っている。低体重児に対する腹膜透析療法や、他疾患に合併した急性腎障害および膠原病疾患に対する急性血液浄化療法および血漿交換療法も施行している。

国立成育医療研究センター腎臓リウマチ膠原病科に国内留学し、難治性腎疾患の診療、腎臓移植や透析療法の診療などを研修している。

●膠原病 リウマチグループ対象疾患、診療内容：
小児膠原病、リウマチ疾患全般を対象とするが、さらにそれらに限らず、不明熱、関節痛をはじめとした診断未確定な症例や周期性発熱で代表される自己炎症性症候群の診療 治療を行っている。また、小児リウマチ性疾患の現状と実態に即し、小児リウマチ性疾患の成人期における移行期医療の問題点と課題に重点をおいている。

●新生児グループ
対象疾患、診療内容：
大学病院 NICU という特徴を生かして、ほかの診療科や小児科の専門診療グループと連携し、24 時間体制で早産児（在胎 27 週以上、出生体重 800g 以上）や合併症のある新生児、合併症母体から出生した児の診療に当たっている。また小児心臓外科、小児外科と協力し、先天性心疾患、外科疾患の児の早期手術も受け入れている。

●アレルギーグループ対象疾患、診療内容：
大学のアレルギー疾患先端治療センターの小児科部門および学外の関連施設において、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、喘息、アレルギー性鼻結膜炎、蕁麻疹、薬物アレルギーなどの小児アレルギー疾患の診療に当たっている。また地域の医療施設や教育機関と連携し、アレルギー患児児の社会生活支援、アレルギー疾患に関する啓発活動を行っている。

(6) 臨床上の特色

●血液腫瘍 免疫グループ
血液腫瘍疾患や先天性免疫異常症の診断 治療、病態解析を行い、難治疾患に対しては造血細胞移植を実施している。特に先天性免疫異常症では日本で最多の患者を診療している。多施設共同研究による標準的治療法の確立、治験参加による新規医薬品の開発および適応拡大にも貢献している。

●循環器グループ
小児循環器領域のあらゆる疾患に対して、幅広く適切な診断と治療を迅速に行っている。中でも厚労省の難病指定疾患である肺動脈性肺高血圧症の診断と治療に先進的に取り組んでおり、現在までに重症特発性/遺伝性肺動脈肺高血圧患児 8 名に対して非経口 PGI2 製剤の持続療法（静脈内 7 名、皮下 1 名）を含む初期併用療法（upfront combination therapy）を行ってきた。

●神経グループ
難治てんかん、小脳失調症、神経免疫疾患、脊髄性筋萎縮症、不随意運動症、周産期障害、急性脳炎脳症、神経変性疾患などの初期診断、特殊検査、治療から慢性期の全身管理などを幅広く行っている。

●内分泌代謝グループ
東京都における新生児マススクリーニングの専門医療機関として、先天性副腎過形成 (CAH) のスクリーニング要精査者の確定診断 治療を行っている。性分化疾患および Childhood Cancer Survivor(CCS) の診療にも力を入れている。また、患者サポートとして小児 1 型糖尿病患者会である“東京わかまつ会”の活動に指導医として協力している。

●腎臓グループ
扱う疾患は多岐にわたっており、年間約 30 例以上の腎生検を行い、先天性ネフローゼ症候群、難治性ネフローゼ症候群、治療抵抗性の慢性糸球体腎炎の治療などを行っている。体重が 10kg 未満の低体重児に対する緊急透析療法や腹膜透析療法も血液浄化療法部の協力を得て行っている。

●膠原病 リウマチグループ
小児リウマチ疾患全般の診療（生物学的製剤を含む）に限らず、不明熱、関節痛をはじめとした診断未確定な症例や周期性発熱で代表される自己炎症性症候群の診療治療を行っている。治験参加やガイドライン策定などを通して治療の適応拡大や標準化にも積極的に関与している。また、小児から成人への「移行期医療」に重点を置き、小児リウマチ性疾患のスムースな成人科への橋渡しについて患者のニーズに重きをおいて実践に取り掛かっている。

●新生児グループ
東京都地域周産期母子医療センターの指定を受け、周産・女性診療科との連携により、近隣だけでなく多摩地区など遠方からも母体搬送・新生児搬送を受け入れ、東京都の周産期医療に貢献している。

●アレルギーグループ
アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、喘息、アレルギー性鼻結膜炎などの小児アレルギー疾患に対する標準治療の普及を行うとともに、難治性アレルギー疾患に対する個別化医療に取り組んでいる。蕁麻疹、薬物アレルギーについては正確な診断と適切な管理を目指している。大学のアレルギー疾患先端治療センターの小児科部門では、歯科部門や他診療グループと連携し、多分野での先進的治療を要する患児のアレルギー診療に取り組んでいる。

(7) 研究業績

[原著]

1. Inoue K, Tomomasa D, Nakagama Y, Takeuchi H, Tanaka Y, Tanimoto K, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Tanaka K, Yoshifuji K, Miwa Y, Ohnishi H, Okada S, Mori T, Yasuda S, Kido Y, Morio T, Kanegane H. Real-world experience of tixagevimab/cilgavimab prophylaxis in Japanese patients with immunodeficiency. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2024.12; 31(2); 102577

2. Kazuki Okuyama, Motoi Yamashita, Artemis Koumoundourou, Christoph Wiegreffe, Michiko Ohno-Oishi, Samuel J H Murphy, Xin Zhao, Hideyuki Yoshida, Takashi Ebihara, Naoko Satoh-Takayama, Satoshi Kojo, Hiroshi Ohno, Tomohiro Morio, Yibo Wu, Jennifer Puck, Hai-Hui Xue, Stefan Britsch, Ichiro Taniuchi. A mutant BCL11B-N440K protein interferes with BCL11A function during T lymphocyte and neuronal development. Nat Immunol. 2024.12; 25(12); 2284-2296

3. Hitoshi Irabu, Shuya Kaneko, Futaba Miyaoka, Dan Tomomasa, Asami Shimbo, Akira Nishimura, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Hirokazu Kanegane, Masaki Shimizu. Yang and Ying of ruxolitinib administration for macrophage activation syndrome complicated by systemic juvenile idiopathic arthritis. Rheumatology (Oxford). 2024.12;

4. Miyaoka F, Hatano M, Hayashi Y, Kaneko S, Shimbo A, Irabu H, Akutsu Y, Segawa Y, Mori M, Shimizu M. Atlantoaxial arthritis is more common in polyarticular JIA as compared to systemic onset JIA-Retrospective study INTERNATIONAL JOURNAL OF RHEUMATIC DISEASES. 2024.11; 27(11); e15396

5. Mori, M; Nakayama, Y; Nishimata, S; Yokoyama, T; Matsuoka, R; Hatori, R; Shimizu, M; Arai, K; Etani, Y; Sogo, T; Ishizu, T; Nii, M; Nakashima, R; Shimizu, T. Efficacy and Safety of Long-Term

Administration of Esomeprazole in Japanese Pediatric Patients Aged 1-14 Years with Chronic Gastric Acid-Related Disease (vol 27, pg 274, 2024) PEDIATRIC GASTROENTEROLOGY HEPATOLOGY & NUTRITION. 2024.11; 27(6); 383-384

6. Shiro Beppu, Takuro Nishikawa, Dan Tomomasa, Atsushi Hijikata, Hiroshi Kasabata, Hideyuki Terazono, Kazuro Ikawa, Tatsuro Nakamura, Shogo Horikawa, Jun Nagahama, Aki Nakamura, Takanari Abematsu, Shunsuke Nakagawa, Kaoru Oketani, Hirokazu Kanegane, Yasuhiro Okamoto. Perspectives in newborn screening for SCID in Japan. Case report: newborn screening identified X-linked severe combined immunodeficiency with a novel IL2RG variant Front Immunol. 2024.11; 15; 1478411

7. Yuri Suzuki, Ryosei Iemura, Akito Sutani, Yuki Mizuno, Eriko Adachi, Mineko Ushiama, Teruhiko Yoshida, Makoto Hirata, Akihiro Hoshino, Kurara Yamomoto, Takumi Akashi, Yoshiko Nakano, Takeshi Isoda, Kei Takasawa, Motohiro Kato, Masatoshi Takagi, Kentaro Okamoto, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Familial and early recurrent pheochromocytoma in a child with a novel in-frame duplication variant of VHL. Clin Pediatr Endocrinol. 2024.10; 33(4); 229-237

8. Hirofumi Shibata, Daisuke Nakajima, Ryo Konno, Atsushi Hijikata, Motoko Higashiguchi, Hiroshi Nihira, Saeko Shimodera, Takayuki Miyamoto, Masahiko Nishitani-Isa, Eitaro Hiejima, Kazushi Izawa, Junko Takita, Toshio Heike, Ken Okamura, Hidenori Ohnishi, Masataka Ishimura, Satoshi Okada, Motoi Yamashita, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane, Kohsuke Imai, Yasuko Nakamura, Shigeaki Nonoyama, Toru Uchiyama, Masafumi Onodera, Ryuta Nishikomori, Osamu Ohara, Yusuke Kawashima, Takahiro Yasumi. A Non-targeted Proteomics Newborn Screening Platform for Inborn Errors of Immunity. J Clin Immunol. 2024.10; 45(1); 33

9. Gakushi Eguchi, Miki Murakoshi, Futaba Miyaoka, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Toru Kanamori, Tomohiro Udagawa, Tomohiro Morio, Masaki Shimizu. Acute tubulointerstitial nephritis following coronavirus disease 2019 mRNA vaccination: a pediatric case report. CEN Case Rep. 2024.10;

10. Masatoshi Takagi, Akira Nishimura. [Molecular profiling of myeloid/natural killer (NK) cell precursor acute leukemia] . Rinsho Ketsueki. 2024.09; 65(9); 1179-1189

11. Dan Tomomasa, Tasuku Suzuki, Ichiro Takeuchi, Kimitoshi Goto, Shin-Ichiro Hagiwara, Dai Keino, Satoshi Saida, Takashi Ishige, Takahiro Kudo, Katsuhide Eguchi, Masataka Ishimura, Yusuke Matsuda, Taizo Wada, Yoshiya Ito, Motohiro Kato, Yoji Sasahara, Tomohiro Morio, Katsuhiro Arai, Holm H Uhlig, Hirokazu Kanegane. Successful Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Patients with IL10RA Deficiency in Japan. J Clin Immunol. 2024.09; 45(1); 6

12. Mori, M; Nakayama, Y; Nishimata, S; Yokoyama, T; Matsuoka, R; Hatori, R; Shimizu, M; Arai, K; Etani, Y; Sogo, T; Ishizu, T; Nii, M; Nakashima, R; Shimizu, T. Efficacy and Safety of Long-Term Administration of Esomeprazole in Japanese Pediatric Patients Aged 1-14 Years with Chronic Gastric Acid-Related Disease PEDIATRIC GASTROENTEROLOGY HEPATOLOGY & NUTRITION. 2024.09; 27(5); 274-285

13. Shimizu M, Baba Y. Multiple Conjunctival Ulcers in Behçet Disease. Journal of clinical rheumatology : practical reports on rheumatic & musculoskeletal diseases. 2024.09;

14. Dan Tomomasa, Kay Tanita, Yuriko Hiruma, Akihiro Hoshino, Ko Kudo, Shohei Azumi, Mitsutaka Shiota, Masayoshi Yamaoka, Katsuhide Eguchi, Masataka Ishimura, Yuka Tanaka, Keiji Iwatsuki, Keisuke Okuno, Asahito Hama, Ken-Ichi Sakamoto, Takashi Taga, Kimitoshi Goto, Haruka Ota, Akihiro Ichiki, Kaori Kanda, Takako Miyamura, Saori Endo, Hidenori Ohnishi, Yoji Sasahara, Ayako Arai, Benjamin Fornier, Ken-Ichi Imadome, Tomohiro Morio, Sylvain Latour, Hirokazu Kanegane. Highly sensitive detection of Epstein-Barr virus-infected cells by EBER flow FISH. Int J Hematol. 2024.08; 120(2); 241-251

15. Kanegane, H., Miyamoto, S., Nishimura, A., Yoshida, N. Cord Blood Transplantation for Nonmalignant Diseases Comprehensive Hematology and Stem Cell Research. 2024.08; 4; 84-93

16. Yuzaburo Inoue, Ryoko Sakai, Eisuke Inoue, Kanako Mitsunaga, Masaki Shimizu, Takahiko Sugihara, Masakazu Matsushita, Ken Yamaji, Masaaki Mori, Naoki Shimojo, Takako Miyamae. Nationwide epidemiological survey of juvenile idiopathic arthritis during transition to young adulthood in Japan using the National Database of Designated Incurable Diseases of Japan. Mod Rheumatol. 2024.08;

17. Naoto Yokogawa, Ryoko Sakai, Masakazu Matsushita, Masaki Shimizu, Yuzaburo Inoue, Eisuke Inoue, Ken Yamaji, Masaaki Mori, Takako Miyamae. Delayed global standardization and prefectural disparities in systematic lupus erythematosus treatment in Japan: a nationwide study using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan. Mod Rheumatol. 2024.08;

18. Takanori Utsumi, Miyuki Tsumura, Masato Yashiro, Zenichiro Kato, Kosuke Noma, Fumiaki Sakura, Reiko Kagawa, Yoko Mizoguchi, Shuhei Karakawa, Hidenori Ohnishi, Charlotte Cunningham-Rundles, Peter D Arkwright, Masao Kobayashi, Hirokazu Kanegane, Dusan Bogunovic, Bertrand Boisson, Jean-Laurent Casanova, Takaki Asano, Satoshi Okada. Correction to: Exclusive Characteristics of the p.E555K Dominant-Negative Variant in Autosomal Dominant E47 Deficiency. J Clin Immunol. 2024.08; 44(8); 178

19. Takahiro Tomoda, Akira Nishimura, Takahiro Kamiya, Kumi Inoue, Harutaka Katano, Shun Iida, Akihiro Hoshino, Takeshi Isoda, Kohsuke Imai, Michiko Kajiwara, Masatoshi Takagi, Hirokazu Kanegane, Nozomu Hanaoka, Tomohiro Morio. Immune reconstitution and cidofovir administration rescue human adenovirus hepatitis after allogeneic hematopoietic cell transplantation. Transpl Immunol. 2024.07; 102093

20. Toru Kanamori, Tomohiro Udagawa, Takayuki Fujii, Hiroyoshi Matsukura, Yuka Iwaya, Motoshi Sonoda, Keisuke Sugimoto, Masahiro Takeguchi, Atsunori Yoshino, I-Feng Wang, Daw-Yang Hwang, Harry W Schroeder, Masaki Shimizu, Hans D Ochs, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Discordant Phenotypes of Nephritis in Patients with X-linked Agammaglobulinemia. J Clin Immunol. 2024.07; 44(7); 164

21. Takanori Utsumi, Miyuki Tsumura, Masato Yashiro, Zenichiro Kato, Kosuke Noma, Fumiaki Sakura, Reiko Kagawa, Yoko Mizoguchi, Shuhei Karakawa, Hidenori Ohnishi, Charlotte Cunningham-Rundles, Peter D Arkwright, Masao Kobayashi, Hirokazu Kanegane, Dusan Bogunovic, Bertrand Boisson, Jean-Laurent Casanova, Takaki Asano, Satoshi Okada. Exclusive Characteristics of the p.E555K Dominant-Negative Variant in Autosomal Dominant E47 Deficiency. J Clin Immunol. 2024.07; 44(7); 167

22. Francesco Baldo, Remco G A Erkens, Mao Mizuta, Greta Rogani, Federica Lucioni, Claudia Bracaglia, Dirk Foell, Marco Gattorno, Marija Jelusic, Jordi Anton, Paul Brogan, Scott Canna, Shanmuganathan Chandrakasan, Randy Q Cron, Fabrizio De Benedetti, Alexei Grom, Merav Heshin-Bekenstein, AnnaCarin Horne, Raju Khubchandani, Seza Ozen, Pierre Quartier, Angelo Ravelli, Masaki Shimizu, Grant Schulert, Christiaan Scott, Rashmi Sinha, Nicolino Ruperto, Joost F Swart, Sebastiaan Vastert, Francesca Minoia, . Current treatment in macrophage activation syndrome worldwide: a systematic literature review to inform the METAPHOR project. Rheumatology (Oxford). 2024.07;

23. Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Maho Hatano, Kei Takasawa, Takahiro Kamiya, Keiji Akamine, Takayuki Tanaka, Toshinori Minato, Makoto Ono, Koji Yokoyama, Atsuko Arisaka, Takahiro Yasumi, Kazuyuki Ueno, Shuhei Fujita, Yumi Tanaka, Daisuke Hayashi, Hiroki Nishikawa, Yuji Fujita, Yuki Yuza, Masaaki Mori, Tomohiro Morio, Masaki Shimizu. Pathogenic role and diagnostic utility of interferon-α in histiocytic necrotizing lymphadenitis. Clin Immunol. 2024.07; 266; 110324

24. Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Mao Mizuta, Yasuo Nakagishi, Naomi Iwata, Koji Yokoyama, Junko Yasumura, Keiji Akamine, Kazuyuki Ueno, Shuhei Fujita, Kenichi Watanabe, Shojiro Watanabe, Hiroki Nishikawa, Junya Fujimura, Masaaki Mori, Masaki Shimizu. Serum interleukin-18 levels can improve the diagnostic performance of the PRINTO and ILAR criteria for systemic juvenile idiopathic arthritis. Cytokine. 2024.07; 182; 156719

25. Hanae Miyazawa, Masahiro Muraoka, Yusuke Matsuda, Tomoko Toma, Tomohiro Morio, Tomonari Shigemura, Kohei Haraguchi, Tadashi Matsubayashi, Toshinao Kawai, Yuya Shirai, Taizo Wada. Clinical and molecular significance of flow cytometric analysis for reactive oxygen species production and residual p67phox expression in p67phox-deficient chronic granulomatous disease. Scand J Immunol. 2024.07; 100(1); e13372

26. Takasawa Kei, Iemura Ryosei, Orimoto Ryuta, Yamano Haruki, Kirino Shizuka, Adachi Eriko, Saito Yoko, Yamamoto Kurara, Matsuda Nozomi, Takishima Shigeru, Shuno Kumi, Tajima Hanako, Sugie Manabu, Mizuno Yuki, Sutani Akito, Okamoto Kentaro, Masue Michiya, Morio Tomohiro, Kashimada Kenichi. Clinical management of diazoxide-unresponsive congenital hyperinsulinism: A single-center experience Clinical Pediatric Endocrinology. 2024.07; 33(3); 187-194

27. Hoshino A, Picard BH, Polychronopoulou S, Kelaidi C, Azarnoush S, Kracker S, Rieux-Laucat F, Boutboul D, Latour S. Loss-of-phosphorylation of IKZF1 results in gain-of-function associated with immune dysregulation J Allergy Clin Immunol. 2024.07; 154(1); 229-236

28. Tanja C Vallée, Jannik S Glasmacher, Hannes Buchner, Peter D Arkwright, Uta Behrends, Anastasia Bondarenko, Michael J Browning, David Buchbinder, Alessandro Cattoni, Liudmyla Chernyshova, Peter Ciznar, Theresa Cole, Wojciech Czogała, Gregor Dueckers, John David M Edgar, Fatih Erbey, Anders Fasth, Francesca Ferrua, Renata Formankova, Eleonora Gambineri, Andrew R Gennery, Frederick D Goldman, Luis I Gonzalez-Granado, Carsten Heilmann, Tarja Heiskanen-Kosma, Hanna Juntti, Leena Kainulainen, Hirokazu Kanegane, Neslihan E Karaca, Sara S Kilic, Christoph Klein, Sylwia Kołtan, Irina Kondratenko, Isabelle Meyts, Gulnara M Nasrullayeva, Lucia D Notarangelo, Srdjan Pasic, Isabelle Pellier, Claudio Pignata, Siraj Misbah, Ansgar Schulz, Gesmar R Segundo, Anna Shcherbina, Mary Slatter, Robert Sokolic, Pere Soler-Palacin, Polina Stepensky, Joris M van Montfrans, Samppa Ryhänen, Beata Wolska-Kuśnierz, John B Ziegler, Xiaodong Zhao, Alessandro Aiuti, Hans D Ochs, Michael H Albert. Wiskott-Aldrich syndrome: a study of 577 patients defines the genotype as a biomarker for disease severity and survival. Blood. 2024.06; 143(24); 2504-2516

29. Susumu Yamazaki, Masaki Shimizu, Ayane Yakabe, Eisuke Inage, Keisuke Jimbo, Mitsuyoshi Suzuki, Futaba Miyaoka, Shuya Kaneko, Hitoshi Irabu, Asami Shimbo, Yoshiyuki Ohtomo, Masaaki Mori, Tomohiro Morio, Toshiaki Shimizu. Successful treatment with tofacitinib for anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive juvenile dermatomyositis: case reports and review of the literature. Immunol Med. 2024.06; 47(2); 110-117

30. Sho Hashiguchi, Dan Tomomasa, Takuro Nishikawa, Shuji Ishikawa, Harumi Akaike, Hidehiko Kobae, Tsuyoshi Shirai, Toshikage Nagao, Kosuke Noma, Satoshi Okada, Kazuhiro Kamuro, Yasuhiro Okamoto, Hirokazu Kanegane. 18q Deletion Syndrome Presenting with Late-Onset Combined Immunodeficiency. J Clin Immunol. 2024.06; 44(7); 154

31. Noboru Uchida, Tomohiro Ishii, Gen Nishimura, Takeshi Sato, Gen Kuratsuji, Keisuke Nagasaki, Yuki Hosokawa, Eriko Adachi, Kei Takasawa, Kenichi Kashimada, Yuko Tsujioka, Tomonobu Hasegawa. RMRP-related short stature: A report of six additional Japanese individuals with cartilage hair hypoplasia and literature review. Am J Med Genet A. 2024.06; 194(6); e63562

32. Rintaro Ono, Kenichi Sakamoto, Ko Kudo, Aki Sato, Kazuko Kudo, Hisanori Fujino, Yuta Kawahara, Hiroya Hashimoto, Takehiko Doi, Ryu Yanagisawa, Toyotaka Kawamata, Osamu Miyazaki, Atsuko Nakazawa, Yasunori Ota, Hirokazu Kanegane, Yozo Nakazawa, Keizo Horibe, Akiko M Saito, Atsushi Manabe, Kensuke Usuki, Hitoshi Kiyoi, Akira Morimoto, Arinobu Tojo, Yoko Shioda. Phase II study in children and adults under 40 years with newly diagnosed Langerhans cell histiocytosis: protocol for an LCH-19-MSMFB clinical trial in Japan. BMJ Open. 2024.06; 14(6); e084159

33. Yamazaki Susumu, Shimizu Masaki, Yakabe Ayane, Inage Eisuke, Jimbo Keisuke, Suzuki Mitsuyoshi, Miyaoka Futaba, Kaneko Shuya, Irabu Hitoshi, Shimbo Asami, Ohtomo Yoshiyuki, Mori Masaaki, Morio Tomohiro, Shimizu Toshiaki. Successful treatment with tofacitinib for anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive juvenile dermatomyositis: case report and review of the literature(タイトル和訳中) Immunological Medicine. 2024.06; 47(2); 110-117

34. Yuichi Nagamatsu, Takeshi Isoda, Motoki Inaji, Jun Oyama, Daiki Niizato, Dan Tomomasa, Noriko Mitsuiki, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Intracranial residual lesions following early intensification in a patient with T-cell acute lymphoblastic leukemia: a case report. BMC Pediatr. 2024.05; 24(1); 304

35. Manabu S, Nawa N, Noguchi Y, Taki A, Kashimada A, Honda I, Koyama A, Okazaki K, Kondo M, Miyahara H, Ito K, Yamauchi T, Kondo T, Honda-Ozaki F, Kusuda S, Morioka C, Fujiwara T, Morio T, Kashimada K. Stage III Chorioamnionitis Is Associated with Reduced Risk of Severe Retinopathy of Prematurity. The Journal of pediatrics. 2024.05; 114085

36. Miyamoto S, Niizato D, Tomomasa D, Nishimura A, Hoshino A, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Kajiwara M, Azumi S, Hirabayashi S, Sakamoto K, Kishimoto K, Miyamura T, Umeda K, Hirose A, Keino D, Yanagimachi M, Kanda K, Sakai Y, Ikawa Y, Watanabe K, Tanaka K, Mori T, Ichinohe T, Sakaguchi H, Morio T, Kanegane H. Allogeneic Hematopoietic cell Transplantation Using Alemtuzumab in Asian Patients with Inborn Errors of Immunity. Journal of clinical immunology. 2024.05; 44(6); 126

37. Dan Tomomasa, Beom Hee Lee, Yuki Hirata, Yuzaburo Inoue, Hidetaka Majima, Yusuke Imanaka, Takaki Asano, Takashi Katakami, Jina Lee, Atsushi Hijikata, Wittawin Worakitchanon, Xi Yang, Xiaowen Wang, Akira Watanabe, Katsuhiko Kamei, Yasufumi Kageyama, Go Hun Seo, Akihiro Fujimoto, Jean-Laurent Casanova, Anne Puel, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Hirokazu Kanegane. Inherited CARD9 Deficiency Due to a Founder Effect in East Asia. J Clin Immunol. 2024.05; 44(5); 121

38. Ishii T, Nawa N, Hosokawa S, Morio T, Fujiwara T. Exploring viral infections' role in Kawasaki disease onset: A study during the COVID-19 pandemic. Journal of medical virology. 2024.05; 96(5); e29660

39. Yuri Hayashida, Maho Hatano, Kazuyuki Ito, Manabu Sugie, Junko Kunieda, Masaki Shimizu, Tomohiro Morio, Chikako Morioka. Case Report: A neonatal case of cryopyrin-associated periodic syndrome with severe funisitis and neonatal asphyxia. Front Pediatr. 2024.05; 12; 1397412

40. Takashi Ishikawa, Kenichi Nishimura, Nami Okamoto, Keiji Akamine, Natsumi Inoue, Hitoshi Irabu, Kentaro Kato, Hiroshi Keino, Masayo Kojima, Hiroshi Kubo, Kazuichi Maruyama, Mao Mizuta, Kosuke Shabana, Masaki Shimizu, Yuko Sugita, Yukiko Takakuwa, Satoshi Takanashi, Hiroshi Takase, Hiroaki Umebayashi, Natsuka Umezawa, Shingo Yamanishi, Kazuko Yamazaki, Masato Yashiro, Takahiro Yasumi, Masaaki Mori. Efficacy and safety of tumor necrosis factor inhibitors for systemic juvenile idiopathic arthritis: a systematic review. Mod Rheumatol. 2024.05;

41. Kenichi Nishimura, Takashi Ishikawa, Nami Okamoto, Keiji Akamine, Natsumi Inoue, Hitoshi Irabu, Kentaro Kato, Hiroshi Keino, Masayo Kojima, Hiroshi Kubo, Kazuichi Maruyama, Mao Mizuta, Kosuke Shabana, Masaki Shimizu, Yuko Sugita, Yukiko Takakuwa, Satoshi Takanashi, Hiroshi Takase, Hiroaki Umebayashi, Natsuka Umezawa, Shingo Yamanishi, Kazuko Yamazaki, Masato Yashiro, Takahiro Yasumi, Masaaki Mori. Efficacy and safety of abatacept for systemic juvenile idiopathic arthritis: a systematic review. Mod Rheumatol. 2024.05;

42. Masafumi Yamaguchi, Yukihiro Sera, Hanae Toga-Yamaguchi, Hirokazu Kanegane, Yusuke Iguchi, Kingo Fujimura. Knockdown of the Shwachman-Diamond syndrome gene, SBDS, induces galectin-1 expression and impairs cell growth. Int J Hematol. 2024.04; 119(4); 383-391

43. Naotaka Tamai, Masayoshi Shinjoh, Hiroyuki Oikawa, Riku Hamada, Tomohiro Morio, Goro Koinuma, Takao Takahashi. serotype 24B in an immunocompetent child. Radiol Case Rep. 2024.04; 19(4); 1642-1645

44. Huan-Ting Lin, Masatoshi Takagi, Kenji Kubara, Kazuto Yamazaki, Fumiko Michikawa, Takashi Okumura, Takuya Naruto, Tomohiro Morio, Koji Miyazaki, Hideki Taniguchi, Makoto Otsu. Monoallelic KRAS (G13C) mutation triggers dysregulated expansion in induced pluripotent stem cell-derived hematopoietic progenitor cells. Stem Cell Res Ther. 2024.04; 15(1); 106

45. Wenguang Jia, Xiaoqin Chen, Jianming Luo, Vikram Sumbly, Hirokazu Kanegane, Yunyan He. Case report: emapalumab treatment for a pediatric Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis (EBV-HLH) patient with cytokine storm enabling allogeneic hematopoietic cell transplantation. Transl Pediatr. 2024.04; 13(4); 663-672

46. Shoichiro Tateishi, Shoichi Shimizu, Kunihiko Moriya, Hirokazu Kanegane, Kohsuke Imai. A deep intronic BTK variant underlies X-linked agammaglobulinemia. J Clin Immunol. 2024.04; 44(4); 89

47. Marie Materna, Ottavia M Delmonte, Marita Bosticardo, Mana Momenilandi, Peyton E Conrey, Bénédicte Charmeteau-De Muylder, Clotilde Bravetti, Rebecca Bellworthy, Axel Cederholm, Frederik Staels, Christian A Ganoza, Samuel Darko, Samir Sayed, Corentin Le Floc'h, Masato Ogishi, Darawan Rinchai, Andrea Guenoun, Alexandre Bolze, Taushif Khan, Adrian Gervais, Renate Krüger, Mirjam Völler, Boaz Palterer, Mahnaz Sadeghi-Shabestari, Anne Langlois de Septenville, Chaim A Schramm, Sanjana Shah, John J Tello-Cajiao, Francesca Pala, Kayla Amini, Jose S Campos, Noemia Santana Lima, Daniel Eriksson, Romain Lévy, Yoann Seeleuthner, Soma Jyonouchi, Manar Ata, Fatima Al Ali, Caroline Deswarte, Anaïs Pereira, Jérôme Mégret, Tom Le Voyer, Paul Bastard, Laureline Berteloot, Michaël Dussiot, Natasha Vladikine, Paula P Cardenas, Emmanuelle Jouanguy, Mashael Alqahtani, Amal Hasan, Thangavel Alphonse Thanaraj, Jérémie Rosain, Fahd Al Qureshah, Vito Sabato, Marie Alexandra Alyanakian, Marianne Leruez-Ville, Flore Rozenberg, Elie Haddad, Jose R Regueiro, Maria L Toribio, Judith R Kelsen, Mansoor Salehi, Shahram Nasiri, Mehdi Torabizadeh, Hassan Rokni-Zadeh, Majid Changi-Ashtiani, Nasimeh Vatandoost, Hossein Moravej, Seyed Mohammad Akrami, Mohsen Mazloomrezaei, Aurélie Cobat, Isabelle Meyts, Etsushi Toyofuku, Madoka Nishimura, Kunihiko Moriya,

Tomoyuki Mizukami, Kohsuke Imai, Laurent Abel, Bernard Malissen, Fahd Al-Mulla, Fowzan Sami Alkuraya, Nima Parvaneh, Horst von Bernuth, Christian Beetz, Frédéric Davi, Daniel C Douek, Rémi Cheynier, David Langlais, Nils Landegren, Nico Marr, Tomohiro Morio, Mohammad Shahrooei, Rik Schrijvers, Sarah E Henrickson, Hervé Luche, Luigi D Notarangelo, Jean-Laurent Casanova, Vivien Béziat. The immunopathological landscape of human pre-TCR α deficiency: From rare to common variants. Science. 2024.03; 383(6686); eadh4059

48. Hirokazu Kanegane, Akifumi Endo, Satoshi Okada, Hidenori Ohnishi, Masataka Ishimura, Ryuta Nishikomori, Kohsuke Imai, Shigeaki Nonoyama, Hideki Muramatsu, Taizo Wada, Atsushi Kuga, Ko Sakamoto, Sharon Russo-Schwarzbaum, Liang-Hui Chu, Barbara McCoy, Zhaoyang Li, Leman Yel. Pharmacokinetics, safety, and efficacy of 20% subcutaneous immunoglobulin (Ig20Gly) administered weekly or every 2 weeks in Japanese patients with primary immunodeficiency diseases: a phase 3, open-label study. Immunother Adv. 2024.03; 4(1); ltae001

49. Eriko Adachi, Ryuichi Nakagawa, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Maki Gau, Shizuka Kirino, Analia Yogi, Hisae Nakatani, Kei Takasawa, Tomomi Yamaguchi, Tomoki Kosho, Masanori Murakami, Toshihiro Tajima, Tomonobu Hasegawa, Tetsuya Yamada, Tomohiro Morio, Osamu Ohara, Kenichi Kashimada. A MinION-based Long-Read Sequencing Application With One-Step PCR for the Genetic Diagnosis of 21-Hydroxylase Deficiency. J Clin Endocrinol Metab. 2024.02; 109(3); 750-760

50. Keisuke Ogasawara, Makoto Ono, Keita Tamanuki, Ryosuke Wakatsuki, Kento Inoue, Yoshinori Tateishi, Rentaro Oda, Shogo Shirane, Hiraku Funakoshi, Hirokazu Kanegane, Yoshiho Hatai. Respiratory Symptoms are the First Presentation of Liver Abscess. Pediatr Infect Dis J. 2024.02; 43(2); e71-e73

51. Paul Bastard, Adrian Gervais, Maki Taniguchi, Liisa Saare, Karita Särekannu, Tom Le Voyer, Quentin Philippot, Jérémie Rosain, Lucy Bizien, Takaki Asano, Marina Garcia-Prat, Alba Parra-Martínez, Mélanie Migaud, Miyuki Tsumura, Francesca Conti, Alexandre Belot, Jacques G Rivière, Tomohiro Morio, Junko Tanaka, Etienne Javouhey, Filomeen Haerynck, Sotirija Duvlis, Tayfun Ozcelik, Sevgi Keles, Yacine Tandjaoui-Lambiotte, Simon Escoda, Maya Husain, Qiang Pan-Hammarström, Lennart Hammarström, Gloria Ahlijah, Anthony Abi Haidar, Camille Soudee, Vincent Arseguel, Hassan Abolhassani, Sabina Sahanic, Ivan Tancevski, Yoko Nukui, Seiichi Hayakawa, George P Chrousos, Athanasios Michos, Elizabeth-Barbara Tatsi, Filippos Filippatos, Agusti Rodriguez-Palmero, Jesus Troya, Imran Tipu, Isabelle Meyts, Lucie Roussel, Sisse Rye Ostrowski, Laire Schidlowski, Carolina Prando, Antonio Condino-Neto, Nathalie Cheikh, Ahmed A Bousfiha, Jalila El Bakkouri, Pärt Peterson, Aurora Pujol, Romain Lévy, Pierre Quartier, Donald C Vinh, Bertrand Boisson, Vivien Béziat, Shen-Ying Zhang, Alessandro Borghesi, Andrea Pession, Evangelos Andreakos, Nico Marr, Alexios-Fotios A Mentis, Trine H Mogensen, Carlos Rodríguez-Gallego, Pere Soler-Palacin, Roger Colobran, Vallo Tillmann, Bénédicte Neven, Sophie Trouillet-Assant, Petter Brodin, Laurent Abel, Emmanuelle Jouanguy, Qian Zhang, Federico Martinón-Torres, Antonio Salas, Alberto Gómez-Carballa, Luis I Gonzalez-Granado, Kai Kisand, Satoshi Okada, Anne Puel, Aurélie Cobat, Jean-Laurent Casanova. Higher COVID-19 pneumonia risk associated with anti-IFN-α than with anti-IFN-ω auto-Abs in children. J Exp Med. 2024.02; 221(2); e20231353

52. Öner Özdemir, Ümmügülsüm Dikici, Murat HakkıYarar, Motoi Yamashita, Tomohiro Morio. A Rare AIOLOS N160S Variant Causing IEI in Human. J Clin Immunol. 2024.02; 44(2); 57

53. T Tsubata, N Umezawa, T Yasumi, H Kanegane, S Yasuda. Impaired development of B cells with PRF1 variants in an adult Scand J Rheumatol. 2024.01; 53(1); 74-76

54. Shogo Wada, Takeshi Namiki, Aoi Ebata, Takuya Takeichi, Masashi Akiyama, Masafumi Yamada, Atsushi Hijikata, Yutaka Shimomura, Hirokazu Kanegane, Naoko Okiyama. Generalized pustular psoriasis that developed in a patient with an NFKB2 variant. J Dtsch Dermatol Ges. 2024.01; 22(1); 118-120

55. Daniela Matuozzo, Estelle Talouarn, Astrid Marchal, Peng Zhang, Jeremy Manry, Yoann Seeleuthner, Yu Zhang, Alexandre Bolze, Matthieu Chaldebas, Baptiste Milisavljevic, Adrian Gervais, Paul Bastard, Takaki Asano, Lucy Bizien, Federica Barzaghi, Hassan Abolhassani, Ahmad Abou Tayoun, Alessandro Aiuti, Ilad Alavi Darazam, Luis M Allende, Rebeca Alonso-Arias, Andrés Augusto Arias, Gokhan Aytekin, Peter Bergman, Simone Bondesan, Yenan T Bryceson, Ingrid G Bustos, Oscar Cabrera-Marante, Sheila Carcel, Paola Carrera, Giorgio Casari, Khalil Chaïbi, Roger Colobran, Antonio Condino-Neto, Laura E Covill, Ottavia M Delmonte, Loubna El Zein, Carlos Flores, Peter K Gregersen, Marta Gut, Filomeen Haerynck, Rabih Halwani, Selda Hancerli, Lennart Hammarström, Nevin Hatipoğlu,

Adem Karbuz, Sevgi Keles, Christèle Kyheng, Rafael Leon-Lopez, Jose Luis Franco, Davood Mansouri, Javier Martinez-Picado, Ozge Metin Akcan, Isabelle Migeotte, Pierre-Emmanuel Morange, Guillaume Morelle, Andrea Martin-Nalda, Giuseppe Novelli, Antonio Novelli, Tayfun Ozcelik, Figen Palabiyik, Qiang Pan-Hammarström, Rebeca Pérez de Diego, Laura Planas-Serra, Daniel E Pleguezuelo, Carolina Prando, Aurora Pujol, Luis Felipe Reyes, Jacques G Rivière, Carlos Rodriguez-Gallego, Julian Rojas, Patrizia Rovere-Querini, Agatha Schlüter, Mohammad Shahrooei, Ali Sobh, Pere Soler-Palacin, Yacine Tandjaoui-Lambiotte, Imran Tipu, Cristina Tresoldi, Jesus Troya, Diederik van de Beek, Mayana Zatz, Pawel Zawadzki, Saleh Zaid Al-Muhsen, Mohammed Faraj Alosaimi, Fahad M Alsohime, Hagit Baris-Feldman, Manish J Butte, Stefan N Constantinescu, Megan A Cooper, Clifton L Dalgard, Jacques Fellay, James R Heath, Yu-Lung Lau, Richard P Lifton, Tom Maniatis, Trine H Mogensen, Horst von Bernuth, Alban Lermine, Michel Vidaud, Anne Boland, Jean-François Deleuze, Robert Nussbaum, Amanda Kahn-Kirby, France Mentre, Sarah Tubiana, Guy Gorochov, Florence Tubach, Pierre Hausfater, Isabelle Meyts, Shen-Ying Zhang, Anne Puel, Luigi D Notarangelo, Stephanie Boisson-Dupuis, Helen C Su, Bertrand Boisson, Emmanuelle Jouanguy, Jean-Laurent Casanova, Qian Zhang, Laurent Abel, Aurélie Cobat. Correction: Rare predicted loss-of-function variants of type I IFN immunity genes are associated with life-threatening COVID-19. Genome Med. 2024.01; 16(1); 6

56. Risa Konishi, Yuki Ichimura, Ryota Tanaka, Hanako Miyahara, Mari Okune, Masahide Miyamoto, Monami Hara, Atsushi Iwabuchi, Hidetoshi Takada, Yasuo Nakagishi, Mao Mizuta, Shuya Kaneko, Masaki Shimizu, Tomohiro Morio, Ichizo Nishino, Toshifumi Nomura, Naoko Okiyama. Possible correlation between serum interleukin-8 levels and the activity of myositis in anti-NXP2 antibody-positive dermatomyositis. Immunol Med. 2024.01; 1-6

57. Miyamoto T, Izawa K, Masui S, Yamazaki A, Yamasaki Y, Matsubayashi T, Shiraki M, Ohnishi H, Yasumura J, Tomohiro K, Miyamae T, Matsubara T, Arakawa N, Ishige T, Takizawa T, Shimbo A, Shimizu M, Kimura N, Maeda Y, Maruyama Y, Shigemura T, Furuta J, Sato S, Tanaka H, Izumikawa M, Yamamura M, Hasegawa T, Kaneko H, Nakagishi Y, Nakano N, Iida Y, Nakamura T, Wakiguchi H, Hoshina T, Kawai T, Murakami K, Akizuki S, Morinobu A, Ohmura K, Eguchi K, Sonoda M, Ishimura M, Furuno K, Kashiwado M, Mori M, Kawahata K, Hayama K, Shimoyama K, Sasaki N, Ito T, Umebayashi H, Omori T, Nakamichi S, Dohmoto T, Hasegawa Y, Kawashima H, Watanabe S, Taguchi Y, Nakaseko H, Iwata N, Kohno H, Ando T, Ito Y, Kataoka Y, Saeki T, Kaneko U, Murase A, Hattori S, Nozawa T, Nishimura K, Nakano R, Watanabe M, Yashiro M, Nakamura T, Komai T, Kato K, Honda Y, Hiejima E, Yonezawa A, Bessho K, Okada S, Ohara O, Takita J, Yasumi T, Nishikomori R, Japan CAPS working group. Clinical characteristics of cryopyrin-associated periodic syndrome and long-term real-world efficacy and tolerability of canakinumab in Japan: results of a nationwide survey. Arthritis & rheumatology (Hoboken, N.J.). 2024.01;

58. Baba H, Kimura N, Kanegane H, Miya F, Kosaki K, Morio T, Koike R. GATA2 deficiency of a novel missense variant with multiorgan inflammation. Rheumatology (Oxford, England). 2024.01; 63(8); e226-e228

59. Masatoshi Takagi, Chihiro Tomoyasu, Junko Yamanaka, Takayuki Hamabata, Takeshi Isoda, Takako Miyamura, Kohsuke Imai. Immunological assessment of a patient with infant acute lymphoblastic leukemia. Pediatr Int. 2024.01; 66(1); e15738

60. Causative mechanisms and clinical impact of immunoglobulin deficiencies in ataxia telangiectasia 2024.01;

61. Yuki Hitomi, Kazuko Ueno, Yoshihiro Aiba, Nao Nishida, Yosuke Kawai, Minae Kawashima, Seik-Soon Khor, Sanami Takada, Chisato Iwabuchi, Masao Nagasaki, Katsushi Tokunaga, Minoru Nakamura. rs10924104 in the expression enhancer motif of < i> CD58< /i> confers susceptibility to human autoimmune diseases HUMAN GENETICS. 2024.01; 143(1); 19-33

62. Hatano, M; Kaneko, S; Irabu, H; Shimizu, M. Successful treatment of Sweet syndrome complicated by Behcet disease with adalimumab PEDIATRICS INTERNATIONAL. 2024.01; 66(1); e15815

63. Kazuaki Matsumoto, Kazuki Okuyama, Tom Sidwell, Motoi Yamashita, Takaho Endo, Naoko Satoh-Takayama, Hiroshi Ohno, Tomohiro Morio, Ellen V Rothenberg, Ichiro Taniuchi. A Bcl11b N797K variant isolated from an immunodeficient patient inhibits early thymocyte development in mice. Front Immunol. 2024; 15; 1363704

64. Martin E, Winter S, Garcin C, Tanita K, Hoshino A, Lenoir C, Fournier B, Migaud M, Boutboul D, Simonin M, Fernandes A, Bastard P, Le Voyer T, Roupie AL, Ben Ahmed Y, Leruez-Ville M, Burgard

M, Rao G, Ma CS, Masson C, Soudais C, Picard C, Bustamante J, Tangye SG, Cheikh N, Seppänen M, Puel A, Daly M, Casanova JL, Neven B, Fischer A, Latour S. Role of IL-27 in Epstein-Barr virus infection revealed by IL-27RA deficiency Nature. 2024; 628; 620-629

1. 清水正樹, 畠野真帆, 伊良部仁, 林祐子, 高瀬博. ぶどう膜炎発症を契機に診断に至った環軸関節炎で発症した少関節炎型若年性特発性関節炎の女児例 小児科. 2024.11; 65(11); 1176-1180
2. 清水正樹. 【小児臨床検査 2024】免疫学的検査　サイトカイン　生体防御 (自然免疫 · 炎症) にかかわる主なサイトカインと可溶性受容体　IL-1,IL-6,IL-18,I 型 IFN,IFN-γ,TNF-α, 可溶性 TNF-RI, 可溶性 TNF-RII 小児内科 . 2024.10; 56(増刊); 292-295
3. 清水 正樹. マクロファージ活性化症候群の炎症病態における炎症性サイトカインの役割 臨床免疫 · アレルギー科. 2024.09; 82(3); 305-311
4. 林田 悠里, 四手井 綱則, 野口 優輔, 新井 佳奈, 伊藤 一之, 杉江 学, 森丘 千夏子, 不殿 絢子, 宮坂 尚幸, 竹内 崇, 森尾 友宏. メンタルヘルス支援を要した妊産婦と出生児の短期予後の検討 周産期医学. 2024.09; 54(9); 1312-1316
5. 金子修也, 清水正樹. 血清サイトカインプロファイルおよび T 細胞受容体レパトア解析を用いた川崎病および mimickers の鑑別バイオマーカーの確立 アレルギーの臨床. 2024.08; 44(600); 46-49
6. 鹿島田健一. 特集　思春期にある人々を取り巻く現状と課題【知っておきたい知識】思春期の身体的成熟と慢性疾患; 内分泌科医の視点から 小児看護. 2024.08; 47(8); 929-934
7. 松岡 高弘, 伊良部 仁, 金子 修也, 真保 麻実, 清水 正樹, 森尾 友宏. 冠動脈拡大を伴い川崎病ショック症候群と鑑別を要したトキシックショック症候群 日本小児科学会雑誌. 2024.08; 128(8); 1078-1083
8. 金子 修也, 清水 正樹. 血清サイトカインプロファイルおよび T 細胞受容体レパトア解析を用いた川崎病および mimickers の鑑別バイオマーカーの確立 アレルギーの臨床. 2024.08; 44(8); 642-645
9. 清水正樹. 【公費補助制度を使いこなす!】全身性エリテマトーデス 小児科診療. 2024.08; 87(8); 1006-1012
10. 緒方瑛人, 川口晃司, 丹後結衣, 福井渉, 安積昌平, 高地貴行, 小倉妙美, 児玉洋平, 中野玲二, 堀越泰雄, 金兼弘和, 渡邉健一郎. 臍帯血移植を行った重症複合免疫不全症を伴う CHARGE 症候群 日本小児血液 · がん学会誌. 2024.05; 61(1); 12-16
11. 田中俊博, 荒木かほる, 岡田雅彦, 金兼弘和, 多屋馨子, 塚原宏一, 長森恒久, 羽田敦子, 宮田一平, 山田全毅, 橋本浩一, 和田泰三, 片寄雅彦, 神野俊介, 亀井聡信, 清水博之, 新庄正宜 野村直子, 森雅亮. 感染症診断のための核酸検査に関するアンケート調査 小児感染症免疫. 2024.05; 36(2); 183-194
12. 村上てるみ, 絹巻暁子, 小林久人, 荒木俊介, 糸永知代, 岩本典子, 大田千晴, 小泉美紀子, 眞田和哉, 高澤啓, 玉井資, 玉崎章子, 鉄原健一, 松島卓哉, 井原健二, 丸尾良浩, 日本小児科学会将来の小児科医を考える委員会. 将来の小児科医への提言 2024 日本小児科学会雑誌. 2024.05; 128(5); 758-762
13. 酢谷明人, 鹿島田健一. 【これでマスター! 最新 産婦人科ホルモン療法】(第 2 章)B 女性医学　性分化異常参加と婦人科　増刊号. 2024.03; 91; 190-196
14. 清水 正樹. 【診療科連携が必要な境界領域】血球貪食性リンパ組織球症 (HLH) とマクロファージ活性化症候群 (MAS) リウマチ科. 2024.03; 71(3); 227-237
15. 宮岡 双葉, 真保 麻実, 伊良部 仁, 金子 修也, 清水 正樹, 森尾 友宏. 初発時に急性ループス肺炎を認めた全身性エリテマトーデスの 2 例 小児リウマチ. 2024.02; 14(1); 49-55
16. 西川 慶也, 田中 孝之, 石塚 潤, 三木 智貴, 中島 光司, 大塚 沙樹, 末廣 穣, 大封 智雄, 赤杉 和宏, 美馬 隆宏, 金子 修也, 清水 正樹, 樋口 嘉久. COVID-19 患者との濃厚接触急性期に心原性ショックを呈した小児多系統炎症性症候群 日本小児科学会雑誌. 2024.01; 128(1); 28-35
17. 木島 英美, 横山 はるな, 岡田 麻理, 山村 悠, 中谷 久恵, 今井 雅子, 鈴木 奈都子, 金子 修也, 水野 朋子, 清水 正樹, 長澤 正之, 大柴 晃洋. 脳症と ICU-acquired weakness を合併した毒素性ショック症候群の 1 例 脳と発達. 2024.01; 56(1); 58-62
18. 西川 慶也, 田中 孝之, 石塚 潤, 三木 智貴, 中島 光司, 大塚 沙樹, 末廣 穣, 大封 智雄, 赤杉 和宏, 美馬 隆宏, 金子 修也, 清水 正樹, 樋口 嘉久. COVID-19 患者との濃厚接触急性期に心原性ショックを呈した小児多系統炎症性症候群 日本小児科学会雑誌. 2024.01; 128(1); 28-35

[書籍等出版物]

1. Hirokazu Kanegane, Satoshi Miyamoto, Akira Nishimura, Nao Yoshida. Comprehensive Hematology and Stem Cell Research. Elsevier, 2024.09 (ISBN : 978-0443157172)

2. Hirokazu Kanegane. Lymphoproliferative Syndrome 2 (LPFS2). SpringerLink, 2024.09

1. 金兼弘和, 西小森隆太. 小児科診療. 診断と治療社, 2024.08

2. 石井卓. 小学 3 年生の疲労感～肺高血圧症とは何か～ 日本医事新報社「小児循環器入門」1 章外来編-13 . 日本医事新報社, 2024.07 (ISBN : 978-4-7849-2489-9)

3. 石井卓. 局所麻酔薬　日本小児循環器学会編集「小児 · 成育循環器学 改訂第 2 版」第 II 章 C 心血管系の薬理学. 株式会社 診断と治療社, 2024.07 (ISBN : 9784787826329)

4. 金兼弘和, 谷田けい. 小児科　診断 · 治療指針　改定第 3 版. 中山書店, 2024.04 (ISBN : 978-4-521-75075-0)

5. 石井卓. 総肺静脈還流異常症　東京医学社「小児内科」2024 年 4 月増大号　完全把握をめざす小児の心疾患　先天性心疾患（各論）　. 東京医学社, 2024.04

[総説]

1. Ayami Ohya, Dan Tomomasa, Fumiaki Sakura, Takaki Asano, Atsuko Arisaka, Takumi Akashi, Menno C van Zelm, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Hirokazu Kanegane. A case of primary ciliary dyskinesis with DRC1 deletion and literature review: Additional evidence on the founder effect. Pediatr Int. 2024.12; 66(1); e15808

2. Konishi Risa, Ichimura Yuki, Tanaka Ryota, Miyahara Hanako, Okune Mari, Miyamoto Masahide, Hara Monami, Iwabuchi Atsushi, Takada Hidetoshi, Nakagishi Yasuo, Mizuta Mao, Kaneko Shuya, Shimizu Masaki, Morio Tomohiro, Nishino Ichizo, Nomura Toshifumi, Okiyama Naoko. Possible correlation between serum interleukin-8 levels and the activity of myositis in anti-NXP2 antibody-positive dermatomyositis(タイトル和訳中) Immunological Medicine. 2024.06; 47(2); 100-105

3. Qin Zhao, Qian Zhao, Xuemei Tang, Yunfei An, Zhiyong Zhang, Dan Tomomasa, Atsushi Hijikata, Xi Yang, Hirokazu Kanegane, Xiaodong Zhao. Atypical familial hemophagocytic lymphohistiocytosis type 3 in children: A report of cases and literature review. Pediatr Allergy Immunol. 2024.05; 35(5); e14136

4. Masaki Shimizu. Clinical Features of Cytokine Storm Syndrome. Adv Exp Med Biol. 2024; 1448; 33-42

1. 折本竜太, 鹿島田健一. 【特集　ここまで来た！ 新生児マススクリーニングと対象疾患の治療】以前からの対象疾患-再検査、精密検査、そして治療　先天性副腎過形成症 小児内科. 2024.12; 56(12); 1797-1802

2. 鹿島田健一. つながる内分泌学-古典的な内分泌学から他分野への新たな展開- 小児科診療. 2024.10; 87(10); 3

3. 多田歩未, 井上健斗, 金兼弘和. 免疫疾患をもつ子ども 小児内科 6 月号. 2024.06; 56(6); 1008-1014

4. 鹿島田健一. 先天性副腎過形成の新生児マススクリーニング実施成績 東京都予防医学協会 2024 版. 2024.04; 53; 149-152

5. 鹿島田健一. 子どもの身長 月刊　母子保健. 2024.04; (780); 8-9

6. 佐藤薫、鹿島田健一. 【小児内分泌を楽しく学ぼう】ガイドライン, 診断 · 治療の手引きをどう利用するか? 性分化疾患のガイドラインに基づく対応と考え方 小児内科. 2024.02; 56(2); 209-214

7. 鹿島田健一、桐野玄. 体細胞分化転換機構から解明する性の多様性と性分化疾患の病態 細胞. 2024.01; 56(1); 66-69

8. 高田 紗奈美, 神戸 直智. 【遺伝性皮膚疾患】クリオピリン関連周期熱症候群 皮膚科. 2024.01; 5(1); 51-56

[講演・口頭発表等]

1. Kei Takasawa. Management of Congenital Adrenal Hyperplasia (CAH) during adolescence and transition to adult care. APPES-ISPAE Joint Meeting 2024 (The 13th Biennial Scientific Meeting of APPES, co-organised by the Asia Pacific Pediatric Endocrine Society (APPES) and Indian Society for Pediatric and Adolescent Endocrinology (ISPAE)) 2024.10.01 New Delhi, India

2. Masaki Shimizu. Clinical significance of serum cytokine profiles and cytokine-targeted therapy in systemic juvenile idiopathic arthritis and macrophage activation syndrome. The 11th International Forum of Pediatric Rheumatology and Immunology 2024.12.20 Beijing, China

3. Hirokazu Kanegane. Challenges faced in managing antibody deficiencies and application of SCIG. APAAACI 2024 2024.12.11 Kuala Lumpur

4. Masaki Shimizu. Clinical significance of serum IL-18 levels for diagnosis & monitoring of disease activity in SJIA & MAS. NextGen Therapies in SJIA, Still’s & MAS 2024.11.13 Washington DC, USA

5. Morio T. What Clinicians Can Learn from Inborn Errors of Immunity. 12th Singapore Paediatric and Perinatal Annual Congress 2024 (SiPPAC) 2024.11.09 Singapore

6. Hirokazu Kanegane. Allogeneic hematopoietic cell transplantation recuse monogenic IBD. Translational Gastroenterology and Liver unit Seminar 2024.10.22 Oxford

7. Yui Namikawa, Riski Muhaimin, Dan Tomomasa, Akira Nishimura, Eiichi Ishii, Daisuke Tomizawa, Takako Miyamura, Takeshi Isoda, Masatoshi Takagi. Analysis of Three-Dimensional Genome Structure of KM2TA-Rearranged Infant ALL. 56th Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology 2024.10.19 Hawaii

8. Hirokazu Kanegane. APSID’s 10—Year History and Future Prospects.. ESID 2024 2024.10.17 Marseille

9. Yui Namikawa, Riski Muhaimin, Dan Tomomasa, Akira Nishimura, Eiichi Ishii, Daisuke Tomizawa, Takako Miyamura, Takeshi Isoda, Masatoshi Takagi. Nuclear Structure of KMT2A-Rearranged Infant ALL. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.19 福岡

10. Masaki Shmizu, Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Maho Hatano, Futaba Miyaoka, Yuko Hayashi, Hitoshi Irabu, Yuko Akutsu, Keiji Akamine, Masaaki Mori. Successful treatment with anifrolumab for refractory cutaneous lesions in pediatric systemic lupus erythematosus. APLAR2024 2024.08.22 Singapore, Singapore

11. Kaneko S; Shimbo A; Hatano M; Irabu H; Shimizu M. Clinical significance of serum cytokine profiling for differentiation of underlying diseases of cytokine storm syndrome. APLAR2024 2024.08.22 Singapore, Singapore

12. Yuko Hayashi, Maho Hatano, Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Yuko Akutsu, Masaki Shimizu, Masaaki Mori. Clinical outcomes after SARS-CoV-2 infection and vaccination in patients with pediatric rheumatic diseases. 26th Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress 2024.08.21 シンガポール

13. Satoshi Miyamoto, Kevin Y. Urayama, Akira Nishimura, Setsuo Ota, Riski Muhaimin, Yui Namikawa, Miho Koizumi, Yuki Arakawa, Katsuyoshi Koh, Yuki Yuza, Daisuke Hasegawa, Yuichi Taneyama, Yasuishi Noguchi, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Inukai, Hiroyuki Takahashi, Dai Keino, Daisuke Toyama, Junko Takita, Daisuke Tomizawa, Kazutoshi Koike, Koichi Moriwaki, Yuya Sato, Junya Fujimura, Daisuke Morita, Yujin Sekinaka, Kozue Nakamura, Kazuo Sakashita, Hiroaki Goto, Takeshi Isoda, Kosuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Atsushi Manabe, Hiroaki Honda, Masatoshi Takagi. Germline Variants of Transcription Factors Involved in B-Cell Development Associate with B=ALL and Immunodeficiency. The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13 Hokkaido,Japan

14. Dan Tomomasa, Takahiro Kamiya, Fumiko Honda-Ozaki, Kosuke Noma, Hisako Nakamaki, Atsushi Hijikata, Morito Kurata, Takashi Abe, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Takehiko Mori, Hirokazu Kanegane. Familial B-cell Lymphoma and Lymphopenia Underlie a Novel Germline RAC2 Variant. The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13 Hokkaido,Japan

15. Satoshi Miyamoto, Daiki Niizato, Yohei Nishiyama, Yuya Sasaki, Keisuke Tanaka, Akihiro Hoshino, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Masatoshi Takagi, Shohei Azumi, Kenichi Sakamoto, Kenji Kishimoto, Katsutsugu Umeda, Kenichiro Watanabe, Tatsuo Ichinohe, Takehiko Mori, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Allogenic hematopoietic cell transplantation with alemtuzumab in patients with XIAP deficiency. The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13 Hokkaido,Japan

16. Satoshi Miyamoto, Kevin Y. Urayama, Akira Nishimura, Setsuo Ota, Riski Muhaimin, Yui Namikawa, Miho Koizumi, Yuki Arakawa, Katsuyoshi Koh, Yuki Yuza, Daisuke Hasegawa, Yuichi Taneyama, Yasushi Noguchi, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Inukai, Hiroyuki Takahashi, Dai Keino, Daisuke Toyama, Junko Takita, Daisuke Tomizawa, Kazutoshi Koike, Koichi Moriwaki, Yuya Sato, Junya Fujimura, Daisuke Morita, Yujin Sekinaka, Kozue Nakamura, Kazuo Sakashita, Hiroaki Goto, Takeshi Isoda, Kosuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Atsushi Manabe, Hiroaki Honda, Masatoshi Takagi. Germline variants of transcription factors involved in B-cell development associate with B-ALL and immunodeficiency. The 14th JSH International Symposium 2024 in Hakodate 2024.07.13 Hakodate, Japan

17. Satoshi Miyamoto, Masatoshi Takagi,Tsuyoshi Osawa, Masabumi Sibuya, Tomohiro Morio, Rika Tsuchida. BMP4 exerts anti-neoplastic effect to neuroblastoma via MYCN downregulation.. SIOP Asia 2024 2024.06.24 Kanagawa

18. Hoshino A. Pathophysiology and recent topics in EBV-LPD. 16th Congress of Asia continental branch of International Society of Paediatric Oncology 2024.06.24 Kanagawa,Japan

19. Shuya Kaneko, Maho Hatano, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Masaki Shimizu, Tomohiro Morio. Pathogenic role of inflammasome activation and interleukin-1 β overproductionin Kawasaki disease. The 3rd International Symposium of Clinical Immunology 2024.05.17 Hakodate, Japan

20. Hirokazu Kanegane. Ten-year prospective for the region (APSID role). IPOPI 5th Regional Asian PID Meeting 2024.03.25 Tokyo

21. Satoshi Miyamoto. Recent Advances in Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Japanese Patients with Inborn Errors of Immunity. The 7th Annual Scientific Meeting of JSIAD/ The 5th Asia-Pacific Society for Immunodeficiency (APSID) Congress 2024.03.24 Tokyo, Japan

22. Satoshi Miyamoto, Daiki Niizato, Yohei Nishiyama, Yuya Sasaki, Keisuke Tanaka, Akihiro Hoshino, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Shohei Azumi, Kenichi Sakamoto, Kenji Kishimoto, Katsutsugu Umeda, Kenichiro Watanabe, Tatsuo Ichinohe, Takehiko Mori, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation with Alemtuzumab in patients with XIAP deficiency. The 7th Annual Scientific Meeting of JSIAD/ The 5th Asia-Pacific Society for Immunodeficiency (APSID) Congress 2024.03.22 Tokyo, Japan

23. Satoshi Miyamoto, Akira Nishimura, Setsuo Ota, Miho Koizumi, Takeshi Isoda, Kosuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Hiroaki Honda, Masatoshi Takagi. Heterozygous PAX5 germline variant in common variable immunodeficiency patient with pediatric B-cell acute lymphoblastic leukemia. The 7th Annual Scientific Meeting of JSIAD/ The 5th Asia-Pacific Society for Immunodeficiency (APSID) Congress 2024.03.22 Tokyo, Japan

1. 金兼弘和. 免疫グロブリン補充療法を必要とする先天性免疫異常症について. Tohoku IEI Web Seminar 2024.12.20 仙台

2. 清水正樹. 全身型 JIA と MAS に対する治療. JISEDAI の会 2024.12.15 Web 開催

3. 星野顕宏. 先天性免疫異常症. 第 66 回日本小児血液・がん学会学術集会 2024.12.13 京都

4. 清水正樹. pJIA における最新情報の提供. Lilly pJIA Web Conference 2024.12.11 東京都

5. 清水正樹. 小児リウマチ診療におけるバリシチニブ. 第 2 回 JAK 寺子屋 2024.11.29 神奈川

6. 金兼弘和. 症状から紐解く原発性免疫不全症候群の診断. CMIC Webinar 2024.11.28 東京

7. 金兼弘和. PID 診療の課題と治療の実際. PID Web Seminar 2024.11.25 Web 開催

8. 金兼弘和. 先天性免疫異常症における診断・治療の進歩と課題. 第 56 回日本感染症学会総会・学術集会　ランチョンセミナー 2024.11.17 長崎

9. 西村円香, 友政弾, 水上智之, 金兼弘和. B 細胞欠損症スクリーニングを契機に同定された X 連鎖無ガンマグロブリン血症と Mohr-Tranebjaerg 症候群との隣接遺伝子症候群. 第 56 回日本小児感染症学会総会 · 学術集会 2024.11.17 長崎

10. 橋野健, 松井拓弥, 西川昴佑, 東谷佳祐, 木村峻真, 田中梨菜, 山本大, 金兼弘和. 低身長を契機に診断した活性化 PIK3 δ症候群 2 型の兄妹例. 第 56 回日本小児感染症学会総会 · 学術集会 2024.11.16 長崎

11. 清水正樹. 若年性突発性関節炎に対するバリシチニブ治療. 第 33 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.10.20 京都市

12. 清水正樹. 小児リウマチ性疾患における慢性疼痛に対する交番磁界治療の有用性. 第 33 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.10.20 京都市

13. 清水正樹. ナショナルデータベースによる若年性突発性関節炎の診療実態の解明と医療者アンメットニーズの検証. 第 33 回日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.10.18 京都市

14. 中谷久恵, 齋藤洋子, 山野春樹,Analia Yogi, 桐野玄, 安達恵利子, 高澤啓, 渡辺和宏, 石毛信之, 長谷川泰延, 田島敏広, 鹿島田健一. Androstenedione/Cortisol 比による 21OHD と PORD の鑑別. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.12 神奈川

15. 高橋修平, 堀尚明, 木内歌穂, 草野知江子, 安達恵利子, 鹿島田健一, 石井智弘, 長谷川奉延. 非古典型 21 水酸化酵素欠損症兄弟例の 11-oxygenated androgens. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.11 神奈川

16. 野口優輔, 遠藤健太郎, 安齋達彦, 鎌谷高志, 森丘千夏子, 早田茉莉, 我有茉希, 安達恵利子, 杉江学, 滝敦子, 伊藤一之, 本多泉, 黒田淳平, 岡崎薫, 高橋邦彦, 関矢一郎, 森尾友宏, 鹿島田健一. 胎児発育不全による胎児プログラミングは時期特異性をもつ. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.11 神奈川

17. 橋本敦子, 渡辺和宏, 石毛信之, 高澤啓, 田島敏広, 長谷川奉延, 鹿島田健一. 東京都における LC-MS/MS 法を用いた副腎過形成症スクリーニング二次検査法の再採血判定基準の検証. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.11 神奈川

18. 齋藤洋子, 中谷久恵, 安達恵利子, 桐野玄, 高澤啓, 鹿島田健一. 異常インスリンにより亜急性の発症経過を示す 1b 型糖尿病の成長曲線. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.11 神奈川

19. 石田竜之, 茂木桜, 越智彩子, 永原敬子, 安達昌功, 高澤啓, 鹿島田健一, 安達恵利子. 学童期の黒色表皮種を機に診断されたインスリン受容体異常症 A 型の 1 例. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

20. 橘真紀子, 大戸佑二, 鹿島田健一, 石井智弘, 高橋裕, 室谷浩二, 青木洋子, 黒澤健司, 緒方勤, 川井正信. プラダー · ウィリ症候群における過食の実態および肥満との関連性の検討. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

21. 清水正樹, 金子修也, 真保麻美, 畠野真帆, 宮岡双葉, 伊良部仁, 阿久津裕子, 林祐子, 森雅亮. 全身型若年性特発性関節炎におけるインフラマソーム活性化プロファイル解析. 第 52 回日本臨床免疫学会総会 2024.10.10 東京

22. 金子修也, 畠野真帆, 金田明也, 真保麻美, 伊良部仁, 阿久津裕子, 林祐子, 森雅亮, 清水正樹 . 川崎病の冠動脈形成予測因子における血清サイトカイン解析の有用性. 第 52 回日本臨床免疫学会総会 2024.10.10 東京

23. 清水正樹, 真保麻美, 山崎晋, 馬場裕子, 森雅亮. 眼瞼結膜潰瘍を認めたベーチェット病の女児例. 第 52 回日本臨床免疫学会総会 2024.10.10 東京

24. 折本竜太, 安達恵利子, 桐野玄, 我有茉希, 鹿島田健一, 高澤啓. 成長障害を契機に診断に至ったヒアルロニダーゼ 2 欠損症の 1 例. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

25. 滝島茂, 山野春樹, 佐藤薫, 松田希, 森崇寧, 蘇原映誠, 内田信一, 高澤啓, 鹿島田健一, 長谷川毅. 成長ホルモン分泌不全性低身長 (GHD) を合併した Gitelman 症候群 (GS) の成長経過. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

26. 白川詩織, 家村綾正, 高澤啓, 鹿島田健一, 小野真. 視床下部過誤腫による思春期早発症の女児. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

27. 瀧澤千絵子, 松田希, 家村綾正, 佐藤薫, 滝島茂, 高澤啓, 鹿島田健一, 長谷川毅. 思春期早発症 · 肥満を主訴に受診し、OHVIRA 症候群の診断医至った女児例. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

28. 中川竜一, 磯田健志, 高澤啓, 鹿島田健一. 自己抗体陰性の後天性甲状腺機能低下症を合併した STA1 GOF による慢性皮膚粘膜カンジダ症の 1 例. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川

29. 星野顕宏. 新しい遺伝性免疫異常症. 第 52 回日本臨床免疫学会総会 2024.10.10 東京

30. 遠藤 琢也, 渡邊 諒子, 金子 修也, 清水 正樹, 秋岡 祐子. 間質性肺炎を伴った抗 Ro-52 抗体陽性若年性皮膚筋炎 (JDM) の 1 例. 日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.10.01

31. 清水正樹. 小児 IgA 血管炎症診療ガイドライン 2023. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 2024.09.29 宇都宮

32. 西村円香, 友政弾, 鈴木里香, 金兼弘和. 保存臍帯を用いて診断した X 連鎖無ガンマグロブリン血症. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京

33. 岡北慎司, 關中佳奈子, 山西智裕, 呉本尚樹, 大西卓磨 上牧勇, 宮本智史, 星野顕宏, 金兼弘和, 森谷邦彦, 今井耕輔. T-B+NK+の病型を呈した X 連鎖重症複合免疫不全症. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京

34. 若月良介, 宮本智史, 星野顕宏, 渡部良平, 石北悦子, 西村円香, 友政弾, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和. 血球貪食性リンパ組織球症に対して Ruxolitinib が有用であった XIAP 欠損症. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京

35. 鈴木喬悟, 神谷尚宏, 金兼弘和, 堀越裕歩, 湯坐有希. 血縁者間同種末梢血管細胞移植で順調な免疫再構築を得た MHC classII 欠損症の乳児例. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京

36. 浪川結衣, Riski Muhaimin, 友政弾, 西村聡, 石井螢一, 富澤大輔, 宮村能子, 磯田健志, 高木正稔. KMT2A 遺伝子再編成陽性の乳児白血病の核内構造. 第 83 回日本癌学会学術集会 2024.09.19 福岡

37. 土方美奈子, 渡部良平, 若月良介, 宮本智史, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 朝蔭孝宏, 金兼弘和. 左眼球運動制限を契機に見つかった左上顎洞原発 Langerhans1 細胞組織球症. 第 700 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2024.09.14 東京

38. 橋本敦子, 渡辺和宏, 石毛信之, 田島敏広, 長谷川奉延, 鹿島田健一. 東京都における LC-MS/MS 法を用いた副腎過形成症スクリーニング二次検査法の再採血判定基準の検証. 第 51 回日本マススクリーニング学会学術集会 2024.08.23 熊本

39. 渡辺和宏, 山名愛美, 橋本佳澄, 長谷川智美, 石毛信之, 石毛美夏, 鹿島田健一, 大石公彦, 久布白兼行. 東京都における拡大新生児スクリーニングの有償化後の実施状況. 第 51 回日本マススクリーニング学会学術集会 2024.08.23 熊本

40. 石井卓. 小児における先天性心疾患を伴う肺高血圧症の臨床像と診療実態. 第 9 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2024.08.10 福岡

41. 石田秀和、石井卓、内田敬子、細川奨、高月晋一、住友直文、稲井慶、福島裕之、小垣滋豊、山岸敬幸、土井庄三郎. 高肺血管抵抗を有する Fontan 循環の臨床像と治療選択. 第 9 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2024.08.10 福岡

42. 石井卓. 小児における先天性心疾患を伴う肺高血圧症の臨床像と診療実態. 第 9 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2024.08.10 福岡

43. 櫻井牧人、山口洋平、石井卓、井原健介、細川奨. 肺高血圧症におけるヘッジホッグシグナル伝達経路の果たす役割. 第 9 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2024.08.09 福岡

44. 内田敬子、住友直文、福島裕之、石井卓、石田秀和、高月晋一、小垣滋豊、稲井慶、土井庄三郎、山岸敬幸. 主要体肺側副動脈を伴う区域性肺高血圧症における治療効果の検討. 第 9 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2024.08.09 福岡

45. 下山輝義、古川晋、永松優一、長原慧、山口洋平、石井卓. 小児期発症 PH 症例に対する Selexipag 使用の中長期的効果の検討. 第 9 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2024.08.09 福岡

46. 細川奨、石井卓、永井礼子、内田敬子、石田秀和、小垣滋豊、山岸敬幸、土井庄三郎. 我が国の小児特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症患者の治療の現状. 第 9 回日本肺高血圧 · 肺循環学会学術集会 2024.08.09 福岡

47. 八角高裕, 金兼弘和. 免疫異常症に対する診断 · 治療のこれまでとこれから「免疫グロブリン補充療法と在宅治療環境の進歩」. ハイゼントラ 10 周年ピリヴィジェン 3 周年記念講演会ー免疫異常症に対する診断 · 治療のこれまでとこれからー 2024.07.20 Web 開催

48. 清水正樹. 全身型若年性特発性関節炎の診断と治療. sJIA WEB Conference in 九州 2024.07.17

49. 石井卓、山口洋平、細川奨. 胎児心エコー検査保険収載前後における先天性心疾患患者の乳児死亡数の推移. 第 60 回日本小児循環器学会総会 · 学術集会 2024.07.13 福岡

50. 森尾友宏. 稀少免疫疾患の診療 · 研究からみえる世界. 第 15 回東海信州免疫不全症研究会 2024.07.13

51. 石井卓. 本邦における先天性心疾患を伴う肺高血圧症に対する薬物治療の現状. 第 60 回日本小児循環器学会総会 · 学術集会 2024.07.12 福岡

52. 清水正樹. IgA 血管炎 update〜小児 IgA 血管炎診療ガイドラインの知見から〜. 第 3 回 OVReS 2024.07.04 東京

53. 森尾友宏. 免疫疾患の分子病態探索から新規治療法の開発へ. 第 10 回 ORENCIA Rising Seminar 2024.07.04

54. 星野顕宏. 先天性免疫異常症から考えるヒトの免疫. 第 13 回関西免疫不全症研究会 2024.07 大阪

55. 清水正樹. 小児 IgA 血管炎のオーバービュー. 第 67 回日本腎臓学会学術集会 2024.06.29 神奈川

56. 清水正樹. 不明熱に潜む全身型 JIA の診断プロセス. 第 11 回小児リウマチ研修会レクチャー 1 2024.06.22 群馬

57. 田丸智哉, 丸岡夢芽, 片山理捺, 桃木野珠夏, 上田篤, Aaquib Zaffar Banday, 和田泰三, 金兼弘和, 赤木紀之. 変異型転写因子 C/EBP ε と免疫不全症. 令和 6 年度 日本生化学会九州支部例会 2024.06.22 熊本

58. 清水正樹. 最新のガイドライン 1 「小児 IgA 血管炎診療ガイドライン 2023」. 2024 年度小児難治性腎疾患治療研究会学術講演会 2024.06.08 神奈川

59. 中谷久恵, 中川竜一, 鹿島田健一, 森尾友宏, 高澤啓. ABCC8 ヘテロ接合性多型を有する若年発症糖尿病の治療戦略. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.08 神奈川

60. 高澤啓, 酢谷明人, 滝島茂, 田島華子, 増江道哉, 鹿島田健一. ジアゾキシド不応性先天性高インスリン血症治療戦略における臨床課題. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.08 神奈川

61. 三善陽子, 橘真紀子, 長井直子, 赤尾正, 安達昌功, 伊藤純子, 鹿島田健一, 菅野潤子, 佐藤武志, 長井静世, 堀友博, 堀川玲子, 室谷浩二, 森川俊太郎, 岡田賢. 小児 · AYA 世代がん患者の晩期合併症予防を目的とする小児内分泌医による栄養管理の現状調査. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.08 神奈川

62. 清水正樹. 小児 IgA 血管炎診療ガイドライン. 第 59 回日本小児腎臓病学会学術集会 2024.06.08 福岡

63. 野口優輔, 遠藤健太郎, 安齋達彦, 鎌谷高志, 我有茉希, 安達恵利子, 杉江学, 森丘千夏子, 滝敦子, 本多泉, 黒田淳平, 岡崎薫, 高橋邦彦, 関矢一郎, 森尾友宏, 鹿島田健一. 胎児発育不全による胎児プログラミングは時期特異性がある. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川

64. 小宮力, 村田真麻, 山野春樹, 原一成, 村上正憲, 柴久美子, 辻本和峰, 池田賢司, 安達恵利子, 鹿島田健一, 山田哲也. 吸入ステロイド薬の使用により顕在化したグルココルチコイド過敏症候群. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川

65. 滝島茂, 山野春樹, 佐藤薫, 松田希, 森崇寧, 蘇原映誠, 内田信一, 高澤啓, 鹿島田健一, 長谷川毅. 成長ホルモン分泌不全性低身長 (GHD) を合併した Gitelman 症候群 (GS) の成長過程. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川

66. 家村綾正, 山野春樹, 桐野玄, 齋藤洋子, 安達恵利子, 中谷久恵, 高澤啓, 鹿島田健一. 新生児期 LH/FSH 値は、21OHD 新生児スクリーニングにおける偽陽性患者の鑑別に有用である. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川

67. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析は性腺発生における新規転写制御機構を明らかにする. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川

68. 藤澤泰子, 石井智弘, 鹿島田健一, 糸永知代, 宇都宮朱里, 尾崎佳代, 川井正信, 菅野潤子, 佐々木悟郎, 内木康博, 濱島崇, 堀川玲子, 松井克之. 「内分泌疾患を診療する内科医 · 産婦人科医 · 泌尿器科医 · 小児科医のための性分化疾患 (DSD) の診療ガイドライン 2024」〜エビデンスに基づく小児期 DSD の診断 · 診療アプローチ〜. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 神奈川

69. 齋藤洋子, 家村綾正, 中谷久恵, 安達恵利子, 桐野玄, 高澤啓, 鹿島田健一. 異常インスリンにより亜急性の発症過程を示す 1 b 型糖尿病の成長曲線. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 神奈川

70. 我有茉希, 家村綾正, 山野春樹, 高澤啓, 吉田雅幸, 鹿島田健一. 新生児期副腎不全を呈した自験例から振り返る Xp21 欠失症候群の多様な表現型. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 神奈川

71. 鈴木友梨, 田中由美, 宮原宏幸, 四手井綱則, 近藤乾, 鹿島田健一. TRAb 高値の母体から出生し、明らかな新生児 Graves Disease を呈さなかった男児例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 神奈川

72. 金兼弘和. 成人における免疫不全症の診療をどうするか. 第 66 回北摂血液疾患談話会 2024.05.25 大阪

73. 森尾友宏. 遺伝性免疫異常症の分子病態解明と治療開発. Niigata Academic Seminar 2024.05.24

74. 佐藤梨花子, 三浦貴大, 高知佑輔, 不殿絢子, 羅ことい, 廣瀬明日香, 関口将軌, 宮坂尚幸, 伊藤一之, 宮本智史, 杉江学, 磯田健志. 帽状腱膜下血腫および出血性ショックを契機に重症血友病 A と診断しえた新生児例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01

75. 清水正樹. 小児 IgA 血管炎診療ガイドライン. 第 127 回日本小児科学会学術集会 2024.04.21 福岡

76. 吉野明日香, 宮井健太郎, 山野春樹, 家村綾正, 高澤啓, 鹿島田健一, 宮田理英. 断乳を契機とした多飲から, 中枢性尿崩症及び Langerhans 細胞組織球症と診断した一例. 第 127 回日本小児科学会学術集会 2024.04.19 福岡

77. 折本竜太, 山野春樹, 家村綾正, 桐野玄, 斎藤洋子, 安達恵利子, 酢谷明人, 高澤啓, 増江道哉, 鹿島田健一, 森尾友宏. 臨床経験から提示する重症先天性高インスリン血症の新しい治療戦略. 第 127 回日本小児科学会学術集会 2024.04.19 福岡

78. 林祐子 畠野真帆，金子修也，真保麻実，伊良部仁，阿久津裕子，清水正樹，森雅亮. メトトレキサート皮下注射を導入した小児期発症リウマチ性疾患 6 例の検討. 第 68 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.04.18 兵庫

79. 清水正樹. 小児期発症全身性エリテマトーデス ～本邦の現状～ . 第 68 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.04.18 兵庫

80. 清水正樹. スチル病 (全身型若年性特発性関節炎/成人発症スチル病) . 第 68 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.04.18 兵庫

81. 鹿島田健一. 遺伝学的に伝える低身長～SGA と SHOX を中心に～. 第 216 回徳島県小児科医会例会ならびに学術講演会 2024.03.28 徳島

82. 星野顕宏. フローサイトメーター検査結果の解釈のしかた. 第 7 回日本免疫不全 · 自己炎症学会学術集会 2024.03.22 東京

83. 宮本智史. 本邦における先天性免疫異常症の同種造血細胞移植成績. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2024.03.21 東京

84. 森尾友宏. STAT6 gain-of-function バリアントと重症アレルギー疾患との関連. 第 10 回総合アレルギー講習会 2024.03.17 神奈川

85. 友政弾, 谷田けい, 星野顕宏, 今留謙一, 森尾友宏, Sylvain Latour, 金兼弘和. EB ウイルス感染細胞の検出感度の比較 EBER flow FISH と定量 PCR 法. 第 32 回 EVB 感染症研究会 2024.03.17 Web 開催

86. 鹿島田健一. 性分化に関するアップデート. 湯島性分化勉強会 2024 2024.03.12 東京

87. 富岡翠, 折本竜太, 森田俊平, 山内泰輔, 水野朋子, 柳下和慶, 山本櫻子, 熊田聡子, 下田木の実, 森尾友宏. 高気圧酸素治療を施行した軽微な外傷に伴う脊髄梗塞. 第 697 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2024.03.09 東京

88. 家村綾正, 我有茉希, 山野春樹, 高澤啓, 鹿島田健一. Xp21 欠失症候群の多様な臨床像. 第３ 1 回日本ステロイドホルモン学会学術集会 2024.03.09 東京

89. 清水正樹. IgA 血液炎 update. 第 32 回東北小児腎臓病研究会 2024.03.02 青森

90. 八木みなみ, 猪爪昭彦, 畠野真帆, 林祐子, 大坂渓, 伊良部仁, 宇田川智宏, 清水正樹, 高瀬博, 森尾友宏. ぶどう膜炎症例に対する前進検索の重要性. 第 696 回日本小児科学会東京都地方会講和会 2024.02.10 東京

91. 姫野佳歩, 伊藤一之, 森丘千夏子, 杉江学, 森尾友宏. 高インスリン血症を合併した先天性門脈体循環シャントの 1 例. 第 696 回日本小児科学会東京都地方会講和会 2024.02.10 東京

92. 金兼弘和. PID 治療の新たな選択肢 〜Cuvitru の有効性と安全性を含めて〜. PID Expert Meeting 2024.02.03 東京都

93. 佐野 歩里, 尾崎 富美子, 山田 勇気, 森 潤, 森尾 友宏, 金兼 弘和. フローサイトメトリーによるライソゾーム酸性リパーゼ欠損症の簡易診断法の開発. 日本小児科学会雑誌 2024.02.01

94. 森尾友宏. AMED 難病プラットフォームを基盤とした市販後調査に使用可能なデータベースの構築. 第 8 回 DIA 再生医療製品 · 遺伝子治療用製品シンポジウム 2024.01.15 東京

95. 深田英香, 西山洋平, 宮本智史, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 竹下八奈, 金兼弘和, 森尾友宏. 全身に多数の潰瘍病変を認めた BCG 接種後の壊疽性丘疹性結核疹の 1 例. 第 695 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2024.01.13 東京都

[受賞]

1. JSTCT Working Group Research Award（宮本智史）, 日本造血 · 免疫細胞療法学会, 2024 年 03 月

2. 研究奨励賞（宮本智史）, 東京小児がん研究グループ, 2024 年 05 月

[その他業績]

1. アドバイザリーボードミーティング, 2024 年 01 月
アドバイザー【金兼弘和】

2. 耳鼻咽喉科領域における疾患啓発について専門医の知見, 2024 年 01 月
アドバイザー【金兼弘和】

3. The hidden identity of leukemia（西村聡）, 2024 年 01 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

4. 小児 COVID-19 肺炎における I 型インターフェロン中和抗体の保有率を調査 — 同中和抗体は小児でも重症化の要因である —, 2024 年 01 月
—

5. PID Expert Meeting 「PID 治療の新たな選択肢」, 2024 年 02 月
講演会演者【金兼弘和】

6. PID advisory board meeting「PID 患者の移行期医療に関するベストプラクティスのアドバイス」, 2024 年 02 月
アドバイザー【金兼弘和】

7. Inborn errors of immunity as a cause of inflammatory bowel disease., 2024 年 03 月
APSID-JSIAD 2024 プレナリーレクチャー 座長【金兼弘和】

8. ハイゼントラ新剤型およびポンプに関するコンサルティング業務, 2024 年 03 月
コンサルタント【金兼弘和】

9. Preference Survey に関する助言および考察, 2024 年 04 月
アドバイザー【金兼弘和】

10. 「 CARD9 欠損症の東アジアにおける創始者効果 」 — 遺伝病の起源に迫る —（金兼弘和）, 2024 年 05 月
Journal of Clinical Immunology

11. 「 ステージ III ※ 3 の絨毛膜羊膜炎は、重症の未熟児網膜症発症リスクを低減する 」 — 未熟児網膜症と絨毛膜羊膜炎の関連が明らかに —（鹿島田健一）, 2024 年 05 月
Journal of Pediatrics

12. 「 ステージ III ※ 3 の絨毛膜羊膜炎は、重症の未熟児網膜症発症リスクを低減する 」 — 未熟児網膜症と絨毛膜羊膜炎の関連が明らかに —, 2024 年 05 月
Journal of Pediatrics

13. Shedding Light on the Origin of a Genetic Variant Underlying Fungal Infections（金兼弘和）, 2024 年 06 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

14. 「 先天性免疫異常症に対するアレムツズマブを用いた同種造血細胞移植 」 — アレムツズマブの有用性 —（宮本智史）, 2024 年 06 月
Journal of Clinical Immunology

15. 「 先天性免疫異常症に対するアレムツズマブを用いた同種造血細胞移植 」 — アレムツズマブの有用性 —（金兼弘和）, 2024 年 06 月
Journal of Clinical Immunology

16. 「 遅発性複合免疫不全を呈する 18q 欠失症候群 」 — 18q 欠失症候群患者では、定期的な細胞性/液性免疫能の評価を提唱 —（金兼弘和）, 2024 年 06 月
Journal of Clinical Immunology

17. 小児科診療 UP-to-DATE（番組名）「小児 IgA 血管炎診療ガイドライン 2023」についての解説, 2024 年 07 月
講師【清水正樹】

18. Uncovering Late-Onset Combined Immune Deficiency in Chromosome 18q Deletion Syndrome（金兼弘和）, 2024 年 07 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

19. Investigating the Effect of Alemtuzumab in Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation in Patients with Inborn Errors of Immunity（宮本智史）, 2024 年 07 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

20. Investigating the Effect of Alemtuzumab in Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation in Patients with Inborn Errors of Immunity（金兼弘和）, 2024 年 07 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

21. 遺伝性血管性浮腫 - 最新の知見と治療 - , 2024 年 08 月
第 56 回 日本医学教育学会大会 モーニングセミナー座長【金兼弘和】

22. Advisory Board Meeting - Pharming Group NV 社の「原発性免疫不全症治療薬] の国内開発における課題解決についてのアドバイス -, 2024 年 08 月
アドバイザー【金兼弘和】

23. 「 X連鎖無ガンマグロブリン血症（ＸＬＡ）における腎炎の合併 」 — ＸＬＡの免疫学的病態と腎炎の病理組織学的所見の関連 —, 2024 年 08 月
Journal of Clinical Immunology

24. 「 X連鎖無ガンマグロブリン血症（ＸＬＡ）における腎炎の合併 」 — ＸＬＡの免疫学的病態と腎炎の病理組織学的所見の関連 —（金森透）, 2024 年 08 月
Journal of Clinical Immunology

25. 「 X連鎖無ガンマグロブリン血症（ＸＬＡ）における腎炎の合併 」 — ＸＬＡの免疫学的病態と腎炎の病理組織学的所見の関連 —, 2024 年 08 月
Journal of Clinical Immunology

26. 「IL10RA 欠損症に対する国内治療成績」 — 早期マネジメントの重要性 —【金兼弘和】, 2024 年 09 月
Journal of Clinical Immunology

27. IEI Seminar -先天性免疫異常症に「よりそう」- , 2024 年 11 月
先天性免疫異常症の診断率向上を目指しての座長【金兼弘和】

28. JIA 関節エコーセミナー, 2024 年 11 月
総合司会【清水正樹】

29. TAK-771 患者さん向け 2 資材（TAK-771 の治療を受けられる患者さん · ご家族の方へ、TAK-771 患者日誌）の監修, 2024 年 11 月
資材監修【金兼弘和】

30. 症状から紐解く原発性免疫不全症候群の診断（金兼弘和）, 2024 年 11 月
CMICWebinar 東京

31. PID 診療の課題と治療の実際（金兼弘和）, 2024 年 11 月
PIDWebSeminar Web 開催

32. 先天性免疫異常症における診断 · 治療の進歩と課題（金兼弘和）, 2024 年 11 月
第 56 回日本感染症学会総会 · 学術集会 ランチョンセミナー 長崎

33. 免疫グロブリン補充療法を必要とする先天性免疫異常症について（金兼弘和）, 2024 年 12 月
Tohoku IEI Web Seminar 仙台

[社会貢献活動]

1. 東京わかまつ会　小児糖尿病生活指導講習会（高澤啓）, 日本糖尿病協会, 東京わかまつ会　小児糖尿病生活指導講習会, 2006 年 - 現在

2. NPO 法人 PID つばさの会 代表医療顧問, PID つばさの会, 2022 年 04 月 01 日 - 現在

3. 文京区地域医療連携推進協議会小児初期救急医療検討部会　委員 (細川奨), 文京区役所, 2023 年 07 月 24 日 - 2025 年 07 月 23 日

4. 筑波大学附属小学校 校医（児童の健康管理及び保健指導）(石井卓)　, 筑波大学附属小学校, 2023 年 10 月 01 日 - 現在

5. 連載企画「大学の国際化最前線」（森尾友宏）, 国際開発ジャーナル社, 国際開発ジャーナル, 2023 年 11 月 14 日 - 現在

6. 予防接種 · ワクチン分科会副反応検討部会について（森尾友宏）, 毎日放送, 報道情報番組『よん チャン TV』, 2024 年 02 月 05 日 - 2024 年 02 月 07 日

7. 再生医療の産業化と医療への貢献　国民理解の向上がカギに（森尾友宏）, 学校法人先端教育機構　事業構想大学院大学, 月刊　事業構想, 2024 年 04 月 01 日

8. 子どもの低身長に関する悩み (鹿島田健一) , 毎日新聞社, 毎日新聞, 2024 年 06 月 11 日 - 2024 年 06 月 26 日

皮膚科学分野

Department of Dermatology

教授　　沖山　奈緒子
准教授　　並木　剛
医局長　　竹下　八菜
助教　　飯田　忠恒, 小田　充思, 船積　雅登
医員　　川上　美咲, 長山　理依, 藤田　真依子, 若松　理香子
レジデント　鈴木　恵里衣, 田中　瀬奈
非常勤講師　市村　裕輝, 小西　里沙, 藤本　智子, 西田　真紀子, 稲澤　美奈子
大学院生（博士）生田目　拓, 内田　千恵, 雷　雨
大学院生（修士）唐牛　莉緒奈
研究生　　王　彦智
技官　　宮岸 千谷子
事務補佐員　三輪　美砂, 阪田　昌江, 林　真由子,水木　佐知子

(1)　分野概要

当講座は、皮膚に表現されるすべての疾患を対象とした教育、診療、研究を担当している。

1）教育
卒前教育では、一般医として必要な皮膚の解剖学、生理学、免疫学、薬理学などの基礎知識とそれに基づく皮膚疾患の理解に重点をおき、外来での見学、ベットサイドティーチングを中心とした教育を行う。特に医学部３年生のブロック講義では「皮膚・アレルギー・膠原病ブロック」「免疫学II」を担当している。
卒後教育は、専門医としての皮膚科学の基礎的知識の修得と臨床医としての技術・手技の習熟を行い、「皮膚科学から見る人間学」の研鑽をつむことを目標としている。

2）臨床
皮膚科学の臨床は、皮膚に表現される微細な変化から全身の生体状態を把握し、疾病の早期診断・早期治療を行うことにある。外来・入院患者を通じて皮膚徴候の検出と理解の訓練、皮膚徴候からの内臓諸器官の機能の推測とその証明、皮膚疾患の原因・誘因の検出方法、外用療法、外科的手技を用いた治療、内科的治療を駆使して疾病の治療を行っている。

3）研究
皮膚に表現される疾患の全てを対象とする皮膚科学では、その研究対象が多岐にわたる。当教室では種々の皮膚疾患の病因・病態を免疫学的アプローチにより解明することに努力している。当教室のこれまでの研究業績を基盤として、免疫アレルギー疾患、腫瘍等の研究を行っている。
（1）皮膚筋炎の研究
特異的皮疹を伴う炎症性筋疾患である皮膚筋炎では、筋炎特異的自己抗体が複数同定され、抗体ごとに臨床像がサブグループ分類されることが分かってきた。当教室では、この自己抗体ごとの臨床像解析や分子生物学的解析を多数発表している。さらに、自己抗体ごとの新規モデルマウスを世界で初めて作出し、病態解明と至適治療法開発にも取り組んでいる。
（2）皮膚苔癬反応（皮膚移植片対宿主病や扁平苔癬、重症薬疹、膠原病の皮疹）の研究
病理組織学的に苔癬反応を示す場合には、表皮角化細胞が免疫反応の標的となっており、角化細胞死を来すため、皮疹は重症化する。キラー **T** 細胞がその病態の本態であり、モデルマウスを用いて治療標的を探索し、産学共同研究にて治療法開発に取り組んでいる。
（3）免疫チェックポイント分子の基礎的解析

がん免疫療法の標的として注目される、PD-1 やそのライガンド PD-L1, PD-L2 をはじめとした免疫チェックポイント分子は、そのシグナル遮断薬によってがん免疫を増強し、一方で白斑や乾癬、扁平苔癬といった皮膚症状を含む全身臓器での免疫関連副作用を呈して来る。臨床検体解析やモデルマウス研究によって、この免疫関連副作用の病態解明と対処法の開発を行ってる。

（4）アトピー性皮膚炎の研究

好塩基球の炎症における役割が最近あらためて注目されてきている。現在、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性皮膚疾患における好塩基球の分布やその役割について解析を行っている。

（5）発汗異常の研究

指定難病でもある後天性特発性無汗症の症例が集積している当科では、臨床統計的解析と共に、モデルマウスを作出して病態メカニズムの研究をおこなっており、有効な治療法の開発を目指している。

(2) 研究業績

[原著]

1. Yuki Ichimura, Risa Konishi, Tadatsune Iida, Miwako Shobo, Ryota Tanaka, Noriko Kubota, Hisako Kayama, Kiyoshi Takeda, Toshifumi Nomura, Manabu Fujimoto, Naoko Okiyama. Autoimmunity against melanoma differentiation-associated gene 5 induces interstitial lung disease mimicking dermatomyositis in mice Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2024.04; 121(16); e2313070121

2. Okiyama Naoko, Konishi Risa, Ichimura Yuki. Murine models of idiopathic inflammatory myopathies The Journal of Dermatology. 2024.07; 51(7); 914-919

3. Fukushima K, Yoshida T, Yamazaki H, Takamatsu N, Nagai T, Osaki Y, Harada M, Nishino I, Okiyama N, Sugie K, Izumi Y.. Anti-NXP2 Antibody-positive Juvenile Dermatomyositis with Characteristic Fascial Thickening on Muscle Ultrasound and Improvement with Immunotherapy. Internal Medicine. 2024.06; 63(12); 1813-1817

4. Fujisaki M, Kasamatsu H, Nishimura K, Yoshida Y, Muneishi Y, Yamaguchi T, Nishino I, Konishi R, Ichimura Y, Okiyama N, Oyama N, Hasegawa M. A case of anti-SAE1/2 antibody-positive dermatomyositis with extensive panniculitis: A possible cutaneous manifestation of treatment resistance. The Journal of dermatology. 2024.02; 51(2); 301-306

5. Okiyama N, Konishi R, Ishimura Y. Murine models of idiopathic inflammatory myopathies. The Journal of dermatology. 2024.02;

6. Shogo Wada, Takeshi Namiki, Aoi Ebata, Takuya Takeichi, Masashi Akiyama, Masafumi Yamada, Atsushi Hijikata, Yutaka Shimomura, Hirokazu Kanegane, Naoko Okiyama. Generalized pustular psoriasis that developed in a patient with an NFKB2 variant. J Dtsch Dermatol Ges. 2024.01; 22(1); 118-120

7. Risa Konishi, Yuki Ichimura, Ryota Tanaka, Hanako Miyahara, Mari Okune, Masahide Miyamoto, Monami Hara, Atsushi Iwabuchi, Hidetoshi Takada, Yasuo Nakagishi, Mao Mizuta, Shuya Kaneko, Masaki Shimizu, Tomohiro Morio, Ichizo Nishino, Toshifumi Nomura, Naoko Okiyama. Possible correlation between serum interleukin-8 levels and the activity of myositis in anti-NXP2 antibody-positive dermatomyositis. Immunol Med. 2024.01; 1-6

8. Ugajin Tsukasa, Yokozeki Hiroo, Namiki Takeshi, Okiyama Naoko. Dupilumab for prurigo chronica multiformis: a pilot case study. Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. 2024.01; 7; jcia.2024.12518

9. Nojima K, Hayashi M, Tanemura A, Al-Busani H, Saito T, Suzuki T, Ishikawa M, Mori T, Wada S, Yamazaki N, Katayama I, Mori H, Yokozeki H, Okiyama N, Sasaki Y, Namiki T.. Activated Akt expression is associated with the recurrence of primary melanomas and further refines the prognostic and predictive values for relapse in acral melanomas. Pigment Cell & Melanoma Research. 2024.01; 37(1); 36-44

10. 大矢 和正, 中村 貴之, 沖山 奈緒子, 藤澤 康弘, 乃村 俊史. 自己免疫疾患で生じる皮膚炎の加齢で変化する病態制御機構 加齢皮膚医学セミナー. 2024.12; 19(2); 9-15

11. 飯田 忠恒, 内田 千恵, 沖山 奈緒子. 【汗と皮膚】特発性後天性全身性無汗症のステロイドパルス療法 皮膚科. 2024.09; 6(3); 250-256

12. 沖山 奈緒子. 臨床講義 皮膚筋炎 皮膚科の臨床. 2024.08; 66(9); 1221-1228

13. 沖山 奈緒子. 【最近のトピックス 2024】皮膚疾患の病態　皮膚筋炎の病態を反映するマウスモデル 臨床皮膚科. 2024.04; 78(5); 55-59

14. 小西 里沙, 沖山 奈緒子. Dermatomyositis sine dermatitis 皮膚科. 2024.03; 5(3); 297-300

15. 小西 里沙, 沖山 奈緒子. 【新しい検査, 慣れない検査 Q&A】(Part1) アレルギー (Question8) 皮膚筋炎の自己抗体の臨床的意義を教えてください. Visual Dermatology. 2024.02; 23(3); 231-232

16. 沖山 奈緒子. 膠原病: 最近の進歩と臨床への還元　皮膚筋炎の自己抗体別トピックス 日本臨床皮膚科医会雑誌. 2024.01; 41(1); 021-024

[総説]

1. Fukushima Koji, Yoshida Takeshi, Yamazaki Hiroki, Takamatsu Naoko, Nagai Takashi, Osaki Yusuke, Harada Masafumi, Nishino Ichizo, Okiyama Naoko, Sugie Kazuma, Izumi Yuishin. Anti-NXP2 Antibody-positive Juvenile Dermatomyositis with Characteristic Fascial Thickening on Muscle Ultrasound and Improvement with Immunotherapy Internal Medicine. 2024.06; 63(12); 1813-1817

2. Miyahara Hanako, Kubota Noriko, Okune Mari, Ishii Yoshiyuki, Okiyama Naoko, Nomura Toshifumi, Furuta Junichi. Case report: Ten cases of acquired idiopathic generalized anhidrosis treated with oral pilocarpine Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. 2024.06; 7; jcia.2024.12902

3. Konishi Risa, Ichimura Yuki, Tanaka Ryota, Miyahara Hanako, Okune Mari, Miyamoto Masahide, Hara Monami, Iwabuchi Atsushi, Takada Hidetoshi, Nakagishi Yasuo, Mizuta Mao, Kaneko Shuya, Shimizu Masaki, Morio Tomohiro, Nishino Ichizo, Nomura Toshifumi, Okiyama Naoko. Possible correlation between serum interleukin-8 levels and the activity of myositis in anti-NXP2 antibody-positive dermatomyositis. Immunological Medicine. 2024.06; 47(2); 100-105

4. Fujisaki Misako, Kasamatsu Hiroshi, Nishimura Kentarou, Yoshida Yasuyuki, Muneishi Yoriko, Yamaguchi Tomohisa, Nishino Ichizo, Konishi Risa, Ichimura Yuki, Okiyama Naoko, Oyama Noritaka, Hasegawa Minoru. A case of anti-SAE1/2 antibody-positive dermatomyositis with extensive panniculitis: A possible cutaneous manifestation of treatment resistance The Journal of Dermatology. 2024.02; 51(2); 301-306

5. Nagashima Natsumi, Ugajin Tsukasa, Miyake Kensuke, Walls Andrew F., Namiki Takeshi, Yokozeki Hiroo, Karasuyama Hajime, Okiyama Naoko. Cutaneous basophil infiltration in atopic dermatitis is associated with abundant epidermal infiltration of helper T cells: A preliminary retrospective study. The Journal of Dermatology. 2024.01; 51(1); 130-134

6. 小畠 里奈, 大霜 智子, 桑本 智弘, 橋本 求, 難波 広人, 西野 一三, 沖山 奈緒子, 立石 千晴, 鶴田 大輔. 【膠原病】筋生検における病理組織検査で確定診断し, 抗 SAE 抗体が陽性と判明した皮膚筋炎の 1 例 皮膚科の臨床. 2024.08; 66(9); 1197-1201

7. 片桐 正博, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 多発皮下結節を主訴とした寒冷脂肪織炎の1例 皮膚科の臨床. 2024.08; 66(9); 1257-1260

8. 小笠原 渚, 福山 雅大, 佐藤 洋平, 小西 里沙, 市村 裕輝, 水川 良子, 沖山 奈緒子, 大山 学. 背部の皮疹の性状から抗 SAE 抗体を検出しえた皮膚筋炎の 1 例 臨床皮膚科. 2024.06; 78(7); 477-481

[講演・口頭発表等]

1. Naoko Okiyama. A New Era of Atopic Dermatitis Toward an Era in which True Long-Term Remission Can Be Maintained . The 49th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology 2024.12.07

2. Endo Karin, Ichimura Yuki, Matsui Takashi, Konishi Risa, Iida Tadatsune, Namiki Takeshi, Okiyama Naoko. Apoptotic and necroptotic keratinocytes contribute to fibrosis in chronic graft-versus-host disease via the production of TGF-β. 日本研究皮膚科学会年次学術大会・総会プログラム 2024.12.01

3. 関根 正喜, 三浦 圭子, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 大橋 健一. メラノーマにおける cGAS-STING-TBK1 の発現と深達度の関連(Association of cGAS-STING-TBK1 expression and depth in melanoma). 日本病理学会会誌 2024.10.01

4. Naoko Okiyama, Yuki Ichimura, Risa Konishi, Manabu Fujimoto. Autoimmunity against melanoma differentiation-associated gene 5 (MDA5) induces interstitial lung disease mimicking dermatomyositis in mice. the 22nd Annual Meeting of Asian Oceanian Myology Center and the 10th Annual Meeting of Japan Muscle Society (AOMC-JMS 2024) 2024.09.13

5. Namiki Takeshi, Nojima Kohei, Hayashi Masahiro, Tanemura Atsushi, Suzuki Tamio, Ishikawa Masashi, Yamazaki Naoya, Katayama Ichiro, Sasaki Yoshiyuki, Okiyama Naoko.活性化 Akt 発現は acral melanoma 再発の予後因子である (Activated Akt expression has the prognostic value for relapse in acral melanomas). 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

6. Ichimura Yuki, Okiyama Naoko. Inflammatory myopathies 2 Type I interferon may play an essential role in murine melanoma differentiation associated gene 5 induced lung fibrosis model. 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 2024.03.01

7. Ichimura Yuki, Okiyama Naoko. 炎症性筋疾患 (2) メラノーマ分化関連遺伝子 5 誘発肺線維症マウスモデルにおいてI 型インターフェロンが果たしている重要な役割 (Inflammatory myopathies 2 Type I interferon may play an essential role in murine melanoma differentiation associated gene 5 induced lung fibrosis model). 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 2024.03.01

8. 沖山奈緒子. 皮膚筋炎の脂肪織炎は脂肪織炎？ 血管炎？ . 2024.12.21

9. 沖山 奈緒子. アトピー性皮膚炎外用療法における外用療法使い分けストラテジー. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 2024.12.01

10. 中森 美優, 外村 香子, 楠見 恭未, 松村 裕, 荒瀬 規子, 中川 幸延, 種村 篤,小西 理沙, 沖山 奈緒子, 植田 郁子, 藤本 学. 当科で経験した抗 NXP-2 抗体陽性皮膚筋炎の臨床的特徴. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 2024.12.01

11. 田中 瀬奈, 船積 雅登, 鈴木 永里衣, 小田 充思, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 抗 TIF1-γ抗体陽性皮膚筋炎に併発した反応性穿孔性膠原線維症の 1 例. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 2024.12.01

12. 沖山 奈緒子. 皮膚筋炎の脂肪織炎は脂肪織炎?血管炎?. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 2024.12.01

13. 千貫 祐子, 足立 剛也, 天野 博雄, 沖山 奈緒子, 谷崎 英昭, 松尾 裕彰,矢上 晶子. 食物アレルギー専門部会報告. 日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会プログラム・抄録集 2024.12.01

14. 沖山奈緒子. 皮膚筋炎の自己抗体別病理組織像の違い. 第 88 回日本皮膚科学会東京支部学術大会 2024.11.17

15. 沖山奈緒子.　皮膚筋炎の新規モデルマウスから見えてきた病態理解. 2024.10.18

16. 沖山奈緒子. アトピー性皮膚炎の長期寛解維持を目指して. 第 75 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 2024.10.12

17. 佐戸 優希, 酒本 海帆, 黒澤 亮二, 門前 達哉, 石井 亜希子, 小西 理沙, 沖山奈緒子. MG 及び筋炎 著明な浮腫から抗 NXP-2 抗体陽性皮膚筋炎を疑い診断治療した一例. 神経免疫学 2024.10.01

18. 沖山 奈緒子, 小西 里紗, 市村 裕輝. 自己免疫を知る　皮膚筋炎の新規モデルマウスから見えてきた病態理解. 日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.10.01

19. 沖山奈緒子. アトピー性皮膚炎治療における抗炎症外用剤の使い分けストラテジー. 第 88 回日本皮膚科学会東部支部学術大会 2024.09.15

20. 沖山奈緒子. 膠原病皮膚症状の病態に基づく治療の進歩. 第 76 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2024.09.07

21. 川上 美咲, 小田 充思, 竹下 八菜, 並木 剛, 沖山 奈緒子. テゼペルマブ投与後に生じた膿疱性乾癬へのスペソリマブ使用例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.09.01

22. 長山 理依, 飯田 忠恒, 竹下 八菜, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 小笹 静佳. パッチテストで原因物質を同定したリール黒皮症の 2 例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.09.01

23. 沖山 奈緒子, 市村 裕輝, 根岸 康介. 抗 MDA5 抗体陽性急速進行性肺炎における白血病阻止因子発現亢進. 日本皮膚科学会雑誌 2024.09.01

24. 内田 千恵, 飯田 忠恒, 藤本 智子, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 多汗症における治療薬についてのアンケート調査. 日本発汗学会総会プログラム · 抄録集 2024.08.01

25. 沖山 奈緒子. 医学教育者に知って欲しいアトピー性皮膚炎に関するポイント. 医学教育 2024.07.01

26. 榎本 遥, 田口 邦之, 大渕 裕子, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司,藤原 美香, 沖山 奈緒子, 山田 哲也. 汎発性円形脱毛症に緩徐進行 1 型糖尿病を合併した 1 例. 日本内科学会関東地方会 2024.07.01

27. 沖山奈緒子. 皮膚科医が診る IgA 血管炎と皮膚動脈炎. 第 123 回日本皮膚科学会総会 2024.06.09

28. 島 英輝, 竹下 八菜, 沖山 奈緒子. 低汗性外胚葉形成不全に睫毛乱生を合併した 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

29. 森本 健太, 岩本 雄太郎, 金澤 あずさ, 沖山 奈緒子. 原発性皮膚ノカルジア症に皮膚非結核性抗酸菌症を合併した 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

30. 山本 美月, 沖山 奈緒子, 三浦 圭子, 沢田 泰之. 反回神経麻痺で発症し, 四肢に多発する皮疹より診断に至ったサルコイド血管炎の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

31. 張野 優文, 小田 充思, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 尋常性乾癬に対してリサンキズマブ投与中にアトピー性皮膚炎が再燃した 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

32. 森本 健太, 小田 充思, 大竹 里奈, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 抗リン脂質抗体症候群による下腿潰瘍にヒト羊膜使用組織治癒促進用材料を使用した 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

33. 市村 裕輝, 小西 里沙, 沖山 奈緒子. Melanoma differentiation-associated gene 5 に対する自己免疫による間質性肺炎マウスモデル. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

34. 張野 優文, 小田 充思, 並木 剛, 沖山 奈緒子. 抗 PD-1/PD-L1 抗体投与後に水疱性類天疱瘡を発症した 4 例の臨床的検討. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

35. 飯田 忠恒, 沖山 奈緒子. 病態から考える特発性後天性全身性無汗症の診療. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

36. 沖山 奈緒子. 皮膚科医が診るIgA 血管炎と皮膚動脈炎. 日本皮膚科学会雑誌 2024.05.01

37. 沖山奈緒子. 皮膚筋炎特異的自己免疫を基盤とする疾患モデル動物の確立と病態解析. 第 68 回日本リウマチ学会総会 · 学術大会 2024.04.21

38. 藤原 美香, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 三浦 圭子. 悪性黒色腫とサルコイドーシスの鑑別に 201Tl-シンチグラフィーが有用であった 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.04.01

39. 小西 里沙, 市村 裕輝, 沖山 奈緒子, 乃村 俊史. 抗 NXP2 抗体陽性皮膚筋炎/多発性筋炎では治療反応性に抗 NXP2 抗体価が低下する. 日本皮膚科学会雑誌 2024.04.01

40. 沖山 奈緒子. 膠原病はどの皮疹でどの検査? 臨床像からの検査アルゴリズム. 日本臨床皮膚科医会雑誌 2024.04.01

41. 藤原 美香, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 三浦 圭子. 有棘細胞癌を合併した多発 Mibelli 型汗孔角化症の 1 例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会プログラム · 抄録集 2024.04.01

42. 沖山 奈緒子, 小西 里沙, 市村 裕輝. 多発性筋炎 · 皮膚筋炎 4: 病態 · 新規治療 皮膚筋炎特異的自己免疫を基盤とする疾患モデル動物の確立と病態解析. 日本リウマチ学会総会 · 学術集会プログラム · 抄録集 2024.03.01

43. 森本 健太, 岩本 雄太郎, 金澤 あずさ, 沖山 奈緒子. 腹部大動脈瘤に伴って誘因なく発症したコレステロール結晶塞栓症の 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2024.01.01

44. 沖山 奈緒子. 膠原病: 最近の進歩と臨床への還元 皮膚筋炎の自己抗体別トピックス (会議録). 日本臨床皮膚科医会雑誌 2024.01

45. 森本 健太, 岩本 雄太郎, 金澤 あずさ, 沖山 奈緒子. 腹部大動脈瘤に伴って誘因なく発症したコレステロール結晶塞栓症の 1 例 (会議録). 日本皮膚科学会雑誌 2024.01

[受賞]

1. [皮膚科学分野 : 沖山 奈緒子] 2024 年度内藤記念科学奨励金 · 研究助成, 公益財団法人 内藤記念科学振興財団, 2024 年 10 月

2. [皮膚科学分野 : 沖山 奈緒子] 第 2 回日本白斑学会ロドデノール白斑治療に向けた研究テーマ (2024), 日本白斑学会, 2024 年 12 月

[その他業績]

1. [皮膚科学分野 : 沖山 奈緒子] 「皮膚筋炎の致死的間質性肺炎の治療標的候補はインターロイキン一 6 である」−抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎関連間質性肺炎の新規モデルマウスの解析 , 2024 年 04 月
Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America

2. [皮膚科学分野 : 沖山 奈緒子] Successful murine model of dermatomyositis reveals underlying immune system involvement , 2024 年 04 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. [皮膚科学分野 : 沖山 奈緒子] 大学での研究について, 四谷学院, 四谷学院の学部学科がわかる本, 2023 年 11 月 16 日 - 2024 年 01 月 31 日

NCCHD 成育医学分野

NCCHD Child Health and Development

連携教授　阿久津英憲
連携教授　深見真紀
連携教授　小野寺雅史
連携教授　高田修治
連携教授　松本健治
連携教授　中林一彦

(1)　分野概要

これまでの臨床医学的枠にとらわれず、ヒト生命の誕生から発達までを最新の分子生物学、遺伝学レベルで教育する。受精から始まり、発生・発育し次世代へつながる「人のライフサイクル」に関連する様々な健康問題を包括的に捉えるのが成育医学であり、NCCHD では、様々な機能やツールを活かした教育プログラムを提供する。生命科学を生殖発生学、周産期・胎児発生学、そして発生・発達医学の視点を基盤とし実践的な発生学的知識を身につけ、成育医療へ派生するダイナミズムについて学ぶとともに実践的知識を身につける。

(2)　研究活動

NCCHD 成育医学分野は、6 名の異なる分野の連携教官から構成されている。以下、それぞれの連携教授の研究分野を紹介する。

１．受精卵の全能性獲得、リプログラミング、多能性幹細胞を対象に発生、生殖医学、疾患、再生医学研究（国立成育医療研究センター研究所　再生医療センター生殖医療研究部　部長　阿久津英憲）

受精卵の全能性獲得、リプログラミング、多能性幹細胞を活用した成育期疾患研究、疑似臓器（オルガノイド）研究そして再生医療への応用等の研究を行う。

２．フローサイトメトリーにより細胞表面マーカー解析と細胞性質や免疫不全症病態の解明に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　成育遺伝研究部　部長　小野寺雅史）

小児の難治性遺伝性疾患に関わる原因遺伝子を同定し、その機能を解析することで遺伝子ベースでの新たな治療法の開発を目指す研究を行っている。具体的には、疾患 iPS 細胞の樹立とその解析ならびに臨床用ベクターの開発を行っている。フローサイトメトリーにより細胞表面マーカーを調べ、細胞の性質や患者の病態等を解析する。

３．メタゲノム・エピゲノム解析と遺伝子異常の解明による先天性疾患分子基盤に関す

る研究（国立成育医療研究センター研究所　分子内分泌研究部　部長　深見真紀）
先天性疾患の分子基盤の解明。臨床サンプルの遺伝子解析（シークエンス、コピー数解析、メチル化解析など）によって、疾患発症に関与する遺伝子異常を解明する。
４．メタゲノム・エピゲノム解析を駆使したシステムバイオロジーにより周産期病態の分子機構に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　周産期病態研究部　部長　中林一彦）
胎児と胎児付属物（胎盤）の発生・分化異常およびそれに伴う周産期の病気解明を目指す。ゲノム解析、エピジェネティクス等を駆使したシステムバイオロジーにより周産期病態の分子機構を解明する。
５．発生遺伝学、発生工学、エピゲノム解析と性分化、生殖腺形成、ゲノムインプリントの分子機構に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　システム発生・再生医学研究部　部長　高田修治）
発生遺伝学、分子生物学、発生工学、エピジェネティクス等を駆使し、性分化、生殖腺形成、ゲノムインプリントなどの分子機構を明らかにすることにより、疾患の原因同定やモデルマウス作成を目指す。
６．分子生物学、オミックス統合解析を駆使した難治アレルギー病態の分子機構に関する研究（国立成育医療研究センター研究所　免疫アレルギー・感染研究部　部長　松本健治）
アレルギー疾患を発症する小児の割合は近年増加傾向にあり、このようなアレルギー疾患の増加には、主として環境因子が大きく関与していると考えられる。アレルギー研究室では、近年新たに同定された免疫細胞である自然リンパ球に着目しアレルギー疾患の発症や重症化の仕組みを明らかにし、それを応用した新たな発症予防法の開発を目指して研究を行っています。消化管アレルギーは乳幼児に好発する、食物に対する免疫応答によって消化器症状を呈するアレルギーです。IgE 抗体を介さないために診断が難しく、臨床での課題となっています。免疫療法研究室では、患者の早期診断や治療効果判定に有用なバイオマーカーを同定し、成育センター病院での治療に活用しています。

(3)　研究業績

[原著]

1. Tsukamoto M, Kawasaki T, Vemuri MC, Umezawa A, Akutsu H*. A passage-free, simplified, and scalable novel method for iPSC generation in three-dimensional culture. Regen Ther. 2024 Mar 10;27:39-47.
2. Miyakawa K, Machida M, Kawasaki T, Kakizaki M, Kimura Y, Sugiyama M, Hasegawa H, Umezawa A, Akutsu H*, Ryo A*. Replication efficiency of SARS-CoV-2 Omicron subvariants BA.2.75, BA.5, and XBB.1 in human mini-gut organoids. Cell Mol Gastroenterol Hepatol. 2024 Mar 15:S2352-345X(24)00055-9.
3. Aoi T, Asaka I, Akutsu H, Ito Y, Kataoka K, Kanda Y, Kojima H, Sekino Y, Suemori H, Nakagawa M, Nakamura K, Nakamura Y, Fujii M, Furue M, Yamazaki D; Japanese Working Group for Consideration of Good Cell Culture Practice. Secondary Publication:

Proposal for Points of Consideration for Pluripotent Stem Cell Culture. In Vitro Cell Dev Biol Anim. 2024 Mar 12.
4. Kuroda T, Yasuda S, Matsuyama S, Miura T, Sawada R, Matsuyama A, Yamamoto Y, Morioka MS, Kawaji H, Kasukawa T, Itoh M, Akutsu H, Kawai J, Sato Y. ROR2 expression predicts human induced pluripotent stem cell differentiation into neural stem/progenitor cells and GABAergic neurons. Sci Rep. 2024 Jan 6;14(1):690.
5. Tsukamoto M, Kimura K, Yoshida T, Tanaka M, Kuwamura M, Ayabe T, Ishihara G, Watanabe K, Okada M, Iijima M, Nakanishi M, Akutsu H, Sugiura K, Hatoya S. Generation of canine induced pluripotent stem cells under feeder-free conditions using Sendai virus vector encoding six canine reprogramming factors. Stem Cell Reports. 2024 Jan 9;19(1):141-157.
6. Matsuoka T, Kajiwara K, Kawasaki T, Wada S, Samura O, Sago H, Okamoto A, Umezawa A, Akutsu H. Inhibitory Effect of All-Trans Retinoic Acid on Ferroptosis in BeWo Cells Mediated by the Upregulation of Heme Oxygenase-1" Placenta. 2024: 154; 110-121.
7. Tsukamoto M, Kawasaki T, Umezawa A and Akutsu H. "Alternative Method for Obtaining Human-Induced Pluripotent Stem Cell Lines and Three-Dimensional Growth: A Simplified, Passage-Free Approach that Minimizes Labor" Bio-protocol 2024; 14(19): e5081.
8. Kawai T, Kinoshita S, Takayama Y, Ohnishi E, Kamura H, Kojima K, Kikuchi H, Terao M, Sugawara T, Migita O, Kagami M, Isojima T, Yamaguchi Y, Wakui K, Ohashi H, Shimizu K, Mizuno S, Okamoto N, Fukushima Y, Takada F, Kosaki K, Takada S, Akutsu H, Ura K, Nakabayashi K, Hata K. Loss of function in NSD2 causes DNA methylation signature similar to that in Wolf-Hirschhorn syndrome. Genet Med Open. 2024 Mar 14;2:101838.
9. Miyamoto Y, Torii T, Terao M, Takada S, Tanoue A, Katoh H, Yamauchi J: Rnd2 differentially regulates oligodendrocyte myelination at different developmental periods. Molecular Biology of the Cell. 32(8):769-787 (2021).
10. Kinoshita S, Kojima K, Ohnishi E, Takayama Y, Kikuchi H, Takada S, Nakabayashi K, Kawai T, Hata K. (2024) Loss of NSD2 causes dysregulation of synaptic genes and altered H3K36 dimethylation in mice. Frontiers in Genetics, 15:1308234.
11. Kawai T, Kinoshita S, Takayama Y, Onishi E, Kamura H, Kojima K, Kikuchi H, Terao M, Sugawara T, Migita O, Kagami M, Yamaguchi Y, Wakui K, Ohashi H, Shimizu K, Mizuno S, Okamoto N, Fukushima Y, Takada F, Kosaki K, Takada S, Akutsu H, Ura K, Nakabayashi K, Hata K. (2024). Loss-of-function in NSD2 causes DNA methylation signature similar to that in Wolf-Hirschhorn syndrome. Genetics in Medicine Open,2:101838.
12. Shindo M, Terao M, Takada S, Ichinose M, Matsuzaka E, Yokoi T, Azuma N, Mizuno S, Tsumura H. (2024). Establishment and visual analysis of CBA/J-Pde6bY347Y/Y347X and C3H/HeJ-Pde6bY347Y/Y347X mice. Experimental Animals, 73(2):203-210.
13. Yoshida T, Yokoi T, Tanaka T, Matsuzaka E, Saida Y, Nishina S, Takada S, Shimizu S, Azuma N. (2024). Modeling of retina and optic nerve ischemia-reperfusion injury through hypoxia-reoxygenation in human induced pluripotent stem cell-derived retinal ganglion cells. Cells, 13(2):130.
14. Ito M, Katoh M, Sassa T, Ko T, Fujita K, Yamada S, Miura K, Toyoda M, Takada S, Tobita T, Katagiri M, Kubota M, Yamada T, Hatsuse S, Morita H, Ikeuchi M, Matsuura K, Umezawa A, Nomura S, Aburatani H, Komuro I. (2024). LMNA Q353R mutation causes dilated cardiomyopathy through impaired vitamin D signaling. Circulation, 150(12):971-974.
15. Uchida N, Ishii T, Amano N, Takada S, Kobayashi K, Murakami T, Narumi S, Hasegawa T. (2024). Znrf3 exon 2 deletion mice do not recapitulate congenital adrenal hypoplasia. Journal of Molecular Endocrinology, 73(4):e240015 (2024).

16. Abe T, Morisaki K, Niihori T, Terao M, Takada S, Aoki Y. (2024). Dysregulation of RAS proteostasis by autosomal-dominant LZTR1 mutation induces Noonan syndrome-like phenotypes in mice. JCI Insight, 9(22):e182382.
17. Hanzawa S, Sugiura M, Nakae S, Masuo M, Morita H, Matsumoto K, Takeda K, Okumura K, Nakamura M, Ohno T, Miyazaki Y. The prostaglandin D2 receptor CRTH2 contributes to airway hyperresponsiveness during airway inflammation induced by sensitization without an adjuvant in mice. Int Arch Allergy Immunol 2024:185(8):752-760.
18. Tamari M, Del Bel KL, Ver Heul AM, Zamidar L, Orimo K, Hoshi M, Trier AM, Yano H, Yang TL, Biggs CM, Motomura K, Shibuya R, Yu CD, Xie Z, Iriki H, Wang Z, Auyeung K, Damle G, Demircioglu D, Gregory JK, Hasson D, Dai J, Chang RB, Morita H, Matsumoto K, Jain S, Van Dyken S, Milner JD, Bogunovic D, Hu H, Artis D, Turvey SE, Kim BS. Sensory neurons promote immune homeostasis in the lung. Cell 2024;187:44-61 e17.
19. Suzuki H, Morisaki N, Nagashima S, Matsunaga T, Matsushita S, Iino A, Tanaka Y, Nishimori H, Munakata S, Kemmochi M, Murakami Y, Sato M, Toyokuni K, Yamamoto-Hanada K, Morita H, Fukuie T, Yamada Y, Ohtsuka Y, Arai K, Ohya Y, Saito H, Matsumoto K, Nomura I. A nationwide survey of non-IgE-mediated gastrointestinal food allergies in neonates and infants. Allergol Int 2024;73:264-74.
20. Hattori A, Seki A, Inaba N, Nakabayashi K, Takeda K, Tatsusmi K, Naiki Y, Nakamura A, Ishiwata K, Matsumoto K, Nasu M, Okamura K, Michigami T, Katoh-Fukui Y, Umezawa A, Ogata T, Kagami M, Fukami M. Expression levels and DNA methylation profiles of the growth gene SHOX in cartilage tissues and chondrocytes. Sci Rep 2024;14:8069.
21. Yamamoto-Hanada K, Sato M, Toyokuni K, Irahara M, Hiraide-Kotaki E, Harima-Mizusawa N, Morita H, Matsumoto K, Ohya Y. Combination of heat-killed Lactiplantibacillus plantarum YIT 0132 (LP0132) and oral immunotherapy in cow's milk allergy: a randomised controlled trial. Benef Microbes 2023;14:17-29.
22. Ando T, Takazawa I, Spencer ZT, Ito R, Tomimori Y, Mikulski Z, Matsumoto K, Ishitani T, Denson LA, Kawakami Y, Kawakami Y, Kitaura J, Ahmed Y, Kawakami T. Ileal Crohn's Disease Exhibits Reduced Activity of Phospholipase C-β3-Dependent Wnt/β-Catenin Signaling Pathway. Cells 2024;13(11):986.
23. Saito-Abe M, Toyokuni K, Ogasawara H, Pak K, Inuzuka Y, Harama D, Ando N, Koyano Y, Kobayashi T, Hayashi Y, Morita H, Matsumoto K, Fukuie T, Ohya Y, Yamamoto-Hanada K. KITY Study Protocol: A Randomised Controlled Trial for Eczema Prevention by Ingestion of Kestose in High-Risk Neonates. Clin Exp Allergy. 2024 Dec 18. doi: 10.1111/cea.14612. Epub ahead of print. PMID: 39692192.
24. Yamamura Y, Fukami M, Matsuyama M, Sawada H. A novel variant of IGSF1 in siblings with congenital central hypothyroidism whose diagnosis was prompted by school health checkups. Clin Pediatr Endocrinol 2024;33(1):17-22.
25. Hijikata A, Suyama M, Matoba R, Kikugawa S, Naruto T, Enomoto Y, Kurosawa K, Harada N, Kaname T, Yanagi K, Miyako K, Takazawa M, Sasai H, Hosokawa J, Itoga S, Yamaguchi T, Kosho T, Matsubara K, Kuroki Y, Fukami M, Adachi K, Nanba E, Tsuchida N, Uchiyama Y, Matsumoto N, Nishimura K, Ohara O. Exome-wide benchmark of difficult-to-sequence regions using short-read next-generation DNA sequencing. Nucleic Acids Res. 2024;52(1):114-124.
26. Ogata T, Fukami M, Tanizawa K, Yamamoto T, Sato Y, Hirai H, Takasao N, Ibaraki R, Noda M. Efficacy and safety of GH treatment in Japanese children with short stature due to SHOX deficiency: a randomized phase 3 study. Clin Pediatr Endocrinol 2024;33(2):43-49.
27. Hattori A, Seki A, Inaba N, Nakabayashi K, Takeda K, Tatsusmi K, Naiki Y, Nakamura A,

Ishiwata K, Matsumoto K, Nasu M, Okamura K, Michigami T, Katoh-Fukui Y, Umezawa A, Ogata T, Kagami M, Fukami M. Expression levels and DNA methylation profiles of the growth gene SHOX in cartilage tissues and chondrocytes. Sci Rep 2024;14(1):8069.
28. Muranishi Y, Kobori Y, Katoh-Fukui Y, Tamaoka S, Hattori A, Osaka A, Okada H, Nakabayashi K, Hata K, Kawai T, Ogata-Kawata H, Iwahata T, Saito K, Kon M, Shinohara N, Fukami M. Systematic molecular analyses for 115 karyotypically normal men with isolated non-obstructive azoospermia. Hum Reprod 2024;39(5):1131-1140.
29. Narumi S, Nagasaki K, Kiriya M, Uehara E, Akiba K, Tanase-Nakao K, Shimura K, Abe K, Sugisawa C, Ishii T, Miyako K, Hasegawa Y, Maruo Y, Muroya K, Watanabe N, Nishihara E, Ito Y, Kogai T, Kameyama K, Nakabayashi K, Hata K, Fukami M, Shima H, Kikuchi A, Takayama J, Tamiya G, Hasegawa T. Functional variants in a TTTG microsatellite on 15q26.1 cause familial nonautoimmune thyroid abnormalities. Nat Genet 2024;56(5):869-876.
30. Matsubara K, Ohgami Y, Okamura K, Aoto S, Fukami M, Shimada Y. Machine learning trial to detect sex differences in simple sticker arts of 1606 preschool children. Minerva Pediatr (Torino) 2024;76(3):343-349.
31. Uehara E, Abe K, Tanase-Nakao K, Muroya K, Hattori A, Matsubara K, Fukami M, Narumi S. Molecular and clinical features of congenital hypothyroidism due to multiple DUOX2 variants. Thyroid 2024;34(7):827-836.
32. Doi H, Kageyama I, Katoh-Fukui Y, Hattori A, Fukami M, Shimura N. Homozygous 6-bp deletion of IGFALS in a prepubertal boy with short stature. Hum Genome Var 2024;11(1):27.
33. Ogiwara Y, Kobori Y, Suzuki E, Hattori A, Tanase-Nakao K, Osaka A, Iwahata T, Okada H, Kuroki Y, Fukami M. Isodicentric Y chromosome with multiple breakpoints in the pseudoautosomal region 1. Cytogenet Genome Res 2024;164(3-4):133-138.
34. Suzuki E, Nakabayashi K, Aoto S, Ogata T, Kuroki Y, Miyado M, Fukami M, Matsubara K. DNA methylation changes in the genome of patients with hypogonadotropic hypogonadism. Heliyon 2024;10(18):e37648.
35. Muranishi Y, Katoh-Fukui Y, Hattori A, Kobori Y, Osaka A, Okada H, Iwahata T, Kon M, Shinohara N, Fukami M. Compound heterozygous KCTD19 variants in a man with isolated nonobstructive azoospermia. Reprod Med Biol 2024;23(1):e12608.
36. Narusawa H, Ogawa T, Yagasaki H, Nagasaki K, Urakawa T, Saito T, Soneda S, Kinjo S, Sano S, Mamada M, Terashita S, Dateki S, Narumi S, Naiki Y, Horikawa R, Ogata T, Fukami M, Kagami M. Comprehensive study on central precocious puberty: molecular and clinical analyses in 90 patients. J Clin Endocrinol Metab 2024:dgae666.
37. Urakawa T, Soejima H, Yamoto K, Hara-Isono K, Nakamura A, Kawashima S, Narusawa H, Kosaki R, Nishimura Y, Yamazawa K, Hattori T, Muramatsu Y, Inoue T, Matsubara K, Fukami M, Saitoh S, Ogata T, Kagami M. Comprehensive molecular and clinical findings in 29 patients with multi-locus imprinting disturbance. Clin Epigenetics 2024;16(1):138.
38. Akiba K, Zukeran H, Hasegawa Y, Fukami M. Initial clinical manifestations in a young male with RFX6-variant-associated diabetes. Clin Pediatr Endocrinol 2024;33(4):224-228.
39. Kamimura M, Shima H, Suzuki E, Sogi C, Fujiwara I, Adachi M, Haruna H, Takubo N, Fukami M, Kikuchi A, Kanno J. CHARGE syndrome in a child with a CHD7 variant and a novel pathogenic SOX2 variant: A case report. Clin Pediatr Endocrinol 2024;33(4):214-218.
40. Omori-Shimano S, Ikeda K, Miyauchi J, Fukami M. Genitourinary and craniofacial/cervicothoracic anomalies in a neonate with in-utero mycophenolate mofetil exposure. Congenit Anom (Kyoto) 2024;64(6):257-259.

41. Giannopoulou EZ, Brandt S, Zorn S, Denzer C, von Schnurbein J, Fukami M, Kaiser A, Schmidt M, Wabitsch M. Long term effects of aromatase inhibitor treatment in patients with aromatase excess syndrome. Front Endocrinol (Lausanne) 2024;15:1487884.
42. Takahashi F, Baba T, Christianto A, Yanai S, Lee-Okada HC, Ishiwata K, Nakabayashi K, Hata K, Ishii T, Hasegawa T, Yokomizo T, Choi MH, Morohashi KI. Development of sexual dimorphism of skeletal muscles through the adrenal cortex, caused by androgen-induced global gene suppression. Cell Rep. 2024 Feb 27;43(2):113715.
43. Rengifo Rojas C, Cercy J, Perillous S, Gonthier-Guéret C, Montibus B, Maupetit-Méhouas S, Espinadel A, Dupré M, Hong CC, Hata K, Nakabayashi K, Plagge A, Bouschet T, Arnaud P, Vaillant I, Court F. Biallelic non-productive enhancer- promoter interactions precede imprinted expression of Kcnk9 during mouse neural commitment. HGG Adv. 2024 Apr 11;5(2):100271.
44. Niizeki H, Tanaka R, Nomura T, Seki A, Miyasaka M, Matsumoto Y, Ishibashi M, Narumi S, Nakabayashi K, Yoshida K. Lack of cutis verticis gyrata is associated with c.1279_1290del12 of SLCO2A1 in 43 Japanese patients with pachydermoperiostosis. J Dermatol Sci. 2024 May;114(2):86-88.
45. En A, Takemoto K, Yamakami Y, Nakabayashi K, Fujii M. Upregulated expression of lamin B receptor increases cell proliferation and suppresses genomic instability: implications for cellular immortalization. FEBS J. 2024 May;291(10):2155-2171.
46. Saito S, Saito Y, Sato S, Aoki S, Fujita H, Ito Y, Ono N, Funakoshi T, Kawai T, Suzuki H, Sasaki T, Tanaka T, Inoie M, Hata K, Kataoka K, Kosaki K, Amagai M, Nakabayashi K, Kubo A. Gene-specific somatic epigenetic mosaicism of FDFT1 underlies a non-hereditary localized form of porokeratosis. Am J Hum Genet. 2024 May 2;111(5):896-912.
47. Hirakawa T, Yotsumoto F, Imi S, Ito N, Ishiwata K, Nakabayashi K, Watanabe A, Shirasu N, Urushiyama D, Miyata K, Takahashi S, Baba T, Hata K, Yasunaga S, Miyamoto S. Adipose-derived Mesenchymal Stem Cell Transplantation Improves Ovarian Function and Oocyte Quality in Aged Mice. Anticancer Res. 2024 Aug;44(8):3577-3586.
48. Hirakawa T, Nakabayashi K, Ito N, Hata K, Imi S, Shibata M, Urushiyama D, Miyata K, Yotsumoto F, Yasunaga S, Baba T, Miyamoto S. Transwell Culture with Adipose Tissue-Derived Stem Cells and Fertilized Eggs Mimics the In Vivo Development of Fertilized Eggs to Blastocysts in the Fallopian Tube: An Animal Study. Antioxidants (Basel). 2024 Jun 8;13(6):704.
49. Morita-Nakagawa M, Okamura K, Nakabayashi K, Inanaga Y, Shimizu S, Guo WZ, Fujino M, Li XK. Supervised machine learning of outbred mouse genotypes to predict hepatic immunological tolerance of individuals. Sci Rep. 2024 Oct 17;14(1):24399.

[総説]

1. Motomura K, Morita H, Yamamoto H, Wada S, Sago H, Takahashi H, Saito H, Matsumoto K. Isolation of pure primary term human cytotrophoblasts and their differentiation into

syncytiotrophoblast-like cells as an ex vivo model of the human placenta. Placenta 2024:S0143-4004(24)00603-9.

2. Motomura K, Morita H, Naruse K, Saito H, Matsumoto K. Implication of viruses in the etiology of preeclampsia. Am J Reprod Immunol 2024;91(4):e13844.
3. Morita H, Matsumoto K. Legends of allergy and immunology: Hirohisa Saito. Allergy 2024;79(6):1629-1630.
4. Matsumoto K. Non-IgE-mediated food allergy: Where are we now? Allergol Int 2024;73:187.
5. Saito H, Tamari M, Motomura K, Ikutani M, Nakae S, Matsumoto K, Morita H. Omics in allergy and asthma. J Allergy Clin Immunol 2024:S0091-6749(24)01025-X.
6. Saito H, Tamari M, Fukuie T, Matsumoto K, Morita H. Direct epitope study using human monoclonal IgE antibodies against peanut allergens. J Allergy Clin Immunol 2025. Accepted
7. Kuroki Y, Hattori A, Fukami M. Long-read next-generation sequencing for molecular diagnosis of pediatric endocrine disorders. Annal Pediatr Endocr Metab 2024;29(3):156-160.
8. Hattori A, Fukami M. Precocious puberty in boys with NR0B1 variants. Endocrines 2024;5(4):529‐537.
9. 土屋育, 辻敦美, 高田修治. (2024). 精巣分化における Sox9/SOX9 発現制御機構の解明. 月刊「細胞」性スペクトラム, 56(1)33-37.
10. 高田修治. (2024).ミニレビュー 生化学哺乳類の性決定における Sox9 のエンハンサーによる発現制御. 生化学 96(4)571-575 (2024).

［書籍等出版物］

1. 服部淳, 深見真紀: ヒト性腺の性の多様性をまねくゲノム構造バリアント. 細胞, 北隆館, 2024;744:54‐57.
2. 深見真紀. 早発卵巣不全 IV.病因 ii 遺伝子変異 石塚文平 編著 早発卵巣不全ー病因論と治療の最前線 医歯薬出版株式会社 2024
3. 深見真紀. 成育疾患からみた着床前期胚の重要性 山田満稔編 医学のあゆみ 291(10) 特集 生殖医学―基礎研究と実地診療の進歩 医歯薬出版株式会社 2024
4. 深見真紀. ヘテロ接合性の消失（LOH）とは何でしょうか？ 加藤元博編 小児科医のための話したくなる遺伝学 わかる遺伝子検査 金芳堂 2024
5. 深見真紀. X 染色体の不活性化はどのようにして生じるのでしょうか？ 加藤元博編 小児科医のための話したくなる遺伝学 わかる遺伝子検査 金芳堂 2024
6. 深見真紀. エピゲノムとは何でしょうか？ 加藤元博編 小児科医のための話したくなる遺伝学 わかる遺伝子検査 金芳堂 2024 ・・・
7. 中林一彦. 第 9 講義「エピゲノム」, 日本人類遺伝学会（編）, 臨床遺伝学テキストノート 改定第 2 版, 診断と治療社, 2024 ; 72-81
8. 中林一彦. 第 17 講義「バイオテクノロジー（生物工学・生命工学）」, 日本人類遺伝学会（編）, 臨床遺伝学テキストノート 改定第 2 版, 診断と治療社, 2024 ; 155

[講演・口頭発表等]

1. 深見真紀:　小児科診療に役立つ遺伝学的検査 Update.　福岡大学小児科臨床セミナー　福岡　2024.1.15
2. 深見真紀:　ヒトの性と性染色体の新知見.　特別講演　第 37 回秋田県排尿・生殖研究会　秋田　2024.2.22
3. 深見真紀:　新規男性ホルモン 11-oxyandrogens とはなにか?　クリニカルアワー「ステロイドホルモンの新しい展開がよくわかる」　第 97 回日本内分泌学会学術総会　横浜　2024.6.8
4. 深見真紀:　ヒトの性の新知見.　特別講演　第 45 回埼玉内分泌代謝研究会　大宮　2024.07.20
5. 深見真紀:　ヒトの性と性染色体の新知見.　特別講演　第 2 回兵庫内分泌サマーセミナー　神戸　2024.08.17
6. 松本健治「アレルギーと新型コロナウイルス感染症」第 30 回播磨小児アレルギー・感染症懇話会、姫路、2024 年 2 月 15 日
7. 松本健治「アレルギーの基礎知識・アレルゲン」日本アレルギー疾患療養指導士認定機構第 4 回研修セミナー2023、東京、2024 年 1 月 28 日
8. 松本健治「アナフィラキシーの病態生理」第 10 回 日本アレルギー学会 総合アレルギー講習会、東京、2024 年 3 月 16 日
9. 松本健治. アレルギー疾患はどこまで発症予防可能になったか 第 57 回姫路市医師会夏季大学、姫路、2024 年 7 月 21 日
10. 松本健治. 好酸球性気道炎症の基礎研究 up to date Scientific Exchange Meeting from Kanagawa、横浜、2024 年 7 月 25 日
11. 松本健治. アレルギー性炎症の機序, 第 18 回相模原臨床アレルギーセミナー、Web 開催、2024 年 8 月 1 日
12. 阿久津英憲, 日本医師会シンポジウム：「先端的な医科学技術がもつ生命倫理の課題」　シンポジウム②「受精卵へのゲノム編集遺伝子研究に関する世界的な取り組みや考え方」　日本医師会オンライン開催, 2024 年 2 月 29 日
13. 阿久津英憲, 第 10 回細胞凝集研究会, 招待講演「ミニ腸(腸管オルガノイド)の実用化へ向けた開発」, 佐賀市, 2024 年 7 月 12 日
14. Hidenori Akutsu,The 21st International Federation of Associations of Anatomists (IFAA), Symposium speaker & session chairperson “Stem Cell-Derived Intestinal Avatars: Unveiling Mechanisms of Gastrointestinal Disorders”, Gwangju, Korea, 2024/09/08
15. 阿久津英憲, 第 51 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会, 特別講演「ミニ腸が拓く“腸”未来」, 東京, 2024 年 10 月 6 日
16. 阿久津英憲, 第 36 回日本生命倫理学会年次大会, シンポジウム「オルガノイド研究の現在と ELSI」, 大阪, 2024 年 11 月 17 日

器官システム制御学講座

人体病理学分野

Department of Human Pathology

教　　授　　大橋　健一
講　　師　　山本　浩平
助　　教　　山本　くらら, 加藤　祐己
（博士課程）三浦　圭子, 田村　一洋, 畑　千菜, 加藤　秀, 屋富祖　大騎, 宮田　遼太, 伊藤　一真
（修士課程）宮代　梨花, 高木　美菜子, 増田　美南花
秘　　書　　岩満　美保

(1) 分野概要

病理学 Pathology とは、言葉が病気（pathos 苦難）＋理論 (logus 理ことわり) を示すように、病気を理論立てて理解する学問分野である。その後、病気の原因となる研究対象が細分化し、研究手法が進歩することによって、細菌学 (微生物学)、寄生虫学 (医動物学)、免疫学、分子生物学などが病理学の範疇から分離独立していった。近年、従来の学問分野の枠組を越えた再編が進行し、学問分野は目的、研究対象、研究方法によってさらに細分化する傾向にある。現在、病理学は形態学を基盤として、病気の原因（病因 etiology)、病変の成り立ち（組織発生 hisitogenesis)、病態（発生機序 pathogenesis）を理解、整理する学問とされている。病理学の中では、実験動物、培養細胞を用いて実験的に仮説を証明していく実験病理学、細胞生物学的な分野と、臨床と密接に関連した病理診断学、臨床病理学的な分野が分離する傾向にあり、人体組織を取り扱う後者に携わる病理学者が多くなっている。本学人体病理学分野ではヒトの病気の病理学的診断を正確になし得る病理専門医を育成すると同時に、ヒトの病気の病因、組織発生、発生機序の解明を目指し、研究結果が臨床、病理診断の向上に結びつく研究を遂行できるリサーチマインドに富んだ病理学研究医の育成を目指している。

(2) 研究活動

1. ヒト癌について

大きく 3 つのことを目的としている。(1) 癌の成り立ち、組織発生について: 食道癌、胃癌、大腸癌、潰瘍性大腸炎など炎症性腸疾患に合併する大腸癌 、肺癌を対象として、病理組織学的解析、臨床病理学的解析、遺伝子解析などによって前癌病変を明らかにし、前癌病変から癌が発生する過程、分子基盤を明らかにする。(2) 癌に関わる病理診断の客観化について:　あらゆる臓器から発生する癌は、その臓器に発生する良性腫瘍との鑑別が問題となり、良性悪性の境界領域腫瘍も存在する。また、臨床的な重要な意義を持つ病理学的所見についても主観的な判断に基づくものが多く、所見の客観性、再現性、観察者間の一致率が問題になっている。病理診断においてもコンピューター、Ai、画像解析技術を応用する事は重要であり、近年進歩が著しいゲノム情報、様々なマーカー発現等の情報を総合した新しい病理診断学の確立が求められている。(3) 悪性腫瘍の進展、転移機序について: ヒト食道癌、胃癌、大腸癌、肺癌において、早期癌が多く見つかり、内視鏡的切除など縮小した手術、治療が多く行われているが、早期の段階から転移を示す高悪性度例もあり、それを早期の段階で診断し、適切な治療法を選択できるようにする必要がある。早期の癌の浸潤過程において、転移、再発に関係した病理学的な所見を明らかにして、それらに密接に関与する分子基盤を明らかにする事が重要である。病理診断に応用できるマーカーを確立することによって、より精度の高い病理診断が可能になると考えられる。

2. 慢性炎症について

原因不明の慢性炎症性疾患について、病変部局所を病理学的立場から徹底的に解析し、その病気の病因、成り立ちを明らかにする。また、診断に役立つマーカーなどについても開発し、実際の病理診断に応用する。 1）サルコイドーシスに関しては、Propionibacterium acnes（アクネ菌）の深部臓器における細胞内潜伏感染と、その内因性活性化に伴う急激な autophagy の活性化および Th1 免疫反応の誘導が肉芽腫形成の原因となっている可能

性につき免疫病理学的な観点から研究している。アクネ菌感染がサルコイドーシス以外の疾患にも関与しているとの報告が蓄積されているが、他疾患との関係についても研究を進める。２）Helicobacter pylori（ピロリ菌）の胃粘膜表層での感染が慢性胃炎を生じる病理発生機構に関して、本菌が粘膜表層上皮障害に起因して粘膜固有層に進入し胃所属リンパ節に translocate することが判明したことから、これが粘膜内の免疫担当細胞を直接刺激することで胃粘膜の慢性炎症に寄与するとともに、リンパ節に流入後は傍皮質領域において免疫系を慢性的に刺激している可能性につき研究している。また、ピロリ菌についてはその構造の違いによって、胃癌発生のリスクが異なることが知られている。ピロリ菌の構造と発癌リスクの関係を解明し、ピロリ菌の発癌リスクを評価できる検査キットの開発も行っている。３）　潰瘍性大腸炎、クローン病など炎症性大腸炎に見られる特徴的な病理学的所見を解析し、それらの発生機序、意義を検証している。また、生検材料を用いた腸炎の活動性についての評価、分子マーカーの発現について研究している。４）全身性アミロイドーシスの病型診断は患者の治療方針を決定するためには非常に重要であるが、有用な診断用抗体が十分には揃っていない。病理診断の精度を向上できる診断用抗体の開発、応用について研究を行っている。

(3)　教育活動

大学院博士課程では学位取得とともに日本専門医機構認定の病理専門医資格の取得も目標にしている。まずは、人体病理解剖、生検組織診断、迅速組織診断、手術標本の組織診断などの研修を行い、診断病理学分野（附属病院病理部 · 病理診断科）ならびに関連病院病理診断科で診断病理学（外科病理学）の研鑽を積み、病理学者としての基盤を形成する。研修中は臨床各科との合同症例検討会に参加し病理診断を発表すると共に、各臨床分野における現時点での問題点を把握し、それについて臨床医と討論あるいは共同研究を行う。病理学者としての基盤を形成しつつ、ヒトの病気の原因、診断、治療などに直接関わっている問題点をテーマとして臨床病理学的、免疫組織学的、分子病理学的方法を用いて研究をすすめる。成果は国内外の学会、英文学術雑誌に発表を行う。

(4)　教育方針

社会が医療に要請していることは、正しい診断のもとに適切な治療がなされることである。従って、人体病理学分野では、生検組織 · 手術標本の病理組織診断および病理解剖など、いわゆる臨床病理学の研鑽を積むことに重点を置くと共に、ヒトの病気の原因、成り立ち、診断、治療に直接関係する多くの問題について、“強い問題意識と深い思索”のもとに研究することを目指している。研究の成果は病気の理解を深めるとともに、臨床、病理診断に直接役立つものが求められる。

(5)　臨床活動および学外活動

医師免許を有する大学院生は原則全員が医学部附属病院病理部 · 病理診断科の業務を兼務し、病理診断、病理解剖の研修を行い、病理専門医資格の取得を目指す。また、スタッフ、大学院生は東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県内において、地域医療を支える中核的な東京医科歯科大学の関連病院の非常勤医として、病理診断をサポートし、共同研究を行っている。人体病理学分野では病理診断の精度を向上させることによって、地域医療、社会に貢献していきたいと思っている。また、地域の病院等における各種講演会、カンファレンスでの発表、参加にも積極的に協力している。日本病理学会をはじめ各種の学会の活動には積極的に参加、協力しており、特に病理学会においては運営に携わり、中核的な役割を担っている。厚生労働省など省庁の各種委員会等にも積極的に参加、協力している。

(6)　臨床上の特色

明治時代以来、医学部に於ける人体病理学分野は基礎医学に属していたが、近年の病院における病理学の役割は実質的に臨床医学の一部になっている。すなわち、臨床各科の患者の病気診断に際しては、内視鏡的外科的に病変組織の一部を採取 (生検組織) あるいは病変部から細胞を採取し、それを基に顕微鏡で直接病変を眺め病理組織学的診断 (生検組織診断、細胞診) を行い臨床各科へ報告する。手術で除去された臓器 · 組織については、病理組織学的に病変の拡がりとその性質を検索すると共に、手術の適切性を判断し、手術後の治療方針決定のための資料とする。また、患者の治療過程においては、病変部から経時的に採取された組織を病理組織学的に検索し、治療効果を判定する。患者が不幸にも鬼籍に入った場合、生前の検査所見と治療法の選択及びその効果を検討する為に主治医とともに病理解剖を行い、以後の診断と治療に役立たせる。いわば、人体病理学分野は本学の組織体制上では診断病理学分野と別分野になってはいるが、実際的には一心同体である。人体病理学分野は直接患者に接することはないが、患者の診断 · 治療の点において直接的に深く関わっている。一人の患者を中心とした臨床各科の医師と臨床病理医間の意志疎通と強い連携診療は、最良の診療を行うための必須条件であり、これを現代社

会は特定機能病院としての大学病院に要請している。それ故に、人体病理学分野の医師は”doctor of doctors”とも云われている良き臨床病理医であるべく、日々、診断病理学分野と一体となって人体病理学の研鑽に努め、患者のための病理学の実践と研究を遂行している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Ko-Ron Chen, Keiko Miura, Toyoko Inazumi, Yoshio Nakamura, Hideki Nakajima, Hayato Takahashi, Toshiyuki Yamamoto. Sarcoid Vasculitis in the Skin: A Clinicopathologic Study of 8 Cases With Various Skin Lesions but the Common Unique Cannonball-like Vessel Destruction by Sarcoid Granulomas. Am J Surg Pathol. 2024.11;

2. Yoshimoto M, Hasegawa E, Oba Y, Mizuno H, Kurihara S, Inoue N, Sekine A, Tanaka K, Yamanouchi M, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Yamaguchi Y, Wada T, Sawa N, Ubara Y. A Case of Acute Eosinophilic Granulomatous Tubulointerstitial Nephritis in a Patient Receiving Combination Treatment with Three Drugs. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2024.12;

3. Suzuki Y, Kikuchi D, Ohashi K, Hoteya S. Long-Term Prognostic Factors for Patients Aged 80 and Older With Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma Undergoing Endoscopic Submucosal Dissection. Journal of gastroenterology and hepatology. 2024.12;

4. Ubara Y, Sawa N, Wada T, Kono K, Ohashi K. Lupus nephritis and related renal disease: review from case series. Clinical and experimental nephrology. 2024.12;

5. Ubara Yoshifumi, Kurihara Shigekazu, Tsuchiya Yoshiki, Oba Yuki, Ikuma Daisuke, Mizuno Hiroki, Yamanouchi Masayuki, Suwabe Tatsuya, Imase Atsuko, Shibata Nobumitsu, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Ogata Kentaro, Sawa Naoki. A case of hypertensive emergency with alveolar hemorrhage and thrombotic microangiopathy. CEN Case Reports. 2024.12; 13(6); 450-456

6. Ubara Yoshifumi, Takeuchi Toshihiro, Hasegawa Eiko, Sekine Akinari, Inoue Noriko, Tanaka Kiho, Mizuno Hiroki, Oba Yuki, Yamanouchi Masayuki, Suwabe Tatsuya, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Yamaguchi Yutaka, Sawa Naoki, Wada Takehiko. A case of immunoglobulin G4-related kidney disease manifesting after dipeptidyl peptidase-4 inhibitor treatment. CEN Case Reports. 2024.12; 13(6); 565-572

7. Fukuda Miruzato, Yokoyama Takayoshi, Miki Katsuyuki, Yamanouchi Masayuki, Ikuma Daisuke, Mizuno Hiroki, Oba Yuki, Inoue Noriko, Sekine Akinari, Tanaka Kiho, Hasegawa Eiko, Suwabe Tatsuya, Wada Takehiko, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Yamaguchi Yutaka, Nakamura Yuki, Ishii Yasuo, Sawa Naoki, Ubara Yoshifumi. De novo posttransplant membranous nephropathy after COVID-19 vaccination 9 years after renal transplantation in a patient with polycystic kidney disease. CEN Case Reports. 2024.12; 13(6); 434-439

8. Mizuta Masato, Sekine Akinari, Suwabe Tatsuya, Hoshino Junichi, Yamanouchi Masayuki, Mizuno Hiroki, Ikuma Daisuke, Hasegawa Eiko, Oba Yuki, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Sawa Naoki, Ubara Yoshifumi. Autopsy of a 45-year-old Man with Liver Failure Due to Polycystic Liver Disease. Internal Medicine. 2024.11; 63(21); 2965-2970

9. Takahara H, Kanazawa T, Oshita H, Tomita Y, Hananoi Y, Ishibashi S, Ikeda M, Furukawa A, Kinoshita M, Yamamoto K, Kato Y, Ishibashi H, Okubo K, Kurata M, Kitagawa M, Ohashi K, Yamamoto K. GPX4 and FSP1 Expression in Lung Adenocarcinoma: Prognostic Implications and Ferroptosis-Based Therapeutic Strategies. Cancers. 2024.11; 16(22);

10. Kawano Hiroaki, Motokawa Tetsufumi, Eishi Yoshinobu, Setoguchi Akito, Ueno Yuki, Takenaka Motoi, Okano Shinji, Ideguchi Reiko, Ohashi Kenichi, Maemura Koji. Cardiac Sarcoidosis Which Occurred Four Years after Successful Treatment of Cutaneous Sarcoidosis with Minocycline. Internal Medicine. 2024.10; 63(20); 2807-2813

11. Suenaga Atsuhiko, Sawa Naoki, Oba Yuki, Ikuma Daisuke, Sekine Akinari, Yamanouchi Masayuki, Hasegawa Eiko, Mizuno Hiroki, Suwabe Tatsuya, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Miyazono Motoaki, Yamaguchi Yutaka, Uesugi Noriko, Ubara Yoshifumi. Is Podocytopathy Associated with Gross Hematuria after COVID-19 Vaccination in Patients with Immunoglobulin A Nephropathy?. Internal Medicine. 2024.10; 63(20); 2821-2825

12. Marumo T, Yoshida N, Inoue N, Yamanouchi M, Ubara Y, Urakami S, Fujii T, Takazawa Y, Ohashi K, Kawarazaki W, Nishimoto M, Ayuzawa N, Hirohama D, Nagae G, Fujimoto M, Arai E, Kanai Y, Hoshino J, Fujita T. Aberrant proximal tubule DNA methylation underlies phenotypic changes related to kidney dysfunction in patients with diabetes. American journal of physiology. Renal physiology. 2024.09; 327(3); F397-F411

13. Tanaka H, Yoshida S, Aoyama S, Ikeda S, Kunieda J, Ohashi K, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Fujii Y. A case of double-negative prostate cancer with BRCA2 mutation and high tumor mutation burden treated sequentially with olaparib and pembrolizumab. IJU case reports. 2024.09; 7(5); 395-398

14. Hasegawa E, Iijima M, Sekine A, Inoue N, Tanaka K, Suwabe T, Yamanouchi M, Oba Y, Kume A, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Yamaguchi Y, Suyama Y, Wada T, Sawa N, Takahashi K, Ueki S, Ubara Y. A case of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis preceded by allergic bullous lesions. Modern rheumatology case reports. 2024.09; 9(1); 143-148

15. Tanaka Hiroki, Yoshida Soichiro, Aoyama Satoru, Ikeda Sadakatsu, Kunieda Junko, Ohashi Kenichi, Fukuda Shohei, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Fujii Yasuhisa. A case of double-negative prostate cancer with BRCA2 mutation and high tumor mutation burden treated sequentially with olaparib and pembrolizumab. IJU Case Reports. 2024.09; 7(5); 395-398

16. Kono Kei, Sawa Naoki, Wake Atsushi, Shintani-Domoto Yukako, Fujii Takeshi, Takazawa Yutaka, Ubara Yoshifumi, Ohashi Kenichi. Digital whole-slide imaging of changes in amyloid after peripheral blood stem cell transplantation in patients with amyloid light-chain amyloidosis. Pathology International. 2024.09; 74(9); 508-519

17. Suenaga A, Oba Y, Ikuma D, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Mizuno H, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Miyazono M, Yamaguchi Y, Ubara Y, Sawa N. Relationship between MRI findings and renal histopathology in IgG4-related tubulointerstitial nephritis. Modern rheumatology. 2024.08; 35(2); 352-358

18. Tamura K, Tomita Y, Kanazawa T, Shinohara H, Sakano M, Ishibashi S, Ikeda M, Kinoshita M, Minami J, Yamamoto K, Kato Y, Furukawa A, Haruki S, Tokunaga M, Kinugasa Y, Kurata M, Kitagawa M, Ohashi K, Yamamoto K. Lipid Peroxidation Regulators GPX4 and FSP1 as Prognostic Markers and Therapeutic Targets in Advanced Gastric Cancer. International journal of molecular sciences. 2024.08; 25(17);

19. Suenaga Atsuhiko, Sawa Naoki, Oba Yuki, Ikuma Daisuke, Sekine Akinari, Yamanouchi Masayuki, Hasegawa Eiko, Mizuno Hiroki, Suwabe Tatsuya, Hayashi Nobukazu, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Miyazono Motoaki, Yamaguchi Yutaka, Ubara Yoshifumi. A case of bullous pemphigoid and renal disease after dipeptidyl peptidase 4 inhibitor administration. CEN Case Reports. 2024.08; 13(4); 264-270

20. Ubara Y, Oba Y, Kurihara S, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Kono K, Ohashi K, Wada T, Sawa N. A case of renal limited myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody-positive vasculitis treated with maintenance avacopan monotherapy. CEN case reports. 2024.07; 14(1); 85-89

21. Kono K, Sawa N, Wake A, Shintani-Domoto Y, Fujii T, Takazawa Y, Ubara Y, Ohashi K. Digital whole-slide imaging of changes in amyloid after peripheral blood stem cell transplantation in patients with amyloid light-chain amyloidosis. Pathology international. 2024.07; 74(9); 508-519

22. Yoshimura Y, Mizuno H, Ikuma D, Yamanouchi M, Sekine A, Suwabe T, Oba Y, Kurihara S, Sugimoto H, Inoue N, Yoshimoto M, Tanimizu H, Tsunoda S, Iijima M, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Takazawa Y, Hasegawa E, Ubara Y, Sawa N. Long-term clinicopathological characteristics of TAFRO syndrome and its relapse: a case series study. Clinical kidney journal. 2024.07; 17(7); sfae110

23. Suzuki Y, Ochiai Y, Kikuchi D, Koseki M, Ohashi K, Hoteya S. Long-term Outcome of Asymptomatic Esophageal Eosinophilia. Gut and liver. 2024.07; 18(4); 632-641

24. Jun Hashimoto, Yoto Oh, Kouhei Yamamoto, Toshitaka Yoshii, Kazuyuki Fukushima, Masanobu Kitagawa, Atsushi Okawa. Frequency and pathogenesis of periprosthetic atypical femoral fractures associated with total knee arthroplasty: A multicenter prospective study with complementary histopathological and biomechanical analysis. Injury. 2024.06; 55(6); 111136

25. Asakawa A, Yoshimoto R, Kobayashi M, Izumi N, Maejima T, Deguchi T, Kubota K, Takahashi H, Yamada M, Ishibashi S, Onishi I, Kinowaki Y, Kurata M, Kobayashi M, Ishibashi H, Okubo K, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. The Comprehensive Characterization of B7-H3 Expression in the Tumor Microenvironment of Lung Squamous Cell Carcinoma: A Retrospective Study. Cancers. 2024.06; 16(11);

26. Katayama Yuri, Sawa Naoki, Kurihara Shigekazu, Ikuma Daisuke, Oba Yuki, Sekine Akinari, Yamanouchi Masayuki, Hasegawa Eiko, Suwabe Tatsuya, Wada Takehiko, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Tsuchiya Yoshiki, Ubara Yoshifumi. Glomerular Microangiopathy-like Nephropathy Caused by Hyperthyroidism. Internal Medicine. 2024.06; 63(12); 1765-1770

27. Ubara Y, Takeuchi T, Hasegawa E, Sekine A, Inoue N, Tanaka K, Mizuno H, Oba Y, Yamanouchi M, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Yamaguchi Y, Sawa N, Wada T. A case of immunoglobulin G4-related kidney disease manifesting after dipeptidyl peptidase-4 inhibitor treatment. CEN case reports. 2024.05; 13(6); 565-572

28. Nakayama Yuki, Yamanouchi Masayuki, Mizuno Hiroki, Suwabe Tatsuya, Sekine Akinari, Ikuma Daisuke, Hasegawa Eiko, Oba Yuki, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Wada Takehiko, Sawa Naoki, Ubara Yoshifumi. Syphilis-related Membranous Nephropathy in a 35-year-old Woman. Internal Medicine. 2024.05; 63(10); 1429-1432

29. Oba Yuki, Mizuno Hiroki, Taneda Sekiko, Sawai Toshihiro, Oda Takashi, Ikuma Daisuke, Yamanouchi Masayuki, Suwabe Tatsuya, Kono Kei, Kinowaki Keiichi, Ohashi Kenichi, Sawa Naoki, Ubara Yoshifumi. Anti-factor H antibody-positive C3 glomerulonephritis secondary to poststreptococcal acute glomerulonephritis with diabetic nephropathy CEN Case Reports. 2024.04; 13(2); 110-116

30. Nobuhiko Ogasawara, Yoshihito Kano, Yosuke Yoneyama, Sakurako Kobayashi, Satoshi Watanabe, Sakura Kirino, Fausto D Velez-Bravo, Yourae Hong, Aleksandra Ostapiuk, Pavlo Lutsik, Iichiroh Onishi, Shinichi Yamauchi, Yui Hiraguri, Go Ito, Yusuke Kinugasa, Kenichi Ohashi, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto, Sabine Tejpar, Shiro Yui. Discovery of non-genomic drivers of YAP signaling modulating the cell plasticity in CRC tumor lines. iScience. 2024.03; 27(3); 109247

31. Yamada E, Umemoto T, Taguchi T, Onishi I, Yamamoto A, Tsukamoto K, Ibara T, Sasaki T, Kaburagi H, Maejima Y, Sasano T, Ohashi K, Yoshii T, Nimura A, Fujita K. Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome. JSES international. 2024.03; 8(2); 349-354

32. Ubara Y, Kurihara S, Tsuchiya Y, Oba Y, Ikuma D, Mizuno H, Yamanouchi M, Suwabe T, Imase A, Shibata N, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Ogata K, Sawa N. A case of hypertensive emergency with alveolar hemorrhage and thrombotic microangiopathy. CEN case reports. 2024.03; 13(6); 450-456

33. Fukuda M, Yokoyama T, Miki K, Yamanouchi M, Ikuma D, Mizuno H, Oba Y, Inoue N, Sekine A, Tanaka K, Hasegawa E, Suwabe T, Wada T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Yamaguchi Y, Nakamura Y, Ishii Y, Sawa N, Ubara Y. De novo posttransplant membranous nephropathy after COVID-19 vaccination 9 years after renal transplantation in a patient with polycystic kidney disease. CEN case reports. 2024.03; 13(6); 434-439

34. Kawade G, Kurata M, Matsuki Y, Fukuda S, Onishi I, Kinowaki Y, Watabe S, Ishibashi S, Ikeda M, Yamamoto M, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. Mediation of FSP1 expression via 4-HNE accumulation contributes to acquisition of resistance to apoptosis and ferroptosis in DLBCL. Laboratory investigation; a journal of technical methods and pathology. 2024.02; 102027

35. Mizuta M, Sekine A, Suwabe T, Hoshino J, Yamanouchi M, Mizuno H, Ikuma D, Hasegawa E, Oba Y, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Sawa N, Ubara Y. Autopsy of a 45-year-old Man with Liver Failure Due to Polycystic Liver Disease. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2024.02; 63(21); 2965-2970

36. Kawano H, Motokawa T, Eishi Y, Setoguchi A, Ueno Y, Takenaka M, Okano S, Ideguchi R, Ohashi K, Maemura K. Cardiac Sarcoidosis which Occurred four Years after Successful Treatment of Cutaneous Sarcoidosis with Minocycline. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2024.02; 63(20); 2807-2813

37. Suenaga A, Sawa N, Oba Y, Ikuma D, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Mizuno H, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Miyazono M, Yamaguchi Y, Uesugi N, Ubara Y. Is Podocytopathy Associated with Gross Hematuria after COVID-19 Vaccination in Patients with Immunoglobulin A Nephropathy? Internal medicine (Tokyo, Japan). 2024.02; 63(20); 2821-2825

38. Kinowaki Y, Fukumura Y, Kawade G, Sugita K, Kinowaki K, Akahoshi K, Kobayashi M, Ono H, Kudo A, Tanabe M, Akashi T, Ohashi K, Kurata M. Gene expression profiling of pancreatic neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm. Gene. 2024.01; 893; 147916

39. Hata M, Mori T, Hirose Y, Nishida Y, Mandai S, Ando F, Susa K, Iimori S, Naito S, Sohara E, Rai T, Taguchi T, Tomii S, Ohashi K, Uchida S. A case of unexpected diagnosis of fibronectin glomerulopathy with histological features of membranoproliferative glomerulonephritis. BMC nephrology. 2024.01; 25(1); 25

40. Kurihara S, Sawa N, Sumida K, Ikuma D, Oba Y, Mizuno H, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Urakami S, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Yamaguchi Y, Ubara Y. A case report of dipeptidyl peptidase 4 inhibitor-related kidney disease combined with renal cancer. Frontiers in nephrology. 2024; 4; 1409098

41. Kamido H, Kurihara S, Oba Y, Yamanouchi M, Suwabe T, Miki K, Nakamura Y, Ishi Y, Kono K, Ohashi K, Sawa N, Ubara Y. Renal and cardiac biopsy findings in an adolescent patient with the 3243A> G mitochondrial DNA mutation: Favorable renal prognosis post renal transplantation from the mother. Clinical nephrology. Case studies. 2024; 12; 42-47

42. Sakano M, Tomita Y, Kanazawa T, Ishibashi S, Ikeda M, Oshita H, Hananoi Y, Kato Y, Yamamoto K, Furukawa A, Kinoshita M, Haruki S, Tokunaga M, Kinugasa Y, Kurata M, Kitagawa M, Ohashi K, Yamamoto K. Prognostic significance and therapeutic potential of guanosine triphosphate cyclohydrolase 1 in esophageal squamous cell carcinoma: clinical implications of ferroptosis and lipid peroxidation regulation. Frontiers in oncology. 2024; 14; 1459940

43. Sugimoto H, Sawa N, Ikuma D, Oba Y, Mizuno H, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Wada T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Honda K, Kanetsuna Y, Joh K, Yamaguchi Y, Ubara Y. Significant response to tocilizumab in a case of immune deposits-related membranoproliferative glomerulonephritis and tubulointerstitial nephritis complicated by multicentric Castleman's disease. Clinical nephrology. Case studies. 2024; 12; 73-82

[総説]

1. 三浦圭子. まるわかり！ 爪疾患；ビギナーズサマリー 病理の見方 Monthly Book Derma. 2024.09; (352); 26-31

2. 三浦圭子.【皮膚付属器腫瘍 update-WHO 分類第 5 版からの最新知見-】Spiradenoma/cylindroma/malignant neoplasms arising from spiradenoma,cylindroma,or spiradenocylindroma 病理と臨床. 2024.03; 42(3); 250-256

[講演 · 口頭発表等]

1. 金谷 亮佑, 森川 亮, 田口 登和子, 山本 くらら, 田村 晧子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 金子 俊, 清水 寛路, 竹中 健人, 福田 将義, 村川 美也子, 藤井 俊光, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 小腸に限局した非典型的免疫チェックポイント阻害薬関連消化器毒性の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2024.12.01

2. 関根 正喜, 三浦 圭子, 並木 剛, 沖山 奈緒子, 大橋 健一. メラノーマにおける cGAS-STING-TBK1 の発現と深達度の関連 (Association of cGAS-STING-TBK1 expression and depth in melanoma). 日本病理学会会誌 2024.10.01

3. 河内 理, 倉田 盛人, 新谷 実咲, 小澤 瑞稀, 石橋 玄, 西蔭 徹郎, 長濱 雄志, 大橋 健一. 後腹膜に発生した細胞異型が目立つ孤立性線維性腫瘍の一例. 共済医報 2024.10.01

4. 加藤 祐己, 伊藤 栄作, 笠原 一郎, 桐村 進, 大橋 健一. 自然気胸を契機に発見された悪性胸膜中皮腫の 2 例. 日本病理学会会誌 2024.10.01

5. 中嶋 裕, 近藤 さくら, 齋藤 ひかり, 坂田 泰子, 大西 威一郎, 倉田 盛人, 河合 ほなみ, 服部 高明, 大橋 健一. 髄液中に出現した Diffuse midline glioma の 1 例. 日本臨床細胞学会雑誌 2024.10.01

6. 羽根 彩華, 栗原 重和, 大庭 悠貴, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 森貞 直哉, 野津 寛大, 乳原 善文, 澤 直樹. 20 歳で診断された高度腎機能障害を呈した ADTKD-UMOD の女性症例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

7. 水田 将人, 大庭 悠貴, 栗原 重和, 関根 章成, 山之内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 和田 健彦, 澤 直樹. COVID-19 ワクチン接種後に ANCA 関連血管炎の再燃を認めアバコパン単剤による加療を行った 1 例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

8. 大庭 悠貴, 澤 直樹, 関根 章成, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 森貞 直哉, 野津 寛大, 山口 裕, 乳原 善文. GREB1L 遺伝子変異による新たな臨床病型と腎病理所見. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

9. 小澤 征良, 長谷川 詠子, 原 理沙, 関根 章成, 井上 典子, 田中 希穂, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 和田 健彦. IgA 血管炎との鑑別を要した感染性心内膜炎に続発した感染関連糸球体腎炎の一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

10. 吉本 雅俊, 井上 典子, 長谷川 詠子, 関根 章成, 田中 希穂, 玉岡 明洋, 河野 圭, 大橋 健一, 山口 裕, 乳原 善文, 澤 直樹, 和田 健彦. セルペルカチニブにより特異的な糸球体基底膜障害像を呈した進行肺腺癌の一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

11. 上戸 壽, 栗原 重和, 大庭 悠貴, 諏訪部 達也, 山内 真之, 河野 圭, 貞賀 泰孝, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. ネフローゼ症候群を呈し膜性腎症の合併した TAFRO 症候群の一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

12. 栗原 重和, 杉本 悠, 大庭 悠貴, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 山口 裕. ループス腎炎の寛解中に抗リン脂質抗体症候群関連腎症を発症した一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

13. 竹内 俊博, 大庭 悠貴, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 山口 裕, 和田 健彦, 乳原 善文, 澤 直樹. 出生時低体重との関連が示唆される特異な腎病理像を呈した成人女性の 1 例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

14. 山本 宇恭, 諏訪部 達也, 三木 克幸, 横山 卓剛, 中村 有紀, 石井 保夫, 亀井 宏一, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. 常染色体潜性 Alport 症候群に保因者である母親からの腎移植を施行した 1 例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

15. 佐藤 大飛, 大庭 悠貴, 栗原 重和, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. 管内増殖性腎炎として発症し透析導入後には皮膚型血管炎として再発したクリオグロブリン性血管炎の一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

16. 角田 進, 吉本 雅俊, 栗原 重和, 大庭 悠貴, 山内 真之, 諏訪部 達也, 和田 健彦, 乳原 善文, 石綿 一哉, 和氣 敦, 河野 圭, 大橋 健一, 澤 直樹. 腎生検が IgG 産生型リンパ形質細胞性リンパ腫の腎浸潤の診断の一助となった一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

17. 山口 絵美理, 井上 典子, 長谷川 詠子, 関根 章成, 田中 希穂, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹, 和田 健彦. 腎被膜内のみに局在化した IgG4 関連腎臓病の一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

18. 水田 将人, 関根 章成, 長谷川 詠子, 大庭 悠貴, 山之内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 山口 裕, 乳原 善文, 和田 健彦, 澤 直樹. 臍帯血移植後に fibrin 沈着を伴った TMA の一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

19. 吉本 雅俊, 井上 典子, 長谷川 詠子, 関根 章成, 田中 希穂, 渡部 音哉, 内田 直之, 河野 圭, 大橋 健一, 山口 裕, 乳原 善文, 澤 直樹, 和田 健彦. 臍帯血移植後に生じた BK ウイルス腎症の一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

20. 谷水 暉, 井熊 大輔, 大庭 悠貴, 栗原 重和, 諏訪部 達也, 山内 真之, 乳原 善文, 澤 直樹, 河野 圭, 大橋 健一, 山口 裕. 薬剤性間質性腎炎の早期診断に MRI 拡散強調画像と ADC map が有用であった一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

21. 横山 祐輔, 井上 典子, 関根 章成, 長谷川 詠子, 田中 希穂, 乳原 善文, 河野 圭, 大橋 健一, 堂本 裕加子, 矢崎 正英, 和田 健彦. 質量分析で診断された IgG 型 AH アミロイドーシスの一例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

22. 吉村 祐輔, 井熊 大輔, 栗原 重和, 大庭 悠貴, 山内 真之, 諏訪部 達也, 林 伸和, 河野 圭, 大橋 健一, 山口 裕, 乳原 善文, 澤 直樹. 透析導入後の SLE 再燃の評価に皮膚生検が有用であった 1 例. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

23. 阿部 勇樹, 大庭 悠貴, 石綿 一哉, 栗原 重和, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 和氣 敦, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. 骨髄検査では MGUS であっても高度蛋白尿を伴う腎アミロイドーシスは治療対象である. 日本腎臓学会誌 2024.09.01

24. 伊藤 理海, 横山 幸太, 有泉 陽介, 山本 くらら, 朝蔭 孝宏, 立石 宇貴秀. 危険間隙に発生したデスモイド腫瘍の 1 例. 日本医学放射線学会秋季臨床大会抄録集 2024.09.01

25. 上戸 壽, 栗原 重和, 大庭 悠真, 井熊 大輔, 関根 章成, 長谷川 詠子, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. 当院の腎生検の実態. 日本腎臓学会誌 2024.06.01

26. 上戸 壽, 栗原 重和, 大庭 悠貴, 山内 真之, 諏訪部 達也, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹. 糖尿病性腎臓病患者の結節性病変を年齢因子からみた検討. 日本腎臓学会誌 2024.06.01

27. 藤原美香、三浦圭子、並木剛、沖山奈緒子. 有棘細胞癌を生じた汗孔角化症. 第 40 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 2024.05.18 宮崎

28. 吉本 雅俊, 井上 典子, 原 理沙, 長谷川 詠子, 関根 章成, 田中 希穂, 河野 圭, 大橋 健一, 乳原 善文, 澤 直樹, 和田 健彦. 悪性腎硬化症の診断後も長年にわたり良好な経過であったが,COVID-19 流行に伴う通院中断により透析導入に至った一例. 日本透析医学会雑誌 2024.05.01

29. 田口 邦之, 村上 正憲, 石井 遼子, 原 一成, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 松本 峻弥, 田中 陽典, 小柳 杏莉, 吉富 香澄, 藤原 基裕, 早稲田 悠馬, 山本 浩平, 明石 巧, 藤井 靖久, 大橋 健一, 山田 哲也. 経時的に病勢の増悪を認めたアルドステロン産生腺腫 (APA) の 3 症例. 日本内分泌学会雑誌 2024.05.01

30. 原 理沙, 横山 祐輔, 陶守 仁子, 井上 典子, 田中 希穂, 長谷川 詠子, 河野 圭, 関根 章成, 乳原 善文, 大橋 健一, 和田 健彦. 腎障害を契機に多発性骨髄腫の診断に至り治療と透析導入を同時に行った一例. 日本透析医学会雑誌 2024.05.01

31. 三浦 圭子. 神経内分泌分化を示す皮膚腫瘍を考える（コンパニオンミーティング）. 第 113 回日本病理学会総会 2024.03.29 名古屋国際会議場

32. 細川 祐太郎, 沢田 泰之, 三浦 圭子, 菅谷 誠. Type D リンパ腫様丘疹症を合併した CD8 陽性菌状息肉症の 1 例. 日本皮膚科学会第 910 回東京地方会 2024.02.17 東京

33. 川出 玄二, 山本 浩平, 倉田 盛人, 大西 威一郎, 松木 裕子, 北川 昌伸, 大橋 健一, 石川 文彦. DLBCL における 4-HNE の蓄積と Apoptosis, Ferroptosis 抵抗性獲得の検討. 日本病理学会会誌 2024.02.01

34. 尾下 陽菜, 花野井 侑里, 金澤 拓海, 富田 嘉信, 田村 一洋, 山本 浩平, 大橋 健一. 多癌種における脂質過酸化関連因子発現の類似性および相違性に関する臨床病理学的検討. 日本病理学会会誌 2024.02.01

35. 金澤 拓海, 山本 浩平, 高原 弘知, 山本 くらら, 大橋 健一. 肺腺癌における脂質過酸化の蓄積と抗酸化酵素 GPX4 と FSP1 の発現に関する臨床病理学的検討. 日本病理学会会誌 2024.02.01

36. 田村 一洋, 富田 嘉信, 山本 浩平, 坂野 正佳, 篠原 元, 山本 くらら, 古川 あすか, 渡部 紫織, 西村 悠, 大橋 健一. 胃癌における GPX4 や FSP1 の発現が生命予後やシスプラチン抵抗性に関与する (Overexpression of GPX4 and FSP1 in GC is related to prognosis and cisplatin resistance). 日本病理学会会誌 2024.02.01

37. 宮代 梨花, 和田 友里子, 古川 あすか, 山本 浩平, 木下 真由美, 南 順子, 大橋 健一. 胃癌におけるグルタチオン分解酵素 CHAC1 の臨床病理組織学的解析. 日本病理学会会誌 2024.02.01

38. 畑 千菜, 野田 啓人, 中野 薫, 高松 学, 菅原 江美子, 坂田 征士, 山本 智理子, 大橋 健一, 竹内 賢吾, 河内 洋. 胃粘膜内癌における microtubular-mucocellular histology のリンパ節転移危険因子としての意義. 日本病理学会会誌 2024.02.01

39. 加藤 祐己, 伊藤 崇, 山本 浩平, 古川 あすか, 新宅 洋, 山本 くらら, 富田 嘉信, 地野 祐輔, 川田 研郎, 大橋 健一. 表在型食道扁平上皮癌の浸潤の特徴　リンパ節転移のリスク因子に関する解析. 日本病理学会会誌 2024.02.01

40. 金澤 拓海, 山本 浩平, 高原 弘知, 山本 くらら, 大橋 健一. 肺腺癌における脂質過酸化の蓄積と抗酸化酵素 GPX4 と FSP1 の発現に関する臨床病理学的検討. 日本病理学会会誌 2024.02.01

41. 朱瀛瑤，平井郁子，内川理紗，高宮城冴子, 加藤淳，藤本正数，三浦圭子，角田梨沙. 四肢の皮下硬結を伴う有痛性紅斑. 第 40 回日本皮膚病理組織学会学術大会 2024.01.18 大阪

42. 三浦圭子、明石 巧 、根木真理子、阿部志保、村瀬啓明. 右大腿の扁平隆起性でびらんを伴う紫紅色結節. 第 40 回日本皮膚病理組織学会学術大会 2024.01.18 大阪

[その他業績]

1. 山本　浩平.「 腎臓がんの術後再発リスクを見極める新たな鍵 」 — がんと正常部との境界部のパターンでより高精度な再発予測が可能に —, 2024 年 09 月
   Modern Pathology

2. 大橋　健一. 第 70 回日本病理学会秋期特別総会主催（日本教育会館, 東京）, 2024 年 11 月

[社会貢献活動]

1. 山本　浩平. 経済産業省ヘルスケア産業課 Healthcare Innovation Hub アドバイザー, 2021 年 08 月 01 日 - 現在
2. 山本　浩平. ヘルスケア産業基盤高度化推進事業（ヘルスケアビジネス創出推進事業）の公募に係る審査委員, 経済産業省, 2024 年 02 月 01 日 - 現在
3. 山本　浩平. 単位取得型ベンチャー企業インターンシップ制度について, 読売新聞社, 読売新聞, 2024 年 02 月 09 日

細胞生理学分野

Department of Physiology and Cell Biology

教　授：礒村 宜和
准教授：平 理一郎
助　教：リオス アライン
助　教：川端 政則
プロジェクト助教：藤田 恭平
助　教（旧細胞薬理学分野）：三枝 弘尚
キャリアアップ准教授（旧システム神経生理学分野）：伊澤 佳子

(1)　分野概要

細胞生理学分野では、げっ歯類の行動発現を担う脳回路の基本原理を解明することを大きな研究目標として掲げています。特定の行動課題を遂行するラットの大脳皮質、海馬、大脳基底核、視床の神経回路を対象として、多点電極をもちいたマルチニューロン記録技術を中心に、2 光子多細胞イメージング、遺伝子改変動物やアデノ随伴ウイルス（AAV）ベクターを活用したオプトジェネティクス（光遺伝学）技術や理論的解析技術も組み合わせて、神経生理学的研究を推進しています。

(2)　研究活動

【謎に包まれた、行動を生み出す脳の仕組み】
私たちの研究室では、動物の行動発現を担う大脳の神経回路における情報処理の仕組みを、独自の電気生理学的 · 光遺伝学的手法を駆使して探っています。例えば、私たちが手を伸ばして物を掴（つか）むとき、いったい脳の中では何が起こっているのでしょうか？　実は、随意運動の発現を担うとされる大脳皮質の一次運動野の中でさえ、どのような神経細胞が、どのような信号をやり取りして、どうやって「運動指令」を形成するのか、まだほとんど解明されていないのです。ラットなどのげっ歯類は、長い指のついた手を意外にも器用に動かしてエサをしっかりと掴むことができます。つまり、げっ歯類の単純な脳にも、このような巧緻な前肢運動を発現する基本的な回路機能が備わっているはずなのです。
そこで私たちは、ラットの前肢運動による行動を制御する大脳皮質や大脳基底核の神経回路の仕組みを明らかにすることを研究目標に掲げています。　· · · そして、いつかは、脳の神経回路が動作するための「基本原理」を解明したいと願っています。

【研究目標　～何を知りたいか～】
大脳皮質の感覚野や連合野や運動野では、興奮性の錐体細胞と抑制性の介在細胞が「皮質内回路」を形成しています。これらの脳領域は相互に連絡するとともに、海馬、線条体、黒質、視床などを介して、皮質間と皮質下の結合が複雑に組み合わさった「多領域間回路」を形成し、適切な行動の発現に大切な役割を担っています。20 世紀中は、単一ユニット記録法をもちいて、行動に関連する脳内の単一の神経細胞の発火活動（ユニット）が活発に調べられました。ところが、この方法では記録細胞の細胞型や軸索結合を調べることは技術的に極めて困難でした。そこで私たちは、新しい実験技術を開発導入して、大脳皮質を中心とする神経回路がどのような作動原理に基づいて行動情報を形成するのかを探る研究を開始しました。

【研究手法　～どうやって知るのか～】
1．オペラント学習課題
従来、前肢でレバーを押すと報酬を得るオペラント学習課題を訓練するのには、数週間～数か月を要しました。私たちは、レバーとスパウト（飲み口）を合一化した「スパウトレバー」を考案し、わずか数日でラットに前肢の運

動課題を学習させることに成功しました。この行動実験系を活用すると、行動を発現するラットを効率よく生理学的実験に供給できます。また、実験目的に応じて、Go/No-go 弁別課題や報酬に基づく行動選択課題などに幅広く応用することもできます。

２．傍細胞（ジャクスタセルラー）記録
単一神経細胞の発火活動を記録し、その記録細胞の形態を可視化できる画期的な実験技術です。記録細胞を可視化すると、細胞型を同定し、細胞体の存在部位を決め、軸索結合を追い、各種分子マーカーの発現を調べることができます。私たちは、世界に先駆けて、行動している動物を対象とした傍細胞記録実験に挑戦し、ラットの運動野細胞や線条体細胞からの傍細胞記録に成功しました。

３．マルチニューロン（＋局所フィールド電位）記録
シリコンプローブ（多点電極）を介して、多数の神経細胞の発火活動を一挙に記録することができる実験技術です。各電極から得られた信号は、スパイク・ソーティングという解析技術をもちいて、個々の神経細胞由来の発火活動（ユニット）に分離していきます。スパイク・ソーティングには、共同研究者が開発した EToS という高精度のソフトウェアを使用しています。
　マルチニューロン記録では、記録細胞の可視化同定はできませんが、大脳皮質ではスパイク形状によりＲＳ細胞（主に興奮性細胞）とＦＳ細胞（主に抑制性細胞）に分類できます。この方法によって、行動の発現に関連するＲＳ細胞やＦＳ細胞の間にみられる同期的発火を解析することができます。
　マルチニューロン記録では、局所フィールド電位（LFP）も同時に記録できます。行動発現に関連して大脳皮質や海馬にみられるガンマ波やリップル波などの同期的集団活動も調べています。

４．光遺伝学（オプトジェネティクス）
神経回路の情報処理の仕組みを理解するためには、そこを流れる信号を光遺伝学的に操作して、神経活動の「因果性」を示すことが有用です。私たちは、チャネルロドプシン２（青色光で膜電位が脱分極する）を発現するトランスジェニック・ラットや経路特異的発現ウイルスベクターを使った実験を実施しています。
　さらに、多領域間のスパイク信号を探るために、マルチニューロン記録と光遺伝学を組み合わせて、スパイク・コリジョン試験を並行的に実施し、記録細胞の軸索投射先を効率よく同定する新技術「マルチリンク法」の共同開発にも取り組んでいます。

５．理論的解析・シミュレーション・モデル化
酒井裕教授（玉川大学・神経計算論）などの協力を得て、マルチニューロン記録データの高度かつ効率的な理論的解析を進めています。シミュレーションやモデル化の手法も取り入れて、「実験と理論の融合」の具現化を目指しています。

６．2 光子多細胞イメージング
世界最大視野を有する 2 光子顕微鏡の構築を行っています。この顕微鏡を用いることで、課題遂行中の脳から 10 万個以上の神経細胞活動を記録し、神経細胞が協調的に脳機能を発現する仕組みを明らかにします。

７．ウイルスベクターを用いたファイバーフォトメトリー法による神経活動および神経伝達物質放出の測定
この方法では、まず特定の神経細胞集団に機能的指示分子を標的発現させるための遺伝子組換えウイルスベクターを注入しておきます。神経細胞の集団活動をリアルタイム測定するためには細胞内カルシウム指示分子 GCaMP を使用します。また、局所的なドーパミン放出変化を正確に測定するためにはドーパミン感受性蛍光プローブである dLight を使用します。ウイルスベクターを用いることで、これらの指示分子が対象とする神経細胞に選択的に発現されることが保証され、特定の神経活動または神経伝達物質放出の局所的な測定を可能にします。

【研究の方向性　～オリジナリティの追及～】
　私たちは、脳の本質的な原理を理解するために、ラットの行動発現を担う脳回路の仕組みを研究対象として取り上げています。これまで多くの脳科学研究は、脳活動を「平均」することにより、脳機能の「局在性」をあぶり出す方向に進んできました。しかし、脳活動は時々刻々とダイナミックに変化していますし、単一領域ごとではなく多領域ネットワーク全体が情報処理を担っているのは今や疑いありません。このような「静から動へ」「点から線へ」という視点を大切にして、研究手法を洗練し、学際分野に進出し、失敗を恐れずに、真のオリジナリティを追究したいと考えています。

最新の研究業績は、Researchmap をご覧ください。
https://researchmap.jp/yoshikazuisomura/

(3) 教育活動

当分野では、脳回路の基本原理の解明を目指す研究活動を通じて、次世代の優秀な研究者（ポスドク研究員 · 大学院生など）を応援します。基本方針として、将来像に合せた研究テーマの設定、実験セットアップは 1 台につき 1 ～ 2 名まで、実験技術を一通り習得するカリキュラム、知識よりも論理力を育むディスカッション、研究室内外の効果的な共同研究、を念頭に置いて指導しています。

医学部生の教育では、一般生理学を中心とする「生理学」の授業と実習を受け持っています。また、プロジェクトセメスター、研究実践プログラム、研究者養成コース、MD-PhD コース、歯学科研究実習における学生に対する研究指導も行い、早期からの基礎研究者の育成を目指しています。身体の機能を統合的に理解する生理学は、医師となる基盤を築くためにも極めて大切な学問です。ぜひ自主的かつ積極的に当分野の活動に参加して生理学の醍醐味を味わってください。

(4) 教育方針

各自の自主性と積極性を尊重し、社会的な協調性と責任感を育みます。

(5) 研究業績

[原著]

1. Tomomi Sakairi, Masanori Kawabata, Alain Rios, Yutaka Sakai, Yoshikazu Isomura. Hippocampal sharp-wave ripples decrease during physical actions including consummatory behavior in immobile rodents bioRxiv. 2024.12; 2024.12.26.630368
2. Hikaru Sugino, Sho Tanno, Tatsumi Yoshida, Yoshikazu Isomura, Riichiro Hira. Functional segregation and dynamic integration of the corticotectal descending signal in rat. Neuroscience research. 2024.09; 210; 38-50

[総説]

1. Alain Rios, Kyohei Fujita, Yoshikazu Isomura, Nobuya Sato. Adaptive circuits for action and value information in rodent operant learning Neuroscience Research. 2024.09;
2. Riichiro Hira. Closed-loop experiments and brain machine interfaces with multiphoton microscopy Neurophotonics. 2024.02;

[講演 · 口頭発表等]

1. Sunahara M, Rios A, Kawabata M, Kato S, Hamada S, Ohtsuka T, Kobayashi K, Takahashi H, Isomura Y. The functional role of thalamic reticular nucleus in motor execution and control . The 47th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society: Neuro2024 (Fukuoka Convention Center, Fukuoka) 2024.07.26
2. Kawabata M, Isomura Y. Exploring the distribution and flow of information related to sensory-motor transformation using wide-area electrophysiological recordings . The 47th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society: Neuro2024 (Fukuoka Convention Center, Fukuoka) 2024.07.26
3. Rios A, Hira R, Kawabata M, Fujita K, Sunahara M, Sakairi T, Etori S, Isomura Y. Differential Roles of Prefrontal Cortex Neurons in Reward-Based Decision-Making . The 47th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society: Neuro2024 (Fukuoka Convention Center, Fukuoka) 2024.07.24 Fukuoka Convention Center, Fukuoka
4. Mochimasu A, Kawabata M, Sasaki T, Isomura Y. Quantification of Stimulus Timing Prediction and its Change by Drug Administration in Waiting Time Task using head-fixed rats . The 47th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society: Neuro2024 (Fukuoka Convention Center, Fukuoka) 2024.07.24
5. Sugino H, Yoshida T, Isomura Y, Hira R. Complex temporal dynamics in response to cortical stimulation in the deep layer of lateral superior colliculus . The 47th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society: Neuro2024 (Fukuoka Convention Center, Fukuoka) 2024.07.24
6. Hira R, Nishio T, Igarashi J, Hira A, Isomura Y, Smith SL. BrainModules: A versatile visualization tool for functional and anatomical correlation for mice and marmosets . The 47th Annual Meeting of Japan Neuroscience Society: Neuro2024 (Fukuoka Convention Center, Fukuoka) 2024.07.24

7. Rios A, Nonomura S, Kato S, Yoshida J, Matsushita N, Nambu A, Takada M, Hira R, Kobayashi K, Sasaki Y, Kimura M, Isomura Y. Reward history enhances action-related activity of nigral dopaminergic striatal output pathways. The 101st Annual Meeting of The Physiological Society of Japan 2024.03.28 KitaKyushu International Conference Center, Fukuoka

8. Kawabata M, Hirayama Y, Ebina T, Matsuzaki M, Isomura Y.. Establishing cognitive behavioral tasks for body-fixed marmoset. The 13th Annual Meeting of Japan Society for Marmoset Research 2024.02.20 NCNP, Kodaira, Tokyo

1. 礒村 宜和. 脳活動の観察と解釈のギャップを考える ～ブレない頭で定説を疑う～ . ASCONE2024『脳 · 理解 · 計算』 2024.11.26 ホテル一宮シーサイドオーツカ（千葉県）

2. 礒村 宜和. 大脳基底核回路の生理学 ～行動と結果をつなぐ～ . 第 18 回パーキンソン病 · 運動障害疾患コングレス（ライトキューブ宇都宮, 栃木県宇都宮市） 2024.07.12

3. 川端政則、持増亜依里、礒村宜和. 薬剤投与が待ち時間課題におけるタイミング予測に及ぼす影響の検討. CPSY TOKYO 2024 2024.03.29 NCNP

4. 礒村 宜和. 飲水時の海馬鋭波リップルの消失～定説を乗り越える～ . 令和 5 年度 大脳基底核機能研究会（山水館, 大阪府高槻市） 2024.03.22

5. 川端政則. 自動化 · 並列化 Multi-Linc 法の拡張と胴体保定下マーモセットにおける認知行動課題の開発. 革新脳分科会 THE FINAL 2024.03.17 日本橋

6. 礒村 宜和. ようやく辿り着いた大脳基底核～若気の至りは遠回り～ . 京都大学ヒト行動進化研究センター国際脳科学シンポジウム第 2 部（犬山市民交流センター, 愛知県犬山市） 2024.03.16

7. 礒村 宜和. ラットの行動と結果を結ぶ大脳基底核回路の情報伝達 . 2023 年度 先端モデル動物支援プラットフォーム (AdAMS) 成果発表会 2024.02.08 琵琶湖ホテル（滋賀県大津市）

1. 平 理一郎. 脳の全体性とは何か. 世界脳週間 2023 2024.01.20

幹細胞制御分野

Department of Stem Cell Regulation

教　　授　田賀　哲也
講　　師　楢　　康一
助　　教　メリグ　ゲレル
事務補佐員　牧野　まや
技術補佐員・技術支援員　野寺　真理花、石川　徹、井上　和子

(1) 分野概要

個体発生において、各組織・器官を構成する多細胞集団を生み出すもととなるそれぞれの組織・器官特異的な幹細胞が重要な役割を担っている。それら幹細胞の発生、多分化能の維持、おのおのの細胞系譜への分化の各過程には、細胞増殖分化因子群や細胞表面分子群等を介した細胞外来性シグナルと、エピジェネティック修飾や転写因子存在プロファイルなどに基づく細胞内在性プログラムが深く関わっている。当分野では、このように生体内各組織の形成・維持・再生に重要な役割を果たす幹細胞に焦点をあてて、正常組織幹細胞 (体性幹細胞) としては主に神経幹細胞や造血幹細胞を研究対象として、幹細胞制御の分子基盤を明らかにすることを目的とした研究を実施している。また、癌幹細胞およびその生存に寄与する微小環境である癌幹細胞ニッチの特性解明にも取り組んでおり、総合的に得られた知見が、神経幹細胞・造血幹細胞のみならず広く生体内各組織の発生・再生に関わる正常幹細胞や、癌の再発に関与する癌幹細胞を制御する機構の普遍的理解ならびに、医療応用への糸口となるよう研究を推進している。

(2) 研究活動

生体内各組織の形成・維持・再生に重要な役割を果たす幹細胞は、それぞれの組織を構成する多細胞集団を生み出す一方で、そのような多分化能を維持した自己複製も行う。それら組織幹細胞（体性幹細胞）の発生や多分化能維持、あるいは組織内各細胞系譜への分化といった過程においては、増殖分化因子や細胞外マトリクスなどによる細胞外来性のシグナルと、エピジェネティック修飾や転写因子存在プロファイルに基づく細胞内在性のプログラムが深く関わっている。幹細胞制御分野における組織幹細胞に焦点を当てた研究は、主として神経幹細胞や造血幹細胞を研究対象として幹細胞制御の分子基盤を明らかにすることを目的として実施している。また癌幹細胞に焦点を当てた研究では、癌幹細胞の特性解明とともに、癌幹細胞の維持に寄与する微小環境（ニッチ）の分子基盤解明にも取り組んでいる。総合的に得られた知見が、神経幹細胞や造血幹細胞のみならず広く生体内組織の発生・再生に関わる正常幹細胞や、癌の再発に関与する癌幹細胞を制御する機構の普遍的理解ならびに、医療応用への開発的研究の手がかりとなるよう研究を推進している。

(3) 教育活動

個体発生における器官形成過程では、組織・器官を構成する多細胞集団を生み出すもととなる組織・器官特異的幹細胞の発生、多分化能維持、ならびに各細胞系譜への分化機構が重要である。それらの機構には増殖分化因子群や細胞表面分子群等を介した細胞外来性シグナルと、エピジェネティック修飾や転写因子存在プロファイル等に基づく細胞内在性プログラムが深く関わっている。幹細胞を制御する知識・技術の習得および基礎的・応用開発的研究の推進は、幹細胞に派生する各種組織・臓器の発生と再生の理解に結びつく重要な意義がある。当分野ではこれらを念頭にして、主として中枢神経系や造血系の幹細胞および、癌幹細胞を対象とした教育に取り組んでいる。

(4) 教育方針

組織の発生と修復を理解する上で、それぞれの組織を構成する多細胞集団を生み出すもととなる組織特異的幹細胞の制御機構を学ぶことは重要な意義がある。当分野の教育においては、主として中枢神経系や造血系、その他の組織特異的幹細胞だけでなく、癌組織における幹細胞（癌幹細胞）も対象として、幹細胞制御について学ぶ。その際、増殖分化因子群等を介した細胞外来性シグナルと、エピジェネティック修飾等に基づく細胞内在性プログラムなど多角的観点から取り組むことで、広く生体内の正常組織幹細胞や、病態における幹細胞の制御機構が理解できるよう努める。

(5) 研究業績

[原著]

1. Tarapongpun T, Onlamoon N, Tabu K, Chuthapisith S, Taga T. The optimized priming effect of FGF-1 and FGF-2 enhances preadipocyte lineage commitment in human adipose-derived mesenchymal stem cells. Genes to cells. 2024.03; 29(3); 231-253

[講演 · 口頭発表等]

1. Kouichi Tabu and Tetsuya Taga. C3a receptor-mediated self-sacrificing adaptation in cancer stem cells contributing to glioma recurrence. 第 83 回日本癌学会学術集会 2024.09.18

2. Tesuya Taga. Overview of inflammatory diseases involving bone, skin and beyond. 16th World Congress on Inflammation 2024.07.22

3. Melig Gerel, Nobuhisa Ikuo, Saito Kioka, Tsukahara Ryota, Itabashi Ayumi, Kanai Yoshiakira, Kanai-Azuma Masami, Taga Tetsuya. Rasip1 is a downstream effector of Sox17 that plays a role in maintaining hematopoietic cluster cells in midgestation mouse embryos. The 45th Annual Meeting of the Japanese Society of Inflammation and Regeneration 2024.07.17

4. Tetsuya Taga, Norihisa Bizen, Kouichi Tabu, Mei Wu, Christian Mangani, Rong Zhang, Mark Bradley. Identification of a niche-mimicking synthetic polymer scaffold for the maintenance of neural stem cells in a culture system without growth factors and serum. The 21st Stem Cell Research Symposium 2024.05.25

5. Tetsuya Taga, Norihisa Bizen, Kouichi Tabu, Mei Wu, Christian Mangani, Rong Zhang, Mark Bradley. Identification of a niche-mimicking synthetic polymer scaffold for the maintenance of neural stem cells in a culture system without growth factors and serum. 第 21 回幹細胞シンポジウム 2024.05.24

6. Taichi Kashiwagi, Tetstsushi Kagawa, Ikuo Nobuhisa, Akihiko Yoshimura, Tetsuya Taga. NSC fate preference transition from neurogenesis to astrogliogenesis by the FGF signaling negative feed-back regulator Sprouty 4 . The 21st Stem Cell Research Symposium 2024.05.24

1. 楢康一, 田賀哲也. 補体フラグメント受容体 C3aR1 を標的とするグリオーマ再発制御機構の解明. 第 45 回日本炎症 · 再生医学会 2024.07.17

[社会貢献活動]

1. Inflammation and Regeneration 誌　Editorial Board, 2002 年 07 月 01 日 - 現在

2. Genes to Cells 誌　Editorial Board, 2005 年 04 月 01 日 - 現在

統合呼吸器病学分野

Department of Respiratory Medicine

教授：宮崎泰成
講師：古澤春彦、白井剛
助教：石塚聖洋、本多隆行、榊原里江、望月晶史
特任助教：青木光、八巻春那
医員：高橋進、由井沙和、佐藤希美、山田貴之、菅原麻莉
レジデント：大塚弘貴、青木翔太朗
大学院生：杉原潤、島村貴史、伊藤優、藤井伸哉、近藤信幸、安部豪眞、朝尾菜津美、井上渉、今瀬玲菜、橋本梨花、秦康貴
保健衛生学科教授：角勇樹
保健管理センター教授：田澤立之
保健管理センター助教：高澤聖子
呼吸・睡眠制御学准教授：立石知也
長寿・健康人生推進センター准教授：岡本師
肺免疫制御学助教：石塚聖洋
特任教授：瀬戸口泰弘

（1） 分野概要

肺は呼吸をするために外界と接しており、細菌・ウイルス感染、喫煙、粉塵曝露など外的因子の影響を受けやすい臓器である。そのため呼吸器疾患は腫瘍、感染症、アレルギー疾患、その他の炎症、先天異常まで多岐にわたる。当分野では科学的視点を持ちながら、幅広い呼吸器疾患の病態生理を理解し、疾患発生のメカニズムに迫る研究の構築が可能な研究者を育てる。

（2） 研究活動

1. 過敏性肺炎の病態解明、環境における原因抗原の同定
2. 肺線維化の病態解明
3. 間質性肺炎における急性増悪の病態の解明
4. 肺線維化と気腫性変化の病態解明
5. 中皮腫における腫瘍免疫
6. 口腔アレルギー症候群と喘息 減感作の検討
7. 喘息モデルにおける気道リモデリング機序の解明
8. 睡眠時無呼吸症の病態生理
9. 抗菌薬耐性菌の治療開発

（3） 教育活動

卒前および卒後初期の教育では、基本的な知識の習得はもちろんプロフェッショナルな医師としての自覚と責任を培うことを重視して教育にあたっている。その後は内科医として幅広い知識と技術を身につけた上で呼吸器内科専門医としてさらに研鑽を積むこととなる。呼吸器疾患は多岐にわたり、呼吸器内科医としての修練は生涯続くといえる。

（4） 教育方針

幅広い呼吸器疾患の病態を科学的視点から理解し、呼吸器疾患の臨床・研究において未解決の問題の解決に向けて適切な研究計画を立て実践する。

（5） 臨床活動および学外活動

内科各科の中でも常に多くの入院患者を担当しており、患者のQOL 改善にも留意して最短の入院期間で最大限の治療効果をあげるべく診療を行っている。教授を中心として教員により連日診療内容の確認が行われ、他科や他施設からのコンサルテーションも多い。外来においても肺癌化学療法，在宅酸素療法，睡眠時無呼吸外来、臨床試験の実施など専門性の高い診療が行われている。

（6） 臨床上の特色

間質性肺炎や過敏性肺炎を含むびまん性肺疾患の診療経験が豊富であり全国からの紹介も多い。過敏性肺炎の診療においては特異抗体測定、吸入誘発試験など免疫学的検査を行っており、適切な診断を実践している。

（7） 研究業績

[原著]

1. Shimamura T, Furusawa H, Ejima M, Ozawa A, Adachi T, Tateishi U, Miyazaki Y. Clinical characteristics and prognostic factors for MPO-ANCA positive interstitial lung disease: A comparative study of ANCA associated vasculitis (AAV)-ILD and pulmonary limited vasculitis. Respiratory investigation. 2024.11; 63(1); 1.

2. Nakayama S, Yoshizawa A, Tsurutani J, Yoshimura K, Aoki G, Iwamoto T, Nagase H, Sugimoto N, Kobayashi K, Izumi S, Kato T, Miyazaki Y, Kurihara Y, Taira N, Aihara T, Kikawa Y, Mukai H. Real-world incidence of and risk factors for abemaciclib-induced interstitial lung disease in Japan: a nested case-control study of abemaciclib-induced interstitial lung disease (NOSIDE). Breast cancer (Tokyo, Japan). 2024.11; 32(1); 177.

3. Kondoh Y, Furukawa T, Hozumi H, Suda T, Egashira R, Jokoh T, Fukuoka J, Kuwana M, Teramachi R, Fujisawa T, Hasegawa Y, Ogura T, Miyazaki Y, Oyama S, Teramukai S, Horiguchi G, Naito A, Inoue Y, Ichikado K, Bando M, Tomioka H, Nishioka Y, Chiba H, Ebina M, Nakanishi Y, Satoh K, Shiratori Y, Hashimoto N, Ishii M. The providing multidisciplinary ILD diagnoses (PROMISE) study - study design of the national registry of Japan facilitating interactive online multidisciplinary discussion diagnosis. BMC pulmonary medicine. 2024.10; 24(1); 511.

4. Iijima Y, Furusawa H, Yamana T, Shibata S, Shirai T, Okamoto T, Tateishi T, Adachi T, Kirimura S, Miyazaki Y. Reevaluating diagnosis in interstitial lung disease with a second multidisciplinary discussion. Respir Investig. 2024.09; 62(6); 1027-1033

5. Kubota N, Okamoto T, Shimada S, Yamana T, Iijima Y, Sakakibara R, Shibata S, Honda T, Mitsumura T, Shirai T, Furusawa H, Tateishi T, Adachi T, Kirimura S, Miyazaki Y. Solitary Pure Ground-glass Opacity Suspected of Being the Initial Presentation of Nonfibrotic Hypersensitivity Pneumonitis..Internal Medicine. 2024.09; 63(18); 2543.

6. Sumikawa H, Komiya K, Egashira R, Tominaga J, Ueno M, Fukuda T, Yamada D, Takei R, Kataoka K, Kimura T, Kondoh Y, Ejima M, Shimamura T, Tateishi T, Tomioka H, Miyazaki Y, Suda T, Johkoh T. Validation of a computed tomography diagnostic model for differentiating fibrotic hypersensitivity pneumonitis from idiopathic pulmonary fibrosis. Respiratory investigation. 2024.09; 62(5); 798.

7. Y Kurihara, T Honda, A Takemoto, K Seto, S Endo, K Tanimoto, S Kirimura, M Kobayashi, S Baba, Y Nakashima, R Wakejima, RSakakibara, H Ishibashi, J Inazawa, T Tanaka, Y Miyazaki, K Okubo.Immunohistochemistry of p53 surrogates TP53 mutation as an accurate predictor for early-relapse of surgically resected stage I-III lung adenocarcinoma. JTCVS Open. 2024. 08;

8. Okamoto T, Hanafusa M, Abe T, Shimamura T, Ito M, Wakai Y, Jinta T, Higa K, Kondoh Y, Okouchi Y, Okuda R, Bando M, Suda T, Tomioka H, Fujiwara T, Takase M, Yoshihara S, Odajima H, Miyazaki Y. Estimated prevalence and incidence of hypersensitivity pneumonitis in Japan. Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology. 2024.08; 74(1); 66-71

9. Furusawa H, Shimada S, Sawada A, Tanaka K, Yamamoto K, Miyazaki Y. Composite Lymphoma after Treatment with Infliximab for Sarcoidosis and Ankylosing Spondylitis. Intern Med. 2024. 06;

10. Omori T, Hanafusa M, Kondo N, Miyazaki Y, Okada S, Fujiwara T, Kuramochi J. Specific sequelae symptoms of COVID-19 of Omicron variant in comparison with non-COVID-19 patients: a retrospective cohort study in Japan. Journal of thoracic disease. 2024.05; 16(5); 3170.

11. Kitano M, Honda T, Hikita E, Masuo M, Miyazaki Y, Kobayashi M. Delayed immune-related adverse events in long-responders of immunotherapy: a single-center experience. Asia-Pacific journal of clinical oncology. 2024.04; 20(4); 463.

12. Shimada S, Yamaguchi T, Mikoshiba S, Sato K, Mitsumura T, Komori K, Yamana T, Iijima Y, Sakakibara R, Shibata S, Honda T, Shirai T, Okamoto T, Furusawa H, Tateishi T, Miyazaki Y. Relapsing bronchopneumonia due to community-associated methicillin-resistant Staphylococcus aureus: a case report. BMC infectious diseases. 2024.04; 24(1); 374.

13. Hanzawa S, Sugiura M, Nakae S, Masuo M, Morita H, Matsumoto K, Takeda K, Okumura K, Nakamura M, Ohno T, Miyazaki Y. The Prostaglandin D2 Receptor CRTH2 Contributes to Airway Hyperresponsiveness during Airway Inflammation Induced by Sensitization without an Adjuvant in Mice. International archives of allergy and immunology. 2024.04; 185(8); 1.

14. Komatsuzaki K, Kageshima H, Sekino Y, Suzuki Y, Ugajin T, Tamaoka M, Hanazawa R, Hirakawa A, Miyazaki Y. Local nasal immunotherapy with birch pollen-galactomannan conjugate-containing ointment in mice and humans. Allergology International. 2024.04; 73(2); 290.

15. Isobe K, Nakamura Y, Sakamoto S, Tomii K, Takimoto T, Miyazaki Y, Matsumoto M, Sugino K, Ichikado K, Moriguchi S, Yamaguchi K, Baba T, Ozasa H, Igata F, Anabuki K, Homma S, Date H, Suda T, Kishi K. Immune checkpoint inhibitors in patients with lung cancer having chronic interstitial pneumonia. ERJ open research. 2024. 03; 10(2);

16. Kubota N, Okamoto T, Shimada S, Yamana T, Iijima Y, Sakakibara R, Shibata S, Honda T, Mitsumura T, Shirai T, Furusawa H, Tateishi T, Adachi T, Kirimura S, Miyazaki Y. A Case of Solitary Pure Ground-glass Opacity Suspected of Being the Initial Presentation of Nonfibrotic Hypersensitivity Pneumonitis. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2024.02; 63(18); 2543.

17. Iijima Y, Ejima M, Yamana T, Sonoda S, Shibata S, Shirai T, Okamoto T, Furusawa H, Tateishi T, Adachi T, Mori M, Kirimura S, Anzai T, Takahashi K, Miyazaki Y. Assessment of clinical relevance of antigen improves diagnostic accuracy of hypersensitivity pneumonitis. BMC pulmonary medicine. 2024.02; 24(1); 84.

18. Yasui S, Honda T, Onishi I, Ikeda S, Miyazaki Y. Effective Treatment of Lung Adenocarcinoma With a Novel SLC44A1-BRAF Fusion Using Pembrolizumab Followed by Trametinib: A Case Report. Cureus. 2024.02; 16(2); e54739.

19. Mochizuki A, Shiraishi K, Honda T, Higashiyama RI, Sunami K, Matsuda M, Shimada Y, Miyazaki Y, Yoshida Y, Watanabe SI, Yatabe Y, Hamamoto R, Kohno T. Passive Smoking-Induced Mutagenesis as a Promoter of Lung Carcinogenesis. Journal of thoracic oncology : official publication of the International Association for the Study of Lung Cancer. 2024.02; 19(7); 984.

20. Aoki H, Miyazaki Y, Anzai T, Yokoyama K, Tsuchiya J, Shirai T, Shibata S, Sakakibara R, Mitsumura T, Honda T, Furusawa H, Okamoto T, Tateishi T, Tamaoka M, Yamamoto M, Takahashi K, Tateishi U, Yamaguchi T. Deep convolutional neural network for differentiating between sarcoidosis and lymphoma based on 18F-FDG maximum-intensity projection images. Eur Radiol. 2024.01; 34(1); 374.

21. Hirai T, Asano K, Ito I, Miyazaki Y, Sugiura H, Agirbasli M, Kobayashi S, Kobayashi M, Shimada D, Natsume I, Kawasaki T, Ohba T, Tajiri S, Sakamaki F, Mineshita M, Takihara T, Sekiya K, Tomii K, Tomioka H, Kita H, Nishizaka Y, Fukui M, Miyata T, Harigae H. A randomized double-blind placebo-controlled trial of an inhibitor of plasminogen activator inhibitor-1 (TM5614) in mild to moderate COVID-19. Scientific reports. 2024.01; 14(1); 165.

22. Goto Y, Nagamine Y, Hanafusa M, Kawahara T, Nawa N, Tateishi U, Ueki Y, Miyamae S, Wakabayashi K, Nosaka N, Miyazaki Y, Tohda S, Fujiwara T. Association of excess visceral fat and severe illness in hospitalized COVID-19 patients in Japan: a retrospective cohort study. International journal of obesity (2005). 2024.01; 48(5); 674.

23. Endo S, Okamoto T, Kawahara T, Anzai T, Takahashi K, Miyazaki Y. Effect of warm and humid days on the positivity rate of anti-Trichosporon asahii antibody test for the diagnosis of summer-type hypersensitivity pneumonitis Respiratory Investigation. 2024.01; 62(1); 150.

24. Tomioka H, Miyazaki Y, Inoue Y, Egashira R, Kawamura T, Sano H, Johkoh T, Takemura T, Hisada T, Fukuoka J, the committee of Japanese Respiratory Society for Japanese clinical practice guide 2022 for hypersensitivity pneumonitis. Japanese clinical practice guide 2022 for hypersensitivity pneumonitis Respiratory Investigation. 2024.01; 62(1); 16.

1. 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 特発性間質性肺炎（特発性非特異性間質性肺炎, 特発性器質化肺炎）日本医事新報. 2024.11; (5247); 37-39

2. 石原 恵依子, 甲畑 宏子, 小峯 真理子, 荒井 裕国, 長岡 英気, 宮崎 泰成, 大友 康裕, 鵜川 豊世武, 増田 孝広, 神里 彩子, 吉田 雅幸. COVID-19 の治療に関するインフォームド・コンセントにおける倫理的課題についての実態調査 生命倫理. 2024.09; 34(1); 21-32

[総説]

1. Bando M, Chiba H, Miyazaki Y, Suda T. Current challenges in the diagnosis and management of idiopathic pulmonary fibrosis in Japan. Respiratory investigation. 2024.09; 62(5); 785-793

2. Bando M, Homma S, Date H, Kishi K, Yamauchi H, Sakamoto S, Miyamoto A, Goto Y, Nakayama T, Azuma A, Kondoh Y, Johkoh T, Nishioka Y, Fukuoka J, Miyazaki Y, Yoshino I, Suda T, Ministry of Health, Labour and Welfare, the Study Group on Diffuse Pulmonary Disorders, Scientific Research/Research on Intractable Diseases, and Japanese Respiratory Society. Japanese guidelines for the treatment of idiopathic pulmonary fibrosis 2023:Revised edition. Respiratory investigation. 2024.05; 62(3); 402-418

1. 望月 晶史, 本多 隆行, 宮崎 泰成, 河野 隆志. 間質性肺炎がもたらす肺発がんの分子機序 遺伝子変化と腫瘍微小環境の視点から 呼吸器内科. 2024.07; 46(1); 85-89

2. 白井 剛, 宮崎 泰成. 【免疫・アレルギー性肺疾患と検査】疾患各論 過敏性肺炎 臨床検査. 2024.06; 68(6); 693-698

[講演・口頭発表等]

1. 古澤 春彦, 井上 渉, 橋本 梨花, 宮崎 泰成. サルコイドーシス患者気管支肺胞洗浄液における遺伝子発現と病型の関連について. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2024.10.01

2. 橋本 梨花, 井上 渉, 古澤 春彦, 青木 光, 島田 翔, 園田 史郎, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 石塚 聖洋, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. 当科で経験したサルコイドーシスと過敏性肺炎を合併した 7 例の検討. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2024.10.01

3. 井上 渉, 古澤 春彦, 橋本 梨花, 宮崎 泰成. 膠原病を合併したサルコイドーシス症例の検討. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2024.10.01

4. 藤井 直紀, 本多 隆行, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 里江, 白井 剛, 石塚 聖洋, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. BRAF 融合遺伝子陽性肺腺癌に対する免疫治療や分子標的薬による治療経験. 日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム・抄録集 2024.09.01

5. 宮崎 泰成. 職業性過敏性肺炎. 産業衛生学雑誌 2024.09.01

6. 近藤 信幸, 内海 太裕, 宮崎 泰成, 内堀 健, 西尾 誠人, 片山 量平, 西尾 誠人. ALK 陽性非小細胞肺癌の治療抵抗性に関するがん抑制遺伝子の役割 (Tumor suppressor genes play essential roles in drug resistance of molecular target therapy in ALK positive NSCLC). 日本癌学会総会 2024.09.01

7. 石塚 聖洋, 青木 光, 園田 史朗, 柴田 翔, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. FVC は誘発試験に必要か?. アレルギー 2024.08.01

8. 小松崎 恵子, 大谷 義夫, 影島 宏紀, 関野 有紀, 鈴木 康弘, 宇賀神 つかさ, 玉岡 明洋, 村上 大輔, 宮崎 泰成. 免疫療法・抗原 (アレルゲン)・検査 低アレルゲン化花粉軟膏を用いた花粉-食物アレルギー症候群 (PFAS) に対する局所鼻腔免疫療法 (LNIT) の試み. アレルギー 2024.08.01

9. 島田 翔, 伊藤 優, 園田 史朗, 鍵 直樹, 岡本 師, 宮崎 泰成. 好酸球増多疾患・過敏性肺炎 過敏性肺炎に対する曝露抗原量や疾患進行に及ぼす教育介入効果の検証 (中間解析). アレルギー 2024.08.01

10. 岡本 師, 島村 貴史, 保田 祐子, 河野 雅人, 谷野 功典, 大場 岳彦, 坂東 政司, 須田 隆文, 冨岡 洋海, 宮崎 泰成. 好酸球増多疾患・過敏性肺炎 過敏性肺炎の全国疫学調査 2 次調査の中間解析結果. アレルギー 2024.08.01

11. 渡部 春奈, 岩住 衣里子, 古家 正, 橋場 容子, 中村 陽一, 磯崎 淳, 宮崎 泰成. 当センターにおける約 10 年間の食物アレルギー症例の検討. アレルギー 2024.08.01

12. 正木 克宜, 笹原 広太郎, 冨保 紗希, 小野里 隆太, 森 詩織, 鈴川 真穂, 原田 紀宏, 宮崎 泰成, 桂 秀樹, 寺田 純子, 杉本 直也, 河野 雄太, 權 寧博, 加畑 宏樹, 宮田 純, 福永 興壱. 気管支喘息(成人): 抗 IL-5 受容体α抗体・併存症 ピークフロー日内変動率と重症喘息患者へのベンラリズマブの効果に関する検討 (Tokyo Asthma Study: TOAST). アレルギー 2024.08.01

13. 正木 克宜, 中村 玲奈, 秋山 勇人, 鈴川 真穂, 原田 紀宏, 宮崎 泰成, 桂 秀樹, 寺田 純子, 杉本 直也, 河野 雄太, 權 寧博, 加畑 宏樹, 宮田 純, 福永 興壱. 気管支喘息 (成人): 抗 IL-5 受容体α抗体・併存症　重症喘息患者に対するベンラリズマブによる Clinical remission の検討　Tokyo Asthma Study (TOAST). アレルギー 2024.08.01

14. 島村 貴史, 恵島 将, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 膠原病・その他のアレルギー疾患　顕微鏡的多発血管炎発症の有無による MPO-ANCA 陽性間質性肺炎の臨床的特徴. アレルギー 2024.08.01

15. 安田 朋加, 白井 剛, 花輪 俊弥, 加藤 里奈, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 本多 隆行, 榊原 里江, 石塚 聖洋, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 田澤 立之, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. EBUS-GS を用いた TBLB で確定診断し得た肺胞蛋白症の 1 例. 気管支学 2024.07.01

16. 則武 加奈子, 中村 麻衣子, 岡田 英理子, 山口 久美子, 新田 浩, 平井 伸英, 宮崎 泰成. 東京医科歯科大学におけるダイバーシティ・インクルージョン推進に対する取り組みについて. 医学教育 2024.07.01

17. 立石 知也, 玉岡 明洋, 高木 俊輔, 長谷川 嵩矩, 高橋 邦彦, 宮崎 泰成. 閉塞性睡眠時無呼吸症が自動車運転操作に与える影響の研究. 日本睡眠学会定期学術集会プログラム・抄録集 2024.07.01

18. 百合本 大夢, 古澤 春彦, 島田 翔, 柴田 翔, 本多 隆行, 榊原 里江, 白井 剛, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. ニボルマブ・イピリムマブ中止 6 ヵ月後に劇症 1 型糖尿病を発症した肺腺癌術後再発の 1 例. 肺癌 2024.06.01

19. 金子 侑平, 古澤 春彦, 白井 剛, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 本多 隆行, 榊原 里江, 石塚 聖洋, 宮崎 泰成. 高 IgE 症候群 5 例の肺病変の検討. 日本内科学会関東地方会 2024.06.01

20. 新井 しほり, 岡本 師, 島田 翔, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 非線維性から線維性過敏性肺炎へ進行した夏型過敏性肺炎の 1 例. 気管支学 2024.05.01

21. 青木 翔太郎, 榊原 里江, 本多 隆行, 柴田 翔, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成, 青山 慧, 池田 貞勝. 再発後 10 年超の長期生存を得たEGFR 陽性肺腺癌から考察する遺伝子検査を繰り返す意義. 肺癌 2024.04.01

22. 新井 徹, 井上 義一, 関口 睦, 坂上 拓郎, 山口 悦郎, 三枝 美香, 村上 康司, 赤坂 圭一, 藤田 昌樹, 倉原 優, 露口 一成, 宮崎 泰成, 坂東 政司, 鈴木 拓児, 須田 隆文. COVID-19 合併の肺胞蛋白症 (PAP) に関する全国アンケート調査報告. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

23. 安田 朋加, 飯島 裕基, 島田 翔, 青木 光, 園田 史朗, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. IPAF の治療反応性に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

24. 瀬戸口 靖弘, 細川 元靖, 宮崎 泰成, 平井 豊博, 後藤 慎平. Surfactant protein C 遺伝子 (SFTPC) 変異のある間質性肺疾患の臨床分子生物学的検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

25. 藤井 伸哉, 井上 渉, 古澤 春彦, 立石 知也, 瀬戸口 靖弘, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　トピック　特発性胸膜肺実質線維弾性症 (PPFE) においてのエクソーム解析. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

26. 井上 義一, 澄川 裕充, 清水 重喜, 香川 智子, 馬場 智尚, 冨岡 洋海, 竹内 奈緒子, 武井 玲生仁, 山野 泰彦, 久瀬 雄介, 村岡 達哉, 古澤 春彦, 新谷 亮多, 江頭 玲子, 上甲 剛, 武村 民子, 河端 美則, 北市 正則, 小倉 高志, 近藤 康博, 宮崎 泰成, 槇野 茂樹, 冨永 循哉, 田中 伴典, 新井 徹. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　線維性過敏性肺炎と膠原病合併例に関する研究　第 13 回大阪呼吸器シンポジウム報告. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

27. 岡本 師, 花房 真理子, 安部 豪眞, 島村 貴史, 伊藤 優, 坂東 政司, 須田 隆文, 冨岡 洋海, 藤原 武男, 小田嶋 博, 吉原 重美, 高瀬 眞人, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　過敏性肺炎の全国疫学調査. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

28. 飯島 裕基, 恵島 将, 園田 史朗, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　過敏性肺炎の診断における抗原曝露評価票の有用性に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

29. 遠藤 駿, 柴田 翔, 山名 高志, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　鳥関連過敏性肺炎マウスモデルにおける CD11b 陽性樹状細胞の関与の解析. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

30. 澤田 淳, 園田 史朗, 飯島 裕基, 青木 光, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患における BALF のリンパ球比率による病理所見の予測に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

31. 井上 渉, 古澤 春彦, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. サルコイドーシス患者の心病変発症についての検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

32. 杉原 潤, 岡本 師, 青木 光, 高澤 聖子, 本多 隆行, 浅川 文香, 石橋 洋則, 大久保 憲一, 宮崎 泰成. シングルセル RNA 解析による早期線維化肺の線維芽細胞集団の解析. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

33. 小林 このみ, 長瀬 洋之, 鈴川 真穂, 正木 克宜, 宮田 祐人, 辻 真世子, 寺田 純子, 小松崎 恵子, 杉原 徳彦, 木原 令夫, 石川 暢久, 小屋 俊之, 宮崎 泰成, 放生 雅章, 多賀谷 悦子, 田中 明彦, 原田 紀宏, 福永 興壱, 權 寧博. メポリズマブの臨床効果と血清Galectin-10 値との関連　J-Real-Mepo 試験における効果予測バイオマーカーの検索. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

34. 高澤 聖子, 三宅 健介, 杉原 潤, 柴田 翔, 立石 知也, 烏山 一, 宮崎 泰成. 喘息　疾患動物モデル　好塩基球由来 IL-4 は急性呼吸促迫症候群モデルマウスの肺炎症収束に寄与する. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

35. 正木 克宜, 中村 玲奈, 秋山 勇人, 鈴川 真穂, 原田 紀宏, 宮崎 泰成, 桂 秀樹, 寺田 純子, 杉本 直也, 河野 雄太, 權 寧博, 加畑 宏樹, 宮田 純, 福永 興壱. 実臨床での重症喘息患者に対するベンラリズマブの効果に関する検討 多施設共同特定臨床研究　Tokyo Asthma Study(TOAST). 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

36. 甲斐 文彬, 古澤 春彦, 島田 翔, 園田 史朗, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. 当院における皮膚筋炎・多発筋炎関連間質性肺疾患症例の検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

37. 島村 貴史, 惠島 将, 立石 知也, 岡本 師, 澄川 裕充, 冨永 循哉, 江頭 玲子, 上甲 剛, 宮崎 泰成. 急性症状を伴って発症する非線維性過敏性肺炎患者の CT 画像における線維化進行リスクの検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

38. 長瀬 洋之, 小林 このみ, 鈴川 真穂, 正木 克宜, 宮田 祐人, 辻 真世子, 寺田 純子, 小松崎 恵子, 杉原 徳彦, 木原 令夫, 石川 暢久, 小屋 俊之, 宮崎 泰成, 放生 雅章, 多賀谷 悦子, 田中 明彦, 原田 紀宏, 福永 興壱, 權 寧博. 日本におけるメポリズマブの喘息に対する有効性　多施設共同後方視的観察研究 (J-Real-Mepo). 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

39. 新井 徹, 織田 恒幸, 近藤 康博, 冨岡 洋海, 富井 啓介, 宮崎 泰成, 竹内 奈緒子, 香川 智子, 滝本 宜之, 井上 義一, 冨永 循哉, 江頭 玲子, 上甲 剛, 田中 伴典, 笠井 孝彦, 寺崎 泰弘, 武村 民子, 河端 美則, 澄川 裕充, 清水 重喜. 画像的に I-PPFE との鑑別が困難であった線維性過敏性肺炎『第 14 回大阪呼吸器シンポジウム』報告. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

40. 今瀬 玲菜, 高崎 寛司, 田中 理子, 榊原 里江, 桐原 進, 宮崎 泰成, 山根 道雄. 発症から約 20 年の慢性経過で生検を繰り返し確定診断に至った IgG4 関連疾患の 1 例. 日本内科学会関東地方会 2024.03.01

41. Sumikawa Hiromitsu, Komiya Kosaku, Egashira Ryoko, Tominaga Junya, Takei Reoto, Kondoh Yasuhiro, Shimamura Takashi, Tateishi Tomoya, Miyazaki Yasunari, Johkoh Takeshi. 線維化性過敏性肺炎と特発性肺線維症のCT における鑑別 (Computed Tomography Diagnostic Findings between Fibrotic Hypersensitivity Pneumonitis and Idiopathic Pulmonary Fibrosis). 日本医学放射線学会学術集会 2024.03.01

42. 朝尾 菜津美, 岡本 師, 安部 豪眞, 飯島 裕基, 園田 史朗, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 宮崎 泰成. 線維性過敏性肺炎における KL-6 および SP-D の季節性変動の後方視的検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

43. 石川 氷介, 白井 剛, 島田 翔, 園田 史朗, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 青木 光, 古澤 春彦, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 肺生検の病理像で cicatrical OP を呈した 5 例の臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

44. 安井 渉, 本多 隆行, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 里江, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. 肺癌　合併症　間質性肺炎 (IP) を合併した肺大細胞神経内分泌癌 (LCNEC) の臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

45. 望月 晶史, 白石 航也, 本多 隆行, 角南 久仁子, 宮崎 泰成, 吉田 幸弘, 渡辺 俊一, 谷田部 恭, 浜本 隆二, 河野 隆志. 肺腺がん発生における受動喫煙の変異原性寄与. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

46. 伊藤 優, 岡本 師, 島村 貴史, 齋藤 弘明, 大場 岳彦, 筒井 俊晴, 千秋 智重, 山下 将平, 小林 正芳, 宮崎 泰成. 膠原病関連肺疾患　血管炎　抗 CCP 抗体陽性間質性肺疾患における関節リウマチ発症に関する臨床的因子. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

47. 入江 美聡, 加畑 宏樹, 正木 克宜, 山岸 舞, 鎌谷 高志, 鈴川 真穂, 原田 紀宏, 宮崎 泰成, 桂 秀樹, 放生 雅章, 杉本 直也, 河野 雄太, 權 寧博, 宮田 純, 上村 想太郎, 白崎 善隆, 福永 興壱. 重症喘息におけるベンラリズマブ投与前後のリンパ球解析 多施設共同特定臨床研究 Tokyo Asthma Study(TOAST). 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

48. 花輪 俊弥, 柴田 翔, 島田 翔, 高澤 聖子, 小松崎 恵子, 立石 知也, 大谷 義夫, 宮崎 泰成. 重症喘息患者において末梢血好酸球数は Dupilumab の奏功例を予測する因子である. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

49. 宮崎 泰成, 坂下 博之, 望月 晶史, 本多 隆行. 間質性肺炎合併肺癌の治療 間質性肺炎合併肺癌について. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

50. 安部 豪眞, 岡本 師, 伊藤 優, 宮崎 泰成. 間質性肺疾患における胸部X 線動態撮影の有用性. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

51. 春原 涼, 島田 翔, 青木 光, 園田 史朗, 柴田 翔, 榊原 里江, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. 関節リウマチ (RA) 合併肺非結核性抗酸菌症 (肺 NTM 症) の治療の実態. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

52. 加藤 里奈, 榊原 里江, 青木 光, 園田 史朗, 島田 翔, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. 高齢者進展型小細胞肺癌への薬物療法の妥当性. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

53. 青木 翔太郎, 本多 隆行, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 榊原 里江, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 宮崎 泰成. 高齢非小細胞癌患者の免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) 投与の実態と irAE. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

54. 田上 慶, 青木 光, 春原 涼, 園田 史朗, 島田 翔, 柴田 翔, 榊原 里江, 本田 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 立石 知也, 岡本 師, 宮崎 泰成. 喘息様症状から気管気管支軟化症の診断に至った 1 例. 日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会・日本呼吸器学会関東地方会合同学会プログラム・抄録集 2024.02.01

55. 甲斐 文彬, 本多 隆行, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 柴田 翔, 榊原 里江, 白井 剛, 古澤 春彦, 宮崎 泰成. 右顎関節腫脹と咀嚼時痛を契機に発見された肺腺癌下顎骨転移の 1 例. 気管支学 2024.01.01

[特許]

1. 間質性肺炎患者の呼吸機能の低下リスクに関する情報を取得する方法及びその利用,

   特許番号：特許第 7440042号

2. 間質性肺炎患者の呼吸機能の低下リスクに関する情報を取得する方法及びその利用,

   特許番号：ZL201980071298.6

[その他業績]

1. プレスリリース「受動喫煙が肺がんの遺伝子変異を誘発することを証明 受動喫煙を回避することの重要性を肺がんの発症機構からも確認」, 2024 年 04 月
2. プレスリリース「 過敏性肺炎の正確な有病率、罹患率を推計 」 日本における線維性および非線維性過敏性肺炎の初の疫学研究, 2024 年 08 月

[社会貢献活動]

1. 市民公開講座 2022, 2022 年 08 月 01 日 - 現在
2. 映画館など静かな場所で咳をガマンする方法, NHK, あさイチ, 2024 年 03 月 07 日 - 2024 年 03 月 26 日
3. 貴学附属病院の特徴及び強み, 株式会社セントルシアヘルスケアジャパン, ティンセントニュース, 2024 年 05 月 29 日 - 2024 年 05 月 30 日
4. 家の中で発生するカビ・トリコスポロン, TBS 系列/CBC 発, 「健康カプセル！ ゲンキの時間」, 2024 年 06 月 09 日

消化器病態学

Gastroenterology and Hepatology

消化器病態学 教授　　岡本隆一

教授　（関連部門）
朝比奈靖浩（肝臓病態制御学）
大塚和朗（光学医療診療部）

准 教 授
根本泰宏（消化器病態学）
永石宇司（消化管先端治療学）
藤井俊光（消化器連携医療学講座）
長堀正和（臨床試験管理センター）
中川美奈（統合教育機構）
岡田英理子（臨床医学教育開発分野）
油井史郎（再生医療研究センター）

講　　師
清水寛路（消化器内科）
水谷知裕（消化器病態学）
福田将義（光学医療診療部）
竹中健人（消化器連携医療学講座）
加納嘉人（臨床腫瘍科）

助　　教
齊藤詠子（長寿・健康人生推進センター）
村川美也子（消化器内科）
三好正人（消化器病態学）
小林正典（消化器内科）
金子　俊（消化器内科）
北畑富貴子（検査部）
河本亜美（光学医療診療部）
日比谷秀爾（光学医療診療部）

プロジェクト助教
伊藤　剛（消化器病態学）
藤井　悟（消化器病態学）

特 任 助 教
田村皓子（消化器内科）
小林桜子（消化器内科）

医　　員
森川　亮, 延澤　翼，渡壁慶也，小笠原暢彦
大科枝里，鈴木圭人，浜村亮輔（消化器内科）
米本有輝，早川優香, 申　貴広（光学医療診療部）
藤原　俊（臨床腫瘍科）

レジデント
小野寺啓, 髙松　毅，金谷亮佑（消化器内科）

プロジェクト研究員
土屋　淳（消化器病態学）
特任研究員
志水太郎（消化器病態学）

大 学 院 生
持田知洋, 武藤智弘, 桐野　桜, 稲田賢人
加藤　周, 杉原ハディ優樹, 勝田景統, 関口修平

(1) 分野概要

本分野では、我が国の疾病構造の中で、極めて頻度の高い疾患群を構成する上・下部消化管疾患および肝・胆・膵疾患に関する優れた臨床研究者を育成することを目的とする。大学院における臨床教室の意義は次世代の医学・医療のための基礎を確立することにあり、これら先進性の確保のためには臨床に基づく研究の推進および基礎研究に基づく画期的な治療法の開発以外にない。臨床情報に基づいた臨床医にしかできない疾患病態の解明と新規治療法の開発、基礎研究者とは異なる視点の研究を目指すことにより、広い視野に立ち次世代の消化器内科学領域をリードする臨床研究者を育成することが本分野における大学院教育のゴールである。

(2) 研究活動

研究（主要テーマ）
・炎症性腸疾患病態解明とそれを基盤にした免疫統御療法の開発
・腸管粘膜免疫の特殊性を応用した炎症、アレルギーに対する新規治療法の開発
・体外培養を用いた消化管機能制御機構の解析
・消化管・肝における再生機構の解析と再生医療
・消化管上皮細胞内シグナル制御機構の解析
・消化器疾患における疾患関連遺伝子の検討

(3) 教育活動

毎週火曜日　抄読会、リサーチカンファレンス

(4) 教育方針

大学院における臨床教室の意義は次世代の医学・医療のための基礎を確立することにあり、これら先進性の確保のためには臨床に基づく研究の推進および基礎研究に基づく画期的な治療法の開発以外にないとの考えに立ち、我が国の疾病構造の中で極めて頻度の高い疾患群を構成する上・下部消化管疾患および肝・胆・膵疾患に関する優れた臨床研究者を育成することを目的とする。臨床においては、内視鏡を含む、医用工学を駆使した種々の診断技術の開発・実施に加え、高度な先端技術を用いた治療法の開発を目指している。研究面では、消化管粘膜免疫制御機構と組織再生機構に関わる独自の基礎研究に基づいた炎症性腸疾患の新規治療開発、ウイルス学・免疫学的アプローチによる基礎研究と慢性肝炎の進展阻止を目指した臨床研究、および新規抗癌剤治療による消化器癌治療に関わる臨床研究など、臨床の場から課題を抽出して研究を展開し、最終的には臨床現場に還元する「クリニカル・サイエンス」を追求する。国内外の交流および留学の機会を積極的に設け、広い視野に立ち次世代の消化器内科学領域をリードする臨床研究者を育成することが本分野における大学院教育のゴールである。

(5) 臨床活動および学外活動

臨床（主要テーマ）
・免疫異常の是正を基盤とした炎症性腸疾患の治療
・ウイルス学的新知見を踏まえた慢性肝炎、肝癌の進展阻止
・肝癌に対する新しい治療の試み
・バルーン内視鏡、カプセル内視鏡を用いた小腸疾患の診断、治療
・大腸内視鏡、治療内視鏡
・MR エンテログラフィなどの低侵襲的消化管検査
・膵癌、胃癌に対する化学療法の検討

(6) 臨床上の特色

消化器病学は消化管および肝臓、胆道、膵臓など、臓器として多くの領域をカバーするだけでなく、解剖、生理、病理学を基礎として、免疫学（炎症、感染症、自己免疫など）、腫瘍学、遺伝学、栄養学などの幅広い病態学に及びます。また、診断学においても内視鏡検査などの画像診断の進歩は目覚ましく、治療学の進歩も華々しいものがあります。また、消化器内科では、外科や小児科との境界領域も多いため、これらに関する知識も必須であり、また、救急医学においても消化器病学は大きな比重を占めています。
当教室では、指導体制の整った各地域の拠点病院の関連病院において、これら広範な領域について研修する機会を提供する一方で、大学病院では、専門性を生かした大学病院ならではの診療を行うなど、関連病院と大学病院

の連携が非常にバランスよく保たれています。さらに当教室では、臨床研究だけでなく基礎研究でも実績があり、臨床と研究両面からよりよい医療を目指す事ができます。

＜炎症性腸疾患＞
当教室は、厚生労働省「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」の班長施設を長年務めるなど、我が国の炎症性腸疾患診療の中心となっています。2012 年に潰瘍性大腸炎 · クローン病先端治療センターを設置以降すでに 1300 人以上の新規紹介を受け入れ、特に難治例の紹介が多いのが特徴です。診療において、小腸内視鏡や MR エンテログラフィーといった最新の画像診断で、苦痛や負担を最小限に抑えかつ精度の高い診断および疾患活動性評価を行っています。それに加え、免疫調節薬や、抗 TNF α 抗体製剤など生物学的製剤による治療を積極的に行うことで、長期入院例は皆無で、患者 QOL を損なうことなく外来を中心に治療をしております。外科 · 放射線科 · 病理部 · 看護師 · 栄養士 · 薬剤師とも連携し、患者中心のチーム医療を実践し、また、臨床試験管理センターとも密に連携し数多くの治験を実施することでも、最新の医療を提供しています。リサーチクエスチョンをもちながら日々の診療を行っており、国内外の消化器関連学会にておいても、良質の臨床研究を発表し続けています。

＜慢性肝炎 · 肝癌＞
専門外来として「肝炎 · 肝癌撲滅外来」を開設し、慢性肝炎、肝硬変、肝癌の診療を肝臓専門医が行っています。特にウイルス性肝炎の治療については豊富な治療経験をもち、「お茶の水 liver カンファレンス共同研究」では多くの関連病院の協力も得て、2000 例以上の症例経験を蓄積し、我が国有数の臨床研究として認知されています。この研究により治療効果の正確な予測が可能となることが明らかとなり、さらに、発癌メカニズムと発癌リスクの詳細を解明し、肝硬度測定検査（Fibroscan）やバイオマーカーを組み合わせた抗ウイルス療法後の肝癌スクリーニングプログラムの開発を行っています。
肝癌診療においては、造影超音波検査や Real-time virtual sonography (RVS: MRI/CT のボリュームデータから施行中の超音波画像と同一断面を表示するシステム）を用いて、多角的に肝細胞癌を評価し、安全で確実なラジオ波焼灼療法を行っており、これらの有用性についても報告してきました。さらに放射線科や肝臓外科と緊密な連携をもち、様々な選択肢の中から病態に応じた最適な集学的治療を提供しています。

＜特殊内視鏡（小腸バルーン内視鏡、カプセル内視鏡）＞
小腸バルーン内視鏡検査の進歩は目覚ましく、当科では早くも２００４年９月にはダブルバルーン内視鏡検査を開始し、出血や術後胆道結石を中心に、広く関東一円から紹介患者を受け入れています。さらにシングルバルーン内視鏡を用いてクローン病を中心とした炎症性腸疾患の診断 · 病状把握 · 狭窄治療に非常に有用であることを世界に発信しています。小腸バルーン内視鏡症例数は年間 300 件を超え、日本の約 5 %を担っています。またカプセル内視鏡を用いた原因不明消化管出血の診断についても、多くの紹介患者を受け入れています。

＜食道 · 胃 · 膵癌化学療法＞
当科での消化器進行癌に対する化学療法の特徴は、いわゆる癌専門施設とは異なり、大学病院という性質から、基礎疾患を有する治療困難な患者が多い点にあります。癌専門施設の治験等からは除外されてしまうような患者に対しても、患者の基礎疾患等を熟慮した QOL を損ねない治療を心がけています。

(7) 研究業績

[原著]

1. Miyako Murakawa, Mina Nakagawa, Hisaaki Nishimura, Shun Kaneko, Masato Miyoshi, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Jun Tsuchiya, Taro Shimizu, Keiya Watakabe, Tomohiro Mochida, Kento Inada, Yasuhiro Iizuka, Hideki Sakai, Yuki Sakurai, Ayako Sato, Seishin Azuma, Takahiro Kawamura, Chiaki Maeyashiki, Masayuki Kurosaki, Fumihiko Kusano, Hideki Watanabe, Hitoshi Kurata, Yuko Karakama, Takeo Fujiwara, Yuki Nagata, Toshihiro Tanaka, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, Yasuhiro Asahina. High serum gamma-glutamyltransferase level after hepatitis C virus elimination is a risk factor for the development of hepatocellular carcinoma. Hepatol Res. 2024.12; 54(12); 1128-1138

2. Junichi Takahashi, Hady Yuki Sugihara, Shu Kato, Sho Kawasaki, Sayaka Nagata, Ryuichi Okamoto, Tomohiro Mizutani. Controlled aggregative assembly to form self-organizing macroscopic human intestine from induced pluripotent stem cells. Cell Rep Methods. 2024.12; 4(12); 100930

3. Morikawa R, Nitta K, Yasuda S, Kano Y, Noji R, Aoyama S, Sato S, Ikeda S, Okamoto R, Nagata M, Mori T, Suenaga M. Identification of risk factors for gastrointestinal immune-related adverse events associated with immune check point inhibitors. Expert opinion on drug safety. 2024.12;

4. Tomohiro Mizutani, Matteo Boretto, Sangho Lim, Jarno Drost, Diego Montiel González, Rurika Oka, Maarten H Geurts, Harry Begthel, Jeroen Korving, Johan H van Es, Ruben van Boxtel, Hans Clevers. Recapitulating the adenoma-carcinoma sequence by selection of four spontaneous oncogenic mutations in mismatch-repair-deficient human colon organoids. Nat Cancer. 2024.12; 5(12); 1852-1867

5. Kento Takenaka, Tadakazu Hisamatsu, Taku Kobayashi, Hironori Yamamoto, Naoki Ohmiya, Ryohei Hayashi, Katsuyoshi Matsuoka, Masayuki Saruta, Akira Andoh, Norimasa Fukata, Kenji Watanabe, Hiroyuki Imaeda, Fumihito Hirai, Takayuki Matsumoto, Akihiro Hirakawa, Tomonori Yano, Minoru Matsuura, Ryuichi Okamoto, Kazuo Ohtsuka, Mamoru Watanabe. Inadequate Efficacy of Biologics for Treating Proximal Ileal Lesions in Crohn's Disease; A Prospective Multicenter Study. Clin Gastroenterol Hepatol. 2024.12; Online ahead of print;

6. Yotaro Motomura, Kota Yoshifuji, Keisuke Tanaka, Chizuko Sakashita, Yoshihiro Umezawa, Toshikage Nagao, Sayuri Nitta, Yasuhiro Asahina, Takehiko Mori, Masahide Yamamoto. Hepatitis C virus-related hepatitis flare after immunochemotherapy in a patient with follicular lymphoma. J Clin Exp Hematop. 2024.12; 64(4); 313-317

7. Hiromune Katsuda, Masanori Kobayashi, Go Ito, Ami Kawamoto, Susumu Krimura, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. Evaluating endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for diagnosis of small pancreatic neuroendocrine neoplasms. Endosc Int Open. 2024.11; 12(11); E1379-E1385

8. Shun Ishido, Masanori Kobayashi, Ryuichi Okamoto. Low-cost and reliable method for confirming residual bile duct stones utilizing a novel peroral cholangioscope. Dig Endosc. 2024.10; 36(10); 1173-1175

9. Ryosuke Hamamura, Masanori Kobayashi, Ryuichi Okamoto. Endoscopic transpapillary gallbladder drainage using a novel cholangioscope. Dig Endosc. 2024.10; Online ahead of print;

10. Yuki Tahata, Hayato Hikita, Satoshi Mochida, Nobuyuki Enomoto, Norifumi Kawada, Akio Ido, Daiki Miki, Masayuki Kurosaki, Hitoshi Yoshiji, Ryotaro Sakamori, Hidekatsu Kuroda, Hiroshi Yatsuhashi, Taro Yamashita, Yoichi Hiasa, Naoya Kato, Hisamitsu Miyaaki, Yoshiyuki Ueno, Yoshito Itoh, Kentaro Matsuura, Taro Takami, Yasuhiro Asahina, Goki Suda, Norio Akuta, Ryosuke Tateishi, Yasunari Nakamoto, Eiji Kakazu, Shuji Terai, Masahito Shimizu, Masanori Miyazaki, Yasutoshi Nozaki, Satoshi Sobue, Hiroki Yano, Tomokatsu Miyaki, Akihiro Moriuchi, Takeshi Hori, Kumiko Shirai, Kazuhiro Murai, Yoshinobu Saito, Takahiro Kodama, Tomohide Tatsumi, Tomomi Yamada, Tetsuo Takehara. Factors involved in gastroesophageal varix-related events in patients with hepatitis C virus-related compensated and decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral therapy. Hepatol Res. 2024.10; Online ahead of print;

11. Eri Oshina, Masanori Kobayashi, Ryuichi Okamoto. Functional Gallbladder Disorder: Characteristic Hepatobiliary Scintigraphy Findings. Intern Med. 2024.08; Online ahead of print;

12. Hiromune Katsuda, Masanori Kobayashi, Ryuichi Okamoto. Endoscopic recanalization of an occluded Braun anastomosis using an endoscopic injection needle. Dig Endosc. 2024.07; 36(7); 851-852

13. Haruki Uojima, Kazumi Yamasaki, Masaya Sugiyama, Masayoshi Kage, Norihiro Ishii, Ken Shirabe, Hisashi Hidaka, Chika Kusano, Miyako Murakawa, Yasuhiro Asahina, Takashi Nishimura, Hiroko Iijima, Kazumasa Sakamoto, Kiyoaki Ito, Keisuke Amano, Takumi Kawaguchi, Nobuharu Tamaki, Masayuki Kurosaki, Takanori Suzuki, Kentaro Matsuura, Akinobu Taketomi, Satoru Joshita, Takeji Umemura, Sohji Nishina, Keisuke Hino, Hidenori Toyoda, Hiroshi Yatsuhashi, Masashi Mizokami. Quantitative measurements of M2BPGi depend on liver fibrosis and inflammation. J Gastroenterol. 2024.07; 59(7); 598-608

14. Takanori Kuroki, Yasuharu Maeda, Shin-Ei Kudo, Noriyuki Ogata, Marietta Iacucci, Kazumi Takishima, Yutaro Ide, Tomoya Shibuya, Shigenori Semba, Jiro Kawashima, Shun Kato, Yushi Ogawa, Katsuro Ichimasa, Hiroki Nakamura, Takemasa Hayashi, Kunihiko Wakamura, Hideyuki Miyachi, Toshiyuki Baba, Tetsuo Nemoto, Kazuo Ohtsuka, Masashi Misawa. A novel artificial intelligence-assisted "vascular healing" diagnosis for prediction of future clinical relapse in patients with ulcerative colitis: a prospective cohort study (with video). Gastrointest Endosc. 2024.07; 100(1); 97-108

15. Shimizu H, Aonuma Y, Hibiya S, Kawamoto A, Takenaka K, Fujii T, Saito E, Nagahori M, Ohtsuka K, Okamoto R. Long-term efficacy and safety of tofacitinib in patients with ulcerative colitis: 3-year results from a real-world study. Intestinal research. 2024.07;

16. Watakabe K, Miyoshi M, Kakinuma S, Sato A, Tsuchiya J, Shimizu T, Mochida T, Inada K, Kaneko S, Kawai-Kitahata F, Murakawa M, Nitta S, Nakagawa M, Oshima S, Watanabe M, Ma A, Asahina Y, Okamoto R. A20 in hepatic stellate cells suppresses chronic hepatitis by inhibiting DCLK1-JNK pathway-dependent chemokines. FASEB journal : official publication of the Federation of American Societies for Experimental Biology. 2024.07; 38(13); e23757

17. Taku Kobayashi, Kei Moriya, Toshimitsu Fujii, Shigeki Bamba, Shinichiro Shinzaki, Akihiro Yamada, Takashi Hisabe, Shintaro Sagami, Shuji Hibiya, Takahiro Amano, Noritaka Takatsu, Katsutoshi Inagaki, Ken-Ichi Iwayama, Toshifumi Hibi. Early resolution of bowel urgency by budesonide foam enema results in improved quality of life in patients with ulcerative colitis: a multicenter prospective observational study. Intest Res. 2024.07; Online ahead of print;

18. Kazuma Saito, Masanori Kobayashi, Minato Yokoyama, Towako Taguchi, Koichiro Kimura, Takumi Akashi, Yasuhisa Fujii, Ryuichi Okamoto. Transjejunal fine-needle biopsy using a forward-viewing echoendoscope for diagnosis of a rare hereditary paraganglioma. VideoGIE. 2024.07; 9(7); 329-332

19. Masanori Kobayashi, Mao Niimi, Hiromune Katsuda, Keiichi Akahoshi, Yuko Kinowaki, Masanao Sasaki, Akihiro Hirakawa, Ukihide Tateishi, Minoru Tanabe, Ryuichi Okamoto. Optimization of Endoscopic Ultrasound Characteristics in the Diagnosis of Malignant Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. Pancreas. 2024.07; 53(6); e521-e527

20. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Shunsuke Ueyama, Chiaki Maeyashiki, Hideki Watanabe, Akiko Kusano-Kitazume, Ayako Sato, Kozue Uchidate, Takehito Asakawa, Sho Watanabe, Yasuhiro Iizuka, Isamu Shibata, Shinya Oooka, Yuko Karakama, Takashi Fujii, Taro Watabe, Keiichi Akahoshi, Minoru Tanabe, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Keiya Watakabe, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Mina Nakagawa, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, . Prognostic significance of C-reactive protein in unresectable hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab and bevacizumab. Hepatol Res. 2024.06; 54(6); 562-574

21. Tatsuya Suzuki, Yuka Hayakawa, Shun Kaneko, Kento Takenaka, Keiya Watakabe, Yuko Kinowaki, Akira Takemoto, Kazuo Ohtsuka, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. Granulomatous hepatitis with Crohn's disease: a case report. Clin J Gastroenterol. 2024.06; 17(3); 551-556

22. Shintaro Akiyama, Kaoru Yokoyama, Soichi Yagi, Shinichiro Shinzaki, Kozo Tsuruta, Shinichiro Yoshioka, Minako Sako, Hiromichi Shimizu, Mariko Kobayashi, Toshiyuki Sakurai, Kei Nomura, Tomoyoshi Shibuya, Masahiro Takahara, Sakiko Hiraoka, Kyohei Sugai, Shunichi Yanai, Atsushi Yoshida, Miki Koroku, Teppei Omori, Masayuki Saruta, Takayuki Matsumoto, Ryuichi Okamoto, Kiichiro Tsuchiya, Toshimitsu Fujii. Efficacy and safety of filgotinib for ulcerative colitis: A real-world multicenter retrospective study in Japan. Aliment Pharmacol Ther. 2024.06; 59(11); 1413-1424

23. Keito Suzuki, Yutaka Yasui, Kaoru Tsuchiya, Hiroaki Matsumoto, Yudai Yamazaki, Naoki Uchihara, Yuki Tanaka, Haruka Miyamoto, Michiko Yamada-Shimizu, Taisei Keitoku, Risa Okada, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Shohei Tanaka, Chiaki Maeyashiki, Nobuharu Tamaki, Hiroyuki Nakanishi, Yuka Takahashi, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi. Impact of immune-related adverse events in patients with hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab plus bevacizumab. J Gastroenterol Hepatol. 2024.06; 39(6); 1183-1189

24. Motoki Makuuchi, Yoichi Kakuta, Junji Umeno, Toshimitsu Fujii, Tetsuya Takagawa, Takashi Ibuka, Miki Miura, Yu Sasaki, Sakuma Takahashi, Hiroshi Nakase, Hiroki Kiyohara, Keiichi Tominaga, Yosuke Shimodaira, Sakiko Hiraoka, Nobuhiro Ueno, Shunichi Yanai, Takeo Yoshihara, Kazuki Kakimoto, Katsuyoshi Matsuoka, Ryohei Hayashi, Sohachi Nanjo, Itaru Iwama, Yoh Ishiguro, Hirofumi Chiba, Katsuya Endo, Takashi Kagaya, Tomohiro Fukuda, Yasuhisa Sakata, Takahiro Kudo, Tomohisa Takagi, Kenichi Takahashi, Makoto Naganuma, Masaru Shinozaki, Noriyuki Ogata, Hiroki Tanaka, Kazuyuki Narimatsu, Haruka Miyazaki, Takashi Ishige, Motoyuki Onodera, Yu Hashimoto, Hiroshi Nagai, Yusuke Shimoyama, Takeo Naito, Rintaro Moroi, Hisashi Shiga, , Yoshitaka Kinouchi, Akira Andoh, Tadakazu Hisamatsu, Atsushi Masamune. Real-world NUDT15 genotyping and thiopurine treatment optimization in inflammatory bowel disease: a multicenter study. J Gastroenterol. 2024.06; 59(6); 468-482

25. Ken Yamashita, Shiro Oka, Takeshi Yamada, Keigo Mitsui, Hironori Yamamoto, Keiichi Takahashi, Akio Shiomi, Kinichi Hotta, Yoji Takeuchi, Toshio Kuwai, Fumio Ishida, Shin-Ei Kudo, Shoichi Saito, Masashi Ueno, Eiji Sunami, Tomoki Yamano, Michio Itabashi, Kazuo Ohtsuka, Yusuke Kinugasa, Takayuki Matsumoto, Tamotsu Sugai, Toshio Uraoka, Koichi Kurahara, Shigeki Yamaguchi, Tomohiro Kato,

Masazumi Okajima, Hiroshi Kashida, Yoshito Akagi, Hiroaki Ikematsu, Masaaki Ito, Motohiro Esaki, Masaya Kawai, Takashi Yao, Madoka Hamada, Takahiro Horimatsu, Keiji Koda, Yasumori Fukai, Koji Komori, Yusuke Saitoh, Yukihide Kanemitsu, Hiroyuki Takamaru, Kazutaka Yamada, Hiroaki Nozawa, Tetsuji Takayama, Kazutomo Togashi, Eiji Shinto, Takehiro Torisu, Akira Toyoshima, Naoki Ohmiya, Takeshi Kato, Eigo Otsuji, Shinji Nagata, Yojiro Hashiguchi, Kenichi Sugihara, Yoichi Ajioka, Shinji Tanaka. Clinicopathological features and prognosis of primary small bowel adenocarcinoma: a large multicenter analysis of the JSCCR database in Japan. J Gastroenterol. 2024.05; 59(5); 376-388

26. Makoto Naganuma, Naohiro Nakamura, Reiko Kunisaki, Katsuyoshi Matsuoka, Shojiro Yamamoto, Ami Kawamoto, Daisuke Saito, Taku Kobayashi, Kosaku Nanki, Kazuyuki Narimatsu, Hisashi Shiga, Motohiro Esaki, Shinichiro Yoshioka, Shingo Kato, Masayuki Saruta, Shinji Tanaka, Eriko Yasutomi, Kaoru Yokoyama, Kei Moriya, Yoshikazu Tsuzuki, Makoto Ooi, Mikihiro Fujiya, Atsushi Nakazawa, Tomohisa Takagi, Teppei Omori, Toshiyuki Tahara, Tadakazu Hisamatsu & The Japanese UC Study Group . Medical treatment selection and outcomes for hospitalized patients with severe ulcerative colitis as defined by the Japanese criteria. J Gastroenterol. 2024.04; 59(4); 302-314

27. Nobuhiko Ogasawara, Yoshihito Kano, Yosuke Yoneyama, Sakurako Kobayashi, Satoshi Watanabe, Sakura Kirino, Fausto D Velez-Bravo, Yourae Hong, Aleksandra Ostapiuk, Pavlo Lutsik, Iichiroh Onishi, Shinichi Yamauchi, Yui Hiraguri, Go Ito, Yusuke Kinugasa, Kenichi Ohashi, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto, Sabine Tejpar, Shiro Yui. Discovery of non-genomic drivers of YAP signaling modulating the cell plasticity in CRC tumor lines. iScience. 2024.03; 27(3); 109247

28. Marc Ferrante, Peter M Irving, Maria T Abreu, Jeffrey Axler, Xiang Gao, Qian Cao, Toshimitsu Fujii, Astrid Rausch, Joana Torres, Ezequiel Neimark, Alexandra Song, Kori Wallace, Kristina Kligys, Sofie Berg, Xiaomei Liao, Qing Zhou, Jasmina Kalabic, Brian Feagan, Remo Panaccione. Maintenance Risankizumab Sustains Induction Response in Patients with Crohn's Disease in a Randomized Phase 3 Trial. J Crohns Colitis. 2024.03; 18(3); 416-423

29. Becker B, Wottawa F, Bakr M, Koncina E, Mayr L, Kugler J, Yang G, Windross SJ, Neises L, Mishra N, Harris D, Tran F, Welz L, Schwärzler J, Bánki Z, Stengel ST, Ito G, Krötz C, Coleman OI, Jaeger C, Haller D, Paludan SR, Blumberg R, Kaser A, Cicin-Sain L, Schreiber S, Adolph TE, Letellier E, Rosenstiel P, Meiser J, Aden K. Serine metabolism is crucial for cGAS-STING signaling and viral defense control in the gut. iScience. 2024.03; 27(3); 109173

30. Shun Fujiwara, Yoshihito Kano, Yasuhiro Maejima, Tomoyuki Fujioka, Kazuhiro Tamura, Susumu Kirimura, Satoshi Miyake, Ryuichi Okamoto. Clinical Response of Primary Malignant Pericardial Mesothelioma with Peritoneal Dissemination to Nivolumab. Intern Med. 2024.02; 63(4); 513-519

31. Yoshitaka Nishikawa, Takahiro Horimatsu, Shiro Oka, Takeshi Yamada, Keigo Mitsui, Hironori Yamamoto, Keiichi Takahashi, Akio Shiomi, Kinichi Hotta, Yoji Takeuchi, Toshio Kuwai, Fumio Ishida, Shin-Ei Kudo, Shoichi Saito, Masashi Ueno, Eiji Sunami, Tomoki Yamano, Michio Itabashi, Kazuo Ohtsuka, Yusuke Kinugasa, Takayuki Matsumoto, Tamotsu Sugai, Toshio Uraoka, Koichi Kurahara, Shigeki Yamaguchi, Tomohiro Kato, Masazumi Okajima, Hiroshi Kashida, Fumihiko Fujita, Hiroaki Ikematsu, Masaaki Ito, Motohiro Esaki, Masaya Kawai, Takashi Yao, Madoka Hamada, Keiji Koda, Yasumori Fukai, Koji Komori, Yusuke Saitoh, Yukihide Kanemitsu, Hiroyuki Takamaru, Kazutaka Yamada, Hiroaki Nozawa, Tetsuji Takayama, Kazutomo Togashi, Eiji Shinto, Takehiro Torisu, Akira Toyoshima, Naoki Ohmiya, Takeshi Kato, Eigo Otsuji, Shinji Nagata, Yojiro Hashiguchi, Kenichi Sugihara, Yoichi Ajioka, Shinji Tanaka. Outcomes of Metastatic and Unresectable Small Bowel Adenocarcinoma in Japan According to the Treatment Strategy: A Nationwide Observational Study. JCO Glob Oncol. 2024.02; 10; e2300392

32. Miwa Himuro, Yuka Wakabayashi, Tomomi Taguchi, Takehiro Katahira, Luka Suzuki, Hitoshi Iida, Takeshi Ogihara, Yuya Nishida, Shugo Sasaki, Francis C Lynn, Yuichi Hiraoka, Shigeru Oshima, Ryuichi Okamoto, Yoshio Fujitani, Hirotaka Watada, Takeshi Miyatsuka. Novel time-resolved reporter mouse reveals spatial and transcriptional heterogeneity during alpha cell differentiation. Diabetologia. 2024.01; 67(1); 156-169

33. Ami Kawamoto, Kento Takenaka, Shuji Hibiya, Yoshio Kitazume, Hiromichi Shimizu, Toshimitsu Fujii, Eiko Saito, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. Combination of leucine-rich alpha-2 glycoprotein and fecal markers detect Crohn's disease activity confirmed by balloon-assisted enteroscopy. Intest Res. 2024.01; 22(1); 65-74

34. Xiang Gao, Toshimitsu Fujii, Byong Duk Ye, Jen-Wei Chou, Ken Sugimoto, Qian Cao, Kristina Kligys, Kaoru Murakoshi, Dennis Teng, Yafei Zhang, Hiroshi Nakase. Efficacy and safety of risankizumab for Crohn's disease in patients from Asian countries: a post hoc subanalysis of the global phase 3 ADVANCE, MOTIVATE, and FORTIFY studies. J Gastroenterol Hepatol. 2024.01; 39(1); 55-65

35. Yuki Yonemoto, Yasuhiro Nemoto, Ryo Morikawa, Nana Shibayama, Shigeru Oshima, Takashi Nagaishi, Tomohiro Mizutani, Go Ito, Satoru Fujii, Ryuichi Okamoto. T cell subsets were increased in the small intestinal intraepithelial lymphocytes of aged mice. Front Immunol. 2024.01; 15; 1340048

36. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Seishin Azuma, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Keiya Watakabe, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Marie Takahashi, Tomoyuki Fujioka, Mitsuhiro Kishino, Tatsuhiko Anzai, Sei Kakinuma, Mina Nakagawa, Ryuichi Okamoto. Analysis of prognosis and background liver disease in non-advanced hepatocellular carcinoma in two decades. PLoS One. 2024; 19(3); e0297882

37. Masanori Kobayashi, Hiromune Katsuda, Aya Maekawa, Keiichi Akahoshi, Ryosuke Watanabe, Yuko Kinowaki, Hisaaki Nishimura, Takeo Fujiwara, Minoru Tanabe, Ryuichi Okamoto. Development of an intraductal papillary mucinous neoplasm malignancy prediction scoring system. PLoS One. 2024; 19(10); e0312234

1. 上船　史弥、桐野　桜、油井　史郎. 腸オルガノイドによる大腸デザイニング 月刊『細胞』. 2024.10; 56(11); 37-40

[書籍等出版物]

1. 岡本隆一. Medical Practice「特集 炎症性腸疾患 躍進の時代を迎えた炎症性腸疾患診療」_特集編集. 2024.11
2. 根本 泰宏. Lab.Scope. 消化器病学サイエンス vol.8 no.3. 2024.09
3. 小林 正典. 動画で学ぶ胆膵内視鏡—なぜ君はできない？ 超絶技巧を伝授. 2024.05
4. 金子 俊. 肝生検ガイダンス. 2024.05
5. 根本　泰宏. 内科診断学. 医学書院, 2024.03

[総説]

1. Toru Kanno, Kazuo Otsuka, Ryoichi Saito, Katsuhiro Ito, Shigeki Koterazawa, Shinya Somiya, Takao Haitani, Yoshihito Higashi, Hitoshi Yamada. Minimally invasive total pelvic exenteration for symptomatic locally advanced prostate cancer with rectal invasion: Indications and technical considerations. Asian J Endosc Surg. 2024.04; 17(2); e13290

1. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 小腸疾患に対する最新の内視鏡臨床、バルーン内視鏡を用いたクローン病モニタリング 臨牀消化器内科. 2024.11; 39(12); 1529-1536
2. 竹中 健人. 特集：炎症性腸疾患_内視鏡による評価 · 診断 · 治療 Medical Practice. 2024.11; 41(11); 1686-1689
3. 水谷 知裕. 特集：炎症性腸疾患_病態における腸上皮の役割 Medical Practice. 2024.11; 41(11); 1662-1666
4. 清水 寛路. 特集：炎症性腸疾患_潰瘍性大腸炎の内科治療 Medical Practice. 2024.11; 41(11); 1724-1729
5. 田村 皓子, 岡本 隆一. 特集：炎症性腸疾患_5-ASA 不耐と診断し、ステロイドや分子標的薬の導入を回避し得た潰瘍性大腸炎の一例 Medical Practice. 2024.11; 41(11); 1748-1751
6. 小室 一成, 長沼 誠, 鈴木 康夫, 岡本 隆一. 【炎症性腸疾患 躍進の時代を迎えた炎症性腸疾患診療】躍進の時代における炎症性腸疾患診療の実際と課題 Medical Practice. 2024.11; 41(11); 1614-1625
7. 大塚 和朗, 小形 典之, 竹中 健人. 【大腸の炎症を内視鏡で診る】潰瘍性大腸炎の内視鏡診療 AI を用いた潰瘍性大腸炎の内視鏡画像評価 消化器内視鏡. 2024.11; 36(11); 1523-1525
8. 前田 康晴, 工藤 進英, 小形 典之, 高林 馨, 竹中 健人, 小原 淳, 黒木 貴典, 瀧島 和美, 小川 悠史, 若村 邦彦, 林 武雅, 馬場 俊之, 根本 哲生, 緒方 晴彦, 大塚 和朗, 三澤 将史. 【炎症性腸疾患 2024】炎症性腸疾患診断 · 活動性評価における新たな取り組み AI の応用 胃と腸. 2024.10; 59(10); 1581-1585

9. 大塚 和朗. 【薬剤性消化管障害】NSAIDs· アスピリンによる小腸 · 大腸粘膜障害 日本消化器病学会雑誌. 2024.10; 121(10); 801-806

10. 根本　泰宏. Lab Scope 消化器病学サイエンス. 2024.09;

11. 岡本 隆一. 【今この研究が面白い!】(第 6 章) 消化管 炎症性腸疾患 オルガノイドシステムを利用した難治性炎症性腸疾患の再生医療 内科. 2024.09; 134(3); 586-589

12. 上船　史弥、桐野　桜、油井　史郎. 腸オルガノイドによる大腸デザイニング 月刊『細胞』. 2024.08; 56(9); 47-56

13. 三好 正人, 朝比奈 靖浩. 【今推しの肝胆膵研究手法と疾患モデル】新規モデルによる肝胆膵研究 iPS 細胞を用いた肝疾患モデルの開発 肝胆膵. 2024.08; 89(2); 215-221

14. 井上 忠彦, 永石 宇司. 炎症性腸疾患モデルにおける炎症性発癌機構の解析 BIO Clinica . 2024.07; 39(8); 85-89

15. 松本 主之, 久松 理一, 江崎 幹宏, 大森 鉄平, 櫻庭 裕丈, 新崎 信一郎, 杉本 健, 竹中 健人, 長沼 誠, 馬場 重樹, 久部 高司, 平岡 佐規子, 藤谷 幹浩, 松浦 稔, 梁井 俊一, 渡辺 憲治, 緒方 晴彦, 安藤 朗, 仲瀬 裕志, 大塚 和朗, 平井 郁仁, 藤城 光弘, 五十嵐 良典, 田中 信治, 日本消化器内視鏡学会, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 (久松班). 炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン Gastroenterological Endoscopy. 2024.06; 66(6); 1387-1426

16. 福田 将義, 早川 優香, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 【十二指腸 · 小腸疾患アトラス】腫瘍, 腫瘍様病変 粘膜下腫瘍/粘膜下腫瘍様病変 脂肪腫 消化器内視鏡. 2024.04; 36(4); 500-501

17. 大塚 和朗, 山本 浩平. 【十二指腸 · 小腸疾患アトラス】腫瘍, 腫瘍様病変 消化管ポリポーシスと類似ポリープ Peutz-Jeghers 型ポリープ 消化器内視鏡. 2024.04; 36(4); 542-543

18. 小形 典之, 大塚 和朗, 工藤 進英. 【十二指腸 · 小腸疾患アトラス】その他 憩室, 先天性形成不全 Meckel 憩室 消化器内視鏡. 2024.04; 36(4); 668-669

19. 大塚 和朗. 【消化管疾患の分類 2024】小腸 · 大腸 小腸 CEST 胃と腸. 2024.04; 59(4); 594-595

20. 岡本 隆一, 水谷 知裕, 藤井 悟, 清水 寛路. 特集「多角化する IBD 診療の最適化に向けて」炎症性腸疾患と再生医療 Medical Science Digest. 2024.03; 50(3);

21. 岡本 隆一, 水谷 知裕, 清水 寛路. 【オルガノイドがもたらすライフサイエンス革命　あなたの研究に、どう使う?進化と深化を生む未来型研究 30 選】(第 3 章) オルガノイド生命医科学研究が生み出す新領域の萌芽 オルガノイドを利用した消化器領域の再生医療の開発 実験医学. 2024.03; 42(5); 826-831

22. 清水 寛路, 水谷 知裕, 岡本 隆一. 【感染症を鑑別したあとは？ 非感染性腸炎を見極める！】炎症性腸疾患治療の最新情報 大腸オルガノイド移植療法の実際 診断と治療. 2024.03; 112(3); 369-372

23. 岡本 隆一, 水谷 知裕, 藤井 悟, 清水 寛路. 患者まで届いている再生医療　潰瘍性大腸炎に対する自家腸上皮オルガノイド移植 再生医療. 2024.02; 23(1); 038-043

[講演 · 口頭発表等]

1. Sakura Kirino, Fumiya Uefune, Kensuke Miyake, Ryuichi Okamoto, Shiro Yui. INTEGRATION OF SPATIAL AND DEVELOPMENTAL PLASTICITY FORMS A DYNAMIC REPAIR RESPONSE IN MOUSEAND HUMAN INTESTINAL EPITHELIUM. ISSCR_SCSS SINGAPORE INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2024.12.12 Singapore

2. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Tsuchiya Jun, Taro Shimizu, Keiya Watakabe, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto and Yasuhiro Asahina. High GGT levels is a risk factor for HCC development having potential to reflect mitochondrial dysfunction after HCV eradication. AASLD2024 2024.11.15

3. Keisuke Hata, Won Moon, Ami Kawamoto. JSIBD-KASID Joint Symposium_司会. The 15th Annual Meeting of Japanese Society for Inflammatory Bowel Disease 2024.11.15 Tokyo_Japan

4. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Yasuhiro Asahina. Risk factors for HCC and prognosis after SVR to construct an effective post-treatment surveillance system. JDDW2024 2024.11.01

5. Ami Kawamoto, Toshimitsu Fujii, Ryuichi Okamoto. Serum leucine-rich alpha-2 glycoprotein is an accurate marker for endoscopic and histological healing in ulcerative colitis. JDDW2024 2024.11.01 Kobe_Japan

6. Yuki Yonemoto, Yasuhiro Nemoto, Ryuichi Okamoto. Single cell analysis revealed that two distinct, unique CD4+ T cell subsets were increased in the small intestinal intraepithelial lymphocytes of aged mice. JDDW2024 2024.10.31 Kobe_Japan

7. Shiro Yui, Sakura Kirino, Uefune Fumiya, Nobuhiko Ogasawara, Sakurako Kobayashi, Go Ito, Yoshihito Kano, Ryuichi Okamoto. Modeling the process of YAP modulation in physiology and cancer. Cell Symposium: Engineering development and disease in organoids 2024.08.20 San Diego, USA

8. Shuji Hibiya, Kento Takenaka, Ryuichi Okamoto. Comparison of the efficacy of biologics for intestinal stricture in Crohn's disease. The 107th Congress of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society 2024.05.31 Tokyo_Japan

9. Ami Kawamoto, Kento Takenaka, Ryuichi Okamoto. Efficacy of biomarkers in predicting prognosis of Crohn's disease patients with small bowel disease. The 107th Congress of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society 2024.05.30 Tokyo_Japan

10. Ryuichi Okamoto. Regenerative medicine for inflammatory bowel disease.. The 21st Stem Cell Research Symposium 2024.05.24 Awaji Japan

11. K Matsuoka, S Motoya, T Yamamoto, M Matsuura, T Fujii, S Shinzaki, Y Mikami, S Arai, J Oshima, Y Endo, H Yuasa, M Hoshi, K Sato, T Hisamatsu. Post-marketing surveillance of tofacitinib in patients with ulcerative colitis in Japan: a final report of safety and effectiveness data. DDW2024 2024.05.19 Walter E. Washington Convention Center_ Washington, D.C.

12. Hiroshi Nakase, Toshimitsu Fujii, Tadakazu Hisamatsu, Yasuo Suzuki, Mamoru Watanabe, Yoko Uchikawa, Shoichiro Goto, Go Fujimoto, Changliang Zhang, Toshifumi Hibi. Ozanimod as induction and maintenance therapy for ulcerative colitis: a randomized, double-blind, placebo-controlled study in Japan (J-True North). DDW2024 2024.05.19 Walter E. Washington Convention Center_ Washington, D.C.

13. Ryuichi Okamoto. Clinical Application of Patient-derived Organoids. Organoid Developer Conference 2024 2024.04.25 Korea

14. Shun Kaneko. The Progress of Internal Medicine for Intrahepatic Cholangiocarcinoma. The 33rd Annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver 2024.03.29 Kyoto International Conference Hall, Kyoto

15. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto and Yasuhiro Asahina. SVR 後の肝癌、生存とメタボ因子に関する解析. APASL 2024 Kyoto 2024.03.28

16. Katsuyoshi Matsuoka, Satoshi Motoya, Takayuki Yamamoto, Minoru Matsuura, Toshimitsu Fujii, Shinichiro Shinzaki, Yohei Mikami, Shoko Arai, Junichi Oshima, Yutaka Endo, Hirotoshi Yuasa, Masato Hoshi, Keiko Sato, Tadakazu Hisamatsu. Post-marketing surveillance of tofacitinib in patients with ulcerative colitis in Japan: a final report of effectiveness and safety data. 19th Congress of ECCO 2024.02.23 Stockholmsmässan_Stockholm

17. N.Takatsu, T.Yamamoto, H.Nakase, S.Shinzaki, K.Watanabe, T.Fujii, R.Okamoto, K.Matsuoka, A.Yamada, R.Kunisaki, M.Matsuura, H.Shiga, S.Bamba, Y.Mikami, T.Shimoyama, S.Motoya, T.Torisu, T.Kobayashi, N.Ohmiya, M.Saruta, S.Yoshigoe, Y.Murata, T.Hisamatsu. Clinical features and surgical necessity rate of fistulisingperianal disease in newly diagnosed patients with Crohn's disease: Interim analysis of inception cohort registry study of patients with Crohn's disease (iCREST-CD). 19th Congress of ECCO 2024.02.23 Stockholmsmässan_Stockholm

18. Katsuyoshi Matsuoka, Hiroshi Nakase, Toshimitsu Fujii, Tadakazu Hisamatsu, Yasuo Suzuki, Mamoru Watanabe, Yoko Uchikawa, Shoichiro Goto, Go Fujimoto, Changliang Zhang, Toshifumi Hibi. Ozanimod as a once-daily oral therapy for Japanese patients with ulcerative colitis: results from the induction period of a phase 2/3 study (J-True North). 19th Congress of ECCO 2024.02.23 Stockholmsmässan_Stockholm

19. Inoue T, Fushimi M, Yamada D, Watabe T, Watanabe M, Okamoto R, Nagaishi T. Downregulated apelin expression in T cells in the setting of chronic colitis. ECCO 2024.02.23 Stockholmsmässan_Stockholm

20. Inoue T, Fushimi M, Tsugawa N, Yamada D, Watabe T, Watanabe M, Okamoto R, Adachi T, Blumberg RS, Nagaishi T. B cell receptor signaling-mediated activation in lymphoid tissues is regulated by the long isoform of CEACAM1. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.19 Chiba_Japan

21. Fushimi M, Inoue T, Yamada D, Kojima Y, Hosoya A, Watabe T, Watanabe M, Okamoto R, Nagaishi T. APL downregulation in T cells in an animal model of chronic colitis. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.19 Chiba_Japan

1. 岡本 隆一. 炎症性腸疾患と再生医療. 第 23 回 日本再生医療学会 2024.03.21 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

2. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病の治療後の内視鏡評価目標. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.24 シェーンバッハ · サボー

3. 片岡 洋望, 岡本 隆一. プレナリーセッション 消化管_座長. 第 9 回 Gastro-PLUS 2024.12.21 東京コンファレンスセンター · 品川

4. 岡本 隆一. ランチョンセミナー 7_司会. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.15 シェーンバッハ · サボー

5. 米本 有輝, 福田 将義, 早川 優香, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 局所切除可能な大腸神経内分泌腫瘍の治療戦略. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー

6. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病に対する生物学的製剤治療後の内視鏡評価目標. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー

7. 大塚 和朗, 加藤 元彦. 「十二指腸 · 小腸腫瘍に対する安全な切除法ー内視鏡治療から LECS までー」_司会. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー

8. 河島 二郎, 工藤 進英, 小形 典之, 前田 康晴, 大塚 和朗. 小腸腫瘍. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー

9. 三角 宜嗣, 冨岡 明, 福田 将義, 野中 康一. ハンズオンセミナー「上部」_インストラクター. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー

10. 高松 毅志, 大科 枝里, 勝田 景統, 申 貴広, 小林 正典, 金子 俊, 福田 将義, 村川 美也子, 大塚 和郎, 岡本 隆一. 内視鏡的乳頭括約筋切開術後に前上膵十二指腸動脈瘤破裂をきたした正中弓状靱帯症候群の 1 例. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー

11. 秋元 賢介, 田村 皓子, 竹中 健人, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 清水 寛路, 藤井 俊光, 小林 正典, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 加藤 祐己, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎の定期大腸内視鏡検査で回腸結腸に多発潰瘍を認めた一例. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー

12. 土屋 麻央, 永山 和宜, 金子 朋浩, 大坪 加奈, 深見 裕一, 唐鎌 優子, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 脇屋 緑. ビタミン A サプリメントの大量摂取による薬物性肝障害を経頚静脈的肝生検により診断に至った 1 例. 第 45 回日本肝臓学会東部会 2024.12.07 仙台国際センター

13. 四柳 宏, 坂本 直哉, 朝比奈 靖浩. シンポジウム 3 ウイルス性肝炎：展望と課題_司会. 第 45 回日本肝臓学会東部会 2024.12.06 仙台国際センター

14. 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩. C 型慢性肝疾患における γ GTP と SVR 後肝発癌リスクの関連. 第 45 回日本肝臓学会東部会 2024.12.06 仙台国際センター

15. 延澤 翼, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 慢性肝疾患の予後予測における Proton density fat fraction（PDFF）の意義. 第 45 回日本肝臓学会東部会 2024.12.06 仙台国際センター

16. 竹中 健人, 杉本 真也. 一般演題 12（口演）_座長. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京マリオットホテル

17. 穂苅 量太, 岡本 隆一. JSIBD 研究助成成果報告_司会. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16

18. 河本 亜美. クローン病患者における生物学的製剤による部位別治療効果の解析. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京マリオットホテル

19. 岡本 隆一. ランチョンセミナー 5：”Rethink from statistics and experience”_司会. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京マリオットホテル

20. 根本 泰宏, 柴山 奈々, 内田 仁, 森川 亮, 岡本 隆一, 米本 有輝. 蛍光色素変換モデルを用いた腸炎惹起性メモリー T 細胞 trafficking の定量化と制御因子の解明. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京マリオットホテル

21. 田村 皓子, 清水 寛路, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 藤井 俊光, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対するトファシチニブとウパダシチニブの有効性および安全性の比較検討. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京マリオットホテル

22. 武藤 智弘, 伊藤 剛, 勝田 景統, 石堂 舜, 山本 くらら, 藤井 悟, 水谷 知裕, 根本 泰宏, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎におけるパネート細胞化生の役割. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.15 東京マリオットホテル

23. 桂田 武彦, 藤井 俊光. 一般演題 2（口演）_座長. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.15 東京マリオットホテル

24. 森川 亮, 藤井 俊光, 田村 皓子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 大塚 和朗, 岡本 隆一. ウステキヌマブとリサンキズマブのクローン病に対する有効性及び安全性の検討. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.15 東京マリオットホテル

25. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 清水 寛路, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. カロテグラストの潰瘍性大腸炎に対する短期中期有効性と biologics との dual therapy. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.15 東京マリオットホテル

26. 久松 理一, 岡本 隆一. シンポジウム 11「炎症性腸疾患の病態解明に向けた研究の展開」_司会. JDDW2024 2024.11.02 神戸コンベンションセンター

27. 根本 泰宏, 米本 有輝, 岡本 隆一. CD4-CD8 $\alpha\beta$-TCR $\alpha\beta$+T 細胞はアナジー誘導性抗原提示細胞として腸管免疫の恒常性を維持し，クローン病の病態に関与する. JDDW2024 2024.11.02 神戸コンベンションセンター

28. 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病小腸狭窄に対する予防的内視鏡的拡張術の有効性の検討. JDDW2024 2024.11.01 神戸コンベンションセンター

29. 延澤 翼, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. ウイルス性慢性肝疾患における肝脂肪定量の意義. JDDW2024 2024.11.01 神戸コンベンションセンター

30. 大塚 和朗. ランチョンセミナー 52「潰瘍性大腸炎の長期寛解維持のための治療目標〜Disease Clearance の意義を含めて〜」_司会. JDDW2024 2024.11.01 神戸コンベンションセンター

31. 朝比奈 靖浩, 鈴木 文孝. シンポジウム 1「ウイルス肝炎診療 A to E の最新知見」_司会. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

32. 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩. C 型慢性肝疾患における SVR 後肝発癌リスク因子と代謝関連因子の関連. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

33. 持田 知洋, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. 細胞間相互作用の解析を目的としたヒト iPS 由来肝細胞及び肝星細胞による共培養オルガノイドの開発. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

34. 長沼 誠, 大塚 和朗. パネルディスカッション 1「内視鏡を活用した炎症性腸疾患の T2T」_司会. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

35. 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病の治療後の内視鏡評価目標. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

36. 土屋 淳, 三好 正人, 朝比奈 靖浩. KMT2B 領域への B 型肝炎ウイルスゲノム挿入による肝発癌のメカニズムの解析. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

37. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴. TNFAIP3 を介した肝星細胞からのケモカイン発現制御機構の解析. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

38. 森川 亮, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. risankizumab のクローン病に対する短期/長期有効性及び安全性のリアルワールドデータを用いた検討. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

39. 藤井 俊光. デジタルポスターセッション消 025「大腸（潰瘍性大腸炎）5」_座長. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

40. 田村 皓子, 清水 寛路, 藤井 俊光, 小林 桜子, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対する JAK 阻害剤 3 剤の有効性，安全性比較. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

41. 藤井 俊光, 仲瀬 裕志, 久松 理一, 松岡 克善, 猿田 雅之, 内川 葉子, 藤本 豪, 張 長亮, 鳥山 和宏, 日比 紀文. 日本人潰瘍性大腸炎患者に対するオザニモド の 1 日 1 回投与による寛解導入および維持療法：第 2/3 相試験（J-True North）における生物学的製剤治療歴の有無によるサブグループ解析. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

42. 米本 有輝, 早川 優香, 福田 将義, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 当院における大腸神経内分泌腫瘍のリンパ節転移リスク因子の検討. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

43. 朝比奈 靖浩. デジタルポスターセッション肝 001「B 型肝炎（基礎 · 診断）」_座長. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

44. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 進行肝細胞癌に対する複合免疫療法の治療効果と予後因子に関する検討. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

45. 大塚 和朗. 第 62 回日本小腸学会学術集会_会長 . 2024.10.19 大手町サンケイプラザ

46. 持田 知洋, 三好 正人, 土屋 淳, 志水 太郎, 渡壁 慶也, 稲田 賢人, 金子 俊, 北畑 富貴子, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 柿沼 晴. ヒト iPS 細胞由来肝細胞及び肝星細胞による共培養オルガノイドの開発. 第 31 回肝細胞研究会 2024.07.27 東京大学弥生講堂

47. 油井　史郎. 時相調整による腸上皮細胞の運命転換機構の解明と応用. 自発的融合の場＊ライフの狭間 2024.07.20 大阪

48. 油井　史郎. ニッチと細胞の可塑性 - 正常から癌まで. 第 10 回細胞凝集研究会 2024.07.12 佐賀

49. 水谷 知裕. 上皮細胞サーキュレーションによる疾患制御イノベーション. JST 創発的研究支援事業第 3 回「融合の場」 2024.07.03 京都大学百周年時計台記念館

50. 油井　史郎. 時相調整による腸上皮細胞の運命転換機構の解明と応用. 創発課題_融合の場 2024.07.02 京都

51. Shiro Yui. Fetal-like reprogramming is the key to understand the heterogeneity of colorectal cancer . 第 21 回幹細胞シンポジウム 2024.06.25 淡路島

52. 勝田 景統, 小林 正典, 石堂 舜, 大塚 和朗, 岡本 隆一. Braun 吻合完全閉鎖に対して内視鏡的再開通を行った 1 例. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.16 シェーンバッハ · サボー

53. 石堂 舜, 小林 正典, 勝田 景統, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 新型細径胆道鏡を用いた残石確認方法. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー

54. 大塚 和朗, 久松 理一. 主題 4「IBD 診療における内視鏡診断 · 治療の役割」_司会. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー

55. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病狭窄性病変に対する効果. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー

56. 福田 将義. ハンズオンセミナー「大腸挿入＋大腸 EMR」_インストラクター. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15

57. 中村 遼太, 早川 優香, 福田 将義, 齊藤 一真, 金子 俊, 小林 正典, 村川 美也子, 小山 高敏, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. Polypectomy の周術期に慎重な管理を要した第XI因子欠損症の一例. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー

58. 根本 淳子, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 河本 亜美, 村川 美也子, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 奥野 圭祐, 山本 浩平, 加藤 祐己, 國枝 純子, 明石 巧, 岡本 隆一. 治療終了 10 年後に再発した転移性小腸腫瘍の一例. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー

59. 齊藤 詠子. 研修医セッション「大腸」_座長. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー

60. 早川 優香, 福田 将義, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎罹患粘膜に発生した腫瘍の術前生検診断と最終病理診断の対比. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.06.01 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

61. 中村 遼太, 早川 優香, 福田 将義, 齊藤 一真, 金子 俊, 小林 正典, 村川 美也子, 小山 高敏, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. Polypectomy の周術期に慎重な管理を要した第 XI 因子欠損症の一例. Progress of Digestive Endoscopy 2024.06.01

62. 根本 淳子, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 河本 亜美, 村川 美也子, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 奥野 圭祐, 山本 浩平, 加藤 祐己, 國枝 純子, 明石 巧, 岡本 隆一. 治療終了 10 年後に再発した転移性小腸腫瘍の一例. Progress of Digestive Endoscopy 2024.06.01

63. 石堂 舜, 小林 正典, 岡本 隆一. 超音波内視鏡教育における当学の工夫. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.05.31 グランドプリンスホテル新高輪

64. 竹中 健人. ハンズオンセミナー 3 ダブルバルーン内視鏡. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.05.31 グランドプリンスホテル新高輪, 国際館パミール

65. Shiro Yui. Fetal-like reprogramming is the key to understand the heterogeneity of colorectal cancer. 第 21 回幹細胞シンポジウム 2024.05.25 淡路島

66. 土屋 淳, 三好 正人, 柿沼 晴, 志水 太郎, 北畑 富貴子, 金子 俊, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. KMT2B 領域への B 型肝炎ウイルスゲノム挿入による発癌プロセスの解析. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.11 アスティとくしま

67. 田村 皓子, 清水 寛路, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対するトファシチニブとウパダシチニブの有効性，安全性比較. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

68. 志水 太郎, 三好 正人, 柿沼 晴, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆. ヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の開発と形質解析. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

69. 藤井 悟, 水谷 知裕, 清水 寛路, 岡本 隆一. クローン病小腸病変に対する自家移植可能な小腸上皮オルガノイド培養法の開発. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

70. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. CRP 上昇進行肝細胞癌の特徴と肝癌薬物療法に関する検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

71. 井上 忠彦, 山田 大貴, 津川 直也, 渡辺 守, 岡本 隆一, 永石 宇司. T 細胞の APL 発現抑制は IBD モデルを促進する. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 徳島文理大学 むらさきホール

72. 田中 将平, 藤井 俊光, 山崎 雄大, 鈴木 圭人, 内原 直樹, 田中 雄紀, 宮本 遥, 山田 倫子, 慶徳 大誠, 岡田 理沙, 樋口 麻友, 高浦 健太, 前屋舗 千明, 玉城 信治, 安井 豊, 高橋 有香, 土谷 薫, 中西 裕之, 黒崎 雅之, 泉 並木. 潰瘍性大腸炎の寛解維持療法における 5-ASA 製剤の減量と再燃リスクの検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

73. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎に対するカロテグラストの Real-World Experience と難治例における biologics との dual therapy の試み. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

74. 前屋舗 千明, 内原 直樹, 鈴木 圭人, 田中 雄紀, 宮本 遥, 山田 倫子, 慶徳 大誠, 岡田 理沙, 樋口 麻友, 高浦 健太, 田中 将平, 玉城 信治, 安井 豊, 藤井 俊光, 土谷 薫, 中西 裕之, 黒崎 雅之, 泉 並木. Crohn 病の病勢および Transmural healing を反映するマーカーの検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

75. 山本 博徳, 大塚 和朗. シンポジウム 9 小腸腫瘍の内視鏡診断 · 治療の最前線_司会. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 徳島文理大学

76. 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 森川 亮, 河本 亜美, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎患者における 5-ASA 不耐症の臨床検査所見の検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10

77. 朝比奈 靖浩. 肝 プレナリー_座長. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 徳島文理大学 むらさきホール

78. 永石 宇司, 井上 忠彦, 山田 大貴, 渡辺 守, 岡本 隆一. IgA による小腸粘膜の防御と腸内細菌叢の制御. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 アスティとくしま

79. 岡本 隆一, 佐藤 俊朗. ワークショップ 4 オルガノイドが切り拓く消化器病研究新時代_司会. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 アスティとくしま

80. 加藤 周, 高橋 純一, 水谷 知裕, 岡本 隆一. ヒト iPS 細胞由来複合型腸オルガノイドの創出. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 アスティとくしま

81. 竹中 健人. 臨床研究助成成果報告 2. クローン病に対する生物学的製剤による小腸粘膜治癒検討（SEBIO study）. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 アスティとくしま

82. 河本 亜美, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病の腸管狭窄に対する生物学的製剤の影響の比較. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 アスティとくしま

83. 森川 亮, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. risankizumab のクローン病に対する有効性及び安全性のリアルワールドデータに基づく検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 徳島文理大学 むらさきホール

84. 藤井 俊光, 佐藤 真弘, 新山 勇人, 仲瀬 裕志. 中等症から重症の活動性クローン病の東アジア人患者における寛解導入療法試験のウパダシチニブの効果と安全性. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09

85. 竹中 健人, 清水 寛路, 田村 皓子, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 藤井 俊光, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病の狭窄の変化. 日本消化器病学会関東支部第 379 回例会 2024.04.27 海運クラブ

86. 日比谷 秀爾. 一般演題 (消化管 3)_座長. 日本消化器病学会 関東支部第 379 回例会 2024.04.27 海運クラブ

87. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対するカロテグラストと biologics の dual therapy の試み. 日本消化器病学会関東支部 第 379 回例会 2024.04.27 海運クラブ

88. 藤井俊光. クローン病診療と新たなエビデンス. 日本消化器病学会関東支部 第 379 回例会 2024.04.27 海運クラブ

89. 村川 美也子, 中川 美奈, 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 若手医師の活躍とワークライフバランス促進に向けたキャリア支援の取り組み. 肝臓 2024.04.01

90. 金子 俊, 村川 美也子, 朝比奈 靖浩. 高齢社会における肝疾患の問題点　高齢肝細胞癌症例に対する 1st line 薬物療法の実情と予後に寄与する因子の検討. 肝臓 2024.04.01

91. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎におけるカロテグラストと biologics の dual therapy. 第 20 回日本消化管学会総会学術集会 2024.02.10 沖縄コンベンションセンター

92. 田村 皓子, 河本 亜美, 竹中 健人, 小林 桜子, 森川 亮, 日比谷 秀爾, 清水 寛路, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病の小腸病変モニタリングにおけるバイオマーカーの有用性. 第 20 回日本消化管学会総会学術集会 2024.02.09 沖縄コンベンションセンター

93. 金子 俊, 村川 美也子, 上山 俊介, 前屋舗 千明, 渡辺 秀樹, 北詰 晶子, 佐藤 綾子, 内館 梢, 渡部 太郎, 赤星 径一, 田邊 稔, 三好 正人, 北畑 富貴子, 中川 美奈, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. CRP 上昇進行肝細胞癌の特徴とアテゾリズマブベバシズマブ併用療法に関する検討. 第 29 回日本肝がん分子標的治療研究会 2024.01.27

[その他業績]

1. 「 老化したマウスの腸管において増加する特徴的な異なる 2 つの T 細胞集団を同定 」 —　腸管の免疫老化機構解明への第一歩　—, 2024 年 02 月
Frontiers in Immunology

2. 「 老化したマウスの腸管において増加する特徴的な異なる 2 つの T 細胞集団を同定 」 —　腸管の免疫老化機構解明への第一歩　—, 2024 年 02 月
Frontiers in Immunology

3. 「　大腸癌の進展に関わる非ゲノム型 YAP 活性化機構の同定　」 —　腫瘍微小環境を再定義し、癌を治る病気にする—, 2024 年 03 月
iScience
4. 日本炎症性腸疾患協会「ＩＢＤニュース vol.81」５ ASA 不耐とは？ , 2024 年 04 月
5. 「 肝星細胞による炎症機構の解明と肝硬変の治療へとつながる発見 」 —　慢性肝炎、肝硬変の治療薬に期待　—, 2024 年 07 月
The FASEB　Journal
6. 「 肝星細胞による炎症機構の解明と肝硬変の治療へとつながる発見 」 —　慢性肝炎、肝硬変の治療薬に期待　—, 2024 年 07 月
The FASEB　Journal
7. 「 肝星細胞による炎症機構の解明と肝硬変の治療へとつながる発見 」 —　慢性肝炎、肝硬変の治療薬に期待　—, 2024 年 07 月
The FASEB　Journal
8. Finding new targets for blocking chronic hepatitis, 2024 年 08 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
9. Finding new targets for blocking chronic hepatitis, 2024 年 08 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
10. Finding new targets for blocking chronic hepatitis, 2024 年 08 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. 亜細亜大学 · 田中幹也さんの病状と治療について, TBS, 速報！ ドラフト会議２０２１ The 運命の 1 日, 2022 年 09 月 30 日 - 現在
2. 大学とそのキャンパスの紹介, 読売新聞社, 読売新聞, 2022 年 11 月 09 日 - 現在
3. 「潰瘍性大腸炎における「ミニ臓器」について」岡本 隆一, INCLUSIVE 株式会社, ZERONICHI, 2022 年 11 月 10 日 - 現在
4. コラム記事: プレスリリース「 肝星細胞による炎症機構の解明と肝硬変の治療へとつながる発見 」について, 日刊工業新聞社, 日刊工業新聞, 2024 年 07 月 08 日 - 現在
5. 炎症性腸疾患の病態解明に向けた研究の展開, メディカルトリビューン, メディカルトリビューンウェブおよび本紙, 2024 年 09 月 24 日 - 2024 年 11 月 05 日

心臓血管外科学分野

Department of Cardiovascular Surgery

教授　　藤田 知之
担当教授　工藤 敏文
准教授　　長岡 英気
講師　　川畑 拓也、藤原 立樹
助教　　大石 清寿、山本 洋平、鍋島 惇也、田原 禎生、櫻井啓暢（～３月）
医員　　市野瀬 剛 (１０月～)、菊池 亨、風間 愛、和田 良樹、佃 和 樹、江部 里菜 (１１月～)、
　　卓馬 紳之介、内山 大樹 (～９月)
検査技師　加賀山 知子

(１)　研究活動

循環器病の外科治療の成績を一層安定、向上させるため、1）冠動脈バイパス術の安全性と質の向上を目的とした臨床評価、2）心臓手術ロボットの研究開発、3)　弁膜症に対する低侵襲手術の術式開発、4）重症心不全・心臓移植の研究、5）重症不全心に対する心機能改善を目的とした再生医療の研究、などを研究課題として、本学工学院および産業技術総合研究所などの外部研究機関と医工連携共同研究体制にて研究に取り組んでいる。

1)冠動脈バイパス術の安全性と質の向上を目的とした臨床評価
(1) 当教室において施行された冠動脈バイパス症例の長期遠隔予後評価
(2) 手術用デバイスの開発と基礎実験および臨床研究

2)心臓手術ロボットの研究開発
(1) 力覚を有する次世代ロボット
(2) 外科医の感覚を数値化

3)弁膜症に対する低侵襲手術の術式開発
(1) 弁形成術を低侵襲で安全に行うための工夫と対策
(2) MICSやRobot手術の臨床研究

4)重症心不全・心臓移植の研究
(1) 体外心臓灌流システムの開発
(2) 心筋保護の研究
(3) 人工知能を備えたECMOおよび人工心臓の開発

5)重症不全心に対する心機能改善を目的とした再生医療の研究
(1) 心筋再生医療
(2) 補助人工心臓と再生医療の集学的治療

(２)　教育活動

学生教育は、心臓・血管の手術症例の術前準備・手術・術後管理を主治医チームと共に体験する事により、循環器系に関する臨床解剖、臨床生理、臨床薬理等の基礎的知識の理解と臨床外科治療への理解を深められるように指導している。卒後教育に関しては、初期研修医には、心臓血管外科治療を通して、循環器疾患の理解を深め、循

環器疾患患者への基本的対応を経験してもらうとともに、基本的外科手技を経験してもらうように心掛けている。後期研修以降、心臓血管外科を専攻した場合は、心臓血管外科専門医制度に沿った臨床研修プログラムに従って研修を受けてもらっている。

(3) 臨床上の特色

近年、症例の重症化 · 高齢化に伴いハイリスク症例が増加しており、当院では循環器内科や集中治療部、メディカルスタッフとの多職種で構成されるハートチームにて、治療の低侵襲化と安全性向上を目的とした工夫を行っている。同時に、従来は手術適応限界とされた重症心不全症例に対する新しい術式の開発と臨床応用を行っている。植込み型補助人工心臓認定施設であるため、補助人工心臓治療とともに各種循環呼吸補助デバイスを積極的に用いた大学病院ならではの先端的医療を行っている。ER との連携で心臓· 大血管の緊急手術も積極的に行っている。

(4) 研究業績

[原著]

1. Yamamoto K, Takeji Y, Taniguchi T, Morimoto T, Shirai S, Kitai T, Tabata H, Ohno N, Murai R, Osakada K, Murata K, Nakai M, Tsuneyoshi H, Tada T, Amano M, Watanabe S, Shiomi H, Watanabe H, Yoshikawa Y, Nishikawa R, Obayashi Y, Toyofuku M, Tatsushima S, Kanamori N, Miyake M, Nakayama H, Nagao K, Izuhara M, Nakatsuma K, Inoko M, Fujita T, Kimura M, Ishii M, Usami S, Nakazeki F, Togi K, Inuzuka Y, Ando K, Komiya T, Ono K, Minatoya K, Kimura T, CURRENT AS Registry-2 Investigators. Safety of Calcium Channel Blockers in Patients With Severe Aortic Stenosis and Hypertension. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2024.12;

2. Yanagino Y, Kainuma S, Kawamoto N, Tadokoro N, Kakuta T, Ikuta A, Tonai K, Fujita T, Fukushima S. Surgical explantation of an infected Lotus Edge valve: a case report. General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases. 2024.12; 3(1); 56

3. Tsukuda K, Yamamoto Y, Kazama A, Wada Y, Uchiyama H, Kikuchi T, Kudo T. Loeys-Dietz Syndrome Presenting with an Abdominal Aortic Aneurysm: A Case Report. Annals of vascular diseases. 2024.12; 17(4); 440-442

4. Uchiyama H, Kudo T, Yamaguchi T, Obana N, Watanabe K, Abe K, Miyazaki H, Toyofuku M, Nomura N, Akeda Y, Nakao R. Mucosal adjuvanticity and mucosal booster effect of colibactin-depleted probiotic Escherichia coli membrane vesicles. Human vaccines & immunotherapeutics. 2024.12; 20(1); 2337987

5. Tadokoro Naoki, Koyamoto Tetsuya, Tonai Kohei, Yoshida Yuki, Hirahsima Koudai, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Minami Kimito, Nishioka Hiroshi, Tsukamoto Yasumasa, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. The outcomes of a standardized protocol for extracorporeal mechanical circulatory support selection-left ventricular challenge protocol Journal of Artificial Organs. 2024.12; 27(4); 358-367

6. Yanagino Yusuke, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Tadokoro Naoki, Kakuta Takashi, Ikuta Ayumi, Tonai Kohei, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. Surgical explantation of an infected Lotus Edge valve: a case report General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases. 2024.12; 3; s44215-024

7. Hatakeyama Dai, Tanii Hina, Nishikawa Erina, Takahira Mizuki, Honjo Tsugumi, Ebisuda Nao, Abe Naoya, Shinohara Yasuo, Mitomo Shunsuke, Tsutsui Ayumi, Fujita Tomoyuki, Kuzuhara Takashi. Anacardic Acid Derivatives Isolated from Fungal Species Tyromyces fissilis as New Histone Acetyltransferase Inhibitors Biological & Pharmaceutical Bulletin. 2024.12; 47(12); 2076-2082

8. Eiki Nagaoka, Hirokuni Arai, Tomohiro Mizuno, Keiji Oi, Tatsuki Fujiwara, Kiyotoshi Oishi, Tomoyuki Fujita. Innovative Surgical Left Atrial Appendage Closure Technique: Early Experience of Inverted Spiral Closure Technique Innovations (Phila). 2024.11;

9. Tomi Y, Kinoshita T, Yura M, Sakamoto N, Fujita T, Tokunaga M, Kinugasa Y. Accuracy of the preoperative estimation of esophageal invasion length of adenocarcinoma of the esophagogastric junction and its discrepancy with the pathological measurement. Surgery today. 2024.11;

10. Obayashi Y, Miyake M, Takegami M, Amano M, Kitai T, Fujita T, Koyama T, Tanaka H, Ando K, Komiya T, Izumo M, Kawai H, Eishi K, Yoshida K, Kimura T, Nawada R, Sakamoto T, Shibata Y, Fukui T, Minatoya K, Tsujita K, Sakata Y, Fukuzawa M, Uehara K, Tamura T, Nishimura K, Furukawa Y, Izumi C, BPV-AF Registry Group. Bioprosthetic Valve Positions in Patients With Atrial Fibrillation Insights From the BPV-AF Registry. Circulation reports. 2024.11; 6(11);521-528

11. Iwasaki Y, Seguchi O, Ikura M, Arisato T, Hada T, Mochizuki H, Kuroda K, Nakajima S, Watanabe T, Tsukamoto Y, Yanase M, Yoshihara F, Ikeda Y, Hatakeyama K, Fukushima S, Fujita T, Fukushima N. BK polyomavirus nephropathy after heart transplantation: A case report. Journal of cardiology cases. 2024.11; 30(5); 143-146

12. Obayashi Y, Takeji Y, Taniguchi T, Morimoto T, Shirai S, KitaiT, Tabata H, Ohno N, Murai R, Osakada K, Murata K, Nakai M, Tsuneyoshi H, Tada T, Amano M,Watanabe S, Shiomi H, Watanabe H, Yoshikawa Y, Nishikawa R, Yamamoto K, Toyofuku M, Tatsushima S, Kanamori N, Miyake M, Nakayama H, Nagao K, Izuhara M, Nakatsuma K, Inoko M, Fujita T, Kimura M, Ishii M, Usami S, Nakazeki F, Togi K, Inuzuka Y, Ando K, Komiya T, Ono K, Minatoya K, Kimura T, CURRENT AS Registry-2 Investigators. Concomitant Mitral Regurgitation in Severe Aortic Stenosis- Insights From the CURRENT AS Registry-2. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2024.11; 88(12); 1996-2007

13. Suematsu Y, Morita H, Abe M, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Yano Y, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura SI. Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta-analysis. Hypertension research : official journal of the Japanese Society of Hypertension. 2024.11; 48(2); 720-732

14. Ono Y, Yajima S, Kainuma S, Kawamoto N, Tadokoro N, Fujita T, Fukushima S. Optimizing ring selection for secondary tricuspid regurgitation: the role of body size. European journal of cardio-thoracic surgery : official journal of the European Association for Cardio-thoracic Surgery. 2024.11; 66(5);

15. Morita H, Abe M, Suematsu Y, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura SI. Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials. Hypertension research : official journal of the Japanese Society of Hypertension. 2024.11; 48(2); 733-743

16. Obayashi Yuki, Miyake Makoto, Takegami Misa, Amano Masashi, Kitai Takeshi, Fujita Tomoyuki, Koyama Tadaaki, Tanaka Hidekazu, Ando Kenji, Komiya Tatsuhiko, Izumo Masaki, Kawai Hiroya, Eishi Kiyoyuki, Yoshida Kiyoshi, Kimura Takeshi, Nawada Ryuzo, Sakamoto Tomohiro, Shibata Yoshisato, Fukui Toshihiro, Minatoya Kenji, Tsujita Kenichi, Sakata Yasushi, Fukuzawa Masayuki, Uehara Kyokun, Tamura Toshihiro, Nishimura Kunihiro, Furukawa Yutaka, Izumi Chisato. Bioprosthetic Valve Positions in Patients With Atrial Fibrillation: Insights From the BPV-AF Registry Circulation Reports. 2024.11; 6(11); 521-528

17. Suzuki S, Amano M, Nakagawa S, Irie Y, Moriuchi K, Okada A, Kitai T, Amaki M, Kanzaki H, Nishimura K, Fukushima S, Kusano K, Fujita T, Noguchi T, Izumi C. Outcomes of Watchful Waiting Strategy and Predictors of Postoperative Prognosis in Asymptomatic or Equivocally Symptomatic Chronic Severe Aortic Regurgitation With Preserved Left Ventricular Function. Journal of the American Heart Association. 2024.10; 13(20); e036292

18. Tanaka K, Fujita T, Nakajima Y, Okamura A, Kawada K, Watanabe M, Doki Y. Validation of the cutoff values for the number of metastatic lymph nodes for esophageal cancer staging: a multi-institutional analysis of 655 patients in Japan. Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society. 2024.10; 21(4); 464-471

19. Fujimura N, Obara H, Matsubara K, Toya N, Isogai N, Ogino H, Fujii T, Kudo T, Kanaoka Y, Harada H, Uchiyama H, Guntani A, Shimogawara T,Watada S, Shibutani S, Ohki T, Japanese Bypass Registry Group. Long-Term Outcomes of a Japanese Prospective Multicenter Registry Using a Heparin-Bonded Expanded Polytetrafluoroethylene Graft for Above-the-Knee Femoropopliteal Bypasses. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society. 2024.09; 88(10);

20. Kikuchi T, Kudo T, Yamamoto Y. Neutrophil-Lymphocyte Ratio as a Predictor of Persistent Type 2 Endoleak after Endovascular Aneurysm Repair. Annals of vascular diseases. 2024.09; 17(3); 255-263

21. Yohei Yamamoto, Kazuki Tsukuda, Ai Kazama, Tomoko Kagayama, Toshifumi Kudo. Popliteal vein entrapment syndrome associated with an accessory slip of the lateral head of the gastrocnemius muscle Journal of Vascular Surgery Cases, Innovations and Techniques. 2024.08; 10(4); 101502

22. Sano M, Takegami M, Amano M, Tanaka H, Ando K, Kitai T, Miyake M, Komiya T, Izumo M, Kawai H, Eishi K, Yoshida K, Kimura T, Nawada R, Sakamoto T, Shibata Y, Fukui T, Minatoya K, Tsujita K, Sakata Y, Sugio K, Koyama T, Fujita T, Nishimura K, Izumi C, Furukawa Y, BPV-AF Registry Group. R(2)-CHA(2)DS(2)-VASc Score for Cardiovascular Event Prediction After Bioprosthetic Valve Replacement - Subanalysis From the BPV-AF Registry. Circulation reports. 2024.08; 6(8); 341-348

23. Sano Madoka, Takegami Misa, Amano Masashi, Tanaka Hidekazu, Ando Kenji, Kitai Takeshi, Miyake Makoto, Komiya Tatsuhiko, Izumo Masaki, Kawai Hiroya, Eishi Kiyoyuki, Yoshida Kiyoshi, Kimura Takeshi, Nawada Ryuzo, Sakamoto Tomohiro, Shibata Yoshisato, Fukui Toshihiro, Minatoya Kenji, Tsujita Kenichi, Sakata Yasushi, Sugio Kumiko, Koyama Tadaaki, Fujita Tomoyuki, Nishimura Kunihiro, Izumi Chisato, Furukawa Yutaka. R2-CHA2DS2-VASc Score for Cardiovascular Event Prediction After Bioprosthetic Valve Replacement: Subanalysis From the BPV-AF Registry Circulation Reports. 2024.08; 6(8); 341-348

24. Yamamoto Y, Uchiyama H, Oonuki M, Tsukuda K, Kazama A, Wada Y, Uchiyama H, Kikuchi T, Nishizawa M, Kudo T. Long-term outcomes of below-the-knee bypass surgery using heparin-bonded expanded polytetrafluoroethylene grafts. Surgery Today. 2024.07;

25. Amano M, Takegami M, Miyake M, Kitai T, Fujita T, Koyama T, Tanaka H, Ando K, Komiya T, Izumo M, Kawai H, Eishi K, Yoshida K, Kimura T, Nawada R, Sakamoto T, Shibata Y, Fukui T, Minatoya K, Tsujita K, Sakata Y, Sugio K, Nishimura K, Furukawa Y, Izumi C; BPV-AF Registry Group. Clinical effects of direct oral anticoagulants i n elderly patients with a bioprosthetic valve and atrial fibrillation. Int J Cardiol. 2024.07; 413; 132375

26. Mochizuki H, Yanase M, Kuroda K, Nakajima-Doi S, Watanabe T, Seguchi O, Morii-Ikura M, Minagawa K, Omote J, Hirano K, Fukushima S, Fujita T, Fukushima N. Impact of Dietary Vitamin K Intake on Anticoagulation Therapy in Patients With Left Ventricular Assist Device During the 2018 Osaka Earthquake. Circulation reports. 2024.07; 6(7); 272-275

27. Yanagino Yusuke, Kainuma Satoshi, Nisii Tatsuya, Kawamoto Naonori, Tadokoro Naoki, Ikuta Ayumi, Tonai Kohei, Hirayama Masaya, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. Unique Presentation of Ruptured Right Sinus of Valsalva Aneurysm Into the Right Atrium Circulation Journal. 2024.05; 88(6); 1007

28. Tadokoro Naoki, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Kakuta Takashi, Tonai Kohei, Shimizu Hideyuki, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. 左室補助人工心臓植込み患者の de novo 大動脈弁閉鎖不全症に対する大動脈弁形成術の安全性と有効性 (Safety and efficacy of aortic valvuloplasty for de novo aortic insufficiency in patients with a left-ventricular assist device) General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2024.05; 72(5); 324-330

29. Miyazaki H, Kumegawa S, Kudo T, Wada Y, Ueno K, Takahashi Y, Tanaka K, Asamura S. Practicality and Hemodynamic Advantage of Microvascularly Augmented Pectoralis Major Musculocutaneous Flap: Technical Approach and Evidence Based on Indocyanine Green Angiography. Annals of plastic surgery. 2024.05; 92(5); 533-536

30. Hada T, Seguchi O, Kitahata N, Komeyama S, Mochizuki H, Watanabe T, Kainuma S, Fukushima S, Tsukamoto Y, Fujita T, Kobashigawa J, Fukushima N. Heart transplantation with super-aged donors older than 65 years. JHLT open. 2024.05; 4; 100083

31. Yanagino Yusuke, Kawamoto Naonori, Kainuma Satoshi, Tadokoro Naoki, Kakuta Takashi, Ikuta Ayumi, Tonai Kohei, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. Successful Implantation of Rapid Deployment Aortic Valve after TAVR Explantation. J Cardiothorac Surg. 2024.04; 19(1); 211

32. Yanagino Yusuke, Kainuma Satoshi, Nisii Tatsuya, Kawamoto Naonori, Tadokoro Naoki, Ikuta Ayumi, Tonai Kohei, Hirayama Masaya, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. Unique Presentation of Ruptured Right Sinus of Valsalva Aneurysm Into the Right Atrium. Circ J. 2024.04; 88(6); 1007

33. Amaki Makoto, Moriwaki Kensuke, Nakai Michikazu, Yamano Tetsuhiro, Okada Atsushi, Kanzaki Hideaki, Izumo Masaki, Usuku Hiroki, Onishi Tetsuari, Nagai Toshiyuki, Miyamoto Yoshihiro, Fujita Tomoyuki, Kawai Hiroya, Akashi Yoshihiro, Tsujita Kenichi, Matoba Satoaki, Kobayashi Junjiro, Izumi Chisato, Anzai Toshihisa. 重度症候性大動脈狭窄症患者における経カテーテル大動脈弁置換術の費用対効果の分析　前向き多施設共同研究 (Structural Heart Disease: current situation and future perspectives　Cost-effective analysis of transcatheter aortic valve replacement in patients with severe symptomatic aortic stenosis: A prospective multicenter study) Journal of Cardiology. 2024.04; 83(3-4); 169-176

34. Kawai Y, Fujimura N, Obara H, Ichihashi S, Kudo T, Hozawa K, Yamaoka T, Kato T, Kawarada O, Banno H. Endovascular Treatment as an Alternative to Bypass Surgery for Juxtarenal Aortic Occlusion: Results from the CHAOS (CHronic Abdominal Aortic Occlusion, ASian Multicenter) Registry. Annals of vascular surgery. 2024.03; 104; 174-184

35. Amaki Makoto, Moriwaki Kensuke, Nakai Michikazu, Yamano Tetsuhiro, Okada Atsushi, Kanzaki Hideaki, Izumo Masaki, Usuku Hiroki, Onishi Tetsuari, Nagai Toshiyuki, Miyamoto Yoshihiro, Fujita Tomoyuki, Kawai Hiroya, Akashi Yoshihiro, Tsujita Kenichi, Matoba Satoaki, Kobayashi Junjiro, Izumi Chisato, Anzai Toshihisa. Cost-effective analysis of transcatheter aortic valve replacement in patients with severe symptomatic aortic stenosis: A prospective multicenter study. J Cardiol. 2024.03; 83(3); 169-176

36. Tadokoro N, Iwai S, Tonai K, Komeyama S, Komori M, Tsukamoto Y, Fujita T, Fukushima S. Left Ventricular Assist Device Implantation With Total Cavopulmonary Connection for Arrested Heart. Annals of thoracic surgery short reports. 2024.03; 2(1); 127-130

37. Shibagaki K, Kainuma S, Kamiya H, Fujita T, Fukushima S. Minimally Invasive Repair of a Sinus Node Artery Aneurysm With a Fistula Into the Right Atrium. Annals of thoracic surgery short reports. 2024.03; 2(1); 35-37

38. Nabeta T, Matsumoto S, Ishii S, Eda Y, Yazaki M, Fujita T, Iida Y, Ikeda Y, Kitai T, Naruse Y, Taniguchi T, Yoshioka K, Tanaka H, Okumura T, Baba Y, Matsue Y, Ako J. Characteristics and incidence of cardiac events across spectrum of age in cardiac sarcoidosis. International journal of cardiology. Heart & vasculature. 2024.02; 50; 101321

39. Tadokoro Naoki, Koyamoto Tetsuya, Tonai Kohei, Yoshida Yuki, Hirahsima Koudai, Kainuma Satoshi, Kawamoto Naonori, Minami Kimito, Nishioka Hiroshi, Yasumasa Tsukamoto, Fujita Tomoyuki, Fukushima Satsuki. The outcomes of a standardized protocol for extracorporeal mechanical circulatory support selection-left ventricular challenge protocol. J Artif Organs. 2024.01; 27(4); 358-367

40. Takeji Y, Taniguchi T, Morimoto T, Shirai S, Kitai T, Tabata H, Kitano K, Ohno N, Murai R, Osakada K, Murata K, Nakai M, Tsuneyoshi H, Tada T, Amano M, Watanabe S, Shiomi H, Watanabe H, Yoshikawa Y, Nishikawa R, Yamamoto K, Obayashi Y, Toyofuku M, Tatsushima S, Kanamori N, Miyake M, Nakayama H, Nagao K, Izuhara M, Nakatsuma K, Inoko M, Fujita T, Kimura M, Ishii M, Usami S, Sawada K, Nakazeki F, Okabayashi M, Shirotani M, Inuzuka Y, Ando K, Komiya T, Minatoya K, CURRENT AS registry-2 Investigators, Kimura T. In-hospital outcomes after SAVR or TAVI in patients with severe aortic stenosis. Cardiovascular intervention and therapeutics. 2024.01; 39(1); 65-73

41. Okunaka M, Kotani D, Fujiwara H, Sato K, Fujiwara N, Mishima S, Sakashita S, Yoshino T, Fujita T, Kojima T. Prognosis of patients with residual pathological disease after neoadjuvant docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil therapy and surgery for esophageal squamous cell carcinoma: a retrospective cohort study. Therapeutic advances in medical oncology. 2024; 16; 17588359241229432

1. 迫田 大輔, 小阪 亮, 長岡 英気, 田原 禎生, 大内 克洋, 木賀田 哲人, 坂之上 一朗, 藤田 知之, 岡本 俊宏. 【臓器保存技術の現状と今後の展開】体外心臓灌流の技術的課題と展望 人工臓器. 2024.12; 53(3); 210-215

2. 小阪 亮, 迫田 大輔, 新井川 弘道, 岡田 克典, 木賀田 哲人, 大内 克洋,長岡 英気, 藤田 知之, 坂之上 一朗, 岡本 俊宏. 【臓器保存技術の現状と今後の展開】体外肺灌流における新たな肺の機能評価技術の開発 人工臓器. 2024.12; 53(3); 216-220

3. 山本　洋平. 症例提示ーあなたならどうする？　症例提示/講評血管外科.2024.11; 43(1); 101-105

4. 藤田 知之, 福嶌 五月, 角田 宇司. 【心房細動-予防 · 早期発見 · 治療の進化】非薬物治療 (アブレーションから外科的手術)　Maze 手術は最近どのような進歩を遂げているか? 循環器ジャーナル. 2024.07; 72(3); 438-443

5. 工藤 敏文. 糖尿病大血管障害の基礎と臨床の最前線　糖尿病に合併する末梢動脈疾患 糖尿病合併症. 2024.07; 38(2); 222-226

6. 久米博子, 加賀山知子, 本間香織. 【動脈· 静脈の疾患2024(上)-最新の診断· 治療動向-】動脈· 静脈疾患の検査　静脈疾患の検査　超音波検査日本臨床. 2024.06; 82(増刊4 動脈· 静脈の疾患2024(上)); 165-171

7. 藤田 知之. 【ロボット支援手術-標準治療としてのさらなる普及を目指して-】その他の領域のロボット支援手術　僧帽弁形成術　MICS との比較 日本臨床. 2024.01; 82(増刊 1ロボット支援手術); 334-338

8. 藤田 知之. 心不全に対する外科的治療法の開発　心房細動に対する外科治療「Maze 手術」の進歩と新しい知見 研究助成業績報告集 (指定研究助成). 2024; 2023 年度; 19-22

[書籍等出版物]

1. 迫田大輔、長岡英気他. 人工臓器　Vo.53 No.3 2024　体外肺灌流における新たな肺の機能評価技術の開発について. 一般社団法人日本人工臓器学会 理事長松宮護郎, 2024.12

2. 小阪亮、長岡英気他. 人工臓器　Vo.53 No.3 2024　体外肺灌流における新たな肺の機能評価技術の開発について. 一般社団法人日本人工臓器学会 理事長松宮護郎, 2024.12

3. 藤原立樹. 必携！ 術後心エコーガイドブック. 文光堂, 2024.02

[総説]

1. 藤原立樹. 研究者の最新動向　ECMO 中長期使用に求められるECMOデバイスの血栓検出· 血栓予防技術の開発月間Precision Medicine. 2024.08; (9 月);

2. 加賀山知子. 【知っておきたい　体型による影響と解剖学的バリエーション】血管超音波検査における解剖学的バリエーションMedical Technology. 2024.05;

[講演 · 口頭発表等]

1. 藤原立樹, 長岡英気, 福島美季, 飯田瑛美, 石山純子, 倉島直樹, 岩永健裕, 大内克洋, 藤田知之. 心臓移植実施施設申請に向けた生体ブタを用いた心臓移植シミュレーショントレーニング. 第50 回日本臓器保存生物医学会 2024.11.08 愛知県岡崎市

2. Yohei Yamamoto, Kazuki Tsukuda, Ai Kazama, YoshikiWada, Toru Kikuchi, Hiroki Uchiyama, Toshifumi Kudo. The neutrophil-to-lymphocyte ratio as a predictor of prognosis in patients undergoing femoral endarterectomy. 25th Congress of the Asian Society for Vascular Surgery 2024.12.05 Bangkok, Thailand

3. 藤田知之. 【演者】パネルディスカッション　Robotic Heart Surgery is Particularly Beneficial for Mitral Valve Repair. 2024.11.04 金沢

4. 藤原立樹. インドシアニングリーン蛍光造影を用いた ECMO 回路内血栓検出法の臨床現場における検証. 第 77 回日本胸部外科学会学術集会 2024.11.03 石川県金沢市

5. Fujita Tomoyuki. Master Class III: Part I（Sponsored by Corycm）. 2024 JATS – AATS Mitral Conclave 2024.11.01

6. Tahara Tomoki, Nagaoka Eiki, Fukushima Satsuki, Kawamoto Naonori, Kakuta Takashi, Kawabata Takuya, Fujiwara Tatsuki, Oishi Kiyotoshi, Nabeshima Junya, Fujita Tomoyuki. ロボットによる僧帽弁形成術における連続縫合の有用性の検討 (Investigation of the usefulness of continuous sutures in robotic mitral annuloplasty). 日本胸部外科学会定期学術集会 2024.11.01

7. Fujita Tomoyuki, Nagaoka Eiki, Kawabata Takuya, Fujiwara Tatsuki, Oishi Kiyotoshi, Nabeshima Junya, Tahara Tomoki. 低侵襲/ロボット心臓弁手術の適応と限界　ロボット心臓手術は僧帽弁修復に特に有用である (Indications and limitations of minimally invasive/robotic heart valve surgery　Robotic Heart Surgery is Particularly Beneficial for Mitral Valve Repair). 日本胸部外科学会定期学術集会 2024.11.01

8. Nagaoka Eiki, Kim Yoon Kyoung, Oishi Kiyotoshi, Kawabata Takuya, Fujiwara Tatsuki, Nabeshima Junya, Tahara Tomoki, Toba Mikayo, Fushimi Kiyohide, Fujita Tomoyuki. 大動脈弁狭窄症　生涯管理を考慮した人工弁と手術法の選択　生涯管理のための SAVR/TAVR/選択の有効性評価 (Aortic stenosis - Selection of prosthetic valve and operative procedure considering lifetime management　A Validity Evaluation of SAVR/TAVR Selection for Lifetime Management). 日本胸部外科学会定期学術集会 2024.11.01

9. 加賀山知子．誰でもわかる静脈エコー．第4 回日本フットケア・足病医学会東海･北陸地方会学術集会 2024.10.05

10. Yohei Yamamoto, Kazuki Tsukuda, Ai Kazama, Yoshiki Wada, HirokiUchiyama, Toru Kikuchi, Tomoko Kagayama, Toshifumi Kudo. Popliteal vein entrapment syndrome: report of three recent cases with our institutional experience. Another Phlebology 4th International Workshop and 13th Balkan Venous Forum meeting 2024.10.04 Budapest, Hungary

11. 藤原立樹. iPS 細胞由来の心筋細胞移植は虚血性重症心不全に対する新たな治療の選択肢になり得るか?. 第72 回心臓病学会学術集会 2024.09.28 宮城県仙台市

12. Yoshiki Wada, Shoji Fukuda, Tomomi Kusakabe, Toshifumi Kusakabe. Basic Research: The First Step to Therapeutic Angiogenesis with Extracellular Vesicles. ESVS 38th ANNUAL MEETING 2024.09.24 Krakow, Poland

13. Toshifumi Kudo. Endovascular Treatment for Aortoiliac Occlusive Lesions with Covered Stent.. 2nd World Congress on Heart and Cardiovascular Diseases 2024.09.14 Macau, China

14. Tatsuki Fujiwara, Hirinobu Sakurai1, Wataru Hijikata, Daiki Toda, Hiro Kato, Katsuhiro Ohuchi, Orolzod Bumerdene, Tomoyuki Fujita VERIFICATION OF THE EFFECT OF PULSATILE FLOW FROM A BLOOD PUMP ON THROMBUS FORMATION IN A MEMBRANE OXYGENATOR. 50th Annual ESAO Congress 2024.09.08 Aachen, Germany

15. Tsukuda Kazuki, Yamamoto Yohei, Kazama Ai, Wada Yoshiki, Kikuchi Toru, Uchiyama Hiroki, Kudo Toshifumi. Brachial Artery Aneurysm After Hemodialysis Fistula Ligation: Case Report. Annals of Vascular Diseases 2024.09.01

16. 山本洋平、佃和樹、風間愛、和田良樹、内山大樹、菊池亨、工藤敏文. 当科で施行したEVAR の長期成績. 第52 回日本血管外科学会学術総会2024.05.29 大分

17. Fujita Tomoyuki. LVAD Surgical Considerations in Dierent Patient Types:Small to Large, Young to Old, BTT-DT. 2024 HeartMate 3™LVAD Best Practice Network 2024.05.25 Seoul

18. Toshifumi Kudo. Endovascular Treatment for Aortoiliac Occlusive Lesions with Covered Stent. . 2nd World Congress on Heart and Cardiovascular Diseases 2024.05.09 Bangkok, Thailand

19. 本間香織, 加賀山知子, 岩井武尚, 小泉伸也, 櫻澤健一, 久米博子. CAC 施行後, 広範囲に拍動性の血流を認めた1 例. 静脈学2024.05.01

20. 加賀山知子、工藤敏文. Drug-coated balloon(DCB) 治療後の中間期経過観察　超音波検査におけるプラーク厚の変化と開存率. 日本血管外科学会雑誌2024.05.01

21. 山本洋平. EVAR 時のIIA 塞栓におけるAvenir の使用経験. ECLAIR conference, EVAR 領域におけるAvenirの使用経験2024.03.15 Web meeting

22. Amano Masashi, Takegami Misa, Miyake Makoto, Fujita Tomoyuki, Koyama Tadaaki, Nishimura Kunihiro, Furukawa Yutaka, Izumi Chisato. 生体弁と心房細動を有する高齢患者における直接経口抗凝固薬の臨床効果 (Clinical Effects of Direct Oral Anticoagulants in Elderly Patients with a Bioprosthetic Valve and Atrial Fibrillation). 日本循環器学会学術集会抄録集 2024.03.01

23. 藤原 立樹, 長岡 英気, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 山上 洋介, 松田 祐治, 荒木誠, 平澤 憲祐, 杉山 知代, 梅本朋幸,米津 太志, 宮崎 晋介, 前嶋 康浩, 笹野 哲郎, 藤田 知之. 非心臓移植施設における destination therapyの現状 (Current Status of Destination Therapy in Non-Heart Transplant Facilities). 日本循環器学会学術集会抄録集 2024.03.01

24. 鳥山 茜, 小名木 寛子, 泉 浩, 藤田 知之, 三森 徹, 冨田 茂樹. 両側乳癌の手術検体で診断された、無症状 intravascular large B-cell lymphoma の 1 例 (Intravascular Large B-Cell Lymphoma Coexisting with Bilateral Breast Carcinoma). 日本病理学会会誌 2024.02.01

25. Fujita Tomoyuki, Yoshizato Toshiyuki, Murotani Kenta, Obara Hitoshi, Tsuda Naotake. 凍結融解胚移植が癒着胎盤スペクトルの発生に及ぼす影響　2017 年～2020 年までの日本生殖補助医療登録213923周期の分析 (Impact of frozen-thawed embryo transfer on the development of placenta accreta spectrum: An analysis of 213,923 cycles in the assisted reproductive technology registry of Japan from 2017 to 2020). 日本産科婦人科学会雑誌 2024.02.01

26. 竹下 斉史, 長岡 英気, 藤原 立樹, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 吉崎 智也, 藤田 知之. Massive TR の治療戦略　重度以上の TR 症例に対する逆流の原因に準じた手術戦略の妥当性. 日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 2024.02.01
27. 鍋島 惇也, 八島 正文, 長岡 英気, 藤原 立樹, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 先天性心疾患手術時の心筋保護液　crystalloid と blood の比較. 日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 2024.02.01
28. 櫻井 啓暢, 長岡 英気, 藤原 立樹, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 大動脈弁位弁輪部膿瘍を伴う感染性心内膜炎に対する手術の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 2024.02.01
29. 大石 清寿, 長岡 英気, 藤原 立樹, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 急性大動脈解離 Stanford A に対する FET の有効性とその限界を考察する. 日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 2024.02.01
30. 藤原 立樹, 長岡 英気, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 慢性 B 型大動脈解離に対する胸骨正中アプローチによる偽腔エントリー閉鎖の検討.日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 2024.02.01
31. 櫻井 啓暢, 長岡 英気, 藤原 立樹, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 大動脈弁位弁輪部膿瘍を伴う感染性心内膜炎に対する手術の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 2024.02.01

1. 藤原立樹. 【座長】The 21st Z-Conference on the web. The 21st Z-Conference on the web 2024.12.18
2. 藤田知之. 第 4 回ロボット心臓手術手技研究会プログラム会議. 第 4回ロボット心臓手術手技研究会プログラム会議 2024.12.16
3. 藤田知之. 【座長】HEMOVISION Web Seminar for Cardiovascular. HEMOVISION Web Seminar for Cardiovascular 2024.12.13
4. 藤田知之. 【講演】もっとわかる！ 心臓病 進む治療〜心臓弁膜症と心筋梗塞〜. NHK エデュケーショナル市民公開講座 2024.12.08 東京
5. 藤田知之. 【講師】ハンズオン. U-40 Basic Lecture Course 2024.12.07東京
6. 藤田知之. 【講演】若手医師のキャリアデザイン戦略：心臓血管外科としての成功への道. 令和 6 年度 東京都医師会「医学生、研修医等をサポートするための会」 2024.12.07 東京
7. 藤田知之.【演者】心臓血管外科領域でのロボット手術の限界点はあるのか. 第37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.05 福岡
8. 藤田知之. 【WEB 開会の辞】. 人工弁周囲逆流 (PVL) ワークショップ 2024.12.05 Web
9. 藤田知之. 【講演】ロボット心臓手術の現在地と未来. 循環器疾患エリア連携セミナー 2024.12.04 千葉
10. 藤田知之. 【座長】スタートアップの扉を開け！ ロボット MAZE 最初の一歩. ロボット Maze 2024.12.03 Web
11. 藤原立樹, 長岡英気, 川畑拓也, 大石清寿, 鍋島惇也, 田原禎生, 藤田知之MICS-体外式 VAD を経て Destination Therapy に到達した広範囲心筋梗塞による重症 心不全の 1例. 第 37 回日本冠疾患学会学術集会 2024.11.30 東京都中央区
12. 藤田知之. 【演者】合同シンポジウム 1（JS1）「冠血行再建の意義、 Ischemia、Orbita2 試験後の ガイドワイヤの変化」. 第 37 回日本冠疾患学会学術集会 2024.11.29 東京
13. 藤田知之. 【演者】ランチョンセミナー 1　冠動脈血行再建について考える〜患者視点の内科と外科の治療戦略〜. 第 37 回日本冠疾患学会学術集会 2024.11.29 東京
14. 藤田知之. 【演者】特別講演Ⅱ. 千葉心不全治療研究会 2024.11.28 千葉
15. 藤田知之. 【演者】千葉 iNO web seminar. NO 吸入療法 WEB セミナー 2024.11.27 千葉
16. 藤田知之. 【演者】疾患啓発講演会 (Web) 心臓病 Conference〜弁膜症治療の最前線〜. 疾患啓発講演会 2024.11.26 東京
17. 藤田知之. 【座長】第 3 回 ECMO PCPS 研修コース (セッション 1 ECMO PCPS 機械的循環補助：講演/講演 2 ECMO PCPS 機械的循環補助②). 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.16 宇都宮
18. 藤原立樹. 【座長】ポスター発表 4 循環器. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.15　栃木県宇都宮市

19. 藤田知之.【演者】セッションⅡ補助人工心臓各論「HeartMateIII」.第 18 回 JACVAS 補助人工心臓セミナー 2024.11.15 宇都宮

20. 長岡英気 . Advancements and Future Directions in EVHP for DCD Heart Transplantation. 第 30 回国際機械循環支援学会 2024.11.14 宇都宮市　ライトキューブ宇都宮

21. 藤田知之.【講演】循環器診療 Network. 循環器診療 Network 2024.11.12東京

22. 藤田知之. 【演者】Edwards SAPIEN Implanters Meeting　耐久性エビデンスセッション. 2024.11.10 東京

23. 藤田知之.【座長】アフタヌーンセミナー 3. 第 196 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2024.11.09 東京

24. 藤田知之.【モデレーター】ISMICS 2024 WORKSHOP . 2024.11.08千葉

25. 藤原立樹、長岡英気、福島美季、飯田瑛美、石山純子、倉島直樹、岩永健裕、大内克洋、 藤田知之. 心臓移植実施施設申請に向けた生体ブタを用いた心臓移植シミュレーショントレーニング. 第 50 回日本臓器保存生物医学会学術集会 2024.11.08 岡山市　図書館交流プラザ りぶら（Libra）

26. 長岡英気 . 大動脈弁狭窄症Lifetime management を考慮した人工弁、術式の選択 Lifetime management としての SAVR/TAV. 第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会2024.11.04 金沢市　ホテル日航金沢

27. 藤原立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 非心臓移植実施施設における Destination Therapy の現状と当院独自の取り組み. 第 77 回日本胸部外科学会学術集会 2024.11.03 石川県金沢市

28. 藤田知之.【演者】ランチョンセミナー「次回手術を見据えての癒着防止材の有用性 ： The effectiveness of adhesion prevention agents in preparation for the next surgery」.第77 回日本胸部外科学会定期学術集会 2024.11.03 金沢

29. 藤原立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之 . IMPELLA 時代の急性心不全に対する体外式 VAD の役割.第77 回日本胸部外科学会学術集会2024.11.02 石川県金沢市

30. 藤田知之.【座長】ランチョンセミナー 5. 第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会僧帽弁閉鎖不全症の治療オプション『TEER』～4 サイズの MitraClip で僧帽弁逆流に挑む～2024.11.02 金沢

31. 山中 理央, 長岡 英気, 鍋島 惇也, 川畑 拓也, 藤原 立樹, 大石 清寿, 田原 禎生, 藤田 知之. 不完全型房室中隔欠損症修復術後遠隔期の僧帽弁閉鎖不全症に対してロボット弁形成を行った一例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2024.11.01

32. 清水 望, 長岡 英気, 川畑 拓也, 藤原 立樹, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原禎生,藤田 知之. 広範な弁尖破壊を伴う感染性心内膜炎に対し自己心膜を用いてロボット支援下僧帽弁形成術を施行した 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2024.11.01

33. 石川 裕子, 矢野 正雄, 後藤 哲宏, 石塚 由美子, 吉田 翼, 藤田 知之. 遺伝的ハイリスク群の乳癌検診　当施設での現状. 日本乳癌検診学会学術総会プログラム抄録集 2024.11.01

34. 佃 和樹, 風間 愛, 和田 良樹, 菊池 亨, 内山 大樹, 山本 洋平, 工藤 敏文. Loeys-Dietz 症候群に伴う腹部大動脈瘤の1例. 血管外科 2024.11.01

35. 佃 和樹, 工藤 敏文, 風間 愛, 菊池 亨, 内山 大樹, 山本 洋平. TEVAR術後16 年間の経過でステントストラットが血管外へ侵入した 1 例. 血管外科 2024.11.01

36. 藤原 立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬紳之介, 藤田 知之. Destination Therapy治療のリアルワールド　非心臓移植実施施設における Destination Therapy の現状と当院独自の取り組み. 日本胸部外科学会定期学術集会 2024.11.01

37. 藤原 立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. IMPELLA 時代の急性心不全に対する体外式 VAD の役割. 日本胸部外科学会定期学術集会 2024.11.01

38. 長岡 英気, 川畑 拓也, 藤原 立樹, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 藤田知之. 低心機能症例における On pump beating CABG の功罪. 日本胸部外科学会定期学術集会2024.11.01

39. 竹下 斉史, 長岡 英気, 川畑 拓也, 藤原 立樹, 大石 清寿, 鍋島 惇也,田原 禎生, 吉崎 智也, 藤田 知之. 右室機能の低下した超重症三尖弁閉鎖不全症の治療について　右室機能低下を合併した有意な機能性三尖弁逆流症例の術後成績から見た予後改善に必要な治療介入の検討. 日本胸部外科学会定期学術集会 2024.11.01

40. 大石 清寿, 藤原 立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 鍋島 惇也, 田原 禎生,藤田 知之. 当院における Destination Therapy(DT) の治療経験　DT の良好な臨床成績と高い QOL 改善効果が示された一方で解決されていない問題や見えてきた課題. 日本胸部外科学会定期学術集会2024.11.01

41. 藤田知之. 未来の心臓治療：移植からロボット手術まで. 東京科学大学病院 医療連携支援センター WEB 講演会 2024.10.15 Web

42. 藤田知之. （座長）パネルディスカッション 1· 少数症例施設のデータからみる新規心移植施設拡大に向けての考察. 第 43 回日本心臓移植学会学術集会 2024.10.06 大宮

43. 藤原立樹, 平澤憲祐, 野坂宜之, 鬼澤かおる, 荒畑美樹, 石山純子, 田中功一, 戸塚　一, 小野美由紀, 笹野哲郎, 藤田知之. 心臓移植実施施設申請に向けた診療連携. 第 43 回日本心臓移植学会学術集会 2024.10.06 埼玉県大宮市

44. 藤田知之. （座長）一般演題. 第 43 回日本心臓移植学会学術集会2024.10.05 大宮

45. 大石 清寿, 藤原 立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 鍋島 惇也, 田原 禎生,藤田 知之. DT LVAD の現状と今後-DT 治療の拡大による諸問題への取り組み (患者の看取りを含めて) Destination Therapy(DT) の初期経験から高い QOL 改善効果と DT 特有の問題. 人工臓器 2024.10.01

46. ブムエルデネ · オロルゾド , 藤原 立樹, 鍋島 惇也, 加藤 比呂, 土方亘, 藤田 知之. 補助人工心臓装着患者におけるワーファリン内服量のアルゴリズムによるコントロールに関する研究. 人工臓器 2024.10.01

47. 櫻井 啓暢, 藤原 立樹, ブムエルデネ · オロルゾド , 大内 克洋, 土方亘,戸田 大輝, 加藤 比呂, 岩永 健裕, 藤田知之. 遠心ポンプが創出する拍動流が人工肺内の血栓形成を抑制する効果. 人工臓器 2024.10.01

48. 風間 愛, 工藤 敏文, 山本 洋平, 佃 和樹, 和田 良樹, 内山 大樹, 菊池亨. 当院における総大腿動脈血栓内膜摘除術の長期成績についての検討. 脈管学 2024.10.01

49. 藤原立樹, 長岡英気, 福島美季, 飯田瑛美, 石山純子, 倉島直樹, 岩永健裕, 大内克洋, 藤田知之. 心臓移植実施施設申請に向けた生体ブタを用いた心臓移植シミュレーショントレーニング. Organ Biology 2024.10.01

50. 藤田知之. Low risk 大動脈弁狭窄症の治療における SAVR の重要性.第 72 回日本心臓病学会学術集会 2024.09.29 仙台

51. 藤原立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 我が国における補助人工心臓治療の現状と課題　非心臓移植実施施設における補助人工心臓治療の現状と独自の取り組み. 第 72回心臓病学会学術集会 2024.09.27 宮城県仙台市

52. 藤田知之. ロボット心臓手術の新展開. ボルヒール Web 講演会 「弁膜症手術の新パラダイム 〜Expert の手術戦略〜」 2024.09.26 Web

53. 藤田知之. （座長）分野別シンポジウム【心臓 1】. 第 60 回日本移植学会総会 2024.09.13 長崎

54. 藤原立樹 平澤 憲祐, 野坂 宜之, 鬼澤 かおる, 荒畑 美樹, 石山 純子, 田中 功一, 戸塚 一, 小野 美由紀, 笹野哲郎, 藤田 知之. 移植医療における診療連携 (術前、術後管理/集中治療)　当院における心臓移植実施施設申請を目標とした診療連携. 第 60 回日本移植学会総会 2024.09.13 長崎県長崎市

55. 藤田知之. （座長）CAMP 4 心臓手術における Impella のベストプラクティス. Impella Surgical Summit 2024 2024.09.07 東京

56. 藤原 立樹, 平澤 憲祐, 野坂 宜之, 鬼澤 かおる, 荒畑 美樹, 石山 純子,田中 功一, 戸塚 一, 小野 美由紀, 笹野哲郎, 藤田 知之. 移植医療における診療連携 (術前、術後管理/集中治療)　当院における心臓移植実施施設申請を目標とした診療連携. 移植 2024.09.01

57. 藤田 知之. Low-risk 重症大動脈弁狭窄症における治療選択　Low risk大動脈弁狭窄症の治療における SAVR の重要性. 日本心臓病学会学術集会抄録 2024.09.01

58. 藤原 立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 大石 清寿, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 我が国における補助人工心臓治療の現状と課題　非心臓移植実施施設における補助人工心臓治療の現状と独自の取り組み. 日本心臓病学会学術集会抄録 2024.09.01

59. 本郷 智伎, 三島 有華, 小野 宏晃, 大石 清寿, 若林 健二. 感染性心内膜炎に対する僧帽弁置換術後に生じた総肝管穿孔の一例. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

60. 藤田知之. （座長）特別講演 2 . 御茶ノ水胸部外科手術手技セミナー2024.07.27 東京

61. 藤田知之. V-Lock を使用した連続人工弁輪縫着. 第 3 回ロボット心臓手術手技研究会 2024.07.14 東京

62. 藤田知之. （座長）Session1「ロボット弁置換を海外のエキスパートから学ぶ」. 第 3 回ロボット心臓手術手技研究会 2024.07.14 東京

63. 藤田知之.（座長）Session4「Rare Case/Bail Out-Case Presentation-第 3 回ロボット心臓手術手技研究会 2024.07.14 東京

64. 鍋島惇也. 拡張型心筋症による重症心不全に対して、体外式補助人工心臓による bridge to candidate を経て移植登録及び HeartMate3 装着に到達した 15 歳女児の一例. 第 60 回日本小児循環器学会総会 · 学術集会

    2024.07.13

65. 藤田知之. （座長）ランチョンセミナー 6. 第 28 回日本冠動脈外科学会学術大会 2024.07.12 東京

66. 藤田知之. MICS-CABG のためのロボットを用いた内胸動脈採取. 第28 回日本冠動脈外科学会学術大会 2024.07.12 東京

67. 藤田知之. （座長）Debate セッション 「Ischemic MR 僧帽弁への介入 Pro/Con」. 第 28 回日本冠動脈外科学会学術大会 2024.07.12 東京

68. 藤田知之. （座長）コーヒーブレイクセミナー 4 「Coronary Surgeonへの道」. 第 28 回日本冠動脈外科学会学術大会 2024.07.12 東京

69. 長岡 英気、川畑 拓也、藤原 立樹、大石 清寿、鍋島 惇也、田原 禎生、藤田知之. 低心機能症例における On pump beating CABG の役割. 第 28 回日本冠動脈外科学会学術大会2024.07.11 新宿

70. 藤田知之.（ディスカッサント）スポンサードシンポジウム 1. 第 28回日本冠動脈外科学会学術大会2024.07.11 東京

71. 藤田知之. （座長）Robot 手術. 第 8 回日本低侵襲心臓手術学会学術集会 2024.07.06 大分

72. 長岡 英気、川畑 拓也、藤原 立樹、大石 清寿、鍋島 惇也、田原 禎生、藤田知之. 胸骨正中切開後の再手術症例に対する低侵襲心臓手術. 第 8 回日本低侵襲心臓手術学会学術集会2024.07.05 大分市　J:COM ホルトホール大分

73. 藤田知之. ロボットの進歩と心臓外科手術. 第 42 回日本体外循環技術医学会近畿地方会大会 2024.06.29 大阪

74. 藤田知之. MCS の早期離脱を目指した NO 吸入療法の可能性. iNO Expert Seminar 2024.06.18 熊本

75. 藤田知之. （審査員）心臓：学生発表 1. 第 195 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 2024.06.15 宇都宮

76. 藤田知之. ロボット僧帽弁形成術の進歩. 第 7 回 北海道心臓 · 大血管外科手術手技研究会 2024.06.08 札幌

77. 藤原立樹. テルモ ハートシート市販後調査. 2024.06.06

78. 池田 峻, 長岡 英気, 川畑 拓也, 藤原 立樹, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 鍋島惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 僧帽弁形成術後の僧帽弁閉鎖不全再発に対してロボット支援下に再僧帽弁形成術を施行した一例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2024.06.01

79. 三浦 寛貴, 藤原 立樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 複数の補助循環デバイスを経て Destination Therapy に到達した広範囲心筋梗塞による重症心不全の 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2024.06.01

80. 工藤敏文. 腸骨動脈における複雑病変への治療の実際 Iliac Covered Stent の適応と有用性. . メディコン コーヒーブレイクセミナー 2024.05.29 大分　別府

81. 藤田知之. （座長）大動脈治療における最近の進歩. 第 7 回 MACS セミナー 2024.05.14 東京

82. 加賀山 知子, 高木 一也, 水野 隆, 工藤 敏文. AI アシスト深部静脈血栓症診断ソフト (試作) について. 静脈学 2024.05.01

83. 山本 洋平, 佃 和樹, 風間 愛, 和田 良樹, 内山 大樹, 菊池 亨, 工藤 敏文. ウシ心膜パッチを用いた下大静脈再建. 静脈学 2024.05.01

84. 藤原 立樹, 倉島 直樹, 長岡 英気, 川畑 拓也, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 星野 春奈, 高濱 拓, 野田 明里,藤田 知之. IMPELLA 時代の急性循環不全治療における体外設置型VAD の役割. 第 52 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会 2024.04.06 北海道函館市

85. 藤原立樹. (座長) 一般演題（ポスターセッション）5. 第 52 回人工心臓と補助循環懇話会学術集会 2024.04.05 北海道函館市

86. 藤田知之. 東京医科歯科大学が目指すところ. テルモ講演会 2024.04.04東京

87. 藤田知之.「人工弁選択こそ患者を救う鍵だ」ー RESILIA 生体弁の価値と SAVR の可能性ー. ケアネットウェビナー『人工弁選択こそ患者を救う鍵だ—RESILIA 生体弁の価値と SAVR の可能性—2024.04.03 Web

88. 藤田 知之, 長岡 英気, 藤原 立樹, 大石 清寿, 福嶌 五月. 低侵襲時代に僧帽弁疾患にどう挑むか　今のところ degenerative mitral regurgitation に対してはロボット僧帽弁形成術が第一選択である. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2024.04.01

89. 藤田知之.（ディスカッサント）セッション 1 スポンサード「僧帽弁」. 第 8 回江東豊洲心血管カンファレンス 2024.03.23 東京

90. 藤田知之.（ディスカッサント）セッション 3 スポンサード「大動脈弁」. 第 8 回江東豊洲心血管カンファレンス 2024.03.23 東京

91. 藤田知之.【外科】大動脈弁. 第 8 回江東豊洲心血管カンファレンス2024.03.23 東京

92. 藤田知之. 重症心不全に関する最近のトピック LVAD と移植を中心に . 横須賀心不全セミナー 2024.03.12　横須賀

93. 藤原立樹. スマホ時代の VAD 患者教育. 第 88 回日本循環器学会学術集会 2024.03.10 兵庫県神戸市

94. 藤原立樹, 長岡 英気, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 山上 洋介, 松田 祐治, 荒木 誠, 平澤 憲祐, 杉山 知代, 梅本 朋幸, 米津 太志, 宮崎 晋介, 前嶋 康浩, 笹野 哲郎, 藤田 知之. 非心臓移植施設における destination therapy の現状.第 88 回日本循環器学会学術集会 2024.03.10 兵庫県神戸市

95. 藤原立樹. IMPELLA 時代の体外式 VAD 装着テクニック MICS eVADを用いた治療戦略. 第 88 回日本循環器学会学術集会 2024.03.09 兵庫県神戸市

96. 藤田知之.（座長）Round Table Discussion 2 MCS 管理の落とし穴.第 88 回日本循環器学会学術集会 2024.03.09 神戸

97. 藤原立樹. iPS 細胞由来心筋細胞の移植は虚血性重症心不全の新たな治療選択肢となり得るか?. 第 88 回日本循環器学会学術集会 2024.03.08 兵庫県神戸市

98. 卓馬 紳之介, 大石 清寿, 長岡 英気, 藤原 立樹, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也,田原 禎生, 藤田 知之. Total debranch TEVAR 後にラッピング部の上行大動脈破裂をきたした一例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集2024.03.01

99. 朱田 卓史, 長岡 英気, 卓馬 紳之介, 田原 禎生, 鍋島 惇也, 櫻井 啓暢,大石 清寿, 藤原 立樹, 藤田 知之. 先天性の Cleft Mitral Valve に対してロボット支援下僧帽弁形成術を施行した一例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 2024.03.01

100. 藤田知之. 透析患者に対する心臓外科治療. 慢性腎臓病セミナー2024.02.29 Web

101. 長岡英気 、荒井裕国、藤原立樹、大石清寿、藤田知之. 心内腔測からの左心耳閉鎖に関する検討. 第 38 回日本不整脈外科研究会 2024.02.24 浜松

102. 藤原立樹. U-40 創立 10 周年 記念セッションパネリスト. 第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会 2024.02.24 静岡県浜松市

103. 藤原立樹 , 藤田知之　EF30%以下の虚血性重症心不全に対する新たな治療の選択肢 再生医療と DT がもたらした影響.第 22 回日本心臓血管外科再生治療研究会 2024.02.24 静岡県浜松市

104. 藤田知之.（座長）セッション 1　簡便に短時間でメイズ手術を行うための各施設における工夫と成績.第38 回日本不整脈外科研究会 2024.02.24 浜松

105. 藤田知之.（座長）ランチョンセミナー 12 いかにロボット心臓外科手術を成功させるか . 第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会 2024.02.23

106. 長岡英気、藤原 立樹、大石 清寿、櫻井 啓暢、鍋島 惇也、田原 禎生、卓馬 紳之介、藤田 知之. 大動脈非遮断下 MICS の有用性 . 第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会 2024.02.22浜松

107. 藤田知之. （座長）ワークショップ 2　MICS-CABG の活かし方. 第54 回日本心臓血管外科学会学術総会 2024.02.22

108. 鍋島惇也. 先天性心疾患手術時の心筋保護液　crystalloid と blood の比較. 第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会 2024.02.22

109. 藤田知之. （座長）領域別シンポジウム 6【心臓血管外科】「ロボット支援下 · 鏡視下 MICS での僧帽弁形成術得意なこと、不得意なこと、私の手技」. 第 16 回日本ロボット外科学会学術集会 2024.02.10 米子

110. 長岡 英気, 藤原 立樹, 大石 清寿, 櫻井 啓暢, 鍋島 惇也, 田原 禎生, 卓馬 紳之介, 藤田 知之. 大動脈非遮断下 MICS の有用性. 日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 2024.02.01

111. 藤原立樹. IMPELLA 時代の体外式 VAD 装着テクニック MICS eVADについて. 日本胸部外科学会 第 1 回 JATS-NEXT Annual Conference 2024.01.27 大阪府大阪市

112. 藤原立樹. 【座長】胸部外科医のキャリアデザインについて再考する.日本胸部外科学会 第 1 回 JATS-NEXT Annual Conference 2024.01.27 大阪府大阪市

113. 藤原立樹. MICS-体外式 VAD/central ECMO を用いた治療戦略. 第34 回日本心肺補助学会学術集会 2024.01.27

114. 藤田知之. 内科と外科で現代人の心臓を守る！ 『ハートチーム』の凄さ. 2023 年度 東京医科歯科大学公開講座 2024.01.24 東京

[受賞]

1. ROBOMECH 表彰（学術研究分野）, 一般社団法人 日本機械学会 ロボティクス · メカトロニクス部門, 2024年05 月
2. The international Society for Mechanical Circulatory support Sezai Award, 2024 年 11 月

[その他業績]

1. 藤原立樹　JATS-NEXT 関東甲信越コアメンバー, 2024 年 01 月第 1 回 JATS-NEXT Annual Conference
2. ドイツ ルートヴィヒ · マクシミリアン大学ミュンヘンに留学, 2024 年6-9 月　Heart Transplant Fellowship Program

[社会貢献活動]

1. 藤田知之　【心血管の名医】優れた指導者との出会いが飛躍のきっかけ 心臓外科とロボット手術の未来を拓く,医療新聞社, 名医のいる病院 2024, 2024 年 01 月 10 日
2. 藤田知之　ページ監修「心臓弁膜症」, 医療新聞社, 名医のいる病院　2024, 2024 年01 月10 日
3. 藤原　立樹　スマホアプリで VAD 患者の退院前指導を効率化, 株式会社日経 BP, 日本日経メディカル Online,2024 年 02 月 07 日 - 2024 年 03 月 08 日
4. 藤田知之　スマホアプリで VAD 患者の退院前指導を効率化, 株式会社日経 BP, 日本日経メディカル Online, 2024年 02 月 07 日 - 2024 年 03 月 08 日
5. 藤田知之　スキャナー＝移植断念　防止へ一歩　３大学参入へ　低い収益性　国公立に偏り　東大の負担軽減, 読売新聞社, 読売新聞, 2024 年 06 月 20 日 - 2024 年 06 月 28 日
6. 藤田知之　心筋梗塞の最新治療について, NHK, きょうの健康, 2024 年06 月 27 日 - 2024 年 10 月 03 日
7. 藤田知之　東京医科歯科大学心臓血管外科について, ラジオ日経, ドクターハート＆ストーリー, 2024 年 08 月 06日-2024 年 09 月 19 日
8. 藤田知之　もっとわかる！ 心臓病 進む治療～心臓弁膜症と心筋梗塞～, NHK エデュケーショナル　, 市民公開講座, 2024 年 12 月 08 日

腎臓内科学

Nephrology

教　授	内田信一
准教授	蘇原映誠
	内藤省太郎（血液浄化療法部）
	飯盛聡一郎（寄附講座）
	萬代新太郎（テニュアトラック准教授）
講　師	須佐紘一郎
	森崇寧 （血液浄化療法部）
助　教	安藤史顕
	森雄太郎（テニュアトラック助教）
	菊池寛昭
	藤木珠美（寄附講座）
特任助教	原悠, 池ノ内健
大学院生	鈴木健文, 森本 靖久, 稲葉俊介, 長岡可楠子, 関口 裕太
医　員	戸張佑美, 木村 萌恵, 藤田 雅子
レジデント	宮澤 麟作, 安部 聡宏, 鈴木 竣也
技　官	飯島千永子, 千賀宗子
秘　書	村野あさ

(1) 分野概要

腎臓内科では「信頼される医療」と「優秀な医師の養成」を目標に掲げ、診療 · 教育 · 研究の活動を行っている。我々は腎疾患全般に対する長い臨床経験を持ち、また他の多くの医療機関とも緊密な連携をとることにより質の高い医療の提供はもちろん、これまでに多くの腎臓専門医を育成してきた。

近年は遺伝性腎疾患を含む様々な腎疾患の遺伝子異常や病態生理を解き明かし、その成果をもとに革新的治療法の開発も目指している。昨今の高齢化や生活習慣の変化に伴い慢性腎臓病の患者数は増加の一途にあり、腎臓専門医への期待に応えるべく、日々研鑽に努めている。

(2) 研究活動

我々の研究のテーマは、「腎臓による血圧 · 体液恒常性維持機構を明らかにし、それが破綻し全身に及ぼす病態を理解し、それに対する治療戦略を構築する」事にある。このことは腎臓病自体の治療法の開発とともに、慢性腎臓病 (CKD) における腎臓を出発点とした多臓器の障害に対応するための研究にもつながる。2020 年以降、COVID-19 感染拡大によって制約されていた学術 · 研究活動は 2023 年に入り感染の終息とともに徐々に従来に戻りつつある。2023 年度（1 月〜12 月）は、例年に引き続き学会研究会等で多くの受賞者を輩出し、積極的にプレスリリースも行われた。原悠先生は日本全国の腎臓研究を対象として、日本腎臓学会から 37 歳以下の優れた若手研究者に送られる 2022 年度 YIA (Young Investigator Award) を受賞した。原悠先生は第 32 回バソプレシン · オキシトシン研究会でも優秀演題賞を受賞した。森雄太郎助教は令和 4 年度東京都医師会医学研究賞奨励賞ならびに日本医師会医学研究奨励賞を受賞した。若手基礎研究フォーラム 2023 では松木久住先生が優秀演題賞を受賞した。論文報告では、萬代新太郎助教、小出高彰先生らの論文が Circulation Research 誌（IF: 23.1）に、また同萬代助教、松木久住先生、源馬拓先生らの論文が Hypertension 誌（IF: 8.3）に受理され、プレスリリースも行われた。留学から帰国した菊池寛昭助教の論文が Nature Communications 誌（IF: 17.7）に受理され、プレスリリースを行った。当科としては 2023 年 1 月から 12 月の間、症例報告を含め計 13 本の学術論文が受理された。プレスリリースは期間内に当科から計 5 件行われた。

2023 年 2 月から 3 月にかけ、我々が積み重ねてきた遺伝性腎疾患の網羅的遺伝子解析に関わる研究についてのク

ラウドファンディングを行った。約 400 名にも及ぶ寄付者から、総計 1,950 万円ものご寄付と多くの応援メッセージを頂いた。お力添え頂いた方々にはこの場を借りて御礼申し上げたい。網羅的遺伝子診断やゲノム情報に関わる臨床研究も安定して運用を継続しており、2023 年は年間 91 名の解析を実施した。

(3) 教育活動

『卒前教育』
腎臓内科では、医学部学生の教育として医学科 3 年生を対象とした系統講義、4 年生を対象としたプロジェクトセメスター、5 年生と 6 年生の臨床実習を担当している。

＜系統講義＞
系統講義は、泌尿器科 · 病理部と合同で行い、3 週間かけて腎 · 泌尿器科領域の疾患について集中的に講義を行った。2023 年度は腎臓内科のすべての講義および PBL (Problem-Based Learning) を対面講義に戻して実施した。PBL とは学生が小グループ単位で自らディスカッションをしながらシナリオ症例の鑑別診断を行う講義方法で、腎臓内科のスタッフ · 大学院生を動員して 2 グループにチューター 1 人という配置で行った。学生からは、チューターの手厚いアドバイスのおかげで議論が発展しやすくとてもよかったという意見をいただいた。
＜プロジェクトセメスター＞
プロジェクトセメスターの履修学生については、例年 2 名ほどの受け入れを予定している。
＜臨床実習＞
臨床実習はプロジェクトセメスターが終了した 4 年生の 12 月から開始した。まず、11 月末から 2 月までプレクリニカルクラークシップ (PCC) として、実践的かつ総合的な学習を少人数の班ごとに行い、5 年生からクリニカルクラークシップ (CC) として病棟での実習に移行する。CC の学生には 1 グループ 2 週間の実習で実際の病棟の患者様を受け持ってもらい、腎臓内科疾患の勉強をしてもらった。学生には様々な腎臓内科疾患の病態についてより深く学んでもらうことができた。臨床実習中の鑑別診断演習（WoSAC（Workplace-based Student Assessment with Clinical reasoning focus））は担当した医員の先生が患者さん役となり、診療技術を磨きながら鑑別診断と検査 · 治療方針を述べさせるトレーニングであり、これまでどおり行った。そして実習の最後には教員による総括を行っている。また 6 年生についても、1 クール 2 名までの 2 週間の実習を受けて入れている。アドバンスドコースとして、より高いレベルの到達目標と学習機会を設け意欲的に取り組んでもらっている。これらは学生指導を受け持っている医員とスタッフの先生たちの努力の賜物と考えている。
その他、歯学部、保健衛生学科、歯科衛生士、修士などの講義や試験も腎臓内科の教員によって行われた。

『卒後教育』
卒後２年間の初期研修後、後期研修として大学および関連病院にて腎臓内科専門医としての研修を行い、この間に臨床での未解決の問題について自覚を持つように指導、常にものの本質を見つけようとする姿勢を持ったアカデミック · ドクターの育成を目指している。大学院での研究活動は活発であり、最先端の研究を行うことにより、基礎と臨床の双方に秀でた医師の育成を行っている。

(4) 臨床活動および学外活動

2023 年 3 月には国のマスク原則解除指針が示され、大学の診療体制もコロナ感染対策の大幅な緩和措置がとられ、約 3 年の長きにわたって翻弄された新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ始め、日常の姿を取り戻しつつある一年であった。大半の科で減少に転じていた紹介患者数も徐々に回復しつつあり、腎臓内科の入院 · 外来患者数、稼働額ともにコロナ前の水準には及ばないものの、近い水準までは戻りつつある。コロナ感染症流行時期に一度中止していた外来通院維持透析についても順次再開し、徐々に患者数も増加している。
大学正面にあり、長らく建設中であった「機能強化棟」も 10 月 1 日より正式にオープンし、救命救急センター、救急（ER）外来、ICU、ER 病棟の移転、ハイブリッド手術室の設置等により、救急患者の幅広い受け入れから最高水準の手術対応までが可能となった。2023 年末からはよりスムーズな専門外来予約を可能にすべく、全病院的に腎臓内科が先行して Office Bookings による web 予約システムを導入した。徐々に予約患者数も増加傾向にあり、さらなる集患を目指している。引き続き病診連携の強化、透析合併症外来の受診促進、腹膜透析件数の増加、日帰り入院 PTA の増加、希少腎臓難病の診断 · 治療策の拡充などを通じて診療体制を充実させていきたいと考えている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Hara M, Mandai S*, Mori T, Maejima Y, Uchida S. Takayasu arteritis manifesting as acute kidney injury and congestion due to renal artery stenosis and myocarditis: a case report. Eur Heart J Case Rep. 2024.08; 8(8); ytae347

2. Ikenouchi K, Takahashi D, Mandai S*, Watada M, Koyama S, Hoshino M, Takahashi N, Shoda W, Kuyama T, Mori Y, Ando F, Susa K, Mori T, Iimori S, Naito S, Sohara E, Fushimi K, Uchida S. Impact of COVID-19 versus other pneumonia on in-hospital mortality and functional decline among Japanese dialysis patients: a retrospective cohort study. Sci Rep. 2024.03; 14(1); 5177

3. Hashimoto H, Mandai S*, Shikuma S, Kimura M, Toma H, Sakaguchi Y, Kimura M, Ota J, Chiba Y, Sakai K, Horiuchi S, Adachi S, Uchida S.. Hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase domain inhibitors may mitigate loss of skeletal muscle mass in haemodialysis patients JCSM Rapid Commun. 2024.01;

4. Nagaoka K, Suemitsu T, Kawai K, Suzuki T, Mori T, Tajima A, Suzuki M, Ohara M. Gitelman syndrome and in vitro fertilization-embryo transfer: advancing preconception care in nephrology. CEN case reports. 2024.12; 13(6); 484-488

5. Takayasu Mori, Takuya Fujimaru, Chunyu Liu, Karynne Patterson, Kouhei Yamamoto, Takefumi Suzuki, Motoko Chiga, Akinari Sekine, Yoshifumi Ubara, Danny E Miller, Miranda P G Zalusky, Shintaro Mandai, Fumiaki Ando, Yutaro Mori, Hiroaki Kikuchi, Koichiro Susa, , Jessica X Chong, Michael J Bamshad, Yue-Qiu Tan, Feng Zhang, Shinichi Uchida, Eisei Sohara. CFAP47 is Implicated in X-Linked Polycystic Kidney Disease. Kidney Int Rep. 2024.12; 9(12); 3580-3591

6. Miuzno S., Noda T., Mogushi K., Hase T., Iida Y., Takeuchi K., Ishiwata Y., Uchida S., Nagata M.. Prediction of vancomycin-associated nephrotoxicity based on the area under the concentration-time curve of vancomycin: a machine learning analysis Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2024.11; 47(11); 1946-1952

7. Yanagi, T; Kikuchi, H; Takeuchi, K; Susa, K; Mori, T; Chiga, M; Yamamoto, K; Furukawa, A; Kanazawa, T; Kato, Y; Takahashi, N; Suzuki, T; Mori, Y; Carter, BC; Mori, M; Nakano, Y; Fujiki, T; Hara, Y; Suzuki, S; Ando, F; Mandai, S; Honda, S; Torii, S; Shimizu, S; Tanaka, H; Fujii, Y; Rai, T; Uchida, S; Sohara, E. ULK1-regulated AMP sensing by AMPK and its application for the treatment of chronic kidney disease KIDNEY INTERNATIONAL. 2024.11; 106(5); 887-906

8. Yuta Nakano, Shintaro Mandai, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Kiyohide Fushimi, Shinichi Uchida. Nationwide mortality following acute type B aortic dissection and the survival advantage of obesity among dialysis patients in Japan. J Nephrol. 2024.11;

9. Fujimaru T, Mori T, Sekine A, Chiga M, Mandai S, Kikuchi H, Mori Y, Hara Y, Fujiki T, Ando F, Susa K, Iimori S, Naito S, Hanazawa R, Hirakawa A, Mochizuki T, Suwabe T, Ubara Y, Uchida S, Sohara E. Importance of IFT140 in Patients with Polycystic Kidney Disease Without a Family History. Kidney international reports. 2024.09; 9(9); 2685-2694

10. Hajime Tanaka, Yuki Fukawa, Kouhei Yamamoto, Kousuke Tanimoto, Akira Takemoto, Takayasu Mori, Hisashi Hasumi, Mayumi Kinoshita, Takumi Kanazawa, Asuka Furukawa, Koichiro Kimura, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Steven C Campbell, Yasuhisa Fujii. Prognostic impact and genomic backgrounds of renal parenchymal infiltration or micronodular spread in non-metastatic clear cell renal cell carcinoma. Mod Pathol. 2024.08; 100590

11. Yuta Nakano, Shintaro Mandai, Daiei Takahashi, Ken Ikenouchi, Yutaro Mori, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Soichiro Iimori, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Kiyohide Fushimi, Shinichi Uchida. Sex disparities in the risk of urgent dialysis following acute aortic dissections in Japan. iScience. 2024.08; 27(8); 110577

12. Nobuhisa Morimoto, Hasan Jamil, Mohab Alakkari, Yuki Joyama, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Soichiro Iimori. Associations between dietary potassium intake and urinary potassium excretion: a protocol for systematic review and meta-analysis. Syst Rev. 2024.07; 13(1); 185

13. Hiroki Nobayashi, Tomomichi Iida, Takuya Fujimaru, Takayasu Mori, Yumi Ito, Hiroyuki Ueda, Eisei Sohara, Shinichi Uchida, Ryuji Aoyagi, Takashi Yokoo. Autosomal-dominant tubulointerstitial kidney disease with a novel UMOD mutation, overlapping with Sjogren's syndrome: a case report. CEN Case Rep. 2024.07;

14. Nobuhisa Morimoto, Shingo Shioji, Yuichiro Akagi, Tamami Fujiki, Shintaro Mandai, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Wataru Akita, Akihito Ohta, Shinichi Uchida, Soichiro Iimori. Associations between dietary potassium intake from different food sources and hyperkalemia in patients with chronic kidney disease. Journal of Renal Nutrition. 2024.04;

15. Fujimaru T, Mori T, Chiga M, Mandai S, Kikuchi H, Ando F, Mori Y, Susa K, Nakano Y, Shoji T, Fukudome Y, Inaba N, Kitamura K, Nakanishi T, Uchida K, Kimura T, Tamura T, Ozawa K, Uchida S, Sohara E. Genetic Diagnosis of Adult Hemodialysis Patients With Unknown Etiology. Kidney international reports. 2024.04; 9(4); 994-1004

16. Mori T, Fujimaru T, Liu C, Patterson K, Yamamoto K, Suzuki T, Chiga M, Sekine A, Ubara Y, Miller DE, Zalusky MP, Mandai S, Ando F, Mori Y, Kikuchi H, Susa K, University of Washington Center for Rare Disease Research, Chong JX, Bamshad MJ, Tan YQ, Zhang F, Uchida S, Sohara E. CFAP47 is a novel causative gene implicated in X-linked polycystic kidney disease. medRxiv : the preprint server for health sciences. 2024.04;

17. Yuki Nakao, Yutaro Mori, Makiko Mori, Shintaro Mandai, Tamami Fujiki, Hiroaki Kikuchi, Fumiaki Ando, Koichiro Susa, Takayasu Mori, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii, Eisei Sohara, Shinichi Uchida. Recapitulation of Cellular Senescence, Inflammation, and Fibrosis in Human Kidney-Derived Tubuloids by Repeated Cisplatin Treatment medRxiv. 2024.03; 2024.03.17.24304404

18. Hata M, Mori T, Hirose Y, Nishida Y, Mandai S, Ando F, Susa K, Iimori S, Naito S, Sohara E, Rai T, Taguchi T, Tomii S, Ohashi K, Uchida S. A case of unexpected diagnosis of fibronectin glomerulopathy with histological features of membranoproliferative glomerulonephritis. BMC nephrology. 2024.01; 25(1); 25

1. 山村 あゆみ, 内藤 省太郎, 萬代 新太郎, 赤木 祐一朗, 森本 靖久, 塩路 慎吾, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. COVID-19 入院患者における電解質異常と予後の関係 臨床体液. 2024.08; 50; 34-37

[講演・口頭発表等]

1. Shintaro Mandai. Extracellular Vesicles in Kidney Diseases: Tiny Packages with Big Impact. Extracellular Vesicles in Vascular Calcification in CKD.. American Society of Nephrology Kidney Week 2024 2024.10.24

2. Shintaro Mandai. Oshima Award Lectures. Deciphering the roles of extracellular vesicles in chronic kidney disease and renal senescence. The 67th Annual Meeting of the Japanese Society of Nephrology 2024.06.28

3. Fujimaru T, Mori T, Sekine A, Chiga M, Mandai S, Kikuchi H, Mori Y, Hara Y, Fujiki T, Ando F, Susa K, Iimori S, Naito S, Suwabe T, Ubara Y, Uchida S, Sohara E.. Monoallelic PKHD1 Loss-of-Function Variants Could Be a Cause of Adult Polycystic Kidney Disease. ASN Kidney Week 2024 2024.10.26 San Diego

4. Kanamori T, Udagawa T, Okutsu M, Mori T, Sohara E, Uchida S.. A Missense Mutation in Exon 10 of WT1 Might Lead to Focal Segmental Glomerulosclerosis Due to Its Mislocalization and Downstream Dysregulation. ASN Kidney Week 2024 2024.10.25 San Diego

5. Takayasu Mori. The Significance of NGS Panel Genetic Testing in Chronic Kidney Disease. The 19th Fabry Disease Forum 2024.07.07 Tokyo/Web

6. Kikuchi H, Knepper MA, Sohara E, Uchida S. . Vasopressin-mediated beta-catenin phosphorylation and regulation of gene expression in renal collecting duct. . The 33rd Vasopressin Oxytocin Conference 2024.01.06 東京

1. 森崇寧. 心臓と腎臓の架け橋を守るために ～ARNI が持つ幅広いポテンシャル～. ARNI Hypertension Seminar 心腎連関を考える 2024.12.18 東京/Web

2. 森崇寧. 日常診療に多く潜在する遺伝性腎疾患を見抜くために〜高カリウム血症の治療意義を再考する〜. 第 14 回腎不全研究会 スポンサードセミナー 2024.12.07 東京

3. 森崇寧. 血圧だけ下げる薬はもう要らない？ 〜ARNI に期待する次世代の高血圧治療〜. 東村山市医師会講演会 2024.12.05 東京/Web

4. 森崇寧. CKD 診療と腎保護薬アップデート〜決して稀ではない「遺伝性腎疾患」という視点も含めて〜. 第 25 回日本糖尿病性腎症研究会 ランチョンセミナー 3 2024.11.30 東京

5. 森崇寧. CKD 患者診療アップデートと紹介のポイント〜心腎連関を見据えた SGLT2 阻害薬の活かし方〜. これからの CKD 診療を考える〜病薬 · 薬薬連携も含めて〜 2024.11.27 東京/Web

6. 原 悠, 藤田 雅子, 佐藤 梨沙, 宮崎 健太郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎. 機械学習に適した大規模腎エコー画像データセットの構築. 第 4 回日本腎 · 血液浄化 AI 学会学術集会 · 総会 2024.11.24

7. 森崇寧. 日常診療に潜在する遺伝性腎疾患へのアプローチ方法とその意義とは？ . 日常診療に潜在するファブリー病 2024.11.22 東京/Web

8. 森崇寧. クラウドファンディングで得られたもの〜腎臓病の未来に対する国民の想い〜. 研究×クラウドファンディングセミナー vol.1 2024.11.19 Web

9. 萬代新太郎. 「痛風腎」のメカニズムと治療：尿酸降下薬に腎臓は守れるか？ . 尿酸治療 Cross Talk-心腎連関編- 2024.11.14

10. 森崇寧. エンレスト錠で解決する上手な「減塩」アプローチ 〜心腎連関を見据えて〜. 酒田心腎連関を考える勉強会 2024.11.12 山形/web

11. 宮澤麟作, 森崇寧, 萬代新太郎, 菊池寛昭, 池ノ内健, 戸張佑美, 原悠, 藤木珠美, 森雄太郎, 安藤史顕, 須佐鉱一郎, 飯盛聡一郎, 内藤省太郎, 國枝純子, 大橋健一, 蘇原映誠, 内田信一. IgM-positive plasma cells-TIN に併発した遠位尿細管性アシドーシスに対しステロイド治療が奏効した一例. 第 56 回臨床体液研究会 2024.11.02 Web

12. 萬代新太郎. 膠原病関連腎疾患の診療: 腎臓内科医の立場から. Meet the Expert 2024.11.01

13. 森崇寧. 厳格な降圧治療を諦める前に 〜エンレスト錠の上手な活かし方〜. ARNI Web Seminar 〜これからの高血圧治療を再考する〜 2024.10.29 東京/Web

14. 森崇寧. 新しいガイドラインを踏まえた CKD の治療法〜日常診療で見過ごせない遺伝性腎疾患の診断 · 治療まで〜. Nephrology Expert Seminar 2024.10.17 東京/Web

15. 飯盛 聡一郎. 透析患者の骨粗鬆症をどう診断し治療するか. 心腎連携 WEB セミナー 2024.10.15

16. 森崇寧. 腎臓専門医が考える CKD 保存期の電解質管理の最適化. 電解質と CKD 治療の最前線 2024.10.08 東京/Web

17. 末永敦彦, 小野桃子, 広松悟, 橋本康平, 野中康徳, 宮園素明, 藤丸拓也, 森崇寧, 蘇原映誠. PKHD1 遺伝子変異が ADPKD の表現型に影響を与えた可能性が示唆された 1 例. 第 54 回日本腎臓学会西部学術大会 2024.10.05 姫路

18. 森崇寧. ARNI って本当はどうなんですか？ 〜腎臓内科医からエンレスト錠のススメ〜. 高血圧 Forum 〜腎臓内科医が診る高血圧診療〜 2024.10.01 茨城/Web

19. 野林大幹, 飯田倫理, 森崇寧, 青柳竜治, 横尾隆. 特徴的な病理所見により診断し得たシェーグレン症候群合併 ADTKD-UMOD の一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 2024.09.29 宇都宮

20. 宮野姿子, 渡邊芳, 川嶋萌, 川地慧子, 金井弘次, 森崇寧, 眞鍋俊. 常染色体優性アルポート症候群および ADPKD-IFT140 と診断した高齢男性の一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 2024.09.29 宇都宮

21. 大野和寿, 菱田英里華, 橋本麻美子, 小野祐子, 森崇寧, 増田貴博, 蘇原映誠, 秋元哲, 内田信一, 長田太助. COL4A4 ヘテロ接合性ミスセンス変異を認めた常染色体顕性アルポート症候群 (ADAS) の一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 2024.09.29 宇都宮

22. 鈴木竣也, 森崇寧, 萬代新太郎, 戸張佑美, 池ノ内健, 原悠, 藤木珠美, 菊池寛昭, 森雄太郎, 安藤史顕, 飯盛聡一郎, 須佐紘一郎, 内藤省太郎, 蘇原映誠, 内田信一. 紅麹を含む健康食品との関連が疑われた重症急性腎障害の一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 2024.09.29 宇都宮

23. 森崇寧. 遺伝子診断を腎臓病プレシジョン・メディスンに生かす　ーその意義と方法とはー. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 2024.09.29 宇都宮

24. 安部 聡宏, 内藤 省太郎, 萬代 新太郎, 池ノ内 健, 原 悠, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 須佐 紘一郎, 森 崇寧, 飯盛 聡一郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 急性腎障害に腎癌を併発し, 腎摘出時の開放腎生検で急性尿細管間質性腎炎と診断した一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 2024.09.28

25. 高野珠衣, 馬場健寿, 町村哲郎, 澁谷研, 涌井広道, 平和伸仁, 田村功一, 森崇寧, 内田信一. 低カリウム血症が Gitelman 症候群と判明した一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 2024.09.28 宇都宮

26. 森崇寧. 高血圧治療に「彩（いろどり）」を 〜ARNI を選択すべき症例とは？ 〜. DM-CKD-高血圧を考える会 2024.09.27 東京/Web

27. 森崇寧. 血圧治療だけではない、ARNI の本当の活用法. 高血圧 ×腎臓 × ARNI 2 2024.09.26 東京/Web

28. 森崇寧. 「心腎連関」という視点であらためて考える CKD 治療の最前線. 循環器および関連疾患を学ぶ会 〜心不全と CKD について〜 2024.08.29 東京/Web

29. 森崇寧. CKD 治療において ARNI の果たす役割とは？ 〜「塩分」管理に対する挑戦〜. 高血圧診療 JointMeeting 心臓×腎臓×糖尿病 2024.08.27 東京/Web

30. 森崇寧. 高血圧患者の日常診療を再考する 〜エンレスト錠を使うのはどういう時？ 〜. 腎臓を考慮した明日からできる高血圧治療 〜薬物治療×地域連携〜 2024.07.26 船橋/Web

31. 森崇寧. 降圧目標未達の患者にどう向き合うか 〜エンレストに期待すること〜. 高血圧診療を再考する 〜多職種連携での血圧管理〜 2024.07.17 Web

32. 飯盛 聡一郎. SGLT2 阻害薬と腎疾患の管理：新たな可能性. CKD と心不全：治療の新たな展望 2024.07.16

33. 森崇寧. エンレストによる心腎連関へのクリティカル・アプローチ. 心疾患連携懇話会 2024.07.05 東京/Web

34. 須佐　紘一郎. CKD 診療を変え得る医療 DX と医工連携 -オンライン診療から腎臓再生まで- . 第 41 回城西地区透析若手医師の会 2024.07.04 東京

35. 森崇寧. 教育講演 15　初学者のための遺伝子変異に伴う電解質酸塩基平衡異常（成人編）. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.30 横浜

36. 藤丸拓也, 蘇原映誠, 森崇寧, 関根章成, 千賀宗子, 萬代新太郎, 菊池寛昭, 森雄太郎, 原悠, 藤木珠美, 安藤史顕, 須佐紘一郎, 飯盛聡一郎, 内藤省太郎, 諏訪部達也, 乳原喜文, 内田信一. PKHD1 のヘテロ接合性バリアントは常染色体顕性多発性嚢胞腎の原因となり得る. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.30 横浜

37. 菊池 寛昭, 蘇原 映誠, 平川 晃弘, 森 雄太郎, 森 崇寧, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 伏見 清秀, 内田 信一. ビグアナイド薬内服は COVID-19 患者における急性腎障害の低発症率, 低死亡率に関与する　日本全国規模調査. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.30

38. 中野 雄太, 萬代 新太郎, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 伏見 清秀, 内田 信一. 急性大動脈解離による国内 11 年間の緊急透析リスクと性差. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.30

39. 森崇寧. 成人の水電解質異常症アップデート ー遺伝子解析からみた答え合わせー. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.30 横浜

40. 池ノ内 健, 萬代 新太郎, 高橋 大栄, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 伏見 清秀, 内田 信一. 性別, 体格と腎生検後の輸血リスクの関連. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.29

41. 須佐　紘一郎. どうする!?水・電解質異常治療の Controversy Update　サイアザイドは進行した CKD にも有効か?　心腎連関と体液管理. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.29 横浜

42. 高橋 大栄, 萬代 新太郎, 池ノ内 健, 小山 紗佑実, 綿田 水月, 星野 幹, 正田 若菜, 久山 環, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 伏見 清秀, 内田 信一. 年齢・臨床診断による経皮的腎生検後の輸血・血管内治療リスクの解析. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.28

43. 萬代新太郎. 多臓器間ネットワークによる生体恒常性維持機構を紐解く創発的研究. 細胞外小胞の制御による慢性腎臓病と腎性老化の克服.. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.28

44. 安藤　史顕. 腎臓学を超えて異分野へ波及する水電解質研究 腎臓学における水電解質研究の最前線. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024.06.28

45. 飯盛 聡一郎. 透析患者の骨粗鬆症. 腎臓病の肝腎かなめ 2024.06.20

46. 36. 須佐 紘一郎, 田中 佑樹, 内田 大貴, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. . 顕微鏡的多発血管炎再燃を呈した透析患者へのアバコパン使用経験. 第 69 回日本透析医学会学術集会総会 2024.06.09 横浜

47. 熊谷 彩花, 森本 靖久, 塩路 慎吾, 原 悠, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 萬代 新太郎, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 透析非導入の翻意により重症尿毒症状態で晩期導入となった一例. 第 69 回日本透析医学会学術集会 · 総会 2024.06.08

48. 野城 仁志, 森本 靖久, 塩路 慎吾, 藤木 珠美, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 萬代 新太郎, 森 崇寧, 飯盛 聡一郎, 須佐 紘一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 維持血液透析中に右腎巨大血腫が出現し保存加療で改善した一例. 第 69 回日本透析医学会学術集会 · 総会 2024.06.07

49. 中野 雄太, 萬代 新太郎, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 伏見 清秀, 内田 信一. 維持透析患者における急性 B 型大動脈解離の院内死亡リスクと BMI との関連. 第 69 回日本透析医学会学術集会 · 総会 2024.06.07

50. 滝島茂, 山野春樹, 佐藤薫, 松田希, 森崇寧, 蘇原映誠, 内田信一, 高澤啓, 鹿島田健一, 長谷川毅. 成長ホルモン分泌不全性低身長（GHD）を合併した Gitelman 症候群（GS）の成長経過. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 横浜

51. 柳川 英輝, 安藤 史顕, 原 悠, 及川 大輔, 七松 東, 鈴木 聡一郎, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 萬代 新太郎, 森 雄太郎, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 蘇原 映誠, 徳永 文稔, 内田 信一. LRBA は水と塩の恒常性を同時に制御する. 日本腎臓学会誌 2024.06.01

52. 森 槙子, 森 雄太郎, 仲尾 祐輝, 萬代 新太郎, 原 悠, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. SGLT2 阻害薬の尿細管上皮に対する腎保護作用の解明. 日本腎臓学会誌 2024.06.01

53. 鈴木 健文, 須佐 紘一郎, 柳 智貴, 中野 雄太, 原 悠, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 安藤 史顕, 萬代 新太郎, 森 雄太郎, 森 崇寧, 内田 信一, 蘇原 映誠. ヒト iPS 細胞を用いたネフロン癆病態モデル腎オルガノイドの作製. 日本腎臓学会誌 2024.06.01

54. 菊池 寛昭, 蘇原 映誠, 磯部 清志, 森 崇寧, 安藤 史顕, 須佐 紘一郎, 内田 信一. β カテニン Ser552 残基のリン酸化が TCF/LEF 転写活性の抑制を介してバゾプレシンシグナルを制御する. 日本腎臓学会誌 2024.06.01

55. 森崇寧. 心腎連関治療の一挙両得 〜心血管病患者の明日のために今できること〜. ARNI Web Symposium 2024.05.29 東京/Web

56. 森崇寧. 『迅速』『確実』な降圧治療に何を選ぶ？ . ARNI Web Symposium in 多摩　2024.05.22 東京/Web

57. 熊谷 彩花, 森本 靖久, 塩路 慎吾, 原 悠, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 萬代 新太郎, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 飯盛 聡一郎, 内藤 省太郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 透析非導入の翻意により重症尿毒症状態で晩期導入となった一例. 日本透析医学会雑誌 2024.05.01

58. 森崇寧. 高血圧治療の明日を見据えて今できる選択. たいとう学術講演会 (台東区医師会) 2024.04.10 東京/Web

59. 森崇寧. 心腎連関を見据えた高血圧治療アプローチ. ARNI 高血圧 Collaboration Web Seminar in Tokyo 2024.04.04 東京/Web

60. 藤木 珠美, 安藤 史顕, 長岡 可楠子, 原 悠, 菊池 寛昭, 森 雄太郎, 萬代 新太郎, 須佐 紘一郎, 森 崇寧, 蘇原 映誠, 内田 信一. 脂肪を分解しない熱産生薬の開発は新しい肥満症の治療戦略である. 糖尿病 2024.04.01

61. 森崇寧. ポリファーマシー時代に変革の一手 〜多能性降圧薬としてのエンレストを再考する〜. ARNI Web Symposium 2024.03.12 東京/Web

62. 森崇寧. 糖尿病患者にこそ ARNI を勧める理由 〜エンレストが真価を発揮する症例とは〜. ARNI Yokohama Web Symposium 2024.03.06 東京/Web

63. 森崇寧. いま一度考えたい、高カリウム治療の意義〜ロケルマ処方の TIPs とは〜. LOKELMA Online Symposium 人生 100 年時代の Quality of Life 電解質管理を考える会 2024.02.28 東京/Web

64. 萬代新太郎. CKD と多臓器間相互作用 —血管石灰化とオステオサルコペニア—. 第 45 回 MBD-21 研究会 2024.02.17 東京

65. 森崇寧. 塩を制して高血圧治療を制す ～エンレストの多彩な薬効に裏打ちされた理想的な血圧治療～. ARNI Nephrology Web Symposium 2024.02.07 東京/Web

66. 森崇寧. いままでの降圧薬と何が違うの？ ～ARNI が可能にした血圧のマルチターゲット治療～. ARNI Lunch Web Symposium 2024.01.23 東京/Web

67. 森崇寧. ARNI 処方はまだこれからという先生へ ～エンレストの多彩な利点と最適な症例の考察～. ARNI Expert Meeting in 杉並 2024.01.19 東京/Web

68. 1. 柳川 英輝、原 悠、安藤 史顕、藤木 珠美、萬代 新太郎、森 雄太郎、須佐 紘一郎、森 崇寧、蘇原 映誠、内田 信一.. LRBA 複合体はリサイクリングエンドソームにおいて AQP2 を効率的に活性化し尿量を調節する. 第 33 回バゾプレシン研究会 2024.01

[受賞]

1. 第 33 回 バソプレシン · オキシトシン研究会　Best English Presentation 賞, 第 33 回 バソプレシン · オキシトシン研究会, 2024 年 01 月
2. 東京都医師会医学研究賞, 2024 年 03 月
3. 東京医科歯科大学医科同窓会研究奨励賞受賞, 2024 年 03 月
4. 2023 年度　第 37 回 東京医科歯科大学　医科同窓会　研究奨励賞, 東京医科歯科大学医科同窓会, 2024 年 03 月
5. UJA 論文賞　2024, 2024 年 05 月
6. 2024 UJA Outstanding Paper Award, UJA (United Japanese researchers Around the world), 2024 年 05 月
7. 大島賞, 一般社団法人日本腎臓学会, 2024 年 06 月
8. 東京医科歯科大学医師会賞 , 2024 年 06 月
9. 第 67 回日本腎臓学会学術総会「優秀演題賞」, 日本腎臓学会, 2024 年 06 月
10. 公益財団法人母子健康協会 令和 6 年度小児医学研究助成, 2024 年 10 月
11. 公益財団法人臨床薬理研究振興財団　研究奨励金, 2024 年 11 月
12. 公益財団法人小野医学研究財団 研究奨励助成, 2024 年 12 月

[その他業績]

1. 「 成人の慢性腎臓病透析患者に潜む遺伝性腎疾患を解明 」 —未診断の遺伝性腎疾患が 10 %を超えて隠れている—, 2024 年 02 月
   Kidney International Reports
2. 「 成人の慢性腎臓病透析患者に潜む遺伝性腎疾患を解明 」 —未診断の遺伝性腎疾患が 10 %を超えて隠れている— , 2024 年 02 月
   Kidney International Reports
3. 森崇寧. 【司会】東京腎臓病ネットワーク研究会～腎領域の次世代を担う会～, 2024 年 02 月
4. Genetic Analysis Reveals True Origin of Chronic Kidney Disease in Undiagnosed Patients, 2024 年 04 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
5. Genetic Analysis Reveals True Origin of Chronic Kidney Disease in Undiagnosed Patients, 2024 年 04 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
6. 医学科第 4 学年 仲尾 祐輝さんが、 第 121 回日本内科学会ことはじめで優秀演題賞を受賞しました, 2024 年 04 月

7. 「　家族歴のない成人の多発性嚢胞腎患者の遺伝学的背景を明らかにした　」—　新規遺伝子である IFT140 を原因とする患者が多く存在している　—, 2024 年 07 月
Kidney International Reports

8. 「　家族歴のない成人の多発性嚢胞腎患者の遺伝学的背景を明らかにした　」—　新規遺伝子である IFT140 を原因とする患者が多く存在している　—, 2024 年 07 月
Kidney International Reports

9. 「　急性大動脈解離後の緊急透析リスクに男女差　」 —　女性では虚血性の急性腎障害が軽症化しやすい可能性　—, 2024 年 08 月
iScience

10. 「　急性大動脈解離後の緊急透析リスクに男女差　」 —　女性では虚血性の急性腎障害が軽症化しやすい可能性　—, 2024 年 08 月
iScience

11. Genetic analysis sheds light on the role of IFT140 in polycystic kidney disease, 2024 年 09 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

12. エネルギー代謝のマスタースイッチ AMPK エネルギー感受性は制御されていた —その破綻が招く慢性腎臓病増悪機構の解明と治療応用—, 2024 年 10 月
Kidney International

13. エネルギー代謝のマスタースイッチ AMPK エネルギー感受性は制御されていた —その破綻が招く慢性腎臓病増悪機構の解明と治療応用—, 2024 年 10 月
Kidney International

14. 指定難病多発性嚢胞腎の新しい原因遺伝子「CFAP47」を発見 —稀な X 連鎖遺伝による新たな腎疾患メカニズムの解明—, 2024 年 10 月
Kidney International Reports

15. 指定難病多発性嚢胞腎の新しい原因遺伝子「CFAP47」を発見 —稀な X 連鎖遺伝による新たな腎疾患メカニズムの解明—, 2024 年 10 月
Kidney International Reports

[社会貢献活動]

1. 萬代新太郎. 内科専攻医　査読委員（J-OSLER）, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
2. 安藤史顕. 日本腎臓学会　基礎研究推進小委員会, 2022 年 08 月 01 日 - 現在
3. 安藤史顕. 第 67 回日本腎臓学会学術総会 プログラム委員会, 2023 年 07 月 01 日 - 現在
4. 森雄太郎. Frontiers in Bioscience-Landmark 論文査読, IMR Press, 2023 年 11 月 01 日 - 2024 年 01 月 25 日
5. 森雄太郎. Physiology 論文査読, American Physiological Society, 2023 年 12 月 03 日 - 2024 年 01 月 04 日
6. 内田信一. 第 67 回日本腎臓学会学術総会につきまして, 株式会社九州医事新報社, 関東医事新報社, 2024 年 03 月 05 日 - 2024 年 05 月 25 日
7. ファンコーニ症候群, ラジオ NIIKEI, ドクターサロン, 2024 年 07 月 16 日 - 2024 年 08 月 08 日

生殖機能協関学

Comprehensive Reproductive Medicine

2024.1.1-2024.12.31

教授	宮坂尚幸
准教授	吉木尚之
寄附講座教授	寺内公一 [茨城県地域産科婦人科学講座]
講師	若菜公雄、関口将軌（8 月-）、大島乃里子
寄附講座准教授	石川智則 [小児 · 周産期地域医療学講座]
助教	岩原由樹、関口将軌（-7 月）羅こてい、廣瀬明日香、不殿絢子、髙尾茉希（-3 月） 櫻井香織（4 月-）、光井潤一郎（4 月-）
寄附講座助教	齊藤和毅 [小児 · 周産期地域医療学講座] 郡悠介　[小児 · 周産期地域医療学講座] 尾臺珠美 [茨城県地域産科婦人科学講座]（-3 月）（10 月-）
医員	石川 郁乃 (-1 月)、三浦貴大、倉富 由理 (-3 月)、近藤有紀（4 月-）、髙知佑輔
大学院（博士課程）	岩田みさ子（社会人）、光井潤一郎（-3 月）、 江野口祐佳（社会人）、勝又翔子（社会人）、瀬賀雅康、吉野育典（社会人） 寺本有里、髙尾茉希（4 月-）

(1)　分野概要

国立大学大学院の臨床医学分野の一つとして診療、教育、研究を行い、また地域医療機関と密接な相互協力を維持することを目的に運営されている。診療においては、医療の向上を絶えず希求し、医の倫理と患者の人権を尊重しながら高度の医学知識と医療技術の修得を目指す。教育においては、思春期より更年期 · 老年期までの一連の流れの中での女性の生理的 · 病的現象の系統的な理解が得られるよう努めている。研究では、臨床教室での研究であることを常に念頭におき、独創的な発想と視点から問題の解決に取組み、研究の領域は生殖医学、腫瘍学、周産期医学および女性医学に及んでいる。

(2)　研究活動

1) 生殖生理 · 内分泌 · 代謝に関する研究
　生殖機能を卵胞の発育、雌雄の配偶子、受精 · 着床から妊娠、分娩 · 産褥に至るまでの生理および病態について、産婦人科診療における臨床研究を行うとともに、ヒトおよび実験動物の生殖臓器から得た細胞の培養系を用いて、内分泌学的 · 免疫学的 · 機能形態学的な解明を行っている。特に、局所ホルモンとしての各種成長因子、サイトカイン、血管内皮由来物質の女性生殖機能に対する調節機構について検討を行っている。
2) 加齢に伴う身体機能の変化に関する研究
　更年期の婦人科臨床で問題となる更年期障害や骨粗鬆症、動脈硬化症、脳機能の変化などの病態の解明と治療法の確立をめざした基礎 · 臨床の研究を多面的に行っている。
3) 婦人科悪性腫瘍の病理形態学的研究
　子宮癌、子宮肉腫、卵巣癌、絨毛癌などの新しい診断、治療法の開発を目的に、腫瘍細胞の増殖、転移に伴う機能 · 形態的変化を生化学と病理形態学的に追求している。
　また、婦人科腫瘍での血管新生に関する生化学的研究にも着手している。
4) 周産期医学に関する研究
　子宮内胎児の発育、胎児治療に関する実験および臨床的研究と、子宮内の胎児環境を形成する胎児、胎盤、羊水系の内分泌学的検討並びに幼若ラット脳血流遮断による脳障害に対する MRI 及び病理組織学的検討を行っている。

特徴とする研究方法
1) 卵巣顆粒膜細胞、ヒト子宮内膜 · 脱落膜 · 絨毛細胞、ヒト子宮筋細胞 · 筋腫細胞、マウス卵や初期胚、婦人科腫瘍細胞、骨芽細胞、破骨細胞などを用いた細胞培養実験。
2) 卵巣顆粒膜細胞やヒト精子を用いた細胞内カルシウム濃度の測定（Fura-2AM 法、パッチクランプ法）。
3) 細胞内 DNA 合成能を測定（サイアミン取り込み実験）。
4) 血清、尿、卵胞液、羊水中の種々のホルモン測定（RIA 法、EIA 法）。
5) 種々のホルモンの膜受容体結合能の測定。
6) ABC 法による免疫組織学的検討。
7) 電子顕微鏡による細胞の超微形態学的な分析。
8) 細胞内カルシウムや pH の変動の解析（共焦点レーザー顕微鏡）。
9) ノーザン · プロット法、ウエスタン · プロット法や RT-PCR 法による分子生物学的検討。
10) ラット子宮筋や頸動脈血管の収縮能の検討（マグヌス装置）。
11) ラットの脳血流や脳障害における MRI による分析。
12) フローサイトメトリー法によるタンパク発現の解析
13) Matrigel-coated invasion chamber を用いた培養細胞の浸潤能の検討
14) タネル法などによる培養細胞のアポトーシスの検討

(3) 教育活動

医学部医学科の産科婦人科学、保健衛生学科の母性 · 婦人科学の教育を担当している。講義には系統講義のほかに症例を中心とした学生自身のプレゼンテーションも含んだ臨床講義、さらに学外の非常勤講師による特別講義を行っている。クリニカルクラークシップでは外来および病棟においてできるだけ early exposure を取り入れ、学生は外来担当指導医 · 病棟担当指導医 · 研修医からなる受け持ち医師チームの一員として行動し、積極的に分娩に立会い、婦人科的な処置や手術に出来るだけ参加する。
また、産婦人科領域での up date な知識 · 情報を小グループ学習にて提供し、教育関連病院での実地臨床を経験する機会を用意している。

(4) 臨床上の特色

難治性不妊症の治療には、内視鏡検査を積極的に導入し、体外受精 · 胚移植法により好成績が得られている。中高年女性の健康管理を専門とする外来を設け、QOL を主眼とした治療を行い、DEXA 法による骨量測定、血管機能検査、乳房検診、自律神経機能検査、ホルモン補充療法などを行っている。また、管理栄養士、臨床心理士による生活指導やカウンセリングを含む全人的なヘルスケアを行っている。産科ではＬＤＲを設置し分娩症例の増加を目指すとともに、NICU 開設に伴い、低体重出生児や合併症をもった妊娠例を管理している。悪性腫瘍患者の治療には、関連診療科と協力し根治性の高い手術療法に取り組み、化学療法、放射線療法を駆使して良好な治療成績を得ている。良性卵巣腫瘍や子宮内膜症には腹腔鏡下手術も積極的に施行し、手術症例が増加している。

(5) 研究業績

[原著]

1. Asuka Hirose, Masakazu Terauchi, Tamami Odai, Ayako Fudono, Kotoi Tsurane, Masaki Sekiguchi, Misako Iwata, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Naoyuki Miyasaka. Postpartum hair loss is associated with anxiety. J Obstet Gynaecol Res. 2024.12; 50(12); 2239-2245

2. Hiroki Noguchi, Takeshi Iwasa, Akira Iwase, Haruhiko Kanasaki, Fuminori Kimura, Koji Kugu, Kazuki Saito, Tsuyoshi Baba, Tetsuaki Hara, Toshiya Matsuzaki. Phenotypes and clinical laboratory data for polycystic ovary syndrome cases: A nationwide survey in Japan. J Obstet Gynaecol Res. 2024.12; 50(12); 2346-2356

3. Yurie Nako, Kuniaki Ota, Toshio Sujino, Junichiro Mitsui, Hisae Kamo, Shoko Katsumata, Yuko Takayanagi, Makiko Tajima, Tomonori Ishikawa, Akira Komiya, Kiyotaka Kawai. A Large Study About Reproductive Factors That Predict Hysterosalpingography-Identified Tubal Pathology: An Insight into the Necessity of Preconception Screening. J Clin Med. 2024.12; 14(1);

4. Yamanaka-Mitsui S, Oshima N, Odai T, Takao M, Wakana K, Akashi T, Tsuchiya J, Miyasaka N. Primary ovarian neuroendocrine carcinoma expressing substantially intense (18)F-FDG uptake: A case report. Radiology case reports. 2024.10; 19(10); 4445-4450

5. Muhammad FG. Siregar, Masakazu Terauchi, Jonathan T. Lumbantobing, Hotma P. Pasaribu, Muhammad O. Prabudi, Edy Ardiansyah, Iman H. Effendi, Immanuel DL. Tobing, Selly Azmeila and Nabila Nabila. Role of serum estradiol and C-telopeptide on musculoskeletal pain in menopausal women menopausal women Narra J. 2024.08; 4(2); e747

6. Kana Yoshimi, Fumi Inoue, Tamami Odai, Nahoko Shirato, Zen Watanabe, Tempei Otsubo, Masakazu Terauchi, Takashi Takeda. Practical diagnosis and treatment of premenstrual syndrome and premenstrual dysphoric disorder by psychiatrists and obstetricians/gynecologists in Japan Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2024.08; 3; e234

7. Masakazu Terauchi, Yuki Ideno, Kunihiko Hayashi. Effect of shift work on excessive daytime sleepiness in female nurses: results from the Japan nurses' health study. Ind Health. 2024.07; 62(4); 252-258

8. Mayumi Ohtsuka, Tohru Yamaguchi, Sachiko Oishi, Koichi Misawa, Atsushi Suzuki, Masanobu Hibi, Masakazu Terauchi. Supplementation with cassis polyphenol has no effect on menopausal symptoms in healthy middle-aged women: A randomized, double-blind, parallel-group, placebo-controlled trial Nutrition Research. 2024.06; 126; 14-22

9. Noguchi H, Iwasa T, Iwase A, Kanasaki H, Kimura F, Kugu K, Saito K, Baba T, Hara T, Matsuzaki T. Cut-off value for anti-Müllerian hormone in the diagnostic criteria for polycystic ovary syndrome in the Japanese population. The journal of obstetrics and gynaecology research. 2024.06;

10. Odai T, Oshima N, Kori Y, Takao M, Wakana K, Miyasaka N. Pleomorphic Rhabdomyosarcoma of the Uterine Corpus in an Adult Who Underwent Multi-gene Panel Testing. Cancer diagnosis & prognosis. 2024.05; 4(3); 363-369

11. Muhammad FG. Siregar, Masakazu Terauchi, Rizka A. Sari, Cut A. Adella, Muhammad O. Prabudi, Melvin NG. Barus, Riza Rivany, Immanuel DL. Tobing, Selly Azmeila. Comparison of leptin and estrone levels between normal body mass index and obese menopausal women Narra J. 2024.05; 4(2); e745

12. Masaki Sekiguchi, Jin Muromoto, Kohei Ogawa, Katsusuke Ozawa, Naoyuki Miyasaka, Haruhiko Sago. Longitudinal hematological change in uncomplicated twin pregnancies: The white blood cell count decreases through pregnancy after the first trimester. Taiwan J Obstet Gynecol. 2024.05; 63(3); 381-386

13. Terada S, Nishimura H, Miyasaka N, Fujiwara T*. Ambient temperature and preterm birth: A case-crossover study. BJOG. 2024.04; 131(5); 632-640

14. Muranishi Y, Kobori Y, Katoh-Fukui Y, Tamaoka S, Hattori A, Osaka A, Okada H, Nakabayashi K, Hata K, Kawai T, Ogata-Kawata H, Iwahata T, Saito K, Kon M, Shinohara N, Fukami M. Systematic molecular analyses for 115 karyotypically normal men with isolated non-obstructive azoospermia. Human reproduction (Oxford, England). 2024.03;

15. Mitsui J, Ibayashi M, Aizawa R, Ishikawa T, Miyasaka N, Tsukamoto S. Lipid droplets synthesized during luteinization are degraded after pregnancy. The Journal of reproduction and development. 2024.02;

16. Egawa M, Ikeda M, Miyasaka N, Harada-Shiba M, Yoshida M. Physicians' Perspective Toward Hypertensive Disorders of Pregnancy and Future Cardiovascular Diseases in Japan. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2024.02;

17. Shiori Kumazawa, Kazuki Saito, Nanako Hashido, Rinko Ibi, Tomonori Ishikawa, Akira Wakabayashi, Naoyuki Miyasaka. Reinfusion of peritoneal fluid elevates the level of plasma D-dimer in patients with early-onset ovarian hyperstimulation syndrome. Reproductive Medicine and Biology. 2024.02; 23(1); e12563

18. Kumazawa Shiori, Saito Kazuki, Hashido Nanako, Ibi Rinko, Ishikawa Tomonori, Wakabayashi Akira, Miyasaka Naoyuki. Reinfusion of peritoneal fluid elevates the level of plasma D-dimer in patients with early-onset ovarian hyperstimulation syndrome(タイトル和訳中) Reproductive Medicine and Biology. 2024.02; 23(1); 1 of 7-7 of 7

19. Suzuki Takuma, Tsurane Kotoi, Umemoto Tomoyuki, Sasano Tetsuo, Ushiki Eiko, Fudono Ayako, Hirose Asuka, Sekiguchi Masaki, Miyasaka Naoyuki. PCSK9 inhibitor use during pregnancy in a case of familial hypercholesterolemia complicated with coronary artery disease(タイトル和訳中) The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2024.01; 50(1); 128-132

1. 羅 ことい, 寺内 公一. 【つながる内分泌学-古典的な内分泌学から多分野への新たな展開-】小児から成育につながる　新しい内分泌学　プレコンセプションケアを考える 小児科診療. 2024.10; 87(10); 1377-1382

2. 桑原一嘉, 吉野育典, 間野ちひろ, 日下部美佐子, 佐藤達也, 中村玲子, 谷川道洋, 八杉利治, 喜納奈緒. 子宮体癌に対するロボット支援腹腔鏡下手術後に発症したポートサイトヘルニアの 2 例 東京産科婦人科学会会誌 (2186-0599). 2024.10; 73(4); 763-768

3. 今村 結香, 大島 乃里子, 高尾 茉希, 倉富 由理, 郡 悠介, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. レンバチニブメシル酸塩/ペムブロリズマブ併用療法開始 19 ヵ月で自己免疫性脳炎を生じた子宮体癌の 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2024.10; 73(4); 769-774

4. 嶋田 未知, 大島 乃里子, 間野 ちひろ, 岩原 由樹, 尾臺 珠美, 寺内 公一, 宮坂 尚幸. 当院における卵巣癌外科的閉経患者に対するホルモン補充療法の実態 日本女性医学学会雑誌. 2024.07; 31(4); 688-693

5. 京井 奈美, 江川 真希子, 不殿 絢子, 高嶺 恵理子, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子, 山田 崇弘, 吉田 雅幸. 臨床研修医に対する遺伝医療教育の実態調査とよりよい教育のための提案 日本遺伝カウンセリング学会誌. 2024.06; 45(1); 1-11

6. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例 （一社）関東連合産科婦人科学会誌. 2024.05;

7. 三浦 理恵子, 羅 ことい, 倉富 由理, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 宮坂 尚幸, 布施 匡啓, 小郷 泰一. 経管栄養による保存的加療および硬膜外鎮痛による分娩管理が奏効した食道アカラシア合併妊娠の 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2024.04; 73(2); 407-412

8. 福本 純子, 江川 真希子, 池田 まさみ, 吉田 雅幸. 乳がんを契機に遺伝性乳癌卵巣癌と診断された女性がリスク低減卵管卵巣摘出術を選択するまでの心理的過程に関する質的調査 日本遺伝カウンセリング学会誌. 2024.04; 44(4); 311-321

9. 神谷 瑞希, 郡 悠介, 大野 晴子, 大島 乃里子, 嶋田 未知, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 胃癌・卵巣境界悪性腫瘍術後に FDG-PET/CT で高集積を呈し臍転移が疑われた異物肉芽腫の 1 例 関東連合産科婦人科学会誌. 2024.03; 61(1); 51-56

10. 籔田 薫理, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 宮坂 尚幸. 当院における無痛分娩と分娩時出血量との関連性の検討 東京母性衛生学会誌. 2024.03; 40(1); 27-34

11. 佐藤 梨花子, 高尾 茉希, 大島 乃里子, 郡 悠介, 尾臺 珠美, 若葉 公雄, 宮坂 尚幸, 江川 真希子. 若年子宮体癌術後に消化管過誤腫性ポリポーシスを認め,Cowden 症候群と診断された 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2024.01; 73(1); 56-62

12. 尾臺 珠美, 郡 悠介, 高尾 茉希, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 臨床経験　性成熟期女性における子宮内膜異型増殖症と子宮体癌症例の臨床的検討 産婦人科の実際. 2024.01; 73(1); 81-85

[書籍等出版物]

1. 寺内公一. 外来診療のための糖尿病・内分泌疾患ベストプラクティス. 診断と治療社, 2024.12

2. 江川真希子. コアカリ準拠　臨床遺伝学　テキストノート（改訂第２版）. 診断と治療社, 2024.12 (ISBN : 978-4-7878-2660-2)

3. 藤原聡枝, 宇佐美知香, 磯部真倫, 齊藤和毅, 志鎌あゆみ, 竹内佳織, 永易洋子, 古澤啓子 . 産婦人科手術 No.35 パネルディスカッション 今ある外科教育に立ちはだかる問題点　さまざまな立場からの検討. メジカルビュー社, 2024.06 (ISBN : 978-4-7583-1980-5)

4. 齋藤英和, 齋藤和毅. I 生殖補助医療の流れ 2 わが国における生殖補助医療の現状__生殖補助医療 (ART) 肺培養の理論と実際　改訂版. 株式会社 近代出版, 2024.03 (ISBN : 978-4-87402-294-8)

5. 寺内公一. 今日の治療指針　2024 年版. 医学書院, 2024.01 (ISBN : 978-4-260-05342-6)

[総説]

1. Akira Fujiyoshi, Shun Kohsaka, Jun Hata, Mitsuhiko Hara, Hisashi Kai, Daisaku Masuda, Naomi Miyamatsu, Yoshihiko Nishio, Masatsune Ogura, Masataka Sata, Kenji Sekiguchi, Yasushi Takeya, Kouichi Tamura, Akihiko Wakatsuki, Hiroshi Yoshida, Yoshio Fujioka, Ryuji Fukazawa, Osamu Hamada, Aya Higashiyama, Mai Kabayama, Koshiro Kanaoka, Kenjiro Kawaguchi, Shintaro Kosaka, Ayako Kunimura, Ayumi Miyazaki, Masaki Nii, Mitsuaki Sawano, Masakazu Terauchi, Shusuke Yagi, Takashi Akasaka, Tohru Minamino, Katsuyuki Miura, Koichi Node, on behalf of the Japanese Circulation Society Joint Working Group. JCS 2023 Guideline on the Primary Prevention of Coronary Artery Disease Circulation Journal. 2024.03;

2. Yoshiya Tanaka, Satoshi Soen, Shintaro Hirata, Yosuke Okada, Saeko Fujiwara, Ikuko Tanaka, Yuriko Kitajima, Takuo Kubota, Kosuke Ebina, Yuichi Takashi, Reiko Inoue, Mika Yamauchi, Naoaki Okubo, Masanobu Ueno, Yasuhisa Ohata, Nobuaki Ito, Keiichi Ozono, Hisanori Nakayama, Masakazu Terauchi, Sakae Tanaka, Seiji Fukumoto. The 2023 Guidelines for the management and treatment of glucocorticoid 〓 induced osteoporosis J Bone Miner Metab. 2024.03;

1. 寺内公一. 閉経期ホルモン療法における黄体ホルモン製剤と子宮内膜 産科と婦人科. 2024.12; 91(12); 1376-1381

2. 吉木尚之. Saroa サージカルシステムの現状と展望 産婦人科の実際. 2024.12; 73(13); 1633-1639

3. 寺内公一. 萎縮性腟炎 産婦人科の実際. 2024.11; 73(11); 1461-1465

4. 江川真希子 · 山田崇弘. 周産期医療の倫理（保因者検査含む）「全ゲノム · エクソーム解析時代の遺伝医療、ゲノム医療における倫理 · 法 · 社会」. 2024.11; 140-146

5. 寺内公一. 妊娠可能年齢の女性に対するグルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の特徴、予防と治療 Loco Cure. 2024.10; 10(4); 336-340

6. 寺内公一. PMDD に対する新規薬剤開発 —海外の動向— 産科と婦人科. 2024.08; 91(8); 933-938

7. 寺内公一. 女性のライフコースにおける夜勤と睡眠障害 産科と婦人科. 2024.05; 91(5); 572-578

8. 寺内公一. 若年女性のグルココルチコイド誘発性骨粗鬆症 日本骨粗鬆症学会雑誌. 2024.05; 10(2); 121-124

9. 寺内公一. 産婦人科医のための緊急対応サバイバルブック「動悸 · 不安感で救急を受診したが、更年期障害が疑われる？」 臨床婦人科産科. 2024.04; 78(4); 72-74

10. 寺内公一. 閉経関連尿路性器症候群 参加と婦人科. 2024.03; 91(S); 269-273

11. 寺内公一. HRT の有害事象についての説明は？ 更年期の精神症状に対する薬物療法はどのように行うか? 産科と婦人科. 2024.01; 91(1); 51-54

[講演 · 口頭発表等]

1. Masaki Sekiguchi. Perinatal care system in Japan. Continuing Medical Education Seminar 2024.11.08

2. Masakazu Terauchi, Yusuke Kohri, Yuka Enokuchi, Tamami Odai, Naoyuki Miyasaka. Oral Communication: General Menopause ”Severe tiredness is associated with insomnia and depression of menopausal transition in women attending a menopause clinic”. 19th World Congress on Menopause 2024.10.21 Melbourne ,Australia

3. Hirose A, Terauchi M , Tamami O , Fujiwara A , Hirata M , Hirose S , Matsuoka K , Umayahara K , Sakamoto M , Miyasaka N. Effects of micronized progesterone in menopausal hormone replacement therapy on sleep. IMS 19th world congress on menopause 2024.10.20 Merbourne

4. Masakazu Terauchi. Symposium by CAMS Society: Menopause in Asia-Pacific: Cultural Perspectives, Guidelines, Mobility and Sleep ”Sleep Problems in Middle-Aged Women”. 19th World Congress on Menopause 2024.10.19 Melbourne, Australia

5. Fumika Morokuma, Makiko Egawa, Masakazu Nishigaki, Haruka Hamanoue, Hideaki Masuzaki, Kiyonori Miura, Tomoko Kobahashi, Masayuki Yoshida. Effectiveness and usability of ‘Ninshiru.jp’, a website about pregnancy, childbirth, and prenatal testing. 日本人類遺伝学会第 69 回大会 2024.10.11 札幌市

6. Makiko Egawa, Kinya Ishikawa, Eriko Takamine, Sayako Takahashi, Mariko Komine, Hiroko Kohbata, Taro Ishiguro, Maki Gau, Yusuke Ebana, Masayuki Yoshida. Predictive genetic testing for late-onset, inherited neurological diseases: a case series of 40 clients. 日本人類遺伝学会第 69 回大会 2024.10.10 札幌市
7. Masakazu Terauchi, Yusuke Kohri, Yuka Enokuchi, Tamami Odai, Naoyuki Miyasaka. Severe tiredness is associated with insomnia and depression of menopausal transition in women attending a menopause clinic. The Menopause Society Annual Meeting 2024 2024.09.13 Chicago
8. Masakazu Terauchi. A Japanese Perspective on Women's Midlife Health and S-Equol. Equelle HCP Dinner 2024.09.11 Chicago
9. 廣瀬明日香, 寺内公一. 産後脱毛の程度は不安症状と関連する. 第 52 回日本女性心身医学会学術集会 2024.08.31 東京
10. 大島乃里子. LP 療法の管理. エーザイ株式会社講演会 2024.06.28 東京
1. 江川真希子. 出生前領域におけるマイクロアレイの進歩と問題点. 第 10 回 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会 2024.12.14 東京
2. 江川真希子. 一歩進んだ出生前遺伝学的検査（単一遺伝子疾患・マイクロアレイ・NGS の活用とその注意点）. 第 10 回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会　周産期講義（７）　2024.12.13 東京
3. 寺内公一. 社会課題としての男女更年期世代の健康推進. 日本医療政策機構主催医療政策勉強会「30 分で伝える医療政策最前線」 2024.12.10 東京
4. 吉野育典. 逆クロソイドカーブ針の腹腔内縫合への臨床応用ー腹腔鏡下子宮全摘術における有用性. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.07 福岡国際会議場
5. 風間みなみ、櫻井香織、大島乃里子、近藤有紀、郡悠介、若菜公雄、宮坂尚幸. 卵巣癌に対して PARP 阻害薬を使用中に生じた治療関連骨髄異形成症候群の 1 例. 第 411 回東京産科婦人科学会例会 2024.12.07 東京
6. 吉野育典　羽田智則. Hybrid vNOTES によるリスク低減卵巣卵管摘出術ー子宮有無別のアプローチの工夫. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.06 福岡国際会議場
7. 吉木尚之. Saroa サージカルシステムの特性. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.06 福岡
8. 齋藤和毅. 不妊症と周産期合併症に関わる内分泌代謝異常. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update 2024.11.30 愛知
9. 寺内公一. ワークショップ 16 AYA 世代乳癌患者について考える「AYA 世代乳癌サヴァイヴァーの包括的健康管理」. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.23 宇都宮
10. 関口将軌. より良い無痛分娩の提供および管理のためにー産婦人科医が考慮すべきことー. 日本分娩監視研究会第 61 回研究会 2024.11.16
11. 齊藤和毅. ART が胎盤形成に及ぼす影響と黄体補充. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会　ランチョンセミナー 2024.11.15 愛知
12. 齊藤和毅，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，櫻井香織，岩原由樹，石川智則，宮坂尚幸. 生殖外科における腹腔鏡手術用超音波プローブの活用. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2024.11.14 愛知
13. 松崎利也，野口拓樹，湊沙希，岩佐武，岩瀬明，金崎春彦，木村文則，久具宏司，齊藤和毅，馬場剛，原鐵晃. 本邦の多嚢胞性卵巣症候群患者における月経周期異常と内分泌異常の評価に関する検討. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2024.11.14 愛知
14. 野口拓樹，岩佐武，岩瀬明，金崎春彦，木村文則，久具宏司，齊藤和毅，馬場剛，原鐵晃，湊沙希，松崎利也. 本邦の多嚢胞性卵巣症候群の診断基準（日産婦 2024）に新規採用された「多毛」と「抗ミュラー管ホルモン高値」の位置付けに関する検討. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2024.11.14 愛知
15. 山内英理子，岩原由樹，櫻井香織，光井潤一郎，齊藤和毅，福岡由利子，奥山紀之，石川智則，宮坂尚幸，京野廣一. 当院における卵巣組織凍結保存症例の報告. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2024.11.14 愛知
16. 堀口紗世，岩原由樹，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，櫻井香織，齊藤和毅，石川智則，宮坂尚幸. リプロダクションセンターからプレコンセプション外来に紹介となった症例の検討. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2024.11.14 愛知

17. 岩原由樹，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，櫻井香織，齊藤和毅，石川智則，宮坂尚幸. 治療に苦慮した腟内異物による頚管狭窄の 1 例. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知

18. 光井潤一郎，石川智則，野中美幸，村形佐知，櫻井香織，齊藤和毅，岩原由樹，宮坂尚幸. 単一胚移植を行い双胎妊娠が成立した 5 例. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知

19. 村形佐知，石川智則，野中美幸，光井潤一郎，櫻井香織，齊藤和毅，岩原由樹，宮坂尚幸. ノンメディカルな卵子凍結における卵成熟率について. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知

20. 櫻井香織，石川智則，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，齊藤和毅，岩原由樹，宮坂尚幸. 低頻度モザイク胚移植により生児を得た 2 例. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知

21. 吉野涼香，石川智則，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，櫻井香織，齊藤和毅，岩原由樹，宮坂尚幸. 当院における血液疾患罹患女性に対する妊孕性温存についての検討. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知

22. 寺内公一. シンポジウム 2 日本におけるユース · クリニック事業の現状と課題「『学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究』の概要」. 第 39 回日本女性医学学会学術集会 2024.11.10 宇都宮

23. 寺内公一. 学会賞受賞講演「中高年女性の睡眠障害：その病態と管理」. 第 39 回日本女性医学学会学術集会 2024.11.10 宇都宮

24. 大島乃里子、尾臺珠美、近藤有紀、郡悠介 寺内公一、宮坂尚幸. 子宮内膜症関連卵巣癌における HRT の安全性と予後. 第 39 回日本女性医学学会学術集会 2024.11.10

25. 寺内公一. スポンサードセミナー 2 更年期の治療満足度向上を目指して「更年期の血管運動神経症状（VMS）が健康関連 QOL および労働生産性に及ぼす影響：横断的オンライン調査を踏まえて」. 第 39 回日本女性医学学会学術集会 2024.11.09 宇都宮

26. 寺内公一. 特別企画 女性医学とは何か？ 学会誌における論文採択から考える「専門医制度委員会からの提言」. 日本女性医学学会学術集会 2024.11.09

27. 近藤有紀、郡悠介、尾臺珠美、大島乃里子、寺内公一、宮坂尚幸. 子宮筋腫に対するロボット支援下子宮全摘術の前投薬としてレルゴリクスを内服し細菌性腟症を発症した一例. 第 39 回女性医学学会学術集会 2024.11.09 宇都宮

28. 大島乃里子. 予想される有害事象　肝臓/胆嚢系疾患. 第 39 回日本女性医学学会学術集会 2024.11.09 宇都宮

29. 羅 ことい. Lifetime Immunization としての Maternal Immunization. 第 39 回日本女性医学学会学術集会 感染対策連携委員会 · 日本女性医学学会共催シンポジウム 2024.11

30. 大島乃里子.　女性ホルモンとのポジティブな向き合い方.　クレアージュ東京スペシャルトークイベント 2024.10.28 東京

31. 無着愛依, 廣瀬明日香, 高知佑輔, 三浦貴大, 不殿絢子, 羅ことい, 関口将軌, 宮坂尚幸, 伊藤一之, 杉江学, 森丘千夏子, 梶原道子. 妊娠 35 週で胎児機能不全を発症し、新生児溶血性疾患による重症貧血を認めた IgM 型抗M抗体陽性妊娠の 1 例. 第 148 回 関東連合産科婦人科学会学術集会 2024.10.19 松本

32. 寺内公一. シンポジウム 3 今一度カルシウム摂取の重要性を考える—ガイドライン改訂を前に— 「周産期 · 授乳期における適切なカルシウム摂取のあり方」. 第 26 回日本骨粗鬆症学会 2024.10.11 金沢

33. 寺内公一. 交流集会—研修 · 教育委員会「周閉経期のメンタルヘルス　—更年期障害 · うつ病 · 不眠症—」. 第 38 回日本助産学会学術集会 2024.10.05 web

34. 森 春菜, 光井 潤一郎, 近藤 有紀, 郡 悠介, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. ホルモン療法中に悪性化した卵巣子宮内膜症性嚢胞の 5 例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.10.01

35. 寺内公一. Morning Seminar「更年期障害　産婦人科における診断と治療の実際 ～大豆由来の成分「エクオール」の可能性～」. 第 9 回中日本産科婦人科セミナー 2024.09.29 web

36. 鈴木翔太, 齊藤和毅, 宮坂尚幸, 関口将軌, 廣瀬明日香, 羅ことい, 不殿絢子. モーメントを意識した 3 方向の力をかけることで整復し得た嵌頓子宮の 1 例. 第 410 回東京産科婦人科学会例会 2024.09.21 東京

37. ○鈴木翔太，齊藤和毅，不殿絢子，羅ことい，廣瀬明日香，関口将軌，宮坂尚幸. モーメントを意識した 3 方向の力をかけることで整復し得た嵌頓子宮の 1 例. 第 410 回東京産科婦人科学会例会 2024.09.21

38. 大島乃里子. 子宮体癌治療　新時代の幕開け. 子宮体癌治療ミーティング 2024.09.20

39. 寺内公一. 更年期障害に並存する不眠症状との付き合い方　—新規オレキシン受容体拮抗薬の可能性—. 不眠症診療 Web セミナー 2024.09.18 web

40. 江川真希子. 家族性高コレステロール血症女性の周産期管理における問題点　〜産科医の立場から〜. 日本動脈硬化学会学術委員会　WEB 講演会 2024.09.17 東京

41. 吉野 育典, 間野 ちひろ, 日下部 美佐子, 佐藤 達也, 浅田佳代, 中村 玲子, 谷川 道洋, 八杉 利治, 喜納 奈緒. 学会賞講演（動画部門）vNOTES による RRSO を安全に導入するにはー Hybrid vNOTES の有用性. 第 64 回日本産科婦人科内視鏡学会 2024.09.13 都市センターホテル

42. 吉野 育典, 間野 ちひろ, 日下部 美佐子, 佐藤 達也, 浅田佳代, 中村 玲子, 谷川 道洋, 八杉 利治, 喜納 奈緒. 低侵襲腹腔鏡下子宮全摘術における逆クロソイドカーブ針の導入. 第 64 回日本産科婦人科内視鏡学会 2024.09.12 都市センターホテル

43. 寺内公一. シンポジウム 令和時代の婦人科三処方を考える「古典的婦人科三処方を考える」. 第 43 回産婦人科漢方研究会学術集会 2024.09.01 福岡

44. 廣瀬明日香, 寺内公一, 坂本優, 馬屋原健司, 松岡和子, 廣瀬宗, 平田桃, 藤原有沙, 宮坂尚幸. 更年期女性のヘバーデン結節・ブシャール結節による指の痛みへの桂枝加朮附湯の有効性. 第 43 回産婦人科漢方研究会 2024.09.01

45. 江川真希子. 遺伝医学における倫理. 遺伝医学セミナー 2024.09 WEB

46. 廣瀬明日香, 他. シンポジウム　月経前症候群・月経前不快気分障害診断治療管理指針コンセンサスミ ーティング. 第 52 回日本女性心身医学会学術集会, 第 38 回日本女性心身医学会研修会 2024.08.31 東京

47. 寺内公一. 特別講演「更年期障害と発汗」. 第 32 回日本発汗学会総会 2024.08.30 名古屋

48. 寺内公一. 避妊法各論　— IUD・ピル・不妊手術　他 —. 第 108 回受胎調節実地指導員認定講習会 2024.07.31 東京

49. 齊藤和毅. 安全な ART を提供するために. 第 8 回群馬県生殖医療研究会 2024.07.27 群馬

50. 大島乃里子. 婦人科悪性腫瘍開腹手術症例における早期大建中湯内服の有用性についての検討. 漢方サークル 2024.07.26 東京

51. 吉野 育典, 間野 ちひろ, 日下部 美佐子, 佐藤 達也, 中村 玲子, 谷川 道洋, 八杉 利治, 喜納 奈緒. 子宮頸癌 IIIC1r 期 (T1/T2) に対する手術と放射線療法の後方視的比較検討. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2024.07.19 城山ホテル鹿児島

52. 大島乃里子、尾臺珠美、郡悠介、倉富由理、 高尾茉希、若菜公雄、宮坂尚幸. 当院における子宮頸癌サバイバーに対するホルモン補充療法の実態. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2024.07.19 鹿児島

53. 江川真希子. メディカルスタッフセッション「FH 女性の妊娠・授乳期における薬物療法の実際と課題」. 第 56 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2024.07.07

54. 江川真希子. 家族性高コレステロール血症女性の妊娠に対する専門医への意識調査. 第 56 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2024.07.06 神戸

55. 特別講演「女性更年期の多愁訴に対する漢方の役割」. 虎ノ門 KAMPO 連携講演会 2024.07.03 東京

56. 倉富 由理, 郡 悠介, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 当院における子宮頸癌に対する pembrolizmab の使用経験. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム・抄録集 2024.07.01

57. 大島 乃里子, 尾臺 珠美, 郡 悠介, 倉富 由理, 高尾 茉希, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 当院における子宮頸癌サバイバーに対するホルモン補充療法の実態. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム・抄録集 2024.07.01

58. 郡 悠介, 倉富 由理, 高尾 茉希, 尾臺 珠美, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 当院における再発子宮体癌に対する Lenvatinib・Pembrolizumab 併用療法の使用経験. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム・抄録集 2024.07.01

59. 尾臺 珠美, 倉富 由理, 郡 悠介, 高尾 茉希, 大島 乃里子, 若菜 公雄, 宮坂 尚幸. 当院における初発卵巣癌に対する HRD 検査と初回化学療法後の維持療法についての検討. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会プログラム・抄録集 2024.07.01

60. 大島乃里子. みんなで更年期とフェムテックを語ろう. ラキャルプフェスセミナー 2024.06.23 東京

61. 大島乃里子. ビタミン D と C を味方に、更年期に備える. ラキャルプフェスセミナー　2024.06.21 東京

62. 寺内公一. 特別講演「女性ホルモンとメンタルヘルス　～性成熟期から更年期まで～」. 北九州産婦人科医会学術講演会 2024.06.15 北九州

63. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例. 第 147 回関東連合産科婦人科学会総会 · 学術集会 2024.06.15 東京

64. 齊藤和毅、野口拓樹、岩佐武、岩瀬明、金﨑春彦、木村文則、久具宏司、馬場剛、原鐵晃、 湊沙希、松崎利也. 多嚢胞性卵巣症候群患者の全国症例調査データ. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 神奈川

65. 大島乃里子、吉木尚之、郡悠介、高尾茉希、宮坂尚幸. 子宮全摘術における新規手術支援ロボット Saroa サージカルシステムの使用経験. 第 12 回日本婦人科ロボット手術学会 2024.06.02 滋賀

66. 江川 真希子. FH 女性の妊娠 · 授乳期における薬物療法の実際と課題. 日本動脈硬化学会総会プログラム · 抄録集 2024.06.01

67. 江川 真希子, 多田 隼人, 斯波 真理子, 吉田 雅幸. 家族性高コレステロール血症女性の妊娠に対する専門医への意識調査. 日本動脈硬化学会総会プログラム · 抄録集 2024.06.01

68. 吉木尚之. 触覚を有する手術支援ロボット Saroa サージカルシステムの臨床経験. 第 12 回日本婦人科ロボット手術学会 2024.06.01 大津

69. 寺内公一. スポンサードセミナー「更年期障害　産婦人科における診断と治療の実際 ～大豆由来の成分「エクオール」の可能性～」. 第 81 回九州連合産科婦人科学会 2024.05.26 北九州

70. 江川真希子. シンポジウム妊娠中のスタチン使用について語り合いましょう　「FH 女性の妊娠管理における産科医の課題」. 日本産科婦人科学会と日本動脈硬化学会合同シンポジウム 2024.05.22 東京

71. 寺内公一. 招待講演「更年期障害はプラセンタの夢を見るか？」. 第 33 回日本プラセンタ医学会大会 2024.05.19 東京

72. 今村結香、大島乃里子、高尾茉希、倉富由理、郡悠介、尾臺珠美、若菜公雄、宮坂尚幸. レンバチニブメシル酸塩/ペムブロリズマブ併用療法開始後 19 か月で自己免疫性脳炎を発症した進行子宮体癌の 1 例. 第 409 回東京産科婦人科学会 2024.05.18 東京

73. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01

74. 佐藤 梨花子, 三浦 貴大, 高知 佑輔, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 宮坂 尚幸, 伊藤 一之, 宮本 智史, 杉江 学, 磯田 健志. 帽状腱膜下血腫および出血性ショックを契機に重症血友病 A と診断しえた新生児例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01

75. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01

76. 羅 ことい. Life-course immunization をめざして～妊婦へのワクチン接種　次世代へつながるワクチンのリレー　周産期で注目される vaccine preventable disease と maternal immunization. 日本産婦人科感染症学会誌 2024.05.01

77. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01

78. 佐藤 梨花子, 三浦 貴大, 高知 佑輔, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 宮坂 尚幸, 伊藤 一之, 宮本 智史, 杉江 学, 磯田 健志. 帽状腱膜下血腫および出血性ショックを契機に重症血友病 A と診断しえた新生児例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01

79. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01

80. 佐藤 梨花子, 三浦 貴大, 高知 佑輔, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 宮坂 尚幸, 伊藤 一之, 宮本 智史, 杉江 学, 磯田 健志. 帽状腱膜下血腫および出血性ショックを契機に重症血友病 A と診断しえた新生児例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01

81. 羅 ことい. 次世代へつながるワクチンのリレー〜周産期で注目される vaccine preventable disease と maternal immunization〜. 第 40 回日本産婦人科感染症学会　ワークショップ 2 2024.05

82. 大島乃里子. 若い人でもかかる婦人科疾患. 富国生命社員向けセミナー 2024.04.22 東京

83. 寺内公一. 更年期世代の日本人女性における血管運動神経症状が健康関連 QOL および労働生産性に及ぼす影響：横断的オンライン調査. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.21 横浜

84. 齊藤和毅, 野口拓樹, 岩佐武, 岩瀬明, 金崎春彦, 木村文則, 久具宏司, 馬場剛, 原鐵晃, 湊沙希, 松崎利也. 本邦の多嚢胞性卵巣症候群患者の表現型に関する全国症例調査の集計結果. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.21 神奈川

85. 野口拓樹, 岩佐武, 岩瀬明, 金崎春彦, 木村文則, 久具宏司, 齊藤和毅, 馬場剛, 原鐵晃, 湊沙希, 松崎利也. 本邦の多嚢胞性卵巣症候群の診断基準における抗ミュラー管ホルモンの位置付けとカットオフ値に関する検討. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.21 神奈川

86. 松崎利也, 野口拓樹, 湊沙希, 岩佐武, 岩瀬明, 金崎春彦, 木村文則, 久具宏司, 齊藤和毅, 馬場剛, 原鐵晃. 本邦の多嚢胞性卵巣症候群患者における肥満の有無による内分泌異常に関する検討. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.21 神奈川

87. 寺内公一. ランチョンセミナー 21「更年期の血管運動神経症状（VMS）〜横断調査を踏まえて〜」. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.20 横浜

88. 寺内公一. アフタヌーンセミナー 11「40 代後半閉経移行期女性の HRT —いつ? なぜ? どのように?—」. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.20 横浜

89. 山内英理子, 齊藤和毅, 郡悠介, 山本健太郎, 熊澤栞, 中筋貴史, 岩原由樹, 石川智則, 宮坂尚幸. 双頸双角子宮の帝王切開子宮瘢痕症に対して腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術を行った一例. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.20 神奈川

90. 寺内公一. 専攻医教育プログラム 4「原発性 · 続発性無月経の診断と治療」. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.19 web

91. 寺内公一. シンポジウム 12 グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の管理と治療「妊娠可能年齢の女性に対するグルココルチコイド誘発性骨粗鬆症の予防と治療は？」. 第 68 回日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.04.19 神戸

92. 齊藤和毅. 患者特性に応じた治療の選択とマネジメント　出生率に貢献する ART 治療戦略. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.19 神奈川

93. 大島乃里子. 婦人科の検査と疾患. クレアージュ社員向けセミナー 2024.04.12

94. 羅 ことい. 胎児への抗体移行を目的とした妊娠中のワクチン接種. 第 76 回日本産科婦人科学会学術集会感染対策連携委員会企画 2024.04

95. 寺内公一. 特別講演「女性の健康寿命延伸を目指す骨粗鬆症診療とは？」. 第 9 回神奈川東部骨粗鬆症地域連携の会 2024.03.21 横浜

96. 寺内公一. 更年期女性と不眠　—その特徴と対処法について—. 女性が抱える不眠症診療 Web セミナー 2024.03.12 web

97. 寺内公一. スポンサードセミナー 3「更年期障害　産婦人科における診断と治療の実際. 第 144 回東海産科婦人科学会 2024.03.10 名古屋

98. 大島乃里子. 婦人科手術の実際. 科研製薬講演会 2024.03.02 東京

99. 寺内公一. 女性ホルモンとの上手な付き合い方 〜健やかな更年期を過ごすために〜. 渋谷区健康づくり講演会 2024.02.19 東京

100. 大島乃里子. がん. 千代田区立お茶の水小学校がん教育 2024.02.16 東京

101. 足立未央, 原正武, 熊木裕一, 石場俊之, 小田剛史, 有川淑恵, 石川智則. 当院における AYA 世代乳癌と妊娠 · 出産の状況. 第 14 回日本がん · 生殖医療学会学術集会 2024.02.10 茨城

102. 寺内公一. 更年期の不眠の特徴と漢方薬の使い方. 拡大一土会講演会 2024.02.07 静岡

103. 寺内公一. 婦人科領域の骨粗鬆症治療 —アバロパラチドのポジショニング—. 帝人ヘルスケア株式会社 社内研修会 2024.02.06 web
104. 寺内公一. OC· LEP ガイドラインから読み解く月経困難症治療 〜女性活躍を支援する連続投与のベネフィット〜. 女性医療フォーラム 2024.02.03 東京
105. 寺内公一. 更年期女性の易疲労感に関連する因子. 第 134 回日本心身医学会関東地方会 2024.01.27 東京
106. 寺内公一. 更年期エキスパート MR に期待すること. 更年期領域エキスパート認定 MR イベント 2024.01.18 web

[受賞]

1. 2024 年度　日本女性心身医学会　優秀演題賞（廣瀬明日香）, 日本女性心身医学会, 2024 年 08 月
2. 日本女性医学学会　学会賞（寺内公一）, 日本女性医学学会, 2024 年 11 月
3. WCES2025 スーチャリングオリンピック日本代表選抜選手権　入賞（吉野育典　日本代表メンバー選出）, WCES（日本内視鏡外科学会）, 2024 年 12 月

[その他業績]

1. 女性の心と体の不調　更年期障害 治療最前線, 2024 年 04 月
   NHK テキスト「きょうの健康」2024 年 5 月号への記事掲載
2. 「婦人科検診」の Q&A, 2024 年 07 月
   集英社「yoi」への掲載
3. 生理中のダイエット, 2024 年 08 月
4. 第 2 回婦人科ロボット手術　若手ワークショップ, 2024 年 11 月
   若手向け手術ワークショップ

[社会貢献活動]

1. 産科医療補償制度　原因分析委員会 (江川真希子), 日本医療機能評価機構, 2018 年 04 月 01 日 - 現在
2. 生殖医療ガイドライン (改訂版）執筆（齊藤和毅） , 一般社団法人　日本生殖医学会, 2023 年 03 月 - 現在
3. 東京都がん対策推進協議会 AYA 世代がんワーキンググループ 委員 (石川智則), 東京都, 2023 年 03 月 09 日 - 2024 年 07 月 31 日
4. 産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 2026 作成委員会　委員（齊藤和毅） , 公益社団法人　日本産科婦人科学会, 2023 年 05 月 17 日 - 2026 年 06 月 25 日
5. 保険診療を踏まえた生殖医療リスクマネージメントに関する小委員会：委員（齊藤和毅） , 公益社団法人 日本産科婦人科学会, 2023 年 06 月 - 2025 年
6. 本邦における多嚢胞性卵巣症候群の治療指針の検証に関する小委員会：委員（齊藤和毅） , 公益社団法人 日本産科婦人科学会, 2023 年 06 月 - 2025 年
7. 骨粗しょう症について（寺内公一）, 有限会社ヴィット , オーガワールド, 2023 年 08 月 30 日 - 現在
8. 更年期の頭痛（緊張型頭痛、片頭痛）の特徴は？ 症状や対処方法を分かりやすく解説, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 01 月 16 日
9. 更年期に月経不順になるのはどうして？ , ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 01 月 18 日
10. レンボレキサントは更年期の不眠にも有効, 株式会社メディカルトリビューン, Medical Tribune ウェブ, 医療ニュース 「女性疾患 · 周産期」, 2024 年 01 月 30 日
11. 更年期にイライラしやすいのはどうして？ , ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 02 月 08 日
12. 女性の更年期障害, NHK, きょうの健康, 2024 年 02 月 09 日 - 2024 年 05 月 13 日

13. 更年期以降なぜなりやすい？ 骨粗鬆症の予防と対策, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 02 月 13 日

14. 更年期の脂質異常症。原因と治療、予防策をドクターに聞いた, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 03 月 12 日

15. 更年期に腰や肩が痛むのはどうして？ , ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 03 月 14 日

16. 不正出血などの異変を感じた際の対応, NHK ニュースーン, NHK ニュース WEB, 2024 年 04 月 05 日 - 2024 年 04 月 08 日

17. 更年期に増える物忘れ。認知症との関係はあるの？ , ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 04 月 09 日

18. 更年期にめまいに悩まされたら, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 04 月 11 日

19. 子宮体がんと更年期の症状について, NHK, ニュース—ン, 2024 年 05 月 27 日 - 2024 年 06 月 14 日

20. 更年期以降の頻尿、原因と対策について, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 05 月 30 日

21. 生理中のダイエット, メディアエンジン株式会社, Wellulu, 2024 年 05 月 31 日 - 2024 年 06 月

22. 更年期以降に増えるデリケートゾーンのかゆみ, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 06 月 13 日

23. 閉経したら“骨スカスカ”に要注意！ 骨粗しょう症新予防ワザ, 主婦と生活社, 週刊女性, 2024 年 07 月 04 日 - 2024 年 08 月 20 日

24. 更年期に気をつけたい病気／子宮がん ①子宮頸がん, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 07 月 11 日

25. 40 代 50 代「更年期にさしかかる女性」が知っておきたい「医療との上手な付き合い方」とは？ , 主婦の友社, オトナサローネ, 2024 年 07 月 29 日

26. 40 代 50 代「これって更年期？ それとも老化？」「この症状で病院に行っていいの？」線引きは, 主婦の友社, オトナサローネ, 2024 年 07 月 29 日

27. 更年期に気をつけたい病気／子宮がん② 子宮体がん, ウェブサイト「教えて！ ドクター@輝きクリニック」, 2024 年 08 月 08 日

28. ユースクリニックについて, NHK, 午後 LIVE ニュース—ン, 2024 年 09 月 27 日 - 2024 年 10 月 29 日

腎泌尿器外科学分野

Department of Urology

教授: 藤井靖久
准教授: 吉田宗一郎
講師: 田中一, 早稲田悠馬（保険医療管理部講師）, 福田翔平
助教: 福島啓司, 石川雄大, 中村祐基, 小林正貴, 松本峻弥
医員: 漆戸まどか, 牟田理絵, 下田海生, 伊東翼, 羽鳥拓海, 奥村学, 松岡将太郎, 石井芳

(1) 分野概要

泌尿器科学は、悪性腫瘍（癌)、前立腺肥大症などの排尿障害、副腎腫瘍などの内分泌学、尿路結石、腎機能異常、泌尿器放射線学、神経泌尿器科、男性科、小児泌尿器科、女性泌尿器科、尿路感染、尿路外傷など広い領域を扱っている学問である。
日本を筆頭に世界で超高齢社会が急速に進行しており、これに対応した医療の開発は世界の最重要課題の一つと考える。
私たちは、超高齢社会にも対応した High quality, Affordable cost の医療の開発 · 実践を主な目標にしている。
先端型ミニマム創内視鏡下手術、筋層浸潤膀胱癌に対する四者併用膀胱温存療法、筋層非浸潤膀胱癌の予後予測モデル、小径腎腫瘍の悪性良性の鑑別診断モデル、前立腺癌に対する部分小線源治療など多くのオリジナルな医療を開発、実践している。
同時に、世界の標準的医療を提供することも重要で、MRI-超音波弾性融合画像ガイド下前立腺生検、主要な泌尿器科疾患に対するロボット支援手術、前立腺肥大症に対する新規低侵襲治療（ツリウムレーザー前立腺蒸散術、ウロリフト）などの先端的検査、手術も積極的に導入、施行している。

(2) 研究活動

現在は、悪性腫瘍、画像診断、実践的バイオマーカーの開発を中心に臨床研究、基礎研究を行っている。
研究は臨床と車の両輪をなすもので、臨床に立脚した研究を行うことによって臨床能力がより深められると確信している。
具体的には、炭酸ガスを使用しない低侵襲手術であるミニマム創内視鏡下泌尿器手術、筋層浸潤膀胱癌に対する低侵襲 · 根治的膀胱温存療法、腫瘍の位置や画像所見を組み込んだ筋層非浸潤膀胱癌の予後予測モデル、根治性を損なうことなく性機能を維持できる密封小線源治療を用いた前立腺部分治療、腎血流を遮断しない無阻血腎部分切除、などのオリジナルな医療の開発、実践を進める。画像診断では、泌尿器科癌における拡散強調 MRI、全身 MRI の有用性を示してきたが、最近は人工知能（AI）や複合現実技術 (Mixed reality) のテクノロジーを導入し成果を上げている。
泌尿器腫瘍のバイオマーカーとしての CRP についても多くの研究成果がある。
また悪性腫瘍手術と腎機能を含めた機能学的アウトカムに関しても多くの新知見を見出している。
基礎研究では、“Bed to Bench, feedback to Bed”をモットーに、臨床の課題を克服するような研究を目指している。
現在、尿路上皮癌の化学放射線療法における基礎的バイオマーカー開発、免疫チェックポイント阻害剤の基礎的バイオマーカー開発、耐性のメカニズム解明とその耐性克服などをテーマにした研究を行っている。

(3) 教育方針

腎泌尿器外科学講座の卒前卒後教育の目標は、高い倫理性を持ちかつ高度の医学知識と医療技術を身につけた泌尿器科専門医を育てることにあり、その中から臨床医学の教育研究者としての資質を備えた人材が育つことを期

待している。
卒前教育は基礎的な解剖、生理、病理の知識を土台として患者の訴える病状と徴候を把握する能力を養い、それに基づいて必要な検査を行い、そこで得た事実を体系づけて診断にいたる、問題解決型の思考を身につけ、これらの過程に必要な知識のネットワークを作ることを目的としている。
卒後教育、特に後期研修では、まずは泌尿器科学一般の知識と技術を身につけ、倫理性と責任感を養い、さらに国際性を高めることを目的とした 4 年間の研修を行う。私たちのプログラムでは、充実した連携施設を有しており、質、量ともに充実した研修が受けられる。
例えば、ロボット支援手術（ダビンチ手術）は、基幹施設である東京医科歯科大学病院を初め、４つのがんセンター（がん研究会有明病院、がん 感染症センター都立駒込病院、国立がん研究センター東病院、埼玉県立がんセンター）、7 つの地域の中核病院（土浦協同病院、JA とりで総合医療センター、さいたま赤十字病院、公立昭和病院、多摩南部地域病院、草加市立病院、大森日赤病院）で実施している。
三次救急を担う地域中核病院が３施設（公立昭和病院、さいたま赤十字病院、土浦協同病院）あり、また都立大塚病院での尿路結石治療など、それぞれの病院で特徴的で先進的な診療を行っている。
その後は泌尿器学の各専門分野領域に踏み込んだ臨床研修を行うとともに、その何れかの領域におけるテーマについて研究を行う。
大学病院、大学院、関連病院、国内研究施設において研鑽し、この時期を経て海外施設への
留学を行う。

(４) 臨床上の特色

「患者さん・社会に役に立つ新規医療を開発し、世界に発信すること 」を目標とし、泌尿器科臨床の多くで世界トップレベルの医療を提供できる診療体制をとっている。世界標準の先端的手術であるロボット支援手術に加え、泌尿器腫瘍に対する先端的ミニマム創内視鏡下手術、筋層浸潤膀胱癌に対するテトラモダリティー膀胱温存療法、腎癌に対する無阻血腎部分切除など新規医療の開発を行なっており、その高い有用性を示している。
国際標準的な治療を重視する原則を守りながら、先端技術を駆使した方法を開発実用化し、従来の治療の壁をこえて治療成績を向上させる努力を続けている。
オリジナルな先進的医療の例を挙げる。

●先端的ミニマム創内視鏡下泌尿器手術
●筋層浸潤性膀胱癌に対する四者併用膀胱温存療法（経尿道的膀胱腫瘍切除+導入化学放射線療法＋膀胱部分切除）
●無阻血腎部分切除
●限局性前立腺癌に対する前立腺部分治療
●血清 CRP 値の泌尿器癌予後予測マーカーおよび手術侵襲マーカーとしての応用
●小径腎腫瘍および前立腺癌に対する精緻な画像診断の確立
● MRI-超音波融合画像前立腺標的針生検
●拡散強調 MRI 検査の臨床応用

(５) 研究業績

[原著]

1. Kotaro Shimada, Motohiro Fujiwara, Daisuke Hirahara, Eichi Takaya, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Monitoring prostate cancer after low-dose-rate hemigland brachytherapy with delta-radiomics of diffusion-weighted magnetic resonance imaging. Int J Urol. 2024.12; 31(12); 1443-1445

2. Wei Chen, Soichiro Yoshida, Noriyoshi Miura, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Yasuhisa Fujii. Efficacy of docetaxel addition to next-generation androgen receptor-axis-targeted therapies and androgen deprivation therapy in metastatic hormone-sensitive prostate cancer: A tumor volume-specific analysis. Int J Urol. 2024.12;

3. Yuki Nakamura, Soichiro Yoshida, Yuki Arita, Ryo Takeshita, Koichiro Kimura, Masaki Kobayashi, Motohiro Fujiwara, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Masahiro Jinzaki, Yasuhisa Fujii. The need for a second transurethral resection in high-risk non-muscle-invasive bladder cancer based on the Vesicle Imaging-Reporting and Data System. Int J Urol. 2024.12;

4. Cesare Saitta, Giuseppe Garofano, Jonathan A Afari, Hajime Tanaka, Dattatraya Patil, Kit L Yuen, Luke Wang, Julian Cortes, Margaret F Meagher, Dhruv Puri, Clara Cerrato, Mimi V Nguyen, Kevin Hakimi, Masaki Kobayashi, Shohei Fukuda, Marco Paciotti, Massimo Lazzeri, Giovanni Lughezzani, Nicolò M Buffi, Yasuhisa Fujii, Viraj Master, Ithaar H Derweesh. NODESAFE Nomogram: A Novel Score System

to Predict Lymph Node Involvement at the Time of Nephrectomy or Nodal Recurrence in Nonmetastatic Renal Cell Carcinoma. Clin Genitourin Cancer. 2024.12; 22(6); 102232

5. Yanagi, T; Kikuchi, H; Takeuchi, K; Susa, K; Mori, T; Chiga, M; Yamamoto, K; Furukawa, A; Kanazawa, T; Kato, Y; Takahashi, N; Suzuki, T; Mori, Y; Carter, BC; Mori, M; Nakano, Y; Fujiki, T; Hara, Y; Suzuki, S; Ando, F; Mandai, S; Honda, S; Torii, S; Shimizu, S; Tanaka, H; Fujii, Y; Rai, T; Uchida, S; Sohara, E. ULK1-regulated AMP sensing by AMPK and its application for the treatment of chronic kidney disease KIDNEY INTERNATIONAL. 2024.11; 106(5); 887-906

6. Yuya Maezawa, Masaki Kobayashi, Masanori Murakami, Ayumi Yamamura, Shotaro Naito, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Tetsuya Yamada, Yasuhisa Fujii. Prolonged hypoglycemia after the resection of pheochromocytoma in a hemodialysis patient. IJU Case Rep. 2024.11; 7(6); 431-433

7. Soichiro Yoshida, Yuya Maezawa, Kensaku Ishihara, Naoki Inoue, Kenji Tanabe, Keita Izumi, Motohiro Fujiwara, Masahiro Toide, Takanobu Yamamoto, Sho Uehara, Saori Araki, Masaharu Inoue, Ryoji Takazawa, Noboru Numao, Yukihiro Ohtsuka, Hajime Tanaka, Yasuhisa Fujii. Outcomes and prognostic factors in patients with synchronous and metachronous oligometastatic urothelial carcinoma with visceral metastases. Int J Urol. 2024.11; 31(11); 1234-1240

8. Franklin Liu, Luke Wang, Margaret F Meagher, Jonathan Afari, Cesare Saitta, Sohail Dhanji, Saeed Ghassemzadeh, Aastha Shah, Dhruv Puri, Mimi V Nguyen, Kevin Hakimi, Benjamin Schmeusser, Rachel Greenwald, Alexandra Medline, Fatima Kamal, Adil Ali, Shohei Fukuda, Masaki Kobayashi, Wei Chen, Bo Fan, Yusuke Aida, Yuya Maezawa, Shintaro Asai, Hajime Tanaka, Dattatraya Patil, Yasuhisa Fujii, Viraj Master, Ithaar H Derweesh. Predictive factors for recurrence and outcomes in T1a renal cell carcinoma: Analysis of the INMARC (International Marker Consortium for Renal Cancer) database. Urol Oncol. 2024.10; 42(10); 333.e21-333.e31

9. Julian A Cortes, Cesare Saitta, Kit L Yuen, Dattatraya Patil, Hajime Tanaka, Dhruv Puri, Jonathan A Afari, Mirha Mahmood, Joshua Matian, Mariam Mansour, Aaron Ahdoot, Luke Wang, Margaret F Meagher, Melis Guer, Mai Dabbas, Mimi V Nguyen, Clara Cerrato, Masaki Kobayashi, Shohei Fukuda, Yasuhisa Fujii, Viraj Master, Ithaar H Derweesh. Combined Charlson comorbidity/C-Reactive Protein Index Is a Novel Predictor in Renal Cell Carcinoma: Analysis of the International Marker Consortium for Renal Cancer (INMARC) Registry. Clin Genitourin Cancer. 2024.10; 22(5); 102126

10. Tanaka H, Yoshida S, Aoyama S, Ikeda S, Kunieda J, Ohashi K, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Fujii Y. A case of double-negative prostate cancer with BRCA2 mutation and high tumor mutation burden treated sequentially with olaparib and pembrolizumab. IJU case reports. 2024.09; 7(5); 395-398

11. Kenji Tanabe, Shuichiro Kobayashi, Yuya Maezawa, Kensaku Ishihara, Naoki Inoue, Keita Izumi, Motohiro Fujiwara, Masahiro Toide, Takanobu Yamamoto, Sho Uehara, Saori Araki, Masaharu Inoue, Ryoji Takazawa, Noboru Numao, Yukihiro Ohtsuka, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Gustave Roussy Immune score as a prognostic biomarker in patients with platinum-refractory metastatic urothelial carcinoma treated with pembrolizumab: YUSHIMA study. Int J Clin Oncol. 2024.09; 29(9); 1302-1310

12. Akio Horiguchi, Masayuki Shinchi, Yusuke Hirano, Hiroshi Asanuma, Yoshiyuki Ishiura, Koji Inoue, Akihiro Kanematsu, Tadashi Tabei, Yoshimi Tamura, Yosuke Nakajima, Kimihiko Moriya, Yusuke Yagihashi, Takashi Fukagai, Yasuhisa Fujii. Clinical questions in the Japanese Urological Association's 2024 clinical practice guidelines for urethral strictures. Int J Urol. 2024.09; 31(9); 956-967

13. Hajime Tanaka, Yuki Fukawa, Kouhei Yamamoto, Kousuke Tanimoto, Akira Takemoto, Takayasu Mori, Hisashi Hasumi, Mayumi Kinoshita, Takumi Kanazawa, Asuka Furukawa, Koichiro Kimura, Hiroyuki Sato, Akihiro Hirakawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Steven C Campbell, Yasuhisa Fujii. Prognostic impact and genomic backgrounds of renal parenchymal infiltration or micronodular spread in non-metastatic clear cell renal cell carcinoma. Mod Pathol. 2024.08; 100590

14. Nakamura Y, Ishikawa Y, Kobayashi M, Fujiwara M, Fan B, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Yoshida S, Fujii Y. Location-specific diagnostic efficiency of photodynamic diagnosis-guided biopsy in bladder mapping biopsies. International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association. 2024.08;

15. Minato Yokoyama, Wei Chen, Yuma Waseda, Motohiro Fujiwara, Daisuke Kato, Takeshi Shirakawa, Yohei Shimizu, Tsunehiro Nenohi, Yuki Matsumoto, Taisuke Okumura, Masayasu Urushibara, Masumi Ai, Kiyohide Fushimi, Takashi Fukagai, Masatoshi Eto, Yasuhisa Fujii, Kazuhiro Ishizaka. Comparisons of in-hospital fee and surgical outcomes between robot-assisted, laparoscopic, and open radical cystectomy: a Japanese nationwide study. Jpn J Clin Oncol. 2024.07; 54(7); 822-826

16. Fujiwara M, Shimada W, Yokoyama M, Koyanagi A, Shintaku H, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Yoshida S, Fujii Y. Durable response to nivolumab rechallenge in a patient with metastatic clear cell renal cell carcinoma. IJU case reports. 2024.07; 7(4); 293-296

17. Fuyuki F Inagaki, Makoto Kano, Aki Furusawa, Takuya Kato, Ryuhei Okada, Hiroshi Fukushima, Seiichiro Takao, Shuhei Okuyama, Peter L Choyke, Hisataka Kobayashi. Near-infrared photoimmunotherapy targeting PD-L1: Improved efficacy by preconditioning the tumor microenvironment. Cancer Science. 2024.07; 115(7); 2396-2409

18. Kazuma Saito, Masanori Kobayashi, Minato Yokoyama, Towako Taguchi, Koichiro Kimura, Takumi Akashi, Yasuhisa Fujii, Ryuichi Okamoto. Transjejunal fine-needle biopsy using a forward-viewing echoendoscope for diagnosis of a rare hereditary paraganglioma. VideoGIE. 2024.07; 9(7); 329-332

19. Kobayashi Masaki, Matsuoka Yoh, Uehara Sho, Tanaka Hiroshi, Fujiwara Motohiro, Nakamura Yuki, Ishikawa Yudai, Fukuda Shohei, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Yoshida Soichiro, Fujii Yasuhisa. Utility of positive core number on MRI-ultrasound fusion targeted biopsy in combination with PI-RADS scores for predicting unexpected extracapsular extension of clinically localized prostate cancer(タイトル和訳中) International Journal of Urology. 2024.07; 31(7); 739-746

20. Hiroshi Fukushima, Aki Furusawa, Seiichiro Takao, Ebaston Thankarajan, Michael P Luciano, Syed Muhammad Usama, Makoto Kano, Shuhei Okuyama, Hiroshi Yamamoto, Motofumi Suzuki, Miyu Kano, Peter L Choyke, Martin J Schnermann, Hisataka Kobayashi. Near-infrared duocarmycin photorelease from a Treg-targeted antibody-drug conjugate improves efficacy of PD-1 blockade in syngeneic murine tumor models. Oncoimmunology. 2024.06; 13(1); 2370544

21. Kimura K, Yamamoto T, Tsuchiya J, Yoshida S, Yanai S, Onishi I, Fujii Y, Tateishi U. A diagnostic approach of various urethral diseases using multimodal imaging findings: comprehensive overview. Abdominal radiology (New York). 2024.06;

22. Shintaro Asai, Masaki Kobayashi, Shohei Fukuda, Koichiro Kimura, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Significance of atypical nodules upgraded to category 3 in Prostate Imaging Reporting and Data System version 2.1 for prostate cancer diagnosis. Int J Urol. 2024.06; 31(6); 693-695

23. Cesare Saitta, Jonathan A Afari, Dattatraya Patil, Hajime Tanaka, Kit L Yuen, Luke Wang, Julian Cortes, Franklin Liu, Mirha Mahmood, Joshua Matian, Mariam Mansour, Dhruv Puri, Clara Cerrato, Mimi V Nguyen, Kevin Hakimi, Masaki Kobayashi, Shohei Fukuda, Margaret F Meagher, Yasuhisa Fujii, Viraj Master, Ithaar H Derweesh. Association of Elevated C-Reactive Protein with Worsened Outcomes in Different Histologies of Renal Cortical Tumors: Analysis of the INMARC Registry. Clin Genitourin Cancer. 2024.06; 22(3); 102098

24. Go Kimura, Yasuhisa Fujii, Takahiro Osawa, Yosuke Uchitomi, Kazunori Honda, Miki Kondo, Ariko Otani, Tetsuya Wako, Daisuke Kawai, Yoshihide Mitsuda, Naotaka Sakashita, Nobuo Shinohara. Cross-sectional study of therapy-related expectations/concerns of patients with metastatic renal cell carcinoma and physicians in Japan. Cancer Med. 2024.06; 13(11); e7196

25. Fang K, Fang DL, Yu H, Chen YA, Yu PZ, Wang ZF, Zhang RB, Yang W, Tao L, Fukushima H, Dong Y, Han CH. Exploring the microRNA-mRNA regulatory network associated with solasonine in bladder cancer. Translational andrology and urology. 2024.05; 13(5); 812-827

26. Yuto Matsushita, Takahiro Kojima, Takahiro Osawa, Tomokazu Sazuka, Shingo Hatakeyama, Keisuke Goto, Kazuyuki Numakura, Kazutoshi Yamana, Shuya Kandori, Kazutoshi Fujita, Kosuke Ueda, Hajime Tanaka, Ryotaro Tomida, Toshifumi Kurahashi, Yukari Bando, Naotaka Nishiyama, Takahiro Kimura, Shimpei Yamashita, Hiroshi Kitamura, Hideaki Miyake, . Prognostic outcomes in patients with metastatic renal cell carcinoma receiving second-line treatment with tyrosine kinase inhibitor following first-line immune-oncology combination therapy. Int J Urol. 2024.05; 31(5); 526-533

27. Go Kimura, Yasuhisa Fujii, Kazunori Honda, Takahiro Osawa, Yosuke Uchitomi, Miki Kondo, Ariko Otani, Tetsuya Wako, Daisuke Kawai, Yoshihide Mitsuda, Naotaka Sakashita, Nobuo Shinohara. Financial Toxicity in Japanese Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma: A Cross-Sectional Study. Cancers (Basel). 2024.05; 16(10);

28. Toide M, Tanaka H, Kobayashi M, Fujiwara M, Nakamura Y, Fukuda S, Kimura K, Waseda Y, Yoshida S, Tateishi U, Fujii Y. Stepwise algorithm using computed tomography and magnetic resonance imaging for differential diagnosis of fat-poor angiomyolipoma in small renal masses: A prospective validation study. International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association. 2024.04; 31(7); 778-784

29. Cesare Saitta, Jonathan A Afari, Arman Walia, Dattatraya Patil, Hajime Tanaka, Kevin Hakimi, Luke Wang, Margaret F Meagher, Franklin Liu, Mimi V Nguyen, Dhruv Puri, Clara Cerrato, Ava Saidian, Masaki Kobayashi, Shohei Fukuda, Yasuhisa Fujii, Viraj Master, Ithaar H Derweesh. Unraveling the BMI paradox in different renal cortical tumors: insights from the INMARC registry. Urol Oncol. 2024.04; 42(4); 119.e1-119.e16

30. Motohiro Fujiwara, Hajime Tanaka, Masaki Kobayashi, Yuki Nakamura, Bo Fan, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Kazuma Toda, Soichiro Yoshida, Minato Yokoyama, Ryoichi Yoshimura, Yasuhisa Fujii. Neoadjuvant Chemoradiotherapy Followed by Radical Cystectomy for Muscle-Invasive Bladder Cancer: Analysis of Efficacy and Safety in 119 Patients. Clin Genitourin Cancer. 2024.04; 22(2); 193-200.e1

31. Hiroshi Fukushima, Seiichiro Takao, Aki Furusawa, Vladimir Valera Romero, Sandeep Gurram, Takuya Kato, Shuhei Okuyama, Makoto Kano, Peter L. Choyke, Hisataka Kobayashi. Near-infrared photoimmunotherapy targeting Nectin-4 in a preclinical model of bladder cancer Cancer Letters. 2024.03; 585; 216606

32. Ishikawa Yudai, Tanaka Hajime, Fujiwara Motohiro, Nakamura Yuki, Fukuda Shohei, Waseda Yuma, Yoshida Soichiro, Yokoyama Minato, Fujii Yasuhisa. Incidence and predictors of intraoperative hypotension during transurethral bladder tumor resection with oral 5-aminolevulinic acid(タイトル和訳中) International Journal of Urology. 2024.03; 31(3); 238-244

33. Kazuyuki Mori, Shingo Hatakeyama, Hideki Enokida, Hideaki Miyake, Eiji Kikuchi, Hiroyuki Nishiyama, Tomohiko Ichikawa, Takao Kamai, Yasushi Kaji, Haruki Kume, Tsunenori Kondo, Hideyasu Matsuyama, Naoya Masumori, Akihiro Kawauchi, Atsushi Takenaka, Hirotsugu Uemura, Masatoshi Eto, Norio Nonomura, Yasuhisa Fujii, Shiro Hinotsu, Chikara Ohyama. Summary of the Clinical Practice Guidelines for Upper Tract Urothelial Carcinoma 2023 by the Japanese Urological Association. Int J Urol. 2024.03; 31(3); 194-207

34. Ukihide Tateishi, Koichiro Kimura, Junichi Tsuchiya, Daisuke Kano, Tadashi Watabe, Norio Nonomura, Katsuhiko Saito, Kota Yokoyama, Ken Yamagiwa, Takuya Adachi, Yuji Kojima, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Phase I/IIa trial of 18F-prostate specific membrane antigen (PSMA) 1007 PET/CT in healthy volunteers and prostate cancer patients. Jpn J Clin Oncol. 2024.03; 54(3); 282-291

35. Murakami M, Hara K, Ikeda K, Horino M, Okazaki R, Niitsu Y, Takeuchi A, Aoki J, Shiba K, Tsujimoto K, Komiya C, Nakamura Y, Kurata M, Akashi T, Fujii Y, Yamada T. Single-Nucleus Analysis Reveals Tumor Heterogeneity of Aldosterone-Producing Adenoma. Hypertension (Dallas, Tex. : 1979). 2024.02; 81(2); 361-371

36. Fan Bo, Yokoyama Minato, Kobayashi Masaki, Nakamura Yuki, Fujiwara Motohiro, Ishikawa Yudai, Fukuda Shohei, Waseda Yuma, Tanaka Hajime, Yoshida Soichiro, Fujii Yasuhisa. Incidence, risk factors, and significance of 20% decrease from new baseline estimated glomerular filtration rate after radical and partial nephrectomy within 2 years(タイトル和訳中) International Journal of Urology. 2024.02; 31(2); 119-124

37. Madoka Kataoka, Minato Yokoyama, Yuma Waseda, Masaya Ito, Masaki Kobayashi, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Hitoshi Masuda, Yasuhisa Fujii. Longitudinal deterioration in lower urinary tract symptoms after artificial urinary sphincter implantation in patients with a history of pelvic radiation therapy. Low Urin Tract Symptoms. 2024.01; 16(1); e12507

1. 小林 正貴, 木村 浩一朗, 吉富 香澄, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. 監視療法中の前立腺癌患者に対する MRI/US 融合標的生検の有用性 泌尿器外科. 2024.08; 37(8); 945-948

2. 中村 祐基, 藤原 基裕, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 堀江 真太郎, 吉田 武史, 大野 京子, 藤井 靖久. 急性緑内障発作予防を目的としたロボット支援下前立腺全摘除術前の眼科受診の意義 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会誌. 2024.03; 32(1); 46-49

1. Hiroshi Fukushima, Aki Furusawa, Seiichiro Takao, Siddharth S. Matikonda, Makoto Kano, Shuhei Okuyama, Hiroshi Yamamoto, Peter L. Choyke, Martin J. Schnermann, Hisataka Kobayashi. Phototruncation cell tracking with near-infrared photoimmunotherapy using heptamethine cyanine dye to visualise migratory dynamics of immune cells eBioMedicine. 2024.04; 102; 105050

[講演 · 口頭発表等]

1. Waseda Y. The Importance of Assessing LUTS beyond Incontinence: Decrease in Urinary Incontinence Distress and Emergence of OAB Symptoms After Artificial Urinary Sphincter Implantation. The 29th Annual Meeting of the Korean Continence Society 2024.09.28

2. Hajime Tanaka. The Emergent Role of Theranostics in Renal Cell Carcinoma. UAA annual congress 2024 2024.09.05

3. Yuki Nakamura, Yudai Ishikawa, Shunya Matsumoto, Riko Ikeda, Kasumi Yoshitomi, Masaki Kobayashi, Motohiro Fujiwara, Bo Fan, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Can photodynamic diagnosis-guided biopsy replace bladder mapping biopsy?. AUA annual meeting 2024 2024.05.06

4. Wei Chen. Prognostic nomograms incorporating preoperative CRP level for predicting survival outcomes in patients with nonmetastatic clear cell renal cell carcinoma: INMARC study. AUA annual meeting 2024 2024.05.05

5. Rikuto Yasujima, Hajime Tanaka, Junichi Tsuchiya, Akira Hasegawa, Hiroki Tanaka, Tomoki Kimura, Kotaro Suzuki, Tsubasa Ito, Riko Ikeda, Shunya Matsumoto, Kasumi Yoshitomi,Masaki Kobayashi, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Wei Chen, Fan Bo, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Exploring the Role of FDG PET/CT in Predicting Pembrolizumab Response for Metastatic Urothelial Carcinoma. ”AUA annual meeting 2024 2024.05.05

6. Keita Izumi, Hajime Tanaka, Masataka Yano, Ryoji Takazawa, Akira Noro, Tetsuro Tsukamoto, Junji Yonese, Tesuo Okuno, Yasuyuki Sakai, Fumitaka Koga, Yukio Kageyama, Kazutaka Saito, Yasuhisa Fujii. Real-word outcomes of maintenance chemotherapy versus avelumab therapy after first-line induction chemotherapy for advanced urothelial carcinoma: YUSHIMA study. AUA annual meeting 2024 2024.05.05

7. Tanaka H, Fujiwara M, Hasegawa A, Tanaka H, Suzuki K, Kimura T, Yasujima R, Ito T, Ikeda R, Matsumoto S, Yoshitomi K, Kobayashi M, Nakamura Y, Fan B, Chen W, Ishikawa Y, Fukuda S, Waseda Y, Yoshida S, Yoshimura R, Kihara K, Fujii Y.. Long-term oncologic outcomes of tetramodal bladder-preservation therapy incorporating induction chemoradiotherapy and consolidative partial cystectomy with pelvic lymphnode dissection for muscle-invasive bladder cancer. AUA annual meeting 2024 2024.05.04

8. Yudai Ishikawa, Hajime Tanaka, Bo Fan, Masaki Kobayashi, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Diagnostic performance of fluorescence cystoscopy using oral 5-aminolevulinic acid in transurethral resection of bladder tumor after BCG treatment . AUA annual meeting 2024 2024.05.04

9. Kotaro Suzuki, Yudai Ishikawa, Hajime Tanaka, Bo Fan, Masaki Kobayashi, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Diagnostic accuracy of fluorescence cystoscopy using oral 5-aminolevulinic acid in transurethral resection of bladder tumor after chemoradiation therapy for muscle invasive bladder cancer. AUA annual meeting 2024 2024.05.04

10. Motohiro Fujiwara, Daisuke Hirahara, Tatsunori Saho, Eichi Takaya, Akira Hasegawa, Tomoki Kimura, Kotaro Suzuki, Hiroki Tanaka, Tsubasa Ito, Rikuto Yasujima, Riko Ikeda, Shunya Matsumoto, Kasumi Yoshitomi, Masaki Kobayashi, Yuki Nakamura, Wei Chen, Bo Fan, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda,

Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Delta-radiomics analysis in comparison to radiomics analysis using dynamic computed tomography for preoperative risk stratification in upper urinary tract urothelial carcinoma. AUA annual meeting 2024 2024.05.04

11. Koki Enomoto, Soichiro Yoshida, Haruto Izumi, Sho Uehara, Yoh Matsuoka, Kohei Yamamoto, Daisuke Hirahara, Tatsunori Saho, Eichi Takaya, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Kenichi Ohashi, Yasuhisa Fujii. Are there differences in MRI findings between cribriform and non-cribriform cancer? An analysis using radiomics and delta-radiomics. "AUA annual meeting 2024 2024.05.04

12. Waseda Y. Treatment strategy for reccurent POP after sacrocolpopexy - AUA/JUA International Affiliate Society Meeting- Female Urology. AUA annual meeting 2024 2024.05.03

13. Yudai Ishikawa. Diagnostic accuracy of fluorescence cystoscopy using oral 5-aminolevulinic acid in transurethral resection of bladder tumor after BCG treatment. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.27

14. 田中　一、藤井　靖久. Management and treatment outcomes for intravesical recurrence after bladder preservation therapy for muscle-invasive bladder cancer. 2024.04.27

15. 福田　翔平. preperative saecopenia index based on serum creatinine and cystatin C is associated with prognosis after nephrectomy for nonmetastatic renal cell carcinoma. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.27

16. 小林　正貴. Comparison of the utility of highest vs. global Gleason grade group in MRI-US fusion biopsy for predicting postprostatectomy biochemical recurrence. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.26

17. 藤原　基裕. Delta-radiomics analysis using dynamic computed tomotraphy for preoperative risk stratification in upper urinary tract urothelial carcinoma. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.26

18. Hiroshi Fukushima, Seiichiro Takao, Aki Furusawa, Vladimir Valera Romero, Sandeep Gurram, Takuya Kato, Shuhei Okuyama, Makoto Kano, Peter L. Choyke, Hisataka Kobayashi. Nectin-4-targeted near-infrared photoimmunotherapy in bladder cancer preclinical models. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

19. 吉田　宗一郎. The Impact of Next Generation Imaging Modalities on Prostate Cancer Treatment.. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

20. 吉田　宗一郎. Local therapy for primary and metastatic lesions in metastatic prostate cancer: treatment strategies and case discussions from a urologist's perspective. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

21. 吉田　宗一郎. Phase Ⅰ/Ⅱa Trial of 18F-prostate Specific Membrane Antigen(PSMA)PET/CT in Healthy Volunteers and Prostate Cancer Patients. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

22. Tsubasa Ito. Incudence and prognostic impact of mixed response to pembrolizumab in metastatic urothelial carcinoma. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

23. 小林　正貴. Racial disparities in clinical characteristics of metastatic recurrence after surgery in clear cell renal cell carcinoma. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

24. 田中　一、藤原　基裕、小林　正貴、中村　祐基、Fan Bo、石川　雄大、福田　翔平、早稲田　悠馬、吉田　宗一郎、吉村　亮一、木原　和徳、藤井　靖久. Long-term oncologic outcomes of tetramodal bladder-preservation therapy for muscle-invasive bladder cancer. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

25. 松本　峻弥. investigation of Eligibility for Kidney-Sparing Surgery in Upper Tract Urothelial Carcinoma: Risk Stratification Using Radical Nepfroureterectomy Specimens. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

26. Tanaka H, Fujiwara M, Hasegawa A, Tanaka H, Suzuki K, Kimura T, Yasujima R, Ito T, Ikeda R, Matsumoto S, Yoshitomi K, Kobayashi M, Nakamura Y, Fan B, Chen W, Ishikawa Y, Fukuda S, Waseda Y, Yoshida S, Yoshimura R, Kihara K, Fujii Y.. Tetramodal bladder-preservation therapy incorporating induction chemoradiotherapy and consolidative partial cystectomy with pelvic lymphnode dissection for muscle-invasive bladder cancer: long-term oncologic outcomes of 201 patients. EAU annual congress 2024 2024.04.08

27. Horie T, Fujiwara M, Hasegawa A, Kimura T, Suzuki K, Tanaka H, Ito T, Yasujima R, Ikeda R, Matsumoto S,Yoshitomi K, Kobayashi M, Nakamura Y, Chen W, Fan B, Ishikawa Y, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Yoshida S, Fujii Y. Radiomics analysis using non-contrast computed tomography for predicting HDU admission in patients with acute pyelonephritis. EAU annual meeting 2024 2024.04.08

28. Shohei Fukuda, Masaki Kobayashi, Chen Wei, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Yudai Ishikawa, Akinori Nakayama, Margaret Meagher, Dattatraya Patil, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Kazutaka Saito, Ithaar H Derweesh, Viraj A Master, Yasuhisa Fujii. Outcomes of partial and radical nephrectomy in patients with pathological T3a upstaging of clinical T1 renal cell carcinoma: an analysis from the INternational Marker Consortium for Renal Cancer (INMARC) Cohort. EAU annual congress 2024 2024.04.08

29. Kenji Tanabe, Shuichiro Kobayashi, Katsyshi Nagashima, Junji Yonese, Yukihiro Ohtsuka, Tetsuo Okuno, Ryoji Takazawa, Akira Noro, Masataka, Yano, Tetsuro Tsukamoto, Kazutaka Saito, Yasuyuki Sakai, Fumitaka Koga, Yukio Kageyama, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida and Yasuhisa Fujii. The Gustave Roussy Immune Score Predicts Survival Outcome of Patients with Metastatic Urothelial Carcinoma Treated with Pembrolizumab: YUSHIMA study. EAU annual congress 2024 2024.04.07

30. Masaki Kobayashi, Kasumi Yoshitomi, Bo Fan, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Comparison of the utility of worst vs. global Gleason grade group in MRI-US fusion biopsy for predicting postprostatectomy biochemical recurrence. ”EAU annual congress 2024 ” 2024.04.06

31. Yoshida S, Kimura K, Ikeda M, Fukui K, Tsuchiya J, Nakamura Y, Waseda Y, Tanaka H, Tateishi U, Fujii Y.. Quantitative MRI Parameters Providing the Novel Value in Discriminating Muscle-Invasive Bladder Cancer.. The 39th Annual Congress of the European Association of Urology 2024.04.06

32. Wei Chen. Development and validation of prognostic nomograms and integrated software incorporating preoperative CRP level for predicting survival outcomes in patients with nonmetastatic clear cell renal cell carcinoma: INMARC study. 39th Annual congress of EAU 2024.04.06

33. Tanaka H, Fujii Y.. Presurgical systemic therapy and subsequent cytoreductive nephrectomy (CN). EAU annual congress 2024 2024.04.05

34. Hiroki Tanaka, Masaki Kobayashi, Kasumi Yoshitomi, Bo Fan, Motohiro Fujiwara, Yuki Nakamura, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Transperineal approach is safer than transrectal approach in MRI-ultrasound fusion prostate biopsy: an analysis using propensity score matching. ”EAU annual congress 2024 ” 2024.04.05

35. Motohiro Fujiwara, Daisuke Hirahara, Tatsunori Saho, Eichi Takaya, Akira Hasegawa,Tomoki Kimura, Kotaro Suzuki, Hiroki Tanaka, Tsubasa Ito, Rikuto Yasujima, Riko Ikeda,Shunya Matsumoto, Kasumi Yoshitomi, Masaki Kobayashi, Yuki Nakamura, Wei Chen, Bo Fan, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Yasuhisa Fujii. Delta-radiomics analysis in comparison to radiomics analysis using dynamic computed tomography for preoperative risk stratification in upper urinary tract urothelial carcinoma. EAU annual meeting 2024 2024.04.05

36. ”Tomoki Kimura, Motohiro Fujiwara, Shunya Matsumoto, Kasumi Yoshitomi, Masaki Kobayashi, Bo Fan, Yuki Nakamura, Yudai Ishikawa, Shohei Fukuda, Yuma Waseda, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Ryoji Takazawa, Yasuyuki Sakai, Fumitaka Koga, Kazutaka Saito, Masataka Yano, Tetsuro Tsukamoto, Tetsuo Okuno, Yukio Kageyama, Yukihiro Otsuka, Katsushi Nagahama, Yasuhisa Fuji”. ”Real-world outcomes of first-line systematic treatment in advanced Upper-Urinary Tract Urothelial Carcinoma patients with renal impairment : YUSHIMA-04 study”. EAU annual congress 2024 2024.04.05

37. Waseda Y, Ikeda R, Matsumoto S, Yoshitomi K, Fan B, Kobayashi M, Fujiwara M, Nakamura Y, Ishikawa Y, Fukuda S, Tanaka H, Yoshida S, Fujii Y. Optimal timing of surgical intervention after diagnosis of upper urinary tract stones: a perspective from renal function preservation.. 39th Annual congress of EAU 2024.04.04

38. Shunya Matsumoto. Incidence of potential candidates for kidney-sparing surgery in upper tract urothelial carcinoma : analysis using radical nephroureterectomy specimens. 39th Annual congress of EAU 2024.04.04

39. Takao S, Furusawa A, Fukushima H, Okuyama S, Kano M, Yamamoto H, Choyke PL, Kobayashi H.. F3 targeted near-infrared photoimmunotherapy: The ideal therapeutic approach for numerous malignancies.. AACR Annual Meeting 2024 2024.04

40. Hajime Tanaka. Presurgical Immune Checkpoint Inhibitors in Renal Cell Carcinoma with Inferior Vena Cava Tumor Thrombus: Yes or No?. Advancements in Urology: An AUA/JUA Symposium 2024.03.09

41. Masaki Kobayashi. Session Ⅰ: Prostate cancer Panel Discussion: Case Management MRI Guided Fusion Biopsy of the Prostate . Advancements in Urology 2024 AUA/JUA Symposium 2024.03.07

1. 石川　雄大. 後腹膜アプローチによる低侵襲手術. 第 38 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2024.11.30

2. 福田　翔平. ロボット支援前立腺全摘除および膀胱全摘除における基礎から高難度症例まで. 第 38 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2024.11.30

3. 松本　峻弥. CT 画像再構成技術と空間分解能の工場が腎動脈描出能に与える影響の検討. 第 38 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2024.11.30

4. 早稲田悠馬、池田理子、松本峻也、吉富香澄、 范博、小林正貴、藤原基裕、 中村祐基、 石川雄大、福田翔平、田中一、吉田宗一郎、藤井靖久. 腎機能保護の観点からみた上部尿路結石症診断後の外科的治療介入の最適なタイミング. 第 38 回日本泌尿器内視鏡 · ロボティクス学会総会 2024.11.28

5. 吉田　宗一郎. PSMA-PET が変える前立腺がん診療「鳥」が何をもたらすか?. 第 64 回日本核医学会学術総会/第 44 回日本核医学技術学会総会学術大会 2024.11.07

6. 石川　雄大. 筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存療法後の筋層非浸潤性膀胱癌再発症例の臨床転帰. 日本泌尿器腫瘍学会第 10 回学術集会 2024.10.27

7. 中村　祐基. ”転移性尿路上皮癌に対するエンホルツマブベドチンの治療成績と予後因子 多施設共同 後ろ向き研究: ゆしま Study-04”. 日本泌尿器腫瘍学会第 10 回学術集会 2024.10.27

8. 陳　煒. 非転移性淡明細胞型腎細胞癌の予後予測における術前 CRP 至適カットオフ値の人種差: 国際多施設共同研究”. 日本泌尿器腫瘍学会第 10 回学術集会 2024.10.26

9. 田中　一、藤井　靖久. 筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存療法: 患者選択と治療戦 略 . 第 62 回癌治療学会 2024.10.25

10. 福島　啓司. シアニン色素の光変換を用いた免疫細胞トラッキング技術の 近赤外光線免疫療法への応用. 第 62 回癌治療学会 2024.10.25

11. 吉田　宗一郎. 筋層浸潤性膀胱癌の鑑別に新たな価値をもたらす定量的 MRI パラメータの探索的研究 (アンコール演題). 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会 2024.10.05

12. 早稲田　悠馬、牟田 理絵、漆戸 まどか、松本 峻弥、小林 正貴、中村 祐基、石川 雄大、福島 啓司、福田 翔平、田中 一、吉田 宗一郎、藤井 靖久. 単一施設における人工尿道括約筋植込術 150 件の長期成績. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会 2024.10.05

13. 田中　一、藤井　靖久. 局所進行性腎細胞癌 (T3a) のリスク評価と治療戦略. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会 2024.10.05

14. 下田　海生. PI-RADS category 4-5 病変における年齢別の臨床的有意癌検出率の検討. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会 2024.10.05

15. 牟田　理絵. 術前の栄養指標 mGPS は女性における大腿骨近位部骨折術後の尿閉の予測因子である . 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会 2024.10.05

16. 早稲田　悠馬. 上部尿路結石症薬物療法の最前線: 効果的な臨床アプローチ. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会 2024.10.04

17. 伊東　翼. 当院における膀胱原発小細胞癌に対する治療成績の検討. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会 2024.10.04

18. 田中　一、藤井　靖久. CheckMate901 試験、徹底解説. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会 2024.10.04

19. 吉田　宗一郎. 「鳥」がもたらす前立腺癌診療の変化. 日本性機能学会第 34 回学術集会 2024.09.15

20. 福島　啓司 、松岡　陽、上原　翔、松原　大五郎、松本　峻弥 、小林　正貴、中村　祐基、石川　雄大、福田　翔平、 早稲田　悠馬、田中　一 、吉田　宗一郎 、吉村　亮一 、藤井　靖久. 限局性前立腺癌における部分小線源療法の性機能を含む中長期臨床成績と傾向 スコアマッチングによる根治的前立腺全摘除との比較. 日本性機能学会第 34 回学術集会 2024.09.15

21. 藤井　靖久. 新規画像診断により変化する前立腺癌診療:「鳥」はいつ 日本に舞い降りる?. 第 31 回日本排尿機能学会 2024.09.07

22. 小林　正貴. PI-RADS v2.1 における atypical nodule アップグレードシステムの検討. 第 11 回泌尿器画像診断 · 治療技術研究会 2024.08.03

23. 田中　一、藤井　靖久. ICI 時代に考える転移性腎細胞癌のリスク評価と治療戦略. 第 11 回泌尿器画像診断 · 治療技術研究会 2024.08.03

24. 福田　翔平. 再発高リスク腎細胞癌における術前 CRP 値の意義: 国際多施設共同研究 (INMARC study) による検討. 第 54 回腎癌研究会 2024.07.26

25. 吉田　宗一郎. オリゴ転移癌の診断による前立腺癌治療戦略の変化. 第 33 回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会 2024.07.05

26. 漆戸　まどか. 前立腺癌に対する永久挿入密封小線源治療時のハイドロゲルスペーサー留置による血便発生予防効果についての検討. 第 33 回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会 2024.07.05

27. 吉富 香澄, 田中 一, 前沢 祐弥, 会田 祐介, 松本 峻弥, 相馬 貴彦, 小林 正貴, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. オリゴ転移腎細胞癌に対する転移巣切除　オリゴ転移の分類と完全切除後無再発生存の関係. 腎癌研究会会報 2024.07.01

28. 小林 正貴, 田中 一, 会田 祐介, 前澤 祐弥, 浅井 真太郎, 陳 い, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, Derweesh Ithaar, 藤井 靖久. 淡明細胞型腎細胞癌根治術後の転移再発形式と人種の関係. 腎癌研究会会報 2024.07.01

29. 早稲田　悠馬. Bladder health の評価に基づいた前立腺肥大症治療戦略. 第 33 回骨盤外科機能温存研究会 2024.06.15

30. 福田　翔平. 膀胱温存療法後の再発症例および骨盤内放射線照射歴を有する症例に対するロボット 支援腹腔鏡下膀胱全摘除の治療成績. 第 33 回骨盤外科機能温存研究会 2024.06.15

31. 今井 彩乃, 高瀬 博, 井出 光広, 田川 泰寛, 杉原 潤, 柴田 翔, 中村 祐基, 横山 みなと, 藤井 靖久, 木脇 祐子, 鴨居 功樹, 大野 京子. IgG4 関連疾患に生じた両眼性肉芽腫性ぶどう膜炎の 1 例. 眼科臨床紀要 2024.06.01

32. 田中 大樹, 小林 正貴, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. MRI/US fusion 前立腺生検における合併症の頻度の検討　経会陰式生検と経直腸式生検の比較. 泌尿器外科 2024.06.01

33. 藤原 基裕, 金子 大輝, 田中 一, 木村 浩一朗, 松本 峻弥, 吉富 香澄, 范 博, 小林 正貴, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. 上部尿路上皮癌における造影 CT Texture 解析の有用性についての検討. 泌尿器外科 2024.06.01

34. 相馬 貴彦, 早稲田 悠馬, 松原 大五郎, 戸田 一真, 松本 峻弥, 吉富 香澄, 小林 正貴, 范 博, 藤原 基裕, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. 前立腺癌に対する永久挿入密封小線源治療時のハイドロゲルスペーサー留置による放射線性直腸炎予防効果についての検討. 泌尿器外科 2024.06.01

35. 木村 知希, 吉田 宗一郎, 松本 峻弥, 吉富 香澄, 小林 正貴, 藤原 基裕, 范 博, 中村 祐基, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 藤井 靖久. 当院における BRCA 遺伝子変異検査の運用. 泌尿器外科 2024.06.01

36. 伊東 翼, 中村 祐基, 安嶋 陸人, 松本 峻弥, 吉富 香澄, 小林 正貴, 藤原 基裕, 范 博, 石川 雄大, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. 当院における転移性尿路上皮癌に対するエンホルツマブベドチン療法の初期治療経験. 泌尿器外科 2024.06.01

37. 安嶋 陸人, 石川 雄大, 小林 正貴, 伊東 翼, 松本 峻弥, 吉富 香澄, 藤原 基裕, 范 博, 中村 祐基, 福田 翔平, 早稲田 悠馬, 田中 一, 吉田 宗一郎, 藤井 靖久. 高齢者に対する MRI 超音波融合前立腺生検の有用性. 泌尿器外科 2024.06.01

38. 藤井　靖久. 筋層浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存両方. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.27

39. 藤井　靖久. 日本の転移性腎がんの患者さんが薬物療法に期待すること：医師との相違と経済毒性. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.26

40. 吉田　宗一郎. PET が変える前立腺癌診療. 第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024.04.25

41. 原 一成, 村上 正憲, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 中村 祐基, 倉田 盛人, 明石 巧, 藤井 靖久, 山田 哲也. アルドステロン産生腺腫を対象にした single-nucleus RNA-seq 解析. 日本内分泌学会雑誌 2024.04.01

[受賞]

1. Reviewer of the Month (2024) Translational Andrology and Urology 誌 , Translational Andrology and Urology 誌 , 2024 年 05 月

2. ポスター優秀賞, 第 11 回泌尿器画像診断 · 治療技術研究会, 2024 年 08 月

3. イノベーションアイデアコンテスト 2024 最優秀賞, 東京医科歯科大学 統合イノベーション機構 , 2024 年 09 月

4. 大隅ライフサイエンス研究会奨励賞, 大隅ライフサイエンス研究会, 2024 年 10 月

[その他業績]

1. 「 腎臓がんの術後再発リスクを見極める新たな鍵 」 — がんと正常部との境界部のパターンでより高精度な再発予測が可能に —, 2024 年 09 月
   Modern Pathology

[社会貢献活動]

1. Art in Hospital 患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる, 集中出版株式会社, 月刊『集中』, 2023 年 12 月 08 日 - 2024 年 01 月 30 日

2. 病院〓メッセージ〜診療 · 教育 · 研究を通じた社会貢献が使命〜, 株式会社ギミック, 病院情報サイト「ホスピタルズ · ファイル」, 2024 年 01 月 10 日 - 2024 年 03 月 07 日

3. 院長インタビュー, 株式会社メディカルノート, メディカルノート, 2024 年 03 月 27 日 - 2024 年 06 月

4. 貴院のご紹介, BRB メディカルサロン, 会報誌『Letterzine』vol.8, 2024 年 04 月 23 日 - 2024 年 07 月

5. スキャナー＝移植断念　防止へ一歩　３大学参入へ　低い収益性　国公立に偏り　東大の負担　軽減, 読売新聞社, 読売新聞, 2024 年 06 月 25 日 - 2024 年 06 月 28 日

消化管外科学分野

Department of Gastrointestinal Surgery

教授　絹笠祐介
准教授　徳永正則、賀川弘康、岡田卓也（国際医療部）
講師　藤原尚志、谷岡利朗、山内慎一、花岡まりえ、川田研郎（光学診療部）
助教　小郷泰一、川村雄大、滋野高史、奥野圭祐
佐々木恵、高岡亜弓、山本雄大、杉下哲夫
大学院生（医員含む）
金本栄美、佐久間淳、富義明、山下大和、伊藤その、
角田龍太、田澤美也子、中島啓、南角哲俊、石橋直弥、
坂野正佳、塩原寛之、島野瑠美、塚本史雄、中川俊作、
松永史穂、米澤博貴、龍喬子、大友真由子、坂井義博、
鈴木悠太、山﨑嘉美、芥田壮平、朝野紗稀子、有賀翔太、
井川勇人、石原慶、田所裕規、塚原啓司、辻啓明、
中川真理、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、藤﨑友梨奈、
谷田部悠介、杉浦光太、竹中雄輝、徳橋愛彦、鳴海絢、
原田紡、貫井聖人、山本祥馬

(1) 分野概要

食道外科、胃外科、大腸 · 肛門外科の３診療科を擁し、消化管全体を研究対象とする教室である。臨床活動に基盤を置く臨床研究と、分野内および学内外の専門研究室において基礎研究を行い、それを臨床の現場へ還元するとともに、最新でレベルの高い消化管外科診療と卒前 · 卒後教育を提供する。

(2) 研究活動

国内外における最新の外科技術を導入 · 実践するとともに、新たな技術の創出を行い、その普及を図る。消化管癌の内視鏡的早期診断 · 治療技術の開発、新たな低侵襲外科手術手技の開発、口腔 · 咽頭など関連臓器への技術移転、他施設との共同臨床試験など行う。また、分子生物学的手法を用いた癌関連の基礎研究を行っている。

(3) 教育活動

卒前と卒後初期研修は消化器 · 一般外科３分野（消化管外科学、肝胆膵外科学、総合外科学）と胸部外科２分野（心臓血管外科学、呼吸器外科学）とで協力して行い、外科の基本概念と基礎知識、基本技術の習得を図らせる。後期研修では消化器 · 一般外科医としての基本を学ばせ、外科専門医取得後は博士号取得（大学院）コースないし専門医コースで研究と外科修練を続けさせる。

(4) 教育方針

基本的な消化器 · 一般外科の知識と技術がすべての礎であり、臨床医としての技術に裏打ちされた優しさ、そして、論理的で客観性のある診療を素早く行える高い実地能力の涵養を図る。

(5) 臨床活動および学外活動

分野内での専門的な修練や研究活動に止まらず、関連病院において消化器 · 一般外科医としての能力を磨きつつ地域医療に貢献するとともに、国内外への留学、海外拠点勤務なども視野においた活動を心がける。

(6) 臨床上の特色

消化器 · 一般外科の基本的な診療力の上に、消化管外科の新しい診療技術を開発し広く国内外に普及させる活動を行う。優れた治療成績と共に、患者の QOL にも留意しての低侵襲治療から拡大手術までを幅広く担当する。

(7) 研究業績

[原著]

1. Takashi Shigeno, Daisuke Kajiyama, Kazuma Sato, Naoto Fujiwara, Yusuke Kinugasa, Hiroyuki Daiko, Takeo Fujita. Efficiency of conversion surgery for esophageal squamous cell carcinoma with solitary abdominal para-aortic lymph node metastasis Surgery today. 2024.12; 54(12); 1490-1497

2. Shunsuke Kasai, Hiroyasu Kagawa, Keiichi Hatakeyama, Akio Shiomi, Shoichi Manabe, Yusuke Yamaoka, Yusuke Tanaka, Takahiro Igaki, Takeshi Nagashima, Keiichi Ohshima, Kenichi Urakami, Yasuto Akiyama, Yusuke Kinugasa, Ken Yamaguchi. Molecular profiling of risk factors for relapse in Japanese patients with stage II colorectal cancer: a retrospective cohort study International journal of clinical oncology. 2024.12; 29(12); 1887-1895

3. Tomi Y, Kinoshita T, Yura M, Sakamoto N, Fujita T, Tokunaga M, Kinugasa Y. Accuracy of the preoperative estimation of esophageal invasion length of adenocarcinoma of the esophagogastric junction and its discrepancy with the pathological measurement. Surgery today. 2024.11;

4. Marie Hanaoka, Yusuke Kinugasa, Kenta Yao, Ayumi Takaoka, Megumi Sasaki, Shinichi Yamauchi, Masanori Tokunaga. Comparison of short-term outcomes and defecatory function following robotic and conventional laparoscopic surgery for stapled-ileal pouch-anal anastomosis: a retrospective cohort study International journal of surgery. 2024.11; 110(11); 7112-7120

5. Kei Nakajima, Daichi Kitaguchi, Shin Takenaka, Atsuki Tanaka, Kyoko Ryu, Nobuyoshi Takeshita, Yusuke Kinugasa, Masaaki Ito. Automated surgical skill assessment in colorectal surgery using a deep learning-based surgical phase recognition model Surgical endoscopy. 2024.11; 38(11); 6347-6355

6. Takashi Shigeno, Mayuko Otomo, Daisuke Kajiyama, Kazuma Sato, Naoto Fujiwara, Yusuke Kinugasa, Hiroyuki Daiko, Takeo Fujita. Assessing the outcomes of posterior thoracic para-aortic lymph node dissection after induction chemotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma Diseases of the esophagus. 2024.10; 37(11); doae060

7. Yoshihiro Sakai, Masanori Tokunaga, Yoshimi Yamasaki, Hiroki Kayasuga, Teruyuki Nishihara, Kotaro Tadano, Kenji Kawashima, Shigeo Haruki, Yusuke Kinugasa. Evaluating the benefit of contact-force feedback in robotic surgery using the Saroa surgical system: A preclinical study Asian journal of endoscopic surgery. 2024.10; 17(4); e13395

8. Takuya Miura, Kazushige Kawai, Hiromasa Fujita, Shinsuke Kazama, Hideki Ueno, Yusuke Kinugasa, Kazuhiro Sakamoto, Hirotoshi Kobayashi, Kenichi Hakamada, Yoichi Ajioka. Upfront surgery, neoadjuvant chemoradiotherapy, or neoadjuvant chemotherapy for rectal cancer with lateral lymph node metastasis: A multicenter MRI and lateral lymph node dissection study Annals of Gastroenterological Surgery. 2024.10; 9(2); 309-318

9. Yurina Yasui Fujisaki, Takaki Yoshikawa, Rei Ogawa, Masashi Nishino, Takeyuki Wada, Tsutomu Hayashi, Yukinori Yamagata, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa, Yasuyuki Seto. Necessity of splenectomy for antral-type scirrhous gastric cancer European journal of surgical oncology. 2024.10; Online ahead of print;

10. Sono Ito, Takeshi Takamoto, Satoshi Nara, Daisuke Ban, Takahiro Mizui, Hiroshi Nagata, Yasuyuki Takamizawa, Konosuke Moritani, Shunsuke Tsukamoto, Yukihide Kanemitsu, Yusuke Kinugasa, Minoru Esaki. RAS mutation associated with short surgically controllable period in colorectal liver metastases: a retrospective study World journal of surgical oncology. 2024.09; 22(1); 247

11. Jun Sakuma, Akihiro Hoshino, Hisashi Fujiwara, Taichi Ogou, Kenro Kawada, Keisuke Okuno, Toshiro Tanioka, Shigeo Haruki, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa. Blood flow assessment of gastric tube with indocyanine green fluorescence angiography and postoperative endoscopy during esophagectomy: indocyanine green enhancement time indicated congestion BMC gastroenterology. 2024.09; 24(1); 316

12. Akitoshi Nankaku, Yusuke Yamaoka, Akio Shiomi, Hiroyasu Kagawa, Shoichi Manabe, Takuma Oishi, Kiyoshi Tone, Akifumi Notsu, Yusuke Kinugasa. Lavage cytology diagnosed by immunostaining may be a poor prognostic factor in pathological stage III colorectal cancer Annals of Gastroenterological Surgery. 2024.09; 9(2); 271-280

13. Y Yatabe, T Tanioka, Y Waseda, K Yamaguchi, T Ogo, H Fujiwar, K Okuno, K Kawada, S Haruki, M Tokunaga, Y Fujii, Y Kinugasa. Inguinal hernia repair in patients with artificial urinary sphincter after radical prostatectomy Hernia. 2024.08; 28(4); 1331-1336

14. Masaki Mori, Satoshi Hirano, Kenichi Hakamada, Eiji Oki, Shigeo Urushidani, Ichiro Uyama, Masatoshi Eto, Yuma Ebihara, Kenji Kawashima, Takahiro Kanno, Masaru Kitsuregawa, Yusuke Kinugasa, Junjiro Kobayashi, Hiroshige Nakamura, Hirokazu Noshiro, Masaki Mandai, Hajime Morohashi. Clinical practice guidelines for telesurgery 2022 : Committee for the promotion of remote surgery implementation, Japan Surgical Society Surgery today. 2024.08; 54(8); 817-818

15. Kazuhiro Tamura,Yoshinobu Tomita,Takumi Kanazawa,Hajime Shinohara,Masayoshi Sakano,Sachiko Ishibashi,Masumi Ikeda,Mayumi Kinoshita,Junko Minami,Kurara Yamamoto,Yuki Kato,Asuka Furukawa,Shigeo Haruki,Masanori Tokunaga,Yusuke Kinugasa,Morito Kurata,Masanobu Kitagawa,Kenichi Ohashi and Kouhei Yamamoto. Lipid Peroxidation Regulators GPX4 and FSP1 as Prognostic Markers and Therapeutic Targets in Advanced Gastric Cancer INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES. 2024.08; 25(17); 9203

16. Ito S, Kinugasa Y, Yamauchi S, Sato H, Hirakawa A, Ishihara S, Shiomi A, Kanemitsu Y, Suto T, Takahashi H, Itabashi M, Shiozawa M, Hiyoshi M, Kobatake T, Komori K, Egi H, Ozawa H, Yamaguchi T, Inada R, Ito M, Hirano Y, Furutani A, Tanabe Y, Ueno H, Ohue M, Hida K, Kawai K, Sunami E, Ishida H, Uehara K, Watanabe J, Hotchi M, Ishibe A, Takii Y, Hiro J, Numata M, Takemasa I, Kato T, Kakeji Y, Hirata A, Ajioka Y. Long-term Outcome After Surgical Resection of Paraaortic Lymph Node Metastasis of Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Study. Diseases of the colon and rectum. 2024.07;

17. Shunsuke Kasai, Akio Shiomi, Hideyuki Shimizu, Monami Aoba, Yusuke Kinugasa, Takuya Miura, Kay Uehara, Jun Watanabe, Kazushige Kawai, Yoichi Ajioka. Risk factors and development of machine learning diagnostic models for lateral lymph node metastasis in rectal cancer: multicentre study. BJS Open. 2024.07; 8(4);

18. Sono Ito, Shunsuke Tsukamoto, Hiroyasu Kagawa, Yukihide Kanemitsu, Junichiro Hiro, Kazushige Kawai, Hiroaki Nozawa, Yasumasa Takii, Tomohiro Yamaguchi, Yoshito Akagi, Takeshi Suto, Yasumitsu Hirano, Heita Ozawa, Koji Komori, Masayuki Ohue, Yuji Toiyama, Seiichi Shinji, Kazuhito Minami, Tomoharu Shimizu, Kazuhiro Sakamoto, Kay Uehara, Kenichi Sugihara, Yusuke Kinugasa, Yoichi Ajioka. Short- and long-term outcomes of surgical treatment for inguinal lymph node metastasis in rectal and anal canal adenocarcinoma Colorectal disease. 2024.07; 26(7); 1378-1387

19. Keisuke Okuno, Shuichi Watanabe, Hoon Hur, Jeeyun Lee, Joon Oh Park, Masanori Tokunaga, Minoru Tanabe, Yusuke Kinugasa, Ajay Goel. An exosome-based liquid biopsy signature for therapeutic response prediction in metastatic gastric cancer Clinical and translational medicine. 2024.07; 14(7); e1629

20. S Kasai, H Kagawa, A Shiomi, H Hino, S Manabe, Y Yamaoka, C Maeda, Y Tanaka, Y Kinugasa. Incidence and risk factors for perineal hernia after robotic abdominoperineal resection: a single-center, retrospective cohort study Techniques in coloproctology. 2024.07; 28(1); 79

21. Marie Hanaoka, Yusuke Kinugasa, Kenta Yao, Ayumi Takaoka, Megumi Sasaki, Shinichi Yamauchi, Masanori Tokunaga. Transanal minimally invasive proctectomy for ulcerative colitis is beneficial in terms of short-term outcomes and defecation function Annals of Gastroenterological Surgery. 2024.07; 8(6); 1056-1066

22. Arai, S; Hanaoka, M; Yamauchi, S; Baba, H; Hanazawa, R; Sato, H; Hirakawa, A; Tokunaga, M; Kinugasa, Y. Modified oral antibiotics and mechanical bowel preparation (OAMBP) versus conventional

OAMBP for sigmoid colon and rectal surgery: A multicenter randomized non-inferiority trial ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY. 2024.06;

23. Yatabe Y, Hanaoka M, Hanazawa R, Hirakawa A, Mukai T, Kimura K, Yamanoi K, Kono J, Yokota M, Takahashi H, Kobayashi A, Kobayashi K, Ichikawa N, Yasui M, Nakane K, Yamamoto M, Takenaka A, Nakamura Y, Takemasa I, Yabusaki N, Akamoto S, Tatarano S, Murata K, Manabe T, Fujimura T, Kawamura M, Egi H, Yamaguchi S, Terai Y, Inoue S, Ito A, Kinugasa Y. Robotic versus open and laparoscopic pelvic exenterations for pelvic cancer: a multicenter propensity-matched analysis in Japan. Surgical endoscopy. 2024.06; 38(8); 4390-4401

24. Atsushi Hamabe, Ichiro Takemasa, Masanori Kotake, Daisuke Nakano, Suguru Hasegawa, Akio Shiomi, Masakatsu Numata, Kazuhiro Sakamoto, Kei Kimura, Tsunekazu Hanai, Takeshi Naitoh, Yosuke Fukunaga, Yusuke Kinugasa, Jun Watanabe, Junichiro Kawamura, Mayumi Ozawa, Koji Okabayashi, Shuichiro Matoba, Yoshinao Takano, Mamoru Uemura, Yukihide Kanemitsu, Yoshiharu Sakai, Masahiko Watanabe. Feasibility of robotic-assisted surgery in advanced rectal cancer: a multicentre prospective phase II study (VITRUVIANO trial) BJS open. 2024.06; 8(3); zrae048

25. Motoi Uchino, Hiroki Ikeuchi, Tatsuki Noguchi, Koji Okabayashi, Kitaro Futami, Shinji Tanaka, Hiroki Ohge, Kazuhiro Watanabe, Michio Itabashi, Kinya Okamoto, Yoshiki Okita, Tsunekazu Mizushima, Yusuke Mizuuchi, Kazutaka Yamada, Yoshifumi Shimada, Yu Sato, Hideaki Kimura, Kenichi Takahashi, Koya Hida, Yusuke Kinugasa, Junji Okuda, Koji Daito, Fumikazu Koyama, Hideki Ueno, Takayuki Yamamoto, Tsunekazu Hanai, Toru Kono, Hirotoshi Kobayashi, Yoichi Ajioka, Kenichi Sugihara, Soichiro Ishihara, Study Group for Inflammatory Bowel Disease Associated Intestinal Cancers of the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Histological differentiation between sporadic and colitis-associated intestinal cancer in a nationwide study: A propensity-score-matched analysis Journal of gastroenterology and hepatology. 2024.05; 39(5); 893-901

26. Suenaga M, Yamauchi S, Morikawa R, Noji R, Kano Y, Tokunaga M, Kinugasa Y. Chemotherapy and COVID-19 Vaccination in Patients With Gastrointestinal Cancer. In vivo (Athens, Greece). 2024.05; 38(3); 1278-1284

27. Ken Yamashita, Shiro Oka, Takeshi Yamada, Keigo Mitsui, Hironori Yamamoto, Keiichi Takahashi, Akio Shiomi, Kinichi Hotta, Yoji Takeuchi, Toshio Kuwai, Fumio Ishida, Shin-Ei Kudo, Shoichi Saito, Masashi Ueno, Eiji Sunami, Tomoki Yamano, Michio Itabashi, Kazuo Ohtsuka, Yusuke Kinugasa, Takayuki Matsumoto, Tamotsu Sugai, Toshio Uraoka, Koichi Kurahara, Shigeki Yamaguchi, Tomohiro Kato, Masazumi Okajima, Hiroshi Kashida, Yoshito Akagi, Hiroaki Ikematsu, Masaaki Ito, Motohiro Esaki, Masaya Kawai, Takashi Yao, Madoka Hamada, Takahiro Horimatsu, Keiji Koda, Yasumori Fukai, Koji Komori, Yusuke Saitoh, Yukihide Kanemitsu, Hiroyuki Takamaru, Kazutaka Yamada, Hiroaki Nozawa, Tetsuji Takayama, Kazutomo Togashi, Eiji Shinto, Takehiro Torisu, Akira Toyoshima, Naoki Ohmiya, Takeshi Kato, Eigo Otsuji, Shinji Nagata, Yojiro Hashiguchi, Kenichi Sugihara, Yoichi Ajioka, Shinji Tanaka. Clinicopathological features and prognosis of primary small bowel adenocarcinoma: a large multicenter analysis of the JSCCR database in Japan. J Gastroenterol. 2024.05; 59(5); 376-388

28. Hirotoshi Kobayashi, Kenjiro Kotake, Kotaro Maeda, Takeshi Suto, Masayasu Kawasaki, Hideki Ueno, Koji Komori, Heita Ozawa, Keiji Koda, Masayuki Ohue, Kimihiko Funahashi, Ichiro Takemasa, Hideyuki Ishida, Shinsuke Kazama, Yoshifumi Shimada, Hajime Morohashi, Yusuke Kinugasa, Yukihide Kanemitsu, Hiroki Ochiai, Soichiro Ishihara, Michio Itabashi, Kenichi Sugihara, Yoichi Ajioka. Peritoneal lavage cytology in patients with curative resection for stage II and III colorectal cancer: A multi-institutional prospective study Annals of Gastroenterological Surgery. 2024.05; 8(5); 807-816

29. Megumi Sasaki, Yasumitsu Hirano, Kojun Okamoto, Isamu Koyama & Yusuke Kinugasa. Outcomes of Colorectal Cancer Surgery in Nonagenarian Patients Indian Journal of Surgery. 2024.04; 86(2); 289-293

30. Yoshimi Yamasaki, Masanori Tokunaga, Yoshihiro Sakai, Hiroki Kayasuga, Teruyuki Nishihara, Kotaro Tadano, Kenji Kawashima, Shigeo Haruki, Yusuke Kinugasa. Effects of a force feedback function in a surgical robot on the suturing procedure Surgical endoscopy. 2024.03; 38(3); 1222-1229

31. Yusuke Tanaka, Hitoshi Hino, Akio Shiomi, Kay Uehara Jun Watanabe, Takeshi Nishikawa, Hideki Ueno, Yusuke Kinugasa, Kazushige Kawai, Yoichi Ajioka. Efficacy of lateral lymph node dissection for local control of rectal cancer: A multicenter study Annals of Gastroenterological Surgery. 2024.03; 8(4); 631-638

32. Hiroyasu Kagawa, Yusuke Kinugasa, Tomohiro Yamaguchi, Masayuki Ohue, Kazushige Kawai, Junichiro Hiro, Seiichi Shinji, Hiroaki Nozawa, Yasumitsu Hirano, Koji Komori, Yasumasa Takii, Takeshi Suto, Shunsuke Tsukamoto, Yoshito Akagi, Heita Ozawa, Yuji Toiyama, Kazuhito Minami, Tomoharu Shimizu, Kay Uehara, Kazuhiro Sakamoto, Keita Mori, Kenichi Sugihara, Yoichi Ajioka. Impact of resection for ovarian metastases from colorectal cancer and clinicopathologic analysis: A multicenter retrospective study in Japan Annals of Gastroenterological Surgery. 2024.03; 14;8(2); 273-283

33. Yoshitaka Nishikawa, Takahiro Horimatsu, Shiro Oka, Takeshi Yamada, Keigo Mitsui, Hironori Yamamoto, Keiichi Takahashi, Akio Shiomi, Kinichi Hotta, Yoji Takeuchi, Toshio Kuwai, Fumio Ishida, Shin-Ei Kudo, Shoichi Saito, Masashi Ueno, Eiji Sunami, Tomoki Yamano, Michio Itabashi, Kazuo Ohtsuka, Yusuke Kinugasa, Takayuki Matsumoto, Tamotsu Sugai, Toshio Uraoka, Koichi Kurahara, Shigeki Yamaguchi, Tomohiro Kato, Masazumi Okajima, Hiroshi Kashida, Fumihiko Fujita, Hiroaki Ikematsu, Masaaki Ito, Motohiro Esaki, Masaya Kawai, Takashi Yao, Madoka Hamada, Keiji Koda, Yasumori Fukai, Koji Komori, Yusuke Saitoh, Yukihide Kanemitsu, Hiroyuki Takamaru, Kazutaka Yamada, Hiroaki Nozawa, Tetsuji Takayama, Kazutomo Togashi, Eiji Shinto, Takehiro Torisu, Akira Toyoshima, Naoki Ohmiya, Takeshi Kato, Eigo Otsuji, Shinji Nagata, Yojiro Hashiguchi, Kenichi Sugihara, Yoichi Ajioka, Shinji Tanaka. Outcomes of Metastatic and Unresectable Small Bowel Adenocarcinoma in Japan According to the Treatment Strategy: A Nationwide Observational Study JCO global oncology. 2024.02; 10:e2300392;

34. Kyoko Ryu, Daichi Kitaguchi, Kei Nakajima, Yuto Ishikawa, Yuriko Harai, Atsushi Yamada, Younae Lee, Kazuyuki Hayashi, Norihito Kosugi, Hiro Hasegawa, Nobuyoshi Takeshita, Yusuke Kinugasa, Masaaki Ito. Deep learning-based vessel automatic recognition for laparoscopic right hemicolectomy Surgical endoscopy. 2024.01; 38(1); 171-178

35. Shunsuke Kasai, Hitoshi Hino, Keiichi Hatakeyama, Akio Shiomi, Hiroyasu Kagawa, Shoichi Manabe, Yusuke Yamaoka, Takeshi Nagashima, Keiichi Ohshima, Kenichi Urakami, Yasuto Akiyama, Akifumi Notsu, Yusuke Kinugasa, Ken Yamaguchi. Risk factors for lateral lymph node metastasis based on the molecular profiling of rectal cancer Colorectal disease. 2024.01; 26(1); 45-53

36. Ichiro Takemasa, Atsushi Hamabe, Atsushi Takenaka, Hiroaki Kobayashi, Masaki Mandai, Yusuke Kinugasa, Takashi Saika, Masaki Shimbo, Shuichi Morizane, Kentaro Sekiyam, Shinichi Togami, Marie Hanaoka, Sena Inoue, Kanna Nagaishi, Yoshiharu Sakai, Masahiko Watanabe. Standardization of robot-assisted pelvic lymph node dissection-Development of a common understanding of regional anatomy and surgical technique based on cross-disciplinary discussion among colorectal surgery, urology, and gynecology Asian journal of endoscopic surgery. 2024.01; 17(1); e13274

37. Sakano M, Tomita Y, Kanazawa T, Ishibashi S, Ikeda M, Oshita H, Hananoi Y, Kato Y, Yamamoto K, Furukawa A, Kinoshita M, Haruki S, Tokunaga M, Kinugasa Y, Kurata M, Kitagawa M, Ohashi K, Yamamoto K. Prognostic significance and therapeutic potential of guanosine triphosphate cyclohydrolase 1 in esophageal squamous cell carcinoma: clinical implications of ferroptosis and lipid peroxidation regulation. Frontiers in oncology. 2024; 14; 1459940

38. Sodai Arai, Hiroyasu Kagawa, Akio Shiomi, Yusuke Yamaoka, Shoichi Manabe, Chikara Maeda, Yusuke Tanaka, Shunsuke Kasai, Akifumi Notsu, Yusuke Kinugasa. Effect of autonomic nervous system resection extent on urinary dysfunction in robotic rectal cancer surgery Annals of Gastroenterological Surgery. 2024; ahead of print;

1. 南角 哲俊, 賀川 弘康, 塩見 明生, 日野 仁嗣, 眞部 祥一, 山岡 雄祐, 前田 周良, 田中 佑典, 笠井 俊輔, 新井 聡大, 絹笠 祐介. ロボット支援および腹腔鏡下括約筋間直腸切除術の短期成績の検討 日本大腸肛門病学会雑誌. 2024.02; 77(2); 70-76

[総説]

1. Sohei Akuta, Yasumitsu Hirano, Yasuhiro Ishiyama, Misuzu Yamato, Yusuke Kinugasa . Single-incision robot-assisted surgery for colon cancer dissection with the da Vinci Xi system - a video vignette Colorectal disease. 2024.05; 26(5); 1078-1079

2. Marie Hanaoka, Ayumi Takaoka, Noriko Iwata, Shinichi Yamauchi, Yusuke Kinugasa. Tips for Robotic-Assisted Lateral Lymph Node Dissection With Internal Iliac Artery Resection After Neoadjuvant Chemoradiotherapy Diseases of the colon and rectum. 2024.03; 67(3); e199

1. 徳橋愛彦、絹笠祐介. 特集　エキスパートから学ぶ大腸癌に対するロボット支援下手術の実際　ロボット支援下骨盤内臓全摘術 外科. 2024.12; 86(13); 1416-1427
2. 徳永 正則, 小田 豊士, 奥野 圭祐, 谷岡 利朗, 滋野 高史, 川村 雄大, 小郷 泰一, 川田 研郎, 藤原 尚志, 絹笠 祐介. 【外科臨床研究 · 臨床試験-どう計画し, どう取り組むか】胃癌周術期化学療法における臨床研究のデザインと展望 外科. 2024.11; 86(11); 1217-1222
3. 花岡まりえ、絹笠祐介. 【手術支援機器 百花繚乱!-ロボットとデバイスホールダー】手術支援ロボット Saroa の特徴と手術の実際　S 状結腸切除術 臨床外科. 2024.10; 79(10); 1134-1139
4. 谷岡 利朗, 滋野 高史, 奥野 圭祐, 川村 雄大, 小郷 泰一, 藤原 尚志, 川田 研郎, 徳永 正則, 絹笠 祐介. 【2024 年最新版　外科局所解剖全図-ランドマークの出し方と損傷回避法】ヘルニア　腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP 法) に必要な局所解剖 臨床外科. 2024.10; 79(11); 288-293
5. 絹笠祐介. 【徹底解説　大腸癌治療ガイドライン 2024】概観『大腸癌治療ガイドライン-医師用 2024 年版』の主な改訂ポイント　改訂ポイント対照表付 臨床外科. 2024.09; 79(9); 960-963
6. 川田 研郎, 河邊 浩明, 岡田 隆平, 坂野 正佳, 小郷 泰一, 藤原 尚志, 大野 十央, 春木 茂男, 國枝 純子, 朝蔭 孝宏. 【症例から学ぶ咽頭 · 食道 ESD】咽頭表在癌の ESD/ELPS　下咽頭癌が喉頭にまで及んでいる 消化器内視鏡. 2024.08; 36(8); 1145-1150
7. 藤原尚志、小郷泰一、川村雄大、滋野高史、川田研郎、徳永正則、絹笠祐介. 特集：食道胃接合部癌診療のすべて　4 経胸腔操作による中下縦隔リンパ節郭清 消化器外科. 2024.06; 47(6); 657-667
8. 高岡亜弓、絹笠祐介. 特集　結腸左半切除を極める　ロボット支援結腸左半切除術のアプローチ法と手技 臨床外科. 2024.06; 79(6); 678-682
9. 佐々木恵、絹笠祐介. 外科医必携　患者さんとのトラブルを防ぐためのハンドブック　各論　下部消化管外科手術における医療安全と患者説明 臨床外科. 2024.03; 79(3); 313-316
10. 石原慶、絹笠祐介. 【必携 消化器 · 一般外科医のための外科解剖アトラス】大腸　低位前方切除に必要な骨盤解剖 手術. 2024.03; 78(4); 593-601
11. 布施匡啓. 若手外科医のライフハック-仕事 · 日常 · 将来を豊かにする, 先輩たちの仕事術 日常編　パートナーとの仕事の分担　私たち医師夫婦のライフハック 臨床外科. 2024.01; 79(1); 58-60
12. 藤原尚志. 同心円状モデルで読み解く　新しい食道外科解剖 (第 11 回)(最終回)　噴門部 · 腹腔動脈周囲腸間膜の基部とは 臨床外科. 2024.01; 79(1); 87-97

[講演 · 口頭発表等]

1. Yusuke Kinugasa. Robotic PLND. International Colorectal Surgery FORUM 2024 2024.11.16 Taiwan (Zubei City)
2. Toshiro Tanioka, Takashi Shigeno, Yudai Kawamura, Keisuke Okuno, Taichi Ogo, Kenro Kawada, Hisashi Fujiwara, Masanori Tokunaga, Keisuke Kinugasa. The enhanced view totally extraperitoneal approach (eTEP) for midline ventral hernia repair. World Congress of Abdominal Wall Hernia Surgery 2024.10.11 Singapore
3. Takashi Shigeno, Keisuke Okuno, Taichi Ogo, Hisashi Fujiwara, Toshiro Tanioka, Kenro Kawada, Shigeo Haruki, Masanori Tokunaga, Kiyohide Fushimi, Yusuke Kinugasa. Efficacy of intraoperative recurrent laryngeal nerve monitoring during minimally invasive esophagectomy for esophageal cancer: A nationwide inpatient cohort study. 20th ISDE World Congress for Esophageal Diseases 2024.09.22 Edinburgh
4. Toshiro Tanioka, Keisuke Okuno, Masanori Tokunaga. Current status and future perspective of clinical trials in Japan. Academic Conference on Laparoscopic Gastric Cancer Surgery and the6th LEAPS 2024.09.07 Guandong, China
5. Toshiro Tanioka, Takashi Shigeno, Yudai Kawamura, Keisuke Okuno, Taichi Ogo, Kenro Kawada, Hisashi Fujiwara, Masanori Tokunaga, Yusuke Kinugasa. Short-and Mid-Term outcomes after enhanced view totally extraperitoneal approach (eTEP) for primary ventral and incisional hernia repair. 18th Congress of the KHS & 2024 International Symposium 2024.07.05 Seoul
6. Yusuke Kinugasa. Current status of robotic colorectal cancer surgery in Japan. DCK2024 (141st Congress of the German Society of Surgery) 2024.04.25 Leipzig

7. Yusuke Kinugasa. Current status of robotic colorectal cancer surgery in Japan. The 124th Annual Congress of Japan Surgical Society 2024.04.18 tokoname

8. 奥野圭祐、谷岡利朗、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 術前臨床学的因子を用いた、胃癌に対するロボット支援胃切除術の手術合併症予測モデルの開発. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.03.01 京都

1. 花岡まりえ、杉下哲夫、柴野潤、杉浦光太、竹中雄輝、徳橋愛彦、鳴海絢、貫井聖人、原田紡、山本祥馬、山本雄大、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、絹笠祐介. 当科における原発性直腸癌に対するロボット支援手術と従来式腹腔鏡手術の比較ー短期 · 長期および教育的側面ー. 第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会 2024.11.30 横浜

2. 山内慎一、朝野紗稀子、柴野潤、貫井聖人、原田紡、山本祥馬、杉下哲夫、山本雄大、高岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、藤井俊光、岡本隆一、絹笠祐介. 当院における潰瘍性大腸炎治療の内科外科連携と手術症例の治療成績に関する検討. 第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会 2024.11.30 横浜

3. 佐々木恵、柴野潤、貫井聖人、原田紡、山本祥馬、高岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、藤原尚志、徳永正則、絹笠祐介. 当科における潰瘍性大腸炎に対する経肛門内視鏡併用腹腔鏡下大腸全摘術 · 回腸嚢肛門吻合の手術手技と短期成績の検討. 第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会 2024.11.30 横浜

4. 高岡亜弓、柴野潤、貫井聖人、原田紡、山本祥馬、杉下哲夫、山本雄大、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援結腸切除術の定型化と手術成績. 第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会 2024.11.30 横浜

5. 藤原尚志、小郷泰一、川村雄大、滋野高史、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 食道胃接合部癌に対する胸腔内吻合を伴う回結腸間置再建術. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.23 宇都宮

6. 伊藤その、塚本俊輔、金光幸秀、賀川弘康、絹笠祐介、味岡洋一. 直腸肛門管腺癌の鼠経リンパ節転移に対する鼠経リンパ節郭清後の予後についてー大腸癌研究会プロジェクト研究「卵巣転移、鼠経リンパ節転移の取り扱い」付随研究ー. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21 宇都宮

7. 東海林裕、福田晃、飯田聡、今井健一郎、鴈野秀明、天笠秀俊、村瀬秀明、古山貴基、齊藤賢将、渋谷豪、溝口正子、大友真由子、犬飼瑞穂、永井鑑、絹笠祐介、安藤昌之. 経縦隔アプローチと右胸腔アプローチによる上縦隔リンパ節郭清での密性結合織の認識の相違. 第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会 2024.11.04 金沢

8. 絹笠祐介、徳永正則、花岡まりえ. 外科医を増やすための教室での取り組み. 第 32 回日本消化器関連学会週間（JDDW2024） 2024.11.01 神戸

9. 高岡亜弓、山内慎一、絹笠祐介. 当科における大腸癌に対するロボット支援手術の現状. 第 32 回日本消化器関連学会週間（JDDW2024） 2024.11.01 神戸

10. 川田研郎、藤原尚志、小郷泰一、川村雄大、滋野高史、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 全周囲食道早期癌も対する治療成績-ESD 計画的分割切除の有用性-. 第 32 回日本消化器関連学会週間（JDDW2024） 2024.10.31 神戸

11. 寺島雅典、設楽鉱平、沖英次、大庭幸治、坂東英明、中山鞍馬、下嵜啓太郎、徳永正則、神田光郎、掛地吉弘、吉野孝之、前原善彦、大津敦. ARCAD Gastric について. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.26 福岡

12. 絹笠祐介. 大腸癌治療ガイドライン 2024 年版発刊にあたって. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.26 福岡

13. 徳永正則、奥野圭祐、谷岡利朗、滋野高史、川村雄大、小郷泰一、川田研郎、藤原尚志、絹笠祐介. ロボット支援胃切除術における主義の工夫と教育. 第 62 回日本癌治療学会学術集会 2024.10.24 福岡

14. 中島康晃、荻谷一男、金原正太朗、中田豊、塚本史雄、岩田乃理子、遠藤晴久、佐伯伊知郎、高橋定雄、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎. 頸部食道癌手術における Quality of Survival 向上を目指した機能温存手術. 第 75 回日本気管食道科学会総会 · 学術集会 2024.10.15 仙台

15. 川田研郎、藤原尚志、小郷泰一. 経鼻内視鏡 · 画像強調内視鏡による食道観察のコツと実際. 第 75 回日本気管食道科学会総会 · 学術集会 2024.10.15 仙台

16. 絹笠祐介. 初執刀からアドバンス症例までーダビンチ最大限の活用法ー. Intuitive Surgical Webinar　関東東北ダビンチ大腸セミナー 2024.10.11 WEB

17. 絹笠祐介. 食道がんと腸内細菌. 御茶ノ水消化管セミナー 2024.10.10 東京

18. 大須賀弘子、谷岡利朗、辻啓明、石原慶、滋野高史、川村雄大、奥野圭祐、小郷泰一、川田研郎、藤原尚志、徳永正則、絹笠祐介. 胎児消化管類似癌の２切除例. 第８７３回外科集談会（日本臨床外科学会東京支部会） 2024.09.21 東京

19. 絹笠祐介. クローン病肛門病変に対する考え方と再生医療の位置付け. クローン病肛門病変の治療について考える 2024.09.02 東京

20. 徳永正則.　胃癌一時治療のクリニカルクエスチョンを考えるー当院の使用経験をふまえてー.　Immuno Oncology conference 2024 2024.08.22 東京

21. 藤田孝尚、高岡亜弓、田所裕規、布施匡啓、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 右側結腸癌における主リンパ節転移陽性例の長期成績とリスク因子の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関

22. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 左右対称 · 三層同心円状の層構造に基づいた反回神経周囲郭清. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関

23. 新井聡大、花岡まりえ、山内慎一、馬場裕信、花澤遼一、佐藤宏征、平川晃弘、徳永正則、絹笠祐介. 左側結腸／直腸癌に対する患者忍容性の高い腸管前処置の多施設ランダム化非劣性研究. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関

24. 中川真理、花岡まりえ、朝野紗稀子、柿崎奈々子、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. Persistent descending mesocolon 症例に対するロボット支援手術の周術期短期成績と血管分岐形態の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関

25. 徳永正則. 外科医が考える HER 2 陽性胃癌　ADC(Antibody-drug conjugate) の意義. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関

26. 東海林裕、福田晃、飯田聡、今井健一郎、村瀬秀明、塩原寛之、溝口正子、永井鑑、絹笠祐介、安藤昌之. ICG 蛍光法を用いた術中胃管粘膜血流評価の有用性について. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関

27. 谷岡利朗、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット支援胃切除術の教育 · 手術時間　コスト対策. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関

28. 石原慶、花岡まりえ、朝野紗稀子、藤田孝尚、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院における直腸神経内分泌腫瘍の手術成績とリンパ節転移の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

29. 有賀翔太、奥野圭祐、石原慶、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院における 50 歳未満で発症した若年性胃癌の臨床病理学的因子および予後の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

30. 滋野高史、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 低侵襲食道切除術における術中反回神経モニタリングの有用性. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

31. 花岡まりえ、朝野紗稀子、塚原啓司、八尾健太、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 他臓器浸潤を伴う原発 · 再発直腸癌に対するロボット支援拡大手術の短期 · 中期成績の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

32. 山内慎一、有賀翔太、田所裕規、布施匡啓、高岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 潰瘍性大腸炎に対するロボット支援残存直腸全摘術の治療成績. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

33. 佐々木恵、石原慶、安井友梨奈、辻啓明、高岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院における右側結腸癌に対するロボット支援手術の手術手技と短期成績. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

34. 布施匡啓、花岡まりえ、八尾健太、中川真理、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 直腸癌術後局所再発に対するロボット支援手術の術後短期成績の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

35. 安井友梨奈、小郷泰一、奥野圭祐、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. Stage Ⅱ／Ⅲ胸部食道癌に対する術前の DCF 療法の安全性と有効性の実臨床での検討　DCF Therapy for Stage Ⅱ／Ⅲ thoracic esophageal cancer: Safety and efficacy in practice. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

36. 奥野圭祐、谷岡利朗、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 胃癌の術後再発と術後補助化学療法の効果を予測する mRNA 発現バイオマーカーの開発. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

37. 田所裕規、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院における切除不能胃癌に対する conversion surgery の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

38. 朝野紗稀子、佐々木恵、石原慶、辻啓明、髙岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科での骨盤内臓全摘術における、開腹手術とロボット支援手術の短期成績の比較検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

39. 溝口正子、山内慎一、髙岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、谷岡利朗、春木茂男、徳永正則、伏見清秀、絹笠祐介. DPC データを用いた直腸癌に対するロボット支援下手術と腹腔鏡下手術の短期手術成績の比較. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

40. 海藤章郎、冨井知春、梅林佑弥、村松俊輔、加藤俊一郎、三浦富之、八木宏平、中島啓、徳永正則、伊東浩次. ラパロ後進県の地方基幹病院にロボット胃切除は fit するか. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

41. 髙岡亜弓、柿崎奈々子、藤田孝尚、有賀翔太、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における進行下部直腸癌に対するロボット支援側方郭清術の手術手技と手術成績の検討 . 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

42. 絹笠祐介. 大腸癌に対するロボット支援手術. 第 101 回大腸癌研究会学術集会 2024.07.12 名古屋

43. 野澤宏彰、伊藤その、佐々木和人、室野浩司、江本成伸、横山雄一郎、松崎裕幸、阿部真也、永井雄三、品川貴秀、山内慎一、絹笠祐介、味岡洋一、石原聡一郎. 大腸癌大動脈周囲リンパ節転移切除術の補助化学療法は有効か？ ー多機関データの解析ー. 第 101 回大腸癌研究会学術集会 2024.07.12 名古屋

44. 山本雄大、山本祥馬、貫井聖人、柴野潤、原田紡、朝野紗稀子、杉下哲夫、髙岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、藤原尚志、徳永正則、絹笠祐介. 当院におけるロボット支援側方郭清術について. 第 101 回大腸癌研究会学術集会 2024.07.12 名古屋

45. 絹笠祐介. 大腸癌に対するロボット支援手術. ラパロ FUKUSHIMA ONE TEAM セミナー 2024.07.06 郡山

46. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. これからの全身薬物療法の時代に求められる機能温存を重視した食道癌手術. 第 78 回日本食道学会学術集会 2024.07.05 東京

47. 滋野高史、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、伏見清秀、絹笠祐介. 食道癌の低侵襲食道切除術における反回神経モニタリングの有用性：DPC database 研究. 第 78 回日本食道学会学術集会 2024.07.05 東京

48. 川村雄大、藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 食道胃接合部癌に対する下部食道切除 · 回結腸間置による噴門部再建術. 第 78 回日本食道学会学術集会 2024.07.05 東京

49. 川田研郎、春木茂男、藤原尚志、大友真由子、坂野正佳、小郷泰一、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 全周性食道早期癌に対する計画的分割治療の試み. 第 78 回日本食道学会学術集会 2024.07.04 東京

50. 小郷泰一、藤原尚志、春木茂男、川田研郎、坂野正佳、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 切除可能頸部食道癌に対する咽頭温存頸部食道切除術の検討. 第 78 回日本食道学会学術集会 2024.07.04 東京

51. 東海林裕、福田晃、飯田聡、今井健一郎、村瀬秀明、塩原寛之、溝口正子、永井鑑、絹笠祐介. ICG 蛍光法を用いた術中胃管粘膜血流評価の有用性について. 第 78 回日本食道学会学術集会 2024.07.04 東京

52. 絹笠祐介. 外科領域における骨盤リンパ節郭清. 第 33 回骨盤外科機能温存研究会 2024.06.15 東京

53. 絹笠祐介. 直腸癌に対するロボット支援手術の適応拡大. 第 78 回手術手技研究会 2024.06.08 福岡

54. 谷岡利朗、中川真理、小郷泰一. 鼠経部ヘルニア修復術の教育. 第 22 回ヘルニア学会学術集会 2024.05.25 新潟

55. 谷岡利朗、中川真理、小郷泰一. 正中腹壁瘢痕ヘルニアに対する治療戦略. 第 22 回ヘルニア学会学術集会 2024.05.24 新潟

56. 絹笠祐介. 大腸癌に対するロボット支援手術. 第 2 回九州 · 沖縄外科学術セミナー 2024.05.22 沖縄

57. 高岡亜弓、有賀翔太、石原慶、田所裕規、塚原啓司、安井友梨奈、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、絹笠祐介. 当科における大腸癌に対するロボット支援手術の現状. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 徳島

58. 絹笠祐介、山内慎一、花岡まりえ、高岡亜弓、佐々木恵、布施匡啓、朝野紗稀子、八尾健太、辻啓明、藤田孝尚、安井友梨奈、塚原啓司、田所裕規、石原慶、有賀翔太、柿崎奈々子、春木茂男、徳永正則. 局所進行／再発直腸癌に対するロボット支援手術. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

59. 徳永正則、奥野圭祐、谷岡利朗、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、絹笠祐介. 食道胃接合癌に対する腹腔鏡／ロボット支援手術. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

60. 石原慶、花岡まりえ、有賀翔太、田所裕規、安井友梨奈、塚原啓司、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援側方郭清の長期成績. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

61. 藤田孝尚、谷岡利朗、坂野正佳、朝野紗稀子、辻啓明、布施匡啓、八尾健太、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、山内慎一、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 進行胃癌に対するロボット支援胃切除術と腹腔鏡胃切除術の術後短期成績の検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

62. 安井友梨奈、佐々木恵、有賀翔太、石原慶、田所裕規、塚原啓司、高岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における原発性直腸癌に対するロボット支援骨盤内臓全摘術の短期治療成績の検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

63. 田所裕規、高岡亜弓、有賀翔太、安井友梨奈、石原慶、塚原啓司、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 直腸 NET におけるリンパ節転移頻度についての検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

64. 有賀翔太、山内慎一、石原慶、柿崎奈々子、田所裕規、塚原啓司、安井友梨奈、高岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院における 50 歳未満で発症した若年性大腸癌の臨床病理学的因子および予後の検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

65. 藤田孝尚、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 頸部正中アプローチと経皮ポートにより胸腔鏡と同様の手術操作を目指した縦隔鏡下食道亜全摘術. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

66. 寺島雅典、設楽鉱平、沖英次、大庭幸治、川添彬人、中山鞍馬、徳永正則、神田光郎、三角俊裕、掛地吉弘、吉野孝之、前原善彦、大津敦. ARCAD Gastric について. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

67. 東海林裕、永井鑑、Suthasinee Tharnmanularp、Areeya Jiamjunyasiri、室生暁、秋田恵一、絹笠祐介鄭子文、安藤昌之. 食道周囲密生結合織についての発生学的研究. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑

68. 浜部敦史、竹政伊知朗、小竹優範、中野大輔、長谷川傑、塩見明生、沼田正勝、坂本一博、池田正孝、廣純一郎、内藤剛、福長洋介、絹笠祐介、渡邉純、川村純一郎、石部敦士、岡林剛史、坂井義治、渡邊昌彦. ロボット支援進行直腸癌手術の治療成績ー多施設共同前向き研究 VITRUVIANO trial ー. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 常滑

69. 三代雅明、奥谷恵美、塩見明生、李相雄、福長洋介、廣純一郎、絹笠祐介、野村明成、大野吏輝、川合一茂、安井昌義、山川雄士、高橋広城、三浦卓也、村田幸平、小竹優範、勝野秀稔、坂井義治、渡邊昌彦、竹政伊知朗. 直腸癌に対するロボット支援超低位前方切除術又は経肛門吻合を伴うロボット支援直腸切除術の短期成績に関する多施設共同研究（ROSEMARY study）. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 常滑

70. 辻啓明、小郷泰一、朝野紗稀子、藤田孝尚、八尾健太、布施匡啓、奥野圭祐、谷岡利朗、藤原尚志、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 胃癌に対するロボット支援手術の術後合併症発生予測因子に関する検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 常滑

71. 滋野高史、奥野圭祐、大友真由子、梶山大介、佐藤和磨、藤原直人、由良昌大、木下敬弘、藤田武郎、春木茂男、徳永正則、伏見清秀、絹笠祐介. 食道癌手術における術中モニタリングによる反回神経麻痺低減の有用性ー National database を用いた検討ー. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 常滑

72. 山内慎一、朝野紗稀子、有賀翔太、石原慶、柿崎奈々子、田所裕規、塚原啓司、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、安井友梨奈、高岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 結腸癌に対するロボット支援結腸切除術の治療成績と定型化への取り組み. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 常滑

73. 高岡亜弓、有賀翔太、石原慶、柿崎奈々子、田所裕規、塚原啓司、安井友梨奈、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援直腸癌手術の現状と長期手術成績の検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 常滑

74. 奥野圭祐、谷岡利朗、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. pStage Ⅱ · Ⅲ胃癌に対する術後再発と補助化学療法の効果を予測する、遺伝子発現モデルの開発. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 常滑

75. 布施匡啓、朝野紗稀子、八尾健太、藤田孝尚、辻啓明、高岡亜弓、佐々木恵、奥野圭祐、小郷泰一、花岡まりえ、藤原尚志、谷岡利朗、山内慎一、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当院の頸部食道切除術の術後短期 · 中期成績の検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 常滑

76. 八尾健太、花岡まりえ、朝野紗稀子、有賀翔太、石原慶、柿崎奈々子、田所裕規、塚原啓司、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、安井友梨奈、谷岡利朗、川田研郎、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 大腸全摘術における経肛門内視鏡併用手術の治療成績に関する検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 常滑

77. 朝野紗稀子、奥野圭祐、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 胃癌に対するロボット支援幽門側胃切除術後の機能評価に関する検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 常滑

78. 小郷泰一、藤原尚志、春木茂男、川田研郎、坂野正佳、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 当科におけるロボット支援食道切除術の短期中期成績：胸腔鏡手術との比較検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 常滑

79. 佐々木恵、有賀翔太、田所裕規、安井友梨奈、石原慶、塚原啓司、柿崎奈々子、高岡亜弓、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における潰瘍性大腸炎に対する経肛門内視鏡併用腹腔鏡下大腸全摘術 · 回腸嚢肛門吻合の手術手技と短期成績の検討. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 常滑

80. 佐野彰彦、佐伯浩司、今井義明、山口貴久、番場竹生、新野直樹、川島吉之、徳永正則、榎田泰明、沖英次、馬場秀夫. 胃癌術後十二指腸断端縫合不全の発症リスクおよび関連死亡リスクの検討. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.03.01 京都

81. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 下縦隔と腹部の層構造の連続性に基づいた横隔食道靭帯の実態と取扱い. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.03.01 京都

82. 藤田孝尚、徳永正則、朝野紗稀子、八尾健太、辻啓明、布施匡啓、坂野正佳、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、絹笠祐介. 完全内臓逆位症患者に発症した胃癌に対してロボット支援幽門側胃切除術を施行した一例. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.03.01 京都

83. 塚原啓司、谷岡利朗、安井友梨奈、八尾健太、石原慶、藤田孝尚、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 胎児消化管類似癌の 1 切除例. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.03.01 京都

84. 谷岡利朗、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 上部胃癌に対するロボット支援胃切除術と脾温存脾門リンパ節郭清. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.02.29 京都

85. 小郷泰一、藤原尚志、春木茂男、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 食道胃接合部癌に対する胸腔内食道回腸吻合を伴う有茎回結腸間置による噴門部再建術. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.02.29 京都

86. 石原慶、奥野圭祐、有賀翔太、田所裕規、安井友梨奈、塚原啓司、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ダブルトラクト再建を用いた腹腔鏡下／ロボット支援下噴門側胃切除術の長期機能成績. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.02.29 京都

87. 安井友梨奈、奥野圭祐、小郷泰一、藤原尚志、谷岡利朗、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 80 歳以上の高齢者胃癌におけるロボット支援幽門側胃切除術の有用性の検討. 第 96 回日本胃癌学会総会 2024.02.29 京都

88. 花岡まりえ、高岡亜弓、佐々木恵、山内慎一、徳永正則、絹笠祐介. 直腸癌に対するロボット他臓器合併切除および TPE の定型化への工夫. 第 16 回ロボット外科学会学術集会 2024.02.11 米子

89. 山内慎一、朝野紗稀子、有賀翔太、石原慶、柿崎奈々子、田所裕規、塚原啓司、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、安井友梨奈、高岡亜弓、佐々木恵、花岡まりえ、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 潰瘍性大腸炎に対するロボット支援大腸切除術. 第 16 回ロボット外科学会学術集会 2024.02.11 米子

90. 谷岡利朗、坂野正佳、中川俊作、朝野紗稀子、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、佐々木恵、高岡亜弓、奥野圭祐、小郷泰一、花岡まりえ、藤原尚志、山内慎一、川田研郎、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. ロボット支援ヘルニア修復術と腹腔鏡ヘルニア修復術の比較検討. 第 16 回ロボット外科学会学術集会 2024.02.10 米子

91. 高岡亜弓、朝野紗稀子、柿崎奈々子、辻啓明、藤田孝尚、布施匡啓、八尾健太、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、春木茂男、徳永正則、絹笠祐介. 当科における T4 直腸癌に対するロボット手術の治療成績. 第 16 回ロボット外科学会学術集会 2024.02.10 米子

92. 藤原尚志、小郷泰一、春木茂男、川田研郎、奥野圭祐、谷岡利朗、徳永正則、絹笠祐介. 食道癌手術の裏付けとなる解剖. 第 1 回 JATS-NEXT Annual Conference 2024.01.27 大阪

93. 八尾健太、高岡亜弓、朝野紗稀子、有賀翔太、石原慶、柿崎奈々子、田所裕規、塚原啓司、藤田孝尚、布施匡啓、辻啓明、安井友梨奈、佐々木恵、花岡まりえ、山内慎一、絹笠祐介. 内視鏡治療後に追加切除を行った早期大腸癌における予後決定因子の検討. 第 100 回大腸癌研究会学術集会 2024.01.26 東京

[社会貢献活動]

1. 医師としての人生について, （株）ケアネット, がん＠魅せ技, 2023 年 02 月 06 日 - 現在
2. 触覚の Saroa を用いた手術の進展について, 産経新聞社, 夕刊フジ, 2023 年 09 月 13 日 - 現在
3. 触覚を伝える手術支援ロボット, 株式会社メディカルトリビューン, 十勝毎日新聞, 2024 年 01 月 31 日 - 2024 年 03 月 27 日
4. ロボ支援手術が急拡大, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 02 月 16 日 - 2024 年 04 月 06 日
5. 乳がん · 胃がん · 婦人科がん · 大腸がん「最新治療 · 検査と全国名医リスト」徹底活用術, 光文社　, 女性自身, 2024 年 07 月 19 日
6. 医学部受験生へ向けたインタビュー, 朝日新聞出版,「医学部入試分析資料 2025」, 2024 年 07 月 23 日 - 2024 年 10 月
7. 手術支援ロボットシステム「Saroa」について, 株式会社エム · イー振興協会, 月刊新医療, 2024 年 08 月 29 日 - 2024 年 11 月 01 日

呼吸器外科学分野

Department of Thoracic Surgery

教　授	大久保　憲一	（オオクボ　ケンイチ）
准教授	石橋　洋則	（イシバシ　ヒロノリ）
助教	分島　良	（ワケジマ　リョウ）
助教	浅川　文香	（アサカワ　アヤカ）
助教	石川　祐也	（イシカワ　ユウヤ）
助教	杉田　裕介	（スギタ　ユウスケ）
大学院生	栗原　泰幸	（クリハラ　ヤスユキ）
大学院生	高原　弘知	（タカハラ　ヒロトモ）
大学院生	末吉　国誉	（スエヨシ　クニヨ）
大学院生	石沢　遼太	(イシザワ　リョウタ)

(1)　分野概要

呼吸器外科は呼吸器疾患の外科診断 · 治療に携わる診療科であり、呼吸器外科学分野は呼吸器外科に関わる診療 · 研究 · 教育を行う。

(2)　研究活動

· 肺癌外科治療の低侵襲化
· 難治性胸部悪性腫瘍に対する集学的治療
· 転移性肺腫瘍に対する外科治療
· 肺癌の臨床病理学的検討

(3)　教育活動

呼吸器外科医は主に原発性肺癌 · 転移性肺腫瘍 · 縦隔腫瘍 · 悪性胸膜中皮腫 · 気胸など肺 · 気管支 · 縦隔 · 胸壁疾患などに対する診断 · 治療のスペシャリストであり、一般外科の知識 · 技量を習得した後、呼吸器外科専門医を目指すことになる。
初期研修修了後、卒後３年目に１年間の一般外科研修を行い、日本外科学会専門医を取得できるだけの修練 · 経験を行う。その後、各コースにわかれるが、基本は呼吸器外科医の第一目標である呼吸器外科専門医を取得できるよう育成する（専門医コース）。
東京科学大学病院はこのようなスペシャリスト育成のためにも、完全胸腔鏡下手術などの低侵襲手術から高度な技術を必要とする拡大手術など豊富な症例を経験することができる。さらに大学関連病院および協力関係にある high volume center との連携により多彩な呼吸器外科の経験を積むことで専門性の高い知識 · 技量を習得する。専門医を目指しながら臨床を経験していく過程で様々な疑問に遭遇するが、それらを大学院にて呼吸器外科領域の研究テーマとし学位を取得する（専門医大学院コース）。
また都市 · 地方という医療事情の異なる多彩な臨床経験により、地域中核病院にても医療に貢献できる医師を養成できる（広域連携呼吸器外科専門医コース）。
呼吸器外科専門医を目指す場合、いずれかのコースを選択してもらうが、他のコースへの中途変更もいつでも自由に可能であり、記載されている以外にも海外を含め国内にも多彩な臨床研修を用意している。

(4) 教育方針

コースの概要：
呼吸器外科専門医大学院コースの 1 例
卒後 3 年目：一般外科研修を東京科学大学外科関連病院で集中的に行う
卒後 4 年目：東京科学大学呼吸器外科　医員として呼吸器外科修練
卒後 5 年目～ 6 年目：東京科学大学関連病院や協力関係にある high volume center の連携により多彩な呼吸器外科の経験
卒後 7 年目：大学院入学：この時点で呼吸器外科専門医コースから大学院コースへ移行
　　大学呼吸器外科医員として呼吸器外科のさらなる修練と後輩の指導
大学院卒業後は東京科学大学呼吸器外科で医員 · 教員として、または関連病院にて後輩の指導に当たる

(5) 臨床活動および学外活動

外来：火 · 木 · 金
手術日：月 · 水 · 金
診療科カンファランス：月
呼吸器合同カンファランス：月
臨床病理カンファランス：水
病棟回診：毎朝
教授回診：火
Journal Club：火（隔週）
M&M カンファランス：火（隔週）
ラボミーティング：火（月 1 ）
国内学会活動：日本外科学会、日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、および各地方会

(6) 臨床上の特色

肺 · 縦隔 · 胸膜 · 胸壁の呼吸器疾患に対する外科治療を担当し、大学病院として先進医療 · 高度医療を提供する。早期肺癌 · 良性肺疾患に対して、低侵襲の鏡視下呼吸器手術を提供し早期退院 · 早期社会復帰を図る。一方、局所進行肺癌 · 悪性胸膜中皮腫などの難治性胸部悪性腫瘍に対して、複数診療科の連携下で化学療法 · 放射線療法を組み合わせる集学的治療により治療成績 · 予後を改善する。これらを臨床研究として遂行し、成果を上げている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Ayaka Asakawa, Hironori Ishibashi, Shunichi Baba, Katsutoshi Seto, Ryo Wakejima, Kenichi Okubo. Usefulness of the Global Leadership Initiative on malnutrition (GLIM) criteria in preoperative nutritional assessment of patients with primary lung cancer. Clinical Nutrition ESPEN. 2024.02; 59; 135-139

2. Yusuke Sugita, Daisuke Muraoka, Ayako Demachi-Okamura, Hiroyasu Komuro, Katsuhiro Masago, Eiichi Sasaki, Yasunori Fukushima, Takuya Matsui, Shuichi Shinohara, Yusuke Takahashi, Reina Nishida, Chieko Takashima, Teppei Yamaguchi, Yoshitsugu Horio, Kana Hashimoto, Ichidai Tanaka, Hiroshi Hamana, Hiroyuki Kishi, Daiki Miura, Yuki Tanaka, Kousuke Onoue, Kazuhide Onoguchi, Yoshiko Yamashita, Richard Stratford, Trevor Clancy, Rui Yamaguchi, Hiroaki Kuroda, Hironori Ishibashi, Kenichi Okubo, Hirokazu Matsushita. Candidate tumor-specific CD8+ T cell subsets identified in the malignant pleural effusion of advanced lung cancer patients by single-cell analysis. Oncoimmunology. 2024.06; 13(1);

3. Takahara H, Kanazawa T, Oshita H, Tomita Y, Hananoi Y, Ishibashi S, Ikeda M, Furukawa A, Kinoshita M, Yamamoto K, Kato Y, Ishibashi H, Okubo K, Kurata M, Kitagawa M, Ohashi K, Yamamoto K. GPX4 and FSP1 Expression in Lung Adenocarcinoma: Prognostic Implications and Ferroptosis-Based Therapeutic Strategies. Cancers. 2024.11; 16(22);

4. Yasuyuki Kurihara, Takayuki Honda, Akira Takemoto, Katsutoshi Seto, Satoshi Endo, Kousuke Tanimoto, Susumu Kirimura, Masashi Kobayashi, Shunichi Baba, Yasuhiro Nakashima, Ryo Wakejima, Rie Sakakibara, Hironori Ishibashi, Johji Inazawa, Toshihiro Tanaka, Yasunari Miyazaki, Kenichi Okubo. Immunohistochemistry of p53 surrogates TP53 mutation as an accurate predictor for early-relapse of surgically resected stage I-III lung adenocarcinoma JTCVS Open. 2024.08;

5. Asakawa A, Yoshimoto R, Kobayashi M, Izumi N, Maejima T, Deguchi T, Kubota K, Takahashi H, Yamada M, Ishibashi S, Onishi I, Kinowaki Y, Kurata M, Kobayashi M, Ishibashi H, Okubo K, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. The Comprehensive Characterization of B7-H3 Expression in the Tumor Microenvironment of Lung Squamous Cell Carcinoma: A Retrospective Study. Cancers. 2024.06; 16(11);

[その他業績]

1. Reconstruction of the Bifurcation of Right Upper Bronchus Using Miyamoto’s Technique for Typical Carcinoid, 2024年01月
   Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. Volume 30(1); 2024
   Ayaka Asakawa, Hironori Ishibashi, Kuniyo Sueyoshi, Erika Mori, Yasuhiro Nakashima, Masashi Kobayashi, and Kenichi Okubo

2. Pulmonary Artery Aneurysm in a Patient with Nontuberculous Mycobacteria Infection, 2024年04月
   Internal Medicine. April 2024, Vol.63(7):989-992
   Soichi Maruyama, Haruhiko Furusawa, Satoshi Endo, Takashi Kumagai, Takahiro Mitsumura, Sho Shimada, Takashi Yamana, Rie Sakakibara, Yuki Iijima, Sho Shibata, Takayuki Honda, Tsuyoshi Shirai, Tsukasa Okamoto, Tomoya Tateishi, Meiyo Tamaoka, Yuko Kinowaki, Hironori Ishibashi, Kenichi Okubo, Yasunari Miyazaki

3. Bilateral thoracotomy for horseshoe lung complicated with severe aspergilloma: a case report, 2024年04月
   Surgical Case Reports. volume 10, Article number: 81 (2024)
   Chihiro Kagohashi, Yasuyuki Kurihara, Mariko Hanafusa & Kenichi Okubo

4. Excision of Giant Chronic Expanding Hematoma of the Thorax Caused by Rib Fractures after Proton Radiotherapy for Lung Cancer, 2024年09月
   Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2024;30(1):24.00121.
   Yukitaka Sato, Hironori Ishibashi, Yuki Funauchi, Kenichi Okubo

5. Stapler-induced vascular injury during uniportal VATS lobectomy: lessons learned from a rare complication case, 2024年10月
   Surgical Case Reports. 2024 Oct 28;10(1):249.
   Yasuhiro Nakashima , Mariko Hanafusa, Hironori Ishibashi, Hiroshi Hosoda

都医学研疾患分子生物学分野

Igakuken Disease-oriented Molecular Biology

連携教授　　原 孝彦
連携教授　　新井 誠
連携教授　　長谷川 成人
連携准教授　　宮岡 佑一郎
連携准教授　　丹野 秀崇
大学院生　　朝倉 舞、飯野 響歌、中島 一徹、黄 嵐郁、篠崎 佳代子、安田 有牙、今村 哉太、張 凱（４月～）

(1)　分野概要

健康長寿社会実現のためには、がんや糖尿病の発症を予防し、いまだ治療薬のない精神・神経難病に対する治療法を開発する必要がある。昨今、iPS 細胞を用いた機能細胞の作出や病態発症モデルの開発も、新しいアプローチとして期待されている。進展著しいこれらの医療研究分野に対して、高度な分子生物学的知識と研究力をもって貢献できる人材を育成する。その上で、がん、糖尿病、統合失調症、認知症、遺伝性難病などの発症原因の究明と治療法の開発に向けて、教官学生が一体となって取り組む。

(2)　研究活動

[原 孝彦]

組織幹細胞（造血幹細胞、骨格筋幹細胞等）がどのような分子機序によって発生し、成体内で維持されているのかについて、ES/iPS 細胞の *in vitro* 分化系やコンディショナル KO マウスを用いて解明する。また、肥満性糖尿病や癌の発症等に関与するケモカイン CXCL14 の分子生物学を進展させ、新たな分子標的薬の開発を目指す。

[新井 誠]

分子生物学的アプローチにより精神疾患の原因解明をはかり、根本的な治療・予防法を開発することを目的としている。血液や DNA などヒト検体を用いてゲノム解析やメタボローム解析を行う。同定した異常を細胞発現系実験により機能解析し、遺伝子改変マウスを用いてモデル実験を行う。

[長谷川 成人]

アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患の発症、進行の分子機構の解明を目的とする。効果的治療法をみつけるため、生化学、免疫組織学、分子生物学の手法を用いて、病態を再現する試験管、細胞、動物モデルの構築と解析を行う。

[宮岡 佑一郎]
ヒト iPS 細胞のゲノム編集を技術基盤として、遺伝性疾患の治療法開発を目指す。そのために、心疾患や肝疾患などの原因となる変異を持つ iPS 細胞を樹立し、免疫染色や PCR などの細胞生物学的、分子生物学的手法で解析することで、疾患の発症機序を探る。また、正確な遺伝子操作の達成のために、CRISPR-Cas9 を中心としたゲノム編集技術の改良も進める。

[丹野 秀崇]
高速 1 細胞解析技術をがん患者由来検体に適用することによって、がん患者体内の免疫反応を 1 細胞レベルで網羅的に解析する。得られた知見を活用することによって新規がん治療法、診断法の開発を行う。また、免疫学において役立つ新規ツールの開発も行っていく。

(3) 教育活動

がん、糖尿病、統合失調症、認知症、遺伝性難病などの発症原因を分子レベルで探索し、それらの難病に対する治療戦略を創出できる研究者を養成する体制を整えた。博士課程の大学院生 4 名、および新人 3 名を含む修士課程の大学院生 6 名に対して、上記の目的に沿って専門教育を施した。

(4) 教育方針

がん、糖尿病、統合失調症、認知症、遺伝性難病などの発症原因と治療法に関する最新の学術論文を読みこなせるよう指導する。患者に現れる疾患の予兆や進行具合を、遺伝子改変マウス等の動物モデル実験系や iPS 細胞の試験管内モデル系を用いて如何にして再現するか、最前線の研究実例から学んでもらう。次に、上記の疾患の発症原因について、正しい研究倫理に則った実験によって分子レベルで探索し、新しい治療戦略を一緒に考えていく。そして、研究成果を学会や学術誌に発表するための作法を伝授する。

(5) 研究業績

[原著]

1. K. Kitajima, and T. Hara. Generation of chimeric antigen receptor-macrophages by using human induced pluripotent stem cells. ***Biochem. Biophys. Res. Commun.***, published on line on December 13, 2024 as doi.org/10.1016/j.bbrc.2024.151158.
2. K. Kitajima, Y. Takahashi, H. Ando, M. Shingai, M. Hamasaki, M. Tanikawa, M. Kanokoda, M. Nakajima, Y. Nishito, and T. Hara. Modification of Lhx2 activity for *ex vivo* amplification of human iPSC-derived hematopoietic stem/progenitor cells. ***Front. Cell Dev. Biol.***, 12: 1482989, 2024.
3. R. Miyajima, K. Tanegashima, N. Naruse, M. Denda, T. Hara*, and A. Otaka*. Identification of low-density lipoprotein receptor-related protein 1 as a CXCL14 receptor using chemically synthesized tetrafunctional probes. ***ACS Chem. Biol.***, 19: 551-562, 2024. *Co-corresponding authors.
4. K. Kitajima, M. Shingai, H. Ando, and T. Hara. FLT3 signaling augments macrophage production from human pluripotent stem cells. ***Int. Immunol.***, 36: 99-110, 2024.
5. M. Asakura, K. Toriumi, A. Nozaki, J. Yang, J. Tatsuzaki, K. Suzuki, M. Miyashita, M. Itokawa, and M. Arai. Anthocyanins as potent inhibitors of pentosidine synthesis: Antioxidant-mediated effects. ***Biochem. Biophys. Res. Commun.***, 740: 151007, 2024.
6. T. Wang, K. Toriumi, K. Suzuki, M. Miyashita, A. Ozawa, M. Masada, M. Itokawa, and M. Arai. Amyloban, extracted from Hericium erinaceus, ameliorates social deficits and suppresses the enhanced dopaminergic system in social defeat stress mice. ***Neuropsychopharmacol. Rep.***, 44: 728-736, 2024.
7. A. Watanabe, F. Koyano, K. Imai, Y. Hizukuri, S. Ogiwara, T. Ito, J. Miyamoto, C. Shibuya, M. Kimura, K. Toriumi, C. Motono, M. Arai, K. Tanaka, Y. Akiyama, K. Yamano, and N. Matsuda. The origin of esterase activity of Parkinson's disease causative factor DJ-1 implied by evolutionary trace analysis of its prokaryotic homolog HchA. ***J. Biol. Chem.***, 300: 107476, 2024.
8. K. Ueno, I. Nohara, M. Miyashita, M. Itokawa, H. Okado, M. Arai, and M. Saitoe. Behavioral Dysfunctions Caused by Pyridoxamine Deficiency in *Drosophila melanogaster*. ***J. Nutr. Sci. Vitaminol. (Tokyo)***, 70: 252-261, 2024.
9. K. Tabata, S. Son, J. Miyata, K. Toriumi, M. Miyashita, K. Suzuki, M. Itokawa, H. Takahashi, T. Murai, and M. Arai. Association of homocysteine with white matter dysconnectivity in schizophrenia. ***Schizophrenia (Heidelb).***, 10: 39, 2024.
10. F. Kametani, M. Tahira, M. Takao, T. Matsubara, K. Hasegawa, M. Yoshida, Y. Saito, S. Murayama, and M. Hasegawa. Analysis and comparison of post-translational modifications of α-synuclein filaments in multiple system atrophy and dementia with Lewy bodies. ***Sci. Rep.***, 14: 22892, 2024.
11. D. Arseni, T. Nonaka, M. H. Jacobsen, A. G. Murzin, L. Cracco, S. Y. Peak-Chew, H. J. Garringer, I. Kawakami, H. Suzuki, M. Onaya, Y. Saito, S. Murayama, C. Geula, R. Vidal, K. L.

Newell, M. Mesulam, B. Ghetti, M. Hasegawa, and B. Ryskeldi-Falcon. Heteromeric amyloid filaments of ANXA11 and TDP-43 in FTLD-TDP Type C. ***Nature***, 634: 662-668, 2024.

12. C. Qi, R. Kobayashi, S. Kawakatsu, F. Kametani, S.H.W. Scheres, M. Goedert, and M. Hasegawa. Tau filaments with the chronic traumatic encephalopathy fold in a case of vacuolar tauopathy with VCP mutation D395G. ***Acta. Neuropathol.***, 147: 86, 2024.
13. T. Sano, T. Nagata, S. Ebihara, K. Yoshida-Tanaka, A. Nakamura, A. Sasaki, A. Shimozawa, H. Mochizuki, T. Uchihara, M. Hasegawa, and T. Yokota. Effects of local reduction of endogenous α-synuclein using antisense oligonucleotides on the fibril-induced propagation of pathology through the neural network in wild-type mice. ***Acta. Neuropathol. Commun.***, 12: 75, 2024.
14. T. Kato-Inui, G. Takahashi, T. Ono, and Y. Miyaoka. Fusion of histone variants to Cas9 suppresses non-homologous end joining. ***PLoS One***, 19: e0288578. 2024.

[総説]

1. A. Tarutani and M. Hasegawa. Ultrastructures of α-Synuclein Filaments in Synucleinopathy Brains and Experimental Models. ***J. Mov. Disord.***, 17: 15-29, 2024.
2. 樽谷愛理, 長谷川成人. 神経変性疾患の構造生化学的疾患分類. ***生体の科学***, 75: 490-491, 2024.
3. 長谷川成人. ALS の原因究明と根本治療を目指した研究の動き. ***日本 ALS 協会会報***, 123: 7-12, 2024.
4. 長谷川成人. 認知症研究の最前線. ***日本臨床検査医学会誌***, 72: 80-85, 2024.

[書籍等出版物]

[講演・口頭発表等]

1 北島 健二, 原 孝彦. 転写因子 Lhx2 の分子改変によるヒト iPS 細胞由来の造血幹前駆細胞の *ex vivo* 増幅. 第 47 回日本分子生物学会年会シンポジウム, 2024.11.27-29, 福岡.

2 種子島 幸祐, 長谷部 愛佳, 斎藤 理佐, 髙橋 陸, 原 孝彦. CD36 is an inhibitory CpG ODN/CXCL14 receptor that limits the tumor-suppressive activity. 第 53 回日本免疫学会学術集会シンポジウム, 2024.12.3-5, 出島.

3 鈴木 輝彦, 山川 真奈, 安 咲季, 柳沢 比呂子, 香月 康宏, 押村 光雄, 原 孝彦. MHC 領域完全ヒト化マウスの作出. 第 53 回日本免疫学会学術集会シンポジウム, 2024.12.3-5, 出島.

4 K. Tabata, S. Yamasaki, N. Katsuta, H. Sugawa, K. Toriumi, M. Miyashita, M. Itokawa, H. Takahashi, R. Nagai, A. Nishida, and M. Arai. Deciduous teeth are novel biosamples

reflecting perinatal accumulation of AGEs and are predictive of psychotic symptoms during adolescence: a preliminary study. IMARS-15 (The 15th International Maillard Reaction Society), 2024.9.18, Maastricht.

5 K. Tabata, S. Yamasaki, N. Katsuta, H. Sugawa, K. Toriumi, M. Miyashita, M. Itokawa, H. Takahashi, R. Nagai, A. Nishida, and M. Arai. Deciduous teeth are novel biosamples reflecting perinatal accumulation of AGEs and are predictive of psychotic symptoms during adolescence: a preliminary study. NEURO2024 (The 46th Annual Meeting of the Japanese Society of Biological Psychiatry, The 47th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, The 67th Annual Meeting of the Japanese Society for Neurochemistry), 2024.7.24, Fukuoka.

6 田畑 光一, 宮下 光弘, 山崎 修道, パリダ・イザベラ・スパルディ, 鈴木 一浩, 高木 英俊, 糸川 昌成, 高橋 英彦, 西田 淳志, 新井 誠. クリプトキサンチン摂取と思春期メンタルヘルスの縦断的関連. 第 27 回日本精神保健・予防学会学術集会, 2024.11.23, 東京.

7 田畑 光一, 宮下 光弘, 鳥海 和也, 鈴木 一浩, 高木 英俊, パリダ・イザベラ・スパルディ, 糸川 昌成, 高橋 英彦, 新井 誠. 低亜鉛血症は統合失調症の臨床的重症度と関連する. 第 28 回日本亜鉛栄養治療研究会学術集会, 2024.8.24, 大阪.

8 水谷 隆太, 志賀 楓, 雑賀 里乃, 山本 義郎, 安武 正展, 上椙 真之, 竹内 晃久, 上杉 健太朗, Viktor Nikitin, Francesco De Carlo, 竹腰 進, 井野元 智恵, 中村 直哉, 鳥居 洋太, 久島 周, 入谷 修司, 尾崎 紀夫, 大島 健一, 糸川 昌成, 新井誠. シンポジウム: 統合失調症研究の最前線. 統合失調症における神経突起の三次元的な病変. 第 18 回日本統合失調症学会, 2024.4.14, 徳島.

9 田畑 光一, 山崎 修道, 勝田 奈那, 須川 日加里, 鳥海 和也, 宮下 光弘, 糸川 昌成, 高橋 英彦, 永井 竜児, 西田 淳志, 新井 誠. 乳歯は周産期のストレス曝露を反映して思春期の精神病症状を予測する：予備的解析. 第 18 回日本統合失調症学会, 2024.4.13, 徳島.

10 志賀 楓, 雑賀 里乃, 安武 正展, 上椙 真之, 竹内 晃久, 上杉 健太朗, Nikitin Viktor, De Carlo Francesco, Webster Maree J, 糸川昌成, 新井誠, 水谷隆太. 米国における統合失調症例の脳組織のナノ CT 解析. 第 18 回日本統合失調症学会, 2024.4.13, 徳島.

11 長谷川 成人. 認知症の病態解明と治療に向けた取組み. 第 2 回認知症研究者交流会. 2024.12.8. 東京.

12 長谷川 成人. 認知症の病態形成と進行機構. 第 32 回脳の世紀シンポジウム. 2024.９.21. Web 開催.

13 長谷川 成人. プリオン伝播に関する最新の知見と新規治療について. 第 65 回日本神経病理学会総会学術研究会. シンポジウム 3 原因から創薬へ. 2024.5.17. 下関.

14 Y. Miyaoka. In vivo delivery of therapeutic molecules by transplantation of genome-edited induced pluripotent stem cells. 8th Update on Fabry Disease. 2024.6.2, Hamburg.

15 中島 一徹, Holmstrom Grace, 宮岡 佑一郎. iPS 細胞の倍数性の改変とその応用. 第 47 回日

本分子生物学会年会. 2024.11.29, 福岡.

[特許]

1. 特許出願「MHC 遺伝子群ヒト化動物」各国移行. ヨーロッパ特許出願 2024 年 10 月 7 日 No.23770934.0; 米国特許出願 2024 年 9 月 11 日 No.18/845,981; 中国特許出願 2024 年 9 月 10 日 No.2023800266093; 日本特許出願 2024 年 7 月 17 日 2024-508289.（鈴木輝彦, 原 孝彦）
2. PCT 出願「倍加染色体を持つ多能性幹細胞」出願番号 PCT/JP2024/080141（宮岡 佑一郎, 中島 一徹）

[受賞]

1. 第 23 回日本再生医療学会総会 優秀演題賞（中島 一徹, 宮岡 佑一郎）

[その他業績]

[社会貢献活動]

1. がん細胞の特性を調べてみよう. 東京都北区スーパーサイエンススクール. 2024.7.23, 上北沢.（原 孝彦）
2. 正常細胞とがん細胞の違いを探してみよう. 横浜創英高校 出前授業. 2024.7.30, 横浜.（原 孝彦）
3. 正常細胞とがん細胞の違いを探してみよう. 香川県立観音寺第一高校 東京研修. 2024.12.12, 上北沢.（原 孝彦）
4. がん細胞の研究を体験してみよう. 長野県立松本県ヶ丘高校 東京研修 2024.12.13, 上北沢.（原 孝彦）
5. DNA 鑑定で犯人を捕まえよう. Tokyo ふしぎ祭エンス. 2024.4.27, 台場（宮岡 佑一郎）
6. がん遺伝子パネル検査の最新の動向. 都民講座. 2024.1.20, 上北沢＋オンライン.（池上政周, 丹野 秀崇）

先端医療開発学講座

臨床解剖学分野

Department of Clinical Anatomy

教　授	秋田 恵一
教　授	二村 昭元 （運動器機能形態学講座）
准教授	山口 久美子（ヘルスケア教育機構）
准教授	原田 理代
講　師	室生 暁
助　教	井原 拓哉 （運動器機能形態学講座）, 佐々木 亨 （運動器機能形態学講座）
技術職員	山本 凜太郎
事務補佐員	幸前 くるみ
非常勤講師	奥田 逸子, 近澤 研郎, 塚田 幸行, 堤 真大, 中澤 正孝, 矢野 智之, 星加 昭太, 田中 基貴, 奥原 滋 (4 月〜), 杉原 泉 (4 月〜), 森本 千恵 (4 月〜)
大学院生	細野 周作, 馬上 頌子, 辛川 領 (〜3 月), 吉松 英彦 (〜3 月), Isabella Georgina Djameh, 杉山 夕月, Tong Liu, Jennifer Edinam Danyo Weiyi Wang (4 月〜), 平野 仁菜
研究生	樫山 尚弘

(1) 分野概要

当分野は，手術や画像診断等の解剖学的発生学的基盤の形成を通じて臨床医学のサポートを行っています．人体解剖学の教育は全身をあつかうものであるため，領域による扱いの差というものはありません．よって研究においても，全身すべてを対象としております．手術法や技術ということに左右されることなく，古典的ではありますが，人体をありのままに観察することによって見えてくる形態を表現し，示説するということが重要だと考えています．それらの観察結果を臨床医が利用しやすい形に表現することにより，解剖学的な基盤つまりは共通言語のようなものを作り出すことを目指しています．さらには，それらの形態がどのようにして形成されたのかということを考えることも重要だと考えており，実験発生や発生生物学的手法を用いた解析も行っています．

(2) 研究活動

筋や靱帯といった運動器の設計図と末梢神経系ならびに脈管系といった人体に張りめぐらされた複雑な配線図を完成させるべく研究を行い，主として「神経支配による筋の形態学的研究」および「自律神経系を中心とした臨床解剖学的研究」をテーマとして取り組んで来た．

この中で重要視しているのは，臨床的問題点へのアプローチのための解剖学的基盤の形成ということである．臨床的問題点解決のための 1 つの基盤として，臨床解剖学的研究が求められている．通常，臨床解剖学は Clinical Anatomy の訳であるが，これを我々は Clinically oriented anatomy ととらえている．解剖学的研究として人体構造の理解という観点としても重要であるが，臨床応用を目指すという点で今後発展させていく必要があると考えている．

代表的な研究テーマを以下にあげる．

1. 関節およびその周囲筋の形態学的解析

関節鏡視下手術が一般的になるにつれ，関節周囲の詳細な解剖が求められるようになってきた．これに応じて，従来の解剖学的な常識を疑い，手術解剖ならびに機能解剖のためのデータ収集ならびに解析を始めた．これまでの教科書的な記述の多くに先入観による誤記や不十分な調査に基づく誤りがあることがわかってきた．今後，臨床応用できるような情報として整形外科医と共同研究を進めている．

2. 総排泄腔の分化と骨盤出口筋の発生の解析

マウス胚を用いて，総排泄腔が分化し，尿生殖洞ならびに肛門の発生過程を詳細に解析するとともに，骨盤内臓の形成過程に見られる apoptosis の分布を三次元的に解析し，その変化についても解析を行ってきた．また，それらの周囲に発生する筋ならびに神経を追っている．

3. 肛門領域の臨床解剖学的研究
肛門管の構造ならびに構成する平滑筋ならびに骨格筋の配置についての解析を行い, 肛門領域の外科臨床のために貢献することをめざす.

4. 婦人科癌手術における術式開発のための臨床解剖学的基盤
広汎子宮全摘術における神経温存術式開発についての解剖学的基盤を形成するため，骨盤内自律神経の分布についてのデータの収集，解析を行っている．

5. 咀嚼筋の神経支配に基づく層構造の解析
咀嚼にかかわる筋群の神経支配を精査することにより，各筋が完全に独立したものでなく，それぞれが移行的な部分をもちながら連続した形態であることがわかってきた．我々は，これらの連続的な形態や筋の層構造の解析および支配神経の分枝パターンについての解析を行ない，咀嚼システムの成り立ちについて検討を行なっている．

(3) 教育活動

医学部医学科の医学導入（1 学年）の PBL，人体構造総論（2 学年），人体解剖学（2 学年），呼吸器ブロック（3 学年），消化器ブロック（3 学年），プロジェクトセメスター（4 学年），臨床導入実習（4 学年）を担当する．医学科及び歯学科の頭頸部基礎（2 学年），歯学科の頭頸部臨床解剖学（5 学年）も担当する．
複雑な人体構造の立体的配置を様々な角度から理解することと医師 · 研究者として必要となる観察眼を養成することを目標としている．また，問題解決型学習（PBL：Problem-Based Learning）の運営を担当し，自主的な学習と討論，プレゼンテーションを促している．
人体構造総論では人体の成り立ち，とくに系統発生に重点を置き，人体の構造 · 配置を考える基礎を作る．また，比較解剖学的な見地から，脊椎動物の一般の basic body plan にも焦点をあてる．人体発生学は，個体発生の視点から各器官の発生およびその立体配置完成のプロセスについて理解する．
解剖学講義では神経，血管などの体内配線図を中心に，諸構造の相互位置関係を血管 · 神経とのつながりを通じて理解することに重点を置いている．このためには，解剖学実習を通じて，剖出-観察-所見の記録-討論という過程を反復することが望ましいと考え， WebClass を用いて試みている．実習の効果を高めるには事前の講義が重要である．学習を有機的に結びつけるため，講義 · 実習の中に臨床医学的要素も取り入れている．
臨床実習を開始した高学年の学生に対しては，具体的な診断 · 治療を理解するうえで必要になる臨床解剖学的な講義をグループ討論形式でおこなっている．

(4) 教育方針

記述解剖学，記述発生学から導かれた形態形成の理論や仮説は，実験発生学によって確かめられ修正が加えられてきました．さらに発生生物学の発展によって，形態形成にかかわる遺伝子やシグナル等が同定され，仮説を現実のものとして確かめられたり，モデルに修正が加えられるようになってきました．しかしこれらの議論の対象となっているモデルにおいて前提となるのは，あくまでも解剖学が完成した揺るぎのないものであるということであります．現実に解剖をし，検討をしていくと，決して解剖学が完結したものではなく，まだまだあいまいなままにされているということがわかってきます．解剖学とくに肉眼解剖学のように，手技としては非常に古典的なものを用いるものでは，すべてやりつくされ，新しいものなどないように思えるのですが，臨床上で必要とされなかったために検討が十分になされなかった部分も多く見られるのです．

(5) 研究業績

[原著]

1. Numasawa M, Nawa N, Yamaguchi K, Akita K, Yamawaki M. Association between grit and depressive symptoms among medical students, moderated by academic performance. Medical education online. 2024.07; 29(1); 2373523

2. Shusaku Hosono, Koji Fujita, Akimoto Nimura, Takuya Ibara, Keiichi Akita. Cervical Spine Range of Motion and Sleep Disturbances in Patients With Atopic Dermatitis: A Cross-Sectional Study. Cureus. 2024.12; 16(12); e75449

3. Sara Sugiura, Toru Sasaki, Koji Fujita, Toshitaka Yoshii. Treatment for Overgrowth of a Finger Owing to Vascular Malformations: A Case Report. Cureus. 2024.11; 16(11); e74716

4. Fukino, K; Iitsuka, M; Kitagawa, N; Tubbs, RS; Akita, K; Iwanaga, J. Three-dimensional Analysis of the Muscles Related to the So-Called "Pterygomandibular Raphe": An Anatomical and Histological Study DYSPHAGIA. 2024.08; 39(4); 642-647

5. Masahiro Tsutsumi, Akimoto Nimura, Hajime Utsunomiya, Shintarou Kudo, Keiichi Akita. Capsular attachment on the anterosuperior femoral head-neck junction: A hypothesis about femoroacetabular impingement. J Anat. 2024.08; 245(2); 231-239

6. Muro S, Chikazawa K, Delancey JOL, Akita K. Skeletal Muscle Complex Between the Vagina and Anal Canal: Implications for Perineal Laceration. International urogynecology journal. 2024.07; 35(12); 2313-2322

7. Masahiro Tsutsumi, Seiya Kanazawa, Akimoto Nimura, Keiichi Akita, Shintarou Kudo. In vivo movement interrelationships among the medial meniscus, joint capsule, and semimembranosus during tibial rotation. Sci Rep. 2024.07; 14(1); 17022

8. Toda H, Oshima T, Ibara T, Chin T. Longitudinal Alterations in the Control of Lateral Center of Mass Movement During Walking in a Patient With Unilateral Transtibial Amputation: A Case Study. Cureus. 2024.06; 16(6); e61683

9. Fukino, K; Tsutsumi, M; Honda, E; Nimura, A; Iwanaga, J; Akita, K. Contribution of the complex comprising the masticatory fascia, disc, and capsule to temporomandibular joint stabilization: An anatomical study ANNALS OF ANATOMY-ANATOMISCHER ANZEIGER. 2024.06; 254; 152268

10. Yuka Nishimura, Masahiro Tsutsumi, Rintaro Yamamoto, Tohma Sakuraya, Kenji Emura, Takamitsu Arakawa. Morphological differences between the dorsal and palmar septa of the first extensor compartment in relation to the brachioradialis and pronator quadratus. Annals of Anatomy. 2024.04; 253; 152228

11. Yuzuki Sugiyama, Satoru Muro, Daisuke Ban, Keiichi Akita. Retroperitoneal fasciae as barriers for nerve and arterial passages connecting the retroperitoneal region to the peritoneal organs. J Anat. 2024.03;

12. Muro S, Shoji S, Suriyut J, Akita K. Anatomy of muscle connections in the male urethra and anorectal canal. BJU international. 2024.03; 133(6); 752-759

13. Yamada E, Umemoto T, Taguchi T, Onishi I, Yamamoto A, Tsukamoto K, Ibara T, Sasaki T, Kaburagi H, Maejima Y, Sasano T, Ohashi K, Yoshii T, Nimura A, Fujita K. Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome. JSES international. 2024.03; 8(2); 349-354

14. Yamamoto A, Yamada E, Ibara T, Nihey F, Inai T, Tsukamoto K, Waki T, Yoshii T, Kobayashi Y, Nakahara K, Fujita K. Using In-Shoe Inertial Measurement Unit Sensors to Understand Daily-Life Gait Characteristics in Patients With Distal Radius Fractures During 6 Months of Recovery: Cross-Sectional Study. JMIR mHealth and uHealth. 2024.03; 12; e55178

15. Yuta Tanaka, Toru Sasaki, Shigenori Kawabata, Jun Hashimoto, Hisato Higashikawa, Yuko Hoshino, Kensuke Sekihara, Yoshiaki Adachi, Koji Fujita, Akimoto Nimura, Taishi Watanabe, Yuki Miyano, Saeri Kaminaka, Yusuke Yamamoto, Toshitaka Yoshii. Assessing ulnar neuropathy at the elbow using magnetoneurography. Clin Neurophysiol. 2024.03; 161; 180-187

16. Chikazawa K, Muro S, Yamaguchi K, Imai K, Kuwata T, Konno R, Akita K. Denonvilliers' fascia as a potential nerve-course marker for the female urinary bladder. Gynecologic oncology. 2024.01; 184; 1-7

17. Muro S, Kim J, Nimura A, Tsukada S, Akita K. Morphometric Analysis of the Tibial Attachment Shape of the Anterior Cruciate Ligament and Its Relationship With the Location of the Anterior Horn of the Lateral Meniscus. The American journal of sports medicine. 2024.01; 52(3); 3635465231219978-690

18. Akiko Yamamoto, Koji Fujita, Eriku Yamada, Takuya Ibara, Fumiyuki Nihey, Takuma Inai, Kazuya Tsukamoto, Yoshiyuki Kobayashi, Kentaro Nakahara, Atsushi Okawa. Gait characteristics in patients with distal radius fracture using an in-shoe inertial measurement system at various gait speeds. Gait Posture. 2024.01; 107; 317-323

19. Masahiro Tsutsumi, Akari Saiki, Isao Yamaguchi, Akimoto Nimura, Hajime Utsunomiya, Keiichi Akita, Shintarou Kudo. In vivo interrelationships between the gluteus minimus and hip joint capsule in the hip internal rotation position with flexion. BMC Musculoskelet Disord. 2024.01; 25(1); 87

1. 志村 治彦, 藤田 浩二, 二村 昭元. 【こどもの手 · 肘外来】小児上腕骨顆上骨折　治療前に知っておきたいこと Orthopaedics. 2024.09; 37(9); 41-47

2. 北田 容章, 秋田 恵一, 伊藤 正孝, 稲井 哲一朗, 鈴木 良地, 柳井 章江, 千田 隆夫. 【倫理委員会/利益相反委員会　報告】「ご遺体を用いた人体構造に関する研究および手術手技研修に関する倫理審査等の手続きに関するアンケート」の結果とその分析 解剖学雑誌. 2024.09; 99(2); 72-79

3. 室生 暁, 堤 真大, 塚田 幸行, 秋田 恵一. 【半月板損傷を科学する】半月板損傷を理解するための解剖学的知識 臨床スポーツ医学. 2024.09; 41(9); 890-897

4. 二村 昭元, 星加 昭太, 深井 敦大. 【上腕骨外側 · 内側上顆炎-診療の基本と最近の進歩-】解剖学的観点からみた上腕骨外側 · 内側上顆炎の病態 関節外科. 2024.08; 43(8); 793-799

5. 室生 暁, 秋田 恵一. 【後腹膜アプローチを活用した消化器内視鏡外科手術】外科解剖　後腹膜領域の層解剖 手術. 2024.05; 78(6); 881-890

6. 岸本 進太郎, 井原 拓哉, 辛嶋 良介, 古江 幸博, 後藤 剛, 川嶌 眞之. ステアリング操作に必要な肘 · 前腕の関節可動域の推定 日本ハンドセラピィ学会誌. 2024.03; 16(2); 97-102

7. 岡村 湧介, 三上 弾, 井原 拓哉, 藤田 浩二. 膝関節ラテラルスラスト映像の合成への Human Motion Transfer の適用可能性の検証 電子情報通信学会論文誌 D: 情報 · システム. 2024.01; 107(1); 25-29

8. 塚田 幸行, 室生 暁, 二村 昭元, 秋田 恵一. 【膝関節のスポーツ障害】膝関節のスポーツ障害を理解するための解剖学的知識 臨床スポーツ医学. 2024.01; 41(1); 2-6

[書籍等出版物]

1. 大見武弘　（神野哲也 · 監修、相澤純也 · 中丸宏二 · 編）. 整形外科リハビリテーション　第 2 版. 羊土社, 2024.12 (ISBN : 978-4-7581-1005-1)

2. 秋田 恵一, 二村 昭元. 運動器臨床解剖学ーチーム秋田の「メゾ解剖学」基本講座ー. 全日本病院出版会, 2024.05 (ISBN : 978-4-86519-825-6)

[総説]

1. Tharathorn Suwatthanarak, Vitoon Chinswangwatanakul, Asada Methasate, Chainarong Phalanusitthepha, Minoru Tanabe, Keiichi Akita, Thawatchai Akaraviputh. Surgical strategies for challenging common bile duct stones in the endoscopic era: A comprehensive review of current evidence. World J Gastrointest Endosc. 2024.06; 16(6); 305-317

2. Akimoto Nimura, Haruhiko Shimura, Shota Hoshika, Atsuhiro Fukai, Keiichi Akita. Elbow anatomy in perspective of joint capsule and surrounding aponeuroses: a narrative review. JSES Int. 2024.05; 8(3); 654-660

1. 井原　拓哉. 【最適な非対称性動作を考える】 最適な非対称性立ち上がり動作の獲得をめざした理学療法—運動器疾患 理学療法ジャーナル. 2024.09; 58(9); 1025-1030

2. 川端 茂徳, 橋本 淳, 佐々木 亨, 吉井 俊貴. 神経磁界測定による脊髄 · 末梢神経機能評価 脊髄外科. 2024.04; 38(1); 12-16

3. 山田 哲也, 川端 茂徳, 佐々木 亨. 【ここまで来た!胸郭出口症候群の診断と治療】神経磁界計測による胸郭出口症候群の神経機能障害部位の可視化 臨床整形外科. 2024.02; 59(2); 167-173

[講演 · 口頭発表等]

1. Keiichi Akita. Anatomical Insights: Hip Joint Capsule, Ligaments, and Muscular Interactions. 3rd Medacta Orthopaedic Research and Education (M. O. R. E.) Japanese Symposium 2024.10.14 Minato, Tokyo

2. Keiichi Akita. Fostering Effective Anatomy Educators: Developing new ideas based on study of the past. The 21st Congress of the International Federation of Associations of Anatomists (IFAA) Satellite Symposium 2024.09.09 Seoul,Korea

3. Akimoto Nimura, Keiichi Akita. Anatomical Study about Stabilizing Structures in the Trapeziometacarpal Joint. The 21st Congress of the International Federation of Associations of Anatomists (IFAA) 2024.09.08 Gwangju, Korea

4. Satoru Muro, Takuya Ibara, Yuzuki Sugiyama, Akimoto Nimura, Keiichi Akita. Evaluating accuracy in AI-powered serial segmentation for CT, MRI, Visible Human, and histological sections. The 21st Congress of the International Federation Association of Anatomists (IFAA) 2024.09.06 Gwangju, Korea

5. Keiichi Akita, Satoru Muro. Relationship between the layered structure of the musculature of the anal canal and the mechanism of hemorrhoidal fistula formation. The 21st Congress of the International Federation of Associations of Anatomists (IFAA) 2024.09.05 Gwangju, Korea

6. Yuzuki Sugiyama, Satoru Muro, Daisuke Ban, Keiichi Akita. Spatial relationship between the retroperitoneal fasciae on the dorsal side of the pancreas and the nerves. 15th International Symposium of Clinical and Applied Anatomy 2024.06.28 Swansea, United Kingdom

7. Toru Sasaki, Kazuya Tsukamoto, Koji Fujita. Comparison between Outcomes of Carpal Tunnel Release and Opponensplasty for Severe Carpal Tunnel Syndrome. Federation of European Societies for Surgery of the Hand (FESSH 2024) 2024.06.26 Rotterdam, Netherlands

8. Masayo Harada, Georgina Djameh, Tomoko Kitabata, Keiichi Akita. Sequential analyses of the Wolffian duct differentiation in male mice. The 57th Annual Meeting of Japanese Society of Developmental Biologists 2024.06.20 Kyoto, Kyoto

9. Keiichi Akita. The Role of Anatomical Dissection Practices in Japanese Medical and Dental Curriculum. 3rd National Conference of Anatomical Didactics 2024.06.08 Łódź, Poland

1. 室生 暁. 新しい知見で読み解く肛門管の解剖. 西新井大腸肛門科医師セミナー 2024.12.21 足立区, 東京都

2. 秋田 恵一. 膝関節の靱帯の解剖学. 第 2 回 膝関節学会 教育研修講演 8 原点回帰 膝関節の解剖 2024.12.07 宜野湾市, 沖縄県

3. 二村 昭元. 鎖骨の発生と進化、肩鎖関節の解剖. 第 15 回肩関節機能研究会 2024.11.30 千代田区, 東京都

4. 室生 暁, Edinam Danyo, 秋田 恵一. 肛門粘膜下を縦走する Treitz’s muscle は内肛門括約筋の筋束が方向を転じた平滑筋である. 第 79 回日本大腸肛門病学会学術集会 2024.11.30 横浜市, 神奈川県

5. 原田 理代, ジャメ ジョージナ, 北畑 朋子, 秋田 恵一. 雄マウスにおける中腎管の形態変化の解析. 第 47 回日本分子生物学会年会 2024.11.27 福岡市, 福岡県

6. 二村 昭元. 運動器の解剖　最近の知見. 東京柔道整復専門学校 同窓会研究会 令和 6 年度秋の研究会 2024.11.23 練馬区, 東京都

7. 二村 昭元. 運動学的呼吸の可視化. 東京柔道整復専門学校 同窓会研究会 令和 6 年度秋の研究会 2024.11.23 練馬区, 東京都

8. 二村 昭元. 肩関節の解剖ー最近の知見ー. 山形整形外科研究会　肩関節セミナー 2024.11.22 山形市, 山形県

9. 二村 昭元, 杉浦 沙羅, 中澤 正孝, 望月 智之, 秋田 恵一. 肩鎖関節周辺の解剖: 肩甲帯の支持性という観点. 第 51 回日本肩関節学会学術集会 2024.10.26 京都市, 京都府

10. 橋本 淳, 川端 茂徳, 東川 尚人, 田村 聡至, 佐々木 亨, 足立 善昭, 平井 高志, 吉井 俊貴. 脊磁図、末梢神経磁図、筋磁図の臨床応用の可能性　脊磁図による脊髄 · 神経根の神経機能評価. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.25 札幌

11. 佐々木 亨, 川端 茂徳, 橋本 淳, 東川 尚人, 田村 聡, 赤座 実穂, 足立 善昭, 宮野 由貴, 渡部 泰士, 吉井 俊貴. 脊磁図、末梢神経磁図、筋磁図の臨床応用の可能性　上肢末梢神経磁界計測の臨床応用の可能性. 第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.25 札幌

12. 脇 智彦, 佐藤 優樹菜, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 佐々木 亨, 黒岩 智之, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二, 吉井 俊貴. 動画と AI を活用することで超音波での手根管症候群の重症度推定精度が向上する. 第 35 回 日本整形外科超音波学会 2024.10.19 新宿区, 東京都

13. 塚本 和矢, 二瓶 史行, 中原 謙太郎, 佐々木 亨, 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 平井 高志, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 藤田 浩二. インソール埋め込み型慣性センサを用いた頸髄症の歩行解析　日常生活内での疾患スクリーニングへの応用を目指して. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

14. 坂 なつみ, 二村 昭元. 上肢解剖学から見る病態生理の深化と探索　橈骨遠位端骨折と解剖. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

15. 野呂瀬 美生, 二村 昭元, 秋田 恵一. 上肢解剖学から見る病態生理の深化と探索　母指 CM 関節安定化機構の解明を目指した, 筋 · 腱膜 · 関節包に基づく解剖学的解析. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

16. 今谷 潤也, 二村 昭元, 秋田 恵一. 上肢解剖学から見る病態生理の深化と探索　肘関節不安定症の診療に役立つ臨床解剖. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

17. 菱山 隼, 二村 昭元, 藤田 浩二, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 秋田 恵一. 周囲筋腱膜と関節包に基づいた母指 MP 関節橈側の解剖学的検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

18. 脇 智彦, 佐藤 優希菜, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 手根管症候群に対する AI モデルの診断精度比較　超音波画像から重症度診断を行うために必要な情報量の検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿区, 東京都

19. 塚本 和矢, 佐々木 亨, 井原 拓哉, 野呂瀬 美生, 山田 英莉久, 山本 皓子, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 藤田 浩二. 母指 CM 関節症は重症ほど母指の回内角度が低下する. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿区, 東京都

20. 井原 拓哉, 藤田 浩二, 脇 智彦, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 二村 昭元, 秋田 恵一. 股関節の力学的負荷を AI で推定する　運動学情報のデータセットの結合による精度向上の検証. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿区, 東京都

21. 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 塚本 和矢, 脇 智彦, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 若林 良明, 藤田 浩二. 健診データから見る骨粗鬆症の実態と簡易スクリーニングに向けて. 第 26 回 日本骨粗鬆学会 2024.10.11 金沢市, 石川県

22. 首藤 孝治, 志村 治彦, 野田 佑真, 佐々木 亨, 藤田 浩二, 二村 昭元. 手根骨尺側長軸脱臼の一例. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.28 足柄下郡, 神奈川県

23. 串田 淑久, 竹村 司, 塩瀬 沙耶, 川村 悟司, 福島 和之, 藤田 浩二, 二村 昭元. 若年者キーンベック病 (Lichtman 分類 stage IIIC) に対して橈骨短縮骨切り, 血管柄付き骨移植を行った 1 例. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.28 足柄下郡, 神奈川県

24. 二村 昭元. 関節安定化に関わる解剖. NAGASAKI ARTHROSCOPE CLUB 2024.09.27 長崎市, 長崎県

25. 秋田 恵一. 骨盤底の解剖学: 最近の進歩と加齢. 第 71 回 北日本産科婦人科学会総会 · 学術講演会 2024.09.21 札幌市, 北海道

26. 二村 昭元. 教科書には載っていない肩関節解剖のはなし. 第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会 2024.09.14 横浜市, 神奈川県

27. 秋田 恵一. 総論 · 肩関節. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 1 2024.09.14 Web

28. 井原 拓哉. 臨床で使えるデジタルバイオマーカーとしての力学的負荷可視化のための試み〜変形性関節症患者の歩行への着目〜. 第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会 2024.09.14 横浜市, 神奈川県

29. 室生 暁. 精緻な肛門機能を創り出す構造の拡張性. 第 29 回大腸肛門機能障害研究会 2024.08.31 千代田区, 東京都

30. 沼沢 益行, 那波 伸敏, 山口 久美子, 秋田 恵一, 山脇 正永. 医学生における grit と抑うつの関係. 第 56 回日本医学教育学会大会 2024.08.10 東京

31. 室生 暁. 鼠径管の解剖と CoMBI 法の応用可能性. 順天堂大学解剖学 · 生体構造科学セミナー 2024.08.05 文京区, 東京都

32. 秋田 恵一. 骨盤底における平滑筋の拡がりと役割について. 第 26 回日本女性骨盤底医学会 2024.08.04 横浜市, 神奈川県

33. 室生 暁, 近澤 研郎, 秋田 恵一. 膣と肛門管の間に位置する 骨格筋複合体の解析. 第 26 回日本女性骨盤底医学会 2024.08.03 横浜市, 神奈川県

34. 一井 直樹, 近澤 研郎, 桑田 知之, 室生 暁, 秋田 恵一. MRI 検査の画像を用いた骨盤臓器脱における内閉鎖筋と肛門挙筋の形態学的解析. 第 26 回日本女性骨盤底医学会 2024.08.03 横浜市, 神奈川県

35. 二村 昭元. 関節外傷. 医療研修会 (スキルアップコース B) 2024.08.01 千葉市, 千葉県

36. 秋田 恵一. 動的支持機構をつくる関節包: 構造から考察する関節の痛み. 第 14 回北九州 · 筑豊運動器の疼痛を考える会 2024.07.31 北九州市, 福岡県

37. 原田 理代, 秋田 恵一. マウスの膣は、胎生後期に側方に成長し、出生後は下方に伸長する. 第 64 回日本先天異常学会学術集会 2024.07.26 江戸川区, 東京都

38. 室生 暁. 下肢の筋との関係で見る骨盤底筋群〜骨盤底の見方を変える 7 つのヒント〜. encounter オンラインセミナー 2024.07.13 Web

39. 秋田 恵一. 固有背筋. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 2024.07.13 Web

40. 室生 暁. 体幹と下肢をつなぐ腱と筋膜の解剖学. Fascia Fest: A Global FES of Science and Wellness 2024.07.06 Web

41. 秋田 恵一. 股関節周囲組織の機能と役割、そして修復 (解剖編). ESTiMa 第 2 回 股関節編 2024.06.26 千代田区, 東京都

42. 井原 拓哉. AI を用いた変形性関節症患者の歩行解析. 第 6 回日本メディカル AI 学会学術集会 2024.06.21 名古屋市, 愛知県

43. 室生 暁, 馬上 頌子, 秋田 恵一. 肛門挙筋の層序の解析から読み解く筋束の機能的配置. 第 33 回 骨盤外科機能温存研究会 2024.06.15 文京区, 東京都

44. 近澤 研郎, 室生 暁, 山口 久美子, 秋田 恵一, 今井 賢, 桑田 知之, 今野 良. 陰部神経管をつくる内閉鎖筋筋膜は仙結節靭帯 · 仙棘靭帯と連続する. 第 33 回 骨盤外科機能温存研究会 2024.06.15 文京区, 東京都

45. 井原 拓哉. AI を用いた変形性股関節症患者の股関節累積負荷可視化の試み. 日本運動器理学療法学会第 2 回サテライトカンファレンス 2024.06.01 Web

46. 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 塚本 和矢, 脇 智彦, 佐々木 亨, 若林 良明, 平澤 直之, 二村 昭元, 藤田 浩二, 吉井 俊貴. 中高年女性における握力測定の意義　将来の転倒骨折予防のための予備的検討. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.26 福岡市, 福岡県

47. 塚本 和矢, 松井 良太, 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 手指動作の動画解析による手根管症候群スクリーニング法の開発. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.26 福岡市, 福岡県

48. 脇 智彦, 佐藤 優希菜, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 小山 恭史, 井原 拓哉, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 機械学習を用いた超音波検査による手根管症候群診断の試み　重症度診断への新しいアプローチ. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.26 福岡市, 福岡県

49. 室生 暁. 腹壁と鼠径管の解剖から結合組織を考える. 第 22 回日本ヘルニア学会学術集会 2024.05.25 新潟市, 新潟県

50. 太田 剛, 藤原 鷹, 二村 昭元, 藤田 浩二, 吉井 俊貴. 当院における術後コンパートメント症候群 (well leg compartment syndrome) の経験. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.25 福岡市, 福岡県

51. 二村 昭元. 上腕骨外側上顆炎の診断と治療の最前線　上腕骨外側上顆炎の病態と関連した解剖. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市, 福岡県

52. 山本 貴瑛, 志村 治彦, 藤田 浩二, 佐々木 亨, 二村 昭元, 吉井 俊貴. 上腕骨骨幹部骨折に対する手術合併症の検討. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市, 福岡県

53. 田中 雄太, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 東川 尚人, 足立 善昭, 渡部 泰士, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴. 神経磁界計測による神経原性胸郭出口症候群の非侵襲的評価. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市, 福岡県

54. 藤原 鷹, 太田 剛, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴. 橈骨 ultra distal 骨密度の検討. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市, 福岡県

55. 秋田 恵一. 股関節とその周囲構造の解剖学的解析ならびに骨盤底との関係について. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 教育研修講演 7 2024.05.23 福岡市, 福岡県

56. 二村 昭元. 膝関節②（関節外）. 運動器臨床解剖学講座 2024.05.18 Web

57. 二村 昭元. TFCC の解剖. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.29 奈良市, 奈良県

58. 二村 昭元, 野呂瀬 美生, 塚本 和矢, 藤田 浩二. 母指 CM 関節の解剖—骨 · 筋 · 腱膜そして関節包. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.29 奈良市, 奈良県

59. 秋田 恵一. 食道の横隔膜貫通部の解剖学的解析. 第 45 回 関東腹腔鏡下胃切除研究会 2024.04.27 千代田区, 東京都

60. 田中雄太, 川端茂徳, 佐々木亨, 橋本淳, 東川尚人, 足立善昭, 渡部泰士, 山田哲也, 藤田浩二, 二村昭元, 吉井俊貴. 神経磁界計測法による神経原性胸郭出口症候群の非侵襲的評価. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.26 奈良

61. 東海林 裕, 永井 鑑, Tharnmanularp Suthasinee, Jiamjunyasiri Areeya, 室生 暁, 秋田 恵一, 絹笠 祐介, 鄭 子文, 安藤 昌之. 食道周囲密性結合織についての発生学的研究. 第 124 回 日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 常滑市, 愛知県

62. 井原 拓哉. 変形性股関節症の動作分析の Update. 森ノ宮医療大学　第 13 回森ノ宮適塾研修会 2024.04.17 大阪市, 大阪府

63. 秋田 恵一. 骨盤底の構造について: 我々の教室の研究より. 順天堂大学泌尿器科 講演 2024.04.15 文京区, 東京都

64. 平野 仁菜, 室生 暁, 秋田 恵一. 胸管の走行と胸膜との関係. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.23 那覇市, 沖縄県

65. 山口 久美子, 三代澤 圭祐, 室生 暁, 岡本 健太郎, 岡本 将太, 秋田 恵一. 裸眼立体視ディスプレイは全ての学習者の空間認識を補助する. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.23 那覇市, 沖縄県

66. 山本 凜太郎, 二村 昭元, 秋田 恵一. 肘頭の骨形態と上腕三頭筋の筋内腱の停止部における解剖学的関係. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.22 那覇市, 沖縄県

67. 室生 暁, 秋田 恵一. 深会陰横筋は直腸壁と連続した平滑筋である. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.22 那覇市, 沖縄県

68. 室生 暁 . 骨盤領域の解剖学研究. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.21 那覇市, 沖縄県

69. 塚田 祐一郎, 室生 暁. 解剖学から考える骨盤手術 〜外科医×解剖学者〜. 骨盤解剖手術手技 Web セミナー 2024.03.12 Web

70. 二村 昭元. スポーツ障害のマネージメントに役立つ運動器解剖学. 14th Sports Medicine Forum 2024.03.10 千代田区, 東京都

71. 室生 暁. 下肢の筋との関係で見る骨盤底筋群 〜骨盤底の見方を変える 7 つのヒント〜. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 2024.03.09 Web

72. 秋田 恵一. 骨盤底と直腸前方部の組織構造について. 札幌医科大学直腸外科カダバートレーニングセミナー 2024.03.09 札幌市, 北海道

73. 井原 拓哉, 脇 智彦, 藤田 浩二, Chengger Li, Jin Ze, 押部 弘子, 鈴木 賢治. スモールデータ深層学習を用いた単純 X 線画像での舟状骨骨折検知 AI システムの開発. 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08 文京区, 東京都

74. 二村 昭元. 超音波画像と関連した骨関節解剖. 千葉県運動器エコーセミナー 2024.03.03 千葉市, 千葉県

75. 山本 凜太郎, 二村 昭元, 星加 昭太, 秋田 恵一. 上腕三頭筋停止腱の構成と線維配列の解剖学的解析. 第 36 回日本肘関節学会学術集会 2024.03.02 札幌市, 北海道

76. 室生暁. 体幹と下肢の関連を考える -骨盤底筋と恥骨周囲の解剖-. 第 3 回にぼし会勉強会 2024.02.17 文京区, 東京都

77. 二村 昭元. 第 5 回 手関節. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 2024.01.20 Web

[受賞]

1. Top Downloaded Article, 2024 年 03 月
2. 学術大会長賞, 第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会 , 2024 年 09 月

[その他業績]

1. NEC と東京医科歯科大学、 AI により慢性腰痛のセルフケアを支援する技術を開発 〜スマートフォンで在宅でも迅速に原因を推定し、改善運動を推薦〜, 2024 年 03 月
   -

システム発生 · 再生医学分野

Department of Systems BioMedicine

教授　　淺原弘嗣
特任准教授　内藤雄樹
講師　　栗本遼太
助教　　千葉朋希、松島隆英
特任助教　藤井雄太
博士研究員　内田雄太郎、劉琳、竹本操
大学院生　　千田寿々、瀬賀雅康、中村皓平、森田尚宏、
洪雅敏、伊藤潤哉、渡辺奈於、中村聡志、小堤香奈、橋本茉歩、
平井玲士、湯本かすみ、渡瀬梨奈、武田昌之、宮脇一樹

(1) 分野概要

ポストゲノム時代において、研究の方法と主題は大きく変貌しています。私たちのシステム医学研究は、限られた数の遺伝子を新しいアイデアのもと、マシーンやコンピューターを大胆に導入することでシステマティックに解析し、すべての過程で確固たる答えを提示しながら、膨大なデータから帰納 · 演繹を行うリバースエンジニアリングを基本としています。
私たちの研究では、全ての実験がポジティブコントロールとネガティブコントロールを兼ね備え、完了した研究は永続的な価値を持つ結論となり、建築物のように人類の知的遺産として蓄積されていきます。こうした研究成果から、私たちの現在の理解を超える新たな概念につながる興味深い現象が必然的に浮かび上がってきます。

(2) 研究活動

1. 炎症 · がんの病態を形成する新規 RNA 結合タンパクの同定と治療法の開発
2. miRNA を応用した炎症 · がんへの新しい医療開発
3. 関節軟骨の維持機構と変形性関節症の治療開発
4. 乳がん · すい臓がんにおける転写 · 翻訳ネットワークの解明
5. 腱を軸とした運動機能の賦活化制御システムの開発
6. 運動器組織の GWAS および e/sQTL 解析
7. ラボドロイド”まほろ”を用いたクロマチン免疫沈降システムの開発
8. ハイスループット顕微鏡システムと AI を組み合わせたタンパク質の動態解析
9. RNA 階層における新規分子メカニズムの探求
10. 遺伝子改変マウス作成技術の開発と病態 · 創薬研究への応用

(3) 教育活動

学部教育：学部系統講義「分子遺伝学」と「生化学実習」では、遺伝子発現メカニズムを包括的に理解し、最先端の医学研究と臨床実践に応用できる知識と技術を習得する。本カリキュラムは、基礎分子生物学と現代医療における革新的応用との架け橋となるものである。
研究実習：研究実践プログラムやプロジェクトセメスターを通じて、学生はシステム医学研究に不可欠な多様なアプローチを習得する：①シングルセル RNA-seq と AI 解析を統合した網羅的遺伝子発現プロファイリング　②CRISPR-Cas9 ゲノム編集技術を活用した高効率スクリーニングシステム　③多階層オミクスデータの統合解析に

よる疾患メカニズムの解明
学生は発生、再生、炎症を制御する遺伝子ネットワークの探索を通じて発見型学習に取り組む。ヒトサンプルや独自に作成した遺伝子改変マウスモデルを用いて研究成果を検証し、仮説から概念実証まで一貫した研究体験を提供するものである。
大学院教育：修士課程 · 医歯理工学専攻の「発生 · 再生科学」では、発生 · 再生 · 生殖医学に関する基礎知識の習得だけでなく、最先端の研究戦略への洞察力を養う。急速に進化するこれらの分野における批判的思考と革新的な問題解決能力の育成を重視しているのである。私たちの教育理念は理論的枠組みと実践的経験を統合し、分子レベルの知見を臨床応用へと変換できる生物医学イノベーションのリーダーを育成するものである。
医学と生物学の両面から、十分な情報を得て、この分野において深い洞察力をつけることを目標とする。医歯学総合研究科 · 博士課程においては、遺伝子発現を包括的に解析し、コアネットワークを同定することにより、組織発生のメカニズムとその破綻による疾患の解明を行う、システム医学という概念と戦略および技術の会得を目標とする。個の発生を通して、医学生物学的知識を蓄えるだけでなく、まだ解明されていないパラダイムが何であるかを学び、それが明かされる事で期待されるインパクトを想像し、サイエンス教育の本質に迫ることを目的とする。
学部学生の研究教育においては、研究実践プログラムの一環として、新たに、「マイスター講習」として、分子生物学からマウス個体を用いた実験まで、基礎から応用までをカバーした研究トレーニングシステムを設け、基礎研究能力の充実を図った。

(4) 研究業績

[原著]

1. Yutaro Uchida, Ryota Kurimoto, Tomoki Chiba, Takahide Matsushima, Goshi Oda, Iichiroh Onishi, Yasuto Takeuchi, Noriko Gotoh, Hiroshi Asahara. RNA binding protein ZCCHC24 promotes tumorigenicity in triple-negative breast cancer. EMBO Rep. 2024.12; 25(12); 5352-5382

2. Junya Ito, Kensuke Miyake, Tomoki Chiba, Kazufusa Takahashi, Yutaro Uchida, Perry J Blackshear, Hiroshi Asahara, Hajime Karasuyama. Tristetraprolin-mediated mRNA destabilization regulates basophil inflammatory responses. Allergol Int. 2024.11;

3. Hiroki Tsutsumi, Tomoki Chiba, Yuta Fujii, Takahide Matsushima, Tsuyoshi Kimura, Akinori Kanai, Akio Kishida, Yutaka Suzuki, Hiroshi Asahara. Single-nucleus transcriptional and chromatin accessibility analyses of maturing mouse Achilles tendon uncover the molecular landscape of tendon stem/progenitor cells. bioRxiv. 2024.10;

4. Lisa Yagasaki, Tomoki Chiba, Ryota Kurimoto, Mitsuyo Nakajima, Takanori Iwata, Hiroshi Asahara. The essential role of Mkx in periodontal ligament on the metabolism of alveolar bone and cementum Regen Ther. 2024.03; 25; 186-193

5. Miyake K, Ito J, Takahashi K, Nakabayashi J, Brombacher F, Shichino S, Yoshikawa S, Miyake S, Karasuyama H. Single-cell transcriptomics identifies the differentiation trajectory from inflammatory monocytes to pro-resolving macrophages in a mouse skin allergy model. Nature communications. 2024.02; 15(1); 1666

[総説]

1. Ryo Nakamichi, Hiroshi Asahara. The role of mechanotransduction in tendon. J Bone Miner Res. 2024.08; 39(7); 814-820

2. Takahide Matsushima, Asahara Hiroshi. Molecular mechanisms of mechanosensing and plasticity of tendons and ligaments. J Biochem. 2024.05;

[講演 · 口頭発表等]

1. Y. Uchida, R. Kurimoto, T. Chiba, T. Matsushima, G. Oda, I. Onishi, Y. Takeuchi, N. Gotoh, H. Asahara.. RNA Binding Protein ZCCHC24 Maintains Cancer Stem Like Status In Triple Negative Breast Cancer. Cell Bio 2024 2024.12.16

2. Junya Ito, Kensuke Miyake, Tomoki Chiba, Hajime Karasuyama, Hiroshi Asahara.. RNA-binding protein tristetraprolin negatively regulates pro-inflammatory mediator production in basophils via mRNA degradation. 第 53 回日本免疫学会学術集会 2024.12.04

3. Junya Ito, Kensuke Miyake, Tomoki Chiba, Hajime Karasuyama, Hiroshi Asahara.. RNA-binding protein tristetraprolin negatively regulates pro-inflammatory mediator production in basophils via mRNA degradation. 第 53 回日本免疫学会学術集会 2024.12.04

4. Reiji Hirai, Maho Hashimoto, Masayuki Takeda, Yutaro Uchida, Tomoki Chiba, Hiroshi Asahara. 変形性関節症における化学修飾 microRNA-140 の治療効果. RNA フロンティアミーティング 2024 2024.10.29

5. Hiroshi Asahara, Ryo Nakamichi. Enhancement of Muscle and Motor Abilities Initiated by Tendons through Mechanosensor Gene Polymorphisms: Athlete Giftedness and Genetics. EMBO Workshop Skeletal Muscle Development, Metabolism, and Repair during Homeostasis and Disease 2024.10.15

6. Hiroshi Asahara, Ryo Nakamichi. Enhancement of Muscle and Motor Abilities Initiated by Tendons through Mechanosensor Gene Polymorphisms: Athlete Giftedness and Genetics. EMBO Workshop Skeletal Muscle Development, Metabolism, and Repair during Homeostasis and Disease 2024.10.15

7. Yudai Ono , Saundra Schlesinger, Yutaro Kawa , Keitaro Wada , Kanako Fukunaga , Shinsei Yambe , Yuki Yamasaki 1 Yuta Tsuchiya , Ramu Sagasaki , Koichi Saeki , Tempei Sato ,Hiroshi Haeno , Chisa Shukunami , Hiroshi Asahara , Masafumi Inui. The role of Scleraxis lineage cells in skeletal muscle morphogenesis. EMBO Workshop Skeletal Muscle Development, Metabolism, and Repair during Homeostasis and Disease 2024.10.14

8. 劉琳、千葉朋希、淺原弘嗣. Generation and characterization of conditional Mkx knockout mouse. AOMC-JMS2024 2024.09.13

9. Takahide Matsushima, Yuki Naito, Tomoki Chiba, Ryota, Kurimoto, Koji Ochiai, Koichi Takahashi, Naoki Goshima, Hiroshi Asahara. Comprehensive Analysis of Stress-Dependent Subcellular Localization Changes in Proteins. AOMC-JMS2024 2024.09.13

10. Hiroshi Asahara. Treatment of musculoskeletal diseases by creation and application of bio-tendons. Cell Symposia: Engineering development and disease 2024.08.21

11. Tomoki Chiba, Hiroshi Asahara. Mechanism of cancer malignancy via chronic inflammation mediated by YAP/TAZ through RNA hierarchy. 第 25 回日本 RNA 学会年会 2024.06.27

12. Yutaro Uchida, Ryota Kurimoto, Tomoki Chiba, Takahide Matsushima, Yasuto Takeuchi, Noriko Gotoh, Hiroshi Asahara. RNA binding protein RBPU maintains cancer stem like status in triple negative breast cancer. 第 25 回日本 RNA 学会年会 2024.06.26

13. Nao Watanabe, Maho Hashimoto, Tomoki Chiba, Yuki Naito, Hiroshi Asahara. Generation of a conditional Xist knockdown mouse model ushing Cas7-11. 第 25 回日本 RNA 学会年会 2024.06.26

14. Hiroshi Asahara. Mechanism of Cancer Malignancy via Chronic Inflammation Mediated by YAP/TAZ through RNA Hierarchy. 29th Annual Meeting of the RNA Society 2024.05.30

15. Hiroshi Asahara. Athlete Giftedness and Gene. Ortho Research Seminar Series 2024.05.14

16. Ryo Nakamichi, Hiroshi Asahara. Athletic giftedness and genetics. Cell Symposia: Exercise Metabolism 2024.05.05

17. Hiroshi Asahara, Ryo Nakamichi. The functional enhancement for physical performance via Piezo1-Mkx axis in tendon. OARSI 2024 2024.04.20

18. Hiroshi Asahara. Efficient Generation of Conditional Knockout Mice and Insights into Piezo1 Gene Variation in Enhancing Physical Performance. IMS セミナー（理化学研究所　生命医科学研究センター主催） 2024.04.17

19. Yuta Fujii; Ryo Nakamichi; Martin Lotz; Hiroshi Asahara. Effect Of Piezo1 Deletion On Tendons. ORS 2024 Annual Meeting 2024.02.03

20. Kensuke Miyake, Junya Ito, Kazufusa Takahashi, Jun Nakabayashi, Shigeyuki Shichino, Hajime Karasuyama. Classical monocyte-derived macrophages display high efferocytic ability and contribute to the resolution of basophil-dependent skin allergic inflammation. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.18

21. Junya Ito, Kensuke Miyake, Kazufusa Takahashi, Shigeyuki Shichino, Hajime Karasuyama. FoxO1 regulates the number of basophils in the peripheral tissues and basophil-dependent allergic inflammation. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.17

1. 中村皓平、栗本遼太、松島隆英、千葉朋希、淺原弘嗣. 変形性膝関節症の新たな予防 · 治療の可能性 ヒト iPS 細胞由来人工腱 · 靱帯の臨床応用. 第 14 回　Orthopedic Research Club 2024.12.15
2. 森田尚宏、松島隆英、千葉朋希、淺原弘嗣. 軟骨細胞における SOX9 発現制御化合物の探索. 第 14 回 Orthopedic Research Club 2024.12.15
3. 内田雄太郎、栗本遼太、千葉朋希、松島隆英、竹内康人、後藤典子、浅原弘嗣. RNA 階層から迫るがん生物学 –骨転移の予防に向けて–. 第 43 回日本運動器移植 · 再生医学研究会 2024.11.30
4. 淺原弘嗣、千葉朋希. 慢性炎症を介した YAP/TAZ による RNA 階層を通じた癌悪性度のメカニズム. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.29
5. 湯本 かすみ、千葉 朋希、瀬賀 雅康、Liu Lin、松島隆英、浅原 弘嗣. トランスポゾン依存性 gRNA デリバリーによる Hox 遺伝子同時編集マウスのワンステップ作製. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.29
6. 田中 陽菜、千葉 朋希、内田 雄太郎、渡辺 奈於、竹本 操、栗本 遼太、浅原 弘嗣. Hippo 経路による mRNA 転写後調節を介した炎症性サイトカインの発現制御機構の解明. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.29
7. 松島隆英, 板野景子, 落合幸治, 高橋恒一, 五島直樹, 浅原弘嗣. 細胞内タンパク質の網羅的ダイナミクス解析によるストレス応答性機構の解明. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.29
8. 平井 玲士、橋本 茉歩、松房 愛実、武田 昌之、内田 雄太郎、千葉 朋希、淺原 弘嗣. 変形性関節症における化学修飾 microRNA-140 の治療効果. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.28
9. 千葉朋希、浅原弘嗣. トランスポゾン依存性 gRNA デリバリーによる時空間的な遺伝子編集マウスのワンステップ作製. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.28
10. 内田 雄太郎、栗本 遼太、千葉 朋希、松島 隆英、小田 剛士、大西 威一郎、竹内 康人、後藤 典子、浅原 弘嗣. RNA 結合タンパク質 ZCCHC24 はトリプルネガティブ乳癌の癌幹細胞性を制御する. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.27
11. 手塚叶子、千葉朋希、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA を介した炎症性サイトカインの発現調節による炎症疾患の発症制御機構の解明. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.27
12. 武田昌之, 栗本遼太, 松島隆英, 千葉朋希, 淺原弘嗣. 変形性関節症における circular RNA. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.27
13. 淺原弘嗣. It's NOT a small world! 小さな虫のなかの小さな RNA の物語. ノーベル賞解説講演会 2024.11.20
14. 内田 雄太郎、栗本 遼太、千葉 朋希、松島 隆英、小田 剛史、大西 威一郎、竹内 康人、後藤 典子、浅原 弘嗣. RNA 結合タンパク質 ZCCHC24 はトリプルネガティブ乳癌の癌幹細胞性を制御する. 第 11 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2024.11.15
15. 中村皓平、栗本遼太、中道亮、松島隆英、千葉朋希、淺原弘嗣. 腱特異的 Piezo1 変異マウスにおけるジャンプ時筋電図解析. 第 11 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2024.11.15
16. 手塚叶子、千葉朋希、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症性サイトカインの発現制御を通じた炎症疾患の発症メカニズムの解明. 第 11 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2024.11.15
17. 千葉朋希、田中陽菜、淺原弘嗣. Hippo 経路による mRNA の安定性を介したがんの悪性化機構の解明. 第 11 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス 2024.11.15
18. 淺原弘嗣. がん · 炎症における RNA 階層での制御機構. 第 23 回「認識と形成」研究会 2024.11.02
19. 手塚 叶子、千葉 朋希、浅原 弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症疾患の発症制御機構の解明. RNA フロンティアミーティング 2024 2024.10.29
20. 田中陽菜、千葉 朋希、内田 雄太郎、渡辺 奈於、竹本 操、栗本 遼太、浅原 弘嗣. Hippo 経路による mRNA 転写後調節を介した炎症性サイトカインの発現制御機構の解明. RNA フロンティアミーティング 2024 2024.10.28
21. 伊藤潤哉、三宅健介、千葉朋希、淺原弘嗣、烏山一. RNA 結合タンパク質 Tristetraprolin（TTP）は好塩基球の活性化を抑制する. 第 73 回日本アレルギー学会学術大会 2024.10.19

22. 内田 雄太郎. RNA 階層から迫るがん生物学 –骨転移の予防に向けて–. 第 2 回難病シンポジウム 2024.10.19
23. 松島隆英. 腱 · 靭帯の恒常性維持機構と賦活化化合物の探索. 第 2 回難病シンポジウム 2024.10.19
24. 淺原弘嗣、松島隆英. HuPEX を用いた動的データベース構築と創薬への応用. BioJapan2024　出展者プレゼンテーション 2024.10.09
25. 武田昌之. 変形性膝関節症における新規治療標的 circular RNA の探索. 第 23 回運動器科学研究会 2024.09.21
26. 洪雅敏. PIEZO1 機能亢進下での運動習慣介入による運動機能亢進の効率化及びその定量化. 第 23 回運動器科学研究会 2024.09.21
27. 平井玲士. ヒト iPS 細胞由来の大型人工腱創出の可能性. 第 23 回運動器科学研究会 2024.09.21
28. 栗本遼太、淺原弘嗣. tRNA 修飾酵素による mRNA 翻訳制御と肺癌転移制御機構. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.19
29. Hiroshi Asahara , Ryo Nakamichi. Athlete Giftedness and Genetics. AOMC-JMS2024 2024.09.13
30. 淺原弘嗣. Athlete Giftedness and Genetics. 第 74 回日本体質医学会総会 2024.09.08
31. 内田雄太郎. RNA 結合タンパク質 ZCCHC24 はトリプルネガティブ乳癌の癌幹細胞性を制御する. 学術変革領域研究（A）令和六年度「自己指向性免疫学」　若手ワークショップ　2024 2024.09.07
32. 淺原弘嗣. Athlete Giftedness と遺伝子 ー骨と筋を繋ぐ腱 · 靭帯ー. 高知県整形外科医会（三木会）学術講演会 2024.07.04
33. 栗本遼太、淺原弘嗣. RNA 結合タンパク質機能の包括的解析と悪性腫瘍病態の解明. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.07.02
34. Hiroshi Asahara. Athlete Giftedness and Genetics: Enhancement of Muscle and Motor Abilities Initiated by Tendons through Mechanosensor Gene Polymorphisms. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.07.01
35. 瀬賀雅康、千葉朋希、淺原弘嗣. Hox 遺伝子のターゲット遺伝子の包括的探索. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.06.30
36. 千田寿々、栗本遼太、森山啓司、浅原弘嗣. アデノ随伴ウィルスベクターを用いた Mohawk 遺伝子の局所的発現調節と矯正学的歯の移動の検討. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.06.30
37. Kohei Nakamura, Ryota Kurimoto, Ryo Nakamichi, Takahide Matsushima, Tomoki Chiba, Hiroshi Asahara.　自発的ジャンプ動作下のマウス下腿筋電図測定の確立とその応用.　第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.06.30
38. Takahide Matsushima, Rina Watase, Hiroshi Asahara. 軟骨潤滑成分ルブリシン発現制御機構解析. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.06.30
39. 湯本かすみ、田口緋郁、松島隆英、千葉朋希、淺原弘嗣. 軟骨細胞における SOX9 発現制御化合物の探索. 第 9 回日本骨免疫学会 2024.06.25
40. 手塚叶子、栗本遼太、平井玲士、千葉朋希、松島隆英、内田雄太郎、内藤雄樹、浅原弘嗣. 新規 mRNA 修飾による翻訳制御とがん浸潤転移機構の解明. 第 9 回日本骨免疫学会 2024.06.25
41. 千葉朋希、淺原弘嗣. Hippo 経路による mRNA 転写後調節を介した炎症性サイトカインの発現制御機構の解明. 第 9 回日本骨免疫学会 2024.06.25
42. 淺原弘嗣. Insights into Piezo1 Gene Variation in Enhancing Physical Performance. 大阪大学　ACT Japan　医工連携のセミナー 2024.06.24
43. 千葉朋希.　Mechanism of cancer malignancy via chronic inflammation mediated by YAP/TAZ through RNA hierarchy. R6 年度領域会議 2024.06.13
44. 淺原弘嗣. 世の健康堅持することでのウエルビーイング研究. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会 2024.05.18
45. 淺原弘嗣. Front Row からの眺め. 筋 · 骨 · リウマチの 3 学会合同若手研究会 2024.05.12
46. 栗本遼太、浅原弘嗣. 新規 mRNA 修飾による翻訳制御とがん浸潤転移機構の解明. 筋 · 骨 · リウマチの 3 学会合同若手研究会 2024.05.11

47. 渡瀬梨奈、松島隆英、淺原弘嗣. 軟骨潤滑成分ルブリシン発現制御機構解析. JSIR 次世代リーダー育成スクール 2024 2024.03.27
48. 渡辺奈於、片桐美琴、千葉朋希、淺原弘嗣. 長鎖非コード RNA による炎症性サイトカイン発現制御機構の解明. JSIR 次世代リーダー育成スクール 2024 2024.03.26
49. 淺原弘嗣. ヒト型ロボティックス　マホロを活用した、タンパクと DNA および RNA の相互作用の解析. ソニークリニカルサミット研究会 2024.03.08
50. 湯本かすみ、田口緋郁、松島隆英、千葉朋希、淺原弘嗣. 軟骨細胞における SOX9 発現制御化合物の探索. 第 36 回日本軟骨代謝学会 2024.02.17
51. 渡瀬梨奈、松島隆英、淺原弘嗣. 軟骨潤滑成分ルブリシン発現制御機構の解析. 第 36 回日本軟骨代謝学会 2024.02.17
52. 淺原弘嗣.「関節」機能を賦活化する腱組織の分子 · 生理 · ゲノム研究. 第 36 回日本軟骨代謝学会 2024.02.16
53. 淺原弘嗣. 腱に紡がれる筋骨格系の恒常性と運動機能維持機構. 第 59 回インスリン研究会 2024.02.03
54. 森田尚宏、田口緋郁、松島隆英、千葉朋希、淺原弘嗣. 軟骨細胞における SOX9 発現制御化合物の探索. 第 8 回日本骨免疫学会冬期学術集会 2024.02.01
55. 淺原弘嗣. Athlete Giftedness と遺伝子. 第 8 回日本骨免疫学会冬期学術集会 2024.01.31
56. 淺原弘嗣. 腱に紡がれる運動機能とその破綻による関節疾患の治療と予防. 第 20 回ファンクショナルフード学術集会 2024.01.19

[特許]

1. がん促進因子発現抑制剤、その有効成分のスクリーニング方法、該方法に有用な発現カセット、診断薬、及び診断方法, 特許番号：IL 274456
2. がん促進因子発現抑制剤、その有効成分のスクリーニング方法、該方法に有用な発現カセット、診断薬、及び診断方法, 特許番号：IL 274456

[その他業績]

1. 難治性がん TNBC に対する新規標的分子として RNA 結合タンパク質 ZCCHC24 を同定 —ZCCHC24 は転写後調節によって乳癌幹細胞性を制御している—, 2024 年 10 月
   Journal of Neurosurgery

[社会貢献活動]

1. 腱の再生医療と運動機能について, 共同通信社, 共同通信加盟の新聞各紙, 2024 年 02 月 27 日 - 現在

包括病理学分野

Department of Comprehensive Pathology

教授
石川 文彦
講師
LIANG MINGGAO(リャン　ミンッガオ)
助教
木脇 祐子 田口 登和子
技官
井上 美織
技術補佐員
石橋 佐知子 池田 真住

(1) 分野概要

包括病理学分野での大きな目標は、白血病 · リンパ腫 · 腫瘍など多くの難治性疾患の理解と克服です。研究では、患者さんが研究の起点となり、研究のゴールも患者さんを助けることです。
疾患とその重症度を見極める病理診断の基盤を活かし、病理＝切片というクラシカルな取り組みを大事にしながら、sequencing, computation, drug discovery に至るまで、専門分野を超えて患者さんを助け支える motivation を共有し、皆で多様な science and technology を取り入れ、研究しています。「疾患克服に挑戦する気持ち＝助ける病理学」を、スタッフから学生まで、世代を超えて共有します。
同じ診断でも、病勢や治療への応答性が異なるのが、ベッドサイドの real world であり、1. Humanized Mouse や patient-derived xenograft と呼称されるシステムで、生体内での正常 · 疾患いずれもヒト細胞の dynamics を知る、2. 個体から、各組織/臓器、細胞、蛋白、遺伝子、代謝物など、複数の階層を繋ぐように網羅的な計測を行い、data から disease の本質や弱点を見つけ出す、を重要視しています。スタッフは、皆、それぞれに理解したいと願う疾患、助けたいと思う患者さんを思い浮かべ、専門の分野を持っていきます。病理という世界だけで研究するのではなく、多くのコラボレーターと仕事をしており、その方々の元で学ぶことも奨励します。学部生でも大学院生でも医師でも、世界を知る · 視る、素晴らしき人に出会う、その繋ぎの役割も担います。また、ビジネスディベロプメントの世界と collaborate することで、新しい治療を開発して患者さんの元へと届ける仕組みについて、国内外で取り組んでいます。共同研究者についても紹介しますので、医科歯科と各所を行き来しながらリサーチすることも、視野を広げ、研究を深め、夢を叶える良い方法かもしれません。

(2) 研究活動

1. ヒト血液 · 免疫 · 疾患の再現
上記の通り、患者さんそれぞれに疾患の様子も違えば、それを抑えようとする免疫の力も異なります。免疫は、造血幹細胞から作られ、その過程をマウスに再現しながら、どのような遺伝子があれば、強い免疫を作ることができるか、また、白血病が骨で発生して、どのように全身に拡がり、それを阻止できる治療は何かを研究しています。助ける研究には、多様な考えや研究ツールが必要です。
2. 白血病再発の理解と治療開発
一旦、化学療法などで減少した白血病細胞が再び増えてくる「再発」を根絶するのが、私たちの大きな目標です。そのために、再発の原因となる細胞を見出し、その中に治療標的を同定して治療を作る。このような取り組みを、多数の患者さんの思いと共に進めてきました。白血病を追い詰めるように連続性を持って研究を進める姿勢と、進めながら、私たちも、変化するテクノロジーを学びつつ、より素晴らしいチームワークを構築する思いを持っています。

3. 骨髄微小環境の可視化
ヒト骨髄における骨髄微小環境の病理学的評価
血液学で知られている骨髄微小環境を光学的顕微鏡でとらえるには何か必要か？ 分子生物学的な側面からもアプローチする。
ランダム変異を用いた骨髄微小環境の構築　～がん微小環境における細胞間相互作用の理解～
これまでの「がん微小環境」に関する多くの報告が主に予後不良のがんそのものを主体とした研究であったことに対し、本研究チームでは、包括的に腫瘍周囲支持細胞による薬剤耐性誘導のメカニズムを解明するために、新たな CRISPR screening 法※ 3 の確立を行いました。
CRISPR-Cas を用いた疾患の治療抵抗性の理解
倉田准教授は、いち早く CRISPR を学び、国際的なリーダーシップを発揮してきました。腫瘍の治療抵抗性など、長年、解きたいと思ってそう出来なかったことに挑戦しています。
大学院生や若手病理医も CRISPR をそれぞれの研究テーマに上手に含めて、研究のレベルアップを図っています。
4. 乳がん、膵内分泌腫瘍、子宮内膜症、脂肪肉腫、悪性中皮腫など、幅広い疾患を対象とする病理学 · 医学の深化。疾患細胞 · 間質の関係性の可視化。

(3) 教育活動

学部教育：病理学総論、各論実習、ＰＢＬ、ブロック型学習、総合診断学実習、ＢＳＬ等により、専門課程第 1 学年より第 4 学年に至る 4 年間を通して教育が行われている。実施にあたっては、人体病理学分野、病院病理部、分子病態検査学分野、難研神経病理部門、歯学部口腔病理学講座の協力のもとに行われている。各論実習の最後に行われる症例検討会、ＣＰＥでは少人数の学生が 1 症例を担当し、発表会を行い、症例経験を通した病理学の理解をすすめている。

(4) 教育方針

卒後教育：病理学会認定医の資格を取得する事を目的とした病理解剖学、外科病理学の研修を行い、更に関連病院での研修も行っている。ＣＰＣ、臨床各科との症例検討会を通じて、臨床医学に対する理解も深めていくようにしている。研究に関しては、通常の病理学的手法に加えて、免疫病理学、ウイルス学、生化学および分子生物学的手法など各人のテーマに応じて利用し、先端的な研究を行える様に配慮している。

(5) 臨床活動および学外活動

大学病院と連携し、外科材料や生検材料、及び病理解剖で得られた諸臓器について、形態学的な診断を行っている。また、通常の形態学的手法に加えて、免疫組織学的検索も行っている。

(6) 臨床上の特色

診断精度向上の為、分子病理学的検索も含めて診断を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Adele R, Hussein R, Tavares E, Ahmed K, Di Scipio M, Charish J, Liang M, Monis S, Tumber A, Chen X, Paton TA, Roslin NM, Eileen C, Ivakine E, Sunny NE, Wilson MD, Campos E, Rajala RV, Maynes JT, Monnier PP, Paterson AD, Héon E, Vincent A. Autosomal dominant macular dystrophy linked to a chromosome 17 tandem duplication. JCI insight. 2024.10; 9(23);

2. Mirceta M, Schmidt MHM, Shum N, Prasolava TK, Meikle B, Lanni S, Mohiuddin M, McKeever PM, Zhang M, Liang M, van der Werf I, Scheers S, Dion PA, Wang P, Wilson MD, Abell T, Philips EA, Sznajder ŁJ, Swanson MS, Mehkary M, Khan M, Yokoi K, Jung C, de Jong PJ, Freudenreich CH, McGoldrick P, Yuen RKC, Abrahão A, Keith J, Zinman L, Robertson J, Rogaeva E, Rouleau GA, Kooy RF, Pearson CE. C9orf72 repeat expansion creates the unstable folate-sensitive fragile site FRA9A. NAR molecular medicine. 2024.10; 1(4); ugae019

3. Kobayashi M, Niimi M, Katsuda H, Akahoshi K, Kinowaki Y, Sasaki M, Hirakawa A, Tateishi U, Tanabe M, Okamoto R. Optimization of Endoscopic Ultrasound Characteristics in the Diagnosis of Malignant Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. Pancreas. 2024.07; 53(6); e521-e527

4. Kazuma Saito, Masanori Kobayashi, Minato Yokoyama, Towako Taguchi, Koichiro Kimura, Takumi Akashi, Yasuhisa Fujii, Ryuichi Okamoto. Transjejunal fine-needle biopsy using a forward-viewing echoendoscope for diagnosis of a rare hereditary paraganglioma. VideoGIE. 2024.07; 9(7); 329-332

5. Tatsuya Suzuki, Yuka Hayakawa, Shun Kaneko, Kento Takenaka, Keiya Watakabe, Yuko Kinowaki, Akira Takemoto, Kazuo Ohtsuka, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. Granulomatous hepatitis with Crohn's disease: a case report. Clin J Gastroenterol. 2024.06; 17(3); 551-556

6. Asakawa A, Yoshimoto R, Kobayashi M, Izumi N, Maejima T, Deguchi T, Kubota K, Takahashi H, Yamada M, Ishibashi S, Onishi I, Kinowaki Y, Kurata M, Kobayashi M, Ishibashi H, Okubo K, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. The Comprehensive Characterization of B7-H3 Expression in the Tumor Microenvironment of Lung Squamous Cell Carcinoma: A Retrospective Study. Cancers. 2024.06; 16(11);

7. Yamada E, Umemoto T, Taguchi T, Onishi I, Yamamoto A, Tsukamoto K, Ibara T, Sasaki T, Kaburagi H, Maejima Y, Sasano T, Ohashi K, Yoshii T, Nimura A, Fujita K. Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome. JSES international. 2024.03; 8(2); 349-354

8. Kawade G, Kurata M, Matsuki Y, Fukuda S, Onishi I, Kinowaki Y, Watabe S, Ishibashi S, Ikeda M, Yamamoto M, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. Mediation of FSP1 expression via 4-HNE accumulation contributes to acquisition of resistance to apoptosis and ferroptosis in DLBCL. Laboratory investigation; a journal of technical methods and pathology. 2024.02; 102027

9. Kinowaki Y, Fukumura Y, Kawade G, Sugita K, Kinowaki K, Akahoshi K, Kobayashi M, Ono H, Kudo A, Tanabe M, Akashi T, Ohashi K, Kurata M. Gene expression profiling of pancreatic neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm. Gene. 2024.01; 893; 147916

10. Hata M, Mori T, Hirose Y, Nishida Y, Mandai S, Ando F, Susa K, Iimori S, Naito S, Sohara E, Rai T, Taguchi T, Tomii S, Ohashi K, Uchida S. A case of unexpected diagnosis of fibronectin glomerulopathy with histological features of membranoproliferative glomerulonephritis. BMC nephrology. 2024.01; 25(1); 25

11. Masanori Kobayashi, Hiromune Katsuda, Aya Maekawa, Keiichi Akahoshi, Ryosuke Watanabe, Yuko Kinowaki, Hisaaki Nishimura, Takeo Fujiwara, Minoru Tanabe, Ryuichi Okamoto. Development of an intraductal papillary mucinous neoplasm malignancy prediction scoring system. PLoS One. 2024; 19(10); e0312234

[総説]

1. 石川　文彦. Humanized mouse を用いた白血病の理解と克服に向けた研究 臨牀と研究. 2024.12; 101(12); 1515-1521

2. 石川　文彦. 【ヒト化マウス】正常と悪性のヒト造血研究における humanized mouse 臨床免疫 · アレルギー科. 2024.09; 82(3); 254-260

[講演 · 口頭発表等]

1. 石川文彦. 難治性白血病の再現と理解、そして克服へ . 第 70 回日本病理学会秋期特別総会 2024.11.07 東京 · 一ツ橋ホール

2. 伊藤亜里 · 石川文彦. Targeting poor prognosis acute myeloid leukemia with CD25- targeted chemokine receptor expressing CAR T cell therapy. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.19 福岡マリンメッセ

3. 石川文彦. Understanding normal and malignant human hematopoiesis. 第 21 回幹細胞シンポジウム 2024.05.24 淡路島 · 淡路夢舞台国際会議場

4. 石川文彦. 造血幹細胞分化 · 移植免疫の single cell biology. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2024.03.23 東京国際フォーラム

5. 岩﨑惇, 石川文彦. Single cell genomics revealed critical molecules affecting cell fate of human stem/progenitor cells. The 52th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology 2024.01.15 千葉 · 幕張メッセ

6. 中川諒, 石川文彦. Combined targeting of patient-specific anti-apoptotic molecules and cell surface proteins in high-risk lymphocytic and myeloid leukemia. 第 52 回日本免疫学会学術集会 2024.01.15 千葉 · 幕張メッセ

1. 金谷 亮佑, 森川 亮, 田口 登和子, 山本 くらら, 田村 晧子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 金子 俊, 清水 寛路, 竹中 健人, 福田 将義, 村川 美也子, 藤井 俊光, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 小腸に限局した非典型的免疫チェックポイント阻害薬関連消化器毒性の一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2024.12.01

2. 今井 彩乃, 高瀬 博, 井出 光広, 田川 泰寛, 杉原 潤, 柴田 翔, 中村 祐基, 横山 みなと, 藤井 靖久, 木脇 祐子, 鴨居 功樹, 大野 京子. IgG4 関連疾患に生じた両眼性肉芽腫性ぶどう膜炎の 1 例. 眼科臨床紀要 2024.06.01

3. 石川文彦. 急性骨髄性白血病の複雑性理解と克服に向けた取り組み. 菊池昌弘先生記念講演会 2024.04.07 福岡大学医学部附属病院メディカルホール

4. 川出 玄二, 山本 浩平, 倉田 盛人, 大西 威一郎, 松木 裕子, 北川 昌伸, 大橋 健一, 石川 文彦. DLBCL における 4-HNE の蓄積と Apoptosis, Ferroptosis 抵抗性獲得の検討. 日本病理学会会誌 2024.02.01

5. 林 琉美加, 田口 登和子, 井上 美織, 大西 威一郎, 倉田 盛人, 石川 文彦. FFPE 標本を用いた卵巣子宮内膜症におけるフェロトーシス関連因子の免疫組織学的検討. 日本病理学会会誌 2024.02.01

6. 大西 威一郎, 韓 知佑, 倉田 盛人, 田口 登和子, 石川 文彦. CRISPR screening データベースを用いた、遺伝性乳癌の新規治療標的因子の探索 (Identification of synthetic lethal genes of hereditary breast cancer using CRISPR screening database). 日本病理学会会誌 2024.02.01

7. 國枝 純子, 高松 学, 山下 享子, 阿江 啓介, 松本 誠一, 石川 文彦, 竹内 賢吾. 粘液型脂肪肉腫における人工知能を活用した組織画像分類モデルの構築 (Histologic artificial intelligence(AI) model for predicting prognosis of myxoid liposarcoma). 日本病理学会会誌 2024.02.01

8. 田口 登和子, 林 琉美加, 大西 威一郎, 石橋 佐知子, 池田 真住, 井上 美織, 倉田 盛人, 石川 文彦. 卵巣子宮内膜症における CRISPR library を用いたフェロトーシス誘導因子の同定 (Identification of factors inducing ferroptosis in ovarian endometriosis by using the CRISPR library). 日本病理学会会誌 2024.02.01

分子腫瘍医学分野

Department of Molecular Oncology

教授	田中真二
講師	秋山好光
助教	島田　周
助教	波多野　恵
大学院生	安川紘矢
大学院生	梅村謙太郎
大学院生	蒲池厚志
大学院生	宮田悠佑
大学院生	加藤恵美

(1) 分野概要

悪性腫瘍、特に難治性である「肝がん」「膵がん」「スキルス胃がん」などの克服をめざし「がん」の分子生物学的研究から新規治療法の研究開発まで行なっている。「がん」は勿論がん細胞が生み出すものであるが、疾患としての「がん」は生体内の宿主反応、微小環境など様々な因子の複合体によって成り立っている。即ち癌克服のためには、「がん」という疾患の臨床情報や手術検体に基づいてベンチの basic research を進め、その先進的成果をベッドサイドの translational research へと展開する両輪の研究を推進する必要がある。がんの発生、進展、転移などの分子メカニズムの解明により新規治療法を開発し、次世代の若手研究者育成をめざしている。

(2) 研究活動

1. 難治性がん（肝癌、膵癌、スキルス胃癌など）の分子メカニズム解析
2. 難治性がんの新規分子標的治療の開発
3. 難治性がんのエピゲノム変化を指標とした診断 · 治療の臨床応用
4. がん幹細胞の解析と治療開発
5. 幹細胞研究による再生医療開発

(3) 教育活動

学部教育では、講義、実習を行っている。テーマは、衛生学、分子腫瘍学である。

(4) 教育方針

大学院では各学生は教室の研究テーマの中から 1 つあるいは 2 つを選んで研究を行う。学生は全員遺伝子工学、生化学実験、細胞培養等の技術を習う。毎週、教室でセミナーを開き、研究の進行状況を発表して討論するとともに、新着の雑誌から重要な論文を紹介する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Shimada S, Tanaka S. The chronicles of hepatocellular carcinoma classification: Subtyping, modeling, and treatment. Hepatology. 2024.02; 79(2); 261-263

2. Tsukihara S, Akiyama Y, Shimada S, Hatano M, Igarashi Y, Taniai T, Tanji Y, Kodera K, Yasukawa K, Umeura K, Kamachi A, Nara A, Okuno K, Tokunaga M, Katoh H, Ishikawa S, Ikegami T, Kinugasa Y, Eto K, Tanaka S. Delactylase effects of SIRT1 on a positive feedback loop involving the H19-glycolysis-histone lactylation in gastric cancer. Oncogene. 2024; in press

3. Igarashi Y, Akiyama Y, Shimada S, Watanabe S, Hatano M, Kodera K, Okazaki K, Tanji Y, Tsukihara S, Taniai T, Nara A, Yamane M, Kamachi A, Umemura K, Yasukawa K, Ono H, Akahoshi K, Tanabe M, Haruki K, Furukawa K, Ikegami T, Tanaka S. Identification and clinical implications of endogenous retrovirus elements suppressed by SETDB1 in hepatocellular carcinoma. JHEP Reports. 2024; in press

4. Taniai T, Shimada S, Akiyama Y, Hatano M, Yasukawa K, Igarashi Y, Tsukihara S, Tanji Y, Kodera K, Okazaki K, Haruki K, Nara A, Yagi K, Akahoshi K, Ban D, Asahina Y, Ikegami T, Tanabe M, Tanaka S. Integrative transcriptome profiling elucidates molecular and immunovascular characteristics of macrotrabecular hepatocellular carcinoma. Hepatology. 2024; in press

5. Yasukawa K, Shimada S, Akiyama Y, Taniai T, Igarashi Y, Tsukihara S, Tanji Y, Umemura K, Kamachi A, Nara A, Yamane M, Akahoshi K, Shimizu A, Soejima Y, Tanabe M, Tanaka S. ACVR2A attenuation impacts lactate production and hyperglycolytic conditions attracting regulatory T cells in hepatocellular carcinoma. Cell Reports Medicine. 2024; in press

6. Yamane M, Ishikawa Y, Yamashita H, Morimoto K, Asano D, Sugawara T, Watanabe S, Ueda H, Akahoshi K, Ono H, Tanaka S, Tanabe M. Middle segment preserving pancreatectomy versus total pancreatectomy: a comparative analysis of short- and long-term outcomes. Surgery Today. 2024.12; Online ahead of print

7. Hatano M, Tanase-Nakao K, Uehara E, Iwano R, Muroya K, Narumi S. Concurrent THRB and DUOX2 variants in a patient detected via newborn screening for congenital hypothyroidism: a case of resistance to thyroid hormone. Clinical pediatric endocrinology : case reports and clinical investigations : official journal of the Japanese Society for Pediatric Endocrinology. 2024.02; 33(2); 94-100

[書籍等出版物]

1. 日本肝臓学会　肝生検指針作成委員. 肝生検ガイダンス. 2024.05

[総説]

1. 田中真二. 肝癌治療とサブタイプ分類のクロニクル 肝胆膵. 2024.04; 88(4); 385-388

2. 蒲池厚志、秋山好光、島田周、波多野恵、田中真二. 胆道癌におけるエピゲノム異常とその臨床的意義 胆と膵. 2024.08; 45(8); 835-843

3. 波多野恵、秋山好光、島田周、田中真二. 脂肪負荷に対する肝癌の耐性機序 肝胆膵. 2024.04; 88(4); 459-465

[講演 · 口頭発表等]

1. Shinji Tanaka. Session; Advances in Systematic Treatment options for Liver Cancer Personalized Approaches to Liver Cancer Management: Molecular and Immunological Landscape to Develop Novel Strategies (invited lecture). APASL Oncology 2024 Chiba 2024.09.24 Chiba

2. Shinji Tanaka. International Japan Joint Symposium 6; Cutting edge of HCC basic in Asia: Special Remarks. The 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Hepatology 2024.06.13 Kumamoto

3. Shinji Tanaka. Session; Unraveling the Progression of Genomic Anomalies in Hepatocellular Carcinoma Integrated Omics Analysis for the Progression of Hepatocellular Carcinoma (invited lecture). APASL 2024 Kyoto 2024.03.29 Kyoto

4. Shinji Tanaka. Session; Asian MAFLD: Basic Understanding (Molecular Pathogenesis) Metabolic Dysfunction-Associated Liver Cancer (invited lecture). APASL 2024 Kyoto 2024.03.28 Kyoto

5. Masahiro Yamane, Shohei Motohashi, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. The value of ablation therapy combined with surgical resection for neuroendocrine liver metastasis. ILLS 2024 in Kyoto 2024.10.01 Kyoto

6. Atsushi Nara, Keiichi Akahoshi, Hiroki Ueda,Koichiro Morimoto, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka,Minoru Tanabe. Usefulness of the Novel Rupture Severity Score (NRSS) in Determining the Timing of Transarterial Embolization (TAE) for Ruptured Hepatocellular Carcinoma. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

7. Hiroaki Ono, Daisuke Asano, Toshitaka Sugawara,Shuuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Investigation of the usefulness of TNMG classification in pancreatic neuroendocrine tumors. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

8. Daisuke Asano, Keiichi Akahoshi, Yoshiya Ishikawa,Toshitaka Sugawara, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda,Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. What is the safe and shortest way to learn laparoscopic liver surgery? DSS-based training system and safety use of CUSA. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

1. 田中真二. 特別講演「代謝関連肝細胞癌のフロントライン」. 第 28 回日本肝臓学会大会、第 32 回日本消化器関連学会週間（JDDW 2024） 2024.11.01 神戸

2. 田中真二. 特別講演「外科臨床からみた難治性がんの分子機序と治療開発」. 日本ヒト細胞学会　第 1 回特別講演会 2024.07.30 宮崎（オンライン）

3. 田中真二. 教育シンポジウム Modern Surgeon-scientist のすゝめ　外科の多様性と科学. 第 36 回日本肝胆膵外科学会学術集会 2024.06.29 広島

4. 田中真二. 教育講演「肝細胞癌における腫瘍微小環境から考えるレンバチニブの新たな役割」. 第 33 回日本がん転移学会学術集会 · 総会 2024.06.28 奈良

5. 田中真二. 特別講演「肝がんの腫瘍微小環境と治療戦略」. 第 37 回関越がんフォーラム 2024.02.03 東京

6. 小方理紗子、吉井淳一郎、浅野大輔、小野宏晃、田村華子、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 切除不能な神経内分泌癌を合併する胆嚢腺癌およびリンパ節転移に対して術前化学療法が奏功し、conversion 手術を施行した 1 例. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21 宇都宮

7. 石川喜也、浅野大輔、上田浩樹、渡辺秀一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 腹腔鏡下膵体尾部切除で技術認定を取得するための取り組み. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21 宇都宮

8. 浅野大輔、石川喜也、、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、伴大輔. 当科における腹腔鏡下膵体尾部切除の定型化～技術認定審査の実際と対策. 第 16 回膵臓内視鏡外科研究会 2024.11.20

9. 浅野大輔、石川喜也、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、伴大輔. 腹腔鏡下ならびにロボット支援下肝切除における安定した肝離断を目指して. 第 18 回肝臓内視鏡外科研究会 2024.11.20 宇都宮

10. 島田 周、秋山好光、赤星径一、田中真二. SFXN1 の不活性化は非ウイルス性肝細胞癌において脂肪毒性を軽減し、予後不良予測因子となる. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.21 福岡

11. 秋山好光、島田周、田中真二. 胃癌におけるヒストンメチル化酵素 SETDB1 の高発現の臨床的意義と機能的役割. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.20 福岡

12. 石川喜也、浅野大輔、奈良 篤、渡辺秀一、上田浩樹、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 低侵襲膵切除における膵臓リンパ流の可視化を目指した探索的研究（Panc-ICG 試験）. 第 51 回日本膵切研究会 2024.08.31 奈良

13. 浅野大輔、菅原俊喬、小野宏晃、本橋翔平、鳶翔大郎、石川喜也、渡辺秀一、上田浩樹、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 神経内分泌腫瘍肝転移の手術適応：手術の利益を最大化するために. 第 12 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2024.08.24 札幌

14. 小野宏晃、菅原俊喬、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 進行性膵消化管神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の有用性の検討. 第 55 回日本膵臓学会大会 2024.07.25 宇都宮

15. 小野宏晃、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の有用性の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

16. 森本紘一朗、赤星径一、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 多発膵神経内分泌腫瘍の臨床的特徴と治療戦略. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

17. 石川喜也、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 腹腔鏡からロボットへ〜当科における術野展開、SMA アプローチの変遷〜. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

18. 波多野 恵、秋山 好光、島田 周、八木 宏平、赤星 径一、伊藤 美智子、田邉 稔、小川 佳宏、田中 真二. NAFLD 関連肝がんにおける脂肪毒性への耐性獲得機序の解明. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 横浜

19. 波多野 恵、秋山 好光、島田 周、八木 宏平、赤星 径一、伊藤 美智子、田邉 稔、小川 佳宏、田中 真二. KDM6B 発現低下により NAFLD 関連肝がん細胞は脂肪毒性への耐性を獲得する. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会 2024.05.18 東京

20. 山根聖弘、石川喜也、浅野大輔、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 膵体尾部切除術後遅発性膵液瘻の発生頻度とリスク因子解析. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 名古屋

21. 小野宏晃、小川康介、伊藤剛、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 膵臓癌の新規抗がん剤を同定する薬剤スクリーニングと細胞周期解析に基づく薬剤メカニズム検証および前臨床試験的実験モデルによる臨床応用性を評価する複合的実験モデルの構築. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋市

22. 石川喜也、上田浩樹、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔 . 膵頭十二指腸切除における胆管の切離 · 再建する高さが術後胆管関連合併症に与える影響 . 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 名古屋

23. 小山照央、石川喜也、浅野大輔、上田浩樹、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤篤、田中真二、田邉稔. 低侵襲膵頭十二指腸切除術における肝十二指腸間膜郭清の工夫と注意すべき右胃動静脈の走行. 第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 名古屋

[特許]

1. Dominant negative mutants of IRS-1 and uses there of (Tanaka S, Wands JR), 特許番号：United States Patent 6,528,479

2. Compositions and methods for detection and treatment of hepatocellular carcinoma (Tanaka S, MacDonald G), 出願番号：US 61/811,360

[その他業績]

1. Chairs: Shinji Tanaka, Pei-Jer Chen. International Japan Joint Symposium 6; Cutting edge of HCC basic in Asia: Special Remarks, 2024 年 06 月
The 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Hepatology, Kumamoto

2. Chair: Shinji Tanaka, Takeshi Aoki, Requested Oral: Biomarkers of HBP Cancer, 2024 年 06 月
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Hiroshima

3. 田中真二、司会、「セッション：一般演題 089、セッションタイトル：肝臓: 研究」, 2024 年 07 月
第 79 回日本消化器外科学会総会、下関

4. 田中真二、司会、ランチョンセミナー「ゲノム医療の最新の話題」（中外製薬） , 2024 年 07 月
第 380 回日本消化器病学会関東支部例会、東京

5. Chairs: Shinji Tanaka, Toshikazu Ushijima. The JCA-Mauvernay Awards Session, 2024 年 09 月
The 83rd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Fukuoka

6. 田中真二 · 問山 裕二、司会「プレナリーセッション」, 2024 年 10 月
第 62 回日本癌治療学会学術集会、福岡

7. 田中真二 · 後藤隆、司会「若手セッション 10　肝細胞癌 1」, 2024 年 12 月
第 45 回日本肝臓学会東部会、仙台

診断病理学分野

Department of Surgical Pathology

准教授：倉田盛人（病理部副部長）
助教：大西威一郎、桐村進、新宅洋、國枝純子、小柳杏莉（病理部）
特任助教：三浦圭子（病理部）
秘書：上野彩子（病理部）

(1) 分野概要

診断病理学分野は、1．病理診断を通じた診療への参加、2．病理解剖を通じた医療行為の検証、3．病理診断医の育成、4．病理形態学的な新しい診断方法の開発という 4 つを目標としている。本学病理関連部門（人体病理学分野、包括病理学分野、形態情報解析学分野、難研神経病理学分野、歯学部口腔病理学分野）及び臨床各科と連携しながら診療、教育、研究活動を行っている。

(2) 研究活動

1) 微小環境における薬剤耐性機構の探索とその病態生理
2) 病理診断に有用な組織学的診断マーカーの開発
3) 悪性中皮腫の臨床病理学的研究
4) IBD の臨床病理学的研究
5) 糸球体疾患の臨床病理学的研究
6) 膵神経内分泌腫瘍の臨床病理学的研究
7) 神経変性疾患の臨床病理学的研究

(3) 教育活動

医学部教育においては手術材料 · 剖検症例を用いて基本的な腫瘍性 · 非腫瘍性疾患の病理を学習する機会を学生に提供し、病態の理解と診断技術の習得に寄与している。卒後教育においては病理専門医の取得、病理学的研究の基盤となる病理組織診断、細胞診断、病理解剖診断の研修を行っている。

(4) 教育方針

肉眼 · 組織形態学的な方法による疾患の診断 · 病態の評価を実践する能力を取得することが基本となる。そして病理診断上の問題点や限界点を抽出、その解決に必要な研究技術を取得、問題解決を通じて新たな病理組織学的な診断方法を開発していくことを目標とする。

(5) 臨床活動および学外活動

人体病理学分野、包括病理学分野、形態情報解析学分野、歯学部口腔病理学分野と連携しながら病理解剖 40 例、細胞診断件 9,517 件、組織診断 11,695 件の診療を行っている。剖検と生検を合わせて臨床病理カンファレンスは約 200 回開催されている。

(6) 臨床上の特色

診断病理学は直接患者に接することないが、患者の病気となっている臓器を形態学的に観察し、腫瘍を中心とした様々な疾患の病理形態学的診断を通じて診療に参加している。腫瘍の悪性度や組織型の診断、進行度の詳細な評価に加えて、分子標的薬に代表される薬物治療においても個々の患者に最も適切な選択を考慮する際に病理組織学的な評価が必須となってきた。このような時代の新しい要求に対しても適切に対応できるよう、人体病理学分野、包括病理学分野と協力し、免疫染色、電子顕微鏡や FISH などの先端技術を用いて各臓器の高度な専門性に対応した診療を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kurata M, Onishi I. A new model of extramedullary hematopoiesis. Blood. 2024.08; 144(9); 921-922

2. Kinoshita Tomo, Tamada Natsumi, Hara Shoko, Mukawa Maki, Shintaku Hiroshi, Inaji Motoki, Tanaka Yoji, Nariai Tadashi, Maehara Taketoshi. Two Postmortem Cases of Moyamoya Disease with Different RNF213 p.R4810K Variant Statuses NMC Case Report Journal. 2024.12; 11(1); 413-419

3. Takahara H, Kanazawa T, Oshita H, Tomita Y, Hananoi Y, Ishibashi S, Ikeda M, Furukawa A, Kinoshita M, Yamamoto K, Kato Y, Ishibashi H, Okubo K, Kurata M, Kitagawa M, Ohashi K, Yamamoto K. GPX4 and FSP1 Expression in Lung Adenocarcinoma: Prognostic Implications and Ferroptosis-Based Therapeutic Strategies. Cancers. 2024.11; 16(22);

4. Tanaka H, Yoshida S, Aoyama S, Ikeda S, Kunieda J, Ohashi K, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Fujii Y. A case of double-negative prostate cancer with BRCA2 mutation and high tumor mutation burden treated sequentially with olaparib and pembrolizumab. IJU case reports. 2024.09; 7(5); 395-398

5. Iijima Yuki, Furusawa Haruhiko, Yamana Takashi, Shibata Sho, Shirai Tsuyoshi, Okamoto Tsukasa, Tateishi Tomoya, Adachi Takuya, Kirimura Susumu, Miyazaki Yasunari. Reevaluating diagnosis in interstitial lung disease with a second multidisciplinary discussion. Respir Investig. 2024.09; 62(6); 1027-1033

6. Takahashi S, Ono D, Shintaku H, Oyama J, Nishida Y, Ishikawa K, Yokota T. Cryptogenic New-onset Refractory Status Epilepticus with Hyperintensity of T1-weighted Magnetic Resonance Imaging in the Bilateral Basal Ganglia: An Autopsy Report. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2024.09;

7. Yasuyuki Kurihara, Takayuki Honda, Akira Takemoto, Katsutoshi Seto, Satoshi Endo, Kousuke Tanimoto, Susumu Kirimura, Masashi Kobayashi, Shunichi Baba, Yasuhiro Nakashima, Ryo Wakejima, Rie Sakakibara, Hironori Ishibashi, Johji Inazawa, Toshihiro Tanaka, Yasunari Miyazaki, Kenichi Okubo. Immunohistochemistry of p53 surrogates TP53 mutation as an accurate predictor for early-relapse of surgically resected stage I-III lung adenocarcinoma JTCVS Open. 2024.08;

8. Komiya Y, Kamiya M, Oba S, Kawata D, Iwai H, Shintaku H, Suzuki Y, Miyamoto S, Tobiume M, Kanno T, Ainai A, Suzuki T, Hasegawa H, Hosoya T, Yasuda S. Necroptosis in alveolar epithelial cells drives lung inflammation and injury caused by SARS-CoV-2 infection. Biochimica et biophysica acta. Molecular basis of disease. 2024.08; 1870(8); 167472

9. Tamura K, Tomita Y, Kanazawa T, Shinohara H, Sakano M, Ishibashi S, Ikeda M, Kinoshita M, Minami J, Yamamoto K, Kato Y, Furukawa A, Haruki S, Tokunaga M, Kinugasa Y, Kurata M, Kitagawa M, Ohashi K, Yamamoto K. Lipid Peroxidation Regulators GPX4 and FSP1 as Prognostic Markers and Therapeutic Targets in Advanced Gastric Cancer. International journal of molecular sciences. 2024.08; 25(17);

10. Ariga A, Funauchi Y, Sato S, Kunieda J, Yoshii T. Melorheostosis With Uniform Rib Thickening. Clinical nuclear medicine. 2024.07; 49(7); 662-663

11. Fujiwara M, Shimada W, Yokoyama M, Koyanagi A, Shintaku H, Fukuda S, Waseda Y, Tanaka H, Yoshida S, Fujii Y. Durable response to nivolumab rechallenge in a patient with metastatic clear cell renal cell carcinoma. IJU case reports. 2024.07; 7(4); 293-296

12. Tsujikawa T, Ohno K, Morita KI, Saburi S, Mitsuda J, Yoshimura K, Kimura A, Morimoto H, Ogi H, Shibata S, Akashi T, Kurata M, Imoto I, Shimizu Y, Kano S, Watanabe A, Yamazaki T, Asada Y, Hayashi R, Saito Y, Ozawa H, Tsukahara K, Oridate N, Sano D, Horii A, Ueki Y, Maruo T, Mukoyama N, Hanai N, Fukusumi T, Iwai H, Fujisawa T, Fujii T, Nibu KI, Iwae S, Ueda T, Chikuie N, Yasumatsu R, Matsuo M, Umeno H, Ono T, Masuda M, Toh S, Itoh K, Hirano S, Asakage T. Clinical, genomic and immune microenvironmental determinants of nivolumab response in head and neck squamous cell carcinoma. Frontiers in immunology. 2024.07; 15; 1390873

13. Yusuke Mizuno, Ryuhei Okada, Susumu Kirimura, Ryoichi Yoshimura, Takahiro Asakage. A Case of Malignant Transformation of Recurrent Respiratory Papillomatosis That Was Effectively Treated with Pembrolizumab Case Rep Oncol. 2024.07; 17(1); 734-740

14. Asakawa A, Yoshimoto R, Kobayashi M, Izumi N, Maejima T, Deguchi T, Kubota K, Takahashi H, Yamada M, Ishibashi S, Onishi I, Kinowaki Y, Kurata M, Kobayashi M, Ishibashi H, Okubo K, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. The Comprehensive Characterization of B7-H3 Expression in the Tumor Microenvironment of Lung Squamous Cell Carcinoma: A Retrospective Study. Cancers. 2024.06; 16(11);

15. Kimura K, Yamamoto T, Tsuchiya J, Yoshida S, Yanai S, Onishi I, Fujii Y, Tateishi U. A diagnostic approach of various urethral diseases using multimodal imaging findings: comprehensive overview. Abdominal radiology (New York). 2024.06;

16. Yuri Hayashida, Maho Hatano, Kazuyuki Ito, Manabu Sugie, Junko Kunieda, Masaki Shimizu, Tomohiro Morio, Chikako Morioka. Case Report: A neonatal case of cryopyrin-associated periodic syndrome with severe funisitis and neonatal asphyxia. Front Pediatr. 2024.05; 12; 1397412

17. Nobuhiko Ogasawara, Yoshihito Kano, Yosuke Yoneyama, Sakurako Kobayashi, Satoshi Watanabe, Sakura Kirino, Fausto D Velez-Bravo, Yourae Hong, Aleksandra Ostapiuk, Pavlo Lutsik, Iichiroh Onishi, Shinichi Yamauchi, Yui Hiraguri, Go Ito, Yusuke Kinugasa, Kenichi Ohashi, Mamoru Watanabe, Ryuichi Okamoto, Sabine Tejpar, Shiro Yui. Discovery of non-genomic drivers of YAP signaling modulating the cell plasticity in CRC tumor lines. iScience. 2024.03; 27(3); 109247

18. Yamada E, Umemoto T, Taguchi T, Onishi I, Yamamoto A, Tsukamoto K, Ibara T, Sasaki T, Kaburagi H, Maejima Y, Sasano T, Ohashi K, Yoshii T, Nimura A, Fujita K. Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome. JSES international. 2024.03; 8(2); 349-354

19. Sato A, Fujioka T, Onishi I, Yamaga E, Katsuta L, Kubota K, Kumaki Y, Ishiba T, Oda G, Tateishi U. Arterial Calcification Disappearance in Breast Imaging: A Key Indicator for Transition to Invasive Ductal Carcinoma. Diagnostics (Basel, Switzerland). 2024.03; 14(7);

20. Shun Fujiwara, Yoshihito Kano, Yasuhiro Maejima, Tomoyuki Fujioka, Kazuhiro Tamura, Susumu Kirimura, Satoshi Miyake, Ryuichi Okamoto. Clinical Response of Primary Malignant Pericardial Mesothelioma with Peritoneal Dissemination to Nivolumab. Intern Med. 2024.02; 63(4); 513-519

21. Murakami M, Hara K, Ikeda K, Horino M, Okazaki R, Niitsu Y, Takeuchi A, Aoki J, Shiba K, Tsujimoto K, Komiya C, Nakamura Y, Kurata M, Akashi T, Fujii Y, Yamada T. Single-Nucleus Analysis Reveals Tumor Heterogeneity of Aldosterone-Producing Adenoma. Hypertension (Dallas, Tex. : 1979). 2024.02; 81(2); 361-371

22. Kawade G, Kurata M, Matsuki Y, Fukuda S, Onishi I, Kinowaki Y, Watabe S, Ishibashi S, Ikeda M, Yamamoto M, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. Mediation of FSP1 expression via 4-HNE accumulation contributes to acquisition of resistance to apoptosis and ferroptosis in DLBCL. Laboratory investigation; a journal of technical methods and pathology. 2024.02; 102027

23. Kubota N, Okamoto T, Shimada S, Yamana T, Iijima Y, Sakakibara R, Shibata S, Honda T, Mitsumura T, Shirai T, Furusawa H, Tateishi T, Adachi T, Kirimura S, Miyazaki Y. A Case of Solitary Pure Ground-glass Opacity Suspected of Being the Initial Presentation of Nonfibrotic Hypersensitivity Pneumonitis. Internal medicine (Tokyo, Japan). 2024.02; 63(18); 2543-2546

24. Iijima Y, Ejima M, Yamana T, Sonoda S, Shibata S, Shirai T, Okamoto T, Furusawa H, Tateishi T, Adachi T, Mori M, Kirimura S, Anzai T, Takahashi K, Miyazaki Y. Assessment of clinical relevance of antigen improves diagnostic accuracy of hypersensitivity pneumonitis. BMC pulmonary medicine. 2024.02; 24(1); 84

25. Yasui S, Honda T, Onishi I, Ikeda S, Miyazaki Y. Effective Treatment of Lung Adenocarcinoma With a Novel SLC44A1-BRAF Fusion Using Pembrolizumab Followed by Trametinib: A Case Report. Cureus. 2024.02; 16(2); e54739

26. Fujiwara Shun, Kano Yoshihito, Maejima Yasuhiro, Fujioka Tomoyuki, Tamura Kazuhiro, Kirimura Susumu, Miyake Satoshi, Okamoto Ryuichi. Clinical Response of Primary Malignant Pericardial Mesothelioma with Peritoneal Dissemination to Nivolumab Internal Medicine. 2024.02; 63(4); 513-519

27. Kinowaki Y, Fukumura Y, Kawade G, Sugita K, Kinowaki K, Akahoshi K, Kobayashi M, Ono H, Kudo A, Tanabe M, Akashi T, Ohashi K, Kurata M. Gene expression profiling of pancreatic neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm. Gene. 2024.01; 893; 147916

28. Arai Y, Cho J, Fujino A, Taira N, Kunieda J, Koike M. Histopathological Examination of a Symptomatic Carotid Web: A Case Report. NMC case report journal. 2024; 11; 69-74

29. Sakano M, Tomita Y, Kanazawa T, Ishibashi S, Ikeda M, Oshita H, Hananoi Y, Kato Y, Yamamoto K, Furukawa A, Kinoshita M, Haruki S, Tokunaga M, Kinugasa Y, Kurata M, Kitagawa M, Ohashi K, Yamamoto K. Prognostic significance and therapeutic potential of guanosine triphosphate cyclohydrolase 1 in esophageal squamous cell carcinoma: clinical implications of ferroptosis and lipid peroxidation regulation. Frontiers in oncology. 2024; 14; 1459940

1. 川田 研郎, 河邊 浩明, 岡田 隆平, 坂野 正佳, 小郷 泰一, 藤原 尚志, 大野 十央, 春木 茂男, 國枝 純子, 朝蔭 孝宏. 【症例から学ぶ咽頭 · 食道 ESD】咽頭表在癌の ESD/ELPS　下咽頭癌が喉頭にまで及んでいる 消化器内視鏡. 2024.08; 36(8); 1145-1150

[総説]

1. 倉田 盛人. 【造血器疾患における動物モデルを用いた病態解明】急性リンパ性白血病における動物モデルを用いた病態解明 血液内科. 2024.07; 89(1); 21-26

2. 大西 威一郎, 倉田 盛人. 【病理形態学キーワード 2024】(第 17 章) 血液 · 骨髄　ヘマトゴン 病理と臨床. 2024.03; 42(臨増); 390-391

3. 倉田 盛人. 【病理形態学キーワード 2024】(第 17 章) 血液 · 骨髄　異形成と異型 病理と臨床. 2024.03; 42(臨増); 378-379

4. 大西 威一郎, 倉田 盛人. 【病理形態学キーワード 2024】(第 17 章) 血液 · 骨髄　腫瘍性形質細胞 病理と臨床. 2024.03; 42(臨増); 380-381

5. 倉田 盛人. 【病理形態学キーワード 2024】(第 17 章) 血液 · 骨髄　芽球の割合 病理と臨床. 2024.03; 42(臨増); 375-377

6. 倉田 盛人. 【病理形態学キーワード 2024】(第 17 章) 血液 · 骨髄　骨髄移植後変化 病理と臨床. 2024.03; 42(臨増); 384-385

[講演 · 口頭発表等]

1. 末吉 国誉, 垣内 美和子, 河村 大輔, 加藤 洋人, 桐村 進, 石橋 洋則, 大久保 憲一, 石川 俊平. 一細胞 RNA シークエンスと患者腫瘍由来モデルを用いた悪性胸膜中皮腫の微小環境の解析 (Analysis of the microenvironment of malignant pleural mesothelioma using scRNAseq and PDX model). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

1. 浦 芳樹, 石塚 聖洋, 榊原 里江, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 本多 隆行, 白井 剛, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 新宅 洋, 宮崎 泰成. 僅少検体を用いた肺癌コンパクトパネル検査成功例の経験. 気管支学 2024.11.01

2. 梅森 宮加, 田代 康次郎, 堀口 絢奈, 佐藤 峻, 鷹橋 浩幸, 倉田 盛人. 前立腺癌における circularPVT1 の FFPE 組織での発現. 日本病理学会会誌 2024.10.01

3. 辰巳 暁哉, 稲葉 成美, 森田 那奈架, 片山 博徳, 竹内 啓晃, 村井 法之, 倉田 盛人. 癌における MYC 依存性アポトーシス制御因子の網羅的探索 (Comprehensive search for factors regulating MYC-dependent apoptosis in cancer). 日本病理学会会誌 2024.10.01

4. 布川 裕規, 山本 浩平, 倉田 盛人, 清水 六花, 西井 直人, 黒嶋 雄志, 道 泰之, 原田 浩之, 石丸 直澄. 小唾液腺に発生したアミロイド沈着を伴った Low-grade B-cell lymphoma の 3 例 (Three cases of low-grade B-cell lymphoma with amyloid deposition involving the minor salivary glands). 日本病理学会会誌 2024.10.01

5. 河内 理, 倉田 盛人, 新谷 実咲, 小澤 瑞稀, 石橋 玄, 西蔭 徹郎, 長濱 雄志, 大橋 健一. 後腹膜に発生した細胞異型が目立つ孤立性線維性腫瘍の一例. 共済医報 2024.10.01

6. 大野 十央, 河邊 浩明, 朝守 智明, 川田 研郎, 倉田 盛人, 朝蔭 孝宏. 頭頸部表在癌におけるリンパ節転移と簇出の関係性の検討　パイロットスタディー. 日本癌治療学会学術集会抄録集 2024.10.01

7. 中嶋 裕, 近藤 さくら, 齋藤 ひかり, 坂田 泰子, 大西 威一郎, 倉田 盛人, 河合 ほなみ, 服部 高明, 大橋 健一. 髄液中に出現した Diffuse midline glioma の 1 例. 日本臨床細胞学会雑誌 2024.10.01

8. 加藤 祐己, 伊藤 栄作, 笠原 一郎, 桐村 進, 大橋 健一. 自然気胸を契機に発見された悪性胸膜中皮腫の 2 例. 日本病理学会会誌 2024.10.01

9. 鈴木 基弘, 高橋 直, 石黒 太郎, 河合 ほなみ, 稲次 基希, 新宅 洋, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. Cell-based assay 法による血清抗 AQP4 抗体陽性で、NMOSD に特徴的な画像所見を呈した脊髄神経膠腫の 54 歳男性例. 神経免疫学 2024.10.01

10. 上野 晋太郎, 米本 有輝, 早川 優香, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 新宅 洋, 大橋 健一, 谷岡 利朗, 徳永 正則, 岡本 隆一. 早期胃癌 ESD 後の implantation が疑われた一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2024.09.01

11. 小田 剛史, 原 正武, 林 久美子, 足立 未央, 熊木 裕一, 石場 俊之, 山鹿 絵美, 藤岡 友之, 大西 威一郎. センチネルリンパ節に良性上皮細胞の迷入を認めた DCIS の 2 例. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2024.07.01

12. 堀江 亮, 高橋 誠, 林 達也, 山形 亘, 和田 暁彦, 横川 直人, 荒木 潤子, 岡田 晴香, 森田 泰弘, 大西 威一郎. 膵癌術後再発との鑑別を要したサルコイド反応と筋サルコイドーシスの一例. 日本消化器外科学会総会 2024.07.01

13. 原 正武, 石場 俊之, 足立 未央, 熊木 裕一, 山鹿 絵美, 藤岡 友之, 大西 威一郎, 小田 剛史, 森 弘樹. 術前診断で 15cm の巨大腫瘍で発症した男性非浸潤性乳管癌の一例. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2024.07.01

14. 安田 朋加, 白井 剛, 花輪 俊弥, 加藤 里奈, 青木 光, 島田 翔, 園田 史朗, 本多 隆行, 榊原 里江, 石塚 聖洋, 岡本 師, 古澤 春彦, 立石 知也, 田澤 立之, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. EBUS-GS を用いた TBLB で確定診断し得た肺胞蛋白症の 1 例. 気管支学 2024.07.01

15. 根本 淳子, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 河本 亜美, 村川 美也子, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 奥野 圭祐, 山本 浩平, 加藤 祐己, 國枝 純子, 明石 巧, 岡本 隆一. 治療終了 10 年後に再発した転移性小腸腫瘍の一例. Progress of Digestive Endoscopy 2024.06.01

16. 高橋 直, 鈴木 基弘, 石黒 太郎, 稲次 基希, 國枝 純子, 新宅 洋, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. 血清抗 AQP4 抗体陽性の脊髄長大病変を認めたが脊髄生検で脊髄神経膠腫と診断した 54 歳男性例. 臨床神経学 2024.06.01

17. 高橋 直, 鈴木 基弘, 石黒 太郎, 稲次 基希, 國枝 純子, 新宅 洋, 西田 陽一郎, 横田 隆徳. 血清抗 AQP4 抗体陽性の脊髄長大病変を認めたが脊髄生検で脊髄神経膠腫と診断した 54 歳男性例. 臨床神経学 2024.06.01

18. 白石 織栄, 村上 正憲, 笹岡 浩子, 田口 邦之, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 新津 吉博, 竹内 崇人, 加藤 祐己, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 倉田 盛人, 明石 巧, 田邉 稔, 山田 哲也. ブドウ糖反応性低血糖を呈したインスリノーマの一例. 日本内分泌学会雑誌 2024.05.01

19. 田村 郁, 山村 俊弘, 古屋 春菜, 新宅 洋, 清水 一秀, 稲次 基希, 田中 洋次, 前原 健寿. WHO2021 脳腫瘍分類に基づく当院の Pediatric-type diffuse glioma の検討. 小児の脳神経 2024.04.01

20. 原 一成, 村上 正憲, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 中村 祐基, 倉田 盛人, 明石 巧, 藤井 靖久, 山田 哲也. アルドステロン産生腺腫を対象にした single-nucleus RNA-seq 解析. 日本内分泌学会雑誌 2024.04.01

21. 飯島 裕基, 惠島 将, 園田 史朗, 柴田 翔, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患　過敏性肺炎　過敏性肺炎の診断における抗原曝露評価票の有用性に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

22. 澤田 淳, 園田 史朗, 飯島 裕基, 青木 光, 島田 翔, 榊原 里江, 柴田 翔, 本多 隆行, 白井 剛, 古澤 春彦, 岡本 師, 立石 知也, 足立 拓也, 桐村 進, 宮崎 泰成. びまん性肺疾患における BALF のリンパ球比率による病理所見の予測に関する検討. 日本呼吸器学会誌 2024.03.01

23. 加藤 祐己, 伊藤 崇, 山本 浩平, 古川 あすか, 新宅 洋, 山本 くらら, 富田 嘉信, 地野 祐輔, 川田 研郎, 大橋 健一. 表在型食道扁平上皮癌の浸潤の特徴　リンパ節転移のリスク因子に関する解析. 日本病理学会会誌 2024.02.01

24. 川出 玄二, 山本 浩平, 倉田 盛人, 大西 威一郎, 松木 裕子, 北川 昌伸, 大橋 健一, 石川 文彦. DLBCL における 4-HNE の蓄積と Apoptosis, Ferroptosis 抵抗性獲得の検討. 日本病理学会会誌 2024.02.01

25. 林 琉美加, 田口 登和子, 井上 美織, 大西 威一郎, 倉田 盛人, 石川 文彦. FFPE 標本を用いた卵巣子宮内膜症におけるフェロトーシス関連因子の免疫組織学的検討. 日本病理学会会誌 2024.02.01

26. 辰巳 暁哉, 稲葉 成美, 片山 博徳, 山口 孝一, 村井 法之, 倉田 盛人. 癌増殖に寄与する MYC 過剰発現協調因子の探索. 日本病理学会会誌 2024.02.01

27. 大西 威一郎, 韓 知佑, 倉田 盛人, 田口 登和子, 石川 文彦. CRISPR screening データベースを用いた、遺伝性乳癌の新規治療標的因子の探索 (Identification of synthetic lethal genes of hereditary breast cancer using CRISPR screening database). 日本病理学会会誌 2024.02.01

28. 新井 映美, 緒方 香菜子, 村川 美也子, 金子 俊, 三好 正人, 小林 正典, 福田 将義, 中川 美奈, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 畑 千菜, 大西 威一郎, 岡本 隆一. 胃癌化学療法後の 5 年の経過で門脈圧亢進症の増悪をきたした一例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2024.02.01

29. 國枝 純子, 高松 学, 山下 享子, 阿江 啓介, 松本 誠一, 石川 文彦, 竹内 賢吾. 粘液型脂肪肉腫における人工知能を活用した組織画像分類モデルの構築 (Histologic artificial intelligence(AI) model for predicting prognosis of myxoid liposarcoma). 日本病理学会会誌 2024.02.01

30. 田口 登和子, 林 琉美加, 大西 威一郎, 石橋 佐知子, 池田 真住, 井上 美織, 倉田 盛人, 石川 文彦. 卵巣子宮内膜症における CRISPR library を用いたフェロトーシス誘導因子の同定 (Identification of factors inducing ferroptosis in ovarian endometriosis by using the CRISPR library). 日本病理学会会誌 2024.02.01

疾患モデル動物解析学分野

Department of Experimental Animal Model for Human Disease

教授	金井　正美	2010. 4- 現在
講師	平手　良和	2014. 4- 2024.9
助教	水野　直彬	2024.10- 2024.11
講師	〃	2024.12- 現在

(1) 分野概要

疾患モデル動物解析学分野は実験動物センター、疾患モデル動物開発部の協力講座として 2010 年 4 月に発足しました。
目標の 1 つに疾患モデル動物の新規開発とその解析を掲げており、特に先天性疾患のモデル動物開発に力を入れて参りたいと考えております。疾患モデルマウスとその原因因子の関連性の解析を通じて、胎生期診断を早期に行い、早期治療を行うための基礎データを収集することを目的に研究を行っています。

(2) 研究活動

1. 遺伝子改変マウスを用いた器官形成機構の解析
2. 齧歯類モデルを用いた不妊 · 不育症治療法の開発
3. 新規胚操作技術による胎児期遺伝子治療法の開発

(3) 教育活動

講義は実験動物に関する学部教育と大学院医歯学総合研究科初期研究研修プログラム［動物実験の進め方］などを行っている。

(4) 研究業績

[原著]

1. Nanae Miyazaki, Shohei Takami, Mami Uemura, Hironobu Oiki, Masataka Takahashi, Hiroshi Kawashima, Yutaka Kanamori, Takako Yoshioka, Mureo Kasahara, Atsuko Nakazawa, Mayumi Higashi, Ayaka Yanagida, Ryuji Hiramatsu, Masami Kanai-Azuma, Jun Fujishiro, Yoshiakira Kanai. Impact of gallbladder hypoplasia on hilar hepatic ducts in biliary atresia. Communications medicine. 2024.06; 4(1); 111

2. Masaki Nagaya, Ayuko Uchikura, Kazuaki Nakano, Masahito Watanabe, Hitomi Matsunari, Kazuhiro Umeyama, Naoaki Mizuno, Toshiya Nishimura, Hiromitsu Nakauchi, Hiroshi Nagashima. Generation of insulin-like growth factor 1 receptor-knockout pigs as a potential system for interspecies organogenesis. Regen Ther. 2024.06; 26; 783-791

3. Hisato Nagano, Naoaki Mizuno, Hideyuki Sato, Eiji Mizutani, Ayaka Yanagida, Mayuko Kano, Mariko Kasai, Hiromi Yamamoto, Motoo Watanabe, Fabian Suchy, Hideki Masaki, Hiromitsu Nakauchi. Skin

graft with dermis and appendages generated in vivo by cell competition. Nature Communications. 2024.04; 15(1); 3366

[書籍等出版物]

1. 坂井建雄、川上早人　監修. ジュンケイラ組織学　第 6 版（原書 16 版）. 丸善出版, 2024.01

[講演 · 口頭発表等]

1. 韓 笑, 中村 幸祐, 内田 あや, 李 瑞賢, 柳田 絢加, 平松 竜司, 金井 正美, 金井 克晃. Sox17 強制発現によるセルトリバルブの過形成と Sox17 陽性精巣網との機能相補. 第 117 回日本繁殖生物学会 2024.09.23 名古屋大学野依記念学術交流館 · シンポジオンホール

2. Melig Gerel, Nobuhisa Ikuo, Saito Kioka,Tsukahara Ryota, Itabashi Ayumi, Kanai Yoshiakira, Kanai-Azuma Masami, Taga Tetsuya. Rasip1 is a downstream effector of Sox17 that plays a role in maintaining hematopoietic cluster cells in midgestation mouse embryos. 第 45 回日本炎症 · 再生医学会 2024.07.17 福岡国際会議場

3. 水野直彬, 長野寿人, 佐藤秀征, 水谷英二, 柳田絢加, 加納麻弓子, 笠井真理子, 山本祐美, 渡部素生, サッチーファビアン, 正木英樹, 金井正美, 中内啓光. 細胞競合と胎仔発生環境を用いた完全な移植用皮膚片の作成. 第 71 回日本実験動物学会総会 2024.05.29 みやこめっせ · ロームシアター京都

1. 野田義博 , 根本妙子, 金井正美. 活性酸素による酸化ストレス障害が及ぼすマウス精子運動機能低下と分子状水素の抑制効果. 第 71 回日本実験動物学会総会 2024.05.29 みやこめっせ · ロームシアター京都

2. 追木 宏宣, 宮崎 奈々惠, 高見 尚平, 上村 麻実, 東 真弓, 川嶋 寛, 中澤 温子, 金森 豊, 義岡 孝子, 笠原 群生, 柳田 絢加, 平松 竜司, 金井 正美, 藤代 準, 金井 克晃. ヒト · マウス胆道閉鎖症 (BA) での胆管上皮幹 · 前駆細胞の動態解析. 日本小児外科学会雑誌 2024.06.01

3. 水野直彬.　細胞競合と胎仔発生環境を用いた完全な皮膚移植片の作成.　第 71 回日本実験動物学会総会 2024.05.29 京都

[受賞]

1. 第 71 回日本実験動物学会総会優秀発表賞, 日本実験動物学会, 2024 年 05 月

[その他業績]

1. 「　真皮と皮膚付属器を有する機能的な皮膚再生　」 —　細胞競合による長期生着可能な移植用皮膚作成法の開発　—, 2024 年 04 月
   Nature Communications

2. Grow the skin you’re in: in vivo generation of chimeric skin grafts, 2024 年 05 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. 人の皮膚持つマウス　作製　「移植用」実用化目指す　東京医科歯科大など, 読売新聞社, 読売新聞, 2024 年 04 月 25 日 - 2024 年 04 月 30 日

2. ヒトの皮膚 マウスで作製 東京医歯大、やけど治療にも, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 04 月 26 日 - 2024 年 05 月 14 日

3. 「真皮と皮膚付属器を有する機能的な皮膚再生」について, 共同通信社, 医療新世紀, 2024 年 06 月 30 日 - 2024 年 07 月

シグナル遺伝子制御学

Signal Gene Regulation

准教授　船戸　紀子

(1)　分野概要

先端医療開発学講座_シグナル遺伝子制御学分野

主要な研究テーマは、「頭蓋顔面の形態形成における転写調節因子の機能解析」です。頭蓋冠、頭蓋底、顔面骨、顎骨、口蓋の発生機構に関わる転写因子を分子生物学および発生生物学の両面から解明することで、顎頭蓋顔面骨の形態異常や口蓋裂の治療へと研究を展開するのが目標です。

(2)　研究活動

1. 顎顔面および骨の発生に関わる一塩基多型および遺伝子群の転写制御機構
2. 唇顎口蓋裂に関わる一塩基多型および遺伝子群の分子機構

(3)　教育活動

細胞機能を特徴付けるシグナル伝達系の異常と病態との関連を理解し、疾患治療の分子生物学的基盤を学ぶ。細胞増殖と分化を題材に遺伝子発現制御を通じたシグナル伝達系から、顎顔面形態形成と病態を解明する。

特論では、生体の構成単位である細胞は、細胞外の刺激を受け活性化 · 分化 · 増殖 · 細胞死の変化を示す。その際、細胞内では遺伝子の機能に基づいた一連の生化学シグナル反応が生じ、細胞独自の機能を発揮して特徴のある表現型となる。本特論では、細胞の増殖と分化に関与する遺伝子とバイオインフォマティクスについて解説する。

研究実習では、疾患と遺伝子の直接の関連を理解するために、疾患遺伝子の同定 · 検出から、患者での疾患遺伝子の変異の解析と発現の様式を検討する。実験を通じ、病態の理解と遺伝子治療の可能性を考える。遺伝子改変マウスや細胞実験を通じ発生に関わる遺伝子ネットワークを探索し、その意義を解析する。

(4)　教育方針

研究活動に合わせて、「御茶ノ水リサーチファシリティー」が所有する機器の講習会を業務の一環として行っている。

(5)　研究業績

[原著]

1. Noriko Funato,* Arja Heliövaara, Cedric Boeckx. A regulatory variant impacting TBX1 expression contributes to basicranial morphology in Homo sapiens. Am J Hum Genet. 2024.05; 111(5); 939-953

[その他業績]

1. 東京医科歯科大学　プレスリリース, 2024 年 04 月
「 ホモ · サピエンスに特徴的な頭蓋底形態に寄与するゲノム変化を解析 」【船戸紀子 准教授】
https://www.tmd.ac.jp/press-release/20240412-1/

2. 東京医科歯科大学　 Facebook, 2024 年 04 月
「ホモ · サピエンスに特徴的な頭蓋底形態に寄与するゲノム変化を解析」
—ネアンデルタール人から変化したヒト染色体 22q11.2 領域の一塩基多型—
https://www.facebook.com/tmdu.public/posts/pfbid02L47FT6832RcneSC2kGD7giHeV2vMESGXbuzwk7SBoNyoNrZ6VMdjRHPVWakCqCvwl

3. 日本の研究.com プレスリリース, 2024 年 04 月
「 ホモ · サピエンスに特徴的な頭蓋底形態に寄与するゲノム変化を解析 」 — ネアンデルタール人から変化したヒト染色体 22q11.2 領域の一塩基多型 —
https://research-er.jp/articles/view/132663

4. EurekAlert!, 2024 年 04 月
Genetic variant identified that shaped the human skull base
https://www.eurekalert.org/news-releases/1041357/

5. TMDU Press Release, 2024 年 04 月
Genetic variant identified that shaped the human skull base
https://www.tmd.ac.jp/english/press-release/20240412-1/

6. EurekAlert!　(日本版）, 2024 年 04 月
「ホモ · サピエンスに特徴的な頭蓋底形態に寄与するゲノム変化を解析」 —　ネアンデルタール人から変化したヒト染色体 22q11.2 領域の一塩基多型　—
https://www.eurekalert.org/news-releases/1041357?language=japanese

7. ScienceDaily, 2024 年 04 月
Genetic variant identified that shaped the human skull base
https://www.sciencedaily.com/releases/2024/04/240417131055.htm

8. 文部科学省科学研究費補助金　基盤研究 C（継続）, 2024 年 04 月
「「非症候群性」口唇口蓋裂の発症リスクとなる一塩基多型の統合的解析」　研究代表者　船戸紀子

[社会貢献活動]

1. 歯科基礎医学会 代議員, 歯科基礎医学会, 2016 年 04 月 01 日 - 現在

2. QS Global Academic Survey (QS World University Rankings), 2020 年 - 現在

3. Times Higher Education (THE)'s Global Academic Reputation Survey, 2021 年 - 現在

4. 科学技術 · 学術政策研究所（NISTEP）科学技術やイノベーション創出の状況の把握を目的とした調査, 2021 年 - 現在

血液内科学分野

Department of Hematology

教授	森　毅彦
講師	山本　正英、長尾　俊景
助教	梅澤　佳央、田中　圭祐、吉藤　康太
特任准教授	雁金　大樹
特任助教	岡部　基人、秋山　弘樹
検査部講師（キャリアアップ）	野上　彩子
医員	中田　康充、池田　朱里、竹内　厚貴、浜野　しずか, 耕納　飛鳥
大学院生	本村　鷹多朗、斉藤　真貴子、野口　侑真、迎　純一、副島　麻衣 長田　有生、藤原　熙基、雨宮ヒデキホセ

(1)　分野概要

当分野は主に、血液内科として医学部附属病院にて、種々の造血器腫瘍、貧血疾患、出血性疾患等の血液疾患に関して、安全で質の高い医療の提供、高度先進医療の開発、優秀な医師の養成等の目標の達成に向けて、抗癌剤治療、分子標的療法、造血幹細胞移植療法等の治療法を主とした診療と、卒後初期および後期研修を担っています。また、血液疾患の病態の理解に基づいた診断法と治療法の基本の修得を目指して、学部学生に講義と診療参加型実習を通じて教育を行っています。さらに、大学院医歯学総合研究科 · 血液内科学分野として、主に博士課程大学院生の教育を行いつつ、治療が困難な血液疾患に対する有効な治療法の開発に向けた基礎研究、臨床研究を行っています.

(2)　研究活動

当科研究室ではこれまでに、「造血細胞の増殖と腫瘍発症に関わる細胞内シグナル伝達機構」や「化学療法剤による造血器腫瘍のアポトーシス誘導制御機構」の解明に重きを置き、様々な研究活動を行ってきました。これらの研究が礎となり、現在は臨床に還元できるような研究を目標に、各研究グループで以下のようなテーマを精力的に研究展開しております。

1）難治性 B 細胞腫瘍の新たな分子標的の検索と治療介入法の開発
2）新しいキメラ抗原受容体（Chimeric Antigen Receptor: CAR）T 細胞技術の開発
3）原発性眼内リンパ腫の病態関連遺伝子異常の解析とその臨床像との関連
4）免疫不全患者における新たな感染症の診断法 · 管理法の開発
5）造血幹細胞の新たな制御因子の探索
6）急性骨髄性白血病における細胞競合の機序解明

(3)　教育活動

卒前教育: 医学科 3 年生を対象に血液 · 腫瘍ブロックにおいて血液内科学の基本的事項につき講義を行っている。医学科 5 年生および 6 年生に対して、クリニカルクラークシップ (CC) において卒後教育に効果的につながる教育を意識した診療参加型実習を行っている。感染症対策による制限下でも、診療上の問題解決能力を習得することを目標として、症例検討をベースとした講義やグループワークの中で、血液疾患の診断から治療方針決定までのプロセスを経験できる実践的指導を行っている。また患者さんとの接し方、チーム医療の中での医師の役割とそれを果たすことの意義 · 方法についても指導している。

卒後教育: 初期研修では、血液疾患の診療の中で、難治性血液疾患の患者さんとの適切なコミュニケーションの取り方からはじまる全人的治療に関する指導を行っている。実地での診断、治療に必要な血液学の基礎的知識を習得することを目標とし、専攻医には総合内科専門医、血液専門医の取得を視野に入れた指導を行っている。また通常の診療に加え、症例報告をはじめとする学会発表および論文執筆の指導も積極的に行っている。
大学院生を含め自身の疑問の答えを見いだすための基礎研究あるいは臨床研究を立案、遂行することを指導し、高い research mind を有する研究者の育成にも努めている。

(4) 教育方針

(3) で示した通り、血液疾患を学ぶ中で、高い問題解決能力の習得、全人的治療を行うことができる医療人の育成を目標としている。またさらに高い research mind を有する研究者の育成にも努めている。

(5) 臨床活動および学外活動

2024 年も血液疾患の多岐にわたる多くの患者の診療にあたった。14 床の無菌病室において、急性白血病寛解導入療法や、急性白血病および悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に対する移植医療（同種、自家）も積極的に行っている。骨髄移植推進財団、日本臍帯血バンクネットワークの移植施設として認定を受けている他、2019 年には HLA 半合致移植を導入し、CAR-T 療法認定施設となった。移植コーディネーター、看護師、薬剤師、心身医療科をはじめとする他科の先生方とチーム医療を推進し、2024 年は同種造血幹細胞移植 14 例（血縁造血幹細胞移植 4 例（うち HLA 半合致移植 2 例）、非血縁骨髄移植 10 例）、自家末梢血幹細胞移植 5 例、CAR-T 細胞療法 15 例が施行された。外来に関しては、外来化学療法室にて安全且つ生活の質に重点をおいた通院化学療法を施行している。

(6) 臨床上の特色

二重特異性抗体、CAR-T 細胞療法、難治性造血器悪性腫瘍に対する造血幹細胞移植療法、化学療法 · 移植に伴う感染症

(7) 研究業績

[原著]

1. Sugimoto Y, Nagaharu K, Ohya E, Ohishi K, Tawara I, Ito T, Gotoh A, Nakamae M, Kimura F, Koike M, Kirito K, Wada H, Usuki K, Tanaka T, Mori T, Wakita S, Saito TI, Saito AM, Shimoda K, Kurokawa T, Tomita A, Edahiro Y, Hashimoto Y, Kiyoi H, Akashi K, Matsumura I, Takenaka K, Komatsu N. Clinical characteristics in adolescents and young adults with polycythemia vera and essential thrombocythemia in Japan. International journal of hematology. 2024.12; 120(6); 684-693

2. Morikawa R, Nitta K, Yasuda S, Kano Y, Noji R, Aoyama S, Sato S, Ikeda S, Okamoto R, Nagata M, Mori T, Suenaga M. Identification of risk factors for gastrointestinal immune-related adverse events associated with immune check point inhibitors. Expert opinion on drug safety. 2024.12;

3. Inoue K, Tomomasa D, Nakagama Y, Takeuchi H, Tanaka Y, Tanimoto K, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Tanaka K, Yoshifuji K, Miwa Y, Ohnishi H, Okada S, Mori T, Yasuda S, Kido Y, Morio T, Kanegane H. Real-world experience of tixagevimab/cilgavimab prophylaxis in Japanese patients with immunodeficiency. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2024.12; 31(2); 102577

4. Yotaro Motomura, Kota Yoshifuji, Keisuke Tanaka, Chizuko Sakashita, Yoshihiro Umezawa, Toshikage Nagao, Sayuri Nitta, Yasuhiro Asahina, Takehiko Mori, Masahide Yamamoto. Hepatitis C virus-related hepatitis flare after immunochemotherapy in a patient with follicular lymphoma. J Clin Exp Hematop. 2024.12; 64(4); 313-317

5. Yusuke Kubota, Masatoshi Sakurai, Yasuhito Nannya, Yasunori Kogure, Kohei Shiroshita, Shinya Fujita, Kentaro Yamaguchi, Kota Mizuno, Jun Kato, Takehiko Mori, Seishi Ogawa, Keisuke Kataoka. Post-transplant transient abnormal myelopoiesis evolving from a GATA1 mutant clone in umbilical cord blood. Ann Hematol. 2024.12; 103(12); 5989-5998

6. Momo Wakui, Junichi Tsuchiya, Chikara Kase, Kota Yokoyama, Masahide Yamamoto, Ukihide Tateishi. Comparative Study of Metabolic Tumor Volume in Multiple Myeloma and Related Plasma Cell Dyscrasias: 11C-Acetate PET vs. 18F-FDG PET. Cureus. 2024.10; 16(10); e71605

7. Nogami, A; Amemiya, HJ; Fujiwara, H; Umezawa, Y; Tohda, S; Nagao, T. Targeting USP14/UCHL5: A Breakthrough Approach to Overcoming Treatment-Resistant FLT3-ITD-Positive AML INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES. 2024.10; 25(19);

8. Keiki Nagaharu, Eiko Ohya, Yoko Edahiro, Yoshinori Hashimoto, Tomoki Ito, Akihiko Gotoh, Mika Nakamae, Fumihiko Kimura, Michiaki Koike, Keita Kirito, Hideho Wada, Kensuke Usuki, Takayuki Tanaka, Takehiko Mori, Satoshi Wakita, Toshiki I Saito, Akiko M Saito, Kazuya Shimoda, Toshiro Kurokawa, Akihiro Tomita, Hitoshi Kiyoi, Koichi Akashi, Itaru Matsumura, Katsuto Takenaka, Norio Komatsu, Kohshi Ohishi, Isao Tawara, Yuka Sugimoto. Predictive significance of high neutrophil ratio for thrombosis in myeloproliferative neoplasms: JSH-MPN-R18 subanalysis. Ann Hematol. 2024.09; 103(9); 3535-3541

9. Akiyama H, Kantarjian H, Jabbour E, Issa G, Haddad FG, Short NJ, Hu S, Ishizawa J, Andreeff M, Sasaki K. Outcome of 3q26.2/MECOM rearrangements in chronic myeloid leukemia. International journal of hematology. 2024.08; 120(2); 203-211

10. Shintaro Watanuki, Hiroshi Kobayashi, Yuki Sugiura, Masamichi Yamamoto, Daiki Karigane, Kohei Shiroshita, Yuriko Sorimachi, Takayuki Morikawa, Shinya Fujita, Kotaro Shide, Miho Haraguchi, Shinpei Tamaki, Takumi Mikawa, Hiroshi Kondoh, Hiroyasu Nakano, Kenta Sumiyama, Go Nagamatsu, Nobuhito Goda, Shinichiro Okamoto, Ayako Nakamura-Ishizu, Kazuya Shimoda, Makoto Suematsu, Toshio Suda, Keiyo Takubo. SDHAF1 confers metabolic resilience to aging hematopoietic stem cells by promoting mitochondrial ATP production. Cell Stem Cell. 2024.08; 31(8); 1145-1161.e15

11. Satoshi Kaito, Yuho Najima, Daichi Sadato, Chizuko Hirama, Yuya Kishida, Akihito Nagata, Tatsuya Konishi, Yuta Yamada, Shuhei Kurosawa, Kota Yoshifuji, Shuichi Shirane, Naoki Shingai, Takashi Toya, Hiroaki Shimizu, Kyoko Haraguchi, Takeshi Kobayashi, Hironori Harada, Yoshiki Okuyama, Yuka Harada, Noriko Doki. Azacitidine and gemtuzumab ozogamicin as post-transplant maintenance therapy for high-risk hematologic malignancies. Bone Marrow Transplant. 2024.08; 59(8); 1169-1175

12. Akiyama M, Kanayama M, Umezawa Y, Nagao T, Izumi Y, Yamamoto M, Ohteki T. An early regulatory mechanism of hyperinflammation by restricting monocyte contribution. Frontiers in immunology. 2024.07; 15; 1398153

13. Kei Mikita, Takehiko Mori, Tamayo Komine, Seiki Kobayashi, Satoshi Iwata, Koichi Suzuki, Naoki Hasegawa. Development of a LAMP method with lateral flow DNA chromatography to diagnose toxoplasmosis in immunocompromised patients. Trop Med Health. 2024.07; 52(1); 45

14. Ohwada C, Sakaida E, Takeda Y, Doki N, Igarashi A, Onizuka M, Toyosaki M, Tanaka M, Tachibana T, Kataoka K, Kato J, Fujisawa S, Kato S, Nakasone H, Naganuma K, Saitoh T, Shono K, Hagihara M, Saito T, Usuki K, Mori T, Nakaseko C, Okamoto S, Kanda Y. Survival impact of response within the first year in a multicenter prospective observational study of chronic GVHD in a Japanese cohort. International journal of hematology. 2024.07; 120(3); 347-355

15. Yoshifuji K, Sadato D, Toya T, Motomura Y, Hirama C, Takase H, Yamamoto K, Harada Y, Mori T, Nagao T. Impact of genetic alterations on central nervous system progression of primary vitreoretinal lymphoma. Haematologica. 2024.06;

16. Sho Hashiguchi, Dan Tomomasa, Takuro Nishikawa, Shuji Ishikawa, Harumi Akaike, Hidehiko Kobae, Tsuyoshi Shirai, Toshikage Nagao, Kosuke Noma, Satoshi Okada, Kazuhiro Kamuro, Yasuhiro Okamoto, Hirokazu Kanegane. 18q Deletion Syndrome Presenting with Late-Onset Combined Immunodeficiency. J Clin Immunol. 2024.06; 44(7); 154

17. Ryusuke Yamamoto, Nobuhiro Hiramoto, Ayumi Fujimoto, Hirohito Yamazaki, Takehiko Mori, Naoyuki Uchida, Noriko Doki, Jun Kato, Masashi Nishikubo, Shinichi Kako, Tetsuya Nishida, Shuichi Ota, Makoto Onizuka, Tetsuya Eto, Koichi Onodera, Kazuhiro Ikegame, Ken-Ichi Matsuoka, Yoshinobu Kanda, Takahiro Fukuda, Yoshiko Atsuta, Yasushi Onishi. Impact of antithymocyte globulin usage and risk stratification for posttransplant lymphoproliferative disorders in aplastic anemia patients after allogeneic hematopoietic cell transplantation. Bone Marrow Transplant. 2024.05; 59(5); 688-691

18. Umezawa Y, Yoshifuji K, Tanaka K, Nogami A, Nagano K, Tsuji A, Nagao T, Yamamoto M, Kajiwara M, Tohda S, Mori T. Impact of BK polyomavirus viremia on the outcomes of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Annals of hematology. 2024.05; 103(5); 1737-1744

19. Miyamoto S, Niizato D, Tomomasa D, Nishimura A, Hoshino A, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Kajiwara M, Azumi S, Hirabayashi S, Sakamoto K, Kishimoto K, Miyamura T, Umeda K, Hirose A, Keino D, Yanagimachi M, Kanda K, Sakai Y, Ikawa Y, Watanabe K, Tanaka K, Mori T, Ichinohe T, Sakaguchi H, Morio T, Kanegane H. Allogeneic Hematopoietic cell Transplantation Using Alemtuzumab in Asian Patients with Inborn Errors of Immunity. Journal of clinical immunology. 2024.05; 44(6); 126

20. Pourebrahim R, Montoya RH, Akiyama H, Ostermann L, Khazaei S, Muftuoglu M, Baran N, Zhao R, Lesluyes T, Liu B, Khoury JD, Gagea M, Van Loo P, Andreeff M. Age-specific induction of mutant p53 drives clonal hematopoiesis and acute myeloid leukemia in adult mice. Cell reports. Medicine. 2024.05; 5(5); 101558

21. Jonas L Fowler, Sherry Li Zheng, Alana Nguyen, Angela Chen, Xiaochen Xiong, Timothy Chai, Julie Y Chen, Daiki Karigane, Allison M Banuelos, Kouta Niizuma, Kensuke Kayamori, Toshinobu Nishimura, M Kyle Cromer, David Gonzalez-Perez, Charlotte Mason, Daniel Dan Liu, Leyla Yilmaz, Lucile Miquerol, Matthew H Porteus, Vincent C Luca, Ravindra Majeti, Hiromitsu Nakauchi, Kristy Red-Horse, Irving L Weissman, Lay Teng Ang, Kyle M Loh. Lineage-tracing hematopoietic stem cell origins in vivo to efficiently make human HLF+ HOXA+ hematopoietic progenitors from pluripotent stem cells. Developmental Cell. 2024.05; 59(9); 1110-1131.e22

22. Yotaro Motomura, Kota Yoshifuji, Takayoshi Tachibana, Hiroshi Takase, Ayako Arai, Keisuke Tanaka, Keigo Okada, Ayako Nogami, Yoshihiro Umezawa, Chizuko Sakashita, Masahide Yamamoto, Takehiko Mori, Toshikage Nagao. Clinical factors for central nervous system progression and survival in primary vitreoretinal lymphoma. Br J Haematol. 2024.04; 204(4); 1279-1287

23. Akiyama H, Zhao R, Ostermann LB, Li Z, Tcheng M, Yazdani SJ, Moayed A, Pryor ML 2nd, Slngh S, Baran N, Ayoub E, Nishida Y, Mak PY, Ruvolo VR, Carter BZ, Schimmer AD, Andreeff M, Ishizawa J. Mitochondrial regulation of GPX4 inhibition-mediated ferroptosis in acute myeloid leukemia. Leukemia. 2024.04; 38(4); 729-740

24. Fabian P Suchy, Daiki Karigane, Yusuke Nakauchi, Maimi Higuchi, Jinyu Zhang, Katja Pekrun, Ian Hsu, Amy C Fan, Toshinobu Nishimura, Carsten T Charlesworth, Joydeep Bhadury, Toshiya Nishimura, Adam C Wilkinson, Mark A Kay, Ravindra Majeti, Hiromitsu Nakauchi. Genome engineering with Cas9 and AAV repair templates generates frequent concatemeric insertions of viral vectors. Nature Biotechnology. 2024.04;

25. Shintaro Watanuki, Hiroshi Kobayashi, Yuki Sugiura, Masamichi Yamamoto, Daiki Karigane, Kohei Shiroshita, Yuriko Sorimachi, Shinya Fujita, Takayuki Morikawa, Shuhei Koide, Motohiko Oshima, Akira Nishiyama, Koichi Murakami, Miho Haraguchi, Shinpei Tamaki, Takehiro Yamamoto, Tomohiro Yabushita, Yosuke Tanaka, Go Nagamatsu, Hiroaki Honda, Shinichiro Okamoto, Nobuhito Goda, Tomohiko Tamura, Ayako Nakamura-Ishizu, Makoto Suematsu, Atsushi Iwama, Toshio Suda, Keiyo Takubo. Context-dependent modification of PFKFB3 in hematopoietic stem cells promotes anaerobic glycolysis and ensures stress hematopoiesis. Elife. 2024.04; 12;

26. Takashi Toya, Kota Mizuno, Masatoshi Sakurai, Jun Kato, Takehiko Mori, Noriko Doki, Shinichi Masuda, Nobuyuki Aotsuka, Shokichi Tsukamoto, Emiko Sakaida, Yuki Nakajima, Shin Fujisawa, Shinichiro Machida, Yasuyuki Aoyama, Hiroki Yokoyama, Katsuhiro Shono, Yoshihiro Hatta, Kensuke Usuki, Keisuke Kataoka, Yoshinobu Kanda. Differential clinical impact of letermovir prophylaxis according to graft sources: a KSGCT multicenter retrospective analysis. Blood Adv. 2024.03; 8(5); 1084-1093

27. Kawade G, Kurata M, Matsuki Y, Fukuda S, Onishi I, Kinowaki Y, Watabe S, Ishibashi S, Ikeda M, Yamamoto M, Ohashi K, Kitagawa M, Yamamoto K. Mediation of FSP1 expression via 4-HNE accumulation contributes to acquisition of resistance to apoptosis and ferroptosis in DLBCL. Laboratory investigation; a journal of technical methods and pathology. 2024.02; 102027

28. Hikaru Aoki, Yasunari Miyazaki, Tatsuhiko Anzai, Kota Yokoyama, Junichi Tsuchiya, Tsuyoshi Shirai, Sho Shibata, Rie Sakakibara, Takahiro Mitsumura, Takayuki Honda, Haruhiko Furusawa, Tsukasa Okamoto, Tomoya Tateishi, Meiyo Tamaoka, Masahide Yamamoto, Kunihiko Takahashi, Ukihide Tateishi, Tetsuo Yamaguchi. Deep convolutional neural network for differentiating between sarcoidosis and lymphoma based on [18F] FDG maximum-intensity projection images Eur Radiol. 2024.01; 34(1); 374-383

29. Noriharu Nakagawa, Ken Ishiyama, Kensuke Usuki, Satoru Takada, Tatsuki Tomikawa, Hiroshi Handa, Yuna Katsuoka, Daiki Hirano, Nobuo Sezaki, Masahiko Sumi, Shin Fujisawa, Yasuhiro Taniguchi, Atsuko Mugitani, Takuro Yoshimura, Eiichi Ohtsuka, Ken Takase, Youko Suehiro, Shuichi Ota, Tomohiro Kajiguchi, Tomoya Maeda, Masahide Yamamoto, Shigeki Ohtake, Akira Katsumi, Hitoshi Kiyoi, Itaru Matsumura, Yasushi Miyazaki. Outcomes of transplant-eligible patients with myelodysplastic syndrome with excess blasts registered in an observational study: The JALSG-CS11-MDS-SCT. Ann Hematol. 2024.01; 103(1); 307-320

30. Niklas Landberg, Thomas Köhnke, Yang Feng, Yusuke Nakauchi, Amy C Fan, Miles H Linde, Daiki Karigane, Kelly Lim, Rahul Sinha, Luca Malcovati, Daniel Thomas, Ravindra Majeti. IDH1-Mutant Preleukemic Hematopoietic Stem Cells Can Be Eliminated by Inhibition of Oxidative Phosphorylation. Blood Cancer Discovery. 2024.01; OF1-OF18

1. 耕納 飛鳥, 田中 圭祐, 島田 智仁, 坂東 夏菜, 高畑 篤, 厚井 聡志, 山 本 正英, 森 毅彦, 豊田 茂. Alectinibにより完全奏効達成後に同種造血幹細胞移植を施行した難治性 ALK 陽性未分化 大細胞リンパ腫 臨床血液. 2024.03; 65(3); 158-63

[書籍等出版物]

1. 吉藤康太、森毅彦. 日本医事新報. 日本維持新報社, 2024.04

2. 森　毅彦. 今日の治療指針　私はこう治療している　2024. 医学書院, 2024.01

[講演 · 口頭発表等]

1. 山﨑 知子, 森 毅彦, 妻木 浩, 勝良 剛詞, 丹田 奈緒子, 江戸 美奈子, 長縄 弥生, 松田 悠平, 上野 尚雄, 百合草 健圭, 光永 幸代, 渡邊 真一, 曽我 賢彦. がん患者に口腔管理を円滑に提供できるようにするには. 第62回日本癌治療学会学術集会 2024.10.25

2. Dan Tomomasa, Takahiro Kamiya, Fumiko Honda-Ozaki, Miyuki Tsumura, Atsushi Hijikata, Morito Kurata, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Hisako Nakamaki, Takehiko Mori, Hirokazu Kanegane. Novel RAC2 variant showing combined immunodeficiency and B-cell lymphoma. 21th Biennial Meeting of European Society for Immunodeficiencies 2024.10.16

3. 雁金 大樹 Amy Fan 栢森 健介 中内 祐介 Thomas Koehnke Athreya Rangavajhula Ravindra Majeti . 白血病内インターフェロンは AML 増殖を抑制し化学療法抵抗性を誘導する. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.13

4. 橋本 由徳 伊藤 量基 後藤 明彦 中前 美佳 木村 文彦 小池 道明 桐戸 敬太 和田 秀穂 臼杵 憲祐 田中 孝幸 森 毅彦 脇田 知志 齋藤 俊樹 嘉田 晃子 齋藤 明子 下田 和哉 杉本 由香 黒川 敏郎 冨田 章裕 枝廣 陽子 清井 仁 赤司 浩一 松村 到 竹中 克斗 小松 則夫 . 診断後の血栓症および出血が本態性血小板血症患者の生存に及ぼす影響. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.13

5. 野口 侑真 森 毅彦 大西 康 中邑 幸伸 金谷 穣 伊東 慎市 末永 孝生 矢野 真吾 鬼塚 真仁 西田 徹也 寺倉 精太郎 吉原 哲 上田 恭典 藤井 志朗 一戸 辰夫 熱田 由子 竹中 克斗 . 赤芽球癆に対する同種造血幹細胞移植の治療成績. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.13

6. 蘆澤 正弘 稲本 賢弘 清水 啓明 加藤 淳 木村 俊一 田中 正嗣 塚本 祥吉 西原 彩佳 豊崎 誠子 中嶋 ゆき 高田 覚 青墳 信之 武井 智美 萩原 真紀 鐘野 勝洋 八田 善弘 梅澤 佳央 小林 宣彦 永沼 謙 大和田 千桂子 神田 善伸 . 造血幹細胞移植後の女性の残存妊孕能の評価. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.13

7. 蒲池 和晴, 秋山 弘樹, 大槻 雄士, Zhao Ran, Zhang Liang, Ostermann Lauren, Carter Bing, 佐谷 秀行, 永野 修, Andreeff Michael, 石澤 丈. フェロトーシス · アポトーシス相互連関を標的とした抗急性骨髄性白血病効果の探究. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.12

8. 山崎 理絵 田中 ゆきえ 横山 和明 東條 有伸 森 毅彦 . 周期性好中球減少症をきたした末梢性 T 細胞リンパ腫の一例. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.12

9. 櫻井 政寿 片岡 圭亮 水野 洸太 森 拓人 白根 脩一 坂口 大俊 森 毅彦 内田 直之 田中 正嗣 中野 伸亮 石綿 一哉 鬼塚 真仁 栗田 尚樹 石川 淳 片山 雄太 加藤 剛二 石丸 文彦 熱田 由子 諫田 淳也 仲宗根 秀樹 寺倉 精太郎 . 臍帯血移植における生着前免疫反応（PIR）の発症リスクと移植成績への影響の解析. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.12

10. 中田 康允 長尾 俊景 大内 史彦 川上 真帆 友利 愛奈 吉藤 康太 田中 圭祐 梅澤 佳央 山本 正英 森 毅彦 . 複数のアゾール系抗真菌薬による肝障害出現後にイサブコナゾールが継続投与できた一例. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.12

11. 秋山めぐみ　金山 剛士 梅澤 佳央 長尾 俊景 泉 湧太 山本 正英 樗木 俊聡 . 急性炎症期における単球による新たな免疫制御機構. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.12

12. 山口健太郎, 古屋淳史, 水野洸太, 水上耀介, 吉藤康太, 斎藤優樹, 田畑真梨子, 新垣清登, 湯淺光博, 伊藤勇太, 中嶋一貴, 千葉健一, 岡田愛, 白石友一, 村上紘一, 木暮泰寛, 大島孝一, 片岡圭亮. KMT2D と TP53 の協調は YAP1 の発現上昇を招き、B 細胞性リンパ腫の悪性化に寄与する. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.12

13. 川上真帆, 梅澤佳, 中田康允, 吉藤康太, 田中圭祐, 長尾俊景, 森毅彦, 山本正英. 中枢浸潤を伴う、または中枢再発 High risk の DLBCL に対する R-CHOP と大量 MTX 療法の併用. 第 86 回日本血液学会総会 2024.10.11

14. 中牧尚子, 初澤紘生, 甲斐浩史, 川上真帆, 岡田啓吾, 山本正英, 森毅彦, 熊谷隆志. CAR-T 抵抗性 DLBCL に対する BiTE 治療中にみられた CRS 関連心房細動及び急性呼吸不全. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.11

15. 浜野　しずか　田中 圭祐 高畑 篤 坂東 夏菜 島田 智仁 吉藤 康太 梅澤 佳央 野上 彩子 長尾 俊景 山本 正英 豊田 茂雄 森 毅彦. 精巣原発悪性リンパ腫の治療成績. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.11

16. 森田 彩巴 岩崎 惇 諫田 淳也 池 成基 内藤 知希 池田 大輔 細野 奈穂子 山内 高弘 福島 健太郎 吉本 五一 吉満 誠 楠本 茂 高橋 直人 堺田 惠美子 臼杵 憲祐 田中 圭祐 高折 晃史 南 陽介 . 造血幹細胞移植における意思決定のための NGS に基づくリスク層別化：HM01 および HM02 コホートからの知見. 第 86 回血液学会学術集会 2024.10.11

17. 島田 智仁, 穐田 かおり, 坂東 夏菜, 高畑 篤, 田中 圭祐, 豊田 茂雄. 65 歳以上の初発急性骨髄性白血病に対するアザシチジン · ベネトクラクス併用療法と強力化学療法の比較. 第 86 回血液学会学術集会 2024.10.11

18. 清水啓明, 賀古真一, 立花崇孝, 泉陽彦, 田上晋, 堺田恵美子, 宮崎拓也, 鐘野勝洋, 吉藤康太, 町田真一郎, 遠矢嵩, 土岐典子, 高田覚, 畑野かおる, 加藤淳, 高橋聡, 田口淳, 矢野真吾, 神田善伸. 同種造血幹細胞移植後再発 B 細胞性急性リンパ性白血病に対する新規免疫化学療法の安全性. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.11

19. 友利 愛奈, 野上 彩子, 川上 真帆, 中田 康允, 吉藤 康太, 田中 圭祐, 梅澤 佳央, 小山 高敏, 森 毅彦. リツキシマブが奏効した治療抵抗性後天性血友病 A. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.01

20. Daiki Karigane, Ravindra Majeti.　Intra-Leukemic IFN Suppresses Expansion and Mediates Chemoresistance in AML. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.21

21. Dan Tomomasa, Takahiro Kamiya, Fumiko Honda-Ozaki, Kosuke Noma, Hisako Nakamaki, Atsushi Hijikata, Morito Kurata, Takashi Abe, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Takehiko Mori, Hirokazu Kanegane.　Familial B-cell lymphoma and lymphopenia underlie a novel germline RAC2 variant .　The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13

22. 森 毅彦. 血液内科領域の真菌の予防 · 治療戦略. 第 43 回関東真菌懇話会 2024.06.15

23. Aika Fuseya, Miwako Nishio, Masahide Yamamoto, Yu Uemura, Keisuke Tanaka, Yoshihiro Umezawa, Kumi Oshima, Fumiaki Sano, Takehiko Mori, Masanao Sasaki, Akihiro Hirakawa, Ryuji Koike, Hiroshi Yasui, Ken-Ichi Imadome, Shoichi Ohga, Ayako Arai. Clinical Features and Prognostic Factors of Adult Systemic Chronic Active Epstein-Barr virus Disease: A Retrospective Analysis using Japanese Registry Data .　European Hematology Association 2024 2024.06.13 Madrid

24. 森 毅彦. 造血器疾患 · 造血幹細胞移植患者における感染症と口腔の管理. 第 67 回春期日本歯周病学会学術大会 2024.05.24

25. 田中 圭祐、吉藤 康太、梅澤 佳央、野上 彩子、佐々木　優弥、中牧　尚子、川上 真帆、友利　愛奈、中田　康充、小川　槙子、長尾　俊景、山本　正英、梶原　道子、森　毅彦. 健常人ドナーにおける pegfilgrastim を用いた幹細胞の動員. 第 46 回　造血免疫細胞療法学会総会 2024.03.24

26. 佐々木優弥、田中　圭祐、中牧　尚子、小川　槙子、吉藤　康太、梅澤　佳央、 山本　正英、神谷　尚宏、金兼　弘和、森　　毅彦. 初回移植後の生着不全に対して臍帯血による再移植で生着が得られた XIAP 欠損症の 1 例. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2024.03.23

27. 清水啓明, 名島悠峰, 賀古真一, 立花崇孝, 泉陽彦, 田上晋, 堺田恵美子, 宮崎拓也, 鐘野勝洋, 吉藤康太, 町田真一郎, 遠矢嵩, 土岐典子, 高田覚, 畑野かおる, 加藤淳, 高橋聡, 田口淳, 矢野真吾, 神田善伸. 新規免疫化学療法時代における同種造血幹細胞移植後再発 Ph 陰性 B 細胞性急性リンパ 性白血病. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2024.03.23

28. 吉藤康太, 滝本由利, 八木真梨絵, 大内史彦, 金井光, 千葉桃子, 原田拓実 1, 初澤紘生, 田中圭祐, 野上彩子, 梅澤佳央, 内山亜紀子, 長尾俊景, 山本正英, 森毅彦. BK polyomavirus による出血性膀胱炎のアウトブレイクと感染制御. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2024.03.23

29. 中鉢　凪咲、滝本　由利、柏木　玖美、百瀬　祐子、内山亜紀子、中田　康允、 大内　史彦、長尾　俊景、植村　法子、森　　毅彦. 複数科医師と看護師などの多職種連携による長期間のケアで寛解に至った重症皮膚急性 GVHD の 1 例. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2024.03.22

30. 吉藤康太. 同種造血幹細胞移植におけるプレバイオティクス摂取の意義. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会総会 2024.03.22

31. 森　毅彦. ハイリスクがん治療について. 日本臨床倫理学会 2024.03.16

32. 佐々木優弥, 小川慎子, 川上真帆, 中田康允, 友利愛奈, 中牧尚子, 吉藤康太, 坂下千瑞子, 田中圭祐, 梅澤佳央, 野上彩子, 長尾俊景, 山本正英, 森毅彦. ICANS と鑑別が困難であった CAR-T 細胞療法後 早期の悪性リンパ腫中枢神経浸潤. 第 20 回日本血液学会関東甲信越地方会 2024.03.09

33. 青山　慧, 加納　嘉人, 末永　光邦, 池田　貞勝, 佐藤　信吾, 森　毅彦. 腫瘍内科専門医の育成に関する、新専門医制度を見据えた本学の取り組み. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会 2024.02.23

34. 伏屋 愛加, 西尾 美和子, 山本 正英, 森 毅彦, 佐々木 誠治, 平川 晃弘, 小池 竜司, 新井 文子. 全身性慢性活動性 EB ウイルス病成人例の臨床像と予後因子の解明　レジストリデータを用いた後方視的解析. 日本内科学会雑誌 2024.02.01

[その他業績]

1. 日本学術振興会令和 5 年度科学研究費助成事業（学術研究助成金）（継続）, 2024 年
   研究種目　若手研究
   研究代表者　吉藤康太
   研究課題名　原発性眼球内リンパ腫の中枢神経浸潤の機序の解明
   課題番号　23K15296

2. 日本学術振興会令和 6 年度科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）（新規）, 2024 年
   研究種目　研究活動スタート支援
   研究代表者　秋山弘樹
   研究課題名　正常造血幹細胞におけるフェロトーシス制御機構の解明
   課題番号　24K23346

3. 公益財団法人ライフサイエンス振興財団　研究開発の助成, 2024 年
   研究代表者　秋山　弘樹
   研究課題名　フェロトーシスの誘導を介した急性骨髄性白血病の既存治療抵抗性克服戦略

4. 日本学術振興会令和 4 年度科学研究助成事業（学術研究助成)(継続）, 2024 年
   研究種目　基盤研究（C）
   研究代表者　森毅彦
   研究課題名　造血幹細胞移植後のトキソプラズマ症診断における PCR 法の有用性の検討と臨床応用
   課題番号　22K08472

5. 日本学術振興会令和 7 年度研究助成事業（学術研究助成金）(継続）, 2024 年
   研究種目　基盤研究（C）
   研究代表者　雁金　大樹
   研究課題名 造血幹細胞におけるセリン · グリシン合成系の機能解析
   課題番号　22K08493

6. 日本血液学会研究助成令和 6 年度 , 2024 年
   研究代表者　雁金　大樹
   研究課題名　 AAV 連結挿入が造血幹細胞機能に与える影響についての検討

7. ＳＧＨがん研究助成令和 6 年度（新規）, 2024 年
   研究代表者　雁金　大樹
   研究課題名　成熟 B 細胞リンパ腫の起源探索と疾患モデル構築

8. 化血研若手研究奨励助成令和 6 年度（新規） , 2024 年
   研究代表者　雁金　大樹
   研究課題名　セリン代謝による造血幹細胞維持機構の解析

9. 小林がん学術振興会令和 6 年度（新規）, 2024 年
   先駆的研究 (2)
   研究代表者　雁金　大樹
   研究課題名　 BST2 に注目した非細胞周期活性白血病細胞の標的療法の開発

10. がん研究フロンティア基金 , 2024 年
    研究代表者　雁金　大樹
    研究課題名　 AML 細胞競合に対する骨髄微小環境制御の探索と新規治療法の開発

11. がん研究振興財団令和 6 年度 , 2024 年
    研究代表者　雁金　大樹
    研究課題名　白血病細胞間のクローン競合から生み出される細胞周期抑制集団を標的とした治療開発

[社会貢献活動]

1. 「人材育成」「働き方改革」「新型コロナウイルス対応」について, アステラス製薬株式会社, New era メドフィス, 2022 年 11 月 18 日 - 現在

2. サイトメガロウイルス腸炎, ラジオ NIKKEI, ドクターサロン, 2024 年 04 月 11 日 - 2024 年 04 月 30 日

分子内分泌代謝学分野

Department of Molecular Endocrinology and Metabolism

教授：山田 哲也
准教授：池田 賢司
講師：小宮 力
助教：辻本 和峰、村上 正憲
医員：田口 邦之、今村 勇介、清川 裕介、井口 晋太朗、黒田 麻奈
レジデント：川島 瑞希、善方 葉泉
大学院生（博士課程）：竹内 彬、原 一成、堀野 雅人、青木 惇、岡﨑 玲、兼田 稜、石井 遼子

教育本部 医歯学系分野教学評価部門 特任講師：沼沢 益行
長寿 · 健康人生推進センター 医師：川見 祥子

(1) 分野概要

分子内分泌代謝学分野（糖尿病 · 内分泌 · 代謝内科）では、「安心かつ良質な専門医療の提供」「独創的な医学研究の推進と高度先進医療の開発」「次世代を担う若手医師 · 研究者の育成」を教室運営の基本理念としています。内分泌代謝学は、シグナル伝達分子である「ホルモン」による生体の恒常性維持機構とその破綻により発症する病態 · 疾患に関する学問です。当教室では、糖尿病を中心とする代謝疾患と、視床下部 · 下垂体疾患あるいは副腎疾患などの特徴的な臨床症状を呈する内分泌疾患に関する診療 · 研究 · 教育を担当しています。

診療活動では、地域の中核病院として、増加の一途を辿っている糖尿病などの代謝疾患と内分泌疾患を対象として全国でもトップレベルの医療を提供しています。学内の関連診療科 · 部門との緊密な連携によるチーム医療の要として、豊富な経験を有する糖尿病専門医あるいは内分泌代謝専門医が、内科学講座として幅広い総合医療と高い専門性に裏打ちされた専門医療を実践しています。教室の関連病院や地域の診療所との医療連携を大切にして、地域医療の向上に貢献するとともに、患者さんの身近に寄り添う優しい医療を提供できるように努めています。大学附属病院の診療科として難治性疾患に対する未来志向型の先進医療にも積極的に取り組んでいます。

研究活動では、大学の研究施設として、難治性疾患に対する新しい診断 · 治療戦略の開発につながる独創的な研究活動が求められています。当教室では、古典的な生理学や薬理学と分子細胞生物学、発生工学、分子遺伝学などの新しい研究手法とゲノムあるいはエピゲノム、メタボロームなどの網羅的解析法を駆使して、代謝調節機構や生体の恒常性維持機構の解明とその成果を臨床の現場に還元するトランスレーショナルサイエンスを推進しています。学内外の関連病院 · 関連施設と連携して、糖尿病 · 内分泌 · 代謝疾患に関する臨床研究を展開することにより、当教室ブランドの独創的な医学研究と臨床応用を推進していきたいと考えています。

教育活動では、医学部学生の卒前教育、研修医やレジデントあるいは専門医の卒後教育、修士課程 · 博士課程における大学院教育を通して、次の時代の糖尿病 · 内分泌 · 代謝学をリードする人材育成を目標にしています。診療の現場では、充実した初期 · 後期臨床研修のために多彩な糖尿病 · 内分泌 · 代謝疾患を経験する機会を提供し、患者さんの身近に寄り添う人間愛にあふれ、最新の医学知識 · 技術を有する、次の時代の医学を開拓しようという志の高い医師を育成します。研究の現場では、グローバルな視野とリサーチマインドを有する医学研究者を育成します。人生で最も大切な時期を教室で過ごす若手には、主体的に色々なことにチャレンジして良い経験をしてほしいと願っています。

教室員一同、患者さんに信頼される診療活動と独創的な研究活動を実践すること、次世代の若手医師 · 研究者には糖尿病 · 内分泌 · 代謝学の魅力を伝えることにより、わが国の内分泌代謝学の発展に貢献したいと考えています。

(２) 研究活動

研究活動
1. 糖尿病とメタボリックシンドロームの成因の解明と新しい治療戦略の開発
2. 熱産生機能とエネルギー代謝調節機構の解明
3. 熱産生脂肪の誘導分子機構の解明
4. メタボリックシンドロームのエピゲノム制御と医学応用
5. ホルモン生産腫瘍の発生機構と病態に関する分子医学的研究

研究テーマ

1）糖尿病とメタボリックシンドロームの成因の解明と新しい治療戦略の開発
我が国は未曾有の高齢社会を迎えつつありますが、それに伴い糖尿病患者数も１０００万人を超えてきております。さらに、過食や運動不足による肥満症 · メタボリックシンドロームの増加も看過できない社会問題となっています。これらの疾患は、Common diesase であるだけでなく種々の合併症を引き起こし大きな問題となっています。我々の研究室では、糖尿病 · メタボリックシンドロームの成因の解明を行い、根本的な病因に対する新規治療戦略の開発を目指します。

2）熱産生機能とエネルギー代謝調節機構の解明
近年、熱を産生し、エネルギー消費量を増やすことで抗肥満作用および全身の糖代謝 · 脂質代謝を改善する熱産生脂肪（褐色脂肪細胞とベージュ脂肪細胞）がヒトにおいても存在することが明らかとなっています。肥満や糖尿病の病態では熱産生機能が低下することが知られていますが、個体における代謝は熱産生脂肪だけでなく肝臓 · 筋肉 · 神経等の臓器が協調的に機能し、臓器間ネットワークがその調節に必須の役割を担っていることが示されてきました。私達の研究室では個体における熱産生機能とエネルギー代謝調節機構を明らかとして、肥満 · 糖尿病に対する新規治療開発のターゲットを創出します。

3）熱産生脂肪の誘導分子機構の解明
熱産生脂肪細胞であるベージュ脂肪細胞は、長期の寒冷暴露や運動、糖尿病治療薬である PPAR γアゴニストの投与などによって誘導されることが特徴です。ヒト成人においても寒冷暴露によりベージュ脂肪細胞が誘導されることが報告され、エネルギー消費量や糖代謝の改善に繋がることが報告されています。しかしながら、肥満や加齢にともないベージュ脂肪細胞の誘導が低下することが明らかになっており、誘導低下の分子メカニズムを解明することが重要な課題となっています。私達の研究室では、ベージュ脂肪細胞がヘテロな細胞集団であることに着目し、肥満や加齢に伴うベージュ脂肪細胞の誘導低下の分子メカニズムの解明を目指して研究を行っています。

4）メタボリックシンドロームのエピゲノム制御と医学応用
生活習慣病は環境因子と遺伝素因の複雑な相互作用により発症することが知られていますが、発症機序として、外的要因（環境因子）によりもたらされる後天的なゲノム修飾（DNA メチル化、ヒストンメチル化 · アセチル化など）による遺伝子発現制御（エピジェネティクス）が注目されています。胎生期～新生児期の環境因子の影響がどのようにしてエピゲノム記憶されて成人期の生活習慣病の発症に関与するのかそのメカニズムを解明することにより、エピゲノム記憶を標的とする新しい医学応用が期待されます。私達の研究室では、特に DNA メチル化に焦点を当てて、糖尿病やメタボリックシンドロームのエピジェネティクス制御の分子機構に関する研究を推進しています。

5）ホルモン産生腫瘍の発生機構および病態に関する研究
機能性ホルモン産生腫瘍は難治性内分泌疾患から高血圧や糖脂質代謝異常などの生活習慣病に至る広範な疾患の基盤病態を形成します。ホルモン産生腫瘍の発生機構とその病態の解明は内分泌代謝学における重要な研究課題です。当教室では、視床下部 · 下垂体疾患 · 副腎疾患を中心とする内分泌疾患を対象とする生化学的、病理学的解析およびゲノム · エピゲノム解析、疫学研究などを通じて、内分泌腫瘍あるいは異所性ホルモン産生腫瘍の新しい検査法 · 診断法の開発を目指した臨床研究を展開しています。

(３) 教育活動

担当科目：糖尿病、内分泌 · 代謝学、高血圧

教育方針：当教室では国民的問題とされる糖尿病を中心とする代謝疾患やメタボリックシンドローム、難治性高血圧、ホルモン異常による多彩な症状を呈する視床下部 · 下垂体 · 副腎疾患、膵 · 消化管ホルモン産生腫瘍などの難治性内分泌疾患の診療を担当しています。
糖尿病 · 代謝疾患や内分泌疾患を対象として、最新の知識に基づく論理的診断と病態生理あるいは生活環境を考慮

した全人的医療を実践できる専門医の育成、糖尿病 · 内分泌 · 代謝疾患の成因の解明と新しい診断法 · 治療法の開発、ホルモン産生腫瘍を中心とする内分泌疾患の新しい検査法 · 診断法の開発を目指した基礎 · 臨床研究の推進を実践しています。
以上の臨床活動 · 研究活動を通して、知識、技術、思考力を涵養し、高い専門性と総合力を兼ね備えた医療人 · 医学者の育成を目指しています。

2024 年度の教育実績は以下の通りです。
· 大学院修士課程（医歯学総合概論、遺伝医学特論、人体機能学講義）
· 医学部医学科系別総合講義（糖尿病 · 内分泌 · 代謝）
· 医学部医学科　薬理学講義
· 医学部保健衛生学科講義（糖尿病代謝疾患総論、臨床病態Ⅱ　内分泌疾患総論）
· 歯学部歯学科講義　隣接医学（内分泌疾患）
· 歯学部口腔保健学科　医学一般（糖尿病 · 代謝性疾患、内分泌疾患）
· プレクリニカルクラークシップ（PCC）：（2024 年 12 月-2025 年 2 月）
　第 4 学年学生グループを対象に糖尿病 · 内分泌 · 代謝実習を担当。
· クリニカルクラークシップ（CC）：（2024 年 4 月-2025 年 3 月）
　第 5 学年または第 6 学年学生（2-3 名）を対象に 2 週間単位で病棟実習を担当。
· 臨床実習後 OSCE（Post-CC OSCE）を担当

(4)　教育方針

当科では国民的問題とされる糖尿病などの代謝疾患やメタボリックシンドローム、難治性高血圧、ホルモン異常による多彩な症状を呈する視床下部 · 下垂体 · 副腎疾患、膵 · 消化管ホルモン産生腫瘍などの難治性内分泌疾患の診療を担当しています。糖尿病 · 代謝疾患や内分泌疾患を対象として、最新の知識に基づく論理的診断と病態生理あるいは生活環境を考慮した全人的医療を実践できる専門医の育成を目指しています。研究に関しては、「臓器連関」「熱産生脂肪組織」「エピジェネティクス」「ホルモン産生腫瘍」をキーワードとした糖尿病 · 代謝疾患や内分泌疾患の成因の解明と新しい診断法 · 治療法の開発、ホルモン産生腫瘍を中心とする内分泌疾患の新しい検査法 · 診断法の開発を目指した基礎 · 臨床研究を推進しています。以上の臨床活動 · 研究活動を通して、知識、技術、思考力を涵養し、高い専門性と総合力を兼ね備えた医療人 · 医学者を育成したいと考えています。

(5)　臨床活動および学外活動

1. 診療方針
当科では糖尿病 · 代謝疾患やメタボリックシンドローム、視床下部 · 下垂体疾患や副腎疾患などの内分泌疾患の診療を担当しています。「全身を診る」という医療の原点を常に心掛けて、患者さんの身近に寄り添う優しい全人的医療を提供するとともに、地域の診療所や関連病院の先生方との医療連携を大切にして地域医療の向上に貢献します。

2. 対象疾患
1）糖尿病（1 型、2 型、二次性）
2）内分泌疾患（視床下部 · 下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患、カルシウム代謝異常、膵ホルモン産生腫瘍、性腺機能異常）
3）高血圧症（本態性、二次性）
4）肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症

3. 教育認定施設
日本糖尿病学会　認定教育施設
日本内分泌学会　認定教育施設

(6) 臨床上の特色

1. 糖尿病

（1 型、2 型）糖尿病、膵性糖尿病、妊娠糖尿病などを対象として、糖尿病療養指導士（看護師、管理栄養士、薬剤師）を中心とするコメディカルスタッフと連携してトータルケアを行っています。糖尿病専門医による専門的な医療を提供するとともに、関連診療科と連携して、糖尿病合併症の治療 · 評価、患者教育を効率良く行っています。認定教育施設として専門医を育成するとともに、患者さんに充実したケアを行えるようコメディカルスタッフの育成にも力を入れています。

血糖コントロールについては、近年、糖尿病治療薬にも多様なチョイスがあり、病態に応じたきめ細かな治療を行っています。24 時間持続血糖モニタリング（CGM）による最適な血糖コントロールや 1 型糖尿病に対する CSII（インスリンポンプ療法）/SAP（Sensor Augmented Pump）療法などの最新の医療にも積極的に取り組んでいます。

糖尿病合併症には網膜症、腎症、神経障害などの細小血管合併症と心筋梗塞、脳梗塞、足壊疽などの大血管合併症があり、関連診療科と連携して評価 · 治療を行っています。近年、大血管障害の増加が臨床上問題となっていますが、頸動脈エコーや血管内皮機能検査による動脈硬化の早期診断に努めるとともに、血圧 · 脂質管理などの総合的管理により、患者さんの生活の質および健康寿命の確保を目指しています。

患者教育としては、看護師による生活指導およびインスリン自己注射指導、管理栄養士による栄養指導、薬剤師による服薬指導などの療養指導や糖尿病教室などを通して糖尿病に関する知識を深めていただき、自己管理能力の向上に取り組んでいます。効率的な患者指導 · サポートのために、1〜2 週間の教育入院プログラムを準備し、患者さんの病状やスケジュールに合わせて柔軟に対応しています。

2 型糖尿病の患者さんはもとより、専門的治療が必要となる 1 型糖尿病の患者さんも多数通院されています。周辺施設より治療方針の決定や教育入院を目的に御紹介いただいた場合には、評価 · 退院後に紹介元においてフォローアップしていただくように医療連携を積極的に進めています。

2. 内分泌疾患

1）副腎疾患

原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、副腎偶発腫瘍、アジソン病、先天性副腎皮質過形成などを対象として、各種内分泌検査と画像診断による副腎腫瘍の良悪性判定や正確なホルモン分泌動態を総合して治療方針を決定しています。

副腎腫瘍については、当科と泌尿器科、放射線科、病理部の連携下に副腎腫瘍治療ユニットを形成しており、当科は副腎腫瘍の術前診断と術後フォローアップを担当しています。

特に、本態性高血圧の 10%程度を占めるとされる原発性アルドステロン症の診療に力を入れており、その治療方針（手術 · 薬物療法）の決定には副腎静脈サンプリングによる正確なアルドステロン過剰産生部位の診断が必須です。当病院では 97%以上の成功率（2019-2023 年）により、信頼性の高い診療実績をあげています。

2）視床下部 · 下垂体疾患

下垂体腫瘍、クッシング病、アクロメガリー、プロラクチノーマ、視床下部 · 下垂体機能低下症、尿崩症、SIADH などの視床下部 · 下垂体疾患を対象として、ホルモン分泌動態評価および画像検査により正確な診断と的確な治療方針の決定を行っています。下垂体腫瘍性病変については、脳神経外科との緊密な連携の下で術前後の内分泌学的フォローアップを担当しています。

3）膵内分泌腫瘍

インスリノーマやガストリノーマなどの膵内分泌腫瘍を対象として、各種内分泌検査と画像診断に加えて、放射線科の協力の下で選択的動脈内カルシウム注入試験による正確な機能 · 部位診断を行い、肝胆膵外科と連携して診療しています。

(7) 研究業績

[原著]

1. Numasawa M, Nawa N, Yamaguchi K, Akita K, Yamawaki M. Association between grit and depressive symptoms among medical students, moderated by academic performance. Medical education online. 2024.07; 29(1); 2373523

2. Hiroki Kobayashi, Yoshihiro Nakamura, Masanori Abe, Toshifumi Nakamura, Yoichi Nozato, Shoichiro Izawa, Miki Kakutani, Takuyuki Katabami, Norio Wada, Katsutoshi Takahashi, Takashi Yoneda, Ryuji Okamoto, Masanori Murakami, Shintaro Okamura, Mitsuhide Naruse, Kenichi Yokota, Masakatsu Sone, .

Prevalence of unilateral hyperaldosteronism in primary aldosteronism: impact of a novel chemiluminescent immunoassay for measuring plasma aldosterone in Japan. Hypertens Res. 2024.11; 47(11); 3035-3044

3. Yuya Maezawa, Masaki Kobayashi, Masanori Murakami, Ayumi Yamamura, Shotaro Naito, Hajime Tanaka, Soichiro Yoshida, Tetsuya Yamada, Yasuhisa Fujii. Prolonged hypoglycemia after the resection of pheochromocytoma in a hemodialysis patient. IJU Case Rep. 2024.11; 7(6); 431-433

4. Taito Miyoshi, Tetsuya Yamada, Kazuki Ota. Prognostic factors for hospitalization for severe hypoglycemia without diabetes mellitus: a retrospective study. Diabetol Int. 2024.10; 15(4); 837-844

5. Kei Ito, Shoko Hara, Motoki Inaji, Junshi Cho, Masanori Murakami, Tetsuya Yamada, Tadashi Nariai, Takethosi Maehara. Routine screening serum tests to detect underlying thyroid and autoimmune diseases in patients with moyamoya disease. Clin Neurol Neurosurg. 2024.08; 243; 108403

6. Suzuki E, Nawa N, Okada E, Akaishi Y, Kashimada A, Numasawa M, Yamaguchi K, Takada K, Yamawaki M. Mixed-methods study of medical students' attitudes toward peer physical examinations in Japan. BMC medical education. 2024.06; 24(1); 681

7. Tatsuya Fukuda, Takahiro Okamoto, Takahiro Fukaishi, Akio Kawakami, Makoto Tanaka, Tetsuya Yamada, Koshiro Monzen. Extent to which weight loss contributes to improving metabolic dysfunction-associated and metabolic and alcohol related/associated steatotic liver disease: a study on Japanese participants undergoing health checkups. Front Endocrinol (Lausanne). 2024.05; 15; 1392280

8. Eriko Adachi, Ryuichi Nakagawa, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Maki Gau, Shizuka Kirino, Analia Yogi, Hisae Nakatani, Kei Takasawa, Tomomi Yamaguchi, Tomoki Kosho, Masanori Murakami, Toshihiro Tajima, Tomonobu Hasegawa, Tetsuya Yamada, Tomohiro Morio, Osamu Ohara, Kenichi Kashimada. A MinION-based Long-Read Sequencing Application With One-Step PCR for the Genetic Diagnosis of 21-Hydroxylase Deficiency. J Clin Endocrinol Metab. 2024.02; 109(3); 750-760

9. Murakami M, Hara K, Ikeda K, Horino M, Okazaki R, Niitsu Y, Takeuchi A, Aoki J, Shiba K, Tsujimoto K, Komiya C, Nakamura Y, Kurata M, Akashi T, Fujii Y, Yamada T. Single-Nucleus Analysis Reveals Tumor Heterogeneity of Aldosterone-Producing Adenoma. Hypertension (Dallas, Tex. : 1979). 2024.02; 81(2); 361-371

10. Beppu H, Fukuda T, Otsubo N, Akihisa T, Kawanishi T, Ogawa T, Abe Y, Endo M, Hanawa T, Sugita C, Kikkawa Y, Yamada T, Wakai S. Comparative outcomes of hemodialysis patients facing pre-Omicron and Omicron COVID-19 epidemics. Therapeutic apheresis and dialysis : official peer-reviewed journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy. 2024.02; 28(1); 51-60

[書籍等出版物]

1. 成瀬 光栄, 田辺 晶代, 方波見 卓行, 村上 正憲, 他. 原発性アルドステロン症診療マニュアル. 診断と治療社, 2024.06 (ISBN : 978-4-7878-2662-6)

[総説]

1. 橋本 貢士, 小川 佳宏. エピゲノムと肥満症 カレントテラピー. 34; 39-44

[講演・口頭発表等]

1. Masanori Murakami. Screening and confirmatory testing in mild PA. Progress in Primary Aldosteronism 8 2024.10.22 Munich, Germany

2. Masanori Murakami, Mitsuhide Naruse, Hiroki Kobayashi, and the EC-PASC Investigators. A Newly Developed Severity Classification and its Strategic Application in the Clinical Practice of Primary Aldosteronism. The Joint 23rd ENS@T and 3rd Cost Harmonis@tion Meeting 2024.10.04 Palma de Mallorca, Spain

3. Masanori Murakami, Kazunari Hara, Ryo Kaneda, Rei Okazaki, Jun Aoki, Masato Horino, Akira Takeuchi, Kumiko Shiba, Kazutaka Tsujimoto, Chikara Komiya, Kenji Ikeda, Tetsuya Yamada.. Single-Nucleus RNA Sequencing Reveals The Impact of High-Fat Diet on Mouse Adrenal Gland.. The Joint 23rd ENS@T and 3rd Cost Harmonis@tion Meeting 2024.10.03 Palma de Mallorca, Spain

4. Kumiko Yamaguchi, Chiharu Kawakami, Nobutoshi Nawa, Mitsuyuki Numasawa, Kanako Noritake, Janelle Moross. What Medical Students Should Learn for Medical-Dental Collaboration in a Super-aged Society. AMEE 2024 2024.08.29 The Virtual Conference

1. 村上 正憲. シンポジウム 2 CVEM と副腎 · 高血圧　オミクス解析による原発性アルドステロン症の病態解析. 第 28 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会 CVEM2024 2024.12.07 福岡県福岡市

2. 小宮 力, 兼田 稜, 古賀 大介, 大野 聡, 竹内 彬, 原 一成, 堀野 雅人, 青木 惇, 岡﨑 玲, 石井 遼子, 村上 正憲, 辻本 和峰, 池田 賢司, 清水 秀幸, 山田 哲也. 機械学習を用いた心電図による境界型糖尿病の早期発見. 第 35 回分子糖尿病学シンポジウム 2024.12.07

3. 石井 遼子, 村上 正憲, 原 一成, 兼田 稜, 岡﨑 玲, 青木 惇, 堀野 雅人, 竹内 彬, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 中村 祐基, 藤井 靖久, 山田 哲也. 単一核 RNA-seq による Aldosterone 産生腺腫と正常副腎の比較検討. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update 2024.11.30 名古屋

4. 福田 達也, 秋久 太良, 深石 貴大, 川上 明夫, 岡本 高宏, 山田 哲也, 門前 幸志郎. 健診受診者において血清尿酸高値は metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease (MASLD) と関連する. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update. 2024.11.30

5. 岡﨑 玲, 池田 賢司, 堀野 雅人, 石井 遼子, 兼田 稜, 青木 惇, 原 一成, 竹内 彬, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 山田 哲也. 褐色脂肪細胞におけるミトコンドリア関連小胞体膜分子 PP2A β サブユニットの役割の解明. 第 45 回日本肥満学会 · 第 42 回日本肥満症治療学会学術集会 2024.10.19

6. 辻本 和峰, 青木 惇, 竹内 彬, 石井 遼子, 兼田 稜, 岡﨑 玲, 原 一成, 堀野 雅人, 村上 正憲, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 時間制限摂食は脂肪組織の SIRT1 を介して個体レベルでのエネルギー消費向上に寄与する. 第 45 回日本肥満学会 · 第 42 回日本肥満症治療学会学術集会 2024.10.19

7. 初見 康太, 村上 正憲, 川島 瑞希, 黒田 麻奈, 今村 勇介, 石井 遼子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. レニン抑制を認めない原発性アルドステロン症の 1 例. 日本内科学会第 699 回関東地方会 2024.10.12 東京

8. 沼沢 益行, 那波 伸敏, 山口 久美子, 秋田 恵一, 山脇 正永. 医学生における grit と抑うつの関係. 第 56 回日本医学教育学会大会 2024.08.10 東京

9. 中川 美奈, 山口 久美子, 沼沢 益行, 則武 加奈子, 岡田 英理子, 金子 英司, 鶴田 潤, Janelle Moross. 心理的安全性に配慮した医療従事者のための新たな多職種連携実習. 第 56 回日本医学教育学会大会 2024.08.10 東京

10. 榎本 遥, 田口 邦之, 大渕 裕子, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 藤原 美香, 沖山 奈緒子, 山田 哲也. 汎発性円形脱毛症に緩徐進行 1 型糖尿病 (probable) を合併した 1 例. 日本内科学会第 697 回内科関東地方会 2024.07.14

11. 村上 正憲. YEC シンポジウム B 「研究留学記〜わたしのお国自慢」副腎腫瘍を対象にしたメタボローム解析〜私の欧州研究留学記〜. 第 42 回内分泌代謝学サマーセミナー 2024.07.12 群馬県渋川市

12. 白石 織栄, 村上 正憲, 笹岡 浩子, 田口 邦之, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 新津 吉博, 竹内 崇人, 加藤 祐己, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 倉田 盛人, 明石 巧, 田邉 稔, 山田 哲也. ブドウ糖反応性低血糖を呈したインスリノーマの一例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.08

13. 原 一成, 村上 正憲, 兼田 稜, 岡﨑 玲, 青木 惇, 堀野 雅人, 竹内 彬, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. Single-nucleus RNA-seq を用いた高脂肪食負荷がマウス副腎に及ぼす影響の解明. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 横浜

14. 小宮 力, 村田 真麻, 山野 春樹, 原 一成, 村上 正憲, 柴 久美子, 辻本 和峰, 池田 賢司, 安達 恵利子, 鹿島田 健一, 山田 哲也. 吸入ステロイド薬の使用により顕在化したグルココルチコイド過敏症候群. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07

15. 田口 邦之, 村上 正憲, 石井 遼子, 原 一成, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 松本 峻弥, 田中 陽典, 小柳 杏莉, 吉富 香澄, 藤原 基裕, 早稲田 悠馬, 山本 浩平, 明石 巧, 藤井 靖久, 大橋 健一, 山田 哲也. 経時的に病勢の増悪を認めたアルドステロン産生腺腫 (APA)3 症例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 横浜

16. 秋久 太良, 大坪 尚也, 福田 達也, 牧 千里, 杉田 知妹, 山田 哲也. リファンピシン内服中に甲状腺機能低下症を認めた 1 例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会. 2024.06.06

17. 大渕 裕子, 辻本 和峰, 笹岡 浩子, 白石 織栄, 中川 純之介, 髙木 典子, 田口 邦之, 石井 遼子, 村上 正憲, 柴 久美子, 小宮 力, 池田 賢司, 佐藤 幸貴, 分島 良, 石橋 洋則, 大久保 憲一, 明石 巧, 山田 哲也. 家族性高コレステロール血症治療中に異所性副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症を発症した一例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会、横浜 2024.06.06

18. 秋久 太良, 福田 達也, 大坪 尚也, 牧 千里, 山田 哲也. 2 型糖尿病患者における DPN Check ®を用いた腓腹神経伝導速度検査の正確性. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2024.05.19

19. 大坪 尚也, 福田 達也, 秋久 太良, 牧 千里, 山田 哲也. 先行症状出現時は正常血糖であった劇症 1 型糖尿病の 1 例. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2024.05.17

20. 岡﨑 玲, 池田 賢司, 堀野 雅人, 兼田 稜, 青木 惇, 原 一成, 竹内 彬, 村上 正憲, 辻本 和峰, 小宮 力, 山田 哲也. ミトコンドリア関連小胞体膜 (MAM) 分子 PP2A β サブユニットの褐色脂肪細胞の熱産生機能における役割の解明. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会 2024.05.17

21. 青木 惇, 辻本 和峰, 竹内 彬, 兼田 稜, 岡﨑 玲, 原一 成, 堀野 雅人, 村上 正憲, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 時間制限摂食は SIRT1 を介して褐色脂肪組織の機能向上および全身のエネルギー代謝改善に寄与する. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会 2024.05.17

22. 辻本 和峰, 竹内 彬, 青木 惇, 兼田 稜, 岡﨑 玲, 原 一成, 堀野 雅人, 村上 正憲, 小宮 力, 池田 賢司, 山田 哲也. 雌性マウス褐色脂肪組織の PGC1 α は新規脂肪合成を介して全身のエネルギー消費向上に寄与する. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会 2024.05.17

23. 原 一成, 村上 正憲, 柴 久美子, 辻本 和峰, 小宮 力, 池田 賢司, 中村 祐基, 倉田 盛人, 明石 巧, 藤井 靖久, 山田 哲也. アルドステロン産生腺腫を対象にした single-nucleus RNA-seq 解析. 第 31 回日本ステロイドホルモン学会学術集会 2024.03.09 東京

24. 村上 正憲. microRNA に着目した PBMAH の病態解析. 第 31 回日本ステロイドホルモン学会学術集会 2024.03.09 東京

[Works]

1. Adjacency Matrix を作成する Excel マクロ（沼沢 益行）, コンピュータソフト, 2021 年 08 月 - 現在

[受賞]

1. 優秀演題賞 (原　一成）, 第 31 回ステロイドホルモン学会, 2024 年 03 月

[その他業績]

1. 「　アルドステロン産生腺腫の腫瘍内不均一性を単一核レベルで解明　」 —　二次性高血圧症の原因となる内分泌腫瘍の発症メカニズム解明に新たな視点　—, 2024 年 01 月
   Hypertension

2. The surprisingly complex inner workings of an endocrine tumor, 2024 年 03 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

肝胆膵外科学

Hepatobiliary and Pancreatic Surgery

教　授　　田邉　稔 (～3 月)
教　授　　伴　大輔 (10 月～)
講　師　　赤星径一
　　小野宏晃
助　教　　上田浩樹
　　石川喜也
　　渡邊秀一
　　浅野大輔
特任助教　菅原俊喬 (～3 月)
大学院生 (医員・レジデントを含む)
　　八木宏平 (～3 月)
　　森本紘一朗 (～3 月)
　　山下宏成
　　木村宗貴
　　伊藤　晃
　　鳶　翔大郎
　　奈良　篤
　　竹内　将
　　山根聖弘
　　小山照央
　　宮澤　傑
　　本橋翔平
　　田部遥平 (4 月～)
　　田村華子 (4 月～)
　　吉井淳一郎 (4 月～)

(1)　分野概要

肝胆膵領域における良性疾患から高度進行癌まで、多種多様な疾患に対する臨床と研究に勤しみ、国際的競争力のある外科医の養成を行う。

(2)　研究活動

外科臨床上の未解決で重要な問題に対して、基礎的なアプローチも駆使して肝胆膵領域疾患の新しい、有益な診断、治療法の開発を目指す。具体的なプロジェクトは以下のとおりである。
1）肝胆膵悪性腫瘍の発生、浸潤、転移に関する分子生物学的研究
2）肝胆膵悪性腫瘍に対する分子標的治療の開発
3）癌幹細胞に関する研究
4）肝胆膵切除適応拡大に関する研究
5）肝微小循環に関する研究
6）肝胆膵外科への鏡視下手術手技に関する研究
7）神経内分泌腫瘍に対する治療法の開発
8）肝胆膵悪性腫瘍に関する画像診断の開発

9） 肝胆膵悪性腫瘍の PDX モデルの作成
10） 肝胆膵手術の短期長期合併症対策に関する研究
11） 肝胆膵手術後の ADL/QOL 維持を目指した研究

(3) 教育活動

卒前教育：ブロック講義、プレクリニカルクラークシップやクリニカルクラークシップのクルズスにおいて、肝胆膵及び脾の外科的疾患の病態生理、診断、治療について座学の形式で勉強する。また、クリニカルクラークシップにおいては、診療グループの一員として手術、病棟回診、カンファレンスに参加、実臨床を体験する。
卒後教育：肝胆膵外科疾患の検査 · 診断 · 治療計画を自ら立案でき、術者または助手として手術を能動的に遂行できるように研鑽を積む。また、大学院在学中には、上記研究活動を指導医の指導のもと、自らが自律的に実践、学位を習得する。

(4) 教育方針

卒前教育：指導医とマンツーマン体制で可能なかぎり実際の症例に即して、外科医としての一般的、基礎的知識、ついでより実践的知識と段階をおって教育し、知識を習得させる。同時に、患者との接し方、病気告知の問題など具体的事例に即して医師の在り方、モラルを身につけるべく指導する。外科の基本的手技については卒後教育にその主体を委ねることになるが、肝胆膵外科高難度手術を助手として多く経験して臨床経験を積むことを目標とする。
卒後教育：関連病院との連携のもと、高い水準の診察能力を有する外科医を育成することが最大の目的であるが、学生や後輩に対する臨床教育に積極的に関与して教育者としての視点も持てるように指導する。外科専門医、消化器外科専門医、肝胆膵外科学会高度技能専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医が取得可能な研修を行うことのみならず、国際的競争力のある専門医、外科研究者に飛躍できるような意欲を賦与したい。

(5) 臨床活動および学外活動

肝胆膵脾領域の外科的疾患が診療対象であるが、とくに悪性腫瘍に対する手術治療、そしてこれを軸とする集学的治療が中心である。大学の使命として、高度進行癌、難治性癌に対し、ワークステーションを用いた術前シミュレーションや血管合併切除 · 再建を駆使して手術適応の限界に挑んでいる。さらには低侵襲治療として鏡視下手術も発展させる。末期肝疾患患者に対する治療の重要な Option としてまた生体肝移植の適応決定を行う。腹腔鏡下手術においては新たな手術器具および術式の開発を行い、進行癌に対してもその低侵襲性を活かし適応拡大を行っている。

(6) 臨床上の特色

全手術件数は 245 件 (2023 年は 184 件) で、肝切除 80 件、膵切除 67 件であった。国内トップクラスの high volume 施設であり、特徴有る低侵襲手術から拡大手術まで多種多様な外科的手技を網羅している。
主な肝胆膵外科高難度手術は

（拡大）肝右葉切除	5 例（腹腔鏡下 3 例）
（拡大）肝左葉切除	10 例（腹腔鏡下 3 例）
肝中央２区域切除	1 例（腹腔鏡下 1 例）
外側区域を除く肝区域切除	8 例（腹腔鏡下 6 例ロボット 1 例）
肝亜区域切除	11 例（腹腔鏡下 4 例ロボット 3 例）
肝部分切除の中で高難度手術と定義されるもの	3 例（ロボット 3 例）
その他の肝切除	36 例（腹腔鏡下 7 例ロボット 21 例）

拡大胆摘以上の肝切除とリンパ節郭清を伴う胆嚢癌手術　5 例（腹腔鏡下 2 例）

膵全摘術	7 例（腹腔鏡下 0 例）
膵頭十二指腸切除	39 例（ロボット 14 例）

膵体尾部切除	20 例（腹腔鏡下 9 例ロボット 10 例）
肝膵同時切除	1 例（ロボット 1 例）

全症例に占める低侵襲手術の割合は半数を超え、その症例数は年々増加している。また、2020 年からロボット手術を開始しており、本年はロボット膵切除 24 例、ロボット肝切除 25 例を施行した。

神経内分泌腫瘍 (NET) は希少疾患であるが、当院では 2011 年に本邦初となる NET 専門外来を開設し、現在までに新規患者数は 700 人を超えた。
当院では「諦めない治療」を理念に、正確な診断、低侵襲かつ適切な手術、再発時の薬物治療や再切除、さらに緩和治療を含めた包括的な診療体制を整え、長期予後を目指している。ペプチド受容体放射性核種療法 (PRRT) は国内治験から携わっており、本年からはその施行枠も増設し、必要な症例において速やかに PRRT を提供できる体制を整えた。現在、本邦研究会において新しい NET ガイドライン作成中であるが、当医局からは 8 名が参加しており、日本の NET 診療の中心的役割を担っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Tsukihara S, Akiyama Y, Shimada S, Hatano M, Igarashi Y, Taniai T, Tanji Y, Kodera K, Yasukawa K, Umeura K, Kamachi A, Nara A, Okuno K, Tokunaga M, Katoh H, Ishikawa S, Ikegami T, Kinugasa Y, Eto K, Tanaka S. Delactylase effects of SIRT1 on a positive feedback loop involving the H19-glycolysis-histone lactylation in gastric cancer. Oncogene. 2024; in press

2. Igarashi Y, Akiyama Y, Shimada S, Watanabe S, Hatano M, Kodera K, Okazaki K, Tanji Y, Tsukihara S, Taniai T, Nara A, Yamane M, Kamachi A, Umemura K, Yasukawa K, Ono H, Akahoshi K, Tanabe M, Haruki K, Furukawa K, Ikegami T, Tanaka S. Identification and clinical implications of endogenous retrovirus elements suppressed by SETDB1 in hepatocellular carcinoma. JHEP Reports. 2024; in press

3. Taniai T, Shimada S, Akiyama Y, Hatano M, Yasukawa K, Igarashi Y, Tsukihara S, Tanji Y, Kodera K, Okazaki K, Haruki K, Nara A, Yagi K, Akahoshi K, Ban D, Asahina Y, Ikegami T, Tanabe M, Tanaka S. Integrative transcriptome profiling elucidates molecular and immunovascular characteristics of macrotrabecular hepatocellular carcinoma. Hepatology. 2024; in press

4. Yasukawa K, Shimada S, Akiyama Y, Taniai T, Igarashi Y, Tsukihara S, Tanji Y, Umemura K, Kamachi A, Nara A, Yamane M, Akahoshi K, Shimizu A, Soejima Y, Tanabe M, Tanaka S. ACVR2A attenuation impacts lactate production and hyperglycolytic conditions attracting regulatory T cells in hepatocellular carcinoma. Cell Reports Medicine. 2024; in press

5. Yamane M, Ishikawa Y, Yamashita H, Morimoto K, Asano D, Sugawara T, Watanabe S, Ueda H, Akahoshi K, Ono H, Tanaka S, Tanabe M. Middle segment preserving pancreatectomy versus total pancreatectomy: a comparative analysis of short- and long-term outcomes. Surgery Today. 2024.12; Online ahead of print

6. Rho SY, Choi M, Kim SH, Hong SS, Poh Goh BK, Nagakawa Y, Tanabe M, Asano D, Kang CM. ArtiSential laparoscopic cholecystectomy: a comparative analysis with robotic single-port cholecystectomy. Annals of Surgical Treatment and Research. 2024.12; 107(6); 336-345

7. Sugawara S, Sone M, Umino R, Ban D, Itou C, Kimura S, Oshima T, Ozawa M, Tanishima T, Nakama R, Murakami S, Kusumoto M, Mizui T, Takamoto T, Nara S, Esaki M. Safety and feasibility of percutaneous abdominal lavage cytology screening (PACS) prior to surgical resection for pancreatic cancer. Abdominal Radiology (NY). 2024.12; 49(12); 4365-4372

8. Takamoto T, Nara S, Ban D, Mizui T, Miyata A, Esaki M. Neoadjuvant gemcitabine and S-1 in pancreatic ductal adenocarcinoma: Effects on nutritional status and pancreaticoduodenectomy outcomes. Surgery. 2024.12; Online ahead of print

9. Ishida H, Watanabe S, Rodriguez Franco S, Franklin O, Stoop TF, Kirsch MJ, Schulick RD, Del Chiaro M. Portomesenteric Venous Thrombosis after Pancreatic Cancer Surgery with Venous Resection and Reconstruction: Timing, Incidence, and Risk Factors. Annals of Surgery. 2024.12; Online ahead of print

10. Murase Y, Esaki M, Mizui T, Takamoto T, Nara S, Ban D, Hiraoka N, Shimada K. Optimal lymph node dissection area for pancreatic neuroendocrine neoplasms by tumor location, size, and grade. Surgery. 2024.12; Online ahead of print

11. Sugawara T, Rodriguez Franco S, Sherman S, Kirsch MJ, Colborn K, Franklin O, Ishida J, Grandi S, Al-Musawi MH, Gleisner A, Schulick RD, Del Chiaro M. Characteristics and prognosis of patients with pancreatic adenocarcinoma not expressing CA19-9: Analysis of the National Cancer Database. Pancreatology. 2024.12; 24(8); 1340-1347

12. Yoshino J, Nara S, Yokoyama M, Ban D, Mizui T, Miyata A, Esaki M. Prognostic impact of lymph node dissection in intrahepatic cholangiocarcinoma: a propensity score analysis. Langenbeck's Archives of Surgery. 2024.12; 410(1); 3

13. Katsuda H, Kobayashi M, Ito G, Kawamoto A, Krimura S, Sato H, Hirakawa A, Akahoshi K, Kudo A, Ohtsuka K, Okamoto R. Evaluating endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for diagnosis of small pancreatic neuroendocrine neoplasms. Endoscopy International Open. 2024.11; 12(11); E1379-E1385

14. Hirose S, Ban D, Matsui Y, Mizui T, Miyata A, Nara S, Esaki M. Laparoscopic liver resection with retroperitoneoscopy for the treatment of right dorsal liver tumors (with video). Surgery Today. 2024.11; Online ahead of print

15. Takamoto T, Nara S, Ban D, Mizui T, Mukai M, Esaki M, Shimada K. Chronological evolution in liver resection for hepatocellular carcinoma: Prognostic trends across three decades in early to advanced stages. European Journal of Surgical Oncology. 2024.11; 51(2); Online ahead of print

16. Hendriks TE, Balduzzi A, van Dieren S, Suurmeijer JA, Salvia R, Stoop TF, Del Chiaro M, Mieog SD, Nielen M, Zani S Jr, Nussbaum D, Hackert T, Izbicki JR, Javed AA, Hewitt DB, Koerkamp BG, de Wilde RF, Miao Y, Jiang K, Nakata K, Nakamura M, Jang JY, Lee M, Ferrone CR, Shrikhande SV, Chaudhari VA, Busch OR, Siriwardena AK, Strobel O, Werner J, Bonsing BA, Marchegiani G, Besselink MG; International Study Group for Pancreatic Surgery (ISGPS). Interobserver Variability in the International Study Group for Pancreatic Surgery (ISGPS)-Defined Complications After Pancreatoduodenectomy: An International Cross-Sectional Multicenter Study. Annals of Surgery. 2024.11; 280(5); 728-733

17. Yee EJ, Torphy RJ, Myers EK, Meguid C, Franklin O, Sugawara T, Franco SR, Clark TJ, Mungo B, Ahrendt SA, Schulick RD, Del Chiaro M, McCarter MM. Dynamic Anthropometrics in Pancreatic Cancer: Associations Between Body Composition Changes During Neoadjuvant Therapy and Survival Outcomes After Resection. Annals of Surgical Oncology. 2024.11; 31(12); 8340-8351

18. Kobayashi M, Katsuda H, Maekawa A, Akahoshi K, Watanabe R, Kinowaki Y, Nishimura H, Fujiwara T, Tanabe M, Okamoto R. Development of an intraductal papillary mucinous neoplasm malignancy prediction scoring system. PLoS One. 2024.10; 19(10); e0312234

19. Lopez-Lopez V, Morise Z, Gomez Gavara C, Gero D, Abu Hilal M, Goh BK, Herman P, Clavien PA, Robles-Campos R, Wakabayashi G; Laparoscopic Liver Surgery Multicenter Study Group. Global Outcomes Benchmarks in Laparoscopic Liver Surgery for Segments 7 and 8: International Multicenter Analysis. Journal of the American College of Surgeons. 2024.10; 239(4); 375-386

20. Uemura S, Ban D, Esaki M, Nara S, Takamoto T, Mizui T, Shimada K. Risk factor analysis of postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy with a focus on the peritoneum to portal vein distance on computed tomography. World Journal of Surgery. 2024.10; 48(10); 2496-2504

21. Baba H, Oba A, Tanaka K, Miura T, Ban D, Edanami M, Ishikawa Y, Ohgi K, Tanaka H, Shintakuya R, Ikenaga N, Ijichi T, Kiya Y, Muranushi R, Yamaki S, Miyazaki N, Takeuchi S, Aoki S, Mizui T, Tanaka M, Ueda H, Dei H, Takami H, Okada K, Nakata K, Mataki Y, Osakabe H, Shibuya K, Hashimoto D, Inoue Y, Hirano S, Unno M, Esaki M, Kitago M, Akahoshi K, Sugiura T, Ebata T, Uemura K, Nakamura M, Otsuka T, Nagakawa Y, Fujii T, Satoi S, Takahashi Y. The efficacy of wrapping with polyglycolic acid mesh and fibrin glue in preventing clinically relevant pancreatic fistula after minimally invasive distal pancreatectomy (WRAP Study): study protocol for a multicenter randomized controlled trial in Japan. BMC Surgery. 2024.10; 24(1); 314

22. Jeong JH, Hong SS, Choi M, Rho SY, Radkani P, Goh BKP, Nagakawa Y, Tanabe M, Asano D, Kang CM. ArtiSential® laparoscopic cholecystectomy versus single-fulcrum laparoscopic cholecystectomy: Which minimally invasive surgery is better? Annals of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. 2024.09; Online ahead of print

23. Ito S, Takamoto T, Nara S, Ban D, Mizui T, Nagata H, Takamizawa Y, Moritani K, Tsukamoto S, Kanemitsu Y, Kinugasa Y, Esaki M. RAS mutation associated with short surgically controllable period in colorectal liver metastases: a retrospective study. World Journal of Surgical Oncology. 2024.09; 22(1); 247

24. Yee EJ, Torphy RJ, Thielen ON, Easwaran L, Franklin O, Sugawara T, Bartsch C, Garduno N, McCarter MM, Ahrendt SA, Schulick RD, Del Chiaro M. Radiologic Occult Metastases in Pancreatic Cancer: Analysis of Risk Factors and Survival Outcomes in the Age of Contemporary Neoadjuvant Multi-agent Chemotherapy. Annals of Surgical Oncology. 2024.09; 31(9); 6127-6137

25. Franklin O, Sugawara T, Ross RB, Rodriguez Franco S, Colborn K, Karam S, Schulick RD, Del Chiaro M. Adjuvant Chemotherapy With or Without Radiotherapy for Resected Pancreatic Cancer After Multiagent Neoadjuvant Chemotherapy. Annals of Surgical Oncology. 2024.08; 31(8); 4966-4975

26. Rodriguez Franco S, Ghaffar SA, Jin Y, Weiss R, Hamermesh M, Khomiak A, Sugawara T, Franklin O, Leal AD, Lieu CH, Schulick RD, Del Chiaro M, Ahrendt S, McCarter MD, Gleisner AL. Pathological Features Associated with Lymph Node Disease in Patients with Appendiceal Neuroendocrine Tumors. Cancers (Basel). 2024.08; 16(16); 2922

27. Kobayashi M, Niimi M, Katsuda H, Akahoshi K, Kinowaki Y, Sasaki M, Hirakawa A, Tateishi U, Tanabe M, Okamoto R. Optimization of Endoscopic Ultrasound Characteristics in the Diagnosis of Malignant Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. Pancreas. 2024.07; 53(6); e521-e527

28. Kitago M, Endo Y, Aiura K, Takigawa Y, Tani N, Matsui J, Suzuki K, Nishiyama R, Nakano Y, Abe Y, Yagi H, Shinoda M, Itano O, Tanabe M, Kitagawa Y. Adjuvant 5-fluorouracil and portal vein infusion chemotherapy followed by gemcitabine for pancreatic cancer. Cancer Medicine. 2024.07; 13(14); e7459

29. Okuno K, Watanabe S, Hur H, Lee J, Park JO, Tokunaga M, Tanabe M, Kinugasa Y, Goel A.. An exosome-based liquid biopsy signature for therapeutic response prediction in metastatic gastric cancer. Clinical and Translational Medicine. 2024.07; 38(5); 2411-2422

30. Yabushita Y, Park JS, Yoon YS, Ohtsuka M, Kwon W, Choi GH, Imamura M, Matsumoto I, Mizuno S, Matsuyama R, Sakata J, Hayashi H, Takeda Y, Katagiri S, Sugawara T, Kobayashi S, Kawasaki Y, Nagano H, Murase K, Kim HS, Nah YW, Jang JY, Yamaue H, Yoon DS, Yamamoto M, Choi D, Nakamura M, Kim KH, Endo I. Conversion surgery for initially unresectable locally advanced biliary tract cancer: A multicenter collaborative study conducted in Japan and Korea. Jornal of Hepatobiliary Pancreatic Science. 2024.07; 31(7); 481-491

31. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Shunsuke Ueyama, Chiaki Maeyashiki, Hideki Watanabe, Akiko Kusano-Kitazume, Ayako Sato, Kozue Uchidate, Takehito Asakawa, Sho Watanabe, Yasuhiro Iizuka, Isamu Shibata, Shinya Oooka, Yuko Karakama, Takashi Fujii, Taro Watabe, Keiichi Akahoshi, Minoru Tanabe, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Keiya Watakabe, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Mina Nakagawa, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, . Prognostic significance of C-reactive protein in unresectable hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab and bevacizumab. Hepatol Res. 2024.06; 54(6); 562-574

32. Stoop TF, Oba A, Wu YHA, Beaty LE, Colborn KL, Janssen BV, Al-Musawi MH, Franco SR, Sugawara T, Franklin O, Jain A, Saiura A, Sauvanet A, Coppola A, Javed AA, Groot Koerkamp B, Miller BN, Mack CE, Hashimoto D, Caputo D, Kleive D, Sereni E, Belfiori G, Ichida H, van Dam JL, Dembinski J, Akahoshi K, Roberts KJ, Tanaka K, Labori KJ, Falconi M, House MG, Sugimoto M, Tanabe M, Gotohda N, Krohn PS, Burkhart RA, Thakkar RG, Pande R, Dokmak S, Hirano S, Burgdorf SK, Crippa S, van Roessel S, Satoi S, White SA, Hackert T, Nguyen TK, Yamamoto T, Nakamura T, Bachu V, Burns WR, Inoue Y, Takahashi Y, Ushida Y, Aslami ZV, Verbeke CS, Fariña A, He J, Wilmink JW, Messersmith W, Verheij J, Kaplan J, Schulick RD, Besselink MG, Del Chiaro M. Pathological Complete Response in Patients With Resected Pancreatic Adenocarcinoma After Preoperative Chemotherapy. JAMA Network Open. 2024.06; 7(6); e2417625

33. Endo Y, Shinoda M, Maehara J, Hibi T, Hasegawa Y, Obara H, Kitago M, Ojima H, Tanabe M, Kitagawa Y. Early-onset hepatic veno-occlusive disease after liver transplantation: an institutional experience and analysis of a literature-based cohort. Surgery Today. 2024.06; 54(7); 670-682

34. Suwatthanarak T, Chinswangwatanakul V, Methasate A, Phalanusitthepha C, Tanabe M, Akita K, Akaraviputh T. Surgical strategies for challenging common bile duct stones in the endoscopic era: A comprehensive review of current evidence. World Journal of Gastrointestinal Endoscopy. 2024.06; 16(6); 305-317

35. Lopez-Lopez V, Morise Z, Albaladejo-González M, Gavara CG, Goh BKP, Koh YX, Paul SJ, Hilal MA, Mishima K, Krürger JAP, Herman P, Cerezuela A, Brusadin R, Kaizu T, Lujan J, Rotellar F, Monden K, Dalmau M, Gotohda N, Kudo M, Kanazawa A, Kato Y, Nitta H, Amano S, Valle RD, Giuffrida M, Ueno M, Otsuka Y, Asano D, Tanabe M, Itano O, Minagawa T, Eshmuminov D, Herrero I, Ramírez P, Ruipérez-Valiente JA, Robles-Campos R, Wakabayashi G. Correction: Explainable artificial intelligence prediction-based model in laparoscopic liver surgery for segments 7 and 8: an international multicenter study. Surgical endoscopy. 2024.05; 38(5); 2912-2913

36. Lopez-Lopez V, Morise Z, Albaladejo-González M, Gavara CG, Goh BKP, Koh YX, Paul SJ, Hilal MA, Mishima K, Krürger JAP, Herman P, Cerezuela A, Brusadin R, Kaizu T, Lujan J, Rotellar F, Monden K, Dalmau M, Gotohda N, Kudo M, Kanazawa A, Kato Y, Nitta H, Amano S, Valle RD, Giuffrida M, Ueno M, Otsuka Y, Asano D, Tanabe M, Itano O, Minagawa T, Eshmuminov D, Herrero I, Ramírez P, Ruipérez-Valiente JA, Robles-Campos R, Wakabayashi G. Explainable artificial intelligence prediction-based model in laparoscopic liver surgery for segments 7 and 8: an international multicenter study. Surgical endoscopy. 2024.05; 38(5); 2411-2422

37. Shindoh J, Kawamura Y, Akahoshi K, Matsumura M, Okubo S, Akuta N, Tanabe M, Kokudo N, Suzuki Y, Hashimoto M. Clinical Utility of the Novel Oncological Criteria of Resectability for Advanced Hepatocellular Carcinoma. Liver Cancer. 2024.05; 13 (6); 601-609

38. Akahoshi K, Shindoh J, Tanabe M, Watanabe S, Takamizawa H, Eguchi S, Endo I, Kubo S, Taketomi A, Nagano H, Nakamura M, Hasegawa K, Hatano E, Yoshizumi T, Kokudo N. Questionnaire survey of Japanese board-certified expert hepatobiliary and pancreatic surgeons and instructors on the surgical indications for hepatocellular carcinoma. Jornal of Hepatobiliary Pancreatic Science. 2024.03; 31(3); 143-151

39. Yuzuki Sugiyama, Satoru Muro, Daisuke Ban, Keiichi Akita. Retroperitoneal fasciae as barriers for nerve and arterial passages connecting the retroperitoneal region to the peritoneal organs. J Anat. 2024.03;

40. Akahoshi K, Shindoh J, Tanabe M, Ariizumi S, Eguchi S, Okamura Y, Kaibori M, Kubo S, Shimada M, Taketomi A, Takemura N, Nagano H, Nakamura M, Hasegawa K, Hatano E, Yoshizumi T, Endo I, Kokudo N. Oncological Resectability Criteria for Hepatocellular Carcinoma in the Era of Novel Systemic Therapies: The Japan Liver Cancer Association and Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery Expert Consensus Statement 2023. Liver Cancer. 2024.03; 13(6); 0-10

41. Maekawa A, Oba A, Inoue Y, Omiya K, Ono Y, Sato T, Watanabe S, Uchino Y, Kobayashi K, Ito H, Sato Y, Tanabe M, Saiura A, Takahashi Y. Technical Strategy for Pancreatic Body Cancers: A Raison d'etre of Distal Pancreatectomy with Portal Resection. Annals of Surgical Oncology. 2024.02; 31(2); 1347-1357

42. Sugawara T, Rodriguez Franco S, Sherman S, Torphy RJ, Colborn K, Franklin O, Ishida J, Grandi S, Al-Musawi MH, Gleisner A, Schulick RD, Del Chiaro M. Neoadjuvant chemotherapy versus upfront surgery for resectable pancreatic adenocarcinoma: An updated nationwide study. Annals of Surgery. 2024.02; 279(2); 331-339

43. Kinowaki Y, Fukumura Y, Kawade G, Sugita K, Kinowaki K, Akahoshi K, Kobayashi M, Ono H, Kudo A, Tanabe M, Akashi T, Ohashi K, Kurata M. Gene expression profiling of pancreatic neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm. Gene. 2024.01; 893; 147916

44. PancreasGroup.org Collaborative(Akahoshi K, Ishii T, Tanabe M). Pancreatic surgery outcomes: multicentre prospective snapshot study in 67 countries. British Journal of Surgery. 2024.01; 111(1); znad330

[総説]

1. 伊藤 晃、伴 大輔、水井 崇浩、宮田 明典、奈良 聡、江崎 稔. 低侵襲膵切除に重要な局所解剖. 外科. 2024.11; 86(12); 1305-1310

2. 伴 大輔. 1．近未来の肝切除　2）腹腔鏡手術の立場から. 手術. 2024.11; 78(12); 1845-1849

3. 海野 良介、伴 大輔、菅原 俊祐、水井 崇浩、宮田 明典、奈良 聡、曽根 美雪、江崎 稔. 安全で低侵襲で繰り返し実施可能な腹腔洗浄細胞診の実現にむけて　Percutaneous Abdominal Lavage Cytology Screening(PACS). 胆と膵. 2024.10; 45(10); 1047-1050

4. 藤永 淳郎、伴 大輔、奈良 聡、水井 崇浩、宮田 明典、江崎 稔. 腹腔鏡下肝葉切除における肝門部胆管切離時の ICG 蛍光ナビゲーションの活用. 手術. 2024.10; 78(11); 1805-1811

5. 伴 大輔、水井 崇浩、宮田 明典、奈良 聡、江崎 稔. SMA 周囲郭清に必要な Treitz 靱帯の解剖. 臨床外科. 2024.10; 79(11); 240-243

6. 赤星径一、田邉稔. 肝細胞癌治療ストラテジー. 消化器外科. 2024.09; 47(9); 999-1005

7. 赤星径一、田邉稔. 切除不能肝細胞癌に対する薬物療法. 臨床外科. 2024.07; 79(7); 720-725

8. 石川喜也、田邉稔. 胆嚢周囲の嚢胞 (cyst) 疑い例への対応. 日本医事新報. 2024.04; 5218; 50-51

9. 竹内 将, 石川 喜也, 浅野 大輔, 菅原 俊喬, 渡邊 秀一, 上田 浩樹, 赤星 径一, 小野 宏晃, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 【外科医必携　患者さんとのトラブルを防ぐためのハンドブック】胆嚢摘出術における医療安全と患者説明 臨床外科. 2024.03; 79(3); 322-327

10. 浅野 大輔, 石川 喜也, 菅原 俊喬, 渡邊 秀一, 上田 浩樹, 小野 宏晃, 赤星 径一, 工藤 篤, 田中 真二, 田邉 稔. 手術器具 · 手術材料　私のこだわり　肝胆膵領域における新世代多自由度鉗子の使用経験　もし腹腔鏡手術鉗子に関節があったなら 臨床外科. 2024.03; 79(3); 340-343

11. 小野宏晃、赤星径一、田邉稔. 膵 · 消化管神経内分泌腫瘍におけるコンパニオン診断. 胆と膵. 2024.01; 45(1); 33-36

[講演 · 口頭発表等]

1. Daisuke Asano. My ArtiSential Story in HBP Clinical Practice. Yonsei ArtiSential HBP Symposium 2024.12.14 Seoul, Korea

2. Keiichi Akahoshi. Liver Session: Robotic S7/8 Resection Same As Laparoscopic Approach?. JSHBPS International Web Seminar PAM-HBP Surgery 2024 2024.10.07 WEB

3. Masahiro Yamane, Shohei Motohashi, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. The value of ablation therapy combined with surgical resection for neuroendocrine liver metastasis. ILLS 2024 in Kyoto 2024.10.01 Kyoto

4. Suguru Miyazawa,Hiroaki Ono, Daisuke Asano,Toshitaka Sugawara, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa,Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo,Sadakatsu Ikeda, Minoru Tanabe. Therapeutic strategy of gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms(GEP-NENs) based on comprehensive genomic profiling tests. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

5. Keiichi Akahoshi. The Value of Oncological Resectability Criteria for Hepatocellular Carcinoma. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

6. Shuichi Watanabe, Daisuke Asano, Toshitaka Sugawara,Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi,Hiroaki Ono, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Metastatic Forms of Hepatocellular Carcinoma from Longitudinal Genomic Analysis. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

7. Atsushi Nara, Keiichi Akahoshi, Hiroki Ueda,Koichiro Morimoto, Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka,Minoru Tanabe. Usefulness of the Novel Rupture Severity Score (NRSS) in Determining the Timing of Transarterial Embolization (TAE) for Ruptured Hepatocellular Carcinoma. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

8. Akira Ito, Keiichi Akahoshi, Daisuke Asano,Yoshiya Ishikawa, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Hepatectomy After Pancreatoduodenectomy Has a High Risk of Postoperative Complications. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.29 Hiroshima

9. Masahiro Yamane, Yoshiya Ishikawa, Toshitaka Sugawara,Daisuke Asano, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda,Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Incidence, risk factors, and managements of late-onset POPF after distal pancreatectomy. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

10. Hiroaki Ono, Daisuke Asano, Toshitaka Sugawara,Shuuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Keiichi Akahoshi, Atushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. Investigation of the usefulness of TNMG classification in pancreatic neuroendocrine tumors. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

11. Hiroki Ueda, Atsushi Nara, Daisuke Asano,Toshitaka Sugawara, Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka,Minoru Tanabe. How does ADL/QOL change before and after liver resection in the elderly?. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

12. Toshitaka Sugawara, Oskar Franklin,Salvador Rodriguez Franco, Daisuke Ban, Minoru Tanabe, Richard Schulick, Marco Del Chiaro. Therapeutic strategies for primary resectable pancreatic cancer. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

13. Keiichi Akahoshi, Junichi Shindoh, Minoru Tanabe, Shunichi Ariizumi,Susumu Eguchi, Yukiyasu Okamura, Masaki Kaibori, Shoji Kubo,Mitsuo Shimada, Akinobu Taketomi, Nobuyuki Takemura, Hiroaki Nagano, Masafumi Nakamura, Kiyoshi Hasegawa,Etsuro Hatano, Tomoharu Yoshizumi, Itaru Endo, Norihiro Kokudo. Proposal Process of Oncological Resectability Criteria for Hepatocellular Carcinoma in the Era of Novel Systemic Therapies.. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

14. Daisuke Asano, Keiichi Akahoshi, Yoshiya Ishikawa,Toshitaka Sugawara, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda,Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. What is the safe and shortest way to learn laparoscopic liver surgery? DSS-based training system and safety use of CUSA. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

15. Shouhei Motohashi, Daisuke Asano, Toshitaka Sugawara,Shuichi Watanabe, Yoshiya Ishikawa, Hiroki Ueda, Hiroaki Ono,Keiichi Akahoshi, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka, Minoru Tanabe. The optimal surgical treatment strategy in patients of pancreatic body/tail NETs with liver metastases. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

16. Yuzuki Sugiyama, Satoru Muro, Daisuke Ban, Keiichi Akita. Spatial relationship between the retroperitoneal fasciae on the dorsal side of the pancreas and the nerves. 15th International Symposium of Clinical and Applied Anatomy 2024.06.28 Swansea, United Kingdom

17. Teruchika Koyama, Toshitaka Sugawara, Daisuke Asano,Yoshiya Ishikawa1, Shuichi Watanabe, Hiroki Ueda,Keiichi Akahoshi, Hiroaki Ono, Atsushi Kudo, Shinji Tanaka,Minoru Tanabe. Prognostic factors for pancreatic ductal adenocarcinoma after resection and its predictive model.. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery 2024.06.28 Hiroshima

18. Hiroaki Ono、Minoru Tanabe. Analysis of Risk Factors for Recurrence after Hepatopancreatectomy for Pancreatic Neuroendocrine Tumors with Concurrent Liver Metastases. 16th IHPBA 2024 WORLD CONGRESS 2024.05.16 Cape Town,South Africa

19. Toshitaka Sugawara, T.F.Stoop, A.Oba, I.M.Feld, A Alseidi, A Kokkola, B Groot Koerkamp, D Pietrasz,D.B.Kleve, I.Frigerio,J.Gagniere, J.M.Ramia, J Kleeff, K.J.Roberts, M.V.Marino, M.Falconi,P Pfeiffer, R.Salvia, S Dokmak, T.Hackert, W Messersmith, J.W.Wilmink, R.Burkhart, M.Del Chiaro, M.G.Besselink. The Value of Adjuvant Chemotherapy in Patients after Resection of Pancreatic Adenocarcinoma Following Preoperative FOLFIRINOX: An International Multicenter Study. 16th IHPBA 2024 WORLD CONGRESS 2024.05.16 Cape Town,South Africa

20. Toshitaka Sugawara,Chang-Sup Lim, Richard Ross, Salvador Rodriguez Franco, Jou Nishino, Oskar Franklin, Thomas Stoop, Chiara Croce, Sana Karam, Richard Shulick, Marco Del Chiaro. Association between Neoadjuvant Radiotherapy and Survival in Patients with Resectable and Borderline Resectable Pancreatic Adenocarcinoma. 16th IHPBA 2024 WORLD CONGRESS 2024.05.16 Cape Town,South Africa

1. 伴 大輔. 次世代につなげる低侵製手術〜肝胆膵外科の立場から〜. 第 16 回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会 2024.12.21 東京

2. 雄谷源太郎、田村華子、上田浩樹、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、小野宏晃、赤星径一、伴大輔. 腹腔鏡下胆嚢摘出術後 1 年半で発症したクリップ迷入による総胆管結石の 1 例. 第 874 回外科集談会 2024.12.21 東京

3. 伴 大輔. 解剖に基づく膵切除. 第 5 回 TOP OF TOP CONFERNECE 2024.12.20 WEB

4. 伴 大輔. 低侵襲肝切除最新の工夫〜安全 · 確実な Best Practice. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.06

5. 竹内将、赤星径一、小野宏晃、上田浩樹、石川喜也、渡邊秀一、浅野大輔、田邉稔. RCT: Fluorescent cholangiography の ICG 至適投与量に関する研究. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.06

6. 浅野大輔、工藤勇人、小林聡、成田伸太郎、森實修一、江藤正俊、池田徳彦、田邉稔. 肝臓呼吸器泌尿器科領域における 3D 画像再構成 · AR/VR/MR の現状と将来. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.06 福岡

7. 小山照央、野谷啓之、大司俊郎、長浜雄志. 腹壁ヘルニアに対する単孔式 Rives-Stoppa 法＋ TAR の導入. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.05 福岡市

8. 上田浩樹、宮澤傑、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、小野宏晃、赤星径一. 腹腔鏡下肝部分切除術の Difficulty Scoring System は術後短期成績のみならず医療費も反映する. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.05

9. 田村華子、上田浩樹、浅野大輔、石川喜也、渡邊秀一、小野宏晃、赤星径一. 当科におけるロボット支援下膵頭十二指腸切除術導入期の治療成績. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.05

10. 菅原俊喬、Chang-Sup Lim、井ノ口幹人、田邉稔、Richard Schulick、Marco Del Chiaro. 米国における膵癌に対する低侵襲膵体尾部切除術: 変遷と成績. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 2024.12.05 福岡

11. 小野宏晃、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤 篤、赤星径一. 進行性膵消化管神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の評価および臨床有用性の検討. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.24

12. 田村華子、上田浩樹、田部遥平、吉井淳一郎、奈良 篤、浅野大輔、石川喜也、渡辺秀一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 膵頭十二指腸切除術後胃内容排泄遅延についての検討. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.23

13. 上田浩樹、田村華子、田部遥平、吉井淳一郎、奈良 篤、浅野大輔、石川喜也、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 肝胆道シンチグラフィ所見に基づいた術後胆管炎の治療戦略. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.23 宇都宮

14. 小方理紗子、吉井淳一郎、浅野大輔、小野宏晃、田村華子、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 切除不能な神経内分泌癌を合併する胆嚢腺癌およびリンパ節転移に対して術前化学療法が奏功し、conversion 手術を施行した 1 例. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21 宇都宮

15. 石川喜也、浅野大輔、上田浩樹、渡辺秀一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 腹腔鏡下膵体尾部切除で技術認定を取得するための取り組み. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024.11.21 宇都宮

16. 伴 大輔. 最新のエネルギーデバイスを活用した腹腔鏡下肝切除. 第 18 回肝臓内視鏡外科研究会 2024.11.20

17. 吉井淳一郎、石川喜也、小山照央、浅野大輔、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、伴大輔. 右胃動脈牽引による肝十二指腸間膜郭清の定型化と注意すべき右胃動静脈の走行. 第 16 回膵臓内視鏡外科研究会 2024.11.20 宇都宮

18. 田部遥平、浅野大輔、石川喜也、、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、伴大輔. 当院におけるロボット支援下膵体尾部切除術の助手の立場からの工夫. 第 16 回膵臓内視鏡外科研究会 2024.11.20 宇都宮

19. 奈良 篤、石川喜也、浅野大輔、田部遥平、田村華子、吉井淳一郎、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、伴 大輔. U40 で立ち上げた特定臨床研究 Panc-ICG 試験. 第 16 回膵臓内視鏡外科研究会 2024.11.20 宇都宮

20. 浅野大輔、石川喜也、、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、伴大輔. 当科における腹腔鏡下膵体尾部切除の定型化〜技術認定審査の実際と対策. 第 16 回膵臓内視鏡外科研究会 2024.11.20

21. 浅野大輔、石川喜也、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、伴大輔. 腹腔鏡下ならびにロボット支援下肝切除における安定した肝離断を目指して. 第 18 回肝臓内視鏡外科研究会 2024.11.20 宇都宮

22. 石川喜也、山根聖弘、浅野大輔、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、伴大輔. 低侵襲膵体尾部切除における背側膵動脈処理の定型化 · 工夫. 第 16 回膵臓内視鏡外科研究会 2024.11.20

23. 小野宏晃. 膵 · 消化管神経内分泌腫瘍に対する治療戦略と今後の展望. 膵 · 消化管神経内分泌腫瘍　Web セミナー 2024 2024.11.13 WEB

24. 伴 大輔. 実質離断、エネルギーデバイスの使用方法. Liver Endoscopic Achievement Framework　肝臓内視鏡外科研究会共催セミナー 2024.11.06

25. 奈良 聡、伴 大輔、江崎 稔. 胆道癌の集学的治療：腫瘍外科医の視点. JDDW2024 2024.10.31 神戸

26. 赤星径一、進藤潤一、國土典宏. 肝細胞癌における腫瘍学的切除可能性分類提唱の意義. JDDW2024 2024.10.31 神戸

27. 伴 大輔. 膵切除の未解決問題 ～膵液漏について～. 多摩消化器外科 WEB セミナー 2024 2024.10.22

28. 伴 大輔. 膵臓外科に必要な解剖を再考する～Part2～. 第 31 回神奈川肝胆膵外科研究会 2024.10.18 川崎

29. 島田 周、秋山好光、赤星径一、田中真二. SFXN1 の不活性化は非ウイルス性肝細胞癌において脂肪毒性を軽減し、予後不良予測因子となる. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.21 福岡

30. 小野駿三郎、田村華子、上田浩樹、浅野大輔、渡邊秀一、石川喜也、小野宏晃、赤星径一. 残膵全摘術後に発生した門脈血栓に対し経皮経肝門脈ステント留置術を施行した一例. 第 873 回外科集談会 2024.09.21

31. 鳫翔大郎 、渡邊秀一 、赤星径一 、小山照央 、本橋翔平 、宮澤傑、竹内将、山根聖弘、奈良篤、浅野大輔、石川喜也、上田浩樹 、小野宏晃 、田中真二. がんゲノム解析の進展. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.19 福岡

32. 浅野 大輔. 外科医として PRRT をいつ?どんな症例に?. NET Next Generation Meeting in TOKYO 2nd 2024.09.02 東京

33. 山根聖弘、石川喜也、山下宏成、森本紘一朗、菅原俊喬、浅野大輔、渡辺秀一、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一. 中央区域温存膵切除 7 例の短期および長期成績～膵全摘術と比較して～. 第 51 回日本膵切研究会 2024.08.31 奈良

34. 上田浩樹、浅野大輔、石川喜也、渡辺秀一、小野宏晃、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 肝胆道シンチグラフィに基づいた膵頭十二指腸切除後胆管炎の治療戦略. 第 51 回日本膵切研究会 2024.08.31 奈良

35. 石川喜也、浅野大輔、奈良 篤、渡辺秀一、上田浩樹、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 低侵襲膵切除における膵臓リンパ流の可視化を目指した探索的研究（Panc-ICG 試験）. 第 51 回日本膵切研究会 2024.08.31 奈良

36. 田村華子、上田浩樹、浅野大輔、石川喜也、渡辺秀一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 当科における膵頭十二指腸切除術後膵炎についての検討. 第 51 回日本膵切研究会 2024.08.31 奈良

37. 小野宏晃、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、工藤 篤、赤星径一. 転移性 NEN に対する新たな外科治療戦略. 第 12 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2024.08.24 札幌市

38. 浅野大輔、菅原俊喬、小野宏晃、本橋翔平、鳫翔大郎、石川喜也、渡辺秀一、上田浩樹、工藤 篤、田中真二、赤星径一. 神経内分泌腫瘍肝転移の手術適応：手術の利益を最大化するために. 第 12 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2024.08.24 札幌

39. 浅野大輔. 自施設での神経内分泌腫瘍の治療. 神経内分泌腫瘍治療の最前線 -薬物療法と病病連携をどう行うか- 2024.08.05 WEB 開催

40. 小野宏晃、菅原俊喬、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 進行性膵消化管神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の有用性の検討. 第 55 回日本膵臓学会大会 2024.07.25 宇都宮

41. 浅野大輔、菅原俊喬、本橋翔平、鳫翔大郎、石川喜也、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 肝転移を伴う NET 患者における手術適応の検討. 第 55 回日本膵臓学会大会 2024.07.25 宇都宮

42. 宮澤 傑、小野宏晃、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、池田貞勝、田中真二、田邉稔. 神経内分泌がんに対する遺伝子パネル検査の有用性. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関

43. 赤星径一. 外科医が考える肝細胞癌薬物療法の現在地. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.19 下関市

44. 伊藤 晃、小野宏晃、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉 稔. 膵癌における Gemcitabine に対する CDK4/6 阻害の影響. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

45. 山根聖弘、石川喜也、菅原俊喬、浅野大輔、渡辺秀一、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、田中真二、田邉稔. 周術期成績及び膵機能温存に関する膵全摘術と中央区域温存膵切除術の比較. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

46. 小野宏晃、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 神経内分泌腫瘍における PRRT 療法の有用性の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

47. 上田浩樹、菅原俊喬、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、小野宏晃、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 高齢者の膵頭十二指腸切除術前後の ADL/QOL はどう推移するのか. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

48. 森本紘一朗、赤星径一、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 多発膵神経内分泌腫瘍の臨床的特徴と治療戦略. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

49. 石川喜也、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 腹腔鏡からロボットへ〜当科における術野展開、SMA アプローチの変遷〜. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

50. 鳶翔大郎、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、田中真二、田邉稔. 高悪性度、膵神経内分泌腫瘍に対する外科切除の決定. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

51. 田村華子、中嶌　雄高、大野 玲. 当院における超高齢者患者に対する腹部手術症例についての検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.18 下関

52. 菅原俊喬, Oskar Franklin, Salvador Rodriguez Franco, Thomas Stoop, 伴 大輔、田邉 稔、Richard Shulick, Marco Del Chiaro. 切除可能膵癌に対する治療方針：米国とコロラド大学病院のデータを含めた検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

53. 赤星径一、進藤潤一、高見澤駿斗、渡辺秀一、鳶翔大郎、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、國土典宏、田邉稔. 肝細胞癌における腫瘍学的切除可能性分類提唱とその意義. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

54. 奈良 篤、上田浩樹、清水行栄、赤星径一、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、小野宏晃、田中真二、田邉 稔. 術前のサルコペニアは、膵癌患者における膵頭十二指腸切除術後の自立性低下を予測する. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

55. 本橋翔平、浅野大輔、田邉稔. 膵頭部 ACTHoma 同時性肝転移に対し、肝静脈サンプリング併用 SASI test を行って 2 期的低侵襲手術を行った一例. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関市

56. 谷合智彦、島田 周、奈良 篤、五十嵐陽介、丹治芳明、赤星径一、春木考一郎、池上 徹、田邉 稔、田中真二. 高悪性度肝細胞癌の臨床病理学的特徴の解明と前臨床モデルによる免疫チェックポイント阻害剤の奏功. 第 79 回日本消化器外科学会総会 2024.07.17 下関

57. 赤星径一. 肝細胞癌における腫瘍学的切除可能性分類の提唱. 第 60 回日本肝癌研究会 2024.07.12 姫路市

58. 小野宏晃. GEP-NET に対する PRRT の治療戦略と今後の展望. 港区 NET Seminar 2024.07.08 WEB 開催

59. 小野宏晃. GEP-NET に対する PRRT の治療戦略と今後の展望. NET Expert Web Conference 2024 in 熊本 2024.06.10 WEB 開催

60. 波多野 恵、秋山 好光、島田 周、八木 宏平、赤星 径一、伊藤 美智子、田邉 稔、小川 佳宏、田中 真二. NAFLD 関連肝がんにおける脂肪毒性への耐性獲得機序の解明. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 横浜

61. 小野宏晃. 同時性肝転移を有した膵鈎部 NET. NET の集学的治療を考える 内科医・外科医の治療戦略 〜PRRT はどのように使えるのか〜 2024.05.27 東京（WEB 開催）

62. 波多野 恵、秋山 好光、島田 周、八木 宏平、赤星 径一、伊藤 美智子、田邉 稔、小川 佳宏、田中 真二. KDM6B 発現低下により NAFLD 関連肝がん細胞は脂肪毒性への耐性を獲得する. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会 2024.05.18 東京

63. 小野宏晃. GEP-NET に対する PRRT の治療戦略と今後の展望. NET Expert Web Conference in 島根 2024.05.14 WEB 開催

64. 小野宏晃. 外科医からみたPRRTの位置付け. ”外科の視点で考える”これからのNET集学的治療 2024.04.23 WEB開催

65. 山根聖弘、石川喜也、浅野大輔、渡辺秀一、上田浩樹、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 膵体尾部切除術後遅発性膵液瘻の発生頻度とリスク因子解析. 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 名古屋

66. 菅原俊喬、Chang-Sup Lim, Richard Ross, Salvador Rodriguez Franco, 西野穣、 Oskar Franklin, Thomas Stoop, Chiara Croce, Sana Karam, Richard Shulick, Marco Del Chiaro. 切除可能および切除可能境界膵癌における術前放射線治療と長期成績との関係. 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 名古屋

67. 渡邊秀一、菅原俊喬、浅野大輔、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、田中真二、田邉稔. 肝細胞癌の転移形式を縦断ゲノム解析から検討する. 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.20 名古屋

68. 宮澤 傑、上田浩樹、本橋翔平、小山照央、山根聖弘、竹内 将、鳶翔大郎、伊藤晃、奈良 篤、山下宏成、森本紘一朗、浅野大輔、菅原俊喬、石川喜也、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉 稔. Difficulty Scoreに着目した腹腔鏡下肝部分切除術の治療成績. 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋

69. 小野宏晃、小川康介、伊藤剛、浅野大輔、渡辺秀一、石川喜也、上田浩樹、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 膵臓癌の新規抗がん剤を同定する薬剤スクリーニングと細胞周期解析に基づく薬剤メカニズム検証および前臨床試験的実験モデルによる臨床応用性を評価する複合的実験モデルの構築. 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋市

70. 上田浩樹、本橋翔平、小山照央、山根聖弘、竹内将、鳶翔大郎、伊藤晃、奈良 篤、山下宏成、森本紘一朗、浅野大輔、菅原俊喬、石川喜也、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔. 膵頭十二指腸切除術前後のADL/QOLの経時的変化. 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋

71. 本橋翔平、浅野大輔、小野宏晃、森本紘一朗、石川喜也、渡辺秀一、赤星径一、工藤 篤、田中真二、田邉稔. Ablationを併用した神経内分泌腫瘍多発肝転移に対する積極的治療戦略. 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.19 名古屋

72. 石川喜也、上田浩樹、浅野大輔、菅原俊喬、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤 篤、田中真二、田邉稔 . 膵頭十二指腸切除における胆管の切離 · 再建する高さが術後胆管関連合併症に与える影響 . 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 名古屋

73. 小山照央、石川喜也、浅野大輔、上田浩樹、渡辺秀一、赤星径一、小野宏晃、工藤篤、田中真二、田邉稔. 低侵襲膵頭十二指腸切除術における肝十二指腸間膜郭清の工夫と注意すべき右胃動静脈の走行. 第124回日本外科学会定期学術集会 2024.04.18 名古屋

74. 本橋翔平、浅野大輔、小林正典、菅原俊喬、渡邊秀一、石川喜也、上田浩樹、小野宏晃、赤星径一、田中真二、工藤　篤、田邉　稔. ERGBDによる急性胆嚢炎加療後に待機的に腹腔鏡下胆嚢摘出を施行した２例. 第871回外科集談会 2024.03.09 東京

75. 石川喜也. SMA周囲の解剖と低侵襲肝胆膵外科手術. Friday Night Seminar 2024　筑波大学消化器外科ユニオン 2024.02.02

[その他業績]

1. 田邉 稔、司会、鏡視下手術に対する最適な静脈血栓塞栓症予防, 2024年04月
第124回日本外科学会定期学術集会、20240419、名古屋

2. 田邉 稔、司会、その次の手術ナビゲーション：日本技術の粋を集めて外科新時代を創ろう, 2024年04月
第124回日本外科学会定期学術集会、20240419、名古屋

3. Keiichi Akahoshi、Faculty、PANCREATIC DISEASES Ⅱ, 2024年05月
65th Annual Meeting SOCIETY FOR SURGERY OF THE ALIMENTARY TRACT、2024.05.20、Washington DC

4. 田邉 稔、司会、働き方改革とメディカルスタッフの復職支援への取り組み, 2024年05月
第110回日本消化器病学会総会、20240511、徳島

5. Daisuke Ban、Moderator、Next Generation Program 4、Pancreatic resection by the surgeons of the next generation, 2024年06月
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery、20240629、Hiroshima

6. Daisuke Ban、Moderator、Luncheon Seminar 10、Learning Strategies and Initiatives of the Leading institutions in Charging Technologies and Trends, 2024 年 06 月
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery、20240629、Hiroshima

7. Minoru Tanabe,Moderator,Symposium3「Med- and long-term results of laparoscopic anatomical liver resection」, 2024 年 06 月
The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery,20240629,Hiroshima

8. 伴 大輔、座長、一般演題 016、肝臓：高難度低侵襲肝切除 1, 2024 年 07 月
第 79 回日本消化器外科学会総会、20240717、下関

9. 伴 大輔、座長、ポスターセッション 10、集学的治療 1, 2024 年 08 月
第 51 回日本膵切研究会、20240831、奈良

10. 小野宏晃、座長、外科パート「外科医として PRRT をいつ?どんな症例に?」, 2024 年 09 月
NET Next Generation Meeting in TOKYO 2nd、20240902、東京

11. Keiichi Akahoshi,Chair,Mini Oral 19 Teaching and Training in RLR 2, 2024 年 10 月
ILLS 2024 in Kyoto,20241002,Kyoto

12. Daisuke Ban,Chair,Sponsored Symposium 3 Laparoscopic waterjet method and robotic clamp-crush method with VIO 3, 2024 年 10 月
ILLS 2024 in Kyoto,20241001,Kyoto

13. 伴 大輔、座長、U40 セッション, 2024 年 11 月
第 16 回膵臓内視鏡外科研究会、20241120、宇都宮

14. 伴 大輔、座長、デジタルポスターセッション 43 肝臓 (補助化学療法 · 治療 (その他)· 悪性腫瘍 · 外傷), 2024 年 11 月
JDDW2024、20241101、神戸

15. 伴 大輔、司会、膵臓　ロボット支援手術 2, 2024 年 12 月
第 37 回日本内視鏡外科学会総会、20241207、福岡

16. 伴 大輔、教育講演司会、次世代の HBP 低侵襲手術 〜 Expert Opinion 〜, 2024 年 12 月
第 37 回日本内視鏡外科学会総会、20241205、福岡

17. 赤星径一、特別シンポジウム ディスカッサント、横隔膜融合領域, 2024 年 12 月
第 37 回日本内視鏡外科学会総会、20241206、福岡

18. 小野宏晃、座長、神経内分泌腫瘍治療の最前線 ‐薬物療法と病病連携をどう行うか‐, 2024 年 12 月
20241202、WEB 講演会

整形外科学分野

Department of Orthopaedic and Spinal Surgery

教　授　　吉井 俊貴
准教授　　平井 高志
講　師　　瀬川 裕子, 松倉 遊
助　教　　船内 雄生, 山口 玲子, 黒岩 智之, 小沼 博明,
　　加来 拓実, 山田 賢太郎
特任助教　天野 祐輔, 長谷川 翔一

「先端技術医療応用学講座」
教　授　　川端 茂徳
講　師　　星野 優子
助　教　　橋本 淳
非常勤講師　関原 謙介
非常勤講師　源間 信弘

「整形外傷外科治療開発学講座」
准教授　　王 耀東
講　師　　江川 聡

大学院生　品田 良太, 川畑 篤礼, 元吉 貴之, 橋本 泉智,
酒枝 健太郎, 辻野 昭平, 東川 尚人, SU CHEN,
上杉 豪, 高階 祐輔, 竹内 彩子, 宮腰 友里, 塚本 和矢,
菱山 隼, 脇 智彦, 有賀 茜, 梶原 健嗣, 杉浦 沙羅,
田村 聡至, 中村 晧平, 新田 智久, GUI ZHIHENG,
YU DAIYANG, 岩渕 龍彦, 田原 龍希, 徳元 友哉,
林 直輝, 宮本 玲奈, 山本 貴瑛, YAN MENGMENG

(1)　分野概要

当分野は、診療科としては運動器外科学分野と共同して“整形外科”を担当し、診療、教育、研究を行っている。整形外科では、骨 · 軟骨、関節、腱、靭帯、筋などの骨格系や脊髄、末梢神経などの神経系の研究を扱い、これらの外傷、変性、腫瘍、骨系統疾患など多彩な傷病を治療対象としている。

それに対応する広範囲にわたる基礎的研究および、臨床医学として脊椎 · 関節の運動機能の再建、再生医学的手法の臨床応用、人工材料や人工関節の開発、生体力学的アプローチ、動作解析、疼痛の制御、人工知能（AI）利用の研究が行われている。難病の病態解明とともに最先端診断検査法の開発を目的として、各専門班別の研究、大学関連部門、学外研究施設との共同研究も積極的に行っている。

注：運動器外科学参照

(2) 研究活動

1. 骨軟骨代謝、再生に関する研究
2. 人工材料（骨、神経）の臨床応用に向けての研究
3. 靭帯骨化機序の解明
4. 脊髄磁場計測機器の開発
5. 転移性骨脊椎腫瘍の研究
6. 後縦靭帯骨化症手術の臨床研究
7. 脊髄機能モニタリングの臨床研究
8. 手指機能解析手法の開発
9. 非定型大腿骨骨折の病態研究
10. 筋外傷に対する高気圧酸素療法（高気圧治療部）
11. AI 画像研究
12. 後弯症の動作解析
13. 抗菌性インプラントの開発

注：（ ）内は共同研究先

(3) 教育活動

火曜日・木曜日・金曜日の週 3 回、朝 7 時 30 分から Journal Club(JC) を行う。3 回の内訳は、火曜日は整形外科学分野単独、運動器外科学分野との合同で臨床研究論文（木曜日）、基礎研究論文（金曜日）を 1 回ずつとなっている。火曜日には JC のあとで、大学院生の研究の進捗を発表する Research Progress（RP) を適宜行い、直接の指導教員以外からの意見を聞く機会を設けている。この RP は原則英語で行い。論文作成への手助けとしている。また、金曜日には JC のあと臨床研究に関わる RP を診療科としての整形外科全体で行い、基礎研究のみならず、臨床研究に関しても積極的に取り組んでいる。

整形外科の臨床教育としては、専攻医を対象に月 1 回初期研修セミナーを開催し、手術法のハンズオン、基礎研究活動について講義する機会を設けている。また、年 2 回の学内集談会において、英語での症例報告発表を義務付けている。生涯教育としては、年 2 回の卒後研修セミナーを開催し、学内外の同門の卒後教育の機会を設けている。

(4) 教育方針

我が国の整形外科領域の研究は、従来から整形外科専門医が臨床診療に従事する傍ら、基礎研究を自ら手を動かして進めるという点が特徴的である。Surgeon scientist の名の通り、臨床に根差した課題を研究することで、骨・軟骨・神経に関する数々の成果が得られている。私たちの教室でも独自の人工骨や脊髄機能診断機器、スマホを利用した手指機能解析手法を新規に生み出しており、ここ数年は年間に 50 本以上の英文論文を発表している。

大学院生は基礎研究手法を学ぶと同時に、こうした研究の方向性を身に着けるように指導される。大学院卒業後に臨床診療に携わっても、治療成績をまとめ、将来の診療に役立つような臨床研究を行う姿勢を身に着けることができる。

(5) 臨床活動および学外活動

整形外科学分野と運動器外科学分野から構成される整形外科は、脊椎外科・手外科・骨軟部腫瘍・膝関節外科・股関節外科・整形外傷外科・小児整形外科のすべてにわたって専門性の高い外来診療と手術治療を提供している。40 名以上の整形外科専門医を擁している。

頸椎後縦靭帯骨化症に関しては、前方除圧固定術により良好な成績を得ている、我が国で数少ない施設のうちの一つである。この領域においては、これまで厚生労働省の難病調査研究における研究代表を務めた経験もあり、全国の脊椎脊髄領域の研究者と協力して臨床研究を推進している。

(6) 臨床上の特色

脊椎脊髄領域では、ナビゲーション、脊髄誘発電位測定の導入などにより安全で確実な除圧と固定が得られ、早期離床と確実な手術成績を得ることを目標にしている。とくに、脊柱靭帯骨化症、成人脊柱変形や骨粗鬆症性椎体骨折の脊柱矯正固定手術、脊髄腫瘍に関しても、積極的に取り組んでいる。また、骨転移外来を持ち、末期がん患者の治療体系化や複雑な多発外傷患者の手術治療にも力を入れている。手の外科では AI を用いた早期診断に取り組み、骨軟部腫瘍外科では悪性腫瘍の広範切除術、関節外科では数多くの骨切り術、ロボット人工関節手術などを行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Khangarid Tenger, Keiichiro Komori, Ami Maehara, Kyosuke Miyazaki, Eriko Marukawa, Toshitaka Yoshii, Kunikazu Tsuji. High molecular weight hyaluronic acid alleviates ovariectomy-induced bone loss in mice. BMC Musculoskelet Disord. 2024.12; 25(1); 1048

2. Takayuki Motoyoshi, Takahisa Ogawa, Kazuyuki Fukushima, Satoshi Kutsuna, Haggai Schermann, Kiyohide Fushimi, Toshitaka Yoshii. Seasonal trends of pyogenic spondylodiscitis in Japan: a nationwide inpatient database study. Int J Infect Dis. 2024.12; 153; 107767

3. Satoshi Takagi, Mikako Nakajima, Sumie Koike, Miho Takami, Yoshiya Sugiura, Seiji Sakata, Satoko Baba, Ai Takemoto, Tianyi Huang, Yosuke Seto, Masanori Saito, Yuki Funauchi, Keisuke Ae, Kengo Takeuchi, Naoya Fujita, Ryohei Katayama. Frequent copy number gain of MCL1 is a therapeutic target for osteosarcoma. Oncogene. 2024.12;

4. Kenji Nakano, Naomi Hayashi, Xiofei Wang, Akihiro Ohmoto, Tetsuya Urasaki, Naoki Fukuda, Yasuyoshi Sato, Makiko Ono, Junichi Tomomatsu, Mayu Yunokawa, Yuki Funauchi, Keiko Hayakawa, Taisuke Tanizawa, Keisuke Ae, Seiichi Matsumoto, Shunji Takahashi. Gemcitabine-Based Chemotherapy for Advanced Soft Tissue Sarcoma: Identifying the Appropriate Dose and Schedule. Cureus. 2024.12; 16(12); e76149

5. Shusaku Hosono, Koji Fujita, Akimoto Nimura, Takuya Ibara, Keiichi Akita. Cervical Spine Range of Motion and Sleep Disturbances in Patients With Atopic Dermatitis: A Cross-Sectional Study. Cureus. 2024.12; 16(12); e75449

6. Satoshi Maki, Takeo Furuya, Keiichi Katsumi, Hideaki Nakajima, Kazuya Honjoh, Shuji Watanabe, Takashi Kaito, Shota Takenaka, Yuya Kanie, Motoki Iwasaki, Masayuki Furuya, Gen Inoue, Masayuki Miyagi, Shinsuke Ikeda, Shiro Imagama, Hiroaki Nakashima, Sadayuki Ito, Hiroshi Takahashi, Yoshiharu Kawaguchi, Hayato Futakawa, Kazuma Murata, Toshitaka Yoshii, Takashi Hirai, Masao Koda, Seiji Ohtori, Masashi Yamazaki. Multimodal Deep Learning-based Radiomics Approach for Predicting Surgical Outcomes in Patients with Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. Spine (Phila Pa 1976). 2024.11; 49(22); 1561-1569

7. Ryosuke Hirota, Tsutomu Oshigiri, Noriyuki Iesato, Makoto Emori, Atsushi Teramoto, Yuki Shiratani, Akinobu Suzuki, Hidetomi Terai, Takaki Shimizu, Kenichiro Kakutani, Yutaro Kanda, Hiroyuki Tominaga, Ichiro Kawamura, Masayuki Ishihara, Masaaki Paku, Yohei Takahashi, Toru Funayama, Kousei Miura, Eiki Shirasawa, Hirokazu Inoue, Atsushi Kimura, Takuya Iimura, Hiroshi Moridaira, Hideaki Nakajima, Shuji Watanabe, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Kazuo Nakanishi, Hirokatsu Sawada, Koji Matsumoto, Masahiro Funaba, Hidenori Suzuki, Haruki Funao, Takashi Hirai, Bungo Otsuki, Kazu Kobayakawa, Koji Uotani, Hiroaki Manabe, Shinji Tanishima, Ko Hashimoto, Chizuo Iwai, Daisuke Yamabe, Akihiko Hiyama, Shoji Seki, Yuta Goto, Masashi Miyazaki, Kazuyuki Watanabe, Toshio Nakamae, Takashi Kaito, Hiroaki Nakashima, Narihito Nagoshi, Satoshi Kato, Shiro Imagama, Kota Watanabe, Gen Inoue, Takeo Furuya. Prospective Registration Study for Establishing Minimal Clinically Important Differences in Patients Undergoing Surgery for Spinal Metastases. Spine (Phila Pa 1976). 2024.11; 49(22); 1539-1547

8. Takahisa Ogawa, Haggai Schermann, Ryohei Takada, Kiyohide Fushimi, Toshitaka Yoshii. The effect of early surgery on clinical outcomes in proximal femoral fracture patients receiving chronic anticoagulation: A japanese nationwide database study. Injury. 2024.11; 55(11); 111841

9. Hideaki Nakajima, Shuji Watanabe, Kazuya Honjoh, Arisa Kubota, Yuki Shiratani, Akinobu Suzuki, Hidetomi Terai, Takaki Shimizu, Kenichiro Kakutani, Yutaro Kanda, Hiroyuki Tominaga, Ichiro Kawamura, Masayuki Ishihara, Masaaki Paku, Yohei Takahashi, Toru Funayama, Kousei Miura, Eiki Shirasawa, Hirokazu Inoue, Atsushi Kimura, Takuya Iimura, Hiroshi Moridaira, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Kazuo Nakanishi, Hirokatsu Sawada, Koji Matsumoto, Masahiro Funaba, Hidenori Suzuki, Haruki Funao, Tsutomu Oshigiri, Takashi Hirai, Bungo Otsuki, Kazu Kobayakawa, Koji Uotani, Hiroaki Manabe, Shinji Tanishima, Ko Hashimoto, Chizuo Iwai, Daisuke Yamabe, Akihiko Hiyama, Shoji Seki, Yuta Goto, Masashi Miyazaki, Kazuyuki Watanabe, Toshio Nakamae, Takashi Kaito, Hiroaki Nakashima, Narihito Nagoshi, Satoshi Kato, Shiro Imagama, Kota Watanabe, Gen Inoue, Takeo Furuya. Surgical strategy for metastatic spinal tumors based on Spine Instability Neoplastic Score and patient-reported outcomes: JASA multicenter prospective study. J Neurosurg Spine. 2024.11; 42(2); 203-214

10. Naoki Segi, Hiroaki Nakashima, Sadayuki Ito, Jun Ouchida, Yuki Shiratani, Takaki Shimizu, Akinobu Suzuki, Hidetomi Terai, Kenichiro Kakutani, Yutaro Kanda, Hiroyuki Tominaga, Ichiro Kawamura, Masayuki Ishihara, Masaaki Paku, Yohei Takahashi, Masahiro Funaba, Toru Funayama, Hideaki Nakajima, Koji Akeda, Takashi Hirai, Hirokazu Inoue, Kazuo Nakanishi, Haruki Funao, Tsutomu Oshigiri, Bungo Otsuki, Kazu Kobayakawa, Shinji Tanishima, Ko Hashimoto, Takuya Iimura, Hirokatsu Sawada, Koji Uotani, Hiroaki Manabe, Chizuo Iwai, Daisuke Yamabe, Akihiko Hiyama, Shoji Seki, Yuta Goto, Masashi Miyazaki, Kazuyuki Watanabe, Toshio Nakamae, Takashi Kaito, Narihito Nagoshi, Satoshi Kato, Kota Watanabe, Shiro Imagama, Gen Inoue, Takeo Furuya. Effects of Palliative Surgical Treatment for Spinal Metastases on the Patient's Quality of Life With a Focus on the Segment of the Metastasis: A Prospective Multicenter Study. Global Spine J. 2024.11; 21925682241297948

11. Kazuki Takeda, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Junichi Yamane, Hitoshi Kono, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Kenichi Kawaguchi, Nobuyuki Suzuki, Hiroshi Uei, Kazuo Nakanishi, Hidetomi Terai, Gen Inoue, Katsuhito Kiyasu, Yoichi Iizuka, Koji Akeda, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Toshitaka Yoshii, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Influence of Diabetes Mellitus on Neurological Recovery in Older Patients With Cervical Spinal Cord Injury Without Bone Injury: A Retrospective Multicenter Study. Global Spine J. 2024.11; 21925682241297587

12. Miyaoka F, Hatano M, Hayashi Y, Kaneko S, Shimbo A, Irabu H, Akutsu Y, Segawa Y, Mori M, Shimizu M. Atlantoaxial arthritis is more common in polyarticular JIA as compared to systemic onset JIA-Retrospective study INTERNATIONAL JOURNAL OF RHEUMATIC DISEASES. 2024.11; 27(11); e15396

13. Masashi Uehara, Shota Ikegami, Takashi Takizawa, Hiroki Oba, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Sadayuki Ito, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Kazuki Takeda, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Akiyoshi Kuroda, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Is Intraoperative Blood Loss Volume in Elderly Cervical Spine Injury Surgery Greater in Patients with Ankylosis? A Multicenter Survey. Spine Surg Relat Res. 2024.11; 8(6); 575-582

14. Naoki Segi, Hiroaki Nakashima, Sadayuki Ito, Jun Ouchida, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Hideaki Nakajima, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Yoichi Iizuka, Hiroshi Uei, Nobuyuki Suzuki, Koji Akeda, Hiroyuki Tominaga, Shoji Seki, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Bungo Otsuki, Kazuo Nakanishi, Kenichiro Kakutani, Haruki Funao, Toshitaka Yoshii, Daisuke Sakai, Tetsuro Ohba, Masashi Miyazaki, Hidetomi Terai, Gen Inoue, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Comparative Analysis of Characteristics of Lower- and Mid-Cervical Spine Injuries in the Elderly. Spine Surg Relat Res. 2024.11; 8(6); 560-567

15. Sara Sugiura, Toru Sasaki, Koji Fujita, Toshitaka Yoshii. Treatment for Overgrowth of a Finger Owing to Vascular Malformations: A Case Report. Cureus. 2024.11; 16(11); e74716

16. Yuki Funauchi, Satoshi Tsukushi, Hiroaki Hiraga, Akio Sakamoto, Toshiyuki Kunisada, Akihito Nagano, Koji Hiraoka, Kazutaka Kikuta, Tsukasa Yonemoto, Keisuke Ae, Akira Kawai, Makoto Endo, Yusuke Sano, Ryunosuke Machida, Tetsuya Sekita, Haruhiko Fukuda, Yoshinao Oda, Toshifumi Ozaki, Kazuhiro Tanaka, . Study protocol: randomized phase III trial of neo-adjuvant and adjuvant chemotherapy vs. immediate surgery and adjuvant chemotherapy for localized soft tissue sarcoma: Japan Clinical Oncology Group study JCOG2102 (NACLESS). Jpn J Clin Oncol. 2024.11;

17. Ayana Kitta, Takashi Saisu, Jun Kakizaki, Yasuhiro Oikawa, Yuko Segawa, Ken Okazaki. Periosteal Stripping and Periosteal Division for Leg Length Discrepancy After Proximal Femoral Intertrochanteric Osteotomy for Perthes Disease. Cureus. 2024.10; 16(10); e70953

18. Yukitaka Sato, Hironori Ishibashi, Yuki Funauchi, Kenichi Okubo. Excision of Giant Chronic Expanding Hematoma of the Thorax Caused by Rib Fractures after Proton Radiotherapy for Lung Cancer. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2024.09; 30(1); 24-00121

19. Naoki Segi, Hiroaki Nakashima, Sadayuki Ito, Jun Ouchida, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Akiyoshi Kuroda, Gen Inoue, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Yoichi Iizuka, Yasushi Oshima, Hitoshi Tonomura, Katsuhito Kiyasu, Haruki Funao, Toshitaka Yoshii, Masayuki Ishihara, Takashi Kaito, Shoji Seki, Kenichiro Kakutani, Hiroyuki Tominaga, Tetsuro Ohba, Daisuke Sakai, Bungo Otsuki, Masashi Miyazaki, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Low Nutrition before Injury Is a Risk Factor for Dysphagia in Older Patients with Cervical Spinal Cord Injury: Based on a Multicenter Data of 707 Patients. Spine Surg Relat Res. 2024.09; 8(5); 473-479

20. Takahisa Ogawa, Ryo Onuma, Hiromori Sagae, Haggai Schermann, Morten Tange Kristensen, Kiyohide Fushimi, Toshitaka Yoshii, Tetsuya Jinno. Association between additional weekend rehabilitation and functional outcomes in patients with hip fractures: does age affect the effectiveness of weekend rehabilitation? Eur Geriatr Med. 2024.08; 15(4); 1091-1100

21. Noritaka Suzuki, Yawara Eguchi, Takashi Hirai, Takuya Takahashi, Yohei Takahashi, Kota Watanabe, Tomohiro Banno, Kyohei Sakaki, Satoshi Maki, Yuuichi Takano, Yuki Taniguchi, Yasuchika Aoki, Takamitsu Konishi, Yutaka Hiraizumi, Masatsune Yamagata, Akihiro Hirakawa, Seiji Ohtori. Outcome of intradiscal condoliase injection therapy for patients with recurrent lumbar disc herniation. Asian Spine J. 2024.08; 18(4); 550-559

22. Ryosuke Hirota, Tsutomu Oshigiri, Noriyuki Iesato, Makoto Emori, Atsushi Teramoto, Yuki Shiratani, Akinobu Suzuki, Hidetomi Terai, Takaki Shimizu, Kenichiro Kakutani, Yutaro Kanda, Hiroyuki Tominaga, Ichiro Kawamura, Masayuki Ishihara, Masaaki Paku, Yohei Takahashi, Toru Funayama, Kousei Miura, Eiki Shirasawa, Hirokazu Inoue, Atsushi Kimura, Takuya Iimura, Hiroshi Moridaira, Hideaki Nakajima, Shuji Watanabe, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Kazuo Nakanishi, Hirokatsu Sawada, Koji Matsumoto, Masahiro Funaba, Hidenori Suzuki, Haruki Funao, Takashi Hirai, Bungo Otsuki, Kazu Kobayakawa, Koji Uotani, Hiroaki Manabe, Shinji Tanishima, Ko Hashimoto, Chizuo Iwai, Daisuke Yamabe, Akihiko Hiyama, Shoji Seki, Yuta Goto, Masashi Miyazaki, Kazuyuki Watanabe, Toshio Nakamae, Takashi Kaito, Hiroaki Nakashima, Narihito Nagoshi, Satoshi Kato, Shiro Imagama, Kota Watanabe, Gen Inoue, Takeo Furuya. Impact of surgical treatment on patient reported outcome in patients with spinal metastases from prostate cancer. J Orthop Sci. 2024.08; S0949-2658(24); 00152-0

23. Tomoyuki Tanaka, Masanao Sasaki, Junya Katayanagi, Akihiko Hirakawa, Kiyohide Fushimi, Toshitaka Yoshii, Tetsuya Jinno, Hiroyuki Inose. Trends, costs, and complications associated with after-hours surgery and unscheduled hospitalization in spinal surgery. Bone Jt Open. 2024.08; 5(8); 662-670

24. Masahiro Tsutsumi, Akimoto Nimura, Hajime Utsunomiya, Shintarou Kudo, Keiichi Akita. Capsular attachment on the anterosuperior femoral head-neck junction: A hypothesis about femoroacetabular impingement. J Anat. 2024.08; 245(2); 231-239

25. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Kiyohide Fushimi. Response to Letter to the Editor Concerning "Risk Factors for Postoperative Unfavorable Ambulatory Status After Spinal Surgery for Metastatic Spinal Tumor". Spine (Phila Pa 1976). 2024.07; 49(13); E209

26. Motonori Hashimoto, Satoru Egawa, Takashi Hirai, Jun Hashimoto, Shingo Morishita, Kentaro Yamada, Yu Matsukura, Ryosuke Kaho, Hiroto Hada, Jun Oyama, Toshitaka Yoshii. Detection of Dural Defect Localization Using 4-Dimensional Dynamic Computed Tomography Myelography for Patients with Superficial Siderosis. World Neurosurg. 2024.07; 187; e798-e806

27. Akane Ariga, Yuki Funauchi, Shingo Sato, Junko Kunieda, Toshitaka Yoshii. Melorheostosis With Uniform Rib Thickening. Clin Nucl Med. 2024.07; 49(7); 662-663

28. Kentaro Yamada, Toshitaka Yoshii, Mikayo Toba, Satoru Egawa, Shingo Morishita, Yu Matsukura, Takashi Hirai, Atsushi Kudo, Kiyohide Fushimi. Trends in the surgical treatment for metastatic spinal tumor in Japanese administrative data between 2012 and 2020. Int J Clin Oncol. 2024.07; 29(7); 911-920

29. Shingo Morishita, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Kentaro Yamada, Yu Matsukura, Satoru Egawa, Jun Hashimoto, Takuya Takahashi, Takahisa Ogawa, Kiyohide Fushimi. Perioperative complications and cost of posterior decompression with fusion in thoracic spine for ossification of the posterior longitudinal ligament and ossification of the ligamentum flavum -a comparative study using a national inpatient database. BMC Musculoskelet Disord. 2024.07; 25(1); 513

30. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Aritoshi Yoshihara, Shoichi Hasegawa, Yasumasa Tokumoto, Ichiro Sekiya, Nobutake Ozeki. Steep medial posterior tibial slope angle and ramp lesion are independent risk factors for an increase in quantitatively measured pivot shift in patients with ACL-deficient knees. J Exp Orthop. 2024.07; 11(3); e70011

31. Shoichi Hasegawa, Riko Yamashita, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Tomomasa Nakamura, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya, Toshitaka Yoshii, Vicki Rosen, Kunikazu Tsuji. A novel methodology utilizing microchip implants to monitor individual activity and body temperature for assessing knee pain in group-housed rats. Sci Rep. 2024.07; 14(1); 16909

32. Yuichiro Machiyama, Takahisa Ogawa, Tomoji Matsuo, Jacqueline Sim, Jun Takeda, So Kameda, Itaru Morohashi, Ryo Onuma, Toshitaka Yoshii, Atsushi Okawa, Muneaki Ishijima. Association between smoking and duration of regional anesthesia - A propensity score matching study. J Orthop Sci. 2024.07; S0949-2658(24); 00138-6

33. Masahiro Tsutsumi, Seiya Kanazawa, Akimoto Nimura, Keiichi Akita, Shintarou Kudo. In vivo movement interrelationships among the medial meniscus, joint capsule, and semimembranosus during tibial rotation. Sci Rep. 2024.07; 14(1); 17022

34. Naoki Segi, Hiroaki Nakashima, Masaaki Machino, Sadayuki Ito, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Kota Watanabe, Satoshi Nori, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiko Hasegawa, Tomohiro Yamada, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Gen Inoue, Eiki Shirasawa, Kenichiro Kakutani, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Toshitaka Yoshii, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Tetsuro Ohba, Shoji Seki, Bungo Otsuki, Masayuki Ishihara, Masashi Miyazaki, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Epidemiology of Cervical Fracture/Cervical Spinal Cord Injury and Changes in Surgical Treatment Modalities in Elderly Individuals During a 10-year Period: A Nationwide Multicenter Study in Japan. Global Spine J. 2024.06; 14(5); 1583-1594

35. Jun Hashimoto, Yoto Oh, Kouhei Yamamoto, Toshitaka Yoshii, Kazuyuki Fukushima, Masanobu Kitagawa, Atsushi Okawa. Frequency and pathogenesis of periprosthetic atypical femoral fractures associated with total knee arthroplasty: A multicenter prospective study with complementary histopathological and biomechanical analysis. Injury. 2024.06; 55(6); 111136

36. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Junpei Matsuda, Tomomasa Nakamura, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Ryota Seki, Toyohiro Katsumata, Mitsuru Mizuno, Ken

Watanabe, Ichiro Sekiya, Kunikazu Tsuji, Yusuke Nakagawa. Presoaking Grafts in Vancomycin Does Not Impair Graft-Bone Healing in a Rat Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Model. Am J Sports Med. 2024.06; 52(7); 1784-1793

37. Yuki Funauchi, Satoshi Tsukushi, Hiroaki Hiraga, Akio Sakamoto, Toshiyuki Kunisada, Akihito Nagano, Koji Hiraoka, Kazutaka Kikuta, Tsukasa Yonemoto, Keisuke Ae, Akira Kawai, Tetsuya Sekita, Ryunosuke Machida, Yuta Sekino, Haruhiko Fukuda, Yoshinao Oda, Toshifumi Ozaki, Kazuhiro Tanaka, JCOG Bone and Soft Tissue Tumor Study Group. Randomized phase III trial of neo-adjuvant and adjuvant chemotherapy vs adjuvant chemotherapy alone for localized soft tissue sarcoma (NACLESS, JCOG2102). Journal of Clinical Oncology. 2024.06; 42(Issue 16 suppl);

38. Akane Ariga , Yuki Funauchi , Yukari Kobayashi , Koji Nagaoka , Yasuyoshi Sato , Shingo Sato , Toshitaka Yoshii , Keisuke Ae , Shunji Takahashi , Kazuhiro Kakimi. A potential novel therapeutic target for invasive soft tissue sarcoma detected through tumor immune microenvironment and genetic profile analyses. Journal of Clinical Oncology. 2024.06; 42(Issue 16 suppl); 11550

39. Fukino, K; Tsutsumi, M; Honda, E; Nimura, A; Iwanaga, J; Akita, K. Contribution of the complex comprising the masticatory fascia, disc, and capsule to temporomandibular joint stabilization: An anatomical study ANNALS OF ANATOMY-ANATOMISCHER ANZEIGER. 2024.06; 254; 152268

40. Naoto Watanabe, Takahisa Ogawa, Kazumasa Miyatake, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Hideyuki Koga, Toshitaka Yoshii. Increased bone resorption that outpaces increased bone formation: An important pathology of rapidly destructive coxarthrosis. J Orthop Res. 2024.05; 42(5); 1066-1073

41. Motonori Hashimoto, Takashi Hirai, Kenichiro Sakai, Kentaro Yamada, Kentaro Sakaeda, Jun Hashimoto, Satoru Egawa, Shingo Morishita, Yu Matsukura, Hiroyuki Inose, Yutaka Kobayashi, Hiroaki Onuma, Kyohei Sakaki, Masaki Tomori, Ichiro Torigoe, Miharu Ochi, Hiroki Ishiguro, Satoshi Tamura, Shuta Ushio, Tsuyoshi Yamada, Norihiko Miyake, Kazuo Kusano, Kazuyuki Otani, Shigeo Shindo, Yoshiyasu Arai, Atsushi Okawa, Toshitaka Yoshii. Comparison of Postoperative Complications and Outcomes in Anterior Cervical Spine Surgery: Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament Versus Cervical Spondylotic Myelopathy. Clin Spine Surg. 2024.05; 37(4); 170-177

42. Zili Zeng, Jun Qin, Liang Guo, Takashi Hirai, Zhiheng Gui, Tao Liu, Chen Su, Daiyang Yu, Mengmeng Yan. Prediction and Mechanisms of Spontaneous Resorption in Lumbar Disc Herniation: Narrative Review. Spine Surg Relat Res. 2024.05; 8(3); 235-242

43. Shota Hoshika, Yoshiaki Itoigawa, Norimasa Takahashi, Hiroyuki Sugaya, Akimoto Nimura. Elasticity assessment of flexor pronator muscles using shear wave elastography. JSES Int. 2024.05; 8(3); 577-581

44. Koji Tamai, Hidetomi Terai, Hiroaki Nakamura, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Sadayuki Ito, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Kota Watanabe, Junichi Yamane, Kazuki Takeda, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Akiyoshi Kuroda, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Neurological recovery rate and predictive factors of incomplete AIS grade C spinal cord injury in the older aged population. Spinal Cord. 2024.04; 62(4); 149-155

45. Yoshiaki Adachi, Shigenori Kawabata. SQUID magnetoneurography: an old-fashioned yet new tool for noninvasive functional imaging of spinal cords and peripheral nerves. Front Med Technol. 2024.04; 6; 1351905

46. Satoshi Nori, Kota Watanabe, Kazuki Takeda, Junichi Yamane, Hitoshi Kono, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Kei Ando, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Eiki Shirasawa,

Gen Inoue, Katsuhito Kiyasu, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Haruki Funao, Takashi Kaito, Toshitaka Yoshii, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Influence of the timing of surgery for cervical spinal cord injury without bone injury in the elderly: A retrospective multicenter study. J Orthop Sci. 2024.03; 29(2); 480-485

47. Takuya Takahashi, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Shingo Morishita, Satoru Egawa, Jun Hashimoto, Kunihiko Takahashi, Toshitaka Yoshii. Factors associated with the time required for CRP normalization in pyogenic spondylitis: A retrospective observational study. N Am Spine Soc J. 2024.03; 17; 100301

48. Yamada E, Umemoto T, Taguchi T, Onishi I, Yamamoto A, Tsukamoto K, Ibara T, Sasaki T, Kaburagi H, Maejima Y, Sasano T, Ohashi K, Yoshii T, Nimura A, Fujita K. Prevalence of amyloid deposition and cardiac amyloidosis in shoulder disease compared to carpal tunnel syndrome. JSES international. 2024.03; 8(2); 349-354

49. Koji Tamai, Hidetomi Terai, Hiroaki Nakamura, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Sadayuki Ito, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Kota Watanabe, Junichi Yamane, Kazuki Takeda, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Yoshinori Terashima, Ryosuke Hirota, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Akiyoshi Kuroda, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Impact of malnutrition on mortality and neurological recovery of older patients with spinal cord injury. Sci Rep. 2024.03; 14(1); 5853

50. Masahiko Sumitani, Atsushi Kimura, Takao Mochizuki, Toru Akiyama, Baasanjav Uranbileg, Takuya Takahashi, Takashi Hirai, Kentaro Hayakawa, Hirotaka Chikuda, Makoto Kurano. Cerebrospinal Fluid Lysophosphatidylcholine Species for Distinguishing Narrowing of the Lumbar Spine. World Neurosurg. 2024.03; 183; e571-e575

51. Yamamoto A, Yamada E, Ibara T, Nihey F, Inai T, Tsukamoto K, Waki T, Yoshii T, Kobayashi Y, Nakahara K, Fujita K. Using In-Shoe Inertial Measurement Unit Sensors to Understand Daily-Life Gait Characteristics in Patients With Distal Radius Fractures During 6 Months of Recovery: Cross-Sectional Study. JMIR mHealth and uHealth. 2024.03; 12; e55178

52. Yuta Tanaka, Toru Sasaki, Shigenori Kawabata, Jun Hashimoto, Hisato Higashikawa, Yuko Hoshino, Kensuke Sekihara, Yoshiaki Adachi, Koji Fujita, Akimoto Nimura, Taishi Watanabe, Yuki Miyano, Saeri Kaminaka, Yusuke Yamamoto, Toshitaka Yoshii. Assessing ulnar neuropathy at the elbow using magnetoneurography. Clin Neurophysiol. 2024.03; 161; 180-187

53. Nagoshi Narihito, Fujiwara Yasushi, Iizuka Yoichi, Chikuda Hirotaka, Kanchiku Tsukasa, Furuya Takeo, Yoshii Toshitaka, Wakao Norimitsu, Development Committee for the Clinical Practice Guidelines on the Management of Cervical Spondylotic Myelopathy . The Essence of Clinical Practice Guidelines for Cervical Spondylotic Myelopathy, 2020. Spine Surg Relat Res. 2024.03; 8(2); 119-132

54. Cheng Qian, Nobuaki Ito, Kunikazu Tsuji, Shingo Sato, Katsushi Kikuchi, Toshitaka Yoshii, Toshio Miyata, Yoshinori Asou. A PAI-1 antagonist ameliorates hypophosphatemia in the Hyp vitamin D-resistant rickets model mouse. FEBS Open Bio. 2024.02; 14(2); 290-299

55. Yohei Tomaru, Makoto Kamegaya, Takashi Saisu, Reiko Murakami, Akitoshi Sakuma, Yasuhiro Oikawa, Jun Kakizaki, Yuko Segawa, Yuta Tsukagoshi, Hiroshi Kamada, Masashi Yamazaki. Reapplication of the Pavlik Harness for Treatment of Developmental Dysplasia of the Hip After Initial Pavlik Harness Failure. J Pediatr Orthop. 2024.02; 44(2); 69-75

56. Shimura H, Wakabayashi Y, Yamada T, Shirakawa K, Sato T, Fujita K, Niizeki Y, Suzuki S, Kaburagi H, Suzuki H, Nimura A. Radiographic and clinical comparisons between loose-fit and press-fit stems in monopolar radial head arthroplasty for comminuted radial head fractures. Journal of orthopaedic science : official journal of the Japanese Orthopaedic Association. 2024.02;

57. Ryosuke Hirota, Yoshinori Terashima, Hirofumi Ohnishi, Toshihiko Yamashita, Noriaki Yokogawa, Takeshi Sasagawa, Kei Ando, Hiroaki Nakashima, Naoki Segi, Toru Funayama, Fumihiko Eto, Akihiro Yamaji, Kota Watanabe, Junichi Yamane, Kazuki Takeda, Takeo Furuya, Atsushi Yunde, Hideaki Nakajima, Tomohiro Yamada, Tomohiko Hasegawa, Hidenori Suzuki, Yasuaki Imajo, Shota Ikegami, Masashi Uehara, Hitoshi Tonomura, Munehiro Sakata, Ko Hashimoto, Yoshito Onoda, Kenichi Kawaguchi, Yohei Haruta, Nobuyuki Suzuki, Kenji Kato, Hiroshi Uei, Hirokatsu Sawada, Kazuo Nakanishi, Kosuke Misaki, Hidetomi Terai, Koji Tamai, Eiki Shirasawa, Gen Inoue, Kenichiro Kakutani, Yuji Kakiuchi, Katsuhito Kiyasu, Hiroyuki Tominaga, Hiroto Tokumoto, Yoichi Iizuka, Eiji Takasawa, Koji Akeda, Norihiko Takegami, Haruki Funao, Yasushi Oshima, Takashi Kaito, Daisuke Sakai, Toshitaka Yoshii, Tetsuro Ohba, Bungo Otsuki, Shoji Seki, Masashi Miyazaki, Masayuki Ishihara, Seiji Okada, Shiro Imagama, Satoshi Kato. Prognostic Factors for Respiratory Dysfunction for Cervical Spinal Cord Injury and/or Cervical Fractures in Elderly Patients: A Multicenter Survey. Global Spine J. 2024.01; 14(1); 101-112

58. Muro S, Kim J, Nimura A, Tsukada S, Akita K. Morphometric Analysis of the Tibial Attachment Shape of the Anterior Cruciate Ligament and Its Relationship With the Location of the Anterior Horn of the Lateral Meniscus. The American journal of sports medicine. 2024.01; 52(3); 3635465231219978-690

59. Aritaki K, Nakagawa K, Yoshimi K, Yoshizawa A, Hasegawa S, Yanagida R, Hashimoto M, Hirai T, Yamaguchi K, Nakane A, Yoshii T, Okawa A, Tohara H. Kinematic analysis of chewing and swallowing function after cervical spine surgery. European spine journal : official publication of the European Spine Society, the European Spinal Deformity Society, and the European Section of the Cervical Spine Research Society. 2024.01; 33(1); 243-252

60. Takashi Hirai, Satoru Egawa, Kenichiro Sakai, Hiroaki Onuma, Jun Hashimoto, Kurando Utagawa, Shingo Morishita, Kentaro Yamada, Yu Matsukura, Yoshiyasu Arai, Toshitaka Yoshii. Novel Technique of Anterior Foraminotomy Based on Augmented Reality with Computed Tomography Navigation System: A Case Report. Spine Surg Relat Res. 2024.01; 8(1); 114-117

61. Akiko Yamamoto, Koji Fujita, Eriku Yamada, Takuya Ibara, Fumiyuki Nihey, Takuma Inai, Kazuya Tsukamoto, Yoshiyuki Kobayashi, Kentaro Nakahara, Atsushi Okawa. Gait characteristics in patients with distal radius fracture using an in-shoe inertial measurement system at various gait speeds. Gait Posture. 2024.01; 107; 317-323

62. Akane Ariga, Taisuke Tanizawa, Shingo Sato, Yuki Funauchi, Seiichi Matsumoto, Keisuke Ae. Bipolar Head Perforation With Rhabdomyosarcoma of the Thigh: A Case Report With Literature Review. Cancer Diagn Progn. 2024.01; 4(1); 71-76

63. Yang Yang, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Ryohei Takada, Mai Katakura, Kunikazu Tsuji, Ichiro Sekiya, Kazumasa Miyatake. Characteristics of the synovial microenvironment and synovial mesenchymal stem cells with hip osteoarthritis of different bone morphologies. Arthritis Res Ther. 2024.01; 26(1); 17

64. Masahiro Tsutsumi, Akari Saiki, Isao Yamaguchi, Akimoto Nimura, Hajime Utsunomiya, Keiichi Akita, Shintarou Kudo. In vivo interrelationships between the gluteus minimus and hip joint capsule in the hip internal rotation position with flexion. BMC Musculoskelet Disord. 2024.01; 25(1); 87

1. 榎 政行, 宮武 和正, 古賀 英之, 高田 亮平, 天野 祐輔. 人工股関節全置換術における寛骨臼側自家骨移植の有用性検討 日本人工関節学会誌. 2024.12; 54; 179-180

2. 二村 昭元, 星加 昭太, 深井 敦大. 【上腕骨外側・内側上顆炎-診療の基本と最近の進歩-】解剖学的観点からみた上腕骨外側・内側上顆炎の病態 関節外科. 2024.08; 43(8); 793-799

3. 神 一敬, 植松 明和, 内山 真, 川合 謙介, 川端 茂徳, 小林 勝弘, 酒田 あゆみ, 高橋 修, 内藤 寛, 花島 律子, 藤原 俊之, 矢部 博興, 園生 雅弘. 臨床神経生理研修カリキュラムが定める到達目標グレードの妥当性の検討 アンケート調査およびカリキュラム確定に至る過程 臨床神経生理学. 2024.04; 52(2); 95-111

4. 加来 拓実, 王 耀東, 天野 祐輔, 吉井 俊貴. 大腿骨骨幹部病的骨折・切迫骨折に対する髄内釘固定術後の放射線照射適応基準の検討 骨折. 2024.03; 46(2); 484-487

5. 土屋 正光, 長瀬 寅, 立石 智彦, 中川 照彦, 平井 高志. 大相撲力士における頸部傷害予防の現状 整形・災害外科. 2024.02; 67(2); 189-198

6. 王 耀東，吉井 俊貴. 転倒衝撃吸収床材の脆弱性大腿骨近位部骨折予防効果を検証する CT 有限要素解析モデルの開発と改良 骨折. 2024.01; 46(1); 1

7. 間庭 大智, 川端 茂徳, 植田 穣, 来栖 宏二, 荒船 龍彦. 非接触呼吸モニタシステムを用いた幼児の睡眠時無呼吸イベントの計測と解析 日本小児呼吸器学会雑誌. 2024.01; 35(1); 1-7

8. 高橋 雅人, 今釜 史郎, 重松 英樹, 舩場 真裕, 後迫 宏紀, 中西 一義, 町野 正明, 谷口 愼一郎, 藤原 靖, 小林 和克, 山本 直也, 山田 圭, 寒竹 司, 岩崎 博, 和田 簡一郎, 田所 伸朗, 安藤 圭, 安田 明正, 橋本 淳, 森戸 伸治, 黒須 健太, 高谷 恒範, 川端 茂徳, 安藤 宗治, 松山 幸弘, 吉田 剛. 腰仙椎手術における脊髄モニタリングの有効性　日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリング委員会 6,196 例の解析 脊髄機能診断学. 2024.01; 44(1); 45-49

9. 吉田 剛, 後迫 宏紀, 今釜 史郎, 小林 和克, 安藤 宗治, 川端 茂徳, 山本 直也, 山田 圭, 高橋 雅人, 寒竹 司, 和田 簡一郎, 田所 伸朗, 藤原 靖, 谷口 愼一郎, 岩崎 博, 重松 英樹, 舩場 真裕, 安田 明正, 橋本 淳, 森戸 伸治, 高谷 恒範, 中西 一義, 竹下 克志, 松山 幸弘. 脊柱変形矯正手術における術中神経根障害　JSSR モニタリング委員会多施設研究 脊髄機能診断学. 2024.01; 44(1); 44-41

10. 重松 英樹, 町野 正明, 小林 和克, 吉田 剛, 舩場 真裕, 森戸 伸治, 高橋 雅人, 川端 茂徳, 山田 圭, 寒竹 司, 藤原 靖, 谷口 愼一郎, 岩崎 博, 田所 伸朗, 和田 簡一郎, 山本 直也, 安田 明正, 後迫 宏紀, 橋本 淳, 安藤 宗治, 松山 幸弘, 今釜 史郎. 国内術中脊髄モニタリングの実態　JSSR モニタリング WG 主導アンケート調査 脊髄機能診断学. 2024.01; 44(1); 28-33

11. 塚田 幸行, 室生 暁, 二村 昭元, 秋田 恵一. 【膝関節のスポーツ障害】膝関節のスポーツ障害を理解するための解剖学的知識 臨床スポーツ医学. 2024.01; 41(1); 2-6

[書籍等出版物]

1. 瀬川 裕子, 神野 哲也. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「股関節の発育 」. 金芳堂, 2024.10 (ISBN : 978-4-7653-2012-2)

2. 瀬川 裕子, 久保 俊一. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「ギプス療法」. 金芳堂, 2024.10

3. 瀬川 裕子, 神野 哲也. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「Pemberton 骨盤骨切り術」. 金芳堂, 2024.10

4. 瀬川 裕子, 神野 哲也. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「Perthes 病」. 金芳堂, 2024.10

5. 瀬川 裕子, 神野 哲也. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「単純性股関節炎」. 金芳堂, 2024.10

6. 瀬川 裕子, 神野 哲也. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「若年性特発性関節炎」. 金芳堂, 2024.10

7. 瀬川 裕子, 神野 哲也. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「特発性股関節軟骨溶解症」. 金芳堂, 2024.10

8. 瀬川 裕子, 久保 俊一. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「股関節でよく用いられる X 線学的指標」. 金芳堂, 2024.10

9. 瀬川 裕子, 久保 俊一. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「股関節でよく用いられる分類」. 金芳堂, 2024.10

10. 瀬川 裕子, 神野 哲也. 股関節学 第 2 版 菅野伸彦 · 久保俊一総編集「小児の化膿性股関節炎」. 金芳堂, 2024.10

11. 秋田 恵一, 二村 昭元. 運動器臨床解剖学ーチーム秋田の「メゾ解剖学」基本講座ー. 全日本病院出版会, 2024.05 (ISBN : 978-4-86519-825-6)

12. 瀬川 裕子. 最新ガイドライン準拠 小児科診断 · 治療指針改訂第 3 版, 加藤元博編集　26 章 骨 · 関節疾患「Perthes 病」　. 中山書店, 2024.04 (ISBN : 978-4-521-75075-0)

13. 王 耀東. 整形外科 Surgical Technique vol.14 no.1【脛骨骨幹部骨折の手術治療　基本を知って臨む】. メディカ出版, 2024.02

[総説]

1. Akimoto Nimura, Haruhiko Shimura, Shota Hoshika, Atsuhiro Fukai, Keiichi Akita. Elbow anatomy in perspective of joint capsule and surrounding aponeuroses: a narrative review. JSES Int. 2024.05; 8(3); 654-660

1. 加来 拓実, 王 耀東. 【見逃さない　間違えない骨 · 軟部腫瘍と骨転移】悪性腫瘍骨転移患者における非定型大腿骨骨折の診断と治療　best practice を目指して 関節外科. 2024.12; 43(12); 1297-1304
2. 瀬川 裕子. 周産期の画像診断 第 3 版 新生児編 II.X 線診断 A. 単純 X 線診断 (正常像と異常像) 骨 · 関節 周産期医学. 2024.12; 54(増刊号); 403-406
3. 坂井 顕一郎, 吉井 俊貴. 頸椎人工椎間板置換術　導入と短中期成績 脊髄外科. 2024.12; 38(3); 203-208
4. 吉井 俊貴, 橋本 泉智. 境界領域　知っておきたい　硬膜異常を伴う脳表ヘモジデリン沈着症 臨床整形外科. 2024.10; 59(10); 1240-1246
5. 志村 治彦, 藤田 浩二, 二村 昭元. 【こどもの手 · 肘外来】小児上腕骨顆上骨折　治療前に知っておきたいこと Orthopaedics. 2024.09; 37(9); 41-47
6. 小川 貴久, 真下 翔太, 石橋 英明, 伏見 清秀, 吉井 俊貴, 神野 哲也, 大川 淳. 【大腿骨近位部骨折における二次性骨折の予防】大腿骨近位部骨折患者の予後予測とリハビリテーション 整形 · 災害外科. 2024.07; 67(8); 963-970
7. 高橋 拓也, 平井 高志, 吉井 俊貴. 専門医のための症例問題トレーニング　脊椎 · 脊髄疾患 整形外科. 2024.07; 75(8); 852-856
8. 有馬 秀幸, 相澤 俊峰, 池上 章太, 石井 賢, 井上 玄, 今釜 史郎, 上田 明希, 大鳥 精司, 新村 千江, 中川 幸洋, 中島 宏彰, 藤田 順之, 藤田 卓仙, 細金 直文, 八木 満, 山田 浩司, 吉井 俊貴, 渡邊 慶, 種市 洋, 筑田 博隆, 中村 雅也, 松山 幸弘, 波呂 浩孝, 金村 徳相, 日本脊椎脊髄病学会データベース委員会. 【大規模レジストリーによる整形外科リアルワールドエビデンス構築】日本脊椎脊髄病学会レジストリー (JSSR-DB) の現状と将来への展望 臨床整形外科. 2024.07; 59(7); 897-906
9. 王 耀東. 経肘頭脱臼骨折に対する手術療法 整形外科 Surgical Technique 別冊【肘の外傷　診断 · 手術 · 保存療法】. 2024.06; 146-153
10. 杉浦 沙羅, 王 耀東. 【外傷 · 治療 · 看護の必須観察ポイント「超」まるごと骨折　これ一冊】(第 6 章) 骨折の合併症　疼痛 · 複合性局所疼痛症候群 整形外科看護. 2024.06; (2024 年 夏季増刊); 208-212
11. 吉井 俊貴, 森下 真伍. 【胸椎後縦靱帯骨化症-手術治療の進歩】胸椎後縦靱帯骨化症に対する前方除圧固定術と後方除圧固定術の周術期合併症の比較 脊椎脊髄ジャーナル. 2024.06; 37(6); 429-437
12. 進藤 重雄, 大谷 和之, 草野 和生, 三宅 論彦, 中井 修, 吉井 俊貴. 【胸椎後縦靱帯骨化症-手術治療の進歩】胸椎後縦靱帯骨化症に対する前方進入脊髄前方除圧術 (骨化浮上術) 脊椎脊髄ジャーナル. 2024.06; 37(6); 415-427
13. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 大川 淳. 【整形外科医療安全のすべて】(III 章) 周術期の医療安全対策　頸椎前方手術気道管理 整形外科. 2024.05; 75(6); 607-611
14. 天野 祐輔, 王 耀東. 【インプラント周囲骨折の治療-成功へ導く最新の知見-】特殊なインプラント周囲骨折 関節外科. 2024.04; 43(4); 454-459
15. 川端 茂徳, 橋本 淳, 佐々木 亨, 吉井 俊貴. 神経磁界測定による脊髄 · 末梢神経機能評価 脊髄外科. 2024.04; 38(1); 12-16
16. 加来 拓実. 【脛骨骨幹部骨折の手術治療　基本を知って臨む】脛骨骨幹部骨折の髄内釘治療　マルアライメントを回避するには 整形外科 Surgical Technique. 2024.02; 14(1); 36-43
17. 山田 哲也, 川端 茂徳, 佐々木 亨. 【ここまで来た!胸郭出口症候群の診断と治療】神経磁界計測による胸郭出口症候群の神経機能障害部位の可視化 臨床整形外科. 2024.02; 59(2); 167-173
18. 高橋 拓也, 吉井 俊貴. びまん性特発性骨増殖症 (DISH) の画像所見と強直性脊椎炎との類似点 · 相違点 リウマチ科. 2024.02; 71(2); 188-194
19. 江川 聡, 吉井 俊貴. 卒後研修講座　脊柱靱帯骨化症の最新のエビデンス 整形外科. 2024.02; 75(2); 149-153
20. 金村 徳相, 上田 明希, 有馬 秀幸, 山田 浩司, 今釜 史郎, 吉井 俊貴, 大鳥 精司, 筑田 博隆, 渡辺 雅彦, 松山 幸弘, 種市 洋. 整形外科領域のレジストリーの現況と今後の展望-手術安全性の向上を目指して-　日本脊椎脊髄病学会レジストリー (JSSR-DB) の現状と今後の展望 日本整形外科学会雑誌. 2024.01; 98(1); 25-34

[講演 · 口頭発表等]

1. Yoto Oh. Tips and tricks for reduction techniques for diaphyseal injuries with articular extension. AO Trauma Masters Course - Lower Extremity with Anatomical Specimens 2024.11.07 Nagoya
2. Yoto Oh. Comminuted distal fibular and medial malleolus fracture. AO Trauma Masters Course - Lower Extremity with Anatomical Specimens 2024.11.07
3. Yoto Oh, Kouhei Yamamoto, Takumi Kaku, Satoru Egawa, Atsushi Okawa, Toshitaka Yoshii. Development of a CT-based finite element analysis model for verifying the effect of shock-absorbing floors on fragility hip fracture prevention: an industry-academia-government collaboration project in a super-aging country. 40th OTA Annual Meeting 2024 2024.10.23
4. Akimoto Nimura, Keiichi Akita. Anatomical Study about Stabilizing Structures in the Trapeziometacarpal Joint. The 21st Congress of the International Federation of Associations of Anatomists (IFAA) 2024.09.08 Gwangju, Korea
5. Yoto Oh. Principles of external fixation. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2024.08.22 Yokohama
6. Yoto Oh. Emergency management of pelvic fractures—a critical skill can save lives. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2024.08.22 Yokohama
7. Yoto Oh. Perioperative infection—prevention, evaluation and management. AO Trauma Course - Basic Principles of Fracture Management 2024.08.22 Yokohama
8. Toshitaka Yoshii. Treatment Strategies for Metastatic Spine Tumors：Trends of Surgeries for Metastatic Spine Tumors from Japanese In-Hospital Database. Spine Across the Sea 2024 2024.07.31 Kauai, Hawaii
9. Yamada K, Toba M, Egawa S, Morishita S, Matsukura Y, Hirai T, Fushimi K, Yoshii T, . Trends in the surgical treatment for metastatic spinal tumor in Japanese administrative data between 2012 and 2020.. Spine Across the Sea 2024 2024.07.28 Kauai, Hawaii
10. Kentaro Yamada, Hiromitsu Toyoda, Takahiko Hyakuamchi, Shinji Takahashi, Akinobu Suzuki, Hidetomi Terai, Yuichiro Abe, Hiroaki Nakamura . Less-Invasive Decompression Procedures Can Reduce Risk of Reoperation for Lumbar Spinal Stenosis With Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis Extended to the Lumbar Segment Risk factors for postoperative unexpected ambulatory status after spinal surgery for metastatic spinal tumor . Spine Across the Sea 2024 2024.07.28 Kauai, Hawaii
11. Toru Sasaki, Kazuya Tsukamoto, Koji Fujita. Comparison between Outcomes of Carpal Tunnel Release and Opponensplasty for Severe Carpal Tunnel Syndrome. Federation of European Societies for Surgery of the Hand (FESSH 2024) 2024.06.26 Rotterdam, Netherlands
12. Kazuya Tsukamoto, Toru Sasaki, Koji Fujita. Carpal tunnel syndrome detection using smartphone video analysis and machine learning. Federation of European Societies for Surgery of the Hand (FESSH 2024) 2024.06.26 Rottrdam, Netherlands
13. Toshitaka Yoshii. Surgical Treatment of Cervical OPLL. 17th Korean Cervical Spine Research Society 2024.06.08 Seoul, Korea
14. Akane Ariga, Yuki Funauchi, Yukari Kobayashi, Koji Nagaoka, Yasuyoshi Sato, Shingo Sato, Toshitaka Yoshii, Keisuke Ae, Shunji Takahashi, Kazuhiro Kakimi. A potential novel therapeutic target for invasive soft tissue sarcoma detected through tumor immune microenvironment and genetic profile analyses.. 2024 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting 2024.06.01 chicago IL USA
15. Yuki Funauchi, Satoshi Tsukushi, Hiroaki Hiraga, Akio Sakamoto, Toshiyuki Kunisada, Akihito Nagano, Koji Hiraoka, Kazutaka Kikuta, Tsukasa Yonemoto, Keisuke Ae, Akira Kawai, Tetsuya Sekita, Ryunosuke Machida, Yuta Sekino, Haruhiko Fukuda, Yoshinao Oda, Toshifumi Ozaki, Kazuhiro Tanaka, JCOG Bone and Soft Tissue Tumor Study Group. Randomized phase III trial of neo-adjuvant and adjuvant chemotherapy vs adjuvant chemotherapy alone for localized soft tissue sarcoma (NACLESS, JCOG2102).. 2024 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting 2024.06.01 chicago IL USA
16. Hisato Higashikawa, Shigenori Kawabata, Yuta Tanaka, Miho Akaza, Yoshiaki Adachi, Taishi Watanabe, Yuki Miyano, Saeri Kaminaka, Yusuke Yamamoto, Toshitaka Yoshii. Evaluation of upper lumbar neural activity using magnetoneurography. 19th Asian Oceanian Congress of Neurology 2024.05.29 Tokyo

17. Yamada K, Toba M, Egawa S, Morishita S, Matsukura Y, Hirai T, Fushimi K, Yoshii T, . Trends in the surgical treatment for metastatic spinal tumor in Japanese administrative data between 2012 and 2020.. ISSLS 2024.05.27 Milano

18. Kentaro Yamada, Hiromitsu Toyoda, Takahiko Hyakuamchi, Shinji Takahashi, Akinobu Suzuki, Hidetomi Terai, Yuichiro Abe, Hiroaki Nakamura . Less-Invasive Decompression Procedures Can Reduce Risk of Reoperation for Lumbar Spinal Stenosis With Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis Extended to the Lumbar Segment: Analysis of Two Retrospective Cohorts . ISSLS 2024.05.27 Milano

19. Toshitaka Yoshii. Pathophysiology of cervical OPLL . The 97th Annual Meeting of the Japanese Orthopaedic Association 2024.05.25 Fukuoka

20. Stephens Byron F., Waddell William H., Weisenthal Benjamin M., Golinvaux Nicholas, Henry Abigal L., Pennings Jacquelyn, Wanner John P., Gupta Rishabh, Toshitaka Yoshii, Zhou Feifei. Comparative utilization of laminoplasty in the United States and Japan. The 97th Annual Meeting of the Japanese Orthopaedic Association 2024.05.25 Fukuoka

21. Yoto Oh, Kouhei Yamamoto, Atsushi Okawa, Toshitaka Yoshii. Development of a CT-based finite element analysis model for verifying the effect of shock-absorbing floors on hip fracture prevention. 50th Annual Meeting of the Korean Fracture Society 2024.04.26 Busan, Korea

22. Yoto Oh. Screws—Form and Function . AO Trauma Webinar-Resident 2024.04.12

23. Go Uesugi, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Jun Hashimoto, Masashi Yamazaki, Atsushi Okawa, Yoshiharu Kawaguchi . The influence of the coexistence of ankylosing spinal disorders in patients with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament on health-related quality of life . 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.23 SINGAPORE

24. Jun Hashimoto, Shigenori Kawabata, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Satrou Egawa, Toshitaka Yoshii . Incidence and Timing of Spontaneous Electromyographic Activity Alerts during Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament Surgery: A Prospective Observational Study. 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.23 SINGAPORE

25. Motonori Hashimoto, Toshitaka Yoshii, Satoru egawa, Takashi Hirai, Kenichiro Sakai. Comparing CSM and OPLL for Complications after Anterior Cervical Spine Surgery. 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.23 SINGAPORE

26. Kanji Mori, Masayuki Miyagi, Hiroaki Nakashima, Tsutomu Endo, Kenichiro Sakai, Satoshi Kato, Satoshi Maki, Shunji Tsutsui, Norihiro Nishida, Kazuo Kusano, Toshitaka Yoshii, Yoshiharu Kawaguchi, Hiroshi Takahashi, Masao Koda, Masashi Yamazaki, Japanese Multicenter Research Organization for Ossification of the Spinal Ligament. Return to work of patients after cervical OPLL surgery based on a multicenter survey. 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.23 SINGAPORE

27. Yoshii Toshitaka. Special Attention to Cervical Myelopathy Management Strategies in OPLL. 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.22 SINGAPORE

28. Kenichiro Sakai, Yoshiyasu Arai, Fujiki Numano, Masaki Tomori, Kyohei Sakaki, Hiroaki Onuma , Yutaka Kobayashi , Toshitaka Yoshii . Is a Lamina Spacer Necessary in Cervical Laminoplasty for Compressive Myelopathy with Non-kyphotic Alignment? - Comparison Between Kirita-Miyazaki Method and Metal Spacer Method. 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.22 SINGAPORE

29. Hiroaki Onuma, Kenichiro Sakai, Fujiki Numano, Masaki Tomori, Kyohei Sakaki, Yutaka Kobayashi, Yoshiyasu Arai, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Satoshi Egawa, Motonori Hashimoto, Toshitaka Yoshii, Shuta Ushio, Shigeo Shindo . Occurrence and course of postoperative nerve palsy in anterior cervical spine surgery: a multicenter study of 1434 cases -. 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.22 SINGAPORE

30. Yu Matsukura, Takashi Hirai, Shingo Morishita, Satoru Egawa, Kentaro Yamada, Jun Hashimoto, Takuya Takahashi, Motonori Hashimoto, Go Uesugi, Toshitaka Yoshii. Investigation of Risk Factors of C5 Palsy After Anterior Cervical Spine Surgery. 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.22 SINGAPORE

31. Takashi Hirai, Satoru Egawa, Hiroaki Onuma, Yu Matsukura, Shingo Morishita, Kentaro Yamada, Jun Hashimoto, Takuya Takahashi, Kenichiro Sakai, Toshitaka Yoshii.. Novel technique of anterior decompression based on Augmented Reality with computed tomography navigation system. 14th Annual Meeting CSRS-AP· 7th Annual Meeting SSS 2024.03.22 SINGAPORE

32. Yoto Oh. Complex malleolar fractures. AO Trauma Course - Advanced Principles of Fracture Management 2024.02 Yokohama

33. Yoto Oh. Management of multiple-injured patients (ETC/DCO/EAC). AO Trauma Course - Advanced Principles of Fracture Management 2024.02 Yokohama

1. 平井 高志. コンドリアーゼの治療と実際. 腰椎椎間板ヘルニア エキスパートセミナー 2024.12.18 高田馬場

2. 吉井 俊貴. 脊椎脊髄疾患の手術治療と神経障害性疼痛. 第 17 回岡山運動器フォーラム 2024.12.14 岡山市

3. 山口 玲子, et.al.. Kniest 骨異形成症の親子例. 第 36 回 日本整形外科学会骨系統疾患研究会 2024.12.14 福岡

4. 雨宮 えりか, 柿崎 潤, 及川 泰宏, 瀬川 裕子, 佐久間 昭利, 川口 大貴, 都丸 洋平, 西須 孝, 亀ヶ谷 真琴. 大腿骨頭すべり症に対する大腿骨転子下骨切り術（POTOF）の適応限界は？ -長期予後予測因子からの推測-. 第 35 回 日本小児整形外科学会学術集会 2024.12.14 福岡

5. 三村 優佳, 柿崎 潤, 及川 泰宏, 佐久間 昭利, 瀬川 裕子, 川口 大貴, 都丸 洋平, 西須 孝, 亀ヶ谷 真琴. 座骨結節裂離骨折に対して側方アプローチにより手術加療を行った 1 例. 第 35 回 日本小児整形外科学会学術集会 2024.12.14 福岡

6. 及川 泰宏, 西須 孝, 柿崎 潤, 佐久間 昭利, 川口 大貴, 瀬川 裕子, 雨宮 えりか, 三村 優佳, 都丸 洋平, 亀ヶ谷 真琴. Sprengel 変形に対する Wilkinson 変法（Y-osteotomy）. 第 35 回 日本小児整形外科学会学術集会 2024.12.14 福岡

7. 川口 大貴, 柿崎 潤, 及川 泰宏, 佐久間 昭利, 雨宮 えりか, 瀬川 裕子. 先天性下腿偽関節症に生じた足関節外反変形に対する手術治療の経験. 第 35 回 日本小児整形外科学会学術集会 2024.12.14 福岡

8. 瀬川 裕子, 星野 恭子. 瀬川病患者の整形外科受診歴についての報告 ー全国調査をふまえて—. 第 35 回 日本小児整形外科学会学術集会 2024.12.13 福岡

9. 佐久間 昭利, 柿崎 潤, 及川 泰宏, 川口 大貴, 雨宮 えりか, 三村 優佳, 瀬川 裕子, 都丸 洋平, 西須 孝, 亀ヶ谷 真琴. 当院における内外反膝に対する Guided growth 手術の成績. 第 35 回 日本小児整形外科学会学術集会 2024.12.13 福岡

10. 平井 高志. 頚椎前方手術のコツと教え方. メドトロニクス スパインセミナー 2024.12.07

11. 吉井 俊貴. 脊椎脊髄疾患 診断と治療のピットフォール. 第 257 回新潟整形外科研究会 2024.12.01 新潟市

12. 平井 高志, 高橋 拓也, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 小西 隆允, 平泉 裕, 山縣 正庸, 大鳥 精司. 強い腰痛を有する腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法の成績 多施設共同研究. 第 17 回 日本運動器疼痛学会 2024.11.30 東京

13. 二村 昭元. 鎖骨の発生と進化、肩鎖関節の解剖. 第 15 回肩関節機能研究会 2024.11.30 千代田区, 東京都

14. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 工藤 篤, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頚椎前方手術後の気道閉塞に対する医療従事者の action protocol の提案 ー症例報告を中心としたシステマティック レビュー. 第 19 回 医療の質 · 安全学会学術集会 2024.11.30 パシフィコ横浜

15. 上原 佳代子, 山田 賢太郎, 塚田 さよみ, 小野 和代, 鳥羽 三佳代, 工藤 篤. 硬膜外麻酔後の看護師による観察の院内統一プロトコール策定の取り組み ～硬膜外麻酔後の硬膜外血腫による下肢麻痺症例の経験から～. 第 19 回 医療の質 · 安全学会学術集会 2024.11.30 パシフィコ横浜

16. 平井 高志. 頚椎領域における神経障害性疼痛への対応. Orthopedics Web Seminar 2024.11.27 目黒

17. 小沼 博明. 頚椎疾患の診断と治療. 旭化成社内講演会 2024.11.25

18. 二村 昭元. 運動器の解剖　最近の知見. 東京柔道整復専門学校 同窓会研究会 令和 6 年度秋の研究会 2024.11.23 練馬区, 東京都

19. 二村 昭元. 運動学的呼吸の可視化. 東京柔道整復専門学校 同窓会研究会 令和 6 年度秋の研究会 2024.11.23 練馬区, 東京都

20. 二村 昭元. 肩関節の解剖ー最近の知見ー. 山形整形外科研究会　肩関節セミナー 2024.11.22 山形市, 山形県

21. 平井 高志. 全脊柱 CT における脊柱靭帯骨化の研究成果と現在の進捗 . 2024 年度 第 2 回 OPLL 班会議 2024.11.22 茗荷谷

22. 小沼 博明. AMED「後縦靱帯骨化症患者レジストリの構築」研究報告. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業　脊柱靭帯骨化症に関する調査研究　令和６年度 第２回 班会議 2024.11.22

23. 平井 高志. MiroCens（RCT）研究の結果報告. Miro-Cens 結果報告会 2024.11.18 東京

24. 吉井 俊貴. Duropathy に伴う脳表ヘモジデリン沈着症と神経障害性疼痛. 脳脊髄液漏出症治療講演会 2024.11.14 高松市

25. 吉井 俊貴. 脊椎 · 脊髄に対する手術治療 —疼痛治療を含めて—. 第 25 回 Aichi Prospect 21 2024.11.09 愛知

26. 橋本 淳, 川端茂徳, 平井高志, 吉田 剛, 竹下 克志, 吉井 俊貴. 頚椎後縦靭帯骨化症手術における自発筋電図の発生率や発生時期の術式による違い. 第 59 回日本脊髄障害医学会 2024.11.08 名護

27. 吉井 俊貴, 橋本 泉智, 江川 聡, 橋本 淳, 平井 高志. 脊髄腹側硬膜欠損を伴う脳表ヘモジデリン沈着症 -50 例の画像解析-. 第 59 回 日本脊髄障害医学会 2024.11.08 名護市、沖縄

28. 江川 聡, 橋本 泉智, 平井 高志, 吉井 俊貴. 若年性硬膜下血腫は 20 年後に脳表ヘモジデリン沈着症へ移行し得る—5 症例が示す脳脊髄液漏出症の真の病態—. 第 59 回 日本脊髄障害医学会 2024.11.08 名護市、沖縄

29. 岩渕 龍彦, 橋本 泉智, 江川 聡, 橋本 淳, 吉井 俊貴. 脊椎術後に発生した偽性髄膜瘤を伴う医原生脳表ヘモジデリン沈着症 4 例報告. 第 59 回 日本脊髄障害医学会 2024.11.08 名護市、沖縄

30. 小川 晃司，加藤 剛，吉井 俊貴. 医師の働き方改革における脊椎術後合併症への取り組み～診療看護師導入効果の検討～. 第 59 回日本脊髄障害医学会 2024.11.08 名護市、沖縄

31. 橋本 泉智, 江川 聡, 岩渕 龍彦, 橋本 淳, 吉井 俊貴. 4D dynamic CT Myelography は Duropathies の硬膜欠損孔同定における強力な診断 tool である. 第 59 回 日本脊髄障害医学会 2024.11.07 名護市、沖縄

32. 鳥越 一郎，大川 淳，吉井 俊貴. 椎体破壊の著しい骨粗鬆症椎体骨折に対する後方固定と CPC による椎体形成術を併用した 3 例. 第 59 回日本脊髄障害医学会 2024.11.07 名護市、沖縄

33. 加藤 剛，吉井 俊貴. 食道裂孔ヘルニアを併発した DISH 骨折に対する検討. 第 59 回日本脊髄障害医学会 2024.11.07 名護市、沖縄

34. 平井 高志. 脊椎診療 · 研究道半ば 安全性の追求と新しい疼痛治療の開発. 第 48 回 千葉県整形外科医会総会 2024.11.02 千葉大学

35. 吉井 俊貴. 脊椎脊髄疾患 診断と治療の pitfall. 第 15 回 京都運動器アップデートセミナー 2024.11.01 京都

36. 吉井 俊貴. 頚椎前方手術 -固定術から人工椎間板まで- 疼痛治療を含めて. 第 117 回 会津整形外科医会 学術講演会 2024.10.30 福島

37. 平井 高志. 当科の脊椎疾患に対する治療戦略：粗鬆脊椎と脊柱靭帯骨化症. 第 51 回 地域医療講演会 2024.10.30 浦安

38. 二村 昭元, 杉浦 沙羅, 中澤 正孝, 望月 智之, 秋田 恵一. 肩鎖関節周辺の解剖: 肩甲帯の支持性という観点. 第 51 回日本肩関節学会学術集会 2024.10.26 京都市, 京都府

39. 橋本 淳. 術中脊髄モニタリングの現状と今後の展開　術中脊髄モニタリングにおける自発筋電図の意義. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.26 札幌

40. 平井 高志, 田村 友里, 新田 智久, 久保 位可子, 鉄永 倫子, 中島 宏彰, 成田 崇矢, 峯玉 賢和, 二階堂 琢也, 栗田 宣明, 吉井 俊貴, 田澤 立之, 大鳥 精司, 藤田 順之. 医療従事者の腰痛と仕事満足度の関連について単施設の横断調査. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.26 幕張

41. 猪瀬 弘之, 加藤 剛, 吉井 俊貴, 大川 淳. 骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.26 幕張

42. 及川 泰宏, 柿崎 潤, 佐久間 昭利, 瀬川 裕子, 川口 大貴, 雨宮えりか, 都丸 洋平, 亀ヶ谷 真琴, 西須 孝 . 歩行開始後に診断された症例から考える乳児股関節検診. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.26 岡山

43. 及川 泰宏, 柿崎 潤, 佐久間 昭利, 瀬川 裕子, 川口 大貴, 雨宮えりか, 都丸 洋平, 亀ヶ谷 真琴, 西須 孝 . 小児整形外科医が考えるこどもの股関節疾患に対する治療の適応と限界. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.26 岡山

44. 高田 亮平, 天野 祐輔, 井口 亮, 宮武 和正, 吉井 俊貴, 古賀 英之 . ALS および OCM アプローチにおけるテーパースリップセメントステムの使用経験. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.26 岡山

45. 黒岩 智之, 佐々木 亨, 小山 恭史, 鏑木 秀俊, 中川 照彦, 佐藤 哲也. Shoulder36 の各項目が上肢全体の自己評価に与える影響の解析. 第 51 回日本肩関節学会学術集会 · 第 21 回 日本肩の運動機能研究会 2024.10.26 京都

46. 井口 亮　et.al.. 人工股関節全置換術における short cement stem の術後短期の骨密度変化. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.26 岡山

47. 脇 智彦, 二村 昭元, 鏑木 秀俊, 佐々木 亨. 鏡視下腱板修復術を行った 10 歳代の外傷性腱板完全断裂の一例. 第 51 回 日本肩関節学会学術集会 · 第 21 回 日本肩の運動機能研究会 2024.10.26 京都

48. 瀬川 裕子. 思春期 DDH の治療. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.25 岡山

49. 橋本 淳, 川端 茂徳, 東川 尚人, 田村 聡至, 佐々木 亨, 足立 善昭, 平井 高志, 吉井 俊貴. 脊磁図、末梢神経磁図、筋磁図の臨床応用の可能性　脊磁図による脊髄 · 神経根の神経機能評価. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.25 札幌

50. 東川 尚人, 川端 茂徳, 橋本 淳, 田村 聡至, 赤座 実穂, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴. 大腿神経刺激、伏在神経刺激—脊磁図を用いた胸腰椎伝導障害評価. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.25 札幌

51. 山田 賢太郎, 鳥羽 美佳代, 橋本 淳, 江川 聡, 小沼 博明, 松倉 遊, 平井 高志, 伏見 清秀, 吉井 俊貴. DPC データベースにおける転移性脊椎腫瘍に対する手術療法の傾向. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.25 幕張

52. 小沼 博明, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 坂井 顕一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 平井 高志, 吉井 俊貴. 腰仙椎後方椎体間固定術における S1 Dual Outer Diameter Screw の有用性 - 従来スクリューとの比較検討 -. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.25 幕張

53. 高橋 拓也, 平井 高志, 佐藤 宏征, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 新井 嘉容, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 大鳥 精司 . 画像解析を含めたコンドリアーゼ治療と MED の費用対効果の検証—JSSR 社会保険等システム検討委員会主導研究 —. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.25 幕張

54. 榊 経平, 平井 高志, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 高橋 拓也, 新井 嘉容, 高野 裕一 , 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 大鳥 精司. 椎間板内酵素注入療法と内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術の椎間板変性に対する影響—JSSR 社会保険等システム検討委員会主導研究—. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.25 幕張

55. 鈴木 徳孝, 江口 和, 平井 高志, 高橋 拓也, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 牧 聡, 谷口 優樹, 大鳥 精司. 腰椎椎間板ヘルニア再発患者に対するコンドリアーゼ椎間板内注入療法の成績. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.25 幕張

56. 高橋 拓也, 森 幹士, 平井 高志, 山崎 正志, 吉井 俊貴. びまん性特発性骨増殖症の骨盤癒合リスクに関して—厚労科研脊柱靭帯骨化症研究班 · 多施設研究—. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.25 幕張

57. 元吉 貴之, 小川 貴久, 福島 和之, 伏見 清秀, 吉井 俊貴. 化膿性椎間板炎の季節性についての疫学調査：71,134 人の DPC データベースを用いた 13 年間の全国調査. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.25 幕張

58. 鳥越 一郎, 新井 嘉容, 坂井 顕一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 大川 淳, 吉井 俊貴 . PLIF/TLIF 術後偽関節発生後の経過に影響する因子の検討. 第 32 回 日本腰痛学会 2024.10.25 幕張

59. 佐々木 亨, 川端 茂徳, 橋本 淳, 東川 尚人, 田村 聡, 赤座 実穂, 足立 善昭, 宮野 由貴, 渡部 泰士, 吉井 俊貴. 脊磁図、末梢神経磁図、筋磁図の臨床応用の可能性　上肢末梢神経磁界計測の臨床応用の可能性. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.25 札幌

60. 柿崎 潤, 及川 泰宏, 瀬川 裕子, 西須 孝. 大腿骨頭すべり症に対する関節鏡視下骨軟骨形成術で何が得られるのか？ . 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.25 岡山

61. 高田 亮平, 天野 祐輔, 井口 亮, 宮武 和正, 吉井 俊貴, 古賀 英之 . AR マーカーとスマートフォンを用いた術中セメントステム挿入補助アプリの開発と精度検証. 第 51 回 日本股関節学会学術集会 2024.10.25 岡山

62. 杉浦 沙羅, 二村 昭元, 佐々木 亨, 中澤 正孝, 秋田 恵一. 肩鎖関節安定化に関する僧帽筋上部停止腱の解剖学的研究. 第 51 回 日本肩関節学会学術集会 · 第 21 回 日本肩の運動機能研究会 2024.10.25 京都

63. 瀬川 裕子. ペルテス病の診断と治療. 第 10 回 日本股関節学会教育研修セミナー 2024.10.24 岡山

64. 後迫 宏紀, 吉田 剛, 黒須 健太, 中島 宏彰, 世木 直喜, 岩崎 博, 橋本 淳, 川端 茂徳, 藤原 靖, 和田 簡一郎, 高橋 雅人, 重松 英樹, 舩場 真裕, 今釜 史郎, 松山 幸弘. 成人脊柱変形矯正手術患者に対する Tc-MEP モニタリング下の手術は経変的に術後麻痺発生率を低下させる. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.24 札幌

65. 川端 茂徳. 整形外科領域：医師の立場より「偽陽性という言葉の意味を考える」. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.24 札幌

66. 川端 茂徳. 整形外科領域における術中神経モニタリングの技術と進歩. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.24 札幌

67. 川端 茂徳. モニタリング分野関連問題の概要. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.24 札幌

68. 大谷 泰, 赤座 実穂, 夏井 洋和, 関原 健介, 足立 善昭, 渡部 泰士, 川端 茂徳, 叶内 匡. 神経活動を四極子とした磁場解析による腓腹神経の興奮部位の可視化. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.24 札幌

69. 駒走 雄介, 赤座 実穂, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 宮野 由貴, 渡部 泰士, 関原 健介, 足立 善昭, 角 勇樹, 川端 茂徳. 神経磁場計測装置を用いた腰部活動電流の左右差の検討. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.24 札幌

70. 下沖 咲良, 赤座 実穂, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 宮野 由貴, 渡部 泰士, 関原 健介, 足立 善昭, 角 勇樹, 川端 茂徳. 生体磁場計測装置を用いた C7 神経根の機能評価. 第 54 回 日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.24 札幌

71. 清水 正樹, 林 祐子, 瀬川 裕子. 小児リウマチ性疾患における慢性疼痛に対する交番磁界治療の有用性. 第 33 回 日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.10.20 京都

72. 吉井 俊貴. 脊柱靱帯骨化症 - 最近のトピック–. 第 87 回 整形外科カレントコンセプト 2024.10.19 文京区

73. 脇 智彦, 佐藤 優樹菜, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 佐々木 亨, 黒岩 智之, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二, 吉井 俊貴. 動画と AI を活用することで超音波での手根管症候群の重症度推定精度が向上する. 第 35 回 日本整形外科超音波学会 2024.10.19 新宿

74. 山口 玲子, 瀬川 裕子, 宇都宮 啓, 宮武 和正, 伊良部 仁, 林 祐子, 阿久津 裕子, 清水 正樹, 吉井 俊貴, 森 雅亮. 若年発症の強直性脊椎炎に併発した大腿骨寛骨臼インピンジメントに対して股関節鏡視下関節形成術を施行した一例. 第 33 回 日本小児リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.10.19 京都

75. 四十物 佑介, 遠藤 健太郎, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. 細胞老化はラット半月板自然修復に寄与する. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿, 東京

76. 渕岡 佑亮, 遠藤 健太郎, 酒巻 有里子, 谷本 貴大, 大関 信武, 中川 裕介, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. 滑膜および脂肪由来間葉系幹細胞の軟骨接着過程における形態学的比較. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿, 東京

77. 萩原 怜奈, 片桐 洋樹, 荒川 翔太郎, 中川 裕介, 宮武 和正, 中村 智祐, 辻 邦和, 吉井 俊貴, 斎藤 充, 古賀 英之. ヒト半月板と半月板後根における終末糖化産物 AGEs および酵素的架橋の蓄積傾向の検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿, 東京

78. 橋本 泉智, 江川 聡, 辻 邦和, 酒枝 健太郎, 上杉 豪, 吉井 俊貴. 新規カルシウム化合物による筋肉内骨誘導とメカニズム. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿, 東京

79. 菱山 隼, 二村 昭元, 藤田 浩二, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 秋田 恵一. 周囲筋腱膜と関節包に基づいた母指 MP 関節橈側の解剖学的検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿, 東京

80. 東川 尚人, 川端 茂徳, 橋本 淳, 田中 雄太, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴. 伏在神経刺激 - 腰部脊磁図による腰部神経根，馬尾の神経機能評価. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿, 東京

81. 塚本 和矢, 二瓶 史行, 中原 謙太郎, 佐々木 亨, 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 平井 高志, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 藤田 浩二. インソール埋め込み型慣性センサを用いた頚髄症の歩行解析　—日常生活内での疾患スクリーニングへの応用を目指して—. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿, 東京

82. 坂 なつみ, 二村 昭元. 上肢解剖学から見る病態生理の深化と探索　橈骨遠位端骨折と解剖. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

83. 野呂瀬 美生, 二村 昭元, 秋田 恵一. 上肢解剖学から見る病態生理の深化と探索　母指 CM 関節安定化機構の解明を目指した, 筋 · 腱膜 · 関節包に基づく解剖学的解析. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

84. 今谷 潤也, 二村 昭元, 秋田 恵一. 上肢解剖学から見る病態生理の深化と探索　肘関節不安定症の診療に役立つ臨床解剖. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

85. 黒岩 智之, Sarcon Aida, 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 塚本 和矢, 藤田 浩二. ChatGPT による整形外科疾患の自己診断の信頼性の問題点とその改善法 —ChatGPT に同じ症状の質問をしても日によって診断が異なる—. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 新宿区, 東京都

86. 日高 由貴, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 古賀 英之, 吉井 俊貴. 滑膜および脂肪間葉系幹細胞における構成サブセットの相違に関する検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

87. 大関 信武, 中村 智祐, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 古賀 英之, 関矢 一郎. 軟骨 · 半月板の 3DMRI 解析. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

88. 関矢 一郎, 片野 尚子, 水野 満, 北橋 宗, 中村 健太郎, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大関 信武. 半月板の再生医療/細胞治療　—トランスレーショナルリサーチから臨床まで—. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

89. 有賀 茜, 船内 雄生, 小林 由香利, 長岡 孝治, 佐藤 信吾, 吉井 俊貴, 阿江 啓介, 垣見 和宏. 浸潤性軟部肉腫の遺伝プロファイル. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

90. 山下 理子, 野澤 伊織, 長谷川 翔一, 安 宰成, 中川 裕介, 宮武 和正, 片桐 洋樹, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 古賀 英之, 辻 邦和. CNP による変形性関節症抑制効果の薬理学的作用機序の解明. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

91. 辻野 昭平, 越智 広樹, 歌川 蔵人, 海野 愛子, 砂村 聡子, 吉井 俊貴, 佐藤 信吾. 骨内神経の視点から解き明かすメカニカルストレス · 重力による骨恒常性維持機構. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

92. 脇 智彦, 佐藤 優希菜, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 手根管症候群に対する AI モデルの診断精度比較 —超音波画像から重症度診断を行うために必要な情報量の検討—. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

93. 児玉 隼人, 遠藤 健太郎, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 関矢 一郎. 炎症性滑膜においてマクロファージが滑膜幹細胞の数および機能に与える影響の検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

94. 小柳津 卓哉, 川畑 篤礼, Jonathan G. Schoenecker, 吉井 俊貴. 自家移植骨由来の前駆細胞は移植後も生存し，軟骨内骨化を誘導し腰椎癒合に寄与する. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

95. 塚本 和矢, 佐々木 亨, 井原 拓哉, 野呂瀬 美生, 山田 英莉久, 山本 皓子, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 藤田 浩二. 母指 CM 関節症は重症ほど母指の回内角度が低下する. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

96. 關 良太, 片桐 洋樹, 雨宮 正樹, 星野 傑, 片倉 麻衣, 中川 裕介, 大関 信武, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. ラット半月板引張試験による半月板根部強度の加齢による変化の検討. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

97. 井原 拓哉, 藤田 浩二, 脇 智彦, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 二村 昭元, 秋田 恵一. 股関節の力学的負荷を AI で推定する　運動学情報のデータセットの結合による精度向上の検証. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿区, 東京都

98. 藤田 浩二, 井原 拓哉, 黒岩 智之, 佐々木 亨. 自覚症状に基づく整形疾患推定における大規模言語モデル AI の活用. 第 38 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿区, 東京都

99. 脇 智彦. 機械学習を用いた超音波検査による手根管症候群診断の試み　重症度診断への新しいアプローチ. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 新宿, 東京

100. 井原 拓哉, 藤田 浩二, 脇 智彦, 塚本 和也, 黒岩 智之, 二村 昭元, 秋田 恵一. 運動学情報から複数の力学的負荷を同時に推定するモデルの構築と精度検証. 第 29 回 日本基礎理学療法学会学術大会 2024.10.13 八王子

101. 吉井 俊貴. 中下位頚椎の手術. 脊椎インストゥルメンテーション学会 CS T コース 2024.10.11 栃木

102. 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 塚本 和矢, 脇 智彦, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 若林 良明, 藤田 浩二. 健診データから見る骨粗鬆症の実態と簡易スクリーニングに向けて. 第 26 回 日本骨粗鬆症学会 2024.10.11 金沢

103. 吉井 俊貴. 脊柱靱帯骨化症の Up-To-Date. 第 39 回 MOS 会 〜Monday Orthopedics Seminar〜 2024.10.07 札幌

104. 吉井 俊貴. 脊椎手術におけるナビゲーション技術の発展 —AR からスマートグラスの利用まで—. 第 19 回 関東 MIST 研究会 2024.10.05 東京

105. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛について . 第 8 回 大宮医師会医学講座 2024.10.02 大宮

106. 王耀東. 大腿骨転子下骨折治療の要点と盲点. 第 3 回 Trauma Web Peer Review Meeting—大腿骨転子下骨折 Up to Date— 2024.09.29

107. 首藤 孝治, 志村 治彦, 野田 佑真, 佐々木 亨, 藤田 浩二, 二村 昭元. 手根骨尺側長軸脱臼の一例. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.28 足柄下郡, 神奈川県

108. 串田 淑久, 竹村 司, 塩瀬 沙耶, 川村 悟司, 福島 和之, 藤田 浩二, 二村 昭元. 若年者キーンベック病 (Lichtman 分類 stage IIIC) に対して橈骨短縮骨切り, 血管柄付き骨移植を行った 1 例. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.28 足柄下郡, 神奈川県

109. 伊藤 健暉, 橋本 泉智, 平井 高志, 橋本 淳, 江川 聡, 小沼 博明, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 吉井 俊貴. 胸椎化膿性脊椎炎に対して VATS による病巣掻爬 · 骨移植術を行った 3 例. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.28 箱根

110. 秀 恵輔, 草野 和生, 進藤 重雄, 大谷 和之, 三宅 論彦, 小林 裕, 川畑 篤礼, 中井 修, 吉井 俊貴. 脊椎炎を伴わない胸腰椎部広範囲硬膜外膿瘍の 2 例. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.28 箱根

111. 杉浦 沙羅, 王 耀東, 加来 拓実, 吉井 俊貴. 彎曲変形を伴う非定型大腿骨切迫骨折に対する外反矯正骨切り術の生体力学的検証—CT 有限要素解析による術前後比較—. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.27 箱根

112. 二村 昭元. 関節安定化に関わる解剖. NAGASAKI ARTHROSCOPE CLUB 2024.09.27 長崎市, 長崎県

113. 吉井 俊貴. 脊椎疾患診断のピットフォール —整形外科医として知っておくべきこと—. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.27 箱根

114. 平井 高志. MR HOW SPINE -Midas Rex Hands On Workshop- 〜脊椎手術におけるドリルテクニック〜. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.27 箱根

115. 橋本 泉智, 江川 聡, 橋本 淳, 小沼 博昭, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 平井 高志, 吉井 俊貴. 硬膜腹側に髄液貯留を伴う脳表ヘモジデリン沈着症に対する新しいモダリティ 4D dynamic CT Myelography による瘻孔部位の同定. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.27 箱根

116. 賀来 晨宏, 川畑 篤礼, 草野 和生, 大谷 和之, 進藤 重雄, 新関 祐美, 吉井 俊貴. 脊髄造影検査後に硬膜外血腫を発症した 2 例の報告. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.27 箱根

117. 奥田 駿, 大谷 和之, 進藤 重雄, 草野 和生, 三宅 論彦, 小林 裕, 川畑 篤礼, 秀 恵輔, 中井 修, 吉井 俊貴. Scheuermann 病の後彎矯正の PS 刺入に Patient Specific Template を用いた 1 例. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.27 箱根

118. 嶋田 壮太郎, 雨宮 正樹, 王 耀東, 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. Hybrid closed wedge high tibial osteotomy 術後に下腿コンパートメント症候群を発症した 1 例. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.27 箱根

119. 後藤 周平, 進藤 重雄, 首藤 孝治, 猪森 勇介, 川畑 篤礼, 牛尾 修太, 三宅 論彦, 草野 和生, 大谷 和之, 中井 修, 吉井 俊貴. 環軸関節症の診断と治療. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 2024.09.27 箱根

120. 吉井 俊貴. 頚椎前方手術の適応と実際. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

121. 松倉 遊, 平井 高志, 江川 聡, 山田 賢太郎, 小沼 博明, 橋本 淳, 橋本 泉智, 上杉 豪, 新田 智久, 吉井 俊貴. 頚椎前方手術後の C5 麻痺発生のリスク因子の検討. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

122. 橋本 淳, 川端 茂徳, 吉田 剛, 後迫 宏紀, 安藤 宗治, 和田 簡一郎, 重松 英樹, 岩崎 博, 高橋 雅人, 山田 圭, 田所 伸朗, 舩場 真裕, 藤原 靖, 吉井 俊貴, 中西 一義, 今釜 史郎, 松山 幸弘, 竹下 克志. 頚椎後縦靱帯骨化症手術における自発筋電図発生のタイミングと術式による違い -JSSR 多施設共同研究-. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

123. 山田 賢太郎, 鳥羽 三佳代, 橋本 淳, 江川 聡, 小沼 博明, 松倉 遊, 平井 高志, 伏見 清秀, 吉井 俊貴. DPC データベースによる転移性脊椎腫瘍に対する手術療法の傾向（2012-2020 年）. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

124. 坂井 顕一郎, 沼野 藤希, 友利 正樹, 平井 高志, 榊 経平, 高橋 拓也, 藤井 俊一, 橋本 泉智, 新井 嘉容, 吉井 俊貴. 1 椎間頚椎人工椎間板置換術と前方除圧固定術の中期成績比較. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

125. 山田 賢太郎, 田村 聡至, 橋本 淳, 小沼 博明, 江川 聡, 松倉 遊, 平井 高志, 工藤 篤, 坂井 顕一郎, 大川 淳, 吉井 俊貴. 頚椎前方術後管理プロトコールの有用性の検証—第 1 報. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

126. 小沼 博明, 橋本 泉智, 橋本 淳, 江川 聡, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 平井 高志, 坂井 顕一郎, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 新井 嘉容, 大谷 和之, 進藤 重雄, 吉井 俊貴. 頚椎前方手術における術後髄節性麻痺の発症経過と対応 多施設研究 1434 例の検討. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

127. 新田 智久, 松倉 遊, 平井 高志, 山田 賢太郎, 江川 聡, 小沼 博明, 橋本 淳, 橋本 泉智, 吉井 俊貴. 成人脊柱変形に対する矯正固定術におけるロッド折損のリスク因子の検討. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

128. 田中 寛来, 簗瀬 司, 小沼 宏樹, 森下 真伍, 片柳 順也, 吉井 俊貴, 猪瀬 弘之. 超高齢化社会における脊椎手術の傾向 — 時間外手術と予定外入院に着目して. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

129. 橋本 泉智, 平井 高志, 橋本 淳, 小沼 博明, 江川 聡, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 榊 経平, 友利 正樹, 鳥越 一郎, 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 牛尾 修太, 大谷 和之, 進藤 重雄, 吉井 俊貴. 大規模研究における頚椎前方手術後嗄声の頻度と特徴. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

130. 田村 聡至, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 平井 高志, 森下 真伍, 橋本 淳, 江川 聡, 坂井 顕一郎, 大川 淳, 吉井 俊貴. 頚椎前方術後管理における「ひも法」は気道閉塞兆候と関連がある. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

131. 上杉 豪, 平井 高志, 江川 聡, 新田 智久, 田村 聡至, 橋本 淳, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 吉井 俊貴. Cement-augmented pedicle screw の cement leakage の risk factor に対する考察. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

132. 山田 剛史, 草野 和生, 大谷 和之, 進藤 重雄, 吉井 俊貴. 腰椎化膿性脊椎炎の治療経験 -保存療法と手術療法の比較. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

133. 谷山 崇, 鳥越 一郎, 越智 美晴, 土居 稔真, 大川 淳, 吉井 俊貴. 骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP（Ballon kyphoplasty）と VBS（Vertebral body stenting）の手術成績の比較. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

134. 土居 稔真, 鳥越 一郎, 谷山 崇, 越智 美晴 1, 大川 淳, 吉井 俊貴. セメント注入型椎弓根スクリューにおける血管内セメント漏出のリスク因子 —右側と外側設置に注意—. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.21 札幌

135. 角谷 智, 松岡 正, 平井 高志, 吉井 俊貴. 化膿性脊椎炎に対する感染椎への椎弓根 スクリュー挿入の適否. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

136. 平井 高志, 松倉 遊, 江川 聡, 小沼 博明, 橋本 淳, 橋本 泉智, 山田 賢太郎, 吉井 俊貴. 頚椎 3 椎間以上 OPLL 病変に対する椎体亜全摘を要した頚椎前方除圧固定術と椎体間固定術を併用した前方 Hybrid 固定術との比較. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

137. 川畑 篤礼, 草野 和生, 大谷 和之, 進藤 重雄, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴. 頚椎前方手術とサルコペニアの関連について. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

138. 橋本 泉智, 平井 高志, 橋本 淳, 小沼 博明, 江川 聡, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 吉井 俊貴. 頚椎前方固定術術後誤嚥症例の主観的評価と客観的評価の相違と特徴. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

139. 酒枝 健太郎, 平井 高志, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 江川 聡, 小沼 博明, 橋本 淳, 橋本 泉智, 吉井 俊貴. 頚椎症性脊髄症, 頚椎後縦靱帯骨化症に対する頚椎前方手術での患者立脚型評価における頚椎機能. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

140. 酒枝 健太郎, 平井 高志, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 江川 聡, 小沼 博明, 橋本 淳, 橋本 泉智, 吉井 俊貴. 頚椎症性脊髄症, 頚椎後縦靱帯骨化症に対する頚椎後方手術での患者立脚型評価における頚椎機能. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

141. 猪瀬 弘之, 田中 寛来, 簗瀬 司, 小沼 宏樹, 片柳 順也, 吉井 俊貴. 脊椎手術における周術期骨粗鬆症管理. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

142. 高橋 拓也, 平井 高志, 鈴木 亨暢, 角谷 賢一朗, 加藤 仁志, 冨永 博之, 竹上 徳彦, 澤田 浩克, 吉井 俊貴, 井上 玄, 古矢 丈雄. 手術を要した肺癌転移性脊椎腫瘍患者における予後予測因子の検討 -JASA 多施共同研究-. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

143. 藤井 俊一, 加藤 剛, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 坂井 顕一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. 食道裂孔ヘルニアを合併した DISH を伴う胸腰椎椎体骨折 2 例の手術経験. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

144. 草野 和生, 進藤 重雄, 大谷 和之, 三宅 論彦, 小林 裕, 川畑 篤礼, 中井 修, 吉井 俊貴. 成人脊柱変形手術後の下肢矢状面アライメントの変化～　EOS を用いた検討. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

145. 榊 経平, 新井 嘉容, 坂井 顕一郎, 沼野 藤希, 友利 正樹, 高橋 拓也, 藤井 俊一, 吉井 俊貴. 腰椎椎体間固定術の術後コルセットは必要か? -画像的評価について-. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

146. 越智 美晴, 鳥越 一郎, 谷山 崇, 土居 稔真, 大川 淳, 吉井 俊貴. 椎体破壊の著しい骨粗鬆症椎体骨折に対して後方固定とリン酸カルシウムペーストによる椎体形成術を併用した 3 例. 第 33 回 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 2024.09.20 札幌

147. 二村 昭元. 教科書には載っていない肩関節解剖のはなし. 第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会 2024.09.14 横浜市, 神奈川県

148. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 Common disease から稀な疾患まで. Osaka City 整形外科フォーラム 2024.09.11 大阪

149. 王耀東. 整形外傷外科治療の基本. 佐久医療センター初期研修医勉強会 2024.09.11

150. 川端茂徳. 日本臨床神経生理学会「認定医認定技師試験」について. 第 9 回日本脳脊髄術中モニタリング研究会 2024.09.08 永田町

151. 吉井 俊貴. 脊椎疾患診断のピットフォール —整形外科医として知っておくべきこと—. 大阪医科薬科大学整形外科学教室 同門会 秋期教育研修会 2024.09.07 大阪

152. 吉井 俊貴. 頚椎 OPLL の前方浮上術 . 脊椎インストゥルメンテーション手術手技セミナー 2024.09.03 東京

153. 王耀東.　大腿骨転子間 · 転子下骨折に対する髄内釘固定術後の偽関節治療—ブロッカーピンを駆使した exchange nailing—. IM Nailing Symposium 2024 2024.08.31

154. 平井 高志. 脊椎疾患の神経障害性疼痛治療の今後の展望 . Sakurayama Spine Conference 2024.08.29 名古屋

155. 吉井 俊貴. 頸椎疾患の手術治療と神経障害性疼痛. 第 5 回 Sakurayama Spine Conference 2024.08.29 名古屋

156. 松倉 遊. 脊椎疾患における神経障害性疼痛 ～かかりつけ医のための疼痛管理について～. 第 390 回 各務原市医師会勉強会 2024.08.29 各務原

157. 吉井 俊貴. 頚椎人工椎間板置換術. 第 33 回 頚椎人工椎間板手術手技指導 WEB 動画講習会 2024.08.28 WEB

158. 吉井 俊貴. 骨脆弱の克服 - 臨床で注意すべきこと -. A-STAR Conference 2024 2024.08.24 品川

159. 吉井 俊貴. 脊椎前方手術 〜固定術から人工椎間板まで〜. 第 36 回 徳大脊椎外科カンファレンス 2024.08.12 徳島

160. 二村 昭元. 関節外傷. 医療研修会 (スキルアップコース B) 2024.08.01 千葉市, 千葉県

161. 吉井 俊貴. 頸椎疾患の手術治療と神経障害性疼痛. 第 36 回 ひむか骨関節 · 脊椎脊髄疾患セミナー 2024.07.27 宮崎

162. 平井 高志. 腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリアーゼ注入療法 現状と今後の展望. 第 99 回 東八王子整形外科懇話会 2024.07.27 八王子

163. 辻野 昭平 et.al.. メカニカルストレス · 重力による骨恒常性維持機構における骨内神経の役割. 東京骨関節フォーラム 御茶ノ水 2024.07.27 Web

164. 平井 高志. 脊椎研究 · 診療みちなかば 反省とこれから. 第 13 回 アルプス浜名湖スパインセミナー 2024.07.20 山中湖, 山梨県

165. 堀 公法, 小西 惇, 山下 万貴子, 鎌谷 高志, 山下 享子, 船内 雄生, 阿江 啓介, 北野 滋久, 竹内 賢吾, 松田 浩一, 角田 達彦, 植田 幸嗣. プロテオゲノム解析が明らかにした粘液型脂肪肉腫の予後不良に関連する分子生物学的特徴. 第 83 回 日本癌学会学術総会 2024.07.19 福岡

166. 平井 高志. 頚椎疾患に関わる疼痛管理を再考する〜QOL 向上を目指して〜. Orthopedic Education Seminar 2024.07.17 WEB

167. 平井 高志. 脊椎外科疾患における神経障害性疼痛の現状と克服 第 8 回慢性の痛み解明事業. ワクチン合併症と関連神経障害性疼痛懇話会 2024.07.13 霞ヶ関

168. 吉井 俊貴. 一念岩をも通す - 文教の地に siする脊髄の鼓動 -. 第 7 回 文教脊椎 · 関東ロマンの世界 2024.07.13 東京

169. 船内 雄生, 筑紫 聡, 平賀 博明, 川井 章, 町田 龍之介, 佐野 裕亮, 福田 治彦, 小田 義直, 尾崎 敏文, 田仲 和宏, JCOG Bone and Soft Tissue Tumor Study Group. 軟部肉腫治療における手術と化学療法の最適化を目指して：JCOG2102 の紹介. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.12 福井

170. 徳元 友哉, 小柳 広高, 澤村 千草, 本村 陸真, 眞鍋 淳, 五木田 茶舞, 吉井 俊貴. 軟部腫瘍との鑑別を要した大腿部溶連菌感染症の 1 例. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.12 福井

171. 徳元 友哉, 小柳 広高, 辻野 昭平, 澤村 千草, 本村 陸真, 吉井 俊貴, 五木田 茶舞. 高用量ステロイドによる骨粗鬆症性椎体骨折　がん患者 3 例の分析. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.12 福井

172. 徳元 友哉, 小柳 広高, 辻野 昭平, 澤村 千草, 本村 陸真, 吉井 俊貴, 五木田 茶舞. がん骨粗鬆症外来における骨折予防の成果と課題. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.12 福井

173. 五木田 茶舞, 小柳 広高, 坪井 美樹, 山本 幸恵, 藤井 啓子, 石橋 英明, 川島 美紀, 永田 美香, 澤村 千草, 吉井 俊貴. がんロコモ: 患者の QOL を向上させる為にほんとうに大切なこと　がん治療中 · 治療後患者における「がんエクササイズ」導入の試み　がんロコモ対策の一般化に向けて. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.12 福井

174. 王耀東. 大腿骨骨折治療の基礎と応用. Stryker’s Trauma Education Program 2024 2024.07.11 サンフランシスコ（USA）

175. 林田 有希, 阿江 啓介, 松本 誠一, 谷澤 泰介, 早川 景子, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 林 直輝, 吉井 俊貴. 右大腿部に発生した悪性軟部巨細胞腫の 1 例. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

176. 齊藤 正徳, 阿江 啓介, 松本 誠一, 谷澤 泰介, 早川 景子, 黒澤 紀雄, 林 直輝, 林田 有希, 船内 雄生, 吉井 俊貴. 骨盤発生腫瘍切除後の骨盤輪変形と歩行能力についての検討. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

177. 小柳 広高, 辻野 昭平, 澤村 千草, 本村 陸真, 徳元 友哉, 眞鍋 淳, 川口 智義, 吉井 俊貴, 五木田 茶舞. 胸腰椎軟性装具処方例から考えるがんロコモと骨粗鬆症. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

178. 黒澤 紀雄, 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 船内 雄生, 齊藤 正徳, 有賀 茜, 松本 誠一, 吉井 俊貴. 術後合併症からみた 80 歳以上の高齢者の軟部肉腫手術成績. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

179. 阿江 啓介, 吉井 俊貴, 松本 誠一. 骨 · 軟部腫瘍手術の格致　その原則と創意工夫. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

180. 本橋 正隆, 船内 雄生, 足立 拓也, 藤岡 友之, 大高 直哉, 岡田 崇, 立石 宇貴秀, 大川 淳, 吉井 俊貴, 佐藤 信吾. CT 画像から脊椎転移を検出するための新たな深層学習アルゴリズムの開発. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

181. 黒澤 紀雄, 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 船内 雄生, 齊藤 正徳, 有賀 茜, 松本 誠一, 吉井 俊貴. 過去 30 年で当院の悪性軟部腫瘍手術の老年人口の割合は増加している　がん拠点病院のデータからの疫学的検証. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

182. 有賀 茜, 船内 雄生, 小林 由香利, 長岡 孝治, 齊藤 正徳, 早川 景子, 谷澤 泰介, 松本 誠一, 佐藤 信吾, 吉井 俊貴, 阿江 啓介, 垣見 和宏. 浸潤性軟部肉腫の腫瘍内免疫環境および遺伝プロファイルの探索. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

183. 有賀 茜, 船内 雄生, 小林 由香利, 長岡 孝治, 齊藤 正徳, 早川 景子, 谷澤 泰介, 佐藤 信吾, 吉井 俊貴, 阿江 啓介, 垣見 和宏. 骨肉腫の腫瘍内免疫環境および遺伝プロファイル　二峰性の年齢分布による RNAseq データ解析. 第 57 回 日本整形外科学会骨 · 軟部腫瘍学術集会 2024.07.11 福井

184. 小林 由香利, 長岡 孝治, 船内 雄生, 岡本 幸子, 垣見 和宏. 肉腫における免疫治療の可能性を腫瘍内のネオアンチゲン特異的 T 細胞と腫瘍内免疫環境の解析から探索する. 第 28 回日本がん免疫学会総会 · 第 37 回日本バイオセラピィ学会学術集会総会合同大会 2024.07.11 品川, 東京

185. 松倉 遊. 脊椎疾患における神経障害性疼痛 〜頚椎疾患に関しての我々の取り組み〜. 地域で取り組む整形外科疾患セミナー 2024.07.08

186. 吉井 俊貴. 脊椎脊髄疾患の診断と治療 —common disease からレアな疾患まで—. 第 39 回 立山セミナー 2024.07.06 富山

187. 平井 高志. スマホネックに関わる神経障害性疼痛 パンデミックを再考する. 第 250 回 消化器懇談会 練馬区医師会学術部 2024.07.04 練馬

188. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 Common disease から稀な疾患まで. 第 20 回 しまね整形外科変性疾患研究会 2024.07.04 島根

189. 瀬川 裕子. こどもの運動器の診かた · 考え方. 東京北医療センター小児科公開勉強会 2024.07.04

190. 王耀東, 吉井俊貴. 非定型大腿骨骨折のサブタイプ分類—病態に即した外科的 · 内科的治療選択の勧め—. 第 50 回 日本骨折治療学会学術集会 2024.06.29 仙台

191. 加来 拓実, 王 耀東, 吉井 俊貴. 骨修飾薬投与中の骨転移患者における非定型大腿骨骨折発症の経時的変化の証明：前向きコホート研究. 第 50 回 日本骨折治療学会学術集会 2024.06.29 仙台

192. 平井 高志, 上杉 豪, 松倉 遊, 江川 聡, 小沼 博明, 山田 賢太郎, 橋本 淳, 橋本 泉智, 吉井 俊貴. 高齢者骨脆弱性脊椎に対する骨セメントを用いた再建の工夫. 第 14 回 最小侵襲脊椎治療学会 2024.06.29 倉敷

193. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 橋本 淳, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 大川 淳. 頚椎前方術後管理プロトコールの有用性の検証ー第 1 報. 第 14 回 最小侵襲脊椎治療学会 2024.06.29 倉敷

194. 杉浦沙羅, 王耀東, 吉井俊貴. 彎曲変形を伴う非定型大腿骨骨幹部切迫骨折への外反矯正骨切り術は妥当か？ —CT 有限要素解析による検証—. 第 50 回 日本骨折治療学会学術集会 2024.06.28 仙台

195. 角谷 智, 松岡 正, 平井 高志, 吉井 俊貴. 従来法の良さも活かしたハイブリッド手術 〜 Unilateral Open TLIF 〜. 第 14 回 最小侵襲脊椎治療学会 2024.06.28 倉敷

196. 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 藤井 俊一, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. 頚椎椎弓切除制動術 (Motion Stabilization Laminectomy: MoSLa) の試み. 第 14 回 最小侵襲脊椎治療学会 2024.06.28 倉敷

197. 吉井 俊貴. 頸椎疾患の手術治療と神経障害性疼痛. 第 60 回 東医 · 東邦 · 昭和 三大学整形外科合同談話会 2024.06.21 東京

198. 小沼 博明. 頚椎疾患と神経障害性疼痛. 神経障害性疼痛 Web Seminar ～脊椎ご専門の立場から～ 2024.06.20 WEB

199. 佐藤 信吾, 本橋 正隆, 船内 雄生, 足立 拓也, 藤岡 友之, 大高 直哉, 岡田 崇, 野里 洵子, 入山 哲次, 立石 宇貴秀, 吉井 俊貴. AI で骨転移を早期に発見し、骨転移患者の全人的苦痛を予防する. 第 29 回 日本緩和医療学会学術大会 2024.06.14 神戸

200. 東川尚人, 川端茂徳, 橋本 淳, 田中雄太, 足立善昭, 渡部泰士, 宮野由貴, 上中沙衿, 山本祐輔, 吉井俊貴. 脊磁図を用いた、伏在神経刺激による腰部神経誘発磁界の評価検討. 第 39 回日本生体磁気学会大会 2024.06.13 幕張

201. 吉井 俊貴. 頚椎 OPLL 手術治療のエビデンス. 第 39 回 日本脊髄外科学会 2024.06.13 大阪

202. 及川 泰宏, 柿崎 潤, 佐久間 昭利, 川口 大貴, 瀬川 裕子, 都丸 洋平, 亀ヶ谷 真琴, 西須 孝. 当院における化膿性股関節炎後の大腿骨頭壊死 · 骨端線早期閉鎖に対する治療経験. 第 63 回日本小児股関節研究会 2024.06.07 横浜

203. 佐久間 昭利, 柿崎 潤, 及川 泰宏, 福島 俊, 亀井 啓太, 東 由紀, 瀬川 裕子. Dunn 変法により骨頭壊死を免れた不安定型大腿骨頭すべり症の 1 例. 第 63 回日本小児股関節研究会 2024.06.07

204. 瀬川 裕子, 山本 皓子, 山口 玲子, 宮武 和正, 高田 亮平, 天野 祐輔, 吉井 俊貴, 神野 哲也. 乳児股関節健診に対する小児科医の意識調査. 第 63 回 日本小児股関節研究会 2024.06.06 横浜

205. 吉井 俊貴. 頸椎疾患の手術治療と神経障害性疼痛. Orthopedics Live Symposium 2024.06.03 つくば

206. 吉井 俊貴. 脳表ヘモジデリン沈着症でみられる硬膜の層状剥離. 第 65 回 日本神経学会学術大会 2024.05.29 東京

207. 松倉 遊. 脊椎疾患における神経障害性疼痛の治療 . Live Symposium for Resident 2024.05.27

208. 塚本 和矢, 松井 良太, 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 手指動作の動画解析による手根管症候群スクリーニング法の開発. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.26 福岡

209. 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 塚本 和矢, 脇 智彦, 佐々木 亨, 若林 良明, 平澤 直之, 二村 昭元, 藤田 浩二, 吉井 俊貴. 中高年女性における握力測定の意義　将来の転倒骨折予防のための予備的検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.26 福岡

210. 江川 聡, 平井 高志, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 森下 真伍, 橋本 淳, 高橋 拓也, 橋本 泉智, 吉井 俊貴. 全周性髄液貯留を伴う脳脊髄液漏出症と脳表ヘモジデリン沈着症との病態の関連. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.26 福岡

211. 脇 智彦, 佐藤 優希菜, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 小山 恭史, 井原 拓哉, 吉井 俊貴, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. 機械学習を用いた超音波検査による手根管症候群診断の試み　重症度診断への新しいアプローチ. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.26 福岡

212. 山田 賢太郎, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 伏見 清秀, 吉井 俊貴. 転移性脊椎腫瘍に対する手術療法の入院中成績は施設間で異なるか　DPC データベースにおける検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.26 福岡

213. 若林 良明, 新関 祐美, 中川 裕介, 吉井 俊貴. リーダーとなる女性整形外科医を育てる　男性指導医による女性整形外科医の指導の現状と課題. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.26 福岡

214. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. AMED 事業で進む運動器再生医療-臨床研究と医師主導治験-　滑膜幹細胞による半月板再生. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.26 福岡

215. 杉浦沙羅, 王耀東, 吉井俊貴. 彎曲変形を伴う非定型大腿骨骨幹部切迫骨折に対する外反矯正骨切り術の生体力学的検証—CT 有限要素解析による術前後比較—. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.25 福岡

216. 齊藤 正徳, 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 黒澤 紀雄, 松本 誠一, 船内 雄生, 吉井 俊貴. 骨盤周囲腫瘍に対する, 新しい皮膚切開アプローチ. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

217. 中川 裕介, 大関 信武, 中村 智祐, 星野 傑, 雨宮 正樹, 片倉 麻衣, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 古賀 英之, 関矢 一郎. TKA 後の感染疑い例に対するエコーガイド下滑膜生検による永久標本の病理評価. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

218. 吉原 有俊, 中村 智祐, 大関 信武, 中川 裕介, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 徳本 泰將, 関矢 一郎, 吉井 俊貴, 古賀 英之. Hybrid 外側閉鎖式高位脛骨骨切り術における術前後膝伸展可動域変化に影響を与える因子の検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

219. 高橋 拓也, 森 幹士, 井上 久, 平井 高志, 名越 慈人, 牧 聡, 勝見 敬一, 今釜 史郎, 川口 善治, 山崎 正志, 吉井 俊貴. DISH と AS における脊椎前方架橋数に応じた矢状面アライメントの特徴　厚労科研脊柱靱帯骨化症研究班 · 多施設研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

220. 太田 剛, 藤原 鷹, 二村 昭元, 藤田 浩二, 吉井 俊貴. 当院における術後コンパートメント症候群 (well leg compartment syndrome) の経験. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

221. 東川 尚人, 川端 茂徳, 田中 雄太, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴. 脊磁図を用いた, 大腿神経, 伏在神経, 外側大腿皮神経刺激による馬尾活動の評価. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

222. 橋本 淳, 川端 茂徳, 吉田 剛, 後迫 宏紀, 重松 英樹, 安藤 宗治, 和田 簡一郎, 今釜 史郎, 松山 幸弘, 吉井 俊貴, 竹下 克志. 頸椎後縦靱帯骨化症手術における自発筋電図の発生率と発生タイミングの調査　前向き多施設共同研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

223. 山田 賢太郎, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 伏見 清秀, 吉井 俊貴. DPC データベースにおける転移性脊椎腫瘍に対する手術療法の傾向 (2012-2020 年). 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

224. 高橋 拓也, 平井 高志, 鈴木 亨暢, 角谷 賢一朗, 加藤 仁志, 冨永 博之, 飯沼 雅央, 白谷 悠貴, 吉井 俊貴, 井上 玄, 古矢 丈雄. 手術を要した肺癌転移性脊椎腫瘍患者における予後予測因子の検討　JASA 多施設前向き研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

225. 池田 信介, 宮城 正行, 坂井 顕一郎, 筒井 俊二, 遠藤 努, 江川 聡, 高橋 宏, 國府田 正雄, 高相 晶士, 吉井 俊貴, 山崎 正志. 頸椎後縦靱帯骨化症術後患者の残存神経障害性疼痛の危険因子　多施設前向き調査研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

226. 橋本 泉智, 江川 聡, 高橋 拓也, 橋本 淳, 森下 真伍, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 平井 高志, 吉井 俊貴. 髄液漏出を伴う脳表ヘモジデリン沈着症の瘻孔部位同定における新しいモダリティ 4D dynamic CT myelography の有用性. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

227. 高橋 拓也, 平井 高志, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 大鳥 精司. コンドリアーゼ治療と MED に対する後ろ向き比較研究 (第 1 報)　JSSR 社会保険等システム検討委員会 · プロジェクト委員会共同研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

228. 重松 英樹, 吉田 剛, 世木 直喜, 黒須 健太, 田所 伸朗, 舩場 真裕, 橋本 淳, 安藤 宗治, 高橋 雅人, 森戸 伸治, 高谷 恒範. SEP は Tc-MEP の波形低下時に低下を示すのか　TP 症例での検討　日本脊椎脊髄病学会モニタリング WG 多施設共同研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.25 福岡

229. 太田 剛, 藤原 鷹, 二村 昭元, 藤田 浩二, 吉井 俊貴. 当院における術後コンパートメント症候群 (well leg compartment syndrome) の経験. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.25 福岡市, 福岡県

230. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. 再生医療を用いたスポーツ障害に対する最新治療　スポーツ障害に対する滑膜幹細胞の役割　半月板損傷を例に. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.24 福岡

231. 大関 信武, 中村 智祐, 中川 裕介, 星野 傑, 片倉 麻衣, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 徳本 泰將, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 半月板損傷の治療 up-to-date　ACL 損傷に合併する半月板損傷の外科的治療. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.24 福岡

232. 船内 雄生, 松本 誠一, 谷澤 泰介, 早川 景子, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 本橋 正隆, 有賀 茜, 佐藤 信吾, 吉井 俊貴, 阿江 啓介. 骨 · 軟部腫瘍に対する低侵襲 · ナビゲーション支援治療　ナビゲーションシステムを用いた骨 · 軟部腫瘍に対する低侵襲手術. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.24 福岡

233. 宮武 和正, 神野 哲也, 小谷野 岳, 谷口 直史, 富沢 一生, 羽山 哲生, 渡會 恵介, 古賀 英之, 吉井 俊貴. エビデンスに基づいた変形性股関節症診療-ガイドライン第 3 版-　(第 2 章)『病態』改訂のポイント. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.24 福岡

234. 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 吉井 俊貴. 脊椎インストゥルメンテーション手術支援技術のイノベーション-ナビゲーションとロボット-　脊椎ナビゲーションの成熟　ここまでできる. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.24 福岡

235. 平井 高志. 腰椎椎間板ヘルニアの今後の展望　腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリアーゼ椎間板内酵素注入療法の現状と今後の展望. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.24 福岡

236. 加来拓実, 王耀東, 佐藤信吾, 船内雄生, 平井高志, 松倉遊, 吉井俊貴. 骨修飾薬に長期暴露された骨転移患者の縦断的追跡調査による非定型大腿骨骨折前駆所見の発生 · 進行リスクの解明. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡

237. 小川 晃司, 石井 宣一, 藤井 俊一, 山崎 舜, 半田 和佳, 仙石 祐, 吉井 俊貴, 加藤 剛. 整形外科における診療看護師 (NP) へのタスクシフトの現状とその影響. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

238. 藤井 俊一, 小川 晃司, 加藤 剛, 石井 宣一, 山崎 舜, 半田 佳代, 仙石 祐, 吉井 俊貴. 整形外科診療における診療看護師の役割と活動実績. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

239. 藤原 鷹, 太田 剛, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴. 橈骨 ultra distal 骨密度の検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

240. 中川 裕介, 中村 智祐, 大関 信武, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 片倉 麻衣, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 前外側構成体補強術 · lateral extra-articular tenodesis の併用を行った ACL 再再建術の短期成績. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

241. 有賀 茜, 船内 雄生, 松本 誠一, 佐藤 信吾, 垣見 和宏, 長岡 孝治, 小林 由香利, 吉井 俊貴, 阿江 啓介. 原発腫瘍の根治的切除後に遠隔転移を生じる肉腫症例の検討　転移時期による比較. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

242. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 工藤 篤, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頸椎前方手術後の気道閉塞に対する医療従事者の action protocol の構築　症例報告システマティックレビュー. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

243. 橋本 泉智, 坂井 顕一郎, 松倉 遊, 平井 高志, 小沼 博明, 榊 経平, 新井 嘉容, 牛尾 修太, 大谷 和之, 進藤 重雄, 吉井 俊貴. 大規模研究における頸椎前方手術の術後上気道障害の頻度と危険因子の検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

244. 松倉 遊, 猪瀬 弘之, 平井 高志, 森下 真伍, 江川 聡, 山田 賢太郎, 橋本 淳, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. 頸椎前方手術後の C5 麻痺発生のリスク因子の検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

245. 橋本 泉智, 平井 高志, 高橋 拓也, 橋本 淳, 江川 聡, 森下 真伍, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 吉井 俊貴. 頸椎前方手術術後の嚥下造影検査による嚥下機能評価　前向き研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

246. 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 吉井 俊貴. 頸椎前方椎間板除圧固定術に術後外固定は必要か?　剛性カラー装着群と非装着群の比較. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

247. 白畑 航, 中川 裕介, 中村 智祐, 大関 信武, 片倉 麻衣, 星野 傑, 雨宮 正樹, 吉原 有俊, 吉井 俊貴, 関矢 一郎, 古賀 英之. 術前の中枢性感作は人工膝関節置換術術後 1 年の遺残疼痛, 患者満足度と活動度の低下に関連する. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

248. 山本 貴瑛, 志村 治彦, 藤田 浩二, 佐々木 亨, 二村 昭元, 吉井 俊貴. 上腕骨骨幹部骨折に対する手術合併症の検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

249. 小川 貴久, 福島 和之, 白澤 進一, 神野 哲也, 吉井 俊貴, 伏見 清秀, 大川 淳. 整形外科と総合診療科との協働-現状と課題-　整形外科と総合診療科との協働　現状と課題　大腿骨近位部骨折診療を中心に. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

250. 田中 雄太, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 東川 尚人, 足立 善昭, 渡部 泰士, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴. 神経磁界計測による神経原性胸郭出口症候群の非侵襲的評価. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

251. 船内 雄生, 松本 誠一, 谷澤 泰介, 早川 景子, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 本橋 正隆, 有賀 茜, 佐藤 信吾, 吉井 俊貴, 阿江 啓介. 骨肉腫の関節包外切除において, 術中に関節液が漏出したことは, 腫瘍学的予後にどのような影響を与えるか. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

252. 有賀 茜, 船内 雄生, 松本 誠一, 佐藤 信吾, 垣見 和宏, 長岡 孝治, 小林 由香利, 吉井 俊貴, 阿江 啓介. 原発腫瘍の根治的切除後早期に遠隔転移を生じた骨 · 軟部肉腫症例の臨床的特徴. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

253. 小沼 博明, 坂井 顕一郎, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 平井 高志, 橋本 泉智, 牛尾 修太, 進藤 重雄, 新井 嘉容, 吉井 俊貴. 頸椎前方手術後の C5(6,7,8) 麻痺　多施設研究 1,434 例の検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

254. 猪瀬 弘之, 加藤 剛, 平井 高志, 大川 淳, 吉井 俊貴. 変性疾患の長期成績 (10 年以上)　腰椎変性すべり症に対する手術　長期前向き研究での検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

255. 後迫 宏紀, 吉田 剛, 今釜 史郎, 中島 宏彰, 岩崎 博, 川端 茂徳, 山田 圭, 藤原 靖, 和田 簡一郎, 舩場 真裕, 松山 幸弘. 硬膜内髄外腫瘍手術患者に対する Tc-MEP モニタリング成績の経年的変化　JSSR 脊髄モニタリング委員会多施設前向き研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

256. 吉田 剛, 後迫 宏紀, 今釜 史郎, 川端 茂徳, 安藤 宗治, 山田 圭, 岩崎 博, 高橋 雅人, 和田 簡一郎, 重松 英樹, 松山 幸弘. 後縦靱帯骨化症に対する術中脊髄モニタリング成績の経年的変化　JSSR 脊髄モニタリング委員会多施設前向き研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

257. 舩場 真裕, 吉田 剛, 川端 茂徳, 安藤 宗治, 中島 宏彰, 重松 英樹, 岩崎 博, 山田 圭, 中西 一義, 松山 幸弘, 今釜 史郎. MEP の有用性は術前筋力低下症例において高まる　JSSR モニタリング委員会胸椎手術 1156 例前向き検討. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

258. 後迫 宏紀, 吉田 剛, 今釜 史郎, 中島 宏彰, 岩崎 博, 川端 茂徳, 藤原 靖, 和田 簡一郎, 高橋 雅人, 田所 伸朗, 松山 幸弘. 成人脊柱矯正手術患者に対する Tc-MEP モニタリング成績の経年的変化　JSSR 脊髄モニタリング委員会多施設前向き研究. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

259. 松本 誠一, 阿江 啓介, 谷澤 泰介, 早川 景子, 齊藤 正徳, 黒澤 紀雄, 船内 雄生, 有賀 茜, 林 直輝, 嶋田 壮太郎, 山下 享子. 大腿骨遠位骨肉腫における骨外病変周囲の腫瘍塞栓の術前診断と治療成功例. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.23 福岡

260. 二村 昭元. 上腕骨外側上顆炎の診断と治療の最前線　上腕骨外側上顆炎の病態と関連した解剖. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市, 福岡県

261. 王耀東, 加来拓実, 佐藤信吾, 船内雄生, 吉井俊貴. 非定型大腿骨骨折の病態 · 診断 · 治療—がん患者の医原性骨折を防ぐ集学的骨転移診療の勧め—. 第 9 回日本がんサポーティブケア学会学術集会 2024.05.19 浦和

262. 吉井 俊貴. 骨粗鬆症性椎体骨折の手術治療. 関西医科大学整形外科春期セミナー 2024 2024.05.18 大阪

263. 二村 昭元. 膝関節②（関節外）. 運動器臨床解剖学講座 2024.05.18 Web

264. 吉井 俊貴. 頸椎人工椎間板置換術 適応と手術の実際. 第 9 回 四国脊椎外科研究会 2024.05.11 高知

265. 二村 昭元. TFCC の解剖. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.29 奈良市, 奈良県

266. 二村 昭元, 野呂瀬 美生, 塚本 和矢, 藤田 浩二. 母指 CM 関節の解剖—骨 · 筋 · 腱膜そして関節包. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.29 奈良市, 奈良県

267. 川端茂徳. 神経磁界計測装置による脊髄 · 末梢神経活動の可視化と機能診断. 第 50 回日本生体電気 · 物理刺激研究会 2024.04.27 弘前

268. 吉井 俊貴. 髄膜異常を伴う脳表ヘモジデリン沈着症の診断と治療 —整形外科医が知っておくべきこと—. 脊椎疾患治療を考える会 2024.04.26 群馬

269. 田中雄太, 川端茂徳, 佐々木亨, 橋本淳, 東川尚人, 足立善昭, 渡部泰士, 山田哲也, 藤田浩二, 二村昭元, 吉井俊貴. 神経磁界計測法による神経原性胸郭出口症候群の非侵襲的評価. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.26 奈良

270. 志村 治彦, 佐々木 亨, 藤田 浩二, 二村 昭元. 橈骨頭粉砕骨折に対する loose-fit と press-fit stem 人工橈骨頭置換術の臨床成績の比較検討. 第 67 回 日本手外科学会学術集会 2024.04.26 奈良

271. 脇 智彦, 佐藤 優希菜, 塚本 和矢, 山本 皓子, 山田 英莉久, 井原 拓哉, 佐々木 亨, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田浩二. 超音波検査による手根管症候群の重症度推定の試み —機械学習モデルの構築と精度検証—. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024.04.26 奈良

272. 菱山 隼, 二村 昭元, 藤田 浩二, 佐々木 亨, 吉井 俊貴, 秋田 恵一. 母指 MP 関節橈側の安定化機構に関する解剖学的研究. 第 67 回 日本手外科学会学術集会 2024.04.26 奈良

273. 山本 皓子, 山田 英莉久, 塚本 和矢, 脇 智彦, 佐々木 亨, 二村 昭元, 若林 良明, 藤田 浩二. 握力による骨粗鬆症リスクの推定　—橈骨遠位端骨折の予防に向けて—. 第 67 回 日本手外科学会学術集会 2024.04.25 奈良

274. 塚本 和矢, 佐々木 亨, 井原 拓哉, 野呂瀬 美生, 山田 英莉久, 山本 皓子, 脇 智彦, 二村 昭元, 藤田 浩二. 母指 CM 関節症は重症ほど母指回内角度が低下する. 第 67 回 日本手外科学会学術集会 2024.04.25 奈良

275. 塚本 和矢, 松井 良太, 佐々木 亨, 井原 拓哉, 山田 英莉久, 山本 皓子, 脇 智彦, 二村 昭元, 杉浦 裕太, 藤田 浩二. スマートフォンを用いた手指動作の動画解析による手根管症候群スクリーニング法 —手根管症候群の早期発見に向けた取り組み—. 第 67 回 日本手外科学会学術集会 2024.04.25 奈良

276. 山田 英莉久, 佐々木 亨, 野呂瀬 美生, 山本 皓子, 田中 雄太, 塚本 和矢, 脇 智彦, 井原 拓哉, 二村 昭元, 藤田 浩二. 手根管症候群の上肢運動への影響 —手根管症候群に伴う肩 · 肘愁訴はなぜ起こるのか—. 第 67 回 日本手外科学会学術集会 2024.04.25 奈良

277. 塚本 和矢, 佐々木 亨, 井原 拓哉, 野呂瀬 美生, 山田 英莉久, 山本 皓子, 脇 智彦, 二村 昭元, 藤田 浩二. 母指 CM 関節症におけるピンチ運動に伴う母指回旋運動の動作解析. 第 67 回 日本手外科学会学術集会 2024.04.25 奈良

278. 平井 高志. 頚椎疾患に関わる疼痛へのアプローチ ～当院の最新治療を踏まえて～. Locomo & Pain Live Symposium Vol.5 2024.04.24 WEB

279. 吉井 俊貴. 脊椎疾患の診断と治療 -コモンな疾患からレアな症例まで-. 西新宿整形外科研究会 スプリングセミナー 2024 2024.04.20 新宿, 東京

280. 平井 高志, 高橋 拓也, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 小西 隆允, 平泉 裕, 山縣 正庸, 大鳥 精司. JSSR 社会保険等システム検討委員会主導多施設共同研究 強い腰痛を有する腰椎椎間板ヘルニア患者に対するコンドリアーゼ椎間板内注入療法の成績. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

281. 榊 経平, 坂井 顕一郎, 沼野 藤希, 友利 正樹, 小沼 博明, 小林 裕, 吉井 俊貴. 頚椎可動域を考慮した椎弓形成術の選択基準. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

282. 松倉 遊, 猪瀬 弘之, 平井 高志, 森下 真伍, 江川 聡, 山田 賢太郎, 橋本 淳, 高橋 拓也, 田村 聡至, 新田 智久, 吉井 俊貴. 頚椎前方手術後の C5 麻痺発生のリスク因子の検討. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

283. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 工藤 篤, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頚椎前方手術後の気道閉塞に対する症例報告システマティックレビューによる医療従事者の action protocol の提案. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

284. 森下 真伍, 平井 高志, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 江川 聡, 橋本 淳, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. 胸椎後方除圧固定術における周術期合併症 後縦靱帯骨化症と黄色靱帯骨化症の比較. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

285. 湯浅 将人, 平井 高志, 岩渕 龍彦, 高嶋 吉朗, 島谷 雅之, 吉井 俊貴. DISH 関連骨折に対する新しいスクリュー軌道固定法の提案：3 次元ロッドベンダーも併用した術式の有用性　150 本超のスクリュー使用経験に基づいて. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

286. 山田 賢太郎, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 伏見 清秀, 吉井 俊貴. 施設機能における転移性脊椎腫瘍に対する手術療法の入院中成績の差異の検討　—DPC データベースにおける検討—. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

287. 高橋 洋平, 平井 高志, 高橋 拓也, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 小西 隆允, 平泉 裕, 山縣 正庸, 大鳥 精司. 腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法と内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術の罹病期間が治療成績に与える影響. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

288. 高橋 洋平, 平井 高志, 高橋 拓也, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 小西 隆允, 平泉 裕, 山縣 正庸, 大鳥 精司. 腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法と内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術の罹患高位に応じた治療成績の検討. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

289. 高橋 拓也, 平井 高志, 佐藤 宏征, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 平川 晃弘, 波呂 浩孝, 大鳥 精司. コンドリアーゼ治療と MED の費用対効果研究　-JSSR 社会保険等システム検討委員会 · プロジェクト委員会共同研究-. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.20 横浜

290. 吉井 俊貴. 高齢者に対する頚胸椎手術 合併症とその対策. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

291. 吉井 俊貴, 石井 賢, 三原 久範, 國府田 正雄, 岩崎 幹季, 根尾 昌志, 細金 直文, 金村 徳相. 人工椎間板置換術 2 椎間使用の市販後調査. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

292. 平井 高志, 吉井 俊貴, 高橋 浩, 塩境 一仁, 大川 淳. 頚椎症性神経根症に対するミロガバリンベシル酸塩を NSAIDs に併用処方した際の有効性と安全性に関するエビデンス構築のための研究計画：Miro-Cens. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

293. 筑田 博隆, 藤原 靖, 寒竹 司, 名越 慈人, 古矢 丈雄, 吉井 俊貴, 若尾 典充, 吉田 雅博, 田口 敏彦, 渡辺 雅彦. 頚椎症性脊髄症診療ガイドライン —ガイドラインが先導する未来のリサーチ—. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

294. 有馬 秀幸, 相澤 俊峰, 池上 章太, 石井 賢, 井上 玄, 今釜 史郎, 上田 明希, 大鳥 精司, 新村 千江, 中川 幸洋, 中島 宏彰, 藤田 順之, 藤田 卓仙, 細金 直文, 八木 満, 山田 浩司, 吉井 俊貴, 渡邊 慶, 種市 洋, 筑田 博隆, 中村 雅也, 松山 幸弘, 波呂 浩孝, 金村 徳相. 日本脊椎脊髄病学会データベース（JSSR-DB）の現状と将来への展望. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

295. 橋本 泉智, 平井 高志, 高橋 拓也, 橋本 淳, 江川 聡, 森下 真伍, 山田 賢太郎, 松倉 遊, 吉井 俊貴. 頚椎手術術後嚥下障害の評価方法である Bazaz dysphagia score の妥当性. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

296. 藤田 浩二, 井原 拓哉, 松井 良太, 杉浦 裕太, 小山 恭史, 平井 高志, 吉井 俊貴. スマートフォンと機械学習モデルを用いた頚髄症スクリーニングシステムの構築 —疾患に特徴的な手指運動に着目して—. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

297. 東川 尚人, 川端 茂徳, 田中 雄太, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴. 脊磁図を用いた第 2〜4 腰椎神経根活動の可視化. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

298. 橋本 淳, 川端 茂徳, 吉田 剛, 後迫 宏紀, 安藤 宗治, 和田 簡一郎, 重松 英樹, 岩﨑 博, 高橋 雅人, 田所 伸, 中西 一義, 今釜 史郎, 松山 幸弘, 吉井 俊貴, 竹下 克志. 頚椎後縦靱帯骨化症手術における自発筋電図の発生率と発生タイミングの調査 —前向き多施設共同研究—. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

299. 有馬 秀幸, 相澤 俊峰, 池上 章太, 石井 賢, 井上 玄, 今釜 史郎, 上田 明希, 大鳥 精司, 新村 千江, 中川 幸洋, 中島 宏彰, 藤田 順之, 藤田 卓仙, 細金 直文, 八木 満, 山田 浩司, 吉井 俊貴, 渡邊 慶, 種市 洋, 筑田 博隆, 中村 雅也, 松山 幸弘, 波呂 浩孝, 金村 徳相. JSSR-DB 年次報告 脊椎脊髄手術の疫学調査（2022 年度）. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

300. 若尾 典充, 古矢 丈雄, 吉井 俊貴, 有馬 秀幸, 中島 宏彰, 今城 靖明, 宮本 裕史, 井上 玄, 神原 俊輔, 飯塚 陽一, 渡邊 慶, 小林 和克, 都島 幹人, 海渡 貴司, 橋爪 洋. 頚椎由来の頚肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

301. 高橋 拓也, 平井 高志, 鈴木 亨暢, 角谷 賢一朗, 加藤 仁志, 冨永 博之, 飯沼 雅央, 井上 泰一, 澤田 浩克, 竹上 徳彦, 中西 一夫, 中嶋 秀明, 吉井 俊貴, 井上 玄, 古矢 丈雄. 手術を要した肺癌転移性脊椎腫瘍患者における生存日数の検討 —JASA 多施共同研究—. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

302. 世木 直喜, 中島 宏彰, 今釜 史郎, 古矢 丈雄, 井上 玄, 加藤 仁志, 鈴木 亨暢, 角谷 賢一朗, 石原 昌幸, 冨永 博之, 名越 慈人, 舩場 真裕, 船山 徹, 平井 高志, 中嶋 秀明, 竹上 徳彦. 姑息的手術治療を実施した転移性脊椎腫瘍における病巣高位と機能 · QOL 予後との関連 -JASA 多施設前向き研究-. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

303. 相澤 俊峰, 田中 信弘, 伊藤 康夫, 坂井 顕一郎, 竹林 庸雄, 出村 諭, 平井 高志, 星野 雅俊, 宮崎 正志, 森本 忠嗣, 吉田 剛, 渡辺 航太. 日本脊椎脊髄病学会指導医について. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.19 横浜

304. 藤田 浩二, 山田 英莉久, 渡辺 拓郎, 杉浦 裕太, 井原 拓哉, 平井 高志, 吉井 俊貴. 書字動作解析による頚髄症スクリーニングシステムの開発. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

305. 吉井 俊貴. ハンズオンセミナー Prestige LP™ 頚椎人工椎間板 講習会. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

306. 小沼 博明, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 坂井 顕一郎, 友利 正樹, 榊 経平, 小林 裕, 吉井 俊貴. 腰仙椎後方椎体間固定術における S1 Dual Outer Diameter Screw の有用性の検討. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

307. 上杉 豪, 江川 聡, 湯浅 将人, 平井 高志, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 森下 真悟, 橋本 淳, 髙橋 拓也, 新田 智久, 田村 聡至, 吉井 俊貴. Cement-augmented fenestrated screw の cement 漏出に関する検討. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

308. 及川 修平, 鳥越 一郎, 谷山 崇, 大川 淳, 吉井 俊貴. セメント注入型椎弓根スクリューにおける血管内セメント漏出に影響する因子の検討. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

309. 竹内 彩子, 富澤 將司, 吉井 俊貴. 女性脊椎外科医も使いやすい手術器具への期待　—脊椎外科が女性医師にももっと選ばれるために—. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

310. 坂井 顕一郎, 新井 嘉容, 沼野 藤希, 友利 正樹, 榊 経平, 小沼 博明, 小林 裕, 吉井 俊貴. 頚椎前方手術に術後外固定は必要か？　—ACDF におけるカラー装着群と非装着群の比較—. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

311. 猪瀬 弘之, 田中 寛来, 簗瀬 司, 小沼 宏樹, 片柳 順也, 吉井 俊貴. 頚椎固定術後の骨癒合に関連する因子. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

312. 酒枝 健太郎, 平井 高志, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 森下 真伍, 江川 聡, 橋本 淳, 高橋 拓也, 橋本 泉智, 吉井 俊貴. 頚椎術後の患者立脚型評価における頚椎機能〜前方 · 後方手術を受けた患者さんのリアルな声. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

313. 田村 聡至, 平井 高志, 松倉 遊, 森下 真悟, 江川 聡, 山田 賢太郎, 橋本 淳, 髙橋 拓也, 新田 智久, 吉井 俊貴. 頚椎前方椎間孔開放術における術中 AR 技術の有用性の検討. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

314. 池田 信介, 宮城 正行, 坂井 顕一郎, 遠藤 努, 筒井 俊二, 江川 聡, 高橋 宏, 國府田 正雄, 高相 晶士, 吉井 俊貴, 山崎 正志. 頚椎後縦靭帯骨化症術後患者の残存神経障害性疼痛の危険因子　—多施設前向き調査研究—. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

315. 森 幹士, 宮城 正行, 中島 宏彰, 遠藤 努, 坂井 顕一郎, 加藤 仁志, 牧 聡, 筒井 俊二, 西田 周泰, 草野 和生, 吉井 俊貴, 川口 善治, 高橋 宏, 國府田 正雄, 山崎 正志. 多施設調査による頚椎 OPLL 術後患者の復職状況. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

316. 山田 賢太郎, 鳥羽 三佳代, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 伏見 清秀, 吉井 俊貴. 転移性脊椎腫瘍に対する手術療法の傾向（2012-2020 年 DPC データベースを用いた検討）. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

317. 坂野 友啓, 平井 高志, 高橋 拓也, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 榊 経平, 高野 裕一, 江口 和, 谷口 優樹, 牧 聡, 青木 保親, 小西 隆允, 大鳥 精司. 腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリアーゼ治療と MED 法の年代別治療成績比較　-JSSR 社会保険等システム検討委員会 · プロジェクト委員会共同研究-. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

318. 鈴木 徳孝, 江口 和, 平井 高志, 高橋 拓也, 高橋 洋平, 渡辺 航太, 坂野 友啓, 榊 経平, 牧 聡, 高野 裕一, 谷口 優樹, 青木 保親, 小西隆 隆允, 大鳥 精司. 腰椎椎間板ヘルニア再発患者に対するコンドリアーゼ椎間板内注入療法の成績　-JSSR 社会保険等システム検討委員会 · プロジェクト委員会共同研究-. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

319. 豊田 宏光, 寺井 秀富, 山田 賢太郎, 加藤 相勲, 鈴木 亨暢, 高橋 真治, 玉井 孝司, 澤田 雄大, 岩前 真由, 小林 祐人, 岡村 悠貴, 中村 博亮. 決定木分析を用いた腰椎低侵襲除圧術の術後臨床成績に影響を与える因子の探索. 第 53 回 日本脊椎脊髄病学会学術集会 2024.04.18 横浜

320. 山田 賢太郎, 吉井 俊貴, 工藤 篤, 江川 聡, 森下 真伍, 松倉 遊, 平井 高志, 猪瀬 弘之, 大川 淳. 頚椎前方手術後気道閉塞に対する医療従事者 action protocol 構築. 第 10 回 日本医療安全学会学術総会 2024.04.13 東京

321. 吉井 俊貴. 脊椎疾患の診断と治療 common disease から稀な疾患まで . 第 73 回 多摩整形外科医会 2024.04.06 三鷹 (ハイブリッド)

322. 平井 高志. 脊椎研究みちなかば 〜準備 · データ収集 · 遂行 and beyond . 第 19 回 新潟大学脊椎研究会 2024.04.06 新潟

323. 川端茂徳. 神経磁界計測による次世代の神経機能診断—末梢神経から脊髄まで—. 第 7 回末梢神経の外科研究会 2024.03.30 東京

324. 江川 聡. 種々の異所性骨化のメカニズムに関する基礎的な知見. Spine Expert Lecture Meeting 〜後縦靭帯骨化症と神経障害性疼痛 2024.03.25 WEB

325. 瀬川 裕子. 日常診療で出会う！？ 骨系統疾患あれこれ. 第 358 回 京都整形外科医会 2024.03.23 京都

326. 山本 凜太郎, 二村 昭元, 秋田 恵一. 肘頭の骨形態と上腕三頭筋の筋内腱の停止部における解剖学的関係. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.22 那覇市, 沖縄県

327. 嶋田 壮太郎, 天野 祐輔, 高田 亮平, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 宮武 和正. 人工股関節全置換術後の患者制御鎮痛法（PCA）における皮下投与と静脈内投与の比較検討. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.16 横浜

328. 有賀 茜, 辻野 昭平, 佐藤 信吾, 阿江 啓介, 松本 誠一, 吉井 俊貴. 腕神経叢に発生した平滑筋肉腫—治療と上肢機能温存の両立を考慮し集学的治療を行った 1 例—. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.16 横浜

329. 菊池 正悟, 山崎 舜, 半田 和佳, 石井 宣一, 吉井 俊貴, 加藤 剛. 食道裂孔ヘルニアを合併した DISH 骨折 2 例の手術経験. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.16 横浜

330. 後藤 修平, 吉原 有俊, 星野 傑, 中川 裕介, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 前十字靭帯再建術後、“筋層下鏡視”下に大腿骨ボタン抜去を行った 1 例. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.16 横浜

331. 松倉 遊. 頚椎前方手術における若手が経験するコツとピットフォール . 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.16 横浜

332. 及川 修平, 鳥越 一郎, 若林 良明, 浅野 浩司, 能瀬 宏之, 谷山 崇, 田野 敦寛, 魚水 麻里, 大川 淳, 吉井 俊貴. セメント注入型椎弓根スクリューにおける血管内セメント漏出に影響する因子の検討. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.15 横浜

333. 高橋 広成, 橋本 淳, 平井 高志, 松倉 遊, 森下 真伍, 江川 聡, 山田 賢太郎, 進藤 重雄, 草野 和生, 吉井 俊貴. 頸椎前方除圧固定術後に遅発性食道穿孔が生じ有茎皮弁および新たな骨移植が必要となった症例. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.15 横浜

334. 塩瀬 沙耶, 森下 真伍, 平井 高志, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 江川 聡, 橋本 淳, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. 頸椎人工椎間板置換術後に椎体間の自然融合をきたし、隣接椎間障害による脊髄症を発症した一例. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.15 横浜

335. 王耀東. 下肢外傷治療の基礎と応用. 第 2 回外傷 Expert Seminar in 鹿児島 2024.03.15 鹿児島

336. 山本 貴瑛, 志村 治彦, 富澤　將司. 上腕骨骨幹部骨折治療における合併症の検討. 第 64 回 関東整形災害外科学会 2024.03.15 横浜

337. 平井 高志. コンドリアーゼ治療 5 年間のエビデンス創出. ヘルニコア発売 5 周年記念 WEB セミナー 2024.03.13 WEB

338. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 Common disease から稀な疾患まで　　. 地域で考える痛みの治療 WEB セミナー 2024.03.11 WEB

339. 松倉 遊. 脊椎疾患における神経障害性疼痛〜かかりつけ医のための疼痛管理について〜 . 疼痛治療 web セミナー 2024.03.11 磐田

340. 二村 昭元. スポーツ障害のマネージメントに役立つ運動器解剖学. 14th Sports Medicine Forum 2024.03.10 千代田区, 東京都

341. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害 Common Disease から稀な疾患まで. 第 61 回 地域連携二豊整形外科フォーラム 2024.03.08 大分

342. 高田 亮平, 天野 祐輔, 宮武 和正, 杉田直彦, 吉井 俊貴, 古賀 英之 . iPhone と Apple Watch を併用した非侵襲ナビゲーションシステムの骨盤モデルを用いた精度検証. 第 18 回 日本 CAOS 研究会 2024.03.07 山口

343. 二村 昭元. 超音波画像と関連した骨関節解剖. 千葉県運動器エコーセミナー 2024.03.03 千葉市, 千葉県

344. 山本 凜太郎, 二村 昭元, 星加 昭太, 秋田 恵一. 上腕三頭筋停止腱の構成と線維配列の解剖学的解析. 第 36 回日本肘関節学会学術集会 2024.03.02 札幌市, 北海道

345. 佐藤 哲也, 中川 照彦, 小山 恭史, 黒岩 智之. 当院における上腕骨外側上顆炎に対する直視下手術の臨床成績. 第 36 回 日本肘関節学会学術集会 2024.03.01 札幌

346. 松倉 遊. 脊椎疾患における神経障害性疼痛 〜かかりつけ医のための疼痛管理について〜. 千里整形外科医療連携の会 2024.02.28 ハイブリッド

347. 吉井 俊貴. 脊椎外科領域における術中の止血方法. 浜松整形外科セミナー 2024.02.26 浜松

348. 川端茂徳, 星野優子, 橋本淳, 東川尚人, 高橋拓也, 江川聡, 森下真伍, 山田賢太郎, 松倉遊, 平井高志, 吉井俊貴. 脊磁図による頚髄症患者の脊髄機能評価. 第 25 回圧迫性脊髄症研究会 2024.02.24 東京

349. 平井 高志. 中下位頚椎の前方手術 除圧と固定 外視鏡を用いた教育と Augmented reality による有効で安全な除圧. Seminar for Safe Cervical Surgery 2024 2024.02.24 名古屋

350. 松倉 遊, 平井 高志, 森下 真伍, 江川 聡, 橋本 淳, 高橋 拓也, 田村 聡至, 新田 智久, 山田 賢太郎, 吉井 俊貴. 頚椎前方固定術後 15 年経過して食道穿孔した 1 例 文献的考察含めて . 第 25 回 圧迫性脊髄症研究会 2024.02.24 東京

351. 江川 聡, 橋本 泉智, 平井 高志, 松倉 遊, 森下 真伍, 橋本 淳, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. 脳脊髄液漏出症 · 減少症 · 低髄圧症候群と脳表ヘモジデリン沈着症 (SS) の病態関係 . 第 25 回 圧迫性脊髄症研究会 2024.02.24 東京

352. 江川 聡, 平井 高志, 松倉 遊, 山田 賢太郎, 森下 真伍, 橋本 淳, 高橋 拓也, 吉井 俊貴. ”硬膜バンド”による脊髄圧迫に対して索状物切除術を施行した 2 例. 第 25 回 圧迫性脊髄症研究会 2024.02.24 東京

353. 宮武 和正, 高田 亮平, 天野 祐輔, 吉井 俊貴, 古賀 英之 . 人工股関節全置換術術前の関節内ブロックと術後遺残性疼痛の関連性の検討. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23 京都

354. 榎 政行, 宮武 和正, 高田 亮平, 天野 祐輔, 吉井 俊貴, 古賀 英之 . 人工股関節全置換術における寛骨臼側自家骨移植の有用性検討. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23 京都

355. 高田 亮平, 天野 祐輔, 宮武 和正, 神野 哲也, 吉井 俊貴, 古賀 英之 . Augmented Reality (AR) を用いた人工股関節全置換術. 第 54 回 日本人工関節学会 2024.02.23 京都

356. 平井 高志. コンドリアーゼ治療の実際 治療成績と費用対効果含めて. 青森 LDH セミナー 2024.02.20 青森

357. 吉井 俊貴. 脊椎疾患と神経障害性疼痛 Common disease から稀な疾患まで . Pain Management Seminar in Yonago 2024.02.15 鳥取

358. 平井 高志. 東京医科歯科大学整形外科のコンドリアーゼ注入療法の実際と頚椎外科診療. 令和 6 年札幌市整形外科医学学術講演会 2024.02.10 札幌

359. 亀井 敬太、柿崎 潤、及川 泰宏、佐久間 昭利、福島 駿、瀬川 裕子. 中空ピンを用いた単純性骨嚢胞減圧術に対する当院の工夫. 第 34 回 関東小児整形外科研究会 2024.02.10 WEB

360. 佐久間 昭利、柿崎 潤、及川 泰宏、亀井 啓太、福島 駿、瀬川 裕子. ダウン症候群児に発症したペルテス病の 3 例. 第 34 回 関東小児整形外科研究会 2024.02.10 WEB

361. 福島 駿、柿崎 潤、及川 泰宏、佐久間 昭利、亀井 敬太、瀬川 裕子. 柔道中に生じた鎖骨近位骨端線離開の一例. 第 34 回 関東小児整形外科研究会 2024.02.10 WEB

362. 瀬川 裕子. 小児股関節に起こること —こどもの股関節の診かた · 考え方—. 第 7 回 若松整形外科スポーツ関節鏡研究会 2024.02.09

363. 吉井 俊貴. 頚椎前方手術における 出血コントロール 術中 · 術後の注意点. 第 10 回 日本脊椎前方側方進入手術学会 2024.02.03 名古屋

364. 東川 尚人, 川端 茂徳, 田中 雄太, 足立 善昭, 渡部 泰士, 宮野 由貴, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 吉井 俊貴. 脊磁図を用いた、大腿神経、伏在神経、外側大腿皮神経刺激法による上位腰椎神経根と馬尾活動の評価 . 第 45 回 日本脊髄機能診断学会 2024.02.03 久留米, 福岡

365. 田中 雄太, 川端 茂徳, 佐々木 亨, 橋本 淳, 東川 尚人, 足立 善昭, 渡部 泰士, 藤田 浩二, 二村 昭元, 吉井 俊貴 . 神経磁界計測を用いた神経原性胸郭出口症候群の非侵襲的評価. 第 45 回 日本脊髄機能診断学会 2024.02.03 久留米, 福岡

366. 吉井 俊貴. 頚椎疾患の手術治療と神経障害性疼痛. 第 48 回 お茶ノ水運動器疾患セミナー 2024.01.31

367. 吉井 俊貴. 髄膜異常を伴う脳表ヘモジデリン沈着症. Spinal Surgery Seminar 2024.01.27 広島

368. 江川 聡. 頚椎前方手術の術後管理における当院の工夫. 若手脊椎外科医 Web セミナー 2024.01.24 Web

369. 吉井 俊貴. 頚椎後縦靭帯骨化症に対する手術治療 -脊髄損傷も含めて-. 第 10 回 脊髄損傷再生治療研究会 2024.01.20 WEB

370. 二村 昭元. 第 5 回 手関節. 運動器リハビリテーションのための臨床解剖学講座 2024.01.20 Web

[特許]

1. 生体情報計測装置、生体情報計測方法および生体情報計測プログラム, 特許番号：特許第 7489663 号
2. 神経刺激装置、生体情報計測システムおよび生体情報計測システムの刺激発生タイミング設定方法 , 特許番号：EP 3808263
3. 生体磁気計測装置および生体磁気計測システム, 特許番号：特許第 7479032 号
4. 画像処理装置、画像撮像システム、画像処理方法、およびプログラム, 特許番号：特許第 7511845 号
5. 画像処理装置、画像撮像システム、画像処理方法、およびプログラム, 特許番号：US 11980493

[受賞]

1. 東京医科歯科大学「イノベーションアイデアコンテスト 2023」(山田 賢太郎）, 東京医科歯科大学, 2024 年
2. Case Report アワードセッション 4「その他」: 優秀演題賞（有賀 茜）, 第 64 回 関東整形災害外科学会, 2024 年 03 月
3. 14th CSRS-AP FIRST PRIZE for the Best E-poster（小沼 博明）, CSRS-AP, 2024 年 03 月
4. Korean Fracture Society and Japanese Society for Fracture Repair Exchange Traveling Fellowship（王 耀東）, 日本骨折治療学会, 2024 年 04 月
5. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会 English Presentation Silver Award (江川 聡）, 日本脊椎脊髄病学会, 2024 年 04 月
6. 第 10 回日本医療安全学会学術総会にて優秀演題賞（山田 賢太郎）, 日本医療安全学会, 2024 年 04 月
7. 第 39 回 日本生体磁気学会大会 U35 研究奨励賞（東川 尚人）, 日本生体磁気学会, 2024 年 06 月
8. 2024 年度 重点研究領域 (公募班) 創生医学 GeM-1（有賀 茜）, 東京医科歯科大学, 2024 年 08 月
9. 第 73 回 東日本整形災害外科学会 若手優秀演題アウォード（杉浦 沙羅）, 東日本整形災害外科学会, 2024 年 09 月
10. 第 39 回 基礎学術集会会長賞（AICE 賞）（橋本 泉智）, 日本整形外科学会基礎学術集会, 2024 年 10 月
11. 第 39 回 日本整形外科学会基礎学術集会 優秀ポスター賞（辻野 昭平）, 日本整形外科学会基礎学術集会 , 2024 年 10 月

[その他業績]

1. 「　がんの骨転移を CT 画像から自動で検出する AI モデルの開発　」（船内 雄生）, 2024 年 03 月 Spine
2. NEC と東京医科歯科大学、 AI により慢性腰痛のセルフケアを支援する技術を開発 ～スマートフォンで在宅でも迅速に原因を推定し、改善運動を推薦～（二村 昭元）, 2024 年 03 月
   -
3. 知っておきたい「骨折を防ぐ薬剤」で起きる骨転移患者の「非定型大腿骨骨折」(王 耀東）, 2024 年 07 月 日経メディカル Oncology 学会リポート◎日本がんサポーティブケア学会 2024 https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/search/cancer/report/202407/585180.html

[社会貢献活動]

1. 教授就任の抱負及び新オペ室やＥＲセンター等の魅力について（吉井 俊貴）, 株式会社東海医事新報社, 関東医事新報, 2023 年 12 月 11 日 - 2024 年 01 月 20 日
2. 第 9 回日本がんサポーティブケア学会学術 集会 部会企画 4「骨転移患者の非定型骨折に関する最新の知見(王 耀東）, 日経 BP 社, 日経メディカル Oncology, 2024 年 05 月 19 日 - 2024 年 07 月

疾患多様性遺伝学分野

Department of Human Genetics and Disease Diversity

教　　授　田中　敏博
助　　教　永田　有希
助　　教　高橋　健太郎
助　　教　田中　陽典

(1) 研究活動

以下の分野の研究を行っている.
1）ゲノム情報 · メタゲノム情報に基づく生活習慣病の遺伝学的多様性の理解
2）個別医療に資するゲノム診療マーカーの探索
3）薬理遺伝学
4）疾患の遺伝的背景と環境要因との相互作用の解明
5）遺伝統計学およびゲノム創薬手法の開発

(2) 教育方針

十人十色という言葉の通り、人間は多様な生物であり、疾患罹患性 · 治療抵抗性 · 薬剤の副作用発現など、医療の場においてもヒトの多様性が関連する場面は多い。この多様性をゲノム解析、発現情報解析および遺伝統計解析を通じて理解し、それを診療に活用することのできる人材の育成を目指している。

(3) 研究業績

[原著]

1. Miyako Murakawa, Mina Nakagawa, Hisaaki Nishimura, Shun Kaneko, Masato Miyoshi, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Jun Tsuchiya, Taro Shimizu, Keiya Watakabe, Tomohiro Mochida, Kento Inada, Yasuhiro Iizuka, Hideki Sakai, Yuki Sakurai, Ayako Sato, Seishin Azuma, Takahiro Kawamura, Chiaki Maeyashiki, Masayuki Kurosaki, Fumihiko Kusano, Hideki Watanabe, Hitoshi Kurata, Yuko Karakama, Takeo Fujiwara, Yuki Nagata, Toshihiro Tanaka, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, Yasuhiro Asahina. High serum gamma-glutamyltransferase level after hepatitis C virus elimination is a risk factor for the development of hepatocellular carcinoma. Hepatol Res. 2024.12; 54(12); 1128-1138

2. Yasushi Imai, Kengo Kusano, Takeshi Aiba, Junya Ako, Yoshihiro Asano, Mariko Harada-Shiba, Masaharu Kataoka, Tomoki Kosho, Toru Kubo, Takayoshi Matsumura, Tetsuo Minamino, Kenji Minatoya, Hiroyuki Morita, Masakazu Nishigaki, Seitaro Nomura, Hitoshi Ogino, Seiko Ohno, Masayuki Takamura, Toshihiro Tanaka, Kenichi Tsujita, Tetsuro Uchida, Hiroyuki Yamagishi, Yusuke Ebana, Kanna Fujita, Kazufumi Ida, Shunsuke Inoue, Kaoru Ito, Yuki Kuramoto, Jun Maeda, Keiji Matsunaga, Reiko Neki, Kenta Sugiura, Hayato Tada, Akihiro Tsuji, Takanobu Yamada, Tomomi Yamaguchi, Eiichiro Yamamoto, Akinori Kimura, Koichiro Kuwahara, Koji Maemura, Tohru Minamino, Hiroko Morisaki, Katsushi Tokunaga, . JCS/JCC/JSPCCS 2024 Guideline on Genetic Testing and Counseling in Cardiovascular Disease. Circ J. 2024.11; 88(12); 2022-2099

3. Yasuyuki Kurihara, Takayuki Honda, Akira Takemoto, Katsutoshi Seto, Satoshi Endo, Kousuke Tanimoto, Susumu Kirimura, Masashi Kobayashi, Shunichi Baba, Yasuhiro Nakashima, Ryo Wakejima, Rie

Sakakibara, Hironori Ishibashi, Johji Inazawa, Toshihiro Tanaka, Yasunari Miyazaki, Kenichi Okubo. Immunohistochemistry of p53 surrogates TP53 mutation as an accurate predictor for early-relapse of surgically resected stage I-III lung adenocarcinoma JTCVS Open. 2024.08;

4. Ishikawa T, Masuda T, Hachiya T, Dina C, Simonet F, Nagata Y, Tanck MWT, Sonehara K, Glinge C, Tadros R, Khongphatthanayothin A, Lu TP, Higuchi C, Nakajima T, Hayashi K, Aizawa Y, Nakano Y, Nogami A, Morita H, Ohno S, Aiba T, Krijger Juárez C, Mauleekoonphairoj J, Poovorawan Y, Gourraud JB, Shimizu W, Probst V, Horie M, Wilde AAM, Redon R, Juang JJ, Nademanee K, Bezzina CR, Barc J, Tanaka T, Okada Y, Schott JJ, Makita N.. Brugada syndrome in Japan and Europe: a genome-wide association study reveals shared genetic architecture and new risk loci European Heart Journal. 2024.07; 9(45); 2320-2332
5. Fukuda H, Arai K, Mizuno H, Nishito Y, Motoi N, Arai Y, Hiraoka N, Shibata T, Sonobe Y, Kayukawa Y, Hashimoto E, Takahashi M, Fujii E, Maruyama T, Kuwabara K, Nishizawa T, Mizoguchi Y, Yoshida Y, Watanabe SI, Yamashita M, Kitano S, Sakamoto H, Nagata Y, Mitsumori R, Ozaki K, Niida S, Kanai Y, Hirayama A, Soga T, Tsukada K, Yabuki N, Shimada M, Kitazawa T, Natori O, Sawada N, Kato A, Yoshida T, Yasuda K, Ochiai A, Tsunoda H, Aoki K.. Molecular subtypes of lung adenocarcinoma present distinct immune tumor microenvironments CANCER SCIENCE. 2024.06; 115(6); 1763-1777

[講演 · 口頭発表等]

1. 永田有希. 高品質の生体試料管理を目指す「はじめの一歩」～自己点検票を用いたセルフチェックについて～. クリニカルバイオバンク学会 2024.08.03 宮城県仙台市
2. 高橋健太郎. 肥満によって傷害される、エピジェネティクスを介したマクロファージの低酸素応答性. The 3rd Blue Jays Cardiology Meeting 2024.02.16

応用再生医学

Applied Regenerative Medicine

教授：関矢一郎
准教授：片野尚子
講師：大関信武
医学部内講師：水野満
プロジェクト助教：遠藤健太郎
大学院生：古岡秀人、谷本貴大、松多誠也、四十物佑介、児玉隼人、
日高由貴、渕岡佑亮、目黒智子、北村拓也、華山博翔、
髙桑拓也、李昇炫、佐久間紅朱
技術支援員：浅見あすか、河村清香
技術補佐員：三浦純子
事務支援員：奥村千晶

(1) 分野概要

近年、幹細胞医学 · 再生医学の発展は目覚ましく、グローバル市場の獲得に向けた再生医療等製品の開発競争が進んでいる。当分野では、変形性膝関節症を対象として、既存治療法に対して高い有効性を示す再生医療を実用化する観点から幹細胞医学 · 再生医学の基礎研究を行ない、橋渡し研究を充実させ、その成果を臨床応用し、最終的には産業化まで目指すことを目的とする。

(2) 研究活動

(1) 幹細胞による再生医療の開発
(2) 細胞治療 · 再生医療の実用化 · 産業化
(3) 幹細胞に対する安全性試験
(4) 橋渡し研究
(5) 膝 MRI を 3 次元解析するソフトの開発

(3) 教育活動

毎週火曜日の朝 7 時 30 分から、運動器外科分野と合同で、大学院生の研究進捗を発表する Research Progress（RP）を実施する。木曜日の朝 7 時 30 分からは、整形外科学分野と合同で英語論文を紹介する Journal Club（JC）を行う。月曜日には、対面型の RP を実施し、ディスカッションを通じて、直接の指導教員以外の意見を聞く機会を設けている。大学院生には、1 年次から個別に課題を与え、問題点の抽出や解決手法の検討を行わせるとともに、セミナー形式で定期的な研究報告を課す。得られた研究成果は国内外の学会や査読付き論文の発表を通じて発信している。また、企業との共同研究により開発した 3 次元 MRI 膝関節解析ソフトウェアを用いた研究プロジェクトや臨床研究に参加させ、産官学が集う再生医療実用化の最前線に立つことで、多角的な視点を養うことを目指している。

(4) 教育方針

本分野の教育では、再生医療の基礎研究から臨床応用、産業化に至るまでのプロセスを体系的に理解し、実践できる人材の育成を目指している。大学院生には、幹細胞生物学や再生医学などの専門知識を修得させるとともに、研究の基盤となる科学的思考力を養い、自ら課題を設定し、実験を通じて検証する能力を修得させる。さらに、学会発表や論文執筆を推奨し、国際的な情報発信力を強化する。本分野の教育を通じて、大学院生が基礎研究 · 臨床研究 · 医療のいずれの領域においても、再生医療の発展に寄与する専門性と応用力を兼ね備えた人材へと成長することを期待している。1 年次に英文論文を投稿することを目標にしており、ここ数年、毎年 1 人はこれを達成している。

(5) 臨床活動および学外活動

変形性膝関節症に対する新規治療法の確立を目指し、基礎研究から橋渡し研究、実用化研究までを推進している。2000 から 2010 年にかけて、滑膜幹細胞が軟骨や半月板への分化能を持ち、移植によって自然治癒を促進することを発見し、低侵襲な鏡視下手術による細胞移植法を開発した。この研究は高く評価され、2013 年に国家プロジェクト「再生医療の実現化ハイウェイ」に採択された。さらに、文部科学省支援の橋渡し研究を経て、厚生労働省の支援のもと、2017 年に「自家滑膜幹細胞の半月板損傷を対象とする医師主導治験」を開始し、2019 年には企業と特許ライセンス契約を締結、2023 年には企業治験（第 III 相試験）を開始した。

次いで、広い患者層への適用を目指し、滑膜幹細胞の関節内注射による治療法開発を進め、2017〜2020 年に国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の支援を受けて臨床研究を実施した。その結果を基に、2023 年に二重盲検比較試験として医師主導治験を開始した。

再生医療 · 細胞治療の実用化においては、安全性の確保、作業効率の適正化、製造工程の標準化など、実務的な課題解決に取り組んでいる。産学連携を通じて、これらの課題を着実に解決し、実用化の道を切り開いている。一方、基礎研究では、変形性膝関節症における細胞老化のメカニズム解明も重要テーマとし、疾患の本質的な理解と効果的な治療戦略の構築を目指している。

さらに、MRI 画像解析技術の開発に取り組み、2015 年より AMED の支援を受けて企業と共同で、人工知能（AI）を活用した膝関節の 3 次元 MRI 画像（3D-MRI）膝関節解析ソフトウェアを開発した。次いで、2018 年には地域住民疫学コホート研究「神奈川ひざスタディ」を開始し、日本人変形性膝関節症の MRI データを収集した。2022 年からは国内主要 5 大学と多施設研究を進め、機種間誤差の検証を行っている。軟骨厚さの定量評価は再生医療の客観的評価に不可欠であり、精度向上と標準化を実現することによって、本ソフトウェアが整形外科領域の研究 · 診療に広く活用されることを目指している。

(6) 研究業績

[原著]

1. Mitsuru Mizuno, Yoshitaka Maeda, Sho Sanami, Takahisa Matsuzaki, Hiroshi Y Yoshikawa, Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Noninvasive total counting of cultured cells using a home-use scanner with a pattern sheet. iScience. 2024.03; 27(3); 109170

2. Yusuke Fuchioka, Kentaro Endo, Yuriko Sakamaki, Takahiro Tanimoto, Nobutake Ozeki, Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Makoto Tomita, Ichiro Sekiya. Scanning electron microscopy analysis of synovial and adipose mesenchymal stem cells adhering to cartilage. Regen Ther. 2024.12; 27; 488-495

3. Hayato Kodama, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Macrophage depletion in inflamed rat knees prevents the activation of synovial mesenchymal stem cells by weakening Nampt and Spp1 signaling. Inflamm Regen. 2024.11; 44(1); 47

4. Yusuke Aimono, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Cellular senescence contributes to spontaneous repair of the rat meniscus. Aging Cell. 2024.10; e14385

5. Hisako Katano, Nobutake Ozeki, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Hideyuki Koga, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Femoral cartilage defects initiate from medial meniscus extrusion or tibial cartilage lesions and expand in knee osteoarthritis as revealed by 3D MRI analysis. Sci Rep. 2024.10; 14(1); 25937

6. Naoko Araya, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Mikio Shioda, Nobutake Ozeki, Yuji Kohno, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hiroki Katagiri. Risk factors for delayed bone union in opening wedge high tibial osteotomy. Jt Dis Relat Surg. 2024.08; 35(3); 546-553

7. Seiya Matsuta, Kentaro Endo, Nobutake Ozeki, Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Synovial mesenchymal stem cells secrete more lubricin than adipose mesenchymal stem cells after injection into rat osteoarthritis knees. Biochem Biophys Res Commun. 2024.07; 729; 150354

8. Tetsuya Tachibana, Hiroki Katagiri, Junpei Matsuda, Nobutake Ozeki, Toshifumi Watanabe, Ichiro Sekiya, Tetsuya Jinno. Biomechanical analysis of load distribution in porcine hip joints at different acetabular coverages. BMC Musculoskelet Disord. 2024.07; 25(1); 576

9. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Aritoshi Yoshihara, Hisako Katano, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Cartilage thickness in the medial compartment of the knee joint evaluated by MRI three-dimensional analysis correlates with weight-bearing line ratio and joint line convergence angle. J Orthop Sci. 2024.07;

10. Nakagawa Y, Koga H, Sekiya I, Hasegawa S, Katagiri H, Watanabe T. Equivalent clinical outcomes between anatomical alignment versus mechanical alignment of simultaneous bilateral total knee arthroplasty using a posterior-stabilized prosthesis during an average follow-up of five years: a prospective randomized clinical trial. The Journal of arthroplasty. 2024.07;

11. Shoichi Hasegawa, Riko Yamashita, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Tomomasa Nakamura, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya, Toshitaka Yoshii, Vicki Rosen, Kunikazu Tsuji. A novel methodology utilizing microchip implants to monitor individual activity and body temperature for assessing knee pain in group-housed rats. Sci Rep. 2024.07; 14(1); 16909

12. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Aritoshi Yoshihara, Hisako Katano, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. The association of the medial meniscus covering ratio with knee cartilage thickness at 15 medial compartment subregions as found by three-dimensional analysis using MRI. J Exp Orthop. 2024.07; 11(3); e70005

13. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Aritoshi Yoshihara, Shoichi Hasegawa, Yasumasa Tokumoto, Ichiro Sekiya, Nobutake Ozeki. Steep medial posterior tibial slope angle and ramp lesion are independent risk factors for an increase in quantitatively measured pivot shift in patients with ACL-deficient knees. J Exp Orthop. 2024.07; 11(3); e70011

14. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Junpei Matsuda, Tomomasa Nakamura, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Ryota Seki, Toyohiro Katsumata, Mitsuru Mizuno, Ken Watanabe, Ichiro Sekiya, Kunikazu Tsuji, Yusuke Nakagawa. Presoaking grafts in vancomycin does not impair graft-bone healing in a rat anterior cruciate ligament reconstruction model. Am J Sports Med. 2024.06; 52(7); 1784-1793

15. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Toshiyuki Ohara, Tomomasa Nakamura, Aritoshi Yoshihara, Masaya Hayashi, Hideya Yoshimura, Tsuyoshi Nagase, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Serial assessment of factors associated with patient-reported outcomes up to 2 years after ACL reconstruction using autologous hamstring tendon: results from the TMDU MAKS study. Orthop J Sports Med. 2024.06; 12(6); 23259671241254105

16. Mitsuru Mizuno, Kouichirou Yori, Toshikazu Takeuchi, Takaaki Yamamoto, Natsumi Ishikawa, Megumi Kobayashi, Miwako Nishio, Ichiro Sekiya. Evaluation of cleaning methods for change-over after the processing of cell products to avoid cross-contamination risk. Regen Ther. 2024.06; 26; 489-495

17. Mitsuru Mizuno, Koki Abe, Takashi Kakimoto, Hisashi Hasebe, Ichiro Sekiya. Decreasing electricity costs of clean room for cell products during non-operation. Regen Ther. 2024.06; 26; 1117-1123

18. Hisako Katano, Kanto Nagai, Haruka Kaneko, Eiji Sasaki, Naofumi Hashiguchi, Ryosuke Kuroda, Muneaki Ishijima, Yasuyuki Ishibashi, Nobuo Adachi, Makoto Tomita, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Variations in knee cartilage thickness: Fully automatic three-dimensional analysis of MRIs from five manufacturers. Eur J Radiol. 2024.05; 176; 111528

19. Tagawa Y, Saito T, Iwai H, Sato M, Noda S, Yamamoto A, Ota M, Endo K, Koga H, Takahara Y, Sugimoto K, Sekiya I, Fujio K, Kawakami E, Mizoguchi F, Yasuda S. ARID5B is a negative modulator of IL-6 production in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts. Immunological medicine. 2024.05; 47(3); 1-10

20. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Masaki Amemiya, Ichiro Sekiya. Real-time virtual sonography-guided ossicle removal in unresolved Osgood-Schlatter disease. Arthrosc Tech. 2024.04; 13(4); 102897

21. Mitsuru Mizuno, Koki Abe, Takashi Kakimoto, Hisashi Hasebe, Naoki Kagi, Ichiro Sekiya. Operator-derived particles and falling bacteria in biosafety cabinets. Regenarative Therapy. 2024.03; 25; 264-272

22. Yugo Miura, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Histological and biochemical changes in a rat rotator cuff tear model with or without the subacromial bursa. Tissue Cell. 2024.03; 88; 102370

23. Sayaka Nagasawa, Yuichiro Hirata, Sho Miyamoto, Seiya Ozono, Shun Iida, Harutaka Katano, Shigeki Tsuneya, Kei Kira, Susumu Kobayashi, Makoto Nakajima, Hiroyuki Abe, Masako Ikemura, Isao Yamamoto, Kimiko Nakagawa, Kazumi Kubota, Shinji Akitomi, Iwao Hasegawa, Tetsuo Ushiku, Tadaki Suzuki, Hirotaro Iwase, Yohsuke Makino, Hisako Saitoh. Changes in SARS-CoV-2 viral load and titers over time in SARS-CoV-2-infected human corpses. PLoS One. 2024.03; 19(3); e0287068

24. Yang Yang, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Ryohei Takada, Mai Katakura, Kunikazu Tsuji, Ichiro Sekiya, Kazumasa Miyatake. Characteristics of the synovial microenvironment and synovial mesenchymal stem cells with hip osteoarthritis of different bone morphologies. Arthritis Res Ther. 2024.01; 26(1); 17

[書籍等出版物]

1. 関矢一郎. 再生医学とフレイル・ロコモ～半月板を例にして～. 日本医事新報社, 2024.08 (ISBN : 978-4-7849-2385-4)

[総説]

1. 関矢一郎. 変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞注射療法の開発 関節外科ー基礎と臨床ー 10 月増刊号. 2024.10; 43; 61-70

2. 関矢一郎. 変形性膝関節症に対する滑膜由来幹細胞注射の基礎と臨床 臨床整形外科. 2024.09; 59(9); 1101-1106

3. 関矢一郎. 滑膜幹細胞を用いた半月板縫合術の治癒促進 臨床スポーツ医学. 2024.09; 41(9); 962-968

4. 大関信武, 関矢一郎, 古賀英之. 逸脱半月板の病態とバイオメカニクス 臨床スポーツ医学. 2024.09; 41(9); 938-942

5. 中川 裕介 , 吉原有俊, 古賀英之, 関矢一郎. 【整形外科医療安全のすべて】(V 章) 整形外科領域別の医療安全トピックス/症例レジストリに基づいた合併症人工膝関節置換術後の神経・血管損傷に対する治療と予防 整形外科 (2024-5 増刊). 2024.05; 75(6); 661-668

6. 関矢一郎. 膝半月板損傷 ドクターサロン. 2024.03; 68(4); 23-26

7. 大関信武, 片野尚子, 古賀英之, 関矢一郎. 3D MRI を用いた半月板評価 オルソペディクス Monthly book orthopaedics. 2024.02; 37(2); 25-30

8. 大関信武, 関矢一郎, 古賀英之. 超音波アシスト下・ 関節鏡視下外側半月板 all-inside 縫合術 関節外科. 2024.01; 43(1); 14-18

[講演・口頭発表等]

1. Nobutake Ozeki. The association of the medial meniscus covering ratio with knee cartilage thickness by 3D MRI. IWOAI 2024 2024.06.25 Morocco

2. Nobutake Ozeki, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Masaki Amemiya, Aritoshi Yoshihara, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Reduction of medial meniscus extrusion by centralization with medial meniscus root tear repair.. 21st ESSKA Congress 2024.05.08 Milano, Italy

3. Yuki Hidaka, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Single Cell RNA Sequencing analysis of human synovial and adipose mesenchymal stem cells for knee osteoarthritis treatment. ORS 2024 Annual Meeting 2024.02.06 Long Beach, Los Angels, United States

4. Hideto Furuoka, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Mesenchymal stem cells in synovial fluid increase in number in response to synovitis and display more tissue-reparative phenotypes in osteoarthritis. Orthopaedic Research Society 2024 Annual Meeting 2024.02.02 California,USA

5. Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Piperlongumine Attenuates Osteoarthritis Progression By Clearing Senescent Chondrocytes And Meniscus Cells. Orthopaedic Research Society 2024 Annual Meeting 2024.02.02 California,USA

6. Hisako Katano. Morphological analysis of three-dimensional MR images of patellofemoral joints in asymptomatic subjects. Orthopaedic Research Society 2024 Annual Meeting 2024.02.02 California,USA

1. 大関信武. Reduction of medial meniscus extrusion by centralization combined with medial meniscus root tear repair. 第 2 回日本膝関節学会 2024.12.07 沖縄県那覇市

2. 関矢一郎. 早期変形性膝関節症と半月板変性：大規模疫学 3D-MRI 解析からフュージョンエコー治療まで. 第 2 回日本膝関節学会 2024.12.06 沖縄県那覇市

3. 大関信武. 膝周囲骨切り術と半月板 centralization の併用. 第 30 回日本最小侵襲整形外科学会 2024.11.09 福井県あわら市

4. 大関信武. AKO に併用する半月板温存術のバイオメカニクス. 第 51 回日本臨床バイオメカニクス学会 2024.11.02 大阪府箕面市

5. 大関信武. 内側半月板後根修復術と Centralization の併用における超音波での半月板逸脱の評価. 第 35 回日本整形外科超音波学会 2024.10.19 東京

6. 四十物佑介, 遠藤健太郎, 古賀英之, 吉井俊貴, 関矢一郎. 細胞老化はラット半月板自然修復に寄与する. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 東京

7. 渕岡佑亮, 遠藤健太郎, 酒巻有里子, 谷本貴大, 大関信武, 中川裕介, 古賀英之, 吉井俊貴, 関矢一郎. 滑膜および脂肪由来間葉系幹細胞の軟骨接着過程における形態学的比較. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 東京

8. 児玉隼人, 遠藤健太郎, 古賀英之, 吉井俊貴, 関矢一郎. 炎症性滑膜においてマクロファージが滑膜幹細胞の数および機能に与える影響の検討. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京

9. 関矢一郎. 半月板の再生医療/細胞治療　—トランスレーショナルリサーチから臨床まで—. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京

10. 大関信武, 中村智祐, 中川裕介, 星野傑, 片倉麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 吉井俊貴, 古賀英之, 関矢一郎. 軟骨 · 半月板の 3 D MRI 解析. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京

11. 日高由貴、遠藤健太郎、中川裕介、古賀英之、吉井俊貴、関矢一郎. 滑膜および脂肪由来間葉系幹細胞における構成サブセットの相違に関する検討. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京

12. 大関信武. アスリートの膝関節軟骨損傷に対する治療. 日本スポーツ整形外科学会 2024 2024.09.12 東京都新宿区

13. 関矢 一郎, 片野 尚子, 水野 満, 北橋 宗, 中村 健太郎, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大関 信武. 再生医療 Advance-トランスレーショナルリサーチから臨床まで-　半月板の再生医療/細胞治療-ランスレーショナルリサーチから臨床まで. 日本整形外科学会雑誌 2024.09.01

14. 関矢一郎. 変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞治療～血液 · 滑膜採取から注射まで～. 滑膜幹細胞治療 WEB カンファレンス in KOBE 2024.07.22 神戸市

15. 関矢一郎. 変形性膝関節症に対する半月板の関与とその温存. 第 45 回日本炎症 · 再生医学会 2024.07.17 福岡市

16. 関矢一郎. 異なる間葉系幹細胞と軟骨再生医療. 第 14 回 JAPSAM PRP· 幹細胞研究会 2024.06.01 京都市

17. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. AMED 事業で進む運動器再生医療-臨床研究と医師主導治験-　滑膜幹細胞による半月板再生. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.26 福岡

18. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. 再生医療を用いたスポーツ障害に対する最新治療　スポーツ障害に対する滑膜幹細胞の役割　半月板損傷を例に. 第 97 回 日本整形外科学会学術総会　2024.05.24 福岡

19. 目黒智子、遠藤健太郎、関矢一郎. 酸化ストレスにより老化誘導したラット滑膜線維芽細胞からの滑膜オルガノイドの作成. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

20. 目黒智子、遠藤健太郎、松田純平、大関信武、関矢一郎. 伸張刺激がヒト滑膜由来間葉系幹細胞の増殖に与える影響. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

21. 関矢一郎、古賀英之、片野尚子、水野満、遠藤健太郎、中川祐介、吉井俊貴、大関信武. 滑膜幹細胞による半月板再生. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

22. 関矢一郎、古賀英之、片野尚子、水野満、遠藤健太郎、中川祐介、吉井俊貴、大関信武. スポーツ障害に対する滑膜幹細胞の役割　-半月板損傷を例に-. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

23. 大関信武. ACL 損傷に合併する半月板損傷の外科的治療. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

24. 関矢一郎. リウマチ医も知っておきたい再生医療最前線. 日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.04.20 神戸市

25. 関矢一郎. 半月板を軸に理解する変形性膝関節症とその温存. 日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 2024.04.19 高松市

26. 大関信武.　Centralization の半月板逸脱抑制効果　-内側半月板後根修復術との併用-.　第 3 回日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会 2024.04.19 高松市

27. 片野　尚子. 大学間連携で推進する認定再生医療等委員会の審査の質及び効率性向上のための取り組み. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.23 新潟市

28. 四十物佑介,　遠藤健太郎,　関矢一郎. ラット半月板自然修復過程における細胞老化の役割の検討. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.23 新潟市

29. 関矢一郎. 自己血清培養細胞による膝の再生医療. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

30. 児玉隼人, 遠藤健太郎, 関矢一郎. 急性期炎症膝においてマクロファージが滑膜間葉系幹細胞の数および機能に与える影響. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

31. 大関信武. 外来における超音波下滑膜採取法の実際　—滑膜幹細胞を用いた膝軟骨 · 半月板再生医療の実現—. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

32. 遠藤健太郎, 日高由貴, 関矢一郎.　Single-cell RNA sequencing によるヒト滑膜 · 脂肪間葉系幹細胞のサブセット解析. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

33. 遠藤健太郎, 片野尚子, 水野満, 大関信武, 関矢一郎. 滑膜由来間葉系幹細胞を用いた治療開発の現状と今後の展望. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

34. 片野尚子. 仮説 · 実験 · 検証を繰り返す喜び〜研究する人生 日本再生医療学会中高生セッション研究者講演. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

35. 浅見 大輔, 中川 裕介, 吉原 有俊, 中村 智祐, 星野 傑, 徳本 泰將, 関矢 一郎, 古賀 英之. 難治性人工膝関節感染に対するメガプロステーシスセメントスペーサー 5 例の治療成績. 関東整形災害外科学会雑誌 2024.03.01

36. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. AMED 事業で進む運動器再生医療-臨床研究と医師主導治験-　滑膜幹細胞による半月板再生. 日本整形外科学会雑誌 2024.03.01

37. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. 再生医療を用いたスポーツ障害に対する最新治療　スポーツ障害に対する滑膜幹細胞の役割　半月板損傷を例に. 日本整形外科学会雑誌 2024.03.01

38. 関矢一郎. 変形性膝関節症の病態と治療を幹細胞の視点から探る. 第 116 回京都整形外科懇話会 2024.02.17 京都市

39. 日高由貴, 遠藤健太郎, 関矢一郎. シングルセル RNA 解析によるヒト滑膜および脂肪由来間葉系幹細胞のサブセット比較. 第 36 回日本軟骨代謝学会 2024.02.16 大阪市

40. 大関信武. 滑膜幹細胞を用いた半月板の再生医療. 第 36 回日本軟骨代謝学会学術集会 2024.02.16 大阪市
41. 遠藤健太郎, 関矢一郎. Piperlongumine は老化軟骨 · 半月板細胞を除去することで変形性膝関節症の進行を抑制する. 第 36 回日本軟骨代謝学会学術集会 2024.02.16 大阪市

[特許]

1. 増殖予測方法、増殖予測装置およびプログラム, 特許番号：特許第 7428353 号
2. 増殖予測方法、増殖予測装置およびプログラム, 特許番号：特許第 7428353 号

[受賞]

1. 第 23 回日本再生医療学会 優秀演題賞（四十物佑介）, 2024 年 03 月
2. 第 23 回日本再生医療学会 優秀演題賞（児玉隼人）, 2024 年 03 月
3. 東京科学大学整形外科研究奨励賞候補研究口演 · 基礎部門 2 位 (児玉隼人）, 2024 年 12 月

[社会貢献活動]

1. ヨミドクター · 連載コラム執筆（読売新聞サイト）, 2017 年 - 現在
2. 文京ラグビースクールメディカル, 2017 年 - 現在
3. クリタウォータガッシュ昭島チームドクター, 2020 年 - 現在
4. 読売巨人軍チームドクター, 2021 年 - 現在
5. 東京大学ラクロス部チームドクター, 2024 年 - 現在
6. 厚生労働省　認定再生医療等委員会の審査の質向上事業委員会委員, 2024 年 09 月 30 日 - 2025 年 03 月 31 日
7. 厚生労働省　厚生科学審議会（再生医療等評価部会）臨時委員, 2024 年 12 月 01 日 - 2026 年 11 月 30 日

器官発生 · 創生学分野

教　　授　武部　貴則
助　　教　関谷　佐智子
プロジェクト助教　佐伯　憲和
非常勤講師　米山　鷹介
非常勤講師　島田　佳弘
非常勤講師　井口　拓馬
非常勤講師　永井　博文
非常勤講師　金川　幸紀
研究補佐員　前澤　真理
研究補佐員　大津　香苗
研究補佐員　杵渕　明子
技術補佐員　松島　麻悠子
技術補佐員　森　美智子
事務補佐員　山本　郁子
事務補佐員　石井　諒太
大学院生　徐　澤宇
大学院生　張　暕春
大学院生　山口　仁美
大学院生　河村　峻太郎
大学院生　平井　亜整
大学院生　栗原　泰幸
大学院生　市村　健太郎
大学院生　竹内　将
大学院生　石原　慶

(1)　分野概要

私たちは、多能性幹細胞研究を活用したオルガノイド（Organoid）技術を基軸とすることで、未知の疑問や課題を定義し、全く新たな医学的価値を創造することの可能な、生命科学研究を展開しきたいと考えています。

私たちの身体は、1個の受精卵が繰り返し増殖と分化を繰り返すことにより形成され、最終的に生命体の機能単位である臓器、ひいては、数十兆の細胞からなる個体が形成されます。私たちは、このようなヒト臓器や個体発生における緻密な生物学的プロセスを理解 · 制御を試みることで、その破綻がもたらす疾患の理解と克服 · 移植医療におけるドナーの絶対的不足という臨床課題の解決を目指した研究開発を進めてきました。本分野では、近年研究の進歩が著しい幹細胞生物学や発生生物学における最新知見を駆使することで、ヒト人工多能性幹（iPS）細胞などの幹細胞から数百万もの細胞から構成される複雑な構造を有した臓器の芽（オルガノイド、Organoid）を創出する技術の確立を目指します。最終的に、現在も治療が困難なさまざまな疾患分野において移植医療や創薬応用を通じて、オルガノイドを活用した革新的な治療概念（オルガノイド医学、Organoid Medicine）を次々と実証していくことを目標としています。

(2)　研究活動

私達の研究室では、ヒトの幹細胞より創出したさまざまな臓器の正常 · 疾患オルガノイド（臓器の芽）をツールとして、発生学 · 分子生物学 · 工学 · 遺伝学 · 進化学 · 情報科学 · 物理学 · 化学 · 医学など多分野における学理を結

集することにより、次世代のオルガノイド研究領域を牽引するクリエイティブな基礎科学研究を推進します。具体的には、以下に示す大きく 3 つの研究プロセスを通じて、これまでの常識や原理 · 原則に囚われず全く新たな学術 · 医療概念を生み出すことを試みます。

臓器に学ぶ（Learn）：
ヒト臓器発生は、これまで研究ツールが存在しなかったため、その多くの過程がブラックボックスとなっていました。臓器をつくるために役立つ情報を得るために、ヒトオルガノイドを用いて、未解明の臓器発生メカニズムの理解を試みています。

臓器を創る（Creation）：
ヒト臓器は、多様な細胞が、複雑な構造を形成することで機能が成立します。これらの多様性 · 複雑性を培養環境で再現することにより、新たなオルガノイドの創出技術を確立します。

臓器を使う（Prototyping）：
オルガノイドを活用して、創薬や再生医療応用を実現するための基盤技術を開発します。ユニット長が兼務しているシンシナティ小児病院や、タケダ-CiRA プログラムなど、国際性 · 多様性に富む研究チームと連携することで、医療応用の加速を目指します。

(3) 研究業績

[原著]

1. Sheth M, Sharma M, Lehn M, Reza HAl, Takebe T, Takiar V, Wise-Draper T, Esfandiari L. Three-dimensional matrix stiffness modulates mechanosensitive and phenotypic alterations in oral squamous cell carcinoma spheroids APL Bioengineering. 2024.09; 8(3); 036106

2. Lutolf MP, Radisic M, Beekman J, Huh DD, Huch M, Turco MY, Niloofar Z, Birgani T, Gao D, Yao R, Lin H, Takebe T. In vitro human cell-based models: What can they do and what are their limitations? Cell. 2024.08;

3. Liu YJ, Kimura M, Li X, Sulc J, Wang Q, López SR, Scantlebery AML, Strotjohann K, Ayala HG, Vijayakumar A, Myers RP, Ivanisevic J, Houtkooper RH, Subramanian GM, Takebe T, Auwerx J. ACMSD inhibition corrects fibrosis, inflammation, and DNA damage in MASLD/MASH Journal of Hepatology. 2024.08;

4. Quach S, Lewis K, Iwasawa K, Milton Y, Guillot Ahmed YA, Takebe T, Behncke RY, Rezvani M. SAT-180 Targeting neutrophil injury-pathways and fibrogenesis in nonparenchymal immune tissue-like liver organoids generated from human induced pluripotent stem cells Journal of Hepatology. 2024.06; 80; S302-S303

5. Miao Y, Tan C, Pek NM, Yu Z, Iwasawa K, Kechele DO, Sundaram N, Pastrana-Gomez V, Kishimoto K, Yang M, Jiang C, Tchieu J, Whitsett JA, McCracken KW, Rottier RJ, Kotton DN, Helmrath MA, Wells JM, Takebe T, Zorn AM, Chen Y, Guo M, Gu M. Deciphering Endothelial and Mesenchymal Organ Specification in Vascularized Lung and Intestinal Organoids bioRxiv. 2024.02;

6. Naraoka Y, Mabuchi Y, Kiuchi M, Kumagai K, Hisamatsu D, Yoneyama Y, Takebe T, Akazawa C. Quality Control of Stem Cell-Based Cultured Meat According to Specific Differentiation Abilities Cells. 2024.01; 13(2); 135

7. Jurickova I, Dreskin BW, Angerman E, Bonkowski E, Tominaga K, Iwasawa K, Braun T, Takebe T, Helmrath MA, Haberman Y, Wells JM, Denson LA. Eicosatetraynoic Acid Regulates Pro-Fibrotic Pathways in an Induced Pluripotent Stem Cell Derived Macrophage:Human Intestinal Organoid Model of Crohn’s Disease bioRxiv. 2024.01;

[総説]

1. Toshiya Nishimura, Takanori Takebe. Synthetic human gonadal tissues for toxicology Reproductive Toxicology. 2024.04; 108598

2. Masaki Kimura, Takanori Takebe. Cellotype–phenotype associations using ‘organoid villages Trends in Endocrinology & Metabolism. 2024.04; 35(6); 462-465

3. Sho Osonoi, Takanori Takebe. Organoid-guided precision hepatology for metabolic liver disease Journal of Hepatology. 2024.01; 80(5); 805-821

1. 平井 亜整、武部貴則. 脂肪性肝疾患を模倣する肝細胞 · オルガノイド研究の最前線 臨床免疫 · アレルギー科. 2024.05; 81(5);
2. 平井亜整、武部貴則. 脂肪性肝疾患を模倣する幹細胞 · オルガノイド研究の最前線 臨床免疫 · アレルギー科. 2024.05; 81 (5); 417-424
3. 藤井祐、武部貴則. 医療資源の枯渇に備える研究：腸換気 麻酔. 2024.03; 73(3); 185-192

[講演 · 口頭発表等]

1. Takanori Takebe. Promise and Impact of Organoid Medicine. 16th US-JAPAN DDS SYMPOSIUM 2024.12.19 Hawaii
2. 武部貴則. 肝胆膵臓領域におけるオルガノイド工学の可能性. 国際バイオファブリケーション学会 2024 2024.11.13
3. 武部貴則. 代謝疾患におけるオルガノイド医療. FFDR2024 第 13 回研究発表会（日本応用酵素協会） 2024.11.09
4. 肝疾患を対象としたオルガノイド医療の展望. 第 50 回日本臓器保存生物医学会学術集会 2024.11.08
5. 武部貴則. オルガノイド医学の適応修復研究への展開. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.07
6. 武部貴則. ストリートメディカルによる疾病予防の可能性. JDDW2024　サテライトシンポジウム 2024.11.01
7. 武部貴則. ストリートメディカル ー 生活の現場へ繋がる医療. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.30
8. Takanori Takebe. Organoid based Therapeutics for the Management of Liver Failure. Liver cancer conference in India 2024.09.28 Web
9. Takanori Takebe. Organoid Medicine for Hepatology. Korean Society for Stem Cell Research（KSSCR） 2024.08.26 Seoul
10. Takanori Takebe. Hepato-Biliary-Pancreatic Organogenesis in a Dis. IUPAB Congress Kyoto2024 and 62nd Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (BSJ) 2024.06.24 京都
11. Takanori Takebe. Organoids for Precision Hepatology . The Science-in-Japan Forum 2024.06.13 Washington
12. Takanori Takebe. Complementing Human Organoids for Vascular Discovery. Vascular Discovery 2024.05.16 Chicago
13. Cheng Wang, Yuichiro Hayashi, Masahiro Oda, Yunheng Wu, Shuntaro Kawamura, Takanori Takebe, Kensaku Mori. Anatomical structure-constrained thrombus region segmentation and measurement using confocal laser scanning microscopic images. Proc. SPIE 12930, Medical Imaging 2024: Clinical and Biomedical Imaging, 129300H (2 April 2024) 2024.04.02
14. Takanori Takebe. Organoid-guided Precision Hepatology. Stem Cell Seminar Series at UCLA 2024.03.07 Los Angeles

1. 武部貴則. My Medicine への道. 大阪大学全国教授の会 2024.12.28 大阪
2. 武部貴則. 腸換気法の臨床応用. 第 31 回日本血液代替物学会年次大会 2024.12.05 京都
3. 武部貴則. My Medicine〜100 億人 100 億通りの自己実現に向けて〜. 第 11 回日本地域理学療法学術大会 2024.11.16 大阪
4. 武部貴則. 多能性幹細胞を用いたヒューマン · バイオロジー研究. 大阪大学第三内科同門会 2024.11.16 大阪
5. 武部貴則. 器官機能再建への展望. 国際フロンティアメッセ 2024 2024.09.06 神戸
6. 武部貴則. オルガノイド医療の新展開. 日本外科代謝栄養学会第 61 回学術集会 2024.07.26
7. 武部貴則. オルガノイド研究の可能性ーヒト全層皮膚の人為的再構成. 第 49 回日本香粧品学会学術大会 2024.06.29 東京

8. 武部貴則. オルガノイドを用いた精密肝疾患研究 . 第 36 回肝臓フォーラム（東部） 2024.06.29 東京
9. 武部貴則. 腸換気（EVA）メカニズムを応用した呼吸不全治療. 日本麻酔科学会 第 71 回学術集会 2024.06.06 神戸
10. 武部貴則. ヒューマンオルガノイドを用いた代謝疾患研究. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会 2024.05.19 Web
11. 武部貴則. 多様性 iPS 細胞パネルを用いた疾患個体差研究の可能性. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会 2024.05.16 Web
12. 武部貴則. オルガノイド医療の可能性. 第 3 回日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会 2024.04.19 高松
13. 武部貴則. iPS 細胞 x オルガノイド ‐ 疾患多様性の理解へ. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 2024.04.06 Web
14. 武部貴則. 再生医療におけるアートとデザイン ー 翔ぶように発見、這うように実装. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.22
15. 武部貴則. オルガノイド医療の可能性. 第 57 回日本成人病（生活習慣病）学会 2024.01.14 Web
16. 武部貴則. ストリート · メディカル. スポーツ医学研究会 : 「フィールドケア 2 1」 2024.01.06

[受賞]

1. 2024 年度日本再生医療学会賞（基礎部門）, 日本再生医療学会, 2024 年 03 月
2. 2024 Vilcek Prize for Creative Promise, Vilcek Foundation, 2024 年 04 月
3. 神戸賞（Young Investigator 賞）, 中谷財団, 2024 年 06 月
4. イグ · ノーベル賞（生理学賞）, 2024 年 09 月

[社会貢献活動]

1. 腸から酸素を取り込む「腸呼吸」について, INCLUSIVE 株式会社, ZERONICHI, 2023 年 01 月 12 日 - 現在
2. 腸を使った呼吸法「EVA 法」開発の経緯や今後の展望, 読売新聞社, 読売新聞, 2023 年 01 月 23 日 - 現在
3. 科学技術力の停滞が指摘される日本の研究環境の課題について, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2023 年 05 月 02 日 - 現在
4. 各界を代表する方々を描く人物紹介記事掲載, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 02 月 27 日 - 2024 年 05 月
5. 腸換気技術, 新潮社, 週刊新潮, 2024 年 07 月 11 日

生物統計学分野

Department of Biostatistics

教授　　髙橋　邦彦
准教授　安齋　達彦
助教　　西田　優紀

(1)　分野概要

生物統計学はデータ科学の側面から医学研究の中心的役割を担っている。本分野では、生物統計学の視点から、医学、歯学、医療にフォーカスしたデータ分析のための方法論を開発し、さらに統計学の応用を通して実践的なM＆D領域研究を推進していく。

(2)　研究活動

1）M&D 分野データ分析のための方法論開発
M&D 分野のデータ分析のための生物統計学的な方法論の開発を行っている。特に地理 · 時間情報を利用した空間疫学研究、感染症サーベイランス · モニタリング、複雑かつ精緻でない医療リアルワールドデータ（RWD）分析、多元的なエビデンスやモデルの統合に向けたメタアナリシス、ダイナミックモデリングなどにおける問題解決のための新たな統計的方法の開発とともに、実践的な応用研究、普及に向けたソフトウェアの開発も進めている。

2）実践的なM＆D領域研究の推進
医学 · 歯学 · 医療分野の専門家と協力し、M&D 領域の研究の発展 · さらなる向上を目指した共同研究を推進している。臨床研究 · 試験、観察研究、基礎実験研究など様々な研究において、研究設計から統計解析まで協業し、実践していく。さらにデータサイエンスとしての視点から、新たな横断的研究の提案と実践、健診 · 検査 · 診療データなど、M＆Dデータの有効的な活用研究の推進も目指している。

(3)　教育活動

【学部】「生物統計学基礎」（科目責任、担当）、「生物統計学応用 I」（科目責任、担当）、「生物統計学応用 II」（科目責任、担当）、「医療と AI· ビックデータ入門」（担当）、「公衆衛生学」（担当）
【大学院】「医療データ科学概論」（科目責任、担当）、「Data Science I（英語）」（科目責任、担当）、「Biostatistics I（生物統計 I）」（科目責任、担当）、「Clinical Biostatistics and Statistical Genetics（臨床 · 遺伝統計学）」（科目責任、担当）、「生物統計学基礎」（科目責任、担当）、「生物統計学応用 I」（科目責任、担当）、「生物統計学応用 II」（科目責任、担当）、「ビッグデータ解析学」（担当）、「先制医療学基礎実習」（担当）、「生物統計学特論」（科目責任、担当）、課題研究

(4)　教育方針

医療分野における実践的な課題の解決をモチベーションとして、数理をベースとした生物統計学的な視点から、研究デザイン、分析方法などのアプローチを開発または適用し、導き出された統計的な結果の解釈を適切に行える力をもった人材を養成する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Asuka Hirose, Masakazu Terauchi, Tamami Odai, Ayako Fudono, Kotoi Tsurane, Masaki Sekiguchi, Misako Iwata, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Naoyuki Miyasaka. Postpartum hair loss is associated with anxiety. J Obstet Gynaecol Res. 2024.12; 50(12); 2239-2245

2. Naoki Uemura, Yuki Nishida, Satoshi Sasaki, Yosuke Yamada, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Keita Yamauchi, Fuminori Katsukawa. BMI trajectory of 8,155,894 Japanese adults from exhaustive health checkup data: the contributions of age-related changes in height and weight. Int J Obes (Lond). 2024.12;

3. Junki Ishii, Mitsuaki Nishikimi, Kazuya Kikutani, Shingo Ohki, Kohei Ota, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Masashi Okubo, Shinichiro Ohshimo, Taku Iwami, Nobuaki Shime. Resuscitation Attempt and Outcomes in Patients With Asystole Out-of-Hospital Cardiac Arrest. JAMA Netw Open. 2024.11; 7(11); e2445543

4. Atsuko Murashima, Kayoko Kaneko, Hiroshi Oguro, Yukiko Mori, Mikako Goto, Shuko Mishima, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi. Pregnancy-related issues from the perspective of patients with inflammatory rheumatic diseases - Results from a survey of the members of the National Association for Inflammatory Rheumatic Diseases. Mod Rheumatol. 2024.10; 34(6); 1162-1169

5. Nobuyuki Nosaka, Tatsuhiko Anzai, Kenji Wakabayashi. Height status matters for risk of mortality in critically ill children. J Intensive Care. 2024.10; 12(1); 42

6. Mitsuaki Nishikimi, Shinichiro Ohshimo, Giacomo Bellani, Wataru Fukumoto, Tatsuhiko Anzai, Keibun Liu, Junki Ishii, Michihito Kyo, Kazuo Awai, Kunihiko Takahashi, Nobuaki Shime, J-CARVE registry group.. Identification of novel sub-phenotypes of severe ARDS requiring ECMO using latent class analysis. Crit Care. 2024.10; 28(1); 343

7. Mikako Goto, Tatsuhiko Anzai, Ritsuko Yamane, Naho Yakuwa, Kunihiko Takahashi, Atsuko Murashima. Pregnancy outcomes after first-trimester exposure to fluoroquinolones: Findings based on an integrated database from two Japanese institutions. Congenit Anom (Kyoto). 2024.09; 64(5); 199-206

8. Hideto Takahashi, Seiji Yasumura, Kunihiko Takahashi, Tetsuya Ohira, Hiroki Shimura, Hitoshi Ohto, Satoru Suzuki, Shinichi Suzuki, Tetsuo Ishikawa, Satoshi Suzuki, Enbo Ma, Masanori Nagao, Susumu Yokoya, Kenji Kamiya. Detection of thyroid cancer among children and adolescents in Fukushima, Japan: a population-based cohort study of the Fukushima Health Management Survey. EClinicalMedicine. 2024.09; 75; 102722

9. Kasumi Ikuta, Maiko Noguchi-Watanabe, Miya Aishima, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Sakiko Fukui. Physical Function Trajectory among High-Functioning Long-Term Care Facility Residents: Utilizing Japanese National Data. Geriatrics (Basel). 2024.09; 9(5);

10. Yoshihiko Tomofuji, Ryuya Edahiro, Kyuto Sonehara, Yuya Shirai, Kian Hong Kock, Qingbo S Wang, Shinichi Namba, Jonathan Moody, Yoshinari Ando, Akari Suzuki, Tomohiro Yata, Kotaro Ogawa, Tatsuhiko Naito, Ho Namkoong, Quy Xiao Xuan Lin, Eliora Violain Buyamin, Le Min Tan, Radhika Sonthalia, Kyung Yeon Han, Hiromu Tanaka, Ho Lee, Asian Immune Diversity Atlas (AIDA) Network, Japan COVID-19 Task Force, Biobank Japan Project, Tatsusada Okuno, Boxiang Liu, Koichi Matsuda, Koichi Fukunaga, Hideki Mochizuki, Woong-Yang Park, Kazuhiko Yamamoto, Chung-Chau Hon, Jay W Shin, Shyam Prabhakar, Atsushi Kumanogoh, Yukinori Okada. Quantification of escape from X chromosome inactivation with single-cell omics data reveals heterogeneity across cell types and tissues. Cell Genom. 2024.08; 4(8); 100625

11. Nobuhisa Morimoto, Hasan Jamil, Mohab Alakkari, Yuki Joyama, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Soichiro Iimori. Associations between dietary potassium intake and urinary potassium excretion: a protocol for systematic review and meta-analysis. Syst Rev. 2024.07; 13(1); 185

12. Nobuhisa Morimoto, Shingo Shioji, Yuichiro Akagi, Tamami Fujiki, Shintaro Mandai, Fumiaki Ando, Takayasu Mori, Koichiro Susa, Shotaro Naito, Eisei Sohara, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Wataru Akita, Akihito Ohta, Shinichi Uchida, Soichiro Iimori. Associations between dietary potassium intake from different food sources and hyperkalemia in patients with chronic kidney disease. Journal of Renal Nutrition. 2024.04;

13. Hiroyuki Maruoka, Takaaki Hattori, Takeshi Hase, Kunihiko Takahashi, Masahiro Ohara, Satoshi Orimo, Takanori Yokota. Aberrant morphometric networks in Alzheimer's disease have hemispheric asymmetry and age dependence. Eur J Neurosci. 2024.03; 59(6); 1332-1347

14. Takuya Takahashi, Hiroyuki Inose, Takashi Hirai, Yu Matsukura, Shingo Morishita, Satoru Egawa, Jun Hashimoto, Kunihiko Takahashi, Toshitaka Yoshii. Factors associated with the time required for CRP normalization in pyogenic spondylitis: A retrospective observational study. N Am Spine Soc J. 2024.03; 17; 100301

15. Yuta Matsubara, Hiroki Kiyohara, Yohei Mikami, Kosaku Nanki, Ho Namkoong, Shotaro Chubachi, Hiromu Tanaka, Shuhei Azekawa, Shinya Sugimoto, Yusuke Yoshimatsu, Tomohisa Sujino, Kaoru Takabayashi, Naoki Hosoe, Toshiro Sato, Makoto Ishii, Naoki Hasegawa, Yukinori Okada, Ryuji Koike, Yuko Kitagawa, Akinori Kimura, Seiya Imoto, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Koichi Fukunaga, Takanori Kanai, Japan COVID-19 Task Force. Gastrointestinal symptoms in COVID-19 and disease severity: a Japanese registry-based retrospective cohort study. J Gastroenterol. 2024.03; 59(3); 195-208

16. Kaneko S, Asahina Y, Murakawa M, Azuma S, Inada K, Mochida T, Watakabe K, Shimizu T, Tsuchiya J, Miyoshi M, Kawai-Kitahata F, Nitta S, Takahashi M, Fujioka T, Kishino M, Anzai T, Kakinuma S, Nakagawa M, Okamoto R. Analysis of prognosis and background liver disease in non-advanced hepatocellular carcinoma in two decades. PLoS ONE. 2024.03; 19(3); e0297882

17. Maiko Noguchi-Watanabe, Kasumi Ikuta, Miya Aishima, Kunihiko Takahashi, Tatsuhiko Anzai, Sakiko Fukui. Reply to: Effect of COVID-19 on physical function declinepredictors in nursing home residents Geriatrics & Gerontology International. 2024.03;

18. Kayo Hirooka, Hiroki Fukahori, Ayako Ninomiya, Sakiko Fukui, Kunihiko Takahashi, Tatsuhiko Anzai, Tomoaki Ishibashi. Impact of family involvement and an advance directive to not hospitalize on hospital transfers of residents in long-term care facilities. Arch Gerontol Geriatr. 2024.02; 117; 105183

19. Yuki Nishida, Yosuke Yamada, Satoshi Sasaki, Eiichiro Kanda, Yoshihiko Kanno, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Keita Yamauchi, Fuminori Katsukawa. Effect of overweight/obesity and metabolic syndrome on frailty in middle-aged and older Japanese adults. Obes Sci Pract. 2024.02; 10(1); e714

20. Kazuki Takahashi, Miho Kobayashi, Hisae Katsumata, Shiori Tokizaki, Tatsuhiko Anzai, Yukinori Ikeda, Daniel M Alcaide, Kentaro Maeda, Makoto Ishihara, Katsutoshi Tahara, Yoshiaki Kubota, Fumiko Itoh, Jihwan Park, Kunihiko Takahashi, Yukiko T Matsunaga, Yasuhiro Yoshimatsu, Katarzyna A Podyma-Inoue, Tetsuro Watabe. CD40 is expressed in the subsets of endothelial cells undergoing partial endothelial-mesenchymal transition in tumor microenvironment. Cancer Sci. 2024.02; 115(2); 490-506

21. Iijima Y, Ejima M, Yamana T, Sonoda S, Shibata S, Shirai T, Okamoto T, Furusawa H, Tateishi T, Adachi T, Mori M, Kirimura S, Anzai T, Takahashi K, Miyazaki Y. Assessment of clinical relevance of antigen improves diagnostic accuracy of hypersensitivity pneumonitis. BMC pulmonary medicine. 2024.02; 24(1); 84

22. Hikaru Aoki, Yasunari Miyazaki, Tatsuhiko Anzai, Kota Yokoyama, Junichi Tsuchiya, Tsuyoshi Shirai, Sho Shibata, Rie Sakakibara, Takahiro Mitsumura, Takayuki Honda, Haruhiko Furusawa, Tsukasa Okamoto, Tomoya Tateishi, Meiyo Tamaoka, Masahide Yamamoto, Kunihiko Takahashi, Ukihide Tateishi, Tetsuo Yamaguchi. Deep convolutional neural network for differentiating between sarcoidosis and lymphoma based on 18F-FDG maximum-intensity projection images. Eur Radiol. 2024.01; 34(1); 374-383

23. Tomomi Sakano, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi, Sakiko Fukui. Impact of home-visit nursing service use on costs in the last 3 months of life among older adults: A retrospective cohort study. J Nurs Scholarsh. 2024.01; 56(1); 191-201

24. Maiko Noguchi-Watanabe, Takako Ishikawa, Kasumi Ikuta, Miya Aishima, Sayuri Nonaka, Kunihiko Takahashi, Tatsuhiko Anzai, Sakiko Fukui. Physical function decline predictors in nursing home residents using new national quality indicators. Geriatr Gerontol Int. 2024.01; 24(1); 123-132

25. Mitsuaki Nishikimi, Shinichiro Ohshimo, Wataru Fukumoto, Jun Hamaguchi, Kazuki Matsumura, Kenji Fujizuka, Yoshihiro Hagiwara, Ryuichi Nakayama, Naofumi Bunya, Junichi Maruyama, Toshikazu Abe, Tatsuhiko Anzai, Yoshitaka Ogata, Hiromichi Naito, Yu Amemiya, Tokuji Ikeda, Masayuki Yagi, Yutaro Furukawa, Hayato Taniguchi, Tsukasa Yagi, Ken Katsuta, Daisuke Konno, Ginga Suzuki, Yuki Kawasaki, Noriyuki Hattori, Tomoyuki Nakamura, Natsuki Kondo, Hitoshi Kikuchi, Shinichi Kai, Saaya Ichiyama,

Kazuo Awai, Kunihiko Takahashi, Nobuaki Shime; J-CARVE registry group. Chest CT findings in severe acute respiratory distress syndrome requiring V-V ECMO: J-CARVE registry. J Intensive Care. 2024.01; 12(1); 5

26. Suzuki A, Tani Y, Anzai T, Isumi A, Doi S, Ogawa T, Moriyama K, Fujiwara T. Association between Short Stature at Grade 1 and Permanent Teeth Caries at Grade 6 in Elementary School Children in Japan: A Population-Based Cohort Study. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2024.01; 21(1); 105

27. Yogi S, Shirahata T, Sato H, Nishida Y, Inoue K, Niitsu M, Akagami T, Masaki K, Nagata M, Tanaka S, Katsukawa F, Nakamura H. Non-exercise Activity Thermogenesis Correlated With Clinical Parameters in Patients With or At-Risk for Chronic Obstructive Pulmonary Disease (COPD): A Pilot Study. Cureus. 2024.01; 16(1); e53019

[書籍等出版物]

1. Python で体感！ 医療と AI はじめの一歩. 羊土社, 2024.09

[総説]

1. 田栗正隆, 高橋邦彦, 小向翔, 伊藤ゆり, 服部聡, 船渡川伊久子, 篠崎智大, 山本倫生, 林賢一. 疫学分野での計量生物学の発展. 計量生物学. 2024.03; 44(2); 129-200

[講演 · 口頭発表等]

1. Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi. A multivariate model in longitudinal meta-analysis of omega-3 fatty acid supplementation for major depressive disorder. XXXII International Biometric Conference 2024.12.13

2. Kunihiko Takahashi, Hideyasu Shimadzu. A spatial detection test for multiple adjacent hotspot clusters of diseases. 32nd International Biometrc Conference (IBC2024) 2024.12.10 Atlanta, USA

3. Michio Yamamoto, Tatsuhiko Anzai, Kunihiko Takahashi. A spatial scan statistic based on partially linear functional additive models. 32nd International Biometrc Conference (IBC2024) 2024.12.10

1. Li Yajie, Yuka Inamochi, Tatsuhiko Anzai, Noriyuki Wakabayashi, Kunihiko Takahashi, Kenji Fueki. An Explainable Artificial Intelligence for Designing Removable Partial Denture Framework. 口腔病学会第 89 回学術大会 2024.12.07 東京科学大学

2. 安齋達彦, 横山徹爾, 高橋邦彦. 国民健康 · 栄養調査における都道府県別指標のベイズ推定. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.31

3. 西田優紀, 安齋達彦, 高橋邦彦, 勝川史憲. メタボリックシンドロームの類型化に基づく医療費および死亡率との関連. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024.10.30

4. Kazuki Takahashi, Miho Kobayashi, Hisae Katsumata, Mizuki Tanaka, Yukinori Ikeda, Tatsuhiko Anzai, Katarzyna A. Podyma-Inoue, Jihwan Park, Kunihiko Takahashi, Yasuhiro Yoshimatsu, Yukiko T. Matsunaga, Tetsuro Watabe. がん微小環境において CD40 は部分的な内皮間葉移行を起こした内皮細胞集団において発現している. 第 83 回日本癌学会学術総会 2024.09.19 福岡市

5. Li Yajie, Yuka Inamochi, Tatsuhiko Anzai, Kazuki Sakamoto, Eung-Yeol Kim, Hirokazu Sato, Taku Nemoto, Noriyuki Wakabayashi, Kunihiko Takahashi, Kenji Fueki. An Explainable Artificial Intelligence for Designing Removable Partial Denture Framework. The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics 2024.07.06 幕張メッセ

6. 高橋邦彦. 医療ビッグデータ時代におけるデータ駆動型研究の実践. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会臨床研究セミナー「ビッグデータ · リアルワールドデータを活用した研究を知る」. 2024.07.05

7. 稲用友佳，安齋達彦，高橋邦彦，笛木賢治. Convolutional Neural Network を用いた 部分床義歯の設計を予測する AI 開発. 第 6 回日本メディカル AI 学会学術集会 2024.06.21 名古屋市公会堂

8. 西田 優紀, 高橋 邦彦, 安齋 達彦, 勝川 史憲. 循環器予防を志す者が知るべき研究デザイン、解析手法とその実践　協会けんぽの全国規模データを用いた就労世代の高額医療費集団におけるマルチモビディティ · パターンの探索. 日本循環器病予防学会誌 2024.05.12

9. 鎗田大地, 原梓, 高橋邦彦, 漆原尚巳. インフルエンザ外来患者抗菌薬処方に対する AMR アクションプランの影響：レセプトデータの中断時系列解析. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.02.01 大津市
10. 伊藤秀美, 小柳友理子, 川浦正規, 尾瀬功, 谷山祐香里, 大谷隆浩, 中谷友樹, 高橋邦彦, 山口類, 松尾恵太郎. がん罹患及び死亡と地理的剥奪指標との関連の臓器別 · 都市度別評価. 第 34 回日本疫学会学術総会 2024.02.01 大津市
11. 梶原瑠太，安齋達彦，高橋邦彦. 副作用自発報告からみた新型コロナワクチン接種による重篤副反応報告とその関連要因. 第 34 回日本疫学会 2024.01.31
12. 高橋邦彦, 神垣太郎. COVID-19 サーベイランスと情報マネジメント. 東京 iCDC フォーラム 2024.01.27
13. 東京 iCDC がコロナ禍で果たした役割、今後の展望について. 東京 iCDC フォーラム 2024.01.27

神経炎症修復学分野
Neuroinflammation and Repair

教授	七田　崇
助教	酒井誠一郎
助教	津山　淳
助教	入佐紘司
大学院生	大谷健人
大学院生	小山龍樹
学部生	中村彩夏
学部生	田中絵梨
学部生	猪狩孝輝
技術支援員	過足芳子
技術支援員	倉林久美子
事務補佐員	吉村眞理子

（1）分野概要

本年度は、文科省共同利用・共同研究システム形成事業・学際領域展開ハブ「多階層ストレス疾患の克服」の一環として、現代社会ストレス研究を実践する若手研究者の育成のため入佐紘司助教が着任した。当分野が設置されて２年目に入り、脳卒中後の機能回復に必要な修復細胞や遺伝子発現の制御メカニズムが明らかとなった。これらの成果によって、脳卒中後の機能回復を持続させる医薬品開発が可能となり、実用化研究が進捗している。

（2）研究活動

脳梗塞巣周囲には、脳梗塞発症 1 週間を経過すると、脳機能回復と関連した神経修復に必要な遺伝子発現を示す脳細胞が出現する。脳梗塞モデルマウスを用いて、このような修復機能をもつ脳細胞を単離して網羅的な遺伝子発現解析を実施し、修復機能を制御する中心的な遺伝子群を同定した。これらを標的としたアンチセンス核酸や低分子化合物を創出することにより、脳機能回復を持続させる医薬品開発を行っている。また、取得した特許に基づき実用化研究を進捗させ、大学発スタートアップの設立を目指している。

（3）教育活動

当分野に所属する学部学生、大学院生の研究指導のほか、スタッフの育成を進めている。当学医学部と歯学部の薬理学、免疫学、神経科学の講義を担当しており、学部学生に対しても研究活動を促進するゼミを実施している。

（4）教育方針

国際的に活躍できるだけの、基礎的なサイエンスを実践する実力を持ち、独創的な視点に基づいて画期的なアイデアを創り出して社会に還元することができる人材を育成している。発案に基づいて資金と人材を集め、育成しながら共同して事に当たり、画期的な事項を達成するまでの方法論を手渡しで伝えている。

（5）研究業績

[原著]

1) Zoledronic acid attenuates ischemic brain injury by promoting ETS2 and MSR1 expression to International Immunology. ***Int Immunol*** (2025) *in press.*
2) Nakamura A*, Sakai S*, Taketomi Y, Tsuyama J, Miki Y, Hara Y, Arai N, Sugiura Y, Kawaji H, Murakami M, Shichita T. (*Equal contribution) PLA2G2E-mediated lipid metabolism triggers brain-autonomous neural repair after ischemic stroke. *Neuron* 111, 2995-3010 (2023)

[総説]

1) 小山龍樹，七田崇：神経系疾患における炎症と修復 脳梗塞における自然免疫系と獲得免疫系のはたらき．32(4):282-287（2024）
2) Koyama R, Shichita T. Role of myeloid cells in neural repair after brain tissue injury. *Clin Exp Neuroimmunol.* **15**, 215–221 (2024)
3) 田中絵梨，七田崇: もっとよくわかる！細胞死　多様な「制御された細胞死」のメカニズムを理解し疾患への関与を紐解く．株式会社羊土社. 164-171 (2024)
4) 中村彩夏，七田崇：脳梗塞後の炎症と修復を制御する脂質代謝　Annual Review 神経 2024，2024: 129-134 (2023)
5) Sakai S, Shichita T. Role of alarmins in poststroke inflammation and neuronal repair. *Seminars in Immunopathology* 45, 427-435 (2023)
6) 津山 淳、七田 崇：脳梗塞後の炎症と修復における免疫細胞の役割．炎症と修復. vol.31 no.3(2023)
7) Koyama R, Shichita T. Glial roles in sterile inflammation after ischemic stroke. *Neurosci Res.* **187**, 67–71 (2023)
8) 小山龍樹，七田崇：脳梗塞における免疫細胞による炎症と修復　臨床免疫・アレルギー科. 80(2):219-224（2023）

[講演・口頭発表など]

1) 酒井 誠一郎，七田 崇：脳梗塞後の体性感覚野へのトップダウン入力の強化と修復性の遺伝子発現．学会名：第 102 回日本生理学会大会　場所：幕張　年月：2025 年 3 月 17 日　ポスター発表
2) 酒井 誠一郎，七田 崇：脳梗塞後の機能回復に伴う大脳皮質領野間神経回路の再構築.

学会名：第 17 回 CBIR 若手インスパイアシンポジウム　場所：東京科学大学　年月：2025 年 2 月 20 日　ポスター発表

3) Koyama R, Tsuyama J, Shichita T : Myd88/Trif signaling's role in post-stroke neural tissue recovery　学会名：第 17 回 CBIR 若手インスパイアシンポジウム　場所：東京科学大学　年月：2025 年 2 月 20 日　ポスター発表
4) 大谷健人、斎藤貴志、長谷耕二、七田崇：抗 Ab 抗体は、脳梗塞後の修復不全状態を解除する　学会名：NVU 研究会　場所：慶應義塾大学医学部信濃町キャンパス　年月：2025 年 1 月 25 日　口頭発表
5) 大谷健人、斎藤貴志、長谷耕二、七田崇：脳梗塞とアルツハイマー病の神経修復　学会名：脳修復研究会　場所：ソラシティカンファレンスセンター　年月：2024 年 12 月 17 日　口頭発表
6) 小山龍樹、津山淳、七田崇：脳梗塞後の自然免疫と神経修復　学会名：第２回　脳修復研究会　場所：ソラシティカンファレンスセンター　年月：2024 年 12 月 17 日　ポスター発表
7) 津山 淳、中村 彩夏、七田 崇：ミクログリアによる脳機能回復を持続させる治療法の開発，　学会名：第 48 回日本分子生物学会年会　場所：福岡国際会議場　年月：2024 年 12 月 5 日　口頭発表
8) 大谷健人、斎藤貴志、長谷耕二、七田崇：Anti-Aβ antibody restores the post-stroke neural reparative function impaired by Aβ pathology　学会名：第 53 回日本免疫学会　場所：出島メッセ長崎　年月：2024 年 12 月 4 日　口頭発表/ポスター発表
9) Koyama R, Tsuyama J, Shichita T : Myd88/Trif signaling is necessary for neurological recovery after stroke　学会名：第 53 回日本免疫学会学術集会　場所：出島メッセ長崎　年月：2024 年 12 月 3 日　ポスター発表及び口頭発表
10) 小山龍樹，津山淳，七田崇：Myd88/Trif シグナル伝達は脳梗塞後の神経修復に必要だった　学会名：第 47 回日本分子生物学会年会　場所：福岡国際会議場　マリンメッセ福岡　年月：2024 年 11 月 29 日　ポスター発表
11) 大谷健人、斎藤貴志、長谷耕二、七田崇：Anti-Aβ antibody resolves the post-stroke neural reparative function impaired by Aβ pathology　学会名：第 47 回日本分子生物学会　場所：福岡国際会議場　年月：2024 年 11 月 27 日　口頭発表/ポスター発表
12) 津山 淳：ミクログリアによる脳機能回復を持続させる治療法の開発　学会名：第 97 回日本生化学会大会　場所：パシフィコ横浜　年月：2024 年 11 月 8 日　口頭発表
13) Jun Tsuyama: Sustaining microglial reparative function enhances stroke recovery 学会名：第 19 回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム　場所：東北大学　年月：2024 年 10 月 11 日　口頭発表
14) 酒井 誠一郎，七田 崇：脳梗塞後の回復期における体性感覚野へのトップダウン入力の強化. 学会名：第 46 回日本神経科学大会　場所：仙台　年月：2023/8/1-4　ポスター発表
15) 大谷健人、斎藤貴志、七田崇：Anti-Aβ therapy ameliorates impairment of stroke recovery

with early Alzheimer's pathology.　学会名：令和 6 年度グリアデコーディング　場所：アクロス福岡　年月：2024 年 7 月 27 日　口頭発表

16) 大谷健人、斎藤貴志、長谷耕二、七田崇：アミロイド β 病理は脳梗塞後の機能回復を損なわせる　学会名：第 14 回免疫適塾　場所：スターツ総合研修センター　年月：2024 年 1 月 20 日　口頭発表

17) 大谷健人、斎藤貴志、七田崇：アミロイド β 病理が脳梗塞後の機能回復に与える影響　学会名：第 42 回日本認知症学会学術集会　場所：奈良県コンベンションセンター　年月：2023 年 11 月 25 日　口頭発表

18) Koyama R, Shichita T：Innate inflammation cascade drives arteriogenesis to orchestrate effective stroke recovery　学会名：グリアデコーディング領域　第 7 回領域会議　場所：北海道大学　年月：2023 年 10 月 14 日　ポスター発表

19) 酒井 誠一郎, 七田 崇：脳梗塞後の機能回復を担う大脳皮質神経回路の再構築. 学会名：学術変革領域研究（A）グリアデコード領域班会議　場所：山梨県北杜市　年月：2023/7/17-19　ポスター発表

NIID 統合微生物学

NIID Integrative Microbiology

客員教授（分野長）　梁 明秀（６月～）
客員教授　　鈴木 基（６月～）
客員教授　宮崎 義継（６月～）
客員准教授　山岸 拓也（６月～）
客員准教授　森山 彩野（６月～）
（客員教授　山本 浩之（次年度～））

(1)　分野概要

東京医科歯科大学（現東京科学大学）と国立感染症研究所は、2024 年 5 月 27 日、教育研究に係わる連携・協力に関する協定を締結しました。それに基づき、2024 年 6 月に国立感染症研究所を母体とする連携大学院分野である「NIID（※）統合微生物学（英語名：NIID Integrative Microbiology）」分野を新設いたしました。[※NIID : National Institute of Infectious Diseases（国立感染症研究所）]

本分野の特色は、多種多様な病原体に関する研究、感染症全般に関する研究、疫学的研究、予防・治療法の開発に関する研究など、幅広い視点から研究を展開し、それらを統合することによって、次世代の微生物学・感染症学の基礎・臨床研究を担う人材の育成を目指す点にあります。病原体の特徴、感染・発症の分子メカニズム、診断・治療の原理、公衆衛生対策の基礎などを順序立てて学び、将来の感染症研究・対策の実務者に必要な基盤を形成します。主な研究課題は下記の通りです。

1. 分子系統学的解析の理論と手法を習得し、各種病原体の分子進化および分子系統解析を実践する。マルチオミックス解析の概念と基本技術を習得し病原体-宿主相互作用の分子メカニズムついて解析する。
2. 病原体-宿主相互作用を規定する遺伝多型の概念を、遺伝性ヒト免疫疾患を含めて習得する。その基礎的な機能的実験評価手法を習得し、解析を実践する。
3. 真核生物である病原体が引き起こす真菌感染症の動物モデルを用いて、真菌由来分子と宿主免疫細胞の両側面のオミックス解析から感染病態を解析する。
4. 細胞生物学的実験手法および免疫学的実験手法を理解・習得し、病原体に対する宿主の免疫応答を解析する。
5. 実地疫学と感染症アウトブレイク対応の概念と基本技術を習得し、実地疫学調査から得られた感染症疫学の知見を解釈する。
6. 基礎疫学と基礎統計学を学び、感染症疫学領域のデータ分析手法を理解・習得する。

(2)　研究活動

具体的な研究活動は次年度から実施予定。

(3)　教育活動

次年度から学生を募集予定。

(4)　教育方針

最先端の統合微生物学研究を実践し、独創的な研究計画の立案・遂行能力を養成するとともに、グローバルな感染症問題に取り組む研究者としての素養を育成する。

(5)　研究業績

次年度はなし。（来年度より活動予定。）

医用器材学講座

センサ医工学分野

Department of Biomedical Devices and Instrumentation

教授　三林 浩二
講師　飯谷 健太
助教　市川 健太

(1) 分野概要

電気化学、機械工学、電子工学、材料工学、生化学など幅広い研究を基盤とし、バイオテクノロジーや情報技術（IT）を組み合わせ、バイオセンサ · バイオオプティクス · バイオ MEMS などの学際融合領域の研究を進めています。有機系材料とデバイス技術を組み合せ、医工学分野での応用を目指した柔らかく生体適合性に優れたセンシングデバイスを構築しています。

(2) 研究活動

1. 体腔への着脱が可能なバイオセンサ「キャビタスセンサ」
生体適合性の機能性高分子と MEMS 技術を融合することで、“ソフトコンタクトレンズ型バイオセンサ”や“マウスガード型バイオセンサ”を開発し、新しい生体計測法を提案しています。

2. 生化学式ガスセンサ「バイオスニファ」と揮発性成分の可視化計測システム「探嗅カメラ」
肝臓の薬物代謝酵素などを用い、感度と選択性に優れたガスセンサ“バイオスニファ”を多数開発し、生体臭診断や健康科学などへの展開を進めています。また、バイオスニファの技術を応用して、空間中のガス分布を画像的にモニタニタリングできる匂いの可視化計測技術“探嗅カメラ”を開発しています。

3. 医療や環境医学のための免疫センサ
光や弾性波などを利用した免疫センサを開発し、生体中の抗原や、環境中の浮遊ダニアレルゲン（Der f 1）などを半連続的に計測する手法を研究しています。

4. 化学エネルギーを利用した「有機エンジン」と「空気バイオ電池」
生体成分をはじめとする化学エネルギーを、直接力学エネルギーに変換する「有機エンジン」や「空気バイオ電池」を開発し、新しい原理に基づくバイオデバイスの研究を行っています。

(3) 教育活動

講義として、医学部保健衛生学科「生体医工学」、 医歯学総合研究科 修士課程「バイオメディカルデバイス理工学-I」、「バイオメディカルデバイス理工学-II」、博士課程「ウエアラブル IoT 技術特論」、「先端バイオセンシング特論」、「先制医歯理工学概論-I」を担当している。研究室においては、センサ医工学による独創的な新しい計測デバイスの開発をはじめ、新しい検査機器、生体計測システムの研究開発を行っている。

(4) 教育方針

先端医療や生体情報計測に関する基礎技術を学び、研究実習を通してセンサ医工学に基づく生体化学計測、バイオセンシングデバイスの開発及び医療応用研究について研究活動に参加してもらう。担当教員のもとで研究に取り組み、研究活動を通して自ら考えて研究を推進することができるようになることを目標としている。

(5) 研究業績

[原著]

1. Iitani K, Miura R, Jim J, Ishida R, Ichikawa K, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Tandem Imaging of Breath Ethanol and Acetaldehyde Based on Multiwavelength Enzymatic Biofluorometry ACS Sensors. 2024.12; 9(12); 6741-6749

2. Iitani K, Ishizuki N, Matsuhashi Y, Yokota K, Ichikawa K, Toma K, Arakawa T, Iwasaki Y, Mitsubayashi K. Biofluorometric Acetone Gas Sensor of Sub-ppbv Level Sensitivity Analytical Chemistry. 2024.12; 96(51); 20197-20203

3. Zhang G, Ichikawa K, Iitani K, Iwasaki Y, Mitsubayashi K. A handheld biofluorometric system for acetone detection in exhaled breath condensates Analyst. 2024.12; 150; 505-512

4. Zhang G, Ichikawa K, Iitani K, Iwasaki Y, Mitsubayashi K. Headset biofluorometric system for acetone vapor from the ear canal Sensors and Actuators: B. Chemical. 2024.12; 427; 137220

5. Taguchi Y, Toma K, Iitani K, Arakawa T, Iwasaki Y, Mitsubayashi K. Long-range surface plasmon hydrogel aptasensor for sensitive, selective, and continuous measurement of vancomycin Sensors and Actuators: B. Chemical. 2024.08; 413; 135882

6. Kenta Iitani, Mika Suzuki, Kenta Ichikawa, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Image Sensing of Gaseous Acetone Using Secondary Alcohol Dehydrogenase-Immobilized Mesh for Exhaled Air Analytical Chemistry. 2024.07; 96(28); 11549-11556

7. Kenta Iitani, Kenta Ichikawa, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Biofluorometric Gas-Imaging System for Evaluating the Ripening Stages of “La France” Pear Based on Ethanol Vapor Emitted via the Epicarp ACS Sensors. 2024.06;

8. Kenta Ichikawa, Kenta Iitani, Gentaro Kawase, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Dzung Viet Dao, Kohji Mitsubayashi. Real-time salivary turbidity measurement with a mouthguard-type wearable sensor Sensors and Actuators A: Physical. 2024.06; 376; 115660

9. Nagasawa M, Onuki M, Imoto N, Tanaka K, Tanaka R, Kawada M, Imoto K, Iitani K, Tsuchido Y, Takeda N. Fabrication of 3D engineered intestinal tissue producing abundant mucus by air–liquid interface culture using paper-based dual-layer scaffold Biofabrication. 2024.06; 16(3); 035029

10. Taguchi Y, Toma K, Iitani K, Arakawa T, Iwasaki Y, Mitsubayashi K. In Vitro Performance of a Long-Range Surface Plasmon Hydrogel Aptasensor for Continuous and Real-Time Vancomycin Measurement in Human Serum ACS Applied Materials & Interfaces. 2024.05; 16(22); 28162-28171

11. Kenta Ichikawa, Kenta Iitani, Gentaro Kawase, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Dzung Viet Dao, and Kohji Mitsubayashi. Mouthguard-Type Wearable Sensor for Monitoring Salivary Trudbidity to Assess Oral Hygiene Sensors. 2024.02; 24; 1436

1. 石田 遼太郎, ナセデン ムニラ, 市川 健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. バイオ蛍光による経皮エタノールガス動画像化と手腕部位での応用評価 Journal of Advanced Science. 2024.04; 36; 36301-1-36301-3

[書籍等出版物]

1. Kenta Iitani, Kenta Ichikawa, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Comprehensive Analytical Chemistry ”Biofluorometric sniffing technologies for measuring and imaging of human-borne volatile markers”. Elsevier, 2024.12

2. Kohji Mitsubayashi. Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare. 2024.01 (ISBN : 978-981-99-8121-2)

3. Takahiro Arakawa, Kenta Iitani, Koji Toma, Kohji Mitsubayashi. Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare ”Cavitas Biosensors (Body Cavity Sensors)”. 2024.01

4. Koji Toma, Kenta Iitani, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare ”Continuous Monitoring of Volatile Organic Compounds in the Ear: The Development of a Headphone-Type Biosensor”. 2024.01

5. Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Kohji Mitsubayashi. Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare ”Biofluorometric Gas Imaging for Wearable Human-Borne VOCs Monitroing”. 2024.01

6. Wataru Hijikata, Kenta Ichikawa. Wearable Biosensing in Medicine and Healthcare ”Energy Harvesting from Bite Force Using Electret Sheet”. 2024.01

1. 三林浩二，影近弘之，岸田晶夫. 医療工学研究の最前線〜近未来のバイオ医用機器、生体材料、創薬科学〜. シーエムシー出版, 2024.11

2. 飯谷健太，市川健太，三林浩二. 医療工学研究の最前線〜近未来のバイオ医用機器、生体材料、創薬科学〜「 第 1 編 第 1 章 血液由来の呼気 · 皮膚ガス成分の高感度バイオ計測&イメ ージング」. 2024.11

3. 市川健太，飯谷健太，三林浩二. 医療工学研究の最前線〜近未来のバイオ医用機器、生体材料、創薬科学〜「第 1 編 第 9 章 医療 · 健康科学のための窩腔デバイス」. 2024.11

4. 飯谷健太，市川健太，三林浩二. テクノロジーロードマップ 2025-2034 . 2024.11

5. 三林浩二，Munkhjargal Munkhbayar, 市川健太，飯谷健太，當麻浩司，荒川貴博. 血糖測定 · コントロールの最新動向 「血糖エネルギーでの駆動制御を目指す人工膵臓モデル（薬物放出機構)」. 2024.07

6. 三林浩二. 生体ガス計測の最新動向. 2024.06

7. 荒川貴博，飯谷健太，當麻浩司，三林浩二. 生体ガス計測の最新動向 「第 I 編 呼気ならびに皮膚ガスの医療研究動向 第 1 章 脂質代謝評価のための呼気および皮膚ガス中アセトン計測」. 2024.06

8. 飯谷健太，市川健太，當麻浩司，荒川貴博，三林浩二. 生体ガス計測の最新動向 「第Ⅱ編 生体ガス計測のためのセンシング技術 第 9 章 呼気 · 皮膚ガスのためのリアルタイム動画像化システム」. 2024.06

9. 三林浩二，市川健太，飯谷健太. 生体ガス計測の最新動向 「第Ⅲ編 生体ガス計測の応用展開 第 6 章 生体ガス計測のための酵素を用いた多様なガスセンサ（魚臭症候群：トリメチルアミン, 口臭：メチルメルカプタン, 腸内細菌生成：メタノール, 加齢臭：ノネナール, 等)」. 2024.06

10. 市川健太，飯谷健太，土方亘，三林浩二. 次世代ウェアラブルデバイスに向けたフレキシブル · 伸縮性エレクトロニクス技術とセンサ開発 「第 2 章 フレキシブル · 伸縮性センサ · デバイス · システムの開発動向 第 8 節 非侵襲計測に向けたソフトコンタクトレンズ型センサとマウスガード型デバイス」. 2024.06

[総説]

1. 市川健太. 国際会議報告：46th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2024) 電気学会論文誌 E（センサ · マイクロマシン部門誌）. 2024.12; 144(12); NL12_1

2. 竹田直也，土戸優志，飯谷健太，三林浩二. 酵素を内包して気相で機能する高分子ファイバーからなる生体ガスセンサの開発 Colloid & Interface Communications. 2024.03; 49(1); 16-18

[講演 · 口頭発表等]

1. Mitsubayashi K, Zhang G, Ichikawa K, Iitani K. Biofluorometric Sensor and Imaging System for Volatile Chemicals (Acetone and Ethanol). 2024 17th International Conference on Sensing Technology (ICST2024) 2024.12.09

2. Mitsubayashi K. Biofluorometric gas-sensing & -imaging of human volatile chemicals. the 10th International Conference on BioSensors, BioElectronics, BioMedical Devices, BioMEMS/NEMS & Applications (Bio4Apps 2024) 2024.12.02

3. Iitani K, Ichikawa K, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Visual sensing of fruit-emitted ethanol distribution for evaluation of spontaneous fermentation inside La France pears. the 10th International Conference on BioSensors, BioElectronics, BioMedical Devices, BioMEMS/NEMS & Applications (Bio4Apps 2024) 2024.12.02

4. Ichikawa K, Kawase G, Iitani K, Mitsubayashi K. Intraoral salivary turbidity measurement using a wireless mouthguard-type optical sensor. the 10th International Conference on BioSensors, BioElectronics, BioMedical Devices, BioMEMS/NEMS & Applications (Bio4Apps 2024) 2024.12.02

5. Ichikawa K, Fujino S, Iitani K, Hijikata W, Mitsubayashi K. Potential-Based Design of Electret- Dielectric Elastomer Laminated Energy Harvester. 2024 IEEE 23rd International Conference on Micro and Nanotechnology for Power Generation and Energy Conversion Applications (PowerMEMS) 2024.11.18
6. Iitani K, Ichikawa K, Mitusbayashi K. Imaging of Ethanol Vapor Emitted from Pear Fruits for Evaluation of Post-Harvest Maturation harvest Maturation. The 15th ASIAN CONFERENCE ON Chemical SENSORS 2024 (ACCS 2024) 2024.11.17
7. Iitani K, Maeno Y, Zhang G, Ichikawa K, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Highly Sensitive Biosensors for Chemicals of Alcohol Metabolism. IEEE Sensors 2024 2024.10.20
8. Mitsubayashi K, Ichikawa K, Iitani K. Real-time Imaging of Transcutancous Volatilc Chemicals Using a Gas-Phase Biofluorometric Camera. Imaging Sensing and Optical Memory 2024 (ISOM 2024) 2024.10.20
9. Mitsubayashi K, Ichikawa K, Iitani K. Biofluorometric Ear-Gas Sensing for Non-Invasive Monitoring of Blood EtOH. Pacific Rim Meeting on Electrochemical and solid-state Science (PRiME2024) 2024.10.06
10. Kenta Iitani, Kenta Ichikawa, Kohji Mitsubayashi. Enzyme-based Biofluorometric Gas Sensing Systems for Analysis of Human Metabolism. The 1st International Conference on AI Sensors & The 10th International Symposium on Sensor Science 2024.08.01
11. Kenta Ichikawa, Gentaro Kawase, Kenta Iitani, Koji Toma, Takahiro Arakawa, Dzung V. Dao, Kohji Mitsubayashi. Mouthguard Optical Turbidity Sensor for Oral Hygiene Assessment. 46th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society 2024.07.15
12. Kohji Mitsubayashi. Non-invasive gas sensing & imaging of blood volatile markers for development of novel wearable biosensors. The 11th Asia-Pacific Conference of Transducers and Micro-Nano Technology (APCOT 2024) 2024.06.23
13. Toma K, Taguchi Y, Iitani K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Real-time monitoring of vancomycin in human serum by long-range surface plasmon hydrogel aptasensor. 8th International Conference on Bio-Sensing Technology 2024.05.12
14. Iitani K, Maeno Y, Zhang G, Toma K, Arakawa T, Mitsubayashi K. A Highly Sensitive Fluorometric Acetaldehyde Biosensor by Using Enzymatic Recycling Reactions for Signal Amplification. the 19th IEEE International Conference on Nano/Micro Engineered and Molecular Systems (IEEE-NEMS 2024) 2024.05.02
15. Mitsubayashi K, Ichikawa K, Iitani K. Headset type ear-gas biosensor for non-invasive blood volatile monitoring. 11th International Conference on Human Interaction & Emerging Technologies : Artificial Intelligence & Future Applications (IHIET-AI 2024) 2024.04.25
16. Arakawa T, Ishikawa R, Iitani K, Toma K, Mitsubayashi K. A Headset-Type Gas Sensor for Continuous Monitoring of Ethanol Gas Emissions from Humans. International Meeting on Sensors and Microsystems for Sustainable Development Goals 2024 (IMSM-SDGs 2024) 2024.03.28
17. Toma K, Satomura Y, Iitani K, Arakawa T, Mitsubayashi K. Surface plasmon biosensor for drug monitoring in liquid phase. The 18th South East Asian Technical University Consortium (SEATUC) Symposium 2024 2024.02.27
18. Mitsubayashi K, Zhang G, Ichikawa K, Iitani K, Toma K, Arakawa T. Headset gas sensor for non-invasive biomonitoring of blood EtOH. 7th International Conference on Intelligent Human Systems Integration 2024.02.22
19. Kenta Ichikawa, Kohji Mitsubayashi. Biosensors and wearable devices for real-time monitoring of biochemicals in humans. The 10th Joint Symposium between IBB/TMDU and Chulalongkorn University on “Biomedical Materials and Engineering” 2024.01.19

1. 飯谷健太. 複数のガス成分の濃度分布の選択的イメージング計測. JST 新技術説明会 2024.12.19
2. 三林 浩二. 生体由来 VOCs のバイオ蛍光計測及びイメージング. 第 4 回 Photo BIO-OIL セミナー 2024.12.18
3. 飯谷健太, 市川健太, 土戸優志, 武田直也, 三林浩二. バイオ蛍光法に基づく揮発性分子の気相センシングおよびイメージング. 第 34 回 日本 MRS 年次大会 2024.12.16

4. 林 志厚, 三浦 凛太郎, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 生体由来 VOCs:2 成分のバイオ蛍光二波長による同時ガスイメージング. 第 41 回「センサ · マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 2024.11.25

5. 稲葉 璃人, 森 英久, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 加齢臭成分 2-ノネナール計測のための生化学式ガスセンサ (バイオスニファ) の開発. 第 41 回「センサ · マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 2024.11.25

6. 市川　健太, 川瀬 源太郎, 飯谷 健太, 三林 浩二. 無線式マウスガード型光学センサによる唾液濁度の口腔内連続計測. 第 41 回「センサ · マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 2024.11.25

7. 細見 佑一郎, 石月 尚宏, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 経皮ガス計測のための高感度アセトン用バイオスニファの開発. 2024 SAS Symposium 2024.11.14

8. 町 依蕗, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. バイオ蛍光法による経皮エタノールガスのリアルタイムイメージング. 2024 SAS Symposium 2024.11.14

9. 稲葉 璃人, 森 英久, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 加齢臭成分ノネナール検出のための光ファイバ型生化学式ガスセンサ. 2024 SAS Symposium 2024.11.14

10. 大野 晃平, 里村 結衣, 當麻 浩司, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. バンコマイシン連続計測のための表面プラズモン共鳴アプタセンサに関する研究. 2024 SAS Symposium 2024.11.14

11. 土井 佳奈, 石川 力, 市川　健太, 飯谷 健太, 工藤 寛之, 三林 浩二. 無線 CMOS カメラを用いた外耳道経皮ガスのバイオ蛍光センシング. 2024 SAS Symposium 2024.11.14

12. 岡田 蒼海, 川瀬 源太郎, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 口腔内衛生モニタリングのための無線式マウスガード型濁度センサの開発. 2024 SAS Symposium 2024.11.14

13. 三林 浩二. ウエアラブルバイオセンサ. 糖尿病などに向けた各種バイオセンサ · グルコースセンサにおける最新技術と材料 · 製造プロセス · 課題 2024.09.26

14. 三林 浩二. 生体由来 VOCs 成分のバイオ蛍光ガスセンシング & イメージング. バイオ計測技術コンソーシアム　定例会　特別講演 2024.09.17

15. 三林 浩二. 代謝酵素を用いた揮発性成分のバイオ蛍光センシング及びイメージング. 第 76 回日本生物工学会大会「嗅覚のしくみと臭気センシング技術」セッション 2024.09.10

16. 三林 浩二，市川 健太，飯谷 健太，當麻 浩司，荒川 貴博. バイオ蛍光法を用いた匂い及びガス成分の動画像イメージング. 第 52 回可視化情報シンポジウム 2024.07.19

17. 飯谷 健太，中谷 美沙，友野 つぼみ，鷹野 未和，市川 健太，土戸 優志，武田 直也，三林 浩二. 電界紡糸によるバイオセンサメッシュ作製とガスイメージングへの応用. 第 52 回可視化情報シンポジウム 2024.07.19

18. 荒川貴博，石川力，飯谷健太，當麻浩司，三林浩二. 無線 CMOS カメラを用いたバイオ蛍光法による外耳道ガス可視化計測. 第 52 回可視化情報シンポジウム 2024.07.19

19. 飯谷 健太, 市川 健太, 三林 浩二. 果実の熟成度を非破壊に評価するための香気成分の表皮ガスイメージング. 令和 6 年度 電気学会センサ · マイクロマシン部門総合研究会 2024.07.04

20. 藤野 聖也, 川瀬 源太郎, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 唾液濁度の無拘束計測のための無線計測式マウスガード型光学濁度センサ. 令和 6 年度 電気学会センサ · マイクロマシン部門総合研究会 2024.07.04

21. 張 耿, 石川 力, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 無線 CMOS カメラを用いた非拘束外耳道エタノールガス計測. 令和 6 年度 電気学会センサ · マイクロマシン部門総合研究会 2024.07.04

22. 林 志厚, 鈴木 美華, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 脂質代謝指標である呼気アセトンのためのバイオ蛍光式ガス動画像システム. 令和 6 年度 電気学会センサ · マイクロマシン部門総合研究会 2024.07.04

23. 三林 浩二. 医療 · ヘルスケアのためのウェアラブル · バイオセンサ 及び高感度ガスセンサ技術の基礎と最新動向、展望まで. 情報機構セミナー 2024.06.07

24. 蒋 屹, 久加　亜由美, 市川　健太, 飯谷 健太, 原　武史, 三林 浩二. ジオール脱水素酵素を用いたジアセチル（ミドル脂臭）用バイオセンサ. 第 84 回分析化学討論会 2024.05.18

25. 三林 浩二. バイオセンサデバイスのための 材料 · 製造プロセス技術. AndTech セミナー 2024.05.16

26. 三林 浩二. センサ医工学で未来を築く. 科学技術と経済の会 · センサー＆データフュージョン研究会 【第 68 回研究会】 2024.03.29
27. 石田 遼太郎, 水越 直樹, 市川　健太, 飯谷　健太, 三林 浩二. 呼気アセトンのためのバイオ蛍光式ガスイメージング装置. 第 71 回応用物理学会春季学術講演会 2024.03.22
28. 藤野 聖也, 横田 くみ, 市川　健太, 飯谷 健太, Dzung Viet Dao, 三林 浩二. 口腔温の無拘束連続計測のための無線通信式マウスガード型サーミスタ. 第 71 回応用物理学会春季学術講演会 2024.03.22
29. 三林 浩二. 血液 VOCs の非侵襲バイオ蛍光計測及びヘッドホン型経皮ガスセンサ開発. 2024 年第 71 回応用物理学会 春季学術講演会 2024.03.22
30. 三林浩二. 近未来のための非侵襲バイオ計測と社会インフラへの展開. 第 19 回インフラ先端技術コンソーシアム　全体会議 2024.03.14
31. 飯谷　健太, 前野 夕紀, 張 耿, 當麻 浩司, 荒川 貴博, 三林 浩二. 酵素サイクリング反応に基づく超高感度アセトアルデヒド用蛍光バイオセンサ. 令和 6 年電気学会全国大会 2024.03.14
32. 市川　健太, 馬 一博, 飯谷　健太, 三林 浩二. 口腔運動検知のためのマウスガード型光学式センサの開発. 令和 6 年電気学会全国大会 2024.03.14
33. 建守 茉胡, 張 耿, 前野 夕紀, 市川　健太, 飯谷 健太, 三林 浩二. 酵素サイクリング反応を用いた高感度な蛍光式バイオセンサ. 第 33 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2024.03.06
34. 平松 将太郎, 市川　健太, 飯谷 健太, 荒川 貴博, 三林 浩二. 夾雑物抑制の酢酸セルロース膜にて被覆した無線式マウスガード型バイオセンサ. 第 33 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2024.03.06
35. 林　志厚, ナセデン　ムニラ, 飯谷　健太, 市川　健太, 三林　浩二. バイオ蛍光ガスイメージング装置を用いた経皮エタノールガス分布評価. 第 33 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2024.03.06
36. 三林浩二. 医療および植物科学のためのバイオ蛍光式ガス計測＆イメージング. 2024 年電子情報通信学会総合大会 2024.03.04
37. 三林 浩二. ウエアラブルバイオセンサ、超高感度 (ppt-v) 皮膚ガス計測の最新動向と製品開発応用. 『バイオセンサ【WEB セミナー】』 セミナー（NO.240222） 2024.02.07
38. 三林 浩二. ”ヘルスケア · 医療応用のための 生体計測用バイオセンシング技術”. 2023 年度 フレキシブルエネルギーデバイスコンソーシアム第 3 回講演会 2024.01.22

[受賞]

1. Best Poster Award: Runner-up, 2024 年 05 月
2. 優秀論文発表賞, 電気学会 令和 6 年度センサ · マイクロマシン部門総合研究会, 2024 年 08 月
3. 優秀ポスター発表賞ファイナリスト, 第 41 回「センサ · マクロマシンと応用システム」シンポジウム , 2024 年 11 月
4. ポスター賞, 2024 SAS Symposium, 2024 年 11 月
5. ポスター賞, 2024 SAS Symposium, 2024 年 11 月
6. Best Paper Award, 2024 17th International Conference on Sensing Technology (ICST2024) , 2024 年 12 月

[社会貢献活動]

1. ガバメントクラウドファンディング（ふるさと納税）, 佐賀県、日本 IDDM, 2017 年 05 月 12 日 - 現在
2. 呼気検査について, NHK, 未定, 2024 年 03 月 04 日

物質医工学分野

Department of Material-based Medical Engineering

教　　授	岸田　晶夫
准 教 授	木村　剛
助　　教	橋本　良秀
研究補助員	萩原　萌子
秘　　書	日渡　尚美
非常勤講師	小林　尚俊
非常勤講師	舩本　誠一
非常勤講師	山下　暁立
非常勤講師	田淵　正樹
非常勤講師	根岸　淳
非常勤講師	中村奈緒子
非常勤講師	張　　永巍

大学院生（博士）

藪内　昴平
戸田　翔太
Say Sreypich
鈴木　美加

(1)　分野概要

当分野は、素材であるバイオマテリアルの基礎研究から、広く医工学の知識を集約した治療機器の開発研究まで、「医療への貢献」と「基礎科学の探究」をキーワードに活動しています。

(2)　研究活動

医療および歯科医療に貢献する技術を開発するためには、分子レベルでの設計概念の構築とそれを実現するためのシステム化が必要である。高分子化学、有機化学、物理化学を基盤に、細胞工学、遺伝子工学の技術を用いて具体的な臨床応用を目指した研究を展開している。具体的な対象領域は、新医用材料開発、再生医療、遺伝子治療および治療工学である。

（1）脱細胞化生体組織を用いた再生医療
異種細胞の完全な除去、感染性細菌・ウイルスの除去を目的として生体組織を超高圧処理する新しい処理法を開発し、再生医療のための新しいスキャフォールドとしての応用について研究を行っている。

（2）生体由来材料の加工・高機能化技術の開発
生体由来材料に加工を施すことにより、新たな機能を付与した機能性材料の開発を行っている。具体的には、粉体、ファイバー、ハイドロゲルへの加工や機能分子とのハイブリッド化について研究を進めている。

（3）バイオマテリアルの炎症性評価法の開発
マクロファージは炎症に寄与する炎症型（M1 型）と治癒に寄与する抗炎症型（M2 型）に分極する。In vitro にてマクロファージの分極を指標としたバイオマテリアルの炎症性評価法の開発を行っている。

（4）免疫制御を目指した特異的な細胞捕獲・放出技術の創出

がん免疫治療において、免疫反応を負に制御する制御性 T 細胞（Treg）を除去することで、抗腫瘍免疫応答を増強できることが明らかとなっている。界面科学を基盤として Treg を高効率かつ intact な状態で捕獲 · 回収する技術開発を行っている。

(3) 教育活動

大学院では、医用材料工学特論、応用生体材料学、医歯薬産業技術特論、学部では生体医工学を担当している。医療に貢献する技術について、分子レベルからデバイスまでを対象に、基礎知識から開発に必要な分子設計論までを講義する。

(4) 研究業績

[原著]

1. Yoshihide Hashimoto,Jun Negishi, Seiichi Funamoto, Tsuyoshi Kimura,Hisatoshi Kobayashi, Tetsuro Oshika , Akio Kishida. Preparation, physico-biochemical characterization, and proteomic analysis of highly transparent corneal extracellular matrices for lamellar keratoplasty and tissue-engineered cornea construction Materials Today Bio. 2024.09; 28;

2. Jun Negishi, Dan Tanaka, Yoshihide Hashimoto. Induction of osteogenic differentiation by the extracellular matrix of fetal bone tissues and adult cartilage Tissue Cell. 2024.07; 90; 102475

3. Ayana Yamaguchi, Yoshihide Hashimoto, Jun Negishi. Fabrication of a cell culture scaffold that mimic the composition and structure of bone marrow extracellular matrix J Biosci Bioeng. 2024.07; 138(1); 83-88

4. Sreypich Say,Mika Suzuki,Yoshihide Hashimoto,Tsuyoshi Kimura,Akio Kishida . Investigation of anti-adhesion ability of 8-arm PEGNHS-modified porcine pericardium Biomed Mater. 2024.03; 12(19(3));

5. Tsuyoshi Kimura, Hanako Maeda, Moeko Hagiwara, Yoshihide Hashimoto, Naoko Nakamura, Wataru Nomura, Tadao Tanabe, Mako Kobayashi, Masaya Yamamoto, Takahide Matsushima, Hiroshi Asahara, Akio Kishida. Evaluation of Proinflammatory Response to Polymeric Materials Using a Macrophage Cell Line Genetically Tagged with a Luminescent Peptide Advanced Biomedical Engineering. 2024.02; 13; 43-51

6. Kohei Yabuuchi, Toru Katsumata, Tsuyoshi Shimoboji, Yoshihide Hashimoto, Tsuyoshi Kimura, Kazunari Akiyoshi, Akio Kishida. Variable swelling behavior of and drug encapsulation in a maleimide-modified hyaluronic acid nanogel-based hydrogel Polymer Journal. 2024.01;

7. Shota Toda, Yoshihide Hashimoto, Naoko Nakamura, Masahiro Yamada, Ryusuke Nakaoka, Wataru Nomura, Masaya Yamamoto, Tsuyoshi Kimura, Akio Kishida. Characteristics of macrophage aggregates prepared by rotation culture and their response to polymeric materials Journal of Artificial Organs. 2024.01;

8. Shota TODA,Yoshihide HASHIMOTO,Naoko NAKAMURA,Masahiro YAMADA,Ryusuke NAKAOKA,Wataru NOMURA,Masaya YAMAMOTO,Tsuyoshi KIMURA,Akio KISHIDA. Effects of Polymeric Materials on Activation of THP-1 Cell-derived Macrophages during Differentiation Induced by PMA Advanced Biomedical Engineering. 2024.01; 13; 1-10

[書籍等出版物]

1. 医療工学研究の最前線 〜近未来のバイオ医用機器, 生体材料, 創薬科学〜 . シーエムシー出版, 2024.11

[講演 · 口頭発表等]

1. Akio Kishida . Artificial Organs and Tissue Engineering. APSAO 2024 Annual Conference 2024.12.04 Australia

2. 鈴木美加，木村剛 , 橋本良秀, 岡田正弘，松本卓也，山田将博，江草宏, 中村奈緒子，岸田晶夫. 歯根膜応用を目指した石灰化脱細胞化組織の in vivo 骨親和性評価. LIFE2024 2024.09.13 東大本郷 (東京)

3. Mika Suzuki，Tsuyoshi Kimura ，Yoshihide Hashimoto，Masahiro Okada，Takuya Matsumoto，Naoko Nakamura，Akio Kishida. Preparation of decellularized pericardium for soft and hard inter-regional tissue application. TERMIS 2024.06.27 Seattle

4. M. Kobayashi, K. Tsutahara, R. Kawabata, Z. Ng, Y.Hashimoto, T. Kimura, A. Kishida, M. Yamamoto. Characterization Of The Bioink Containing Decellularized Tissue Powder Mixed With Cancer Spheroids. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

5. S. Say, M. Suzuki, Y. Hashimoto, T. Kimura, A. Kishida. Study On The Post-anti-adhesion Of The 8-arm PEGNHSmodified Porcine Pericardium. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

6. K. Kaiden, T. Kimura, Y. Hashimoto, K. Akiyoshi, Y.Sasaki, A. Kishida. Preparation And Characterization Of Artificial Extracellular Vesicles Using High Hydrostatic Pressurized Cells.. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

7. M. Yamamoto, S. Hiranphinyophat, N. Washihira, T.Hiraoka, M. Murakami, A. Kishida, S. Fujii, T. Tanabe, T.Kimura. Investigation Of Immune Responses To Nano/microplastics Using A Genetically-engineered Human Macrophage. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

8. M. Suzuki, T. Kimura, M. Okada, T. Matsumoto, N.Nakamura, Y. Hashimoto, A. Kishida. Preparation Of Mineralized Decellularized Pericardium For Bone-ligament Tissue Application.. TERMIS 2024 WORLD CONGRESS 2024.06.25 USA

9. Sreypich Say、Mika Suzuki、Yoshihide Hashimoto、Tsuyoshi Kimura、Akio Kishida. Effect of 8-arm PEG functionalized porcine pericardium as the antiadhesion membrane in vivo. 第 73 回高分子学会年次大会 2024.06.05 宮城県

10. Sreypich Say、Mika Suzuki、Yoshihide Hashimoto、Tsuyoshi Kimura、Akio Kishida. Effect of 8-arm PEG functionalized porcine pericardium as the antiadhesion membrane in vivo. 第 73 回高分子学会年次大会 2024.06.05 宮城県

11. Akio Kishida. Decellularized tissue as a novel biomaterial. 10th Joint Symposium between Chulalongkorn University and IBB/TMDU. 2024.01.19 THAILAND

1. 鈴木美加，木村剛，橋本良秀，岡田正弘，松本卓也, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 硬-軟境界組織応用を目指した石灰化脱細胞化組織の骨親和性評価. 第 62 回 日本人工臓器学会 2024.11.14 宇都宮

2. 木村剛、鈴木美加、橋本良秀、岸田晶夫、田邉匡夫、中村奈緒子、山本雅哉. マイクロプラスチックに対するマクロファージ の炎症応答. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

3. 増澤　徹、長　真啓、小野　稔、松宮　護郎、岸田　晶夫、西中　知博. ALL JAPAN で挑む革新的植込型小児用補助人工心臓の開発. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

4. 鈴木美加、木村剛、橋本良秀、岡田正弘、松本卓也、中村奈緒子、岸田晶夫. 硬-軟境界組織応用を目指した石灰化脱細胞化組織の骨親和性評価. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

5. 中村奈緒子、帆足和希、秋山翔太、安田英莉、橋本良秀、木村剛、岸田晶夫. 脱細胞化大動脈の組織学的な脱細胞化評価における Al の活用. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

6. 岸田　晶夫. 生涯有効な人工弁・人工血管の実現を目指す生物由来材料研究. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

7. 長　真啓、小野　稔、松宮　護郎、西中　知博、岸田　晶夫、増澤　徹. 日本人工臓器学会グラントから AMED プロジエ クトまで ー ALL JAPAN で挑む小児用補助人工心臓の研究開発ー. 第 62 回日本人工臓器学会大会 2024.11.14 栃木県

8. 海田こころ、木村剛、橋本良秀、秋吉一成、佐々木善浩、岸田晶夫. 高静水圧処理細胞を由来とするナノベシクルの調整とその特性評価. 2024.10.28 東京都

9. 岸田　晶夫. 高静水圧脱細胞化処理生体組織の可能性. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2024 2024.10.28 宮城県

10. 簾明遠、鈴木美加、木村剛、橋本良秀、金裕純、寺内正彦、依田哲也、岸田晶夫. 脱細胞化ブタ心膜と歯根膜組織の親和性評価. LIFE2024 2024.09.12

11. 鷲平直人、佐々木ひなた、大川成、小林真子、木村剛、岸田晶夫、山本雅哉. 延伸倍率の異なる PLA 由来分解細片の物性とその細胞応答評価. 第 53 回医用高分子シンポジウム 2024.07.23 東京都

12. 小林真子、山本雅哉、根岸淳、橋本良秀、木村剛、佐々木善浩、秋吉一成、岸田晶夫. 種々の細胞外マトリクス由来ナノベシクル（MBVs）の抽出と特性評価. 第 40 回日本 DDS 学会学術集会 2024.07.09 茨城県

13. 小林真子、鳶原敬登、川端諒輔、橋本良秀、木村剛、岸田晶夫、山本雅哉. がん微小環境構築のためのがんスフェロイド含有ゲルの作成 · 評価検討. 第 73 回高分子学会年次大会 2024.06.05 宮城県

14. 藪内昴平, 鈴木美加, 梁忱, 勝又徹, 下房地剛, 橋本良秀, 木村剛, 秋吉一成, 岸田晶夫. ヒアルロン酸ナノゲルを基盤とした新規架橋ゲルの創製と in vitro における THP-1 細胞を用いた炎症性評価. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.22 新潟県

15. 鈴木美加, 木村剛, Varja Cuculovic, 萩原萌子, 橋本良秀, 山本雅哉, 野村渉, 岸田晶夫. 種々の脱細胞化組織に対するマクロファージの応答. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.22 新潟県

16. 山本雅哉, Suphatra Hiranphiuyophat, 鷲平直人, 平岡知樹, 岸田晶夫, 藤井翔, 小林真子, 田邉匡生, 木村剛. 培養組織モデルを用いたナノプラスチックモデル試料の細胞毒性評価. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.22

17. 鈴木美加, 木村剛, Varja Cuculovic, 萩原萌子, 橋本良秀, 山本雅哉, 野村渉, 岸田晶夫. 種々の脱細胞化組織に対するマクロファージの応答. 再生医療学会 2024.03.22

18. 海田こころ, 木村剛, 橋本良秀, 秋吉一成, 佐々木善浩, 岸田 晶夫. HHP 処理細胞を用いた人工細胞外小胞の調製とその生医学応用. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟県

19. 徳野陽子, 木村剛, 内田健哉, 岸田晶夫. 生体組織を模擬した 3D 配向コラーゲンナノファイバ構造体の作製と生体受容性評価. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟県

20. 木村剛, 鈴木美加, 橋本良秀, 岡田正弘, 松本卓也, 高橋宏信, 清水達也, 山田将博, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 脱細胞化組織の無機複合による骨親和性付与. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟県

21. 鈴木美加, 木村剛, 橋本良秀, 野村渉, 中村奈緒子, 岸田晶夫. 種々の脱細胞化組織におけるゲノム編集 THP-1 細胞を用いた免疫反応の評価. 令和 5 年度生体医歯工学共同研究拠点 2024.03.08 東京

22. 大橋慶子, 橋本良秀, 木村剛, 中村奈緒子, 小林尚俊, 岸田晶夫. 脱細胞化ブタ角膜を用いた三次元人工ヒト角膜モデルの開発に関する研究. 第 33 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2024.03.06 埼玉県

23. 木村剛, 梁忱, 橋本良秀, 松島隆英, 浅原弘嗣, 野村渉, 田邊匡生, 中村奈緒子, 山本雅哉, 岸田晶夫. Caco-2/THP-1 細胞を用いたマイクロプラスチックに対する炎症応答評価. 第 33 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2024.03.06 埼玉県

24. 岸田晶夫. 学生会企画特別講演『修士課程の考え方』. 第 33 回ライフサポート学会フロンティア講演会 2024.03.06 埼玉県

[受賞]

1. 2023 年度生体医歯工学研究拠点成果報告会ポスターアワード, 生体医歯工学研究拠点, 2024 年 03 月

2. 若手プレゼンテーション賞, LIFE, 2024 年 09 月

3. 優秀賞, 日本人工臓器学会, 2024 年 11 月

[その他業績]

1. ESAO (European Society for Artificial Organs) 50th Annual Congress 参加印象記, 2024 年 12 月
人工臓器 53 巻 3 号 pp.254-255

メディシナルケミストリー

Medicinal Chemistry

教授　玉村 啓和
准教授　辻 耕平
所内講師　小早川 拓也（6 月〜）
助教　小早川 拓也（〜5 月）
技術補佐員　髙木 弘子
技術補佐員　平山 麻衣子
技術補佐員　亀井 朋恵

大学院生
D3 石井 貴大（〜3 月), Peter Bolah
D2 三浦 裕太郎, 西村 壮史 (〜9 月), Eric Coffie
D1 篠原 功紀, 山本 賢一 , 黄 学元 (10 月〜)
M2 望月聡人（〜3 月）, 黒田 悠貴, 早川 開人, 町田 沙穂
M1 有岡 万里彩, 林 厚嗣, 野澤 恒樹, 山本 龍星, 和田山 義虎, 張 雨萌 (10 月〜), 白 珂楠 (10 月〜)

学内研究協力者 魏 雅姝 (10 月〜)
学外研究協力者　濱田 百花 (4 月〜)

(1) 分野概要

有機化学や有機合成化学を基盤とする生命現象の解明や制御を目指したケミカルバイオロジー研究や、これらを応用した創薬化学研究、ポストゲノム時代の先端的医薬品化学研究を講義している。本分野では、定期的に文献紹介演習や研究検討会を行い、教育、指導している。

(2) 研究活動

1. 構造固定化テンプレートの創出とドラッグ · ディスカバリー
ペプチド等生理活性化合物中に含まれる官能基 (pharmacophore) を適切に空間配置することを可能にする構造固定化用の創薬テンプレートを創出している。また、受容体、酵素等をターゲットとして、がん、エイズ、アルツハイマー、リウマチ、SARS の治療薬の創製研究を行っている。
2.　蛍光プローブの創製、バイオセンシング、創薬を目指したケミカルバイオロジー研究
酵素、受容体を特異的に認識するバイオ (蛍光) プローブを創出し、イメージング、センシングを含めたケミカルバイオロジー研究を行っている。
3. 受容体や酵素 · リガンド相互作用の解析
受容体や酵素リガンドの分子設計、合成を行い、共結晶化—X 線結晶構造解析による相互作用の解析を行い、リガンドがもたらす構造情報伝達メカニズムを解明する。
4. 亜鉛フィンガーツール、TALEN、CRISPR-Cas9 による遺伝子治療法の開発
ゲノム DNA に対して高い配列特異性で結合する亜鉛フィンガータンパク質、TALEN、CRISPR-Cas9 の遺伝子ターゲティングを利用して、疾病遺伝子の転写調節、酵素反応（切断、組換え、メチル化）などを用いた DNA 修飾による遺伝子治療への展開を行っている。

(3) 教育活動

【演習】
【目的 · 概要】
ペプチド医薬品やバイオ医薬品の開発、およびそれらのシーズとなる基礎研究に関する最新の文献情報とその成果の元となるバックグラウンドに関して報告を行い、研究スキームや実験手法、データ解釈と将来的な展開などに関して討論を行う。
【参加可能プログラム】
大学院講義　随時
研究室文献紹介　日時　毎週木曜日　15:00〜16:30（詳細は後日通知）

【研究実習】
【目的 · 概要】
ペプチド化学、タンパク質工学、進化工学、合成生物学の分野における基礎的な実験技術、データ解析法を習得し、研究テーマの設定から論文発表にいたるまでの各段階で教員との討論を行い、研究能力と科学に関する理論的思考、解釈が行える技術を習得する。成果は博士論文として発表を行う。
【参加可能プログラム】
研究室セミナー　毎週 1 時間程度（詳細は後日通知）
遺伝子機能を制御する人工酵素の開発に関する研究
ペプチド化学に基づく細胞機能制御、解明に関する研究

(4) 教育方針

授業方法
少人数制として、討論を重視して行う。

講義室
メディシナルケミストリー分野　第 3 研究室　（生体材料工学研究所 6 階）

評価方法
講義、演習、実験への参加（出席）状況及び研究内容に基づいて総合的に評価を行う。

(5) 研究業績

[原著]

1. Tsuji K, Tamamura H, Burke TR. Fine-tuning probes for fluorescence polarization binding assays of bivalent ligands against polo-like kinase 1 using full-length protein. Bioorganic & medicinal chemistry. 2024.12; 119; 118055

2. Shinohara K, Kobayakawa T, Tsuji K, Takamatsu Y, Mitsuya H, Tamamura H. Naphthalen-1-ylethanamine-containing small molecule inhibitors of the papain-like protease of SARS-CoV-2. European journal of medicinal chemistry. 2024.12; 280; 116963

3. Hattori SI, Bulut H, Hayashi H, Kishimoto N, Takamune N, Hasegawa K, Furusawa Y, Yamayoshi S, Murayama K, Tamamura H, Li M, Wlodawer A, Kawaoka Y, Misumi S, Mitsuya H. Structural and virologic mechanism of the emergence of resistance to Mpro inhibitors in SARS-CoV-2 Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 2024.09; 121(37);

4. Kobayakawa T, Tsuji K, Tamamura H. Design, synthesis and evaluation of bioactivity of peptidomimetics based on chloroalkene dipeptide isosteres. Bioorganic & medicinal chemistry. 2024.08; 110; 117811

5. Tsuji K, Tamamura H, Burke TR Jr. Affinity enhancement of polo-like kinase 1 polo box domain-binding ligands by a bivalent approach using a covalent kinase-binding component. RSC chemical biology. 2024.07; 5(8); 721-728

6. Ishii T, Kobayakawa T, Matsuda K, Nigorikawa K, Bolah P, Noborio A, Tsuji K, Ohashi N, Yoshimura K, Nomura W, Mitsuya H, Maeda K, Tamamura H. Discovery of Potent DAG-Lactone Derivatives as HIV Latency Reversing Agents. ACS infectious diseases. 2024.05; 10(6); 2250-2261

7. Kobayakawa T, Yokoyama M, Tsuji K, Boku S, Kurakami M, Fujino M, Ishii T, Miura Y, Nishimura S, Shinohara K, Yamamoto K, Bolah P, Kotani O, Murakami T, Sato H, Tamamura H. Development of Small-Molecule Anti-HIV-1 Agents Targeting HIV-1 Capsid Proteins. Chemical & pharmaceutical bulletin. 2024; 72(1); 41-47

8. Kobayakawa T, Takano H, Ishii T, Bolah P, Tsuji K, Ohashi N, Nomura W, Furuta T, Tamamura H. Effect of Two-Photon Excitation to 8-Azacoumarin Derivatives as Photolabile Protecting Groups. Chemical & pharmaceutical bulletin. 2024; 72(3); 311-312

9. Tsuji K, Tamamura H, Burke TR Jr. Application of a Fluorescence Recovery-Based Polo-Like Kinase 1 Binding Assay to Polo-Like Kinase 2 and Polo-Like Kinase 3. Biological & pharmaceutical bulletin. 2024; 47(7); 1282-1287

[講演・口頭発表等]

1. Tsuji K, Huang X, Kobayakawa T, Burke TR Jr., Tamamura H. Development of high-affinity polo-like kinase 1 polo-box domain binding peptides by bivalent approaches. The 61st Japanese Peptide Symposium 2024.10.29 Nagoya

2. Shinohara K, Kobayakawa T, Takamatsu Y, Tsuji K, Mitsuya H, Tamamura H. Structure-activity relationship studies of novel SARS-CoV-2 papain-like protease inhibitors and their application as anti-Mpox agents. The 61st Japanese Peptide Symposium 2024.10.29 Nagoya

3. Yamamoto K, Kobayakawa T, Tsuji K, Tamamura H. Development of chloroalkene-type dipeptide isosteres for amyloid-beta aggregation inhibitors. The 61st Japanese Peptide Symposium 2024.10.29 Nagoya

4. Huang X, Tsuji K, KobayakawaT, Tamamura H. Investigation on degrader peptides targeting the polo-box domain for degradation of polo-like kinase 1. The 61st Japanese Peptide Symposium 2024.10.29 Nagoya

5. Tamamura H. New horizon of drug discovery for anti-HIV drugs. The 82nd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, HIV treatment: the future of preventative care and management 2024.09.01 Cape Town, South Africa

6. Tamamura H. Development of anti-HIV agents targeting HIV-Gag proteins using in silico screening . The 37th European Peptide Symposium (EPS) & 14th International Peptide Symposium (IPS) Satellite Workshops, Applications of computational AI/ML in peptide research with a roadmap to peptide drug and material development 2024.08.30 Florence, Italy

7. Miura Y, Tsuji K, Kobayakawa T, Kuwata T, Matsushita S, Tamamura H. Development of antibody drug conjugates as HIV entry inhibitors. 37th European peptide symposium 2024.08.26 Florence, Italy

8. Kobayakawa T, Azuma C, Yamamoto K , Tsuji K, Tamamura H. Convergent synthesis of peptidomimetic based on a chloroalkene dipeptide isostere and its application to inhibition against amyloid β aggregation. 14th International Peptide Symposium 2024.08.26 Florence, Italy

9. Miura Y, Tsuji K, Kobayakawa T, Kuwata T, Matsushita S, Tamamura H. Development of hybrid-molecules as HIV entry inhibitors. 18th Chinese international peptide symposium 2024.07.01 Hong Kong

10. Tamamura H. Tripeptide-mimic Inhibitors against a Main Protease of SARS-CoV-2. The 18th Chinese International Peptide Symposium 2024.06.30 Hong Kong

11. Miura Y, Tsuji K, Kobayakawa T, Kuwata T, Matsushita S, Tamamura H. Antibody drug conjugates as HIV entry inhibitors. 27th Korean Peptide Protein Symposium 2024.06.24 Busan, South Korea

12. Tamamura H. Medicinal chemistry derived from peptides and peptidomimetics. The 10th Joint Symposium between IBB/TMDU and Chulalongkorn University on Biomedical Materials and Engineering 2024.01.19 Thailand

1. 三浦 裕太郎, 辻 耕平, 小早川 拓也, 松本 佳穂, 桑田 岳夫, 伊東 祐二, 吉矢 拓, 松下 修三, 玉村 啓和. HIV 侵入阻害剤を目指した新規抗体薬物複合体の創製. 第 3 回日本抗体学会学術大会 2024.12.09 仙台

2. 高松 悠樹, 鍬田 伸好, 服部 真一朗, 篠原 功紀, 小早川 拓也, 辻 耕平, 玉村 啓和, 満屋 裕明. I7L プロテアーゼ触媒残基に着目した 抗モンキーポックスウイルス療法薬の 開発展望. 第 38 回日本エイズ学会学術集会 · 総会 2024.11.29 新宿

3. 高松 悠樹, 鍬田 伸好, 服部 真一朗, 篠原 功紀, 小早川 拓也, 辻 耕平, 玉村 啓和, 満屋 裕明. I7L プロテアーゼ触媒残基に着目した 抗モンキーポックスウイルス療法薬の 開発展望. 第 38 回日本エイズ学会学術集会 · 総会 2024.11.29 新宿

4. 小早川 拓也, 石井 貴大, 松田 幸樹, 辻 耕平, 吉村 和久, 満屋 裕明, 前田 賢次, 玉村 啓和. HIV-1 潜伏感染を再活性化する DAG-γ-ラクトン誘導体の創製研究. 第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2024.11.21 京都

5. 篠原 功紀, 小早川 拓也, 高松 悠樹, 辻 耕平, 満屋 裕明, 玉村 啓和. 新規 SARS-CoV-2 パパイン様プロテアーゼ阻害剤の構造活性相関研究と 抗 Mpox 剤としての活性評価. 第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2024.11.21 京都

6. 山本 賢一, 小早川 拓也, 辻 耕平, 玉村 啓和. アミロイド beta 凝集阻害剤を指向したジペプチドミメティックの創製. 第 41 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2024.11.21 京都

7. 玉村 啓和. ペプチド医薬品の開発と中分子 · 低分子創薬. 岡山大学薬学部講演会 2024.11.15 岡山

8. 玉村 啓和. アミノ酸、ペプチドからくすり. 日本ペプチド学会 市民フォーラム 2024　ペプチドを知ろう！くすりと食品に隠れた小さなヒーロー 2024.11.02 名古屋

9. 三浦 裕太郎, 辻 耕平, 小早川 拓也, 松本 佳穂, 桑田 岳夫, 松下 修三, 玉村 啓和. HIV 侵入をターゲットとした抗体薬物複合体の精密合成と作用評価. 第 50 回反応と合成の進歩シンポジウム 2024.10.27 神戸

10. 高松 悠樹, 鍬田 伸好, 服部 真一朗, 篠原 功紀, 小早川 拓也, 辻 耕平, 玉村 啓和, 満屋 裕明. I7L プロテアーゼ触媒残基に着目した抗エムポックスウイルス療法薬の開発展望. 第 32 回抗ウイルス療法学会　学術集会 · 総会 2024.08.29 熊本

11. 青木 宏美, Haydar Bulut, 林 宏典, 鍬田 伸好, 高宗 暢暁, Debananda Das, 青木 学, 玉村 啓和, 三隅 将吾, 満屋 裕明. SARS-CoV-2 Mpro 阻害剤 TKB272 の抗 SARS-CoV-2 活性に及ぼす 単一ハロゲン原子置換の影響. 第 32 回抗ウイルス療法学会　学術集会 · 総会 2024.08.29 熊本

12. 篠原 功紀, 高松 悠樹, 小早川 拓也, 辻 耕平, 満屋 裕明, 玉村 啓和. SARS-CoV-2 パパイン様プロテアーゼ阻害剤の構造活性相関研究. 第 32 回抗ウイルス療法学会　学術集会 · 総会 2024.08.29 熊本

13. 有岡 万里彩、小早川 拓也、辻 耕平、玉村 啓和. フルオロアルケン型ジペプチドイソスターの合成とその応用研究. 第 56 回若手ペプチド夏の勉強会 2024.08.08 米子

14. 黄 学元、辻 耕平、小早川 拓也、玉村 啓和. Exploratory Studies on Peptidic Degraders Targeting the Polo-box Domain of Pololike Kinase 1. 第 56 回若手ペプチド夏の勉強会 2024.08.08 米子

15. 小早川 拓也, 町田 沙穂, 横山 勝, 辻 耕平, 村上 努, 佐藤 裕徳, 玉村 啓和. HIV-1 カプシドタンパク質の構造を基盤とした抗 HIV-1 剤の創製研究. 日本ケミカルバイオロジー学会第 18 回年会 2024.05.28 東京

16. 西村 壮史, 小早川 拓也, 辻 耕平, 村上 努, 玉村 啓和. HIV-1 外被タンパク質 gp41 を標的とする二量体型膜融合阻害剤の創製. 日本ケミカルバイオロジー学会第 18 回年会 2024.05.28 東京

17. 篠原 功紀, 鍬田 伸好, 辻 耕平, 石井 貴大, 小早川 拓也, 服部 真一朗, 岸本 直樹, 高宗 暢暁, 三隅 将吾, Haydar Bulut, 林 宏典, 満屋 裕明, 玉村 啓和. COVID-19 の治療薬として強力な抗ウイルス活性を有する新規 SARS-CoV-2 メインプロテアーゼ阻害剤の創製. 日本ケミカルバイオロジー学会第 18 回年会 2024.05.28 東京

18. 辻 耕平, 黄 学元, 小早川 拓也, Terrence R. Burke, Jr., 玉村 啓和 . 二価型戦略に基づく高親和性 polo-like kinase 1 阻害剤の創製. 日本ケミカルバイオロジー学会第 18 回年会 2024.05.27 東京

19. 三浦 裕太郎, 王 容義, 辻 耕平, 劉 一山, 小早川 拓也, 原田 恵嘉, 玉村 啓和. HIV 侵入阻害剤を目指した CD4mimic と gp41 阻害ペプチドを用いたハイブリッド分子の開発. 日本ケミカルバイオロジー学会第 18 回年会 2024.05.27 東京

20. 黄 学元, 辻 耕平, 小早川 拓也, 玉村 啓和. Polo-box domain 指向性 polo-like kinase 1 分解誘導ペプチドの創製研究. 日本ケミカルバイオロジー学会第 18 回年会 2024.05.27 東京

21. 山本 賢一, 小早川 拓也, 辻 耕平, 玉村 啓和 . アミロイド beta 凝集阻害剤指向型ペプチドミメティックの創製 . 日本ケミカルバイオロジー学会第 18 回年会 2024.05.27 東京

22. 玉村 啓和. 環状ペプチド合成の化学. 環状ペプチドに関する合成勉強会 · 講演会「東京大学大学院薬学系研究科」 2024.05.15 東京

23. 山本 賢一, 小早川 拓也, 東 知佳, 渡邉 優基, 辻 耕平, 玉村 啓和. アミロイド beta 凝集阻害剤を指向したクロロアルケン型ペプチドミメティックの創製. 日本薬学会第 144 回年会 2024.03.31 横浜

24. 町田 沙穂, 小早川 拓也, 横山 勝, 藤野 真之, 金子 萌美, 倉上 真樹, 朴 清香, 大西 立人, 小谷 治, 辻 耕平, 村上 努, 佐藤 裕徳, 玉村 啓和. HIV-1 カプシドタンパク質の構造を起点とした低分子型抗 HIV-1 剤の創製. 日本薬学会第 144 回年会 2024.03.30 横浜

25. 黒田 悠貴, 小早川 拓也, 辻 耕平, 紺野 奇重, 大橋 南美, 増田 亜美, 三浦 裕太郎, 桑田 岳夫, 吉村 和久, 三浦 智行, 原田 恵嘉, 松下 修三, 玉村 啓和. HIV 侵入阻害剤としてのポリエチレングリコールと低分子 CD4 ミミックのハイブリッド化合物の創製. 日本薬学会第 144 回年会 2024.03.30 横浜

26. 篠原 功紀，鍬田 伸好，辻 耕平，石井 貴大，小早川 拓也，服部 真一朗，岸本 直樹，高宗 暢暁，三隅 将吾，Haydar Bulut，林 宏典，満屋 裕明，玉村 啓和. SARS-CoV-2 メインプロテアーゼを標的とした高抗ウイルス活性を有する低分子阻害剤の創製. 日本薬学会第 144 回年会 2024.03.30 横浜

27. 西村 壮史, 小早川 拓也, 辻 耕平, 村上 努, 玉村 啓和. HIV-1 外被タンパク質 gp41 を標的とする二価型膜融合阻害剤の創製. 日本薬学会第 144 回年会 2024.03.30 横浜

[受賞]

1. 22nd IBB BioFuture Research Encouragement Prize 研究発表会 大学院博士課程の部 最優秀賞 (石井 貴大), 国立大学法人 東京医科歯科大学 (TMDU) 生体材料工学研究所 (IBB) , 2024 年 01 月
2. 22nd IBB BioFuture Research Encouragement Prize 研究発表会 大学院修士課程の部 優秀賞 (山本 賢一), 国立大学法人 東京医科歯科大学 (TMDU) 生体材料工学研究所 (IBB) , 2024 年 01 月
3. 22nd IBB BioFuture Research Encouragement Prize 研究発表会 学部学生の部 優秀賞 (有岡 万里彩), 国立大学法人 東京医科歯科大学 (TMDU) 生体材料工学研究所 (IBB) , 2024 年 01 月
4. 日本薬学会第 144 年会 学生優秀発表賞 (口頭発表の部)(西村 壮史) , 日本薬学会, 2024 年 03 月
5. 2024 年度 日本薬学会関東支部奨励賞 基礎薬学部門 (辻 耕平), 日本薬学会関東支部, 2024 年 07 月
6. 第 56 回若手ペプチド夏の勉強会 一般講演チャレンジング賞 (有岡 万里彩), 日本ペプチド学会, 2024 年 08 月
7. 第 32 回日本抗ウイルス療法学会学術集会 · 総会 塩田賞 (篠原 功紀) , 日本抗ウイルス療法学会, 2024 年 08 月
8. 第 3 回日本抗体学会学術大会ポスター賞優秀賞 (三浦 裕太郎) , 日本抗体学会, 2024 年 12 月

[その他業績]

1. 「 HIV-1 潜伏感染再活性化剤としての高活性 DAG-ラクトン誘導体の創出 」 - HIV-1 の根絶を目指して -, 2024 年 05 月
   ACS Infectious Diseases

ソフトマター医工学分野

Soft Matter and Biomedical Engineering

教授　鳴瀧彩絵 (2024 年 4 月着任)
講師　宮本昂明 (2025 年 2 月着任)

(1)　分野概要

当分野は、高分子 · 分子集合体 · コロイド · ゲルなどのソフトマテリアルを研究対象としています。これらのダイナミックな性質を利用して、ソフトマテリアルを「省エネルギーでつくる」研究、ソフトマテリアルを使って「医療に役立つ材料をつくる」「環境中のエネルギーから電力を得る」研究、ソフトマテリアルの自己組織化現象を解明する研究などに取り組んでいます。医療 · 環境 · エネルギー分野での課題解決を目指し、未来社会を見据えた最先端の研究に挑戦します。

(2)　研究活動

1. 自己組織化によるナノ材料の省エネルギー合成
無機ナノ粒子の配列体は従来の原理を超えた機能を発現することが理論的に予測されており、それらを省エネルギーで生産するプロセスの開発が求められています。私たちは、単独では異方性を持たない無機ナノ粒子を、水中で 1 次元のチェイン状、2 次元のリング状、あるいは 3 次元のベシクル状へと自在に自己組織化させる技術を確立しました。ここでは両親媒性高分子と無機ナノ粒子の相互作用が重要な役割を果たします。この現象のメカニズム解明と材料応用に関する研究を進めています。

2. 自己組織化タンパク質ナノファイバーのエネルギー · 医用材料応用
私たちは、生体組織に伸縮性を与えるたんぱく質「エラスチン」に着想を得た人工タンパク質を開発しました。この人工タンパク質は、再生医療のための細胞足場材料や、小口径人工血管用の素材として注目を集めています。さらに、このタンパク質が水中で良質なナノファイバーを形成できることに注目し、ファイバーに電子やイオンを輸送する機能を持たせることで、フレキシブルな導電性材料や、生体と機械をつなぐインターフェースへと発展させる研究を展開しています。

3. ウェアラブル · インプランタブル環境発電デバイスの構築
力学的エネルギーを電気エネルギーに変換する「摩擦帯電型ナノ発電機」の構築に取り組んでいます。特に、誘電層に生分解性高分子を利用することで、ウェアラブル · インプランタブルなデバイスへ発展させることを目指しています。

(3)　教育方針

高分子 · 分子集合体 · コロイド · ゲルなどのソフトマターについて、作製法、評価法、最新の研究動向などを理解し、ソフトマターを基盤とするバイオマテリアル研究を推進できる能力を習得する。

(4) 研究業績

[原著]

1. Tatsuki Oishi, Ayae Sugawara-Narutaki, Rintaro Takahashi. Supracolloidal step-growth polymerization of isotropic silica nanoparticles: a time-resolved small-angle X-ray scattering study Polymer Journal. 2024.11; 56(11); 1089-1092

2. Yokoi, T; Tomita, S; Nakamura, J; Sugawara-Narutaki, A; Matsukawa, Y; Kawashita, M; Ohtsuki, C. Apatite Formation on α-Tricalcium Phosphate Modified with Bioresponsive Ceramics in Simulated Body Fluid Containing Alkaline Phosphatase BIOMIMETICS. 2024.08; 9(8);

3. Yamada S, Yamada K, Sugawara-Narutaki A, Baba Y, Yukawa H. Near-infrared-II fluorescence/magnetic resonance double modal imaging of transplanted stem cells using lanthanide co-doped gadolinium oxide nanoparticles. Analytical sciences : the international journal of the Japan Society for Analytical Chemistry. 2024.06; 40(6); 1043-1050

1. Yamanaka R, Sugawara-Narutaki A, Takahashi R. Microphase Separation and Gelation through Polymerization-Induced Self-Assembly Using Star Polyethylene Glycols. ACS macro letters. 2024.07; 13(8); 1050-1055

[書籍等出版物]

1. Ayae Sugawara-Narutaki, Jin Nakamura, Chikara Ohtsuki. Elastin-like hydrogels as tissue regeneration scaffolds in Hydrogels for Tissue Engineering and Regenerative Medicine (Eds J. M. Oliveira, J. Silva-Correia, R. L. Reis). 2024.01

1. 鳴瀧彩絵. 自己集合性デザイナータンパク質が拓くバイオマテリアル in 医療工学研究の最前線 〜近未来のバイオ医用機器, 生体材料, 創薬科学〜（監修： 三林浩二，影近弘之，岸田晶夫）. シーエムシー出版, 2024.10

[総説]

1. 鳴瀧 彩絵. 【医歯薬工融合を促進するバイオマテリアル研究の新展開-シーズ編-】人工タンパク質によるデザイナーマトリックスの構築 バイオマテリアル-生体材料-. 2024.10; 42(4); 286-291

2. 鳴瀧彩絵. 人工タンパク質によるデザイナーマトリックスの構築 バイオマテリアル－生体材料－. 2024.10; 42(4); 286-291

3. 鳴瀧彩絵. ソフトマターとしての細胞外マトリックスが創発する生命現象 高分子. 2024.03; 73(3); 101-103

4. 高橋倫太郎, 鳴瀧彩絵. 高分子/無機ナノ粒子リング状自己集合の in situ および ex situ 観察 2024.01; 49(1); 23-27

[講演 · 口頭発表等]

1. Ayae Sugawara-Narutaki. Design and Application of Self-Assembled Protein Nanofibers. TransMedMat Workshop, Institute of Science Tokyo & RWTH Aachen University 2024.12.02 RWTH Aachen University

2. Ayae Sugawara-Narutaki. Design and Biomaterial Applications of Self-Assembled Protein Nanofibers. The 4th International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture (DEJI2MA2024) 2024.10.03

3. Ayae Sugawara-Narutaki, Aya Akimoto, Yoshihiro Sasaki, Kazunari Akiyoshi. Development of polymer-based designer matrices. マルチモダル ECM 第 3 回領域会議 2024.07.24 ルスツ

4. Kensuke Kawasaki, Ayae Sugawara-Narutaki. Development of artificial proteins with elastin-like characteristics. マルチモダル ECM 第 3 回領域会議 2024.07.24 ルスツ

5. Md. Zahidul Islam, Yuichi Hori, Rintaro Takahashi, Ayae Sugawara-Narutaki. Enhanced electrical conductivity of elastin-like polypeptide nanofibers. マテリアル DX 若手研究者 WORKSHOP 2024.07.18 鶴岡

6. Ayae Sugawara-Narutaki. Development of designer matrix inspired from elastin. 第 56 回日本結合組織学会学術大会 2024.06.15

1. 柴田生吹, 高橋倫太郎, 鳴瀧彩絵. 動力学的に制御されたミクロ相分離. 第 12 回ソフトマター研究会 2024.12.16
2. 山中理久，鳴瀧彩絵，高橋倫太郎. イオン液体中における星形高分子の重合誘引自己組織化. 第 12 回ソフトマター研究会 2024.12.16
3. 鳴瀧彩絵.　超分子ナノファイバーを形成するデザイナータンパク質の創製.　ナノ学会理事会 講演会 2024.12.14
4. 鳴瀧彩絵. ナノ物質の液相自己集合と材料応用. 2024 年度生体材料工学研究所 FD 研修 2024.12.14
5. 鳴瀧彩絵. 環境発電応用に向けた高分子素子の開発. 第 6 回ナノ · マイクロ階層構造化新奇デバイス創製研究会 2024.12.13
6. 鳴瀧彩絵. エラスチンに着想を得たデザイナーマトリックスの開発. 第 8 回エラスチン · 関連分子研究会学術集会 2024.11.30
7. 本山翔哉, 大石俊輔, 高橋倫太郎, 鳴瀧彩絵. ゲル形成能を有する化学合成エラスチンの配列探索. 2024 年繊維学会秋季研究発表会 2024.11.28
8. 鈴木恵太, 高橋倫太郎, 鳴瀧彩絵. フッ素樹脂のエレクトレット不織布の作製と摩擦帯電型発電機への応用. 2024 年繊維学会秋季研究発表会 2024.11.28
9. 鳴瀧彩絵. 超分子ナノファイバーを形成するデザイナータンパク質の創製と応用. 第 33 回ポリマー材料フォーラム 2024.11.14 京都
10. 柴田生吹，鳴瀧彩絵，高橋倫太郎. ガラス転移温度が重合誘起ミクロ相分離に及ぼす影響. ソフトマター若手研究会 2024.11.09 柏
11. 大石龍喜，鳴瀧彩絵，高橋倫太郎. シリカナノチェインを用いた高分子ナノコンポジットの構造と力学物性. ソフトマター若手研究会 2024.11.09 柏
12. 鈴木恵太，高橋倫太郎，鳴瀧彩絵. 環境発電応用に向けた高分子エレクトレット不織布の作製. ソフトマター若手研究会 2024.11.09 柏
13. 平野湧喜, 高橋倫太郎, 鳴瀧彩絵. エラスチン類似人工タンパク質ハイドロゲルを用いた筋芽細胞培養. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2024 2024.10.28 仙台
14. 鳴瀧彩絵. 超分子ナノファイバーを形成するデザイナータンパク質の創製と応用. 持続社会発展のための機能化学研究委員会第 11 回定期研究会 2024.10.15
15. 鳴瀧彩絵. 人工エラスチンの開発とバイオマテリアル応用. AMED 再生 · 遺伝子研究開発交流会 2024.09.30 東京
16. 大石龍喜，鳴瀧彩絵，高橋倫太郎. シリカナノチェインをフィラーとする高分子ナノコンポジット. 第 73 回高分子討論会 2024.09.25 新潟
17. 山中理久，鳴瀧彩絵，高橋倫太郎. 星形高分子の重合誘引自己組織化. 第 73 回高分子討論会 2024.09.25 新潟
18. 柴田生吹，高橋倫太郎，鳴瀧彩絵. 重合誘起自己組織化による動力学的に制御されたミクロ相分離. 第 73 回高分子討論会 2024.09.25 新潟
19. 鳴瀧彩絵. 両親媒性高分子が媒介する無機ナノ粒子の液相自己集合 —分散と凝集のはざまで—. 第 75 回コロイドおよび界面化学討論会 2024.09.17 仙台
20. 鳴瀧彩絵, 高橋倫太郎, 大槻主税, 青島 貞人. 両親媒性高分子が媒介するシリカナノ粒子リング状自己集合の in situ および ex situ 観察. 日本セラミックス協会第 37 回秋季シンポジウム 2024.09.10 名古屋
21. 鈴木恵太, 鳴瀧彩絵. 高分子エレクトレット不織布の作製と TENG 誘電層への応用. 第 5 回ナノ · マイクロ階層構造化新奇デバイス創製研究会 2024.08.29 オンライン
22. 鳴瀧彩絵. タンパク質工学が拓く未来のバイオマテリアル. 東京医科歯科大学オープンキャンパスサイエンスカフェ企画 2024.08.01 東京
23. 鳴瀧彩絵. 高分子の液相自己組織化を利用した材料創製. 関西大学理工学研究科化学生命工学専攻　M 集中講義 2024.07.30 大阪

24. 鳴瀧彩絵，青山雄気，篠塚高宏，神田光郎，鈴木一正，大槻主税. 縫合不全防止のための自己修復性ハイドロゲルの創製. 第 53 回医用高分子シンポジウム 2024.07.23

25. 鳴瀧彩絵. 自己組織化に導かれて. マテリアル DX 若手研究者 WORKSHOP 2024.07.18 鶴岡

26. 本山翔哉, 大石俊輔, 高橋倫太郎, 鳴瀧彩絵. コンビナトリアル化学に基づく合成エラスチンのナノファイバー形成能. マテリアル DX 若手研究者 WORKSHOP 2024.07.18 鶴岡

27. 山中理久，鳴瀧彩絵，高橋倫太郎. 星形高分子を用いた重合誘起自己組織化およびゲル化のキャラクタリゼーション. マテリアル DX 若手研究者 WORKSHOP 2024.07.18 鶴岡

28. 本山翔哉, 大石俊輔, 高橋倫太郎, 鳴瀧彩絵. 残基数を変化させた化学合成エラスチンのナノファイバー形成能. ナノ学会第 22 回大会 2024.05.22 仙台

29. 鈴木恵太, 高橋倫太郎, 鳴瀧彩絵. エレクトロスピニング法を用いた高分子エレクトレット不織布の作製 . ナノ学会第 22 回大会 2024.05.22 仙台

30. 大石龍喜，鳴瀧彩絵, 高橋倫太郎. シリカナノチェインをフィラーとする高分子ナノコンポジットの合成と物性評価. ナノ学会第 22 回大会 2024.05.22 仙台

31. 山中理久，鳴瀧彩絵，高橋倫太郎. 星型ポリエチレングリコールを用いる重合誘起自己組織化のキャラクタリゼーション . ナノ学会第 22 回大会 2024.05.22 仙台

32. 柴田生吹, 鳴瀧彩絵, 高橋倫太郎. 二元ブロック共重合体の重合誘起自己組織化によるミクロ相分離 . ナノ学会第 22 回大会 2024.05.22 仙台

33. 山中理久，鳴瀧彩絵，高橋倫太郎. 星型ポリエチレングリコールを用いる重合誘起自己組織化：レオロジーと小角 X 線散乱によるキャラクタリゼー ション . 日本レオロジー学会第 51 回年会 2024.05.16 名古屋

34. 柴田生吹，高橋倫太郎，鳴瀧彩絵. イオン液体中での重合誘起自己組織化によるミクロ相分離構造の形成とその粘弾性に関する研究. 日本レオロジー学会第 51 回年会 2024.05.16 名古屋

35. 大石龍喜，高橋倫太郎，鳴瀧彩絵. シリカナノ粒子のチェイン状自己集合体を利用した高分子ナノコンポジットの創製. 日本レオロジー学会第 51 回年会 2024.05.16 名古屋

36. 鳴瀧彩絵. ソフトマテリアル液相自己組織化の理解と材料応用. 超分子研究会 2024.05.15 東京

37. 大橋佳和，篠川晃佑，鳴瀧彩絵，キムジョンヒョン，松本健郎，前田英次郎. 生体軟組織の力学特性再現を目指したコラーゲンとエラスチンの複合化技術に関する研究. 日本機械学会第 36 回バイオエンジニアリング講演会 2024.05.11

38. 鳴瀧彩絵. 生命現象を創発するデザイナー細胞外マトリックスの開発. 京都大学田畑研究室セミナー 2024.04.08 オンライン

診断治療システム医工学分野

Diagnostic and Therapeutic Systems Engineering

教授	梶　弘和
准教授	梨本裕司
助教	堀　武志
技術補佐員	Serge Ostrovidov
技術補佐員	山本　茜
技術補佐員	前島真紀

(1)　分野概要

当分野では、バイオ材料 · 生体に優しいマイクロ · ナノ技術の開発と、それらを基盤として次世代医療を創生することを目指して研究活動を推進している。

(2)　研究活動

1. バイオファブリケーション技術の開発
2. 体内埋込型ドラッグデリバリーデバイスの開発
3. 低侵襲細胞デリバリーシステムの開発
4. 生体模倣システムの開発

(3)　教育方針

診断や治療を目的とした医療デバイス · システム及び関連分野の最新動向を学ぶと共に基礎的知識と技術を習得し、当該分野で自発的に研究を推進できる能力を養うことを目的とする。

(4)　研究業績

[原著]

1. Placental microphysiological systems: new advances on promising platforms that mimic the microenvironment of the human placenta. 2024.10;

2. Hiramoto, K; Konno, A; Nashimoto, Y; Hirano-Iwata, A; Ino, K; Shiku, H. Osteogenic differentiation of mesenchymal stem cell spheroids: A microfluidic device and electrochemiluminescence imaging study ELECTROCHIMICA ACTA. 2024.07; 491;

3. Shibata S, Endo S, Nagai LAE, H Kobayashi E, Oike A, Kobayashi N, Kitamura A, Hori T, Nashimoto Y, Nakato R, Hamada H, Kaji H, Kikutake C, Suyama M, Saito M, Yaegashi N, Okae H, Arima T. Modeling embryo-endometrial interface recapitulating human embryo implantation. Science advances. 2024.02; 10(8); eadi4819

4. Hori T, Okae H, Shibata S, Kobayashi N, Kobayashi EH, Oike A, Sekiya A, Arima T, Kaji H. Trophoblast stem cell-based organoid models of the human placental barrier. Nature communications. 2024.02; 15(1); 962

5. Carvalho V, Gonçalves IM, Rodrigues N, Sousa P, Pinto V, Minas G, Kaji H, Shin SR, Rodrigues RO, Teixeira SFCF, Lima RA. Numerical evaluation and experimental validation of fluid flow behavior within an organ-on-a-chip model. Computer methods and programs in biomedicine. 2024.01; 243; 107883
6. Nashimoto Y, Kanno Y, Ito H, Şen M. Editorial: Modelling and sensing platform for cancer and tumour microenvironment. Frontiers in bioengineering and biotechnology. 2024; 12; 1432352

1. 梨本 裕司, 今野 杏, 西川 香里, 伊野 浩介, 堀 武志, 梶 弘和, 新宅 博文, 後藤 昌史, 珠玖 仁. 膵臓移植 · 膵島移植 · 人工膵臓の現状と展望 生体模倣システムによる膵島の血管形成能力と遺伝子発現の照合 膵臓. 2024.07; 39(3); A279
2. 新宅 博文, 西川 香里, 今野 杏, 伊野 浩介, 後藤 昌史, 珠 玖仁, 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和. マイクロ流体デバイスを用いた単一膵島の血管形成能力の評価 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2024.04; 2023 年度; 49
3. 新宅 博文, 西川 香里, 今野 杏, 伊野 浩介, 後藤 昌史, 珠 玖仁, 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和. マイクロ流体デバイスを用いた単一膵島の血管形成能力の評価 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2024.04; 2023 年度; 49
4. 堀 武志, 梶 弘和, 柴田 峻, 有馬 隆博. 胎盤幹細胞の創薬研究への応用 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2024.04; 2023 年度; 61
5. 堀 武志, 梶 弘和, 柴田 峻, 有馬 隆博. 胎盤幹細胞の創薬研究への応用 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2024.04; 2023 年度; 61
6. 宍戸 昌太郎, 伊野 浩介, 珠 玖仁, 小沼 邦重, 井上 正宏, 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和. 電気化学計測に基づくがんオルガノイドの非侵襲的な増殖能の識別 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2024.04; 2023 年度; 48
7. 宍戸 昌太郎, 伊野 浩介, 珠 玖仁, 小沼 邦重, 井上 正宏, 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和. 電気化学計測に基づくがんオルガノイドの非侵襲的な増殖能の識別 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書. 2024.04; 2023 年度; 48
8. 堀 武志, 梶 弘和. 【胎盤の母児支援機構とその評価】ヒト胎盤栄養膜幹細胞から構築した胎盤バリアモデル細胞. 2024.03; 56(3); 163-166
9. 堀 武志, 梶 弘和. 【胎盤の母児支援機構とその評価】ヒト胎盤栄養膜幹細胞から構築した胎盤バリアモデル細胞. 2024.03; 56(3); 163-166

1. 若手研究者紹介 胎盤オルガノイドの作製から胎盤バリアモデルの開発へ (堀 武志) 生体医歯工学共同研究拠点 RCBE(Research Center for Biomedical Engineering) Newsletter. 2024.07; 13;
2. 堀 武志. 食資源のサステナビリティを拓く高開口率足場シートを用いた３次元組織構築技術の開発 豊田研究報告第 77 号. 2024.06;
3. 梶 弘和, 許 家誠, 堀 武志. 高開口率の細胞足場シートを用いたサスティナブル食肉培養システムの開発 カシオ科学振興財団 第 40 回研究助成 研究成果論文. 2024.05;
4. 堀武志. ヒト胎盤関門 MPS の構築 日本再生医療学会総会 (Web). 2024; 23rd;
5. 堀 武志. 持続可能な食料生産の未来を拓く高開口率細胞足場シートを用いた培養肉構築技術の開発 三島海雲研究報告書 61 号. 2024;
6. 稲垣皓介, 堀武志, 梨本裕司, 吉田昭太郎, 梶弘和. 2 層型マイクロ流体デバイスを用いたヒト網膜関門モデルの構築 化学とマイクロ · ナノシステム学会研究会講演要旨集 (CD-ROM). 2024; 49th;
7. 付玉寧, 土屋香碧, 梨本裕司, 堀武志, 高橋和樹, 渡部徹郎, 梶弘和. 3D 血管網を用いた内皮間葉転換のシグナル伝達機序の評価 化学とマイクロ · ナノシステム学会研究会講演要旨集 (CD-ROM). 2024; 49th;
8. 柴田蒼大, 佐藤優輝, 梨本裕司, 大杉勇人, 堀武志, 片桐さやか, 梶弘和. Gingiva-on-a-chip の実現に向けた歯肉上皮組織の培養条件の検討 化学とマイクロ · ナノシステム学会研究会講演要旨集 (CD-ROM). 2024; 49th;
9. JIANG Bin, 堀武志, 岡江寛明, 大杉勇人, 片桐さやか, 梨本裕司, 有馬隆博, 梶弘和. ヒト胎盤オルガノイドに対する歯周病原細菌曝露の影響の解析 化学とマイクロ · ナノシステム学会研究会講演要旨集 (CD-ROM). 2024; 49th;
10. 梨本裕司, 今野杏, 西川香里, 伊野浩介, 堀武志, 梶弘和, 新宅博文, 新宅博文, 後藤昌史, 珠玖仁. 生体模倣システムによる膵島の血管形成能力と遺伝子発現の照合 膵臓 (Web). 2024; 39(3);
11. 堀武志, 梶弘和. 胎盤の母児支援機構とその評価 ヒト胎盤栄養膜幹細胞から構築した胎盤バリアモデル 月刊細胞. 2024; 56(3);

[講演 · 口頭発表等]

1. 梶 弘和. 安全性評価技術の今昔物語: 故きを温ねて新しきを知る　胎盤 MPS 研究の現状と生殖発生毒性試験への応用の可能性. The Journal of Toxicological Sciences 2024.07.01
2. 梨本 裕司, 今野 杏, 西川 香里, 伊野 浩介, 堀 武志, 梶 弘和, 新宅 博文, 後藤 昌史, 珠玖 仁. 膵臓移植 · 膵島移植 · 人工膵臓の現状と展望　生体模倣システムによる膵島の血管形成能力と遺伝子発現の照合. 膵臓 2024.07.01
3. 新宅 博文, 西川 香里, 今野 杏, 伊野 浩介, 後藤 昌史, 珠 玖仁, 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和. マイクロ流体デバイスを用いた単一膵島の血管形成能力の評価. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01
4. 三宅 丈雄, 梶 弘和. 細胞用ナノ注射器による高効率な物質導入と機能解析. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01
5. 緑川 凜, 野口 幸希, 西村 友宏, 登美 斉俊, 堀 武志, 梶 弘和. 胎盤バリアモデルを用いた propionic acid 胎盤輸送機構の解明. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01
6. 堀 武志, 梶 弘和, 柴田 峻, 有馬 隆博. 胎盤幹細胞の創薬研究への応用. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01
7. 宍戸 昌太郎, 伊野 浩介, 珠 玖仁, 小沼 邦重, 井上 正宏, 梨本 裕司, 堀 武志, 梶 弘和. 電気化学計測に基づくがんオルガノイドの非侵襲的な増殖能の識別. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01
8. 鈴木 雅登, 安川 智之, 梶 弘和. 電気回転速度を指標とした T 細胞の免疫活性化の非標識分析法の開発. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01

1. 堀 武志. コラーゲンビトリゲルを利用した創薬 · 動物実験代替法研究. 千葉科学大学 20 周年記念 公開シンポジウム (第 19 回ナノ · バイオメディカル学会大会サテライトシンポジウム) 2024.09.05 銚子
2. Takeshi Hori, Hiroaki Okae, Shun Shibata, Yuji Nashimoto, Takahiro Arima, Hirokazu Kaji. Generation of in vitro blood-placental barrier (BPB) models using human placental stem cells. 日本薬物動態学会第 39 回年会（日米合同薬物動態学会） 2024.09.01 Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort Honolulu, Hawaii, USA
3. 堀 武志. 創薬における生殖発生毒性試験のための Microphysiological systems (生体模倣システム). AMED キャタリストユニット 第 19 回 Top Runners in TRS 2024.07.12
4. Takeshi Hori. Microphysiological systems as new approach methodologies (NAMs). The 7th Conference on Toxicology Testing Alternatives and Translational Toxicology (TTATT), Committee of Toxicological Alternative and Translational Toxicology (TATT)/Chinese Society of Toxicology (CST) & Committee of Toxicity Testing and Alternative Methods (TTAM)/Chinese Environmental Mutagen Society (CEMS) 2024.07.05 江西南昌, China
5. Takeshi Hori, Hiroaki Okae, Shun Shibata, Yuji Nashimoto, Takahiro Arima, Hirokazu Kaji. Human placental barrier MPS generated with human placental stem cells. MPS World Summit 2024 2024.06.13 Seattle, WA, USA
6. 稲垣皓介, 堀武志, 吉田昭太郎, 梨本裕司, 梶弘和. 2 層型マイクロ流体デバイスを用いたヒト網膜関門モデルの構築. 化学とマイクロ · ナノシステム学会 第 49 回研究会（CHEMINAS 49） 2024.06.02
7. Xu Jiacheng, Hori Takeshi, Nashimoto Yuji, Yoshida Shotaro, Kaji Hirokazu. Chitosan Micro-Mesh Sheets for Sustainable Production of Cultured Fish Fillets. 化学とマイクロ · ナノシステム学会 第 49 回研究会（CHEMINAS 49） 2024.06.02
8. 柴田蒼大, 佐藤優輝, 梨本裕司, 大杉勇人, 堀武志, 片桐さやか, 梶弘和. Gingiva-on-a-chip の実現に向けた歯肉上皮組織の培養条件の検討. 化学とマイクロ · ナノシステム学会 第 49 回研究会（CHEMINAS 49） 2024.06.02
9. JIANG BIN, 堀 武志, 岡江 寛明, 大杉勇人, 片桐 さやか, 梨本裕司, 有馬 隆博, 梶 弘和. ヒト胎盤オルガノイドに対する歯周病原細菌曝露の影響の解析. 化学とマイクロ · ナノシステム学会 第 49 回研究会（CHEMINAS 49） 2024.06.02
10. 付 玉寧, 土屋香碧, 梨本裕司, 堀武志, 高橋和樹, 渡部徹郎, 梶弘和. 3D 血管網を用いた内皮間葉転換のシグナル伝達機序の評価. 化学とマイクロ · ナノシステム学会 第 49 回研究会（CHEMINAS 48） 2024.06.01

11. Takeshi Hori. Microphysiological systems of the human placental barrier.. The 1st Joint Workshop of NHRI/IBEN (Institute of Biomedical Engineering and Nanomedicine, National Health Research Institute, Taiwan) & TMDU/IBB (Institute of Biomaterials and Bioengineering, Tokyo Medical and Dental University, Japan) 2024.04.26
12. 梨本 裕司, 高山 俊男, 梶 弘和, 堀 武志. 化学-機械連携によるがん微小環境の力学因子制御法の開発. 東京医科歯科大学 · 東京工業大学マッチングファンド 研究成果発表 · 研究交流会 2024.04.10
13. 秦 裕樹, 梶 弘和, 芹澤 武, 梨本 裕司, 堀 武志. 皮膚チップを用いたアルカリ系消毒剤の毒性評価. 東京医科歯科大学 · 東京工業大学マッチングファンド 研究成果発表 · 研究交流会 2024.04.10 東京
14. 堀 武志. ヒト胎盤関門 MPS の構築. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21
15. 堀武志, Okeyo Kennedy Omondi. バイオマスメッシュシートの開発. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
16. 保嶋智也, 堀武志. ヒト胎盤バリアモデルの開発とトランスポーターの解析. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
17. 末吉達也, 堀武志. フェノバルビタール誘導性肝発癌の分子メカニズムの解明. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
18. 堀武志, 水田太郎, 石原甲平. マイクロメッシュ培養デバイスの研究開発. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
19. 梨本 裕司, 今野杏, 西川香里, 伊野浩介, 堀武志, 梶弘和, 新宅博文, 後藤昌史. マイクロ流体デバイスを用いた単一膵島の血管形成能力の評価. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
20. 土屋香碧, 梨本裕司, 堀武志, 吉田 昭太, 高橋和樹, 渡部徹郎, 梶弘和. 内皮間葉移行 on-a-chip のための形態 · 分子生物学的パラメータの解析. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
21. 許家誠, 堀武志, 梨本裕司, 吉田昭太郎. 生体模倣デバイスのためのマイクロメッシュシー トの開発. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
22. 緑川凜, 野口幸希, 西村友宏, 登美斉俊, 堀武志, 梶弘和. 胎盤バリアモデルを用いた propionic acid 胎盤輸送機構の解明. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
23. 堀武志, 梶弘和, 柴田峻, 有馬隆博. 胎盤幹細胞の創薬研究への応用. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
24. 梨本 裕司, 宍戸昌太郎, 堀武志, 伊野浩介, 小沼邦重, 梶弘和, 井上正宏, 珠玖仁. 電気化学計測に基づくがんオルガノイドの非侵襲的な増殖能の識別. 東京医科歯科大学 2023 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 2024.03.08
25. 堀 武志, 岡江寛明, 柴田 峻, 小林記緒, 小林枝里, 大池 輝, 濱田裕貴, 清水孝規, 遠藤 俊, 梨本裕司, 有馬隆博, 梶 弘和. ヒト胎盤関門モデルの作製. AMED-CREST, 早期ライフ領域 令和 5 年度 領域会議 2024.01.11 品川

[Works]

1. 東京医科歯科大学 診断治療システム医工学分野 Research Activities, PR 動画, 2024 年 03 月

[受賞]

1. 2023 年度 生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 ポスターアワード, 東京医科歯科大学 · 東京工業大学 · 広島大学 · 静岡大学, 2024 年 03 月
2. 2023 年度 生体医歯工学共同研究拠点成果報告会 ポスターアワード, 東京医科歯科大学 · 東京工業大学 · 広島大学 · 静岡大学, 2024 年 03 月
3. 優秀発表賞, 化学とマイクロ · ナノシステム学会 第 49 回研究会（CHEMINAS 49）, 2024 年 06 月
4. 第 37 回 独創性を拓く 先端技術大賞 (社会人部門 特別賞), 産経新聞社, 2024 年 06 月
5. 第 8 回バイオインダストリー奨励賞, 一般財団法人バイオインダストリー協会, 2024 年 07 月

[その他業績]

1. 「生体内の胎盤を模倣したヒト胎盤オルガノイドの作製に成功」 — 胎児に安全な創薬への利用に期待 —, 2024 年 02 月
   Nature Communications
2. 「生体内の胎盤を模倣したヒト胎盤オルガノイドの作製に成功」 — 胎児に安全な創薬への利用に期待 —, 2024 年 02 月
   Nature Communications
3. Breaking through barriers, 2024 年 02 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
4. Breaking through barriers, 2024 年 02 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
5. ヒト胚着床現象を高度に模倣することに世界で初めて成功 着床機序の解明や不妊治療法の開発に期待, 2024 年 02 月
   -

[社会貢献活動]

1. Breaking through barriers, 2024 年 02 月 08 日
2. Breaking through barriers, Bioengineer.org, Bioengineer.org, 2024 年 02 月 08 日
3. Guardians of the Womb: The Trophoblast Organoids Reinventing Fetal Safety, SciTechDaily, 2024 年 02 月 08 日
4. Researchers develop model to assess biology of human placental barrier, MDLinx, 2024 年 02 月 08 日
5. The Trophoblast Organoids Reinventing Fetal Safety, Today Headline, 2024 年 02 月 08 日
6. プレスリリース： 生体内の胎盤を模倣したヒト胎盤オルガノイドの作製に成功, 東京医科歯科大学, 2024 年 02 月 08 日
7. Novel In Vitro Model For Human Placental Barrier, Medical News Observer, 2024 年 02 月 09 日
8. Revolutionary Organoid Model of Human Placental Barrier Developed by Tokyo Medical and Dental University, BNN, 2024 年 02 月 09 日
9. 東京医科歯科大などが胎盤オルガノイドを開発、副作用の少ない胎児向け新薬開発などに期待, TECH+ (マイナビニュース), 2024 年 02 月 13 日
10. ヒト胎盤オルガノイド開発に成功、母体／胎児間物質移動の評価が可能—東京医歯大ほか, QLifePro > 医療ニュース, 2024 年 02 月 15 日
11. 「着床」再現、詳細観察 疑似胚盤胞と子宮内膜モデルで 不妊治療改善に期待 · 東北大など, 時事通信社, 2024 年 02 月 24 日
12. プレスリリース：ヒト胚着床現象を高度に模倣することに世界で初めて成功, 東北大学 · 東京医科歯科大学, 2024 年 02 月 24 日
13. 東京医科歯科大 · 堀助教、胎盤を模倣した MPS を作製し薬効評価に応用へ, 日経バイオテク, 2024 年 03 月 29 日
14. TMDU successfully generate trophoblast organoids in vitro: Assessments of bacterial and drug influences on fetuses and safe drug discovery are expected, Science Japan by JST (Japan Science and Technology Agency), 2024 年 04 月 09 日
15. 第 8 回「バイオインダストリー奨励賞」受賞者決定, 一般財団法人バイオインダストリー協会, News Release, 2024 年 07 月 12 日
16. 東京医科歯科大学ニュース：堀武志講師が第 37 回先端技術大賞 特別賞を受賞, 2024 年 07 月 29 日

統合分子疾患科学講座

分子細胞生物学

Molecular Cell Biology

教授　澁谷浩司
准教授　後藤利保
助教　清水幹容

(1) 研究活動

研究内容
WNK1 は腎臓において、下流のシグナル分子 SPAK/OSR1 を介してイオン濃度を調節する役割を担っている。WNK1 遺伝子の変異により、この経路が過剰に活性化し、排出すべきイオンが再吸収されることで、偽性低アルドステロン症Ⅱ型（PHA Ⅱ）と呼ばれる遺伝性高血圧症を引き起こすことが知られている。
興味深いことに、一部のがんでは WNK1 の発現が転移や再発、生存率の低下と相関するが、その分子機構の詳細は未解明である。一方、WNK1 遺伝子には神経特異的なアイソフォームである WNK1/HSN2 が存在し、その変異は遺伝性感覚自律ニューロパチーⅡ型（HSAN Ⅱ）と呼ばれる神経障害を引き起こす。これまで、HSAN Ⅱ患者から多くの WNK1/HSN2 変異体が報告されているが、その機能異常や発症メカニズムは未だ明らかにされていない。本研究では、WNK1 の多岐にわたる生物学的機能の解明を目的としている。

研究紹介
HSAN Ⅱは、痛覚、温度覚、触覚の喪失を特徴とする遺伝性神経障害であり、多くの患者が手足の関節変形を伴う。また、感覚の喪失により傷の痛みを感じることができず、適切な治療が遅れることで潰瘍を発症することもある。本疾患は、神経特異的に発現する WNK1/HSN2 遺伝子の変異が原因とされているが、多数の WNK1/HSN2 変異体が報告されているにもかかわらず、その機能不全の詳細は不明である。
HSAN Ⅱの発症機構を明らかにし、治療法の確立を目指すため、患者由来 WNK1/HSN2 変異体の機能解析が急務である。本研究では、患者から報告されている WNK1/HSN2 変異体について、生化学的機能および神経分化への影響を解析した。

1. WNK1/HSN2 変異体は WNK1 シグナル伝達経路を抑制する
現在、HSAN Ⅱ患者で報告されている WNK1/HSN2 変異は約 20 種類存在し、大部分が C 末端を欠失した deletion mutant である。WNK1 は C 末端ドメインを介してホモ二量体を形成し、自己リン酸化によって活性化することが知られている。
本研究では、免疫沈降法を用いて WNK1/HSN2 変異体の結合能を調べた結果、正常な WNK1 や WNK1/HSN2、および下流因子 SPAK/OSR1 との結合が阻害されることが明らかになった。また、Neuro2A 細胞に WNK1/HSN2 変異体を発現させたところ、NGF 刺激による SPAK/OSR1 のリン酸化レベルが低下していた。これらの結果から、WNK1/HSN2 変異体は WNK1 シグナル伝達経路を不活化することが示唆された。

2. WNK1/HSN2 変異体は神経突起の伸長および神経分化を抑制する
先行研究により、WNK1 が神経分化を促進することが示されている（Sato A et al., PLoS One, 2013）。Neuro2A 細胞に WNK1 または WNK1/HSN2 を発現させたところ、NGF 刺激による神経突起の伸長およびコリン作動性神経分化マーカー（Lhx8、ChAT など）の発現が促進された。一方、WNK1/HSN2 変異体を発現させると、これらの現象が抑制された。
さらに、マウス胎児由来の脳皮質ニューロンを用いた解析でも同様の結果が得られた。これにより、WNK1 および WNK1/HSN2 は神経分化を促進する一方で、WNK1/HSN2 変異体はその過程を阻害することが明らかとなった。

3. WNK1/HSN2 変異体は GSK3 β と強固に結合し、神経分化を阻害するドミナントネガティブ変異体として機能する
先行研究により、GSK3 β が WNK1 とともに神経分化を促進することが報告されている（PLoS One, 2018）。本

研究では、GSK3 β と WNK1/HSN2 変異体の結合を解析した。
その結果、WNK1 および WNK1/HSN2 は GSK3 β と結合するが、WNK1/HSN2 変異体はより強固に GSK3 β と結合し、正常な WNK1 や WNK1/HSN2 との結合を競合的に阻害することが示唆された。また、Neuro2A 細胞およびマウス胎児由来脳皮質ニューロンにおいて、GSK3 β による神経突起の伸長および神経分化マーカーの発現が WNK1/HSN2 変異体の発現により抑制された。

これらの結果から、WNK1/HSN2 変異体は GSK3 β と優先的に結合し、神経分化促進機能を阻害するドミナントネガティブ変異体として機能することが明らかとなった。

結論
本研究により、HSAN Ⅱを引き起こす WNK1/HSN2 変異体が神経分化を阻害する生化学的機構を解明した。これにより、HSAN Ⅱの発症メカニズムの理解が進み、新たな治療法の開発につながることが期待される。

(2) 教育方針

細胞内シグナル伝達の分子機構に基づいた先端的基礎医学研究を自立して遂行できる研究者の育成を目的とし、大学院生は分野構成員との技術指導や討議を重ねた上で、独立した研究テーマに取り組み、研究を推進していく。その過程で、分野内外の研究者との議論を継続的に行うことで、幅広い研究視野を養うことを重視している。これを実現するため、分野に所属する研究者は、定期的に開催される論文抄読会や研究報告会において発表と討論を行う機会を設け、研究者としての成長を促している。

(3) 研究業績

先端ナノ医工学分野

Department of Advanced Nanomedical Engineering

教授　　内田　智士
講師　　持田　祐希

(1) 分野概要

メッセンジャー RNA (mRNA) 医薬は、新型コロナウイルスワクチンを超えて、他の感染症の予防ワクチン、がん免疫治療、遺伝性疾患治療、再生医療、ゲノム編集治療といった様々な医療応用において期待されている。このような応用では、標的組織、細胞に対して、安全かつ効率的に mRNA を送達するためのナノサイズの薬物送達システム (ナノ Drug Delivery System, ナノ DDS) が重要となる。当研究分野では、ナノ DDS 開発から、その疾患治療応用、社会実装まで、幅広く研究を進めている。

(2) 研究活動

1．ナノ DDS 開発
独自に開発している高分子ナノ DDS は、汎用されている脂質性ナノ DDS と異なり、生体に対して炎症反応を惹起することなく安全に mRNA を送達することが出来る。一方で、生体内への応用では、酵素分解の抑制や、標的組織への特異的な送達など様々な機能が必要となる。そのために、高分子設計のほか、mRNA を独自の手法で修飾する mRNA 工学を基盤として、新規ナノ DDS を開発している。
2．mRNA ワクチン · 医薬品の応用
感染症予防ワクチン、がんワクチン、ワクチン以外の mRNA の医薬品としての応用に取り組んでいる。感染症 mRNA ワクチンは、mRNA を搭載している脂質性ナノ粒子に起因する強い副反応が課題である。そこで、脂質性ナノ粒子を用いない mRNA 単体からなるワクチンを開発している。がんワクチンでは、効果の向上が課題であるが、独自の mRNA 工学を用いて、アジュバント機能の向上や、免疫組織選択的な mRNA 送達に取り組んでいる。ワクチン以外の分野では、遺伝性疾患治療、ゲノム編集治療、抗体治療への応用に取り組んでいる。

(3) 教育方針

新型コロナウイルスに対する mRNA ワクチンの成功は、医工学融合の賜物であった。本研究室では、このような医工学融合研究を学び、実践することが目標である。その中で、主体的に研究に取り組むことを重視している。

(4) 研究業績

[原著]

1. Yukine Ishibashi, Mitsuru Naito, Yusuke Watanuki, Mao Hori, Satomi Ogura, Kaori Taniwaki, Masaru Cho, Ryosuke Komiya, Yuki Mochida, Kanjiro Miyata. Size-Dependent Glioblastoma Targeting by Polymeric Nanoruler with Prolonged Blood Circulation. Bioconjug Chem. 2024.08; 35(8); 1154-1159

2. Joachim F R Van Guyse, Saed Abbasi, Kazuko Toh, Zlata Nagorna, Junjie Li, Anjaneyulu Dirisala, Sabina Quader, Satoshi Uchida, Kazunori Kataoka. Facile Generation of Heterotelechelic Poly(2-Oxazoline)s Towards Accelerated Exploration of Poly(2-Oxazoline)-Based Nanomedicine. Angewandte Chemie International Edition . 2024.07; 63(27); e202404972

3. Saed Abbasi, Miki Matsui-Masai, Fumihiko Yasui, Akimasa Hayashi, Theofilus A Tockary, Yuki Mochida, Shiro Akinaga, Michinori Kohara, Kazunori Kataoka, Satoshi Uchida. Carrier-free mRNA vaccine induces robust immunity against SARS-CoV-2 in mice and non-human primates without systemic reactogenicity. Molecular Therapy. 2024.05; 32(5); 1266-1283

4. Pengwen Chen, Wenqian Yang, Yuki Mochida, Shangwei Li, Taehun Hong, Hiroaki Kinoh, Kazunori Kataoka, Horacio Cabral. Selective Intracellular Delivery of Antibodies in Cancer Cells with Nanocarriers Sensing Endo/Lysosomal Enzymatic Activity. Angewandte Chemie International Edition. 2024.04; 63(14); e202317817

5. Miki Suzuki, Yuki Mochida, Mao Hori, Akimasa Hayashi, Kazuko Toh, Theofilus A. Tockary, Xueying Liu, Victor Marx, Hidetomo Yokoo, Kanjiro Miyata, Makoto Oba, Satoshi Uchida. Poly(ethylene Glycol) (PEG)–OligoRNA Hybridization to mRNA Enables Fine‐Tuned Polyplex PEGylation for Spleen‐Targeted mRNA Delivery Small Science. 2024.02;

6. Lucas Mixich, Eger Boonstra, Keita Masuda, Shang-Wei Li, Yuki Nakashima, Fanlu Meng, Momoko Sakata, Tatsuro Goda, Satoshi Uchida, Horacio Cabral. Ionizable Polymeric Micelles with Phenylalanine Moieties Enhance Intracellular Delivery of Self-Replicating RNA for Long-Lasting Protein Expression In Vivo. Biomacromolecules. 2024.02; 25(2); 1058-1067

7. Hidetomo Yokoo, Anjaneyulu Dirisala, Satoshi Uchida, Makoto Oba. Oligosarcosine Conjugation of Arginine-Rich Peptides Improves the Intracellular Delivery of Peptide/pDNA Complexes. ACS Biomaterials Science & Engineering. 2024.02; 10(2); 890-896

8. Yum J, Aulia F, Kamiya K, Hori M, Qiao N, Kim BS, Naito M, Ogura S, Nagata T, Yokota T, Uchida S, Obika S, Kim HJ, Miyata K. Hydrophobicity Tuning of Cationic Polyaspartamide Derivatives for Enhanced Antisense Oligonucleotide Delivery. Bioconjugate chemistry. 2024.01; 35(2); 125-131

[書籍等出版物]

1. Ze Song, Muhammad Shafiq, Ruizhi Tian, Satoshi Uchida, Hangrong Chen, Ming Ma, Microfluidic Production of Inorganic Nanoparticles. Microfluidics in Pharmaceutical Sciences: Formulation, Drug Delivery, Screening, and Diagnostics. Springer Nature, 2024.06

1. 持田祐希，内田智士. 医薬品モダリティにおける創薬技術開発と展望. 情報機構，2024.06（ISBN：9784865022711）

[総説]

1. Fangqiao Zheng, Ruizhi Tian, Hongxu Lu, Xiao Liang, Muhammad Shafiq, Satoshi Uchida, Hangrong Chen, Ming Ma. Droplet Microfluidics Powered Hydrogel Microparticles for Stem Cell-Mediated Biomedical Applications. Small. 2024.06; e2401400

2. Yuki Mochida, Satoshi Uchida. mRNA vaccine designs for optimal adjuvanticity and delivery. RNA Biology. 2024.01; 21(1); 1-27

[講演・口頭発表等]

1. 内田智士. mRNA 単体からなる感染症予防ワクチンの開発. 第 19 回ナノ・バイオメディカル学会 2024.09.06

2. Satoshi Uchida. Cutaneous jet injection of naked mRNA for safe and effective vaccination against infectious diseases. World Vaccine Congress Washington 2024 2024.04.04

3. Yuki Mochida. PEGylation of Therapeutic Antibodies and Nucleic Acids for Improving their In Vivo Performance. Translational Cancer Research and Precision Oncology 2024.02.28 University of Cyprus

1. 持田祐希. 精密ドラッグデリバリーが切り拓く難治がん治療. CANCER IMMUNOTHERAPY FOR BRAIN TUMOR IN NARA 2024.08.02 奈良県立医科大学

2. 持田祐希, 鈴木美紀, Marx Victor, 堀真緒, 林玲匡, 藤加珠子, Tockary A Theofilus, 宮田完二郎, 大庭誠, 内田智士. mRNA の精密 PEG 修飾による脾臓ターゲティング. 日本核酸医薬学会第 9 回年会 2024.07.15 仙台国際センター

3. 内田智士. 新型コロナウイルスワクチンの先にある mRNA ワクチン、医薬品の未来. ジェンスクリプトジャパンセミナー 2024.06.27
4. 内田智士. mRNA 工学を基盤とした mRNA 送達システムの開発とワクチンへの展開. 徳島大学大学院医歯薬学研究部 DDS センター 2024 年第 1 回シンポジウム 2024.06.04
5. 持田祐希. 悪性脳腫瘍に有効な免疫チェックポイント阻害薬の開発と mRNA ワクチンの脾臓デリバリー. iCONM/CHANGE 学術セミナー 2024.05.29 オンライン
6. 持田祐希. スマート PEG 化抗体による悪性脳腫瘍の免疫療法. 第 2 回生命理工-難研シンポジウム 2024.04.11 東京医科歯科大学湯島キャンパス
7. 持田祐希. 難治がん治療に向けた抗体ポリマー複合体の開発. 日本薬学会第 144 年会 2024.03.30 パシフィコ横浜
8. 内田智士. 新型コロナウイルスワクチンの先にある mRNA ワクチン、医薬品の未来. 第 5 期バイオインベストメントギルド第 7 回セミナー 2024.03.08

[Works]

1. エメラルド, その他, 2007 年 09 月 - 現在

[受賞]

1. 若手研究奨励賞, 日本がん免疫学会, 2024 年 07 月
2. 第 19 回ナノ・バイオメディカル学会大会　学会賞, ナノ・バイオメディカル学会, 2024 年 09 月

[その他業績]

1. 「　脾臓に mRNA を送り届け、ワクチンへ応用　」 —　核酸工学を応用した mRNA 送達システムの開発　—, 2024 年 03 月
   Small Science
2. 「　脾臓に mRNA を送り届け、ワクチンへ応用　」 —　核酸工学を応用した mRNA 送達システムの開発　—, 2024 年 03 月
   Small Science
3. 「裸の mRNA」からなる安全な新型コロナウイルスワクチンの開発に成功 〜ナノ粒子製剤化していない「裸の mRNA」が全身性の副作用を伴わず強力な免疫を誘導できることを世界で初めて実証〜, 2024 年 03 月
   -
4. A new coating method in mRNA engineering points the way to advanced therapies, 2024 年 04 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
5. A new coating method in mRNA engineering points the way to advanced therapies, 2024 年 04 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. mRNA の脾臓送達システム開発 より効果的なワクチンへの実用化に期待 東京医科歯科大学の研究グループ, 医薬通信社, 2024 年 03 月 06 日
2. 「超高齢社会」に関するワークショップ, ナノ医療イノベーションセンター, 「超高齢社会」に関するワークショップ, 川崎市立川崎総合科学高等学校, 2024 年 03 月 07 日
3. プレスリリース “「裸のｍＲＮＡ」からなる安全な新型コロナウイルスワクチンの開発に成功” について, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 2024 年 04 月 01 日 - 2024 年 04 月 03 日
4. ワクチン開発について, NHK, NHK 各ニュース, 2024 年 04 月 10 日 - 現在
5. m RNA ワクチン, NHK, あさイチ, 2024 年 04 月 12 日 - 2024 年 07 月 01 日

分子構造情報学分野

Department of Structural Biology

教　授　　伊藤　暢聡
准教授　　花園　祐矢
助　教　　菊地　正樹

(1) 分野概要

ゲノム配列の決定やプロテオミクスの進歩により、多くのタンパク質の一次配列やその経時的な機能が解明されてきているが、タンパク質はある特定の立体構造をとることにより初めてその機能を発揮する。いわゆるプリオン病が示すように、タンパク質の化学的組成が同じでも、その立体構造が正しくなければ活性を示さないだけでなく疾病と関連することもある。
本分野では、タンパク質を中心に生体高分子の立体構造やそれに関連した物理化学的な性質を研究することを目的としている。また、合理的薬物設計を目指し、タンパク質と低分子化合物の複合体の構造も数多く決定している。X 線結晶解析による立体構造の解析を中心に、分子生物学的手法やコンピュータシミュレーション等も利用してタンパク質の機能発現機構の研究も行っている。一方、数々の生体高分子の立体構造情報 (原子座標) が蓄積されつつあり、これと情報科学を結ぶデータベースの構築にも寄与している。こうした研究がこれらのタンパク質を標的とした創薬に結びつくことを目標としている。

(2) 研究活動

当分野では、主に構造生物学の観点から、学内外の研究グループと共同で以下のような研究を展開している。

1. B 細胞共受容体の構造生物学的基盤
2. T 細胞の活性化におけるシグナル伝達機構
3. 核内受容体とリガンド分子間相互作用の分子機構
4. 細胞内シグナル伝達の制御に関わる PDZ ドメイン阻害剤の合理的設計
5. ヌクレオソームアセチル化の分子機構
6. HIV-1 複製抑制機構の分子基盤
7. リン酸化酵素を標的とした合理的薬物設計
8. 超高分解能構造による水素原子を含めた解析
9. 蛋白質立体構造データベースの改善

(3) 教育活動

担当科目：
　分子構造学特論、分子構造情報学、プロジェクトセメスター

(4) 教育方針

教育方針：
分子構造学特論
生体高分子の立体構造を探求する構造生物学は、近年めざましい発展を遂げ、膨大な構造情報が蓄積 · 公開されており、また新規の構造も次々と報告されている。本講義は、構造生物学を専門としない学生が、こうした貴重な

成果を理解し、利用できるようにするためのものである。

分子構造情報学
X 線結晶解析を中心に生体高分子の立体構造解析の原理を学ぶ。構造生物学の最新の研究や立体構造情報の創薬への応用などについて、文献研究を通して学ぶ。実際の蛋白質を対象に、試料の大量調製や結晶などを学び、構造決定法やその精密化などの計算的手法も習得する。さらに、得られた構造データの応用方法などについても学ぶ。プロジェクトセメスターについても、同様の方針のもと研究活動の指導を行う。

(5) 研究業績

[原著]

1. Imai D, Numoto N, Tokiwa H, Kakuta H, Ito N. Structural basis for the full and partial agonist activities of retinoid X receptor α ligands with an iso-butoxy and an isopropyl group. Biochemical and biophysical research communications. 2024.08; 734; 150617

2. Yoshida M, Hanazono Y, Numoto N, Nagao S, Yabuno S, Kitagawa Y, Sekiguchi H, Ito N, Azuma T, Oda M. Affinity-matured antibody with a disulfide bond in H-CDR3 loop. Archives of biochemistry and biophysics. 2024.06; 758; 110068

3. Akatsu C, Tsuneshige T, Numoto N, Long W, Uchiumi T, Kaneko Y, Asano M, Ito N, Tsubata T. CD72 is an inhibitory pattern recognition receptor that recognizes ribosomes and suppresses production of anti-ribosome autoantibody. Journal of autoimmunity. 2024.05; 146; 103245

4. Omori S, Hanazono Y, Nishi H, Kinoshita K. The role of the STAS domain in SLC26A9 for chloride ion transporter function. Biophysical journal. 2024.05; 123(12); 1751-1762

5. Yuki S Tateishi, Tamasa Araki, Satoru Kawai, Shuhei Koide, Yuko Umeki, Takashi Imai, Yumiko Saito-Nakano, Masaki Kikuchi, Atsushi Iwama, Hajime Hisaeda, Cevayir Coban, Takeshi Annoura. Histone H3.3 variant plays a critical role on zygote-to-oocyst development in malaria parasites. Parasitology International. 2024.01;

[講演 · 口頭発表等]

1. Yuya Hanazono. Structural analysis of amide protons using high-resolution neutron crystallography. Japan-Taiwan Bilateral Seminar on Crystallography: “Frontier of Crystallography” 2024.11.07

2. Hansaka N. Thilakarathne N. M., Takashi Misawa, Yosuke Demizu, Yuya Hanazono, Nobutoshi Ito, Hiroyuki Kagechika, Shinya Fujii. Structure-activity relationship (SAR) study of non-secosteroidal diphenyl-carborane based VDR ligands. 4th Switzerland-Japan Biomolecular Chemistry Symposium (SJBCS2024) 2024.11.07

3. Hansaka N. Thilakarathne N. M., Takashi Misawa, Yosuke Demizu, Yuya Hanazono, Nobutoshi Ito, Hiroyuki Kagechika, Shinya Fujii. Structure-activity relationship (SAR) study of hydrophobic moiety of nonsecosteroidal VDR ligands using diphenylsilane scaffold. 21st IUPAB Congress 2024 2024.06.25

1. 由田睦, 花園祐矢, 伊藤暢聡, 東隆親, 織田昌幸. 親和性成熟過程にある抗体の結晶構造と熱力学解析から見える抗原認識の変化. 第 3 回日本抗体学会学術大会 2024.12.10

2. 藪野沙彩, 花園祐矢, 伊藤暢聡, 東隆親, 織田昌幸. 抗ニトロフェニル抗体の親和性成熟に伴うトレードオフの要因解析. 第 3 回日本抗体学会学術大会 2024.12.10

3. 菊地　正樹. アセチル化酵素 p300/CBP によるヌクレオソームアセチル化の構造基盤. 第 27 回バイオインタラクション研究会 2024.12.09

4. 安藤夏乃, 天野剛志, 濱嶋竜生, 高木春樺, 花園祐矢, 沼本修孝, 鈴木 陽一, 伊藤暢聡, 廣明秀一. 抗コロナウイルス薬の開発を志向した二価性 PDZ ドメイン阻害剤の設計. 第 47 回日本分子生物学会 2024.11.29

5. 花園祐矢. 高分解能中性子結晶構造解析によるペプチド結合多様性の解明. 令和 6 年度 日本結晶学会年会 2024.11.10

6. 安藤夏乃, 天野剛志, 濱嶋竜生, 高木春樺, 花園祐矢, 沼本修孝, 伊藤暢聡, 廣明秀一. 抗コロナウイルス薬の開発を志向した PDZ ドメイン阻害剤の探索. 第 24 回日本蛋白質科学会年会 2024.06.12
7. Hansaka N. Thilakarathne N. M., Takashi Misawa, Yosuke Demizu, Yuya Hanazono, Nobutoshi Ito, Hiroyuki Kagechika, Shinya Fujii. Structure-activity relationship (SAR) study of hydrophobic moiety of nonsecosteroidal VDR ligands using diphenylsilane scaffold. 第 24 回日本蛋白質科学会年会 2024.06.11
8. Purnima Liyanage, Nobutaka Numoto, Yuya Hanazono, Takeshi Tsubata, Nobutoshi Ito. Crystal structure of B lymphocyte associated co-receptor human CD72-CTLD. 第 24 回日本蛋白質科学会年会 2024.06.11
9. Thilakarathne N.M. Hansaka N., 影近 弘之, 藤井 晋也, 花園 祐矢, 伊藤 暢聡, 三澤 隆史, 出水 庸介. ジフェニルシラン構造を基盤とした VDR リガンドの疎水性部位の構造展開と結合様式の解析. 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書 2024.04.01
10. Hansaka N. Thilakarathne N. M., Takashi Misawa, Yosuke Demizu, Yuya Hanazono, Nobutoshi Ito, Hiroyuki Kagechika, Shinya Fujii. Structure-activity relationship (SAR) study of hydrophobic moiety of nonsecosteroidal VDR ligands using diphenylsilane scaffold. 日本薬学会第 144 回年会 2024.03.29
11. 花園祐矢, 平野優, 竹田一旗, 日下勝弘, 玉田太郎, 三木邦夫. ペプチド結合の非平面性の解明：高分解能中性子結晶構造解析による新視点. 2023 年度量子ビームサイエンスフェスタ 2024.03.06 水戸

[受賞]

1. 進歩賞, 日本結晶学会, 2024 年 11 月

機能分子病態学分野

Department of Biomolecular Pathogenesis

教授	松田　憲之
准教授	山野　晃史
助教	小松谷（小谷野）　史香
ポスドク	小島　和華
ポスドク	渡辺　藍子
技術補佐員	山岸（菊池）麗香

＜博士課程＞
荻原　禅

＜修士課程＞
遠藤　龍
澤田　百葉
保科　智之
杵渕　宏紀

＜学部生＞
兼松　快

＜短期交流学生＞
齋藤　未怜
鈴木　成

秘書　平野　尚子

(1) 分野概要

本分野は 2022 年に発足した、比較的新しい分野である。細胞内には様々な機能分子やオルガネラが存在するが、多くはその機能を果たす過程でダメージを受けて、細胞内に蓄積してゆく。正常な細胞機能を維持するためには、このような“損傷を受けた機能分子や損傷オルガネラ”を選択的に除去することが重要である。一方で、生存に必須な機能分子やオルガネラを分解することは極めて危険な行為であり、このプロセスを有益なものにするためには、分解対象を正しく認識 · 識別し、厳密な制御下で分解に導く必要がある。近年、このプロセスの実行因子に関する理解が進むとともに、ヒト疾患との関連性（病態生理学的な意義）が明らかとなってきている。我々はユビキチンとオートファジーに着目しながら、“損傷を受けたタンパク質とオルガネラが細胞内で特異的に識別 · 分解されるメカニズム”と、“そのプロセスの破綻が神経変性疾患を引き起こすメカニズム”の２つを分野のメインテーマに据えて、研究解析を進めている。

(2) 研究活動

当分野の主な研究テーマは以下の通りである
1. 遺伝性潜性パーキンソン病の原因遺伝子 PINK1 と Parkin が連携して損傷ミトコンドリア表面のタンパク質にユビキチンを付加する仕組みの解明

2. ユビキチン化された損傷ミトコンドリアが選択的なオートファジー分解（マイトファジー）に導かれる仕組みと、それが遺伝性パーキンソン病の発症抑制に果たす役割の解明
3. アミノ基の翻訳後修飾に着目した、遺伝性潜性パーキンソン病の原因遺伝子 DJ-1 の分子機能の解析
4. 新たに見出したオートファジー関連因子：BCAS3- C16orf70 複合体の機能喪失がヒト遺伝性神経疾患を引き起こすメカニズムの理解
5. 損傷ミトコンドリア以外のオルガネラ（例えばペルオキシソーム）がオートファジー分解に導かれる仕組みの解明
6. 損傷オルガネラの選択的分解における膜輸送に関わる新規因子の同定と解析

(3) 教育活動

担当科目は以下の通り：医学科歯学科の学部生教育の主題別選択 Ⅰ · Ⅱ (Elective Subjects Ⅰ · Ⅱ)、生命科学と技術 (Life science and technology)、医歯学総合研究科の大学院教育の生化学 (Biochemistry)、生命理工学概論 (Introduction to Biomedical Sciences and Engineering)、および疾患生命科学特論 (Biomedical Science)。これら講義（分担）を担当している。また、分野における短期交流学生 · 学部生 · 修士課程学生の研究指導を行なっている。

(4) 教育方針

当分野では、「細胞内で損傷を受けた機能分子や損傷オルガネラが選択的に認識された後に分解されるメカニズム」を細胞生物学、生化学、分子生物学、発生工学などの幅広い研究手法を駆使して理解することを目標としている。さらに、その病態生理学的な意義を明らかにすることで、遺伝性パーキンソン病を含むいくつかの神経変性疾患の発症機構の解明を目指す。
このような理念のもと、短期交流学生 · 医学科の学部生 · 医歯理工保健学専攻の修士課程大学院生 · 生命理工医療科学専攻の博士課程の大学院生、の研究指導を行なっており、各自が「批判的に論文を読み込みながら自ら工夫して先端的な研究を行う能力」を身につけることを目指す。

(5) 研究業績

[原著]

1. Koyano F, Yamano K, Hoshina T, Kosako H, Fujiki Y, Tanaka K, Matsuda N. AAA+ ATPase chaperone p97/VCP(FAF2) governs basal pexophagy. Nature communications. 2024.10; 15(1); 9347

2. Endo R, Kinefuchi H, Sawada M, Kikuchi R, Kojima W, Matsuda N, Yamano K. TBK1 adaptor AZI2/NAP1 regulates NDP52-driven mitochondrial autophagy. The Journal of biological chemistry. 2024.09; 300(10); 107775

3. Aiko Watanabe, Fumika Koyano, Kenichiro Imai, Yohei Hizukuri, Shizuka Ogiwara, Tomoya Ito, Jun Miyamoto, Chihiro Shibuya, Mayumi Kimura, Kazuya Toriumi, Chie Motono, Makoto Arai, Keiji Tanaka, Yoshinori Akiyama, Koji Yamano, Noriyuki Matsuda. The origin of esterase activity of Parkinson's disease causative factor DJ-1 implied by evolutionary trace analysis of its prokaryotic homolog HchA. J Biol Chem. 2024.06; 300(7); 107476

4. Kawasaki I, Sugiura K, Sasaki T, Matsuda N, Sato M, Sato K. MARC-3, a membrane-associated ubiquitin ligase, is required for fast polyspermy block in Caenorhabditis elegans. Nature communications. 2024.01; 15(1); 792

5. Yamano K, Sawada M, Kikuchi R, Nagataki K, Kojima W, Endo R, Kinefuchi H, Sugihara A, Fujino T, Watanabe A, Tanaka K, Hayashi G, Murakami H, Matsuda N. Optineurin provides a mitophagy contact site for TBK1 activation. The EMBO journal. 2024.01; 43(5); 754-779

6. Cui M, Yamano K, Yamamoto K, Yamamoto-Imoto H, Minami S, Yamamoto T, Matsui S, Kaminishi T, Shima T, Ogura M, Tsuchiya M, Nishino K, Layden BT, Kato H, Ogawa H, Oki S, Okada Y, Isaka Y, Kosako H, Matsuda N, Yoshimori T, Nakamura S. HKDC1, a target of TFEB, is essential to maintain both mitochondrial and lysosomal homeostasis, preventing cellular senescence. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2024.01; 121(2); e2306454120

1. 松田 憲之. パーキンソン病を抑制する PINK1/Parkin 依存性マイトファジーの分子メカニズム ブレインサイエンス · レビュー. 2024.04; 2024; 15-37

[総説]

1. Yamano K, Kinefuchi H, Kojima W. Mitochondrial lipid dynamics regulated by MITOL-mediated ubiquitination. Journal of biochemistry. 2024.03; 175(3); 217-219

[講演 · 口頭発表等]

1. Noriyuki Matsuda. Molecular mechanisms of mitophagy underlying Parkinson's disease pathogenesis. The 19th international symposium of the institute network for biomedical science in Sendai 2024.10.11 Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University

2. Koji Yamano. Functional analysis of a folding chaperone for RAB GTPase to regulate their protein lifetime. 第 76 回日本細胞生物学会大会 2024.07.17

3. Waka Kojima, Noriyuki Matsuda, Koji Yamano. Functional analysis od BCAS3-C16orf70 complex. The 5th Sino-Japan Symposium on Autophagy 2024.06.19 Youngang Jianguo Hotel (雲岡賓館)

4. Koji Yamano. PINK1-Parkin-driven mitophagy molecular mechanisms and as a tool . The 5th Sino-Japan Symposium on Autophagy 2024.06.18

5. Noriyuki Matsuda. Molecular mechanisms of mitochondrial quality control and mitophagy underlying PD pathogenesis. 65th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology and 19th Asian Oceanian Congress of Neurology （AOCN2024） 2024.05.30 Tokyo International Forum

1. 遠藤龍、福田光則、松田憲之、山野晃史. RAB タンパク質の品質管理における RABIF/MSS4 の機能解析. 第 47 回　日本分子生物学会年会 2024.11.27 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

2. 荻原 禅、小迫 英尊、渡辺 藍子、小谷野 史香、山野 晃史、松田 憲之. パーキンソン病関連因子 DJ-1 は cPGA を解毒して細胞保護的に機能する. 第 47 回　日本分子生物学会年会 2024.11.27 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

3. 杵渕宏紀、Meng-Chieh Hsu、Richard J. Youle、松田憲之、山野晃史. 不要なミトコンドリア内膜透過装置の構成因子 TIMM17A は YME1L1 により分解される. 第 47 回　日本分子生物学会年会 2024.11.27 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

4. 松田　憲之、荻原 禅、渡辺　藍子、齋藤　未怜、森脇　由隆、石谷　隆一郎、小迫 英尊. 遺伝性潜性パーキンソン病の原因因子 DJ-1 の分子機能の解明とそのオルガネラ機能に関する考察. 第 47 回　日本分子生物学会年会 2024.11.27 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

5. 小谷野史香、山野晃史、保科智之、小迫英尊、藤木幸夫、田中啓二、松田憲之 . p97/VCP-FAF2 はペルオキシソームの分解を防ぐ. 第 47 回　日本分子生物学会年会 2024.11.27 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

6. 渡辺藍子、齋藤未怜、森脇由隆、石谷隆一郎、松田憲之. パーキンソン病の原因因子 DJ-1 が持つ cPGA 分解酵素活性の分子機構. 第 47 回　日本分子生物学会年会 2024.11.27 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡

7. 小谷野史香、山野晃史、保科智之、小迫英尊、藤木幸夫、田中啓二、松田憲之. p97/VCP-FAF2 によるペルオキシソームの品質管理機構. 第 23 回日本ミトコンドリア学会年会 2024.11.22 順天堂大学

8. 松田憲之. ミトコンドリアと隔離膜のコンタクトサイトにおける TBK1 活性化メカニズム. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.08 パシフィコ横浜ノース

9. 保科 智之, 松田 憲之, 小谷野 史香. Peroxin 遺伝子欠損がペルオキシソーム分解に与える影響の解析. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.08 パシフィコ横浜ノース

10. 佐藤 健, 川崎 一郎, 杉浦 健太, 佐々木 妙子, 須藤 俊一, 松田 憲之, 小迫 英尊, 佐藤 美由紀. 卵—胚性遷移における卵細胞リモデリング機構とその生理機能. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.07 パシフィコ横浜ノース

11. 澤田百葉、遠藤龍、杵渕宏紀、松田憲之、山野晃史. オートファジーアダプターと TBK1 を繋ぐ AZI2 および TBKBP1 による選択的オートファジ ーの制御. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.06 パシフィコ横浜ノース

12. 渡辺藍子、今井賢一郎、檜作洋平、本野千恵、秋山芳展、松田憲之. パーキンソン病の原因因子 DJ-1 の大腸菌ホモログの解析から推察するエステラーゼ活性の起源. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.06 パシフィコ横浜ノース

13. 松田 憲之, 山野 晃史, 保科 智之, 小迫 英尊, 藤木 幸夫, 田中 啓二, 小谷野 史香. p97/VCP と補因子 FAF2/UBXD8 がペルオキシソーム膜タンパク質の品質管理を介してペキソファジーを抑制する. 第 16 回オートファジー研究会 2024.10.16 つま恋リゾート彩の郷

14. 法月拓也, 佐々木妙子, 小島和華, 山野晃史, 松田憲之, 佐藤健, 佐藤美由紀. 線虫父性ミトコンドリア分解における PI3P 結合タンパク質 BCAS3 ホモログの機能解析. 第 16 回オートファジー研究会 2024.10.14 つま恋リゾート彩の郷

15. 小島和華, 松田憲之, 藤田尚信, 山野晃史. ヒト神経疾患に関連した BCAS3-C16orf70 複合体の機能解析. 第 16 回オートファジー研究会 2024.10.14 つま恋リゾート彩の郷

16. 杵渕宏紀、Meng-Chie Hsu, Richard Youle, 松田憲之、山野晃史. YME1L1 によるミトコンドリア内膜の膜透過装置の分解機序. タンパク質寿命が制御するシン · バイオロジー　第 3 回領域会議 2024.09.18 KKR ホテル熱海

17. 遠藤龍、福田光則、松田憲之、山野晃史. RAB タンパク質の品質管理における安定化と分解 · 除去機構の解析. タンパク質寿命が制御するシン · バイオロジー　第 3 回領域会議 2024.09.18 KKR ホテル熱海

18. 小谷野史香、山野晃史、保科智之、小迫英尊、藤木幸夫、田中啓二、松田憲之 . p97/VCP-FAF2 はペルオキシソームの分解を制御する. タンパク質寿命が制御するシン · バイオロジー　第 3 回領域会議 2024.09.18 KKR ホテル熱海

19. 荻原 禅, 小澤 有都菜, 鳥海 和也, 王 恬冉, 松田 憲之, 新井 誠. 終末糖化産物 (AGEs) であるペントシジンの細胞内分解メカニズム. 2024 年度　日本生化学会　関東支部例会 2024.06.15 順天堂大学

[その他業績]

1. 「損傷ミトコンドリアがオートファジーで選択的に分解される作用機序を解明」 —ALS の原因タンパク質がオートファジーの初期膜形成に必須—, 2024 年 02 月
EMBO Journal

2. Even cells know the importance of recycling, 2024 年 03 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

医化学分野

Department of Medical Chemistry

教　授　　瀬川　勝盛
講　師　　宮田　佑吾
助　教　　永田　雅大
外国人特別研究員　Sultan Cheryl Sophia
技術支援員　栗林　梨沙
技術支援員　西本　萌恵
秘　書　　澤田千賀子

(1) 分野概要

医化学分野では、生化学と分子遺伝学を用いて細胞を理解すること、そしてその先にある生命や疾患を理解することを目指します。

(2) 研究活動

哺乳類細胞の細胞膜は非対称に分布するリン脂質二重層で構成される。すなわち、アミノリン脂質であるホスファチジルセリン (PtdSer) やホスファチジルエタノールアミン (PtdEtn) は細胞質側の内層に局在するのに対し、ホスファチジルコリン (PtdCho) やスフィンゴミエリン (SM) は主に外層に分布する。細胞はダイナミックに細胞膜リン脂質の分布を変化させることで、生体の恒常性を維持する。リン脂質を移層させる分子として、３つのタイプの膜脂質移層分子（フリッパーゼ、フロッパーゼ、スクランブラーゼ）が存在する。本研究分野では、細胞のさまざまな膜脂質移層分子を同定し、その生理機能と病態学的意義を明らかにする研究を進めている。

(3) 研究業績

[原著]

1. Miyata Y, Nishimura M, Nagata A, Jing X, Sultan C.S, Kuribayashi R, Takahashi K, Lee Y, Nishizawa T, Segawa K. Membrane structure-responsive lipid scramblase activity of the TMEM63/OSCA family FEBS Letters. 2024.12; doi: 10.1002/1873-3468.15084

2. Miyata Y, Takahashi K, Lee Y, Sultan CS, Kuribayashi R, Takahashi M, Hata K, Bamba T, Izumi Y, Liu K, Uemura T, Nomura N, Iwata S, Nagata S, Nishizawa T, Segawa K. Membrane structure-responsive lipid scrambling by TMEM63B to control plasma membrane lipid distribution Nat Struct Mol Biol. 2024.10; 32(1); 185-198

[総説]

1. Segawa K, Nishizawa T. TMEM63B scrambles phospholipids in response to changes in membrane structure Nat. Struct. Mol. Biol. 2024.10; 32(1); 10-11

1. 宮田 佑吾, 瀬川 勝盛. 細胞膜リン脂質の非対称分布の分子機構と生理機能 細胞. 2024.11; 56(12); 880-884

2. 瀬川 勝盛. 細胞膜リン脂質の非対称と生理作用 細胞. 2024.11; 56(12); 878-879

3. 瀬川勝盛. 細胞膜リン脂質の膜動態制御機構と生理機能 The Lipid. 2024.10; 35(2); 116-122

4. 瀬川 勝盛. 細胞膜リン脂質の非対称性と免疫システム 臨床免疫 · アレルギー科. 2024.08; 82(2); 117-122
5. 瀬川 勝盛. マクロファージによる細胞膜リン脂質の感知機構 医学のあゆみ. 2024.06; 289(12); 921-926

[講演 · 口頭発表等]

1. Katsumori Segawa. Phospholipid asymmetry in the plasma membrane and human diseases. The International Symposium on Microbiology and Immunology The 14th International Symposium of IFReC 2024.11.12 OSAKA

1. 瀬川 勝盛 . 細胞膜リン脂質の非対称分布の細胞膜リン脂質の非対称分布の分子機構と生理機能. 第 97 回日本生化学会大会 2024.11.08 横浜

[その他業績]

1. 細胞膜リン脂質の分布を制御する新しいメカニズムを発見 —膜の変形を感知する脂質輸送分子の変異による神経疾患の治療へ道—, 2024 年 10 月
   Nature Structural & Molecular Biology

理研生体分子制御学分野

RIKEN Molecular and Chemical Somatology

連携教授	谷内　一郎	
連携教授	今見　考志	
連携教授	石垣　和慶	
連携教授	萩原　伸也	
連携教授	田中　元雅	
連携教授	渡邉　力也	
非常勤講師	宮坂　信彦	
非常勤講師	吉岡　広大	
非常勤講師	泉　正範	
非常勤講師	江越　脩祐	
非常勤講師	遠藤　良	
非常勤講師	橋本　理一	
非常勤講師	Nicolas Gailhouste	
非常勤講師	野村　高志	
非常勤講師	田上 俊輔	
非常勤講師	安藤　潤	
非常勤講師	新富　圭史	
大学院生	D3	玉井　真悟（1 月~12 月）
	D2	原田　淳司（4 月~12 月）
	D2	Qin Zhizhen（1 月~12 月）
	D2	Yuxin Chen（1 月～12 月）
	D1	Fatma Elsharkawy（10 月~12 月）

(1)　分野概要

生体分子制御学は、生体機能を制御する低分子有機化合物から高分子タンパク質・糖・ホルモンを対象として、生物有機化学、化学生物学、構造生物学、分子免疫学、分子神経科学、ゲノム医科学、タンパク質化学の基礎研究、理工異分野融合研究による生体分子の検出法の開発により、医学・生物学への応用を理解する学問分野であり、様々な分野との複合領域研究が行われている。

(2)　研究活動

1. 有機合成化学を基盤とする生体機能制御分子の創製と化学生物学研究
2. 生体機能を調節する生理活性物質の探索、標的同定、作用機作解析研究
3. 生体機能分子を用いた分子細胞病態解析と制御
4. 生体分子による免疫細胞分化の制御機構
5. 神経細胞における生体分子の解析による精神・神経変性疾患研究
6. 感染症・基礎疾患の迅速検出技術の開発から実用化へむけた研究

(3)　教育活動

・理研生体分子制御学

化学生物学、分子免疫学、分子神経科学ならびにその周辺分野における生体分子の役割と制御方法を理解し、専門的な理論と技術をもって介入し、最新技術の知識を修得する。

・理研生体分子制御学特論

化学生物学、有機合成化学、分子細胞病態学、構造生物学、分子免疫学、分子神経科学、1 分子生物物理学に必要な基礎的手法を講義し、生体機能分子を用いた最新の研究成果をもとに講義ならびに討論をする。

(4)　教育方針

生物有機化学、化学生物学、構造生物学、分子免疫学、分子神経科学、1 分子生物物理学、ゲノム医科学の基礎と、医学・生物学への応用を、研究分野の鍵となる生体機能分子に着目し、最先端の研究動向について教育する。

(5)　研究業績

[原著]

1. Shen C.H., Komi Y., Nakagawa Y., Kamatari Y., Nomura T., Kimura H., Shida T., Burke J., Tamai S., Ishida Y., Tanaka M. Exposed Hsp70-binding site impacts yeast Sup35 prion disaggregation and propagation. *Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.*, 121, e2318162121 (2024).
2. Inamo J, Suzuki A, Ueda MT, Yamaguchi K, Nishida H, Suzuki K, Kaneko Y, Takeuchi T, Hatano H, Ishigaki K, Ishihama Y, Yamamoto K, Kochi Y. Long-read sequencing for 29 immune cell subsets reveals disease-linked isoforms. *Nat Commun*. 15:4285 (2024)

[総説]

該当なし

[書籍等出版物]

該当なし

[講演・口頭発表等]

1. 谷内　一郎　「転写因子ミスセンス変異による免疫不全症発症機序」
   第 76 回　日本細菌学会東北支部　総会・学術集会. 2024 年 8 月 18 日、秋田 日本.
2. Junji Harada and Ichiro Taniuchi. “The difference of Lck interactomes in $CD4^{+}CD8^{-}$ and $CD4^{-}CD8^{+}$ thymocytes”. The 53rd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology. December 4th,2024. Nagasaki, Japan.
3. Motomasa Tanaka. “Dysregulation of ribosome-associated quality control elicits neurodevelopmental disorders”, MPA2024, March 9, 2024. Outrigger Kona Resort and Spa, USA.
4. Motomasa Tanaka. “PROTEIN AGGREGATION AND DISEASES”. IUPAB 2024, June 27, 2024. Kyoto International Conference Center, Kyoto, Japan,
5. Kenichiro Asahara and Kazuyoshi Ishigaki. “Polygenic risk of rheumatoid arthritis regulates the abundance of circulating regulatory T cells.” American Society of Human Genetics Annual Meeting 2024. November 9th, 2024. Denver, U.S.

[ポスター発表]

1. Zhizhen Qin, Ichiro Taniuchi.「Unraveling relevance of phosphorylation on multiple tyrosine residues in Runx1 during thymocyte differentiation」The 53rd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology . 2024 年 12 月 4 日 Nagasaki, Japan.

[特許]

該当なし

[受賞]

該当なし

[その他業績]

該当なし

[社会貢献活動]

該当なし

ＮＣＣ腫瘍医科学分野

Department of NCC Cancer Science

連携教授 鈴木　啓道
連携教授 吉見　昭秀
連携教授 吉田　健一
連携准教授 武田　はるな
連携准教授 小幡　裕希
連携准教授 吉岡　研一

(1) 分野概要

NCC 腫瘍医科学分野は、日本で最大級のがん専門病院 · 研究所を有するナショナルセンターである国立がん研究センターに設置された講座であり、築地キャンパス及び柏キャンパスを合わせて約 30 の研究室 · 研究分野を有し、がんの基礎研究から臨床への橋渡し研究、新規がん予防 · 診断 · 治療法開発の基盤研究まで、がん研究におけるほぼすべての領域をカバーする内容のがんの最先端研究を行っている。学生は、この恵まれたがん研究の環境で、自由に希望する研究室を選択し、各専門領域のがん研究に従事することで、がんの最新知識 · 実験手法 · 成果発表に関する教育を受ける。

(2) 研究活動

以下に示す研究活動を行っている。
1. がんのゲノム · トランスクリプトーム · エピゲノム解析による病態解明と治療標的の同定および個別化医療への応用に関する研究
2. 正常組織に見られる遺伝子異常と早期発がん機序およびそのメカニズムに関する研究
3. ゲノム不安定性のリスク要因と発がんへの影響に関する研究
4. がん関連遺伝子の機能の解明と治療標的の同定に関する研究
5. がん微小環境 · がん幹細胞 · non-coding RNA· シグナル伝達に関する研究

(3) 教育活動

学生はがん研究を行うために必要な知識や技術の習得を目的に、第一線のがん研究者による講義やセミナー、リサーチミーティング、論文抄読会、学会発表等への参加と実践を通じて、将来独立したがん研究者として、がん研究を実践していくための基礎力を養う。また、がん研究を行うにあたって必要な遺伝学、遺伝子工学、生化学、細胞生物学、分子生物学、生理学、実験動物、病理学、ゲノム · エピゲノム · プロテオミクス解析、イメージング、次世代シークエンス、バイオインフォマティクス、機械学習、腫瘍免疫などの実験手法を、各研究グループに所属して、自らの研究テーマを実践していくことで習得する。

(4) 教育方針

学生はがん研究領域における基本的知識及び最新の動向を理解し、実験を行うための基本的手技を習得し、将来のがん研究者 · がん研究専門家としての基礎を身につける。また、独自に問題点を見いだし、作業仮説を立て、実験を計画し、結果に対する考察と次の実験への計画立案を行えるようになること、さらには、研究成果をまとめて、学会での発表や論文発表を行えるようになることを目標に教育を行う。

(5) 研究業績

[原著]

1. Disruption of cotranscriptional splicing suggests that RBM39 is a therapeutic target in acute lymphoblastic leukemia. Blood. 2024.12;

2. Hirotaka Tsukamoto, Ryu Saito, Takahiro Shirakura, Takuma Nakashima, Ryo Yamamoto, Hirofumi Kazama, Mitsuto Hanihara, Hiromichi Suzuki, Sumihito Nobusawa, Hiroyuki Kinouchi. Astroblastoma with MN1::BEND2 in an elderly patient: A case report and review of the literature Brain Tumor Pathology. 2024.10;

3. Yoshiko Nakano, Sumihito Nobusawa, Aiko Sato-Otsubo, Takuma Nakashima, Hiromichi Suzuki, Kai Yamasaki, Takahiro Shirakura, Takeshi Inoue, Takahiro Okuno, Motohiro Kato, Koichi Ichimura, Hiroaki Sakamoto. TCF3:: BEND2 in paediatric supratentorial tumour with carcinoma-like epithelial features classifying as MN1-altered astroblastoma by DNA methylation profiling Neuropathology and applied neurobiology. 2024.10;

4. Mechanistic insights into lethal hyper progressive disease induced by PD-L1 inhibitor in metastatic urothelial carcinoma. NPJ Precis Oncol. 2024.09;

5. Abhirami Visvanathan, Olivier Saulnier, Chuan Chen, Parthiv Haldipur, Wilda Orisme, Alberto Delaidelli, Seungmin Shin, Jake Millman, Andrew Bryant, Namal Abeysundara, Xujia Wu, Liam D Hendrikse, Vikas Patil, Zahedeh Bashardanesh, Joseph Golser, Bryn G Livingston, Takuma Nakashima, Yusuke Funakoshi, Winnie Ong, Alexandra Rasnitsyn, Kimberly A Aldinger, Cory M Richman, Randy Van Ommeren, John JY Lee, Michelle Ly, Maria C Vladoiu, Kaitlin Kharas, Polina Balin, Anders W Erickson, Vernon Fong, Jiao Zhang, Raúl A Suárez, Hao Wang, Ning Huang, Jonelle G Pallota, Tajana Douglas, Joonas Haapasalo, Ferechte Razavi, Evelina Silvestri, Olga Sirbu, Samantha Worme, Michelle M Kameda-Smith, Xiaochong Wu, Craig Daniels, Antony K MichaelRaj, Aparna Bhaduri, Daniel Schramek, Hiromichi Suzuki, Livia Garzia, Nabil Ahmed, Claudia L Kleinman, Lincoln D Stein, Peter Dirks, Christopher Dunham, Nada Jabado, Jeremy N Rich, Wei Li, Poul H Sorensen, Robert J Wechsler-Reya, William A Weiss, Kathleen J Millen, David W Ellison, Dimiter S Dimitrov, Michael D Taylor. Early rhombic lip Protogenin+ ve stem cells in a human-specific neurovascular niche initiate and maintain group 3 medulloblastoma Cell. 2024.08;

6. Knockdown of CDX2 Induces microRNA-221 Up-regulation in Human Colon Cancer Cells. Anticancer Res. 2024.08;

7. Inhibition of TOPORS ubiquitin ligase augments the efficacy of DNA hypomethylating agents through DNMT1 stabilization. Nat Commun. 2024.08;

8. Ileuchi, H., Matsuno, Y., Kusumoto-Matsuo, R., Ueno, T., Kojima, S., Ikegami, M., Kitada, R., Okuma, H., Kojima, Y., Yonemori, K., Yatabe, Y., Takamochi, K., Suzuki, K., Yoshioka, K., Mano, H., Kohsaka, S.. GLI1 confers resistance to PARP inhibitors by activating the DNA damage repair pathway. Oncogene. 2024.08; 43; 3037-3048

9. Iyoda S, Yoshida K, Shoji K, Ito N, Tanaka M, Nannya Y, Yamato G, Tsujimoto S, Shiba N, Hayashi Y, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Okada A, Tanaka H, Miyano S, Koga Y, Goto H, Moritake H, Terui K, Ito E, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Takita J, Nishikori M, Adachi S, Ogawa S, Matsuo H. KRAS G12 mutations as adverse prognostic factors in KMT2A-rearranged acute myeloid leukemia. Leukemia. 2024.07; 38(7); 1609-1612

10. Keiya Iijima, Hiroyuki Fujii, Fumio Suzuki, Kumiko Murayama, Yu-ichi Goto, Yuko Saito, Terunori Sano, Hiroyoshi Suzuki, Hajime Miyata, Yukio Kimura, Takuma Nakashima, Hiromichi Suzuki, Masaki Iwasaki, Noriko Sato. Genotype-relevant neuroimaging features in low-grade epilepsy-associated tumors Frontiers in Neurology. 2024.07;

11. Sato T, Yoshida K, Toki T, Kanezaki R, Terui K, Saiki R, Ojima M, Ochi Y, Mizuno S, Yoshihara M, Uechi T, Kenmochi N, Tanaka S, Matsubayashi J, Kisai K, Kudo K, Yuzawa K, Takahashi Y, Tanaka T, Yamamoto Y, Kobayashi A, Kamio T, Sasaki S, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Muramatsu H, Hama A, Hasegawa D, Sato A, Koh K, Karakawa S, Kobayashi M, Hara J, Taneyama Y, Imai C, Hasegawa D, Fujita N, Yoshitomi M, Iwamoto S, Yamato G, Saida S, Kiyokawa N, Deguchi T, Ito M, Matsuo H, Adachi S, Hayashi Y, Taga T, Saito AM, Horibe K, Watanabe K, Tomizawa D, Miyano S, Takahashi

S, Ogawa S, Ito E. Landscape of driver mutations and their clinical effects on Down syndrome-related myeloid neoplasms. Blood. 2024.06; 143(25); 2627-2643

12. Natsume M, Niwa M, Ichikawa S, Okamoto T, Tsutsui H, Usukura D, Murata T, Abe R, Shimonaka M, Nishida T, Shiina I & Obata Y. Brefeldin A and M-COPA block the export of RTKs from the endoplasmic reticulum via simultaneous inactivation of ARF1, ARF4, and ARF5 J. Biol. Chem.. 2024.06; 300(6); 107327

13. Ichiyo Shibahara, Takuma Nakashima, Mariko Toyoda, Madoka Inukai, Toshihide Matsumoto, Kazuko Fujitani, Yoko Tanihata, Takuichiro Hide, Nobuo Fuse, Hiromichi Suzuki, Toshihiro Kumabe. Evolving driver mutations in adult-onset SHH-medulloblastoma originated from radiological cerebellar abnormality Journal of Neuropathology & Experimental Neurology. 2024.05;

14. Kohsaka, S., Yagishita, S., Shirai, Y., Matsuno, Y., Ueno, T., Kojima, S., Ileuchi, H., Ikegami, M., Kitada, R., Yoshioka, K., Toshimitsu, K., Tabata, K., Yokoi, A., Doi, T., Yamamoto, N., Owa, T., Hamada, A., Mano, H.. An RBM39 inhibitor, E7820, induces synthetic lethality in cancer cells with homologous recombination repair deficiency npj Precision Oncology. 2024.05; 8; 117

15. Metabolic reprogramming regulated by TRAF6 contributes to the leukemia progression. Leukemia. 2024.04;

16. Makiko Yamada, Ross R Keller, Rodrigo Lopez Gutierrez, Daniel Cameron, Hiromichi Suzuki, Reeti Sanghrajka, Jake Vaynshteyn, Jeffrey Gerwin, Francesco Maura, William Hooper, Minita Shah, Nicolas Robine, Phillip Demarest, N Sumru Bayin, Luz Jubierre Zapater, Casie Reed, Steven Hébert, Ignas Masilionis, Ronan Chaligne, Nicholas D Socci, Michael D Taylor, Claudia L Kleinman, Alexandra L Joyner, G Praveen Raju, Alex Kentsis. Childhood cancer mutagenesis caused by transposase-derived PGBD5 Science Advances. 2024.03;

17. Manaka, Y., Kusumoto-Matsuo, R., Matsuno, Y., Asai, H., and Yoshioka, K.. Single Base Substitution Signatures 17a, 17b, and 40 Are Induced by γ-Ray Irradiation in Association with Increased ROS Levels. Heliyon. 2024.03; 9; e28044

18. Takuma Nakashima, Ryo Yamamoto, Makoto Ohno, Hirokazu Sugino, Masamichi Takahashi, Yusuke Funakoshi, Shohei Nambu, Atsuhito Uneda, Shunsuke Yanagisawa, Takeo Uzuka, Yoshiki Arakawa, Ryosuke Hanaya, Joji Ishida, Koji Yoshimoto, Ryuta Saito, Yoshitaka Narita, Hiromichi Suzuki. Development of a rapid and comprehensive genomic profiling test supporting diagnosis and research for gliomas Brain Tumor Pathology. 2024.02;

19. Naoko Iida, Yukari Muranaka, Jun Won Park, Shigeki Sekine, Neal G. Copeland, Nancy A. Jenkins, Yuichi Shiraishi, Masanobu Oshima, Haruna Takeda. Sleeping Beauty transposon mutagenesis in mouse intestinal organoids identifies genes involved in tumor progression and metastasis Cancer Gene Therapy . 2024.01;

20. Noerenberg, D., Briest, F., Hennch, C., Yoshida, K., Hablesreiter, R., Takeuchi, Y., Ueno, H., Staiger, A. M., Ziepert, M., Asmar, F., Locher, B. N., Toth, E., Weber, T., Amini, R. M., Klapper, W., Bouzani, M., Poeschel, V., Rosenwald, A., Held, G., Campo, E., Ishaque, N., Stamatopoulos, K., Kanellis, G., Anagnostopoulos, I., Bullinger, L., Goldschmidt, N., Zinzani, P. L., Bodor, C., Rosenquist, R., Vassilakopoulos, T. P., Ott, G., Ogawa, S., Damm, F.. Genetic Characterization of Primary Mediastinal B-Cell Lymphoma: Pathogenesis and Patient Outcomes. J Clin Oncol. 2024; 42(4); 452-466

21. Aoki, T., Shiba, N., Tsujimoto, S., Yamato, G., Hara, Y., Kato, S., Yoshida, K., Ogawa, S., Hayashi, Y., Iwamoto, S., Taki, T., Shimada, A., Iijima-Yamashita, Y., Horibe, K., Tawa, A., Taga, T., Adachi, S., Tomizawa, D.. High IL2RA/CD25 expression is a prognostic stem cell biomarker for pediatric acute myeloid leukemia without a core-binding factor. Pediatr Blood Cancer. 2024; 71(2); e30803

細胞分子医学分野

Department of Cellular and Molecular Medicine

准教授　　佐々木　純子

(1) 分野概要

細胞膜リン脂質の一種であるイノシトールリン脂質は、グリセロール骨格に二つのアシル基とイノシトールが結合した構造を持ちます。イノシトール環の 3 ヶ所の水酸基が可逆的なリン酸化を受ける結果、7 種類のリン酸化派生体（PIPs）が生成され、各 PIPs は各々に特有に結合する分子の局在や活性を制御することで、多岐にわたる細胞応答に関与します。一方疎水性部分である二つのアシル基については、組成の異なる多数の分子種が存在することが明らかにされているものの、機能的差異についてはわかっていません。私たちの研究分野では、アシル基組成の違いを含めた PIPs 分子種の機能解明を目指しています。

(2) 研究活動

ヒトやマウスの正常組織ではアラキドン酸を含む PIPs 分子種が多いことが知られていますが、前立腺癌組織では二重結合数の少ない PIPs 分子種の割合が増加することを見出しています。そこで現在私たちは、PIPs 分子種の病態生理的な機能に着目して 3 つの観点から解析を進めています。①細胞増殖や分化 · 運動などの細胞生理応答と PIPs 分子種の関連を明らかにするとともに、②私たちがこれまでに作製してきた PIPs 代謝酵素欠損マウスや疾患モデルマウスを用いて、病態と関連する興味深い PIPs 分子種を見出し、③新たな実験系を開発しながら、病態と関連する PIPs 分子種の結合タンパク質を探索します。

(3) 教育活動

【大学院生の研究課題】

1. 癌と PIPs 分子種
2. 炎症と PIPs 分子種
3. 性分化疾患と PIPs 分子種

(4) 教育方針

各学生に独立した研究テーマを設定し、研究実践を通して実験科学の知識やスキルを指導します。周囲の研究者と協力しながら、新規性、独創性の高い研究の立案、遂行、情報発信ができる科学者の養成を目標としています。

(5) 研究業績

[原著]

1. Oikawa, T; Hasegawa, J; Handa, H; Ohnishi, N; Onodera, Y; Hashimoto, A; Sasaki, J; Sasaki, T; Ueda, K; Sabe, H. p53 ensures the normal behavior and modi fi cation of G1/S-speci fi c histone H3.1 in the nucleus LIFE SCIENCE ALLIANCE. 2024.09; 7(9);

2. Takafumi Kawai, Shin Morioka, Haruhiko Miyata, Rizki Tsari Andriani, Sharmin Akter, Gabriel Toma, Tatsuya Nakagawa, Yuki Oyama, Rie Iida-Norita, Junko Sasaki, Masahiko Watanabe, Kenji Sakimura,

Masahito Ikawa, Takehiko Sasaki, Yasushi Okamura. The significance of electrical signals in maturing spermatozoa for phosphoinositide regulation through voltage-sensing phosphatase. Nat Commun. 2024.08; 15(1); 7289

[講演・口頭発表等]

1. Junko Sasaki, Shogo Yanai, Shin Morioka, Hiroaki Kajiho, Takehiko Sasaki. DISORDERS OF SEX DEVELOPMENT (DSD) IN MICE LACKING PHOSPHOINOSITIDE-METABOLIZING PHOSPHATASES. FASEB and the Japanese Association for Protein Phosphatase Research 2024.12.10 Palm Springs, California

1. 佐々木純子、柳井翔吾、梶保博昭、佐々木雄彦. ホスホイノシタイドによる生殖腺支持細胞の制御と生殖. 第４７回　日本分子生物学会 2024.11.27 福岡国際会議場

2. 森岡真、山本利義、佐々木純子、佐々木雄彦. LC-MS/MS による PI5P 定量技術の開発. 第９７回日本生化学会大会 2024.11.06 パシフィコ横浜

3. 及川堅己、田村郁、楮木遥、森岡真、山本利義、佐々木純子、佐々木雄彦. 高レベル PI(5)P グリオブラストーマ細胞株の樹立. 第９７回日本生化学会大会 2024.11.06 パシフィコ横浜

4. 岡風吹、長谷川純矢、佐々木純子、進藤英雄、佐々木雄彦. PI4P リモデリング機構の探索. 第９７回日本生化学会大会 2024.11.06 パシフィコ横浜ノース

5. 菊池雄翔、長谷川純矢、徳田恵美、佐々木純子、佐々木雄彦. 酸化ストレスにより誘導される PI(3,4)P2 酸性の分子機構と生理的意義. 第９７回日本生化学会大会 2024.11.06 パシフィコ横浜

6. 佐々木純子、柳井翔吾、佐々木雄彦. 核リン脂質の病態生理機能. 第９７回日本生化学会大会 2024.11.06 パシフィコ横浜

7. 佐々木　純子. 細胞膜リン脂質代謝異常と疾患. 第 38 回　文京区市民公開講座 2024.10.25 オンライン

8. 佐々木　純子. マクロファージの活性化調節による慢性炎症の制御. さきがけ継続領域会議 2024 2024.08.04 東京医科歯科大学, 東京

9. 赤堀愛果,　高鳥翔,　井口明優,　朱詠寧,　佐々木純子,　佐々木雄彦,　富田泰輔. ミクログリアの神経保護作用におけるアルツハイマー病リスク遺伝子 INPP5D の役割解明. 2024 年度日本生化学会関東支部例会 2024.06.15 順天堂大学, 東京

データ科学アルゴリズム設計 · 解析分野

Department of Data Science Algorithm Design and Analysis

教授　　坂内　英夫
助教　　ＤＩＰＴＡＲＡＭＡ　ＨＥＮＤＲＩＡＮ

(１)　分野概要

データ科学設計 · 解析分野では、M&D 分野において生成される各種シーケンスデータ · センサデータ等の大規模データを迅速に処理 · 分析 · 活用するための手法を研究している。主に文字列 · 系列データに対して、パターン照合 · 検索、特徴抽出 · 発見、データ圧縮 · 圧縮データ処理等、様々な処理を高速かつ省領域に行うアルゴリズムとデータ構造の設計やその性能解析を行っている。また、それらの手法の理論的基盤となる文字列組合せ論の研究も行っている。

(２)　研究活動

本分野では主に以下のテーマについて研究を行なっている
1. パターン照合 · 検索，特徴抽出 · 発見のアルゴリズムとデータ構造
2. データ圧縮 · 圧縮処理のアルゴリズムとデータ構造
3. 文字列組合せ論

(３)　研究業績

[原著]

1. Aaron Hong, Marco Oliva, Dominik Köppl, Hideo Bannai, Christina Boucher, Travis Gagie. Pfp-fm: an accelerated FM-index Algorithms for Molecular Biology. 2024.12; 19(1); 15

2. Diptarama Hendrian, Takuya Takagi, Shunsuke Inenaga, Keisuke Goto, Mitsuru Funakoshi. Linear time online algorithms for constructing linear-size suffix trie Theoretical Computer Science. 2024.11; 1015; 114765:1-114765:20

3. Hideo Bannai, Mitsuru Funakoshi, Diptarama Hendrian, Myuji Matsuda, Simon Puglisi. Height-bounded Lempel-Ziv encodings Proc. European Symposium on Algorithms 2024 (ESA 2024) . 2024.09;

4. Rikuya Hamai, Kazushi Taketsugu, Yuto Nakashima, Shunsuke Inenaga, Hideo Bannai. On the Number of Non-equivalent Parameterized Squares in a String String Processing and Information Retrieval - 31st International Symposium (SPIRE 2024). 2024.09; 14899; 174-183

5. Golnaz Badkobeh, Hideo Bannai, Dominik Köppl. Bijective BWT Based Compression Schemes String Processing and Information Retrieval - 31st International Symposium (SPIRE 2024). 2024.09; 14899; 16-25

6. Davaajav Jargalsaikhan, Diptarama Hendrian, Yohei Ueki, Ryo Yoshinaka, Ayumi Shinohara. Serial and parallel algorithms for order-preserving pattern matching based on the duel-and-sweep paradigm Acta Informatica. 2024.08; 61; 415-444

7. Yuto Nakashima, Dominik Köppl, Mitsuru Funakoshi, Shunsuke Inenaga, Hideo Bannai. Edit and Alphabet-Ordering Sensitivity of Lex-Parse Proc. 49th International Symposium on Mathematical Foundations of Computer Science (MFCS 2024). 2024.08; 306; 75:1-75:15

8. Yuki Yonemoto, Yuto Nakashima, Shunsuke Inenaga, Hideo Bannai. Faster space-efficient STR-IC-LCS computation Theoretical Computer Science. 2024.07; 1003; 114607

9. Kento Iseri, Tomohiro I, Diptarama Hendrian, Dominik Köppl, Ryo Yoshinaka, Ayumi Shinohara. Breaking a Barrier in Constructing Compact Indexes for Parameterized Pattern Matching Proceedings of the 51st International Colloquium on Automata, Languages and Programming (ICALP 2024). 2024.07; 89:1-89:19

10. Hideo Bannai, Panagiotis Charalampopoulos, Jakub Radoszewski. Maintaining the Size of LZ77 on Semi-Dynamic Strings. Proc. 35th Annual Symposium on Combinatorial Pattern Matching (CPM 2024). 2024.06; 3-20

11. Diptarama Hendrian, Dominik Köppl, Ryo Yoshinaka, Ayumi Shinohara. Algorithms for Galois Words: Detection, Factorization, and Rotation Proceedings of the 35th Annual Symposium on Combinatorial Pattern Matching (CPM 2024). 2024.06; 18:1-18:16

12. Mitsuru Funakoshi, Takuya Mieno, Yuto Nakashima, Shunsuke Inenaga, Hideo Bannai, Masayuki Takeda. Computing Maximal Palindromes in Non-standard Matching Models Combinatorial Algorithms - 35th International Workshop (IWOCA 2024). 2024.06; 14764; 165-179

13. Akiyoshi Kawamoto, Tomohiro I, Dominik Koeppl, Hideo Bannai. On the Hardness of Smallest RLSLPs and Collage Systems 2024 Data Compression Conference (DCC 2024). 2024.03;

14. Yoshito Kawasaki, Diptarama Hendrian, Ryo Yoshinaka, Ayumi Shinohara. Query Learning of Minimal Deterministic Symbolic Finite Automata Separating Regular Languages Proceedings of the 49th International Conference on Current Trends in Theory and Practice of Computer Science (SOFSEM 2024). 2024.02; 340-354

15. Hideo Bannai, Juha Kärkkäinen, Dominik Köppl, Marcin Piatkowski. Constructing and indexing the bijective and extended Burrows-Wheeler transform INFORMATION AND COMPUTATION. 2024; 297; 105153

[講演 · 口頭発表等]

1. Hideo Bannai, Mitsuru Funakoshi, Diptarama Hendrian, Myuji Matsuda, Simon J. Puglisi. Height-Bounded Lempel-Ziv Encodings. European Symposium on Algorithms (ESA) 2024 2024.09.03 Royal Holloway, University of London in Egham, United Kingdom

1. 坂内 英夫, 舩越 満, ディプタラマ ヘンリアン, 松田 美勇史, Simon J. Puglisi. 高さ制約付き LZ 分解. 冬の LA シンポジウム 2024.02.20

[受賞]

1. ESA 2024 best paper award (Track B), European Association for Theoretical Computer Science (EATCS), 2024 年 09 月

恒常性医学分野

Homeostatic Medicine

教授　豊島　文子
准教授　小林　芳彦
助教　阿部　真也

(1) 分野概要

当分野では、ライフステージの進行に伴い誘導される生理的臓器リモデリング機構について基礎研究を遂行している。生体の恒常性を維持するための機構を 1 細胞レベルで解析し、再生医療への応用に取り組んでいる。

(2) 研究活動

妊娠 · 老化などのライフコースで起こる生理変化に応じて、血管/神経/免疫/間質/上皮細胞などの異種細胞間ネットワークが、組織内のメカノフィールドや液性因子と連携して組織 · 臓器を再編成する仕組みとその生理機能について解析している。母体の非生殖器官のリモデリングと胎児発生の連関機構の解明や、生体に備わる生理的な臓器リモデリング機構を利用した再生医療技術 · 治療法の開発を目指す。

研究項目：

1）妊娠における母体臓器リモデリング機構と母胎連関
2）老化における臓器エイジング機構
3）生理的臓器リモデリングを利用した再生医療技術 · 治療法の開発
4）呼吸器疾患における細胞運命転換制御

(3) 教育方針

臓器リモデリングの観点から生体恒常性 · 再生医療についての先端的基礎医学研究を自立して行える研究者を養成する。大学院生は、分野構成員からの直接指導、指導教員との定期的ミーテング、研究室内発表に取り組むとともに、国内 · 海外学会で積極的に参加 · 発表することを推奨する。他分野の研究者や企業との共同研究に参加する機会を与え、視野の広い分野横断型の研究者となるよう指導する。

(4) 研究業績

[原著]

1. Akihiro Shimba, Shizue Tani-Ichi, Kyoko Masuda, Guangwei Cui, Satoru Munakata, Shinya Abe, Satsuki Kitano, Hitoshi Miyachi, Hiroshi Kawamoto, Koichi Ikuta. A Chimeric IL-7R α/IL-2R β Receptor Promotes the Differentiation of T Cell Progenitors into B Cells and Type 2 Innate Lymphoid Cells. J Immunol. 2024.10; 213(7); 952-964

2. Shizue Tani-Ichi, David Obwegs, Alice Yoshikawa, Hitomi Watanabe, Satsuki Kitano, Aki Ejima, Shinya Hatano, Hitoshi Miyachi, Guangwei Cui, Akihiro Shimba, Shinya Abe, Shohei Hori, Gen Kondoh, Sagar, Yasunobu Yoshikai, Koichi Ikuta. A RORE-dependent Intronic Enhancer in the IL-7 Receptor-α Locus Controls Glucose Metabolism via V γ 4+ $\gamma\delta$ T17 Cells. J Immunol. 2024.08; 213(3); 283-295

3. Riki Ishibashi, Ritsuko Maki, Fumiko Toyoshima. Gene targeting in adult organs using in vivo cleavable donor plasmids for CRISPR-Cas9 and CRISPR-Cas12a Scientific Reports. 2024.03; 14(1); 7615

1. Altered ontogeny and transcriptomic signatures of tissue-resident pulmonary interstitial macrophages ameliorate allergic airway hyperresponsiveness Frontiers in Immunology. 2024.06; 15: 1371764;

[総説]

1. Koichi Ikuta, Takuma Asahi, Guangwei Cui, Shinya Abe, Daichi Takami. Control of the Development, Distribution, and Function of Innate-Like Lymphocytes and Innate Lymphoid Cells by the Tissue Microenvironment. Adv Exp Med Biol. 2024; 1444; 111-127

2. Guangwei Cui, Shinya Abe, Ryoma Kato, Koichi Ikuta. Insights into the heterogeneity of iNKT cells: tissue-resident and circulating subsets shaped by local microenvironmental cues. Front Immunol. 2024; 15; 1349184

1. 阿部　真也, 旭　拓真, 生田　宏一. グループ 1ILC の分化と機能 実験医学. 2024.08; 42(12); 1834-1839

2. 阿部　真也, 生田　宏一. 骨髄 NK 細胞は造血系細胞が産生する IL-15 に依存して分化する 臨床免疫 · アレルギー科. 2024.05; 81(5); 517-522

3. 旭　拓真, 阿部　真也, 生田　宏一. 1 型自然リンパ球の多様性と生体内微小環境 医学のあゆみ. 2024.01; 288(1);

[講演 · 口頭発表等]

1. 豊島文子. 母体臓器リモデリングと胎児発生. 第 76 回日本細胞生物学会大会 2024.07.19

2. 豊島文子. 組織リモデリングにおける空間トランスクリプトームと組織剛性. 第 42 回日本骨代謝学会学術集会 2024.07.02

3. 豊島文子. 胎仔サイズを調整する母体肝臓リモデリング. 第 23 回日本再生医療学会 2024.03.23

1. 小林芳彦. シングルセル解像度で明らかとなりつつある呼吸器上皮細胞の時空間的 heterogeneity. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, シンポジウム「Single cell 解析とその次へ -網羅的時空間解析-」 2024.04.08

[社会貢献活動]

1. 再生 · 細胞医療 · 遺伝子治療実現加速化プログラム 幹細胞 · 再生医学イノベーション創出プログラム プログラムオフィサー, 2019 年 - 現在

2. JST さきがけ「加齢変容」アドバイザー, 2022 年 - 現在

3. アステラス病態代謝研究会学術委員, 2023 年 - 現在

4. 公益財団法人　第一三共生命科学研究振興財団　選考委員会, 2023 年 - 現在

5. 公益財団法人細胞科学研究財団企画委員会, 2023 年 - 現在

計算創薬科学分野

Computational Drug Discovery and Design

教授 石谷 隆一郎
准教授 森脇 由隆
助教 吉川 成輝
非常勤講師 力丸 健太郎

(1) 分野概要

当研究室では、分子 · 原子シミュレーションなどの計算物理化学的アプローチと、 機械学習や構造インフォマティクスなどの情報科学的アプローチに基づいて生命現象を理解し、 さらに得られた知見を生体分子の設計や制御へ応用し創薬につなげること目標として、研究活動を行っています。

(2) 研究活動

詳細は、
https://cddlab.io/
をご覧ください。

(3) 研究業績

[原著]

1. Sergio Pablo-García, Ángel García, Gun Deniz Akkoc, Malcolm Sim, Yang Cao, Maxine Somers, Chance Hattrick, Naruki Yoshikawa, Dominik Dworschak, Han Hao, Alán Aspuru-Guzik. An affordable platform for automated synthesis and electrochemical characterization Device. 2024.10; 3(2); 100567

2. Kim, G; Lee, S; Karin, EL; Kim, H; Moriwaki, Y; Ovchinnikov, S; Steinegger, M; Mirdita, M. Easy and accurate protein structure prediction using ColabFold NATURE PROTOCOLS. 2024.10;

3. Ishitani, R; Takemoto, M; Tomii, K. Protein ligand binding site prediction using graph transformer neural network PLOS ONE. 2024.08; 19(8); e0308425

4. Rama El-khawaldeh, Abhijoy Mandal, Naruki Yoshikawa, Wenyu Zhang, Ryan Corkery, Paloma Prieto, Alán Aspuru-Guzik, Kourosh Darvish, Jason E. Hein. From eyes to cameras: Computer vision for high-throughput liquid-liquid separation Device. 2024.07; 2(7); 100404

5. Homma, M; Wakabayashi, T; Moriwaki, Y; Shiotani, N; Shigeta, T; Isobe, K; Okazawa, A; Ohta, D; Terada, T; Shimizu, K; Mizutani, M; Takikawa, H; Sugimoto, Y. Insights into stereoselective ring formation in canonical strigolactone: Identification of a dirigent domaincontaining enzyme catalyzing orobanchol synthesis PROCEEDINGS OF THE NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES OF THE UNITED STATES OF AMERICA. 2024.06; 121(26); e2313683121

6. Martin Seifrid, Felix Strieth-Kalthoff, Mohammad Haddadnia, Tony C. Wu, Emre Alca, Leticia Bodo, Sebastian Arellano-Rubach, Naruki Yoshikawa, Marta Skreta, Rachel Keunen, Alán Aspuru-Guzik. Chemspyd: an open-source python interface for Chemspeed robotic chemistry and materials platforms Digital Discovery. 2024.05; 3(7); 1319-1326

7. Fan Zhao, Yoshitaka Moriwaki, Tomohiro Noguchi, Kentaro Shimizu, Tomohisa Kuzuyama, Tohru Terada. QM/MM Study of the Catalytic Mechanism and Substrate Specificity of the Aromatic Substrate < i> C< /i> -Methyltransferase Fur6 Biochemistry. 2024.02; 63(6); 806-814

1. Kourosh Darvish, Marta Skreta, Yuchi Zhao, Naruki Yoshikawa, Sagnik Som, Miroslav Bogdanovic, Yang Cao, Han Hao, Haoping Xu, Alán Aspuru-Guzik, Animesh Garg, Florian Shkurti. ORGANA: A robotic assistant for automated chemistry experimentation and characterization Matter. 2024.11; 8(2); 101897

2. 渡辺藍子, 齋藤未怜, 森脇由隆, 石谷隆一郎, 松田憲之. パーキンソン病の原因因子 DJ-1 が持つ cPGA 分解酵素活性の分子機構 日本分子生物学会年会プログラム · 要旨集 (Web). 2024; 47th;

3. 松田憲之, 荻原禅, 渡辺藍子, 齋藤未怜, 森脇由隆, 石谷隆一郎, 小迫英尊. 遺伝性潜性パーキンソン病の原因因子 DJ-1 の分子機能の解明とそのオルガネラ機能に関する考察 日本分子生物学会年会プログラム · 要旨集 (Web). 2024; 47th;

[書籍等出版物]

1. 富井健太郎, 石谷隆一郎, 大上雅史, 大貫隼, 岡崎圭一, 木原大亮, 栗栖源嗣, 小林直也, 齋藤裕, 寺田透, 西羽美, 森脇由隆, 山口秀輝, 山守優, 于健, 力丸健太郎. AlphaFold 時代の構造バイオインフォマティクス実践ガイド : 今日からできる!構造データの基本操作から相互作用の推定、タンパク質デザインまで. 羊土社, 2024.11 (ISBN : 978-4-7581-2276-4)

[総説]

1. Gary Tom, Stefan P. Schmid, Sterling G. Baird, Yang Cao, Kourosh Darvish, Han Hao, Stanley Lo, Pablo-García S., Ella M. Rajaonson, Marta Skreta, Naruki Yoshikawa, Samantha Corapi, Gun Deniz Akkoc, Felix Strieth-Kalthoff, Martin Seifrid, Alán Aspuru-Guzik. Self-Driving Laboratories for Chemistry and Materials Science Chemical Reviews. 2024.08; 124(16); 9633-9732

[講演 · 口頭発表等]

1. 吉川 成輝. 参入障壁の低い実験自動化に向けて. 日本 MRS 年次大会 2024.12.18 神奈川県横浜市

2. 森脇由隆. 予測構造と計算で酵素の機能を解明できる時代へ. Science Tokyo 設立記念 ノーベル賞授賞式前日に考える：AI が変える創薬とタンパク質構造予測の最前線 2024.12.09

3. 吉川 成輝. 実験自動化のための情報技術. 量子技術異分野交流会 2024.12.05 東京都新宿区

4. 吉川 成輝. 汎用ロボットアームによる化学実験の自動化. Laboratory Automation 月例勉強会 2024.05.25 東京都江東区

5. 吉川 成輝. 汎用ロボットアームによる化学実験の自動化. AI ロボット駆動科学研究会 2024.02.14 東京都中央区

1. 森脇由隆. AlphaFold が作り出した新時代の生物学. 2024 年ノーベル物理学賞、ノーベル化学賞、 AI で自然科学はどう変わったのか、どう変わるのか 2024.11.24

[Works]

1. CueMol: Molecular Visualization Framework, コンピュータソフト, 2000 年 01 月 - 現在

2. localcolabfold, コンピュータソフト, GitHub, 2021 年 09 月 - 現在

[社会貢献活動]

1. 加トロント大、LLM 使いロボで化学実験 専門知識不要 作業を自動化, 日刊工業新聞, 2024 年 02 月 21 日

2. 2024 年ノーベル化学賞：タンパク質の設計と構造予測に貢献した 3 氏に, 日経サイエンス, https://www.nikkei-science.com/?p=74092, 2024 年 10 月 10 日

3. AI 新時代 光と影, 読売新聞社, 読売新聞, 関連分野 日本出遅れ, 2024 年 10 月 11 日

4. 口頭指示で化学実験、24 時間稼働するロボット研究助手, MIT Technology Review, 2024 年 10 月 22 日

5. コンピューターを使って薬のもとを作る, 公益財団法人文京アカデミー, 2024 年 10 月 25 日

生体検査科学講座

形態情報解析学分野

Department of Pathology and Anatomical Sciences

（旧形態 · 生体情報解析学分野）
教授　星　治
助教　藤代　瞳
博士 (前期)　中尾　りん、祝　心慧、鈴木　萌里

（旧分子病理検査学分野）
准教授　2024 年 4 月〜 副島　友莉恵
講師（キャリアアップ）〜2024 年 3 月　副島　友莉恵
助教　2024 年 11 月〜　岩渕　英里奈
博士 (前期)　高橋　希、中堀　未依子、藤井　奎称
栢森　美乃、中井　佐和

(1)　分野概要

（旧形態 · 生体情報解析学分野）
形態 · 生体情報解析学分野は、解剖学 · 生理学を主な担当科目としている。解剖学は正常なからだの形態と構造を器官から細胞、分子レベルまで究明するもので、医学の最も基礎的な領域である。生理学は人体の各構成要素がどのようなメカニズムで発現し、全体として統合されているかを追及する教科である。人体全体を科学的にとらえる上で、解剖学と生理学は車の両輪のようなもので、専門科目を学ぶための基盤となる。学生には確固たる基盤が形成され、臨床への橋渡しがうまくいくよう教育を行っている。

（旧分子病理検査学分野）
病理学は疾病の本態を解明する、基礎と臨床の両者にまたがった医学、医療の基本となる学問である。
病理検査学は、組織診、細胞診、免疫組織化学、遺伝子検査、電子顕微鏡等さまざまな検査 · 診断法により、より質の高い病理診断へと繋げる役割を担う学問である。本分野では病理学と病理検査学の両方の側面から疾病の本態を深く探求している。

(2)　研究活動

（旧形態 · 生体情報解析学分野）
電子顕微鏡をはじめとしたさまざまな顕微鏡技術を用いて、生体組織の微細構造を観察し、新たな科学的知見を得ることに主眼をおいて進めている。なかでも原子間力顕微鏡の医生物学分野への応用については、新規のイメージング技術の開発など、先端的な内容の展開を図っている。

（旧分子病理検査学分野）
本分野では病因 · 病態を考察、解明し、更には診断に寄与し得るような検査法の理論や手法を探究、開発するため以下の研究を行っている。
1. 胆管癌の進展に関わる分子病理学的解析および新規治療法の開発
2. 細胞診画像を用いたデジタルコンテンツの作成、AI 画像診断の開発
3. 開発途上国における病理診断 · 病理技術の発展
4. 乳癌微小環境および乳癌進展に関わる因子の可視化の検討

(3) 教育活動

(旧形態 · 生体情報解析学分野)
検査技術学専攻：人体構造学講義、人体構造学実習、生理学講義、生理学実習、総合講義、卒業研究
看護学専攻：解剖学、生理学
生体検査科学専攻：形態 · 生体情報解析学特論 A、形態 · 生体情報解析学実験 A、形態 · 生体情報解析学特論

(旧分子病理検査学分野)
学部では、病理検査学講義 (Ⅰ , Ⅱ), 病理検査学実習（検査技術学専攻)、病理学（看護学専攻）で基本的な疾病病変の病因 · 病態を学ぶ。
大学院では、より高度な病理専門技術と国際的な広い視野で分子病理学的検査の理論や方法を探究、開発、体系化することを目的として教育 · 研究を行っている。

(4) 教育方針

(旧形態 · 生体情報解析学分野)
1）学部教育
基礎医学の学習や研究を興味をもって学生が能動的に行えるように、学生からフィードバックされる内容を参考に、講義 · 実習の方法を改良しながら教育 · 研究指導に臨んでいる。

2）大学院教育
仮説をたて、それを検証するための実験を行い、結果を考察し、それらを一つの論文としてまとめることができるよう指導している。

(旧分子病理検査学分野)
学際的 · 国際的な視野に立ち、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、自己問題提起 · 解決型、生涯発展型の思考能力をもった医療人を養成すべく以下のような教育を行っている。

1) 学部教育
検査技術学専攻と看護学専攻の 1 年生を対象として、病理学総論として疾病病変の共通の変化、病態の本質、その成因を系統的に論じている。検査技術学専攻ではさらに 2 年生で、病理学各論として主な疾病についてその臓器変化、成因、病理検査における技術や原理について講義している。
検査技術学専攻 2 年生では病理検査学実習において臓器の肉眼観察、基本的な標本作製、観察に加え、各種特殊染色法、免疫組織化学的染色法、細胞診検査、凍結切片作製法などを用いた、疾病の診断、病因 · 病態の解明に寄与しうるような病理学的検査法の実習が組まれている。
その他、検査技術学専攻 3 年次には臨地実習としてとして本学病院病理部において病理検査実習が実施されている。検査技術学専攻 4 年次には卒業研究として研究の進め方や論文のまとめ方などを研究室で実施する。

2) 大学院教育
博士（前期）課程においては、疾病の成因 · 病態、病理像（肉眼的、組織学的、細胞学的及び分子病理学的）を深く追求、理解し疾病の本態を考察する。更に、病因 · 病態の解明や診断に有用な病理学的検査法（免疫組織化学、遺伝子解析、画像解析など）の理論や手法を学び、また、実践の場における検査管理や問題解決能力をも修得させる。各種研究会や学会などにも参加し病理学 · 病理検査学領域における国際的、学際的な研究の現況や展望などについても学んで行く。以上の課程を通して修士論文としての特別研究を完成し、基礎的な研究能力を修得させている。
博士（後期）課程では、国際的にも通用する自立した研究能力が修得できるように、より高度な教育と研究指導、および医学英語学習を行っている。

(5) 臨床活動および学外活動

(旧分子病理検査学分野)
本学病院病理部において、副島は細胞診業務に参画し、大学院生への指導も行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Osamu Hoshi, Nobuyuki Takei. Ribosomal Protein Dynamics and Its Association with Actin Filaments and Local Translation in Axonal Growth Cones of Dorsal Root Ganglia Neurons. Neurochem Res. 2024.10; 49(10); 2774-2784

2. Erina Iwabuchi, Yasuhiro Miki, Junyao Xu, Ayako Kanai, Takanori Ishida, Hironobu Sasano, Takashi Suzuki. Zinc transporter ZnT5 is associated with epithelial mesenchymal transition via SMAD1 in breast cancer. International journal of experimental pathology. 2024.10; 105(5); 184-192

3. Nattamolphan Wittayavimol, Erina Iwabuchi, Prangwan Pateetin, Yasuhiro Miki, Yoshiaki Onodera, Hironobu Sasano, Viroj Boonyaratanakornkit. Progesterone receptor-Grb2 interaction is associated with better outcomes in breast cancer. The Journal of steroid biochemistry and molecular biology. 2024.03; 237; 106441

1. Yasuhiro Miki, Erina Iwabuchi, Chihiro Inoue, Yuto Yamazaki, Takashi Suzuki. Histopathological analysis potential for unveiling hormone signaling in endocrine-related tumors Endocrine Oncology. 2024.08; 4(1); e240033

[講演 · 口頭発表等]

1. Hoshi O. The effect of chelating calcium ions on the structure of the chromosomes as observed by atomic force microscopyy. International Scanning Probe Microscopy Conference 2024 2024.11.20 Sapporo, Japan

2. Miiko Nakahori, Soulideth Vilayvong, Thavisouk Hatthakone, Vimala Keobounpheng, Phetsamone Arounlangsy, Motoji Sawabe, Daisuke Komura, Shumpei Ishikawa, Yurie Soejima. Development of approaches that improves pathology laboratories in Laos. The 70th Autumn Annual Meeting of the Japanese Society of Pathology 2024.11.07 Tokyo

3. 岩渕英里奈, 三木康宏, 石井博子, 山崎あすみ，石田孝宣，鈴木貴. HER2 結合タンパクによる HER2 低発現乳癌の特徴の解明. 第 65 回日本組織細胞化学会総会 · 学術集会 2024.10.26

4. Yasuhiro Miki, Erina Iwabuchi, Hiroko Ishii, Kiyohsi Takagi, Muneaki Shimada, Kiyoshi Ito, Takashi Suzuki. Lipid metabolism in endometrial cancer: significance of carnitine palmitoyltransferase 2 in cancer malignant behavior. 第 83 回 日本癌学会学術総会 2024.09.21

5. Ryoki Nishiwaki, Yasuhiro Miki, Erina Iwabuchi, Asumi Yamazaki, Akiko Ebata, Takanori Ishida, Takashi Suzuki. Intratumoral cortisol and 11 β-hydroxysteroid dehydrogenase 1 expression in estrogen receptor-negative breast cancer. 第 83 回 日本癌学会学術総会 2024.09.19

6. Erina Iwabuchi, Yasuhiro Miki, Takanori Ishida, Takashi Suzuki. The clinicopathological significance of zinc transporters in breast cancer. 第 83 回 日本癌学会学術総会 2024.09.19

7. Yurie Soejima, Chiara Raggi, Mirella Pastore, Tiziano Lottini, Toshio Fukusato. Establishment and in vitro and in vivo examination of ITGB6 knockout cholangiocarcinoma cell lines. 第 113 回日本病理学会総会 2024.03.28 名古屋

8. Nozomi Takahashi, Yurie Soejima, Minano Kayamori, Toshio Fukusato.. Expression of PODXL2 in intrahepatic cholangiocarcinoma cell lines. The 113th Annual Meeting of the Japanese Society of Pathology 2024.03.28 名古屋

1. 三木康宏，岩渕英里奈，井上千裕，山崎有人，鈴木貴. 乳癌におけるステロイドホルモンの可視化. 第 99 回日本病理学会東北支部学術集会 2024.12.07

2. 藤井奎称、中井佐和、中嶋裕、河村大輔、石川俊平、副島友莉恵. 病理組織画像 AI モデルによる細胞診画像への有用性の検討. 第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会 2024.11.17 千葉

3. 三木康宏，岩渕英里奈，山崎あすみ，井上千裕，鈴木貴. 乳癌の診断、治療における組織細胞化学. 第 65 回日本組織細胞化学会総会 · 学術集会 2024.10.27

4. 服部公美, 赤羽あゆみ, 藤代瞳, 甲田祐樹, 市村直也, 東田修二. 採血者の技術レベルと患者難易度の関係性の検証. 第 56 回日本医療検査学会学術集会 2024.10.04

5. 藤代瞳, 甲田祐樹, 赤羽あゆみ, 市村直也, 東田修二. 当院における診療科別の採血割合と採血困難度の解析. 第 56 回日本医療検査学会学術集会 2024.10.04
6. 鈴木里佳子、中井佐和、福里利夫、副島友莉恵. 胆管癌組織における PODXL2 の免疫組織化学的発現解析. 第 18 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2024.08.23 新潟
7. 畠山楓、髙橋希、栢森美乃、福里利夫、副島友莉恵. 肝内胆管癌細胞株における PODXL2 の生物学的意義の解析. 第 18 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2024.08.23 新潟
8. 藤代瞳, 二村昭元, 東谷瑞希, 星治, 秋田恵一. 診断精度向上のための前距腓靭帯付着部骨形態の解剖学的解析. 第 49 回日本超音波検査学会学術集会 2024.07.20 仙台
9. 山崎 あすみ, 三木 康宏, 岩渕 英里奈, 江幡 明子, 多田 寛, 原田 成美, 濱中 洋平, 宮下 穣, 佐藤 未来, 本成 登貴和, 柳垣 美歌, 昆 智美, 坂本 有, 鈴木 貴, 石田 孝宣. エストロゲン受容体 (ER) 陰性乳癌組織におけるホルモン濃度と細胞老化との関係. 第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024.07.12
10. 岩渕 英里奈, 三木 康宏, 石井 博子, 宮下 穣, 石田 孝宣, 鈴木 貴. HER2 低発現乳癌における HER2 関連因子発現意義の検討. 第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024.07.11
11. 星　治. マグネシウムイオンと染色体の凝縮との関係について. 第 129 回日本解剖学会総会 · 全国学術集会 2024.03.22 沖縄県那覇市

[社会貢献活動]

1. 星　治：日本解剖学会　評議員, 2012 年 04 月 01 日 - 現在
2. 星　治：一般社団法人日本臨床検査学教育協議会 分科会会長（解剖学）, 一般社団法人日本臨床検査学教育協議会, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
3. 副島友莉恵，お茶の水会検査同窓会　副会長, 2016 年 04 月 01 日 - 現在
4. 副島友莉恵，2024 年二級臨床検査士資格認定試験「病理学」試験実行委員 , 日本臨床検査同学院, 2024 年 07 月 27 日 - 2024 年 07 月 28 日
5. 副島友莉恵, 2024 年一級臨床検査士資格認定試験「病理学」試験実行委員, 日本臨床検査同学院, 2024 年 11 月 09 日 - 2024 年 12 月 01 日

血液・生体システム解析学分野

Hematology and Biophysical Systems Analysis

教授 伊藤　南（～2023 年 3 月生体機能システム学分野）
准教授　西尾　美和子（～2023 年 3 月先端血液検査学分野）
助教 本間　達（～2023 年 3 月生体機能システム学分野）
特別研究員　吉森 真由美 (～2023 年 5 月、～2023 年 3 月先端血液検査学分野）
非常勤講師 新井文子（～2023 年 3 月先端血液検査学分野）
非常勤講師 佐伯久美子（～2023 年 3 月先端血液検査学分野）
非常勤講師 今留謙一（～2023 年 3 月先端血液検査学分野）
非常勤講師 中山洋一（～2023 年 3 月先端血液検査学分野）

(1)　分野概要

＜旧生体機能システム学分野＞
医用生体計測を通して得られる生体情報はわれわれに多くの情報を伝えてくれる。サイバネティクスの創始者として知られるノーバート・ウィーナーは、生体もまたある種の制御システムであることを示唆した。「生体システムのメカニズム」をキーワードにして、私たちは生体情報が示す我々の複雑な生体システムの機能や作用機序を明らかにし、それを利用して生体機能を制御する方法を開発することを目指している。伊藤らは行動解析、ニューロンの電気活動記録、数理モデル解析などを連携させて、視知覚における物体の輪郭線や触感と連合させた面の素材表現の視覚情報処理システムのメカニズムを探っている。本間らは頭部組織における熱伝導モデルを起点として、脳低温療法時の脳の精密な温度管理を可能とする温度制御システムの開発を進めている。

＜旧先端血液検査学分野）
血液検査学、血液学、臨地実習を担当する。血球の産生機構・形態・機能、止血・凝固線溶機構、代表的な血液疾患の病態や臨床像の講義とともに基本的な血液検査学の実習を行っている。大学院では、血液学的、分子遺伝学的手法を駆使し、疾患の早期診断、治療・予防、病態解析に貢献するような分子・遺伝子検査の応用力を身につける。臨床的観察や検査に根ざし、臨床に還元できる研究を行っているが、現在は EBV 陽性 T、NK 細胞腫瘍の病態解明と治療法の開発を中心に研究を展開している。

(2)　研究活動

＜旧生体機能システム学分野＞
1) 視覚情報統合のための生体情報処理システムの数理モデル解析
2) 状況に応じた視覚情報の統合と認知のための神経メカニズムの解明
　我々の視知覚は多様な外部環境下でも安定した外部情報の認知を可能とする柔軟さを持つ一方で刺激本体の特性以外にも周囲の状況、過去の経験や学習より変化するダイナミクスを実現しる。①物体の輪郭線の断片的情報を統合するプロセスと②物体表面の質感認知における視覚情報と触感情報の相互作用を対象にして、大脳皮質視覚野の中間段階の情報処理メカニズムの解明を通して、そうした柔軟な視覚情報処理のメカニズムを明らかにしたいと考えている。特に同一の動物個体において、心理物理学的手法による行動解析と単一細胞記録を主とする電気生理学的な活動の記録を同時に行うことにより、両者の因果関係を明らかにすることで視知覚のメカニズムを解明することを目指している。ニホンザル 3 頭を用いて素材弁別課題の訓練を行った。素材弁別のカテゴリーを表す参照刺激として 5 種類の素材（金属、布、ジェルシート、木の表皮、毛皮）を選定し、これら 5 種の素材をペダル操作により区別するように訓練した。さらに解答用のペダルの位置を毎日変更して視認させるようにして、

触感情報と視覚情報の関連付けを強化した。訓練の進捗に合わせて 96 種類の新規素材サンプルに対する素材カテゴリー分類を調べた。これと並行して、人を対象に同様の素材弁別課題を行わせ比較対照とした。
3) 医療支援のための数理モデルを利用した身体情報計測法の開発
　医療，リハビリテ—ションなどに応用可能な生体の機能制御法の開発を目指している。そのために，生体システムの特徴である複数の現象の相互関連を総合的に把握する方法と生体現象の非線形性，個別性，経時変化やその環境条件を表現する数学的方法の研究を行っている。個体差，経時変化、詳細な把握が困難であること等から生じる不確定性に対処するために、生体機能の適応的制御法の研究を行っている。そうした成果の応用として脳低温療法時の脳の温度制御システム開発を進めた。本年度は AI による予測的な制御を取り入れた温度制御法を開発し、その有効性をシミュレーション用頭部モデルを用いて比較検討した。

＜旧先端血液検査学分野＞
1) 造血器腫瘍発症機構の解明と治療法の開発
2) EB ウイルスによる T, NK 細胞腫瘍発症のメカニズムの解明と治療法の開発
3) 造血器腫瘍診断試薬キットの開発
4) 再生医療技術を用いた新規治療法の開発
5) ヒト iPS 細胞由来褐色脂肪細胞の機能解析
　上記をテーマとして、学内では血液内科、小児科、神経内科、ウイルス制御学、再生医療センター、包括病理学、学外では聖マリアンナ医科大学、国立成育医療研究センター研究所、大阪母子医療センターなどと共同研究を行っている。複数企業との共同研究も行っている。

(3) 教育活動

＜旧生体機能システム学分野＞
1) 学部教育　対面での講義、実習を実施した。演習ではメールによる添削指導を継続して実施した。4 年間の担当教科を通じて臨床検査技師に必要な医用工学概論をカバーするとともに、統計学的なデータの取り扱いを修得させることを意図した。臨床検査総合管理学では検査管理法の基礎的な知識や安全管理の基本的な考え方を修得させた。医用システム工学（Ⅰ）では、生理学検査の原理を理解するのに必要な、電気信号の周波数フィルター、電気信号の増幅、生体の電気特性と安全管理について修得させた。実習では実際の電気計測通じて、体験的に知識の応用を学ぶことを目標とした。医学情報処理演習（Ⅰ）ではデータ処理の基礎として、表計算ソフトの利用と平均値を比較する統計処理の原理と方法を修得させた。医用システム情報学（Ⅱ）では医療の IT 化を理解するために必要な、情報科学における情報の取り扱い、コンピュータやネットワークの仕組み、ネットワークでの情報セキュリティー、電子カルテや病院情報システムの仕組みについて基本的な考え方を修得させた。実習では C 言語によるプログラミングを通じて、プログラムのルールを応用、工夫することにより目的の計算処理を達成することを修得させた。医用情報処理演習（Ⅱ）では EBM, 学術情報や文献のデータベースの利用法、２変量の関係を解析する統計処理の原理と方法、生物統計学の特性について修得させた。近年、統計解析が重視される風潮に鑑み、統計検定の手法だけではなく、回帰分析による多変量解析やベイズ推定の考え方についても解説した。専攻主任として総合講義（４学年）を主催した。
2) 大学院教育　研究教育の場を通じて、課題解決の為に自ら知識、技術を系統立てて収集するノウハウを学び、今後国内外の様々な方面で活かせるような力を修得させることを意図した。神経システムを題材とした古典的な英文論文や英文教科書の読解を積極的に行い、生体の仕組みを論理的に理解するための考え方を学ぶ。分野内のゼミ、修士課程および博士課程の特論においては、システム神経科学の基本的な考え方、大脳における視覚情報処理システムの概要、システム神経科学と人工知能の接点について講義します。保健衛生学研究科と合同で実施する「保健医療情報学」では異なる専攻の接点を見いだす貴重な機会ととらえ、幅広い実践的なテーマについて、非常勤講師によるオムニバス形式の講義を主催した。講義中の質疑応答を重視し、グループ討論を取り入れるなどして、学生の参加を促す試みを取り入れた。検査科学専攻の大学院生および全教員による生体検査科学セミナーを年 4 回実施し、専攻全体としての研究力向上に務めた。

＜旧先端血液検査学分野＞
1) 学部教育　血液検査学、血液学を担当する。血球の産生機構 · 形態 · 機能，止血 · 凝固線溶機構、代表的な血液疾患の病態や臨床像の講義とともに基本的な血液検査の実習を行っている。その他、研究の進め方や論文のまとめ方など研究報告の基本を学ぶ特論（卒業研究）並びに血液検査の実習として東京医科歯科大学病院 検査部の協力のもと臨地実習が実施されている。なお、以上の講義、実習は血液検査部、臨床検査医学分野の協力のもとに行われている。
2) 大学院教育　本科目では、血液学的、分子遺伝学的手法を駆使し、疾患の早期診断、治療 · 予防、病態解析に貢献するような分子 · 遺伝子検査の応用力を身につける。特に臨床的観察や検査に根ざし、臨床に還元できる研究を行っている。大学院生の解明した EBV 陽性発症分子機構は、治療薬開発につながっている。研究内容は必ず英語論文にまとめ、その成果を世界に発信できるように指導する。

具体的な教育内容は，1) 疾病，特に血液疾患の成因，病態を深く追求，理解し，疾病の本態を考察する．2) 病因，病態の解明や診断に役立つ細胞 · 分子 · 遺伝子検査，分子 · 遺伝子レベルの情報伝達解明の分子生物学的実験技法、血液学的検査法の理論や技術を習得する。3) 血液病学、血液検査学領域における研究の動向や方法を習得する。4）国内外の学会及び主要国際学術誌に血液検査学、臨床血液病学に関連する研究を発表し、自立して研究できるように、かつ国際的学際的研究のリーダーとしての能力を習得できるようにする。英語論文の読み方、作成セミナーも行う。

(4) 教育方針

＜旧生体機能システム学分野＞
科学技術、医療技術の急速な進歩は医学 · 医療のレベルを著しく向上させるともに、臨床検査技師が果たす役割も変化させている。管理システムの導入，IT 化，機械化、新しい検出技術の開発、新しい統計情報処理などの導入に伴い，医療 · 生命科学から工学にわたる幅広い領域にまたがる多様な知識や技能が要求されるようになってきており、そうしたニーズに合う人材育成を目指す。
1) 学部教育　臨床検査技師として必要な実務的な技術を身につけるだけでなく、生体情報とその検出技術の背景、原理、システムのメカニズムを良く理解し、既成の技術の利点欠点をよく理解して「応用する」、新しい技術に容易に適用できる人材を育成することを目的とする。医用工学概論に関わる科目を通して、①身体の機能の電気的な性質、②生理検査の原理、③機器類の安全な使用法を理解。修得し、合わせて工学的な見方を学ぶことにより、論理的な思考を促す。
2) 大学院教育　医療の高度化 · 先端化には、基礎的な生命科学研究や技術開発等を通じてその進歩に寄与する、工学と生命科学の橋渡しができる人材が必要です。高度の専門性と多様性を兼ね備えた新しいタイプの臨床検査技師を養成することを目的とする。自ら知識、技術を系統立てて収集すると同時に、新しい課題の設定 · 解決を自律的に行う能力を養成する。また英文による論文や教科書の読解を積極的に進めて、国内外の様々な方面で能力を活かせるような力を養う。

＜旧先端血液検査学分野＞
学際的，国際的な視野に立ち、豊かな人間性と高い倫理観を備え、自己で問題を提起、解決し、生涯発展を続ける医療人を養成する。

(5) 臨床活動および学外活動

＜旧先端血液検査学分野＞
研究：当研究グループは日本医療研究開発機構（AMED）「難治性疾患実用化研究事業」にて、基礎研究として病態解明と新規治療法の開発を行っている。CAEBV 患者会 SHAKE(http: //caebv.com/) を通じ、慢性活動性 EBV 感染病患者支援活動を行っている。

(6) 臨床上の特色

＜旧先端血液検査学分野＞
EBV 陽性疾患、特に慢性活動性 EB ウイルス感染症では，特に成人例を専門に診療する唯一の機関として国内外から患者を紹介されている。患者検体の解析を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Mizuno M, Kimbara S, Ichise H, Ishikawa N, Nishihara Y, Nishio M, Sekiya I.. Cleaning methods for biosafety cabinet to eliminate residual mycoplasmas, viruses, and endotoxins after changeover. Regen Ther. 2024.12; 3(28); 73-80

2. Mitsuru Mizuno, Kouichirou Yori, Toshikazu Takeuchi, Takaaki Yamamoto, Natsumi Ishikawa, Megumi Kobayashi, Miwako Nishio, Ichiro Sekiya. Evaluation of cleaning methods for change-over after the processing of cell products to avoid cross-contamination risk. Regen Ther. 2024.06; 26; 489-495

3. Miwako Nishio, Minori Saito, Mayumi Yoshimori, Yuki Kumaki, Ayaka Ohashi, Eri Susaki, Ichiro Yonese, Megumi Sawada, Ayako Arai. Clinical significance of anti-Epstein-Barr virus antibodies in systemic chronic active Epstein-Barr virus disease. Front Microbiol. 2024.01; 14; 1320292

1. Honma, S; Wakamatsu, H. Estimation of Temperature Distribution in the Brain Using the Temperatures of Blood Inflow and Outflow for Brain Temperature Control IEEJ TRANSACTIONS ON ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERING. 2024.10; 19(10); 1683-1689

2. 中原 正子, 中山 寛尚, 西尾 美和子, 佐伯 久美子, 楠本 智章, 長嶺 憲太郎. 研究者の最新動向　末梢血 microRNA を用いたアルツハイマー型認知症早期検査法および発症予防法の検討 Precision Medicine. 2024.07; 7(8); 653-657

[書籍等出版物]

1. 米代武司、斉藤昌之、西尾美和子 他. 褐色脂肪組織. シーエムシー出版, 2024.05

[講演・口頭発表等]

1. M. NISHIO, M. YOSHIMORI, K. YOSHIOKA, Y. MAEKAWA, R. HARA, T. YOKOTA, R. NABESHIMA, A. ARAI. Functional Analysis of EBV-Derived MicroRNAs in Systemic Chronic Active EBV Disease Using Novel Antisense Oligonucleotides. ASH Annual meeting 2024.12.07

2. 吉森 真由美, 西尾 美和子, 吉岡 耕太郎, 前川 友璃, 原 倫太朗, 横田 隆徳, 鍋島 竜介, 新井 文子. EBV 由来マイクロ RNA を標的とした核酸医薬の EBV 関連 T/NK リンパ増殖性疾患に対する効果. 日本血液学会学術集会 2024.10.12

3. 上村 悠, 西尾 美和子, 下牧 瑠那, 吉森 真由美, 大橋 彩香, 伏屋 愛加, 宮部 斉重, 新井 文子. 全身性慢性活動性 EB ウイルス病の診断と治療効果判定における CXCL10 の意義. 日本血液学会学術集会 2024.10.12

4. 西尾 美和子, 緒方 勇亮, 吉森 真由美, 伏屋 愛加, 大橋 彩香, 須田 亙, 新井 文子. 慢性活動性 EB ウイルス病 (sCAEBV) における腸内細菌叢のメタゲノム解析. 日本血液学会学術集会 2024.10.12

5. 福田 笑夏, 吉森 真由美, 南川 愛莉, 水谷 咲, 新井 文子, 西尾 美和子. 慢性活動性 EB ウイルス病患者由来 iPS 細胞から分化誘導した単球の特性解析. 日本血液学会学術集会 2024.10.12

6. Minami Ito, Hitomi Misawa, Moe Yoshida, Mizushima Noa. Long term stability and changes in material perception associating haptic and visual inspections in non-human primates.. 第４７回日本神経科学大会、第８回アジアオセアニア神経科学連合コングレス 2024.07.24 福岡

7. Mayumi Yoshimori, Miwako Nishio, Kotaro Yoshioka, Yuri Maekawa, Rintaro Hara, Takanori Yokota, Ryusuke Nabeshima, Ayako Arai. The Efficacy of Oligonucleotide Therapeutics on EBV-positive T- or NK-cell Lymphoproliferative Diseases Targeting EBV derived microRNAs. 日本核酸医薬学会 2024.07.17

8. Miwako Nishio, Airi Minamikawa, Mayumi Yoshimori, Emika Fukuda, Saki Mizutani, Ayaka Ohashi, Ayako Arai. Elucidating the Pathogenic Mechanisms of Angiopathy in Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Disease through Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Endothelial Cells. The International Symposium on EBV & KSHV 2024.07.01

9. Hroshi Yasui, Aika Fuseya, Miwako Nishio, Masahide Yamamoto, Yu Uemura, Keisuke Tanaka, Yoshihiro Umezawa, Kumi Oshima, Fumiaki Sano, Takehiko Mori, Masanao Sasaki, Akihiro Hirakawa, Ryuji Koike, Ken-ichi Imadome, Shoichi Ohga, Ayako Arai. Clinical Features and Prognostic Factors of Adult Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Disease: A Retrospective Analysis using Japanese Registry Data. The International Symposium on EBV & KSHV 2024.07.01

10. Aika Fuseya, Miwako Nishio, Masahide Yamamoto, Yu Uemura, Keisuke Tanaka, Yoshihiro Umezawa, Kumi Oshima, Fumiaki Sano, Takehiko Mori, Masanao Sasaki, Akihiro Hirakawa, Ryuji Koike, Hiroshi Yasui, Ken-ichi Imadome, Shoichi Ohga, Ayako Arai. Clinical Features and Prognostic Factors of Adult Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Disease: A Retrospective Analysis Using Japanese Registry Data. The European Hematology Association 2024.06.14

1. 井上栞杏、一ノ瀬彩加、小林久美子、工藤倫子、上畠さち、影山将克、佐伯久美子、西尾美和子. ヒト肥満遺伝子型 iPS 細胞を用いた褐色脂肪細胞活性化因子の探索. 日本肥満学会 2024.10.20

2. 西原悠人，本間達. 選択式脳低温療法を模擬する模型実験データに基づく脳温分布推定 AI の検証. 第 18 回日本臨床検査学教育学会 2024.08.23 新潟

3. 伏屋　愛加、西尾　美和子、山本　正英、森　毅彦、平川　晃弘、佐々木　誠治 、小池　竜司、今留　謙一、大賀　正一、新井　文子. 全身性慢性活動性 EB ウイルス病成人例の臨床像と予後因子の解明　レジストリデータを用いた後方視的解析. 日本内科学会総会 2024.04.13

4. 伏屋　愛加、西尾　美和子、山本　正英、森　毅彦、平川　晃弘、佐々木　誠治 、小池　竜司、今留　謙一、大賀　正一、新井　文子. 全身性慢性活動性 EB ウイルス病成人例の臨床像と予後因子の解明　レジストリデータを用いた後方視的解析. 日本内科学会総会 2024.04.13

5. 本間達. 医用工学の数学要素に対する学生の行動分析. 電気学会教育フロンティア研究会 2024.03.29 東京

6. 福田 笑夏, 南川 愛莉, 水谷 咲, 吉森 真由美, 新井 文子, 西尾 美和子. 慢性活動性 EB ウイルス病患者由来 iPS 細胞を用いた単球への分化誘導. 第 23 回日本再生医療学会 2024.03.23

7. 井上栞杏、小林久美子、工藤倫子、上畠さち、影山将克、佐伯久美子、西尾美和子. ヒト iPS 細胞由来褐色脂肪細胞の活性化作用因子スクリーニング系の開発. 第 23 回日本再生医療学会 2024.03.22

8. 南川 愛莉, 福田 笑夏, 水谷 咲, 吉森 真由美, 新井 文子, 西尾 美和子. 慢性活動性 EB ウイルス病患者由来 iPS 細胞を用いた血管内皮細胞の作製および解析. 第 23 回日本再生医療学会 2024.03.22

9. 小池薫、大橋彩香、吉森真由美、下牧瑠那、坂巻柚月、倉田盛人、西尾美和子、新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病モデルマウスを用いた BCL2 阻害剤 Venetoclax の有効性の評価. 第 32 回 EBV 感染症研究会 2024.03.17

10. 西尾 美和子. 再生医療技術を用いた新規治療薬の開発に向けて. 日本応用酵素協会誌 2024.03.01

11. 伏屋 愛加, 西尾 美和子, 山本 正英, 森 毅彦, 佐々木 誠治, 平川 晃弘, 小池 竜司, 新井 文子. 全身性慢性活動性 EB ウイルス病成人例の臨床像と予後因子の解明　レジストリデータを用いた後方視的解析. 日本内科学会雑誌 2024.02.01

[社会貢献活動]

1. NISTEP 専門調査員, 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター, 2020 年 04 月 01 日 - 現在

2. 日本再生医療学会 U45 サブメンバー, 2022 年 07 月 21 日 - 現在

3. 日本臨床検査学教育協議会 臨床血液分科会 副会長, 2022 年 08 月 18 日 - 現在

生命情報応用学分野

Clinical Information and Applied Sciences

教　授	角　　勇樹
准教授	赤座　実穂
助　教	河原　智樹
非常勤講師	原　　恵子、有竹　清夏、阿古　美奈、髙橋　修、揃田　陽子、遠藤　順治、市川　由理、足立　善昭、加藤　優子、平光　史朗
博士後期	園原　照隆
博士前期	東口　ゆきな、駒走　雄介、下沖　咲良、岡田　梨沙、川村　昂希、垂井　姫依
卒業研究	礒　なつみ、上　千尋、佐々木　花、鈴木　明日香、中込　怜那、八角　千晴、青木　璃衣菜、高野　日向子、竹村　杏月、馬場　理央奈、ミラー　龍音　ロバート、毛利　有沙

(1)　分野概要

生体の営みを、分子 · 細胞レベルから器官レベル、さらには統合されたシステムとしての生体のはたらきを測定 · 解析する生理機能検査法，臨床医学、人の集団としての公衆衛生について研究、教育を行っている。

正式名称は「東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 生命理工医療科学専攻 生命情報応用学分野」です。以前は東京医科歯科大学「生命機能情報解析学」の名称で呼吸、循環、神経の研究、教育を行っていたが、循環器分野が分かれ、2018 年保健衛生研究科から医歯学総合研究科に改組する機会に「呼吸器 · 神経系解析学」と改称した。また 2023 年度に生体検査学講座全体の組織改革があり、公衆衛生分野も担当することになり「生命情報応用学分野」に改称した。2024 年 10 月に東京医科歯科大学 と東京工業大学が合併して東京科学大学となった。

(2)　研究活動

研究はそれぞれ独立して行っており、各自が principal investigator である。元来の専門領域、呼吸器内科、神経内科、小児科をベースに発展させている。角は呼吸器分野では新規肺機能検査の臨床的意義，気管支喘息の機序と endotype 分類、肺疾患に対する遺伝子治療、AI を用いた画像診断、臨床診断の研究している。赤座は中枢神経領域では脳波研究、てんかん研究、末梢神経領域では新規末梢神経検査法の開発を行っている。河原は公衆衛生領域の研究を行っている。

(3)　教育活動

教育では臨床医学全般の教育を行うと共に臨床生理機能検査 (肺機能、脳波、末梢神経検査、各種エコーなど) の講義および実習にて理論および技能を修得させている。卒業研究、大学院学生教育では各専門領域分野研究を行う。角は医学科の教育も行っている。

1) 学部学生教育

1 年次には、先端医療技術論の講義を行う。2 年次には臨床病態 1 講義で臨床医学の基礎を教授する。臨床生理検査学 1 の講義と実習では脳波検査、肺機能検査、心電図検査、エコー検査などの生理検査学基礎の他、新たにタスクシフトで臨床検査技師に求められている検体採取や静脈路を確保など基本的臨床行為の理論と実践を行っている習得。2 年次後期、3 年次前期の臨床生理検査学 2 の講義と実習では、さらに高度な神経生理検査、呼吸器系検査、循環器系検査、超音波検査、画像解析、サーモグラフィー、平衡機能検査、眼底検査などの生理機能検査、

およびバイタルサインなど基本診察手技、救命救急処置など臨床手技全般の教育を行う。臨床生理検査学 1 および臨床生理検査学 2 は疾患生理機能解析学分野と共同で行っており、少人数グループに分かれて各自が異なったスケジュールでクルズスや実習をアクティブラーニング形式で行う。3 年次後半と 4 年次には卒業研究を行う。卒業研究では各自に割り当てられた研究テーマを中心に、研究手法全体について指導を行う。4 年次後期に臨地実習の指導を行う。臨地実習では、血液ガス測定を含む呼吸機能検査、脳波検査、誘発電位検査の実技指導を行う。

角は医学科、研修医にも医学教育を行なっている。医学科 1 年生には MIC(Medical Introductory Course) 講義、2 年生には呼吸生理学、3 年生には胸部画像診断、4 年生には胸部 X 線診断のための気管支解剖、5 年生には CC(Clinical Clerkship) で呼吸器疾患異常所見のクルズス、研修医にはイブニングセミナー講義を行っている。さらには全学生への AI 教育にも参画している。文部科学省では「AI 戦略 2019」において、2025 年度を目標年度として、1. 文理を問わず、全ての大学 · 高専生が初級レベルの能力を習得すること、2. 大学 · 高専生が、自らの専門分野への応用基礎力を習得することが掲げられた。本学では、医学 · 歯学分野における数理 ·DS·AI 教育のモデルカリキュラム · 教材を開発し、2021 年度より本学のカリキュラムに組み込むとともに全国の医学部、歯学部へ普及 · 展開することを目指しており全学共通科目に「医療と AI· ビッグデータ入門」を新設し、医学科歯学科では必修その他では自由科目として「医療と AI ビッグデータ応用」を開講した。さらに選択科目としてには「AI 実践演習」を開講した。

2) 大学院教育

大学院前期 (修士) 課程では生体検査科学特論 II、呼吸器 · 神経系解析学演習、呼吸器 · 神経系解析学実習、呼吸器 · 神経系解析学課題研究、生命情報応用学演習、生命情報応用学実習、生命情報応用学課題研究を担当する。生体検査科学特論 II では医療現場において現在行われてる臨床検査について理解を深め、さらに将来へ向けて の研究課題などを考察する力を養うことを目的としている。呼吸器 · 神経系解析学、生命情報応用学分野の各教科では新しい知識や技術を教育するとともに，すでに解明されている領域とそうでない領域を明確にし，いまだ不明な領域を明らかにするための科学的研究態度の修得をめざしている。

大学院後期 (博士) 課程では病態推論特論、生命情報応用学演習、生命情報応用学研究実習を担当している。病態推論特論では検査データから病態を推論するトレーニングを行い，病態の理解ができる人材を要請する。生命情報応用学では、研究のための理論と技術の習得を目指します。 特に、研究領域における最先端の医学知識、解析方法論を学びます。

(4) 教育方針

教育で重要なのは、学習に対するモティベーションをつけることである。特に学部低学年では基礎学習がどのように役立つのかが解らず、重要であるにも関わらず学習意欲が湧かない学生が多い。そのため実習を多くし、early exposure を行なって臨床現場でどのように必要とされるか理解されるように工夫している。学習することを渇望し、乾いた砂に水が染み込むような教育を目指している。

各論としては生理機能検査は患者と直接接して行う臨床の front line であり、特に臨床医学の立場から生理検査について教育している。神経，呼吸，循環、消化器などの臨床生理学的検査、画像診断検査について理論や技術を教え、それらを応用した研究方法を修得させることを目標としている。生理機能検査を行うには、機器の操作、安全対策、生体現象の記録、データの整理 · 解析の技術と知識のみならず，直接人に接する検査であるので、疾病に対しての医学的知識、医療倫理、コミュニケーション能力なども要求される。また患者に対して緊急処置を要する検査結果について、速やかに認識し適切な処置を行える能力を涵養することも重要視している。これらに加え，検査時の患者の急変への対応についても教育している。

(5) 臨床活動および学外活動

呼吸器専門医 · 指導医、アレルギー専門医、内科専門医の角は当院呼吸器内科外来を行っている。また研究会等の世話人や discussant を行っている。次世代の医師養成のため総合研修センターにおける研修医に対するイブニングセミナー講義、M1 での MIC(Medical Introductory Course) 講義、呼吸器内科では CC(M5)、PCC(M4)、呼吸器ブロック講義 (M3)、生理学講義 (M2) 呼吸生理学を担当している。

神経内科医の赤座は、神経内科疾患一般の他、末梢神経障害に精通し、医学部附属病院における末梢神経検査の施行、結果評価の中心的役割を果たしている。

河原は公衆衛生研究データー収集の為、各種調査を行なっている。

精神科医で日本てんかん学会専門医 · 指導医、日本臨床神経生理学会認定医（脳波)、精神保健指定医の原は日本臨床神経生理学会代議員、日本薬物脳波学会評議員、日本てんかん学会評議員理事会幹事を務めている。当院ではてんかん外来を週 1 回行い、セカンドオピニオンも含め、多くの患者の診療にあたっている。また当院脳外科と協力し、週 1 回の脳波カンファレンス、月 1 回の脳波 · てんかんレクチャーを行っている。

(6) 臨床上の特色

角は内科学会総合内科専門医、呼吸器学会指導医かつ専門医、アレルギー学会専門医であり、内科全般の患者診察を行っているが、特に気管支喘息を専門にしている。

赤座は末梢神経機能検査の専門家であり、神経内科患者のほとんどの検査を行なっている。また糖尿病患者における末梢神経障害について臨床研究を行っている。

原はセカンドオピニオンも含め、多くのてんかん患者の診療にあたっている。特に妊よう性のある女性の治療を専門とし、多くのてんかん治療を受けた女性の妊娠出産を助けている。平成 25 年からは産婦人科医師と協力し、てんかん合併妊娠に関する事前コンサルタントを行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Tomoki Kawahara, Satomi Kato Doi, Aya Isumi, Yusuke Matsuyama, Yukako Tani, Takeo Fujiwara. Impact of COVID-19 pandemic on children overweight in Japan in 2020. Pediatr Obes. 2024.08; 19(8); e13128

2. Kawahara T, Isumi A, Ochi M, Doi SK, Surkan PJ, Fujiwara T*. Association between maternal dissatisfaction with oneself at birth and shaking and smothering toward the offspring up to 18 months old. Child Abuse Negl. 2024.07; 153; 106816

3. Tani Y, Kawahara T, Sugihara G, Machida M, Amagasa S, Murayama H, Inoue S, Fujiwara T, Shobugawa Y. Childhood Book Availability Helps to Preserve Cognitive Function in Older Adults With Low Education: Results From the NEIGE Study. The journals of gerontology. Series B, Psychological sciences and social sciences. 2024.06; 79(6);

4. Kawahara T, Sumi Y. GPT-4/4V's performance on the Japanese National Medical Licensing Examination. Medical teacher. 2024.03; 47(3); 450-457

5. Goto Y, Nagamine Y, Hanafusa M, Kawahara T, Nawa N, Tateishi U, Ueki Y, Miyamae S, Wakabayashi K, Nosaka N, Miyazaki Y, Tohda S, Fujiwara T. Association of excess visceral fat and severe illness in hospitalized COVID-19 patients in Japan: a retrospective cohort study. International journal of obesity (2005). 2024.01; 48(5); 674-682

6. Okubo Luna, Takeda Naoya, Suzuki Yoshihiro, Nakashima Kuniya, Asano Motoyo, Koike Fumika, Ide Akane, Sumi Yuki. The characteristic serum cytokine profiles in asthma exacerbation. Journal of Medical and Dental Sciences. 2024; 71; 27-35

7. Tomari Kouki, Taketomi Hirohisa, Magota Miyuki, Kawahara Tomoki, Shimabukuro Wataru, Nakanishi Koichi. Features of pediatric idiopathic nephrotic syndrome in the Sakishima Islands, Japan: An epidemiological study(タイトル和訳中) 琉球医学会誌. 2024; 43(1-4); 11-17

1. 大重 舞奈, 二宮 惇, 赤座 実穂, 河原 智樹, 角 勇樹. 大規模言語モデルは臨床検査技師国家試験に合格することができるか 臨床検査学教育. 2024.09; 16(2); 99-105

2. 原恵子. 成人の難治てんかん 波.

3. 原恵子. てんかんと社会—精神科の立場から— Epilepsy.

[書籍等出版物]

1. 赤座実穂. パーキンソン病、認知症.

[講演・口頭発表等]

1. Evaluation of motor unit electrical current activity using magnetic field measurement. 第 52 回日本臨床神経生理学会学術大会 2024.10.24

1. 赤座実穂、大谷泰、叶内匡、川端茂徳、渡部泰士、宮野由貴、足立善昭、関原謙介、横田 隆徳. 磁場測定による運動単位の電気活動評価. 第 65 回日本神経学会学術大会 2024.05.31

2. 下沖 咲良, 赤座 実穂, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 宮野 由貴, 渡部 泰士, 関原 健介, 足立 善昭, 角 勇樹, 川端 茂徳. 生体磁場計測装置を用いた C7 神経根の機能評価. 臨床神経生理学 2024.10.01

3. 駒走 雄介, 赤座 実穂, 上中 沙衿, 山本 祐輔, 宮野 由貴, 渡部 泰士, 関原 健介, 足立 善昭, 角 勇樹, 川端 茂徳. 神経磁場計測装置を用いた腰部活動電流の左右差の検討. 臨床神経生理学 2024.10.01

4. 岡田 梨沙, 赤座 実穂, 角 勇樹, 原 恵子. phenytoin の長期服用における血中濃度変化について. てんかん研究 2024.09.01

5. 東口　ゆきな. 各種医療系国家資格試験における AI 解答能力. 第 56 回日本医学教育学会大会 2024.08.09 帝京大学板橋キャンパス

6. 大重　舞奈, 角　勇樹. 深層学習を用い COVID-19 患者の最終転帰を予測する Web サイト構築. 第 6 回 日本メディカル AI 学会学術集会 2024.05.15 名古屋市公会堂

7. 後藤 夕輝, 長嶺 由依子, 花房 真理子, 河原 智樹, 那波 伸敏, 藤原 武男. 日本の COVID-19 入院患者における内臓脂肪過多と死亡との関連. Journal of Epidemiology 2024.01.01

8. 河原 智樹, 藤原 武男, 土井 理美, 伊角 彩, 越智 真奈美. 父親の育児関与は幼児の不慮の事故を減少させる RCT 研究の結果から. Journal of Epidemiology 2024.01.01

9. 原恵子. 脳波判読の基礎. 4th　明後日の会

10. 石塚聖洋、宮崎泰成、須原宏造、岡本師、立石知也、古澤春彦、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、稲瀬直彦. 抗原吸入誘発試験の有効性と安全性の検討. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会

11. 足立雄太、土屋公威、古澤春彦、内堀健、三ツ村隆弘、佐内文、本多隆行、東盛志、岡本師、立石知也、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 両肺多発浸潤影を呈した間質性肺炎合併肺腺癌の 1 例. 第 171 回日本肺癌学会関東支部会学術集会

12. 内堀健、足立雄太、東盛志、本多隆行、佐内文、三ツ村隆弘、岡本師、立石知也、古澤春彦、土屋公威、藤江俊秀、玉岡明洋、坂下博之、角勇樹、宮崎泰成、稲瀬直彦. 潰瘍型気管支結核と鑑別を要した肺腺癌の 1 例. 第 172 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会

[特許]

1. 生体磁気計測装置および生体磁気計測システム, 特許番号：特許第 7479032 号

[社会貢献活動]

1. 加藤優子，お茶の水会検査同窓会　幹事役員, お茶の水会検査同窓会, 2012 年 08 月 01 日 - 現在

2. 臨床神経生理技術講習会, 臨床神経生理学会, 第 10 回臨床神経生理技術講習会, 東京, 2015 年 04 月 01 日 - 現在

3. 谷千尋，体験型市民講座「健康寿命を延ばす健康チェック」, 東京医科歯科大学

疾患生理機能解析学分野

Department of Clinical and Diagnostic Laboratory Science

教授 柿沼 晴

准教授 松沢 優
助教 山口 純司

大学院生
博士課程：(医歯学専攻 · 消化器病態学分野と共同で指導)
土屋淳、志水太郎、渡壁慶也、持田知洋、稲田賢人

修士課程：
神前莉音（〜2024/03)、真田柊介、千野響子、
倉田 農（2024/04〜)、菅 彩香（2024/04〜)、山田華穂（2024/04〜）

卒業研究生:
４年生 生駒 萌香、大嶋 奏羽、小林 竜太郎、関 菜々子、滝澤 美紅、利岡 萌愛
３年生 小瀧 あかり、寺岡 龍翔、中嶋 莉子、萩森 風花、吉田 茉里花、吉村 日花

(１) 分野概要

本邦では、肝癌を含めた慢性肝疾患によって、年間約４万人が死亡している。現在のところ、致死的肝不全に対する根治的治療法は肝移植のみであるが、絶対的な肝移植ドナーの不足が社会問題となっており、肝癌 · 肝硬変への進展を阻止する治療の開発、及び肝移植以外の治療を確立することは、医学的 · 社会的に、本邦を含め世界的にも大きな問題としてクローズアップされている。同様に胆道 · 膵臓がんでは 50,000 人以上が死亡しており、これらの疾患は依然として早期発見が困難であり、早期発見と進行がんに対する治療法の確立とにむけた進歩が希求されている。
本大学院における生体検査科学講座教室の意義は、次世代の医学 · 検査のための先進的な基礎を確立することにあり、これら先進性の確保のためには臨床情報に基づく研究の推進、および基礎研究に基づく画期的な診断法 · 治療法の開発であるべきであるとの考えに立ち、2020 年に本分野は創設された。
本分野では、研究面では主として肝臓（柿沼)、消化管（松沢)、心臓（山口）とを基軸として、消化器領域、循環器領域における疾病の病態生理の解明、及び、その知見の臨床検査医学と治療への応用とを主たる研究目的として展開し、医学部保健衛生学科検査技術学専攻の学部生、大学院医歯学総合研究科の大学院生に対する教育と研究とを担っている。

(２) 研究活動

柿沼は、ヒト iPS 細胞モデルを利用した疾患病態の解析と分子標的の開発、肝胆道疾患の発生 · 進展を制御する細胞間相互作用の解析、オルガノイド培養系を用いた肝胆膵疾患モデルの開発、肝臓の組織再生 · 線維化機構の解析、という視点で、分子生物学的、細胞生物学的アプローチによる研究を中心に、臨床の場から課題を抽出して研究を展開し、最終的には臨床の医療に還元することを目指している。
松沢は、クローン病をはじめとする炎症性腸疾患の病態生理を解明するために、クローン病責任遺伝子の分子病態などに着目し、診断/治療標的分子の開発を目指している。また、分子生物学的、細胞生物学的アプローチによる研究を用いて、腸管免疫を制御する分子機構、免疫細胞と上皮細胞の相互作用を介した細胞死の制御機構を解明すべく、令和５年度からは、「革新的先端研究開発支援事業（AMED-PRIME)」に採択されて研究活動を展開している。

山口は、大学院医歯学総合研究科循環制御内科学分野と緊密な連携のもとに、同分野との共同研究を進めている。研究内容として、心筋リモデリングにおける細胞外小胞の役割の解析、虚血性心疾患や下肢虚血への新規生体材生体検査科学講座料の開発を行い、病態の解明と治療開発を目指す。また、非接触モニタリングデバイスを用いた睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングや低侵襲一誘導心電図による初期心不全や不整脈の検出など、低侵襲 · 非接触生体モニタリングデバイスの開発を行っている。心臓 · 血管関連疾患に関して幅広く研究を展開し、将来的な臨床応用を目指している。

＜主要な研究テーマ＞
(1) ヒト iPS 細胞を利用した疾患病態モデルの創出と分子標的の開発
(2) 消化器 · 循環器疾患の発生 · 進展を制御する細胞間相互作用の解析
(3) オルガノイド培養系を用いた消化器系疾患モデルの開発
(4) 消化器系組織幹 · 前駆細胞の恒常性を調節する分子機構の解明
(5) 肝再生と線維化を制御する分子機構の研究
(6) パネート細胞を基軸とした炎症性腸疾患における分子病態の解明
(7) 消化管細胞の細胞死制御機構の解析
(8) 心筋リモデリングの過程における細胞間相互作用の解析
(9) 生体適合性 · 吸収性に優れた生体材料を用いた新規虚血治療の開発
(10) 低侵襲 · 非接触生体モニタリングデバイスの開発

(3) 教育活動

学部教育：医学部保健衛生学科検査技術学専攻の学生に対して、生命情報応用学分野と共同で、臨床生理機能検査学の講義と実習を分担して行っている。また、臨床病態学、遺伝子染色体検査学の講義についても分担して行っている。最終学年における卒業研究では、大学院教育とも密接な連携を持って、前記の研究テーマに沿って、各自が独自のテーマで研究を推進している。
大学院教育：前記の研究テーマに沿って、各自が独自のテーマで研究を推進しつつ、大学院修士課程学生を共同で指導している。さらに、消化器病態学分野あるいは循環制御内科学分野と共同で運営する形式で、その大学院博士課程学生を共同で指導している。

(4) 教育方針

学部教育
臨床生理機能検査学、臨床病態学、遺伝子染色体検査学に関する基礎的な知識を習得するとともに、卒業研究では大学院教育と密接な連携を持って、消化器領域あるいは循環器領域の疾患病態生理に関する研究を行い、研究を進めるために必要な基礎的な技能と科学的な思考法とを習得することを目標とする。

大学院教育
消化器疾患領域と循環器疾患領域における、優れた医学研究者を育成することを教育目的とする。広い視野に立ち次世代をリードする研究者を育成することが本分野における大学院教育のゴールである。
分子 · 細胞レベルから器官までの個々の要素が統合されたシステムとしての生体のはたらきを、解明 · 解析する手法について学ぶ。特に、消化器領域と循環器領域を中心とする疾患病態生理学を対象とし、疾患生理学理論と、診断に必要な検査技術とを学ぶ。さらに、細胞生物学、分子生物学、再生医学的手法から、新規の病態解明、疾患診断検査法、治療法の開発をめざす研究手法を修得する。

到達目標
①消化器疾患あるいは循環器領域における病態生理解明のための、細胞生物学、分子生物学、再生医学的な研究手法について学ぶ
②消化器領域あるいは循環器領域における臨床生理検査法、画像診断法の理論と技術とを修得する。
③新規の病態解明、疾患診断検査法、治療法の開発をめざす研究手法について学ぶ。

(5) 臨床活動および学外活動

柿沼は東京科学大学病院 · 消化器内科に協力する形式で、主に肝胆膵疾患の診療に参画している。肝胆膵疾患の診療における、医用工学を駆使した種々の診断技術の開発 · 実施を行う。さらに、教育関連病院と連携し、消化器病態学分野と共同で運営する形式で、多数の多施設共同研究を行っている。
今年度は、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）に支援をうける班研究として、肝炎等克服緊急対

策研究事業、B 型肝炎創薬実用化等研究事業含む 5 つの研究班に参画して研究を遂行した。学会発表、研究業績は下記に示す。

学会活動としては、米国肝臓病学会、日本消化器病学会（評議員）、日本肝臓学会（評議員）、肝細胞研究会を中心として活動を進めており、これらの学術集会、学術誌の運営に協力している。
松沢は、日本免疫学会、日本臨床免疫学会を中心として活動を進めており、これらの学術集会、学術誌の運営に協力している。
山口は米国心臓協会、日本循環器病学会を中心として活動を進めており、これらの学術集会、学術誌の運営に協力している。

(6) 臨床上の特色

柿沼は東京科学大学病院に協力する形式で肝胆膵疾患の診療を行い、専門外来としての「肝炎 · 肝癌撲滅外来」に参画し、慢性肝炎、肝硬変、肝癌の診療を行っている。
ウイルス性肝炎の治療については特に豊富な治療経験をもち、「お茶の水 liver カンファレンス共同研究」では多くの関連病院の協力も得て、2000 例以上の症例経験を蓄積し、本邦有数の臨床研究となった。本研究により治療効果の正確な予測が可能となることが明らかとなり、さらに、発癌メカニズムと発癌リスクの詳細を解明し、肝硬度測定検査（Elastography）やバイオマーカーを組み合わせた、慢性肝疾患における肝癌スクリーニングプログラムの開発を行っている。
山口は非接触モニタリングデバイスを用いた睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングや低侵襲一誘導心電図による初期心不全や不整脈の検出など、低侵襲 · 非接触生体モニタリングデバイスの開発も行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Miyako Murakawa, Mina Nakagawa, Hisaaki Nishimura, Shun Kaneko, Masato Miyoshi, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Jun Tsuchiya, Taro Shimizu, Keiya Watakabe, Tomohiro Mochida, Kento Inada, Yasuhiro Iizuka, Hideki Sakai, Yuki Sakurai, Ayako Sato, Seishin Azuma, Takahiro Kawamura, Chiaki Maeyashiki, Masayuki Kurosaki, Fumihiko Kusano, Hideki Watanabe, Hitoshi Kurata, Yuko Karakama, Takeo Fujiwara, Yuki Nagata, Toshihiro Tanaka, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, Yasuhiro Asahina. High serum gamma-glutamyltransferase level after hepatitis C virus elimination is a risk factor for the development of hepatocellular carcinoma. Hepatol Res. 2024.12; 54(12); 1128-1138

2. Yamaguchi J, Takigawa M, Goya M, Iwakawa H, Kawamura I, Negishi M, Yamamoto T, Ikenouchi T, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Suzuki S, Iwanaga T, Miyazaki S, Sasano T. Feasibility and safety assessment of RF double applications in very high power and short duration ablation. Heart rhythm. 2024.10;

3. Watakabe K, Miyoshi M, Kakinuma S, Sato A, Tsuchiya J, Shimizu T, Mochida T, Inada K, Kaneko S, Kawai-Kitahata F, Murakawa M, Nitta S, Nakagawa M, Oshima S, Watanabe M, Ma A, Asahina Y, Okamoto R. A20 in hepatic stellate cells suppresses chronic hepatitis by inhibiting DCLK1-JNK pathway-dependent chemokines. FASEB journal : official publication of the Federation of American Societies for Experimental Biology. 2024.07; 38(13); e23757

4. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Shunsuke Ueyama, Chiaki Maeyashiki, Hideki Watanabe, Akiko Kusano-Kitazume, Ayako Sato, Kozue Uchidate, Takehito Asakawa, Sho Watanabe, Yasuhiro Iizuka, Isamu Shibata, Shinya Oooka, Yuko Karakama, Takashi Fujii, Taro Watabe, Keiichi Akahoshi, Minoru Tanabe, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Keiya Watakabe, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Mina Nakagawa, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, . Prognostic significance of C-reactive protein in unresectable hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab and bevacizumab. Hepatol Res. 2024.06; 54(6); 562-574

5. Takigawa M, Yamaguchi J, Goya M, Iwakawa H, Yamamoto T, Amemiya M, Ikenouchi T, Negishi M, Kawamura I, Goto K, Shigeta T, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Ohuchi K, Suzuki S, Miyazaki S, Sasano T. An optimized approach for increasing lesion size in temperature-controled setting using a catheter with a surface thermocouple and efficient irrigation. Journal of arrhythmia. 2024.06; 40(3); 536-551

6. Takamiya T, Takigawa M, Noda M, Yamamoto T, Martin C, Shigeta T, Ikenouchi T, Yamaguchi J, Amemiya M, Negishi M, Goto K, Nishimura T, Tao S, Miyazaki S, Goya M, Sasano T. Distribution of

peak frequency and omnipolar voltage in electrograms across the atrial body and thoracic veins in a normal heart. Journal of interventional cardiac electrophysiology : an international journal of arrhythmias and pacing. 2024.06;

7. Yamaguchi J, Takigawa M, Goya M, Martin CA, Negishi M, Yamamoto T, Ikenouchi T, Goto K, Shigeta T, Kawamura I, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Miyazaki S, Sasano T. Impact of contact force on the lesion characteristics of very high-power short-duration ablation using a QDOT-MICRO catheter. Journal of arrhythmia. 2024.04; 40(2); 247-255

8. Kaneko S, Asahina Y, Murakawa M, Azuma S, Inada K, Mochida T, Watakabe K, Shimizu T, Tsuchiya J, Miyoshi M, Kawai-Kitahata F, Nitta S, Takahashi M, Fujioka T, Kishino M, Anzai T, Kakinuma S, Nakagawa M, Okamoto R. Analysis of prognosis and background liver disease in non-advanced hepatocellular carcinoma in two decades. PLoS ONE. 2024.03; 19(3); e0297882

9. Yamamoto T, Takigawa M, Shigeta T, Martin CA, Yamaguchi J, Amemiya M, Ikenouchi T, Negishi M, Kawamura I, Goto K, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Miyazaki S, Goya M, Sasano T. Effect of reference electrode on intracardiac electrograms: Close indifferent electrode vs Wilson central terminal. Heart rhythm. 2024.03;

[講演 · 口頭発表等]

1. Nobusawa, T, Kaneko, S, Murakawa, M, Inada, K, Mochida, T, Watakabe, K, Shimizu, T, Tsuchiya, J, Miyoshi, M, Kawai-Kitahata, F, Nitta, S, Kimura, K, Kishino, M, Tateishi, U, Nakagawa, M, Kakinuma, S, Okamoto, R, Asahina, Y. Proton density fat fraction stratifies prognosis in liver disease with advanced fibrosis. AASLD The Liver Meeting 2024 2024.11.16 San Diego, USA

2. Tsuchiya, J, Miyoshi, M, Kakinuma, S, Shimizu, T, Watakabe, K, Mochida, T, Inada, K, Kaneko, S, Kawai-Kitahata, F, Nitta, S, Murakawa, M, Nakagawa, M, Asahina, Y, Okamoto, R. Mechanism of hepatocarcinogenesis due to hepatitis B virus genome integration into host KMT2B locus. AASLD The Liver Meeting 2024 2024.11.16 San Diego, USA

3. Kaneko, S, Asahina, Y, Murakawa, M, Ueyama, S, Watanabe, H, Maeyashiki, C, Kitazume, A, Sato, A, Watabe, T, Uchidate, K, Akahoshi, K, Nobusawa, T, Inada, K, Mochida, T, Watakabe, K, Shimizu, T, Tsuchiya, J, Miyoshi, M, Kawai-Kitahata, F, Nitta, S, Nakagawa, M, Kakinuma, S, Okamoto, R. The albumin-bilirubin score as an indicator of effective immunotherapy in elderly patients with unresectable hepatocellular carcinoma. AASLD The Liver Meeting 2024 2024.11.16 San Diego, USA

4. Keiya Watakabe, Masato Miyoshi, Sei Kakinuma, Ayako Sato, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Tsubasa Nobusawa, Shun Kaneko, Fukiko Kawai-Kitahata, Miyako Murakawa, Mina Nakagawa, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. TNFAIP3 mediates JNK-dependent chemokine expression in hepatic stellate cells. AASLD The Liver Meeting 2024 2024.11.16 San Diego, USA

5. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Tsuchiya Jun, Taro Shimizu, Keiya Watakabe, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto and Yasuhiro Asahina. High GGT levels is a risk factor for HCC development having potential to reflect mitochondrial dysfunction after HCV eradication. AASLD2024 2024.11.15

6. Shun Kaneko, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Mina Nakagawa, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, Yasuhiro Asahina. Efficacy and Safety of Immunotherapy for Real-World Elderly Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma in Japan. Asian Pacific Association for the Study of Liver Oncology 2024 2024.09.24 Chiba, JAPAN

7. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto and Yasuhiro Asahina. Association of metabolic abnormalities with HCC development and survival in CHC patients after SVR. The 33rd Annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver 2024.03.28 Kyoto, JAPAN

8. Masateru Takigawa, Junji Yamaguchi, Hidehiro Iwakawa, Tasuku Yamamoto, Iwanari Kawamura, Takashi Ikenouchi, Miho Negishi, Kentaro Goto, Takuro Nishimura, Tomomasa Takamiya, Susumu Tao, Shinsuke Miyazaki, Tetsuo Sasano. How to Enlarge Lesion Size in Temperature Control Mode Using an Irrigation Catheter with a Flexible-tip of Laser-cut Kerfs. The 88th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2023) 2024.03.10

9. Junji Yamaguchi, Masateru Takigawa, Tasuku Yamamoto, Takashi Ikenouchi, Kentaro Goto, Takatoshi Shigeta, Takuro Nishimura, Susumu Tao, Shinsuke Miyazaki, Masahiko Goya, and Tetsuo Sasano. In vivo Lesion Characteristics of Single vs. Double Radiofrequency Applications of Very High-power and Short-duration Ablation. The 88th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2023) 2024.03.09
10. Masateru Takigawa, Tasuku Yamamoto, Junji Yamaguchi, Takashi Ikenouchi, Iwanari Kawamura, Miho Negishi, Kentaro Goto, Takuro Nishimura, Tomomasa Takamiya, Susumu Tao, Shinsuke Miyazaki, Tetsuo Sasano. Optimizing Pulmonary Vein Isolation with vHPSD-Ablation. The 88th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2023) 2024.03.09
11. Yu Matsuzawa, Ken Cadwell. Examining the mechanism by which $\gamma\ \delta$ T cells secret API5. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.18 Makuhari, Japan

1. 柿沼 晴, 渡壁慶也, 三好正人, 稲田賢人, 持田知洋, 志水太郎, 土屋 淳, 千野響子, 山田 華穂, 菅 彩香, 金子 俊, 村川美也子, 中川美奈, 岡本隆一, 朝比奈靖浩. 肝星細胞における A20 と DCLK1 の機能解析. 第 38 回肝類洞壁細胞研究会学術集会 2024.12.14 松山
2. 柿沼　晴. バイオマーカー：司会. 第 38 回肝類洞壁細胞研究会学術集会 2024.12.13 松山
3. 真田 柊介, 松沢　優, 生駒 萌香, 大嶋 奏羽, 山本　くらら, 加藤　祐己, 根本　泰宏, 森川　亮, 岡本　隆一, 山口　純司, 柿沼　晴. 日本人クローン病患者におけるパネート細胞異常の解析. 第 61 回日本消化器免疫学会総会 2024.12.06 長崎
4. 柿沼　晴. 肝臓（基礎 · 検査 · 診断（画像））司会. 第 66 回日本消化器病学会大会 2024.11.01 神戸
5. 持田 知洋, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. 細胞間相互作用の解析を目的としたヒト iPS 由来肝細胞及び肝星細胞による共培養オルガノイドの開発. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター
6. 渡壁 慶也, 三好 正人, 柿沼 晴. TNFAIP3 を介した肝星細胞からのケモカイン発現制御機構の解析. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター
7. 持田 知洋, 三好 正人, 土屋 淳, 志水 太郎, 渡壁 慶也, 稲田 賢人, 金子 俊, 北畑 富貴子, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 柿沼 晴. ヒト iPS 細胞由来肝細胞及び肝星細胞による共培養オルガノイドの開発. 第 31 回肝細胞研究会 2024.07.27 東京大学弥生講堂
8. 柿沼 晴、富谷智明. 線維化（司会）. 第 31 回肝細胞研究会 2024.07.27 東京
9. 延澤 翼, 金子 俊, 村川 美也子, 稲田 賢人, 持田 知洋, 渡壁 慶也, 志水 太郎, 土屋 淳, 三好 正人, 中川 美奈, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. Durvalumab+Tremelimumab による治療経過中に重篤な免疫関連有害事象を発症するも奏功が得られた切除不能肝細胞癌の二例. 日本消化器病学会関東支部例会プログラム · 抄録集 2024.07.01
10. 柿沼 晴、森川賢一. 脂肪性肝疾患 1 ：司会. 第 60 回日本肝臓学会総会 2024.06.14 熊本
11. 渡壁慶也、三好正人、柿沼 晴. TNFAIP3 を介した肝星細胞の制御機構の解析. 第 60 回日本肝臓学会総会 2024.06.14 熊本
12. 志水 太郎, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. ヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の開発と疾患モデルへの応用. 第 60 回日本肝臓学会総会 2024.06.13 熊本
13. 土屋 淳, 三好 正人, 柿沼 晴, 志水 太郎, 北畑 富貴子, 金子 俊, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. KMT2B 領域への B 型肝炎ウイルスゲノム挿入による発癌プロセスの解析. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.11 アスティとくしま
14. 志水 太郎, 三好 正人, 柿沼 晴, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆. ヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の開発と形質解析. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま
15. 山下 隼斗, 山口 純司, 滝川 正晃, 藤巻 愛子, 嘉山 司, 田邉 隆典, 黒澤 菖子, 浅見 達也, 榎本 豊, 根岸 美帆, 山本 佑, 池ノ内 孝, 河村 岩成, 後藤 健太朗, 西村 卓郎, 高宮 智正, 田尾 進, 宮崎 晋介, 倉島 直樹, 笹野 哲郎. Q mode+における 2 回連続通電および Contact Force の違いによる効果と安全性の検討. 第 88 回 日本循環器学会学術集会 2024.03.08
16. 金子 俊, 村川 美也子, 上山 俊介, 前屋舗 千明, 渡辺 秀樹, 北詰 晶子, 佐藤 綾子, 内館 梢, 渡部 太郎, 赤星 径一, 田邊 稔, 三好 正人, 北畑 富貴子, 中川 美奈, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. CRP 上昇進行肝細胞癌の特徴とアテゾリズマブベバシズマブ併用療法に関する検討. 第 29 回日本肝がん分子標的治療研究会 2024.01.27

[受賞]

1. 公益財団法人 上原記念生命科学財団 2023 年度 研究助成金　受賞者：松沢優, 公益財団法人 上原記念生命科学財団, 2024 年 01 月
2. 令和 5 年度 東京都医師会医学研究奨励賞　受賞者：松沢優, 東京都医師会, 2024 年 02 月
3. 第 88 回　日本循環器学会学術集会 コメディカル賞審査講演会【検査 · 治療部門】優秀賞　山下　隼斗, 日本循環器学会, 2024 年 03 月
4. 土田直樹研究助成金　受賞者：松沢優, 東京医科歯科大学, 2024 年 03 月
5. 令和 6 年度日本学術振興会　基盤研究 B「病態を再現するヒト肝臓オルガノイドの創成と肝星細胞脱活性化をめざした細胞種間解析」研究代表者：朝比奈靖浩、研究分担者：柿沼　晴、岡本隆一, 日本学術振興会, 2024 年 03 月
6. 公益財団法人 G-7 奨学財団 令和 6 年度 研究開発助成　受賞者：松沢優, 公益財団法人 G-7 奨学財団, 2024 年 04 月
7. 令和 6 年度　日本医療研究開発機構 (AMED) 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業「革新的オルガノイド技術を用いた肝線維化 · 発がん機構の解明と肝星細胞活性化制御をめざした治療法の創成」 研究代表者：朝比奈靖浩　研究分担者：柿沼　晴、武部貴則、田中真二、疋田隼人 , 日本医療研究開発機構, 2024 年 04 月
8. 令和 6 年度 日本医療研究開発機構 (AMED) 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業 「新規星細胞培養系創出と iPS 由来星細胞培養系による線維化機構解明」研究代表者：三好正人　研究分担者：柿沼　晴、朝比奈欣治, 日本医療研究開発機構, 2024 年 04 月
9. 令和 6 年度　日本医療研究開発機構 (AMED) 肝炎等克服実用化研究事業　肝炎等克服緊急対策研究事業「HBV トランスクリプトームを基軸とした HBV 病態の診断と完全克服」研究代表者：朝比奈靖浩、研究分担者：柿沼　晴、坂本直哉、榎本信幸, 日本医療研究開発機構, 2024 年 04 月
10. 令和 6 年度日本学術振興会　基盤研究 B「ヒト iPS 細胞による複合型肝臓オルガノイドの創生と肝線維化発がん病態の解明」研究代表者：柿沼　晴, 日本学術振興会, 2024 年 04 月
11. 令和 6 年度日本学術振興会　挑戦的研究（萌芽）「自己組織化に依存しない多細胞人工発癌オルガノイドモデルの開発と細胞連関解析」研究代表者：朝比奈靖浩、研究分担者：柿沼　晴, 日本学術振興会, 2024 年 04 月
12. 令和 6 年度日本学術振興会　基盤研究 C「患者肝およびヒト iPS 細胞由来肝オルガノイドを用いた代謝異常起因性肝発癌の病態解明」 研究代表者：村川美也子、研究分担者：柿沼　晴, 日本学術振興会, 2024 年 04 月
13. 令和 6 年度日本学術振興会　基盤研究 B「ヒト iPS 細胞由来肝星細胞を基軸とした肝星細胞活性化制御機構の解明」 研究代表者：三好正人、研究分担者：柿沼　晴, 日本学術振興会, 2024 年 04 月
14. 令和 6 年度日本学術振興会　基盤研究 C「HBV ゲノム挿入 iPS 細胞と肝癌組織検体を用いた HBV integration による発癌機序の解明」 研究代表者：新田沙由梨、研究分担者：柿沼　晴, 日本学術振興会, 2024 年 04 月
15. 2024 年 東京医科歯科大学 大学院リトリート リトリート賞　倉田　農, 東京医科歯科大学 大学院リトリート, 2024 年 06 月
16. 令和 6 年度日本学術振興会　挑戦的研究（萌芽）「静止期肝星細胞の細胞死調節機構と肝臓恒常性維持機構の解明」研究代表者：柿沼　晴, 日本学術振興会, 2024 年 06 月
17. 公益財団法人 三菱財団 2024 年度 自然科学研究助成　受賞者：松沢優, 公益財団法人 三菱財団, 2024 年 09 月

[その他業績]

1. 「 肝星細胞による炎症機構の解明と肝硬変の治療へとつながる発見 」 —　慢性肝炎、肝硬変の治療薬に期待　—, 2024 年 07 月
   The FASEB　Journal
2. Finding new targets for blocking chronic hepatitis, 2024 年 08 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
3. B 型肝炎ウイルスによる新しい肝癌発症メカニズムの解明, 2024 年 11 月
   Cellular and Molecular Gastroenterology and Hepatology

[社会貢献活動]

1. コラム記事: プレスリリース「 肝星細胞による炎症機構の解明と肝硬変の治療へとつながる発見 」について, 日刊工業新聞社, 日刊工業新聞, 2024 年 07 月 08 日 - 現在
2. ウイルスによる肝臓がん発症、仕組みの一端解明　科学大, 日本経済新聞社, 日本経済新聞, 日本経済新聞 2024 年 12 月 1 日記事, 2024 年 12 月 01 日 - 現在

臨床分析 · 分子生物学分野

Department of Clinical Bioanalysis and Molecular Biology

教授：
· 2024 年 1 月〜12 月：大川　龍之介
准教授：
· 2024 年 1 月〜12 月：鈴木　喜晴
助教：
· 2024 年 1 月〜12 月：吉本　明
非常勤講師：
· 2024 年 1 月〜12 月：亀田　貴寛
· 2024 年 1 月〜12 月：堀内　優奈
· 2024 年 1 月〜12 月：Susana DE VEGA
· 2024 年 1 月〜12 月：谷口俊介
· 2024 年 1 月〜12 月：林千香子
大学院生：
（博士後期課程）
· 2024 年 1 月〜3 月：川口　莉奈
· 2024 年 4 月〜12 月：川口　莉奈，孙　成满，宮腰　恒広
（博士前期課程）
· 2024 年 1 月〜3 月：荻野　芽生，岡林　若奈，清水　梨帆，孙　成满，中村　元紀，波木井　優奈，
宮腰　恒広，齋藤日菜子，福原美月，染谷優和，橋本大知，大野玲菜，
佐々木敏莉，藤里澪
· 2024 年 4 月〜12 月：岡林　若奈，染谷優和，橋本大知，大野玲菜，佐々木敏莉，藤里澪，
秋山　葉菜恵，五十嵐　菜緒，又吉　琴子，三澤瞳，山田渚湖
社会人大学院生：
（博士後期課程）
· 2024 年 1 月〜3 月：山崎　あずさ，三瓶　雅迪，志村　拓也
· 2024 年 4 月〜12 月：山崎　あずさ，志村　拓也
卒業研究生：
（4 年生）
· 2024 年 1 月〜3 月：秋山葉菜恵，五十嵐菜緒，田中瑞稀，又吉琴子，坂野千紗都，山田渚湖
· 2024 年 4 月〜12 月：赤木春香，和泉早希，田中美咲妃，富樫ユリナ，青木智花，光成叶香
（3 年生）
· 2024 年 1 月〜3 月：赤木春香，和泉早希，田中美咲妃，富樫ユリナ，青木智花，光成叶香
· 2024 年 11 月〜12 月：杉浦小桃，中谷文香，彦田早紀，阿久津智咲，阿部桜子，児玉実佳里

(1)　分野概要

臨床分析 · 分子生物学分野：
大川グループは、教員 2 名（教授 1 名、助教 1 名）、大学院生 10 名、学部卒業研究生 6 名で研究活動を行った。当グループでは、臨床検査学の分類における「臨床化学」を教育 · 研究の柱に据え、研究の主テーマは「心血管疾患発症のリスクを予見可能な血清バイオマーカーの開発」とし、研究を支えるに十分な技術の習得および高い精度を持った測定法の開発能力が重要と考えている。研究成果を論文あるいは学会で発表し、社会に還元するという使命とともに、次代の臨床検査を発展的に継続できる人材の育成が何よりも重要である。臨床検査技師養成大学の歴史は比較的浅いため、医療現場で中心的な役割を担える臨床検査技師の育成に加えて、教育 · 研究においても第一線で活躍できる、臨床検査に identity をもった人材の育成を目指している。そのためにも、楽しく研究活

動に打ち込むことができる環境作りが大切だと考えている。

鈴木グループは、教員 1 名（准教授）、大学院生 7 名、学部卒業研究生 7 名で、研究 · 教育を展開した。研究に関しては、分子生物学的な解析手法による中枢神経系の髄鞘形成に関する基礎研究を展開しており、2024 年は、3 つの主要プロジェクト「中枢神経系髄鞘形成の分子メカニズムの解明」、「遺伝子改変マウスを用いた神経 · 精神疾患の新規動物モデルの開発」、「細胞外マトリックス分子による新規細胞培養基質 · バイオマテリアルの開発」を中心に各テーマを進め、AMED 研究開発事業の新規採択にも至った。教育に関して、2024 年は、生化学、分子生物学の基礎的 · 応用的な内容を盛り込んだ講義や実習を中心に、学部生、大学院の知識や技術、論理的思考の向上に努めた。その他、2024 年は学内での様々な委員会の委員として、本学の管理 · 運営に貢献した。

(2) 研究活動

大川グループ：直接の研究対象はリポ蛋白およびその主要成分であるコレステロールや中性脂肪、構成 · 機能蛋白である各種アポ蛋白、およびその代謝 · 分解産物や代謝に関わる酵素類であるが、これらの詳細な研究を通じて、粥状動脈硬化性疾患の早期病態把握に有用なバイオマーカーを開発することが主要な研究目的である。具体的には、高比重リポタンパク（HDL）の reverse cholesterol transport、antioxidant ability、および anti-inflammatory effect などの抗粥状動脈硬化能に着目した冠動脈疾患の特異バイオマーカーの開発や、HDL が他のリポタンパクや細胞との相互作用によって、どのように多様化し、その HDL の多様化が上記の性質 · 機能にどのように関わっているかを解析している。また、HDL と超低比重リポタンパク（VLDL）との相互作用や赤血球が関与する脂質代謝のメカニズムの解明も行っている。当該年（2024 年）は、HDL 関連酵素であるパラオキソナーゼ 1 の修飾のメカニズム解明、HDL-VLDL 間のアポリポタンパク転送や赤血球コレステロールの定量法の開発、特許出願中である”新規のコレステロール引き抜き能測定法”（特願 2021- 94456，出願日 2021.06.04；PCT 出願指定国移行：国内，特願 2023-525852；米，18/566,478；欧州，EP22816097.4；中国，202280040121 1）の社会実装に向けた改良に励んだ．これらの研究を国内外の学会で多数報告し、学生が国内学会で 5 回，国際学会で 1 回受賞した．また、大川は上記の HDL の研究成果を中心に国内外の学会で 8 回講演、吉本助教もランチョンセミナーで 1 回講演した。

研究課題
· 心血管疾患発症の残存危険度を評価可能なバイオマーカーの開発
· HDL 多様化の機序および性質 · 機能への影響
· 赤血球関連脂質代謝の分子機構解析

鈴木グループ：中枢神経系ではオリゴデンドロサイトによって髄鞘が形成され、神経のシグナル伝達が正常に機能している。その異常が多発性硬化症や先天性大脳白質形成不全症を初めとする神経疾患を引き起こすことが知られているが、最近では、精神疾患や認知症との因果関係が明らかとなりつつあり、髄鞘研究が、今後の基礎神経科学や脳科学、神経 · 精神疾患の病態理解と治療戦略に新たな展開を齎すものと期待される。当グループでは、中枢神経系の髄鞘形成不全を引き起こす変異型マウスを用いて、細胞レベル、遺伝子レベルでの分子メカニズム解明とその機序に基づく応用研究への展開を目的として研究を進めている。当該年（2024 年）は、これまで解析をしてきた Teneurin-4 欠損マウスの髄鞘阻害後の軸索維持の分子メカニズムを明らかにし、その成果を各専門学会（米国細胞生物学会、日本分子生物学会、日本神経化学会、日本ミエリン研究会）にて報告した。さらに疾患由来の Teneurin-4 遺伝子変異に着目し、細胞接着活性におけるそれらの影響を調べて各種専門学会にて報告した。また、新たな疾患動物モデルの開発を目的として、5 系統の遺伝子改変マウスを準備し、目的のマウス作製に努めた。加えて、オリゴデンドロサイトの髄鞘形成における細胞外マトリックス分子の分子機能のメカニズム解明を進め、同様に関連学会にて報告を行った。競争的研究費の申請も積極的に行い、AMED 研究開発事業（2024-2026 年度：髄鞘機能に着目した認知症 · 鬱病における性差の分子生物学的研究）と科研費基盤 C（2024-2026 年度：オリゴデンドロサイト subpopulation による軸索径依存的脱髄モデルの開発と機序解析）の獲得に至った。

研究課題
· 中枢神経系髄鞘形成の分子メカニズムの解明
· 遺伝子改変マウスを用いた神経 · 精神疾患の新規動物モデルの開発
· 細胞外マトリックス分子による新規細胞培養基質 · バイオマテリアルの開発

(3) 教育活動

（大川）
検査技術学専攻：分析化学検査学 I、分析化学検査学 II、分析化学検査学 III、卒業研究、Learning Medical English、臨床検査総合管理学（一部）、臨地実習（一部）

大学院：保健学演習、保健学実習、臨床実践特別演習入門、臨床実践特別演習 I、臨床実践特別演習 II、先端分析検査学演習、研究実習、高度臨床実践特別演習 I、高度臨床実践特別演習 II、課題研究臨床分析 · 分子生物学、臨床分析分子生物学演習、Basic Human Pathology for Graduate Students、Advanced Human Pathology for Graduate Students、先制医歯理工学概論 I（日本語）（一部）、先制医歯理工学概論 I（英語）（一部）、生体検査科学特論 I（一部）、臨床検査法開発学特論（一部）

（鈴木）
検査技術学専攻：生化学、生化学講義、生化学講義（I）、生化学講義（II）、生化学実習、卒業研究 I、卒業研究 II、総合講義（一部）
大学院：生体検査科学セミナー I、生体検査科学セミナー II、課題研究臨床分析 · 分子生物学、臨床検査法開発学特論（一部）
（吉本）
検査技術学専攻：分析化学検査学 I、分析化学検査学 II、分析化学検査学 III、卒業研究、総合講義（一部）

(4) 教育方針

学部教育：
（大川）教育分野は分析化学検査学が中心であり、臨床検査現場ではいわゆる一般検査および臨床化学検査領域にあたる。この分野はもっとも自動化が進んでいる分野である。また、放射線同位元素技術学の教育はアイソトープ総合センターの立石宇貴秀教授の協力を得ている。高度専門職業人として検査現場のリーダーあるいは指導者として活躍できる人材の育成のために、あるいは、企業においては検査の知識をベースにしたスペシャリストとして独自の業務を遂行できる人材の育成のために、分析法の原理や特徴および得られた結果の臨床的意義を解釈できる基礎的教育を目指している。それをベースに自ら考え、問題を解決し、さらには発展させていく創造的能力の育成が最終目標である。

（鈴木）学部では検査技術学専攻と看護学専攻の学生を対象とした生化学講義や、検査技術学専攻の学生を対象とした生化学実習を担当し、臨床検査学として必要な生命現象における分子レベルでの基本原理 · メカニズムの理解習得を目的とした教育に努めている。さらにそれら基礎生命科学に必要となる生化学的 · 分子生物学的解析手法の知識 · 技術も習得できるよう実践的な教育も展開している。さらに卒業研究では当グループで進めている中枢神経系の髄鞘形成の分子メカニズム解明を目指す研究を通して、先行研究に基づく仮説の立て方、遺伝子組換え技術や動物組織からの初代培養等の専門技術、結果の科学的解析、論理的考察といった研究の基礎習得のための徹底的な教育も推し進めている。

大学院教育：
（大川）研究の基礎となるのは分析技術である。確かな分析技術なくして、すばらしい研究成果が得られることはありえない。大川グループでは、信頼できる分析技術の重要性を理解し、その技術を習得することを第一の目的とする。次にその技術を基盤として、臨床検査分野で必要とされている新たなバイオマーカーの考案と測定法の開発、および臨床的有用性の評価を目指す。これら一連の研究プロセスを通じて、各種分析技術の習得とその原理、特徴および限界を理解することに加えて、自ら実験を立案し、その実行のために最適な手法を選択できる研究構築能力を育成する。また、学会発表や論文発表を通じて、得られた研究成果を情報として発信する能力を育成する。

（鈴木）この半世紀での分子生物学の進歩は目覚ましく、数多くの生命現象が解明され、臨床応用をはじめとして、人類の発展に多大な貢献をして来た。その進歩は今も留まることなく、様々な新規現象の解明や概念の提唱、解析法の開発が進んでいる。それらのキャッチアップ · 習得に努め、次世代の生命科学研究者の育成を目的として基礎的 · 専門的な教育を展開している。具体的な活動として、当グループで進めている中枢神経系の髄鞘形成の分子メカニズム解明を目指す研究を通して、仮説の立て方や遺伝子組換え技術や遺伝子改変マウスの作製 · 維持、初代培養等の専門技術の習得、結果の科学的解析や論理的考察といった研究を推し進めるために必要なテクニックとノウハウを徹底的に教育している。また、研究室の学生を対象とした勉強会を通して、当グループで展開している研究について最新の学術論文を用いて解説し、自分たちの研究の世界レベルでの位置付けを理解させ、研究に取り組むよう指導している。何よりも学生が高いモチベーションを持って楽しく研究や勉学に励むことができる環境作りを心掛けている。

(5) 臨床活動および学外活動

（学外活動）
（大川）
· 日本臨床化学会：理事、評議員、あり方検討委員会（委員長）、細則検討委員会（委員）、

若手育成委員会（委員）、国際交流委員会（委員）、酵素試薬専門委員会（委員）、
リポ蛋白専門委員会（委員）
· 日本臨床検査標準協議会：理事
· 日本医療検査科学会：理事、評議員、編集委員会（委員長）、国際交流委員（委員）
· 国際糖尿病対策ワーキング（WG リーダー）
· 日本臨床検査医学会：評議員
· 日本臨床検査学教育協議会：評議員、分科会（臨床化学）（副分科会長）
· Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB)：
Communication and Publication Committee member、Editorial member
· 日本動脈硬化学会　「HDL 調査検討ワーキンググループ」
· 日本臨床衛生検査技師会：一般会員
· 厚生労働省　臨床検査技師試験委員
· 株式会社医学書院：“検査と技術”、編集協力委員
· 医歯薬出版株式会社：“最新臨床検査学講座臨床化学検査学”、編集
· 金原出版株式会社：“臨床検査法提要”、編集協力者
· 株式会社メテオ：メディカルオンライン、監修

（鈴木）
· Frontiers in Cell and Developmental Biology：Review Editor
· Frontiers in Cell and Developmental Biology：Topic Editor
· Neurology International：Editorial Board
· Cells：Topical Advisory Panel
· 日本ミエリン研究会：評議員
· 北米神経科学会：一般会員
· 日本分子生物学会：一般会員
· 日本神経化学会：一般会員
· 日本結合組織学会：一般会員

(6)　研究業績

[原著]

1. Takuya Shimura, Hideaki Isago, Yoshifumi Morita, Ryunosuke Ohkawa, Naoyuki Yoshikawa, Yoshikazu Ono, Makoto Kurano. Modulating lysophospholipids with Paraoxonase-1: Exploring its impact on inflammatory responses and immune reactions. Biochem Biophys Res Commun. 2024.12; 746; 151234

2. Akiko Futatsugi, Minoru Tozuka, Yuna Horiuchi, Ryunosuke Ohkawa, Tomoki Kosho. High-density lipoprotein functionality in cholesterol efflux in early childhood is related to the content ratio of triglyceride to cholesterol. Sci Rep. 2024.10; 14(1); 23323

[書籍等出版物]

1. 大川 龍之介. 臨床検査技師 国家試験問題集 解答と解説 2025 年版（「検査と技術」編集委員会 編集）. 医学書院, 2024.06

2. 大川 龍之介. 最新臨床検査学講座 臨床化学検査学 第 3 版（戸塚実 · 奥村伸生 · 浦山修 · 松下誠 · 山内一由 · 大川龍之介　ほか編著）. . 医歯薬出版株式会社, 2024.02 (ISBN : 978-4-263-22396-3)

[総説]

1. 大川 龍之介.　3）その他の合併症．自信がもてる！ 血管へのアプローチ　採血と静脈路確保 Medical Technology. 2024.12; 52(13); 1333-1336

2. 川口 莉奈. 第 63 回日本臨床化学会年次学術集会 Medical Technology. 2024.06; 52(6); 624

3. 吉本 明. 技術講座　生化学　イオン選択性電極法の測定原理 検査と技術. 2024.06; 52(6); 548-553

4. 大川 龍之介. 高比重リポタンパク　インパクトの大きい小さな粒子 医療検査と自動化. 2024.04; 49(2); 75-87

5. 小谷 和彦，石井 直仁，大川 龍之介，岡田 光貴，菊地 良介，中川 央充，中渡 一貴，渡邊 大志. 若手育成のための方向性 臨床化学. 2024.04; 53(2); 138

6. 佐々木 敏莉，大野 玲菜，山田 桃奈，山田 渚湖，鈴木 喜晴. 細胞外マトリックス分子によるオリゴデンドロサイトの発生 · 分化の制御機構 生化学. 2024.04; 96(2); 296-300

7. 川口 莉奈，亀田 貴寛，吉本 明，大川 龍之介. ホモシステインチオラクトン添加血清における パラオキソナーゼ 1 の評価 臨床検査学教育. 2024.03; 16(1); 76-77

[講演 · 口頭発表等]

1. Nobuharu Suzuki, Hinako Saito, Riko Takahashi, Nanako Yamada, Mio Fujisato, Kanoko Mitsunari, Binri Sasaki, Yukina Hosoda, Chikako Hayashi, Toru Doi, Mikael Simons, and Ryunosuke Ohkawa. The maintenance of small diameter axons after dysmyelination in teneurin-4 deficient mice. . CELL BIO24 (An ASCB/EMBO Meeting) 2024.12.15 San Diego, CA, US.

2. Binri Sasaki, Chikako Hayashi, Nanako Yamada, Nobuharu Suzuki. The regulation of actin-cytoskeletal organization by teneurin-4 is important for CNS myelination by oligodendrocytes. CELL BIO24 (An ASCB/EMBO Meeting) 2024.12.15 San Diego, CA, US.

3. Nanako Yamada, Momona Yamada, Reina Ono, Binri Sasaki, Nobuharu Suzuki. The induction of apoptosis in oligodendrocyte lineage cells by extracellular Chromogranin B. CELL BIO24 (An ASCB/EMBO Meeting) 2024.12.15 San Diego, CA, US.

4. Ohkawa R. Tips for identifying and managing abnormal reaction curves. 17th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB) Congress 2024.11.03 Sydney

5. Akiyama H., Miyakoshi T., Kawaguchi R., Kameda T., Yoshimoto A., Ohkawa R. Effect of Cholesterol Loading on the Assay for ABCA1-mediated Cholesterol Efflux Capacity using THP-1 cells and BODIPY-cholesterol. 17th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB) Congress 2024.11.01 Sydney

6. Yamazaki A., Yoshimoto A., Ichimura N., Tohda S., Ohkawa R. Validation and Application of Direct Measurement Method for Erythrocytes Cholesterol Content. 17th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB) Congress 2024.11.01 Sydney

7. Someya Y., Shibuya M., Sun C., Yamazaki A., Miyakoshi T., Kawaguchi R., Yoshimoto A., Ohkawa R.. Establishment of a method for measuring apolipoproteins transfer rates between high-density lipoprotein and very lowdensity lipoprotein by ELISA. 17th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB) Congress 2024.11.01 Sydney

8. Ohkawa R.. How Should We Evaluate High-Density Lipoprotein?. International Medini Healthcare Conference 2024 In conjunction with MIMLS 33rd National Scientific Conference 2024.09.24 Johor Bahru

9. Ohkawa R. High-density lipoprotein - small particles with a big impact -. The 46th Annual Conference of The Association of Medical Technologists of Thailand (ACMTT) 2024.06.13 Bangkok

10. Miyakoshi T., Akiyama H, Horiuchi Y., Araki M., Yonetsu T., Yoshimoto A., Tozuka M., Sasano T., Ohkawa R. Comparison of clinical usefulness of CEC assays by immobilized liposome-bound magnetic beads method and conventional cell-dependent assay targeting at coronary artery plaque size. European Atherosclerosis Society (EAS) 92nd Congress 2024.05.27 Lyon

11. Kawaguchi R., Yoshimoto A., Kameda T., Ohkawa R. Serum Analysis, not Isolated HDL Analysis, Reveals a New Effect of Homocysteine Modification on HDL Paraoxonase 1 Activities and Distribution. European Atherosclerosis Society (EAS) 92nd Congress 2024.05.27 Lyon

12. Yamazaki A., Yokoyama S., Okazaki M., Ai M., Miyake S., Takahashi J., Kameda T., Ichimura N., Tohda S., Ohkawa R. Influence of lipoprotein(a) on the accuracy of LDL-cholesterol measurement. European Atherosclerosis Society 92nd Congress 2024.05.27 Lyon

1. 大川 龍之介. 臨床検査技師が学位を取得するためのメリットとは. 2024 年度第 3 回日本臨床化学会関東支部 若手勉強会ワークショップ 2024.12.14 online

2. 橋本 大知，波木井 優奈，宮腰 恒広，川口 莉奈，吉本 明，大川 龍之介. 各種リポタンパク分画中のスフィンゴミエリン濃度測定. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 2024.11.30 大阪

3. 大川 龍之介. HDL 評価法に関する課題と克服への取り組み. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 2024.11.30 大阪

4. 志村 拓也，砂金 秀章，森田 賢史，大川 龍之介，小野 佳一，吉川 直之，蔵野 信. . パラオキソナーゼ-1 によるリゾリン脂質制御の解析. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 2024.11.29 大阪

5. 宮腰 恒広，荒木 誠，堀内 優奈，米津 太志，渡部 芽以，亀田 貴寛，吉本 明，市村 直也，東田 修二，戸塚 実，笹野 哲郎，大川 龍之介. 固相化リポソーム結合磁気ビーズ法によるコレステロール引き抜き能と冠動脈内プラークの所見との関連. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 2024.11.29 大阪

6. Mio Fujisato, Hinako Saito, Riko Takahashi, Reina Ono, Ryuunosuke Ohkawa, Nobuharu Suzuki. The maintenance of unmyelinated small diameter axons by monocarboxylate transporters. 第 47 回日本分子生物学会年会 2024.11.29 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡.

7. Hitomi Misawa, Yuichi Hiraoka, Nobuharu Suzuki. Sex Differences in Survival and Differentiation of Primary Culture Oligodendrocytes. 第 47 回日本分子生物学会年会 2024.11.29 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡.

8. Reina Ono, Mizuki Fukuhara, Yuki Munakata, Nanako Yamada, Momona Yamada, Nobuharu Suzuki. Effects of disease-derived variants and of the interaction with Chromogranin B on the cell adhesion activity of Teneurin-4. 第 47 回日本分子生物学会年会 2024.11.29 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡.

9. Nanako Yamada, Momona Yamada, Reina Ono, Nobuharu Suzuki. The effect of extracellular Chromogranin B on the survival of oligodendrocyte lineage cells. 第 47 回日本分子生物学会年会 2024.11.29 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡.

10. 大川 龍之介. 臨床検査技師のキャリアアップ. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 全国検査部長 · 技師長会議 2024.11.28 大阪

11. Binri Sasaki, Chikako Hayashi, Nobuharu Suzuki. The transmembrane protein teneurin-4 drives myelination by promoting actin depolymerization in oligodendrocytes. 第 47 回日本分子生物学会年会 2024.11.28 福岡国際会議場 · マリンメッセ福岡.

12. Horiuchi Y., Miyakoshi T., Tozuka M., Ohkawa R. Development, improvement and clinical application of cholesterol efflux capacity assay in cell-free systems. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.06 横浜

13. 和泉 早希，宮腰 恒広，川口 莉奈, 吉本 明，戸塚 実，大川 龍之介. HDL のコレステロール引き抜き能測定におけるアポリポタンパク B 関連リポタンパク除去血清作製法の影響. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.04 横浜

14. 川口 莉奈，亀田 貴寛，吉本 明，大川 龍之介. キマーゼによるパラオキソナーゼ 1 のタンパクおよび活性への影響. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.04 横浜

15. 秋山 葉菜恵，宮腰 恒広，川口 莉奈，亀田 貴寛，吉本 明，大川 龍之介. 高比重リポタンパクのコレステロール引き抜き能測定におけるバックグラウンド補正の有用性. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.04 横浜

16. 大橋 由加里, 井口 晃弘, 吉本 明, 大野 一彦, 市村 直也, 東田 修二, 大川 龍之介. 血清クレアチニンの品質保証を目的とした反応過程解析ツール MiRuDa の活用. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.04 横浜

17. 田中 美咲妃，川口 莉奈，宮腰 恒弘，吉本 明，大川 龍之介. 各分取法による超低比重リポタンパクの脂質 · タンパク組成の違いの検討. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.04 横浜

18. 松本 晴斗, 大熊 彩花, 波木井 優奈, 吉本 明, 大川 龍之介, 亀田 貴寛. 1,1-diphenyl-2-picrylhydrazyl（DPPH）を用いた血清抗酸化能測定の開発とその有用性. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.04 横浜

19. 赤木春香，高橋 和樹，佐野 真樹，大川 龍之介，渡部 徹郎. TGF-β による内皮間葉移行に対するエイコサペンタエン酸の作用の検討. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.04 横浜

20. 染谷 優和，渋谷 茉璃乃，孫 成満，山崎 あずさ，宮腰 恒広，川口 莉奈，吉本 明，大川 龍之介. ELISA を用いた高比重リポタンパクと超低比重リポタンパク間のアポリポタンパク転送率測定法の開発. 第 56 回日本医療検査科学会年次学術集会 2024.10.04 横浜

21. 川口 莉奈, 亀田 貴寛, 吉本 明, 大川 龍之介. キマーゼによるパラオキソナーゼ 1 のタンパクおよび活性への影響. 医療検査と自動化 2024.10.04

22. 福島 紘子，吉本 明，井口 晃弘，大橋由加里，松本 大志，渡部 芽以，大野 一彦，市村 直也，東田 修二，大川龍之介. 日立ユーザーより：反応過程近似解析ツール MiRuDa を用いたデータ解析. 第 64 回日本臨床化学会年次学術集会　シンポジウム 臨床検査におけるピットフォール事例報告 · 討論会 2024.09.01 宇都宮

23. 山崎 あずさ，貫井 陽子，亀田 貴寛，甲田 祐樹，市村 直也，齋藤 良一，東田 修二，大川 龍之介. COVID-19 患者におけるプレセプシン測定の有用性と腎機能との関連. 第 64 回日本臨床化学会年次学術集会　YIA シンポジウム 2024.09.01 宇都宮

24. 山崎 あずさ，亀田 貴寛，渡部 芽以，吉本 明，東田 修二，大川　龍之介. 血漿体積の変化を考慮した赤血球-血漿間脂質転送の解析. 2024.08.31 宇都宮

25. 若手育成委員会. 若手会員向け研究相談会〜キャリア形成における学術活動. 第 64 回日本臨床化学会年次学術集会　シンポジウム 2024.08.31 宇都宮

26. 吉本　明. ルーチン検査での気づきから研究テーマへ〜尿中クレアチニン測定に及ぼす薬剤影響〜. 第 64 回日本臨床化学会年次学術集会 2024.08.31 栃木県宇都宮市宮みらい 1-20

27. 大川 龍之介. HDL とは？ 小さな粒子に秘められた多彩な機能 〜単にコレステロールを運ぶだけではない！ . 第 64 回日本臨床化学会年次学術集会　コーヒーブレイクセミナー 2024.08.30 宇都宮

28. 宮本 日花里、飯沼 和奏、遠藤 一柊、松本 晴斗、吉本 明、大川 龍之介、亀田 貴寛. 血清アミロイド A の低比重リポタンパクへの結合特性について. 第 18 回日本臨床検査学教育学会学術大会 2024.08.23 新潟

29. Mio Fujisato, Hinako Saito, Riko Takahashi, Reina Ono, Ryunosuke Ohkawa, and Nobuharu Suzuki. The expression of monocarboxylate transporters in activated glial cells and unmyelinated axons in the genetically induced dysmyelination. 日本神経化学会 第 67 回日本神経化学会 2024.07.24 福岡

30. Binri Sasaki, Chikako Hayashi, and Nobuharu Suzuki. Teneurin-4, a cell adhesive transmembrane protein, regulates actin organization in oligodendrocytes during myelination. 日本神経化学会 第 67 回日本神経化学会 2024.07.24 福岡コンベンションセンター

31. Nanako Yamada, Momona Yamada, Reina Ono, and Nobuharu Suzuki. Chromogranin B induces apoptosis of oligodendrocyte lineage cells. 日本神経化学会 第 67 回日本神経化学会 2024.07.24 福岡

32. 栗原 裕司、川口 祐生、松林 潤平、太田 悠葵、川崎 ナナ、鈴木 喜晴、藤田 幸、竹居 光太郎. 神経回路形成因子 LOTUS は細胞間接着因子 Tenerin-4 との相互作用を介して神経突起を伸長させる. 日本神経化学会 第 67 回日本神経化学会 2024.07.24 福岡コンベンションセンター

33. 山崎 あずさ，波木井 優奈，横山 信治，岡崎 三代，藍 真澄，三宅 修司，高橋 純一郎，亀田 貴寛，市村 直也，東田 修二，大川 龍之介. 異なる分離法によるリポ蛋白 (a) 分布の差異と LDL-C 定量に対する影響. 第 56 回日本動脈硬化学会総会 2024.07.07 神戸

34. 宮腰 恒広，荒木 誠，秋山 葉菜恵，堀内 優奈，吉本 明，亀田 貴寛，鈴木 喜晴，米津 太志，戸塚 実，笹野 哲郎，大川 龍之介. 冠動脈プラークサイズと固相化リポソーム結合磁気ビーズ法および細胞法によるコレステロール引き抜き能の関連. 第 56 回日本動脈硬化学会総会 2024.07.07 神戸

35. 川口 莉奈，荒木 誠，宮腰 恒広，渡部 芽以，堀内 優奈，吉本 明，亀田 貴寛，市村 直也，米津 太志，戸塚 実，東田 修二，笹野 哲郎，大川 龍之介. 冠動脈内プラークのサイズを反映する新たな評価法としてのパラオキソナーゼ 1 活性の有用性. 第 56 回日本動脈硬化学会総会 2024.07.07 神戸

36. 大川 龍之介. HDL-C 定量では見えないもの．これから何を見るべきか. . 第 56 回日本動脈硬化学会総会 2024.07.06 神戸

37. 鈴木喜晴、齋藤日菜子、高橋りこ、藤里澪. 髄鞘形成阻害がもたらす無髄軸索サバイバル機構の解明. 第 8 回日本ミエリン研究会発表会 2024.02.10

[受賞]

1. 山崎 あずさ，国立大学臨床検査学系博士後期課程優秀賞, 国立大学臨床検査教育協議会, 2024 年 05 月
2. 山崎 あずさ，日本臨床化学会．Young Investigator Award, 日本臨床化学会, 2024 年 08 月
3. 和泉 早希，2024 年度 JACLaS Award Ⅰ, 日本医療検査科学会, 2024 年 10 月
4. 秋山 葉菜恵，17th APFCB Congress Travel Scholarship, Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB) , 2024 年 11 月
5. 宮腰 恒広，国際学会奨励賞, 日本臨床検査医学会, 2024 年 11 月
6. 山崎 あずさ，国際学会奨励賞, 日本臨床検査医学会, 2024 年 11 月

[その他業績]

1. 大川　龍之介，日本医療検査科学会 第 38 回春季セミナー 例会長, 2024 年 04 月

[社会貢献活動]

1. 大川 龍之介，日本臨床化学会，評議委員, 2015 年 04 月 01 日 - 現在
2. 大川 龍之介，日本臨床化学会，細則委員, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
3. 大川 龍之介，日本臨床検査医学会，評議委員, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
4. 大川 龍之介，日本医療検査科学会，国際交流委員, 2019 年 04 月 01 日 - 現在
5. 大川 龍之介，日本臨床検査教育協議会，将来問題検討委員, 2019 年 05 月 28 日 - 現在
6. 大川 龍之介，医歯薬出版株式会社，”最新 臨床検査学講座 臨床化学検査学”，編集, 2020 年 07 月 01 日 - 現在
7. 大川 龍之介，国立大学臨床検査学教育協議会，将来問題検討 WG 委員, 2021 年 04 月 01 日 - 2024 年 03 月 31 日
8. 大川 龍之介，日本臨床検査教育協議会，評議員, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
9. 大川 龍之介，日本臨床化学会，国際交流委員, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
10. Nobuharu Suzuki, Frontiers in Cell and Developmental Biology:Topic Editor, 2021 年 09 月 01 日 - 現在
11. Nobuharu Suzuki, Cells：Topical Advisory Panel, 2021 年 09 月 01 日 - 現在
12. 大川 龍之介，日本医療検査科学会，編集委員, 2021 年 10 月 10 日 - 2024 年 03 月 31 日
13. 大川 龍之介，日本医療検査科学会，理事, 2021 年 10 月 10 日 - 現在
14. 大川 龍之介，株式会社医学書院，”検査と技術”，編集協力委員, 2022 年 01 月 01 日 - 現在
15. 大川 龍之介，日本臨床検査同学院，二級臨床検査士，主任試験員, 2022 年 04 月 01 日 - 2024 年 03 月 31 日
16. 大川 龍之介，金原出版株式会社，”臨床検査法提要”，編集協力者, 2022 年 05 月 01 日 - 現在
17. 大川 龍之介，日本臨床化学会，若手育成委員会, 2022 年 06 月 18 日 - 現在
18. 大川 龍之介，日本臨床化学会，リポ蛋白専門委員会, 2022 年 10 月 21 日 - 現在
19. Ryunosuke Ohkawa，Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB)，Communication and Publication Committee member, 2023 年 02 月 10 日 - 現在
20. 大川 龍之介，日本臨床化学会，酵素試薬専門委員会, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
21. 大川 龍之介，日本臨床化学会，あり方検討委員会（委員長）, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
22. 大川 龍之介，日本臨床化学会，理事, 2023 年 04 月 01 日 - 現在
23. 大川 龍之介，日本臨床検査標準協議会，理事, 2023 年 07 月 11 日 - 現在

24. 鈴木 喜晴，Frontiers in Cell and Developmental Biology:Review Editor, 2023 年 09 月 01 日 - 現在
25. Nobuharu Suzuki, Neurology International：Editorial Board, 2023 年 09 月 01 日 - 現在
26. 大川 龍之介，日本動脈硬化学会 HDL 調査検討ワーキンググループ, 2024 年 01 月 08 日 - 現在
27. 検体検査精度保証に重要なものとは？ , 日本電子株式会社, 日本電子株式会社 公式 WEB サイト · Interview, 2024 年 02 月 06 日 - 2024 年 04 月
28. 大川 龍之介，第 35 回日本医療検査科学会春季セミナー例会長インタビュー, 株式会社じほう, TheMedical & TestJournal（MTJ）, 2024 年 02 月 15 日
29. 大川 龍之介，株式会社メテオ，コンテンツ制作協力, 2024 年 02 月 15 日 - 現在
30. 大川 龍之介，日本医療検査科学会，編集委員（委員長）, 2024 年 04 月 01 日 - 現在

微生物 · 感染免疫解析学分野

Department of Molecular Microbiology and Immunology

教授：齋藤良一
准教授：田中ゆきえ
助教：太田悠介
大学院生（博士）：
Frederick Ofosu Appiah、永田美香、萩原秀、
古屋瑠菜、Ivy Amanor、
内田のぞみ、河村 平、中野 裕樹
大学院生（修士）：
大城音萌子、鈴木彩葉、南菜々子、
赤坂 瞳、陳 菲、石﨑 瑠南、石渡 早織

(1) 分野概要

微生物学は微生物の性質と機能を解する学問であり、それに関わる臨床微生物学は微生物（病原体）によって引き起こされる感染症の診断と治療法の開発を主な目的とする。当分野の教育では、医学微生物学の基礎的な内容を学んだうえで、感染症の起因微生物の分離同定法、薬剤感受性試験などを含む臨床検査の実践的手技を教授している。研究では、病原細菌における抗菌薬耐性化の分子機構やゲノム疫学に関する研究と病原性発現制御機構の研究を国内外の共同研究者と共に行っている。

感染免疫学は、免疫細胞や免疫分子の相互作用、免疫応答の制御機構などを基礎から学び、人体における免疫応答のさまざまな側面を理解したうえで、感染症を含む免疫疾患に関する試験を適切に実施、結果を正確に解釈するスキルを習得することを目的とする。また、研究では、主に移植免疫や難治性ウイルス感染症に焦点を当て、免疫細胞療法や診断法の開発に取り組んでいる。現在、以下の研究概要に示すテーマについて、多施設共同研究を行っている。

(2) 研究活動

微生物学領域：
1. 薬剤耐性菌の進化 · 多様性に関する研究
2. 環境における微生物叢動態と相互作用に関する研究
3. 細菌の環境適応機構に関する研究
4. 病原体検出の迅速化 · 簡易化を目指す研究

以上のテーマについて、本学のガーナ大学野口記念医学研究所海外研究拠点を軸とした国際共同研究のほか、国内の医療機関や国立感染症研究所等とも共同研究を行っている。

感染免疫学領域：
1. 移植後日和見感染症に対する多ウイルス特異的免疫細胞療法に関する研究
2. HTLV-1 関連疾患におけるウイルス特異的細胞傷害性 T 細胞の解析
3. CXCR4 分子拮抗薬を用いた造血幹細胞動員メカニズムについての研究
4. 造血器腫瘍の分子病態解明ならびに新規治療法の開発

以上のテーマについて、本学発生発達病態学分野との共同研究、および多施設共同研究を行っている。

(3) 教育活動

1. 学部
検査技術学専攻：病原体検査学講義 (I)、病原体検査学講義 (II)、病原体検査学実習 (I)、病原体検査学実習 (II)、免疫検査学講義、免疫検査学実習、総合講義、卒業研究
看護学専攻：微生物学
医学科：感染 · 臨床
口腔保健工学：感染予防

2. 大学院
保健学演習 · 実習、研究実習、生体検査科学特論Ⅱ、臨床検査法開発学特論、課題研究

(4) 教育方針

1. 学部教育
病原体検査学講義 (I)· 実習 (I) は医学微生物学（細菌学、真菌学、ウイルス学、免疫学、寄生虫学）の基礎的な内容について保健衛生学科の検査技術学専攻の学生（2 年生）に対して教授している。寄生虫学は国際環境寄生虫病学分野の協力を得ている。微生物学は看護学専攻の学生（2 年生）に対して講義により教授している。病原体検査学講義 (II)· 実習 (II) は、検査技術学専攻の学生（3 年生）に対して、感染症の原因微生物の検出法、薬剤感受性試験、病原微生物の疫学的解析法などについて教授している。免疫検査学講義（2 年生）と免疫検査学実習（3 年生）は免疫治療学分野と輸血 · 細胞治療センターの協力を得ている。

2. 大学院教育
感染症の病原体および病因について最新情報を取得し、病原体の検査法および診断 · 治療への応用について考察する。また細菌学や臨床微生物学、感染免疫学の研究の現況を学び、それらに関わる基礎的な研究能力を修得させ，成果を学会や国際誌に報告できるよう指導している。

(5) 臨床活動および学外活動

臨床活動として、齋藤と太田は当院医学部附属病院にて感染制御部の一部業務（病院内感染制御活動、病原体の遺伝子検査、病原体の分子疫学解析など）を担当した。田中は東京医科歯科大学病院入院患者由来 SARS-CoV-2 ゲノム解析プロジェクトチーム員として業務担当した。
学外活動として、齋藤と太田は国内医療施設の微生物検査を担当する臨床検査技師に対して、検査精度の向上を目指した卒後教育を日本臨床微生物学会、認定臨床微生物検査技師制度審議会等とともに実施した。更に齋藤は公益財団法人国際医療技術財団とともに臨床検査の質向上を目指した事業を JICA 研修生に対して実施した。また齋藤は、日本臨床検査学教育協議会、日本臨床微生物学会、日本嫌気性菌感染症学会の役員として学会運営を行った。

(6) 研究業績

[原著]

1. Inoue K, Tomomasa D, Nakagama Y, Takeuchi H, Tanaka Y, Tanimoto K, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Tanaka K, Yoshifuji K, Miwa Y, Ohnishi H, Okada S, Mori T, Yasuda S, Kido Y, Morio T, Kanegane H. Real-world experience of tixagevimab/cilgavimab prophylaxis in Japanese patients with immunodeficiency. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2024.12; 31(2); 102577

2. Morimoto S, Tanaka Y, Nakata J, Fujiki F, Hasegawa K, Nakajima H, Nishida S, Tsuboi A, Hosen N, Kagawa N, Maruno M, Myoui A, Enomoto T, Izumoto S, Sekimoto M, Hashimoto N, Yoshimine T, Kumanogoh A, Oji Y, Oka Y, Sugiyama H. Spontaneous high clonal expansion of Wilms' tumor gene 1-specific cytotoxic T-lymphocytes in patients with Wilms' tumor gene 1-expressing solid tumor. Cancer immunology, immunotherapy : CII. 2024.11; 74(1); 15

3. Yusuke Ota, Fei Chen, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Kimiyo Watanabe, Teruaki Kinoshita, Yoshiaki Gu, Yoko Nukui, Ryoichi Saito. Metatranscriptomic Analysis Reveals Actively Expressed Antimicrobial-Resistant Genes and Their Hosts in Hospital Wastewater. Antibiotics (Basel). 2024.11; 13(12); 1122

4. Ota Y., Chen F., Prah I., Mahazu S., Watanabe K., Kinoshita T., Gu Y., Nukui Y., Saito R.. Metatranscriptomic Analysis Reveals Actively Expressed Antimicrobial-Resistant Genes and Their Hosts in Hospital Wastewater Antibiotics. 2024.11; 13(12); 1122

5. Osaka Hilary, Tagashira Yasuaki, Takeuchi Hiroaki, Tanaka Yukie, Tanimoto Kousuke, Gu Yoshiaki. Nosocomial Outbreak of SARS-CoV-2 in a Hospital Ward during the Omicron Variant-Dominant Wave with a Review of the Relevant Literature(タイトル和訳中) Japanese Journal of Infectious Diseases. 2024.09; 77(5); 253-259

6. Yoshiaki Iwashita, Shizue Takeuchi, Yoshiro Hadano, Taira Kawamura, Yuichiro Tanaka, Rie Sato, Nobuhiro Kodani, Noriaki Yamada, Ryoichi Saito. A case of community-acquired Clostridioides difficile infection causing intussusception, severe pneumonia, and severe hypokalemia. BMC Infect Dis. 2024.07; 24(1); 744

7. Kayo Yamada, Alafate Ayibieke, Akari Ikeda, Kageto Yamada, Shinji Ogihara, Shuji Tohda, Ryoichi Saito. Molecular characterization of Staphylococcus epidermidis bloodstream isolates from two hospitals in Tokyo. Laboratory Medicine International. 2024.06; 3(2); 33-41

8. Osaka H, Tagashira Y, Takeuchi H, Tanaka Y, Tanimoto K, Gu Y. Nosocomial outbreak of SARS-CoV-2 in a hospital ward during the Omicron variant-dominant wave with a review of the relevant literature. Japanese journal of infectious diseases. 2024.05; 77(5); 253-259

9. Ota Y, Yasunaga K, Mahazu S, Prah I, Nagai S, Hayashi T, Suzuki M, Yoshida M, Hoshino Y, Akeda Y, Suzuki T, Gu Y, Saito R. Comparative evaluation of analytical pipelines for illumina short- and nanopore long-read 16S rRNA gene amplicon sequencing with mock microbial communities. Journal of microbiological methods. 2024.04; 221; 106929

10. Mahazu S, Prah I, Ota Y, Hayashi T, Suzuki M, Yoshida M, Hoshino Y, Akeda Y, Suzuki T, Ishino T, Ablordey AS, Saito R. Colistin Resistance Mediated by Mcr-3-Related Phosphoethanolamine Transferase Genes in Aeromonas Species Isolated from Aquatic Environments in Avaga and Pakro Communities in the Eastern Region of Ghana. Infection and drug resistance. 2024; 17; 3011-3023

[総説]

1. Yusuke Kanno, Shuzo Masui, Yusuke Ota, Ryoichi Saito, Takasi Nisisako. Electrochemical sensing strategies for on-site testing of pathogenic nucleic acids. Electrochemical Science Advance. 2024.04; 1-10

2. Yusuke Kanno, Shuzo Masui, Yusuke Ota, Ryoichi Saito, Takasi Nisisako. Electrochemical sensing strategies for on-site testing ofpathogenic nucleic acids Electrochemical Science Advances. 2024.04; 1-10

[講演・口頭発表等]

1. Ayaha Suzuki, Isaac Prah, Yusuke Ota, Samiratu Mahazu, Mitsunori Yoshida, Masato Suzuki, Yoshihiko Hoshino, Toshihiko Suzuki, Anthony Ablordy, Ryoichi Saito. Phenotypic and genotypic characterization of carbapenemase producers from hospital sewage in Ghana. The International Union of Microbiological Societies 2024 2024.10.25 Florence, Italy

2. Yusuke Ota, Fei Chen, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Kimiyo Watanabe, Tomoko Oda, Teruaki Kinoshita, Yoshiaki Gu, Yoko Nukui, Ryoichi Saito. Integrated metagenomic and metatranscriptomic analysis reveals actively expressed antimicrobial-resistant genes and their hosts in hospital wastewater. The International Union of Microbiological Societies 2024 2024.10.25 Florence, Italy

3. Yusuke Ota, Fei Chen, Isaac Prah, Samiratu Mahazu, Kimiyo Watanabe, Tomoko Oda, Teruaki Kinoshita, Yoshiaki Gu, Yoko Nukui, Ryoichi Saito. Integrated metagenomic and metatranscriptomic analysis reveals actively expressed antimicrobial-resistant genes and their hosts in hospital wastewater. IUMS 2024 2024.10

4. Ayaha Suzuki, Issac Prah, Yusuke Ota, Samiratu Mahazu, Mitsunori Yoshida2, Masato Suzuki, Yoshihiko Hoshino, Toshihiko Suzuki, Anthony Ablordy, Ryoichi Saito. Phenotypic and genotypic characterization of carbapenemase producers from hospital sewage in Ghana. IUMS2024 2024.10

5. Tomoko Oshiro, Yusuke Ota, Hideki Takahashi, Ryoichi Saito. Functional characterization of polyphosphates in Neisseria meningitidis. The Asian Society for Clinical Pathology and Laboratory Medicine 2024 2024.09.27 Seoul, Korea
6. Nanako Minami, Yusuke Ota, Hideki Takahashi, Ryoichi Saito. Genetic characteristics evolving ciprofloxacin resistance in Neisseria meningitidis. The Asian Society for Clinical Pathology and Laboratory Medicine 2024 2024.09.27 Seoul, Korea
7. Frederick Ofosu Appiah, Samiratu Mahazu, Isaac Prah, Yusuke Ota, Yohei Nishikawa, Mitsunori Yoshida, Masato Suzuki, Yoshihiko Hoshino, Toshihiko Suzuki, Tomoko Ishino, Anthony Ablordy, Ryoichi Saito. Emergence of meropenem-resistant blaPOM-1 producing Pseudomonas otitidis isolated from a river water in Ghana. The Asian Society for Clinical Pathology and Laboratory Medicine 2024 2024.09.27 Seoul, Korea
8. Nanako Minami, Yusuke Ota, Hideyuki Takahashi, Ryoichi Saito. Genetic characteristics evolving ciprofloxacin resistance in Neisseria meningitidis. ASCPaLM 2024 2024.09
9. Tomoko Oshiro, Yusuke Ota, Hideki Takahashi, Ryoichi Saito. Functional characterization of polyphosphates in Neisseria meningitidis. ASCPaLM 2024 2024.09
10. Frederick Ofosu Appiah, Samiratu Mahazu, Isaac Prah, Yusuke Ota, Yohei Nishikawa, Mitsunori Yoshida, Masato Suzuki, Yoshihiko Hoshino, Toshihiko Suzuki, Tomoko Ishino, Anthony Ablordy, Ryoichi Saito. Emergence Of meropenem-resistant blaPOM-1 producing Pseudomonas otitidis isolated from a river water in Ghana. ASCPaLM2024 2024.09
11. Yamazaki R, Tanaka Y, Igarashi Y, Fujimaru R, Kato J, Hayashi F, Tanosaki R. Possibility of the Sysmex XN series hematopoietic progenitor cells (HPC) as a substitute for CD34-positive cell counts in allogeneic peripheral blood stem cell harvest from G-CSF mobilized donor.. 38th International Congress of the International Society for Blood Transfusion 2024.06.23 Barcelona
12. Y Nukui, C Yamamoto, K Furukawa, T Inaba, R Saito, Y Ota, K Aoki, Y Ishii, R Koike. Molecular Epidemiological Analysis of Multidrug-Resistant Achromobacter xylosoxidans that Caused an Outbreak in Japan. AMS Microbe 2024 2024.06.13 Atlanta, GA

1. 太田悠介、高橋英之、齋藤良一. 侵襲性髄膜炎菌感染症の予防戦略に関わる Neisseria meningitidis の迅速且つ簡便な検査法の構築. 第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 2024.11
2. Yamazaki R, Tanaka Y, Nakamura S, Yokoyama K, Mori T. A case of peripheral T-cell lymphoma presenting with cyclic recurrent neutropenia. 第 86 回日本血液学会学術集会 2024.10.12 京都
3. 山崎 あずさ, 貫井 陽子, 亀田 貴寛, 甲田 祐樹, 市村 直也, 齋藤 良一, 東田 修二, 大川 龍之介. COVID-19 患者におけるプレセプシン測定の有用性と腎機能との関連. 第 64 回日本臨床化学会年次学術集会 YIA シンポジウム 2024.09.01 宇都宮
4. 高橋 英之, 森田 昌知, 神谷 元, 福住 宗久, 安田 満, 大濱 侑季, 志牟田 健, 大西 真, 齋藤 良一, 明田 幸宏. Emergence of ciprofloxacin and penicillin resistant meningococcal isolates in Japan. 第 97 回日本細菌学会総会 2024.08.07 札幌
5. 森本創世子, 岡芳弘, 藤木文博, 田中ゆきえ, 中田潤, 中島博子, 西田純幸, 保仙直毅, 坪井昭博, 尾路祐介, 杉山治夫. WT1 発現固形癌患者における WT1 特異的 CTL の自然に発生したクローン性増殖. 第 16 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会 2024.07.26 京都
6. 森本 創世子, 岡 芳弘, 藤木 文博, 田中 ゆきえ, 中田 潤, 中島 博子, 西田 純幸, 保仙 直毅, 坪井 昭博, 尾路 祐介, 杉山 治夫. WT1 発現固形癌患者における WT1 特異的 CTL の自然に発生したクローン性増殖. 日本がん免疫学会総会 · 日本バイオセラピィ学会学術集会総会合同大会プログラム · 抄録集 2024.06.01
7. 齋藤良一. 感染症抑止に向けた微生物学検査の基盤整備に関わる国際貢献活動. 日本医療検査学会第 38 回春季セミナー 2024.04.14 金沢
8. 齋藤良一. 科学論文を読み解く実践的アプローチ. 第 9 回イムノケミストリーオンラインセミナー 2024.03.28 東京
9. 石﨑瑠南, 山崎理絵, 田中ゆきえ, 五十嵐靖浩, 藤村亮介, 浅尾裕美子, 平林則行, 谷田部陽子, 荒井智子, 三ツ橋雄之, 加藤淳, 片岡圭亮, 吉本倫子, 賈宇, 林文明, 田野崎隆二. G-CSF+Plerixafor 動員末梢血幹細胞採取における HPC 値への CD34 陰性細胞集団の影響. 第 46 回日本造血 · 免疫細胞療法学会 2024.03.23

10. 太田 悠介，菅野 佑介，具 芳明，西迫 貴志，齋藤 良一. 迅速且つ簡便な病原細菌検出を可能とする電気化学センサの構築. 令和 5 年度生体医歯工学共同研究拠点成果報告 2024.03
11. 太田悠介、齋藤良一. 水環境における薬剤耐性の現状と求められる対策. 第 35 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2024.02.09 横浜
12. 南菜々子、太田悠介、高橋英之、齋藤良一. Neisseria meningitidis の ciprofloxacin 耐性化に伴う遺伝学的 · 細菌学的特徴. 第 35 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2024.02.09 横浜
13. 太田悠介. 臨床検査技師による研究の開花を目指して. 第 35 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会　2024.02
14. 太田悠介、齋藤良一. 水環境における薬剤耐性の現状と求められる対策. 第 35 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2024.02
15. 南菜々子、太田悠介、齋藤良一. Neisseria meningitidis の ciprofloxacin 耐性化に伴う遺伝学的 · 細菌学的特徴. 第 35 回日本臨床微生物学会総会 · 学術集会 2024.02

[受賞]

1. 太田悠介，日本臨床微生物学会 2023 年度創立四半世紀記念研究成果発表奨励賞 , 日本臨床微生物学会, 2024 年 01 月
2. 河村　平, The Best Biomedical Research Award (Master's Program), 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科, 2024 年 03 月
3. 齋藤良一, 緒方富雄賞, 日本臨床検査同学院, 2024 年 11 月
4. 太田悠介，国際学会奨励賞, 日本臨床検査医学会, 2024 年 11 月
5. 太田悠介，2024 年度東京医科歯科大学医学研究奨励賞, 2024 年 12 月

[その他業績]

1. 齋藤良一，超高精度メタゲノミクスによるガーナ医療排水に潜む薬剤耐性の実態解明と新規環境整備基盤の創出, 2024 年 04 月
公益財団法人鹿島学術振興財団　2024 年度国際共同研究援助，研究代表者.

2. 齋藤良一，流行地西アフリカ · ガーナ研究拠点における新興 · 再興感染症基盤研究の推進, 2024 年 04 月
国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）, 研究分担者.

3. 齋藤良一，一細胞ドロップレット技術による難培養性抗酸菌/薬剤耐性菌の pathogenomics 解析, 2024 年 04 月
国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）, 研究分担者.

4. 齋藤良一，ガーナにおける伴侶動物由来薬剤耐性菌の実態，ゲノム特性及び伝播様式の包括的理解, 2024 年 04 月
日本学術振興会　2023 年度二国間交流事業　共同研究, 研究代表者.

[社会貢献活動]

1. 齋藤良一，2024 年度 JICA 課題別研修 「臨床検査技術 - 新興 · 再興感染症にも対応できる臨床微生物学 - Clinical Laboratory Technology; Clinical Microbiology for the Diagnosis of Infectious Diseases Including Emerging and Re-emerging Infections」講師, 公益財団法人国際医療技術財団, 2024 年 10 月 18 日

口腔保健学講座

生涯口腔保健衛生学分野

Department of Lifetime Oral Health Care Sciences

教　　授　竹内　康雄
講　　師　駒津　匡二（12 月～）
特任助教　遠井　政行
医　　員　新見　ひろみ
非常勤講師　近藤　圭子

(1) 分野概要

「生涯口腔保健衛生学」は、疾患の予防 · 早期発見 · 治療を通じて一生涯にわたる「健口」支援を行うとともに、生活の質（QOL）の向上と健康寿命の延伸を目指す学問分野である。口腔は、食事や会話といった日常生活に必要な機能を支えるだけでなく、糖尿病や心血管疾患など全身の健康にも深く関わることが明らかになっている。このため、口腔の健康管理は、口腔疾患の予防だけでなく、全身の健康を守るための重要な取り組みとして位置づけられている。
健康な口腔環境を維持するためには、さまざまな要因の調和が必要である。その中でも、口腔内の微生物叢（マイクロバイオーム）でバランスが取れていることは特に重要である。このバランスが崩れる（Dysbiosis；微生物叢の乱れ）と、歯周病やう蝕、インプラント周囲疾患など、様々な口腔内感染症を引き起こすだけでなく、全身疾患の進行にも影響することが知られている。このため、Dysbiosis の予防と管理は、口腔および全身の健康維持における重要な課題である。
当分野では、Dysbiosis の制御を軸に、健康な微生物叢を維持するための予防策や管理方法の開発に取り組むとともに、加齢や疾患、歯の欠損などによる口腔機能の低下に対応する治療技術の研究も進めている。また、これらの取り組みを通じて、歯科医師、歯科衛生士をはじめとする口腔保健の専門職が、科学的根拠に基づいた医療を実践するための知識と技術を提供し、患者一人ひとりに適したケアを実現する教育を推進している。

(2) 研究活動

1. 歯周炎 · インプラント周囲炎に関わる細菌叢の解析
口腔内微生物叢（マイクロバイオーム）の構成とそのバランスの破綻である Dysbiosis が、歯周病やインプラント周囲疾患の発症および進行に与える分子レベルでの影響を解明する。

2. LED 光を用いた光治療の歯周治療への応用
LED 光の生物学的効果を応用し、非侵襲的かつ選択的に歯周組織の炎症を抑制する治療技術の開発を進める。光が細胞レベルでの修復プロセスや炎症性分子の発現に与える影響を検証し、効果的かつ臨床応用可能な治療法の確立を目指す。

3. 生活活動が口腔や全身の健康に与える影響
日常生活の習慣や身体活動が口腔内微生物叢のバランスに与える影響、それを介した全身疾患の発症リスクとの関連を解明し、健康増進のための戦略構築を目指す。

4. インプラント周囲疾患に対する新規デブライドメント法の開発
インプラント周囲疾患の効果的な治療を実現するため、新しいデブライドメント法を考案し、その基礎的および臨床的評価を行う。細菌除去効果の向上と周囲組織への負担軽減を両立させる技術的改良を目指す。

5. インプラント周囲疾患の予防を目指した表面改質技術の開発

材料科学の観点からインプラント材料表面の特性を制御し、病原性微生物の初期付着を阻止するとともに、宿主細胞の機能を促進するインプラント設計の最適化を図る。

(3) 教育活動

口腔疾患（特に歯周病）と糖尿病、心臓血管疾患などの全身疾患との関連性が明らかになっている。歯科医療従事者として、生涯にわたり国民の健康を維持 · 増進し、健康寿命を延伸させるためには、口腔疾患の予防と健診による早期発見を実践できる能力が重要となる。そこで、口腔疾患予防学の深い学問的知識と高水準の技術の修得を教育の一つの目標とする。また、口腔領域のヘルスカウンセリングやヘルスプロモーションの能力を養い、積極的に口腔保健の推進に寄与できる人材の育成を目標とする。
担当科目：
医療と AI· ビッグデータ入門、フィジカルウェルビーイング、感染予防、う蝕と歯周病歯科保存学、口腔疾患予防基礎学 II、口腔疾患予防応用学、他職種連携 I· II、先端歯科医療学、口腔疾患予防基礎学実習、口腔疾患予防応用学実習、臨床体験実習、歯科衛生臨床実習 I· II、卒業研究、歯周病学特論 II、口腔保健学セミナー、口腔保健福祉学、先端口腔保健応用学特論、生涯口腔保健衛生学演習

(4) 教育方針

1. 学部教育
学部教育では、一生涯を通じて口腔の健康維持に尽力し、生活の質（QOL）の向上と健康寿命の延伸に寄与する歯科医療従事者の育成を目指す。また、地域社会における多様な健康課題に対応するための実践力を培い、他職種との連携を通じて課題解決に取り組む能力を養成する。さらに、高い倫理観と幅広い視野を兼ね備え、統合的な視点で口腔の保健と全身の健康を結びつけることができる歯科医療従事者として成長するための教育環境を提供する。
2. 大学院教育
先端的な研究活動を通じて新たな知見を創出し、科学的根拠に基づく医療の発展に貢献できる人材の育成を目指す。本分野では、歯周病やインプラント周囲疾患に関連する細菌叢の解析や、口腔内微生物叢の乱れが全身疾患に及ぼす影響の解明を中心に、大学院生が研究プロジェクトに参画できる機会を提供する。これにより、研究プロセスを体系的に習得し、研究者としての基盤を確立する。さらに、国際的な学術交流や学会発表を通じて、広い視野と地域社会への貢献意識を兼ね備えた次世代の研究者を育成する。

(5) 臨床活動および学外活動

当分野の診療部門では、歯科医師と歯科衛生士が連携をとりながら、口腔疾患の予防、歯周治療と並行したケアおよび治療後のメインテナンス、周術期の口腔ケアなどを行っている。生涯を通して口腔領域の健康と全身の健康を保ち、健康寿命を延伸できるよう、個々の患者の生活 · 身体 · 口腔内の状態を正確に把握し、歯科衛生士による個々にあった歯科保健指導と専門的な処置を行っている。

(6) 臨床上の特色

当分野では、歯周病の予防や管理、周術期の口腔機能の維持に取り組み、包括的な口腔保健管理を行なっている。

(7) 研究業績

[原著]

1. G Tanabe, T Hasunuma, Y Takeuchi, H Churei, K Hayashi, K Togawa, N Moriya, T Ueno. Assessment of Exercise-Induced Dehydration Status Based on Oral Mucosal Moisture in a Field Survey Dentistry Journal. 2024.12; 13(1); 5

2. S.Shimizu, K.Hayashi, Y.Takeuchi, G.Tanabe, H.Churei, H.Kobayashi, T.Ueno, K.Fueki. Effect of Porphyromonas gingivalis Infection on Healing of Skeletal Muscle Injury: An In Vivo Study Dentistry Journal. 2024.10; 12(11); 346

3. Nagai T, Shiba T, Komatsu K, Watanabe T, Nemoto T, Maekawa S, Kobayashi R, Matsumura S, Ohsugi Y, Katagiri S, Takeuchi Y, Iwata T. Optimal 16S rRNA gene amplicon sequencing analysis for oral microbiota to avoid the potential bias introduced by trimming length, primer, and database Microbiology Spectrum. 2024.10; 12(12); e0351223

4. Okano T, Ashida H, Komatsu N, Tsukasaki M, Iida T, Iwasawa M, Takahashi Y, Takeuchi Y, Iwata T, Sasai M, Yamamoto M, Takayanagi H, Suzuki T. Caspase-11 mediated inflammasome activation in macrophages by systemic infection of *A. actinomycetemcomitans* exacerbates arthritis. International journal of oral science. 2024.08; 16(1); 54

5. Matsuura T, Komatsu K, Suzumura T, Stavrou S, Juanatas ML, Park W, Ogawa T. Enhanced functionality and migration of human gingival fibroblasts on vacuum ultraviolet light-treated titanium: An implication for mitigating cellular stress to improve peri-implant cellular reaction. Journal of Prosthodontic Research. 2024.08;

6. Chao D, Komatsu K, Matsuura T, Cheng J, Stavrou S, Jayanetti J, Chang T, Ogawa T. Human gingival fibroblast growth and function in response to laser-induced meso- and microscale hybrid topography on dental implant healing abutments. The International Journal of Oral & Maxillofacial Implants. 2024.08; 39(4); 603-614

7. Watanabe K, Maruyama Y, Mikami R, Komatsu K, Kikuchi K, Hotta K, Yoshikawa T, Ogasawara K, Hattori A, Arakawa S. Highly purified hypochlorous acid water facilitates glucose metabolism and memory formation in type 2 diabetic mice associated with altered-gut microbiota. Scientific reports. 2024.07; 14(1); 16107

8. Keiji Komatsu, Denny Chao, Takanori Matsuura, Daisuke Kido, Takahiro Ogawa. Advancing osseointegration research: A dynamic three-dimensional (3D) in vitro culture model for dental implants Journal of Dental Sciences. 2024.07;

9. Komatsu K, Matsuura T, Ogawa T. Achieving complete human gingival fibroblast collagen coverage on implant abutments through vacuum ultraviolet (VUV) photofunctionalization The International Journal of Oral & Maxillofacial Implants. 2024.04; 0(0); 1-32

10. Nagai T, Shiba T, Komatsu K, Matsumura S, Koyanagi T, Nemoto T, Kobayashi R, Takeuchi Y, Iwata T. Characterizing Bacterial Communities among Healthy, Peri-implant Mucositis, and Peri-implantitis Statuses by 16S rRNA gene amplicon sequencing 口腔病学会雑誌. 2024.03; 91(1); 8-18

11. Yokose M, Komatsu K, Shiba T, Tanaka D, Takeuchi Y, Ikeda Y. Gnetin-C, a Resveratrol Dimer, Inhibits the Growth and Virulence of Porphyromonas gingivalis 口腔病学会雑誌. 2024.03; 91(1); 47-65

[書籍等出版物]

1. 小田　茂，岩田　隆紀.　必ず上達　歯肉移植.　クインテッセンス出版株式会社，2024.02（ISBN：978-4-7812-0990-6)

[総説]

1. Keiji Komatsu, Takanori Matsuura, James Cheng, Daisuke Kido, Wonhee Park, Takahiro Ogawa. Nanofeatured surfaces in dental implants: contemporary insights and impending challenges International Journal of Implant Dentistry . 2024.07; 10(10);

2. Matsuura T, Komatsu K, Cheng J, Park G, Ogawa T. Beyond microroughness: novel approaches to navigate osteoblast activity on implant surfaces. International Journal of Implant Dentistry. 2024.07; 10(1); 35

3. Park G, Matsuura T, Komatsu K, Ogawa T. Optimizing implant osseointegration, soft tissue responses, and bacterial inhibition: A comprehensive narrative review on the multifaceted approach of the UV photofunctionalization of titanium. Journal of Prosthodontic Research. 2024.06;

4. Shiba T, Komatsu K, Takeuchi Y, Koyanagi T, Taniguchi Y, Takagi T, Maekawa S, Nagai T, Kobayashi R, Matsumura S, Katagiri S, Izumi Y, Aoki A, Iwata T. Novel flowchart guiding the non-surgical and surgical management of peri-implant complications: a narrative review Bioenginnering. 2024.01; 11(2); 118

1. 竹内　康雄. 口腔環境と全身疾患　運動が口腔や全身の健康に及ぼす影響 炎症と免疫. 2024.12; 33(1); 3-7
2. 竹内　康雄，芝　多佳彦. 歯周炎およびインプラント周囲炎に関連する細菌叢の解析 Colloid & Interface Communication. 2024.12; 49(4); 26-29

[講演 · 口頭発表等]

1. Takada K, Shiba T, Nagai T, Kobayashi R, Matsumura S, Komatsu K, Katagiri S, Iwata T. Exploring the Relationship between Oral Bacteria and Infective Endocarditis through Next-Generation Sequencing. 口腔病学会 2024.12.06
2. Keita Toyoshima, Peiya Lin, Yujin ohsugi, Hiromi Niimi, Sayaka Katagiri, Takanori Iwata, Akira Aoki. Effects of Er:YAG laser irradiation on cell proliferation and gene expression in osteocyte-like cells. The 18th Congress of World Federation for Laser Dentistry 2024.11.12 The Rebouças Convention Center
3. Kobayashi R, Shiba T, Nagai T, Komatsu K, Matsumura S, Nemoto T, Takada K, Takeuchi Y, Iwata T. Shifting the Microbiome Following Non-Surgical Treatment for Each Periodontal Status. The 110th Annual Meeting of the American Academy of Periodontology 2024.11.06
4. Nagai T, Shiba T, Komatsu K, Matsumura S, Koyanagi T, Nemoto T, Kobayashi R, Takeuchi Y, Iwata T. Characterizing Bacterial Communities among Healthy, Peri-implant Mucositis, and Peri-implantitis Statuses by 16S rRNA gene amplicon sequencing.. American Academy of Periodontology, 110th ANNUAL MEETING 2024.10.31

1. 小林龍太, 佐竹和久, 長井貴彦, 松村俊佑, 高田見己, 竹内康雄, 芝多佳彦, 岩田隆紀. 16S rRNA アンプリコンシーケンス解析を用いた 歯肉縁上歯石と歯肉縁下歯石の細菌叢の比較. 日本歯科保存学会 2024 年度秋季学術大会（第 161 回） 2024.11.21 アクリエひめじ
2. 豊嶋啓汰, 大杉勇人, 林 培雅, 駒津匡二, 芝多佳彦, 竹内康雄, 下平 剛, 土谷洋輔, 片桐さやか, 岩田隆紀, 青木 章. 結紮誘導歯周炎モデルマウスを用いた青色 LED 照射による口腔内細菌叢への影響. 第 36 回日本レーザー歯学会総会 · 学術大会 2024.10.19 愛知学院大学 楠元キャンパス
3. 竹内康雄. 生涯にわたる口腔保健支援　～研究と教育の取り組み～. 口腔病学会例会 2024.06.17 Web 開催

[受賞]

1. UJA 論文賞（奨励賞）（駒津匡二）, 海外日本人研究者ネットワーク, 2024 年 04 月
2. UCLA Science Day Poster Presentation First Place Award（駒津 匡二）, 2024 年 06 月

[その他業績]

1. 歯周病検査から治療の難易度を考えてみよう, 2024 年 02 月
東京医科歯科大学病院　歯科衛生士総合研修センター主催　公開オンライン講座
2. 歯周病ってなに? -その予防と治療について-, 2024 年 11 月
東京都町田市　健康教育講座
3. スポーツ歯科医学概論, 2024 年 11 月
日本競輪選手会　2024 年度　第 6 回特別訓練/第 8 回特別指導訓練
4. 歯周病のメインテナンス：新たなエビデンスとアプローチ, 2024 年 12 月
お茶ノ水さつき会（東京科学大学 歯科衛生士専門学校 · 東京科学大学歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻 同窓会） 令和 6 年公開講座

[社会貢献活動]

1. 歯周病ってなに -その予防と治療について-, 東京都町田市保健所, 東京都町田市 健康教育講座, 町田市民フォーラムホール, 2024 年 11 月 19 日

健康支援口腔保健衛生学分野

Department of Oral Care for Systemic Health Support

教授　樺沢　勇司
講師　伊藤　奏
助教　Liao Shin-Ru
大学院生（博士）須坂　美咲、廣田　優子、梶谷　京子
大学院生（修士）HSIEH HSIN YU

(1)　分野概要

1）教育
担当科目、臨床および研究の成果を通し、口腔保健活動に必要な知識と技術を教授する。オーラルメディシン、つまり、周術期口腔機能管理や歯周病と糖尿病など、口腔と全身の関連について教育する。また、顎口腔領域の健康評価について教授するとともに、全身の健康評価指標のひとつであるバイタルサイン測定実習、救急救命活動実習などを通し、基本的な知識と技術を習得させる。口腔の健康と社会格差についての教育も行なう。
さらに、顎口腔疾患に関する病理、病態、診断と治療について講義し、医科領域の基礎疾患を有する人々の口腔健康教育、口腔疾患予防に関し必要な知識を教授する。

（2）研究
口腔保健により健康の維持 · 増進を支援するための研究。特に周術期口腔機能管理についての研究や基礎疾患を有する人の口腔ケアに関する研究や、口腔の健康と社会格差についての研究、歯科衛生士学生教育の国際比較研究等を通して人々の健康と幸福に貢献する。

（3）臨床
口腔の健康を通して全身の健康の維持 · 増進をはかるために、歯学部附属病院の各外来と連携しながら、オーラルヘルスセンターにおいて、患者の歯科予防処置、口腔保健教育を行う。主に医系診療科の入院患者に対する口腔健康管理を行うとともに、看護師や栄養士、薬剤師等多職種と連携を取りながら、チーム医療の一員として患者の状態に合わせた口腔健康管理を実践している。

(2)　研究活動

（1）周術期口腔健康管理の研究
周術期管理学における口腔機能管理の意義について臨床的研究を行っている。
特に口腔外科手術、口腔がん手術後の口腔機能管理、リハビリテーションについて研究を行なっている。

（2）新規口腔清掃、口内炎予防、治療薬の開発
従来の方法よりも効果的な、口腔清掃、口内炎予防および治療方法についての研究を行なっている。

（3）口腔の健康と社会格差についての研究
ライフステージに応じた口腔の健康と社会環境要因に関する研究を行なっている。

（4）歯科衛生学生の認知的柔軟性に関する国際比較研究
アジアと欧米の歯科衛生学生の認知的柔軟性と心理的ウェルビーイングを調査 · 比較することにより、歯科衛生教育における学生の認知的柔軟性の育成方法を明らかにすることを目指している。

(3) 教育活動

担当科目：人体の構造と機能、歯 · 口腔の構造と機能、頭頸部の構造と機能、歯の形態学、生命倫理、病原微生物と生体防御、多職種連携教育、臨地 · 臨床実習、口腔外科学 · 歯科麻酔学，口腔内科学、歯科放射線学、口腔保健と国際協力、臨床医学、卒業研究、保健医療サービス、障害者歯科学、小児歯科学、歯科矯正学、臨床口腔保健応用学、生体材料学、口腔疾患予防基礎 · 応用学実習、臨床口腔保健衛生実習、歯科診療補助論、口腔保健衛生エクスターンシップ他

(4) 教育方針

口腔と全身の健康について貢献できる人材の育成を目的とする。オーラルメディシンや、健康に影響を与える社会環境要因について理解し、口腔保健活動に必要な知識と技術をもとに、人々の健康と福祉に寄与できる歯科衛生士を養成する。

(5) 臨床活動および学外活動

口腔の健康を通して全身の健康の維持 · 増進をはかるために、歯学部附属病院の各外来と連携しながら、オーラルヘルスセンターにおいて、患者の歯科予防処置、口腔保健教育を行なっている。医学系診療科の入院患者に対するオーラルマネージメントを行うとともに、看護師や多職種と連携して周術期管理を行なっている。
樺沢は口腔外科外来 · 顎顔面外科外来において、さまざまな口腔疾患患者の診断、治療、口腔保健指導等にも従事している。

(6) 臨床上の特色

オーラルメディシンの知識に基づき、より高度な専門性をもった周術期口腔機能管理を行なっている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Liao SR, Seki N, Foxton R, Sireerat K, Akiyama M, Kanamori Y, Moross J, Shinada K, Chen S, Morio I. An investigation into the cognitive flexibility of undergraduate dental hygiene students at two dental schools in Asia Journal of Dental Sciences. 2024.10; 19(4); 2196-2202

2. Kanako Noritake, Jun Tsuruta, Koji Mizutani, Keiko Kondo, Hitomi Suzuki, Naoko Adachi, Naoko Seki, Ridan Cao, Risako Mikami, Sayaka Katagiri, Yuji Kabasawa, Hiroshi Nitta. Educational effects of dental hygiene student intervention in dental student clinical practicum Journal of Dental Sciences. 2024.10;

3. Mikami R, Saito T, Mizuno R, Kabasawa Y, Matsuo K. Gingival Necrosis Associated with Septic Shock of Unknown Origin in Patient with Systemic Lupus Erythematosus: A Case Report. The Bulletin of Tokyo Dental College. 2024.12; 65(4); 83-90

4. Yuko Hirota, Naoko Adachi, Kanade Ito, Kayoko Shinada, Yuji Kabasawa. Relationship between oral health literacy and changes in self-assessment of oral health during COVID-19 Journal of Dental Sciences. 2024.05;

5. Cheng BH, Ho PS, Hsu CC, Chen FL, Chen MA, Kabasawa Y, Huang HL. Effectiveness of the lay health advisor program on oral function and quality of life in aboriginal older adults: A randomized controlled trial. Journal of oral rehabilitation. 2024.01; 51(5); 840-850

[書籍等出版物]

1. 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会　監修／野村武史 · 松浦信幸 · 升井一朗 · 白鳥たかみ · 水上美樹 編. 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学 · 歯科麻酔学 第 2 版. 医歯薬出版, 2024.02 (ISBN : 978-4-263-42637-1)

[講演 · 口頭発表等]

1. 樺沢勇司、伊藤　奏、沖　拓弥. 歯科医院の内外部空間に対する視線行動パターンの検討. 第 89 回　口腔病学会学術大会 2024.12.07 東京
2. 樺沢勇司，伊藤奏，Shin-Ru LIAO. ゼラチンシートの口腔ケア用品への応用. 第 89 回　口腔病学会学術大会 2024.12.07
3. Yumeno Kato, Kanade Ito, Shin-Ru Liao, Haruna Ozawa, Yuji Kabasawa. Factors associated with interprofessional competencies of dental hygienists : a multicenter cross-sectional study. International Symposium on Dental Hygiene 2024 2024.07.11 Seoul
4. Kabasawa Yuji, Miyamoto Koki, Liao Shin-Ru, Ito Kanade. Application of Gelatin Sheets to Oral Care Products. 第 4 回国際口腔ケア学会学術大会 2024.04.28 東京

1. グエン ホン · タイ, 沖 拓弥 , 樺沢 勇司, 伊藤 奏. 医療施設内部空間の印象評価時における視線分布予測モデル. 2024 年度日本建築学会大会（関東） 2024.08.30 東京
2. 則武加奈子, 鶴田潤, 水谷幸嗣, 近藤圭子, 鈴木瞳, 安達奈穂子, 關奈央子, 三上理沙子, 樺沢勇司, 海老原新, 秀島雅之, 新田浩. 東京医科歯科大学歯学部診療参加型臨床実習における職種間連携教育＜ D6-OH4 連携実習＞の概要とその効果. 第 56 回日本医学教育学会学術大会 2024.08.09 東京
3. 伊藤奏. Society 5.0 を見据えた口腔保健教育の事例紹介～令和を担う歯科衛生士育成を目指して～. 第 73 回日本口腔衛生学会学術大会 2024.05.11
4. 宮島 沙紀, 松尾 浩一郎, 樺沢 勇司, 日高 玲奈, 鈴木 瞳, 伊藤 奏. オーラルヘルスセンターの初診推移. 口腔病学会雑誌 2024.03.01
5. 加藤 夢乃, 小澤 晴菜, 伊藤 奏, 樺沢 勇司. 施設間比較による歯科衛生士の多職種連携に関わる能力の検証. 口腔病学会雑誌 2024.03.01
6. 樺沢 勇司, 伊藤 奏, 沖 拓弥. 歯科医院の内外部空間が印象評価に及ぼす影響について. 口腔病学会雑誌 2024.03.01
7. 小澤 晴菜, 加藤 夢乃, 伊藤 奏, 樺沢 勇司. 病院勤務の歯科衛生士における多職種連携と自己効力感との関連の検討. 口腔病学会雑誌 2024.03.01
8. 宮島 沙紀, 松尾 浩一郎, 樺沢 勇司, 日高 玲奈, 鈴木 瞳, 伊藤 奏. オーラルヘルスセンターの初診推移. 口腔病学会雑誌 2024.03.01
9. 小澤 晴菜, 加藤 夢乃, 伊藤 奏, 樺沢 勇司. 病院勤務の歯科衛生士における多職種連携と自己効力感との関連の検討. 口腔病学会雑誌 2024.03.01
10. 伊藤奏，田淵貴大，山本龍生，近藤克則，相田潤. 高齢者における新型タバコと口腔の健康との関連について. 第 34 回日本疫学会総会 2024.02.02 滋賀

[社会貢献活動]

1. アメリカ心臓協会（AHA) 救命救急講習会, 日本 ACLS 協会、歯科 · 口腔外科 ECC トレーニングサイト, 2007 年 08 月 26 日 - 現在
2. ブルーリボンキャラバン東京でのブース出展, 東京医科歯科大学、NPO 法人キャンサーネットジャパン, 2017 年 10 月 12 日 - 現在
3. ISO/TC 106 日本委員会 · 分科会委員, 国際標準化機構, 2019 年 04 月 03 日 - 現在

口腔疾患予防学分野

Department of Preventive Oral Health Care Sciences

教授　木野 志保
助教　安達 奈穂子
大学院生　小林 柚帆
大学院生　澤田 優紀
技術補佐員　池川 麻衣
技術補佐員　井上 裕子
技術補佐員　塚本 恵

(1) 分野概要

国民の健康の維持 · 増進を目指し、重要な口腔疾患を予防するために、その原因と予防に関する研究および教育を実施している。
　特に、社会疫学や公衆衛生学を応用した口腔疾患予防 · 口腔健康増進に関する疫学研究を行っている。また、口腔保健指導や健康教育、専門的な口腔ケアを実践するために必要な態度、知識、技術を習得できるような教育を行っている。

(2) 研究活動

１．口腔疾患予防 · 口腔健康増進に関する疫学研究
目的：口腔疾患の発生率やリスク要因を調査し、予防策の効果を評価すること。
具体例：地域別の口腔疾患の分布調査や、特定の予防プログラムの効果検証。

２．健康格差 · 社会的決定要因に関する研究
目的：社会的経済的要因が口腔健康にどのように影響を与えるかを明らかにし、健康格差を是正するための対策を考案すること。
具体例：低所得層と高所得層の間での口腔健康状態の差異の分析や、社会的支援プログラムの評価。

３．口腔の健康と保健医療システムに関する研究
目的：口腔保健医療システムの効果を評価し、改善策を提案すること。
具体例：歯科医療サービスの利用状況や満足度の調査、保健医療システムの改革案の提言。

４．歯科衛生教育に関する研究
目的：効果的な歯科衛生教育プログラムの開発と評価を行い、教育の質を向上させること。
具体例：学校や地域コミュニティでの歯科衛生教育プログラムの実施とその効果測定。

(3) 教育活動

[担当科目：口腔保健衛生学専攻]
公衆衛生学、口腔疾患予防基礎学Ⅰ、食生活教育、歯科衛生臨床 · 臨地応用論、口腔保健マネジメント論、地域口腔保健論、栄養と代謝、社会調査 · 研究の基礎、卒業研究、他

[担当科目：修士 · 博士課程]
課題研究口腔疾患予防学、口腔疾患予防学演習、疫学応用、口腔疫学基礎、ボーダレスコース特論、他

(4) 教育方針

国民の健康の維持 · 増進を目指し、重要な口腔疾患を予防するために、その原因と予防に関する専門的な知識と予防処置の技術を教授し、ならびに口腔保健指導や健康教育が行える能力を培う教育を行う。

とくに、主体性 · 開拓力の育成、データサイエンス分野の強化、クリティカル · シンキングの強化、国際性の養成、研究力 · 指導力の育成に注力し、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

(5) 研究業績

[原著]

1. Kanako Noritake, Jun Tsuruta, Koji Mizutani, Keiko Kondo, Hitomi Suzuki, Naoko Adachi, Naoko Seki, Ridan Cao, Risako Mikami, Sayaka Katagiri, Yuji Kabasawa, Hiroshi Nitta. Educational effects of dental hygiene student intervention in dental student clinical practicum Journal of Dental Sciences. 2024.10;

2. Sayo Masuko, Yusuke Matsuyama, Shiho Kino, Katsunori Kondo, Jun Aida. Changes in leisure activity, all-cause mortality, and functional disability in older Japanese adults: The JAGES cohort study. Journal of the American Geriatrics Society. 2024.11;

3. Naoko Adachi, Kumiko Sugimoto, Hitomi Suzuki, Kayoko Shinada. Influence of oral health status on absenteeism and presenteeism as indices of work productivity loss Journal of Dental Sciences. 2024.09; in press;

4. Naoko Adachi, Kumiko Sugimoto, Kayoko Shinada. Association between tooth loss and adherence to oral maintenance in a dental clinic: A retrospective study more than 20 years. International Journal of Dental Hygiene. 2024.08; 22(3); 596-603

5. Ishimaru, M; Zaitsu, T; Kino, S; Inoue, Y; Taira, K; Takahashi, H; Tamiya, N. Recent dental visits and family caregiving among individuals with dental symptoms: A nationwide cross-sectional study in Japan COMMUNITY DENTISTRY AND ORAL EPIDEMIOLOGY. 2024.08; 52(4); 406-412

6. Keiko Ueno, Daisuke Nishioka, Junko Saito, Shiho Kino, Naoki Kondo. Understanding the daily life needs of older public assistance recipient subgroups in Japan: A qualitative study Global Health & Medicine. 2024.08; 6(4); 259-263

7. Shiho Kino, Yudai Tamada, Kenji Takeuchi, Atsushi Nakagomi, Koichiro Shiba, Taro Kusama, Takafumi Yamamoto, Jun Aida. Exploring the relationship between oral health and multiple health conditions: An outcome-wide approach Journal of Prosthodontic Research. 2024.07; 68(3); 415-424

8. Yuko Hirota, Naoko Adachi, Kanade Ito, Kayoko Shinada, Yuji Kabasawa. Relationship between oral health literacy and changes in self-assessment of oral health during COVID-19 Journal of Dental Sciences. 2024.05; in press;

9. Shiho Kino, Keiko Ueno, Daisuke Nishioka, Naoki Kondo, Jun Aida. Prevalence of dental visits in older Japanese adults receiving public assistance. Community Dent Oral Epidemiol. 2024.02; 52(1); 68-75

10. Keiko Ueno, Chie Teramoto, Daisuke Nishioka, Shiho Kino, Hiroyuki Sawatari, Kazuaki Tanabe. Factors associated with prolonged on-scene time in ambulance transportation among patients with minor diseases or injuries in Japan: a population-based observational study. BMC emergency medicine. 2024.01; 24(1); 10

[総説]

1. 安達奈穂子. ポストコロナ時代に向けて、これからの口腔健康管理「これまでも、これからも　口腔健康管理の担い手は歯科衛生士」 Quint DENTAL AD Chronicle 2024. 2024.01; 8-9

2. 木野志保，相田潤. 臨床に向けた最近の研究動向から：最近の歯科疫学研究について「第 1 回 口腔の健康と健康状態 · ウェルビーイングとの関連の網羅的な検証研究—アウトカムワイド · アプローチを用いた縦断研究による解明」 月刊日本歯科評論. 2024.01;

[講演 · 口頭発表等]

1. Naoko Adachi, Hitomi Suzuki, Masayo Sunaga, Atsuhiro Kinoshita, Kumiko Sugimoto, Naomi Yoshida, Kayoko Shinada. Effectiveness of a Simulation Program Using Humanoid Patient Robot in Dental Hygiene Clinical Training. International Symposium on Dental Hygiene 2024 2024.07.11 Seoul, Korea

2. Yuki Sawada, Danielle Rulli, Kayoko Shinada, Naoko Adachi. Differences in Resilience and Stress between American and Japanese Dental Hygiene Students. International Symposium on Dental Hygiene 2024 2024.07.12 Seoul, Korea

1. 小林柚帆、木野志保、安達奈穂子、品田佳世子. 性格特性と口腔保健行動の関連. 2024.12.07

2. 安達奈穂子. お口の環境と全身の健康の関係性. Kenvue お口から健康委員会発足 · 記者発表会 2024.11.07

3. 藤本来さき、安達奈穂子、鈴木瞳、吉田直美、品田佳世子. 歯垢染色剤（市販品と歯科専売品）の染色性の比較. 日本歯科衛生学会第 19 回学術大会 2024.09.23 新潟

4. 岩﨑由依、安達奈穂子、品田佳世子. 外国人留学生の歯科保健行動および歯科受診行動に関する研究. 日本歯科衛生学会第 19 回学術大会 2024.09.23 新潟

5. 弘中まみ, 鈴木瞳, 杉本久美子, 安達奈穂子, 則武加奈子, 徳丸慶安, 藤本来さき, 佐藤由香, 吉田直美. 歯科衛生学生による患者への歯科保健指導の効果と意識変容に関わる要因の検討. 日本歯科衛生学会第 19 回学術大会 2024.09.23 新潟

6. 佐藤由香, 鈴木瞳, 杉本久美子, 安達奈穂子, 森岡典子, 柏木聖代, 吉田奈永, 徳丸慶安, 藤本来さき, 吉田直美. 歯科衛生学生による看護学生への口腔ケアに関する健康教育の効果 -フィードバックからの検討-. 日本歯科衛生学会 第 19 回学術大会 2024.09.23 新潟

7. 鈴木瞳, 杉本久美子, 安達奈穂子, 柏木聖代, 森岡典子, 高澤維月, 吉田奈永, 吉田直美. 歯科衛生学生における多職種連携に関する認識 · 態度 · 能力の現状ならびに連携教育の効果. 日本歯科衛生学会第 19 回学術大会 2024.09.23 新潟

8. 鈴木 瞳、安達 奈穂子、須永 昌代、木下 淳博、吉田 直美. シミュレーターを用いた歯科衛生学生の医療面接スキル評価の試み. 第 43 回日本歯科医学教育学会学術大会 2024.09.06 愛知

9. 則武加奈子, 鶴田潤, 水谷幸嗣, 近藤圭子, 鈴木瞳, 安達奈穂子, 關奈央子, 三上理沙子, 樺沢勇司, 海老原新, 秀島雅之, 新田浩. 東京医科歯科大学歯学部診療参加型臨床実習における職種間連携教育＜ D6-OH4 連携実習＞の概要とその効果. 第 56 回日本医学教育学会学術大会 2024.08.09 東京

10. 木野志保. 震災のメンタルヘルス · 健康格差への長期的影響. JAGES 岩沼プロジェクトシンポジウム 2024.01.20

11. 西岡 大輔, 木野 志保, 上野 恵子, 斉藤 雅茂, 近藤 尚己 . 高齢被保護者における社会調査の妥当性と代表性 生活保護-JAGES 結合データを用いた検証. 第 34 回日本疫会総会 2024.01

[受賞]

1. Best Oral Presentation Award, International Symposium on Dental Hygiene 2024 (Naoko Adachi), International Federation of Dental Hygienists, 2024 年 07 月

2. 奨励賞（木野志保）, 日本老年精神医学会, 2024 年 07 月

3. 第 18 回日本歯科衛生学会 学術発表賞　学生研究賞（遠藤 七海）, 日本歯科衛生士会, 2024 年 09 月

[その他業績]

1. 1D 歯科衛生士マスターコース「歯科衛生士の重要性を再確認する」, 2024 年 05 月

2. 歯周病が全身疾患の原因に…歯磨きや食事は？ 口腔ケア三つのポイント, 2024 年 11 月
読売新聞 大手小町

3. 講演「お口の環境と全身の健康の関係性」および対談, 2024 年 11 月
Kenvue お口から健康委員会発足 · 記者発表会

[社会貢献活動]

1. 歯科衛生士研修プログラム, 東京医科歯科大学歯科衛生士総合研修センター, 2018 年 08 月 02 日 - 現在
2. 日本歯科衛生学会学術大会一般演題査読, 2021 年 04 月 - 現在
3. 第 80 回日本公衆衛生学会学術集会一般演題査読, 2021 年 08 月 - 現在
4. 公衆衛生勉強会「KAKEHASHI」 発起人, 株式会社データック, 2023 年 08 月 - 現在
5. 「Int J Dent Hyg」誌発表論文の記事化, ヘルスデージャパン, 「m3」「毎日新聞（Web)」ほか, 2023 年 09 月 14 日 - 現在
6. ポストコロナ時代に向けて、これからの口腔健康管理, クインテッセンス出版株式会社, Quint DENTAL AD Chronicle 2024, 2023 年 11 月 10 日 - 2024 年 02 月 29 日
7. 一般社団法人海外日本人研究 者ネットワーク（UJA） Diversity, Equity and Inclusion Working Group 副会長, 2024 年 01 月 - 現在
8. 歯科衛生士の重要性を再認識する, 1D, 歯科衛生士マスターコース, 2024 年 05 月 - 現在
9. International Journal for Equity in Health 編集委員, 2024 年 09 月 - 現在
10. お口の環境と全身の健康の関係性 · 対談, Kenvue, お口から健康委員会発足 · 記者発表会, 2024 年 11 月 07 日
11. 内閣府　上席科学技術政策フェロー, 2024 年 12 月 - 現在

地域 · 福祉口腔機能管理学分野

Oral Health Sciences for Community Welfare

教授　松尾　浩一郎
講師　日高　玲奈
大学院生　田中　美咲
　　杉田　彩実花

(1) 分野概要

告知】分野の HP ができました！ 詳しくはこちらをご覧ください。
https://www.ohcw-tmd.com/
Vision「超高齢社会を迎える中，多様化した高齢者へ対応できる歯科医療者の育成するための基盤を整えていくこと，および，超高齢社会で活躍できる歯科医療者を多く輩出すること」
Mission「急性期医療から地域 · 福祉の現場で他職種と協働して，口腔のプロフェッショナルとして活躍できる人材を育成するための臨床 · 研究 · 教育を行うこと」
大学院や私たちの活動に興味がある方はお気軽にご連絡ください。

(2) 研究活動

1. 地域在住高齢者へのオーラルフレイル予防プログラムの開発
2. 要介護高齢者の食事モニタリングシステムの開発
3. 自立高齢者を増やすための革新的食品提供システムの開発
4. 脳卒中回復期における口腔機能管理システムの構築
5. がん周術期患者の術後早期口腔機能回復プログラムの開発
6. 多職種連携オーラルマネジメントシステムの開発

研究内容の詳細は分野 HP に掲載しています。こちらをご覧ください。
https://www.ohcw-tmd.com/
また，研究に関する質問，資料請求は，以下のアドレスまで。
matsuo.ohcw アット tmd.ac.jp(アットを@に変換)

(3) 教育活動

腔保健衛生学専攻：高齢者歯科学/高齢者福祉/介護福祉/歯科補綴学/在宅口腔保健医療/地域口腔保健医療/相談援助演習/相談援助実習/ソーシャルワーク
大学院修士課程：口腔保健福祉学

(4) 教育方針

医療 · 福祉で活躍できる Competency を得られる教育を目指しています
· 医療 · 介護現場で働ける知識 · スキル · 経験
· 他職種へ教育するコミュニケーション能力
· 自己意志をもった活動
· 研究心を有し，国際的な学術活動

(5) 臨床活動および学外活動

東京科学大学病院オーラルヘルスセンター
https://www.tmd.ac.jp/dent_hospital/medical/oral-health.html

日本老年歯科医学会　認定研修施設
日本歯科衛生士会　認定研修施設（高齢者歯科）

日本老年歯科医学会 専門医，指導医，摂食機能療法専門歯科医師
日本障害者歯科学会 専門医，指導医

(6) 臨床上の特色

東京科学大学病院オーラルヘルスセンターにて，入院患者の口腔管理を行う。

(7) 研究業績

[原著]

1. Hidaka R, Matsuo K, Tanaka M, Srinivasan M, Kanazawa M. Differences in oral hypofunction prevalence and category measures across age groups and sex in Japan: a pilot study. BMC oral health. 2024.12; 24(1); 1483

2. Mikami Risako, Saito Tetsuya, Mizuno Ruriko, Kabasawa Yuji, Matsuo Koichiro. Gingival Necrosis Associated with Septic Shock of Unknown Origin in Patient with Systemic Lupus Erythematosus: A Case Report(タイトル和訳中) The Bulletin of Tokyo Dental College. 2024.11; 65(4); 83-90

3. Tomohisa Ohno, Izumi Terada, Akiko Nomoto, Ichiro Fujishima, Yasuyuki Iwasa, Yoshiko Umeda, Daisuke Kanamori, Masako Kishima, Hideo Sakaguchi, Koichiro Matsuo, Yasutomo Motohashi, Kenichiro Ozaki, Shunsuke Minakuchi. Impact of Hospital Dentistry on Patients' Food Intake Status in Convalescent Rehabilitation Ward. J Oral Rehabil. 2024.11; 51(11); 2467-2474

4. Yu Sekimoto, Koichiro Matsuo, Ayu Sakai, Seiko Shibata, Shunsuke Minakuchi. Improvement of oral function and its impact on oral food intake in subacute stroke patients: A prospective study with dental intervention. J Oral Rehabil. 2024.08; 51(8); 1365-1372

5. Ayu Sakai, Koichiro Matsuo, Yu Sekimoto, Rena Hidaka, Akihiro Yoshihara. Changes in oral health status with dental intervention during the acute to subacute stages of stroke. Gerodontology. 2024.06; 41(2); 276-282

6. Takashi Sakurai, Taiki Sugimoto, Hiroyasu Akatsu, Takehiko Doi, Yoshinori Fujiwara, Akihiro Hirakawa, Fumie Kinoshita, Masafumi Kuzuya, Sangyoon Lee, Nanae Matsumoto, Koichiro Matsuo, Makoto Michikawa, Akinori Nakamura, Susumu Ogawa, Rei Otsuka, Kenji Sato, Hiroyuki Shimada, Hiroko Suzuki, Hiroyuki Suzuki, Hajime Takechi, Shinya Takeda, Kazuaki Uchida, Hiroyuki Umegaki, Satomu Wakayama, Hidenori Arai, . Japan-Multimodal Intervention Trial for the Prevention of Dementia: A randomized controlled trial. Alzheimers Dement. 2024.06; 20(6); 3918-3930

7. Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, Hidaka R, Yoshimi K, Shimizu Y, Saito K, Hatanaka Y, Mukai T, Itsui Y, Tohara H, Minakuchi S. Impact of oral health management by nurses and dental professionals on oral health status in inpatients eligible for the Nutrition Support Team: A longitudinal study J Oral Rehabil. 2024.02;

1. 西成 勝好, Zhang Ke, Yang Nan, Gao Zhiming, Gamonpilas Chaiwut, Turcanu Bresson Mihaela, Peyron Marie-Agnes, Fang Yapeng, 新田 陽子, Yao Xiaolin, Zhao Meng, 石原 清香, 中馬 誠, 船見 孝博, 神山 かおる, 森高 初惠, 吉村 美紀, 長野 隆男, 平島 円, 筒井 和美, Pongsawatmanit Rungnaphar, Hu Bing, Han Lingyu, Mleko Stanislaw, Tomczynska-Mleko Marta, Su Lei, 武政 誠, 堀 一浩, 松尾 浩一郎, 道脇 幸博, Zhang Yin, Singh Narpinder, Goh Aaron, Dou Zuilin. 咀嚼 · 嚥下過程のバイオレオロジー 日本バイオレオロジー学会誌 (B&R). 2024.04; 38(1); 2-8

2. 松尾　浩一郎. 精密検査 VF とは？ 気をつけることは？ 発達期障害児者の摂食機能療法の手引き. 2024.04; 51-53

3. 大野 友久, 岩佐 康行, 梅田 慈子, 金森 大輔, 貴島 真佐子, 阪口 英夫, 松尾 浩一郎, 元橋 靖友, 尾崎 研一郎, 水口 俊介, 日本老年歯科医学会病院歯科委員会. 高齢者の医療 · 地域連携に貢献する高齢者対応型病院歯科の普及に向けた調査 · 研究 日本歯科医学会誌. 2024.03; 43; 46-51

[書籍等出版物]

1. Nart J, Vilarrasa J, Tapia B, Barallat L, Paniagua B, Valles C, Matsuo K. A Multidisciplinary Approach to Managing Swallowing Dysfunction in Older People. Elsevier, 2024.03 (ISBN : 978-0323916868)

1. 関矢一郎.　再生医学とフレイル · ロコモ〜半月板を例にして〜.　日本医事新報社, 2024.08 (ISBN : 978-4-7849-2385-4)

2. 松尾浩一郎. クリア言語聴覚療法 9　摂食嚥下障害. 建帛社, 2024.07 (ISBN : 978-4-7679-4559-0)

3. 一般社団法人　日本顎関節学会. 新編顎関節症第 3 版. 永末書店, 2024.06 (ISBN : 978-4-8160-1442-0)

4. 松尾浩一郎. 発達期障害児者の摂食機能療法の手引き. 公益社団法人日本障害者歯科学会, 2024.04

[総説]

1. 松尾 浩一郎. 「回復期における歯科の役割と医療連携」　脳卒中回復期リハビリテーションにおける歯科の役割 老年歯科医学. 2024.09; 39(2); 83-90

2. 松尾　浩一郎. 口腔機能 · 口腔衛生 臨時増刊 誤嚥性肺炎とリハビリテーション. . 2024.06; 33(7); 610-617

[講演 · 口頭発表等]

1. Hitomi Sato, Koichiro Matsuo, Saki Miyajima, Ruriko Mizuno, Moeko Ishii, Hitomi Suzuki, Rena Hidaka, Yuji Kabasawa. Improvement of oral function and oral intake status by intensive oral rehabilitation after oral cancer surgery: A case report　. iADH 2024.09.27 Seoul

2. Rena Hidaka, Koichiro Matsuo, Yasuyuki Iwasa,Tomohisa Ohno,Daisuke Kanamori, Masako Kishima, Satoshi Teranaka, Junichi Furuya. Effects of dental intervention on oral food intake in subacute stroke patients: a multi-institutional prospective observational study . iADH 2024.09.27 Seoul

3. Amika Sugita, Koichiro Matsuo, Rena Hidaka, Johanna Anderson, Mats Stading, Kenji Suzuki. Sound based analysis of Test of Masticating and Swallowing Solids (TOMASS) using a portable neck-worn swallowing sounds monitoring device. iADH 2024.09.27

4. Koichiro MATSUO. Multidisciplinary approach to oral health care and dysphagia management. iADH 2024.09.27 Seoul

5. Saki Miyajima, Koichiro Matsuo, Hitomi Sato, Ruriko Mizuno, Moeko Ishii, Hitomi Suzuki, Rena Hidaka, Yuji Kabasawa. Oral health challenges in patients with depression, cognitive impairment, and suspected parkinsonism: a case report . iADH 2024.09.27 Seoul

6. R Hidaka, K Matsuo, Y Iwasa, T Ohno, D Kanamori, M Kishima, S Teranaka, J Furuya.. Effects of dental intervention on oral food intake in subacute stroke patients: a multi-institutional prospective observational study .. iADH2024 2024.09.27 Seoul

7. A Sugita, K Matsuo, R Hidaka, J Anderson, M Stading, K Suzuki.. Sound based analysis of Test of Masticating and Swallowing Solids (TOMASS) using a portable neck-worn swallowing sounds monitoring device.. iADH2024 2024.09.27 Seoul

8. S Miyajima, K Matsuo, H Sato, R Mizuno, M Ishii, H Suzuki, R Hidaka, Y Kabasawa. . Oral health challenges in patients with depression, cognitive impairment, and suspected parkinsonism: a case report . . iADH2024 2024.09.27 Seoul

9. H Sato, K Matsuo, S Miyajima, R Mizuno, M Ishii, H Suzuki, R Hidaka, Y Kabasawa. . Improvement of oral function and oral intake status by intensive oral rehabilitation after oral cancer surgery: A case report　. iADH2024 2024.09.27 Seoul

10. Koichiro Matsuo, Rena Hidaka, Misaki Tanaka, Murali Srinivasan, Manabu Kanazawa. Age-related differences in oral function and association with physical function: Normative assessment implications. 34th Annual Congress of the European College of Gerodontology 2024.06.07 Belgrade, Serbia

11. Koichiro Matsuo, Rena Hidaka, Misaki Tanaka, Murali Srinivasan, Manabu Kanazawa. Age-related differences in oral function and association with physical function: Normative assessment implications. ECG 2024.06.06 Beograde

12. K Matsuo, R Hidaka, M Tanaka, M Srinivasan, M Kanazawa.. Age-related differences in oral function and association with physical function: Normative assessment implications. . 34th Annual Congress of the European College of Gerodontology 2024.06.06 Beograde

13. Koichiro MATSUO. Effects of Comprehensive oral frailty prevention program on physical and oral frailty – CAMCAM Lunch Program - . ISTCD 2024.05.05 Tainan

14. Koichiro MATSUO. Oral frailty and general health. KAGD 2024.04.07 Seoul

15. Misaki Tanaka, Koichiro Matsuo, Yu Sekimoto, Ayu Sakai, Tomoka Maruyama, Rena Hidaka. Perioperative Changes in Oral Function and Oral Food Intake Status in Patients Undergoing Gastric or Esophageal Cancer Surgery. The 102th General Session& Exhibition of the IADR 2024.03.16 new orleans

16. Misaki Tanaka,Koichiro Matsuo, Yu Sekimoto,Ayu Sakai, Tomoka Maruyama, Rena Hidaka. Perioperative Changes in Oral Function and Oral Food Intake Status in Patients Undergoing Gastric or Esophageal Cancer Surgery . IADR 2024.03.16 New Orleans

17. Koichiro Matsuo, Rena Hidaka, Misaki Tanaka, Murali Srinivasan, Manabu Kanazawa. Age-related differences in oral function and association with physical function: Normative assessment implications. IADR 2024.03.16 New Orleans

18. Yu Sekimoto,Koichiro Matsuo,Ayu Sakai. Association between recovery of oral function and improvement of oral food intake status in subacute stroke patients admitted to a convalescent rehabilitation unit . IADR 2024.03.16 New Orleans

19. K Matsuo, R Hidaka, M Tanaka, M Srinivasan, M Kanazawa.. Age-related differences in oral function and association with physical function: Normative assessment implications.. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.16 New Orleans

20. M Tanaka, K Matsuo, Y Sekimoto, A Sakai, T Maruyama, R Hidaka.. Perioperative Changes in Oral Function and Oral Food Intake Status in Patients Undergoing Gastric or Esophageal Cancer Surgery .. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.16

1. 日高玲奈、松尾浩一郎、田中美咲、杉田彩実花、小城明子、増田裕次. . 子ども食堂利用者への複合的食育プログラムの効果—カムカムキッズプログラム—. . 日本咀嚼学会第 35 回学術大会 2024.09.14 市川市

2. 田中美咲，松尾浩一郎，日高玲奈，小城明子，増田裕次. アプリを用いたオーラルフレイル予防プログラムへの積極的参加がオーラルフレイル改善へ及ぼす効果. 日本咀嚼学会第 35 回学術大会 2024.09.14 市川

3. 日高玲奈、松尾浩一郎、田中美咲、杉田彩実花、小城明子、増田裕次. 子ども食堂利用者への複合的食育プログラムの効果-カムカムキッズプログラム-. 日本咀嚼学会第 35 回学術大会 2024.09.14 市川

4. 杉田 彩実花、松尾 浩一郎、日高 玲奈、Johanna Anderson、Mats Stading 、鈴木 健嗣. 頸部装着型電子聴診器を用いた TOMASS（Test of Masticating and Swallowing Solids）の音声解析. JSDR 2024.08.30 福岡

5. 麦　雅文、大原　朋子、青島　久、青島　眞理子、辻村　亨、松尾　浩一郎. 歯科が移設されていない病院での Oral Health Assessment Tool（OHAT）導入後 5 年間の看護師の口腔ケアへの意識変化. JSDR 2024.08.30 福岡

6. 松尾　浩一郎. 口腔ケアと咀嚼（義歯）のモヤモヤを解消したい！ Let’s discuss oral health care and chewing (dentures) with you all!. JSDR 2024.08.30 福岡

7. 杉田 彩実花、松尾 浩一郎、日高 玲奈、Johanna Anderson、Mats Stading 、鈴木 健嗣.. 頸部装着型電子聴診器を用いた TOMASS（Test of Masticating and Swallowing Solids）の音声解析. . 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024.08.30 福岡

8. 西山暁、坂本一郎、川上哲司、高野直久、津賀一弘、羽毛田匡、日高玲奈、松香芳三、水口一、湯浅秀道. 日本国民における顎関節症症状保有率に関する調査. 第 37 回一般社団法人日本顎関節学会総会 · 学術大会 2024.07.13 徳島

9. 松尾浩一郎、日高玲奈、増田裕次、田中美咲、丸山朋華、杉田彩実花、小城明子. アプリ併用によるオーラルフレイル予防複合プログラムの効果 —カムカム健康プログラムの社会実装への取組—. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.29 札幌

10. 松尾　浩一郎. カムカム健康プログラム Dx を体験してみよう！ -食育的オーラルフレイル予防 Dx プロジェクト-. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.29 札幌

11. 松尾浩一郎，増田裕次，日高玲奈，田中美咲，丸山朋華，杉田彩実花，小城明子. アプリ併用によるオーラルフレイル予防複合プログラムの効果—カムカム健康プログラムの社会実装への取組—. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

12. 日高玲奈，松尾浩一郎，岩佐康行，大野友久，金森大輔，貴島真佐子，寺中智，古屋純一，関本愉. 脳卒中回復期における歯科介入の効果　—多機関共同研究—. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

13. 宮島沙紀, 日高玲奈, 水野留理子, 佐藤瞳, 石井萌子, 鈴木瞳, 岡田光純, 鈴木啓之, 松尾浩一郎. 東京医科歯科大学病院オーラルヘルスセンターの患者推移. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

14. 佐藤瞳, 鈴木瞳，岡田光純, 宮島沙紀, 水野留理子, 石井萌子, 日高玲奈, 鈴木啓之, 松尾浩一郎. 臼後部扁平上皮癌を有する高齢患者への周術期口腔管理の経験. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

15. 中村純也, 内田一彰, 村上正治, 釘宮嘉浩, 守谷恵未, 中野有生, 佐藤穂香, 永井彩絵, 松尾浩一郎, 櫻井孝. オーラルフレイルを有する高齢者に対する多因子介入が食品摂取多様性への介入効果に与える影響. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

16. 松尾浩一郎，日高玲奈，岩佐康行，大野友久，金森大輔，貴島真佐子，寺中智，古屋純一，関本愉. . 脳卒中回復期リハビリテーション病棟入院時における摂食嚥下障害と口腔環境との関連性　—多機関共同研究—.. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

17. 日高玲奈，松尾浩一郎，岩佐康行，大野友久，金森大輔，貴島真佐子，寺中智，古屋純一，関本愉. . 脳卒中回復期における歯科介入の効果　—多機関共同研究—. . 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

18. 宮島沙紀, 日高玲奈, 水野留理子, 佐藤瞳, 石井萌子, 鈴木瞳, 岡田光純, 鈴木啓之, 松尾浩一郎.. 東京医科歯科大学病院オーラルヘルスセンターの患者推移. . 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

19. 佐藤瞳, 鈴木瞳，岡田光純, 宮島沙紀, 水野留理子, 石井萌子, 日高玲奈, 鈴木啓之, 松尾浩一郎.. 臼後部扁平上皮癌を有する高齢患者への周術期口腔管理の経験.. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28

20. 松尾浩一郎，増田裕次，日高玲奈，田中美咲，丸山朋華，杉田彩実花，小城明子.. アプリ併用によるオーラルフレイル予防複合プログラムの効果—カムカム健康プログラムの社会実装への取組—.. 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会 2024.06.28 札幌

21. 日高玲奈. 歯科衛生士への顎関節症の教育について、TCH 是正のコツ. 日本歯科衛生士会研修　「日本顎関節学会共同企画　顎関節を知ろう！」 2024.05.26

22. 宮島 沙紀, 松尾 浩一郎, 樺沢 勇司, 日高 玲奈, 鈴木 瞳, 伊藤 奏. オーラルヘルスセンターの初診推移. 口腔病学会雑誌 2024.03.01

23. 田中美咲，松尾浩一郎，丸山朋華，関本愉，日高玲奈. 胃がん · 食道がん患者の周術期における口腔機能の低下と経口摂取との関連性. 第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 2024.02.16 横浜

24. 田中美咲，松尾浩一郎，丸山朋華，関本愉，日高玲奈. 胃がん · 食道がん患者の周術期における口腔機能の低下と経口摂取との関連性. JSPEN 2024.02.15 横浜

25. 松尾浩一郎. 栄養から考えるオーラルヘルス. JSPEN2024 2024.02.15 横浜

26. 田中美咲，松尾浩一郎，丸山朋華，関本愉，日高玲奈. . 胃がん · 食道がん患者の周術期における口腔機能の低下と経口摂取との関連性.. 第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会（JSPEN2024） 2024.02.15 横浜

27. 松尾浩一郎. 周術期口腔管理の効果効用. 第 47 回日本嚥下医学会 2024.02.09 新潟

[受賞]

1. 最優秀口演賞, 日本老年歯科医学会第 35 回学術大会, 2024 年 06 月

2. Healthy Longevity Global Challenge Catalyst Award, 全米医学アカデミー, 2024 年 10 月

[その他業績]

1. 令和 6 年度 東京都と大学との共同事業 , 2024 年 04 月
   子ども食堂を活用した口の健康と食育の複合プログラムの開発と実施

[社会貢献活動]

1. 口腔衛生管理指導, 社会福祉法人慈生会「ベタニアホーム」, 2012 年 07 月 31 日 - 現在
2. フレイル予防講座（口から始まる物語）, 中野区立若宮高齢者会館, 2020 年 04 月 03 日 - 2024 年 03 月 31 日
3. シニアの講座「健康は口からはじまる」, 中野区　白鷺高齢者会館, 2021 年 03 月 29 日 - 現在
4. 管理栄養士 · 歯科衛生士向け介護予防推進指導者育成研修　「歯科衛生士による「通いの場」への支援」, 静岡県歯科衛生士会, 2022 年 - 現在
5. 第 53 回認知症他職種カフェ”けあとも”　「認知症患者の口腔ケアのポイント」, 認知症他職種カフェ, 2024 年 02 月 21 日
6. 令和 6 年度南多摩保健所　摂食嚥下機能支援研修会（介護職向け）「摂食嚥下機能の”い · ろ · は”を見直そう～現場で求められる支援とは～, 南多摩保健所, 2024 年 09 月 09 日
7. 矢口東小学校　「大人図鑑」, 矢口東小学校, 2024 年 09 月 13 日

口腔健康教育学分野

Department of Oral Health Care Education

(1) 研究業績

[原著]

1. Kanako Noritake, Jun Tsuruta, Koji Mizutani, Keiko Kondo, Hitomi Suzuki, Naoko Adachi, Naoko Seki, Ridan Cao, Risako Mikami, Sayaka Katagiri, Yuji Kabasawa, Hiroshi Nitta. Educational effects of dental hygiene student intervention in dental student clinical practicum Journal of Dental Sciences. 2024.10;

2. Naoko Adachi, Kumiko Sugimoto, Hitomi Suzuki, Kayoko Shinada. Influence of oral health status on absenteeism and presenteeism as indices of work productivity loss Journal of Dental Sciences. 2024.09; in press;

3. 大人の正しい歯みがきと口腔ケア 婦人公論. 2024.08;

1. 犬飼 順子, 松本 厚枝, 合場 千佳子, 吉田 直美, 石黒 梓, 池田 亜紀子, 古川 絵理華, 沼部 幸博, 品田 佳世子. 歯科衛生士養成機関における歯科衛生教育の現状 日本歯科衛生教育学会雑誌. 2024.10; 15(2); 84-95

2. 吉田直美. 創刊 500 号記念特別編 SNAP into action デンタルハイジーン. 2024.09; 44(9); 948-953

3. 吉田直美. 知ってナットク！ いまを読み解く キーワード (6) 動機づけ面接（Motivational Interviewing：MI） デンタルハイジーン. 2024.06; 44(6);

[書籍等出版物]

1. 吉田直美、三浦宏子、小方 頼昌. 新歯科保健指導ハンドブック ライフコースに沿った歯 · 口腔の健康づくりの展開にむけて. 医歯薬出版株式会社, 2024.10 (ISBN : 978-4-263-42329-5)

2. 吉田直美監修，松山美和編集主幹. 歯科衛生士のための糖尿病予防指導マニュアル. 医歯薬出版株式会社, 2024.09 (ISBN : 978-4-263-42330-1)

3. 吉田直美（発行者）. 日本歯科衛生学会学術雑誌第 19 巻 1 号. 2024.08

4. 鳥山佳則，田口円裕，吉田直美，金澤紀子，武藤智美. 歯科衛生士のための歯科診療報酬入門 2024-2025. 医歯薬出版株式会社, 2024.06 (ISBN : 978-4-263-42326-4)

5. 吉田直美、新田浩、磯村毅、うさっぱ. マンガでわかる歯科臨床での動機づけ面接. クインテッセンス出版(株), 2024.04 (ISBN : 978-4-7812-1004-9)

6. 吉田直美（発行者）. 日本歯科衛生学会雑誌第 18 巻 2 号. 2024.02

7. 吉田直美. 知ってナットク！ いまを読み解くキーワード (1) 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項. 医歯薬出版株式会社, 2024.01

8. 吉田直美 他. 歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論 · 歯科保健指導論. 医歯薬出版株式会社, 2024.01 (ISBN : 978-4-263-42607-4)

[総説]

1. 鈴木瞳. 歯科衛生士が知っておきたい周術期等口腔機能管理の知識と対応 日本歯周病学会会誌. 2024.12; 66 (4); 190-195

2. 吉田 直美. 知ってナットク!いまを読み解くキーワード (第 11 回)　人生会議 (アドバンス · ケア · プランニング [ACP])　歯科医療 · 歯科衛生士領域編 デンタルハイジーン. 2024.11; 44(11); 1079

3. 吉田直美. 「むし歯」「歯周病」など口のトラブルから始まる《メタボリックドミノ》は、脳卒中や認知症に繋がることも。オーラルフレイル対策 2 つのポイント＜イラストでわかる＞むし歯 · 歯周病を防ぐブラッシング術（１） 婦人公論. 2024.10;

4. 吉田直美. むし歯予防と歯周病ケアでは歯ブラシのタイプを分けて。歯磨き指導のプロが教える、目的別オーラルケアグッズの選び方＜イラストでわかる＞むし歯 · 歯周病を防ぐブラッシング術（２） 婦人公論. 2024.10;

5. 吉田直美. 「順番」「毛先の当て方」「動かし方」が重要に。歯磨き指導のプロが教える、隅まで汚れを取り、磨き残しをなくす《歯の磨き方》＜イラストでわかる＞むし歯 · 歯周病を防ぐブラッシング術（３） 婦人公論. 2024.10;

6. 吉田直美. 口臭の原因は、更年期以降の唾液の減少、舌の汚れ。マッサージや舌苔掃除で対策を。高齢でのインプラントにも注意が必要＜イラストでわかる＞むし歯 · 歯周病を防ぐブラッシング術（４） 婦人公論. 2024.10;

7. 吉田直美. 知ってナットク！ いまを読み解くキーワード①歯科口腔保健の推進に関する基本的事項 デンタルハイジーン. 2024.01; 44(1); 13

[講演 · 口頭発表等]

1. Hitomi Sato, Koichiro Matsuo, Saki Miyajima, Ruriko Mizuno, Moeko Ishii , Hitomi Suzuki , Rena Hidaka, Yuji Kabasawa. Improvement of oral function and oral intake status by intensive oral rehabilitation after oral cancer surgery: A case report. International Association for Disability & Oral Health (iADH) 2024.09 Seoul

2. Saki Miyajima, Koichiro Matsuo, Hitomi Sato, Ruriko Mizuno, Moeko Ishii, Hitomi Suzuki, Rena Hidaka, Yuji Kabasawa. Oral health challenges in patients with depression, cognitive impairment, and suspected parkinsonism. International Association for Disability & Oral Health (iADH) 2024.09 Seoul

3. Suzuki H, Sugimoto K, Yoshida N, Kubota-Miyazawa A, Takazawa I and Yoshida N.. Association of oral health knowledge with oral health literacy and oral health behaviors among newly enrolled students in a Japanese medical university.. International Symposium on Dental Hygiene 2024 2024.07.15 South Korea

4. Naoko Adachi, Hitomi Suzuki, Masayo Sunaga, Atsuhiro Kinoshita, Kumiko Sugimoto, Naomi Yoshida, Kayoko Shinada. . Effectiveness of a Simulation Program Using Humanoid Patient Robot in Dental Hygiene Clinical Training. . International Symposium on Dental Hygiene 2024 2024.07.15 South Korea

5. Suzuki H, Sugimoto K, Yoshida N, Kubota-Miyazawa A, Takazawa I and Yoshida N. . Association of oral health knowledge with oral health literacy and oral health behaviors among newly enrolled students in a Japanese medical university. International Symposium on Dental Hygiene 2024.07

6. Naoko Adachi, Hitomi Suzuki, Masayo Sunaga, Atsuhiro Kinoshita, Kumiko Sugimoto, Naomi Yoshida, Kayoko Shinada. Effectiveness of a simulation program using humanoid patient robot in dental hygiene clinical training . International Symposium on Dental Hygiene 2024.07

1. 水野留理子, 宮島　沙紀, 佐藤　瞳, 石井　萌子, 加藤　夢乃, 吉田　奈永, 田中　美咲, 杉田　彩実花, 日高　玲奈, 鈴木　瞳, 岡田　光純, 松尾　浩一郎. 敗血症性ショックに伴う歯肉壊死を認めた全身性エリテマトーデス患者へ口腔衛生管理を行った 一例. 第 41 回日本障害者歯科学会総会および学術大会 2024.12.12

2. 石井萌子, 日高玲奈, 岡田光純, 宮島沙紀, 水野留理子, 佐藤瞳, 加藤夢乃, 吉田奈々, 田中美咲, 杉田彩実花, 鈴木瞳, 松尾浩一郎. 20 年以上歯科受診のなかった嗅神経芽細胞腫患者への行動変容ステージモデルを適用した周術期 口腔機能管理. 2024.12.12

3. 吉田 直美. 歯科衛生士の今、そして、求められる行動変容を促すコミュニケーション力. 日本矯正歯科学会大会プログラム · 抄録集 2024.10.01

4. 鈴木 瞳, 檜作 真理子, 杉本 久美子, 吉田 奈永, 吉田 直美. 20 代女性における月経周期と口腔内状態および口腔自覚症状との関連. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.09.23
5. 藤本 来さき, 安達 奈穂子, 鈴木 瞳, 吉田 直美, 品田 佳世子. 歯垢染色剤 (市販品と歯科専売品) の染色性の比較. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.09.23
6. 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 奈穂子, 森岡 典子, 柏木 聖代, 高澤 維月, 吉田 奈永, 吉田 直美. 歯科衛生学生における多職種連携教育の尺度を用いた評価の試み. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.09.23
7. 弘中 まみ, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 菜穂子, 則武 加奈子, 徳丸 慶安, 藤本 来さき, 佐藤 由香, 吉田 直美. 歯科衛生学生による患者への歯科保健指導の効果と意識変容に関わる要因の検討. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.09.23
8. 佐藤 由香, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 奈穂子, 森岡 典子, 柏木 聖代, 吉田 奈永, 徳丸 慶安, 藤本 来さき, 吉田 直美. 歯科衛生学生による看護学生への口腔ケアに関する健康教育の効果　フィードバックからの検討. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.09.23
9. 鈴木 瞳，安達 奈穂子，須永 昌代，木下 淳博，吉田 直美. シミュレーターを用いた歯科衛生学生の 医療面接スキル評価の試み. 第 43 回日本歯科医学教育学会学術大会 2024.09.07
10. 則武加奈子, 鶴田潤, 水谷幸嗣, 近藤圭子, 鈴木瞳, 安達奈穂子, 關奈央子, 三上理沙子, 樺沢勇司, 海老原新, 秀島雅之, 新田浩. 東京医科歯科大学歯学部診療参加型臨床実習における職種間連携教育＜ D6-OH4 連携実習＞の概要とその効果. 第 56 回日本医学教育学会学術大会 2024.08.09 東京
11. 鈴木 瞳, 檜作 真理子, 杉本 久美子, 吉田 奈永, 吉田 直美. 20 代女性における月経周期と口腔内状態および口腔自覚症状との関連. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.08.01
12. 藤本 来さき, 安達 奈穂子, 鈴木 瞳, 吉田 直美, 品田 佳世子. 歯垢染色剤 (市販品と歯科専売品) の染色性の比較. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.08.01
13. 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 奈穂子, 森岡 典子, 柏木 聖代, 高澤 維月, 吉田 奈永, 吉田 直美. 歯科衛生学生における多職種連携教育の尺度を用いた評価の試み. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.08.01
14. 弘中 まみ, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 菜穂子, 則武 加奈子, 徳丸 慶安, 藤本 来さき, 佐藤 由香, 吉田 直美. 歯科衛生学生による患者への歯科保健指導の効果と意識変容に関わる要因の検討. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.08.01
15. 佐藤 由香, 鈴木 瞳, 杉本 久美子, 安達 奈穂子, 森岡 典子, 柏木 聖代, 吉田 奈永, 徳丸 慶安, 藤本 来さき, 吉田 直美. 歯科衛生学生による看護学生への口腔ケアに関する健康教育の効果　フィードバックからの検討. 日本歯科衛生学会雑誌 2024.08.01
16. 鈴木 瞳, 安達 奈穂子, 須永 昌代, 木下 淳博, 吉田 直美. シミュレーターを用いた歯科衛生学生の医療面接スキル評価の試み. 日本歯科医学教育学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.08.01
17. 吉田直美. 教員向け講習会「歯科衛生学総論」. 全国歯科衛生士教育協議会教員講習会 II 2024.07.29 名古屋
18. 宮島 沙紀, 日高 玲奈, 水野 留理子, 佐藤 瞳, 石井 萌子, 鈴木 瞳, 岡田 光純, 鈴木 啓之, 松尾 浩一郎. 東京医科歯科大学病院オーラルヘルスセンターの患者推移. 日本老年歯科医学会総会 · 学術大会プログラム · 抄録集 2024.06.01
19. 佐藤瞳，鈴木瞳，岡田光純，宮島沙紀，水野留理子，石井萌子，日高玲奈 ，鈴木啓之，松尾浩一郎. 臼後部扁平上皮癌を有する高齢患者への 周術期口腔管理の経験. 日本老年歯科医学会 2024.06
20. 吉田直美. 歯科衛生士の展望と課題. 広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センター公開シンポジウム 2024.03.17 広島

[受賞]

1. Best Oral Presentation Award, International Symposium on Dental Hygiene 2024 (Naoko Adachi), International Federation of Dental Hygienists, 2024 年 07 月
2. Best Oral Presentation Award, International Symposium on Dental Hygiene 2024, International Federation of Dental Hygiene, 2024 年 07 月
3. 第 18 回日本歯科衛生学会 学術発表賞 学生研究賞, 日本歯科衛生学会, 2024 年 09 月
4. 第 18 回日本歯科衛生学会 学術発表賞　学生研究賞（遠藤 七海）, 日本歯科衛生士会, 2024 年 09 月

[その他業績]

1. 令和 5 年度　歯科衛生推進フォーラム, 2024 年 02 月
「歯科保健医療の動向」（仮題）
厚生労働省 保険局医療課 歯科医療管理官 小嶺 祐子
歯科衛生士の現場から歯科衛生士の専門性を考える
座長 会 長 吉田 直美
１） 病院勤務の歯科衛生士として
病院委員会 委 員 大屋 朋子
２） 診療所勤務の歯科衛生士として　診療所委員会 委員長 武藤 智美
３） 「行政歯科衛生士に求められるスキルとは」地域歯科保健委員会 委員長 長 優子
４） 「在宅療養者の口腔健康管理」在宅 · 施設口腔健康管理委員会 委員長 村西加寿美
５） 「臨地実習の今」教育養成委員会 委 員 鈴木 瞳
6）今後の日本歯科衛生学会での取り組みについて
日本歯科衛生学会 学会長 吉田 幸恵

2. 鈴木瞳（講演）：臨床 · 臨地実習の現在. , 2024 年 02 月
公益社団法人 日本歯科衛生士会 令和 5 年度 歯科衛生推進フォーラム

3. 認定歯科衛生士研修「医科歯科連携 · 口腔機能管理」コースプログラム, 2024 年 06 月
1 がん患者の周術期管理～外科の立場から～
2 病院における口腔機能管理に必要な基本的知識
3 脳卒中患者の口腔機能管理
4 周術期口腔機能管理の制度（保険点数）
5 緩和ケア～認定看護師から～
6 化学療法と有害事象～薬剤師の立場から～
7 放射線療法と有害事象
8 臨床研究の進め方
9 グループワーク（症例検討）
10 周術期口腔機能管理～歯科衛生士の立場から～
11 東京歯科大学市川総合病院　見学説明
12 歯科 · 口腔外科外来での周術期口腔機能管理見学
13 口腔がんセンターでの周術期口腔機能管理見学
14 栄養サポートチーム（ＮＳＴ）回診見学
15 病棟での口腔管理見学
16 シミュレータを用いた吸引実習
17 シミュレータを用いた呼吸音聴診実習
18 シミュレータを用いた挿管患者における口腔衛生管理

4. 第 27_1 回感染症予防歯科衛生士講習会, 2024 年 07 月
1. 最新の感染症事情
国立研究開発法人　国立国際医療研究センター病院
歯科 · 口腔外科診療科長
丸岡　豊 先生

2. 院内の感染予防管理
大阪大学歯学部附属病院
口腔総合診療部　副部長 · 准教授
野崎　剛徳 先生

3. できることから始める歯科医療安全
事故を起こさないために　起こったらどうするか
—リスクマネージメントとチームの視点から—
赤坂見附磯谷歯科室　院長
磯谷　一宏 先生

5. 認定歯科衛生士研修「歯科医療安全管理」コースプログラム, 2024 年 07 月
1 感染予防対策総論
感染予防の概論など
2 歯科医療における標準予防策の具体的方法

1 標準予防策の基本的考え方と歯科医療
2 オーデットについて
3 歯科医療器具の洗浄、消毒、滅菌の総論
1 洗浄、消毒、滅菌の総論
4 病院、歯科診療所での感染予防対策の実際
1 病院 · 歯科診療所における実践方法
5 歯科医療の環境整備 · 医療廃棄物の取扱い
1 ユニットチェアサイドの環境整備
2 水の管理
3 医療廃棄物の取り扱い
4 針刺し · 粘膜曝露等職業感染の考え方
6 院内感染対策で重要な微生物
1 院内感染対策で重要な細菌、ウイルス
2 薬剤耐性菌
3 AMR アクションプラン
7 標準予防策の実際
1 手指衛生、個人防護具（PPE)、ラッピング等の実際
2 歯科衛生士倫理綱領確認
3 医療安全自己チェック
8COVID-19 の基礎知識と感染予防対策について
COVID-19 の基礎知識と感染予防対策
9 医療安全対策総論
1 医療安全管理体制構築の指針
2 ヒューマンエラーと医療事故
10 医薬品、医療機器の安全管理方法
1 医薬品管理（数量、期限など）
2 薬剤の知識（処方箋、禁忌など),
3 機材管理 (モニター、AED など）
11 周術期口腔ケア、訪問診療の医療安全対策
1 周術期口腔ケア、ICU、点滴回路
2 訪問診療における予防対策 (誤嚥、誤飲、転倒、転落など）
3 ICU、点滴回路等
12 口腔外科手術時の医療安全対策
1 口腔外科手術での偶発症対策
2 インフォームドコンセント
13 歯科衛生士が起こしやすいインシデントの対応予防策
1 事例から学ぶ具体的予防策 · 対応方法
14 レジリエンス · エンジニアリングと医療安全
1 レジリエンス · エンジニアリングと医療安全を学ぶ
15 医療情報、個人情報の管理と実際
1 医療情報、個人 · 診療情報の規定
2 医療安全としてのカルテ記載方法
3 カルテや患者情報の取り扱い方
16 歯科衛生士のリスクマネジメントプロセス
1 診療現場における歯科衛生士のリスクマネジメントプロセスの実際
17 歯科で起こりやすい患者急変時の対応と予防策
1 デンタルショック、過換気症候群、アナフィラキシーショックの違い
2 誤飲などの緊急対応法
3 救急薬剤、救急器材
4 モニターの見方
5 小児への対応
6 BLS の実際
18 臨床現場における医療安全（感染含）対策ワークショップ
1 ワークショップについて
2 項目番号 18 の課題説明
3 アイスブレイク
4 グループ討論、成果作成
5 発表、全体討議、フィードバック

19 感染防止対策ワークショップ
1 テーマ別のオーデット作成
2 各グループからの発表
3 フィードバック
20 事例から学ぶ医療安全対策ワークショップ
1 実際の事例について対応策 · 予防策を討論
2 各グループからの発表
3 フィードバック

6. 第 27_2 回感染症予防歯科衛生士講習会, 2024 年 08 月

7. 認定歯科衛生士研修「在宅療養指導 · 口腔機能管理」コースプログラム, 2024 年 08 月
1 日本における歯科の在宅医療と未来 日本における歯科の在宅医療と未来
2 在宅医療の現状
1 在宅医療を取り巻く環境　2 在宅医療と地域包括ケア
3 医療的ケア児
3 在宅医療に関わる全身疾患と口腔機能
1 病態把握　2 リスク評価の重要性　3 全身疾患と検査値との関連　4 薬剤の効果と影響
4 多職種連携について
1 多職種連携の実際　2 在宅療養者の環境把握
3 多職種からみた口腔機能　4 家族支援とは
5 口腔機能管理の実際
1 口腔衛生（口腔の解剖学的 · 生理学的基礎）
2 口腔機能（咀嚼と食塊形成）
6 栄養管理 · 栄養支援
1 栄養評価　2 在宅療養者の口腔機能と栄養支援
7 在宅医療に関わる医療機器の取り扱い
1 医療機器の基本知識　2 在宅医療と医療機器
3 医療機器とリスクマネジメント
8 在宅医療と薬剤の基礎知識
1 在宅医療に起ることが多い薬剤有害事象　2 有害事象への対応
9 在宅医療と終末期 · 看取りの知識
1 終末期 · 看取りの考え方　2 歯科衛生士の役割
10 在宅医療と歯科衛生士が行うマネジメント
1 在宅医療におけるあらゆるリスクを想定できる
2 歯科介入とその方法を理解できる
11 在宅支援と歯科衛生士の介入グループワーク（1 症例）
1 症例の把握について　2 問題点の抽出（KJ 法）　3 介入法の検討
12 施設体験学習

8. 「生活習慣病予防（特定保健指導‐食生活改善指導担当者研修）」コース研修, 2024 年 09 月
1 健康づくり施策概論
1 健康づくり施策の考え方と進め方
2　生活指導およびメンタルヘルスケア
1 生活指導と健康に影響する生活環境要因
2 個人の健康課題への対処行動 (保健行動)
3 ストレスとその関連疾患およびストレスの気づきへの援
助
4 個別 · 集団の接近技法
5 ライフステージ · 健康レベル別健康課題と生活指導
3 栄養指導
1 栄養 · 食生活の基礎知識および今日的課題と対策
2 食行動変容と栄養教育　食生活改善指導者の役割
3 ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育
4 健康教育
1 健康教育の理念と方法
2 健康生活への指導プログラムの基礎知識と方法
3 メタボリックシンドロームに対する健康教育
4 禁煙支援プログラムの基礎と実践
5 メタボリックシンドロームと口腔保健

5 運動の基礎科学
1 運動と健康のかかわり
6 研究討議　意見交換
メタボリックシンドローム関連

9. 「摂食嚥下リハビリテーション」コースプログラム, 2024 年 09 月
1 リハビリテーション総論
1 リハビリテーション医学とは　2 運動学習とは　3 摂食嚥下の運動学
2 摂食嚥下障害者への口腔管理と制度の理解
1 摂食機能障害者に関する制度の理解
2 医療保険、介護保険制度と口腔管理の実際
3 摂食嚥下機能のメカニズム（解剖）
1 口腔の構造　2 咽頭の構造　3 喉頭の構造
4 鼻腔の構造　5 摂食嚥下に関与する筋
4 摂食嚥下機能のメカニズム（生理）
1 摂食運動 2 咀嚼から嚥下への過程 3 嚥下運動の過程
4 嚥下運動の誘発 5 嚥下と呼吸のかかわり　6 嚥下運動に関連する器官における反射
5 咬合および咀嚼機能の管理と評価
1 咬合と咀嚼運動 2 咀嚼運動の解剖 · 生理
3 咀嚼機能の低下の要因 4 咀嚼 · 嚥下機能と咬合支持の関係性　5 咀嚼の機能低下による全身への影響
6 栄養管理
1 栄養ケアマネジメント 2 栄養摂取方法 · 補助栄養法
3 食事形態　4 嚥下調整食とは
5 栄養サポートチーム（NST）の概念について
7 リスクマネジメント · 全身管理
1 全身状態の把握と対応　2 バイタルサインのチェック
8 リスクマネジメント · 呼吸管理と肺理学
1 呼吸器の解剖と生理 2 アセスメント方法　3 呼吸法
4 呼吸筋ストレッチ　5 徒手的呼吸介助法 6 体位ドレナージ 7 気道管理（気管カニューレなど）と外科処置
9 リスクマネジメント · 経鼻吸引
1 経鼻吸引 2 演習
10 病態別摂食嚥下障害（小児の摂食嚥下障害）
1 小児の口腔形態 2 正常発達と口腔機能の獲得 3 小児の摂食嚥下障害
11 病態別摂食嚥下障害（頭頸部がん等の摂食嚥下障害）
1 頭頸部外科手術
2 頭頸部がんの放射線治療後の摂食嚥下障害の病態
3 歯科的補綴装置
12 病態別摂食嚥下障害（中途障害の摂食嚥下障害）
1 脳血管障害 2 高次脳機能障害
3 認知症 4 神経 · 筋系疾患 5 サルコペニア
13 摂食嚥下の評価
1 フィジカルアセスメント 2 スクリーニング手法
3 頸部聴診法 4 嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査
14 食事外部観察評価
1 維持期における摂食嚥下機能低下の原因とリスクおよびその対応
2 摂食時の外部観察評価
3 その外部観察評価における問題点の抽出、分析及びその対応
4 演習
15 摂食嚥下訓練
1 摂食嚥下障害に対する訓練計画立案、食指導
2 各病態に対する訓練法とその選択
3 演習
16 歯科衛生ケアプロセス（歯科衛生過程）
1 歯科衛生の視点とは
2 歯科衛生ケアプロセス（歯科衛生過程）の概要
3 演習
4 フィードバックと模範解答

10. 認定歯科衛生士研修「糖尿病予防指導」コースプログラム, 2024 年 09 月
    1 オリエンテーション
        1 アイスブレイク
        2 糖尿病とその予防で学習したいこと
    2 ペリオドンタル · メディシン
    3　糖尿病の基礎知識
    4　糖尿病臨床の実際
    5　国民健康の疫学
    6　糖尿病と歯周病の関連性
    7　学校保健と糖尿病予防
    8　地域歯科医療における糖尿病予防
      1 多職種連携における糖尿病予防
    9　糖尿病予防の指導と管理
      1 糖尿病予防の栄養指導と管理
      2 糖尿病予防の運動指導と管理
      3 糖尿病予防の口腔保健指導と管理
    10　歯科衛生士による保健指導
        1 歯科衛生士による口腔保健指導 (1)
        2 歯科衛生士による口腔保健指導 (2)
    11 糖尿病療養の指導と管理
    1 糖尿病療養の保健指導と管理
    2 糖尿病療養の口腔保健指導と管理
    12 療養指導カードシステム
    13 成人歯科健康診査「生活歯援プログラム」
    14 シナリオに対する口腔保健指導プラン作成
    15 糖尿病療養管理の視点を予防に役立てる
    16 教育講演

[社会貢献活動]

1. 学生だより 50 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/g_tayori50.pdf, 2022 年 01 月 15 日 - 現在
2. 歯科衛生だより会報 67 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eiseikaihou_67_2.pdf, 2022 年 02 月 01 日 - 現在
3. 歯科衛生だより（一般向け）68 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/health/hatookuchi_20220401_1.pdf, 2022 年 04 月 01 日 - 現在
4. 歯科衛生だより会報 68 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eiseikaihou_68.pdf, 2022 年 04 月 01 日 - 現在
5. 歯科衛生だより（一般向け）69 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_69_220602.pdf, 2022 年 06 月 01 日 - 現在
6. 歯科衛生だより会報 69 号 , 日本歯科衛生士会, 2022 年 06 月 01 日 - 現在
7. 学生だより 51 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/g_tayori51.pdf, 2022 年 07 月 15 日 - 現在
8. 歯科衛生だより（一般向け）70 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_70.pdf, 2022 年 08 月 01 日 - 現在
9. 歯科衛生だより会報 70 号, 日本歯科衛生士会, 2022 年 08 月 01 日 - 現在
10. 歯科衛生だより（一般向け）71 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_71.pdf, 2022 年 10 月 01 日 - 現在
11. 歯科衛生だより会報 71 号, 日本歯科衛生士会, 2022 年 10 月 01 日 - 現在
12. 歯科衛生だより（一般向け）72 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_72.pdf, 2022 年 12 月 01 日 - 現在

13. 歯科衛生だより会報 72 号, 日本歯科衛生士会, 2022 年 12 月 01 日 - 現在

14. 学生だより 52 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/g_tayori52.pdf, 2023 年 01 月 15 日 - 現在

15. 歯科衛生だより（一般向け）73 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_73.pdf, 2023 年 02 月 01 日 - 現在

16. 歯科衛生だより会報 73 号 , 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eiseikaihou_73.pdf, 2023 年 02 月 01 日 - 現在

17. 歯科衛生だより（一般向け）74 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_74.pdf, 2023 年 04 月 01 日 - 現在

18. 歯科衛生だより会報 74 号 , 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eiseikaihou_74.pdf, 2023 年 04 月 01 日 - 現在

19. 歯科衛生だより（一般向け）75 号, 日本歯科衛生士会, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eisei_75.pdf, 2023 年 06 月 01 日 - 現在

20. 歯科衛生だより会報 75 号, https://www.jdha.or.jp/pdf/letter/eiseikaihou_75.pdf, 2023 年 06 月 01 日 - 現在

21. 歯科衛生だより（一般向け）76 号 , 公益社団法人日本歯科衛生士会, 2023 年 08 月 01 日 - 現在

22. 歯科衛生だより会報　76 号 , 公益社団法人日本歯科衛生士会, 2023 年 08 月 01 日 - 現在

23. 災害対策本部設置, 公益社団法人日本歯科衛生士会, 令和６年度能登半島地震避難所など, 2024 年 01 月 01 日 - 2024 年 03 月 31 日

24. 学生だより 54 号, 公益社団法人日本歯科衛生士会, ISSN　2185-1581, 2024 年 01 月 15 日

25. 令和６年度能登半島地震被災者のための義援金口座開設, 日本歯科衛生士会, 2024 年 01 月 22 日 - 2024 年 07 月 31 日

26. 歯科衛生だより（一般向け）79 号, 公益社団法人日本歯科衛生士会, 歯科衛生だより, 2024 年 02 月 01 日

27. 歯科衛生士の調査からみえてきたもの, 公益社団法人日本歯科衛生士会, 歯科衛生推進フォーラム, 東京都コンファランス東京, 2024 年 02 月 09 日

28. 歯科衛生だより（一般向け）80 号, 公益社団法人日本歯科衛生士会, 歯科衛生だより, 2024 年 04 月 01 日

29. 歯科衛生だより会報 81 号, 公益社団法人日本歯科衛生士会, ISSN　2185-4373, 2024 年 06 月 01 日

30. 歯科衛生だより（一般向け）81 号, 公益社団法人日本歯科衛生士会, ISSN　2185-8179, 2024 年 06 月 01 日

31. 学生だより 55 号, 公益社団法人日本歯科衛生士会, ISSN　2185-1581, 2024 年 07 月 15 日

32. 歯科衛生だより会報 82 号, 公益社団法人日本歯科衛生士会, ISSN　2185-4373, 2024 年 08 月 01 日

33. 歯科衛生だより（一般向け）82 号, 公益社団法人日本歯科衛生士会, 2024 年 08 月 01 日

口腔基礎工学分野

Department of Basic Oral Health Engineering

教授 青木 和広
准教授 大木 明子
助教 上條 真吾

非常勤講師
吉岡 文, 尾澤 昌悟, 二川 浩樹, 天野 均（11月まで, 12月から技術支援員）,
KHAN, MD Abdulla Al Masud（11月まで, 12月から技術支援員）, 菅森 泰隆,
池田 通（3月まで口腔病理学 教授、4月から病理部 特任教授 兼任）, 野中 希一, 青木 秀馬

大学院生（博士課程）
DO NGOC DUNG ANH, 謝 倉右（口腔病理学）, 久保 優里（AI技術開発）, 荒井英絵 （顎顔面矯正学）,
李 彬（生体補綴歯科学）, QI JIA（咬合機能矯正学）, 石坂 瑠音（咬合機能矯正学）,
Njaka Mahefa Rakotonirainy（咬合機能矯正学）

大学院生（修士課程）
陳 徳容, 中島 春香（4月から）

研究協力者
Fatma Rashed（Damanhour University, Behara, Egypt）, Pei-Jung Chang,
Chung-Kwei Lin（Research Center of Digital Oral Science and Technology,
College of Oral Medicine, Taipei Medical University, Taipei, Taiwan）,
稲川 英明（生体補綴歯科学）, Konemany Kanlaya（工学院 修士課程）,
八木 透（工学院）,泉福 英信（日本大学 松戸歯学部）, 自見 英治郎（九州大学 歯学研究院）,
田畑 泰彦（京都大学 大学院医学研究科　形成外科学）,
菅 裕明（東京大学 大学院理学系研究科 化学専攻 有機化学講座）,
秋吉 一成（京都大学 医学研究科 医学専攻感染・免疫学講座免疫細胞生物学）

(1) 分野概要

口腔基礎工学分野は、工学と生物学の融合研究、基礎から臨床への橋渡し研究を通して、 口腔から全身の健康に寄与する分野です。教育面では、基礎分野から、専門分野、統合分野まで幅広く担当しており、人々の幸福に貢献するという目的に徹した医療人を育成します。

(2) 研究活動

当分野では、歯科医療技術の発達は歯科技工士の技術進歩や職位の向上にもつながるというコンセプトのもとに、生物学と理工学との融合研究を通じて、非侵襲的な骨造成法の開発、プラーク忌避歯面コート剤の開発、さら

に口腔顎顔面補綴装置の装着について評価を行う研究を展開する。
　近年、骨芽細胞膜上の RANKL 分子が骨芽細胞初期分化を促進する受容体として働くことが明らかとなったが、この RANKL 分子をターゲットとした新規骨形成促進剤の開発を一つの研究の軸として臨床応用につなげる研究を推進する。また、口腔細菌と全身疾患との関連を明らかにする学際研究を発展させ、患者および人々の Quality of Life 向上のためにどのような寄与ができるかについて検討を行う。さらに、臨床分野との協働によって基礎研究と臨床研究の融合を図り、口腔から全身の健康に寄与する研究を推進する。

研究テーマ
1. 注射法による垂直的骨造成法に必要な足場材料開発
2. ＲＡＮＫＬ分子に結合する新規骨形成促進剤の開発
3. 唾液中の幸福度マーカーの標準化と癌マーカー、口腔内細菌叢との関連解析
4. 3 次元造形法によるエピテーゼ製作法の開発
5. 顎顔面欠損による機能障害に関する治療についての研究
6. 歯型彫刻の客観的評価法の開発

(3) 教育活動

担当授業
【学部教育】
口腔保健学科　口腔保健工学専攻：
第 1 学年
多職種連携Ⅰ、口腔保健と専門職、早期臨床体験実習、人体の構造と機能、感染予防、歯の解剖学、研究体験実習
第 2 学年
口腔と全身の基礎医学、ヘルスプロモーション、グローバル口腔保健工学、硬組織薬理学、歯の形態実習
第 3 学年
グローバル口腔保健工学実習、臨床咬合学、メディア情報学応用、周術期手術支援工学、多職種連携Ⅱ、顎顔面補綴学、顎補綴学実習、顔面補綴学実習、臨床義歯管理工学、小児歯科学実習、卒業研究Ⅰ、再建工学包括臨床実習Ⅰ
第 4 学年
歯科技工士と法律、オーラルアプライアンス工学、スポーツ歯科工学、再建工学包括臨床実習Ⅱ · Ⅲ、卒業研究Ⅱ · Ⅲ、卒業製作

口腔保健工学エクスターンシップ

口腔保健学科　口腔保健衛生学専攻：
第 1 学年
人体の構造と機能Ⅰユニット
第 2 学年
歯 · 口腔の構造と機能ユニット、薬理学ユニット、薬理学、口腔保健衛生基礎科学実習、臨床口腔保健衛生実習Ⅰ
第 3 学年
歯科薬理 · 薬剤学、口腔疾患予防応用学実習

歯学科：
第 1 学年　基礎情報医歯学
第 3 学年　生体と薬物
第 6 学年　包括臨床実習（CAD/CAM 実習）

【大学院教育】
大学院医歯学総合研究科 修士課程 医歯理工保健学専攻：
口腔保健工学特論
薬理学

大学院医歯学総合研究科 博士課程 生命理工医療科学専攻：
先端口腔保健工学特論
硬組織研究 · 骨形態計測学特論
口腔保健学セミナー

(4) 教育方針

口腔保健学の科学的基礎となる人体および顎口腔領域の機能全般ならびに薬理学を含めた疾患との関連について教授し、各器官系の機能を中心に、それを支える構造的基盤および物質的基盤にも言及しながら、総合的な理解を促すよう講義を行う。また、幅広く歯科補綴装置の製作方法および機能回復への役割を深く理解できるよう、実習を通して体験する教育を実施する。さらに、専門での学びの集大成として、卒業研究では学生自らの関心を基に、研究計画の立案から実施、データ分析を行い、論文を作成するまでの一連の過程を体験することにより研究への意欲を培い、再建工学包括臨床実習?· ?や卒業製作では基礎実習で修得した技術を総合して、より高度かつ独創的な補綴装置の製作を行い、専門的技能を高める教育を実施する。

(5) 臨床活動および学外活動

大学病院顎顔面補綴外来において、先天的あるいは後天的要因によって顎口腔領域に後遺した欠損を有する患者に対し、機能的、形態的障害の再建および回復のため、顎顔面補綴的リハビリテーションを行っている。口唇裂口蓋裂患者の補綴治療、上顎、下顎、顔面欠損に対する補綴治療、放射線治療後の患者の歯科的問題に対する治療を行っている。

(6) 臨床上の特色

先天的あるいは後天的要因によって顎口腔領域に広範囲の欠損を有する患者に対し、補綴装置による形態的再建を行って機能回復を図ることが臨床上の特色である。また、大学病院歯科技工部と連携して、難度の高い顎口腔領域の補綴装置の製作を行っている。

(7) 研究業績

[原著]

1. Takumi Kasahara, Meiko Oki, Shingo Kamijo, Hidekazu Takahashi. Accuracy of the Conventional Facial Impression Method and Three-Dimensional Auricular Shape Data Obtained Using Extra- and Intraoral Optical Scanners. Dentistry Journal. 2024.11; 12(11); 354

2. Huang F, Gao J, Li A, Mizokami A, Matsuda M, Aoki K, Katagiri T, Kawakubo-Yasukochi T, Jimi E. Activation of NF- κ B signaling regulates ovariectomy-induced bone loss and weight gain. Biochimica et biophysica acta. Molecular basis of disease. 2024.10; 1870(7); 167320

3. Qi, J; Matsumoto, Y; Xie, CY; Rashed, F; Ono, T; Aoki, K. Prevention of bone dehiscence associated with orthodontic tooth movement by prophylactic injection of bone anabolic agents in mice SCIENTIFIC REPORTS. 2024.07; 14(1); 15749

4. Htat Hein Linn, Takaichi Atsushi, Kajima Yuka, Kittikundecha Nuttaphon, Kamijo Shingo, Hanawa Takao, Wakabayashi Noriyuki. Influence of stress-relieving heat treatments on the efficacy of Co-Cr-Mo-W alloy copings fabricated using selective laser melting Journal of Prosthodontic Research. 2024.04; 68(2); 310-318

5. Meiko Oki, Mirai Nakayama, Yumi Tsuchida, Shingo Kamijo, Kazuhiro Aoki. Objective evaluation of tooth carving using homologous models Journal of Dental Education. 2024.03; 88(3); 314-321

6. Katada H, Inokoshi M, Kamijo S, Liu H, Xu K, Kawashita M, Yokoi T, Shimabukuro M, Minakuchi S. Effects of multiple firings on the translucency, crystalline phase, and mechanical strength of highly translucent zirconia. Dent Mater J. 2024.03; 43(2); 294-302

7. Kawai, MY; Yoshida, T; Kato, T; Watanabe, T; Kashiwagi, M; Yamanaka, S; Yamamoto, H; Nagahiro, S; Iwamoto, T; Masud, K; Aoki, K; Ohura, K; Nakao, K. < i> bmp-2< /i> Gene-Transferred Skeletal Muscles with Needle-Type Electrodes as Efficient and Reliable Biomaterials for Bone Regeneration MATERIALS. 2024.02; 17(4);

8. Mai Murase, Haruka Fujita, Meiko Oki, Fumi Yoshioka, Yuichiro Nishiyama, Tetsuo Ohyama, Chihaya Matsumoto, Satomi Usui, Yuji Sato, Tadashi Sado, Hidekazu Takahashi, Keiichi Sasaki, Miwa Matsuyama, Yuka Sumita. Time-study research on maxillofacial prosthetic treatment Japanese Dental Science Review. 2024.01; 60; 73-80

[書籍等出版物]

1. 鈴木邦明 監修, 戸苅彰史, 青木和広, 兼松隆, 筑波隆幸, 八田光世 編. 現代歯科薬理学　第 7 版. 医歯薬出版, 2024.01 (ISBN : 978-4-263-45677-4)

[講演 · 口頭発表等]

1. Qu Wenrui, Takaichi Atsushi, Kajima Yuka, Kamijo Shingo, Wakabayashi Noriyuki. Trueness and adaptation of maxillary complete denture frameworks fabricated with contactless support by selective laser melting. 国際 · 産学連携インヴァースイノベーション 材料創出（DEJI2MA）プロジェクト　公開討論会 2024.03.09 名古屋

1. 神野 和奏, 陳 徳容, 謝 倉右, 斉 佳, 石丸 直澄, 松本 芳郎, 小野 卓史, 青木 和広. 注射法による骨再生材の表面張力と骨造成量との関連評価〜魚鱗由来ゼラチンを用いた検討〜. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12.06 東京科学大学, 東京

2. 久保 優里、山内 ふた葉、 五嶋 七彩、池田 正臣、 青木 和広. 心理測定尺度と唾液中の代謝産物との関連性. 第 89 回口腔病学会学術大会 2024.12 東京

3. 滝山明日香，大木明子，Do Ngoc Dung Anh，中島春香，上條真吾. エピテーゼ用シリコーンの重合前後での色調変化の検討. 日本顎顔面補綴学会第 41 回総会 · 学術大会 2024.11.30 福岡市

4. 菅森 泰隆，小嶋 禎子，青木 和広，柴田 陽. 合成ペプチドの併用は骨芽細胞分化を促進する. 第 66 回歯科基礎医学会学術大会 2024.11.02 長崎

5. 自見 英治郎, 高 靖, 溝上 顕子, 松田 美穂, 青木 和広, 片桐 岳信, 安河内 友世. NF-κB シグナルの活性化は卵巣摘出術による骨 量減少と体重増加を制御する. 第 66 回 歯科基礎医学会学術大会 2024.11 長崎

6. JIA QI, YOSHIRO MATSUMOTO, CANGYOU XIE, RUNE ISHIZAKA, KAZUHIRO AOKI, TAKASHI ONO. Injectable bone anabolic reagents non-invasively prevent alveolar bone loss associated with maxillary expansion in mice. 第 83 回日本矯正歯科学会学術大会 2024.10.29 横浜

7. 青木 和広，久保 優里，謝 倉右，本間 雅. 骨組織学で考える骨粗鬆症の薬物治療のトピックス. 第 26 回日本骨粗鬆症学会 2024.10.11 石川県

8. 青木 和広. 骨吸収から骨形成へのカップリングメカニズム の解明から新規骨形成促進薬の開発へ. 第 26 回日本骨粗鬆症学会 2024.10

9. 陳 徳容，青木 和広. 魚鱗ゼラチンの粘稠度が左右する骨形成特性の差異 —骨幅と緻密骨様骨量の視点 から. 第 67 回歯科基礎医学会学術大会 2024.09.05 福岡

10. 高倉 綾, 島倉 剛俊, 田中 伸哉, 青木 和広. 骨形態ガイダンス（日本骨代謝学会 · 日本骨形 態計測学会合同企画）: 印刷物を使った計測実習. 第 42 回 日本骨代謝学会学術集会 2024.06.30 那覇市

11. 陳 徳容，神野 和奏，謝 倉右，斉 佳，松本 芳郎，小野 卓史，横井 太史，川下 将一，青木 和広. 骨造成足場材料を注射する際の足場材料の粘稠度と骨伝導能との関連評価. 第 45 回日本骨形態計測学会 2024.06.26 大宮

12. 黄 菲, 高 靖, 松田 美穂, 青木 和広 (名誉), 片桐 岳信, 安河内 友世, 自見 英治郎. NF-κB シグナル伝達の活性化は卵巣摘出による 骨量減少と体重増加を調節する. 第 42 回 日本骨代謝学会学術集会 2024.06

[その他業績]

1. 閉経後骨粗しょう症と体重増加を引き起こす共通メカニズムを解明 〜抗酒薬ジスルフィラムは閉経後骨粗しょう症と体重増加を抑制〜, 2024 年 07 月
   -

2. 「　矯正歯科治療で歯を動かせる範囲を広げる新たな方法を開発　」 — 骨を作る薬を歯ぐきに注射して、歯を支える骨の損傷を防ぐ —, 2024 年 08 月
   Scientific Reports

[社会貢献活動]

1. 日本骨形態計測学会 評議員, 2008 年 - 2024 年 05 月
2. 歯科基礎医学会 代議員, 2009 年 - 現在
3. 日本骨代謝学会 評議員, 2009 年 07 月 - 現在
4. 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員, 2022 年 10 月 - 2024 年 07 月
5. 日本骨形態計測学会 理事, 2024 年 06 月 - 現在

口腔デジタルプロセス学分野

Department of Digital Dentistry

教　授 金澤　学（～4 月）
教　授 高市 敦士（11 月～）
准教授 岩城 麻衣子
助　教 土田 優美
特別研究員 羽田 多麻木（～11 月）

大学院生（修士）
PIAO YUANHUA
LI HAOYU

大学院生（博士）
WANG JINGRONG

(1)　分野概要

口腔デジタルプロセス学分野はデジタルデンティストリーの研究，臨床，教育を担当する分野である．このデジタルデンティストリーは歯科学と工学からなる学際的なフィールドである．口腔デジタルプロセス学分野では，歯科学分野における歯科臨床と工学分野におけるデジタル機器（ハードウェア · ソフトウェア）との間をシームレスに接続し，研究，臨床，教育を行える人材を育成する．

(2)　研究活動

1)CAD/CAM 技術を用いた補綴装置製作手法の開発と評価
2) 医療機器プログラムの開発
3) 深層学習を用いた臨床 · 教育評価システムの開発
4) 補綴臨床研究

(3)　教育活動

口腔保健学科口腔保健工学専攻について以下の科目を担当した．
1 年生 メディア情報学応用、小児歯科工学、小児歯科工学実習
2 年生 全部床義歯工学，全部床義歯工学実習，歯の形態実習，デジタルデンティストリー基礎
3 年生 高齢者歯科工学，プロセスデバイス工学，CAD/CAM システム工学実習，部分床義歯工学実習Ⅱ
4 年生 CAD/CAM システム工学演習，統合実習基礎，統合実習応用，画像解析学，卒業研究Ⅱ，卒業研究Ⅲ，口腔保健工学企業研修

大学院教育：
大学院修士課程の研究指導および講義「口腔保健工学特論」を担当した．
大学院博士課程の研究指導および講義「先端口腔保健工学特論」を担当した．

(4) 教育方針

以下の 3 点を教育方針としている.
1. デジタル技術と卓越した技術の習得
最新のデジタル技術を活用した歯科治療の教育を強化し，学生に最先端のスキルを習得させるとともに，歯科技工士としての専門知識と技術を深めるためのカリキュラムを充実させ，卓越した技術を持つプロフェッショナルを育成する．また，実践的なトレーニングと最新技術の導入により，学生が卓越した技術を習得できる環境を提供する.

2. 社会貢献と国際的視野の育成
地域社会やグローバルな視点での社会貢献活動を奨励し，倫理観と責任感を持った歯科技工士を育成するとともに，海外研修や国際交流プログラムを通じて学生に国際的な視野を持たせ，グローバルな歯科医療の現場で活躍できる人材を育成する.

3. リーダーシップとコミュニケーション能力の向上
個々の学生の才能を引き出し，リーダーシップやコミュニケーション能力を高める教育プログラムを実施し，歯科界を牽引するリーダーを育成する.

(5) 臨床活動および学外活動

義歯科，先端歯科診療センターにおける歯科診療

(6) 臨床上の特色

義歯科，先端歯科診療センターにおける歯科診療においてデジタル技術を駆使し以下を実現している.

1. 高精度な診断と治療計画
2. 効率的な治療プロセス
3. 患者の負担軽減

(7) 研究業績

[原著]

1. Keyu Qi, Tamaki Hada, Xiangyu Ren, Maiko Iwaki, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Effects of different 3Y-TZP nanoparticle concentrations on reinforcing mechanical properties of 3D-printed resin using stereolithography technology. Journal of Prosthodontics. 2024.11;

2. Maiko Iwaki, Yo Akiyama, Keyu Qi, Namano Sahaprom, Keisuke Kohri, Mitsuki Masumoto, Shogo Shibata, Nagame Mizokoshi, Mai Shirai, Hidemasa Shinpo, Chikahiro Ohkubo, Shin-Ichi Usugi, Manabu Kanazawa. Oral health-related quality of life and patient satisfaction using three-dimensional printed dentures: A crossover randomized controlled trial. J Dent. 2024.09; 150; 105338

3. Anna Miyayasu, Maiko Iwaki, Kouichi Enomoto, Manabu Kanazawa. Digital workflow for fabricating an implant-supported overdenture with the custom disk method The Journal of Prosthetic Dentistry. 2024.09;

4. Khin Pyae Sone, Hidekazu Takahashi, Maiko Iwaki, Sahaprom Namano, Yuriko Komagamine, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Effect of build orientation on the wear resistance and hardness of denture teeth fabricated using digital light processing: An in vitro study. J Prosthodont Res. 2024.08;

5. Takaichi A, Kajima Y, Htat HL, Wakabayashi N. Influences of Different Selective Laser Melting Machines on the Microstructures and Mechanical Properties of Co–Cr–Mo Alloys. Applied Sciences. 2024.07; 14(15); 6576

6. Ushijima K, Hiraishi N, Ikeda M, Tsuji Y, Tsuchida Y, Shimada, Y. Effect of water glass treatment for zirconia and silane coupling on bond strength of resin cement. Clin Oral Investig. 2024.05; 28(6); 305

7. Htat Hein Linn, Takaichi Atsushi, Kajima Yuka, Kittikundecha Nuttaphon, Kamijo Shingo, Hanawa Takao, Wakabayashi Noriyuki. Influence of stress-relieving heat treatments on the efficacy of Co-Cr-Mo-W alloy copings fabricated using selective laser melting Journal of Prosthodontic Research. 2024.04; 68(2); 310-318

8. Meiko Oki, Mirai Nakayama, Yumi Tsuchida, Shingo Kamijo, Kazuhiro Aoki. Objective evaluation of tooth carving using homologous models Journal of Dental Education. 2024.03; 88(3); 314-321

9. Li CY, Wada T, Tsuchida Y, Hayashi K, Tanabe G, Ueno T, Churei H. Optimizing additively manufactured mouthguards: An evaluation of multi-layer materials for improved shock absorption and durability compared to conventionally fabricated samples. Int J Bioprint. 2024.03; 10(3); 379-393

10. Iwaki M,Kanazawa M,Soeda Y,Hada T, Komagamine Y,Minakuchi S . Effect of digital complete dentures manufactured using the custom disk method on masticatory function Heliyon. 2024.01; 10(1); 1-11

11. Namano S, Kanazawa M, Katheng A, Trang BNH, Hada T, Komagamine Y, Iwaki M, Minakuchi S. . Effect of support structures on the trueness and precision of 3D printing dentures: An in vitro study. J Prosthodont Res.. 2024.01; 68; 114-121

[総説]

1. Takaichi A, Kajima Y, Jialin D, Wakabayashi N. Metal Additive Manufacturing Technology for Digital Dentistry. Health Care Curr Rev. 2024.07; 12(3); 1000407

1. 土田 優美, 金澤 学. 【歯科医師も! 歯科技工士も! デジタル歯科連携のすべて　IOS，フェイススキャナー，バーチャル咬合器，3D プリンター，CAD/CAM の最新活用】(Chapter4) 卒前におけるデジタル教育の重要性 - 歯科大学におけるデジタル教育 歯科技工. 2024.12; 別冊; 138-139

2. 羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤学. 3D プリント義歯の臨床応用ー現状と展望ー 国際歯科学士会日本部会雑誌. 2024.09; 55(1); 33-36

3. 髙市　敦士，加嶋　祐佳. 金属積層造形の表面性状と接着への影響 日本歯科理工学会誌. 2024.05; 43(2); 83-86

[講演 · 口頭発表等]

1. Dong J, Takaichi A, Kajima Y, Kamijo S, Wakabayash N. The effects of heat treatments on the metal-ceramic bond strength and residual stress of Co-Cr alloy manufactured by selective laser melting under thermal cycling. 11th World Congress on Materials Science and Engineering 2024.12.16 Osaka

2. Jingrong Wang, Anna Miyayasu, Maiko Iwaki, Roubing Ha, Manabu Kanazawa. Accuracy of 3D-printed castable resin patterns for removable partial denture frameworks using the vacuum-sealed method and heat-treatment. 第 89 回 口腔病学会学術大会 2024.12.07

3. Mariko Mukai, Maiko Iwaki, Tamaki Hada, Chun Wei Chang, Masahiro Shimogishi, Eriko Marukawa, Yudai Asai, Masaomi Kanauchi, Yasuo Morinaga, Ayaka Kohama, Yuriko Komagamine, Manabu Kanazawa. Development of database for dental implant surgery using MR devices.. IADR Japanese Division 72nd Annual Meeting 2024.11.15 Kagoshima

4. Uchida Y, Takaichi A, Kajima Y, Wakabayashi N. Digitalization of removable partial dentures -Consideration of bonding method between metal framework and denture base. The 4th International Symposium on Design & Engineering by Joint Inverse Innovation for Materials Architecture(DEJI2MA-4) 2024.10.03 Tokyo

5. Nguyen Thi Khanh An, Tamaki Hada, Maiko Iwaki, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa. Effect of different surface treatments on the bond strength between light-cure hard chairside relining material and CAD/CAM milled denture base material. The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.07 Chiba

6. Ren Xiangyu, Tamaki Hada, Keyu Qi, Maiko Iwaki, Motohiro Uo, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa . Enhancing mechanical properties of photopolymer denture base resins by the incorporation of cellulose nanofibers (CNF). The 14th Biennial Congress of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP) 2024.07.06 Chiba

7. Jingrong Wang, Anna Miyayasu, Maiko Iwaki, Roubing Ha, Manabu Kanazawa. Accuracy of 3D-printed castable resin patterns for removable partial denture frameworks using the vacuum-sealed method. Pacific Coast Society for Prosthodontics 2024.06.21
8. Yuanhua Piao, Maiko Iwaki, Hanano Nagura, Yo Akiyama, Manabu Kanazawa. Verification of denture scan trueness using intraoral scanners. TMDU GRADUATE PROGRAM RETRET. 2024.06.07 Tokyo
9. Anna Miyayasu, Manabu Kanazawa, Maiko Iwaki, Chang Chun Wei, Daisuke Sato, Yuriko Komagamine, Yuriko Kusumoto, Yuka Abe, Kazuyoshi Baba, Shunsuke Minakuchi. A prospective study of implant-assisted removable partial dentures with short implants and magnetic attachments: 3-year results of implant survival rate, implant stability, and patient's satisfaction. ITI Would symposium 2024 2024.05 Singpore
10. Qu Wenrui, Takaichi Atsushi, Kajima Yuka, Kamijo Shingo, Wakabayashi Noriyuki. Trueness and adaptation of maxillary complete denture frameworks fabricated with contactless support by selective laser melting. 国際 · 産学連携インヴァースイノベーション 材料創出（DEJI2MA）プロジェクト 公開討論会 2024.03.09 名古屋
11. Qi K, Hada T,Ren X, Iwaki M, Minakuchi S, Kanazawa M. Evaluation of mechanical properties and degree of conversion modified 3Y-TZP nanoparticles reinforced stereolithography resin by using different post-polymerization conditions. The 8th Biennial Joint Congress of JPS-CPS-KAP 2024.03.05 China
12. Yuanhua Piao, Yuriko Komagamine, Shanglin Wu, Mirai Nakayama, Koji Mizutani, Maiko Iwaki, Shunsuke Minakuchi, Manabu Kanazawa . A case report of mastication training using chewing gum for oral hypofunction. 8th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP. 2024.03.04 Guangzhou, China
13. Haoyu Li, Tamaki Hada, Anna Miyayasu, Yo Akiyama, Maiko Iwaki , Manabu Kanazawa. Evaluating the efficacy of flowable composite resin for the custom disk method. 8th Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP 2024.03.04 Guangzhou, China
14. Chun Wei Chang, Manabu Kanazawa, Maiko Iwaki, Daisuke Sato, Anna Miyayasu, Yuriko Komagamine, Yuriko Kusumoto, Yuka Abe, Kazuyoshi Baba, Shunsuke Minakuchi. Patient-reported outcomes of implant-assisted removable partial denture with magnetic attachments: A 3-year progress report. The 23rd International Conference on Magnetic Applications in Dentistry General Information 2024.02.26 Japan

1. 張 君瑋，岩城 麻衣子，佐藤 大輔，宮安 杏奈，駒ヶ嶺 友梨子，楠本 友里子，安部 友佳，馬場 一美，金澤 学. 磁性アタッチメントを用いた Implant-Assisted Removable Partial Denture の咀嚼機能 —4 年経過報告—. 第 34 回日本磁気歯科学会学術大会 2024.11.09 千葉
2. 水川祐子，川本章代，羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤 学，髙橋一也. 3D プリントシステムと造形角度が義歯床の精確さに及ぼす影響. 令和 6 年度公益社団法人日本補綴歯科学会関西支部学術大会 2024.12.15 大阪
3. 髙市 敦士. 義歯の未来を語る—デジタル技術を用いた義歯臨床—. AM 研究会 2024.11.13 鳥取
4. 岩城麻衣子. インプラントオーバーデンチャーのエビデンスと臨床応用 上顎インプラントオーバーデンチャーのエビデンスと臨床. 公益社団法人日本補綴歯科学会 令和 6 年度第 2 回補綴歯科専門医研修会 2024.09.15 オンライン
5. 松崎真友子，濵 洋平，駒ヶ嶺友梨子，添田ひとみ，宮安杏奈，岩城麻衣子，川村 淳，菅野 範，朝田慎也，安藤智教，岡林一登，水口俊介，金澤 学. 多世代を対象とした口腔機能に関する調査研究ー咬合力，舌圧，咀嚼能力の世代 · 性別による比較ー. 日本咀嚼学会 第 35 回学術大会 2024.09.14 千葉
6. 水川祐子，川本章代，羽田多麻木，岩城麻衣子，金澤 学，髙橋一也. DLP と LCD 方式 3 D プリンタで製作した義歯の造形角度の違いが精確さに与える影響. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉
7. 内田裕爾，高市敦士，加嶋祐佳，高橋英和，金澤学，若林則幸. 部分床義歯のデジタル化—メタルフレームワークと義歯床の接着方法の検討—. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉
8. 髙市 敦士. 積層造形技術を用いた部分床義歯—エビデンスと臨床—. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉
9. 柴田翔吾，武山丈徹，溝越 眺，郡 啓介，桝本光希，白井麻衣，新保秀仁，大久保力廣，Ren Xiangyu，Qi Keyu3，Namano Sahaprom，秋山 洋，岩城麻衣子，金澤 学，水口俊介. 3D プリントと従来法による全部床義歯の咀嚼能力評価：クロスオーバー臨床研究. 日本補綴歯科学会第 133 回学術大会 2024.07.06 千葉

10. 中禮 宏，李 晨媛，和田 敬広，土田 優美，林 海里, 田邊 元，上野 俊明. 積層造形 3D スポーツマウスガードの衝撃吸収性と耐久性最適化のための実験的検討. 第 133 回 日本補綴歯科学会 学術大会 2024.07.01 千葉

11. 朴媛華, 土田 優美, 金森 ゆうな, 宮安 杏奈, 岩城麻衣子, 金澤学. 支台歯形態に対する主観的評価の定量分析. 日本デジタル歯科学会第 15 回学術大会. 2024.05.11 長崎

12. 秋山　洋，金澤　学，岩城麻衣子，Qi Keyu，Namano Sahaprom，Ren Xiangyu，郡　啓介，柴田翔吾，武山丈徹，桝本光希，溝越　眺，白井麻衣，新保秀仁，大久保力廣，水口俊介. 3D プリント全部床義歯と従来法全部床義歯におけるコスト比較：クロスオーバー型無作為化臨床研究. 日本デジタル歯科学会第 15 回学術大会 2024.05.11 長崎

13. 小林義夫，高市敦士，加嶋祐佳，若林則幸. 金属積層造形における区画化型スキャン戦略のブリッジの適合性への影響. 第 82 回日本歯科理工学会学術講演会 2024.04.21 鹿児島

14. 中山魅来，秋山 洋，岩城麻衣子，金澤 学. 歯科用 PMMA ブロックの切削条件の違いによる加工面と切削抵抗の比較. 令和 5 年度日本補綴歯科学会東関東支部学術大会 2024.03.17 埼玉

15. 小林　義夫, 加嶋　祐佳, 高市　敦士, 若林　則幸. 金属積層造形によるブリッジ製作における 区画化型スキャンストラテジーの適合性への影響. 国際 · 産学連携インヴァースイノベーション 材料創出（DEJI2MA）プロジェクト　公開討論会会 2024.03.09 名古屋

16. 朴媛華, 岩城麻衣子, 名倉花乃, 秋山洋, 金澤学. 口腔内スキャナーを用いた義歯スキャン真度の検証. 第 16 回日本義歯ケア学会. 2024.02.17 仙台

17. 高市　敦士. 金属積層造形を用いた歯科補綴装置製作時の加工方法の工夫. 金属光造形複合加工医療機器フォーラム　第 19 回シンポジウム 2024.02.03 東京

[受賞]

1. 優秀口演賞（朴 媛華）, 日本義歯ケア学会, 2024 年 02 月
2. Excellence Poster (Yuanhua Piao), Society of Prosthodontics, CSA, 2024 年 03 月
3. 優秀発表賞（秋山 洋，他）, 日本デジタル歯科学会, 2024 年 05 月
4. 歯科技工作品コンペティション 優秀賞（土田 優美）, 日本デジタル歯科学会, 2024 年 05 月

[その他業績]

1. 岩城麻衣子（代表）. 科学研究費（基盤研究（C））, 2024 年 04 月
   上顎インプラントオーバーデンチャーは 2 本のインプラントで機能するか? 2021-2024. 4,160 千円

[社会貢献活動]

1. 令和 6 年度 全国歯科技工士教育協議会 特別講習会, 全国歯科技工士教育協議会, オンライン開催, 2024 年 10 月 12 日

口腔医療工学分野

Department of Oral Biomedical Engineering

教授 池田　正臣
講師 佐藤　隆明
助教 塩沢　真穂
助教 中川　寿一（2024 年 3 月まで）

(1) 分野概要

最新の情報工学を駆使した歯科技工物製作の理論と実際への理解を深め、新たな技術開発への基礎力を培う。また、歯科技工士のものづくりにおける専門知識や技術を生かして、疾患により失われた機能回復を促し、患者の QOL の維持 · 向上に寄与するとともに、EBM を考慮した質の高い医療技術を提供できる能力を育成する。また、地域の歯科医療現場のみならず、歯科医療研究 · 教育機関においても国際的なレベルで貢献でき、新しい材料 · 技術の臨床応用能力のある専門的歯科医療技術者を養成することを目的とする。現在、歯科医療は、材料の開発と技術の向上に伴い、インプラントや CAD/CAM などの新しい術式が広く普及している。したがって、これらの歯科技工操作を適切に行うためには、新しい材料と技術に関する知識を十分理解し習得する必要がある。また、得た知識を歯科医師、歯科衛生士に伝え、情報を共有するためには、コミュニケーション能力は必須である。これらを考慮し、技術者の枠にとらわれない向上心を持ったスペシャリストの育成を行う。

(2) 研究活動

1.CAD/CAM システムを活用した先端技術
2. コンピュータシミュレーションを活用した歯科技工士教育
3.「生活を支える医療」と歯科技工士の関わり
4. 新しく開発された材料の評価

(3) 教育活動

口腔保健工学概論、早期臨床体験実習、歯の形態実習、歯の形態修復演習、う蝕と歯周病、咬合学、臨床咬合学、コミュニケーション学、ヘルスプロモーション、歯冠修復工学基礎、歯冠修復工学基礎演習、歯冠修復工学基礎実習、歯冠修復工学応用、歯冠修復工学応用演習、歯冠修復工学応用実習、全部床義歯工学、全部床義歯工学実習、部分床義歯工学、部分床義歯工学実習Ⅰ、部分床義歯工学実習Ⅱ、グローバル保健工学実習、高齢者歯科工学、歯科技工士と法律、CAD/CAM システム工学、CAD/CAM システム工学実習、口腔保健工学特論、口腔保健管理学、オーラルアプライアンス工学、審美修復工学実習、矯正歯科工学、再建工学包括臨床実習Ⅰ、再建工学包括臨床実習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ

(4) 研究業績

[原著]

1. Takashi Hatayama, Tomoko Tabata, Kota Kibe, Masaomi Ikeda, Yasunori Sumi, Yasushi Shimada . Bonding Performance of a New Resin Core System with a Low-Polymerization-Shrinkage Monomer to Root Canal Dentin Polymers. 2024.11; 16(23);

2. Takaaki Sato, Keiichi Hosaka, Junji Tagami, Hirofumi Tashiro, Hitoshi Miki, Kazunori Otani, Miho Nishimura, Masahiro Takahashi, Yasushi Shimada, Masaomi Ikeda. Clinical evaluation of direct composite

versus zirconia resin-bonded fixed dental prostheses for a single missing anterior tooth: A short-term multicenter retrospective study. Journal of Dentistry. 2024.10; 151; 105401

3. Lee SY, Shimada Y, Sadr A, Tabata T, Sato T, Byun JE, Han SH. Degree of conversion and interfacial adaptation of touch-cure resin cement polymerized by self-curing or dual-curing with reduced light. Clinical oral investigations. 2024.08; 28(8); 463

4. Chen X, Inoue G, Fan L, Sekizawa O, Nitta K, Ikeda M, Shimada Y. Enhancement of mineral density and mechanical properties in root caries treated with silver diammine fluoride and glass ionomer cement, with emphasis on silver ion distribution. Journal of dentistry. 2024.05; 146; 105041

5. Ishihara H, Yonekura K, Ikeda M, Inoue G, Nakajima M, Shimada Y, Hosaka K. Comparative bonding performance of coronal dentin disks and CAD/CAM resin composite disks for biological restoration: The impact of resin-coating technique. Dental materials journal. 2024.03; 43(2); 303-311

6. Yang Y, Inoue G, Hosaka K, Tichy A, Ikeda M, Tagami J, Shimada Y. The Effect of a Deproteinizing Pretreatment on the Bonding Performance and Acid Resistance of a Two-step Self-etch Adhesive on Eroded Dentin. Operative dentistry. 2024.01; 49(1); 65-75

[講演 · 口頭発表等]

1. Yoshiko Sasaki,Tomoko Komagata,Masaomi Ikeda,Kanae Tanaka, Yumiko Ogawa, Shigeru Miyamae, Yoko Hamadate, Yoko Imazu, Yutaka Ueki. Survey on CBRNE Disaster Casualty Acceptance Readiness and StaffEducation Needs at Regional Medical Care Support Hospitals. The 8th International Conference of World Society of Disaster Nursing (WSDN) 2024.11.30 Kobe

2. Siqi Zeng, Rena Takahashi, Masaomi Ikeda, Yasushi Shimada. The influence of zirconia thickness on bonding performance of dual-cured and light-cured resin cements. The 160th Meeting of the Japanese Society of Conservative Dentistry 2024.05.17 Miyagi, Japan

3. 曾 宸, 田端 倫子, 高橋 礼奈, 品川 淳一, 池田 正臣, 高野 隼輔, 角 保徳, 田上 順次, 島田 康史. CAD/CAM 冠の非侵襲的辺縁適合性評価. 特定非営利活動法人日本歯科保存学会学術大会プログラムおよび講演抄録集 2024.05.16 宮城県仙台市

4. Hirotoshi Iwabuchi, Go Inoue, Masaomi Ikeda, Yasushi Shimada. Acid resistance and bond strength of calcium-containing adhesive on enamel. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition 2024.03.16 Ernest N. Morial Convention Center, New Orleans, Louisiana, USA

5. Xu K, Inokoshi M, Yoshihara K, Kakehata M, Yashiro H, Takahashi R, Yamamoto M, Ikeda M, Minakuchi S. Bonding efficacy to femtosecond laser irradiated highly translucent zirconia ceramic. 102nd General Session & Exhibition of the IADR 2024.03.16 New Orleans

6. A. Khaled, T. Sato, T. Tabata, M. Zhao, K. Kibe, T. Hatayama, M. Ikeda, Y. Shimada. Comparing gap detection using OCT and leakage test. 102nd General Session & Exhibition of the IADR, NEW ORLEANS, LA, USA 2024.03.13

1. 佐藤隆明，島田康史，池田正臣. 前歯一歯欠損における接着ブリッジの短期予後；間接法ジルコニアと直接法コンポジットレジンの比較. 第 89 回 口腔病学会学術大会 2024.12.07

2. 井上剛、ハンリン、池田正臣、島田康史. 新規自己接着性コンポジットレジン SA-100R の非切削エナメル質における接着性能評価. 第 161 回日本歯科保存学会学術講演会 2024.11.22 姫路

3. 高野隼輔, 高橋礼奈, 田端倫子, ZENG Chen, 池田正臣, 島田康史. ユニバーサルアドヒーシブ応用型レジンセメントの接着性能について. 第 160 回日本歯科保存学会 2024 年度春季学術大会 2024.05.17 宮城県仙台市

寄附講座・寄附研究部門

肝臓病態制御学講座

Department of Liver Disease Control

教授　　朝比奈靖浩

大学院生（消化器病態学分野所属の大学院生に指導協力）
志水太郎, 渡壁慶也, 持田知洋, 稲田賢人

(1) 分野概要

本邦では、肝癌を含めた慢性肝疾患によって、年間約 40,000 人が死亡している。現在のところ、致死的肝不全に対する根治的治療法は肝移植のみであるが、絶対的な肝移植ドナーの不足が社会問題となっており、肝癌 · 肝不全への進展を阻止する治療の開発、及び肝移植以外の治療を確立することは、医学的 · 社会的に、本邦を含め世界的にも大きな問題としてクローズアップされている。

本大学院における臨床教室の意義は次世代の医学 · 医療のための基礎を確立することにあり、これら先進性の確保のためには臨床に基づく研究の推進および基礎研究に基づく画期的な治療法の開発以外にないとの考えに立つ、消化器病態学分野に関連する寄附講座として、前身の分子肝炎制御学講座を継承する形で本講座は設立された。本講座の研究 · 教育 · 臨床活動の多くの部分が消化器病態学分野と共同で運営されている。

(2) 研究活動

研究面では、肝癌の発生 · 進展 · 治療抵抗性に関わる分子機構の解析、ヒト iPS 細胞モデルを利用した疾患病態の解析、肝臓の組織再生 · 線維化機構の解析、肝前駆細胞の分化調節機構の解析、ウイルス学 · 免疫学的アプローチによる研究など、臨床の場から課題を抽出して研究を展開し、最終的には臨床の医療に還元することを目指す。

＜主要テーマ＞
- ゲノム情報を基盤とした肝癌の発生 · 進展 · 治療抵抗性に関わる分子機構と疾患感受性遺伝子の解析
- ヒト iPS 細胞を利用した疾患モデルの開発と疾患病態解析
- 抗線維化療法の開発に向けた肝臓の組織再生 · 線維化機構の解明
- 肝幹 · 前駆細胞の分化 · 増殖を制御する分子機構の解析
- 肝炎ウイルスの自然免疫抵抗性 · 治療抵抗性の機序の解析

(3) 教育活動

消化器病態学分野と共同で運営する形式で、消化器内科分野における医学部医学科学生の卒前教育、臨床研修医の卒後教育に深く関与している。同様に、消化器病態学分野の大学院生を共同で指導している。

(4) 教育方針

本講座は肝疾患に関する優れた臨床医学研究者を育成することを大学院の教育目的とする。広い視野に立ち次世代の肝臓学領域をリードする臨床研究者を育成することが本分野における大学院教育のゴールである。

(5) 臨床活動および学外活動

消化器病態学分野と共同で運営する形式で、主に肝胆膵疾患の外来・入院診療を行っている。本学医学部附属病院における治療の実践を目的とし、医用工学を駆使した種々の診断技術の開発・実施を行う。さらに、教育関連病院と連携し、消化器病態学分野と共同で運営する形式で、多数の多施設共同研究を行っている。今年度は、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）に支援をうける班研究として、B型肝炎創薬実用化等研究事業、肝炎等克服緊急対策研究事業を含む、8つの研究班に参画して研究を遂行した。なかでも、2019年4月からは本講座が研究代表者、本学の諸講座等に分担研究のご協力をお願いする形で、AMED肝炎等克服実用化研究事業・肝炎等克服緊急対策研究事業「ヒトiPS細胞誘導性肝オルガノイドを用いた革新的疾患モデルの開発および肝線維化と発がんを抑止する治療法の創成」が新規研究班として採択され、新たな肝疾患治療法を開発すべく研究計画を遂行している。学会発表、研究業績は下記に示す。

(6) 臨床上の特色

消化器内科分野と共同して肝胆膵疾患の診療を行い、専門外来として「肝炎・肝癌撲滅外来」を開設し、慢性肝炎、肝硬変、肝癌の診療を行っている。
ウイルス性肝炎の治療については特に豊富な治療経験をもち、「お茶の水liverカンファレンス共同研究」では多くの関連病院の協力も得て、2000例以上の症例経験を蓄積し、我が国有数の臨床研究となった。本研究により治療効果の正確な予測が可能となることが明らかとなり、さらに、発癌メカニズムと発癌リスクの詳細を解明し、非侵襲的肝硬度測定検査やバイオマーカーを組み合わせた抗ウイルス療法後の肝癌スクリーニングプログラムの開発を行っている。
肝癌診療においては、造影超音波検査やReal-time virtual sonography(RVS: MRI/CTのボリュームデータから施行中の超音波画像と同一断面を表示するシステム)を用いて多角的に肝細胞癌を評価し、安全で確実なラジオ波焼灼療法を行っており、これらの有用性についても報告してきた。
放射線科や肝臓外科とも緊密な連携をもち、様々な選択肢の中から病態に応じた最適な集学的治療を提供している。

＜主要テーマ＞
- 肝癌リスク評価及び肝癌診断に有用な診断・治療技術の開発
- ウイルス学的新知見を踏まえた慢性肝炎、肝癌の進展阻止
- 肝癌に対する新しい治療の試み

(7) 研究業績

[原著]

1. Miyako Murakawa, Mina Nakagawa, Hisaaki Nishimura, Shun Kaneko, Masato Miyoshi, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Jun Tsuchiya, Taro Shimizu, Keiya Watakabe, Tomohiro Mochida, Kento Inada, Yasuhiro Iizuka, Hideki Sakai, Yuki Sakurai, Ayako Sato, Seishin Azuma, Takahiro Kawamura, Chiaki Maeyashiki, Masayuki Kurosaki, Fumihiko Kusano, Hideki Watanabe, Hitoshi Kurata, Yuko Karakama, Takeo Fujiwara, Yuki Nagata, Toshihiro Tanaka, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, Yasuhiro Asahina. High serum gamma-glutamyltransferase level after hepatitis C virus elimination is a risk factor for the development of hepatocellular carcinoma. Hepatol Res. 2024.12; 54(12); 1128-1138

2. Yotaro Motomura, Kota Yoshifuji, Keisuke Tanaka, Chizuko Sakashita, Yoshihiro Umezawa, Toshikage Nagao, Sayuri Nitta, Yasuhiro Asahina, Takehiko Mori, Masahide Yamamoto. Hepatitis C virus-related hepatitis flare after immunochemotherapy in a patient with follicular lymphoma. J Clin Exp Hematop. 2024.12; 64(4); 313-317

3. Yuki Tahata, Hayato Hikita, Satoshi Mochida, Nobuyuki Enomoto, Norifumi Kawada, Akio Ido, Daiki Miki, Masayuki Kurosaki, Hitoshi Yoshiji, Ryotaro Sakamori, Hidekatsu Kuroda, Hiroshi Yatsuhashi, Taro Yamashita, Yoichi Hiasa, Naoya Kato, Hisamitsu Miyaaki, Yoshiyuki Ueno, Yoshito Itoh, Kentaro

Matsuura, Taro Takami, Yasuhiro Asahina, Goki Suda, Norio Akuta, Ryosuke Tateishi, Yasunari Nakamoto, Eiji Kakazu, Shuji Terai, Masahito Shimizu, Masanori Miyazaki, Yasutoshi Nozaki, Satoshi Sobue, Hiroki Yano, Tomokatsu Miyaki, Akihiro Moriuchi, Takeshi Hori, Kumiko Shirai, Kazuhiro Murai, Yoshinobu Saito, Takahiro Kodama, Tomohide Tatsumi, Tomomi Yamada, Tetsuo Takehara. Factors involved in gastroesophageal varix-related events in patients with hepatitis C virus-related compensated and decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral therapy. Hepatol Res. 2024.10; Online ahead of print;

4. Haruki Uojima, Kazumi Yamasaki, Masaya Sugiyama, Masayoshi Kage, Norihiro Ishii, Ken Shirabe, Hisashi Hidaka, Chika Kusano, Miyako Murakawa, Yasuhiro Asahina, Takashi Nishimura, Hiroko Iijima, Kazumasa Sakamoto, Kiyoaki Ito, Keisuke Amano, Takumi Kawaguchi, Nobuharu Tamaki, Masayuki Kurosaki, Takanori Suzuki, Kentaro Matsuura, Akinobu Taketomi, Satoru Joshita, Takeji Umemura, Sohji Nishina, Keisuke Hino, Hidenori Toyoda, Hiroshi Yatsuhashi, Masashi Mizokami. Quantitative measurements of M2BPGi depend on liver fibrosis and inflammation. J Gastroenterol. 2024.07; 59(7); 598-608

5. Watakabe K, Miyoshi M, Kakinuma S, Sato A, Tsuchiya J, Shimizu T, Mochida T, Inada K, Kaneko S, Kawai-Kitahata F, Murakawa M, Nitta S, Nakagawa M, Oshima S, Watanabe M, Ma A, Asahina Y, Okamoto R. A20 in hepatic stellate cells suppresses chronic hepatitis by inhibiting DCLK1-JNK pathway-dependent chemokines. FASEB journal : official publication of the Federation of American Societies for Experimental Biology. 2024.07; 38(13); e23757

6. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Shunsuke Ueyama, Chiaki Maeyashiki, Hideki Watanabe, Akiko Kusano-Kitazume, Ayako Sato, Kozue Uchidate, Takehito Asakawa, Sho Watanabe, Yasuhiro Iizuka, Isamu Shibata, Shinya Oooka, Yuko Karakama, Takashi Fujii, Taro Watabe, Keiichi Akahoshi, Minoru Tanabe, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Keiya Watakabe, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kitahata-Kawai, Sayuri Nitta, Mina Nakagawa, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto, . Prognostic significance of C-reactive protein in unresectable hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab and bevacizumab. Hepatol Res. 2024.06; 54(6); 562-574

7. Tatsuya Suzuki, Yuka Hayakawa, Shun Kaneko, Kento Takenaka, Keiya Watakabe, Yuko Kinowaki, Akira Takemoto, Kazuo Ohtsuka, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. Granulomatous hepatitis with Crohn's disease: a case report. Clin J Gastroenterol. 2024.06; 17(3); 551-556

8. Keito Suzuki, Yutaka Yasui, Kaoru Tsuchiya, Hiroaki Matsumoto, Yudai Yamazaki, Naoki Uchihara, Yuki Tanaka, Haruka Miyamoto, Michiko Yamada-Shimizu, Taisei Keitoku, Risa Okada, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Shohei Tanaka, Chiaki Maeyashiki, Nobuharu Tamaki, Hiroyuki Nakanishi, Yuka Takahashi, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi. Impact of immune-related adverse events in patients with hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab plus bevacizumab. J Gastroenterol Hepatol. 2024.06; 39(6); 1183-1189

9. Shun Kaneko, Yasuhiro Asahina, Miyako Murakawa, Seishin Azuma, Kento Inada, Tomohiro Mochida, Keiya Watakabe, Taro Shimizu, Jun Tsuchiya, Masato Miyoshi, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Marie Takahashi, Tomoyuki Fujioka, Mitsuhiro Kishino, Tatsuhiko Anzai, Sei Kakinuma, Mina Nakagawa, Ryuichi Okamoto. Analysis of prognosis and background liver disease in non-advanced hepatocellular carcinoma in two decades. PLoS One. 2024; 19(3); e0297882

[総説]

1. 三好 正人, 朝比奈 靖浩. 【今推しの肝胆膵研究手法と疾患モデル】新規モデルによる肝胆膵研究 iPS 細胞を用いた肝疾患モデルの開発 肝胆膵. 2024.08; 89(2); 215-221

[講演・口頭発表等]

1. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Tsuchiya Jun, Taro Shimizu, Keiya Watakabe, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto and Yasuhiro Asahina. High GGT levels is a risk factor for HCC development having potential to reflect mitochondrial dysfunction after HCV eradication. AASLD2024 2024.11.15

2. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Yasuhiro Asahina. Risk factors for HCC and prognosis after SVR to construct an effective post-treatment surveillance system. JDDW2024 2024.11.01

3. Mina Nakagawa, Miyako Murakawa, Masato Miyoshi, Shun Kaneko, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Sei Kakinuma, Ryuichi Okamoto and Yasuhiro Asahina. SVR 後の肝癌、生存とメタボ因子に関する解析. APASL 2024 Kyoto 2024.03.28

1. 秋元 賢介, 田村 皓子, 竹中 健人, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 清水 寛路, 藤井 俊光, 小林 正典, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 加藤 祐己, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎の定期大腸内視鏡検査で回腸結腸に多発潰瘍を認めた一例. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー

2. 土屋 麻央, 永山 和宜, 金子 朋浩, 大坪 加奈, 深見 裕一, 唐鎌 優子, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 脇屋 緑. ビタミン A サプリメントの大量摂取による薬物性肝障害を経頚静脈的肝生検により診断に至った 1 例. 第 45 回日本肝臓学会東部会 2024.12.07 仙台国際センター

3. 四柳 宏, 坂本 直哉, 朝比奈 靖浩. シンポジウム 3 ウイルス性肝炎：展望と課題_司会. 第 45 回日本肝臓学会東部会 2024.12.06 仙台国際センター

4. 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩. C 型慢性肝疾患における γ GTP と SVR 後肝発癌リスクの関連. 第 45 回日本肝臓学会東部会 2024.12.06 仙台国際センター

5. 延澤 翼, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. 慢性肝疾患の予後予測における Proton density fat fraction（PDFF）の意義. 第 45 回日本肝臓学会東部会 2024.12.06 仙台国際センター

6. 延澤 翼, 金子 俊, 朝比奈 靖浩. ウイルス性慢性肝疾患における肝脂肪定量の意義. JDDW2024 2024.11.01 神戸コンベンションセンター

7. 朝比奈 靖浩, 鈴木 文孝. シンポジウム 1「ウイルス肝炎診療 A to E の最新知見」_司会. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

8. 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩. C 型慢性肝疾患における SVR 後肝発癌リスク因子と代謝関連因子の関連. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

9. 持田 知洋, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. 細胞間相互作用の解析を目的としたヒト iPS 由来肝細胞及び肝星細胞による共培養オルガノイドの開発. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

10. 土屋 淳, 三好 正人, 朝比奈 靖浩. KMT2B 領域への B 型肝炎ウイルスゲノム挿入による肝発癌のメカニズムの解析. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

11. 朝比奈 靖浩. デジタルポスターセッション肝 001「B 型肝炎（基礎 · 診断）」_座長. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

12. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. 進行肝細胞癌に対する複合免疫療法の治療効果と予後因子に関する検討. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター

13. 持田 知洋, 三好 正人, 土屋 淳, 志水 太郎, 渡壁 慶也, 稲田 賢人, 金子 俊, 北畑 富貴子, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一, 柿沼 晴. ヒト iPS 細胞由来肝細胞及び肝星細胞による共培養オルガノイドの開発. 第 31 回肝細胞研究会 2024.07.27 東京大学弥生講堂

14. 中村 遼太, 早川 優香, 福田 将義, 齊藤 一真, 金子 俊, 小林 正典, 村川 美也子, 小山 高敏, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 岡本 隆一. Polypectomy の周術期に慎重な管理を要した第XI因子欠損症の一例. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー

15. 根本 淳子, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 河本 亜美, 村川 美也子, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 奥野 圭祐, 山本 浩平, 加藤 祐己, 國枝 純子, 明石 巧, 岡本 隆一. 治療終了 10 年後に再発した転移性小腸腫瘍の一例. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー

16. 土屋 淳, 三好 正人, 柿沼 晴, 志水 太郎, 北畑 富貴子, 金子 俊, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. KMT2B 領域への B 型肝炎ウイルスゲノム挿入による発癌プロセスの解析. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.11 アスティとくしま

17. 志水 太郎, 三好 正人, 柿沼 晴, 土屋 淳, 金子 俊, 北畑 富貴子, 村川 美也子, 中川 美奈, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆. ヒト iPS 細胞由来肝細胞オルガノイド長期培養系の開発と形質解析. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

18. 金子 俊, 朝比奈 靖浩, 岡本 隆一. CRP 上昇進行肝細胞癌の特徴と肝癌薬物療法に関する検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

19. 朝比奈 靖浩. 肝 プレナリー_座長. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 徳島文理大学 むらさきホール

20. 金子 俊, 村川 美也子, 上山 俊介, 前屋舗 千明, 渡辺 秀樹, 北詰 晶子, 佐藤 綾子, 内館 梢, 渡部 太郎, 赤星 径一, 田邊 稔, 三好 正人, 北畑 富貴子, 中川 美奈, 柿沼 晴, 朝比奈 靖浩. CRP 上昇進行肝細胞癌の特徴とアテゾリズマブベバシズマブ併用療法に関する検討. 第 29 回日本肝がん分子標的治療研究会 2024.01.27

[その他業績]

1. 「 肝星細胞による炎症機構の解明と肝硬変の治療へとつながる発見 」 — 慢性肝炎、肝硬変の治療薬に期待 —, 2024 年 07 月
   The FASEB Journal

2. Finding new targets for blocking chronic hepatitis, 2024 年 08 月
   AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

[社会貢献活動]

1. コラム記事: プレスリリース「 肝星細胞による炎症機構の解明と肝硬変の治療へとつながる発見 」について, 日刊工業新聞社, 日刊工業新聞, 2024 年 07 月 08 日 - 現在

消化管先端治療学講座

Department of Advanced Therapeutics for GI Diseases

准教授　永石宇司

(1) 分野概要

本講座は「海外に発信できる画期的な疾患制圧戦略」の構築を目指し、複数企業の支援に基づく先端技術と情報の共有のもと、炎症性腸疾患研究に特化した研究・教育を推進する大学院設置講座として活動している。本講座ではこれら研究・教育活動を通し、独自の視点に基づく難治性炎症性腸疾患の制圧戦略を確立するとともに、次世代の基礎・臨床研究を推進する優れた研究者を育成することを目的とする。

(2) 研究活動

本学消化器病態学講座と連携し、研究成果を最終的に臨床現場に還元する「クリニカル・サイエンス」を追求する。主要な研究テーマは以下の通りである。
・消化管再生医学研究
・炎症性腸疾患の免疫異常の解明と免疫制御療法開発

(3) 教育活動

本学消化器病態学講座スタッフと連携し、同講座の大学院生教育を担う。医学部医学科学生の卒前教育、臨床研修医の卒後教育にも大きく貢献している。

(4) 教育方針

次世代の炎症性腸疾患研究をリードする臨床研究者を育成することが本分野における教育のゴールである。

(5) 臨床活動および学外活動

医学部附属病院において炎症性腸疾患診療にあたる消化器病態学分野と連携し、研究成果にもとづく新しい診断技術・治療技術の実地応用を図る。厚生労働科学研究費補助事業難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」における全国規模の臨床研究を推進している。

(6) 臨床上の特色

炎症性腸疾患臨床においては、以下を推進した。
・炎症性腸疾患に対する新しい再生医療・免疫調節治療技術の確立
・炎症性腸疾患の新しい診断技術開発
・炎症性腸疾患における小腸病変に対する内視鏡治療

(7) 研究業績

[原著]

1. Yuki Yonemoto, Yasuhiro Nemoto, Ryo Morikawa, Nana Shibayama, Shigeru Oshima, Takashi Nagaishi, Tomohiro Mizutani, Go Ito, Satoru Fujii, Ryuichi Okamoto. T cell subsets were increased in the small intestinal intraepithelial lymphocytes of aged mice. Front Immunol. 2024.01; 15; 1340048

[書籍等出版物]

1. 根本 泰宏. Lab.Scope. 消化器病学サイエンス vol.8 no.3. 2024.09
2. 根本　泰宏. 内科診断学. 医学書院, 2024.03

[総説]

1. 根本　泰宏. Lab Scope 消化器病学サイエンス. 2024.09;
2. 井上 忠彦, 永石 宇司. 炎症性腸疾患モデルにおける炎症性発癌機構の解析 BIO Clinica . 2024.07; 39(8); 85-89

[講演 · 口頭発表等]

1. Yuki Yonemoto, Yasuhiro Nemoto, Ryuichi Okamoto. Single cell analysis revealed that two distinct, unique CD4+ T cell subsets were increased in the small intestinal intraepithelial lymphocytes of aged mice. JDDW2024 2024.10.31 Kobe_Japan
2. Inoue T, Fushimi M, Yamada D, Watabe T, Watanabe M, Okamoto R, Nagaishi T. Downregulated apelin expression in T cells in the setting of chronic colitis. ECCO 2024.02.23 Stockholmsmässan_Stockholm
3. Inoue T, Fushimi M, Tsugawa N, Yamada D, Watabe T, Watanabe M, Okamoto R, Adachi T, Blumberg RS, Nagaishi T. B cell receptor signaling-mediated activation in lymphoid tissues is regulated by the long isoform of CEACAM1. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.19 Chiba_Japan
4. Fushimi M, Inoue T, Yamada D, Kojima Y, Hosoya A, Watabe T, Watanabe M, Okamoto R, Nagaishi T. APL downregulation in T cells in an animal model of chronic colitis. The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology 2024.01.19 Chiba_Japan

1. 根本 泰宏, 柴山 奈々, 内田 仁, 森川 亮, 岡本 隆一, 米本 有輝. 蛍光色素変換モデルを用いた腸炎惹起性メモリー T 細胞 trafficking の定量化と制御因子の解明. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京マリオットホテル
2. 武藤 智弘, 伊藤 剛, 勝田 景統, 石堂 舜, 山本 くらら, 藤井 悟, 水谷 知裕, 根本 泰宏, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎におけるパネート細胞化生の役割. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.15 東京マリオットホテル
3. 根本 泰宏, 米本 有輝, 岡本 隆一. CD4-CD8 $\alpha\beta$-TCR $\alpha\beta$+T 細胞はアナジー誘導性抗原提示細胞として腸管免疫の恒常性を維持し，クローン病の病態に関与する. JDDW2024 2024.11.02 神戸コンベンションセンター
4. 井上 忠彦, 山田 大貴, 津川 直也, 渡辺 守, 岡本 隆一, 永石 宇司. T 細胞の APL 発現抑制は IBD モデルを促進する. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 徳島文理大学 むらさきホール
5. 永石 宇司, 井上 忠彦, 山田 大貴, 渡辺 守, 岡本 隆一. IgA による小腸粘膜の防御と腸内細菌叢の制御. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 アスティとくしま

[その他業績]

1. 「 老化したマウスの腸管において増加する特徴的な異なる 2 つの T 細胞集団を同定 」 — 腸管の免疫老化機構解明への第一歩 —, 2024 年 02 月
   Frontiers in Immunology

茨城県小児· 周産期地域医療学講座

Department of Pediatrics, Perinatal and Maternal Medicine

寄附講座教授　（小児科）高木正稔（2024 年 9 月 15 日まで）
寄附講座講師　（小児科）石井卓
寄附講座助教　（小児科）林祐子（2024 年 4 月 1 日より）

寄附講座准教授（周産期）石川智則
寄附講座助教　（周産期）齊藤和毅
寄附講座助教　（周産期）郡悠介

（1）分野概要

本講座は 2010 年 4 月に設立された官学連携（現在は産学連携）寄附講座であり、小児科と周産 · 女性診療科それぞれ 3 名ずつからなる。

東京科学大学病院における小児 · 周産期医療の充実と、土浦協同病院との連携を基軸とした茨城県内小児 周産期医療の再生が目標である。本講座が中心となり学内周産期診療が充実したことで、2015 年 4 月 1 日に東京都地域周産期母子医療センターに認定された。学生や研修医教育 · 養成と確保の充実により、小児科、周産 女性診療科ともに医局内医師数は増加し、茨城県内医師不足地域へも派遣を行っている。

また双方向ビデオカンファレンスシステムを導入し、大学と土浦協同病院間の診療 · 研究 · 教育面での連携が充実し、文部科学省課題解決型人材養成事業（H26 30 年度）にも採択され、筑波大学と共同で「ＩＴを活用した小児周産期の高度医療人養成」事業を推進した。

茨城県における原発性免疫不全症の新生児マススクリーニングの導入に向けて積極的に取り組み、2022 年度からの実施にいたった。

（2）研究活動

小児科

1. 原発性免疫不全症レジストリを用いたラパマイシンの医師主導治験研究を AMED の支援を受け医師主導治験として実施している。
2. 肺動脈性肺高血圧症（PAH）のレジストリ研究（多施設共同研究）

① 先天性心疾患に伴う PAH（JACPHR）：AMED 研究代表施設として進行中である。
② 特発性/遺伝性 PAH（JAPHR）：成人でも進行中のレジストリで、研究分担施設として参加している。18 歳未満の小児例を集積中である。

3. 肺動脈性肺高血圧症における BMP9 遺伝子機能解析（基礎研究）
4. 冠動脈瘤をともなう川崎病患者のレジストリ研究（多施設共同臨床研究）
5. 乳児白血病治療法開発：AMED の助成を受け乳児白血病の治療反応性層別化に有用な

バイオマーカーを見出した。さらに乳児白血病発症のメカニズム、新規治療法開発に向けて取り組んでいる。
6. 骨髄 NK 前駆細胞性急性白血病の病態解明に取り組み、その成果を 2023 年に発表した。
7. 神経芽腫治療法開発：JCCG の神経芽腫委員として、新規神経芽腫治療法開発に向け取り組んでいる。
8. 小児膠原病の診断治療に取り組んでいる。

周産・女性診療科
1. 妊娠中の自律神経機能と血管特性の変化（臨床研究）
2. 妊娠中の母体脳循環動態の解明（臨床研究）
3. 難治疾患合併妊娠の周産期管理に関する臨床的解析（臨床研究）
4. 精神疾患合併妊娠における薬物動態に関する研究（臨床研究）
5. 母児エピゲノムの体系的解析（臨床研究）
6. 生殖機能の温存に主眼を置いた低侵襲婦人科手術の開発
7. 生殖医療の提供
8. 生殖機能温存のための卵子・胚・卵巣組織凍結、精子凍結

（3）教育活動
小児科
1. 医学科 3･4 年生のブロック講義、PCC 講義
2. 医学科 5･6 年生の臨床実習ディレクター担当
3. Web カンファレンスによる学内外講師の講演
4. 医学科学生少人数グループに対する先天性心疾患・終末期医療レクチャー

周産・女性診療科
1. 医学科ブロック講義における産科学・婦人科学、クリニカルクラークシップでは周産期医学・婦人科学に関するミニレクチャーを行うと同時に、分娩立会い、処置・手術への積極的な参加を促した。
2. 初期研修医・後期研修医には病棟診療グループの一員として分娩、処置、手術に参加してもらった。また外部講師にレクチャーを依頼し、update な知識の習得に努めた。
3. 土浦協同病院との合同カンファレンス、シミュレータを活用した実践教育を行った。

（4）教育方針
小児・周産期医療を専門とする本講座が中心となり、東京科学大学病院における小児・周産期医療の充実を達成してきた。学内周産期診療の充実により、学生および初期研修医の

周産期医療の教育は充実し、その結果小児科、周産女性診療科ともに医局内医師数は増加してきた。そのことで、茨城県内医師不足地域への医師派遣も可能となっている。

また土浦協同病院との連携を基軸とした茨城県内小児・周産期医療の再生を達成するために、双方向ビデオカンファレンスシステム/Web カンファレンスを用いて、大学から遠方の土浦協同病院においても教育面の充実を図っている。

これまでの成果が評価された結果、文部科学省課題解決型人材養成事業にも採択され、筑波大学と共同で「ＩＴを活用した小児周産期の高度医療人養成」事業を推進してきた。

（5）臨床活動および学外活動

小児科

1. 日本における原発性免疫不全症診療のセンターとして、様々な疾患に対する造血幹細胞移植を実施している。
2. 2019 年秋からは新生児に対する姑息手術も開始し、良好な結果を得ている。今後さらなる手術数の増加が期待される。
3. 小児肺高血圧症の先進治療施設の一つとして、数多くの小児例に種々の標的治療薬（経口薬、非経口薬）を早期に導入し、患者の肺高血圧症の改善、生活の質の向上を達成している。
4. 東京都小児がん診療連携施設として数多くの小児・AYA がんの診療に取り組んでいる。また CAR-T 細胞療法や HLA ハプロ不一致造血細胞移植など、難治例の移植・細胞療法に取り組んでいる。
5. 小児膠原病領域の診断治療に取り組んでいる。

周産・女性診療科

1. 2015 年 4 月 1 日に東京都地域周産期母子医療センターに認定され、ハイリスク妊娠の母体搬送を積極的に受け入れた結果、母体搬送の依頼件数、受入れ件数とも倍増した。
2. 生殖医療では、piezoICSI やタイムラプスシステムを導入し、良好な成績を得ている。
3. 腫瘍センターの「がん先端治療部」への改組に合わせて、妊孕性温存を担当する「がん生殖医療ユニットが」開設され、院内のみならず院外からの妊孕性温存症例を積極的に受け入れている。
4. 2022 年 11 月 1 日にリプロダクションセンターを新設し、“今すぐ“または”将来“の妊娠・出産を希望する患者さんに、専門的かつ包括的な生殖医療を実践している。周産・女性診療科の生殖医療チームを中心に泌尿器科 ·小児科・遺伝子診療科・心身医療科の 5 つの診療科の専門医や経験豊富なスタッフが、”妊娠成立“に加えて”より安全な分娩“や“出産後の健やかな生活”を治療の目標と考えて、確かな情報のもとに患者さん一人一人に最適な生殖医療を提供している。

（6）臨床上の特色

小児科

1. 重症肺高血圧の小児患者は希少疾患のため、強固な地域医療連携を通じた早期診断および紹介システムを構築している。また経口標的治療薬の早期併用療法の開始、非経口薬エポプロステノールの早期導入と積極的な増量を実践する治療戦略を基本として、臨床症例を蓄積している。
2. 小児がんに対して、臨床試験や難治例に対して造血細胞移植などを用い、医療を行っている。
3. 先天性免疫異常症の診断治療に、基礎的な面からの解析も含め取り組んでいる。
4. 遺伝性疾患の遺伝カウンセリングを実施している。
5. 小児膠原病領域の診断治療に取り組んでいる。

周産・女性診療科

1. 重度な合併症を有するハイリスク妊婦に対して、胎児と母体の相互関与を鑑みた適切な管理を行い、良好な成績をあげている。
2. 難治性不妊症に対し、周産期予後も考慮した統合的な不妊治療を提供している。
3. 婦人科良性疾患に対して、低侵襲手術を積極的に取り組んでいる。
4. 卵子・胚・卵巣組織凍結および精子凍結を行い、院内・院外からのがん治療後の妊孕性温存のコンサルテーションに応じている。
5. 東京都の「加齢等による妊娠機能の低下を懸念する場合に行う卵子凍結」の調査事業登録医療機関に指定され、ノンメディカルな卵子凍結に対応している。

（7）研究業績

[原著]

小児科

1. Miyaoka F, Hatano M, Hayashi Y, Kaneko S,Shimbo A, Irabu H, Akutsu Y, Segawa Y, Mori M, Shimizu M. Atlantoaxial arthritis is more common inpolyarticular JIA as compared to systemic onset JIA-Retrospective study INTERNATIONAL JOURNAL OF RHEUMATIC DISEASES. 2024.11; 27(11); e15396
2. Sarah Elitzur, Ruth Shiloh, Jan L C Loeffen, Agata Pastorczak, Masatoshi Takagi, Simon Bomken, Andre Baruchel, Thomas Lehrnbecher, Sarah K Tasian, Oussama Abla, Nira Arad-Cohen, Itziar Astigarraga, Miriam Ben-Harosh, Nicole Bodmer, Triantafyllia Brozou, Francesco Ceppi, Liliia Chugaeva, Luciano Dalla Pozza, Stephane Ducassou, Gabriele Escherich, Roula Farah, Amber Gibson, Henrik Hasle, Julieta Hoveyan, Elad Jacoby, Janez Jazbec, Stefanie Junk, Alexandra Kolenova, Jelena Lazic, Luca Lo Nigro,

Nizar Mahlaoui, Lane Miller, Vassilios Papadakis, Lucie Pecheux, Marta Pillon, Ifat Sarouk, Jan Stary, Eftichia Stiakaki, Marion Strullu, Thai Hoa Tran, Marek Ussowicz, Jaime Verdu-Amoros, Anna Wakulinska, Joanna Zawitkowska, Dominique Stoppa-Lyonnet, A Malcolm Taylor, Yosef Shiloh, Shai Izraeli, Veronique Minard-Colin, Kjeld Schmiegelow, Ronit Nirel, Andishe Attarbaschi, Arndt Borkhardt. ATM germ line pathogenic variants affect outcomes in children with ataxia-telangiectasia and hematological malignancies. Blood. 2024.09; 144(11); 1193-1205

3. Catherine Metayer, Logan G Spector, Michael E Scheurer, Soyoung Jeon, Rodney J Scott, Masatoshi Takagi, Jacqueline Clavel, Atsushi Manabe, Xiaomei Ma, Elleni M Hailu, Philip J Lupo, Kevin Y Urayama, Audrey Bonaventure, Motohiro Kato, Aline Meirhaeghe, Charleston W K Chiang, Libby M Morimoto, Joseph L Wiemels. Folate metabolism and risk of childhood acute lymphoblastic leukemia: a genetic pathway analysis from the Childhood Cancer and Leukemia International Consortium. Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2024.09; 33(9); 1248-1252
4. Masatoshi Takagi, Akira Nishimura. [Molecular profiling of myeloid/natural killer (NK) cell precursor acute leukemia] . Rinsho Ketsueki. 2024.09; 65(9); 1179-1189
5. Takahiro Tomoda, Akira Nishimura, Takahiro Kamiya, Kumi Inoue, Harutaka Katano, Shun Iida, Akihiro Hoshino, Takeshi Isoda, Kohsuke Imai, Michiko Kajiwara, Masatoshi Takagi, Hirokazu Kanegane, Nozomu Hanaoka, Tomohiro Morio. Immune reconstitution and cidofovir administration rescue human adenovirus hepatitis after allogeneic hematopoietic cell transplantation. Transpl Immunol. 2024.07; 102093
6. Yuichi Nagamatsu, Takeshi Isoda, Motoki Inaji, Jun Oyama, Daiki Niizato, Dan Tomomasa, Noriko Mitsuiki, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Intracranial residual lesions following early intensification in a patient with T-cell acute lymphoblastic leukemia: a case report. BMC Pediatr. 2024.05; 24(1); 304
7. Miyamoto S, Niizato D, Tomomasa D, Nishimura A, Hoshino A, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Kajiwara M, Azumi S, Hirabayashi S, Sakamoto K, Kishimoto K, Miyamura T, Umeda K, Hirose A, Keino D, Yanagimachi M, Kanda K, Sakai Y, Ikawa Y, Watanabe K, Tanaka K, Mori T, Ichinohe T, Sakaguchi H, Morio T, Kanegane H. Allogeneic Hematopoietic cell Transplantation Using Alemtuzumab in Asian Patients with Inborn Errors of Immunity. Journal of clinical immunology. 2024.05; 44(6); 126
8. Ishii T, Nawa N, Hosokawa S, Morio T, Fujiwara T. Exploring viral infections' role in Kawasaki disease onset: A study during the COVID-19 pandemic. Journal of medical virology. 2024.05; 96(5); e29660
9. Huan-Ting Lin, Masatoshi Takagi, Kenji Kubara, Kazuto Yamazaki, Fumiko Michikawa,

Takashi Okumura, Takuya Naruto, Tomohiro Morio, Koji Miyazaki, Hideki Taniguchi, Makoto Otsu. Monoallelic KRAS (G13C) mutation triggers dysregulated expansion in induced pluripotent stem cell-derived hematopoietic progenitor cells. Stem Cell Res Ther. 2024.04; 15(1); 106

10. Kae Takagi, Yui Namikawa, Masayuki Nagasawa, Masahiro Mae, Yoshihiko Watanabe, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Somatic variant profiling of a thymoma in Good Syndrome. Clinical Immunology Communications. 2024.02; (5); 12-19
11. Masatoshi Takagi, Chihiro Tomoyasu, Junko Yamanaka, Takayuki Hamabata, Takeshi Isoda, Takako Miyamura, Kohsuke Imai. Immunological assessment of a patient with infant acute lymphoblastic leukemia. Pediatr Int. 2024.01; 66(1); e15738
12. Takagi Masatoshi, Tomoyasu Chihiro, Yamanaka Junko, Hamabata Takayuki, Isoda Takeshi, Miyamura Takako, Imai Kohsuke. 小児急性リンパ芽球性白血病の患児で行った免疫学的評価（Immunological assessment of a patient with infant acute lymphoblastic leukemia) Pediatrics International. 2024; 66(1); ped.15738

1. 清水正樹，畠野真帆，伊良部仁，林祐子，高瀬博．ぶどう膜炎発症を契機に診断に至った環軸関節炎で発症した少関節炎型若年性特発性関節炎の女児例　小児科．2024.11; 65(11); 1176-1180

周産・女性診療科

1. Hiroki Noguchi, Takeshi Iwasa,　Akira Iwase, Haruhiko Kanasaki, Fuminori Kimura, Koji Kugu, Kazuki Saito, Tsuyoshi Baba, Tetsuaki Hara, Toshiya Matsuzaki. Phenotypes and clinical laboratory data for polycystic ovary syndrome cases: A nationwide survey in Japan. J Obstet Gynaecol Res. 2024.12; 50(12); 2346-2356
2. Yurie Nako, Kuniaki Ota, Toshio Sujino, Junichiro Mitsui, Hisae Kamo, Shoko Katsumata, Yuko Takayanagi, Makiko Tajima, Tomonori Ishikawa, Akira Komiya, Kiyotaka Kawai. A Large Study About Reproductive Factors That Predict Hysterosalpingography-Identified Tubal Pathology: An Insight into the Necessity of PreconceptionScreening. J Clin Med. 2024.12; 14(1);
3. Noguchi H, Iwasa T, Iwase A, Kanasaki H, Kimura F, Kugu K, Saito K, Baba T, Hara T, Matsuzaki T. Cut-off value for anti-M ¨ ullerian hormone in the diagnostic criteria for polycystic ovary syndrome in the Japanese population. The journal of obstetrics and gynaecology research. 2024.06;
4. Odai T, Oshima N, Kori Y, Takao M, Wakana K, Miyasaka N. Pleomorphic Rhabdomyosarcoma of the Uterine Corpus in an Adult Who Underwent Multi-gene Panel Testing. Cancer diagnosis & prognosis. 2024.05; 4(3); 363-369

5. Muranishi Y, Kobori Y, Katoh-Fukui Y, Tamaoka S, Hattori A, Osaka A, Okada H, Nakabayashi K, Hata K, Kawai T, Ogata-Kawata H, Iwahata T, Saito K, Kon M, Shinohara N, Fukami M. Systematic molecular analyses for 115 karyotypically normal men with isolated non-obstructive azoospermia. Human reproduction (Oxford, England). 2024.03;
6. Mitsui J, Ibayashi M, Aizawa R, Ishikawa T, Miyasaka N, Tsukamoto S. Lipid droplets synthesized during luteinization are degraded after pregnancy. The Journal of reproduction and development. 2024.02;
7. Shiori Kumazawa, Kazuki Saito, Nanako Hashido, Rinko Ibi, Tomonori Ishikawa, Akira Wakabayashi, Naoyuki Miyasaka. Reinfusion of peritoneal fluid elevates the level of plasma D-dimer in patients with early-onset ovarian hyperstimulation syndrome. Reproductive Medicine and Biology. 2024.02; 23(1); e12563

1. 尾臺珠美, 郡悠介, 高尾茉希, 大島乃里子, 若菜公雄, 宮坂尚幸. 臨床経験　性成熟期女性における子宮内膜異型増殖症と子宮体癌症例の臨床的検討 産婦人科の実際. 2024.01; 73(1); 81-85
2. 佐藤梨花子, 高尾茉希, 大島乃里子, 郡悠介, 尾臺珠美, 若葉公雄, 宮坂尚幸, 江川真希子. 若年子宮体癌術後に消化管過誤腫性ポリポーシスを認め,Cowden 症候群と診断された 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2024.01; 73(1); 56-62

[書籍等出版物]

小児科

1. 石井卓. 小学 3 年生の疲労感～肺高血圧症とは何か～ 日本医事新報社「小児循環器入門」1 章外来編-13 . 日本医事新報社, 2024.07 (ISBN : 978-4-7849-2489-9)
2. 石井卓. 局所麻酔薬　日本小児循環器学会編集「小児 · 成育循環器学 改訂第 2 版」第 II 章 C 心血管系の薬理学. 株式会社 診断と治療社, 2024.07 (ISBN :9784787826329)
3. 石井卓. 総肺静脈還流異常症　東京医学社「小児内科」2024 年 4 月増大号　完全把握をめざす小児の心疾患　先天性心疾患（各論）　. 東京医学社, 2024.04

周産 · 女性診療科

1. 藤原聡枝, 宇佐美知香, 磯部真倫, 齊藤和毅, 志鎌あゆみ, 竹内佳織, 永易洋子, 古澤啓子 . 産婦人科手術 No.35 パネルディスカッション 今ある外科教育に立ちはだかる問題点　さまざまな立場からの検討. メジカルビュー社, 2024.06 (ISBN : 978-4-7583-1980-5)
2. 齋藤英和, 齋藤和毅. I 生殖補助 医療の流れ 2 わが国における生殖補助医療の現状__生殖補助医療（ART）肺培養の理論と実際　改訂版. 株式会社 近代出版, 2024.03 (ISBN : 978-4-87402-294-8)

[講演・口頭発表等]

小児科

1. Masaki Shmizu, Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Maho Hatano, Futaba Miyaoka, Yuko Hayashi, Hitoshi Irabu, Yuko Akutsu, Keiji Akamine, Masaaki Mori. Successful treatment with anifrolumab for refractory cutaneous lesions in pediatric systemic lupus erythematosus. APLAR2024 2024.08.22 Singapore, Singapore
2. Yuko Hayashi, Maho Hatano, Shuya Kaneko, Asami Shimbo, Hitoshi Irabu, Yuko Akutsu, Masaki Shimizu, Masaaki Mori. Clinical outcomes after SARS-CoV-2 infection and vaccination in patients with pediatric rheumatic diseases. 26th Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress 2024.08.21 Singapore, Singapore
3. Satoshi Miyamoto, Kevin Y. Urayama, Akira Nishimura, Setsuo Ota, Riski Muhaimin, Yui Namikawa, Miho Koizumi, Yuki Arakawa, Katsuyoshi Koh, Yuki Yuza, Daisuke Hasegawa, Yuichi Taneyama, Yasuishi Noguchi, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Inukai, Hiroyuki Takahashi, Dai Keino, Daisuke Toyama, Junko Takita, Daisuke Tomizawa, Kazutoshi Koike, Koichi Moriwaki, Yuya Sato, Junya Fujimura, Daisuke Morita, Yujin Sekinaka, Kozue Nakamura, Kazuo Sakashita, Hiroaki Goto, Takeshi Isoda, Kosuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Atsushi Manabe, Hiroaki Honda, Masatoshi Takagi. Germline Variants of Transcription Factors Involved in B-Cell Development Associate with B=ALL and Immunodeficiency. The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13 北海道
4. Satoshi Miyamoto, Daiki Niizato, Yohei Nishiyama, Yuya Sasaki, Keisuke Tanaka, Akihiro Hoshino, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Masatoshi Takagi, Shohei Azumi, Kenichi Sakamoto, Kenji Kishimoto, Katsutsugu Umeda, Kenichiro Watanabe, Tatsuo Ichinohe, Takehiko Mori, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Allogenic hematopoietic cell transplantation with alemtuzumab in patients with XIAP deficiency. The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13 北海道
5. Satoshi Miyamoto, Masatoshi Takagi,Tsuyoshi Osawa, Masabumi Sibuya, Tomohiro Morio, Rika Tsuchida. BMP4 exerts anti-neoplastic effect to neuroblastoma via MYCN downregulation.. SIOP Asia 2024 2024.06.24 Kanagawa
1. 林祐子. 全身型若年性特発性関節炎における SARS-CoV-2 感染とワクチン接種の影響. 第 33 回日本小児リウマチ学会 2024.10.19 京都
2. 土方美奈子, 渡部良平, 若月良介, 宮本智史, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 朝蔭孝宏, 金兼弘和. 左眼球運動制限を契機に見つかった左上顎洞原発 Langerhans1 細胞組織球症. 第 700 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2024.09.14 東京
3. 石井卓. 小児における先天性心疾患を伴う肺高血圧症の臨床像と診療実態. 第 9 回日

本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2024.08.10 福岡

4. 石田秀和、石井卓、内田敬子、細川奨、高月晋一、住友直文、稲井慶、福島裕之、小垣滋豊、山岸敬幸、土井庄三郎. 高肺血管抵抗を有する Fontan 循環の臨床像と治療選択. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2024.08.10 福岡
5. 櫻井牧人、山口洋平、石井卓、井原健介、細川奨. 肺高血圧症におけるヘッジホッグシグナル伝達経路の果たす役割. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2024.08.09 福岡
6. 内田敬子、住友直文、福島裕之、石井卓、石田秀和、高月晋一、小垣滋豊、稲井慶、土井庄三郎、山岸敬幸. 主要体肺側副動脈を伴う区域性肺高血圧症における治療効果の検討. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2024.08.09 福岡
7. 下山輝義、古川晋、永松優一、長原慧、山口洋平、石井卓. 小児期発症 PH 症例に対する Selexipag 使用の中長期的効果の検討. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2024.08.09 福岡
8. 細川奨、石井卓、永井礼子、内田敬子、石田秀和、小垣滋豊、山岸敬幸、土井庄三郎. 我が国の小児特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症患者の治療の現状. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 2024.08.09 福岡
9. 石井卓、山口洋平、細川奨. 胎児心エコー検査保険収載前後における先天性心疾患患者の乳児死亡数の推移. 第 60 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2024.07.13 福岡
10. 石井卓. 本邦における先天性心疾患を伴う肺高血圧症に対する薬物治療の現状. 第 60 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2024.07.12 福岡
11. 林祐子 畠野真帆, 金子修也, 真保麻実, 伊良部仁, 阿久津裕子, 清水正樹, 森雅亮. メトトレキサート皮下注射を導入した小児期発症リウマチ性疾患 6 例の検討. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024.04.18 兵庫
12. 深田英香, 西山洋平, 宮本智史, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 竹下八奈, 金兼弘和, 森尾友宏. 全身に多数の潰瘍病変を認めた BCG 接種後の壊疽性丘疹性結核疹の 1 例. 第 695 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2024.01.13 東京都

周産・女性診療科

1. 齋藤和毅. 不妊症と周産期合併症に関わる内分泌代謝異常. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update 2024.11.30 愛知
2. 齊藤和毅. ART が胎盤形成に及ぼす影響と黄体補充. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会　ランチョンセミナー 2024.11.15 愛知
3. 齊藤和毅, 野中美幸, 村形佐知, 光井潤一郎, 櫻井香織, 岩原由樹, 石川智則, 宮坂尚幸. 生殖外科における腹腔鏡手術用超音波プローブの活用. 第 69 回日本生殖医学会学術講演会・総会 2024.11.14 愛知
4. 松崎利也, 野口拓樹, 湊沙希, 岩佐武, 岩瀬明, 金崎春彦, 木村文則, 久具宏司, 齊藤

和毅，馬場剛，原鐵晃．本邦の多嚢胞性卵巣症候群患者における月経周期異常と内分泌異常の評価に関する検討．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知

5. 野口拓樹，岩佐武，岩瀬明，金崎春彦，木村文則，久具宏司，齊藤和毅，馬場剛，原鐵晃，湊沙希，松崎利也．本邦の多嚢胞性卵巣症候群の診断基準（日産婦 2024）に新規採用された「多毛」と「抗ミュラー管ホルモン高値」の位置付けに関する検討．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知
6. 山内英理子，岩原由樹，櫻井香織，光井潤一郎，齊藤和毅，福岡由利子，奥山紀之，石川智則，宮坂尚幸，京野廣一．当院における卵巣組織凍結保存症例の報告．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知
7. 堀口紗世，岩原由樹，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，櫻井香織，齊藤和毅，石川智則，宮坂尚幸．リプロダクションセンターからプレコンセプション外来に紹介となった症例の検討．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知
8. 岩原由樹，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，櫻井香織，齊藤和毅，石川智則，宮坂尚幸．治療に苦慮した腟内異物による頚管狭窄の 1 例．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知
9. 光井潤一郎，石川智則，野中美幸，村形佐知，櫻井香織，齊藤和毅，岩原由樹，宮坂尚幸．単一胚移植を行い双胎妊娠が成立した 5 例．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知
10. 村形佐知，石川智則，野中美幸，光井潤一郎，櫻井香織，齊藤和毅，岩原由樹，宮坂尚幸．ノンメディカルな卵子凍結における卵成熟率について．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知
11. 櫻井香織，石川智則，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，齊藤和毅，岩原由樹，宮坂尚幸．低頻度モザイク胚移植により生児を得た 2 例．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知
12. 吉野涼香，石川智則，野中美幸，村形佐知，光井潤一郎，櫻井香織，齊藤和毅，岩原由樹，宮坂尚幸．当院における血液疾患罹患女性に対する妊孕性温存についての検討．第 69 回日本生殖医学会学術講演会 · 総会 2024.11.14 愛知
13. 鈴木翔太，齊藤和毅，宮坂尚幸，関口将軌，廣瀬明日香，羅ことい，不殿絢子．モーメントを意識した 3 方向の力をかけることで整復し得た嵌頓子宮の 1 例．第 410 回東京産科婦人科学会例会 2024.09.21 東京
14. 齊藤和毅．安全な ART を提供するために．第 8 回群馬県生殖医療研究会 2024.07.27 群馬
15. 齊藤和毅、野口拓樹、岩佐武、岩瀬明、金崎春彦、木村文則、久具宏司、馬場剛、原鐵晃、 湊沙希、松崎利也．多嚢胞性卵巣症候群患者の全国症例調査データ．第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 神奈川

16. 齊藤和毅, 野口拓樹, 岩佐武, 岩瀬明, 金崎春彦, 木村文則, 久具宏司, 馬場剛, 原鐵晃, 湊沙希, 松崎利也. 本邦の多嚢胞性卵巣症候群患者の表現型に関する全国症例調査の集計結果. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.21 神奈川
17. 野口拓樹, 岩佐武, 岩瀬明, 金崎春彦, 木村文則, 久具宏司, 齊藤和毅, 馬場剛, 原鐵晃, 湊沙希, 松崎利也. 本邦の多嚢胞性卵巣症候群の診断基準における抗ミュラー管ホルモンの位置付けとカットオフ値に関する検討. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.21 神奈川
18. 松崎利也, 野口拓樹, 湊沙希, 岩佐武, 岩瀬明, 金崎春彦, 木村文則, 久具宏司, 齊藤和毅, 馬場剛, 原鐵晃. 本邦の多嚢胞性卵巣症候群患者における肥満の有無による内分泌異常に関する検討. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.21 神奈川
19. 山内英理子, 齊藤和毅, 郡悠介, 山本健太郎, 熊澤栞, 中筋貴史, 岩原由樹, 石川智則, 宮坂尚幸. 双頸双角子宮の帝王切開子宮瘢痕症に対して腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術を行った一例. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.20 神奈川
20. 齊藤和毅. 患者特性に応じた治療の選択とマネジメント　出生率に貢献する ART 治療戦略. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 2024.04.19 神奈川
21. 足立未央, 原正武, 熊木裕一, 石場俊之, 小田剛史, 有川淑恵, 石川智則. 当院における AYA 世代乳癌と妊娠・出産の状況. 第 14 回日本がん・生殖医療学会学術集会 2024.02.10 茨城

[受賞]

小児科

1. APLAR2024 Travel Award on JCR (Yuko Hayashi), 日本リウマチ学会, 2024 年 07 月

[その他業績]

小児科

1. The hidden identity of leukemia(高木正稔), 2024 年 01 月 AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News
2. 骨髄/ナチュラル (NK) 前駆細胞性急性白血病は新規の独立した白血病である —希少白血病の分子遺伝学的基盤の理解と治療法開発—(高木正稔), 2024 年 01 月 EurekAlert!

[社会貢献活動]

小児科

1. 東京都小児・AYA がん診療連携協議会委員（高木正稔），東京都, 2021 年 04 月 01 日 - 現在
2. 筑波大学附属小学校 校医（児童の健康管理及び保健指導）（石井卓），筑波大学附属

小学校, 2023 年 10 月 01 日 - 現在

3. 希少性難病　A-T について（高木正稔），青森朝日放送, ニュース番組、ドキュメンタリー番組, 2024 年 06 月 14 日 - 現在

周産・女性診療科

1. 生殖医療ガイドライン（改訂版）執筆（齊藤和毅），一般社団法人　日本生殖医学会, 2023 年 03 月 - 現在
2. 東京都がん対策推進協議会
   AYA 世代がんワーキンググループ 委員（石川智則), 東京都, 2023 年 03 月 09 日 - 2024 年 07 月 31 日
3. 産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 2026 作成委員会　委員（齊藤和毅），公益社団法人　日本産科婦人科学会, 2023 年 05 月 17 日 - 2026 年 06 月 25 日
4. 保険診療を踏まえた生殖医療リスクマネージメントに関する小委員会：委員（齊藤和毅），公益社団法人　日本産科婦人科学会, 2023 年 06 月 - 2025 年
5. 本邦における多嚢胞性卵巣症候群の治療指針の検証に関する小委員会：委員（齊藤和毅），公益社団法人　日本産科婦人科学会, 2023 年 06 月 - 2025 年

血管代謝探索研究部門

Department of Nutrition and Metabolism in Cardiovascular Disease

江川真希子
我有茉希

(1) 分野概要

本講座は、先進倫理医科学分野に関連する寄附研究部門として設立され、教育 · 研究活動の多くは、大学院医歯学総合研究科先進倫理医科学分野と共同で運営している。
心筋梗塞、脳卒中などの生活習慣病の原因といわれる動脈硬化症の病態解明 · 治療法の開発、また妊娠 · 出産が女性の心血管系に及ぼす影響の解明などを主なテーマとし、国際社会で活躍できる専門的知識 · 能力を持つ優れた研究者や高度専門職業人等の養成の必要性を重視しながら、血管細胞生物学および産科学の立場から研究 · 教育を展開している。

(2) 研究活動

「血管の炎症」と捉えられている動脈硬化の発症には、血管内皮細胞と白血球の相互作用が重要なプロセスである。そこで本講座では血管炎症反応の初期段階に着目し、動脈硬化症発症の新規メカニズム解明を目指している。具体的には動脈硬化巣形成における好中球の役割や好中球活性化の機序解明、ならびに脂肪摂取後におこる急性炎症反応の機序解明などである。これらの解明から新規創薬ターゲットの探索を目指す。
また別の研究として妊娠 · 出産が将来の心血管疾患発症に与える影響について検討を行う。妊娠 · 出産は 10 か月という短期間に劇的な母体循環動態の変化を伴う生理現象であり、正常妊娠 · 出産であってもその生理環境の変化が母体に与える影響は無視できない。現在まで地域住民を対象とした大規模データを利用して、出産回数など出産が産後女性の長期的健康に与える影響、また妊娠合併症発症者の長期予後の解析などを行ってきた。心血管疾患は日本人女性の死因第 2 位を占めており、出産年齢の高年齢化、少子化が進む我が国において、妊娠 · 出産イベントが心血管系へ与える影響を解明、またリスク因子を抽出することで、産後女性の長期的な健康管理に役立てられる情報とすることを目指す。
また新たな課題として、遺伝性疾患である家族性高コレステロール血症（FH）女性のより適切な妊娠 · 出産管理についての検討を行う。FH 女性の妊娠 · 出産においては、心血管系の評価や妊娠期 · 授乳期の LDL 値のコントロール、生まれた子の管理など、検討すべき点が多く、また妊娠負荷が長期健康に与える影響については不明な点も多い。これらを FH 女性の視点も大切にしながら検討を行う。

(3) 教育活動

先進倫理医科学分野所属の大学院博士課程学生 1 名に対する研究全般、学会発表、研究論文作成指導を行い、研究倫理や良識を兼ね備えた世界に通用する研究者の育成に取り組んでいる。

(4) 教育方針

本部門では、心筋梗塞や脳卒中などの生活習慣病の要因となる動脈硬化症や、妊娠 · 出産が女性の心血管系に及ぼす影響の解明などを主な研究テーマとして掲げている。これらの研究を通じて得られた知見を教育に還元し、分子生物学的手法から臨床応用に至るまで一貫した学びを提供することが基本方針である。

(5) 臨床活動および学外活動

本講座スタッフの江川は周産期専門医（母体 · 胎児）、超音波専門医、および臨床遺伝専門医の資格を有する産科医であるが、それらを活かして周産期外来、遺伝外来を担当している。周産期外来では高血圧症や脂質異常症など合併症を有する妊婦管理を中心に診療にあたり、遺伝外来では周産期遺伝外来を専門とし、出生前検査 · 着床前検査また遺伝性疾患を有する女性やその家族の妊娠 · 出産に関する相談などを担当している。学外活動としては、日本人類遺伝学会評議員 · 倫理審議委員会委員、日本遺伝カウンセリング学会倫理問題検討委員会委員、出生前検査認証制度等運営委員会 · 検査精度評価ワーキンググループ構成員、産科医療補償制度原因分析委員会委員、脂質異常症診療ガイド（2023 年版）作成委員として活動をしている。
我有は小児科専門医資格 · 内分泌代謝専門医資格を有し、小児科外来と遺伝外来においては小児遺伝領域を中心に担当している。学外活動としては、日本内分泌学会評議員として活動している。また研究倫理分野でも活動している。

(6) 臨床上の特色

本部門は寄附講座として、周産期医療や遺伝医療の専門知識を有するスタッフが在籍し、妊娠期の高血圧症や脂質異常症などの合併症を有する妊婦の管理や、出生前検査 · 着床前検査の相談にも対応できる臨床体制を整えているのが大きな特徴である。家族性高コレステロール血症（FH）の女性に対する妊娠 · 出産管理をはじめ、妊娠合併症や産後女性の長期的な心血管リスク評価に関する研究と連動した診療を実践している。
また、小児科領域の専門医も携わっており、小児の遺伝性疾患の包括的ケアを行うことで、母胎から小児まで一貫した医療提供を可能にしている点も強みである。

(7) 研究業績

[原著]

1. Eriko Adachi, Ryuichi Nakagawa, Atsumi Tsuji-Hosokawa, Maki Gau, Shizuka Kirino, Analia Yogi, Hisae Nakatani, Kei Takasawa, Tomomi Yamaguchi, Tomoki Kosho, Masanori Murakami, Toshihiro Tajima, Tomonobu Hasegawa, Tetsuya Yamada, Tomohiro Morio, Osamu Ohara, Kenichi Kashimada. A MinION-based Long-Read Sequencing Application With One-Step PCR for the Genetic Diagnosis of 21-Hydroxylase Deficiency. J Clin Endocrinol Metab. 2024.02; 109(3); 750-760

2. Egawa M, Ikeda M, Miyasaka N, Harada-Shiba M, Yoshida M. Physicians' Perspective Toward Hypertensive Disorders of Pregnancy and Future Cardiovascular Diseases in Japan. Journal of atherosclerosis and thrombosis. 2024.02;

1. 京井 奈美, 江川 真希子, 不殿 絢子, 高嶺 恵理子, 岡田 英理子, 鹿島田 彩子, 山田 崇弘, 吉田 雅幸. 臨床研修医に対する遺伝医療教育の実態調査とよりよい教育のための提案 日本遺伝カウンセリング学会誌. 2024.06; 45(1); 1-11

2. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例 （一社）関東連合産科婦人科学会誌. 2024.05;

3. 福本 純子, 江川 真希子, 池田 まさみ, 吉田 雅幸. 乳がんを契機に遺伝性乳癌卵巣癌と診断された女性がリスク低減卵管卵巣摘出術を選択するまでの心理的過程に関する質的調査 日本遺伝カウンセリング学会誌. 2024.04; 44(4); 311-321

4. 佐藤 梨花子, 高尾 茉希, 大島 乃里子, 郡 悠介, 尾臺 珠美, 若葉 公雄, 宮坂 尚幸, 江川 真希子. 若年子宮体癌術後に消化管過誤腫性ポリポーシスを認め,Cowden 症候群と診断された 1 例 東京産科婦人科学会会誌. 2024.01; 73(1); 56-62

[書籍等出版物]

1. 江川真希子. コアカリ準拠　臨床遺伝学　テキストノート（改訂第２版）. 診断と治療社, 2024.12 (ISBN : 978-4-7878-2660-2)

[総説]

1. 江川真希子 · 山田崇弘. 周産期医療の倫理（保因者検査含む）「全ゲノム · エクソーム解析時代の遺伝医療、ゲノム医療における倫理 · 法 · 社会」. 2024.11; 140-146

[講演 · 口頭発表等]

1. Fumika Morokuma, Makiko Egawa, Masakazu Nishigaki, Haruka Hamanoue, Hideaki Masuzaki, Kiyonori Miura, Tomoko Kobahashi, Masayuki Yoshida. Effectiveness and usability of ‘Ninshiru.jp’, a website about pregnancy, childbirth, and prenatal testing. 日本人類遺伝学会第 69 回大会 2024.10.11 札幌市
2. Makiko Egawa, Kinya Ishikawa, Eriko Takamine, Sayako Takahashi, Mariko Komine, Hiroko Kohbata, Taro Ishiguro, Maki Gau, Yusuke Ebana, Masayuki Yoshida. Predictive genetic testing for late-onset, inherited neurological diseases: a case series of 40 clients. 日本人類遺伝学会第 69 回大会 2024.10.10 札幌市

1. 江川真希子. シンポジウム 3 出生前領域におけるマイクロアレイの進歩と問題点. 第 10 回 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会 2024.12.14 東京
2. 江川真希子. 一歩進んだ出生前遺伝学的検査（単一遺伝子疾患 · マイクロアレイ · NGS の活用とその注意点）. 第 10 回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会　周産期講義（７）　2024.12.13 東京
3. 野口優輔, 遠藤健太郎, 安齋達彦, 鎌谷高志, 森丘千夏子, 早田茉莉, 我有茉希, 安達恵利子, 杉江学, 滝敦子, 伊藤一之, 本多泉, 黒田淳平, 岡崎薫, 高橋邦彦, 関矢一郎, 森尾友宏, 鹿島田健一. 胎児発育不全による胎児プログラミングは時期特異性をもつ. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川
4. 折本竜太, 安達恵利子, 桐野玄, 我有茉希, 鹿島田健一, 高澤啓. 成長障害を契機に診断に至ったヒアルロニダーゼ 2 欠損症の一例. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10 神奈川
5. 江川真希子. 家族性高コレステロール血症女性の周産期管理における問題点　～産科医の立場から～. 日本動脈硬化学会学術委員会　WEB 講演会 2024.09.17 東京
6. 江川真希子. 遺伝医学における倫理. 遺伝医学セミナー 2024.09 WEB
7. 江川真希子. メディカルスタッフセッション「FH 女性の妊娠 · 授乳期における薬物療法の実際と課題」. 第 56 回日本動脈硬化学会総会 · 学術集会 2024.07.07
8. 江川真希子. 家族性高コレステロール血症女性の妊娠に対する専門医への意識調査. 第 56 回日本動脈硬化学会総会 · 学術集会 2024.07.06 神戸
9. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例. 第 147 回関東連合産科婦人科学会総会 · 学術集会 2024.06.15 東京
10. 桐野玄, 中川竜一, 高澤啓, 我有茉希, 鹿島田健一.. 機能活性をもつエンハンサーの塩基配列解析は性腺発生における新規転写制御機構を明らかにする. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川
11. 野口優輔, 遠藤健太郎, 安齋達彦, 鎌谷高志, 我有茉希, 安達恵利子, 杉江学, 森丘千夏子, 滝敦子, 本多泉, 黒田淳平, 岡崎薫, 高橋邦彦, 関矢一郎, 森尾友宏, 鹿島田健一. 胎児発育不全による胎児プログラミングは時期特異性がある.. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.07 神奈川
12. 我有茉希, 家村綾正, 山野春樹, 高澤啓, 吉田雅幸, 鹿島田健一. 新生児期副腎不全を呈した自験例から振り返る Xp21 欠失症候群の多様な表現型. 第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024.06.06 神奈川
13. 江川 真希子. FH 女性の妊娠 · 授乳期における薬物療法の実際と課題. 日本動脈硬化学会総会プログラム · 抄録集 2024.06.01
14. 江川 真希子, 多田 隼人, 斯波 真理子, 吉田 雅幸. 家族性高コレステロール血症女性の妊娠に対する専門医への意識調査. 日本動脈硬化学会総会プログラム · 抄録集 2024.06.01
15. 江川真希子. シンポジウム妊娠中のスタチン使用について語り合いましょう　「FH 女性の妊娠管理における産科医の課題」. 日本産科婦人科学会と日本動脈硬化学会合同シンポジウム 2024.05.22 東京
16. 熊澤 栞, 高知 祐輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 廣瀬 明日香, 関口 将軌, 江川 真希子, 宮坂 尚幸. 妊娠高血圧腎症を発症した甲状腺ホルモン不応症合併妊娠の 1 例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.05.01
17. 家村綾正, 我有茉希, 山野春樹, 高澤啓, 鹿島田健一. Xp21 欠失症候群の多様な臨床像. 第 31 回日本ステロイドホルモン学会学術集会 2024.03.09 東京

[社会貢献活動]

1. 産科医療補償制度　原因分析委員会 (江川真希子), 日本医療機能評価機構, 2018 年 04 月 01 日 - 現在

消化器連携医療学講座

Department of Collaborative Medicine for Gastroenterology and Hepatology (CMGH)

准教授：藤井俊光
講師：竹中健人

(1) 分野概要

本講座は東京医科歯科大学附属病院における消化器内科領域の医療の充実と茨城県などの地域医療を支える消化器内科医の養成や確保を目的に開設された。地域医療では慢性的な医師不足により、消化器内科診療の担い手が不足している。本講座は、消化器病態学分野と共同して、土浦協同病院をはじめとする関連病院との間に構築されてきた情報共有システムと教育研修支援システムによる連携を強化し、双方向の交流を通じて地域医療の向上を目指すものである。

(2) 研究活動

· 生活習慣病に関連する肝疾患についての臨床研究
· 肝胆膵領域における最適化治療の確立
· クローン病小腸病変の評価および治療法の開発
· 人工知能による消化器診療支援技術の開発

(3) 教育活動

消化器病態学分野と共同して、医学部医学科学生、初期研修医、ならびに後期研修医の教育に関与している。また、大学院生への専門知識や技術の教育も行っている。

(4) 教育方針

本講座は、消化器疾患や肝臓疾患に関する優れた臨床医を育成することが大学院の教育目的である。大学院生の教育は医師としてだけではなく、指導医としても十分な知識や技術を取得する目的としている。

(5) 臨床活動および学外活動

消化器病態学分野と共同して、主に消化器内科疾患の外来 · 入院診療を行っている。また、消化器病態学分野と共に土浦協同病院をはじめとした多数の他施設共同研究を行っており、AI 研究においては、東京医科歯科大学の包括連携プログラムを活用し、産学共同研究を行っている。

(6) 臨床上の特色

消化器内科分野と共同して消化器内科領域の診療にあたっている。専門外来として、「肝炎 · 肝癌撲滅外来」や「IBD 外来」を開設し、肝臓疾患や炎症性腸疾患の診療を行っている。ウイルス肝炎に対しては、他施設共同研究として 2000 例以上の症例数をもつ我が国有数の「御茶ノ水 liver カンファレンス共同研究」を行うなど、豊富な治療経験を持っている。また、肝癌診療においては、造影超音波や Real-time virtual sonography を用いて安全で確実なラジオ波熱凝固療法を行っており、その有効性についても報告してきた。また小腸内視鏡検査は世界でもトップクラスの件数を行っており、それを用いたクローン病の病勢評価や狭窄の治療などの有効性を報告してきた。

(7) 研究業績

[原著]

1. Kento Takenaka, Tadakazu Hisamatsu, Taku Kobayashi, Hironori Yamamoto, Naoki Ohmiya, Ryohei Hayashi, Katsuyoshi Matsuoka, Masayuki Saruta, Akira Andoh, Norimasa Fukata, Kenji Watanabe, Hiroyuki Imaeda, Fumihito Hirai, Takayuki Matsumoto, Akihiro Hirakawa, Tomonori Yano, Minoru Matsuura, Ryuichi Okamoto, Kazuo Ohtsuka, Mamoru Watanabe. Inadequate Efficacy of Biologics for Treating Proximal Ileal Lesions in Crohn's Disease; A Prospective Multicenter Study. Clin Gastroenterol Hepatol. 2024.12; Online ahead of print;

2. Shimizu H, Aonuma Y, Hibiya S, Kawamoto A, Takenaka K, Fujii T, Saito E, Nagahori M, Ohtsuka K, Okamoto R. Long-term efficacy and safety of tofacitinib in patients with ulcerative colitis: 3-year results from a real-world study. Intestinal research. 2024.07;

3. Taku Kobayashi, Kei Moriya, Toshimitsu Fujii, Shigeki Bamba, Shinichiro Shinzaki, Akihiro Yamada, Takashi Hisabe, Shintaro Sagami, Shuji Hibiya, Takahiro Amano, Noritaka Takatsu, Katsutoshi Inagaki, Ken-Ichi Iwayama, Toshifumi Hibi. Early resolution of bowel urgency by budesonide foam enema results in improved quality of life in patients with ulcerative colitis: a multicenter prospective observational study. Intest Res. 2024.07; Online ahead of print;

4. Tatsuya Suzuki, Yuka Hayakawa, Shun Kaneko, Kento Takenaka, Keiya Watakabe, Yuko Kinowaki, Akira Takemoto, Kazuo Ohtsuka, Yasuhiro Asahina, Ryuichi Okamoto. Granulomatous hepatitis with Crohn's disease: a case report. Clin J Gastroenterol. 2024.06; 17(3); 551-556

5. Shintaro Akiyama, Kaoru Yokoyama, Soichi Yagi, Shinichiro Shinzaki, Kozo Tsuruta, Shinichiro Yoshioka, Minako Sako, Hiromichi Shimizu, Mariko Kobayashi, Toshiyuki Sakurai, Kei Nomura, Tomoyoshi Shibuya, Masahiro Takahara, Sakiko Hiraoka, Kyohei Sugai, Shunichi Yanai, Atsushi Yoshida, Miki Koroku, Teppei Omori, Masayuki Saruta, Takayuki Matsumoto, Ryuichi Okamoto, Kiichiro Tsuchiya, Toshimitsu Fujii. Efficacy and safety of filgotinib for ulcerative colitis: A real-world multicenter retrospective study in Japan. Aliment Pharmacol Ther. 2024.06; 59(11); 1413-1424

6. Motoki Makuuchi, Yoichi Kakuta, Junji Umeno, Toshimitsu Fujii, Tetsuya Takagawa, Takashi Ibuka, Miki Miura, Yu Sasaki, Sakuma Takahashi, Hiroshi Nakase, Hiroki Kiyohara, Keiichi Tominaga, Yosuke Shimodaira, Sakiko Hiraoka, Nobuhiro Ueno, Shunichi Yanai, Takeo Yoshihara, Kazuki Kakimoto, Katsuyoshi Matsuoka, Ryohei Hayashi, Sohachi Nanjo, Itaru Iwama, Yoh Ishiguro, Hirofumi Chiba, Katsuya Endo, Takashi Kagaya, Tomohiro Fukuda, Yasuhisa Sakata, Takahiro Kudo, Tomohisa Takagi, Kenichi Takahashi, Makoto Naganuma, Masaru Shinozaki, Noriyuki Ogata, Hiroki Tanaka, Kazuyuki Narimatsu, Haruka Miyazaki, Takashi Ishige, Motoyuki Onodera, Yu Hashimoto, Hiroshi Nagai, Yusuke Shimoyama, Takeo Naito, Rintaro Moroi, Hisashi Shiga, , Yoshitaka Kinouchi, Akira Andoh, Tadakazu Hisamatsu, Atsushi Masamune. Real-world NUDT15 genotyping and thiopurine treatment optimization in inflammatory bowel disease: a multicenter study. J Gastroenterol. 2024.06; 59(6); 468-482

7. Marc Ferrante, Peter M Irving, Maria T Abreu, Jeffrey Axler, Xiang Gao, Qian Cao, Toshimitsu Fujii, Astrid Rausch, Joana Torres, Ezequiel Neimark, Alexandra Song, Kori Wallace, Kristina Kligys, Sofie Berg, Xiaomei Liao, Qing Zhou, Jasmina Kalabic, Brian Feagan, Remo Panaccione. Maintenance Risankizumab Sustains Induction Response in Patients with Crohn's Disease in a Randomized Phase 3 Trial. J Crohns Colitis. 2024.03; 18(3); 416-423

8. Ami Kawamoto, Kento Takenaka, Shuji Hibiya, Yoshio Kitazume, Hiromichi Shimizu, Toshimitsu Fujii, Eiko Saito, Kazuo Ohtsuka, Ryuichi Okamoto. Combination of leucine-rich alpha-2 glycoprotein and fecal markers detect Crohn's disease activity confirmed by balloon-assisted enteroscopy. Intest Res. 2024.01; 22(1); 65-74

9. Xiang Gao, Toshimitsu Fujii, Byong Duk Ye, Jen-Wei Chou, Ken Sugimoto, Qian Cao, Kristina Kligys, Kaoru Murakoshi, Dennis Teng, Yafei Zhang, Hiroshi Nakase. Efficacy and safety of risankizumab for Crohn's disease in patients from Asian countries: a post hoc subanalysis of the global phase 3 ADVANCE, MOTIVATE, and FORTIFY studies. J Gastroenterol Hepatol. 2024.01; 39(1); 55-65

[総説]

1. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 小腸疾患に対する最新の内視鏡臨床、バルーン内視鏡を用いたクローン病モニタリング 臨牀消化器内科. 2024.11; 39(12); 1529-1536

2. 竹中 健人. 特集：炎症性腸疾患_内視鏡による評価 · 診断 · 治療 Medical Practice. 2024.11; 41(11); 1686-1689

3. 大塚 和朗, 小形 典之, 竹中 健人. 【大腸の炎症を内視鏡で診る】潰瘍性大腸炎の内視鏡診療 AI を用いた潰瘍性大腸炎の内視鏡画像評価 消化器内視鏡. 2024.11; 36(11); 1523-1525

4. 前田 康晴, 工藤 進英, 小形 典之, 高林 馨, 竹中 健人, 小原 淳, 黒木 貴典, 瀧島 和美, 小川 悠史, 若村 邦彦, 林 武雅, 馬場 俊之, 根本 哲生, 緒方 晴彦, 大塚 和朗, 三澤 将史. 【炎症性腸疾患 2024】炎症性腸疾患診断 · 活動性評価における新たな取り組み AI の応用 胃と腸. 2024.10; 59(10); 1581-1585

5. 松本 主之, 久松 理一, 江崎 幹宏, 大森 鉄平, 櫻庭 裕丈, 新崎 信一郎, 杉本 健, 竹中 健人, 長沼 誠, 馬場 重樹, 久部 高司, 平岡 佐規子, 藤谷 幹浩, 松浦 稔, 梁井 俊一, 渡辺 憲治, 緒方 晴彦, 安藤 朗, 仲瀬 裕志, 大塚 和朗, 平井 郁仁, 藤城 光弘, 五十嵐 良典, 田中 信治, 日本消化器内視鏡学会, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 (久松班). 炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン Gastroenterological Endoscopy. 2024.06; 66(6); 1387-1426

[講演 · 口頭発表等]

1. Ami Kawamoto, Toshimitsu Fujii, Ryuichi Okamoto. Serum leucine-rich alpha-2 glycoprotein is an accurate marker for endoscopic and histological healing in ulcerative colitis. JDDW2024 2024.11.01 Kobe_Japan

2. Shuji Hibiya, Kento Takenaka, Ryuichi Okamoto. Comparison of the efficacy of biologics for intestinal stricture in Crohn's disease. The 107th Congress of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society 2024.05.31 Tokyo_Japan

3. Ami Kawamoto, Kento Takenaka, Ryuichi Okamoto. Efficacy of biomarkers in predicting prognosis of Crohn's disease patients with small bowel disease. The 107th Congress of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society 2024.05.30 Tokyo_Japan

4. K Matsuoka, S Motoya, T Yamamoto, M Matsuura, T Fujii, S Shinzaki, Y Mikami, S Arai, J Oshima, Y Endo, H Yuasa, M Hoshi, K Sato, T Hisamatsu. Post-marketing surveillance of tofacitinib in patients with ulcerative colitis in Japan: a final report of safety and effectiveness data. DDW2024 2024.05.19 Walter E. Washington Convention Center_ Washington, D.C.

5. Hiroshi Nakase, Toshimitsu Fujii, Tadakazu Hisamatsu, Yasuo Suzuki, Mamoru Watanabe, Yoko Uchikawa, Shoichiro Goto, Go Fujimoto, Changliang Zhang, Toshifumi Hibi. Ozanimod as induction and maintenance therapy for ulcerative colitis: a randomized, double-blind, placebo-controlled study in Japan (J-True North). DDW2024 2024.05.19 Walter E. Washington Convention Center_ Washington, D.C.

6. Katsuyoshi Matsuoka, Satoshi Motoya, Takayuki Yamamoto, Minoru Matsuura, Toshimitsu Fujii, Shinichiro Shinzaki, Yohei Mikami, Shoko Arai, Junichi Oshima, Yutaka Endo, Hirotoshi Yuasa, Masato Hoshi, Keiko Sato, Tadakazu Hisamatsu. Post-marketing surveillance of tofacitinib in patients with ulcerative colitis in Japan: a final report of effectiveness and safety data. 19th Congress of ECCO 2024.02.23 Stockholmsmässan_Stockholm

7. N.Takatsu, T.Yamamoto, H.Nakase, S.Shinzaki, K.Watanabe, T.Fujii, R.Okamoto, K.Matsuoka, A.Yamada, R.Kunisaki, M.Matsuura, H.Shiga, S.Bamba, Y.Mikami, T.Shimoyama, S.Motoya, T.Torisu, T.Kobayashi, N.Ohmiya, M.Saruta, S.Yoshigoe, Y.Murata, T.Hisamatsu. Clinical features and surgical necessity rate of fistulisingperianal disease in newly diagnosed patients with Crohn's disease: Interim analysis of inception cohort registry study of patients with Crohn's disease (iCREST-CD). 19th Congress of ECCO 2024.02.23 Stockholmsmässan_Stockholm

8. Katsuyoshi Matsuoka, Hiroshi Nakase, Toshimitsu Fujii, Tadakazu Hisamatsu, Yasuo Suzuki, Mamoru Watanabe, Yoko Uchikawa, Shoichiro Goto, Go Fujimoto, Changliang Zhang, Toshifumi Hibi. Ozanimod as a once-daily oral therapy for Japanese patients with ulcerative colitis: results from the induction period of a phase 2/3 study (J-True North). 19th Congress of ECCO 2024.02.23 Stockholmsmässan_Stockholm

1. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病の治療後の内視鏡評価目標. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.24 シェーンバッハ · サボー
2. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病に対する生物学的製剤治療後の内視鏡評価目標. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー
3. 秋元 賢介, 田村 皓子, 竹中 健人, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 清水 寛路, 藤井 俊光, 小林 正典, 金子 俊, 村川 美也子, 福田 将義, 朝比奈 靖浩, 大塚 和朗, 加藤 祐己, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎の定期大腸内視鏡検査で回腸結腸に多発潰瘍を認めた一例. 第 119 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.12.14 シェーンバッハ · サボー
4. 竹中 健人, 杉本 真也. 一般演題 12（口演）_座長. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京マリオットホテル
5. 田村 皓子, 清水 寛路, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 藤井 俊光, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対するトファシチニブとウパダシチニブの有効性および安全性の比較検討. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.16 東京マリオットホテル
6. 桂田 武彦, 藤井 俊光. 一般演題 2（口演）_座長. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.15 東京マリオットホテル
7. 森川 亮, 藤井 俊光, 田村 皓子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 大塚 和朗, 岡本 隆一. ウステキヌマブとリサンキズマブのクローン病に対する有効性及び安全性の検討. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.15 東京マリオットホテル
8. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 清水 寛路, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. カロテグラストの潰瘍性大腸炎に対する短期中期有効性と biologics との dual therapy. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2024.11.15 東京マリオットホテル
9. 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病の治療後の内視鏡評価目標. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター
10. 森川 亮, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. risankizumab のクローン病に対する短期/長期有効性及び安全性のリアルワールドデータを用いた検討. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター
11. 藤井 俊光. デジタルポスターセッション消 025「大腸（潰瘍性大腸炎）5」_座長. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター
12. 田村 皓子, 清水 寛路, 藤井 俊光, 小林 桜子, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対する JAK 阻害剤 3 剤の有効性，安全性比較. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター
13. 藤井 俊光, 仲瀬 裕志, 久松 理一, 松岡 克善, 猿田 雅之, 内川 葉子, 藤本 豪, 張 長亮, 鳥山 和宏, 日比 紀文. 日本人潰瘍性大腸炎患者に対するオザニモド の 1 日 1 回投与による寛解導入および維持療法：第 2/3 相試験（J-True North）における生物学的製剤治療歴の有無によるサブグループ解析. JDDW2024 2024.10.31 神戸コンベンションセンター
14. 竹中 健人, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病狭窄性病変に対する効果. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー
15. 根本 淳子, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 河本 亜美, 村川 美也子, 福田 将義, 金子 俊, 小林 正典, 大塚 和朗, 朝比奈 靖浩, 奥野 圭祐, 山本 浩平, 加藤 祐己, 國枝 純子, 明石 巧, 岡本 隆一. 治療終了 10 年後に再発した転移性小腸腫瘍の一例. 第 118 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 2024.06.15 シェーンバッハ · サボー
16. 竹中 健人. ハンズオンセミナー 3 ダブルバルーン内視鏡. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会 2024.05.31 グランドプリンスホテル新高輪, 国際館パミール
17. 田村 皓子, 清水 寛路, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対するトファシチニブとウパダシチニブの有効性，安全性比較. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま
18. 田中 将平, 藤井 俊光, 山崎 雄大, 鈴木 圭人, 内原 直樹, 田中 雄紀, 宮本 遥, 山田 倫子, 慶徳 大誠, 岡田 理沙, 樋口 麻友, 高浦 健太, 前屋舗 千明, 玉城 信治, 安井 豊, 高橋 有香, 土谷 薫, 中西 裕之, 黒崎 雅之, 泉 並木. 潰瘍性大腸炎の寛解維持療法における 5-ASA 製剤の減量と再燃リスクの検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

19. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎に対するカロテグラストの Real-World Experience と難治例における biologics との dual therapy の試み. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

20. 前屋舗 千明, 内原 直樹, 鈴木 圭人, 田中 雄紀, 宮本 遥, 山田 倫子, 慶徳 大誠, 岡田 理沙, 樋口 麻友, 高浦 健太, 田中 将平, 玉城 信治, 安井 豊, 藤井 俊光, 土谷 薫, 中西 裕之, 黒崎 雅之, 泉 並木. Crohn 病の病勢および Transmural healing を反映するマーカーの検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10 アスティとくしま

21. 日比谷 秀爾, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 森川 亮, 河本 亜美, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 潰瘍性大腸炎患者における 5-ASA 不耐症の臨床検査所見の検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.10

22. 竹中 健人. 臨床研究助成成果報告 2. クローン病に対する生物学的製剤による小腸粘膜治癒検討（SEBIO study）. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 アスティとくしま

23. 河本 亜美, 竹中 健人, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病の腸管狭窄に対する生物学的製剤の影響の比較. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 アスティとくしま

24. 森川 亮, 藤井 俊光, 田村 皓子, 小林 桜子, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 竹中 健人, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. risankizumab のクローン病に対する有効性及び安全性のリアルワールドデータに基づく検討. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09 徳島文理大学 むらさきホール

25. 藤井 俊光, 佐藤 真弘, 新山 勇人, 仲瀬 裕志. 中等症から重症の活動性クローン病の東アジア人患者における寛解導入療法試験のウパダシチニブの効果と安全性. 第 110 回日本消化器病学会総会 2024.05.09

26. 竹中 健人, 清水 寛路, 田村 皓子, 森川 亮, 河本 亜美, 日比谷 秀爾, 大塚 和朗, 藤井 俊光, 岡本 隆一. 生物学的製剤によるクローン病の狭窄の変化. 日本消化器病学会関東支部第 379 回例会 2024.04.27 海運クラブ

27. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎に対するカロテグラストと biologics の dual therapy の試み. 日本消化器病学会関東支部 第 379 回例会 2024.04.27 海運クラブ

28. 藤井俊光. クローン病診療と新たなエビデンス. 日本消化器病学会関東支部 第 379 回例会 2024.04.27 海運クラブ

29. 藤井 俊光, 日比谷 秀爾, 河本 亜美, 田村 皓子, 森川 亮, 小林 桜子, 清水 寛路, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 大塚 和朗, 岡本 隆一. 難治性潰瘍性大腸炎におけるカロテグラストと biologics の dual therapy. 第 20 回日本消化管学会総会学術集会 2024.02.10 沖縄コンベンションセンター

30. 田村 皓子, 河本 亜美, 竹中 健人, 小林 桜子, 森川 亮, 日比谷 秀爾, 清水 寛路, 藤井 俊光, 齊藤 詠子, 長堀 正和, 大塚 和朗, 岡本 隆一. クローン病の小腸病変モニタリングにおけるバイオマーカーの有用性. 第 20 回日本消化管学会総会学術集会 2024.02.09 沖縄コンベンションセンター

[社会貢献活動]

1. 亜細亜大学 · 田中幹也さんの病状と治療について, TBS, 速報！ ドラフト会議２０２１ The 運命の 1 日, 2022 年 09 月 30 日 - 現在

小児地域成育医療学講座

Department of Child Health and Development

教授 金兼弘和
講師 星野顕宏

(1) 分野概要

急性疾患の医療 · 小児保健を想定した「小児医療」に加え、慢性期への移行 · 難治性疾患患者の長期的診療 · 小児の健全な成育を包括する医療である「成育医療」をその基本理念とし、首都圏郊外中核都市における地域医療に密着した成育医療システムの確立、および次世代医療に対応する小児科医の人材育成を目的としている。

(2) 研究活動

東京都にあり高度専門医療を行う東京医科歯科大学と、小児人口の多い柏市の中核病院である柏市立柏病院の有機的連携を基盤として、調査研究と教育を実施していく。

現在の主なテーマは
1. 柏市における小児医療体制の構築
2. EB ウイルスに易感染性を示す免疫不全症の研究
3. 抗体産生不全症の研究

(3) 教育活動

大学病院における後期臨床研修医に対して、小児科専門医取得のためのより専門的な臨床教育を幅広く行う。

(4) 教育方針

主に小児科後期研修医〜小児科専門医取得後 2-3 年までの医師を主たる教育対象とし、小児慢性疾患、難病の医療に精通し、次世代成育医療を担う医師を育成することも目標としている。

(5) 臨床活動および学外活動

大学病院においては原発性免疫不全症、血液悪性腫瘍、非悪性血液疾患、悪性固形腫瘍、小児リウマチ性疾患の診断および治療を提供している。
柏市立柏病院においては急性期疾患を中心に小児医療を提供し、近郊の医療施設との病診連携を行い、地域住民にとって信頼できる小児医療体制の構築を目指している。

(6) 臨床上の特色

大学病院においては原発性免疫不全症や血液腫瘍疾患の診断 · 治療。病態解析を行い、難治疾患に対しては造血細胞移植を行っている。特に原発性免疫不全症はわが国で最多の患者を診療している。

(7) 研究業績

[原著]

1. Inoue K, Tomomasa D, Nakagama Y, Takeuchi H, Tanaka Y, Tanimoto K, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Tanaka K, Yoshifuji K, Miwa Y, Ohnishi H, Okada S, Mori T, Yasuda S, Kido Y, Morio T, Kanegane H. Real-world experience of tixagevimab/cilgavimab prophylaxis in Japanese patients with immunodeficiency. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy. 2024.12; 31(2); 102577

2. Hitoshi Irabu, Shuya Kaneko, Futaba Miyaoka, Dan Tomomasa, Asami Shimbo, Akira Nishimura, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Hirokazu Kanegane, Masaki Shimizu. Yang and Ying of ruxolitinib administration for macrophage activation syndrome complicated by systemic juvenile idiopathic arthritis. Rheumatology (Oxford). 2024.12;

3. Shiro Beppu, Takuro Nishikawa, Dan Tomomasa, Atsushi Hijikata, Hiroshi Kasabata, Hideyuki Terazono, Kazuro Ikawa, Tatsuro Nakamura, Shogo Horikawa, Jun Nagahama, Aki Nakamura, Takanari Abematsu, Shunsuke Nakagawa, Kaoru Oketani, Hirokazu Kanegane, Yasuhiro Okamoto. Perspectives in newborn screening for SCID in Japan. Case report: newborn screening identified X-linked severe combined immunodeficiency with a novel IL2RG variant Front Immunol. 2024.11; 15; 1478411

4. Yuri Suzuki, Ryosei Iemura, Akito Sutani, Yuki Mizuno, Eriko Adachi, Mineko Ushiama, Teruhiko Yoshida, Makoto Hirata, Akihiro Hoshino, Kurara Yamomoto, Takumi Akashi, Yoshiko Nakano, Takeshi Isoda, Kei Takasawa, Motohiro Kato, Masatoshi Takagi, Kentaro Okamoto, Tomohiro Morio, Kenichi Kashimada. Familial and early recurrent pheochromocytoma in a child with a novel in-frame duplication variant of VHL. Clin Pediatr Endocrinol. 2024.10; 33(4); 229-237

5. Hirofumi Shibata, Daisuke Nakajima, Ryo Konno, Atsushi Hijikata, Motoko Higashiguchi, Hiroshi Nihira, Saeko Shimodera, Takayuki Miyamoto, Masahiko Nishitani-Isa, Eitaro Hiejima, Kazushi Izawa, Junko Takita, Toshio Heike, Ken Okamura, Hidenori Ohnishi, Masataka Ishimura, Satoshi Okada, Motoi Yamashita, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane, Kohsuke Imai, Yasuko Nakamura, Shigeaki Nonoyama, Toru Uchiyama, Masafumi Onodera, Ryuta Nishikomori, Osamu Ohara, Yusuke Kawashima, Takahiro Yasumi. A Non-targeted Proteomics Newborn Screening Platform for Inborn Errors of Immunity. J Clin Immunol. 2024.10; 45(1); 33

6. Dan Tomomasa, Tasuku Suzuki, Ichiro Takeuchi, Kimitoshi Goto, Shin-Ichiro Hagiwara, Dai Keino, Satoshi Saida, Takashi Ishige, Takahiro Kudo, Katsuhide Eguchi, Masataka Ishimura, Yusuke Matsuda, Taizo Wada, Yoshiya Ito, Motohiro Kato, Yoji Sasahara, Tomohiro Morio, Katsuhiro Arai, Holm H Uhlig, Hirokazu Kanegane. Successful Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Patients with IL10RA Deficiency in Japan. J Clin Immunol. 2024.09; 45(1); 6

7. Dan Tomomasa, Kay Tanita, Yuriko Hiruma, Akihiro Hoshino, Ko Kudo, Shohei Azumi, Mitsutaka Shiota, Masayoshi Yamaoka, Katsuhide Eguchi, Masataka Ishimura, Yuka Tanaka, Keiji Iwatsuki, Keisuke Okuno, Asahito Hama, Ken-Ichi Sakamoto, Takashi Taga, Kimitoshi Goto, Haruka Ota, Akihiro Ichiki, Kaori Kanda, Takako Miyamura, Saori Endo, Hidenori Ohnishi, Yoji Sasahara, Ayako Arai, Benjamin Fornier, Ken-Ichi Imadome, Tomohiro Morio, Sylvain Latour, Hirokazu Kanegane. Highly sensitive detection of Epstein-Barr virus-infected cells by EBER flow FISH. Int J Hematol. 2024.08; 120(2); 241-251

8. Kanegane, H., Miyamoto, S., Nishimura, A., Yoshida, N. Cord Blood Transplantation for Nonmalignant Diseases Comprehensive Hematology and Stem Cell Research. 2024.08; 4; 84-93

9. Takahiro Tomoda, Akira Nishimura, Takahiro Kamiya, Kumi Inoue, Harutaka Katano, Shun Iida, Akihiro Hoshino, Takeshi Isoda, Kohsuke Imai, Michiko Kajiwara, Masatoshi Takagi, Hirokazu Kanegane, Nozomu Hanaoka, Tomohiro Morio. Immune reconstitution and cidofovir administration rescue human adenovirus hepatitis after allogeneic hematopoietic cell transplantation. Transpl Immunol. 2024.07; 102093

10. Toru Kanamori, Tomohiro Udagawa, Takayuki Fujii, Hiroyoshi Matsukura, Yuka Iwaya, Motoshi Sonoda, Keisuke Sugimoto, Masahiro Takeguchi, Atsunori Yoshino, I-Feng Wang, Daw-Yang Hwang, Harry W Schroeder, Masaki Shimizu, Hans D Ochs, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Discordant Phenotypes of Nephritis in Patients with X-linked Agammaglobulinemia. J Clin Immunol. 2024.07; 44(7); 164

11. Takanori Utsumi, Miyuki Tsumura, Masato Yashiro, Zenichiro Kato, Kosuke Noma, Fumiaki Sakura, Reiko Kagawa, Yoko Mizoguchi, Shuhei Karakawa, Hidenori Ohnishi, Charlotte Cunningham-Rundles, Peter D Arkwright, Masao Kobayashi, Hirokazu Kanegane, Dusan Bogunovic, Bertrand Boisson, Jean-Laurent Casanova, Takaki Asano, Satoshi Okada. Exclusive Characteristics of the p.E555K Dominant-Negative Variant in Autosomal Dominant E47 Deficiency. J Clin Immunol. 2024.07; 44(7); 167

12. Hoshino A, Picard BH, Polychronopoulou S, Kelaidi C, Azarnoush S, Kracker S, Rieux-Laucat F, Boutboul D, Latour S. Loss-of-phosphorylation of IKZF1 results in gain-of-function associated with immune dysregulation J Allergy Clin Immunol. 2024.07; 154(1); 229-236

13. Tanja C Vallée, Jannik S Glasmacher, Hannes Buchner, Peter D Arkwright, Uta Behrends, Anastasia Bondarenko, Michael J Browning, David Buchbinder, Alessandro Cattoni, Liudmyla Chernyshova, Peter Ciznar, Theresa Cole, Wojciech Czogała, Gregor Dueckers, John David M Edgar, Fatih Erbey, Anders Fasth, Francesca Ferrua, Renata Formankova, Eleonora Gambineri, Andrew R Gennery, Frederick D Goldman, Luis I Gonzalez-Granado, Carsten Heilmann, Tarja Heiskanen-Kosma, Hanna Juntti, Leena Kainulainen, Hirokazu Kanegane, Neslihan E Karaca, Sara S Kilic, Christoph Klein, Sylwia Kołtan, Irina Kondratenko, Isabelle Meyts, Gulnara M Nasrullayeva, Lucia D Notarangelo, Srdjan Pasic, Isabelle Pellier, Claudio Pignata, Siraj Misbah, Ansgar Schulz, Gesmar R Segundo, Anna Shcherbina, Mary Slatter, Robert Sokolic, Pere Soler-Palacin, Polina Stepensky, Joris M van Montfrans, Samppa Ryhänen, Beata Wolska-Kuśnierz, John B Ziegler, Xiaodong Zhao, Alessandro Aiuti, Hans D Ochs, Michael H Albert. Wiskott-Aldrich syndrome: a study of 577 patients defines the genotype as a biomarker for disease severity and survival. Blood. 2024.06; 143(24); 2504-2516

14. Sho Hashiguchi, Dan Tomomasa, Takuro Nishikawa, Shuji Ishikawa, Harumi Akaike, Hidehiko Kobae, Tsuyoshi Shirai, Toshikage Nagao, Kosuke Noma, Satoshi Okada, Kazuhiro Kamuro, Yasuhiro Okamoto, Hirokazu Kanegane. 18q Deletion Syndrome Presenting with Late-Onset Combined Immunodeficiency. J Clin Immunol. 2024.06; 44(7); 154

15. Rintaro Ono, Kenichi Sakamoto, Ko Kudo, Aki Sato, Kazuko Kudo, Hisanori Fujino, Yuta Kawahara, Hiroya Hashimoto, Takehiko Doi, Ryu Yanagisawa, Toyotaka Kawamata, Osamu Miyazaki, Atsuko Nakazawa, Yasunori Ota, Hirokazu Kanegane, Yozo Nakazawa, Keizo Horibe, Akiko M Saito, Atsushi Manabe, Kensuke Usuki, Hitoshi Kiyoi, Akira Morimoto, Arinobu Tojo, Yoko Shioda. Phase II study in children and adults under 40 years with newly diagnosed Langerhans cell histiocytosis: protocol for an LCH-19-MSMFB clinical trial in Japan. BMJ Open. 2024.06; 14(6); e084159

16. Yuichi Nagamatsu, Takeshi Isoda, Motoki Inaji, Jun Oyama, Daiki Niizato, Dan Tomomasa, Noriko Mitsuiki, Motoi Yamashita, Takahiro Kamiya, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Masatoshi Takagi. Intracranial residual lesions following early intensification in a patient with T-cell acute lymphoblastic leukemia: a case report. BMC Pediatr. 2024.05; 24(1); 304

17. Miyamoto S, Niizato D, Tomomasa D, Nishimura A, Hoshino A, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Kajiwara M, Azumi S, Hirabayashi S, Sakamoto K, Kishimoto K, Miyamura T, Umeda K, Hirose A, Keino D, Yanagimachi M, Kanda K, Sakai Y, Ikawa Y, Watanabe K, Tanaka K, Mori T, Ichinohe T, Sakaguchi H, Morio T, Kanegane H. Allogeneic Hematopoietic cell Transplantation Using Alemtuzumab in Asian Patients with Inborn Errors of Immunity. Journal of clinical immunology. 2024.05; 44(6); 126

18. Dan Tomomasa, Beom Hee Lee, Yuki Hirata, Yuzaburo Inoue, Hidetaka Majima, Yusuke Imanaka, Takaki Asano, Takashi Katakami, Jina Lee, Atsushi Hijikata, Wittawin Worakitchanon, Xi Yang, Xiaowen Wang, Akira Watanabe, Katsuhiko Kamei, Yasufumi Kageyama, Go Hun Seo, Akihiro Fujimoto, Jean-Laurent Casanova, Anne Puel, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Hirokazu Kanegane. Inherited CARD9 Deficiency Due to a Founder Effect in East Asia. J Clin Immunol. 2024.05; 44(5); 121

19. Masafumi Yamaguchi, Yukihiro Sera, Hanae Toga-Yamaguchi, Hirokazu Kanegane, Yusuke Iguchi, Kingo Fujimura. Knockdown of the Shwachman-Diamond syndrome gene, SBDS, induces galectin-1 expression and impairs cell growth. Int J Hematol. 2024.04; 119(4); 383-391

20. Wenguang Jia, Xiaoqin Chen, Jianming Luo, Vikram Sumbly, Hirokazu Kanegane, Yunyan He. Case report: emapalumab treatment for a pediatric Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis (EBV-HLH) patient with cytokine storm enabling allogeneic hematopoietic cell transplantation. Transl Pediatr. 2024.04; 13(4); 663-672

21. Shoichiro Tateishi, Shoichi Shimizu, Kunihiko Moriya, Hirokazu Kanegane, Kohsuke Imai. A deep intronic BTK variant underlies X-linked agammaglobulinemia. J Clin Immunol. 2024.04; 44(4); 89

22. Hirokazu Kanegane, Akifumi Endo, Satoshi Okada, Hidenori Ohnishi, Masataka Ishimura, Ryuta Nishikomori, Kohsuke Imai, Shigeaki Nonoyama, Hideki Muramatsu, Taizo Wada, Atsushi Kuga, Ko Sakamoto, Sharon Russo-Schwarzbaum, Liang-Hui Chu, Barbara McCoy, Zhaoyang Li, Leman Yel. Pharmacokinetics, safety, and efficacy of 20% subcutaneous immunoglobulin (Ig20Gly) administered weekly or every 2 weeks in Japanese patients with primary immunodeficiency diseases: a phase 3, open-label study. Immunother Adv. 2024.03; 4(1); ltae001

23. Keisuke Ogasawara, Makoto Ono, Keita Tamanuki, Ryosuke Wakatsuki, Kento Inoue, Yoshinori Tateishi, Rentaro Oda, Shogo Shirane, Hiraku Funakoshi, Hirokazu Kanegane, Yoshiho Hatai. Respiratory Symptoms are the First Presentation of Liver Abscess. Pediatr Infect Dis J. 2024.02; 43(2); e71-e73

24. T Tsubata, N Umezawa, T Yasumi, H Kanegane, S Yasuda. Impaired development of B cells with PRF1 variants in an adult Scand J Rheumatol. 2024.01; 53(1); 74-76

25. Shogo Wada, Takeshi Namiki, Aoi Ebata, Takuya Takeichi, Masashi Akiyama, Masafumi Yamada, Atsushi Hijikata, Yutaka Shimomura, Hirokazu Kanegane, Naoko Okiyama. Generalized pustular psoriasis that developed in a patient with an NFKB2 variant. J Dtsch Dermatol Ges. 2024.01; 22(1); 118-120

26. Baba H, Kimura N, Kanegane H, Miya F, Kosaki K, Morio T, Koike R. GATA2 deficiency of a novel missense variant with multiorgan inflammation. Rheumatology (Oxford, England). 2024.01; 63(8); e226-e228

27. Martin E, Winter S, Garcin C, Tanita K, Hoshino A, Lenoir C, Fournier B, Migaud M, Boutboul D, Simonin M, Fernandes A, Bastard P, Le Voyer T, Roupie AL, Ben Ahmed Y, Leruez-Ville M, Burgard M, Rao G, Ma CS, Masson C, Soudais C, Picard C, Bustamante J, Tangye SG, Cheikh N, Seppänen M, Puel A, Daly M, Casanova JL, Neven B, Fischer A, Latour S. Role of IL-27 in Epstein-Barr virus infection revealed by IL-27RA deficiency Nature. 2024; 628; 620-629

1. 緒方瑛人, 川口晃司, 丹後結衣, 福井渉, 安積昌平, 高地貴行, 小倉妙美, 児玉洋平, 中野玲二, 堀越泰雄, 金兼弘和, 渡邉健一郎. 臍帯血移植を行った重症複合免疫不全症を伴う CHARGE 症候群 日本小児血液 · がん学会誌. 2024.05; 61(1); 12-16

2. 田中俊博, 荒木かほる, 岡田雅彦, 金兼弘和, 多屋馨子, 塚原宏一, 長森恒久, 羽田敦子, 宮田一平, 山田全毅, 橋本浩一, 和田泰三, 片寄雅彦, 神野俊介, 亀井聡信, 清水博之, 新庄正宜 野村直子, 森雅亮. 感染症診断のための核酸検査に関するアンケート調査 小児感染症免疫. 2024.05; 36(2); 183-194

[書籍等出版物]

1. Hirokazu Kanegane, Satoshi Miyamoto, Akira Nishimura, Nao Yoshida. Comprehensive Hematology and Stem Cell Research. Elsevier, 2024.09 (ISBN : 978-0443157172)

2. Hirokazu Kanegane. Lymphoproliferative Syndrome 2 (LPFS2). SpringerLink, 2024.09 (ISBN : 978-3-319-66816-1)

1. 金兼弘和, 西小森隆太. 小児科診療. 診断と治療社, 2024.08

2. 金兼弘和, 谷田けい. 小児科　診断 · 治療指針　改定第３版. 中山書店, 2024.04 (ISBN : 978-4-521-75075-0)

[総説]

1. Ayami Ohya, Dan Tomomasa, Fumiaki Sakura, Takaki Asano, Atsuko Arisaka, Takumi Akashi, Menno C van Zelm, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Hirokazu Kanegane. A case of primary ciliary dyskinesis with DRC1 deletion and literature review: Additional evidence on the founder effect. Pediatr Int. 2024.12; 66(1); e15808

2. Qin Zhao, Qian Zhao, Xuemei Tang, Yunfei An, Zhiyong Zhang, Dan Tomomasa, Atsushi Hijikata, Xi Yang, Hirokazu Kanegane, Xiaodong Zhao. Atypical familial hemophagocytic lymphohistiocytosis type 3 in children: A report of cases and literature review. Pediatr Allergy Immunol. 2024.05; 35(5); e14136

1. 多田歩未, 井上健斗, 金兼弘和. 免疫疾患をもつ子ども 小児内科 6 月号. 2024.06; 56(6); 1008-1014

[講演 · 口頭発表等]

1. Hirokazu Kanegane. Challenges faced in managing antibody deficiencies and application of SCIG. APAAACI 2024 2024.12.11 Kuala Lumpur

2. Hirokazu Kanegane. Allogeneic hematopoietic cell transplantation recuse monogenic IBD. Translational Gastroenterology and Liver unit Seminar 2024.10.22 Oxford

3. Hirokazu Kanegane. APSID's 10—Year History and Future Prospects.. ESID 2024 2024.10.17 Marseille

4. Satoshi Miyamoto, Kevin Y. Urayama, Akira Nishimura, Setsuo Ota, Riski Muhaimin, Yui Namikawa, Miho Koizumi, Yuki Arakawa, Katsuyoshi Koh, Yuki Yuza, Daisuke Hasegawa, Yuichi Taneyama, Yasuishi Noguchi, Masakatsu Yanagimachi, Takeshi Inukai, Hiroyuki Takahashi, Dai Keino, Daisuke Toyama, Junko Takita, Daisuke Tomizawa, Kazutoshi Koike, Koichi Moriwaki, Yuya Sato, Junya Fujimura, Daisuke Morita, Yujin Sekinaka, Kozue Nakamura, Kazuo Sakashita, Hiroaki Goto, Takeshi Isoda, Kosuke Imai, Hirokazu Kanegane, Tomohiro Morio, Atsushi Manabe, Hiroaki Honda, Masatoshi Takagi. Germline Variants of Transcription Factors Involved in B-Cell Development Associate with B=ALL and Immunodeficiency. The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13 Hokkaido,Japan

5. Dan Tomomasa, Takahiro Kamiya, Fumiko Honda-Ozaki, Kosuke Noma, Hisako Nakamaki, Atsushi Hijikata, Morito Kurata, Takashi Abe, Tomohiro Morio, Satoshi Okada, Takehiko Mori, Hirokazu Kanegane. Familial B-cell Lymphoma and Lymphopenia Underlie a Novel Germline RAC2 Variant. The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13 Hokkaido,Japan

6. Satoshi Miyamoto, Daiki Niizato, Yohei Nishiyama, Yuya Sasaki, Keisuke Tanaka, Akihiro Hoshino, Takahiro Kamiya, Takeshi Isoda, Masatoshi Takagi, Shohei Azumi, Kenichi Sakamoto, Kenji Kishimoto, Katsutsugu Umeda, Kenichiro Watanabe, Tatsuo Ichinohe, Takehiko Mori, Tomohiro Morio, Hirokazu Kanegane. Allogenic hematopoietic cell transplantation with alemtuzumab in patients with XIAP deficiency. The 14th JSH International Symposium 2024 2024.07.13 Hokkaido,Japan

7. Hoshino A. Pathophysiology and recent topics in EBV-LPD. 16th Congress of Asia continental branch of International Society of Paediatric Oncology 2024.06.24 Kanagawa,Japan

8. Hirokazu Kanegane. Ten-year prospective for the region (APSID role). IPOPI 5th Regional Asian PID Meeting 2024.03.25 Tokyo

1. 星野顕宏. 先天性免疫異常症. 第 66 回日本小児血液 · がん学会学術集会 2024.12.13 京都

2. 西村円香, 友政弾, 水上智之, 金兼弘和. B 細胞欠損症スクリーニングを契機に同定された X 連鎖無ガンマグロブリン血症と Mohr-Tranebjaerg 症候群との隣接遺伝子症候群. 第 56 回日本小児感染症学会総会 · 学術集会 2024.11.17 長崎

3. 橋野健, 松井拓弥, 西川昴佑, 東谷佳祐, 木村峻真, 田中梨菜, 山本大, 金兼弘和. 低身長を契機に診断した活性化 PIK3 δ 症候群 2 型の兄妹例. 第 56 回日本小児感染症学会総会 · 学術集会 2024.11.16 長崎

4. 星野顕宏. 新しい遺伝性免疫異常症. 第 52 回日本臨床免疫学会総会 2024.10.10 東京

5. 西村円香, 友政弾, 鈴木里香, 金兼弘和. 保存臍帯を用いて診断した X 連鎖無ガンマグロブリン血症. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京

6. 岡北慎司, 關中佳奈子, 山西智裕, 呉本尚樹, 大西卓磨 上牧勇, 宮本智史, 星野顕宏, 金兼弘和, 森谷邦彦, 今井耕輔. T-B+NK+の病型を呈した X 連鎖重症複合免疫不全症. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京

7. 若月良介, 宮本智史, 星野顕宏, 渡部良平, 石北悦子, 西村円香, 友政弾, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和. 血球貪食性リンパ組織球症に対して Ruxolitinib が有用であった XIAP 欠損症. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京

8. 鈴木喬悟, 神谷尚宏, 金兼弘和, 堀越裕歩, 湯坐有希. 血縁者間同種末梢血管細胞移植で順調な免疫再構築を得た MHC classII 欠損症の乳児例. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京

9. 土方美奈子, 渡部良平, 若月良介, 宮本智史, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 朝蔭孝宏, 金兼弘和. 左眼球運動制限を契機に見つかった左上顎洞原発 Langerhans1 細胞組織球症. 第 700 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2024.09.14 東京

10. 八角高裕, 金兼弘和. 免疫異常症に対する診断 · 治療のこれまでとこれから「免疫グロブリン補充療法と在宅治療環境の進歩」. ハイゼントラ 10 周年ピリヴィジェン 3 周年記念講演会ー免疫異常症に対する診断 · 治療のこれまでとこれからー 2024.07.20 Web 開催

11. 星野顕宏. 先天性免疫異常症から考えるヒトの免疫. 第 13 回関西免疫不全症研究会 2024.07 大阪

12. 田丸智哉, 丸岡夢芽, 片山理捺, 桃木野珠夏, 上田篤, Aaquib Zaffar Banday, 和田泰三, 金兼弘和, 赤木紀之. 変異型転写因子 C/EBP ε と免疫不全症. 令和 6 年度 日本生化学会九州支部例会 2024.06.22 熊本

13. 星野顕宏. フローサイトメーター検査結果の解釈のしかた. 第 7 回日本免疫不全 · 自己炎症学会学術集会 2024.03.22 東京

14. 友政弾, 谷田けい, 星野顕宏, 今留謙一, 森尾友宏, Sylvain Latour, 金兼弘和. EB ウイルス感染細胞の検出感度の比較 EBER flow FISH と定量 PCR 法. 第 32 回 EVB 感染症研究会 2024.03.17 Web 開催

15. 深田英香, 西山洋平, 宮本智史, 星野顕宏, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 竹下八奈, 金兼弘和, 森尾友宏. 全身に多数の潰瘍病変を認めた BCG 接種後の壊疽性丘疹性結核疹の 1 例. 第 695 回日本小児科学会東京都地方会講話会 2024.01.13 東京都

[その他業績]

1. アドバイザリーボードミーティング, 2024 年 01 月
アドバイザー【金兼弘和】

2. 耳鼻咽喉科領域における疾患啓発について専門医の知見, 2024 年 01 月
アドバイザー【金兼弘和】

3. PID 治療の新たな選択肢〜Cuvitru の有効性と安全性を含めて〜, 2024 年 02 月
PIDExpertMeeting　東京

4. PID advisory board meeting「PID 患者の移行期医療に関するベストプラクティスのアドバイス」, 2024 年 02 月
アドバイザー【金兼弘和】

5. Inborn errors of immunity as a cause of inflammatory bowel disease., 2024 年 03 月
APSID-JSIAD 2024　プレナリーレクチャー　座長【金兼弘和】

6. ハイゼントラ新剤型およびポンプに関するコンサルティング業務, 2024 年 03 月
コンサルタント【金兼弘和】

7. Preference Survey に関する助言および考察, 2024 年 04 月
アドバイザー【金兼弘和】

8. 「CARD9 欠損症の東アジアにおける創始者効果」〜遺伝病の起源に迫る〜　（金兼弘和）, 2024 年 05 月
Journal of Clinical Immunology

9. 成人における免疫不全症の診療をどうするか, 2024 年 05 月
第 66 回北摂血液疾患談話会　大阪

10. Shedding Light on the Origin of a Genetic Variant Underlying Fungal Infections（金兼弘和）, 2024 年 06 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

11. 「先天性免疫異常症に対するアレムツズマブを用いた同種造血細胞移植」〜アレムツズマブの有用性〜　（金兼弘和）, 2024 年 06 月
Journal of Clinical Immunology

12. 「遅発性複合免疫不全を呈する 18q 欠失症候群」〜18q 欠失症候群患者では、定期的な細胞性/液性免疫能の評価を提唱〜　（金兼弘和）, 2024 年 06 月
Journal of Clinical Immunology

13. Uncovering Late-Onset Combined Immune Deficiency in Chromosome 18q Deletion Syndrome（金兼弘和）, 2024 年 07 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

14. Investigating the Effect of Alemtuzumab in Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation in Patients with Inborn Errors of Immunity（金兼弘和）, 2024 年 07 月
AAAS EurekAlert! The Global Source for Science News

15. 遺伝性血管性浮腫 - 最新の知見と治療 - , 2024 年 08 月
第 56 回 日本医学教育学会大会　モーニングセミナー座長【金兼弘和】

16. Advisory Board Meeting - Pharming Group NV 社の「原発性免疫不全症治療薬] の国内開発における課題解決についてのアドバイス -, 2024 年 08 月
アドバイザー【金兼弘和】

17. 「X連鎖無ガンマグロブリン血症（ＸＬＡ）における腎炎の合併」～ＸＬＡの免疫学的病態と腎炎の病理組織学的所見の関連～, 2024 年 08 月
Journal of Clinical Immunology

18. 「IL10RA 欠損症に対する国内治療成績」～早期マネジメントの重要性～　【金兼弘和】, 2024 年 09 月
Journal of Clinical Immunology

19. IEI Seminar -先天性免疫異常症に「よりそう」-　, 2024 年 11 月
先天性免疫異常症の診断率向上を目指しての座長【金兼弘和】

20. TAK-771 患者さん向け 2 資材（TAK-771 の治療を受けられる患者さん · ご家族の方へ、TAK-771 患者日誌）の監修, 2024 年 11 月
資材監修【金兼弘和】

21. 症状から紐解く原発性免疫不全症候群の診断（金兼弘和）, 2024 年 11 月
CMICWebinar 東京

22. PID 診療の課題と治療の実際（金兼弘和）, 2024 年 11 月
PIDWebSeminar Web 開催

23. 先天性免疫異常症における診断 · 治療の進歩と課題（金兼弘和）, 2024 年 11 月
第 56 回日本感染症学会総会 · 学術集会 ランチョンセミナー 長崎

24. 免疫グロブリン補充療法を必要とする先天性免疫異常症について（金兼弘和）, 2024 年 12 月
Tohoku IEI Web Seminar 仙台

[社会貢献活動]

1. NPO 法人 PID つばさの会 代表医療顧問, PID つばさの会, 2022 年 04 月 01 日 - 現在

診療科・中央診療施設等

高気圧治療部

Hyperbaric Medical Center

部長 · 教授	柳下和慶
講師	小柳津卓哉　星野傑
特任助教	安宰成（2024.4〜） 雨宮正樹（〜2024.3）
医員	丹羽康江
非常勤講師	小島泰史, 大原敏之
研究員	堀江正樹，密本尚寛
秘書	伊藤清美

(1) 分野概要

高気圧酸素治療は高気圧環境下にて高濃度酸素を吸入する治療法である. 特に溶解型酸素を増大することで、低酸素組織を含めた全身に酸素供給を達成し、各種薬理作用を発揮する. 世界標準の高気圧酸素治療は 2.0〜2.8 気圧にて 60〜90 分間の高濃度酸素を吸入する治療で、100 %酸素吸入（FiO2 100%）では溶解型酸素は 1,500〜2,050 mm Hg に達する. 高気圧酸素治療の適応疾患には、減圧症や一酸化炭素中毒、コンパートメント症候群等の救急疾患のほか，末梢循環不全に伴う虚血性疾患や難治性潰瘍や晩期放射線障害による出血性膀胱炎 · 腸炎、慢性骨髄炎等感染症の慢性疾患があり、また気体の圧縮効果によりイレウスやガス壊疽に対する有効性から、国際的にも確立した治療法として位置付けられている.

本治療部では、全国で発生する多くの減圧症患者を治療しており、減圧症 · 潜水医学として日本を代表する施設である。創傷治癒分野でも高気圧酸素治療は注目を浴びており、軟部組織外傷では急性期において局所の低酸素環境を改善 · 浮腫軽減効果を呈し、修復期において瘢痕組織形成、靭帯組織形成の促進効果による早期治癒を可能とするため、本治療部では軟部組織外傷に対する高気圧酸素治療の臨床に積極的に取り組み、あわせて基礎研究を実践している.

(2) 研究活動

早期競技復帰が望まれるオリンピック選手などのトップアスリート対する高気圧酸素治療の実践と臨床研究を行っている. パリ 2024 オリンピック競技大会や北京 2022 冬季オリンピック競技大会で活躍、メダルを獲得した複数選手が、当治療部にて高気圧酸素治療を実施しており、オリンピックにおける貢献の実績を積んでいる.

スポーツ外傷である軟部組織外傷、骨外傷に対する高気圧酸素治療の基礎的研究も並行して実施している. 特に、打撲によるラット骨格筋損傷モデルでの高気圧酸素治療の有効性メカニズムに関する研究では、学会賞を受賞するなど発展的に研究が進捗している.

また、本治療部の潜水医学の歴史を基礎に、新高圧則における減圧症発症に関する研究や、船上減圧における減圧症等有害事象の研究など、減圧症に関わる各種研究も進めている.

(3) 教育活動

本治療部では特殊治療である高気圧酸素治療の一般的教育のみならず、創傷治癒 · 軟部組織外傷に関連する臨床及び基礎研究の教育や潜水医学に関連する教育を実践している. また、医学生に対してクルズスを行っている.

(4) 臨床活動および学外活動

2024 年　年間高気圧酸素治療実績
· 患者数：433 人
· 高気圧酸素治療回数：5,271 回

(5) 研究業績

[原著]

1. Hotta K, Shimotsu R, Behnke BJ, Masamoto K, Yagishita K, Poole DC, Kano Y. Effect of diabetes on microvascular morphology and permeability of rat skeletal muscle: in vivo imaging using two-photon laser scanning microscopy. Journal of applied physiology (Bethesda, Md. : 1985). 2024.10; 137(4); 963-974

2. Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Mitomo S, Koga H, Yagishita K.. Relationship Between Single-Leg Vertical Jump and Drop Jump Performance, and Return to Sports After Primary Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Graft Int. J. Sports Phys. Ther. 2024.09;

3. Murofushi K, Katagiri H, Mitomo S, Hirohata K, Furuya H, Hanazawa R, Hirakawa A, Yagishita K, Kaneoka K. Exploring age-related changes in motor function: insights from the peak decline found in Koji Awareness screening test. Scientific reports. 2024.08; 14(1); 18903

4. Goto K, Miyazaki S, Oyaizu T, Negishi M, Ikenouchi T, Yamamoto T, Kawamura I, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Takigawa M, Yagishita K, Sasano T. The impact of hyperbaric oxygen treatment for cardiovascular implantable electronic devices. Journal of arrhythmia. 2024.08; 40(4); 958-964

5. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Aritoshi Yoshihara, Hisako Katano, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Cartilage thickness in the medial compartment of the knee joint evaluated by MRI three-dimensional analysis correlates with weight-bearing line ratio and joint line convergence angle. J Orthop Sci. 2024.07;

6. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Aritoshi Yoshihara, Shoichi Hasegawa, Yasumasa Tokumoto, Ichiro Sekiya, Nobutake Ozeki. Steep medial posterior tibial slope angle and ramp lesion are independent risk factors for an increase in quantitatively measured pivot shift in patients with ACL-deficient knees. J Exp Orthop. 2024.07; 11(3); e70011

7. Ozeki N, Koga H, Nakamura T, Katagiri H, Nakagawa Y, Hoshino T, Katakura M, Amemiya M, Yoshihara A, Katano H, Mizuno M, Endo K, Masumoto J, Sekiya I. The association of the medial meniscus covering ratio with knee cartilage thickness at 15 medial compartment subregions as found by three-dimensional analysis using MRI. Journal of experimental orthopaedics. 2024.07; 11(3); e70005

8. Koji Murofushi, Sho Mitomo, Kenji Hirohata, Hidetaka Furuya, Hiroki Katagiri, Koji Kaneoka, Kazuyoshi Yagishita. Comparative Analysis of Thoracic Rotation Exercises: Range of Motion Improvement in Standing and Quadruped Variants. Acta Med Okayama. 2024.06; 78(3); 251-258

9. Takehiro Ohmi, Hiroki Katagiri, Masaki Amemiya, Koji Ikematsu, Midori Miyazaki, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Gait analysis of patients with knee osteoarthiritis who can run versus cannot run. Gait Posture. 2024.05; 112; 67-72

10. Jae-Sung An, Christophe Jacquet, Glauco Loddo, Ahmed Mabrouk, Hideyuki Koga, Jean-Noël Argenson, Matthieu Ollivier. Deformity in valgus knee malalignment is not only in the femur but also in tibia or both, based on demographic and morphological analysis before and after knee osteotomies. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024.05; 32(5); 1087-1095

11. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Masaki Amemiya, Ichiro Sekiya. Real-time virtual sonography-guided ossicle removal in unresolved Osgood-Schlatter disease. Arthrosc Tech. 2024.04; 13(4); 102897

12. Aizawa JY, Hirohata K, Ohji S, Mitomo S, Ohmi T, Koga H, Yagishita K. Anterior Cruciate Ligament-Return to Sport after Injury (ACL-RSI) subcategories are affected by subjective running ability and medial single-leg hop distance in postreconstruction patients at 6 months. Journal of experimental orthopaedics. 2024.01; 11(1); e12004

13. Murofushi K, Morito T, Akuzawa H, Oshikawa T, Okubo Y, Kaneoka K, Mitomo S, Yagishita K. External focus instruction using a paper balloon: impact on trunk and lower extremity muscle activity in isometric single-leg stance for healthy males. Frontiers in sports and active living. 2024; 6; 1343888

14. Sho Mitomo, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Shunsuke Ohji, Hidetaka Furuya, Tomoko Kawasaki, Yayoi Sakai, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Effects of differences in femoral anteversion and hip flexion angle on hip abductor muscles activity during clam exercise in females. PLoS One. 2024; 19(6); e0305515

15. Murofushi K, Oshikawa T, Kaneoka K, Akuzawa H, Mitomo S, Hatano G, Furuya H, Hirohata K, Yagishita K. Light weights are as effective as heavy weights for muscle activation in the Hammerobics exercise. PloS one. 2024; 19(9); e0308640

1. 柳下 和慶. 【環境障害における凝固異常または炎症凝固】減圧症における凝固異常 Thrombosis Medicine. 2024.12; 14(4); 268-272

[総説]

1. 星野 傑, 雨宮 正樹, 中村 智祐. 【オペがわかれば術後ケアに根拠が持てる!下肢編　動画で学ぶ!整形外科手術】膝関節の手術　高位脛骨骨切り術 (図説) 整形外科看護. 2024.12; 29(12); 1160-1167

[講演 · 口頭発表等]

1. 柳下　和慶. 軟部組織損傷の浮腫軽減に及ぼす高圧酸素の影響. 【第 5 回】アジア太平洋潜水 · 高気圧環境医学会 2024.08.24 台湾

2. 小柳津 卓哉 , 川畑 篤礼, Jonathan G. Schoenecker, 吉井 俊貴. 自家移植骨由来の前駆細胞は移植後も生存し, 軟骨内骨化を誘導し, 腰椎癒合に寄与する. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

1. 星野　傑. 当院におけるスポーツ外傷に対する高気圧酸素治療. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16 新潟市

2. 小柳津 卓哉. 高気圧酸素治療は骨折治癒過程早期に作用し、骨癒合を促進する. 第 8 回日本高気圧潜水医学会　近畿地方会学術集会 2024.11.09 京都市

3. 大久保 淳、出牛 雅也、小澤 裕介、山下 隼斗、干川 祐樹、平澤 幸太郎、藤巻 愛子、小柳津 卓哉、柳下 和慶. 高気圧酸素治療中の tcPO2 低値に対する酸素投与方法の検討. 第 8 回日本高気圧潜水医学会 近畿地方会 2024.11.09 京都市

4. 大久保 淳、桜沢 貴俊、瀬島 啓史、小柳津 卓哉、柳下 和慶. 第 2 種高気圧酸素治療装置における心電図モニタの電波環境に関する調査. 第 8 回日本高気圧潜水医学会 近畿地方会 2024.11.09 京都市

5. 富岡 翠, 折本 竜太, 森田 俊平, 山内 泰輔, 水野 朋子, 柳下 和慶, 山本 櫻子, 熊田 聡子, 下田 木の実, 森尾 友宏. 高気圧酸素治療を施行した軽微な外傷に伴う脊髄梗塞. 日本小児科学会雑誌 2024.11.01

6. 星野　傑. スピードスケートにおける医学サポート活動. 日本スポーツ整形外科学会 2024 2024.09.12 新宿区

7. 星野　傑. スピード競技選手の外傷 · 障害とその他の対応. 令和 6 年度公認コーチ 3(スピードスケート) 専門科目講習会 2024.07.21

8. 小柳津 卓哉. 高気圧酸素治療は骨折治癒過程早期に作用し，骨癒合を促進する. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市

9. 星野　傑. 当院におけるスポーツ外傷に対する高気圧酸素治療. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市

10. 桜沢 貴俊, 大久保 淳, 出牛 雅也, 山下 隼斗, 小森 慈人, 小柳津 卓哉, 柳下 和慶. 気管チューブのカフ内への水封方法に関する検討. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市

11. 出牛 雅也, 桜沢 貴俊, 小森 慈人, 小柳津 卓哉, 柳下 和慶, 大久保 淳. 高気圧環境下での気管チューブ管理におけるカフ圧管理方法とカフ形状の影響. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市
12. 大路 駿介, 相澤 純也, 廣幡 健二, 大見 武弘, 川崎 智子, 古賀 英之, 柳下 和慶. 前十字靱帯再建術後にスポーツ参加している患者における膝前面痛の強度およびエリアと患者立脚型アウトカムとの関連. Pain Rehabilitation 2024.05.01
13. 後藤 周平, 吉原 有俊, 星野 傑, 中川 裕介, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 前十字靱帯再建術後、”筋層下鏡視”下に大腿骨ボタン抜去を行った 1 例. 第 64 回関東整形災害外科学会 2024.03.16 横浜市
14. 浅見 大輔, 中川 裕介, 吉原 有俊, 中村 智祐, 星野 傑, 徳本 泰將, 関矢 一郎, 古賀 英之. 難治性人工膝関節感染に対するメガプロステーシスセメントスペーサー 5 例の治療成績. 関東整形災害外科学会雑誌 2024.03.01

[その他業績]

1. 令和 6 年度公認コーチ 3(スピードスケート) 専門科目講習会, 2024 年 07 月

[社会貢献活動]

1. 高気圧治療の外傷への応用, 共同通信社, 医療面向け企画「医療新世紀」, 2023 年 02 月 17 日 - 現在

スポーツ歯科外来

Sports Dentistry

診療科長：中禮 宏（講師）
外来長：林 海里（助教）
医員：外川海斗，堀田葉子

(1) 分野概要

スポーツや運動が身体に及ぼす影響を歯科の立場から考究し，競技者やスポーツ愛好家の歯科的健康管理と傷害（外傷 · 障害）の診断 · 治療 · 安全対策に寄与貢献することを目的とした研究を行う。また研究成果が臨床（診療）やスポーツの現場に速やかにフィードバックできるよう情報発信にも努めている。

(2) 研究活動

· スポーツ選手の口腔健康維持増進
· スポーツ歯科傷害の安全対策、予防具の開発 · 機能亢進
· 咬合と骨格筋制御機能の相関
· 歯科疾と運動能力との関係性

(3) 教育活動

スポーツ歯学に関する教育

(4) 教育方針

· アスリートの特性に合わせた治療、予防法の教育
· マウスガード、フェイスガードの製作方法、適応についての教育

(5) 臨床活動および学外活動

スポーツ選手および愛好家の歯の健康の維持 · 管理 · 回復 · 増進を図る。歯の治療全般を行うほか、顎顔面の外傷防止のためのフェイスガード、歯の外傷防止のためのマウスガードの調整を行う。

(6) 臨床上の特色

アスリートの生活習慣、競技特性に合わせた歯科治療および口腔衛生指導を行う。必要に応じてマウスガードやフェイスガードなどの顎顔面口腔外傷の予防装置を提供する。

(7) 研究業績

[原著]

1. G Tanabe, T Hasunuma, Y Takeuchi, H Churei, K Hayashi, K Togawa, N Moriya, T Ueno. Assessment of Exercise-Induced Dehydration Status Based on Oral Mucosal Moisture in a Field Survey Dentistry

Journal. 2024.12; 13(1); 5

2. S.Shimizu, K.Hayashi, Y.Takeuchi, G.Tanabe, H.Churei, H.Kobayashi, T.Ueno, K.Fueki. Effect of Porphyromonas gingivalis Infection on Healing of Skeletal Muscle Injury: An In Vivo Study Dentistry Journal. 2024.10; 12(11); 346

3. Chenyuan Li, Takahiro Wada, Yumi Tsuchida, Kairi Hayashi, Gen Tanabe, Toshiaki Ueno, Hiroshi Churei. Optimizing additively manufactured mouthguards: An evaluation of multi-layer materials for improved shock absorption and durability compared to conventionally fabricated samples 2024.03;

1. 田邊 元，駒澤柚希，蓮沼哲哉，外川海斗，林 海里，中禮 宏，森谷直樹，安井利一，上野俊明. アスリートの疲労感と顎口腔領域の自覚症状の連動類似性 スポーツ歯学. 2024.08; 28(1); 14-19

[講演 · 口頭発表等]

1. 田邊 元，蓮沼哲哉，外川海斗，堀田葉子，林 海里，中禮 宏，宮澤 慶，森谷直樹，上野俊明. アスリート合宿期間中の主観的コンディション評価指標の連動類似性. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16 新潟

2. 中禮　宏. オリンピック · パラリンピックをもっと楽しむために～歯科とスポーツの関係に迫る！ ～. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16 新潟

3. Thida Aung, 中禮 宏, 林 海里, Kaung Sithu, 劉暢, 連㓛嘉, 槌谷和義, 佐々木一馬, 田邊 元, 上野俊明. 複数部位のセンサーを使用した唾液 pH の同時測定. 日本スポーツ歯科医学会第 35 回総会 · 学術大会 2024.10.13 大阪

4. Jahan Esha Ishrat，林 海里，中禮 宏. 競技によって観客に生じた外傷が重度の皮膚蝿蛆症を引き起こした症例. 日本スポーツ歯科医学会第 35 回総会 · 学術大会 2024.10.13 大阪

5. 李 澤群, 林 海里, 朱 秋爽, 連㓛嘉, 清水慎太郎, 田邊 元, 中禮 宏, 上野俊明. 唾液分泌量とワーキングメモリーとの関連についての In vivo 研究. 日本スポーツ歯科医学会第 35 回総会 · 学術大会 2024.10.13 大阪

6. 大原庸子，林 海里，田邊 元，中禮 宏，上野俊明. 「スポーツによる相対的エネルギー不足（REDs)」が疑われる減量期ボディビルダーに対し、スポーツ栄養士と連携対応した症例. 日本スポーツ歯科医学会第 35 回総会 · 学術大会 2024.10.13 大阪

7. 李 澤群，林 海里，朱 秋爽，中禮 宏，笛木賢治. Investigation of the association between salivary secretion and cognitive function in vivo study. 認知症と口腔機能研究会第 5 回学術集会 2024.08.25 東京

8. 中禮 宏，李 晨媛，和田 敬広，土田 優美，林 海里, 田邊 元，上野 俊明. 積層造形 3D スポーツマウスガードの衝撃吸収性と耐久性最適化のための実験的検討. 第 133 回 日本補綴歯科学会 学術大会 2024.07.01 千葉

[Works]

1. ジュニア期のスポーツマウスガード製作 · 管理のポイント, 教材, 日本歯科医師会／日歯生涯研修ライブラリー, 2013 年 04 月 - 現在

2. ＜スポーツと歯科（１）＞スポーツやるなら歯医者さんへ, その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在

3. ＜スポーツと歯科（２）＞最高のパフォーマンスを生み出すには！？ , その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在

4. ＜スポーツと歯科（３）＞マウスガード徹底解説, その他, 日本歯科医師会 8020TV, 2015 年 04 月 - 現在

5. スポーツ活動中の歯 · 口のけがの防止と応急処置（Web· DVD· YouTube）, 教材, 日本スポーツ振興センター学校安全 WEB、DVD、YouTube, 2016 年 03 月 - 現在

6. スポーツ活動中の歯 · 口のけが防止と応急の処置—中高校生へのアドバイス—（PPT 教材）, 教材, 2021 年 01 月 - 現在

7. 学校でのスポーツ事故を防ぐために—歯 · 口のけが事例分析と予防 10 か条—（WEB、YouTube）, 教材, 日本スポーツ振興センター学校安全 WEB、YouTube, 2021 年 03 月 - 現在

[社会貢献活動]

1. 日本スポーツ歯科医学会代議員, 2024 年 06 月 - 現在
2. 日本スポーツ歯科医学会渉外委員, 2024 年 06 月 - 現在
3. 日本スポーツ歯科医学会医療保険委員, 2024 年 06 月 - 現在

検査部

Clinical Laboratory

部　長　東田　修二
副部長　原田　浩之、叶内　匡
助　教（キャリアアップ講師）　野上　彩子
助　教　新田沙由梨
　　落田　美瑛
医　員　青山　尚史

(1)　分野概要

検査部は、病気の診断、治療、予防に関する情報を得るために、血液などの臨床検体を使って検査を行う中央診療部門である。心電図、超音波検査、呼吸機能検査、脳波検査などの生理検査も行っている。

(2)　研究活動

主たる研究テーマとしては「血液疾患の新たな遺伝子検査法」、「造血器腫瘍の分子病態や薬剤感受性の検査法の開発」、「骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性 T 細胞の検出」、「細菌の院内伝播監視のための遺伝子型解析」、「筋萎縮性側索硬化症の臨床 · 神経生理学的研究」、「末梢神経障害の新しい電気生理学的診断 · 評価法」、「神経伝導検査の精度管理」、「C 型ウイルス性肝炎の治療の分子メカニズム」、「心エコーによる新たな心機能の解析法」などがある。

(3)　教育活動

医学部医学科の学生に対し、各領域での講義とプレ · クリニカルクラークシップでの実習を行い、検査の臨床的意義と技術の指導をした。保健衛生学科検査技術学専攻の学生に対しては、各領域での講義と検査部各部門での臨地実習を行い、臨床検査技師としての基本技術の指導を行った。また外部の検査技師専門学校生の病院実習を受け入れ、技術指導を行った。

2024 年は初期臨床研修医 17 名（2 ヶ月もしくは 1 ヶ月）を受け入れ、検体検査、細菌検査、エコーを中心とした生理機能検査の指導を行った。

(4)　臨床活動および学外活動

高度で良質な医療を遂行していく上で臨床検査部門は重要な責務を担っている。正確で迅速な検査を提供し、先進的な検査法を取り入れることにより、最高水準の検査業務も行っている。先進医療として、PCR 法による各種ウイルス DNA の定性、定量検査を行なっている。夜間 · 休日には輸血 • 細胞治療センターとの協力により、緊急検査を行うとともに、迅速な輸血製剤の供給を行っている。細菌検査では MRSA 等の遺伝子型解析を行い、感染制御部とともに院内伝播の監視を行っている。また、オンラインによる最新の病棟別の薬剤感受性情報を提供している。検査部 · 輸血部は 2014 年 6 月に臨床検査室の国際規格である ISO15189 の認定を取得し、2018 年 6 月に病理部を含めて最新版の規格で更新した。これにより当検査部の質が世界水準にあることが認定され、国際的

な治験の導入も可能となっている。また、検査関連学会などを通じて、臨床検査に関する研修会やセミナーで講演を行っている。

(5) 臨床上の特色

臨床各科との協力のもとに、臨床検査の解釈、精度管理、新しい検査法の開発などを行っている。また、臨床検査に関わる各診療科からの問い合わせや相談に応じ、診療支援を行っている。

(6) 研究業績

[原著]

1. Nogami, A; Amemiya, HJ; Fujiwara, H; Umezawa, Y; Tohda, S; Nagao, T. Targeting USP14/UCHL5: A Breakthrough Approach to Overcoming Treatment-Resistant FLT3-ITD-Positive AML INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES. 2024.10; 25(19);
2. Umezawa Y, Yoshifuji K, Tanaka K, Nogami A, Nagano K, Tsuji A, Nagao T, Yamamoto M, Kajiwara M, Tohda S, Mori T. Impact of BK polyomavirus viremia on the outcomes of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Annals of hematology. 2024.05; 103(5); 1737-1744
3. Kumada H, Itoh M, Tohda S. Effect of Ferroptosis Inducers and Inhibitors on Cell Proliferation in Acute Leukemia. Anticancer research. 2024.03; 44(3); 1003-1010
4. Itoh M, Sasaki S, Tohda S. Renin-Angiotensin System Inhibitors Suppress the Growth of Leukemia Cells. Anticancer Research. 2024.03; 44(3); 1183-1192
5. Goto Y, Nagamine Y, Hanafusa M, Kawahara T, Nawa N, Tateishi U, Ueki Y, Miyamae S, Wakabayashi K, Nosaka N, Miyazaki Y, Tohda S, Fujiwara T. Association of excess visceral fat and severe illness in hospitalized COVID-19 patients in Japan: a retrospective cohort study. International journal of obesity (2005). 2024.01; 48(5); 674-682

[書籍等出版物]

1. 東田　修二. 臨床検査ガイド 2025 年改訂版. 文光堂, 2024.12 (ISBN : 978-4-8306-8038-0)
2. 東田修二. 遺伝子関連 · 染色体検査学第 3 版. 医歯薬出版, 2024.02

[講演 · 口頭発表等]

1. Yamazaki A., Yoshimoto A., Ichimura N., Tohda S., Ohkawa R. Validation and Application of Direct Measurement Method for Erythrocytes Cholesterol Content. 17th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine (APFCB) Congress 2024.11.01 Sydney
2. Itoh M, Tohda S. ERK inhibitors suppress the growth of leukemia cells. 53rd Annual Scientific Meeting, International Society for Experimental Hematology 2024.07.29
3. Yamazaki A., Yokoyama S., Okazaki M., Ai M., Miyake S., Takahashi J., Kameda T., Ichimura N., Tohda S., Ohkawa R. Influence of lipoprotein(a) on the accuracy of LDL-cholesterol measurement. European Atherosclerosis Society 92nd Congress 2024.05.27 Lyon
1. 山崎 あずさ, 貫井 陽子, 亀田 貴寛, 甲田 祐樹, 市村 直也, 齋藤 良一, 東田 修二, 大川 龍之介. COVID-19 患者におけるプレセプシン測定の有用性と腎機能との関連. 第 64 回日本臨床化学会年次学術集会　YIA シンポジウム 2024.09.01 宇都宮
2. 川口 莉奈, 荒木 誠, 宮腰 恒広, 渡部 芽以, 堀内 優奈, 吉本 明, 亀田 貴寛, 市村 直也, 米津 太志, 戸塚 実, 東田 修二, 笹野 哲郎, 大川 龍之介. 冠動脈内プラークのサイズを反映する新たな評価法としてのパラオキソナーゼ 1 活性の有用性. 第 56 回日本動脈硬化学会総会 2024.07.07 神戸

[社会貢献活動]

1. 医学部 6 年間のカリキュラムは？　基礎と臨床を学び 2 年の実習 「チーム医療」を重視（東田）, スクールパートナーズ, 高校生新聞, 2024 年 08 月 22 日 - 2024 年 10 月 14 日

輸血 · 細胞治療センター

Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy

センター長（併）	関矢　一郎（再生医療研究センター 教授）
副センター長（併）	片野　尚子（再生医療研究センター 准教授）
	梶原　道子（輸血 · 細胞治療センター 講師）
管理スタッフ (併)	
品質管理責任者	片野　尚子（再生医療研究センター 准教授）2024 年 11 月 22 日まで
	梶原　道子（輸血 · 細胞治療センター 講師）2024 年 11 月 22 日～現在
製造管理責任者	水野　満（再生医療研究センター 助教）2023 年 5 月 1 日～現在
スタッフ	友田　昂宏（輸血 · 細胞治療センター 特任助教）
臨床検査技師	大友　直樹（臨床検査技師長）、相川　佳子（臨床検査技師主任）、
	臼井　友香里（臨床検査技師主任）、大石　裕紀子（臨床検査技師主任補佐）、
	伊藤　千裕（臨床検査技師主任補佐）、神山　朋子、千葉　美沙希、白石　暁子、
	藤木　すみれ、福岡　明美、織田　のぞみ、岡崎　江里子、廣瀬　楓花、
	吉森　真由美、稲垣　水紀
技術支援員	金原　冴里
事務支援員	新開　優香

(1)　分野概要

当センターの目的は、機能不全になった組織、臓器を補助 · 再生させる医療である＜輸血＞＜細胞治療＞＜再生医療＞を提供することである。

輸血部門には、日本輸血 · 細胞治療学会認定医、認定輸血検査技師、細胞治療認定管理師が在籍し、輸血検査、血液製剤管理、輸血認証を含む輸血実施までの安全対策、輸血歴管理を担当し、安全で適正な輸血療法と造血幹細胞移植を行っている。

細胞治療センター部門の細胞培養加工施設は、世界最高水準の再生医療 · 細胞治療の実用化をめざして設置され、日本再生医療学会認定医、上級臨床培養士、臨床培養士が所属し、治験や臨床研究用細胞の加工を実施するとともに、学内外の有益な再生医療技術の実用化を支援している。

(2)　研究活動

【輸血部門】

1) 安全で適正な輸血の実施と輸血事故防止対策の検討

適切な輸血検査に基づいた、安全な輸血療法が実施できることを目標として、検査方法、認証システム、副作用軽減目的の院内での製剤加工（製剤の分割 · 血小板の洗浄）に関する研究を行っている。

2) 造血細胞移植を中心とした細胞治療の基礎研究と臨床応用

骨髄バンクや臍帯血バンクを介した非血縁者間を含めた造血幹細胞移植を小児科 · 血液内科が行っているが、患者およびドナーにとってリスクの少ない移植を行うための、細胞採取 · 保存に関する、また移植後合併症に関する研究を行い、臨床応用につなげている。

【細胞治療センター部門】

1) 第三者由来複数ウイルス特異的 T 細胞治療の開発

Baylor 大学および東京大学医科学研究所との共同研究により、5 ウイルス 11 抗原からの overlapping peptides と至適サイトカインを用いて、5 ウイルス特異的細胞傷害性 T 細胞を樹立する研究を進め、その技術を用いて、2016 年より造血細胞移植後の難治性ウイルス感染症の治療に対して HLA 半合致以上の血縁ドナーから調製した

複数ウイルス抗原特異的 T 細胞を用いる臨床研究を行い、これまで 3 症例に対して細胞治療を実施し、2022 年 12 月に再生医療等提供計画の終了届を提出した。

一方、有効かつ迅速なウイルス特異的 T 細胞療法を目指して、予め調製 · 凍結保存された第三者由来複数ウイルス抗原特異的 T 細胞療法の導入を進めており、日本医療研究開発機構研究費「再生医療実用化研究事業」（代表者：森尾友宏 研究開発課題名：造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症に対する第三者由来複数ウイルス特異的 T 細胞療法の開発と研究）の支援をうけ、細胞培養 · 品質検査系の確立と非臨床安全性試験を実施し、2023 年 5 月に特定認定再生医療等委員会での承認後、2023 年 9 月 1 日に厚生科学審議会 · 再生医療等評価部会において第一種再生医療等技術として承認された。その後 9 月より細胞培養を開始し、2024 年までに 21 件の第三者由来複数ウイルス特異的 T 細胞を製造し、適格製剤として 13 ロット（124 回投与分）を凍結保存した。現在、患者リクルート中であり今後細胞投与を実施する予定である。

2) 自家滑膜由来間葉系幹細胞を用いた半月板 · 軟骨再生医療の開発

変形性膝関節症（OA）に対する新規治療法の確立を目的に、滑膜由来間葉系幹細胞（滑膜幹細胞）を用いた低侵襲な細胞移植手法を開発してきた。半月板は再生しにくく、半月板切除術が OA のリスク因子となるため、一般的には切除術の対象となる半月板損傷に対し、滑膜幹細胞を移植して修復を促す治療法の確立が求められている。

2017 年から 2019 年にかけて、半月板損傷を対象とした「自家滑膜幹細胞の医師主導治験」（対象：10 例）を実施し、臨床スコアの改善とともに、再鏡視所見の改善を確認した（J. Orthop Sci. 2021）。この良好な結果を受け、2022 年 1 月には検証的試験として企業治験を開始した。

また、滑膜幹細胞の新たな投与経路による治療法開発を目的に、日本医療研究開発機構（AMED）再生医療研究事業の支援を受け、2017 年から 2020 年にかけて臨床研究「変形性関節症に対する滑膜幹細胞の関節内注射」（研究代表者：関矢一郎）を実施した。8 膝すべてで臨床スコアの改善を確認した（Scientific Reports 2022）。さらに、2023 年 4 月からは AMED 再生医療研究事業（研究代表者：関矢一郎、課題名：「変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞関節内注射の医師主導治験」）として、二重盲検比較試験を開始した。さらに、2024 年 9 月から、治験中止例を対象とした臨床研究『変形性膝関節症に対する解凍後再培養自家滑膜幹細胞の関節内注射』を開始した。

3) 多血小板血漿治療に対する医師主導治験と臨床研究

変形性膝関節症（OA）に対する上記以外の新たな治療法の開発として、細胞を用いる手法以外により簡便かつ保存療法としての再生医療技術の開発も行っている。多血小板血漿（PRP）療法は多くの施設で実施されている手法であるものの、多くは自由診療として行われており、エビデンスが不足した状態で投与が実施されている。そこで、PRP 療法の有効性を科学的に検証するため、医師主導治験「JC-5724-01」を実施している。この治験では、有効性を解析するためにプラセボ群と投与群に分けて日本人変形性膝関節症患者を対象に、国産の分離機器を用いて作製された PRP の有効性と安全性を評価している。また、治験に付随して PRP の成分組成と治療効果の関連性を解析し、バイオマーカーの探索も行い、実用化に向けた技術開発を実施している。本医師主導治験では、プラセボ群が発生し、患者への負担が大きいことから並行して、患者をレスキューするための臨床研究を実施し、PRP を製造して投与を行っている。これにより、科学的根拠に基づいた保存療法の選択肢を増やし、患者に適切な治療を提供することを目指している。

4) 消化管再生医療の開発

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎 · クローン病）に対する新規治療法の確立を目的として、患者由来内視鏡生検組織を用いた腸上皮オルガノイドの高効率な培養法 · 同オルガノイドの安全性等に関する品質管理法及び工程内管理試験の運用法 · 同オルガノイドを用いた内視鏡的腸上皮幹細胞移植法について、それぞれ開発を行ってきた。これらの開発 · 研究による成果をもとに潰瘍性大腸炎患者を対象とする臨床研究の立案を行い、特定認定再生医療等委員会での審査手続きを実施し、2020 年 2 月には再生医療等安全性確保法 (省令改正後) に基づく第二種再生医療等提供計画として jRCT において公開されている（認定番号 NA81400003）。省令改正等に対する対応につき、計画の一部変更を経て承認済みの提供計画に基づき、基準に適合した患者のリクルートを開始し、移植実施を開始した。

5) 臨床研究 · 医師主導治験の推進に向けた再生医療等実用化基盤整備

再生医療等の臨床研究および医師主導治験の実施を目的に、慶應義塾大学病院内の細胞培養加工施設と連携 · 協力し、輸血 · 細胞治療センター内の細胞培養加工施設を活用しながら、内部シーズに加え外部シーズも対象とした細胞培養 · 細胞調整の受託体制を整備している。この体制構築のため、2021 年 4 月に日本再生医療学会認定の上級臨床培養士を雇用し、細胞加工受託に必要な書類の整備を開始した。2022 年には、再生医療等製品の移植実績として、キムリア 11 例、ハートシート 2 例を実施した。

本研究は、日本医療研究開発機構（AMED）研究費「再生医療実用化基盤整備促進」（分担研究者：関矢一郎、課題名：「東日本における iPS 細胞等臨床研究推進モデル病院の構築」、2021 年度～2023 年度）の支援を受けて実施された。さらに、2024 年度から 2026 年度にかけては、課題名を「東日本における iPS 細胞等臨床研究推進モデル病院の充実」として事業が引き継がれ、さらなる基盤強化が進められている。

6) 高感度迅速網羅的ウイルス · 微生物検査法の開発

再生医療研究センターが開発したリアルタイム PCR と固相化試薬を用いた手法を用いて、HSV1,HSV2, VZV,EBV,CMV,HHV6,HHV7,HHV8,BKV,JCV,B19,ADV を迅速 · 高感度にかつ安価に検査するシステムを構築し、東京医科歯科大学病院からの検体の研究的検査を開始した。本検査系が「先進医療」として承認されたことを受け、検査部に技術移転を行い、現在は検査部が研究的検査を受託している。一方、マルチプレックス PCR 法および固相化試薬製造に関する技術を移転し、島津製作所から日和見感染症検査キット（日和見感染症検査ウイルス検出キット）· 島津ダイアグノスティックス社から細胞製剤のウイルス検査キット（VirFinder）が研究用試薬として発売されている。また、病原微生物の定性検査に加え、検出された微生物を固相化した定量検査試薬（定量ストリップ）により迅速に定量することも可能にした。現在、検出対象病原体の種類を増やす取り組みを継続的に実施しており、各種ウイルスに加え、細菌 · 真菌 · 原虫の迅速検査への応用を進めている。マルチプレックス PCR 法を応用したマイコプラズマ検出系（日米欧の三極で特許成立済み）が第 17 改正日本薬局方参考情報記載のバリデーション基準を満たすことを実証した。同特許を日水製薬とタカラバイオにライセンスアウトし、試薬キットが日水製薬から MycoFinder の名称で、タカラバイオから Takara Mycoplasma detection Kit の名称で販売を開始した。さらに、細菌 · 真菌の検査法である無菌試験法の迅速化を達成するため、リアルタイム PCR 法により細菌 · 真菌リボソーム RNA 遺伝子に存在する共通領域を標的とした網羅的検出系を開発した。

(3) 教育活動

【輸血部門】
学内学生（医学科、保健衛生学科検査技術学専攻、同看護学専攻、医歯学総合研究科修士）の教育に加えて、外部学生、日本輸血 · 細胞治療学会認定制度の施設研修の受け入れを行っている。

1) 医学部 医学科
　臨床医学導入輸血総論
　プレクリニカルクラークシップ輸血検査
2) 医学部 保健衛生学科
　免疫検査学講義輸血検査学
　検査技術学専攻臨地実習輸血検査学
3) 医学部 保健衛生学科 看護学専攻
　看護の統合と実践実習
4) 昭和医療技術専門学校、新渡戸文化短期大学、東京工科大学、帝京大学、埼玉医科大学、麻布大学
　臨地実習輸血検査学
5) 日本輸血 · 細胞治療学会 認定輸血検査技師
　病院研修
6) 日本輸血 · 細胞治療学会 学会認定 · 臨床輸血看護師
　病院研修
7) 医師およびコメディカルを対象とした輸血および造血細胞移植に関する卒後教育

【細胞治療センター部門】
当センターは、2015 年 3 月に改修工事が完了し、細胞調製室 5 室を有する無菌操作等区域の施設、および別棟に教育用施設が設置された。教育用施設には開放系細胞調製室と閉鎖系細胞調製室がそれぞれ 1 室あり、後者にはセルプロセッシングアイソレータが設置されている。本施設は、コールドランに用いるとともに、トレーニングにも使用され、実際にクリーンルームに入室する際の手順や、無菌無塵衣の着脱、環境モニタリングなどの教育を行っている。施設内には監視カメラも設置されており、動線解析なども行えるようになっている。
また、当センターにおける細胞加工工程は基準書及び標準操作手順書 (Standard Operation Procedure: SOP) により定められ、記録 · 管理されている。施設内で作業を実施するものには教育訓練を行うとともに、新しくセンターにおいて細胞調製作業が必要な分野には SOP 構築方法などについて指導を行っている。

(4) 臨床活動および学外活動

【輸血部門】
安全な輸血と造血幹細胞移植を中心とする細胞治療に必要な検査 · 技術を提供している。
① 輸血検査、自己血採血、血液製剤の保管管理を行い、必要に応じ適切な製剤を迅速に供給する。
② 造血幹細胞の採取 · 評価 · 処理保存を行う。
③ 安全な輸血療法および細胞治療のためのシステムや情報を提供する。

【輸血関連 2024 年実績】
1) 血液製剤使用量

赤血球製剤 11,016 単位 (5,653 バッグ)
血小板製剤 23,930 単位 (2,108 バッグ)
新鮮凍結血漿 8,324 単位 (3,945 バッグ)
同種クリオプレシピテート 1,140 単位（285 バッグ）
2) 自己血採血と自己血輸血
自己血採血 190 回 374 単位
自己血輸血 153 症例 (300 単位)
自己クリオプレシピテート作成 63 例、投与 35 例
3) 輸血関連検査
血液型検査 11,239 件
赤血球抗体検査 8,820 件
交差適合試験 7,246 件
4) 時間外輸血への対応
輸血部門の専任臨床検査技師による 24 時間対応体制

【細胞治療関連 2024 年実績】
1) 造血幹細胞等採取
自己末梢血幹細胞採取　4 例 4 回
同種末梢血幹細胞採取　3 例 3 回
同種骨髄採取　9 例 9 回（骨髄バンクドナーを含む）
2) 造血幹細胞移植（移植細胞の評価 · 保存を実施）
自己末梢血幹細胞移植　6 例 6 回
同種末梢血幹細胞移植　3 例 3 回
同種骨髄移植　16 例 16 回
同種臍帯血移植　4 例 4 回
3) CAR-T 療法
① チザゲンレクルユーセル（キムリア ®）関連
2019 年 10 月にキムリア施設認定を取得
2024 年自己末梢血単核球採取　5 例 5 回
チサゲンレクルユーセル投与　5 例 5 回
② アキシカブタゲンシロルユーセル（イエスカルタ ®）関連
2023 年 11 月にイエスカルタ施設認定を取得
2024 年自己末梢血単核球採取　10 例 10 回
アキシカブタゲンシロルユーセル投与　9 例 9 回
③　リソカブタゲンマラユーセル（ブレヤンジ ®）関連
2024 年 11 月にブレヤンジ施設認定を取得
2024 年自己末梢血単核球採取　1 例 1 回
リソカブタゲンマラユーセル投与は 2025 年以降
④ イデカブタゲンビクルユーセル（アベクマ ®）関連
2024 年 11 月にアベクマ施設認定を取得
単核球採取。投与は 2025 年以降

【再生医療関連 2024 年実績】
1) 医師主導治験「変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞関節内注射の医師主導治験」（整形外科）
対象疾患：変形性膝関節症
2023 年 4 月に開始した医師主導治験の治験製品（滑膜幹細胞）を投与時まで保管している。
医師主導治験の治験製品（滑膜幹細胞）の保管：　10 例 10 件

2) 変形性膝関節症に対する多血小板血漿（PRP）関節内注射の有効性検証医師主導治験：他施設無作為二重盲検比較試験、および、JC-5724-01 医師主導治験終了者を対象とした変形性膝関節症に対する多血小板血漿治療（整形外科）
対象疾患：変形性膝関節症
本治療は、患者から採取した自己血を分離、濃縮し、膝関節内に移植するものである。
再生医療等製品の調製：　22 例 22 件

3) PRP 膝関節注射（整形外科）
対象疾患：変形性膝関節症
本治療は、患者自身から採取した血液を遠心分離して得られる多血小板血漿（PRP）を、さらに濃縮して自己

たんぱく質溶液（APS）を調整し、これを膝関節内に注射することで、変形性膝関節症患者の疼痛緩和を期待するものである。当該再生医療等提供計画は 2020 年 12 月 15 日に関東信越厚生局に受理された。
臨床研究用の特定細胞加工物（APS（濃縮 PRP））の製造：　16 例 17 件

4) PRP 股関節注射（整形外科）
対象疾患：変形性股関節症
当該再生医療等提供計画は 2021 年 11 月 25 日に関東信越厚生局に受理された。
自費診療用の特定細胞加工物（APS（濃縮 PRP））の製造：　49 例 55 件

5) 筋 · 腱 · 靭帯損傷 · 障害部への PRP 注射（整形外科）
対象疾患：筋 · 腱 · 靭帯損傷 · 障害
当該再生医療等提供計画は 2021 年 12 月 21 日に関東信越厚生局に受理された。
自費診療用の特定細胞加工物（GPS Ⅲ）の製造：　5 例 5 件

6) 臨床研究「自家腸上皮幹細胞移植による炎症性腸疾患の粘膜再生治療」
対象疾患：潰瘍性大腸炎
臨床研究用の特定細胞加工物（自家腸上皮オルガノイド）の製造：　2 例 2 件

7) 臨床研究「第三者由来の複数ウイルスに対する抗原特異的 T 細胞を用いた造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症に対する細胞療法」
対象疾患：造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症
臨床研究用の特定細胞加工物（第三者由来複数ウイルス特異的 T 細胞）の製造：　11 件

(5)　臨床上の特色

【輸血部門】
輸血については、救命救急センターの緊急性の高い輸血や、NICU など特殊性の高い輸血に対応している。また、細胞治療については、非血縁者間を含む造血幹細胞移植（血液内科 · 小児科）では、診療科と密接に連携。細胞の採取 · 評価 · 処理 · 保存を輸血部門が主体となって実施している。

【細胞治療センター部門】
当施設は、2015 年 3 月にリニューアルされ、現在もヒト細胞を安全に処理するための開放系細胞調製室 5 室を備えた無菌操作区域として運用されている。施設全体を外部環境より陽圧に保ち、その状態を維持することで外気を完全に遮断できる構造となっている。内部の空気は HEPA フィルターを通過させることで、感染性因子を含む微粒子を除去している。開放系細胞調製室は高度な清浄度が求められ、クラス 10,000（+5Pa、Grade B）の環境となっており、実際の細胞処理はクラス 100 以下の安全キャビネット（Grade A）内で行われる。開放系細胞調製室への入室には、全身を覆う無菌無塵衣、マスク、手袋の着用が義務付けられている。施設の構造および機器の配置は、汚染を防ぎ、清掃が容易な設計となっており、基準を満たしている。当施設は、2015 年 4 月 8 日付で関東信越厚生局より特定細胞加工物製造届書の承認を受けた（施設番号：FC3150001）。細胞調製はすべて**標準作業手順書（SOP）**に基づいて実施され、各工程で品質検査を行い、基準を満たし、微生物の混在がないことを確認した製品のみを提供している。また、各工程で検体のサンプリング保存を行い、トレーサビリティを確保している。細胞加工に関しては、医師主導治験および臨床研究がそれぞれ遵守すべき規制 · 指針の定める基準に則り、当施設はハード面 · ソフト面ともに適合したシステムを構築している。現在、幹細胞医療や再生医療の臨床応用を目指す多診療科の研究 · 治療を支援しており、さまざまな分野の参入に対応している。また、PRP 関連の細胞加工施設である骨髄移植関連室は、2020 年 11 月 20 日に関東信越厚生局より特定細胞加工物製造届書の受理を受けている（施設番号：FC3200138）。

(6)　研究業績

[原著]

1. Mitsuru Mizuno, Yoshitaka Maeda, Sho Sanami, Takahisa Matsuzaki, Hiroshi Y Yoshikawa, Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Noninvasive total counting of cultured cells using a home-use scanner with a pattern sheet. iScience. 2024.03; 27(3); 109170

2. Yusuke Fuchioka, Kentaro Endo, Yuriko Sakamaki, Takahiro Tanimoto, Nobutake Ozeki, Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Makoto Tomita, Ichiro Sekiya. Scanning electron microscopy analysis of synovial and adipose mesenchymal stem cells adhering to cartilage. Regen Ther. 2024.12; 27; 488-495

3. Hayato Kodama, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Macrophage depletion in inflamed rat knees prevents the activation of synovial mesenchymal stem cells by weakening Nampt and Spp1 signaling. Inflamm Regen. 2024.11; 44(1); 47

4. Yusuke Aimono, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Cellular senescence contributes to spontaneous repair of the rat meniscus. Aging Cell. 2024.10; e14385

5. Hisako Katano, Nobutake Ozeki, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Hideyuki Koga, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Femoral cartilage defects initiate from medial meniscus extrusion or tibial cartilage lesions and expand in knee osteoarthritis as revealed by 3D MRI analysis. Sci Rep. 2024.10; 14(1); 25937

6. Naoko Araya, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Mikio Shioda, Nobutake Ozeki, Yuji Kohno, Tomomasa Nakamura, Ichiro Sekiya, Hiroki Katagiri. Risk factors for delayed bone union in opening wedge high tibial osteotomy. Jt Dis Relat Surg. 2024.08; 35(3); 546-553

7. Seiya Matsuta, Kentaro Endo, Nobutake Ozeki, Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya. Synovial mesenchymal stem cells secrete more lubricin than adipose mesenchymal stem cells after injection into rat osteoarthritis knees. Biochem Biophys Res Commun. 2024.07; 729; 150354

8. Takahiro Tomoda, Akira Nishimura, Takahiro Kamiya, Kumi Inoue, Harutaka Katano, Shun Iida, Akihiro Hoshino, Takeshi Isoda, Kohsuke Imai, Michiko Kajiwara, Masatoshi Takagi, Hirokazu Kanegane, Nozomu Hanaoka, Tomohiro Morio. Immune reconstitution and cidofovir administration rescue human adenovirus hepatitis after allogeneic hematopoietic cell transplantation. Transpl Immunol. 2024.07; 102093

9. Tetsuya Tachibana, Hiroki Katagiri, Junpei Matsuda, Nobutake Ozeki, Toshifumi Watanabe, Ichiro Sekiya, Tetsuya Jinno. Biomechanical analysis of load distribution in porcine hip joints at different acetabular coverages. BMC Musculoskelet Disord. 2024.07; 25(1); 576

10. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Aritoshi Yoshihara, Hisako Katano, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Cartilage thickness in the medial compartment of the knee joint evaluated by MRI three-dimensional analysis correlates with weight-bearing line ratio and joint line convergence angle. J Orthop Sci. 2024.07;

11. Nakagawa Y, Koga H, Sekiya I, Hasegawa S, Katagiri H, Watanabe T. Equivalent clinical outcomes between anatomical alignment versus mechanical alignment of simultaneous bilateral total knee arthroplasty using a posterior-stabilized prosthesis during an average follow-up of five years: a prospective randomized clinical trial. The Journal of arthroplasty. 2024.07;

12. Shoichi Hasegawa, Riko Yamashita, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Tomomasa Nakamura, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya, Toshitaka Yoshii, Vicki Rosen, Kunikazu Tsuji. A novel methodology utilizing microchip implants to monitor individual activity and body temperature for assessing knee pain in group-housed rats. Sci Rep. 2024.07; 14(1); 16909

13. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Aritoshi Yoshihara, Hisako Katano, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. The association of the medial meniscus covering ratio with knee cartilage thickness at 15 medial compartment subregions as found by three-dimensional analysis using MRI. J Exp Orthop. 2024.07; 11(3); e70005

14. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Junpei Matsuda, Tomomasa Nakamura, Kazumasa Miyatake, Hiroki Katagiri, Mai Katakura, Aritoshi Yoshihara, Ryota Seki, Toyohiro Katsumata, Mitsuru Mizuno, Ken Watanabe, Ichiro Sekiya, Kunikazu Tsuji, Yusuke Nakagawa. Presoaking grafts in vancomycin does not impair graft-bone healing in a rat anterior cruciate ligament reconstruction model. Am J Sports Med. 2024.06; 52(7); 1784-1793

15. Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Toshiyuki Ohara, Tomomasa Nakamura, Aritoshi Yoshihara, Masaya Hayashi, Hideya Yoshimura, Tsuyoshi Nagase, Ichiro Sekiya, Hideyuki Koga. Serial assessment of factors associated with patient-reported outcomes up to 2 years after ACL reconstruction using autologous hamstring tendon: results from the TMDU MAKS study. Orthop J Sports Med. 2024.06; 12(6); 23259671241254105

16. Mitsuru Mizuno, Kouichirou Yori, Toshikazu Takeuchi, Takaaki Yamamoto, Natsumi Ishikawa, Megumi Kobayashi, Miwako Nishio, Ichiro Sekiya. Evaluation of cleaning methods for change-over after the processing of cell products to avoid cross-contamination risk. Regen Ther. 2024.06; 26; 489-495

17. Mitsuru Mizuno, Koki Abe, Takashi Kakimoto, Hisashi Hasebe, Ichiro Sekiya. Decreasing electricity costs of clean room for cell products during non-operation. Regen Ther. 2024.06; 26; 1117-1123

18. Umezawa Y, Yoshifuji K, Tanaka K, Nogami A, Nagano K, Tsuji A, Nagao T, Yamamoto M, Kajiwara M, Tohda S, Mori T. Impact of BK polyomavirus viremia on the outcomes of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Annals of hematology. 2024.05; 103(5); 1737-1744

19. Miyamoto S, Niizato D, Tomomasa D, Nishimura A, Hoshino A, Kamiya T, Isoda T, Takagi M, Kajiwara M, Azumi S, Hirabayashi S, Sakamoto K, Kishimoto K, Miyamura T, Umeda K, Hirose A, Keino D, Yanagimachi M, Kanda K, Sakai Y, Ikawa Y, Watanabe K, Tanaka K, Mori T, Ichinohe T, Sakaguchi H, Morio T, Kanegane H. Allogeneic Hematopoietic cell Transplantation Using Alemtuzumab in Asian Patients with Inborn Errors of Immunity. Journal of clinical immunology. 2024.05; 44(6); 126

20. Hisako Katano, Kanto Nagai, Haruka Kaneko, Eiji Sasaki, Naofumi Hashiguchi, Ryosuke Kuroda, Muneaki Ishijima, Yasuyuki Ishibashi, Nobuo Adachi, Makoto Tomita, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Variations in knee cartilage thickness: Fully automatic three-dimensional analysis of MRIs from five manufacturers. Eur J Radiol. 2024.05; 176; 111528

21. Tagawa Y, Saito T, Iwai H, Sato M, Noda S, Yamamoto A, Ota M, Endo K, Koga H, Takahara Y, Sugimoto K, Sekiya I, Fujio K, Kawakami E, Mizoguchi F, Yasuda S. ARID5B is a negative modulator of IL-6 production in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts. Immunological medicine. 2024.05; 47(3); 1-10

22. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Masaki Amemiya, Ichiro Sekiya. Real-time virtual sonography-guided ossicle removal in unresolved Osgood-Schlatter disease. Arthrosc Tech. 2024.04; 13(4); 102897

23. Mitsuru Mizuno, Koki Abe, Takashi Kakimoto, Hisashi Hasebe, Naoki Kagi, Ichiro Sekiya. Operator-derived particles and falling bacteria in biosafety cabinets. Regenarative Therapy. 2024.03; 25; 264-272

24. Yugo Miura, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Histological and biochemical changes in a rat rotator cuff tear model with or without the subacromial bursa. Tissue Cell. 2024.03; 88; 102370

25. Yang Yang, Hideyuki Koga, Yusuke Nakagawa, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Ryohei Takada, Mai Katakura, Kunikazu Tsuji, Ichiro Sekiya, Kazumasa Miyatake. Characteristics of the synovial microenvironment and synovial mesenchymal stem cells with hip osteoarthritis of different bone morphologies. Arthritis Res Ther. 2024.01; 26(1); 17

[書籍等出版物]

1. 関矢一郎. 再生医学とフレイル・ロコモ～半月板を例にして～. 日本医事新報社, 2024.08 (ISBN : 978-4-7849-2385-4)

2. 梶原 道子. 免疫検査学/輸血・移植検査学（窪田哲朗, 藤田清貴, 高橋克典、, 梶原道子、細井英司、国分寺晃編）. 医歯薬出版, 2024.03 (ISBN : 978-4-263-22400-7)

[総説]

1. 関矢一郎. 変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞注射療法の開発 関節外科ー基礎と臨床ー 10 月増刊号. 2024.10; 43; 61-70

2. 関矢一郎. 変形性膝関節症に対する滑膜由来幹細胞注射の基礎と臨床 臨床整形外科. 2024.09; 59(9); 1101-1106

3. 関矢一郎. 滑膜幹細胞を用いた半月板縫合術の治癒促進 臨床スポーツ医学. 2024.09; 41(9); 962-968

4. 中川 裕介 , 吉原有俊, 古賀英之, 関矢一郎. 【整形外科医療安全のすべて】(V 章) 整形外科領域別の医療安全トピックス/症例レジストリに基づいた合併症人工膝関節置換術後の神経・血管損傷に対する治療と予防 整形外科 (2024-5 増刊). 2024.05; 75(6); 661-668

5. 関矢一郎. 膝半月板損傷 ドクターサロン. 2024.03; 68(4); 23-26
6. 大関信武, 片野尚子, 古賀英之, 関矢一郎. 3D MRI を用いた半月板評価 オルソペディクス Monthly book orthopaedics. 2024.02; 37(2); 25-30
7. 大関信武, 関矢一郎, 古賀英之. 超音波アシスト下 · 関節鏡視下外側半月板 all-inside 縫合術 関節外科. 2024.01; 43(1); 14-18

[講演 · 口頭発表等]

1. Yuki Hidaka, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Single Cell RNA Sequencing analysis of human synovial and adipose mesenchymal stem cells for knee osteoarthritis treatment. ORS 2024 Annual Meeting 2024.02.06 Long Beach, Los Angels, United States
2. Hideto Furuoka, Kentaro Endo, Ichiro Sekiya. Mesenchymal stem cells in synovial fluid increase in number in response to synovitis and display more tissue-reparative phenotypes in osteoarthritis. Orthopaedic Research Society 2024 Annual Meeting 2024.02.02 California,USA
3. Hisako Katano. Morphological analysis of three-dimensional MR images of patellofemoral joints in asymptomatic subjects. Orthopaedic Research Society 2024 Annual Meeting 2024.02.02 California,USA

1. 関矢一郎. 早期変形性膝関節症と半月板変性：大規模疫学 3D-MRI 解析からフュージョンエコー治療まで. 第 2 回日本膝関節学会 2024.12.06 沖縄県那覇市
2. 四十物佑介, 遠藤健太郎, 古賀英之, 吉井俊貴, 関矢一郎. 細胞老化はラット半月板自然修復に寄与する. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 東京
3. 渕岡佑亮, 遠藤健太郎, 酒巻有里子, 谷本貴大, 大関信武, 中川裕介, 古賀英之, 吉井俊貴, 関矢一郎. 滑膜および脂肪由来間葉系幹細胞の軟骨接着過程における形態学的比較. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.18 東京
4. 大友 直樹, 千葉 美沙希, 相川 佳子. Transfusion and Hemostatic Strategies(輸血と止血戦略)　シミュレーションによる大量輸血プロトコル (MTP) への対応訓練. 日本輸血細胞治療学会誌 2024.10.18 さいたま市
5. 児玉隼人, 遠藤健太郎, 古賀英之, 吉井俊貴, 関矢一郎. 炎症性滑膜においてマクロファージが滑膜幹細胞の数および機能に与える影響の検討. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京
6. 関矢一郎. 半月板の再生医療/細胞治療　—トランスレーショナルリサーチから臨床まで—. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京
7. 大関信武, 中村智祐, 中川裕介, 星野傑, 片倉麻衣, 雨宮正樹, 吉原有俊, 吉井俊貴, 古賀英之, 関矢一郎. 軟骨 · 半月板の 3 D MRI 解析. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京
8. 日高由貴、遠藤健太郎、中川裕介、古賀英之、吉井俊貴、関矢一郎. 滑膜および脂肪由来間葉系幹細胞における構成サブセットの相違に関する検討. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024.10.17 東京
9. 無着 愛依, 廣瀬 明日香, 高知 佑輔, 三浦 貴大, 不殿 絢子, 羅 ことい, 関口 将軌, 宮坂 尚幸, 伊藤 一之, 杉江 学, 森丘 千夏子, 梶原 道子. 妊娠 35 週で胎児機能不全を発症し, 新生児に重症貧血を認めた IgM 型抗 M 抗体陽性妊娠の 1 例. 関東連合産科婦人科学会誌 2024.10.01
10. 若月良介, 宮本智史, 星野顕宏, 渡部良平, 石北悦子, 西村円香, 友政弾, 神谷尚宏, 磯田健志, 高木正稔, 梶原道子, 金兼弘和. 血球貪食性リンパ組織球症に対して Ruxolitinib が有用であった XIAP 欠損症. 第 15 回関東甲越免疫不全症研究会 2024.09.22 東京
11. 関矢 一郎, 片野 尚子, 水野 満, 北橋 宗, 中村 健太郎, 古賀 英之, 吉井 俊貴, 大関 信武. 再生医療 Advance-トランスレーショナルリサーチから臨床まで-　半月板の再生医療/細胞治療-ランスレーショナルリサーチから臨床まで. 日本整形外科学会雑誌 2024.09.01
12. 関矢一郎. 変形性膝関節症に対する滑膜幹細胞治療〜血液 · 滑膜採取から注射まで〜. 滑膜幹細胞治療 WEB カンファレンス in KOBE 2024.07.22 神戸市
13. 関矢一郎. 変形性膝関節症に対する半月板の関与とその温存. 第 45 回日本炎症 · 再生医学会 2024.07.17 福岡市
14. 関矢一郎. 異なる間葉系幹細胞と軟骨再生医療. 第 14 回 JAPSAM PRP· 幹細胞研究会 2024.06.01 京都市

15. 伊藤 千裕, 白石 暁子, 千葉 美沙希, 相川 佳子, 大石 裕紀子, 神山 朋子, 福岡 明美, 藤木 すみれ, 織田 のぞみ, 岡崎 江里子, 廣瀬 楓花, 吉森 真由美, 大友 直樹, 梶原 道子. 全自動輸血検査装置「ORTHO VISION Max Swift」「ORTHO VISION Swift」の性能評価. 日本輸血細胞治療学会誌 2024.06.01

16. 南里 隆憲, 山田 麻里江, 池本 純子, 名倉 豊, 大友 直樹. Rh(その他の因子) 血液型検査の実施と算定状況調査について　全国大学病院輸血技師研究会実態調査報告. 日本輸血細胞治療学会誌 2024.05.30

17. 福岡 明美, 相川 佳子, 岡崎 江里子, 大石 裕紀子, 伊藤 千裕, 千葉 美沙希, 白石 暁子, 神山 朋子, 藤木 すみれ, 織田 のぞみ, 廣瀬 楓花, 吉森 真由美, 大友 直樹, 友田 昂宏, 梶原 道子. 輸血専任技師による 24 時間体制移行への取り組みとその効果　時間外輸血業務の検査合同体制からの脱却. 日本輸血細胞治療学会誌 2024.05.30

18. 目黒智子、遠藤健太郎、関矢一郎. 酸化ストレスにより老化誘導したラット滑膜線維芽細胞からの滑膜オルガノイドの作成. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

19. 目黒智子、遠藤健太郎、松田純平、大関信武、関矢一郎. 伸張刺激がヒト滑膜由来間葉系幹細胞の増殖に与える影響. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

20. 関矢一郎、古賀英之、片野尚子、水野満、遠藤健太郎、中川祐介、吉井俊貴、大関信武. 滑膜幹細胞による半月板再生. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

21. 関矢一郎、古賀英之、片野尚子、水野満、遠藤健太郎、中川祐介、吉井俊貴、大関信武. スポーツ障害に対する滑膜幹細胞の役割　-半月板損傷を例に-. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024.05.23 福岡市

22. 関矢一郎. リウマチ医も知っておきたい再生医療最前線. 日本リウマチ学会総会 · 学術集会 2024.04.20 神戸市

23. 関矢一郎. 半月板を軸に理解する変形性膝関節症とその温存. 日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 2024.04.19 高松市

24. 山崎 理絵, 藥師神 公和, 吉原 哲, 池田 和彦, 石田 明, 梶原 道子, 菊田 敦, 高木 尚江, 長村 登紀子, 難波 寛子, 原口 京子, 藤盛 好啓, 藤原 慎一郎, 藤原 実名美, 奥山 美樹, 田野崎 隆二, 上田 恭典. 非血縁者間末梢血幹細胞採取における血液処理量の実態. 日本輸血細胞治療学会誌 2024.04.01

25. 田中 圭祐、吉藤 康太、梅澤 佳央、野上 彩子、佐々木　優弥、中牧　尚子、川上 真帆、友利　愛奈、中田 康充、小川　槙子、長尾　俊景、山本　正英、梶原　道子、森　毅彦. 健常人ドナーにおける pegfilgrastim を用いた幹細胞の動員. 第 46 回　造血免疫細胞療法学会総会 2024.03.24

26. 片野　尚子. 大学間連携で推進する認定再生医療等委員会の審査の質及び効率性向上のための取り組み. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.23 新潟市

27. 四十物佑介,　遠藤健太郎,　関矢一郎. ラット半月板自然修復過程における細胞老化の役割の検討. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.23 新潟市

28. 関矢一郎. 自己血清培養細胞による膝の再生医療. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

29. 児玉隼人, 遠藤健太郎, 関矢一郎. 急性期炎症膝においてマクロファージが滑膜間葉系幹細胞の数および機能に与える影響. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

30. 遠藤健太郎, 日高由貴, 関矢一郎. Single-cell RNA sequencing によるヒト滑膜 · 脂肪間葉系幹細胞のサブセット解析. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

31. 遠藤健太郎, 片野尚子, 水野満, 大関信武, 関矢一郎. 滑膜由来間葉系幹細胞を用いた治療開発の現状と今後の展望. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

32. 片野尚子. 仮説 · 実験 · 検証を繰り返す喜び～研究する人生 日本再生医療学会中高生セッション研究者講演. 第 23 回日本再生医療学会総会 2024.03.21 新潟市

33. 浅見 大輔, 中川 裕介, 吉原 有俊, 中村 智祐, 星野 傑, 徳本 泰將, 関矢 一郎, 古賀 英之. 難治性人工膝関節感染に対するメガプロステーシスセメントスペーサー 5 例の治療成績. 関東整形災害外科学会雑誌 2024.03.01

34. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. AMED 事業で進む運動器再生医療-臨床研究と医師主導治験-　滑膜幹細胞による半月板再生. 日本整形外科学会雑誌 2024.03.01

35. 関矢 一郎, 古賀 英之, 片野 尚子, 水野 満, 遠藤 健太郎, 中川 裕介, 吉井 俊貴, 大関 信武. 再生医療を用いたスポーツ障害に対する最新治療　スポーツ障害に対する滑膜幹細胞の役割　半月板損傷を例に. 日本整形外科学会雑誌 2024.03.01

36. 関矢一郎. 変形性膝関節症の病態と治療を幹細胞の視点から探る. 第 116 回京都整形外科懇話会 2024.02.17 京都市
37. 日高由貴, 遠藤健太郎, 関矢一郎. シングルセル RNA 解析によるヒト滑膜および脂肪由来間葉系幹細胞のサブセット比較. 第 36 回日本軟骨代謝学会 2024.02.16 大阪市

[特許]

1. 増殖予測方法、増殖予測装置およびプログラム, 特許番号：特許第 7428353 号
2. 増殖予測方法、増殖予測装置およびプログラム, 特許番号：特許第 7428353 号

[社会貢献活動]

1. （公財）日本臨床検査同学院　免疫血清学技術講習会, 2019 年 - 現在
2. 厚生労働省　認定再生医療等委員会の審査の質向上事業委員会委員, 2024 年 09 月 30 日 - 2025 年 03 月 31 日
3. 厚生労働省　厚生科学審議会（再生医療等評価部会）臨時委員, 2024 年 12 月 01 日 - 2026 年 11 月 30 日

歯科衛生保健部

Department of Dental Hygiene

(1) 研究業績

[原著]

1. 梅森　幸，礪波健一，則武加奈子，金森ゆうな， 葛西 美樹，小西 富代，佐川かおり，下山和弘，新田浩. 歯科ドック検診の高度化 · 高額化が受診傾向に及ぼす影響 ジャパンオーラルヘルス学会誌. 2024.08; 19;

[講演 · 口頭発表等]

1. 須永昌代，足達淑子，木下淳博. 新人歯科衛生士の医療面接研修におけるヒト型患者ロボットの活用報告. 第19回医療系 e—ラーニング全国交流会年次大会，講演要旨集，p60-61, 2024 年 12 月 21-22 日 2024.12.22 愛知医療学院大学（愛知県清須市）
2. 梅森 幸、則武加奈子、小西富代、礪波健一. 東京医科歯科大学病院歯科ドック受診者の う蝕 · 歯周病原因菌の PCR 検査の傾向. 第 73 回日本口腔衛生学会学術大会 2024.05.12 盛岡

[社会貢献活動]

1. 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科口腔衛生専攻同窓会さつき会会長, 東京医科歯科大学, 2012 年 05 月 27 日 - 現在
2. 文京区地域医療連携協議会在宅医療検討部会および文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携部会, 文京区, 2016 年 07 月 24 日 - 現在
3. 歯磨きボランティア, 東京都歯科衛生士会, 2019 年 - 現在
4. 学校歯科健診補助, 東京都歯科衛生士会, 2024 年 - 現在
5. 歯科保健指導　幼稚部 · 高等部, 東京学芸大学附属特別支援学校, 2024 年 01 月 26 日
6. 歯科保健指導 小学部 · 中学部, 東京学芸大学附属支援学校, 2024 年 07 月 05 日
7. 歯科保健指導　幼稚部 · 高等部, 東京学芸大学附属特別支援学校, 2024 年 12 月 06 日

スポーツサイエンス部門 · スポーツ医歯学診療センター

Clinical Center for Sports Medicine and Sports Dentistry

センター長 · 教授　柳下和慶
講師　星野傑
特任助教　安宰成（2024.4〜）, 雨宮正樹（〜2024.3）
理学療法技師長　廣幡健二
理学療法士　大見武弘, 川﨑智子, 岡元翔吾（2024.5〜）, 寺田秀伸（2024.4〜）
非常勤講師　立石智彦, 見供翔, 大路駿介
秘書　伊藤清美

(1) 分野概要

1）スポーツ理学療法部門の設置
「より早く、より高く」をモットーに、早期かつ高いレベルでの競技復帰を目指すリハビリテーションを、患者に合わせたテーラーメード治療として実施致する.
2) 全身的なアプローチ「チーム Science Tokyo によるトータルケア」
スポーツでは筋骨 · 関節の運動器領域の外傷 · 障害だけではなく、呼吸器や循環器、代謝 · ホルモンの問題等の内科的疾患や精神的問題点など、全身に関わる問題を生じうる. 本センターでは「チーム Science Tokyo によるトータルケア」として、全身にわたるスポーツ関連の外傷 · 障害 · 疾患の治療と予防を、各診療科との連携にて実施する.
3) 本学に特徴的な部門や治療を積極的に活用
· 高気圧酸素治療による軟部組織外傷からの早期競技復帰をサポート
· 本学歯学部「スポーツ歯科」との連携にて、歯科外傷の治療や、外傷予防のためのマウスピース · フェイスガードを紹介
· アスリートメンタルケア外来にて、スポーツ選手のメンタルヘルスの維持やケアを実施

(2) 研究活動

スポーツ理学療法部門を中心に，体幹機能評価と体幹機能強化からの早期競技復帰，高レベルパフォーマンス獲得のための様々な研究を行っている.
1）スポーツ選手の早期競技復帰，高レベルパフォーマンスの獲得
（1）膝前十字靭帯再建術後でのアスレティックリハビリテーションアプローチ
早期競技復帰と再受傷予防の研究
（2）オーバーユース，疲労骨折における体幹機能からの評価と治療アプローチ研究
（3）ダンス医学
2）高気圧酸素治療による早期競技復帰，コンディショニングの獲得
靭帯損傷，肉離れ, 骨折等の外傷における有効性研究
3）新たな身体機能評価の確立と身体機能強化の有効性評価

(3) 教育活動

スポーツ選手の健康管理，スポーツ外傷の安全対策，競技力向上の 3 側面に関する有効かつ効率的な医 · 歯 · 科学的サポートの在り方を追及し，そのために必要な学識的知識の整理，技能の習得，態度の研鑽を目指した教育を

行っている.

○ SPORTS MEDICINE SYMPOSIUM の開催
アスリートのトータルサポートを実現すべくスポーツ医歯学とスポーツ科学における共通課題を議論することで、関連する医師 · 歯科医師 · 理学療法士 · トレーナー · 研究者の相互理解を深め、協力関係の構築を図ることを目的として開催、2024 年 3 月には、スポーツメディスンフォーラムと共催で、「心と身体のスポーツ予防医学」として、関係者の講演を実施した.

(4) 臨床活動および学外活動

○スポーツ選手の外傷，障害，疾病を対象に，スポーツ競技復帰を「より早く，より高く」を目指し，本学に特徴的な先進分野との連携にて，総合的な診療を実施する．スポーツ理学療法部門では，個々の選手に合わせたカスタムメードのリハプログラムにて，競技レベルへの復帰を達成し，傷害予防のプログラムを提供するアスリートメンタルケア外来を開設し、スポーツ選手の心のケアを積極的に行っている．
（2024 年 1 月〜12 月実績）
スポーツ外来部門患者　2,795 名
スポーツ理学療法部門患者　4,876 名
○学外スポーツ団体との連携
· JSC（日本スポーツ振興センター）、JISS（国立スポーツ科学センター）との連携
· JOC（日本オリンピック委員会）活動：JOC 情報 · 医 · 科学専門部会委員として活動
· 日本スケート連盟強化スタッフとしての現場サポート活動

(5) 研究業績

[原著]

1. Hotta K, Shimotsu R, Behnke BJ, Masamoto K, Yagishita K, Poole DC, Kano Y. Effect of diabetes on microvascular morphology and permeability of rat skeletal muscle: in vivo imaging using two-photon laser scanning microscopy. Journal of applied physiology (Bethesda, Md. : 1985). 2024.10; 137(4); 963-974

2. Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Mitomo S, Kawasaki T, Koga H, Yagishita K.. The relationship between whole-body muscle mass and the isokinetic knee extensor strength of the non-operated side following anterior cruciate ligament reconstruction Isokinetics Exerc. Sci. 2024.09;

3. Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Mitomo S, Koga H, Yagishita K.. Relationship Between Single-Leg Vertical Jump and Drop Jump Performance, and Return to Sports After Primary Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Graft Int. J. Sports Phys. Ther. 2024.09;

4. Murofushi K, Katagiri H, Mitomo S, Hirohata K, Furuya H, Hanazawa R, Hirakawa A, Yagishita K, Kaneoka K. Exploring age-related changes in motor function: insights from the peak decline found in Koji Awareness screening test. Scientific reports. 2024.08; 14(1); 18903

5. Goto K, Miyazaki S, Oyaizu T, Negishi M, Ikenouchi T, Yamamoto T, Kawamura I, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Takigawa M, Yagishita K, Sasano T. The impact of hyperbaric oxygen treatment for cardiovascular implantable electronic devices. Journal of arrhythmia. 2024.08; 40(4); 958-964

6. Murofushi K, Mitomo S, Hirohata K, Furuya H, Katagiri H, Kaneoka K, Hara S, Yagishita K. Predictive Value of the KOJI AWARENESS Self-Evaluation System for Running Injuries in Elite Male Long-Distance Runners: A Prospective Cohort Study. Orthopaedic journal of sports medicine. 2024.08; 12(8); 23259671241260517

7. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Aritoshi Yoshihara, Hisako Katano, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo, Jun Masumoto, Ichiro Sekiya. Cartilage thickness in the medial compartment of the knee joint evaluated by MRI three-dimensional analysis correlates with weight-bearing line ratio and joint line convergence angle. J Orthop Sci. 2024.07;

8. Ryu Yoshida, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Mai Katakura, Masaki Amemiya, Takashi Hoshino, Aritoshi Yoshihara, Shoichi Hasegawa, Yasumasa Tokumoto, Ichiro Sekiya, Nobutake Ozeki. Steep medial posterior tibial slope angle and ramp lesion are independent risk factors for an increase in quantitatively measured pivot shift in patients with ACL-deficient knees. J Exp Orthop. 2024.07; 11(3); e70011

9. Ozeki N, Koga H, Nakamura T, Katagiri H, Nakagawa Y, Hoshino T, Katakura M, Amemiya M, Yoshihara A, Katano H, Mizuno M, Endo K, Masumoto J, Sekiya I. The association of the medial meniscus covering ratio with knee cartilage thickness at 15 medial compartment subregions as found by three-dimensional analysis using MRI. Journal of experimental orthopaedics. 2024.07; 11(3); e70005

10. Koji Murofushi, Sho Mitomo, Kenji Hirohata, Hidetaka Furuya, Hiroki Katagiri, Koji Kaneoka, Kazuyoshi Yagishita. Comparative Analysis of Thoracic Rotation Exercises: Range of Motion Improvement in Standing and Quadruped Variants. Acta Med Okayama. 2024.06; 78(3); 251-258

11. Takehiro Ohmi, Hiroki Katagiri, Masaki Amemiya, Koji Ikematsu, Midori Miyazaki, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Gait analysis of patients with knee osteoarthiritis who can run versus cannot run. Gait Posture. 2024.05; 112; 67-72

12. Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Mitomo S, Koga H, Yagishita K.. Association of knee function at 6 postoperative months with second ACL injury within 2 years after primary ACL reconstruction JOSPT Open. 2024.05; 2(1); 20-28

13. Jae-Sung An, Christophe Jacquet, Glauco Loddo, Ahmed Mabrouk, Hideyuki Koga, Jean-Noël Argenson, Matthieu Ollivier. Deformity in valgus knee malalignment is not only in the femur but also in tibia or both, based on demographic and morphological analysis before and after knee osteotomies. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024.05; 32(5); 1087-1095

14. Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa, Takashi Hoshino, Masaki Amemiya, Ichiro Sekiya. Real-time virtual sonography-guided ossicle removal in unresolved Osgood-Schlatter disease. Arthrosc Tech. 2024.04; 13(4); 102897

15. Tomoko Kawasaki, Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Tomoko Sakai, Kenji Hirohata, Taiichi Koseki, Hironobu Kuruma, Atsushi Okawa, Tetsuya Jinno. Characteristics of head and neck alignment and function of deep cervical flexor muscles in patients with nonspecific neck pain Journal of Bodywork and Movement Therapies. 2024.03; 39; 565-571

16. Sora Kawabata, Kaichi Ozone, Yuki Minegishi, Yuichiro Oka, Hidenobu Terada, Chiharu Takasu, Takuma Kojima, Takuma Kano, Naohiko Kanemura, Kenji Murata. Chronic Ankle Joint Instability Induces Ankle Sensorimotor Dysfunction: A Controlled Laboratory Study. The American journal of sports medicine. 2024.03; 52(3); 739-749

17. Aizawa JY, Hirohata K, Ohji S, Mitomo S, Ohmi T, Koga H, Yagishita K. Anterior Cruciate Ligament-Return to Sport after Injury (ACL-RSI) subcategories are affected by subjective running ability and medial single-leg hop distance in postreconstruction patients at 6 months. Journal of experimental orthopaedics. 2024.01; 11(1); e12004

18. Murofushi K, Morito T, Akuzawa H, Oshikawa T, Okubo Y, Kaneoka K, Mitomo S, Yagishita K. External focus instruction using a paper balloon: impact on trunk and lower extremity muscle activity in isometric single-leg stance for healthy males. Frontiers in sports and active living. 2024; 6; 1343888

19. Yuki Sagawa, Takumi Yamada, Takehiro Ohmi, Yoshinao Moriyama, Junpei Kato. Differences in lower extremity kinematics during single-leg lateral drop landing of healthy individuals, injured but asymptomatic patients, and patients with chronic ankle instability- a cross-sectional observational study. PLoS One. 2024; 19(3); e0297660

20. Sho Mitomo, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Shunsuke Ohji, Hidetaka Furuya, Tomoko Kawasaki, Yayoi Sakai, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Effects of differences in femoral anteversion and hip flexion angle on hip abductor muscles activity during clam exercise in females. PLoS One. 2024; 19(6); e0305515

21. Shunsuke Ohji, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Tomoko Kawasaki, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Relationship Between Single-Leg Vertical Jump and Drop Jump Performance, and Return to Sports After Primary Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Graft. Int J Sports Phys Ther. 2024; 19(10); 1204-1215

22. Murofushi K, Oshikawa T, Kaneoka K, Akuzawa H, Mitomo S, Hatano G, Furuya H, Hirohata K, Yagishita K. Light weights are as effective as heavy weights for muscle activation in the Hammerobics exercise. PloS one. 2024; 19(9); e0308640

1. 柳下 和慶. 【環境障害における凝固異常または炎症凝固】減圧症における凝固異常 Thrombosis Medicine. 2024.12; 14(4); 268-272

2. 石田 優子, 岡元 翔吾, 池田 克也, 井上 夏香, 高嶋 直美, 橋本 立子, 山岸 卓樹, 山下 大地. 膝前十字靱帯再建術後の自転車エルゴメーターを用いた代謝系トレーニングの取り組み　フットサル日本代表女子選手一名を対象にして スポーツ理学療法学. 2024.03; 2(1); 78-85

3. 廣幡 健二. 【膝関節のスポーツ障害】外側円板状半月板　外側円板状半月板損傷術後に対する再損傷予防とリハビリテーション 臨床スポーツ医学. 2024.01; 41(1); 62-66

4. 寺田 秀伸, 小島 拓真, 高須 千晴, 川端 空, 二瓶 孝太, 高柳 清美, 金村 尚彦, 村田 健児. ラット前十字靭帯由来線維芽細胞の細胞遊走能は膝蓋下脂肪体との共培養により向上する 基礎理学療法学. 2024.01; 27;

[書籍等出版物]

1. 大見武弘　（神野哲也 · 監修、相澤純也 · 中丸宏二 · 編）. 整形外科リハビリテーション　第 2 版. 羊土社, 2024.12 (ISBN : 978-4-7581-1005-1)

[総説]

1. 岡元翔吾. 【ジムで有用なトレーニング · エクササイズ機器】持久力トレーニングに有用な機器-トレッドミル, その他 臨床スポーツ医学. 2024.10;

1. 星野 傑, 雨宮 正樹, 中村 智祐. 【オペがわかれば術後ケアに根拠が持てる!下肢編　動画で学ぶ!整形外科手術】膝関節の手術　高位脛骨骨切り術 (図説) 整形外科看護. 2024.12; 29(12); 1160-1167

[講演 · 口頭発表等]

1. Ohji S. Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Kawasaki T, Koga H, Yagishita K.. Relationship between the International Knee Documentation Committee Subjective Knee Form scores before and after anterior cruciate ligament reconstruction. World Physiotherapy Asia Western Pacific Region Congress 2024 2024.09.26

2. 柳下　和慶. 軟部組織損傷の浮腫軽減に及ぼす高圧酸素の影響. 【第 5 回】アジア太平洋潜水 · 高気圧環境医学会 2024.08.24 台湾

1. 大見武弘, 片桐洋樹, 雨宮正樹, 安宰成, 古賀英之, 柳下和慶. 内側開大式高位脛骨骨切り術前後にジョギング中の膝内反モーメントが減る患者の特徴. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.17 新潟県新潟市

2. 星野　傑. 当院におけるスポーツ外傷に対する高気圧酸素治療. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.16 新潟市

3. 大久保 淳、出牛 雅也、小澤 裕介、山下 隼斗、干川 祐樹、平澤 幸太郎、藤巻 愛子、小柳津 卓哉、柳下 和慶. 高気圧酸素治療中の tcPO2 低値に対する酸素投与方法の検討. 第 8 回日本高気圧潜水医学会 近畿地方会 2024.11.09 京都市

4. 大久保 淳、桜沢 貴俊、瀬島 啓史、小柳津 卓哉、柳下 和慶. 第 2 種高気圧酸素治療装置における心電図モニタの電波環境に関する調査. 第 8 回日本高気圧潜水医学会 近畿地方会 2024.11.09 京都市

5. 池松幸二, 片桐洋樹, 大見武弘, 宮崎緑, 雨宮正樹, 古賀英之, 神野哲也, 酒井朋子. 内側開大式高位脛骨骨切り術前後における非術側外部膝関節内転モーメントの変化率に関与する因子—骨盤 · 体幹を含めた検討—. 日本臨床バイオメカニクス学会第 51 回学術集会 2024.11.01 大阪

6. 木村 祐紀, 廣幡 健二, 古谷 英孝, 見供 翔, 川崎 智子, 大坂 祐樹. 健常労働者における身体機能と労働生産性 · 睡眠 · 身体活動量の関連　Koji Awareness を用いたセルフチェック. 産業ストレス研究 2024.11.01
7. 富岡 翠, 折本 竜太, 森田 俊平, 山内 泰輔, 水野 朋子, 柳下 和慶, 山本 櫻子, 熊田 聡子, 下田 木の実, 森尾 友宏. 高気圧酸素治療を施行した軽微な外傷に伴う脊髄梗塞. 日本小児科学会雑誌 2024.11.01
8. 米山 徹朋, 室伏 広治, 見供 翔, 廣幡 健二, 蒋 培, 中島 義和. 6 自由度計測機構を有する関節可動域計測デバイスの構築. 日本コンピュータ外科学会誌 2024.10.01
9. 川﨑智子. メインシンポジウム３「エビデンスを届ける」. 第 43 回東京都理学療法学術大会 2024.09.14 渋谷区
10. 岡元翔吾, 三浦佳祐, 佐々部孝紀, 山﨑和也, 石田優子, 池田克也, 宮本直和, 古川信清, 山下大地. エリートフェンシングチームに対するシーズンを通したノルディックハムストリングエクササイズの実践 －競技活動の離脱を伴う外傷発生が減少した例－ . 第 13 回日本アスレティックトレーニング学会学術大会 2024.09.14 豊田市
11. 星野　傑. スピードスケートにおける医学サポート活動. 日本スポーツ整形外科学会 2024 2024.09.12 新宿区
12. 星野　傑. スピード競技選手の外傷 · 障害とその他の対応. 令和 6 年度公認コーチ 3(スピードスケート) 専門科目講習会 2024.07.21
13. 小栁津 卓哉. 高気圧酸素治療は骨折治癒過程早期に作用し，骨癒合を促進する. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市
14. 星野　傑. 当院におけるスポーツ外傷に対する高気圧酸素治療. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市
15. 桜沢 貴俊, 大久保 淳, 出牛 雅也, 山下 隼斗, 小森 慈人, 小柳津 卓哉, 柳下 和慶. 気管チューブのカフ内への水封方法に関する検討. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市
16. 出牛 雅也, 桜沢 貴俊, 小森 慈人, 小柳津 卓哉, 柳下 和慶, 大久保 淳. 高気圧環境下での気管チューブ管理におけるカフ圧管理方法とカフ形状の影響. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市
17. 大路 駿介, 相澤 純也, 廣幡 健二, 大見 武弘, 川崎 智子, 古賀 英之, 柳下 和慶. 前十字靱帯再建術後にスポーツ参加している患者における膝前面痛の強度およびエリアと患者立脚型アウトカムとの関連. Pain Rehabilitation 2024.05.01
18. 後藤 周平, 吉原 有俊, 星野 傑, 中川 裕介, 中村 智祐, 吉井 俊貴, 古賀 英之. 前十字靱帯再建術後、”筋層下鏡視”下に大腿骨ボタン抜去を行った 1 例. 第 64 回関東整形災害外科学会 2024.03.16 横浜市
19. 浅見 大輔, 中川 裕介, 吉原 有俊, 中村 智祐, 星野 傑, 徳本 泰將, 関矢 一郎, 古賀 英之. 難治性人工膝関節感染に対するメガプロステーシスセメントスペーサー 5 例の治療成績. 関東整形災害外科学会雑誌 2024.03.01
20. 佐川祐樹 , 山田拓実 , 大見武弘 , 森山義尚 , 加藤淳平. 慢性足関節不安定症を有する若年成人の片脚側方ジャンプ着地後の下肢関節モーメントの特徴. 第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会 2024.01.07
21. 大見武弘 , 片桐洋樹 , 雨宮正樹 , 池松幸二 , 宮﨑緑 , 柳下和慶 , 古賀英之. 内側開大式高位脛骨骨切り術後患者のジョギング中の膝内反モーメントに関連する因子. 第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会 2024.01.06 埼玉県大宮市

1. 寺田秀伸, 高須千晴, 島田直宜, 金村尚彦, 村田健児. ラット膝蓋下脂肪体の線維化は緩徐に進行する軟骨変性を惹起する. 第 2 回 日本膝関節学会 2024.12.01

[その他業績]

1. 令和 6 年度公認コーチ 3(スピードスケート) 専門科目講習会, 2024 年 07 月

[社会貢献活動]

1. 高気圧治療の外傷への応用, 共同通信社, 医療面向け企画「医療新世紀」, 2023 年 02 月 17 日 - 現在

スポーツサイエンス部門· スポーツサイエンスセンター

Sports Science Center

(1) 研究業績

[原著]

1. Hotta K, Shimotsu R, Behnke BJ, Masamoto K, Yagishita K, Poole DC, Kano Y. Effect of diabetes on microvascular morphology and permeability of rat skeletal muscle: in vivo imaging using two-photon laser scanning microscopy. Journal of applied physiology (Bethesda, Md. : 1985). 2024.10; 137(4); 963-974

2. Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Mitomo S, Kawasaki T, Koga H, Yagishita K.. The relationship between whole-body muscle mass and the isokinetic knee extensor strength of the non-operated side following anterior cruciate ligament reconstruction Isokinetics Exerc. Sci. 2024.09;

3. Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Mitomo S, Koga H, Yagishita K.. Relationship Between Single-Leg Vertical Jump and Drop Jump Performance, and Return to Sports After Primary Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Graft Int. J. Sports Phys. Ther. 2024.09;

4. Murofushi K, Katagiri H, Mitomo S, Hirohata K, Furuya H, Hanazawa R, Hirakawa A, Yagishita K, Kaneoka K. Exploring age-related changes in motor function: insights from the peak decline found in Koji Awareness screening test. Scientific reports. 2024.08; 14(1); 18903

5. Goto K, Miyazaki S, Oyaizu T, Negishi M, Ikenouchi T, Yamamoto T, Kawamura I, Nishimura T, Takamiya T, Tao S, Takigawa M, Yagishita K, Sasano T. The impact of hyperbaric oxygen treatment for cardiovascular implantable electronic devices. Journal of arrhythmia. 2024.08; 40(4); 958-964

6. Koji Murofushi, Sho Mitomo, Kenji Hirohata, Hidetaka Furuya, Hiroki Katagiri, Koji Kaneoka, Kazuyoshi Yagishita. Comparative Analysis of Thoracic Rotation Exercises: Range of Motion Improvement in Standing and Quadruped Variants. Acta Med Okayama. 2024.06; 78(3); 251-258

7. Takehiro Ohmi, Hiroki Katagiri, Masaki Amemiya, Koji Ikematsu, Midori Miyazaki, Hideyuki Koga, Kazuyoshi Yagishita. Gait analysis of patients with knee osteoarthiritis who can run versus cannot run. Gait Posture. 2024.05; 112; 67-72

8. Ohji S, Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Mitomo S, Koga H, Yagishita K.. Association of knee function at 6 postoperative months with second ACL injury within 2 years after primary ACL reconstruction JOSPT Open. 2024.05; 2(1); 20-28

9. Aizawa JY, Hirohata K, Ohji S, Mitomo S, Ohmi T, Koga H, Yagishita K. Anterior Cruciate Ligament-Return to Sport after Injury (ACL-RSI) subcategories are affected by subjective running ability and medial single-leg hop distance in postreconstruction patients at 6 months. Journal of experimental orthopaedics. 2024.01; 11(1); e12004

10. Murofushi K, Morito T, Akuzawa H, Oshikawa T, Okubo Y, Kaneoka K, Mitomo S, Yagishita K. External focus instruction using a paper balloon: impact on trunk and lower extremity muscle activity in isometric single-leg stance for healthy males. Frontiers in sports and active living. 2024; 6; 1343888

11. Yuki Sagawa, Takumi Yamada, Takehiro Ohmi, Yoshinao Moriyama, Junpei Kato. Differences in lower extremity kinematics during single-leg lateral drop landing of healthy individuals, injured but asymptomatic patients, and patients with chronic ankle instability- a cross-sectional observational study. PLoS One. 2024; 19(3); e0297660

12. Sho Mitomo, Junya Aizawa, Kenji Hirohata, Takehiro Ohmi, Shunsuke Ohji, Hidetaka Furuya, Tomoko Kawasaki, Yayoi Sakai, Kazuyoshi Yagishita, Atsushi Okawa. Effects of differences in femoral anteversion and hip flexion angle on hip abductor muscles activity during clam exercise in females. PLoS One. 2024; 19(6); e0305515

13. Murofushi K, Oshikawa T, Kaneoka K, Akuzawa H, Mitomo S, Hatano G, Furuya H, Hirohata K, Yagishita K. Light weights are as effective as heavy weights for muscle activation in the Hammerobics exercise. PloS one. 2024; 19(9); e0308640

1. 柳下 和慶. 【環境障害における凝固異常または炎症凝固】減圧症における凝固異常 Thrombosis Medicine. 2024.12; 14(4); 268-272

[書籍等出版物]

1. 大見武弘　（神野哲也 · 監修、相澤純也 · 中丸宏二 · 編）. 整形外科リハビリテーション　第 2 版. 羊土社, 2024.12 (ISBN：978-4-7581-1005-1)

[講演 · 口頭発表等]

1. Ohji S. Aizawa J, Hirohata K, Ohmi T, Kawasaki T, Koga H, Yagishita K.. Relationship between the International Knee Documentation Committee Subjective Knee Form scores before and after anterior cruciate ligament reconstruction. World Physiotherapy Asia Western Pacific Region Congress 2024 2024.09.26

2. 柳下　和慶. 軟部組織損傷の浮腫軽減に及ぼす高圧酸素の影響. 【第 5 回】アジア太平洋潜水 · 高気圧環境医学会 2024.08.24 台湾

1. 大見武弘, 片桐洋樹, 雨宮正樹, 安宰成, 古賀英之, 柳下和慶. 内側開大式高位脛骨骨切り術前後にジョギング中の膝内反モーメントが減る患者の特徴. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2024.11.17 新潟県新潟市

2. 大久保 淳、出牛 雅也、小澤 裕介、山下 隼斗、干川 祐樹、平澤 幸太郎、藤巻 愛子、小柳津 卓哉、柳下 和慶. 高気圧酸素治療中の tcPO2 低値に対する酸素投与方法の検討. 第 8 回日本高気圧潜水医学会 近畿地方会 2024.11.09 京都市

3. 大久保 淳、桜沢 貴俊、瀬島 啓史、小柳津 卓哉、柳下 和慶. 第 2 種高気圧酸素治療装置における心電図モニタの電波環境に関する調査. 第 8 回日本高気圧潜水医学会 近畿地方会 2024.11.09 京都市

4. 池松幸二, 片桐洋樹, 大見武弘, 宮崎緑, 雨宮正樹, 古賀英之, 神野哲也, 酒井朋子. 内側開大式高位脛骨骨切り術前後における非術側外部膝関節内転モーメントの変化率に関与する因子—骨盤 · 体幹を含めた検討—. 日本臨床バイオメカニクス学会第 51 回学術集会 2024.11.01 大阪

5. 富岡 翠, 折本 竜太, 森田 俊平, 山内 泰輔, 水野 朋子, 柳下 和慶, 山本 櫻子, 熊田 聡子, 下田 木の実, 森尾 友宏. 高気圧酸素治療を施行した軽微な外傷に伴う脊髄梗塞. 日本小児科学会雑誌 2024.11.01

6. 小柳津 卓哉. 高気圧酸素治療は骨折治癒過程早期に作用し，骨癒合を促進する. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市

7. 桜沢 貴俊, 大久保 淳, 出牛 雅也, 山下 隼斗, 小森 慈人, 小柳津 卓哉, 柳下 和慶. 気管チューブのカフ内への水封方法に関する検討. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市

8. 出牛 雅也, 桜沢 貴俊, 小森 慈人, 小柳津 卓哉, 柳下 和慶, 大久保 淳. 高気圧環境下での気管チューブ管理におけるカフ圧管理方法とカフ形状の影響. 第 58 回日本高気圧潜水医学会学術総会 2024.06.28 中津市

9. 大路 駿介, 相澤 純也, 廣幡 健二, 大見 武弘, 川崎 智子, 古賀 英之, 柳下 和慶. 前十字靱帯再建術後にスポーツ参加している患者における膝前面痛の強度およびエリアと患者立脚型アウトカムとの関連. Pain Rehabilitation 2024.05.01

10. 佐川祐樹 , 山田拓実 , 大見武弘 , 森山義尚 , 加藤淳平. 慢性足関節不安定症を有する若年成人の片脚側方ジャンプ着地後の下肢関節モーメントの特徴. 第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会 2024.01.07

11. 大見武弘 , 片桐洋樹 , 雨宮正樹 , 池松幸二 , 宮崎緑 , 柳下和慶 , 古賀英之. 内側開大式高位脛骨骨切り術後患者のジョギング中の膝内反モーメントに関連する因子. 第 10 回日本スポーツ理学療法学会学術大会 2024.01.06 埼玉県大宮市

[社会貢献活動]

1. 高気圧治療の外傷への応用, 共同通信社, 医療面向け企画「医療新世紀」, 2023 年 02 月 17 日 - 現在

M&Dデータ科学センター

統合解析分野

Department of Integrated Analytics

宮野悟 特任教授
長谷川嵩矩 准教授
田中洋子 助教
鈴木麻子 技術補佐員
岡本青史 客員教授（富士通株式会社　フェロー）
丸橋 弘治 客員教授（富士通株式会社富士通研究所人工知能研究所プロジェクトマネージャ）
吉村一樹 客員助教

(1) 分野概要

当分野では、生命科学 · 医歯学分野において急激に集積されているゲノムやエピゲノム、トランスクリプトーム、プロテオーム、メタボロームなどのオミクスデータとヒトの体組成値、問診項目、血液検査値、血液ガス分析値、心電図、人工呼吸器データなどが組み合わさった多次元 · 超ヘテロな生体ビッグデータを、生命情報学や統計科学、機械学習 (ベイズ理論、深層学習など) とスーパーコンピュータや GPU などの先端的情報処理技術を用いて解析することで、新たな医学 · 生命科学的知見を明らかにし、生命システムの解明に至ることを目標にしています。特に当分野では、既存の生命情報学的方法論の理解と適用に留まらず、続々と登場する新しい生命医科学データや多次元 · 超ヘテロな生体データ解析するための新しい数理的解析手法の開発までを行っています。これら新しい方法論と幅広い医学 · 生命科学への理解を通して、生体内システムの解析やゲノム · エピゲノムを原因とする病態の解明、急性 · 慢性期疾患を対象とした患者の予後や将来状態の予測、更には治療戦略の策定を実現します。詳細は統合解析分野紹介サイトも合わせてご参照ください。

(2) 研究活動

[数理的モデリングを用いた生体内状態予測]
疾患の病態は、生体内の遺伝子や代謝物、腸内や皮膚の細菌叢など、多次元 · ヘテロな因子が複雑かつ相互に影響し合い、異常を引き起こしている状態です。一方で健常な状態とは、それらが生体内でバランスされている状態であるといえます。本研究室では、ゲノムやトランスクリプトーム、プロテオームなどのオミクスデータや臨床 · 健康診断を通して得られる大規模な患者データと生体内や病態の数理的モデリングを組み合わせることで、これらのデータ間の複雑な関係性を明らかにし、健常者や罹患者における生体内状態を明らかにする研究を行っています。これにより、疾患の原因となる因子の判別や、患者さん一人ひとりの重症化 · 予後予測、その治療戦略の提案が可能となります。またこれらの技術を応用することで、部分的な医療情報、例えば体組成値や問診項目だけが与えられたときに、血液検査値の予測を通して疾患の罹患確率を推定したり、生体内状態が異常となっている部位の判別などを行うことが可能になります。

[腫瘍細胞や老化細胞などの炎症誘発細胞を標的とするためのネオアンチゲン予測手法開発]
次世代シークエンサーの発展により、シークエンス解析は、がん研究において極めて標準的な解析手法となっています。当分野では長年の間、シークエンスの結果を数理的に解析することでがんの病態解明を明らかにする研究を行って来ました。その一つとして、ネオ抗原といわれる、近年活発に研究が行われている腫瘍特異的抗原に焦点を当てた研究を行なっており、同定された体細胞変異などの情報からネオ抗原を予測するための解析手法の開発やネオ抗原のがん免疫システムにおける役割の解析、腫瘍における免疫病態の評価を行っています。特に近年、老化細胞を標的とするように設計された T 細胞やチェックポイント阻害薬を用いることで、腫瘍細胞だけではなく、老化細胞を（部分的に）除去出来る可能性も示唆されており、研究が加速しています。我々は、免疫細胞を制御し、これらの細胞を適切に除去することを目的として、細胞レベルの免疫病態の評価と解明、また適切な

ネオ抗原予測を行う数理的解析手法を開発しています。

[大規模データ解析と人工知能技術によるがんの起源と多様性の解明]
長年のがん研究を通して、浸潤に関連する遺伝子や EMT（Epithelial Mesenchymal Transition：上皮間葉転換）に関連する遺伝子など、どの遺伝子ががんの転移に深く関与しているのかの特定が進められてきました。しかしながら、すべての細胞において、遺伝子同士は複雑な相互制御システムを形成しているため、浸潤や EMT のメカニズムを解明するには、単に関連している遺伝子を特定するだけでは不十分であり、関連している遺伝子同士がどのようなネットワークを形成しているのか、そのネットワーク構造の中で、特に浸潤や EMT に重要な役割を果たしているネットワークはどれなのか、そして、その司令塔となっている遺伝子はどれなのかなどを明らかにする必要があります。我々の研究チームは、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターのスーパーコンピュータやスーパーコンピュータ「京」·「富岳」を用い、ネットワークプロファイリングと呼ばれるネットワークを推定するプログラムを動かすことで、がん細胞の転移や再発に関連している可能性の高い遺伝子が形成しているネットワーク構造の抽出に取り組み、個々の遺伝子レベルではわからない転移や再発のメカニズムの解明や新たなメカニズムの発見を行っています。

[M & Dデータの統合的解析基盤の構築と医歯学 · 病院との共同研究体制の推進]
医歯学 · 医療研究は、情報の質と量双方の観点から、新たな時代に入っています。健康状態や疾患の解析において、ゲノム情報解析や 1 細胞解析を通して大量の生体情報を取得 · 利用するのは一般的になっており、それらの情報を統合的に解析することで、新たな知見や疾病の治療戦略を生み出すことが可能となりました。統合解析分野はこのような大規模データ解析を長年継続している研究チームで構成されており、東京科学大学内のみならず、東京大学、神戸大学、九州大学など数多くの外部研究機関と連携し、生命医科学研究を推進しています。研究内容は幅広く、コロナ制圧タスクフォースにおける全ゲノム解析の実施、ICU における COVID19 患者の重症化予測を含む各種急性期疾患の重症化 · 死亡 · 予後予測研究、健常人 · 疾病 · 腫瘍ゲノム解析（全ゲノム、エクソーム、トランスクリプトーム、シングルセル解析、cfDNA 解析、プロテオーム解析、メタボローム解析など）、薬剤の応答予測などを実施しています。加えて、東京大学医科学研究所のスーパーコンピュータ SHIROKANE との包括契約など、既設の組織と有機的に連携することで、本学の医療ビッグデータの統合的解析を実践すると共に、統合的解析に必要な情報教育と情報基盤の構築を推進しています。

(3) 教育活動

【学部】
· 「医療と AI · ビッグデータ入門」を実施した。
· 数理 · DS· AI 教育リテラシーレベル WG において活動を行なった。
· 「基礎研究医プログラム」へ参加した。
· 「公衆衛生学」へ参加した。
· 数理 · データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの活動を行なった。
· 学生からのデータサイエンスに関する問い合わせに対応した。

【大学院】
· 修士講義「医療データ科学概論」へ参加した。
· 「データサイエンス特論 I(英語版)」へ参加した (高橋邦彦教授がホスト)。
· 「データサイエンス特論 II(英語版)」を実施した (長谷川准教授)。
· 修士課程の学生の指導教員を務めた。
· 4 名の博士課程学生の副指導教官を担当した (長谷川准教授)。
· 学生からのデータサイエンスに関する問い合わせに対応した。

(4) 教育方針

臨床 · 基礎系の学生が自立してデータサイエンスを行えるようにすることを教育方針としている。単なる、データ解析支援体制ではなく、世界一級のバイオメディカルデータサイエンスの人材を東京医科歯科大学に育成する。

(5) 臨床活動および学外活動

1. COVID-19 に対応するために、東京医科歯科大学、慶應義塾大学医学部、京都大学医学研究科腫瘍生物学講座、大阪大学医学系研究科遺伝統計学分野、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターがおもな発起人となって、「コロナ制圧タスクフォース」というネットワーク型の研究組織を 2020 年 4 月に作った。現在、全国から約 120 の病院が参加し、約 6,000 検体が倫理審査を経て収集された。そのうち約 1,200 検体についてホストの全ゲノム解

析及び RNA シークエンス解析を実施し、重症化因子の探索を行なった。これらの結果は、Nature を含む複数の国際誌に採択されている。
2. このタスクフォースをとおして、国際 COVID-19 コンソーシアムに参加している。
3. がんゲノミクス研究を京都大学小川誠司教授等のグループと積極的に行なった。

(6) 研究業績

[原著]

1. Okuda R, Ochi Y, Saiki R, Yamanaka T, Terao C, Yoshizato T, Nakagawa MM, Zhao L, Ohyashiki K, Hiramoto N, Sanada M, Handa H, Kasahara S, Miyazaki Y, Sezaki N, Shih LY, Kern W, Kanemura N, Kitano T, Imashuku S, Watanabe M, Creignou M, Chonabayashi K, Usuki K, Ishikawa T, Gotoh A, Atsuta Y, Shiraishi Y, Mitani K, Chiba S, Takaori-Kondo A, Miyano S, Kamatani Y, Haferlach T, Hellström-Lindberg E, Matsuda K, Yoshida Y, Makishima H, Nannya Y, Ogawa S. Genetic analysis of myeloid neoplasms with der(1;7)(q10;p10). Leukemia. 2024.12;

2. Tanaka H, Toya E, Chubachi S, Namkoong H, Asakura T, Azekawa S, Otake S, Nakagawara K, Fukushima T, Watase M, Sakurai K, Masaki K, Kamata H, Ishii M, Hasegawa N, Okada Y, Koike R, Kitagawa Y, Kimura A, Imoto S, Miyano S, Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K. Combined use of serum ferritin and KL-6 levels as biomarkers for predicting COVID-19 severity. Respiratory investigation. 2024.11; 62(6); 1132-1136

3. Pérez-Saldívar M, Nakamura Y, Kiyotani K, Imoto S, Katayama K, Yamaguchi R, Miyano S, Martínez-Barnetche J, Godoy-Lozano EE, Ordoñez G, Sotelo J, González-Conchillos H, Martínez-Palomo A, Flores-Rivera J, Santos-Argumedo L, Sánchez-Salguero ES, Espinosa-Cantellano M. Comparative analysis of the B cell receptor repertoire during relapse and remission in patients with multiple sclerosis. Clinical immunology (Orlando, Fla.). 2024.11; 269; 110398

4. Park H, Miyano S. Network-Constrained Eigen-Single-Cell Profile Estimation for Uncovering Crucial Immunogene Regulatory Systems in Human Bone Marrow. Journal of computational biology : a journal of computational molecular cell biology. 2024.11; 31(11); 1158-1178

5. Wang QS, Hasegawa T, Namkoong H, Saiki R, Edahiro R, Sonehara K, Tanaka H, Azekawa S, Chubachi S, Takahashi Y, Sakaue S, Namba S, Yamamoto K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Makishima H, Nannya Y, Zhang Z, Tsujikawa R, Koike R, Takano T, Ishii M, Kimura A, Inoue F, Kanai T, Fukunaga K, Ogawa S, Imoto S, Miyano S, Okada Y, Japan COVID-19 Task Force. Publisher Correction: Statistically and functionally fine-mapped blood eQTLs and pQTLs from 1,405 humans reveal distinct regulation patterns and disease relevance. Nature genetics. 2024.10; 56(10); 2281

6. Wang QS, Hasegawa T, Namkoong H, Saiki R, Edahiro R, Sonehara K, Tanaka H, Azekawa S, Chubachi S, Takahashi Y, Sakaue S, Namba S, Yamamoto K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Makishima H, Nannya Y, Zhang Z, Tsujikawa R, Koike R, Takano T, Ishii M, Kimura A, Inoue F, Kanai T, Fukunaga K, Ogawa S, Imoto S, Miyano S, Okada Y, Japan COVID-19 Task Force. Statistically and functionally fine-mapped blood eQTLs and pQTLs from 1,405 humans reveal distinct regulation patterns and disease relevance. Nature genetics. 2024.09; 56(10); 2054-2067

7. Ashida S, Kawada C, Tanaka H, Kurabayashi A, Yagyu KI, Sakamoto S, Maejima K, Miyano S, Daibata M, Nakagawa H, Inoue K. Cutibacterium acnes invades prostate epithelial cells to induce BRCAness as a possible pathogen of prostate cancer. The Prostate. 2024.08; 84(11); 1056-1066

8. Maruhashi K, Kashima H, Miyano S, Park H. Meta graphical lasso: uncovering hidden interactions among latent mechanisms. Scientific reports. 2024.08; 14(1); 18105

9. Azekawa S, Maetani T, Chubachi S, Asakura T, Tanabe N, Shiraishi Y, Namkoong H, Tanaka H, Shimada T, Fukushima T, Otake S, Nakagawara K, Watase M, Terai H, Sasaki M, Ueda S, Kato Y, Harada N, Suzuki S, Yoshida S, Tateno H, Yamada Y, Jinzaki M, Hirai T, Okada Y, Koike R, Ishii M, Kimura A, Imoto S, Miyano S, Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K. CT-derived vertebral bone mineral density is a useful biomarker to predict COVID-19 outcome. Bone. 2024.07; 184; 117095

10. Watanabe K, Tasaka K, Ogata H, Kato S, Ueno H, Umeda K, Isobe T, Kubota Y, Sekiguchi M, Kimura S, Sato-Otsubo A, Hiwatari M, Ushiku T, Kato M, Oka A, Miyano S, Ogawa S, Takita J. Inhibition of the

galactosyltransferase C1GALT1 reduces osteosarcoma cell proliferation by interfering with ERK signaling and cell cycle progression. Cancer gene therapy. 2024.07; 31(7); 1049-1059

11. Iyoda S, Yoshida K, Shoji K, Ito N, Tanaka M, Nannya Y, Yamato G, Tsujimoto S, Shiba N, Hayashi Y, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Okada A, Tanaka H, Miyano S, Koga Y, Goto H, Moritake H, Terui K, Ito E, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Takita J, Nishikori M, Adachi S, Ogawa S, Matsuo H. KRAS G12 mutations as adverse prognostic factors in KMT2A-rearranged acute myeloid leukemia. Leukemia. 2024.07; 38(7); 1609-1612

12. Sato T, Yoshida K, Toki T, Kanezaki R, Terui K, Saiki R, Ojima M, Ochi Y, Mizuno S, Yoshihara M, Uechi T, Kenmochi N, Tanaka S, Matsubayashi J, Kisai K, Kudo K, Yuzawa K, Takahashi Y, Tanaka T, Yamamoto Y, Kobayashi A, Kamio T, Sasaki S, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Muramatsu H, Hama A, Hasegawa D, Sato A, Koh K, Karakawa S, Kobayashi M, Hara J, Taneyama Y, Imai C, Hasegawa D, Fujita N, Yoshitomi M, Iwamoto S, Yamato G, Saida S, Kiyokawa N, Deguchi T, Ito M, Matsuo H, Adachi S, Hayashi Y, Taga T, Saito AM, Horibe K, Watanabe K, Tomizawa D, Miyano S, Takahashi S, Ogawa S, Ito E. Landscape of driver mutations and their clinical effects on Down syndrome-related myeloid neoplasms. Blood. 2024.06; 143(25); 2627-2643

13. Tanaka H, Chubachi S, Asakura T, Namkoong H, Azekawa S, Otake S, Nakagawara K, Fukushima T, Lee H, Watase M, Sakurai K, Kusumoto T, Masaki K, Kamata H, Ishii M, Hasegawa N, Okada Y, Koike R, Kitagawa Y, Kimura A, Imoto S, Miyano S, Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K. Prognostic significance of chronic kidney disease and impaired renal function in Japanese patients with COVID-19. BMC infectious diseases. 2024.05; 24(1); 527

14. Otake S, Shiraishi Y, Chubachi S, Tanabe N, Maetani T, Asakura T, Namkoong H, Shimada T, Azekawa S, Nakagawara K, Tanaka H, Fukushima T, Watase M, Terai H, Sasaki M, Ueda S, Kato Y, Harada N, Suzuki S, Yoshida S, Tateno H, Yamada Y, Jinzaki M, Hirai T, Okada Y, Koike R, Ishii M, Hasegawa N, Kimura A, Imoto S, Miyano S, Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K. Lung volume measurement using chest CT in COVID-19 patients: a cohort study in Japan. BMJ open respiratory research. 2024.04; 11(1);

15. Yuta Matsubara, Hiroki Kiyohara, Yohei Mikami, Kosaku Nanki, Ho Namkoong, Shotaro Chubachi, Hiromu Tanaka, Shuhei Azekawa, Shinya Sugimoto, Yusuke Yoshimatsu, Tomohisa Sujino, Kaoru Takabayashi, Naoki Hosoe, Toshiro Sato, Makoto Ishii, Naoki Hasegawa, Yukinori Okada, Ryuji Koike, Yuko Kitagawa, Akinori Kimura, Seiya Imoto, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Koichi Fukunaga, Takanori Kanai, . Gastrointestinal symptoms in COVID-19 and disease severity: a Japanese registry-based retrospective cohort study. J Gastroenterol. 2024.03; 59(3); 195-208

16. Park H, Miyano S. Differential Gene Regulatory Network Analysis between Azacitidine-Sensitive and -Resistant Cell Lines. International journal of molecular sciences. 2024.03; 25(6);

17. Nakagawara K, Shiraishi Y, Chubachi S, Tanabe N, Maetani T, Asakura T, Namkoong H, Tanaka H, Shimada T, Azekawa S, Otake S, Fukushima T, Watase M, Terai H, Sasaki M, Ueda S, Kato Y, Harada N, Suzuki S, Yoshida S, Tateno H, Yamada Y, Jinzaki M, Hirai T, Okada Y, Koike R, Ishii M, Kimura A, Imoto S, Miyano S, Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K. Integrated assessment of computed tomography density in pectoralis and erector spinae muscles as a prognostic biomarker for coronavirus disease 2019. Clinical nutrition (Edinburgh, Scotland). 2024.03; 43(3); 815-824

18. Fukushima T, Maetani T, Chubachi S, Tanabe N, Asakura T, Namkoong H, Tanaka H, Shimada T, Azekawa S, Otake S, Nakagawara K, Watase M, Shiraishi Y, Terai H, Sasaki M, Ueda S, Kato Y, Harada N, Suzuki S, Yoshida S, Tateno H, Yamada Y, Jinzaki M, Hirai T, Okada Y, Koike R, Ishii M, Kimura A, Imoto S, Miyano S, Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K. Epicardial adipose tissue measured from analysis of adipose tissue area using chest CT imaging is the best potential predictor of COVID-19 severity. Metabolism: clinical and experimental. 2024.01; 150; 155715

19. Okawa Y, Sasagawa S, Kato H, Johnson TA, Nagaoka K, Kobayashi Y, Hayashi A, Shibayama T, Maejima K, Tanaka H, Miyano S, Shibahara J, Nishizuka S, Hirano S, Seto Y, Iwaya T, Kakimi K, Yasuda T, Nakagawa H. Immuno-genomic analysis reveals eosinophilic feature and favorable prognosis of female non-smoking esophageal squamous cell carcinomas. Cancer letters. 2024.01; 581; 216499

20. Ito S, Ono K, Miyano S. Large-scale WGS Analysis on the supercomputer Fugaku ICBBB '24: Proceedings of the 2024 14th International Conference on Bioscience, Biochemistry and Bioinformatics. 2024.01; 14-20

21. Park H, Miyano S. Sparse spectral graph analysis and its application to gastric cancer drug resistance-specific molecular interplays identification. PloS one. 2024; 19(7); e0305386

22. Maeda-Minami A, Yoshino T, Katayama K, Horiba Y, Hikiami H, Shimada Y, Namiki T, Tahara E, Minamizawa K, Muramatsu SI, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Mima H, Uneda K, Nogami T, Fukunaga K, Watanabe K. Machine learning model for predicting the cold-heat pattern in Kampo medicine: a multicenter prospective observational study. Frontiers in pharmacology. 2024; 15; 1412593

1. 立石知也, 立石知也, 玉岡明洋, 高木俊輔, 長谷川嵩矩, 高橋邦彦, 宮崎泰成. 閉塞性睡眠時無呼吸症が自動車運転操作に与える影響の研究 日本睡眠学会定期学術集会プログラム · 抄録集. 2024.07; 48th;

2. 稲葉 俊介, 萬代 新太郎, 長谷川 嵩矩, 中野 雄太, 内藤 省太郎, 松木 久住, 原 悠, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 循環細胞外小胞の microRNA シグネチャーによる CKD の進展予測法の開発 日本腎臓学会誌. 2024.06; 66(4); 609

3. 内御堂亮, 紙健二郎, 長谷川嵩矩, 若林健二. 時系列メタボロームデータを利用した重症 COVID-19 における代謝経路濃縮度の経時的変化の解析 日本集中治療医学会学術集会 (Web). 2024.03; 51st;

1. Large-scaleWGS Analysis on the supercomputer Fugaku. 2024; 14-20

[書籍等出版物]

1. 宮野 悟 (監修), 中林 潤, 木下淳博, 須藤毅顕 (編). 医療と AI. 羊土社, 2024.08 (ISBN : 978-4-7581-2418-8)

[講演 · 口頭発表等]

1. 庄子 皓太, 吉田 健一, 伊与田 真寿, 田中 美羽, 石川 百恵, 野邊 道大, 河下 咲紀, 南谷 泰仁, 大和 玄季, 辻本 信一, 柴 徳生, 林 泰秀, 白石 友一, 宮野 悟, 清河 信敬, 富澤 大輔, 多賀 崇, 多和 昭雄, 滝田 順子, 錦織 桃子, 足立 壯一, 小川 誠司, 松尾 英将. AML における FLT3-ITD と CCND3 変異の共存に伴う予後不良と薬剤耐性化. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

2. 奥田 瑠璃花, 越智 陽太郎, 佐伯 龍之介, 中川 正宏, 後藤 明彦, 熱田 由子, 白石 友一, 三谷 絹子, 千葉 滋, 高折 晃史, 宮野 悟, 牧島 秀樹, 南谷 泰仁, 小川 誠司. Der(1;7)(q10;p10) を有する骨髄異形成症候群や関連疾患の特徴. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

3. 越智 陽太郎, Markus Liew, 南谷 泰仁, 笠原 千嗣, 平本 展大, 兼村 信宏, 瀬崎 伸夫, 櫻田 麻希, 岩崎 惇, 諫田 淳也, 上田 恭典, 吉原 哲, Albin Osterroos, 本村 公則, 中川 正宏, 佐伯 龍之介, 福島 英人, 岡崎 幸治, 依田 成玄, 奥田 瑠璃花, Lanying Zhao, 白石 友一, 石川 隆之, 宮野 悟, 鈴木 洋, 高折 晃史, Soren Lehmann, 小川 誠司. クロマチンアクセシビリティ解析による急性骨髄性白血病の新規分子サブグループの同定. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

4. 佐伯 龍之介, 枝廣 龍哉, 曽根原 究人, 王 青波, 南宮 湖, 長谷川 嵩矩, 田中 拓, 阿瀬川 周平, 中鉢 正太郎, 難波 真一, 中西 智子, 甲斐 千舟, 山本 賢一, 垣内 伸之, 越智 陽太郎, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 南谷 泰仁, 小池 竜司, 高野 友美, 石井 誠, 木村 彰方, 井元 清哉, 宮野 悟, 金井 隆典, 福永 興壱, 岡田 随象, 小川 誠司. クローン性造血と重症 COVID19 およびその免疫制御異常の関連. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

5. 本村 公則, 越智 陽太郎, 中川 正宏, 南谷 泰仁, 垣内 伸之, 黒田 隆, 中川 智恵, 趙 蘭英, 宮野 悟, 松田 秀一, 小川 誠司. クローン性造血の単一細胞変異と単一細胞エピゲノムの同時解析. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

6. 佐藤 知彦, 吉田 健一, 土岐 力, 金崎 理香, 照井 君典, 佐伯 龍之介, 小島 正美, 越智 陽太郎, 上地 珠代, 剣持 直哉, 田中 司朗, 松林 潤, 工藤 耕, 湯沢 健太郎, 高橋 佑果, 村松 秀城, 長谷川 大輔, 出口 隆生, 松尾 英将, 足立 壯一, 林 泰秀, 多賀 崇, 齋藤 明子, 堀部 敬三, 渡邉 健一郎, 富澤 大輔, 宮野 悟, 高橋 智, 小川 誠司, 伊藤 悦朗. ダウン症候群の骨髄性白血病における体細胞変異の全体像とその臨床的影響. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

7. 佐伯 龍之介, 枝廣 龍哉, 曽根原 究人, 王 青波, 南宮 湖, 長谷川 嵩矩, 田中 拓, 阿瀬川 周平, 中鉢 正太郎, 難波 真一, 中西 智子, 甲斐 千舟, 山本 賢一, 垣内 伸之, 越智 陽太郎, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 南谷 泰仁, 小池 竜司, 高野 友美, 石井 誠, 木村 彰方, 井元 清哉, 宮野 悟, 金井 隆典, 福永 興壱, 岡田 随象, 小川 誠司. クローン性造血と重症 COVID19 およびその免疫制御異常の関連. 日本血液学会学術集会 2024.10.01

8. 奥田 瑠璃花, 越智 陽太郎, 佐伯 龍之介, 中川 正宏, 後藤 明彦, 熱田 由子, 白石 友一, 三谷 絹子, 千葉 滋, 高折 晃史, 宮野 悟, 牧島 秀樹, 南谷 泰仁, 小川 誠司. Der(1;7)(q10;p10) を有する骨髄異形成症候群や関連疾患 (Myeloid neoplasms with der(1;7)(q10;p10)). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

9. 本村 公則, 越智 陽太郎, 中川 正宏, 南谷 泰仁, 垣内 伸之, 黒田 隆, 中川 智恵, 趙 蘭英, 宮野 悟, 松田 秀一, 小川 誠司, 小川 誠司. クローン性造血の単一細胞変異と単一細胞エピゲノムの同時解析 (Simultaneous single cell genetic and epigenetic analysis of clonal hematopoiesis). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

10. 笠島 理加, 清水 英悟, 廣島 幸彦, 片山 琴絵, 山口 類, 山口 貴世志, 古川 洋一, 宮野 悟, 井元 清哉, 宮城 洋平, 古川 洋一. ライブラリ作成可能 FFPE サンプルにおける質の悪い NGS データの評価と特徴 (Evaluation and characterization of poor quality NGS data for library preparable FFPE samples). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

11. 平野 智紀, 垣内 伸之, 大山 智宏, 竹内 康英, 穴澤 貴行, 長井 和之, 増井 俊彦, 南口 早智子, 田中 雄志, 増田 充弘, 児玉 裕三, 田中 洋子, 宮野 悟, 宇座 徳光, 妹尾 浩, 小川 誠司, 宮野 悟. 同時性 · 異時性多発膵癌の起源 (Clonal origin of synchronous or metachronous multiple pancreatic cancers). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

12. 前田 紘奈, 垣内 伸之, 伊藤 孝司, 小川 絵里, 塩川 雅広, 宇座 徳光, 田中 洋子, 南谷 泰仁, 片岡 竜貴, 児玉 裕三, 波多野 悦朗, 宮野 悟, 小川 誠司, 小川 誠司. 慢性炎症に伴う胆管上皮におけるクローン拡大 (Clonal expansion in bile duct associated with chronic inflammation). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

13. 渡部 光一, 垣内 伸之, 家入 康輔, 前田 紘奈, 平野 智紀, 滝 真奈, 山ノ井 康二, 村上 隆介, 山口 建, 濱西 潤三, 田中 洋子, 宮野 悟, 万代 昌紀, 小川 誠司, 小川 誠司. 正常子宮内膜におけるクローン拡大と子宮内膜症関連卵巣癌との関連 (Clonal expansion in normal endometrium and its association with endometriosis-associated ovarian cancer). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

14. 家入 康輔, 垣内 伸之, 平野 智紀, 渡部 光一, 前田 紘奈, 田中 洋子, 高松 大, 松元 崇, 門司 恵介, 塩田 真己, 宮野 悟, 江藤 正俊, 小川 誠司, 小川 誠司. 正常腎における遺伝子解析 (Genomic analysis of normal kidney). 日本癌学会総会記事 2024.09.01

1. 内御堂 亮, 紙 健二郎, 長谷川 嵩矩, 若林 健二. 時系列メタボロームデータを利用した重症 COVID-19 における代謝経路濃縮度の経時的変化の解析. 日本集中治療医学会雑誌 2024.09.01

2. 立石 知也, 玉岡 明洋, 高木 俊輔, 長谷川 嵩矩, 高橋 邦彦, 宮崎 泰成. 閉塞性睡眠時無呼吸症が自動車運転操作に与える影響の研究. 日本睡眠学会定期学術集会プログラム · 抄録集 2024.07.01

3. 稲葉 俊介, 萬代 新太郎, 長谷川 嵩矩, 中野 雄太, 内藤 省太郎, 松木 久住, 原 悠, 藤木 珠美, 菊池 寛昭, 森 雄太郎, 安藤 史顕, 森 崇寧, 須佐 紘一郎, 蘇原 映誠, 内田 信一. 循環細胞外小胞の microRNA シグネチャーによる CKD の進展予測法の開発. 日本腎臓学会誌 2024.06.01

[受賞]

1. 大川賞, 公益財団法人　大川情報通信基金, 2024 年 03 月

2. 大川賞, 公益財団法人大川情報通信基金, 2024 年 03 月

[社会貢献活動]

1. がんゲノム医療の課題と展望, 株式会社トークス, アソースタイムズ, 2024 年 07 月 10 日 - 2024 年 09 月

東京科学大学大学院
医歯学総合研究科年報
2024

医歯学総合研究科博士課程教育委員

委員長　影近弘之
大橋健一
伏見清秀
保田晋助
東　みゆき
井関祥子
戸原　玄
青木和広
岸田晶夫
二階堂　愛
伊藤暢聡
角　勇樹

発　　行　2026年3月
編集・発行　東京科学大学大学院
医歯学総合研究科